新潟医療福祉大学

年　　報

２０２５（令和７）年度

Annual Report 2025

Niigata University of Health and Welfare

はじめに

学長　西澤　正豊

2025年度の年報が完成しました．作成にご尽力をいただきました関係の皆様に深く感謝申し上げます．

年報は，新潟医療福祉大学がこの１年間の活動を振り返り，さまざまな課題を整理し，大学の取組みに対して客観的な分析・評価を加え，対応策を立案・実行して，諸課題の解決を図り，大学のさらなる充実を目指すというサイクルを回す上で，極めて重要な基礎資料となります．

新潟医療福祉大学は，2030年に向けて持続可能な発展を遂げるために，2021年度から10年間の長期目標・計画，その前半５年間の中期目標・計画，さらにその前半３年間と後半２年間のアクションプランを策定し，実行してきました．2025年度末をもって前半５年間の中期目標・計画が終了しましたので，この第１期中期目標・計画に対する自己点検・評価を行い，報告書を公表しました．併せて，25年度のアクションプランに対する自己点検・評価報告書，24年度のアクションプランにおける未達成項目に関する改善報告書も公表しました．2026年度からは長期目標・計画を引き続き，2026年度から始まる後半５年間の中期目標・計画を策定し，さらにその前半３年間のアクションプランも合わせて策定しました．本学は2026年４月より，これらの計画に基づいて運営されています．

学内の皆様には，本年報を大学ホームページからダウンロードし，10年間の将来計画の中間地点における本学の現状を理解して，有効に活用して頂きたいと願っています．

わが国の少子化はさらに進行し，2025年の出生数は67万人余りでした．したがって，18年後に大学に進学する学生は，現在の大学の１学年あたりの総収容定員数である60万人強とほぼ同じレベルになります．財務省の財政制度等審議会の分科会が先日，全国の私立大学を現在の600校余りから少なくとも250校削減し，学部定員も14万人～18万人削減するという数値目標を公表して，話題となっています．私立大学の規模の適正化と教育の質保証を進めることを担保するためと説明されていますが，機械的な削減には反対し，地方を支える人材の確保のために，地方の実情に応じた対応が必要であるとする反論もあります．

こうした厳しい将来見通しの下で，大学の本来の設置目的である「教育研究の成果を社会に広く提供することにより，社会の発展に寄与する」を維持しつつ，医療・福祉・スポーツの分野に特化した総合大学として，2035年，2040年にも生き残ることが本学の目標です．

学生のDP達成度の可視化など，今後に予想される大学認証における評価基準の変化を見据え，地域社会に貢献するという大学の設置目的を達成していくために，本学はこれから進むべき道を確固たるものにして行かねばなりません．そのためには，本学に関わる全ての人たちが一致団結して今後のビジョンを定め，着実に実行していくことが求められています．皆様のご協力をお願いいたします．

目　　次

はじめに
１．大学の基本理念
１）基本理念 …… 1
２）教育内容の特色等 …… 2
３）「優れたQOLサポーターの育成」を達成するための「５つの要件」…… 2
２．沿革 …… 3
３．組織
１）組織図 …… 10
２）役職者 …… 11
３）教員数 …… 13
４．学年暦 …… 14
５．管理運営
１）総務会 …… 32
２）大学院委員会 …… 36
３）合同教授会 …… 38
４）研究科委員会 …… 39
５）各種委員会 …… 40
（１）学長直轄委員会 …… 40
ア　内部質保証推進委員会 …… 40
イ　将来計画機構 …… 41
ウ　学生懲戒諮問委員会 …… 41
エ　危機管理委員会 …… 41
オ　教員選考委員会 …… 42
カ　人権委員会 …… 42
キ　個人情報保護委員会 …… 43
ク　安全衛生委員会 …… 44
ケ　自己点検・評価委員会 …… 45
コ　外部評価準備委員会 …… 45
サ　PCR検査センター運営委員会 …… 45
シ　大学院の質保証委員会 …… 46
①　事業戦略推進部 …… 46
ア　入試委員会 …… 46
イ　広報委員会 …… 47
ウ　大学院入試広報委員会 …… 47
エ　IR戦略委員会 …… 48

オ　高大医連携推進委員会 ･･･ 48
（２）教育・学生支援機構運営委員会 ････････････････････････････････ 49
①　学生支援推進部 ･･ 50
ア　健康管理センター運営委員会 ･････････････････････････････････ 50
イ　図書館・学修支援委員会 ･････････････････････････････････････ 50
ウ　キャリア支援センター運営委員会 ･････････････････････････････ 52
エ　学生委員会 ･･･ 53
オ　交通安全委員会 ･･･ 53
カ　国家試験・資格試験対策委員会 ･･･････････････････････････････ 53
②　教育開発推進部 ･･ 54
ア　教務委員会 ･･･ 54
イ　FD・SD推進委員会 ･･ 56
ウ　新潟連携教育研究センター運営委員会 ･････････････････････････ 58
エ　教職支援センター運営委員会 ･････････････････････････････････ 59
オ　高等教育推進センター運営委員会 ･････････････････････････････ 60
カ　中央教育センター運営委員会 ･････････････････････････････････ 62
③　国際交流推進部 ･･ 63
ア　国際交流センター運営委員会 ･････････････････････････････････ 63
（３）研究・産官学連携推進機構運営委員会 ･･････････････････････････ 67
①　研究・産学官連携推進部 ･･ 67
ア　科研費対策委員会 ･･･ 68
イ　運動機能医科学研究所 ･･･････････････････････････････････････ 68
ウ　自然人類学研究所 ･･･ 101
エ　プロジェクト研究センター運営委員会 ･････････････････････････ 104
②　プロジェクト研究センター ･･････････････････････････････････････ 104
１　言語発達支援センター ･･･････････････････････････････････････ 104
２　医療経済・QOL研究センター ･･････････････････････････････････ 106
３　ロコモティブ症候群予防研究センター ･････････････････････････ 108
４　シティズンシップ教育実践研究センター ･･･････････････････････ 111
５　スポーツカウンセリング研究センター ･････････････････････････ 115
６　アスリートサポート研究センター ･････････････････････････････ 117
７　身体教育研究センター ･･･････････････････････････････････････ 131
８　栄養科学研究センター ･･･････････････････････････････････････ 136
９　脳卒中リハビリテーション研究センター ･･･････････････････････ 138
10　次世代デジタルリハビリテーション研究センター ･･･････････････ 140
11　3D技術研究開発センター ･･････････････････････････････････････ 141

12　生物医科学分析研究センター ･････････････････････････････････ 142
13　看護実践研究センター ･････････････････････････････････････ 145
14　発達科学センター　あたま×こころ×からだ 発達ラボ ････････････ 147
15　新潟装具研究開発センター ･･･････････････････････････････････ 149
16　子ども総合支援研究センター ･････････････････････････････････ 150
③　研究・産学官連携支援部 ･･･････････････････････････････････････ 157
ア　倫理審査委員会 ･･･ 157
イ　学術委員会 ･･･ 157
ウ　動物実験委員会 ･･･ 158
エ　遺伝子組換え実験安全委員会 ･･･････････････････････････････････ 158
オ　利益相反マネジメント委員会 ･･･････････････････････････････････ 159
カ　知的財産委員会 ･･･ 159
キ　化学物質管理委員会 ･･･ 159
ク　URA推進委員会 ･･･ 159
④　大学院教育研究支援部 ･･･ 160
ア　大学院教務委員会 ･･･ 160
イ　大学院教育研究環境委員会 ･････････････････････････････････････ 161
（4）社会連携・同窓会推進機構委員会 ･････････････････････････････ 161
①　社会連携推進部 ･･･ 162
ア　社会連携推進センター運営委員会 ･･･････････････････････････････ 162
②　同窓会・生涯学習推進部 ･･･ 162
イ　ボランティアセンター運営委員会 ･･･････････････････････････････ 162
③　同窓会・生涯学習推進部 ･･･ 163
ウ　同窓会・生涯学修連携推進委員会 ･･･････････････････････････････ 163
（5）アスレティックデパートメント推進機構運営委員会 ････････････････ 163
①　強化指定クラブ運営部 ･･･ 164
ア　強化指定クラブ運営委員会 ･････････････････････････････････････ 164
②　アスレティックデパートメント推進部 ･････････････････････････････ 164
ア　アスレティックデパートメント推進委員会 ･･･････････････････････ 164
6．大学情報の公開と広報
1）公開講座等 ･･･ 166
2）広報活動 ･･･ 166
7．研究活動
1）学長 ･･･ 167
2）リハビリテーション学部 ･･･ 168
（1）理学療法学科 ･･･ 168

（２）作業療法学科 …… 247
（３）言語聴覚学科 …… 258
（４）義肢装具自立支援学科 …… 272
（５）鍼灸健康学科 …… 292
３）医療技術学部 …… 304
（１）臨床技術学科 …… 304
（２）視機能科学科 …… 337
（３）救急救命学科 …… 345
（４）診療放射線学科 …… 352
４）健康科学部 …… 366
（１）健康栄養学科 …… 366
（２）健康スポーツ学科 …… 382
５）看護学部 …… 433
（１）看護学科 …… 433
６）心理・福祉学部 …… 454
（１）社会福祉学科 …… 454
（２）心理健康学科 …… 474
７）医療経営管理学部 …… 484
（１）医療情報管理学科 …… 484
８）教育・学生支援機構 …… 497
９）社会連携・同窓会推進機構 …… 501
10）学内における研究助成金の採択状況 …… 507
（１）研究奨励金　採択一覧表 …… 507
（２）学長裁量研究費　採択一覧表 …… 509
（３）S&H先端科学研究費　採択一覧表 …… 509
（４）研究科長裁量研究費　採択一覧表 …… 510
（５）共同研究・共同利用研究費　採択一覧表 …… 510
（６）外部資金獲得奨励金　採択一覧表 …… 511
11）外部資金の獲得状況 …… 516
（１）文部科学省及び日本学術振興会科学研究費助成事業　採択一覧表 …… 516
（２）厚生労働省科学研究費補助金　採択一覧表 …… 523
（３）新潟県内国公私立大学の科学研究費配分額一覧 …… 524
12）新潟医療福祉学会 …… 525
８．図書館
１）蔵書数 …… 526
２）年間受入数 …… 526

３）利用状況 …… 526
４）データ推移 …… 526
９．学生関係
１）収容定員 …… 527
２）入試広報活動 …… 528
３）入学者選抜方法 …… 529
４）入学者選抜試験結果 …… 530
５）在籍学生数 …… 531
６）異動学生数 …… 532
７）学生生活 …… 534
（１）学生生活に関する指導 …… 534
（２）オリエンテーション …… 534
（３）健康診断 …… 534
（４）心理相談 …… 534
（５）奨学金制度 …… 534
（６）学生寮 …… 535
（７）学友会 …… 535
（８）大学祭 …… 536
（９）クラブ活動 …… 536
(10) 学生表彰 …… 538
(11) 海外研修 …… 548
(12) 学修支援センター …… 554
８）強化指定クラブ成績 …… 556
９）国家試験・資格試験結果 …… 559
10）就職状況 …… 559
10．その他
１）新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園 …… 561
２）新潟医療福祉大学附属PCR検査センター …… 561
３）新潟医療福祉大学附属附属鍼灸センター …… 562

1．大学の基本理念

1）基本理念

開設時の学則で示された建学の精神は「本学は，教育基本法および学校教育法の精神に基づき，広く保健・医療・福祉に関する専門の学芸を教授研究し，豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養し，保健・医療・福祉に関する指導的人材の養成を目指し，もって学術文化の発展に寄与し，人類の福祉の向上に貢献することを目的とする」である（2001年）．

この学則に基づき，大学の基本理念を次の３項目とする．なお2005年に健康スポーツ学科が開設されたので，以下の文章では「保健医療福祉スポーツ」と表記する．

（1）優れたQOLサポーターを育成する大学

①保健医療福祉スポーツ分野の高度専門職者を育成する．

②保健医療福祉スポーツ分野の諸専門領域を横断的，融合的に理解する人材を育成する．

③対象者を全人的に理解し，支援する人材を育成する．

本学では全学科における人材育成の教育理念・目標の核心を，「対象者のQOL向上を考え，QOL向上のため支援を実践する人材育成」と設定し，上記①～③を実践する．教育課程の最初には専門分化でなく，保健医療福祉スポーツの分野を広く統合して考えられる人材育成を基本的目標とし，その上で高度に分化した専門職育成を行う．以上をまとめて，“優れたQOLサポーターの育成”としている．

（2）地域社会のニーズに応える大学

①大学の教育研究情報の積極的公開・提供

②地域の関連専門職団体や関係機関と連携して行う研究会の開催，研究会への協力

③情報通信ネットワークによる保健医療福祉スポーツ施設，在宅介護支援機関等への支援

④社会人等特別入学試験，科目等履修生制，聴講生制度

⑤公開講座（エクステンションプログラム）開講

ア．保健医療福祉スポーツ専門職・小中高教員向けのセミナー・研究会の開催

イ．高校生など対象の夏季特別プログラムの実施

ウ．市民公開講座，市民参加交流講座の開催

⑥社会的貢献－教職員・学生のボランティア活動の積極的推進

保健医療福祉スポーツサービスは，行政機関や各種施設の職員，家族・親族，ボランティア団体，住民など多様な人々によって担われる．保健医療福祉スポーツ分野の大学である本学が，専門的学術情報を中心として地域の連携拠点として機能することにより，多様な活動を有機的に結び付け，より一層地域全体としてサービス水準の向上を図れるものと考える．

また，本学学生のみならず，広く社会人に対して門戸を開き，更に地域の保健医療福祉スポーツ水準向上のため，関係機関や行政と密接に連携をとりつつ可能な限り地域住民の保健医療福祉スポーツ活動に寄与するよう努める．

（3）国際社会に貢献する大学

①人的交流－教員の交流・留学生の受入れや学生の派遣

②日本周辺諸国との保健医療福祉スポーツ分野における交流のシンポジウム・ワークショップなどの開催

保健医療福祉スポーツ分野でも「発信」型の国際交流が望まれる．中国，韓国，台湾，東南アジア諸国では，程度の差はあれ，工業化，都市化，核家族化，長寿化，伝統的な家族意識の崩壊などの諸要因によって，一人暮らしや老夫婦だけの高齢者世帯が増え，健康問題，保健医療問題，介護問題などの生活問題を抱えはじめている．このような変化はまさしく我が国が辿った過程であり，その先には保健医療福祉制度の見直しや，高度専門職者育成など諸課題が生じることが予測される．

我が国が周辺諸国から期待されている役割を果たす意味からも，これらの課題に取り組み，我々の高齢社会に於ける経験に基づく有用な情報を積極的に発信し，国際的に貢献するよう努める．

2）教育内容の特色等

本学は教育理念と教育目標を基本理念とは別に定めているのが特徴であるが，基本理念（1）の具体概念と考えられる（再出）．教育理念（目的）は「医療福祉分野に対する社会的要請に応えるべく，豊かな人間性と高潔な倫理性に立脚し，高度な専門性に加えて他の専門領域をも横断的・融合的に理解し，研究し，実践し，教育する人材を養成する」，教育目標は「保健医療福祉スポーツの４分野を統合的に考え，他のスタッフと協力しながらQOL（＝いかによく生きるか）を総合的に考え，豊かなコミュニケーションで対象者のQOLを支える「優れたQOLサポーター」を育成する」である．

上記の目的・目標を達成するため，それぞれの学科におけるカリキュラムは，その名称が示す内容の国家資格等の受験資格を取得することができるように設定し，育成する“人材像”は次の通りである．

①対象者のQOL（生活の質，生きる質，健康の質）を自ら考え，その向上を実践する人材
②多様な価値観に寛容であり，対話ができる人材
③保健医療福祉スポーツ分野の複数の職種の人たちとチームアプローチができる人材
④教養的知識と専門的知識・技能をバランス良く身につけている人材
⑤保健医療福祉スポーツおよび一般社会における情報化に対応できる人材
⑥異文化理解・コミュニケーションの手段として外国語を使い，自ら発信できる人材

3）「優れたQOLサポーターの育成」を達成するための「５つの要件」

「優れたQOLサポーター」とは，保健医療福祉スポーツ分野を総合的に捉え，他分野のスタッフと協力しながら，対象者のQOL（＝いかによく生きるか）をいつも考え，その人を全人的に支える人材を意味する（再出）．

本学では「優れた」を満たす要件として，次の５項目を設定した（2010年）．

①科学的知識と技能を学び続ける力（Science & Art）
②チームワークとリーダーシップを発揮する力（Teamwork & Leadership）
③対象者を支援する力（Empowerment）
④問題を解決する力（Problem-solving）
⑤自己実現を達成する力（Self-realization）

「５つの要件」を表す英語の頭文字を取ってSTEPSとまとめている．なお保健医療福祉スポーツ分野でエンパワメント（Empowerment）は，「対象者自身が自分らしく生きる力（自己決断力）および権利（自己決定権）」を意味するので，上記③を厳密に表現すれば「対象者のエンパワメントを支援する力」となることを付記する．

２．沿革

年	月	事　　項
1996年 （平成８年）	4月	大学設立構想検討開始
1997年 （平成９年）	1月	大学設置準備室設置
1999年 （平成11年）	6月	財団法人新潟医療福祉大学設立準備財団設立許可（文部省）
2000年 （平成12年）	12月 12月 12月 12月 12月	新潟医療福祉大学　設置認可（文部省） 学校法人新潟総合学園　設立認可（文部省） 理学療法学科　理学療法士学校の指定 作業療法学科　作業療法士学校の指定 言語聴覚学科　言語聴覚士学校の指定
2001年 （平成13年）	2月 3月 4月 4月 4月	校地・校舎　竣工 健康栄養学科　管理栄養士養成施設・栄養士養成施設の指定 新潟医療福祉大学開学（２学部５学科設置） ・医療技術学部　理学療法学科（入学定員40名），作業療法学科（入学定員40名）， 言語聴覚学科（入学定員40名），健康栄養学科（入学定員40名） ・社会福祉学部　社会福祉学科（入学定員100名） 新潟医療福祉大学竣工・開学式典 新潟医療福祉大学　第１回入学式
2002年 （平成14年）	4月 9月	新潟医療福祉大学　第２回入学式 第２厚生棟　竣工
2003年 （平成15年）	4月	新潟医療福祉大学　第３回入学式
2004年 （平成16年）	4月 11月	新潟医療福祉大学　第４回入学式 新潟医療福祉大学大学院　医療福祉学研究科（修士課程：保健学専攻・社会福祉学専攻）の設置認可
2005年 （平成17年）	1月 3月 3月 4月 4月 4月 4月 4月 4月 9月	第３研究棟，体育棟，第２実験実習棟　竣工 新潟医療福祉大学　第１回卒業式 健康栄養学科（栄養教諭一種免許）　教員免許課程の認定 健康スポーツ学科（中・高教諭一種免許（保健体育））　教員免許課程の認定 大学院医療福祉学研究科設置　保健学専攻，社会福祉学専攻開設（入学定員40名） 医療技術学部健康スポーツ学科開設（入学定員60名） 医療技術学部理学療法学科入学定員増（入学定員80名） 新潟医療福祉大学　第５回入学式 新潟医療福祉大学大学院　第１回入学式 ハルビン医科大学第一臨床医学院（中国）との学術交流協定の締結 看護学科　保健師学校・助産師学校・看護師学校の指定

2006年 （平成18年）	2月	サザンクイーンズランド大学（オーストラリア）との研究協力についての覚書の締結
	3月	新潟医療福祉大学　第２回卒業式
	3月	看護学科（養護教諭一種免許）　教員免許課程の認定
	3月	社会福祉学部社会福祉学科　介護福祉士学校の指定
	3月	第４研究棟　竣工
	4月	医療技術学部看護学科開設（入学定員80名）
	4月	社会福祉学部社会福祉学科介護福祉コース開設　入学定員増（入学定員120名）
	4月	新潟医療福祉大学　第６回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第２回入学式
	6月	ハッサン大学（アメリカ）との学術交流協定の締結
	9月	義肢装具自立支援学科　義肢装具士学校の指定
	9月	ハバロフスク極東総合医科大学（ロシア）との学術交流協定の締結
2007年 （平成19年）	3月	新潟医療福祉大学　第３回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第１回修了式（学位記授与式）
	3月	第５研究棟　竣工
	3月	財団法人日本高等教育評価機構から大学評価基準適合認定を受ける ※認定期間　平成18年4月1日～平成24年3月31日
	4月	第３厚生棟　竣工
	4月	大学院医療福祉学専攻（博士後期課程）開設（入学定員３名）
	4月	大学院健康科学専攻（修士課程）開設（入学定員10名） ※入学定員の変更　保健学専攻20名，社会福祉学専攻10名
	4月	２学部より３学部（医療技術学部・健康科学部・社会福祉学部）へ改組
	4月	健康科学部健康栄養学科（入学定員40名），健康スポーツ学科（入学定員100名）， 看護学科（入学定員80名）開設 ※医療技術学部健康栄養学科，健康スポーツ学科，看護学科　募集停止
	4月	医療技術学部義肢装具自立支援学科（入学定員40名）開設
	4月	東京キャンパス（東京都千代田区丸の内）の開設
	4月	新潟医療福祉大学　第７回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第３回入学式
	5月	カリフォルニア州立大学フレスノ校（アメリカ）との学術交流協定の締結
		大学院健康科学専攻健康スポーツ学分野（中・高教諭専修免許（保健体育）） 教員免許課程の認定
	12月	
2008年 （平成20年）	3月	新潟医療福祉大学　第４回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第２回修了式（学位記授与式）
	4月	新潟医療福祉大学　第８回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第４回入学式
2009年 （平成21年）	3月	新潟医療福祉大学　第５回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第３回修了式（学位記授与式）
	4月	新潟医療福祉大学　第９回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第５回入学式
	5月	第３体育館棟　竣工
	7月	「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発の実践」が，文部科学省平成21年度戦略的大学連携支援事業として採択

	7月	国立シリントン・リハビリテーションセンター（タイ）との学術交流協定の締結（義肢装具自立支援学科）
	9月	キングストン大学（イギリス）およびロンドン大学セントジョージ校（イギリス）の健康社会福祉科学学部との国際交流協定の締結
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施　フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・ソロモン諸島・マーシャル諸島共和国の４カ国から８名の参加
2010年（平成22年）	3月	新潟医療福祉大学　第６回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第４回修了式（学位記授与式）
	3月	第３厚生棟改修　竣工
	3月	新潟市北区との包括連携協定の締結
	4月	医療経営管理学部医療情報管理学科（入学定員80名）開設
	4月	新潟医療福祉大学　第10回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第６回入学式
	8月	弘光科技大学（台湾）との学術交流協定の締結
	8月	アンヘレス大学財団（フィリピン）との学術交流協定の締結
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施　フィジー諸島共和国・ソロモン諸島・マーシャル諸島共和国・トンガ王国の４カ国から５名の参加
	11月	運動機能医科学研究所　開設
2011年（平成23年）	3月	新潟医療福祉大学　第７回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第５回修了式（学位記授与式）
	3月	第６研究・実習棟　竣工
	4月	医療技術学部臨床技術学科（入学定員80名）開設
	4月	新潟医療福祉大学　第11回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第７回入学式
	8月	ハワイ大学マノア校ジョンAバーンズ医学部臨床技術学科（アメリカ）との学術交流協定の締結（臨床技術学科）
	10月	サント・トーマス大学（フィリピン）との学術交流協定の締結
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施　フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・ソロモン諸島・マーシャル諸島共和国・トンガ王国の５カ国から10名の参加
	10月	『新潟医療福祉大学』開学10周年記念式典開催
	12月	イーストアングリア大学看護・助産学校（イギリス）との学術交流協定の締結
2012年（平成24年）	3月	新潟医療福祉大学　第８回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第６回修了式（学位記授与式）
	4月	新潟医療福祉大学　第12回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第８回入学式
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施　フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・マーシャル諸島共和国・キリバス共和国・ツバル・パラオ共和国の６カ国から７名の参加
2013年（平成25年）	3月	新潟医療福祉大学　第９回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第７回修了式（学位記授与式）
	3月	第７研究・実習棟　竣工
	3月	硬式野球グラウンド　竣工
	3月	五泉市との包括連携協定の締結

	4月	健康科学部健康スポーツ学科　入学定員増（入学定員160名）
	4月	新潟医療福祉大学　第13回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第９回入学式
	5月	陸上競技グラウンド，テニスコート　竣工
	8月	台北榮民總醫院（台湾）との学術交流締結
	9月	視機能科学科　視能訓練士学校の指定
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施　フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・ソロモン諸島の３カ国から11名の参加
2014年 （平成26年）	1月	2013年度私立大学等改革総合支援事業タイプ２に選定
	3月	新潟医療福祉大学　第10回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第８回修了式（学位記授与式）
	3月	第８研究・実習棟　竣工
	3月	屋内走路，屋内野球練習場　竣工
	3月	公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価において適合認定を受ける　※認定期間　平成25年4月1日～平成32年3月31日
	4月	医療技術学部視機能科学科（入学定員50名）開設
	4月	大学院修士課程医療情報・経営管理学専攻（入学定員４名）開設 ※入学定員の変更　保健学専攻18名，社会福祉学専攻８名
	4月	新潟医療福祉大学　第14回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第10回入学式
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修【フェーズⅡ】の実施　フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・ソロモン諸島の３カ国から11名の参加
2015年 （平成27年）	1月	クラブハウス　竣工
	1月	2014年度私立大学等改革総合支援事業タイプ２に選定
	2月	マヒドン大学（タイ）との学術交流協定の締結
	3月	新潟医療福祉大学　第11回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第９回修了式（学位記授与式）
	3月	新潟県社会福祉協議会との包括連携協定の締結
	4月	健康科学部健康スポーツ学科　入学定員増（入学定員200名）
	4月	新潟医療福祉大学　第15回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第11回入学式
	4月	クイーンズ大学（カナダ）との学術交流協定の締結（作業療法学科）
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防コース研修の実施　タイから14名の参加
	10月	新潟市社会福祉協議会との包括連携協定の締結
2016年 （平成28年）	3月	新潟医療福祉大学　第12回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第10回修了式（学位記授与式）
	3月	第２講義棟，第４体育館棟　竣工
	4月	医療技術学部理学療法学科　入学定員増（入学定員120名）
	4月	大学院博士後期課程医療福祉学専攻　入学定員増（入学定員８名）
	4月	新潟医療福祉大学　第16回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第12回入学式
2017年 （平成29年）	3月	新潟医療福祉大学　第13回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第11回修了式（学位記授与式）
	4月	第９研究・実習棟　竣工

	4月	医療技術学部救急救命学科（入学定員55名）開設
	4月	新潟医療福祉大学　第17回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第13回入学式
	11月	「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点－Sports & Health for All in Niigata－」が文部科学省平成29年度私立大学研究ブランディング事業として採択
2018年 （平成30年）	3月	新潟医療福祉大学　第14回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第12回修了式（学位記授与式）
	3月	第４研究・実習棟増築改修　竣工
	3月	新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園　竣工
	3月	学生寮「N-Village 伍桃」第１期工事（13棟311室，共用棟）　竣工
	4月	リハビリテーション学部理学療法学科（入学定員120名）開設
	4月	リハビリテーション学部作業療法学科（入学定員 50名）開設
	4月	リハビリテーション学部言語聴覚学科（入学定員 40名）開設
	4月	リハビリテーション学部義肢装具自立支援学科（入学定員 40名）開設
	4月	医療技術学部臨床技術学科　入学定員増（入学定員100名）
	4月	医療技術学部診療放射線学科（入学定員90名）開設
	4月	看護学部看護学科（入学定員107名）開設
	4月	大学院博士後期課程医療福祉学専攻　入学定員増（入学定員10名）
	4月	新潟医療福祉大学　第18回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第14回入学式
	6月	スポーツ庁「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）創設事業」に採択
2019年 （平成31年）	3月	学生寮「N-Village 伍桃」第２期工事（13棟295室）　竣工
	3月	新潟医療福祉大学　第15回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第13回修了式（学位記授与式）
	3月	2019年度スポーツ庁大学スポーツ振興推進事業に採択
	4月	新潟医療福祉大学　第19回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第15回入学式
2020年 （令和２年）	3月	新潟医療福祉大学　第16回卒業式（コロナウイルス感染拡大により学位記授与のみ）
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第14回修了式（同上）
	3月	2020年度スポーツ庁大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業に採択
	4月	新潟医療福祉大学　第20回入学式（オンライン）
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第16回入学式（オンライン）
	5月	2020年度スポーツ庁女性アスリートの育成・支援プロジェクト事業に採択
2021年 （令和３年）	3月	新潟医療福祉大学　第17回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第15回修了式（学位記授与式）
	3月	福井県鯖江市との包括連携協定の締結
	4月	健康科学部健康スポーツ学科入学定員増（入学定員250名）
	4月	新潟医療福祉大学　第21回入学式（オンライン）
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第17回入学式（オンライン）
	5月	2021年度スポーツ庁女性アスリートの育成・支援プロジェクト事業に採択
	10月	北側トレーニングセンター　竣工
	10月	屋内投てき場　竣工

2022年 （令和４年）	1月	自然人類学研究所　開設
	3月	新潟医療福祉大学　第18回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第16回修了式（学位記授与式）
	4月	新潟医療福祉大学　第22回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第18回入学式
	8月	令和４年度スポーツ庁委託事業「女性アスリートの課題解決実践型プログラム」採択
2023年 （令和５年）	3月	文部科学省 令和４年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ２「特色ある高度な研究の展開」，タイプ３「地域社会への貢献（地域連携型）」選定
	3月	新潟医療福祉大学　第19回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第17回修了式（学位記授与式）
	3月	第11研究・実習棟　竣工（附属鍼灸センター配置）
	4月	リハビリテーション学部鍼灸健康学科（入学定員40名）　開設
	4月	大学院修士課程　入学定員増（入学定員55名） （保健学専攻自然人類学分野，保健学専攻リハビリテーション栄養コース，健康科学専攻にスポーツ栄養学コースを新たに設置し，医療福祉学研究科５専攻15分野）
	4月	大学院博士後期課程医療福祉学専攻　入学定員増（入学定員20名）
	4月	新潟医療福祉大学　第23回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第19回入学式
2024年 （令和６年）	3月	文部科学省 令和５年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ２「特色ある高度な研究の展開」，タイプ３「地域社会の発展への貢献（地域連携型）」選定
	3月	UNIVAS AWARDS 2023-2024にてMS＆AD賞（安全確保に関する優秀取組賞）受賞 主催：一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）
	3月	学生寮「N-Village 伍桃 NEXT-Ⅰ」（１棟83室）　竣工
	3月	新潟医療福祉大学　第20回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第18回修了式（学位記授与式）
	3月	高大医連携事業：新潟県厚生農業協同組合連合会（JA新潟厚生連）および日本赤十字社長岡赤十字病院とパートナーシップ協定締結
	3月	高大医連携事業：医療専攻を有する新潟県内県立高校３校を含む県内外の５校を対象に，高大連携協定の締結（新潟県立小出高等学校，新潟県立三条東高等学校，新潟県立新潟西高等学校，新潟県立新潟東高等学校，藤村女子高等学校）
	4月	心理・福祉学部心理健康学科（入学定員80名）　開設
	4月	サッカーグラウンド，第２クラブハウス（サッカー部），野球サブグラウンド， 野球本部棟　竣工
	4月	新潟医療福祉大学　第24回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院　第20回入学式
	5月	高大医連携事業　新津高等学校と高大連携協定の締結
	6月	新潟市北区ラグーナスクエア内　NUHWまちなかキャンパスオープン
	7月	高大医連携事業　NSGグループ５病院とのパートナーシップ協定締結 （新潟リハビリテーション病院，新発田リハビリテーション病院，新潟脳外科病院，県立吉田病院，中条中央病院）
	7月	高大医連携事業　須賀川高校，万代高校，小千谷高校，高志中等教育学校と高大連携協定の締結
	9月	高大医連携事業　開志学園高校，開志国際高校と高大連携協定の締結

2025年 （令和７年）	2月	文部科学省 令和６年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ２「特色ある高度な研究の展開」，タイプ３「地域社会への貢献」選定
	3月	UNIVAS AWARDS 2024-2025にて安全安心環境構築部門にてアスリートサポートセンターが最優秀賞（２年連続）
	3月	新潟医療福祉大学　第21回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第19回修了式
	4月	健康科学部健康栄養学科　入学定員増（入学定員80名）
	4月	実験実習棟改修　竣工
	4月	第12研究・実習棟　竣工
	7月	高大医連携事業　新潟南高等学校と高大連携協定の締結
	8月	高大医連携事業　芝浦工業大学柏中学高等学校と高大連携協定の締結
	12月	高大医連携事業　五泉高等学校と高大連携協定の締結
	12月	高大医連携事業　十日町高等学校と高大連携協定の締結
	12月	高大医連携事業　柏崎常盤高等学校と高大連携協定の締結
2026年 （令和８年）	2月	第３厚生棟改修　竣工
	2月	高大医連携事業　開志創造高等学校と高大連携協定の締結
	3月	文部科学省 令和７年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ２「特色ある高度な研究の展開」，タイプ３「地域社会への貢献」選定
	3月	UNIVAS AWARDS 2025-2026にて大学スポーツ組織運営優秀取組賞
	3月	新潟医療福祉大学　第22回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院　第20回修了式

3．組織

1）組織図


新潟医療福祉大学
学長
副学長等連絡会
（最高審議機関）
総務会
大学院委員会
（審議機関）
教授会
研究科委員会
（学長直属委員会）
内部質保証推進委員会
将来計画機構
学生懲戒諮問委員会
危機管理対策委員会
教員選考委員会
人権委員会
個人情報保護委員会
安全衛生委員会
自己点検・評価委員会
外部評価準備委員会
PCR 検査センター運営委員会
大学院の質保証委員会
事業戦略推進部
入試委員会
広報委員会
大学院入試広報委員会
IR 戦略委員会
高大医連携推進委員会
リハビリテーション学部
理学療法学科
作業療法学科
言語聴覚学科
義肢装具自立支援学科
鍼灸健康学科
医療技術学部
臨床技術学科
視機能科学科
救急救命学科
診療放射線学科
健康科学部
健康栄養学科
健康スポーツ学科
看護学部
看護学科
心理・福祉学部
社会福祉学科
心理健康学科
医療経営管理学部
医療情報管理学科
大学院 医療福祉学研究科
保健学専攻（Mr）
健康科学専攻（Mr）
社会福祉学専攻（Mr）
医療情報・経営管理学専攻（Mr）
医療福祉学専攻（Dr）
教育・学生支援機構
学生支援推進部
健康管理センター運営委員会
国家試験・資格試験対策委員会
図書館・学修支援委員会
キャリア支援センター運営委員会
学生委員会
交通安全委員会
教育開発推進部
教務委員会
FD・SD 推進委員会
新潟連携教育研究センター運営委員会
教職支援センター運営委員会
高等教育推進センター運営委員会
中央教育センター運営委員会
国際交流推進部
国際交流センター運営委員会
研究・産官学連携推進機構
研究・産官学連携推進部
科研費対策委員会
運動機能医科学研究所
自然人類学研究所
プロジェクト研究センター運営委員会
アスリートサポート研究センター
スポーツカウンセリング研究センター
栄養科学研究センター
脳卒中リハビリテーション研究センター
ロコモティブ症候群予防研究センター
医療経済・QOL 研究センター
言語発達支援センター
シティズンシップ教育実践研究センター
身体教育研究センター
次世代デジタルリハビリテーション研究センター
3D 技術研究開発センター
生物医科学分析研究センター
看護実践研究センター
発達科学センター
研究・産官学連携支援部
倫理審査委員会
学術委員会
動物実験委員会
遺伝子組換実験安全委員会
利益相反マネジメント委員会
知的財産委員会
化学物質管理委員会
URA 推進委員会
大学院教育研究支援部
大学院教育研究環境委員会
大学院教務委員会
社会連携・同窓会推進機構
社会連携推進部
社会連携推進センター 運営委員会
ボランティアセンター運営委員会
同窓会・生涯学修推進部
同窓会・生涯学修連携推進委員会
アスレティックデパートメント推進機構
強化指定クラブ運営部
強化指定クラブ運営委員会
水泳部（男子・女子）
男子サッカー部
女子サッカー部
男子バスケットボール部
女子バスケットボール部
陸上競技部
男子バレーボール部
女子バレーボール部
ダンス部
硬式野球部
女子硬式野球部
卓球部（男子・女子）
テニス部（男子・女子）
スノーボード部
エンターテインメントダンス部
アスレティックデパートメント推進部
アスレティックデパートメント運営委員会
競技力強化部
人材育成部
マーケティング部
広報部
大学事務局
総務部
総務課（学長秘書）
社会連携推進課（同窓会支援室）
研究支援課
IR 室
こども園事業推進室
経理部
経理課
学務部
教務課（教職支援センター）
学生課（医務室）
大学院・国際交流課
キャリア開発室
入試広報部
入試課
広報課
図書館・学修支援課
スポーツ振興室

2）役職者

（1）新潟医療福祉大学

学　長	西澤正豊
副学長	大山峰生
副学長	大西秀明
副学長	西原康行
リハビリテーション学部長	大石如香
医療技術学部長	笠原敏文
健康科学部長	西原康行
看護学部長	宇田優子
心理・福祉学部長	山本裕二
医療経営管理学部長	稲葉　晋
リハビリテーション学部	
理学療法学科長	椿　淳裕
作業療法学科長	能村友紀
言語聴覚学科長	大石如香
義肢装具自立支援学科長	佐藤成登志
鍼灸健康学科長	粕谷大智
医療技術学部	
臨床技術学科長	渡邊博昭
視機能科学科長	前田史篤
救急救命学科長	竹井　豊
診療放射線学科長	児玉直樹
健康科学部	
健康栄養学科長	永井　徹
健康スポーツ学科長	佐藤敏郎
看護学部	
看護学科長	宇田優子
心理・福祉学部	
社会福祉学科長	佐藤　洋
心理健康学科長	山本裕二
医療経営管理学部	
医療情報管理学科長	木下直彦
教育・学生支援機構長	大山峰生
研究・産官学連携推進機構長	大西秀明
社会連携・同窓会推進機構長	西原康行
アスレティックデパートメント推進機構長	西原康行
学生部長	相馬俊雄
図書館長	竹井　豊
大学事務局長	矢田広視

（2）新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科

研究科長	大西秀明

修士課程

保健学専攻長	藤井　豊
健康科学専攻長	山代幸哉
社会福祉学専攻長	寺田貴美代
医療情報・経営管理学専攻長	木下直彦

保健学専攻

理学療法学分野長	芝田純也
作業療法学分野長	能村友紀
言語聴覚学分野長	吉岡　豊
義肢装具自立支援学分野長	阿部　薫
医療技術安全管理学分野長	髙橋良光
視覚科学分野長	増田　修
救急救命学分野長	竹井　豊
放射線情報学分野長	花村健次
自然人類学分野長	奈良貴史

健康科学専攻

健康栄養学分野長	稲葉洋美
健康スポーツ学分野長	下門洋文
看護学分野長	杉本　洋

社会福祉学専攻

保健医療福祉政策・計画・運営分野長	寺田貴美代
保健医療福祉マネジメント学分野長	福田敏秀

医療情報・経営管理学専攻

医療情報・経営管理学分野長	木下直彦

博士後期課程

医療福祉学専攻長	児玉直樹

3）教員数（2025年5月1日現在）

（1）教員数

学部専任教員数　　314名

（注1）学長・副学長を含む.

（注2）兼担大学院担当者（○合，合）修士課程142名　博士後期課程65名含む

（2）学部別教員数

学部等	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
リハビリテーション学部	(1)	30	10	28	11	4	83
医療技術学部		25	4	18	11	7	65
健康科学部		17	11	21	14	5	68
看護学部		9	6	6	13	4	38
心理・福祉学部		13	4	7	8	2	34
医療経営管理学部		8	3	4	4	2	21
教育・学生支援機構		1	1	1	0	0	3
社会連携・同窓会推進機構		1	1	0	0	0	2
合　計	(1)	104	40	85	61	24	314

（3）学科別教員数（注3）

学科	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
理学療法学科	(1)	12	1	16	5	2	36
作業療法学科		4	2	3	3	0	12
言語聴覚学科		6	2	3	1	2	14
義肢装具自立支援学科		4	3	4	1	0	12
鍼灸健康学科		4	2	2	1	0	9
臨床技術学科		11	1	8	4	4	28
視機能科学科		4	1	1	2	1	9
救急救命学科		4	1	3	3	0	11
診療放射線学科		6	1	6	2	2	17
健康栄養学科		6	2	5	6	5	24
健康スポーツ学科		11	9	16	8	0	44
看護学科		9	6	6	13	4	38
社会福祉学科		8	2	6	4	1	21
心理健康学科		5	2	1	4	1	13
医療情報管理学科		8	3	4	4	2	21
教育・学生支援機構		1	1	1	0	0	3
社会連携・同窓会推進機構		1	1	0	0	0	2
計	(1)	104	40	85	61	24	314

（注3）リハビリテーション学部：理学療法学科　作業療法学科　言語聴覚学科　義肢装具自立支援学科
鍼灸健康学科

医療技術学部　　：臨床技術学科　視機能科学科　救急救命学科　診療放射線学科

健康科学部　　：健康栄養学科　健康スポーツ学科

看護学部　　：看護学科

心理・福祉学部　　：社会福祉学科　心理健康学科

医療経営管理学部　　：医療情報管理学科

４．学年暦

4月　1日（火）　・学生寮入寮オリエンテーション実施（オンデマンド）
・新任教員辞令交付式実施
対　象／新任教員36名，昇任教員24名，管理職教員18名
・新任教職員対象 事務局オリエンテーション実施（オンライン）
内　容／大学概要説明，各種事務手続き説明，学会入会案内 等
参加者／55名
2日（水）　・第12研究・実習棟（V棟）竣工式挙行
内　容／健康栄養学科定員増（入学定員40人→80人）に伴う施設拡充臨床栄養実習室，栄養教育実習室，調理実習室等を配備
2日（水）～4日（金）
・新入生オリエンテーション実施（オンデマンド・対面）
対　象／全新入生および３年次編入学生
内　容／日程ごとにオンデマンド型・対面型で実施
2日（水）：WEB型全体…修学・学生生活等に関する動画視聴
3日（木）：対面型全体…学友会等説明，書類回収，生活指導
※スタートダッシュセミナー「大学での勉強の仕方」を同時開催
4日（金）：対面型学科別…学科別にカリキュラム等を説明
4日（金）～9日（水）
・履修登録期間（前期・後期）
5日（土）　・新入生歓迎会「桃迎会」開催
内　容／学友会主催にてクラブ・サークル活動を紹介
参加者／新入生約450名
7日（月）・9日（水）
・履修登録サポートデスク
内　容／上級生ボランティアによる新入生の履修登録サポート
参加者／465名　2025年度新入生参加率36%
8日（火）　・2025年度入学式挙行
会　場／朱鷺メッセ（LIVE配信・アーカイブ配信も併用）
入学者／学部1,293名，大学院89名　計1,382名
来場者／2,610名
・2025年度第１回後援会総会開催
会　場／朱鷺メッセ
内　容／2024年度決算，20225年度事業計画・予算および2025年度役員の審議
9日（水）　・前期授業開始
原則対面での実施とし，教育効果に応じてオンラインを積極活用
13日（日）　・新入寮生歓迎会開催
内　容／自己紹介，レクリエーション，懇親会
参加者／新入寮生131名
14日（月）～18日（金）
・全日本学生テニス選手権（インカレ）北信越地区予選出場
結　果／９名（男子４名，女子５名）がインカレ出場決定
17日（木）～5月16日（金）
・マヒドン大学（タイ）交換留学プログラム実施

参加者／マヒドン大学放射線技術学科 学生５名
内　容／本学診療放射線学科の授業参加・学生交流・新潟観光 等
18日（金）　・新任職員SD研修会実施
テーマ／学長挨拶，研修～NUHW職員になるとは～，部署見学 等
参加者／新任事務局職員19名
19日（土）　・医療機関業界・職種研究会開催
参加者／臨床技術学科　　４年生83名，３年生31名
診療放射線学科　４年生87名　合計201名
講　師／新潟大学医歯学総合病院，計３名
施　設／新潟県厚生農業協同組合連合会，新潟県病院局，愛広会他　計11施設
22日（火）　・大学院広報イベント「第１回教えて!大学院」開催
内　容／放射線情報学分野の紹介
参加者／20名（学部４年生17名，修士２年生３名，その他５名）
25日（金）～27日（日）
・2025日本学生陸上競技個人選手権大会
結　果／中町真澄（大学院２年）男子円盤投げ　優勝
29日（火･祝）・授業実施日
5月　3日（土）～5日（月）
・第59回笹本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ戦（男子）
結　果／準優勝
・第59回笹本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ戦（女子）
結　果／３位
5日（月･祝）・授業実施日
6日（火･祝）・授業実施日
10日（日）　・第105回全日本サッカー選手権大会（天皇杯）新潟県代表決定戦出場
結　果／決勝　新潟医療福祉大学 ４－２ JAPANサッカーカレッジ
※２年ぶり８回目の天皇杯出場決定
14日（水）～18日（日）
・第11回全日本大学女子硬式野球選手権大会（インカレ）出場
結　果／ベスト８
16日（金）　・はあとふるあたご学内説明会
参加者／SW（社会福祉学科）４名／HN（健康栄養学科）３名
18日（日）　・5月来場型オープンキャンパス開催
参加者／409名（内受験対象学年355名）
19日（月）～6月13日（金）
・第１回高校教諭対象WEBオープンキャンパス（オンデマンド）
内　容／入試説明，入試対策（志望理由書，面接）等
参加者／現在開催中
20日（火）　・大学院広報イベント「第２回教えて！大学院」
内　容／社会福祉学専攻の紹介
参加者／17名（学部４年生７名，修士２年生２名，その他８名）
22日（木）　・愛広会・愛宕福祉会学内説明会
参加者／SW（社会福祉学科）６名
23日（金）　・2025年度春の職員会開催
内　容／学長挨拶，2025年度目標，意欲向上研修会

対　象／全事務局職員

24日（土）　・第105回全日本サッカー選手権大会（天皇杯）出場

結　果／１回戦　新潟医療福祉大学 １－３ 奈良クラブ（J３）

・同窓会本部会・総会開催（対面）

内　容／2025年度事業計画，役員人事，規程改定の審議など

25日（日）　・中高生向け学問探究セミナー開催

会　場／朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター３階中会議室

内　容／NTTドコモ，臨床技術学科，心理健康学科によるセミナーおよび体験会

30日（金）　・西澤正豊学長寄贈　グランドピアノ設置お披露目会

31日（土）　・義肢装具自立支援学科企業説明会／福祉施設等求人説明会

参加者／義肢装具自立支援学科77名

企　業／計57社（はあとふるあたご含め県内企業等２社，県外企業等55社）

6月　1日（土）　・新規データベース「今日の臨床」 公開

3日（火）～20日（金）

・各県人会開催

参加者／（6/3） 新潟県人会佐渡支部　16名

（6/6） 長野県人会　22名

（6/17）山形県人会　31名

（6/18）沖縄県人会　27名

（6/20）福島県人会　38名

5日（木）～8日（日）

・第94回日本学生陸上競技対校選手権大会（全日本インカレ）

結　果／男子円盤投げ　中町真澄（大学院２年）優勝

6日（金）～29日（日）

・学生WEB選書

内　容／図書館に展示する本を学生自ら選ぶ選書会

6日（金）　・北区「未来のまちづくり」事業

心も体も健幸プロジェクト開始（全３カテゴリー，５コース）

8日（日）　・島見浜海岸清掃ボランティア活動実施

概　要／学生寮×新潟北ライオンズクラブによる共同開催

参加者／学生22名，ライオンズクラブ11名，教職員３名

15日（日）　・来場型オープンキャンパス開催

参加者／406名（内受験対象学年317名，前年346名）

17日（火）　・創立記念日

・防災避難訓練実施

内　容／シェイクアウト訓練，避難訓練，安否確認回答訓練 など

参加者／学生・教職員701名

18日（水）　・健康栄養学科生化学セミナー

内　容／生化学の授業の復習を上級生と共に行う

参加者／健康栄養学科１年生　38名

学修支援ピアサポーター　12名

21日（土）　・業界・仕事研究会（一般企業・行政志望者）開催

参加者／計195名（３年生192名，２年生３名）

企　業／計９社（NSGホールディングス，大光銀行，㈱コロナ，㈱星光堂薬局，㈱nobitel，新潟県病院局，㈱マルタケ，㈱マーブル）

・NUHWアカデミースキルアップキャンプ（サッカー教室）
概　要／中学部活動地域移行に向けた，総合地域スポーツクラブハピスカとよさかとの共同事業
参加者／計70名（中学生50名，小学生20名）

23日（月）　・名誉教授称号授与式
内　容／名誉教授の称号授与が決定した２名に称号記を授与
・真柄 彰 名誉教授
・石上 和男 名誉教授
・令和７年度　スポーツ庁委託事業「感動する大学スポーツ総合支援事業」採択
概　要／「大学生指導員の養成・確保に関する実証事業」に採択
事　業／指導員研修・出張型スポーツイベントを開催し，指導者の安定的な確保と質を保証させるための仕組みづくりの推進
補助額／2,000千円（対象期間：2026年1月31日まで）
・令和７年度　スポーツ庁委託事業「感動する大学スポーツ総合支援事業」採択
概　要／「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」に採
事　業／来場型スポーツイベントを開催し，大学スポーツ資源を活かした生涯スポーツ社会の実現の推進
補助額／1,000千円（対象期間：2026年1月31日まで）

24日（火）　・大学院広報イベント「第３回 教えて大学院」開催（オンライン）
内　容／救急救命学分野の紹介
参加者／９名（昨年37名）

26日（木）　・入試特別講演会
会　場／新潟医療福祉大学ハイブリッド開催
参加者／３校３名

27日（金）　・グランドピアノ　ミニコンサート
会　場／U棟５階　夕日テラス
内　容／ピアノ演奏と園児による歌の発表
演　者／インターナショナルこども園　園児
心理健康学科２年生　学生
西澤正豊学長
・健康データサイエンス学科（仮称）設置認可補正申請書を文部科学省に提出
（以下，再掲）
設置年度／2026年4月（2025年8月認可予定）
入学定員／45名（収容定員180名）
学位／学士（健康データサイエンス学）

29日（日）～7月29日（火）
・マヒドン大学（タイ）学生の短期留学受入
内　容／義肢装具自立支援学科との短期交換留学プログラムとして，マヒドン大学の大学院生２名を受入

30日（月）～7月11日（金）
・定期テスト相談会
内　容／学修支援ぴあサポーターによる１年生の定期テスト相談対応
対　象／全学科１年生

7月　1日（火）～11日（金）
・中山医学大学（台湾）学生の短期留学受入

内　容／臨床技術学科との短期交換留学プログラムとして，中山医学大学の大学生３名を受入

7月　1日（火）～31日（木）

・第２回高校教諭等対象WEBオープンキャンパス開催（オンデマンド）

内　容／入試説明，入試対策，高大医連携プロジェクト紹介 等

参加者／開催中（昨年32校36名）

2日（水）　・大学院特別研究奨学金・修学援助奨学金選考面接実施

対　象／特別研究奨学金４名

修学援助奨学金４名

4日（金）～6日（日）

・第109回日本陸上競技選手権大会出場

結　果／男子円盤投げ 中町真澄（大学院２年）　５位

男子砲丸投げ 渡辺豹冴（健康スポーツ学科３年）　７位

・新潟南高等学校との高大連携協定締結式開催

4日（金）　・新潟県立新潟南高等学校との高大連携協定式開催

4日（金）～6日（日）

・【陸上】第109回日本陸上競技選手権大会

結　果／男子円盤投げ 中町真澄（大学院２年）５位

男子砲丸投げ 渡辺豹冴（健康スポーツ学科３年）７位

5日（土）　・第43回全日本大学女子駅伝対校選手権大会北信越地区選考会

結　果／優勝（14年連続）

※10月開催 全日本大学女子駅伝対校選手権大会 北信越代表決定

・車いすソフトボール体験会（主催：日本車いすソフトボール協会）

参加者／20名（男女硬式野球部学生も参加）

6日（日）　・第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会決勝

結　果／優勝（８大会連続）　本学 ３－１ 新潟経営大学

※9月開催の総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントに北信越代表として出場

6日（日）～27日（日）

・図書館の日曜開館（定期テスト対策支援）

7日（月）～11日（金）

・マヒドン大学（タイ）学生の短期留学受入

内　容／義肢装具自立支援学科との短期交換留学プログラムとして，マヒドン大学の大学生４名を受入

10日（木）　・第２回高校教諭対象説明会（来場型／LIVE配信型）

12日（土）・13日（日）

・【陸上】第109回日本陸上競技選手権大会リレー競技

結　果／男子４×400mR　８位

13日（日）　・来場型オープンキャンパス開催

参加者／721名（内受験対象学年517名，前年539名）

16日（水）　・薬物乱行防止講演会開催（１年生）　参加者／１年生1,293名

演　題１／薬物乱用防止推進講演

（講師）新潟北警察署　生活安全課　生活安全係長　桑原崇夫 氏

演　題２／SNSを利用するための注意事項

（講師）新潟県警本部　生活安全少年課　長澤順子 氏

・こころとからだの健康チェック（１年生）実施
内　容／大学精神保健調査 等
回答者／1,192名
・2026年度（令和８年）科学研究費説明会開催
参加者／191名（本学164名／事業創造大学院大16名／新潟食料農業大３名／開志専門職大６名／その他２名）
※7/17よりサポート教員21名による申請サポートデスク設置
・第２回高校教諭等対象WEB大学説明会開催
内　容／大学概要説明動画・入試説明動画，学科紹介動画等
参加者／15校16名，累計：40校44名（前年94校105名）

16日（水）・18日（金）
・強化指定クラブ臨時コンプライアンス研修会
対　象／全強化指定クラブ学生（約700名参加）
内　容／大麻・性犯罪等，大学スポーツ界で問題の多い事案を中心に注意喚起

19日（土）　・大学院広報イベント「夏のオープンキャンパス」開催（オンライン）
内　容／医療技術安全管理学分野・自然人類学分野・健康栄養学分野の紹介，大学院進学相談 など
参加者／45名（内受験対象学年37名，前年43名）
・高大医連携プロジェクト「チーム医療体験会」開催
内　容／具体的な症例を基に，高校ならびに目指す専門職が異なる生徒による混成グループを結成し，多職種連携による支援策についてディスカッションし検討結果を発表する.
参加者／10校110名
・【卓球】NUHWアカデミー「skill up camp卓球教室」
内　容／中学部活動地域移行に向けた卓球教室
参加者／中学生約30名

21日（月･祝）・授業実施日

22日（火）　・【女子硬式野球】侍ジャパン女子日本代表に１名の学生が選出
選　手／小川舞（健康スポーツ学科２年／開志学園高校出身）
※女子日本代表は10月から行われるアジアカップに出場予定

26日（土）　・理学療法学科，作業療法学科・言語聴覚学科「医療福祉求人説明会」開催（オンライン）
施　設／41施設（総合病院，リハビリテーション系病院など）
参加者／171名（理学90名，作業43名，言語38名）
・【テニス】NUHWアカデミー「skill up campテニス教室」
内　容／中学部活動地域移行に向けたテニス教室
参加者／中学生約10名

28日（月）～8月1日（金）
・前期定期試験（学部・大学院）

28日（月）　・図書館 剽窃検知ソフトiThenticateオンライン講習会
当日受講者／44名

31日（木）　・2025年度（令和７）科学研究費「研究活動スタート支援」採否通知
結　果／採択０件，申請15件（前年採択４件，申請13件）
2025年度（令和７）累計／
採択数：156件（前年156件）
採択額：358,540千円（前年307,450千円）

8月　1日（金）・2日（土）

・【水泳】世界水泳選手権2025

結　果／水沼尚輝（職員）

男子100mバタフライ予選51秒44　全体14位

準決勝50秒96　全体９位

1日（金）　・強化指定クラブ１年生対象セミナー開催

内　容／強化部同士の交流を通して，様々な価値に触れ，新たな発見や学びを得ることを目的としたグループワークを実施

参加者／強化指定クラブ１年生191名

4日（月）　・大学休業日

・UNIVAS×日本郵政株式会社「マルチスポーツ体験イベント」公募型支援プログラムに採択

内　容／10月実施予定の「NUHWスポーツフェスタ」に，50万円の運営支援金

5日（火）　・高大医連携プロジェクト「病院見学・体験会」開催

内　容／医療職を目指す連携協定校生徒を対象に病院見学を実施

見学先／JA新潟県厚生農業協同組合連合会 小千谷総合病院

参加者：小千谷高等学校 ３年生３名

JA新潟県厚生農業協同組合連合会　新潟医療センター

参加者：高志中等教育学校　３年生10名

5日（火）～8日（金）

・【ダンス】第37回全日本高校・大学ダンスフェスティバル出場

結　果／創作コンクール部門決選プログラム進出

9日（土）～10日（日）

・来場型オープンキャンパス開催

参加者／2,211名（内受験対象学年916名，前年950名）

9日（土）　・「第２回レシピコンテスト」最終審査会開催　高校生対象

内　容／「大切な人へのランチ」をテーマに“医療・福祉”“学校・行政”“アスリート”の３分野でレシピを公募

協　賛／JA全農にいがた，JA新潟市

後　援／新潟県教育委員会，新潟県福祉保健部健康づくり支援課，新潟市食と花の推進課，株式会社原信，新潟日報社

応募者／58組86名（内高３生33組47名）

結　果／最優秀賞１名，分野別最優秀賞各１名，審査員特別賞１名，ホテルイタリア軒賞１名，JA新潟市賞１名

11日（月）～18日（月）

・夏季休暇期間

14日（木）～16日（土）

・【フットサル部】第21回 全日本大学フットサル大会 インカレ出場

17日（日）～22日（金）

・【軟式野球部】全日本大学軟式野球選抜大会

SUMMER CUP 2025 in Naganoインカレ出場

19日（火）～21日（木）

・前期定期試験 追・再試験期間（学部）

19日（火）～9月12日（金）

・夏季集中講義期間

21日（木）　・第３回高校教諭対象説明会（来場型／LIVE配信型）
参加者／１校１名，累計：41校45名（前年94校105名）
・千葉県芝浦工業大学柏中学高等学校との高大連携協定締結式開催
・高大接続研修会　参加者15校22
21日（木）～23日（土）
・視機能科学科主催「夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学」開催
内　容／手作りカメラを作ってみよう，望遠鏡を作ってみよう など
参加者／児童生徒73名，保護者等76名
22日（金）～31日（日）
・【テニス】2025年全日本学生テニス選手大会出場
結　果／男子ダブルス１組，女子シングルス１名，女子ダブルス１組　２回戦進出
23日（土）　・入試対策講座
参加者／202名（内受験対象学年189名）
24日（日）～31日（日）
・【女子硬式野球】第15回全日本大学女子硬式野球選手権
結　果／予選リーグ敗退　新潟医療福祉大 ２－２ 大阪体育大
新潟医療福祉大 ３－５ 至学館大
25日（月）～29日（金）
・連携総合ゼミ（４年生選択科目）開講
内　容／他学科・他大学の学生が混成チームを編成し，10の仮想症例に基づき，多職種間連携による支援策を検討・発表.
受講者／合計83名
※本学（学部・大学院）71名，新潟薬科大２名，新潟リハビリテーション大10名,
同窓生／合計14名参加
※理学５名，義肢１名，臨床１名，作業１名，栄養２名，看護２名，社福２名
25日（月）　・【ダンス】東京なかの国際ダンスコンペティション
結　果／創作部門決選　第１位
古山夏帆（大学院２年）・大塚駿平（ダンス部卒業生）
26日（火）　・大学院広報イベント「第４回教えて！大学院」
内　容／看護学分野の紹介
参加者／１名（内受験対象学年０名，前年８名）
28日（木）　・大学院広報イベント「特別企画教えて！大学院」
内　容／特待生制度および入試出願説明会
参加者／13名（内受験対象学年11名，前年15名）
28日（木）～30日（土）
・【卓球】第71回夏季北信越学生卓球選手権大会出場
（兼 全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）北信越地区予選）
結　果／男子シングルス　小松敏輝（健康スポーツ学科４年）
※インカレ出場決定
29日（金）　・本学 医療情報経営学部 健康データサイエンス学科の設置認可
※医療経営管理学部から医療情報経営学部への学部名称変更
開設時期：2026年4月
入学定員：45名
収容定員：180名

・文部科学省 高等教育の修学支援新制度の対象機関公表
内　容／2025年度（令和７年）の審査結果が公表され，引き続き本学が対象大学となることが文科省ホームページに掲載
・文部科学省により学校法人運営調査_実地調査
・教職員納涼会開催（ホテルイタリア軒）

9月　1日（月）　・大学休業日

2日（火）～4日（木）
・生理学の復習セミナー
講　師／学修支援センター大学院生
対　象／作業療法学科１年

2日（火）～8日（月）
・図書館蔵書点検（閉館）

3日（水）～13日（日）
・【男子サッカー】第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント
結　果／１回戦　新潟医療福祉大 0（PK４－２）0 流通経済大
２回戦　新潟医療福祉大 ２－１ 筑波大
３回戦　新潟医療福祉大 ２－３ 関西大

3日（水）　・交通安全無事故の誓い
内　容／過去の交通事故を教訓に全学で無事故を誓う
出席者／学長，副学長，交通安全委員長他，学生・教職員 約40名
・図書館 文献管理ソフト EndNoteonline　講習会
・管理職者対象メンタルヘルス講習開催（オンライン）
内　容／今，管理職に求められるメンタルヘルスケア
講　師／法政大学 准教授　小林由佳 氏
対象者／学長，副学長，学部長，学科長等の教育職員管理職および事務局管理職者
・9月卒業判定会議（大学院の9月修了者はなし）
対象者／25名（作業１名，言語５名，義肢４名，救急１名，放射５名，健スポ４名，看護４名，社福１名）
結　果／25名全員の9月卒業を承認

4日（木）～7日（日）
・【水泳】第101回日本学生選手権水泳競技大会（全日本インカレ）出場
結　果／男子50m自由形 松原光佑（健康スポーツ学科３年）３位
女子50m自由形 篠塚聖妃（健康スポーツ学科４年）４位
女子100mバタフライ 秋山栞名（健康スポーツ学科４年）３位

5日（金）　・9月卒業者発表

13日（土）　・入試対策講座
・大学院広報イベント「秋のオープンキャンパス」
内　容／義肢装具自立支援学分野・視覚科学分野の紹介，進学相談

13日（土）～15日（月）
・【テニス】令和７年度北信越大学対抗テニス王座決定試合出場
結　果／男子団体　優勝（３年連続）
女子団体　優勝（２年連続）
※男女ともに全日本大学対抗テニス王座決定試合出場権獲得

13日（土）　・入試対策講座開催
参加者／128名（内受験対象学年125名，前年開催なし）

14日（日）　・【女子サッカー】皇后杯第47回全日本女子サッカー大会 決勝出場
結　果／優勝（本学 ３－０ FC越後妻有）
※２年連続となる皇后杯全日本女子サッカー選手権出場権獲得
17日（水）　・9月卒業式
卒業生／25名
18日（木）　・秋の職員会
テーマ／「私立大学のコンプライアンス」
求められるコンプライアンス遵守や大学のガバナンス
講　師／名川・岡村法律事務所　池田千絵 弁護士，村本裕亮 弁護士
19日（金）　・大学休業日
22日（月）　・後期授業開始
23日（火･祝）・授業実施日
24日（水）　・新潟食料農業大学との共催でのSD
テーマ／「URAの仕組みづくりと研究マネジメント人材育成」
講　師／沖縄科学技術大学院大学 国内外部研究資金セクションマネージャー
杉原忠 氏
参加者／97名（教員75名，職員10名　外部参加者12名）
27日（土）　・鍼灸企業説明会 参加者／71名（今年度初１催）
・大学院入学者選抜（修士１次募集）志願者数／47名（前年実績／51名）
27日（土）～28日（日）
・【水泳】第101回日本選手権水泳競技大会OWS競技出場
結　果／女子10km　谷 清美（健康スポーツ学科１年）６位
10月　5日（日）　・来場型オープンキャンパス
参加者／429名（内受験対象学年187名，前年247名）
6日（月）　・EBSCO CINAHL（データベース）講習会
6日（月）～10日（金）
・食の支援事業「100円ランチ」
内　容／学食４ヵ所（MoMoカフェ，MoMoキッチン，MoMoベーカリー，ふれあい食堂）において，500円相当のランチを100円で提供．JASSO（独立行政法人日本学生支援機構）の補助採択と㈱日本フードリンクによる支援により実施．
利用者数／1,375名
11日（土）　・学部入学者選抜
総合型選抜A方式（主体性重視型）　志願者数483名
総合型選抜B方式（基礎教養重視型）志願者数448名
※志願者合計（実数）485名（前年実績567名）
・３年次編入学選抜（看護学科）　志願者数２名（前年実績１名）
11日（土）～12日（日）
・【水泳】第101回日本学生選手権水泳競技大会OWS競技出場
結　果／女子５km・10km　谷清美（健康スポーツ学科１年）５位
・【男子野球】関甲信秋季リーグ戦（１部リーグ）プレーオフ
結　果／リーグ戦３位（７勝２敗）
13日（月･祝）・授業実施日
18日（土）～19日（日）
・第25回大学祭「伍桃祭」開催
テーマ／結の音

来場者／3,457名（前年2,700名）
※伍桃祭に同窓会イベントも開催
内容：長谷川直人選手の跳躍実演，子どもの遊び場，クイズ，ファミリーフォト等を実施
参加延べ数：169名

19日（日）　・国際理解セミナー「アジアから世界を知る！」
～留学生が語る！各国の魅力と文化の違い～
内　容／新潟県国際交流協会の受託事業として実施
本学に在籍するスリランカ，フィリピン，ベトナム出身の留学生３名が，それぞれの母国の魅力について発表
※同時開催の学園祭にも留学生が飲食店「BESTEA International Tea Room」出店
参　加／対面参加37名 オンライン参加11名（昨年参加21名）
・NUHWスポーツフェスタ（スポーツ庁委託事業）
内　容／本学のスポーツ資源を活用したスポーツ遊び体験・運動能力測定を実施
来場者／幼児・小学生および保護者573名
※令和７年度スポーツ庁委託事業 感動する大学スポーツ総合支援事業として実施

21日（火）～24日（金）
・【卓球】第91回全日本大学総合卓球選手権大会個人の部
結　果／小松敏輝（健康スポーツ学科４年）２回戦敗退

22日（水）　・４大学合同IRセミナー
内　容／本学，東北工業大学，仙台大学，東北文化学園大学との共催
テーマ／「教学IRの実践とデータに基づく学生支援」
「IRデータをどのように教育改善に結びつけるか」
参加者／100名
※IR（Institutional Research）：大学のデータ分析部門」であり，大学の改善や戦略立案に役立つ情報を提供．大学の運営や意思決定を支援するために，教育・研究・財務・学生などに関するデータを収集・分析・報告する活動.

22日（水）～24日（金）
・【テニス】全日本大学対抗テニス王座決定試合（インカレ団体）出場
結　果／男子団体 １回戦（本学 ０－９ 福岡大学）
女子団体 １回戦（本学 ５－０ 北海道大学）
２回戦（本学 ０－５ 早稲田大学）

24日（金）～26日（日）
・【男子バスケ】北信越大学バスケットボール選手権大会出場
結　果／優勝　※全日本インカレ出場権獲得
・【女子バスケ】北信越大学バスケットボール選手権大会出場
結　果／準優勝　※全日本インカレ出場権獲得

25日（土）～26日（日）
・【男子バレー】秋季北信越大学バレーボール選手権大会出場
結　果／予選リーグ敗退

25日（土）　・第25回新潟医療福祉学会学術集会
シンポジウム／地域連携と産官学連携による医療安全の維持・向上
新潟医療福祉学会

会　頭　　西澤正豊 学長
大会長　学科長　渡邊博昭 教授（医療技術学部臨床技術学科）
実行委員長　　深澤友雄 教授（医療技術学部臨床技術学科）

26日（日）　・【陸上】全日本大学女子駅伝対校選手権大会
結　果／21位（２時間13分１秒）※過去最高順位

25日（土）～11月5日（水）
・WEB保護者会開催（オンデマンド型）開催
内　容／大学運営報告，学科別活動報告（実習・国試・就職など）
視聴者／動画再生回数 3,476件（11月5日付）

28日（火）　・大学院広報イベント「第５回教えて！大学院」
内　容／医療情報・経営管理学分野の紹介
参加者／10名（内受験対象学年４名，前年12名）

11月　1日（土）　・保護者会（来場型）開催
内　容／学長挨拶，上期運営報告，学科別説明会，個別相談 等
参加者／176名
・QOLサポーターと学生の集い（対面型）開催
内　容／卒業生のテーマ別パネルトーク，在学生との交流
参加者／登壇者24名，在学生（全学科対象）292名
・後援会役員会（理事会）開催
内　容／2025年度前期大学運営状況報告，後援会会則改定（案），同窓会事業報告，意見交換会
参加者／理事６名
・NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催（全４回予定）
内　容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種　目／サッカー（男子サッカー部）
参加者／40名

1日（土）～2日（日）
・【女子バレー】秋季北信越大学バレーボール選手権大会出場
結　果／準優勝　※全日本インカレ出場権獲得

2日（日）　・入試対策講座
参加者／63名（内受験対象学年57名，前年64名）

3日（月･祝）・授業実施日

5日（水）　・対象メンタルヘルス講習会開催
テーマ／「ヒューマンエラー対策は，メンタルヘルス対策でもある」
講　師／宮城学院女子大学 学芸学部 心理行動科学科　大橋智樹 氏
・令和７年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰の受賞決定
義肢装具自立支援学科「障がい者陸上教室」活動「奨励活動」受賞

8日（土）　・学内企業等説明会
参加者／企業団体 35社参加，学生186名参加（昨年182名）
・NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催
内　容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種　目／卓球（卓球部）
参加者／30名
・「福祉・介護・健康フェア」出展
社会連携・同窓会推進機構，社会福祉学科，鍼灸健康学科が参加

内　容／社会連携・同窓会推進機構：「視覚障害について疑似体験 ボードゲーム」
社会福祉学科：「車椅子体験」 鍼灸健康学科：「ツボ押し体験」を実施
本学ブース来場者／103名

8日（土）～16日（日）
・【女子サッカー】皇后杯JFA 第47回全日本女子サッカー選手権大会出場
結　果／２回戦敗退
１回戦　本学 １（PK５－４）１ 神奈川大学
２回戦　本学 １－５ アルビレックス新潟レディース

9日（日）　・「学びピアTOYANO」出展
新潟県立図書館・文書館・生涯学習推進センターの３館連携イベントに健康スポーツ学科，鍼灸健康学科が参加
内　容／健康スポーツ学科：「健康・体力チェック」，鍼灸健康学科：「ツボ押し体験」
来場者／94名

10日（月）～12月26日（金）
・勉強の進め方相談会
内　容／ピアサポーター（学部生）による下学年への学修相談会
対　象／全学科１年生

12日（水）～12月10日（水）
・解剖学・生理学基礎セミナー
対　象／全学科１年生　講師／健康栄養学科　馬場宏子 教授
内　容／隔週で全４回実施，前期に学修した内容の復習

15日（土）　・NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催
内　容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種　目／陸上競技（陸上競技部）
参加者／50名

17日（月）　・公益財団法人古泉財団研究費助成金
助成／社会科学系10名程度（１名あたり年額300千円）
自然科学系10名程度（１名あたり年額500千円）
申請／社会科学系２件（教員１名，学生１名）
自然科学系６名（教員４名，学生２名）

17日（月）～21日（金）
・食の支援事業「100円ランチ」【第２弾】
内　容／1,400食分を準備し1,263食分提供

18日（火）～19日（水）公私立大学実験動物施設協議会実施の外部検証を受検

20日（木）　・新屋高等学校（秋田）との高大連携協定締結式開催

21日（水）～12月26日（金）
・交通安全講習会開催（オンデマンド）
内　容／事故防止と交通ルールの徹底に関する講習
講　師／新潟北警察署 南波丈晴交通課長
対　象／全学生

22日（土）　・学部入学者選抜
総合型選抜C方式（スポーツ重視型）前期 志願者数189名
学校推薦型選抜（指定校制）志願者数344名
志願者合計（実数）533名（前年実績476名）
・同窓会事業「連携研修会の実施」

診療放射線学科が主幹となり言語聴覚学科，救急救命学科と連携し「第10研究・実習棟」で実施
テーマ／「交通外傷による脳出血診療の最前線」
第１部でパネルディスカッション
第２部ではメディカルイメージングセンター体験会
参加者：29名

24日（月･祝）・授業実施日

25日（火）　・大学院広報イベント「第６回教えて！大学院」
内　容／言語聴覚学分野の紹介
参加者／５名（内受験対象学年２名）
・秋田商業高等学校（秋田）との高大連携協定締結式開催

28日（金）～30日（日）
・【水泳】ジャパンオープン2025
結　果／女子50mバタフライ　清水花峰　６位入賞

29日（土）　・学部入学者選抜
総合型選抜Ｄ方式（基礎学力重視型）志願者数147名
学校推薦型選抜（公募制）志願者数130名
総合型選抜（併願制）　志願者数66名
社会人等特別選抜　志願者数２名
外国人留学生選抜　志願者数６名
志願者合計（実数）264名（前年実績172名）

29日（土）～12月1日（月）
・【男子バスケ】第77回全日本大学バスケットボール選手権大会
結　果／予選グループリーグ敗退
本学 95 － 76 静岡産業大学
本学 56 － 58 近畿大学

12月　1日（月）　・館内特設展示入替
１階：学生ボランティア選書「自己啓発本」
２階：学科教員選書「レポート・論文の書き方」

2日（火）　・【女子バレー】秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会
結　果／１回戦敗退
本学 ２ － ３ 順天堂大学

3日（水）　・福島成蹊高等学校（福島）との高大連携協定締結式開催

6日（土）　・北区連携事業「未来のまちづくり 心も体も健幸プロジェクト」交流会実施.
参加者／受講者21名
・【男子サッカー】第74回全日本大学サッカー選手権大会（インカレ）
結　果／予選ラウンド敗退（本学 ０（PK ４ － ５） ０ 大阪体育大学）
※その後に行われた強化ラウンドでは，決勝戦まで進み，桐蔭横浜大学に２－１で勝利

6日（土）～8日（月）
・【女子バスケ】第77回全日本大学バスケットボール選手権大会
結　果／予選グループリーグ敗退
本学 44 － 65 日本女子体育大学
本学 45 － 44 東北学院大学

7日（日）～9日（月）
・【テニス】全日本学生室内テニス選手権大会（インカレ室内）出場

結　果／男子シングルス 初戦（予選）敗退
女子シングルス 初戦（予選）敗退
男子ダブルス 初戦（予選）敗退
女子ダブルス 初戦（予選）敗退

8日（月）～9日（火）
・献血実施
学内に，新潟県赤十字血液センターの献血バスを配置し実施
受付人数／初日43名，2日目49名（合計92名）

9日（火）　・三条高等学校との高大連携協定締結式開催
・令和７年度文部科学大臣表彰「奨励活動表彰」を受賞
～下肢切断者の“スポーツを気軽に楽しむ”環境づくりを支援～
被表彰者名／本学 義肢装具自立支援学科 障がい者陸上教室
活動内容／①地域在住や県外の下肢切断者の方がスポーツ用義足を装着してスポーツ活動を楽しむことができる環境の提供
②各種受託事業やチャリティー等に参加し，パラスポーツの普及活動
③ボランティアスタッフとして学生も参加し障害理解の促進に貢献

9日（火）～19日（金）
・各種県人会開催
参加者／佐渡支部会（17名），長野県人会（18名），福島県人会（18名），山形県人会（15名）

10日（水）　・南浜小学校５・６年生の総合学習の一環として，モモカフェにてお菓子販売
参加者／小学５・６年生25名
商品：しるくどら（どら焼き），さつまんじゅう（お饅頭）各100個　完売

11日（木）　・実験動物慰霊祭
学生・教員 90名参加
・五泉高等学校との高大連携協定締結式開催

13日（土）　・大学院修士課程 入学者選抜試験（２次募集）志願者数 13名
・大学院博士後期課程 入学者選抜試験　志願者数22名（DD含む）
志願者合計（実数）36名（前年実績26名）
・新潟日報 看護職2027 就職応援ガイダンス　本学会場では初開催
※中上越エリア12/20 新潟県立看護大

15日（月）～19日（金）
・中山医学大学（台湾・交流協定校）との国際交流プログラム実施
主　幹／健康栄養学科
概　要／学生・教員を招聘し，授業参加，学生間交流，共同研究等に関する打ち合わせを実施
参加者／中山医学大学 栄養学科の学生５名・教員２名
・同窓会より，在学生支援として学食補助
900円相当のメニューを300円で提供（同窓会が差額分補助）
各日とも，50食限定提供

15日（月）　・十日町高等学校との高大連携協定締結式開催
・学友会主催クリスマスビンゴ大会開催催
参加者／学生350名

17日（水）　・【女子バスケ】相馬嘉乃選手 新潟アルビレックスBBラビッツ 加入内定発表
選　手／相馬嘉乃（健康スポーツ学科４年／PG）

内定先／新潟アルビレックスBBラビッツ（Wリーグフューチャー）
・ハラスメント防止のための意識向上FDセミナー
テーマ／よりよい教育現場・職場環境のためのハラスメントに対する理解促進
講　師／新潟医療福祉大学人権委員会　顧問弁護士　鶴巻 浩憲 先生

18日（木）　・柏崎常盤高等学校との高大連携協定締結式開催
・【女子サッカー】WE・なでしこリーグ2026シーズン加入内定記者会見開催
山下朝子（健康スポーツ学科４年／MF）ちふれAS埼玉エルフェン
森三紘（健康スポーツ学科４年／MF）バニーズ群馬FCホワイトスター

20日（土）　・学部入学者選抜
３年次編入学選抜（健康スポーツ・社会福祉・医療情報管理）
総合型選抜C方式（スポーツ重視型）後期 志願者数10名
総合型選抜E方式（キャリアビジョン重視型）志願者数20名
志願者合計（実数）30名（前年実績37名）
・３年次編入学選抜（スポーツ／福祉／医療情報）志願者数３名（前年実績５名）

20日（土）～21日（日）
・【ダンス部】第44回あきた全国舞踏祭モダンダンスコンクール出場
結　果／群舞部門 最優秀群舞賞 受賞

21日（日）　・NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催
内　容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種　目／バレーボール（女子バレーボール部）
参加者／27名

23日（火）　・大学院広報イベント「第７回教えて！大学院」
内　容／作業療法学分野の紹介
参加者／８名（内受験対象学年４名，前年11名）

24日（水）　・留学生交流イベント
内　容／白山神社でのご祈祷体験
参加者／14名
・【女子サッカー】第35回全日本大学女子サッカー選手権大会
結　果／１回戦敗退
本学 ０－１ 大阪体育大学

25日（木）　・Xmasオープンキャンパス

26日（金）　・年内授業最終日

27日（土）～1月4日（日）
・冬季休暇期間（図書館，食堂の１部，国家試験対策の自習で利用する学生のために９時～17時の時間帯で特別開館対応）

1月　10日（土）　・2026年度入学予定者対象スクーリング
対　象／年内入試合格者
内　容／全体会：入学前学習の重要性や大学生活の過ごし方等
学科別：教員，在校生とのコミュニケーションの場
参加者／982名（前年924名）

16日（金）　・大学閉鎖日（大学入学共通テスト準備日）

17日（土）～18日（日）
・大学入学共通テスト（試験会場）

20日（火）　・大学休業日

21日（水）　・教職員対象交通安全講習会（オンライン）

21日（水）～27日（火）
・後期定期試験（学部・大学院）
22日（木）～25日（日）
・【水泳】OWS全豪選手権
結　果／女子５km・女子10km　谷清美　５位入賞
24日（土）　・大学院広報イベント「冬のオープンキャンパス」
内　容／理学療法学分野・健康スポーツ分野の紹介，進学相談 など
参加者／17名（内受験対象学年12名，前年10名）

2月　4日（水）～5日（木）
・入学者選抜試験（学部）
一般選抜（前期日程）志願者数759名
大学入学共通テスト利用選抜（前期日程）志願者数1,148名
外国人留学生選抜（後期日程）志願者９名
志願者合計（延べ数）1,916名（前年実績1,634名）
6日（金）　・開志創造高等学校との高大連携協定締結式開催
・【女子バレー】佐藤佑海選手 カノアラウレアーズ福岡 加入内定発表
選　手／佐藤佑海（健康スポーツ学科４年／MB）
内定先／カノアラウレアーズ福岡（Vリーグ）
6日（金）～10日（火）
・後期定期試験 追・再試験期間（学部）
7日（土）　・大学院入学者選抜（修士３次募集／博士２次募集）
志願者数／３名（前年実績／10名）
10日（火）　・強化指定クラブ全体研修
１・２年生／能力開発研修（講師：元女子バレー日本代表 佐藤美弥氏）
３年生／アスリート学生対象合同企業説明会（参加企業：51社）
幹部学生／リーダーズミーティング（講師：中央大学職員 天野雅之氏）
16日（月）　・大学休業日
17日（火）　・卒業判定会議
19日（木）　・卒業者発表
・大学院修了判定会議
24日（火）　・新４年生オリエンテーション
25日（水）　・大学院修了者発表
27日（金）　・IA棟（健康データサイエンス学科校舎）竣工（予定）
・令和８年度科学研究費助成事業採否結果
【申請数】180件（前年179件）
※上記申請数は令和８年度の申請数は6月下旬発表予定の挑戦的研究の採択結果未発表分の８件を除く
【結果】42件採択／採択率23.3%（前年58件／32%）
※内訳：基盤（A）０件，基盤（B）８件，基盤（C）25件，若手９件
【配分額】335,270千円（前年最終358,540千円）
※挑戦的研究の結果が今後のプラス要素
・令和７年度 私立大学等改革総合支援事業選定結果
１）タイプ２（特色ある高度な研究の展開）：46点／84点満点にて申請
【結果】116大学が申請し51大学が選定／選定率44%，選定点45点）
※令和７年度の経常費補助金において，約25,000千円が加算される見込（前年実績

24,000千円）

２）タイプ３（地域社会の発展への貢献 - 地域連携型 -）：45点／59点満点にて申請

【結果】202大学が申請し48大学が選定/選定率24％，選定点42点）

※令和７年度の経常費補助金において，約10,000千円が加算される見込（前年実績10,800千円）

3月　2日（月），4日（水）～6日（金）
・連携総合ゼミ（３年生）
・広報「OPEN LAB WEEK」
内　容／研究体験
参加者／23名（前年実施なし）

2日（月）　・UNIVAS AWARDS2025-2026
優秀賞／マンオブザイヤー：男子サッカー部 細井響
ルーキーオブザイヤー：水泳部 谷清美
サポーティングスタッフオブザイヤー：女子バレーボール部 三輪日奈多
大学スポーツ組織運営優秀取組賞：スポーツ振興室

3日（火）　・学部入学者選抜
一般選抜（後期日程）志願者数57名
大学入学共通テスト利用選抜（後期日程）志願者数139名
志願者合計（延べ数）196名（前年実績113名）

7日（土）　・大学院入学者選抜（修士４次募集）志願者数／４名（前年実績／４名）

9日（月）　・大学休業日

10日（火）　・柏崎高等学校との高大連携協定締結式開催

14日（土）　・学部入学者選抜
総合型選抜（面接試験重視型）志願者数６名（前年実績３名）

17日（火）　・2025年度卒業式・大学院修了式

20日（金･祝）・第２回後援会役員会

23日（月）　・新３年生オリエンテーション

24日（火）　・新２年生オリエンテーション

25日（水）　・高大連携「リサーチフェスタ」

26日（木）　・高大連携「チーム医療体験会」

27日（金）　・高田北城高等学校との高大連携協定締結式開催

29日（日）　・春の来場型オープンキャンパス
・大学院広報イベント「春のオープンキャンパス」も同日開催

5．管理運営

1）総務会

総務会構成員

西澤正豊学長，大山峰生教育国際担当副学長，大西秀明研究・産官学連携担当副学長，西原康行社会連携担当副学長兼同窓会・生涯学修担当副学長兼健康科学部長，大石如香リハビリテーション学部長兼言語聴覚学科長，笠原敏文医療技術学部長，宇田優子看護学部長兼看護学科長，山本裕二心理・福祉学部長兼心理健康学科長，稲葉晋医療経営管理学部長，椿　淳裕理学療法学科長，能村友紀作業療法学科長，佐藤成登志義肢装具自立支援学科長，粕谷大智鍼灸健康学科長，渡邊博昭臨床技術学科長，前田史篤視機能科学科長，竹井　豊救急救命学科長，児玉直樹診療放射線学科長，永井　徹健康栄養学科長，佐藤敏郎健康スポーツ学科長，佐藤　洋社会福祉学科長，木下直彦医療情報管理学科長，大河正志健康データサイエンス学科設置準備室長，小野哲之法人常務理事兼法人事務局長，矢田広視大学事務局長，木原大学事務局次長（事務局）石黒拓行経理部長，笹川克己入試広報部長，深井美年総務部総部課長，渋谷友之総務部総務課長，瀬戸川純一総務部社会連携推進課長兼研究支援課長，本間香織経理部経理課長，倉部崇史学務部学生課長，駒形高広学務部教務課長，風間篤史大学院・国際交流課長，中田香織学務部キャリア開発室長，渡部省太入試広報部入試課長，齋藤大将入試広報部広報課長，船山澄子図書館・学習支援課長，南　俊之スポーツ振興室長，栗田司こども園事業推進室長，斎藤佳昭法人経理部長，本間智之法人人事部長，高野法人総務部長，小船井法人企画部長，中村法人事業推進部長，木村法人企画室長，船山法人人事部次長，前田法人人事課長，片岡法人総務課長

主な審議事項および決定事項等

（1）方針・計画について

・将来計画中期目標・中期計画（2026-2030年度）アクションプラン（2026-2028年度）の承認
・2025年度将来計画アクションプランの承認
・FD・SDに関する基本方針の承認
・学生支援に関する方針の承認
・学費改定の承認
・2027年度大学院保健学専攻・鍼灸健康学分野の設置について
・2027年度大学院修士課程・博士後期課程の収容定員増について
・2027年度　社会福祉学科・健康スポーツ学科入学定員調整に係る企画修正について
・学外実習経費負担あり方プロジェクトチーム報告書案について
・自己点検・評価結果に対する外部有識者評価の位置づけおよび実施要領について
・日本私立大学協会「私立大学ガバナンス・コード〈2.0版〉」採用について
・2025年度単年度自己点検・評価結果報告書について
・2024年度未達成アクションプランの進捗状況報告について
・第一期中期計画（2021年度～2025年度）に対する自己点検・評価報告書（データ版）について

（2）学則・規程について

・特待生規程改定の承認
・介護福祉士養成課程規程改定の承認
・大学学則変更の承認
・学生委員会規程改定の承認
・学位規程改定の承認
・授業科目の履修認定，試験及び成績評価に関する細則改定の承認
・大学院教務委員会規程改定の承認
・教育・学生支援機構規程改定の承認
・国際交流推進機構規程廃止の承認

・グッドプラクティス表彰規程制定の承認
・研究インテグリティの確保に関する規程制定の承認
・高大医連携進捗委員会規程制定の承認
・社会福祉学科３ポリシーの改定について
・FD・SD推進委員会　規程の改定について
・新潟医療福祉大学大学院　医療福祉学研究科　研究科長規程の制定について
・2026年度医療経営管理学部の学部名称変更に伴う学則変更について
・ボランティアセンター規程改正について
・新潟医療福祉大学客員教授の称号の付与に関する規程の改正について
・図書館・学修支援委員会規程の改訂について
・新潟医療福祉大学強化指定クラブのスポンサー契約等に関する規程について
・学生の声を生かした教育研究および大学運営改善に関する会議についての申し合わせの制定について
・新潟医療福祉大学付属鍼灸センター規程（案）について
・新潟医療福祉大学付属鍼灸センター臨床研修性規程（案）について
・学外関係者および保護者の意見集約会議の制定について
・大学院学則および学位規程等６規程の改定・制定等について
・教育職員選考規程の改正について
・新潟医療福祉大学の基幹教員の指定に関する規程の制定について
・安全衛生管理基本規程の制定について
・大学院学則および学位規程等８規程の改定・制定等について
・個人情報保護関連規程等の改正について
・大学院学則（別表第13条関係）の改定について
・大学院研究科長裁量研究費規程の改定について
・共同研究・共同利用研究費規程の改定について
・研究奨励金の審査および評価に関する取扱内規の改定について
・学則第６条別表の改定について
・研究奨励金規程の改定について
・新潟医療福祉大学博士研究員の雇用等に関する規程の制定について
・新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター連携委員会規程の制定について
・研究・産官学連携推進機構規程の改定について
・運動機能医科学研究所規程の改定について
・プロジェクト研究センター運営委員会規程の改定について
・医療経営管理学部（医療情報経営学部）2026年度３ポリシーの改定について
・健康栄養学科2025年度３ポリシー改定について
・健康栄養学科３ポリシー（AP）の改定について
・教務委員会　規程改定について

（３）制度・組織・人事・業績・評価について
・リサーチ・アシスタントの採用の承認
・ティーチングアシスタントアシスタントの採用の承認
・教員選考委員会設置の承認
・教員選考委員会審査結果の承認
・教職員海外出張報告
・臨床教授等候補者選考委員会設置の承認
・客員教授の称号付与の承認
・臨床教授等の称号付与審査結果の承認

・名誉教授称号付与の承認
・2025年度教員短期留学の公募の承認
・2025年度再任審査委員会報告の承認
・2025年度再任審査の承認
・2026年度TA・ATA公募の承認
・2026年度年間予定表について
・2026年度新潟医療福祉大学教育職員役職者について
・2026年度新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教育職員役職者について
・2026年度新潟医療福祉大学大学事務局管理職者について
・2026年度新潟医療福祉大学総務会構成員について
・2026年度新潟医療福祉大学大学院委員会構成員について
・2026年度新潟医療福祉大学各種委員会体制および委員長指名について
・2026年度新潟医療福祉大学組織図について
・2025年度防災訓練について
・2024年度年報の発刊について
・火元責任者の更新について
・年末年始の学内施設使用について
・インターナショナルこども園運営状況報告
・2025年度_TA・ATA採用候補者一覧　一部変更について
・2026年度鍼灸センター研修生について
・新潟医療福祉大学英語等短期研修助成規程

（4）教育について
・2025年度卒業判定会議開催日程について
・9月卒業判定会議について
・就職活動状況報告
・障がいのある学生への学修支援に関する計画の制定について
・社会福祉学科　2026年度カリキュラム変更について
・医療情報管理学科　2026年度カリキュラム変更について
・教育・学生支援機構関連問題（実質的な留年リスク，保護者協働，就職先企業から卒業生状況調査，連携教育等）について
・学外実習経費支援の制度設計に関するワーキンググループ（WG）設置等について
・NUHW科目ナンバリングの作成について

（5）学生について
・2025年度入学式について
・2025年度卒業式・修了式について
・9月卒業式・修了式について
・2026年度学事暦について
・2024年度卒業時アンケート結果について
・2025年度授業方針について
・新入生オリエンテーションについて
・新潟医療福祉学会学術集会について
・学籍異動状況報告
・学生懲戒諮問委員会設置の承認
・2025年度学生表彰について
・保護者会について

（6）研究・産官学連携について
・研究奨励金・学長裁量研究費応募要項の承認
・研究不正に関する啓発について
・研究費の概要の承認
・研究科長裁量研究費応募要項の承認
・共同研究・共同利用審査結果の承認
・Sports & Health先端科学研究費応募要項の承認
・Sports & Health先端科学研究費及び共同研究・共同利用研究費の結果の承認
・外部資金獲得奨励金募集の承認
・科研費学内説明会の実施について
・2025年度研究奨励金等の審査結果の承認
・2025年度外部資金獲得奨励金配分結果の承認
・2025年度科研費採択結果について
・2026年度科研費申請状況について
・研究インテグリティ体制図について
・科研費の内部監査について
・化学物質管理者と保護具着用管理者の任命について
・英語論文構成費支援公募要項の承認
・プロジェクトセンター新規設置の承認
・研究奨励金　グランドポリシーの制定について
・ソーシャルメディアポリシー・ガイドライン・運用マニュアルについて
・新潟医療福祉大学研究者登録に関する取扱いについて
（7）入学選考試験について
・2025年度（2025年度入試）第２次合否判定会議開催日程について
・2026年度入学者選抜試験出願結果報告
・2026年度転部転科選考試験の承認
・2026年度出願状況報告（総合型A方式・B方式/看護学科３年時編入学）
・2025年度入学者選抜試験結果報告（総合型A方式・B方式/3年次編入学選抜）
・健康データサイエンス学科における2026年度入試概要の変更について
・2026年度入学者選抜試験における特待生の学科採用人数について
・2026年度入学者選抜試験　選抜試験区別入学者獲得目標について
（8）国際交流について
・フェニカー医科・薬科大学（ベトナム）との国際交流協定締結について
・ナショナルユニバーシティ　クラーク校（フィリピン）との国際交流協定締結について
（9）社会連携・同窓会連携推進について
・社会連携・同窓会推進機構運営委員会報告
（10）強化スポーツについて
・アスレティックデパートメント推進機構運営委員会報告
（11）事業戦略について
・オープンキャンパス実施概要
・オープンキャンパス動員報告
・3月イベント・オープンキャンパス実施概要
・パブリシティー掲載報告
・IRデータ（国家試験・資格試験結果および模試結果）提供のお願い
・チーム医療体験会実施概要報告

・新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター次期指定管理者への申請について

2）大学院委員会

大学院委員会構成員

西澤正豊学長，大西秀明研究科長兼研究・産官学連携担当副学長（議長），大山峰生教育・国際担当副学長，西原康行社会連携担当兼同窓会・生涯学修担当副学長，児玉直樹医療福祉学専攻長，藤井豊保健学専攻長，山代幸哉健康科学専攻長，寺田貴美代社会福祉学専攻長兼保健医療福祉政策・計画・運営分野長，木下直彦医療情報・経営管理学専攻長兼医療情報・経営管理学分野長，芝田純也理学療法学分野長，能村友紀作業療法学分野長，吉岡豊言語聴覚学分野長，阿部薫義肢装具自立支援学分野長，髙橋良光医療技術安全管理学分野長，増田修視覚科学分野長，竹井豊救急救命学分野長，花村健次放射線情報学分野長，奈良貴史自然人類学分野長，稲葉洋美健康栄養学分野長，下門洋文健康スポーツ学分野長，杉本洋看護学分野長，福田敏秀保健医療福祉マネジメント学分野長，小野哲之法人常務理事兼法人事務局長，矢田広視事務局長，木原亨事務局次長兼学務部長

主な審議事項および報告事項等

（1）方針，計画等について

・2025年度大学院医療福祉学研究科の展望について
・次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING-NQSAP）による支援環境整備の推進について
・2025年度アクションプランの遂行および各種KPIの進捗状況（上期報告）について
・医療福祉学研究科における教育プログラムの改訂に係る方針の制定について
・学生支援に関する方針の制定について
・2025年度研究費の概要について
・大学院修士課程・博士後期課程の収容定員増（2027年度）に係るニーズ調査および計画について
・新潟医療福祉大学研究奨励金グラントポリシーの制定について
・将来計画 中期目標・中期計画（2026～2030年度）およびアクションプラン（2026～2028年度）について
・2025年度大学院医療福祉学研究科の総括について

（2）学則，規程，内規等の改廃および制定について

・新潟医療福祉大学大学院学則（教育目的，カリキュラム変更等）の改定について
・新潟医療福祉大学学位規程の改定について
・新潟医療福祉大学大学院委員会規程（委員長および議長の役割補足等）の改定について
・新潟医療福祉大学大学院研究科委員会規程の改定について
・新潟医療福祉大学大学院教務委員会規程の改定について
・新潟医療福祉大学大学院修士課程および博士後期課程の在学期間の短縮に関する規程の改定について
・学位論文および課題研究論文の審査ならびに最終試験の方法に関する内規の改定について
・新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科長規程の制定について
・研究インテグリティの確保に関する規程の制定について
・学生の声を生かした教育研究および大学運営改善に関する会議についての申し合わせの制定について
・新潟医療福祉大学大学院修了認定に関する規程の改定について
・新潟医療福祉大学大学院学位授与審議会の制定について
・大学院医療福祉学研究科単位取得後退学の取扱に関する申し合わせの改定について
・大学院入学金減免規程の改定について
・修士課程学費減免特待生規程および取り扱い内規の改定について
・特別研究奨学金規程の改定について
・研究奨励金規程，研究科長裁量研究費規程，共同研究・共同利用研究費規程等の改定について
・他課程科目の履修の申し合わせの制定について

・運動機能医科学研究所運営規程の改定について
・複数の筆頭著者による学位論文等の取扱いに関する申し合わせの制定について

（3）組織・人事等について
・大学院担当教員資格審査委員会の設置および資格審査結果について
・臨床教授等候補者選考委員会の設置および称号付与審査結果について
・客員教授の称号付与および更新について
・2026年度新潟医療福祉大学の運営体制（役職者，委員会，組織図等）について
・2026年度辞令交付式について

（4）研究について
・2025年度研究奨励金・学長および研究科長裁量研究費，共同研究・共同利用等の募集および審査結果の承認について
・S&H先端科学研究費，英語論文校正費支援の募集について
・外部資金獲得奨励金の募集および配分結果について
・科研費の採択結果，申請状況および内部監査について
・研究インテグリティの確保と研究不正啓発について
・日本学術振興会特別研究員（DC）の申請結果および次年度採用に向けた周知協力について
・古泉財団の研究助成公募および採択結果について
・論文審査・最終試験へのiThenticate（類似度チェックソフト）導入について
・国立研究開発法人産業技術総合研究所との教育研究協力に関する協定締結について

（5）国際交流，留学生について
・私費外国人留学生授業料減免申請について
・大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の採否結果および推薦について
・タイ・マヒドン大学とのMOAに基づく入学選考試験およびダブル・ディグリー・プログラム実施について

（6）学生について
・2025年度大学院学生募集結果について
・学籍異動報告（退学者，休学者等）の確認について
・リサーチ・アシスタント（RA）およびティーチング・アシスタント（TA）の募集と採用について
・2025年度大学院学生表彰者の決定について
・SPRING-NQSAP選考結果および「NQSAP Caffé」の実施報告について
・学費未納者の状況確認について

（7）カリキュラム・論文審査・教育について
・9月および3月修了学位論文審査スケジュールの確認について
・2026年度大学院カリキュラム変更および特定課題の審査基準策定について
・NUHW科目ナンバリングの作成について
・2025年度修了判定会議および学位授与審議会の結果について（修士67名，博士18名）

（8）学生募集，入学者選抜試験について
・2026年度大学院入学者選抜試験日程および試験概要の策定について
・大学院オープンキャンパス（春・夏・秋・冬）および「教えて!大学院」の実施報告について
・2026年度修士課程・博士後期課程の出願状況および入学者選抜試験結果について
・入学者選抜試験の採点・評価・合否判定基準の公表について
・災害救助法適用（地震）に伴う検定料免除措置について
・2026年度修士課程学内推薦の実施について
・2027年度設置予定の鍼灸健康学分野（仮称）の広報活動について

（9）その他

・2025年度入学式および2026年度卒業式/修了式の日程・実施案について
・2025年度防災訓練の実施について
・2025年度名誉教授称号授与式について
・第25回新潟医療福祉学会学術集会の開催および協力について
・NSGアワード結果報告（研究支援課チームの最優秀賞受賞等）について
・年末年始の学内施設使用および火災防止の注意喚起について

3）合同教授会

合同教授会構成員

学長，副学長，学部長，学科長，教授，准教授，講師，その他陪席：助教，助手，事務局

主な審議事項および報告事項等

・学長直轄委員会報告
・教育・学生支援機構内委員会報告
・研究・産官学連携推進機構内委員会報告
・社会連携・同窓会生涯学習推進機構内委員会報告
・国際交流推進機構内委員会報告
・アスレティックデパートメント推進機構報告
・2025年度の課題と展望
・学生支援に関する方針の制定について
・2025年度授業実施方針（学生周知）について
・新潟医療福祉大学研究活動に関する基本方針
・将来計画 中期目標・中期計画（2026～2030年度）およびアクションプラン（2026～2028年度）案について
・研究生と聴講生の入学志願
・2025年度入学者確定報告
・2025年度後期入学研究生志願者について
・2025年度後期入学聴講生志願者について
・2026年度総合型選抜A方式・B方式/看護３年次編入選抜結果報告
・2026年度総合型選抜C・D方式・併願制/学校推薦型等 選抜結果報告
・2026年度入学者選抜試験 結果報告
・2024年度学籍異動報告
・学籍異動報告について
・学生の懲戒について
・学生の除籍について
・2025年度9月卒業判定会議報告
・卒業判定会議について
・2025年度入学式報告
・2025年度名誉教授称号授与式について
・9月卒業式日程について
・教職員納涼会について
・納涼会日程の変更について
・教職員忘年会について
・2026年度入学式，卒業式・修了式日程について
・2025年度卒業式・修了式について
・2026年度入学式について

・最終講義について
・各種表彰等報告
・グッドプラクティス表彰について
・2025年度学生表彰について
・2025年度前期グッドプラクティス表彰について
・2025年度前期グッドプラクティス表彰者について
・令和７年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰の被表彰者の決定について
・2026年度社会福祉学科のカリキュラム変更について
・2026年度医療情報管理学科のカリキュラム変更について
・科目ナンバリング作成について
・主要授業科目の範囲について
・外部資金獲得奨励金配分結果・研究奨励金等審査結果
・研究奨励金グラントポリシーの制定について
・科研費執行時の立て替えについて
・年度末に向けた科研費予算執行について
・令和７年度科研費監査報告
・大学ロゴ使用マニュアルについて
・学位規程の改定について
・学則第６条別表の改定について
・授業中のけがの防止と安全管理について
・2025年度防災・避難訓練結果報告について
・学内駐車場における器物損壊事案について
・学内における食中毒発生事案について
・Windows11アップデートについて
・年末年始の施設使用について
・2026年度学事暦について
・2026年度年間スケジュールについて
・2026年度新入生オリエンテーションについて
・教員海外派遣研修報告について
・ワンラブ・プロジェクトについて
・第25回新潟医療福祉学会学術集会について
・第２回高校生レシピコンテスト2025の報告について
・2025年度前期まとめ

４）研究科委員会

研究科委員会構成員

西澤正豊学長，大西秀明研究科長兼研究・産官学連携担当副学長，矢田広視事務局長，大学院担当専任教員，その他陪席：事務局

主な審議事項および報告事項等

・2025年度大学院医療福祉学研究科の展望について
・医療福祉学研究科における教育プログラムの改訂に係る方針の制定について
・学生支援に関する方針の制定について
・2025年度授業実施方針（学生周知）について
・研究活動に関する基本方針について
・内部質保証推進委員会報告について

・大学院のアセスメントプランおよび質保証について
・教えて!大学院，オープンキャンパス，ホームページリニューアル等について
・論文審査アンケート，iThenticateオンライン説明会，研究報告会等について
・修了生調査，学修・学生生活調査，生成AIと教育研究に関するFDセミナー等について
・新潟医療福祉大学大学院研究生志願について
・学位論文および課題研究論文の審査ならびに最終試験の方法に関する内規の改定について
・新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 採点・評価・合否判定基準の公表案について
・修士課程保健学専攻「鍼灸健康学分野」の設置に関する専門科目の設置について
・国立研究開発法人産業技術総合研究所との教育研究協力に関する協定締結について
・新潟医療福祉大学研究奨励金グラントポリシーの制定について
・学籍異動申請および月次報告について
・2025年度大学院医療福祉学研究科の上期報告について
・新潟医療福祉大学大学院学則，学位規程，修了認定に関する規程の改定について
・新潟医療福祉大学大学院学位授与審議会の制定について
・大学院医療福祉学研究科単位取得後退学の取扱に関する申し合わせの改定について
・他課程科目の履修に関する申し合わせの制定および修正について
・マヒドン大学とのMOAに基づく入学選考試験実施要項について
・在学期間短縮，長期履修および長期履修期間短縮の申請について
・特定課題の審査基準の策定について
・NUHW科目ナンバリングの作成について
・2026年度大学院カリキュラム改定について
・2025年度学位論文等審査委員会の設置について
・大学院学生表彰審査会の設置および表彰について
・第25回新潟医療福祉学会学術集会について
・SPRING-NQSAPの募集・選抜およびSPRING-NQSAP Cafeの開催について
・2025年度3月修了判定会議および学位授与審議会について
・2025年度卒業式・修了式および学位記授与式について
・将来構想（研究所の新設，定員増，在籍者規模拡大等）に関する検討について
・2026年度大学院学事暦，入学式，新入生オリエンテーションについて
・年末年始の学内施設使用について

5）各種委員会

（1）学長直轄委員会

ア　内部質保証推進委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

西澤正豊（学長，委員長），大山峰生（副学長，副委員長），寺田貴美代（SW，副委員長），
矢田広視（事務局，副委員長），大西秀明（副学長），西原康行（副学長），大石如香（ST），
吉田重和（HS），児玉直樹（RT），渋谷友之（事務局）

②会議開催回数12回

③審議事項および決定事項等

１）内部質保証推進委員会規程第６条３項に基づき，副委員長の指名を承認した.
２）内部質保証方針の手続きに関する説明会について審議し，承認した.
３）2025【４年制・大学院】「質保証チェックリスト」について審議し，承認した.
４）2025【４年制】「質保証チェックリスト」対応策・確認シートについて審議し，承認した.
５）2025【大学院】「質保証チェックリスト」対応策・確認シートについて審議し，承認した.

6）自己点検・評価に関する基本方針について審議し，承認した.
7）2025年度自己点検・評価実施案について審議し，承認した.
8）アセスメント結果報告書（様式A）について審議し，承認した.
9）カリキュラム・アセスメント結果報告書（様式１・２）について審議し，承認した.
10）アセスメント結果を受けた実行プラン報告書（様式B）について審議し，承認した.
11）2025年単年度自己点検・評価結果報告書および自己点検・評価シートについて審議し，承認した.
12）2024年度未達成アクションプランの進捗状況報告書について審議し，承認した.
13）第一期中期計画（2021年～2025年度）に対する自己点検・評価報告書について審議し，承認した.
14）自己点検・評価結果に対する外部有識者の実施概要について審議し，承認した.

④特記事項
1）内部質保証の手続きに関する説明会を開催した.
2）【４年制】質保証体制構築の工程表の進捗状況を確認した.
3）【大学院】質保証体制構築の工程表の進捗状況を確認した.
4）大学機関別認証評価申請から受審までの流れについて確認した.
5）自己点検・評価に関する基本方針および過去の自己点検・評価報告書の公表について確認した.
6）将来計画第二期中期目標・中期計画に伴うKPI設定方針について確認した.
7）使命・目的および教育研究上の目的の「検証主体」の位置づけについて確認した.
8）本学における代議員会運用の整理について確認した.
9）外部有識者評価スケジュールについて確認した.
10）「アセスメントプランに基づく内部質保証」および「教育にかかわる内部質保証」の運用について確認した.

イ　将来計画機構

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）
大西秀明（副学長，委員長，機構長），西澤正豊（学長），大山峰生（副学長），西原康行（副学長），笠原敏文，宇田優子（NR），山本裕二（PS），稲葉　晋，椿　淳裕（PT），能村友紀（OT），大石如香（ST），佐藤成登志（AT），粕谷大智（AP），渡邊博昭（CT），前田史篤（CO），竹井　豊（EM），児玉直樹（RT），永井　徹（HN），佐藤敏郎（HS），佐藤　洋（SW），木下直彦（HI），矢田広視（事務局長），片岡　昇（事務局）

②会議開催回数　１回【委員よる事前審議を経て，専門委員会［臨時総務会（2026/3/24）］において審議】

③特記事項
1）ドメイン責任者が中心となり将来計画中期目標・中期計画（2026-2030年度）アクションプラン（2026-2028年度）案を策定し，将来計画機構運営委員による意見を踏まえて修正のうえ，臨時総務会において審議・承認した.

ウ　学生懲戒諮問委員会

①会議開催回数　４回

エ　危機管理委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）
西澤正豊（学長，委員長），大山峰生（教育・国際交流担当副学長），大西秀明（研究担当副学長，研究科長），西原康行（地域連携担当副学長），相馬俊雄（学生部長:PT），塙　晴雄（健康管理センター長：CT），山﨑貴子（教務委員長：HN），矢田広視（大学事務局長）

②会議開催回数　なし

オ　教員選考委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大山峰生（OT，副学長，委員長），稲葉　晋（HI，学部長），椿　淳裕（PT），能村友紀（OT），
大石如香（ST），佐藤成登志（AT），粕谷大智（AP），渡邊博昭（CT），前田史篤（CO），竹井　豊（EM），児玉直樹（RT），永井　徹（HN），佐藤敏郎（HS），宇田優子（NR），佐藤　洋（SW），
山本裕二（PS），木下直彦（HI），船山　諭（事務局）

②会議開催回数　48回（採用27回，昇任21回）

③審議事項および決定事項

1）各学科長の内申のつど総務会にて教員選考委員会の設置を決定した.

2）教員選考委員会は，委員長に加え，当該学科長ならびに他学科の学科長の３名で構成した．新設予定の健康データサイエンス学科（仮称）においては当該学科が所属する学部長ならびに他学科の学科長の３名で構成した.

3）教員選考委員に人事部次長がオブザーバーとして加わり教員選考委員会を開催した.

4）教員選考委員会では履歴書，教育研究業績書，抱負を記載した書類をもとに審査した.

5）審査にあたっては学科における面接結果や模擬授業ならびに法人による面接結果を参考にした.

6）審査にあたっては教育面の意欲と教育・研究実績を特に参照した.

7）委員会出席者全員の合意により審査結果を決定し，報告書を作成，総務会に報告した.

④特記事項

・助教以上の職位の採用ならびに昇任については，法人職員同席のもとで学科における模擬授業（ミニレクチャー）を課し，助手についてはプレゼンテーションを課した.

・新設予定の健康データサイエンス学科（仮称）の審査を実施した.

カ　人権委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

河野聖夫（SW，委員長），澤田純明（PT，副委員長），丸野　透（CT，副委員長），久保亜抄子（AP），
大松健太郎（EM），川上心也（HN），並木伸賢（HS），外間直樹（NR），廣瀬清人（PS），
寺島和浩（HI），渋谷友之（総務課），伊藤　求（大学院・国際交流課），船山　諭（法人人事部，事務担当），中村　泉（法人人事課，事務担当）
ハラスメント調査委員会委員候補者：井上達朗（PT），髙橋里奈（OT），大石如香（ST），
佐藤成登志（AT），粕谷大智（AP），森田邦恵（CT），生方北斗（CO），安達哲浩（EM），関本道治（RT），中村純子（HN），池田恵子（HS），下山博子（NR），小出　直（SW），山本裕二（PS），
井上弘樹（HI），菅原直実（事務局）

②会議開催　委員会７回（定例６回，臨時１回），案件対応会議11回，ハラスメント調査委員会１件

③審議事項および決定事項等

1）委員会の体制・各委員の役割（分担）について

委員会の選出方法を「各学科からの選出」から「各学部からの選出」へと変更することを承認した.

学科推薦（選出）を基にハラスメント相談員の任命を行った.

人権委員会の部会構成について，以下の二部会とすることを承認した.

１．教員向け部会「教職員によるハラスメント防止への取り組みに関する事項」

２．学生向け部会「学生のためのハラスメント防止への取り組み等に関する事項」

2）ハラスメント防止および対策に関する規則の改定について

ハラスメント防止および対策に関する規則について，以下の内容に改正することを承認した．ま

た，規程は委員会の議を経て学長が改定をし，11月1日から施行予定であることを確認した.

【改正内容】

第５条 （改正前）学科教員　各１名　➡（改正後）学科教員　各１名以上

（改正前）医務室　看護師１名　➡（改正後）医務室　１名以上

３）ハラスメント相談等への対応方法（規則等）の改善・見直しについて

「匿名での相談」や「保護者からの相談」等への委員会対応に関する内規案を承認した．また，学長の承認をもって施行予定であることを確認した.

４）ハラスメント相談員研修の実施

対象：人権委員ならびにハラスメント相談員および学部長，学科長（任意）

日時：2025年5月27日～6月10日（学科別に「説明会」として実施）

内容：ハラスメント相談体制～人権委員およびハラスメント相談員の役割と対応，留意点

講師：河野聖夫（新潟医療福祉大学　人権委員会委員長，社会福祉学科教授）

５）ハラスメント防止のための意識向上FDセミナーの実施 （FD・SD推進委員会合同共催）

対象：全教職員

日程：2025年12月17日

テーマ：「よりよい教育現場・職場環境のためのハラスメントに対する理解促進」

講師：新潟医療福祉大学人権委員会　顧問弁護士　鶴巻 浩憲 先生

６）１年生に対するDate DV防止セミナーを対面で実施

対象：全学科１年生

日程：2025年7月1日（２回），2日（２回），7月18日　計５回

テーマおよび内容：デートDV防止セミナー

講師：新潟市市民生活部男女共同参画課，NPO法人「女のスペース・にいがた」

７）ハラスメント防止に向けた対策の点検と強化

学生向けアンケート（悩み事アンケート）を9月17日から10月6日に実施し，相談窓口の周知，学科等の課題把握と改善に向けた取り組みを実施した.

８）ハラスメント等相談案件20件（新規相談17件，通報１件，継続２件）に対応した.

キ　個人情報保護委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

鈴木一恵（HN，委員長），寺島和浩（HI，副委員長），小林壮太（PT），髙橋里奈（OT），佐藤克郎（ST），田中惣治（AT），江川雅人（AP），丸野　透（CT），多々良俊哉（CO），大松健太郎（EM），橋本　薫（RT），川上心也（HN），並木伸賢（HS），外間直樹（NR），金子毅司（SW），小林なぎさ（PS），野口正信（事務局），船山　諭（事務局）

②会議開催回数　６回

③審議事項および決定事項等

１）新入生に対して，個人情報保護取扱文書の回収を行った.

２）以下３事業の計画に従い，部会を設けて実施した.

・個人情報保護監査の実施と是正の対応

・教育プログラムの立案と実施

・情報セキュリティ対策のためのFD

３）外部監査を含む個人情報保護監査３か年計画を策定し，その２年目の個人情報保護監査を実施した.

４）前年度に引き続きe-Campus版個人情報保護教育プログラムを実施した．教育研修動画のアップデートを行い，2025年度版として提供するとともに，確認テストについてもリニューアルを行った.

５）情報セキュリティ・コンサルティング会社に依頼し，標的型攻撃メール訓練を年２回実施した．また，この訓練結果を踏まえ，アーカイブ形式のFDを実施した．

６）個人情報に関する調査対応手続きの明確化を目的として，「個人情報保護基本規程」「個人情報保護組織規程」および「個人情報保護開示等対応規程」の改定を実施し，組織的対応体制および手続きの一層の整備を図った．また，これにあわせて，緊急時における対応の記録管理の適正化を図るため，「様緊-1.緊急事態対応記録簿」の改正を行った．

７）学内で発生したインシデントを含む情報漏洩事故（６件）を踏まえた再発防止策を作成し，事務局および該当学科へ対応を依頼した．

ク　安全衛生委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

矢田広視（事務局，委員長），江部克也（EM，産業医），馬場広子（HN，産業医），萩原康雄（PT），中山憲司（CT，化学物質管理者），森田邦恵（CT），花村健次（RT），菅原大志（HS），下山博子（NR），和田直子（NR，衛生管理者），千葉陽子（PS），前田華子（事務局），深井美年（事務局），内山朱李（事務局），小島　祐（事務局），野澤桂一郎（事務局，衛生管理者），藤岡まさみ（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

１）推進体制が異議なく合意された．

２）こころとからだの健康づくり推進計画（案）が承認された．

３）心の健康問題に係る研修会を管理職対象１回と全教職員対象１回の計２回開催することが承認された．

４）相談窓口・相談体制について，学内のメンタルヘルス支援室および私学事業団健康相談ダイヤルを活用することとし，学内教職員への案内・情報提供を行うことが確認された．

５）「学校法人新潟総合学園　2025年度ストレスチェック実施計画」（案）が承認された．

④特記事項

１）新潟医療福祉大学安全衛生管理基本規程を整備した．

２）実施計画に基づき，9月～3月にストレスチェックならびに面接指導が実施された．

３）全教職員にメンタルヘルス対策および熱中症防止対策に関する案内を行った．

４）管理職研修会を実施した．

日程：2025年9月3日（ライブ配信）
　　2025年9月4日～2025年9月30日（オンデマンド）
テーマ：「今，管理職に求められるメンタルヘルスケア」
講師：法政大学　准教授　小林 由佳 先生
参加者数：39名
アンケート回収：39名分（97％が研修内容について「非常に参考になった」「参考になった」と回答）

５）教職員研修会を実施した．

日程：2025年11月5日（ライブ配信）
　　2025年11月5日～2025年12月1日（オンデマンド）
テーマ：「ヒューマンエラー対策は，メンタルヘルス対策でもある」
講師：宮城学院女子大学　教授　大橋　智樹 先生
参加者数：244名
アンケート回収：244名分（96％が研修内容について「非常に参考になった」「参考になった」と回答）

６）学内の個別巡視と合わせて，安全衛生委員による学内一斉巡視が2025年9月に実施された．巡

視の結果内容は，事務局（総務課）へ提出の上でさらなる安全確保を要請し，安全確認の実施および改善ならびに検討がなされた旨が報告された.

ケ　自己点検・評価委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大石如香（ST，委員長），吉田重和（HS，副委員長），寺田貴美代（SW），深井美年（事務局），渋谷友之（事務局），真藤高明（事務局），駒沢　猛（事務局）

②会議開催回数　６回

③特記事項

１）本学の自己点検・評価に関する基本方針の公表について審議し，決定した.

２）第一期中期計画および2025年度アクションプランの実施体制について審議し，決定した.

３）第一期中期計画に対する自己点検・評価について実施し，審議・決定した.

４）2025年度アクションプランの自己点検・評価について実施し，審議・決定した.

５）2024年度未達成アクションプランに対する状況報告および改善方策について審議し，決定した.

６）将来計画（第一期中期計画および2025年度アクションプラン）の自己点検・評価結果に対する外部有識者評価の実施体制について審議し，決定した.

７）第一期中期計画に対する自己点検・評価報告書を刊行した.

８）将来計画（第一期中期計画および2025年度アクションプラン）の自己点検・評価結果を学内外に公表した.

コ　外部評価準備委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大山峰生（委員長），大西秀明（将来計画機構長），大石如香（自己点検・評価委員長），相馬俊雄（学生部長），矢田広視（大学事務局）

②会議開催回数　なし

サ　PCR検査センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

川村宏樹（CT，委員長），前山佳彦（CT，副委員長），芳賀千紗（CT），渋谷友之（事務局），野口正信（事務局）

②会議開催回数　１回

③審議事項および決定事項等

１）附属PCR検査センター利用ガイドラインについて協議し，承認した.

２）検査受け入れ可能日程について協議した.

３）2026年度以降の名称変更について協議し，承認した.

４）イムノクロマト（インフルエンザ・コロナウイルス対応抗原検査キット）の使用について協議し，承認した.

④特記事項

１）年度内検査結果は下記の通りであった.

検査数：３件

陰性数：３件

陽性数：０件（陽性率　０%）

イムノクロマト使用実績：０件

シ　大学院の質保証委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

寺田貴美代（SW，委員長），大西秀明（PT，副委員長），山代幸哉（HS，副委員長），五十嵐香（大学院・国際交流課），犬飼康人（PT），木下直彦（HI），風間篤史（大学院・国際交流課），児玉直樹（RT），駒形高広（教務課），藤井　豊（CT），前田史篤（CO）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

1）大学院の質保証委員会副委員長を選出し，承認した.

2）「アセスメント結果報告書（様式A）」を確認し，承認した.

3）各学位プログラムから提出された「カリキュラム・アセスメント結果報告書（様式１）」および「カリキュラム・アセスメント年間報告書（様式２）」の適切性を確認し，承認した.

4）将来計画に対する自己点検・評価（2025年度）を審議し，承認した.

④特記事項

1）大学院の「質保証体制構築の工程表」に基づき，各タスクの進捗状況を継続的に確認し，関係委員・担当部署からの報告を踏まえて，対応状況および継続課題を共有した.

2）「大学院アセスメントプランに基づく内部質保証」および「大学院の教育にかかわる内部質保証」の取組として，アセスメント結果を確認し，教育活動の改善・向上につなげるための確認・検討を行った.

3）質保証の観点から，学部・大学院共通の「NUHW科目ナンバリング」の作成方針と付番ルールについて検討した.

①　事業戦略推進部

ア　入試委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

椿　淳裕（PT，委員長），大松健太郎（EM，副委員長），下門洋文（HS，副委員長），江玉睦明・太田大樹（PT），村上　元・髙橋里奈（OT），原　修一・田村俊暁（ST），阿部　薫・前田　雄（AT），粕谷大智・福田晋平（AP），川村宏樹・仙波妙子（CT），戸田春男・志賀木綿子（CO），川上一岳（EM），市川　肇・小原佑介（RT），岩森　大・森　博康・長谷川崇（HN），馬場康博（HS），下山博子・丸山幸恵（NR），河野聖夫・金子毅司（SW），山本裕二・溝江　唯（PS），井上弘樹・皆川璃子（HI），大河正志（DS），渡部省太・二見ミラノ・田中　優・五十嵐一恵（事務局）

②会議開催回数　11回

③審議事項および決定事項等

1）入試委員会副委員長を選出し，承認した.

2）入試委員会年間計画を審議し，決定した.

3）2026年度選抜区分別入学者目標数について審議し，決定した.

4）入試問題作問部会・入試問題検討部会の担当者を決定した.

5）各学科における指定高等学校について審議し，承認した.

6）入学者選抜における県外試験会場の外部委託について審議し，決定した.

7）学生募集要項および出願書類の書式等について審議し，決定した.

8）2025年度総合型・学校推薦型選抜等と学力の３要素の整合性について審議し，決定した.

9）入学者選抜に必要となる学科教員の必要見込教員数について決定した.

10）総合型・学校推薦型・社会人等特別および３年次編入学選抜の合否判定配点について審議し，決定した.

11）特待生拡充に伴う学科採用人数について審議し，決定した.

12）総合型・学校推薦型・社会人等特別および３年次編入学選抜の実施概要について審議し，決定

した.

13）一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜の合否判定における優先科目設定を審議し，決定した.

14）試験問題印刷工程・採点業務立会担当者の選出について審議し，決定した.

15）合否判定資料の見直しについて審議し，決定した.

16）大学入学共通テスト新潟医療福祉大学試験場の実施概要について審議し，決定した.

17）一般選抜の実施概要について審議し，決定した.

18）総合型選抜A方式・B方式に対する委員会総括を行い，入試問題作問部会総括会議へ意見・要望等を提案した.

19）2027年度入学者選抜試験日程について審議し，決定した.

20）2027年度入試概要について審議し，決定した.（その後，総務会承認を以って最終決定した.）

④特記事項

1）学校教育法施行規則改正に伴う合否判定の方法・基準等の公表について審議し，承認した.

2）新潟県内における高等学校推薦書の様式統一について審議し，承認した.

3）特待生拡充に伴う特待生規程の改正について審議し，決定した.

4）一般選抜（前期日程）における得点調整実施手順の変更について審議し，決定した.

5）国公立大学併願延納制度について審議し，承認した.

6）総合型選抜追加実施における入試概要について審議し，決定した.

7）2027年度入学者選抜における新制度の導入等について審議し，決定した.

イ　広報委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

稲葉洋美（HN，委員長），犬飼康人（PT，副委員長）

石垣智恒・早尾啓志・五十嵐眸実（PT），圓純一郎・伊関浩克（OT），佐藤卓也・大湊　麗（ST），佐藤未希・郷　貴博（AT），江川雅人・金子聡一郎（AP），佐々木一真・涌井杏奈（CT），多々良俊哉・生方北斗（CO），安達哲浩（EM），前島　偉・佐々木啓（RT），永桶久美子・塩沢浩太（HN），藤本知臣・佐藤皓也（HS），桶谷涼子・玉田千歳（NR），荒川大靖・渡邉悠都（SW），野村照幸（PS），木下直彦・眞田悠希（HI）

齋藤大将・鈴木亜弥・小林優馬・青木薫彦・小山巧海（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

1）稲葉委員長より，理学療法学科の犬飼康人教授が副委員長に指名され，決定した.

2）各月の来場型オープンキャンパスの内容について審議し，決定した.

3）SNSポリシー・ガイドライン・運用マニュアルについて審議し，決定した.

4）2026年度募集キャンパスガイド制作スケジュールについて審議し，決定した.

5）2026年度オープンキャンパス日程ついて審議し，決定した.

ウ　大学院入試広報委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

前田史篤（CO，委員長），木下直彦（HI，副委員長），八坂敏一（PT），圓純一郎（OT），吉岡　豊（ST），阿部　薫（AT），森田邦恵（CT），安達哲浩（EM），市川　肇（RT），澤田純明（PA），稲葉洋美（HN），藤本知臣（HS），杉田洋子（NR），荒川大靖（SW），風間篤史・伊藤　求・田中伶奈（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

1）大学院入試広報委員会副委員長を選出し，承認した.

２）大学院入試広報委員会年間計画を審議し，決定した.
３）2026年度大学院入学者選抜試験に係る変更案について審議し，決定した.
４）2026年度大学院入学者選抜試験実施概要案を審議し，決定した.

④特記事項

１）学部生向け大学院説明会「教えて！大学院」を計８回開催した.
２）大学院オープンキャンパスを計４回開催した.
３）大学院入学者選抜において，学費減免特待生制度の受付・採否判定のシステムを構築，運用した.
４）大学院入学者選抜において，無利子貸与奨学金の受付・採否判定のシステムを構築，運用した.
５）大学院入学予定者の学生記録表をオンライン化し，PDFにて出力できるようにした.
６）新入生を対象に大学院入試・広報活動に関するアンケート調査を実施した.

エ　IR戦略委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

髙橋良光（CT，委員長），村田憲章（CO），玉越敬悟（PT），森清友亮（HS）
深井美年・笹川克己・風間篤史・村山萌子・竹石莉奈（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

１）国家試験・資格試験不合格予測結果を教育・学生支援機構と共有し，学生支援および教育改善に資するデータ活用の推進を図った.
２）学籍異動予測結果を教育・学生支援機構と共有し，学生の修学状況の把握および早期支援に向けた検討を行った.
３）2025年10月，本学，東北工業大学，仙台大学，東北文化学園大学の４大学共催によりIRセミナーを開催し，大学IRに関する知見の共有と大学間連携の促進を図った.
４）国家試験・資格試験対策委員会との協働により，データ収集・管理に係るフォーマットの統一を進め，業務の効率化およびデータの利活用基盤の整備を行った.
５）ファクトブック「データでみる新潟医療福祉大学」を通じて，本学の教育研究活動等に関する情報を可視化し，学内外への情報公開を行った.
６）予測データを教育改善および学生支援により有効に活用するため，委員会内に教学IR部会を設置し，具体的な活用方策に関する検討を進めることとした.
７）各種IR関連セミナーへの参加報告を行い，得られた知見を委員会内で共有するとともに，本学におけるIR活動の充実に向けた検討を行った.

オ　高大医連携推進委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

杉田洋子（NR，委員長），藤井　豊（CT，副委員長），杉崎弘周（HS，副委員長），稲葉　晋（HI，副委員長），笹川克己（入試広報部，副委員長）
平林　怜・早尾啓志（PT），伊関浩克・本間健太（OT），内山　信・谷　麻美（ST），佐藤未希（AT），江川雅人・津田篤太郎（AP），戸澤祐貴（CT），村田憲章・辻　拓海（CO），外山　元・高橋　司（EM），郡　倫一・湯浅仁博（RT），中村純子・片山直幸（HN），柿原　豪（HS），佐藤郁美（NR），渡邉恵司・小出　直（SW）山本裕二・野村照幸（PS），鎌田　剛・眞田悠希，熊倉真穂（HI）
瀬戸川純一・中田香織・渡部省太・齋藤大将（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

１）杉田委員長より健康スポーツ学科の杉崎弘周教授，医療情報管理学科の稲葉晋教授，臨床技術学科の藤井豊教授，入試広報部の笹川克己部長が副委員長に指名され，決定した.

２）高大医連携推進委員会規定について審議し，決定した.
３）チーム医療体験会実行委員およびリサーチフェスタ実行委員が指名され，決定した.
４）チーム医療体験会の症例および実施方法について審議し，決定した.
５）第１回新潟医療福祉大学リサーチフェスタの実施方法について審議し，決定した.
６）2026年度の主要イベントのスケジュールについて審議し，決定した.

（２）教育・学生支援機構運営委員会
①委員名簿
大山峰生（OT，機構長），相馬俊雄（PT），神田　賢（AT），吉田重和（HS），木原　亨（事務局），風間篤史（事務局），倉部崇史（事務局），駒形高広（事務局）
②会議開催回数　12回
③審議事項および決定事項等
１）教育・学生支援機構規程の改定について審議し，承認した.
２）国家試験・資格試験および学籍異動に関する学科表彰について審議し，承認した.
３）グッドプラクティス表彰規程の制定について審議し，承認した.
４）学生支援に関する方針の制定について審議し，承認した.
５）FD・SD推進委員会規程の改定について審議し，承認した.
６）社会福祉学科カリキュラム変更について審議し，承認した.
７）医療情報管理学科カリキュラム変更について審議し，承認した.
８）健康栄養学科３ポリシーの修正について審議し，承認した.
９）社会福祉学科３ポリシーの改定について審議し，承認した.
10）医療情報経営学部３ポリシーの制定について審議し，承認した.
11）学生の意見を汲む会議体の運用体制の構築について審議し，承認した.
12）図書館・学修支援委員会関連規程の改定について審議し，承認した.
13）学生委員会規程の改定について審議し，承認した.
14）大学院入学金減免規程の改定について審議し，承認した.
15）学生の声を生かした教育研究および大学運営改善に関する会議に関する申し合わせの制定について審議し，承認した.
16）海外大学との協定締結について審議し，承認した.
17）介護福祉士養成課程規程の改定について審議し，承認した.
18）代議員会関連規程の改定について審議し，承認した.
19）学外実習経費支援制度設計ワーキンググループの設置について審議し，承認した.
20）科目ナンバリングの運用について審議し，承認した.
21）国費外国人留学生選考に関する取扱い改定について審議し，承認した.
22）実践行動学の業務移管について審議し，承認した.
23）学位規程の改定について審議し，承認した.
24）メディア授業単位数上限管理の設定について審議し，承認した.
25）卒業研究・学位審査基準の周知方法について審議し，承認した.
26）教務委員会規程の改定について審議し，承認した.
27）主要授業科目の範囲について審議し，承認した.
28）学生表彰について審議し，承認した.
29）次年度重点４課題の設定について審議し，承認した.
30）中期計画およびアクションプランの改定について審議し，承認した.
31）授業科目の履修認定，試験および成績評価に関する細則の改定について審議し，承認した.
32）英語等短期研修助成規程の改定について審議し，承認した.

④特記事項

1）教育・学生支援機構に国際交流推進部を統合し，教育・学生支援・国際交流を一体的に推進する体制へ再編した.

2）学生の意見を大学運営に反映する会議体を整備し，教育改善および学生支援の質向上に向けた仕組みを構築した.

3）カリキュラムマップ，カリキュラムツリーおよび科目ナンバリングの整備を完了し，教学マネジメントの基盤強化を図った.

4）実質的な留年リスクへの対応，保護者との連携強化，就職先企業との評価ギャップの改善，連携教育の充実の次年度重点4課題を設定した.

① 学生支援推進部

ア 健康管理センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

塙 晴雄（CT，委員長），江部克也（EM，副委員長），萩原康雄（PT），村上 元（OT），佐藤克郎（ST），須田裕紀（AT），中山憲司，（CT）森田邦恵（CT），小林昭子（CO），花村健次（RT），
大森 豪（HS），菅原大志（HS），加藤稚菜（HN），馬場広子（HN），岩野千尋（NR），原口彩子（SW），井上弘樹（HI），金子聡一郎（AP），小林なぎさ（PS），波間早苗（医務室），小島 祐（医務室），内山朱李（医務室），岡村祐子（事務局），松沼知世（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

1）新入生の健康状況の把握については，個人情報保護に留意し，学生記録票の身体状況記入データを用いて各学科および体育教員，メンタルヘルス支援室と情報共有を行った．健康状況の詳細を把握する必要があると判断した場合には，学科長やメンタルヘルス支援室と連携し，学生と面談を実施した.

2）インフルエンザ流行防止のための予防喚起と，学内でワクチン予防接種を行った．今期の感染は学生教職員合わせて195名.

3）インフルエンザ感染後の文部科学省による登校基準改訂により「発熱後5日間は自宅で休養，安静」から「発症した後5日を経過し，かつ，解熱した後2日を経過するまで」であることを周知した.

4）熱中症の予防について学生へ呼びかけ，各棟にポスター掲示を行った.

5）学生委員会と共催で薬物乱用防止講演会を開催した.

6）安全衛生委員会と共催で教職員メンタルヘルス講習会を開催した.

7）臨床心理士と精神科医師による学生心理相談は，月曜日から金曜日まで週5回開室し，週1回夜間帯の相談も開始した．予約システムを導入し学生の利便性向上を図った.

8）学生相談室の臨床心理士による講演会を6回実施した.

9）学生健康診断予約を個人申込み形式に変更し，受診率98％だった．健康診断結果をデータ化し学校保健安全法で定められている期間内での健康診断実施および結果通知を実現した.

10）新入生男子の心電図検診を実施した.

11）医療技術学部救急救命学科と共催の心肺蘇生講習プログラムを実施した.

12）メンタルヘルス支援室が新入生を対象にUPI・PHQ-9検査を実施した.

13）学内AED・非常用車椅子の配置場所の掲示を実施した.

14）化学物質管理委員会からの依頼により学生の特殊健康診断における問診を実施した.

イ 図書館・学修支援委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

竹井　豊（EM，委員長，図書館長），田村典子（HN，副委員長），小島　翔・高林知也（PT），本間健太（OT），大湊　麗（ST），神田　賢（AT），木村啓作（AP），大山富三（CT），小林昭子・辻　拓海（CO），鷲見和幸（RT），曽根美奈子（HN），三瀬貴生・堀　里也（HS），中澤紀代子（NR），小堀晶子（SW），橋本照男（PS），皆川璃子（HI），船山澄子・佐藤真由子・遠藤有紀・横山迪子（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

1）利用促進を目的として，１・２階に学生ボランティアおよび教員による企画展示コーナーを新設するとともに，広報誌の発行を開始した.

2）貸出回数の多い学生を表彰する「ベストリーダー賞」を検討し，2026年度からの実施を決定した.

3）研究室配架図書の蔵書点検を検討し，2026年度に２学科で試行実施することを決定した.

4）図書館・学修支援センター認知度アンケートを実施した.

5）機関リポジトリへの論文登録について，前年度からの未登録分をほぼ解消したほか，研究成果提出専用フォームからの申請分を含め，22件の論文を公開した.

6）機関リポジトリにおいてライセンス表記の誤り11件を確認し，公開停止・修正・再公開を行うとともに，公開手順を見直した.

7）統計支援セミナーを8月6日から9月24日にかけて実施し，助手・助教・講師・職員を対象に録画データを公開した.

8）学部生を対象とした研究倫理教育について，前年度に整理した推奨方針に基づき，「強く推奨」とされた４学科を対象にeL CoREまたはe-Campusの利用意向を確認した結果，４学科すべてがe-Campusを選択した．あわせて，動画視聴および確認テストで８割以上を取得した場合に受講済と認定する仕組みを整備し，実施した.

9）基礎セミナーについて，作業療法学科や救急救命学科を中心に，学科独自企画や必須化により参加促進を行った．また，解剖学・生理学基礎セミナーでは，プレテスト・ポストテストおよびアンケートによる効果検証を実施した.

10）新入生対象のスタートダッシュセミナーについて，初年次教育との接続を意識した内容に改編した.

11）夏期講習，春期講習を実施した.

12）学修支援センター講師勤務規程および利用者向けガイドラインの見直しを行った.

13）講師間で指導上の課題や工夫を共有する勉強会を実施し，指導体制の強化を図った.

14）高等教育推進センター運営委員会初年次教育部会と連携し，入学前教育・初年次教育プログラムを見直すとともに，リメディアル教育の役割分担を整理した.

15）「ピアサポーター」を「ピア・サポーター」に名称変更するとともに，謝金単価を1,000円から1,050円に改定し，併せてハンドブックを改訂した.

16）学修支援ピア・サポーターの募集および研修を実施し，ピア・サポーターの登録者数は15学科149名となった．また，学科独自の活用として５学科で６件，全学科１年生を対象とした活動を４件実施した.

17）2025年度新入生を対象として履修登録サポートデスクを2日間実施し，在学生102名がボランティアスタッフとして参加するとともに，新入生465名が利用した.

18）EndNote Online，iThenticate，CINAHL，SPSSに関する講習会を実施した.

19）不明図書や科研費移管，保存期間超過等の図書1,303冊の除籍を審議し，承認した.

20）ボランティアマッチングサイトを通じて学生ボランティア１名を採用し，１階企画展示コーナーの展示替えを４回実施した.

21）次年度の雑誌契約について審議し，パッケージ系電子ジャーナル８種，データベース11種，個別洋雑誌38誌，和雑誌246誌の継続，ならびに日経テレコン21およびPENの購読中止を承認

した.

ウ　キャリア支援センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

永井　徹（HN，委員長），髙橋英明（PT，副委員長），藤目智博（OT），落合勇人（ST），前田　雄（AT），髙野道代（AP），山城　翼（CT），小林昭子（CO），安達哲浩（EM），石風呂実（RT），山本悦史・小林志郎（HS），高橋佳子（NR），青木　茂（SW），千葉陽子（PS），市川明弘（HI），栗井英大（HI）

中田香織（事務局），長谷川陽一（事務局）

②会議開催回数

就職センター運営委員会会議12回，キャリア教育部会会議７回

③審議事項および決定事項等

１）副委員長の選出.

２）就職対策年間スケジュール（各学科と全体）の確定.

３）将来計画・アクションプラン（2024年度）の振り返り.

４）実践行動学パート３の企画，実施.

５）医療機関業界・職種研究会（4月19日）の企画・対面形式による準備・実施.
（臨床技術学科，診療放射線学科が担当）医療関連13施設，学生201名の参加.

６）業界・仕事研究会（6月21日）の企画，実施方法検討，対面形式による準備・実施.
（医療情報管理学科・健康スポーツ学科が担当，義肢装具自立支援学科・健康栄養学科，社会福祉学科，心理健康学科任意参加）．企業９社，学生195名，参加.

７）医療福祉施設求人説明会（7月27日）の案内先および実施方法検討，オンライン形式での実施.（理学療法学科を主幹に，作業療法学科・言語聴覚学科が担当）．医療関連41施設．学生171名が参加.

８）QOLサポーターと学生の集い（11月1日）の企画・対面形式よる準備・実施.
（卒業生22名，学生292名の参加）

９）保護者会（11月1日）における就職関係資料の準備・提供.

10）学内企業等説明会（11月8日）の案内先および実施方法検討，対面形式による準備・実施.
（健康スポーツ学科，医療情報管理学科を主とし，他学科は任意参加）.
企業35社，学生189名の参加.

11）教育基盤の確立と学生支援体制の強化のもと，学生のモチベーション維持・向上のため国家試験前の就職内定を重視，国家試験前後については時期に応じた未内定学生への支援を実施.

12）各学科会議における就職指導状況の月次評価を共有，効果的な就職対策の検討・協議.

13）学生スタッフ（キャリアサポートスタッフ）16名，３回のイベントにて活動.

14）大学指定履歴書のデジタル化（Excel/PDF版への移行）および，ボランティア等を記載できる「社会連携活動」欄を設けた様式変更.

15）「実践行動学パート１～３」を本委員会で一括管理し，内部質保証の観点から正課科目として明確に位置づける.

16）全学１年生共通マナー講座の講師を選定

④特記事項

１年生から３年生におけるキャリア教育を体系化するため，関係する委員会・推進部・機構・総務会・教授会での審議・承認を経て実践行動学パート１～３をキャリア支援センター運営委員会の所管とした．運営方法に大きな変更はないが，キャリア支援センター運営委員会が各学科のファシリテーターの管理および実施日時を学生へ発信する役割を担う．これにより，１年次の基礎ゼミの中では「マナー講座」，２年次の連携基礎ゼミの中では「QOLサポーターと学生の集い」とキャリア支援イ

ベントを正課科目内にて実施できるようになり，体系的なキャリア教育の実施が可能となった.

エ　学生委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

相馬俊雄（PT，委員長），岩森　大（HN，副委員長），小曽根海知（PT），伊関浩克（OT），
石本　豪（ST），村山　稔（AT），阿部拓也・佐々木一真（CT），福田晋平（AP），生方北斗（CO），
五十嵐淳一（EM），郡　倫一（RT），重藤誠市郎・松浦由生子（HS），栗原弥生（NR），渡辺洋子・
青木　茂（SW），廣瀬清人・木村能成（PS），熊倉真穂（HI），倉部崇史・中山あかね・竹石莉奈（事務局）

②会議開催回数　11回

③審議事項および決定事項等

1）学生委員による構内の巡視を兼ね美化運動を実施した．さらに学内外での事件・事故および地域からの苦情等については，全学生への注意喚起および該当学生に対する個別指導等を行い再発防止に努めた.

2）日本学生支援機構奨学金の利用者数について情報共有を行った.

3）保護者会についてWEB形式に加え，希望者を対象に対面形式にて企画・運営を実施した.

4）薬物乱用防止に関する学生への指導として，講演会等を実施した.

5）学生生活調査を実施し，集計結果を関係各署に情報共有することで学生生活の向上に努めた.

6）学生の挨拶，マナー向上の啓発を目的に，挨拶促進・マナー向上について全４回のコラムを配信した.

7）学長表彰，学生表彰に係る学生委員会の推薦候補者について審議した.

8）学友会の学生と共同でクラブ・サークル紹介（冊子）の作成，全県人会の開催促進に取り組んだ．桃迎会（クラブ・サークルの勧誘会）や伍桃祭（大学祭）など学友会活動の継続と活性化に取り組んだ.

オ　交通安全委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

青木　茂（SW，委員長），岩森　大（HN，副委員長），小曽根海知（PT），伊関浩克（OT），
石本　豪（ST），村山　稔（AT），福田晋平（AP），阿部拓也・佐々木一真（CT），生方北斗（CO），
五十嵐淳一（EM），郡　倫一（RT），小島結華（HN），松浦由生子・重藤誠市郎（HS），栗原弥生（NR），渡辺洋子（SW），廣瀬清人・木村能成（PS），熊倉真穂（HI），倉部崇史・吉田千晃・
馬場誠也（事務局）・志村桂一（事務局）

②会議開催回数　11回

③審議事項および決定事項等

1）事故発生状況や防止に向けた対策について理解を深め，危機意識を醸成することを目的として，全学生を対象に交通安全講習会を実施した.

2）教職員対象の交通安全講習会の企画と実施運営を行い，教職員全員で事故防止に対する意識を持つことを目的とし，地域の交通事故の実態，交通法規の確認を行った.

3）学生の車両登録を促進することで，学内駐車場の安全管理に努めた.

4）学内周辺の危険運転，事故多発地域を調査，確認し，検討および改善に努めた.

5）「交通安全無事故の誓い」を運営し，過去に本学の学生が尊い命を落とした痛ましい交通事故の記憶を風化させない事を再確認し意識付けに努めた.

カ　国家試験・資格試験対策委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

山口典子（NR，委員長），村田憲章（CO，副委員長），相馬俊雄・玉越敬悟（PT），藤目智博・本間健太（OT），田村俊暁・千葉寛之（ST），須田裕紀（AT），福田晋平・村越祐介（AP），川村宏樹・増子弘明（CT），多々良俊哉（CO），大松健太郎・外山　元（EM），吉田宜清・小原佑介（RT），中村純子・海和美咲・小島結華（HN），伊藤篤司・西　博史（HS），井村紀代子・真保加奈子（NR），原口彩子（SW），領家梨恵（PS），坂井さなえ・塚本徹雄（HI），駒形高広・長谷川直人（事務局）

②会議開催回数　11回

③審議事項および決定事項等

1）国家試験・資格試験対策委員会規程および内規について審議し，決定した.

2）国家試験・資格試験対策委員会副委員長を選出し，承認した.

3）前年度の分析と課題の抽出および今年度の対策立案について，確認した.

4）前年度卒業時実態調査結果と改善について，確認した.

5）既卒生のサポートについて取り纏め，確認した.

6）試験対策費予算案について審議し，決定した.

7）各学科の国試対策教室の配置について審議し，決定した.

8）各学科の模擬試験実施予定を取り纏め，実施教室について検討・調整し，決定した.

9）保護者会用に配信する国家試験・資格試験対策概要（WEB版）の作成について審議し，決定した.

10）大学閉鎖期間（年末年始）の対策予定について，確認した.

11）大学閉鎖期間（年末年始）の食堂支援および学内栄養サポートについて審議し，決定した.

12）大学入学共通テスト期間の対策予定について，確認した.

13）月次報告書および模試結果フォーマットの改定・運用（IR連携）について審議し，決定した.

14）毎月の指導状況および強化メンバー対策状況について，確認した.

15）毎月の国家試験・資格試験に準じた模擬試験の結果について，確認した.

16）国家試験・資格試験の結果について取り纏め，確認した.

17）医療系国家試験の受験手続きのオンライン化に関する対応状況を取り纏め，確認した.

18）アクションプラン達成度の自己点検・自己評価結果について，各学科におけるe-learningシステムの活用状況を取り纏め，確認した.

④特記事項

1）前年度，合格率が向上した３学科（言語聴覚学科・臨床技術学科・診療放射線学科）に加え，合格率100％を継続達成している理学療法学科の指導事例の共有を，実施した.

2）各学科の低学年からの指導・正課科目の見直し・実習期間中の対策等の取り組み推進について，確認した.

3）７つの国家試験（理学療法士・作業療法士・義肢装具士・視能訓練士・救急救命士・助産師・精神保健福祉士）において，合格率100％を達成した.

4）２つの国家試験（義肢装具士・社会福祉士）において，過去最高合格率を達成した.

5）すべての国家試験において，全国合格率を超える合格率を達成した.

② 教育開発推進部

ア 教務委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

山﨑貴子（委員長，HN），増田　修（副委員長，CO），齊藤　慧（PT），北谷亮輔（PT），小宮　諒（PT），間宮靖幸（OT），安中裕紀（OT），内山　信（ST），千葉寛之（ST），神田　賢（AT），谷川奈々（AT），木村啓作（AP），髙野道代（AP），髙橋良光（CT），阿部拓也（CT），志賀木綿子（CO），高橋　司（EM），外山　元（EM），関本道治（RT），吉田皓文（RT），川上心也（HN），竹内瑞希（HN），曽根美奈子（HN），針谷美智子（HS），奈良梨央（HS），柴田篤志（HS），小池大輔（HS），

渡邉千春（NR），山田真衣（NR），楠山大暁（SW），福田敏秀（SW），小出　直（SW），橋本照男（PS），松本京介（PS），谷賢太朗（HI），髙野晃輔（HI），豊田典子（中央教育センター・オブザーバー），石井雅子（社会連携・同窓会推進機構・オブザーバー），駒形高広，渡辺珠希，石丸香織，伊藤悠也（事務局）

②会議開催回数13回（うち１回メール審議）

③審議事項及び決定事項等

１）委員会規程第６条第３項に基づき，副委員長の指名を承認した.

２）委員会規程第９条に基づき，教育の質マネジメント・学内授業推進専門部会，単位認定・編入学・転部転科等専門部会，学外実習専門部会，UROP専門部会を置き，部会員の選任および部会長の委嘱を承認した.

３）２つのワーキンググループ（成績評価の妥当性検証WG，IRデータ分析WG）を設置し，WG長および各構成員を承認した.

４）オフィスアワーを学生に周知する文書について審議し，承認した.

５）履修登録願に関する申請・審議手順について審議し，承認した.

６）履修登録願に基づく履修登録について審議し，承認した.

７）非常勤講師の新規任用について審議し，承認した.

８）転部転科者等の既修得単位認定について審議し，承認した.

９）海外研修等に係る単位認定について審議し，承認した.

10）第１年次入学者の既修得単位認定について審議し，承認した.

11）定期試験実施要綱およびその運用について審議し，承認した.

12）追試験基準の改定について審議し，承認した.

13）社会福祉学科の2026年度カリキュラム変更について審議し，承認した.

14）医療情報管理学科の2026年度カリキュラム変更について審議し，承認した.

15）アカデミック英語Ⅰ～Ⅲの開講学期の変更について審議し，承認した.

16）後援会援助金の配分に関するルールについて審議し，承認した.

17）大学院生による他課程・学部科目履修の取扱いについて審議し，承認した.

18）不正行為に関する対応について審議し，該当科目を不合格とすることを承認した.

19）「新潟医療福祉大学授業科目の履修の認定，試験及び成績評価に関する細則」の改訂について審議し，承認した.

20）各種規程（委員会規程，学位規程，介護福祉士養成課程規定）の改定について審議し，承認した.

21）メディア授業単位数上限管理について審議し，承認した.

22）学外実習経費支援および援助金配分方法について審議し，承認した.

23）成績評価の妥当性検証に関する方針および指針について審議し，承認した.

24）学位審査基準および卒業研究評価基準について審議し，承認した.

25）学位審査基準及び卒業研究評価基準の学生への周知方法について審議し，承認した.

26）主要授業科目の範囲について審議し，承認した.

27）健康スポーツ学科の科目開講時期変更について審議し，承認した.

28）2026年度研究生・科目等履修生・聴講生募集概要について審議し，承認した.

29）記述式問題におけるルーブリックについて審議し，承認した.

30）カリキュラムポリシーの適切性に関するアセスメント報告書案について審議し，承認した.

31）アクションプラン達成度自己点検・自己評価結果について審議し，承認した.

32）第一期中期計画自己点検・自己評価結果報告書案について，審議し，承認した.

33）2026-2028年度アクションプラン案について審議し，承認した.

④特記事項

１）教務委員会および専門部会・WG体制を再編し，内部質保証推進に向けた組織体制を整備した.

2）学位審査基準，卒業研究評価基準，DPに基づく卒業判定方法の整備を進め，内部質保証体制を推進した.
3）内部質保証に関する点検・改善活動を推進した.
4）カリキュラム変更に係る検討および制度整備を実施した.
5）保健医療福祉教養科目群の抽選の結果について確認した.
6）保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群単位の学生の履修・修得状況について確認した.
7）一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）からの依頼に基づく授業目的公衆送信の利用報告について対応した（医療技術学部，心理・福祉学部）.
8）修学支援新制度に係る「実務経験のある教員等による授業科目」を確認した.
9）非常勤講師任用審査を年度を通して実施した.
10）不正行為事案への対応を実施した.
11）「スマホ出席」のトライアルを継続した.
12）履修登録および成績管理に関する運用を実施した.
13）国際交流演習科目の履修フローの整備を実施した.
14）定期試験および追再試験運用の改善を実施した.
15）１年生を対象に「定期試験前の注意事項」に関する説明会を実施した.
16）9月卒業申請者について確認した.
17）卒業判定会議に委員（各学科１名）を派遣した.
18）卒業見込判定結果および卒業判定結果について確認した.
18）学業成績優秀による学生表彰候補者を推薦した.
19）選択式問題における成績評価の妥当性確認に関する指針の整備を実施した.
20）カリキュラムポリシーの適切性評価を実施した.
21）実質的な留年リスクに関する現状調査を実施した.
22）シラバス作成および点検体制の整備を実施した.
23）2026年度シラバスの点検を実施した.
24）学外実習費の当年度決算見込および次年度予算案を作成した.
25）学外実習に係る後援会援助金の使途報告書を作成した.
26）学外実習経費支援制度の整備を実施した.
27）メディア授業単位数管理を含む教育形態の適正化を実施した.
28）自己点検・自己評価および中期計画評価対応を通じ，PDCAサイクルを推進した.
29）次年度学事暦案を確認した.
30）教科書販売に係る対応をした.
31）授業用Teamsの利用を希望する授業を調査し，チームの作成対応をした.
32）2025年度卒業時実態調査の実施要綱を確認し，回答収集に協力した.
33）研究プロジェクト演習（UROP）を運営した.
34）文科省の全国学生調査について確認した.
35）2025年度入学者の出欠状況確認指標科目を学科ごとに決定した.
36）要支援対象者基準を確認し，要支援対象者を抽出した.
37）文部科学省への実習施設変更承認申請について対応した.
38）2025年度アクションプランの進捗について確認した.
39）次期（2026-2028年度）アクションプランについて確認した.
40）2025年度の教務委員会について総括した.

イ　FD・SD推進委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

佐藤晶子（委員長，HS），平林　怜（副委員長，PT），能登真一（OT），松井智世（ST），村山　稔（AT），金子聡一郎（AP），深澤友雄（CT），戸田春男（CO），外山　元（EM），前島　偉（RT），海和美咲（HN），熊崎　昌（HS），草刈由美子（NR），松元　圭（SW），千葉陽子（PS），塚本徹雄（HI），船山澄子（図書館・学修支援課），南　俊之（スポーツ振興室），竹石莉奈（学生課），遠藤有紀（図書館・学修支援課），萩原圭祐（キャリア開発室），近藤　道（入試課），青木薫彦（広報課），中川達貴（スポーツ振興室），谷原英朗（研究支援課），伊藤　求（大学院・国際交流課），大塚　拓，青木彩奈（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項及び決定事項等

1）副委員長および各部会長・ワーキンググループ長の選出について審議し，承認した.

2）FD・SDに関する基本方針について審議し，承認した.

3）学部・大学院FDの実施について審議し，承認した.

4）FD・SD推進委員会規程の改定について審議し，承認した.

5）学生による授業評価実施要綱について審議し，承認した.

6）グッドプラクティス表彰規程について審議し，承認した.

7）グッドプラクティス表彰候補科目の選定方法等について審議し，承認した.

8）学生の意見を汲む会議体に関する運用について審議し，実施方針を決定した.

9）FD・SD推進委員会サイトの運用見直し（e-Campusへの移行）について審議した.

10）授業評価実施期間の設定について審議し，運用方針を決定した.

11）学生の声を生かした教育研究・大学運営改善に関する計画について審議し，承認した.

12）新任教員セミナーの実施体制について審議し，担当者の選任を承認した.

④特記事項

1）新任教員セミナーを実施した.

2）新任職員SD研修会を実施した.

3）春の職員会を実施した.

4）秋の職員会を実施した.

5）科研費学内説明会を実施した.

6）教員交流セミナー（入職３年目までの教員対象）を実施した.

7）化学物質管理委員会との共催によるセミナー（化学物質管理に関するFD・SDセミナー）を実施した.

8）社会連携推進センターとの共催によるセミナー（昼休み社会連携推進FD・SDセミナー）を実施した.

9）安全衛生委員会との共催による教職員メンタルヘルス講習会（管理職向けメンタルヘルス講習会及び教職員向けメンタルヘルス講習会）を実施した.

10）ハラスメント防止のための意識向上FDセミナーを実施した.

11）教職員対象交通安全講習会を実施した.

12）グッドプラクティス共有セミナーを実施した.

13）統計支援セミナーを計７回実施した.

14）研究テーマ決定から論文採択までの道のりに関する学術FDセミナーを実施した.

15）論文執筆のコツに関するFDセミナーを実施した.

16）生成AIを教育・研究に活かすFDセミナーを実施した.

17）研究倫理セミナー（オンデマンド）を実施した.

18）安心して学べる，安心して教えられる．大学教職員のためのトラウマ理解と学生対応に関するFDセミナーを実施した.

19）親子関係から広く対人関係の困難への理解に関するFD・SDセミナーを実施した.
20）異文化コミュニケーションおよび留学生支援に関するFDセミナーを実施した.
21）中学校部活動地域展開に関するFD・SDセミナーを実施した.
22）シェアかふぇを計7回実施した.
23）医療技術学部FDセミナーを実施した.
24）リハビリテーション学部FDセミナーを実施した.
25）医療経営管理学部FDセミナーを実施した.
26）健康科学部FDセミナーを実施した.
27）看護学部FDセミナーを実施した.
28）心理・福祉学部FDセミナーを実施した.
29）前期前半，前期，後期前半および後期において学生による授業評価アンケートを実施し，集計結果を公開するとともに，教員によるフィードバックコメントを集約し公開した.
30）FD・SDセミナーのアーカイブコンテンツを公開した.
31）年間予定表をスプレッドシートで共有し，全教職員の閲覧を可能とした.
32）セミナー実施報告書の整備を行い，すべてのセミナーについて報告を行った.

ウ　新潟連携教育研究センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

藤井　豊（CT，委員長），鎌田　剛（HI，副委員長），井上達朗・田宮　創（PT），間宮靖幸（OT），石本　豪・佐藤卓也（ST），東江由紀夫（AT），江川雅人・髙野道代（AP），森田邦恵（CT），小林昭子・村田憲章（CO），高橋　司（EM），鷲見和幸・大石美鈴（RT），中村純子・永桶久美子（HN），後藤桂太・池田恵子（HS），野中共子・小栗妙子（NR），大屋未輝・神田紀子・渡邉悠都（SW），木村能成（PS），渡辺珠希・大塚　拓（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

1）連携総合ゼミ実行部会，連携基礎ゼミ実行部会，連携科目対応部会，連携教育研究部会の部員を選出し，承認した.
2）連携総合ゼミの他大学学生・海外学生の受入について審議し，承認した.
3）連携総合ゼミの企画・準備スケジュールおよび各担当の割り振りについて審議し，決定した.
4）連携総合ゼミの連携教育協力教員の募集を行った.
5）連携総合ゼミの学生ガイド・教員ガイドの内容について審議し，承認した.
6）連携総合ゼミの各事例への学生・教員配置について審議し，承認した.
7）連携総合ゼミの開会式，発表会，修了式の内容について審議し，承認した.
8）連携総合ゼミ期間中の開会式，発表会，修了式等の運営（オンライン含む）を行った.
9）連携総合ゼミの学生アンケート・教員アンケートを実施し，結果の集計と考察を行った.
10）連携総合ゼミの実施報告書を作成した.
11）連携総合ゼミの次年度の日程について審議し，決定した.
12）連携基礎ゼミのルーブリック改変について審議し，承認した.
13）連携基礎ゼミの学生ガイド・教員ガイドの内容について審議し，承認した.
14）連携基礎ゼミのゼミ分けについて審議し，承認した.
15）連携基礎ゼミオリエンテーション，最終発表会の実施方法についてとりまとめを行った.
16）連携基礎ゼミグループワークテーマについてとりまとめを行った.
17）連携基礎ゼミの発表スライドデータを収集した.
18）連携基礎ゼミの学生アンケート・教員アンケートについて審議し，承認した.
19）連携科目の授業計画について審議し，承認した.

20）保健医療福祉連携学をオンデマンドで実施した.
21）チームアプローチ入門をオンデマンドで実施した.
22）地域連携学を対面で実施した.
23）日本保健医療福祉連携教育学会学術集会を含む，連携教育に関連する勉強会やシンポジウムなどについて情報発信を行った.
24）新３年生・新４年生オリエンテーションで次年度連携総合ゼミの周知活動を行った.

④特記事項
１）連携基礎ゼミ実践行動学Ⅱにおける転部転科予定者の他学科履修について審議し，決定した.
２）連携総合ゼミの履修率向上に向け，履修率の高い学科の取り組みを参考とするよう，資料を用いて依頼・周知した.
３）保健医療福祉連携科目群の卒業単位について，資料を作成し必要単位数を改めて周知した.

エ　教職支援センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）
脇野哲郎（HS，委員長，センター長），丸山幸恵（NR，副委員長），片山直幸・大浦拓徳（HN），
久保　晃・堀　里也・小池大輔・佐藤裕紀・柿原　豪・針谷美智子（HS），小林房代（NR），
菅原直実・田中里枝（～7月）・井村美園（6月～）（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等
１）教職支援センター運営委員会副委員長を選出し，承認した.
２）教職支援センター運営委員会年間計画を審議し，決定した.
３）教職支援センター指導体制について審議し，承認した.
４）2024年度卒業時実態調査結果について検討した.
５）教員採用試験合格者目標値を設定し，決定した.
６）学内教員による教員採用試験対策学内講座について審議し，決定した.
７）外部業者による教員採用試験対策学内講座について審議し，決定した.
８）外部業者による教員採用試験対策学内模試について審議し，決定した.
９）教職支援センター利用ガイドラインについて確認した.
10）教員採用試験人物評価試験対策について審議し，決定した.
11）次年度予算案を審議し，決定した.
12）教職課程自己点検・自己評価作業を実施し，「教職課程自己点検・評価報告書」を刊行した.
13）新潟医療福祉大学将来計画について，教職支援センター運営委員会が関与する中期目標・中期計画およびアクションプランの実施状況について確認した.

④特記事項
１）2024年度教職支援センター年報第９号を刊行した．また，新潟医療福祉大学・事業創造大学院大学機関リポジトリに登録した.
２）教職支援センターニューズレター第15号・第16号を刊行した.
３）教員採用試験対策オリエンテーションを実施した.
４）教員採用試験「合格者の声を聴く会」を実施した.
５）「現職教員の声を聴く会」を実施した.
６）「新潟県・新潟市教員採用選考検査説明会」ならびに「教員採用試験結団式」を実施した.
７）新潟市教育委員会・新潟県内私立大学との「教員養成連絡協議会」を実施した.（参加機関：新潟市教育委員会・敬和学園大学・新潟青陵大学・新潟薬科大学・新潟経営大学・新潟工科大学・新潟医療福祉大学）
８）「学習ボランティア体験を語る会」を実施した.

9）３学科連携「教職実践演習」を実施した.
10）教員採用試験「出願書類作成指導会」を実施した.

オ　高等教育推進センター運営委員会
①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）
吉田重和（HS，委員長），東江由起夫（AT，副委員長），戸田春男（CO，副委員長），宮口翔太・長坂和明（PT），今西里佳・間宮靖幸（OT），千葉寛之（ST），江川雅人・木村啓作（AP），仙波妙子・加藤君子（CT），生方北斗（CO），高橋　司・外山　元（EM），関本道治・橋本　薫（RT），鈴木一恵・納富智子（HN），佐藤裕紀・亀岡雅紀・小谷幸平（HS），石塚敏子・草刈由美子（NR），荒川大靖・楠山大暁（SW），坂田省吾・溝江　唯（PS），寺島和浩・谷賢太朗（HI），隅田好美（DS，オブザーバー），石浦章一（HI，アドバイザー），馬場広子（HN，アドバイザー），五十嵐紀子（中央教育センター，オブザーバー），駒形高広・村山萌子（事務局）
②会議開催回数　12回
③審議事項および決定事項等
1）委員会体制を決定した.（教育システム改革部会，アセスメント部会，ICT教育推進部会，初年次教育推進部会）
2）医療情報経営学部の2026年度ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの策定について審議し，承認した.
3）社会福祉学科の2026年度ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの変更について審議し，承認した.
4）健康栄養学科の2025年度カリキュラム・ポリシーの修正について審議し，承認した.
5）DP到達度評価体制（学修ポートフォリオ活用体制）の運用を進め，改善点等を検討した.（教育システム改革部会）
6）2025年度9月卒業時実態調査からの設問変更について審議し，承認した.（教育システム改革部会）
7）2025年度9月および3月卒業時実態調査の実施概要について審議し，承認した.（教育システム改革部会）
8）2025年度9月および3月卒業時実態調査の結果を確認し，改善点等を検討した.（教育システム改革部会）
9）2024年度習熟度試験および特別指導の実施状況を調査し，改善点等を検討した.（教育システム改革部会）
10）習熟度試験に要する費用は実施学科で支弁することを決定した.（教育システム改革部会）
11）2024年度少人数教育の実施状況を調査し，改善点等を検討した.（教育システム改革部会）
12）学部・学科の３つのポリシー改定時の手続について審議し，2027年度ポリシー改定から適用することを承認した.（教育システム改革部会）
13）全学科のカリキュラムツリーを作成し，承認した.（教育システム改革部会）
14）科目ナンバリングの導入および構成等について審議し，承認した.（教育システム改革部会）
15）全学科の科目ナンバリングを作成し，承認した.（教育システム改革部会）
16）カリキュラムマップ，カリキュラムツリー，科目ナンバリング修正時の手続について検討した.（教育システム改革部会）
17）「新潟医療福祉大学教員としてのミニマム・リクワイアメント」の内容を更新した.（教育システム改革部会）
18）アセスメントプランに基づき「APの適切性（入学前教育の有効性）」，「CPの適切性（教育課程レベルの学修成果の適切性）」，「DPの適切性（学修成果の適切性）」，「３ポリシーの整合性（成果からのアセスメント）」に関するアセスメントを行い，結果を承認した.（アセスメント部会）

19）共通科目のカリキュラム・アセスメントを行い，結果を承認した．（アセスメント部会）
20）学部・学科等のカリキュラム・アセスメント結果報告書および年間報告書について審議し，承認した．（アセスメント部会）
21）「2024年度共通科目実態調査」を実施し，改善点等を検討した．（アセスメント部会）
22）「日本語表現法Ⅰ・Ⅱ履修指導に関する実態調査」を実施し，改善点等を検討した．（アセスメント部会）
23）「メディア授業に関するTips」についての意見集約を行い，対応策を検討した．（ICT教育推進部会）
24）「ICT活用に関するアンケート」を教員対象に実施し，その結果を受けて生成AIに関する情報提供を行うことを決定した．（ICT教育推進部会）
25）「生成AIと教育」に関する資料を共有した．（ICT教育推進部会）
26）「大学認証基盤見直し・DX設計に関わるシステム整理」に係る調査を行った．（ICT教育推進部会）
27）2025年度新入生調査の結果を確認し，改善点等を検討した．（初年次教育推進部会）
28）2026年度新入生調査の実施概要および設問変更について審議し，承認した．（初年次教育推進部会）
29）基礎ゼミ授業アンケートに成績評価ルーブリックに即した設問を追加することを決定した．（初年次教育推進部会）
30）基礎ゼミ授業アンケートを実施し，改善点等を検討した．（初年次教育推進部会）
31）基礎ゼミの成績評価分布を調査し，成績評価ルーブリックの適切性を検証した．（初年次教育推進部会）
32）2026年度から基礎ゼミ成績評価ルーブリックに「自己実現を達成する力（Self-actualization）」に対応した評価項目を追加することについて審議し，承認した．（初年次教育推進部会）
33）2026年度から基礎ゼミのシラバスにおいて授業目的に「将来のキャリア形成を見据えた基盤を養う」を追加することを決定した．（初年次教育推進部会）
34）2026年度から基礎ゼミ内で「学修支援プログラム体験セッション」を希望制で行うことについて審議し，承認した．（初年次教育推進部会）
35）2026年度から基礎ゼミの出欠状況把握に「出欠報告フォーム」を用いることを決定した．（初年次教育推進部会）
36）2026年度から「私の夢」作文および「夢を語る会」の実施を学科ごとに任意とすることを決定した．（初年次教育推進部会）
37）入学前WEBスクーリングの対象入試区分，開催形式，内容等を決定した．（初年次教育推進部会）
38）入学前WEBスクーリングのプログラム構成変更について審議し，承認した．（初年次教育推進部会）
39）入学前WEBスクーリングを実施し，参加者アンケートを基に改善点等を検討した．（初年次教育推進部会）
40）2026年度入学生から入学前課題を「学問サキドリプログラム」に統一することを決定した．（初年次教育推進部会）
41）「学問サキドリプログラム」導入の効果を検証するための指標を決定した．（初年次教育推進部会）
42）2026年度プレテストのWeb形式への移行，問題の刷新，対象科目を決定した．（初年次教育推進部会）
43）2026年度プレテストの追試判断基準を決定した．（初年次教育推進部会）
44）2026年度からリメディアル教育のeラーニングシステムを刷新し，「リメディアル」および「最

終テスト」を利用することを決定した.（初年次教育推進部会）

45）入学手続要項の「入学前学習指導について」および「プレテストについて」の掲載内容変更について審議し，承認した.（初年次教育推進部会）

46）2026年度「入学時ポイントチェック」の実施について審議し，承認した.（初年次教育推進部会）

47）入学前教育・初年次教育のフィードバックシートを活用し，効果検証について検討した.（初年次教育推進部会）

48）2026年度から実践行動学に関する業務をキャリア支援センター運営委員会に移管することについて審議し，承認した.（初年次教育推進部会）

49）図書館・学修支援委員会との間の「学修支援に関する業務分掌（案）」について審議し，承認した.（初年次教育推進部会）

50）中央教育センターにおける英語の「リメディアル」活用ならびに「リメディアル」および「最終テスト」のデータ利用について審議し，承認した.（初年次教育推進部会）

51）2026年度から「共通科目部会」を再設置することを決定した.

④特記事項

1）「新潟医療福祉大学教員としてのミニマム・リクワイアメント」について新任教員セミナーで講話した.（教育システム改革部会）

2）2027年度３つのポリシーの変更希望調査を行い，変更を希望した学部・学科はなかった.（教育システム改革部会）

3）2026年度カリキュラム変更に伴いカリキュラムマップを修正した.（教育システム改革部会）

4）オンライン授業法に関するFDセミナーの実施をFD・SD推進委員会に提案した.（アセスメント部会，ICT教育推進部会）

5）基礎ゼミの出欠状況を管理し，要支援学生の特定に活用した.（初年次教育推進部会）

6）2024・2025年度の初年次教育効果検証結果報告書を作成した.（初年次教育推進部会）

7）「学問サキドリプログラム」の全体傾向報告会を開催した.（初年次教育推進部会）

8）2026年度保健医療福祉教養科目群のオンデマンド形態への移行を働きかけ，オンデマンドでの開講率を向上させた.

カ　中央教育センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

五十嵐紀子（中央教育センター，委員長），吉田重和（HS，副委員長），八坂敏一・小林壮太（PT），高橋　司（EM），亀岡雅紀（HS），坂田省吾（PS），豊田典子・今井理恵（中央教育センター），駒形高広・村山萌子（事務局）

②会議開催回数　10回

③審議事項および決定事項等

1）「Small Talk」を国際交流センター運営委員会と共催することについて審議し，承認した.

2）語学科目のカリキュラム変更について審議し，教務委員会に申請することを承認した．2027年度の新規科目設置に向けて準備を進めることを決定した.

3）2026年度からアカデミック英語Ⅰ～Ⅲの配当年次を１～４年次に変更することについて審議し，教務委員会に審議依頼することを承認した.

4）語学科目の非常勤講師（英語３名，韓国語１名）の新規任用について審議し，教務委員会に申請することを承認した.

5）2026年度のドイツ語Ⅰを担当する非常勤講師を２名から１名に減らすことについて審議し，承認した.

6）「非常勤講師が担当する語学選択科目開講に関する内規（案）」を作成し，承認した.

7）2026年度のスペイン語Ⅱは事前登録希望者が少なかったため，閉講することを決定した.

８）韓国語研修の実施校として仁済大学校が受け入れ不可となったため，東西大学校に変更することについて審議し，承認した.
９）韓国語研修の実施校変更に伴い，単位認定対象とするための再審査を教務委員会に申請した.
10）健康スポーツ学科対象の英語オンデマンド型クラスにおいて，学科に支援を求めることについて審議し，承認した.
11）2026年度から英語プレイスメントテストの対象を編入学生や留学生を含む全学生とすることについて審議し，承認した.
12）2026年度入学者の英語プレイスメントテスト受験期間を入学前WEBスクーリング開催日（1月10日）から3月28日までとすることについて審議し，承認した．ただし，繰上合格者は3月31日正午までとした.
13）英語プレイスメントテストの未受験者にはGoogle Formによる代替テストを実施することを決定した.
14）教員海外派遣研修の参加教員２名について審議し，承認した.
15）学生の語学研修について，キャンセルポリシーを定める必要性を確認した.
16）高等教育推進センター運営委員会で導入した「リメディアル」および「最終テスト」の英語教材や結果の参照許可を求めることを決定した.

④特記事項

１）新入生オリエンテーションで語学教育に関してガイダンスを行った.
２）英語プレイスメントテストを実施し，習熟度に応じた英語クラス分けを行った.
３）健康スポーツ学科１年生，再履修者，学科から申請された要配慮の１年生を対象とする英語オンデマンド型クラスを初開講した.
４）英語クラスの出席状況や成績を活用し，要配慮・要支援学生の情報を各学科と共有した.
５）健康データサイエンス学科の英語クラス開講に向けた調整を行った.
６）国際交流センター運営委員会からの依頼に基づき海外研修の事前指導を行った.
７）英語研修（フィリピン・セブ島）を企画・実施した．参加学生13名.
８）韓国語研修（韓国・釜山）を企画・実施した．参加学生８名.
９）教員海外派遣研修（フィリピン・セブ島）を企画・実施した．参加教員２名.
10）TOEIC IPテストを３回実施した.
11）「夕日テラスコンサート」を共催した.

③　国際交流推進部

ア　国際交流センター運営委員会

＜国際交流専門委員会＞

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

神田　賢（AT，委員長），増田　修（CO，副委員長），菊元孝則（PT，副委員長），圓純一郎（OT），谷　麻美（ST），津田篤太郎（AP），涌井杏奈（CT），高橋　司（EM），大野　健（RT），塩沢浩太（HN），石井穂乃香（HN），秋山隆之（HS），柿原　豪（HS），小林房代（NR），小出　直（SW），野村照幸（PS），髙野晃輔（HI），久保雅義（PT；オブザーバー），今井理恵（教育・学生支援機構；オブザーバー），風間篤史・嵐田浩吉・桑島已都子（事務局）

②会議開催回数　11回

③審議事項および決定事項等

１）国際交流提携

すべての学科が何らかの形で海外の大学や機関と提携することを目標に掲げ，2025年度においては11カ国・地域の24大学３機関と交流協定を締結している.

番号	提携先	国・地域名	都市	開始年	終了年
1	国立極東医科大学	ロシア	ハバロフスク市	2006	2026
2	カリフォルニア州立大学フレズノ校	アメリカ	フレズノ市	2007	2031
3	アンヘレス大学財団	フィリピン	アンヘレス市	2010	2025
4	ハワイ大学マノア校ジョン.A.バーンズ医学部臨床技術学科	アメリカ	ホノルル市	2011	2026
5	サント・トーマス大学＜教育＞	フィリピン	マニラ市	2011	2027
	サント・トーマス大学＜研究＞	フィリピン	マニラ市	2017	2027
6	イーストアングリア大学健康科学部	イギリス	ノーリッジ市	2011	2029
7	マヒドン大学（義肢）	タイ	バンコク	2015	2031
	マヒドン大学（放射線）	タイ	バンコク	2018	2027
8	京畿大学校	韓国	水原市	2015	2031
9	ホンバン国際大学	ベトナム	ホーチミン市	2016	2030
10	国立陽明交通大学	台湾	台北市	2016	2026
11	ハイズオン医療技術大学	ベトナム	ハイフォン市	2017	2028
12	中山医学大学	台湾	台中市	2017	2027
13	太平洋国立大学	ロシア	ハバロフスク市	2019	2025
14	弘光科技大学	台湾	台中市	2019	2029
15	輔英科技大学	台湾	高雄市	2019	2025
16	ペラデニア大学	スリランカ	キャンディ市	2021	2026
17	ハサヌディン大学（看護）	インドネシア	マカッサル市	2022	2027
	ハサヌディン大学（運動機能医科学）	インドネシア	マカッサル市	2023	2028
18	仁済大学校	韓国	金海市	2023	2028
19	ケベック大学トロワ・リヴィエール校	カナダ	トロワ・リヴィエール市	2023	2028
20	ジェンバー大学	インドネシア	ジェンバー市	2024	2029
	ジェンバー大学専門職大学院（理学）	インドネシア	ジェンバー市	2024	2029
21	嘉泉大学校	韓国	城南市	2025	2030
22	セブ医科大学	フィリピン	マンダウエ市	2025	2030
23	フェニカー医科薬科大学	ベトナム	ハノイ市	2025	2030
24	ナショナルユニバーシティ・クラーク校	フィリピン	マニラ市	2025	2027
25	国立シリントン・リハビリテーションセンター	タイ	バンコク	2012	2025
26	台北栄民総医院	台湾	台北市	2013	2028
27	フィリピン脳性麻痺のための法人（PCPI）	フィリピン	マカティ市	2018	2025

2）部会活動

・国際交流活動部会（増田，谷，涌井，大野，小林）

国際交流事業として17件の事業を実施した．年間予算6,000,000円に対し，計5,339,223円を執行した．

番号	学科	国・大学等	期間	人数	執行額	事業形態
1	診療放射線学科	タイ・マヒドン大学	4/16-5/16	学生５（招聘）	200,000	学術交流協定事業・一学科単独事業
2	理学療法学科	フィリピン・サント・トーマス大学	5/1-5/6	教員１・学生４（渡航）	400,000	国際交流事業・一学科単独事業
3	臨床技術学科	台湾・中山医学大学	7/7-7/11	教員２・学生３（招聘）	390,523	学術交流協定事業・一学科単独事業
4	救急救命学科	アメリカ・カピオラニ・コミュニティ・カレッジ	8/25-8/29	教員２（渡航）	400,000	学術交流協定締結事業・一学科単独事業
5	義肢装具学科	台湾・弘光技科大学	8/29-9/5	教員２・学生２（渡航）	360,000	学術交流協定事業・一学科単独事業
6	国際交流センター	マレーシア・国立脳卒中協会	8/30-9/20	教員１（渡航）	192,403	国際交流事業・国際交流センター
7	国際交流センター	韓国・釜山外国語大学，東西大学	12/4-12/8	教員２（渡航）	400,000	国際交流事業・国際交流センター
8	義肢装具学科	タイ・マヒドン大学	12/8-12/12	教員２（招聘）	400,000	学術交流協定事業・一学科単独事業
9	健康栄養学科	台湾・中山医学大学	12/15-12/19	教員２・学生５（招聘）	399,890	学術交流協定事業・一学科単独事業

番号	学科	国・大学等	期間	人数	執行額	事業形態
10	国際交流センター	フィリピン・セブ医科大学	2/28-3/15	教員２（渡航）	400,000	学術交流協定事業・国際交流センター
11	看護学科	インドネシア・ハサヌディン大学	2/28-3/9	教員３（渡航）	150,000	学術交流協定事業・一学科単独事業
12	言語聴覚学科	フィリピン・セブ医科大学	3/2-3/8	教員１（渡航）	149,878	学術交流協定事業・一学科単独事業
13	健康栄養学科	フィリピン・セブ医科大学	3/7-3/11	教員１（渡航）	178,421	学術交流協定事業・一学科単独事業
14	国際交流センター	台湾・中山医学大学，陽明交通大学	3/8-3/14	教員２（渡航）	280,022	学術交流協定事業・国際交流センター
15	国際交流センター	マレーシア・国立脳卒中協会	3/9-3/29	教員１（渡航）	238,086	国際交流事業・国際交流センター
16	国際交流センター	ベトナム・ハイズオン医療技術大学，フェニカー大学／フィリピン・サント・トーマス大学	3/22-3/28	学生６（招聘）	400,000	国際交流事業・国際交流センター
17	国際交流センター	タイ・マヒドン大学／ベトナム・フェニカー大学等	通年	職員１・学生１（渡航）	400,000	学術交流協定締結事業・国際交流センター

・海外研修および留学支援部会（菊元，大野，塩沢，秋山，髙野）

英語等短期研修助成制度に対し17件の申請があり，制度にもとづき，86名の学生に助成を行った．予算8,000,000円に対し，計5,630,000円を助成金として執行した．

番号	対象	国・地域名	期間	参加学生数（＋引率／教員）
1	義肢装具自立支援学科	台湾	8/29-9/5	２（＋引率２）
2	全学科	マレーシア	8/30-9/20	１（＋引率１）
3	健康栄養学科	台湾	9/1-9/5	３（＋引率２）
4	臨床技術学科	アメリカ	9/1-9/12	７（＋引率２）
5	看護学科	アメリカ	9/2-9/11	６（＋引率２）
6	救急救命学科	韓国	9/16-9/20	４（＋引率２）
7	全学科	韓国	2/1-2/16	８（＋引率２）
8	診療放射線学科	タイ	2/22-3/11	１（＋引率１）
9	看護学科	インドネシア・ベトナム	2/24-3/2	４（＋引率３）
10	全学科	フィリピン	2/28-3/15	12（＋引率５）
11	理学療法学科	フィリピン	3/1-3/21	４（＋引率１）
12	理学療法学科	フィリピン	3/2-3/19	３（＋引率１）
13	臨床技術学科	台湾	3/6-3/14	12（＋引率２）
14	理学療法学科	アメリカ	3/7-3/16	４（＋引率２）
15	全学科	台湾	3/8-3/14	５（＋引率２）
16	全学科	マレーシア	3/9-3/29	７（＋引率２）
17	社会福祉学科	韓国	3/25-3/28	３（＋引率２）

・オンライン企画部会（高橋，石井，柿原，髙野）

海外で就業あるいは修学の経験を有する専門職の方を講師に招いて，学生のグローバル意識向上を目指すオンライン企画「グローバルキャリア支援Meeting」を2020年度より実施しているが，本年度より「グローバルトークLive」と改名し，引き続き実施した．今年度は５回開催し，164名の参加者を集めた．なお，講師料については，本企画は元々コロナ禍のため実施できなかった海外研修の代替企画だったので，英語等短期研修助成制度を利用し，合計75,000円を執行した．

回	実施日	講師（敬称略）	参加者数	講師料
1	7月11日（金）	ガテラ・ルダシングワ・エマニュエル，ルダシングワ・真美（ムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクト）	84	15,000×２
2	1月15日（木）	岩谷佳樹（Indiana State University修士課程，MLB・Atlanta Braves Seasonal Intern）	39（対面）	15,000
3	1月28日（水）	寺島琢馬（東海学園大学教員）	13	—
4	2月12日（木）	内田佳奈（茨城県つくばみらい市職員）	12	15,000

回	実施日	講師（敬称略）	参加者数	講師料
5	3月27日（金）	吉田幸代（くまもと森都総合病院副医療技術長）	16	15,000

・国際貢献部会（神田，圓，津田，塩沢）
新潟県国際交流推進基金事業補助金に「海外協定校の学生との交流を通じたグローバル人材の育成　～日本人学生の留学促進に向けて～」という事業を申請したが，採択されなかった.

・広報部会（圓，津田，小出，野村）
英語版ホームページの改修作業を行い，SNSを活用した広報活動の実施・検討を行った.

・国際交流締結部会（神田，増田，菊元）
既存の学術交流協定締結校との締結内容を点検し，協定の更新を行った．また，新たにフェニカー医科薬科大学（ベトナム）とナショナルユニバーシティ・クラーク校（フィリピン）との交流協定を締結した.

3）その他の活動

・新潟県国際交流協会の「新潟・国際協力ふれあい基金」に「保健・医療・福祉分野における東南アジアの若者の人材育成」という事業を申請し，採択された．採択の結果，ハイズオン医療技術大学（ベトナム），フェニカー医科薬科大学（ベトナム），サント・トーマス大学（フィリピン）からそれぞれ学生２名を招へいし，3月22日から28日までの１週間にわたり，プログラムを実施した.

・英語Small Talkを，継続して実施した.

＜留学生専門委員会＞

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

神田　賢（AT，委員長），増田　修（CO，副委員長），菊元孝則（PT，副委員長），圓純一郎（OT），大野　健（RT），塩沢浩太（HN），小林房代（NR），髙野晃輔（HI），風間篤史・嵐田浩吉・吉田俊雄・桑島己都子（事務局）

②会議開催回数　11回

③審議事項および決定事項等（活動内容を含む）

・留学生募集のための活動と調査
アクセス日本留学フェア渋谷ヒカリエ（東京，6月）への参加，アクセス日本留学フェア外国人学生のための進学説明会（東京，9月）への参加，JASSO外国人学生のための進学説明会（東京，6月）への参加，東京を中心とした日本語学校訪問（6月・11月），Japan Study Support（JPSS）における大学紹介ページの公開，アクセス日本留学BOOKへの掲載，日本留学指南への掲載，留学生募集リーフレットの作成，進研アドによる留学生募集の個別セミナー受講，等を行った．各種活動の結果，大学院においては，過去最高の18名（修士課程12名，博士後期課程６名；目標比138.5%）の留学生入学者を獲得した.

・新潟県外国人留学生獲得支援事業
上記の事業に，「現地で開催される留学フェアへの出展事業」と「留学生を獲得することを目的とする現地の教育機関等での新潟県の紹介と併せた模擬授業」の２件を申請し，２件とも採択された．採択の結果，9月に開催されたJASSO日本留学フェア（タイ・バンコク）に参加し，10月にはベトナムの協定校２校（フェニカー医科薬科大学ならびにハイズオン医療技術大学）で，留学生獲得を目的とする模擬授業を行った.

・留学生募集および受入れのための海外協定校との連携等
2026年度大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）として，協定校のベトナム・ハイズオン医療技術大学から１名，タイ・マヒドン大学から１名を文部科学省に推薦した．さらに，協定校であるスリランカ・ペラデニア大学とタイ・マヒドン大学から国費外国人留学生として修士課程に受け入れていた各１名の学生を，博士後期課程に延長推薦し，採用された.

・留学生の受入れ体制の整備と留学生支援
在留資格更新，住まい探し，各種手続き等，留学生の生活全般に対するサポートを行った．また，外国人留学生サポーター制度を運用し，留学生のための日本語講座を実施した．
・新潟県国際交流協会からの委託事業
上記協会から国際理解セミナー「アジアから世界を知る！」事業を委託され，留学生が講師となり，「留学生が語る！　母国の魅力とその文化　スリランカ・フィリピン・ベトナム」という講座を伍桃祭に合わせ10月に実施した．
・留学生のためのイベント開催
4月に留学生新入生履修登録説明会と留学生親睦会を開催した．さらに，6月には新潟市内のバスツアーを，12月には白山神社への年末詣を，3月には南魚沼地域へのバスツアーを実施し，留学生の本学に対する満足度向上を図った．また，伍桃祭においては留学生が各国の飲み物を提供する模擬店を出展した．
・日本人学生との交流
留学生が講師となり，学習支援センターで日本人学生に英会話等を指導している．また，外国からの留学生受入れにあたっては，留学生と日本人学生が協力しながら，対応に当たっている．

（3）研究・産官学連携推進機構運営委員会
①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）
大西秀明（PT，委員長），椿　淳裕（PT），児玉直樹（RT），江玉睦明（PT），山代幸哉（HS），
瀬戸川純一（事務局），谷原英朗（事務局）
②会議開催回数　12回
③審議事項および決定事項等
1）私立大学等総合改革支援事業タイプ2継続選定に向けた取り組み
2）研究インテグリティの確保のための体制について
3）大学院生の国際学会参加支援について
4）研究倫理教育について
5）2025年度・研究力強化による大学ブランドの向上について
6）産官学連携案件について
7）研究支援関連のデータ整理と共有について
8）研究奨励金の理念とポリシーについて
9）NQSAP海外研究支援について
10）科目ナンバリングについて
11）科研費採択結果について
12）研究奨励金等合議審査
13）診療放射線学科・企業との共同研究契約について
14）科学研究費獲得における目標設定について
15）研究環境の調査，整備計画について
16）将来計画第一期中期目標・中期計画に対する自己点検評価（案）について
17）将来計画「ドメイン4（研究）」の第二期中期目標・中期計画（2026-2030）の策定について
18）研究者番号付与に関する申し合わせについて
19）2026-2028年度アクションプランについて
20）学生表彰対象者の選定
21）規程等の改定について

①　研究・産学官連携推進部

ア　科研費対策委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大鶴直史（PT，委員長），能登真一（OT），原　修一（ST），須田裕紀（AT，副委員長），
金子聡一郎（AP），髙橋良光（CT），多々良俊哉（CO），大松健太郎（EM），大野　健（RT），
越中敬一（HN），藤本知臣（HS），和田直子（NR），松元　圭（SW），平井克之（HI），石井雅子（社会連携・同窓会推進機構）
事務局　瀬戸川純一，大竹　宏

②会議開催回数　4回

③審議事項および決定事項等

1）2025年度科研費対策の結果と評価
2）新たなサポート手法に対する意見聴取
3）2025年度研究奨励金申請状況について
4）科研費サポートデスクについて
5）科研費学内説明会の実施について
6）研究奨励金の募集要項変更について
7）科研費採択結果の委員会共有について

イ　運動機能医科学研究所

①研究テーマ

1　感覚運動機能連関の神経基盤の解明
2　運動制御および感覚運動学習過程に関する研究
3　膜性疼痛の生理・病態・心理・治療に関する研究
4　運動刺激による神経－筋－骨格系の機能的変化に関する研究
5　運動と呼吸循環応答および脳循環応答に関する研究
6　運動機能障害に対するリハビリテーションに関する研究と開発
7　身体運動分析及び行動分析に関する研究
8　アスリート脳に関する研究
9　健康増進のための運動プログラムの開発
10　サルコペニアやフレイルに対する栄養リハビリテーションに関する研究

②研究員

大鶴 直史　理学療法学科/教授（所長・運営委員・研究員）
山代 幸哉　健康スポーツ学科/教授（副所長・運営委員・研究員）
大西 秀明　理学療法学科/教授（運営委員・研究員）
久保 雅義　理学療法学科/教授（運営委員・研究員）
椿 淳裕　理学療法学科/教授（運営委員・研究員）
田口 徹　理学療法学科/教授（研究員）
江玉 睦明　理学療法学科/教授（研究員）
児玉 直樹　診療放射線学科/教授（研究員）
能村 友紀　作業療法学科/教授（研究員）
芝田 純也　理学療法学科/教授（研究員）
八坂 敏一　健康栄養学科/教授（研究員）
齋藤 憲　臨床技術学科/教授（研究員）
犬飼 康人　理学療法学科/教授（研究員）
山本 裕二　心理健康学科/教授（研究員）
久保 亜沙子　鍼灸健康学科/教授（研究員）

圓 純一郎　作業療法学科/准教授（研究員）
中山 憲司　臨床技術学科/准教授（研究員）
井上 達朗　理学療法学科/准教授（研究員）
熊崎 昌　健康スポーツ学科/准教授（研究員）
下門 洋文　健康スポーツ学科/准教授（研究員）
福谷 充輝　健康スポーツ学科/准教授（研究員）
藤井 豊　臨床技術学科/教授（研究員）
金子 聡一郎　鍼灸健康学科/准教授（研究員）
菊元 孝則　理学療法学科/講師（研究員）
髙橋 英明　理学療法学科/講師（研究員）
齊藤 慧　理学療法学科/講師（研究員）
玉越 敬悟　理学療法学科/講師（研究員）
小島 翔　理学療法学科/講師（研究員）
宮口 翔太　理学療法学科/講師（研究員）
高林 知也　理学療法学科/講師（研究員）
横田 裕丈　理学療法学科/講師（研究員）
平林 怜　理学療法学科/講師（研究員）
長坂 和明　理学療法学科/講師（研究員）
徳永 亮太　理学療法学科/講師（研究員）
北谷 亮輔　理学療法学科/講師（研究員）
須田 裕紀　義肢装具自立支援学科/講師（研究員）
越智 元太　健康スポーツ学科/講師（研究員）
三瀬 貴生　健康スポーツ学科/講師（研究員）
藤本 知臣　健康スポーツ学科/講師（研究員）
太田 大樹　理学療法学科/講師（研究員）
石垣 智恒　理学療法学科/講師（研究員）
田宮 創　理学療法学科/助教（研究員）
小曽根 海知　理学療法学科/助教（研究員）
小林 壮太　理学療法学科/助教（研究員）
早尾 啓志　理学療法学科/助教（研究員）
小宮 諒　理学療法学科/助教（研究員）
岡本 優美　健康スポーツ学科/助教（研究員）
小島 将　理学療法学科/助教（研究員）
星 春輝　理学療法学科/助手/D3（研究員）
五十嵐 眸実　理学療法学科/助手（研究員）
佐々木 啓　診療放射線学科/助手/D2（研究員）
大石 美鈴　診療放射線学科/助手/D1（研究員）
坂本 航大　医療福祉学専攻（大学院生／D3）
井上 創太　医療福祉学専攻（大学院生／D3）
余村 花梨　医療福祉学専攻（大学院生／D2）
高橋 ひろな　医療福祉学専攻（大学院生／D2）
田邊 かこ　医療福祉学専攻（大学院生／D2）
巻渕 泰輝　医療福祉学専攻（大学院生／D2）
飯室 幸士　医療福祉学専攻（大学院生／D1）
平賀 大河　医療福祉学専攻（大学院生／D1）

長尾 彩音　医療福祉学専攻（大学院生／D1）
小川 有生人　医療福祉学専攻（大学院生／D1）
Loan Thi Mai Pham　医療福祉学専攻（大学院生／D1）
Dian Amaliah Nawir　医療福祉学専攻（大学院生／D1）
安達 航希　理学療法学分野（大学院生／M2）
渡辺 佳音　理学療法学分野（大学院生／M2）
黒崎 純暉　理学療法学分野（大学院生／M2）
齋藤 大河　理学療法学分野（大学院生／M2）
Chamoda Jayasinghe　理学療法学分野（大学院生／M2）
西口 ほのか　理学療法学分野（大学院生／M2）
佐藤 慎之介　理学療法学分野（大学院生／M2）
島谷 美海花　理学療法学分野（大学院生／M2）
須貝 菜央　理学療法学分野（大学院生／M2）
木村 玲奈　理学療法学分野（大学院生／M2）
山波 克彰　理学療法学分野（大学院生／M2）
武田 真桜　理学療法学分野（大学院生／M2）
廣瀬 貴喜　理学療法学分野（大学院生／M2）
佐藤 来夢　理学療法学分野（大学院生／M2）
加藤 雄樹　理学療法学分野（大学院生／M2）
関根 悠介　理学療法学分野（大学院生／M2）
相澤 凛　理学療法学分野（大学院生／M1）
時田 優菜　理学療法学分野（大学院生／M1）
反町 瑠菜　理学療法学分野（大学院生／M1）
川尻 陽菜　理学療法学分野（大学院生／M1）
吉野 琢朗　理学療法学分野（大学院生／M1）
古澤 芽依　理学療法学分野（大学院生／M1）
角田 彪瑠　理学療法学分野（大学院生／M1）
奥谷 真央　理学療法学分野（大学院生／M1）
山本 陸央　理学療法学分野（大学院生／M1）
大石 卓実　理学療法学分野（大学院生／M1）
中山 侑也　理学療法学分野（大学院生／M1）
久保 幸大　理学療法学分野（大学院生／M1）
益戸 亮輔　健康スポーツ分野（大学院生／M2）
萩野 由大　健康スポーツ分野（大学院生／M2）
北野 侑　健康スポーツ分野（大学院生／M2）
福山 夏未　健康スポーツ分野（大学院生／M2）
川村 瞭　放射線情報学分野（大学院生／M2）
上田 有紀音　放射線情報学分野（大学院生／M2）
大野 里奈　放射線情報学分野（大学院生／M2）
清水 俊之介　放射線情報学分野（大学院生／M2）
黒崎 凛　放射線情報学分野（大学院生／M1）
須崎 友馬　健康スポーツ分野（大学院生／M1）

③主な活動内容

１．著書

1.　椿淳裕，岩本えりか．総論　血流調節の基礎知識．理学療法ジャーナル．第59巻７号：医学書院；

2025：774-781

2. 井上達朗．セッティング別の転倒・転落の予防と対策：(4)生活期（地域，在宅）―身体抑制含む―．J. of Clinical Rehabilitation．34巻10号：医歯薬出版株式会社；2025：1064-1069
3. 井上達朗．転倒予防実践ガイド－多職種連携のためのケースファイル－「回復期リハビリテーション病棟に入院中の認知機能低下を有する大腿骨近位部骨折症例」．転倒予防実践ガイド－多職種連携のためのケースファイル－．：転倒予防学会；2025
4. 越智元太，山田諭基，征矢英昭．Application of Minimum Exercise Model to the Hypoxic Environment. Exercise Brain Stimulation for Cognitive Function and Mental Health.：Springer Singapore；2025：371-388
5. 山本裕二．柔軟な学習環境の構築．学校教育研究．40巻：日本学校教育学会；2025：55-70
6. 井上達朗．脳卒中患者における低栄養予防．理学療法．Vol.42 No10：メディカルプレス；2025：876-883
7. 井上達朗．サルコペニア・フレイルの予防・改善に関するデジタルヘルスのためのガイドライン．サルコペニア・フレイルの予防・改善に関するデジタルヘルスのためのガイドライン．：ライフサイエンス出版；2025
8. 井上達朗．サルコペニア・フレイルに関する栄養管理ガイドライン2025．サルコペニア・フレイルに関する栄養管理ガイドライン2025．：南江堂；2025
9. 井上達朗．デジタル技術を活用した多職種連携の強化．J. of Clinical Rehabilitation．35巻３号：医歯薬出版株式会社；2026：267-271

２．論文

１）国際誌

（1）Inoue S, Otsuru N, Hara M, Ikarashi H, Iimuro K, Onishi H. VR-induced interoceptive feedback may impact tactile priority in individuals with low interoceptive awareness. Virtual Reality. 2025; 29（3）：139

（2）Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Iimuro K, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Emotional neglect in childhood modulates aperiodic offset in the left pars orbitalis in adulthood. Front. Neurosci. 2026; 19: 1719462

（3）Ochi G, Koyama T, Oneyama K, Okamoto Y, Fujimoto T, Sato D, Yamashiro K. Facial lower-region changes during high-intensity exercise as predictors of reduced arousal state. Journal of Sports Sciences. 2025; 43（24）：3095-3109

（4）Kato Y, Ishigaki T, Sato R, Sakamoto K, Hirabayashi R, Yokota H, Komiya M, Edama M. Regional changes in patellar tendon mechanical properties in vivo during non-weight-bearing and weight-bearing movements with different loads. Journal of Bodywork and Movement Therapies. 2026; 47: 126-134

（5）Amakasu K, Inoue T, Saito A, Kamada N, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Kobayashi S, Watanabe Y. Muscle loss must be interpreted in the context of fluid imbalance: a dual-parameter model predicts functional outcomes after acute stroke. Eur Geriatr Med. 2026

（6）Kikumoto T, Mizutani J, Tsuchida A, Takabayashi T, Kubo M, Okada H, Kon Y. Epidemiology of ankle sprains and anterior cruciate ligament injuries in youth basketball athletes in Niigata, Japan: A regional survey on injury management and healthcare professional involvement. PLoS One. 2026; 21（3）：e0344196

（7）Kubo A, Iwata K, Shinoda M, Shinozuka H, Taguchi T, Mizumura K. Purinergic Receptor- and Metabotropic Glutamate Receptor 5-Mediated Interactions Between Satellite Glial Cells and Neurons in Rat Trigeminal Ganglia. Glia. 2025; 74（2）：e70126

（8）Miyaguchi S, Inukai Y, Muroi M, Yamamoto S, Onishi H. Effects of Cerebellar tACS With

Gamma Band on Basketball Shooting Skills: A Single-Blind, Randomized Controlled Trial in College Students With Basketball Experience. Brain and Behavior. 2025; 15（10）：e70943

（9）Miyaguchi S, Inukai Y, Igarashi K, Yamamoto S, Otsuru N, Onishi H. Slow-Oscillatory Transcranial Alternating Current Stimulation Over the Primary Motor Cortex Improves Motor Skill Acquisition. Eur J of Neuroscience. 2025; 62（6）：e70269

(10) Tamakoshi K, Meguro K, Takahashi Y, Oshimi R, Iwasaki N. Effects of Exercise on Dopamine Expression and Motor Recovery in Hemorrhagic and Ischemic Stroke Rat Models With Comparable Brain Lesions. Cureus. 2025

(11) Edama M, Sekii Y, Sakamoto K, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Sekine C, Takabayashi T, Sato N. Differences in ankle stabilizing function between the upper and lower fiber bundles of the anterior talofibular ligament: an anatomical study. Sci Rep. 2025; 15（1）：26126

(12) Takabayashi T, Edama M, Inai T, Kubo M. Effects of ankle joint biomechanics and foot postures on Achilles tendon force during running through a simulation study. Sports Biomechanics. 2025; 24（9）：2722-2732

(13) Sasaki K, Yoshida N, Oishi M, Kawamura R, Kodama N. Are There Sex Differences in Brain Activity in Response to Active Tactile Stimulation?. Cureus. 2025

(14) Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the flexor hallucis longus-associated part of Kager's fat pad. BMC Musculoskelet Disord. 2025; 26（1）：1031

(15) Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Takabayashi T, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the retrocalcaneal bursal wedge of Kager's fat pad. Surg Radiol Anat. 2025; 48（1）：23

(16) Kodama N, Takahashi S, Tsuji M, Kawase Y, Naruse S, Urakami K. Possibility of screening for mild cognitive impairment via an eye tracking-based cognitive scale. Front. Aging. 2025; 6: 1532550

(17) Maruyama Y, Shibata S, Kojima S, Mima T, Onishi H. Peripheral nerve stimulation synchronized with brain stimulation facilitates somatosensory function. Clinical Neurophysiology. 2026; 184: 2111693

(18) Ogawa Y, Nagasaka K, Ishii D, Nagao A, Ikarashi H, Otsuru N, Onishi H. Enhanced flavoprotein autofluorescence imaging in rats using a combination of thin skull window and skull-clearing reagents. Neuroscience Letters. 2025; 856-858: 138239

(19) Kojima S, Usui N, Nishiyama Y, Shinozaki N, Shirai N, Okamura D, Sato Y, Hirukawa S, Noji T, Kasai T, Takahashi H, Yamada Y, Sakuyama A, Abe Y, Saitoh M. Association Between Sarcopenic Obesity and Worsening Physical Performance in Patients Undergoing Hemodialysis: The REPnet-HD Study. Journal of Renal Nutrition. 2026

(20) Kojima S, Tanabe K, Todoroki M, Onishi H. Effects of anodal transcranial direct current stimulation over the right posterior parietal cortex on Simon task and flanker task performance. Brain Research. 2026; 1872: 150100

(21) Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Effects of Clenching Strength on Step Reaction Time. JFMK. 2025; 10（3）：264

(22) Hoshi H, Shibata S, Mima T, Onishi H. Triple Transcranial Static Magnetic Field Stimulation System ("SHIN jiba") Modulates the Neural Activity of the Lumbar Spinal Cord: A Cross-over and Single-Blind Study in Healthy Subjects. Neuromodulation: Technology at the Neural Interface. 2025

(23) Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effects of Foot-Strike Patterns During Running on Cumulative Load of Achilles Tendon Force, Plantar Fascia Force, and Patellofemoral Joint Stress. jsportscimed. 2025; 747-754
(24) Nishino K, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Kasai A, Furusawa M, Funayama Y, Tsubaki A, Kubota A, Fujita T, Miyata H. Anterior thigh muscle thickness normalized by body mass index is associated with falls in community-dwelling adults. Clinical Nutrition ESPEN. 2025; 70: 406-412
(25) Kawamura R, Sasaki K, Shimizu S, Kodama N. Neural basis of intensity-dependent brain activity in response to mechanical stimulation and the level of pain sensitivity. Front. Hum. Neurosci. 2026; 19: 1723960
(26) Maekawa K, Nishiwaki T, Yagi T, Kobayashi S, Amakasu K, Kamada N, Saito A, Inoue T. In-Hospital Physical Activity Predicts Swallowing Function at Discharge in Patients With Hip Fracture: A Prospective Study in Convalescent Rehabilitation Wards. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation. 2025
(27) Tokuda S, Kojima H, Baba H, Tamiya H, Tsubaki A. Dynamic Changes in Cerebral Oxygenation and Arterial Pressure During Repeated Rapid Hypotension. Advances in Experimental Medicine and Biology. 2026; 243-248
(28) Imai R, Tsubaki A, Abe T, Yamaguchi S. Patients Admitted to the ICU Who Cannot Be Mobilized for the First Time Within 72 Hours Have Low Regional Cerebral Oxygen Saturation. Advances in Experimental Medicine and Biology. 2026; 249-255
(29) Takahashi T, Iwata K, Yamada K, Maekawa Y, Inagaki Y, Takahara N, Hirai T, Sasaki Y, Kohara N, Tsubaki A. Prefrontal Cortex Oxygenation Dynamics During Walking in Patients with Acute Stroke. Advances in Experimental Medicine and Biology. 2026; 219-224
(30) Tamiya H, Kawashiri H, Miyamoto T, Kurosawa Y, Hamaoka T, Tsubaki A. Acute effects of belt electrode-skeletal muscle electrical stimulation on microvascular responsiveness of the gastrocnemius muscle in healthy young men. Microvascular Research. 2025; 161: 104840
(31) Tanabe K, Kojima S, Saito K, Onishi H. Active Touch Intervention Using a Rough Texture Enhances Corticospinal Excitability. Brain and Behavior. 2025; 15（9）: e70837
(32) Watanabe R, Kitatani R, Amano A, Sorimachi R, Onishi H. Effects of Cerebellar Transcranial Alternating Current Stimulation at Frequencies Surrounding the Gait Cycle Frequency on Spatiotemporal Gait Parameters. Cerebellum. 2026; 25（2）: 37
(33) Hiraga T, Saito K, Kojima S, Onishi H. Effects of transcranial direct current stimulation over the posterior parietal cortex on tactile spatial discrimination. Exp Brain Res. 2025; 243（5）: 125
(34) Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Beta to low-gamma rhythmic brain stimulation over primary motor cortex and supplementary motor area differentially modulates oscillatory neural drives during gait. Exp Brain Res. 2025; 243（11）: 233
(35) Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Frequency-specific modulations of oscillatory neural drives to lower leg muscles during gait with aiding and impeding horizontal forces. Journal of Electromyography and Kinesiology. 2026; 86: 103098
(36) Saito A, Ishida Y, Inoue T, Kawase F, Nagano A, Murotani K, Maeda K. Prognostic significance of body mass index in hip fracture hospitalizations: A nationwide database study. Clinical Nutrition ESPEN. 2026; 73: 103115
(37) Saito K, Otsuru N, Tateishi K, Kurebayashi R, Onishi H. Differential modulation of the

cortical alpha rhythm and activation of distinct neural networks during tactile perception training by learners and non-learners. Front. Neurosci. 2025; 19: 1566615

(38) Takahashi H, Inukai Y, Nagasaka K, Miyaguchi S, Sakurai N, Kodama N, Otsuru N, Onishi H. Effect of Transcranial Direct Current Stimulation Targeting Brain Regions Identified Through Voxel-Based Morphometry on One-Legged Standing Balance With Eyes Closed. Brain and Behavior. 2026; 16（4）：e71425

(39) Kobayashi S, Hasegawa S, Yamazaki S, Tsugane T, Takahashi S, Kaneko M, Asakura T, Usuda S. Association between walking space and physical activity for hospitalized patients with stroke: a cross-sectional study. J Phys Ther Sci. 2025; 37（9）：486-492

(40) Anazawa S, Makibuchi T, Hagino Y, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Sato D, Yamashiro K. The Effect of Sex Differences on Long-Latency of Auditory and Somatosensory Evoked Potentials. Women's Health Reports. 2026; 7: 26884844261432104

(41) Imai T, Kobayashi S, Zenyoji K, Sakakibara N, Kobayashi A. Minimal detectable change and minimal important change of the simple test for evaluating hand function in patients with subacute stroke. Topics in Stroke Rehabilitation. 2026; 1-12

(42) Sumikura H, Fujii Y, Uchiyama S, Homma A. Evaluation of a Rat Cardiopulmonary Bypass Model Using an Extraluminal Flow Oxygenator. Artificial Organs. 2026; 50（6）：825-830

(43) Amano T, Yasuda S, Yokoyama S, Oshima S, Okamoto Y, Otsuka J, Kato H, Kunimasa Y, Hiwa T, Fujii N, Kenny GP, Hosokawa Y, Mündel T, Kondo N, Inoue Y. Biological maturation and sex differences of cholinergic sweating in prepubertal children to young adults. Ann NY Acad Sci. 2025; 1547（1）：183-191

(44) Hotta K, Fujii Y, Hitosugi N, Takamizawa R, Inoue T, Tamiya H, Tsubaki A. Effects of veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation on skeletal muscle function and interstitial PO2 in contracting muscle of normal rats. Microvascular Research. 2025; 160: 104813

(45) Yagi T, Inoue T, Ogawa M, Okamura M, Shirado K, Shirai N, Konishi S, Koshiba T, Hirayama M, Isigaki Y, Heguri Y, Tanimiya N, Okada R, Iwata S, Inoue S. Association of cachexia with quality of life in patients with chronic kidney disease undergoing hemodialysis. Ren Replace Ther. 2025; 11（1）：25

(46) Sato T, Sagawa S, Kataoka D, Igarashi M, Ishibashi R, Endo Y, Tsubaki A, Tamiya H, Morishita S. Compensatory Oxygenation Changes in Non-active and Active Muscles During Incremental Exercise in Healthy Adults. Advances in Experimental Medicine and Biology. 2026; 271-275

(47) Endo Y, Kataoka D, Sagawa S, Igarashi M, Ishibashi R, Sato T, Tsubaki A, Tamiya H, Morishita S. Characteristics of Muscle Oxygenation of the Upper and Lower Limb During Moderate-Intensity Upper Limb Crank Exercise: A Near-Infrared Spectroscopy Study. Advances in Experimental Medicine and Biology. 2026; 265-270

(48) Tokuda S, Kojima H, Baba H, Tamiya H, Tsubaki A. Dynamic Changes in Cerebral Oxygenation and Arterial Pressure During Repeated Rapid Hypotension. Advances in Experimental Medicine and Biology. 2026; 243-248

(49) Kano T, Yokoyama K, Okano N, Yamamoto Y. Cultivating Collaborative Skills in Elementary School Physical Education Through the Use of Task Constraints. Journal of Physical Education, Recreation & Dance. 2025; 97（2）：65-72

(50) Ishida Y, Maeda K, Shimizu A, Ueshima J, Nagano A, Inoue T, Kawamura K, Sakaguchi T, Murotani K, Mori N. Assessing mortality and malnutrition using calf circumference adjusted for body mass index and edema as muscle mass reduction indicators within the Global

Leadership Initiative on Malnutrition criteria: A retrospective study. Nut in Clin Prac. 2025; 41（1）：187-197

(51) Igarashi T, Kamo T, Miyata K, Tamura S, Kobayashi S, Kaizu Y, Saito H, Kubo H, Momosaki R. Impact of frailty risk on postoperative activities of daily living and in‐hospital events in older patients with hydrocephalus using a nationwide JAPANESE database. Geriatrics Gerontology Int. 2025; 25（7）：960-966

(52) Sato Y, Motoishi E, Kakuba R, Nagatsuka Y, Abe T, Fujii Y. Pharmacokinetics of midazolam and hepatic cytochrome P450 3A activity in an in vivo extracorporeal membrane oxygenation rat model. Sci Rep. 2025; 15（1）：19363

(53) Shimizu N, Ishigaki T, Kimura Y, Ota T, Kanai M, Suzuki Y, Ogawa T, Kubo H, Yoshida K, Saegusa H, Kobayashi S. Accuracy of physical activity intensity estimation using activity monitors in nonambulatory individuals with subacute stroke: a cross-sectional, multicenter study. Physiotherapy Theory and Practice. 2025; 41（11）：2250-2261

(54) Otstuka J, Okamoto Y, Enoki Y, Maejima D, Amano T. Hyperhydration with Glycerol, Sodium, and Isomaltulose or Sucrose on Fluid Balance, Thermoregulation, and Exercise Capacity in the Heat. Medicine & Science in Sports & Exercise. 2025; 57（11）：2550-2563

(55) Meng L, Wang H, Otsuka J, Okamoto Y, Yokoyama S, Oshima S, Kato H, Lei TH, Amano T. Do Transdermal Administration of α1 and α2-Adrenergic Receptor Antagonists Modulate Sweating in Exercising Young Females in the Heat?. Skin Pharmacol Physiol. 2025; 38（4）：149-158

(56) Endo Y, Kataoka D, Sagawa S, Igarashi M, Ishibashi R, Sato T, Tsubaki A, Tamiya H, Morishita S. Characteristics of Muscle Oxygenation of the Upper and Lower Limb During Moderate-Intensity Upper Limb Crank Exercise: A Near-Infrared Spectroscopy Study. Advances in Experimental Medicine and Biology. 2026; 265-270

(57) Kato H, Okamoto Y, Otsuka J, Yokoyama S, Oshima S, Tajima K, Shiraishi A, Shiramoto A, Amano T. Does wearing a breathable T-shirt improve the microclimate and thermoregulatory responses during a hot outdoor running?. Fash Text. 2025; 12（1）：15

(58) Yokoyama K, Shima H, Kijima A, Yamamoto Y. Football Games Consist of a Self-Similar Sequence of Ball-Keeping Durations. Fractal Fract. 2025; 9（7）：406

(59) Wang H, Tamura K, Oshima S, Yokoyama S, Okamoto Y, Otsuka J, Kato H, Yamashita H, Quan YS, Amano T. Microneedle-assisted iontophoretic transdermal administration of adrenergic antagonists does not modulate palmar sweating induced by static exercise in healthy young adults. Autonomic Neuroscience. 2025; 261: 103321

(60) Wakabayashi H, Fujimoto T, Miura A, Kita J, Matsushita M, Kameya T, Maeda T, Saito M. Topical application of menthol enhances brown adipose tissue thermogenesis and fat oxidation in humans. American Journal of Physiology-Endocrinology and Metabolism. 2025; 329（2）：E302-E311

(61) Lei TH, Li HY, Goulding RP, Wang F, Amano T, Fujimoto T, Fujii N, Kondo N, Perry B, Mündel T. High-intensity exercise training mitigates post-exercise orthostatic hypotension in men. Eur J Appl Physiol. 2025; 126（1）：337-347

(62) Inaba H, Hanawa H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Iron Deficiency Prevention and Dietary Habits Among Elite Female University Athletes in Japan. Sports. 2025; 13（7）：220

(63) Yoshida N, Kageyama H, Akai H, Kasai S, Sasaki K, Sakurai N, Kodama N. Reducing the acquisition time for magnetic resonance imaging using super-resolution image generation and evaluating the accuracy of hippocampal volumes for diagnosing Alzheimer's disease. Front. Neurol. 2025; 16: 1507722

(64) Nozoe M, Inoue T, Ogino T, Okuda K, Yamamoto K. Association between undernutrition on admission and stroke severity in patients with acute stroke. Nutritional Neuroscience. 2025; 28（12）：1523-1531
(65) Watanabe H, Kojima S, Otsuru N, Onishi H. Effects of repetitive mechanical tactile stimulation interventions with stationary and moving patterns on paired-pulse depression. BMC Neurosci. 2025; 26（1）：46
(66) Inai T, Takabayashi T. Relationships between hand grip strength and gait parameters measured using a foot-mounted sensor in non-laboratory settings in older women. Sci Rep. 2025; 15（1）：29375
(67) Fujito Y, Fujimoto T, Hara R, Yoshida R, Funato K. Evaluation of Race Pace Using Critical Swimming Speed During 10 km Open-Water Swimming Competition. JFMK. 2025; 10（3）：302
(68) Yamashita K, Ida R, Koganemaru S, Horiba M, Nojima I, Mima T, Ono Y, Shibata S, Hosoe T, Tachiwa H, Yamashita H, Itoh A, Murata Y, Fujita M, Kamimoto K, Ueki Y. A pilot study on simultaneous stimulation of the primary motor cortex and supplementary motor area using gait-synchronized rhythmic brain stimulation to improve gait variability in post-stroke hemiparetic patients. Front. Hum. Neurosci. 2025; 19: 1618758
(69) Ogata T, Takabayashi T, Toma H, Kikumoto T, Kubo M. Differences in the rotation angles of the upper, middle, and lower thoracic spine, lumbar spine, and pelvis during front crawl swimming. Sports Biomechanics. 2025; 24（12）：3692-3705
(70) Nakajima F, Ikarashi K, Yamashiro K, Ochi G, Fujimoto T, Sato D. Neural representation of proactive and reactive inhibitory control adaptations across sensory modalities. Cerebral Cortex. 2025; 35（10）：bhaf272
(71) Ozawa T, Inoue T, Naruke T, Sato R, Shimoda N, Yuge M. Exercise After Hospitalization Is Associated With Lower Readmission Rates in Older Heart Failure Patients Regardless of Prior Exercise Habits. Circ Rep. 2026; 8（2）：219-227
(72) Suzuki H, Hirakawa T, Yamamoto Y. Factors influencing caster board skill acquisition. Front. Psychol. 2025; 16: 1643100
(73) Morishita Y, Ochi G, Takahashi D, Kato K, Uchiyama W, Nishihara Y. Pitch Selection Ability and Spatial Executive Function Independently Predict Baseball Batting Performance. Sports. 2025; 13（10）：367
(74) Fukuie T, Fujimoto T, Inoue K, Yamaguchi A. Effects of Warm and Cold Contrast Footbaths on Psychological and Physiological Responses in Healthy Adults. Journal of Chiropractic Medicine. 2025; 24（1-4）：260-267
(75) Misuo H, Ozone K, Yoneno M, Usami Y, Takahata K, Minegishi Y, Arakawa K, Kokubun T. Exercise Initiation After Surgical Reconstruction for Rat Rotator Cuff Injury Affects Tendon Healing and Muscle Preservation. Journal Orthopaedic Research. 2025; 44（2）：e70084
(76) Ozawa T, Inoue T, Naruke T, Sato R, Shimoda N, Yuge M. Absence of Post-Discharge Exercise Habits Predicts Functional Decline in Older Heart Failure Patients ―A 6-Month Follow-up Study―. Circ Rep. 2026; 8（3）：410-418
(77) Koshino Y, Takabayashi T, Kobayashi T, Kudo S, Edama M. Ankle dorsiflexion range of motion is associated with compression stiffness of gastrocnemius and soleus muscles, foot structures, and hallux extension range of motion. Foot and Ankle Surgery. 2026; 32（4）：373-378
(78) Kai C, Kasai S, Teramoto R, Yoshida A, Tamori H, Kondo S, Hai PT, Cong NV, Tuan DM, Loc TV, Kodama N. Classifying abnormalities in chest radiographs from Vietnam using deep

learning for early detection of cardiopulmonary diseases. Front. Radiol. 2025; 5: 1703927

(79) Kobayashi M, Okada-Ogawa A, Tanaka Y, Hayashi Y, Kubo A, Tsuda H, Noma N, Iwata K, Hitomi S, Mizuta K, Shinoda M. Trigeminal ganglion interferon-γ signaling drives orofacial neuropathic pain in rats. J Headache Pain. 2025; 27（1）：18

(80) Ishida A, Onoue S, Ikuta Y, Tashiro T, Arima S, Komiya M, Mizuta R, Ishihara H, Kobayashi T, Gao F, Brand A, Yamada T, Maeda N. Quantitative dynamic evaluation of the talus–lateral malleolus distance during forward single-leg drop landing in individuals with chronic ankle instability: a cross-sectional study. J Med Ultrasonics. 2026

(81) Inoue T, Otsuru N, Hirata A. Group-level and personalized optimization for the insula and hippocampus focal electric field in transcranial temporal interferential stimulation: A computational study. Computers in Biology and Medicine. 2026; 200: 111374

(82) Kimura Y, Kubo H, Shimizu N, Yoshida K, Takeuchi M, Kai T, Tanaka S, Yamamoto S, Yoshimura T, Kobayashi S, Suzuki Y, Moronaga K, Nakamura M, Kanai M. Relationship Between Prolonged Sedentary Bout and Functional Recovery in Patients With Subacute Stroke: A Multicenter Observational Study. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation. 2025

(83) Ohara N, Kameo H, Ochi G. Changes in hair cortisol and oxytocin independently associate with positive and negative psychological states in female soccer players. Front. Sports Act. Living. 2026; 7: 1742869

(84) Koshimizu Y, Fukuhara A, Yamamoto Y, Kijima A. Adaptive gait transition in trekking pole-assisted hiking due to fatigue and staircase height elevation. Front. Sports Act. Living. 2026; 7: 1669574

(85) Inoue T, Yoshimura Y, Momosaki R, Kameda I, Okamura M, Tsuge T, Sato H, Tohyama M, Nakashima Y, Shirai Y, Shimizu M, Sakurai Y, Hori A, Endo K, Ushida K, Kato Y, Hayashi S, Yamamoto N, Matsumoto D, Fudeyasu K, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. Do Interventions and Assessments Using Digital Health Services Prevent Frailty in High-Risk Non-Older Adults Who Are at Risk of Frailty?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）：12-33

(86) Akasaka H, Yamada K, Yamada M, Kimura Y, Koyama S, Otobe Y, Suzuki M, Kida R, Yamamoto Y, Mimatsu T, Sato K, Aoki T, Kusumi H, Hamajima T, Sato W, Tanaka S, Fujiwara K, Maetani Y, Ichikawa Y, Kojima I, Terao Y, Ito T, Kimura Y, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H.Do Interventions and Assessments Using Digital Health Services Prevent Frailty in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）：5-11

(87) Yamamoto K, Shimada H, Yamada M, Kimura Y, Koyama S, Otobe Y, Suzuki M, Kida R, Yamamoto Y, Mimatsu T, Sato K, Aoki T, Kusumi H, Hamajima T, Sato W, Tanaka S, Fujiwara K, Maetani Y, Ichikawa Y, Kojima I, Terao Y, Ito T, Kimura Y, Inoue T, Maeda K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. Do Interventions and Assessments Using Digital Health Services Improve Frailty Status in Frail Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）：34-43

(88) Maeda K, Iijima K, Makizako H, Shiratsuchi D, Akaida S, Tateishi M, Inoue T, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. Do Interventions and Assessments That Use Digital Health

Services Prevent Sarcopenia in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）: 44-50

(89) Kakiuchi M, Inoue T, Kobayashi H, Tsukamoto A, Nakano G, Kakehi T, Tanaka T, Nishihara M. Admission systemic inflammation predicts swallowing decline in older adults with pulmonary tuberculosis. Clinical Nutrition ESPEN. 2026; 72: 102913

(90) Komine H, Matsui Y, Momosaki R, Kameda I, Okamura M, Tsuge T, Sato H, Tohyama M, Nakashima Y, Shirai Y, Shimizu M, Sakurai Y, Hori A, Endo K, Ushida K, Kato Y, Hayashi S, Yamamoto N, Matsumoto D, Fudeyasu K, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. Do Intervention and Evaluation Using Digital Health Services Prevent Sarcopenia in High-Risk Non-Older Adults? English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）: 51-62

(91) Satake S, Osuka Y, Kozaki K, Makizako H, Shiratsuchi D, Akaida S, Tateishi M, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. Do Interventions or Assessments Using Digital Health Services Improve Sarcopenia Among Older Adults With Sarcopenia?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）: 63-67

(92) Sugimoto K, Wakabayashi H, Ueshima J, Nagano F, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. Does Exercise Prevent the Onset and Progression of Frailty in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）: 68-70

(93) Ogawa S, Wakabayashi H, Suzuki N, Jinno M, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. Do Exercise Interventions Prevent the Onset and Progression of Sarcopenia in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）: 71-73

(94) Ogawa S, Wakabayashi H, Suzuki N, Jinno M, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H.Do Nutritional Interventions Prevent the Onset and Progression of Sarcopenia in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）: 74-77

(95) Kuzuya M, Kanno Y, Arai H, Nishiguchi S, Iijima K, Umegaki H, Satake S, Sato S, Shinmura K, Sugimoto K, Nishikawa H, Mori K, Yoshimura Y, Wakabayashi H, Inoue A, Inoue T, Uedono H, Uno C, Okamura M, Ogawa S, Ogawa M, Kadoya H, Kinoshita K, Kou K, Sato Y, Shojima K, Suzuki N, Son B, Tsuda A, Nagata K, Nagano F, Fujita Y, Maeda A, Matsui M, Matsumoto A, Miyazaki K, Mori T, Yasuoka M, Yamazaki H, Yamamoto T, Li J, Lyu W. Nutritional Management Guidelines for Sarcopenia and Frailty 2025. Geriatrics Gerontology Int. 2025; 25（S2）: 5-53

(96) Ogawa S, Wakabayashi H, Suzuki N, Jinno M, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H.Prevent the Onset and Progression of Sarcopenia in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（S1）: 78-79

(97) Sugimoto K, Wakabayashi H, Ueshima J, Nagano F, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. Do Nutritional Interventions Prevent the Onset and Progression of

Frailty in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatrics Gerontology Int. 2026; 26（1）：e70299

(98) Maruyama Y, Shibata S, Kojima S, Mima T, Onishi H. Peripheral nerve stimulation synchronized with brain stimulation facilitates somatosensory function. Clinical Neurophysiology. 2026; 184: 2111693

(99) Takahashi M, Tamura Y, Tamiya H, Terashima M, Takahashi H, Banba N, Nakatani Y, Otani N, Ueno A, Yasu T, Maejima Y. Physiotherapist-guided, wearable-informed exercise improves 6-minute walk distance in patients with type 2 diabetes, including those with diabetic kidney disease: a prospective study. Diabetol Int. 2026; 17（3）：45

(100) Okamura M, Shirado K, Shirai N, Yagi T, Inoue T, Ogawa M, Sullivan ES, Von haehling S, Springer J, Anker SD, Momosaki R. Combined Nutritional and Exercise Interventions for Cachexia in Chronic Diseases: A Systematic Review and Meta-analysis Limited to Cancer Cachexia. PRM. 2026; 11

(101) Ishida Y, Maeda K, Inoue T, Murotani K, Saito A, Kawase F, Nagano A, Mori N. Malnutrition defined by the GLIM criteria predicts increased mortality and prolonged hospitalisation among intensive care unit patients: a nationwide database study. Clinical Nutrition. 2026; 61: 106657

(102) Shimizu A, Kawase F, Inoue T. Editorial: The relationship between nutrition and frailty/multimorbidity: prevention and clinical nutritional management. Front. Nutr. 2026; 13: 1821896

(103) Taishiro K, Hiroshi O, Mizuki H, Michio M, Suguru S, Noriaki M, Makoto K, Kohei O, Hironobu K, Takayuki T. Effects of an Intervention for Improving Toe Pressure Strength on the Physical Function of Older Adults Requiring Long-Term Care: A Double-Blind Randomized Controlled Trial. Journal of Geriatric Physical Therapy. 2026

(104) Yoshida N, Kageyama H, Akai H, Sasaki K, Sakurai N, Koori N, Yamamoto S, Kodama N. Deep learning approach to super-resolution correction of brain MRI motion artifacts for accurate hippocampal volumetry. Sci Rep. 2026; 16（1）：14493

(105) Taketa Y, Takahashi H. Intramuscular collagen accumulation in different types of skeletal muscle fibers in middle-aged male rats. J Toxicol Pathol. 2026; 39（1）：45-50

(106) Sato Y, Mothoishi E, Kakuba R, Nagatsuka Y, Abe T, Fujii Y. Pharmacokinetics of Dexmedetomidine in an In Vitro Circuit Model and In Vivo Extracorporeal Membrane Oxygenation Rat Model. Cureus. 2025

2）国内誌

（1）栁田光，上谷佑稀，瀧本知未，栁田頼英，井上達朗．低栄養患者のリハビリテーションにおける「運動負荷量の調整」と参照栄養指標に関するWebアンケート調査：単施設における検討．日本栄養・嚥下理学療法学会誌．2026

3．学会等研究発表

1）国際学会・筆頭

（1）Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effects of different foot strike patterns during running on cumulative load of Achilles tendon force. Rehabilitaton Science convention (Philippines), 2025.5.3-5.4.

（2）Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effects of different foot strike patterns during running on vertical average loading rate. World Physiotherapy Congress 2025 (Tokyo), 2025.5.29-5.31.

（3）Sato S, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. The step motion of catcher contributes to enhanced throwing performance. World Physiotherapy Congress 2025 (Tokyo), 2025.5.29-5.31.

（4）Okuya M, Kikumoto T, Suzuki S, Takabayashi T, Kubo M. The Diagnostic Value of the Length Change Rate between the Fibular Lateral Malleolus and Talus in relation to Anterior Cruciate Ligament Injury Risk. Rehabilitaton Science convention (Philippines), 2025.5.3-5.4.

（5）Kikumoto T, Suzuki S, Okuya M, Takabayashi T, Kubo M. Single-legged landing behavior of high school basketball players with chronic ankle instability. Rehabilitaton Science convention (Philippines), 2025.5.3-5.4.

（6）Kikumoto T, Suzuki S, Okuya M, Takabayashi T, Kubo M. Investigation of Recurrent Ankle Sprains as Risk Factor for ACL. Rehabilitaton Science convention (Philippines), 2025.5.3-5.4.

（7）Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Influences of impeding horizontal force around the center of mass on common neural drives to ankle muscles during gait. World Physiotherapy Congress 2025, 2025.5.29-5.31.

（8）Kitano A, Matsuura Y, Suzaki Y, Kagami T, Kumazawa S, Yamazaki A, Okamoto Y, Fujimoto T. Effect of muscle temperature-induced changes in blood flow and stiffness on maximal strength. European College of Sport Science (Italia), 2025.7.1-7.4.

（9）Inoue T, Maeda K, Ishida Y, Kawase F, Saito A, Nagano A, Ueshima J, Miyahara S, Saino Y, Murata H, Murotani K. Delayed Meal Provision Increases Risk of Hospital-Associated Disability, Complications, and Prolonged Length of Stay in Older Patients with Heart Failure: A Nationwide Study. 47th European Society for Clinical Nutrition and Metabolism, 2025.9.13-9.16.

(10) Saito A, Ishida Y, Inoue T, Kawase F, Nagano A, Ueshima J, Murotani K, Maeda K. ASSOCIATION OF BMI WITH IN-HOSPITAL MORTALITY AND CLINICAL OUTCOMES IN PATIENTS WITH HIP FRACTURE: A NATIONWIDE INPATIENT DATABASE STUDY. 47th European Society for Clinical Nutrition and Metabolism, 2025.9.13-9.17.

(11) Amakasu K, Inoue T, Kobayashi S, Saito A, Kamada N, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Watanabe Y. Low muscle mass persists despite a higher extracellular water-to-total body water ratio, and their combination predicts the poorest functional outcome in patients with acute stroke. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(12) Furusawa M, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Kodama N, Sakurai N, Izumi T, Kamiya K, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Exploring a Thenar Muscle-Based Index for Skeletal Muscle Mass: MRI-Based Validation and Community Application. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(13) Saito A, Inoue T, Ishida Y, Kawase F, Nagano A, Murotani K, Maeda K. Association of Osteosarcopenia at Admission With In-Hospital Fracture and Outcomes in Acute Stroke: A Nationwide Database Study. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(14) Kamada N, Inoue T, Ogino T, Kobayashi S, Amakasu K, Saito A, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Wada Y, Aoyagi Y. Sarcopenic Obesity Diagnosed by the Japanese Working Group Criteria in Gastrointestinal Cancer Patients: Prevalence and Association with Postoperative Complications. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(15) Kasai A, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Furusawa M, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Multidomain frailty assessment predicts one-year incidence of Mild Cognitive Impairment in community-dwelling middle and older adults. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(16) Sato S, Takabayashi T, Iwasaki Y, Nomura Y, Kikumoto T, Kubo M. Relationship between ball velocity and upper extremity joint moments in baseball catchers. 14th Pan-pacific conference on rehabilitation（Hong kong), 2025.11.8-11.9.

(17) Shimaya M, Kikumoto T, Takabayashi T, Kobo M. Relationship Between Quadriceps Intramuscular Fat Content and Rate of Torque Development Across Different Contraction Modes Following Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. 14th Pan-pacific conference on rehabilitation（Hong kong), 2025.11.8-11.9.

(18) Tsubaki A, Saito S, Shioya T, Tamiya H, Hayao K, Morishita S. Moderate-Intensity Cycling Exercise Altered Cerebral Oxygenation Recovery From Thigh Cuff Release-Induced Acute Hypotension. SPIE West 2026, 2026.1.17-1.23.

(19) Kobayashi S, Inoue T, Shinohara T, Imai T, Yamaura T, Sakakibara N, Ishibashi K, Watanabe M, Tsubaki A. The Life-Space Assessment for Institutionalized Settings–Proxy reflects high therapeutic activity in hospitalized patients. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(20) Kobayashi S, Inoue T, Shinohara T, Imai T, Yamaura T, Sakakibara N, Ishibashi K, Watanabe M, Tsubaki A. The Life-Space Assessment for Institutionalized Settings–Proxy reflects high therapeutic activity in hospitalized patients. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(21) Amakasu K, Inoue T, Kobayashi S, Saito A, Kamada N, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Watanabe Y. Low muscle mass persists despite a higher extracellular water-to-total body water ratio, and their combination predicts the poorest functional outcome in patients with acute stroke. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(22) Kamada N, Inoue T, Ogino T, Kobayashi S, Amakasu K, Saito A, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Wada Y, Aoyagi Y. Sarcopenic Obesity Diagnosed by the Japanese Working Group Criteria in Gastrointestinal Cancer Patients: Prevalence and Association with Postoperative Complications. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(23) Kasai A, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Furusawa M, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Multidomain frailty assessment predicts one-year incidence of Mild Cognitive Impairment in community-dwelling middle and older adults. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(24) Furusawa M, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Kodama N, Sakurai N, Izumi T, Kamiya K, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Exploring a Thenar Muscle-Based Index for Skeletal Muscle Mass: MRI-Based Validation and Community Application. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17-10.18.

(25) Shimojo H, Kuroko D, Ito R, Nakazono Y, Tsunokawa T, Sengoku Y, Shimoyama Y, Takagi H. The relationship between pressure distribution and flow patterns around the swimmer's hand. 2026 ARIHHP国際フォーラム，46074

(26) Shimojo H, Nakazono Y, Sakakibara J, Tsunokawa T, Sengoku Y, Takagi H. The distribution of pressure pattern around foot and wake flow fields during underwater kick swimming. 16th International Symposium on Particle Image Velocimetry – ISPIV 2025, 2025.6.26-6.28.

2）国際学会・共同

（1）Imai R, Tsubaki A, Abe T, Yamaguchi S.Comparison of cerebral oxygenation dynamics in septic ICU patients with and without early mobilisation.ISOTT2025, 2025.8.23-8.29.

（2）Maekawa Y, Iwata K, Takahashi T, Yamada K, Kohara N, Tsubaki A.Effects of Stroke Severity on Cerebral Oxygenation During Head Elevation in Acute Stroke.ISOTT2025, 2025.8.23-8.29.

（3）Ishii Y, Takahashi Y, Tsubaki A.Cerebral oxygenation monitoring using near-infrared spectroscopy during the acute-phase mobilisation in a patient with acute heart failure and cognitive dysfunction: a case report.ISOTT2025, 2025.8.23-8.29.

（4）Takahashi T, Iwata K, Maekawa Y, Yamada K, Takahara N, Kohara N, Tsubaki A.Comparison of Prefrontal Cortex Oxygenation during Walking between Individuals with Mild Acute Stroke and Healthy Control.ISOTT2025, 2025.8.23-8.29.

（5）Kijima A, Okumura M, Yamamoto Y, Kallen R W, Richardson M J.Symmetry Breaking and Social Coordination in Children.International Workshop on Team and Multiagent Dynamics, 2025.7.15-7.16.

（6）Yoshida Y, Yamaguchi H, Nishino R, Hirabayashi R, Okada Y.Effect of sustained intrathoracic pressure load on remote facilitation of the soleus H-reflex.2026 International Association for Dental, Oral, and Craniofacial Research, 2026.3.25-3.28.

（7）Kanai M, Kimura Y, Sakoda T, Ishigaki T, Ogawa T, Shimizu N, Kubo H, Kobayashi S, Takeuchi M, Tanaka S, Yoshida K, Yamamoto S, Moronaga K, Kai T, Suzuki Y, Yoshimura T, Ota T.Clustering of sedentary behavior and longitudinal changes in patients with stroke undergoing rehabilitation.Asia-Pacific Society for Physical Activity 2025, 2025.11.26-11.28.

（8）Nakazono Y, Shimojo H, Sakakibara J, Sengoku Y, Takagi H, Tsunokawa T.Exploring the Potential of the PIV Method: Advancing High-Performance Swimming ~ A Case Study on Human UUS ~. 16th International Symposium on Particle Image Velocimetry – ISPIV 2025, 2025.6.26-6.28.

3）国内学会・筆頭

（1）西口ほのか，高林知也，菊元孝則，久保雅義．反発性の異なるインソールがアキレス腱張力に与える影響．第６回足の構造と機能研究会学術集会，2025.6.7-6.8.

（2）角田彪瑠，高林知也，平塚栞，菊元孝則，久保雅義．曲線路ランニングにおける足・膝・股関節キネマティクスの左右差．第６回足の構造と機能研究会学術集会，2025.6.7-6.8.

（3）井上達朗．筋・骨同時測定によるオステオサルコペニア評価法の開発と栄養学的バイオマーカーの解明．第67回日本老年医学会学術集会（千葉），2025.6.28-6.29.

（4）井上達朗．理学療法士が代謝栄養学を学ぶ意義，2025.7.3-7.4.

（5）阿部紗弓，田宮創，原田凱士，竹内裕実，武藤峻士，岡村優里，吉野琢朗，川尻陽菜，椿淳裕．４週間にわたる下肢血流制限下のインターバルトレーニングが外側広筋の酸素取り込み能力に与える影響．第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，2025.7.19-7.20.

（6）吉野琢朗，田宮創，川尻陽菜，斎藤真太朗，塩谷拓馬，椿淳裕．下肢血流制限下の単回のインターバル運動が外側広筋の酸素取り込み勾配に与える急性効果．第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，2025.7.19-7.20.

（7）長尾彩音，長坂和明，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Distinct cortical responses to dorsal and ventral retrosplenial cortex stimulation: a wide-field imaging study. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.27.

（8）小川有生人，長坂和明，長尾彩音，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-dependent brain activity changes in a rat model of central post-stroke pain. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.27.

（9）安達航希，長坂和明，長尾彩音，小川有生人，鈴木孝昇，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-specific inhibition of somatosensory responses by ventral tegmental area activation. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.27.

(10) 渡辺佳音，長坂和明，安達航希，長尾彩音，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．The role of the basolateral amygdala in the onset of central post-stroke pain. 第48回日本神経科学

学会（新潟），2025.7.24-7.27.

(11) 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水誘発性筋痛モデルラットの筋組織像．第11日本筋学会学術集会（仙台），2025.8.22-8.23.

(12) 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水誘発性筋痙攣モデルラットにおける筋弛緩薬の抑制効果．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

(13) 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水を投与したラット前脛骨筋における組織学的変化．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(14) 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水誘発性筋痛モデルラットの前脛骨筋における光学顕微鏡観察．第25回新潟医療福祉学会学術大会，2025.10.25.

(15) 太田大樹，田口徹．伸張性収縮後のラット下腿筋膜で発現増大した筋機能関連遺伝子クラスター．第25回新潟医療福祉学会学術大会，2025.10.25.

(16) 太田大樹，田口徹．遅発性筋痛モデルおよびカラゲニン誘発性筋炎モデルの筋においてElkin1 mRNAレベルは増大する．第25回新潟医療福祉学会学術大会，2025.10.25.

(17) 太田大樹，田口徹．伸張性収縮後のラットにおける機械感受性イオンチャネルの発現増大．第103回日本生理学会大会，2026.3.10-3.12.

(18) 小根山慶汰，阿部拓也，塙晴雄，藤本知臣，岡本優美，山代幸哉，越智元太．低酸素下運動による認知疲労に脳内トリプトファン流入が関わるか．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

(19) 清水杏夏，岡本優美，藤本知臣，山代幸哉，越智元太．起立時心拍変動と毛髪中オキシトシンが異なるメンタルヘルスの予測指標になりうる．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

(20) 越智元太，小山智也，小根山慶汰，岡本優美，藤本知臣，山代幸哉．表情表出強度が脳覚醒低下の予測指標になりうる．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

(21) 岡本優美，天野達郎．習慣的な運動がアセチルコリンおよびCGRP誘発性の皮膚血管拡張に及ぼす影響と一酸化窒素合成酵素の役割．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

(22) 北野侑，松浦由生子，藤本知臣．筋温の変化に伴う最大筋力の変化に血流量および筋スティフネスの変化が関与するか．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

(23) 椿淳裕．安静時・運動時の脳循環モニタリングを活用したリハビリテーション介入の最適化戦略．第45回日本臨床運動療法学会学術集会，2025.9.13-9.14.

(24) 井上達朗．整形外科疾患に対する栄養嚥下理学療法．第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会（東京），2025.9.6-9.7.

(25) 五十嵐貫太，新山祐貴，小澤哲也，佐藤隆一，霜田直史，井上達朗．救急科入院患者におけるオトガイ舌骨筋の筋断面積は入院関連機能低下に影響する．第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会（東京），2025.9.6-9.8.

(26) 齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．触覚方位弁別能力を評価するための至適条件の検討．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(27) 清水杏夏，岡本優美，藤本知臣，山代幸哉，越智元太．起立時心拍変動と毛髪中オキシトシンが異なるメンタルヘルスの予測指標になりうる．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

(28) 小根山慶汰，阿部拓也，塙晴雄，藤本知臣，岡本優美，山代幸哉，越智元太．低酸素下運動による認知疲労に脳内トリプトファン流入が関わるか．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

(29) 越智元太，小山智也，小根山慶汰，岡本優美，藤本知臣，山代幸哉．表情表出強度が脳覚醒低下の予測指標になりうる．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

(30) 関根悠介，齊藤慧，平賀大河，小島翔，大西秀明．低頻度末梢電気刺激が触覚機能と脳律動にも

たらす効果．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(31) 山﨑恭平，齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．一次体性感覚野へのtDCSにおいて電極配置の違いが触覚機能に与える影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(32) 中川あやめ，齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．触覚における知覚学習の課題特異性に関する検討．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(33) 北谷亮輔，天野明音，渡辺莉茉，大鶴直史，芝田純也，大西秀明．歩行中の一次運動野に対する経頭蓋交流電気刺激による歩行の時空間的指標への影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(34) 髙橋ひろな，犬飼康人，長坂和明，宮口翔太，櫻井典子，児玉直樹，大鶴直史，大西秀明．若年健常者における閉眼片脚立位バランスと機能的との関連．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(35) 椿淳裕．重症患者の離床時の脳酸素飽和度と予後．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31-11.1.

(36) 黒崎純暉，芝田純也，大西秀明，星春輝，和田有史，美馬達也．動作語・動作画像の理解が発声反応に及ぼす影響の検討．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(37) 芝田純也．経頭蓋静磁場刺激（tSMS）が切り開くリハビリテーションの「新世紀」．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(38) 小島翔，長坂和明，齊藤慧，大鶴直史，田邊かこ，櫻井典子，児玉直樹，原正之，大西秀明．アスリートと非アスリートに対する擦刺激が脳活動に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(39) 田邊かこ，小島翔，齊藤慧，大西秀明．異なる刺激周波数を用いた経皮的耳介迷走神経刺激が手指の体性感覚機能に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(40) 渡邊愼之介，小島翔，齊藤慧，田邊かこ，齋藤大河，大西秀明．下肢を用いた運動覚制御課題の成績と脳灰白質容積との関連．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(41) 余村花梨．アスリートのソーシャル・サポート互恵性の特徴と脳構造・神経ネットワーク．第52回日本スポーツ心理学会（京都），2025.9.26-9.28.

(42) 北谷亮輔，伊藤智崇，山本雅樹，間野直人，鈴木雄太，水田直道，関口雄介．脳卒中患者における異常歩行パターンの分類と定義：スコーピングレビュー．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31-11.1.

(43) 阿部紗弓，田宮創，原田凱士，竹内裕実，武藤峻士，岡村優里，吉野琢朗，川尻陽菜，椿淳裕．４週間の下肢血流制限下のインターバルトレーニングが健常成人の心拍出量と外側広筋の酸素取り込み能力の変化に及ぼす影響．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，2025.9.26-9.27.

(44) 川尻陽菜，田宮創，大倉康太郎，曽我智里，吉野琢朗，椿淳裕．ベルト電極式骨格筋電気刺激法の周波数による違いが骨格筋微小血管反応性に与える即時効果～研究計画を中心とした報告～．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，2025.9.26-9.27.

(45) 田宮創．骨格筋微小循環の特性とリハビリテーションへの応用．第24回日本血管血流学会学術集会，2025.11.2.

(46) 川尻陽菜，田宮創，大倉康太郎，曽我智里，井坂颯汰，正谷瑶姫，吉野琢朗，椿淳裕．ベルト電極式骨格筋電気刺激法による心拍出量の増加が非運動肢の骨格筋微小血管反応性及び導管動脈の血行動態に与える即時効果-予備的調査-．第24回日本血管血流学会学術集会，2025.11.2.

(47) 井上達朗．リハビリテーションからみたサルコペニア・フレイルの原因の臨床推論．第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会，2025.11.1.

(48) 井上達朗.「サルコペニア・フレイルの予防・改善に関するデジタルヘルスのガイドライン」の概要. 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2025.11.2.

(49) 五十嵐貫太, 新山祐貴, 小澤哲也, 佐藤隆一, 霜田直史, 井上達朗. 救急科入院患者におけるオトガイ舌骨筋の低横断面積は入院中の嚥下機能を低下させるリスク因子である. 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2025.11.1.

(50) 甘粕康太, 井上達朗, 小林壮太, 齋藤新貴, 鎌田夏未, ブラウン章子, 笠井紅里, 古澤芽衣, 丸山麻樹, 佐藤卓也, 渡部裕美子. 体液量が減少した急性期高齢脳卒中患者の細胞外水分比の上昇とSMI低下の併存は退院時の機能的指標を低下させる. 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2025.11.1.

(51) 葛西祐之介, 井上達朗, 五十嵐貫太, 新山祐貴, 小澤哲也, 佐藤隆一, 霜田直史. 救急科に入院した高齢入院患者のオトガイ舌骨筋の低横断面積は非自宅退院のリスク要因である. 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2025.11.1.

(52) 井上達朗. ガイドラインの今後の展望. 健康長寿のためのデジタルヘルスコンソーシアム設立記念シンポジウム, 2025.10.30.

(53) 鎌田夏未, 井上達朗, 甘粕康太, 齋藤新貴, 小林壮太, 和田勇治, 青柳陽一郎. 外科手術を受ける消化器がん患者における術前の身体的QOLの低下は退院時の身体機能を低下させる. 第８回日本がん・リンパ浮腫理学療法学会学術大会, 2025.11.1.

(54) 片桐里央, 井上達朗, 平田萌々花, 小澤哲也, 小澤祐治, 佐藤隆一, 椿淳裕, 霜田直史, 鈴木良介. 急性期脳卒中患者における低身体活動量は合併症の発症を高める. 第23回日本神経理学療法学会学術大会, 2025.11.1.

(55) 髙橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 前庭ノイズ電流刺激が閉眼立位バランスに与える影響と効果の個人差に関連する安静時機能的結合の同定. 第55回臨床神経生理学会学術大会, 2025.11.13-11.15.

(56) 奥田幸花, 北谷亮輔, 星歩夢, 村山稔, 大西秀明. 短下肢装具とその種類が身体重心に対する牽引歩行中の推進力に与える影響. 第41回日本義肢装具学会学術大会, 2025.11.8-11.9.

(57) 反町瑠菜, 北谷亮輔, 渡辺莉茉, 天野明音, 大西秀明. 運動前野と補足運動野への経頭蓋交流電気刺激の歩行周期時間に近似した刺激周波数が歩行の時空間的指標に与える影響. 第55回日本臨床神経生理学会学術大会, 2025.11.13-11.15.

(58) 渡辺莉茉, 北谷亮輔, 天野明音, 反町瑠菜, 大西秀明. 小脳に対する経頭蓋交流電気刺激の歩行周期時間に近似した刺激周波数の違いによる歩行の時空間的指標の変化. 第55回日本臨床神経生理学会学術大会, 2025.11.13-11.15.

(59) 齋藤大河, 小島翔, 齊藤慧, 田邉かこ, 大西秀明. 一次体性感覚野に対する高精細直流電流刺激が運動学習および短潜時求心性抑制に及ぼす影響. 第55回日本臨床神経生理学会学術大会, 2025.11.13-11.15.

(60) 高林知也, 江玉睦明, 稲井卓真, 久保雅義. 足関節バイオメカニクスと足部アライメントの違いが片脚着地動作時のアキレス腱張力に与える影響. 第50回日本足の外科学会学術集会, 2025.11.13-11.14.

(61) 高林知也. 歩行およびランニング中の関節間協調性の可視化. 第13回日本運動器理学療法学会学術集会, 2025.11.22-11.23.

(62) 山波克彰, 横田裕丈, 大屋りょう, 木村玲奈, 小林弘人, 佐藤来夢, 須貝菜央, 坂本航大, 平林怜, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 高強度運動後の経皮的耳介迷走神経刺激（taVNS）が反応時間と認知機能に及ぼす影響. 第78回日本自律神経学会総会, 2025.10.24-10.25.

(63) 横田裕丈, 佐藤亜美, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 久保幸大, 中山侑也, 佐藤来夢, 須貝菜央, 坂本航大, 平林怜, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 経皮的耳介迷走神経刺激（taVNS）が反応時間に及ぼす影響と自律神経指標との関連. 第78回日本自律神経学会総会, 2025.10.24-10.25.

(64) 横田裕丈．経皮的迷走神経刺激による鎮痛効果とその自律神経学的基盤．第55回日本臨床神経生理学会学術大会，2025.11.13-11.15.

(65) 佐野颯一郎，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，中山侑也，久保幸大，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．運動誘発性鎮痛に対する経皮的耳介迷走神経刺激の併用効果と自律神経反応性の関連．第55回日本臨床神経生理学会学術大会，2025.11.13-11.15.

(66) 牧野郁美，横田裕丈，安達朋笑，山波克彰，木村玲奈，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．高強度間欠的運動中の経皮的耳介迷走神経刺激がパフォーマンスと自律神経応答に及ぼす影響．第55回日本臨床神経生理学会学術大会，2025.11.13-11.15.

(67) 佐藤慎之助，高林知也，菊元孝則，江玉睦明，久保雅義．捕手における捕球前のステップ動作は肩・肘関節モーメントに影響を与えるのか？．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，2025.11.2-11.3.

(68) 大塚陽華梨，阿部泰知，今井萌，堀田一樹，小曽根海知，玉越敬悟，髙橋英明．Ⅰ型糖尿病モデルラットにおける前脛骨筋の毛細血管数の部位差 -近位部と遠位部の比較検討-．第25回新潟医療福祉学会学術大会，2025.10.25.

(69) 井上達朗．高齢骨折患者に対する老年栄養学的および代謝栄養学的視点．第13回日本運動器理学療法学会学術集会，2025.11.22-11.23.

(70) 高林知也，江玉睦明，稲井卓真，久保雅義．ランニング中の後足部，中足部，前足部に生じる床反力の推定．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会，2025.11.29-11.30.

(71) 岩崎有真，高林知也，佐藤慎之助，菊元孝則，久保雅義．投球動作における踏み込み脚の膝関節伸展運動が肘関節モメントに与える影響とそのメカニズムの検討．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会，2025.11.29-11.30.

(72) 佐藤希美花，高林知也，西口ほのか，角田彪瑠，菊元孝則，久保雅義．曲線路ランニング中における左右下肢のアキレス腱張力の違い．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会，2025.11.29-11.30.

(73) 佐藤慎之助，高林知也，岩崎有真，野村弦玄，菊元孝則，久保雅義．捕手における捕球前ステップの有無は肩・体幹キネマティクスへ影響を与えるのか？．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会，2025.11.29-11.30.

(74) 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，久保雅義．インソールの反発性の違いが前足部接地ランニング時のアキレス腱張力に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，2025.11.2-11.3.

(75) Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effect of different insole resilience on planter fascia force during walking. 14th Pan-pacific conference on rehabilitation (Hong kong), 2025.11.8-11.9.

(76) 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，久保雅義．インソールの反発性の違いが前足部接地ランニング時の足底腱膜張力に与える影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会，2025.11.29-11.30.

(77) 角田彪瑠，高林知也，西口ほのか，菊元孝則，久保雅義．曲線路ランニング中における左右下肢のアキレス腱張力の違い．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，2025.11.29-11.30.

(78) 小川有生人，長坂和明，釣木澤朋和，渡辺由美子，長尾彩音，肥後範行．拡散テンソルMRIによる脳卒中後疼痛ラットモデルの構造的神経ネットワーク変化の解明．JAPAN PAIN WEEK-JOINT CONFERENCE，2025.12.4-12.6.

(79) 瀬尾歩，長坂和明，長尾彩音，市村優真，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．心周期が一次運動野の興奮性に与える影響．JAPAN PAIN WEEK-JOINT CONFERENCE，2025.12.4-12.6.

(80) 島谷美海花，菊元孝則，高林知也，江玉睦明，久保雅義．膝前十字靭帯再建術者における遠心性収縮時のトルク発揮率と大腿四頭筋の筋内脂肪量との関係．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，2025.11.2-11.3.

(81) 島谷美海花，菊元孝則，高林知也，久保雅義．前十字靭帯再建術後における大腿四頭筋内脂肪量と等尺性トルク発揮率の関係．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会，2025.11.29-11.30.

(82) 小曽根海知，冬至寛大，谷村大樹，熊谷竜徳，早尾啓志，荒川航平，高畠啓，金村尚彦，高橋英明．関節リウマチモデルマウスにおける低強度運動の関節炎および骨破壊保護効果の性差．第13回日本運動器理学療法学会学術集会，2025.11.22-11.23.

(83) 小曽根海知．活動期関節リウマチモデルマウスに対する低負荷運動療法の効果検証－巨視的変化に着目して－．第60回日本理学療法学術研修大会，2025.5.31-6.1.

(84) 高林知也．なぜ統計学って理学療法に必要なの？．第60回日本理学療法学術研修大会，2025.5.31-6.1.

(85) 久保亜抄子．Analysis of changes in ganglion neuronal excitability induced by satellite glial cells activation using patch clamp recordings from neurons. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.27.

(86) 久保亜抄子．痛みの病態生理と鍼の鎮痛機序．第75回日本東洋医学会学術大会，2025.6.6-6.8.

(87) 吉岡亮伍，小林壮太，井上達朗，河井琉飛，高橋南子，大橋美心，笠井紅里，古澤芽依，西野光貴，椿淳裕．異なる生体電気インピーダンス装置で算出される四肢除脂肪量は固定誤差を生じる．第４回日本老年療法学会学術集会，2025.12.6-12.7.

(88) 甘粕康太，井上達朗，小林壮太，齋藤新貴，鎌田夏未，ブラウン章子，笠井紅里，古澤芽依，丸山麻樹，渡部裕美子．急性期軽症脳卒中患者において細胞外水分比の増加を考慮した位相角の低下は退院時の機能低下を予測する．第４回日本老年療法学会学術集会，2025.12.6-12.7.

(89) 井上達朗．「低栄養」に対する老年療法の『しんか』．第４回日本老年療法学会学術集会，2025.12.6-12.7.

(90) 宮口翔太，犬飼康人，五十嵐貫太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野に対する徐波帯域の経頭蓋交流電流刺激が運動スキルの獲得に与える効果．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(91) 廣瀬貴喜，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．バランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の持続性の検証．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(92) 武田真桜，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，廣瀬貴喜，齊藤慧，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．足底への高頻度反復感覚刺激が動的バランス制御に与える刺激効果の検証．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(93) 渡邉華南，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，廣瀬貴喜，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野および小脳に対する経頭蓋交流電流刺激がバランススキルの獲得に与える効果．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(94) 志田光紀，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，廣瀬貴喜，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野への経頭蓋ランダムノイズ刺激の刺激実施時期がバランス機能に与える影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会，2025.10.17-10.18.

(95) 平林怜，阿部花映，須貝菜央，中谷文香，徳永涼奈，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．咬合がもたらす反応能力と軌道予測能力の向上．第79回 日本体力医学会大会，2025.9.17-9.19.

(96) 須貝菜央，平林怜，徳永涼奈，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．咬合の遠隔促通効果は反応時間を向上させる．第79回 日本体力医学会大会，2025.9.17-9.19.

(97) 徳永涼奈，平林怜，須貝菜央，髙橋麻衣，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．息止めが脊髄機能に及ぼす影響．第79回 日本体力医学会大会，2025.9.17-9.19.

(98) 平林怜，岡田芳幸，吉田結梨子，須貝菜央，中谷文香，江玉睦明．咬合がバッティングパフォーマンス向上に寄与～軌道予測からバッティングに至るまで～．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会，2025.12.6-12.7.

(99) 須貝菜央，平林怜，岡田芳幸，吉田結梨子，中谷文香，江玉睦明．咬合補正が単純反応時間と選択反応時間に与える影響．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会，2025.12.6-12.7.

(100) 中谷文香，平林怜，岡田芳幸，吉田結梨子，須貝菜央，江玉睦明．咬合が集中力課題に及ぼす影響．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会，2025.12.6-12.7.

(101) 平林怜，大河内偉琉．緊張性振動反射介入による筋疲労改善効果の検証．日本物理療法合同学術大会2026，2026.1.31-2.1.

(102) 反町瑠菜，北谷亮輔，大西秀明．不整地歩行の適応過程に関する神経筋制御メカニズムの検討と展望．第31回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会，2025.12.6.

(103) 齊藤慧，大鶴直史，関根悠介，相澤凛，時田優菜，平賀大河，小島翔，大西秀明．個人の脳律動に基づく経頭蓋電気刺激が脳律動活動と触覚機能にもたらす影響．日本物理療法合同学術大会2026，2026.1.31-2.1.

(104) 井上達朗．学術の信頼性を支える査読-基本姿勢と実践的アプローチ-．第41回日本栄養治療学会学術集会，2026.2.13-2.14.

(105) ブラウン章子，井上達朗，齋藤新貴．リハビリテーションを実施した高齢入院患者における低栄養診断のための上腕周囲長のカットオフ値の検討．第41回日本栄養治療学会学術集会，2026.2.13-2.15.

(106) 小林壮太，加茂智彦，荻原啓文，田村俊太郎，齋藤拓之，久保宏紀，五十嵐達也，海津陽一，宮田一弘．脳卒中者におけるBerg Balance Scaleを用いた診断予測精度―システマティックレビュー・メタアナリシス―．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31-11.1.

(107) 椿淳裕，今井遼太，岩田健太郎．脳血流の見える化による安全かつ積極的な「脳保護リハ戦略」．第53回日本集中治療医学会学術集会，2026.3.5-3.7.

(108) 鎌田夏未，井上達朗，荻野拓也，甘粕康太，齋藤新貴，小林壮太，和田勇治，青柳陽一郎．消化器がん患者における術後の抑うつ発症は退院時の身体的QOL低下と関連する．第12回日本がんリハビリテーション学会学術集会，2026.2.28-3.1.

(109) Kamada N, Inoue T, Ogino T, Amakasu K, Saito A, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Kobayashi S, Wada , Aoyagi Y. Malnutrition with High Body Fat increase Complication Risk after Gastrointestinal Cancer Surgery in Older Adults. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14.

(110) 齋藤新貴，石田優利亜，井上達朗，川瀬文哉，永野彩乃，室谷健太，前田圭介．大腿骨近位部骨折患者における入院時BMIと院内死亡・院内転帰の非線形的関連：全国入院データベース研究．第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14.

(111) Brown A, Inoue T, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Kasai A, Furusawa M, Kobayashi S, Wakunami Y, Kushi S, Wakunami A. The Cut-off Values of Mid-Upper Arm Circumference for Malnutrition Diagnosis Using GLIM in Older Japanese Patients. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14.

(112) Furusawa M, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Kasai A, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Brown A, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Sarcopenic Obesity by Japanese Working Group on Sarcopenic Obesity and the association with 6-Minute Walk Distance. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14.

(113) 井上達朗．大学教員や学生指導者がリハ栄養を教える際の勘所．第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14.

(114) 久保亜抄子，岩田幸一，篠田雅路，田口徹，水村和枝．三叉神経節細胞の興奮性はサテライトグリアとの双方向性の情報伝達を介して短時間で変化する．第103回日本生理学会大会，2026.3.10-3.12.

(115) 田宮創．DKDの重症化予防とリハビリテーション関連職種の関わり方．第16回日本腎臓リハビ

リテーション学会学術集会，2026.3.14-3.15.

(116) 徳永亮太，髙本陽菜．腰部筋慢性炎症による広汎性熱性痛覚過敏における扁桃体-中脳水道周囲灰白質投射の痛覚調節機能．第103回日本生理学会大会，2026.3.10-3.12.

(117) 田口徹，山本陸央，太田大樹．複合持続ストレス負荷により生じる筋痛覚過敏の脊髄機構．第11回日本筋学会，2025.8.22-8.23.

(118) 田口徹，太田大樹．遅発性筋痛モデルラットの筋超微形態の電子顕微鏡観察．第30回日本基礎理学療法学会，2025.10.17-10.18.

(119) 田口徹，太田大樹．伸張性収縮負荷による機械痛覚過敏モデルラットを用いた筋超微形態観察．第25回新潟医療福祉学会，2025.10.25.

(120) 田口徹，ウルリッヒ・ホハイセル，ロルフ-デトレフ・トレーデ，ジークフリート・メンゼ．腰部筋と下肢筋から中脳中心灰白質腹外側部へ投射する脊髄後角ニューロン．第25回新潟医療福祉学会，2025.10.25.

(121) 田口徹，ウルリッヒ・ホハイセル，ロルフ-デトレフ・トレーデ，ジークフリート・メンゼ．腰部および下肢筋の痛みを視床後外側腹側核へ投射する脊髄後角ニューロン．第25回新潟医療福祉学会，2025.10.25.

(122) Yamamoto R, Kametani I, Ota H, Taguchi T. Multiple continuous stress-induced spinal nociceptive hypersensitivity in rats. 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 2025.7.24-7.27.

(123) 田口徹．筋・筋膜性腰痛の神経解剖学的および神経生理学的特徴．第47回日本疼痛学会，2025.12.4-12.6.

(124) Taguchi T, Ota H. Ultrastructural observation of the muscle in a rat lengthening contraction-induced hyperalgesia model. 第103回日本生理学会，2026.3.10-3.12.

(125) 八木京介，山本陸央，太田大樹，田口徹．ヒト腰部遅発性筋痛の発症における異なる体幹姿位での伸張性収縮による比較．第25回新潟医療福祉学会，2025.10.25.

(126) 山本陸央，ミゲル・ガルシア，太田大樹，田口徹．繰り返し寒冷ストレス負荷マウスへのカプサイシン筋注後の脊髄後角におけるc-Fos陽性細胞の発現変化．第25回新潟医療福祉学会，2025.10.25.

(127) 小林雄太，山本陸央，太田大樹，田口徹．複合持続ストレス誘発性疼痛モデルラットにおける皮膚炎症の可視化．第25回新潟医療福祉学会，2025.10.25.

(128) 山本陸央，太田大樹，田口徹．複合持続ストレスモデルラットの脊髄後角における炎症性サイトカインの遺伝子発現．第25回新潟医療福祉学会，2025.10.25.

(129) 小島卓巳，太田大樹，田口徹．健常大学生における一晩の断眠は圧痛閾値を広範囲に低下させる．第25回新潟医療福祉学会，2025.10.25.

(130) 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．示指および中指を除いたグリップ動作が外反ストレス下における内側肘関節安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会，2025.11.29-11.30.

(131) 加藤雄樹，石垣智恒，佐藤来夢，坂本航大，横田裕丈，平林怜，小宮諒，江玉睦明．非荷重および負荷の異なる荷重動作中の膝屈曲角度の変化が局所的な膝蓋腱力学的特性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会，2025.11.29-11.30.

(132) 石垣智恒，Smith A, Potter M, Kacmarcik C, Mange N, Cone S, Silbernagel K. アキレス腱症患者における腱構造と主観的症状ならびにstretch-shortening cycle運動能力との関連.，2025.11.29-11.30.

(133) 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．手関節角度を変えたグリップ動作が外反ストレス下における内側肘関節安定性へおよぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，2025.11.2-11.3.

(134) 石垣智恒，佐藤来夢，平林怜，横田裕丈，小宮諒，大森豪，江玉睦明．高校野球選手における睡眠の質と主観的上肢機能との関連性．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，2025.11.2-11.3.

(135) 星春輝，芝田純也，美馬達哉，大西秀明．一次運動野への小型永久磁石が運動課題中の経時的な脳酸素化動態に与える効果．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会・第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，2025.9.27-9.28.

(136) 星春輝，芝田純也，美馬達哉，大西秀明．右一次運動野への経頭蓋静磁場刺激が磁石直下の脳血流動態に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会，2025.10.17-10.18.

(137) 星春輝，芝田純也，美馬達哉，大西秀明．一次運動野または補足運動野への超低周波経頭蓋交流電気刺激がGo.NoGo課題中の上肢運動応答に及ぼす位相特異的効果．第55回日本臨床神経生理学会，2025.11.13-11.15.

(138) 小宮諒，江玉睦明，熊崎昌，平林怜，横田裕丈，石垣智恒．大学女子サッカー選手の跳躍力と走力の関係．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会，2025.11.29-11.30.

(139) 小島翔．機械的触圧覚刺激による介入効果と神経生理応答．第55回日本臨床神経生理学会学術大会，2025.11.13-11.15.

４）国内学会・共同

（１）大塚駿平，高林知也，菊元孝則，久保雅義．片脚着地におけるTurnout角度の違いが足関節・足部内運動へ及ぼす影響．第６回足の構造と機能研究会学術集会，2025.6.7-6.8.

（２）石井佑典，高橋祐介，相澤匠，関口桃菜，長濱秀明，末武修史，椿淳裕．急性心不全患者における初回離床時の脳酸素化動態について-せん妄の有無による違い-．第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，2025.7.19-7.20.

（３）奥村基生，木島章文，横山慶子，山本裕二．防御的な文脈情報は防御の選択反応を無意識に促進する．日本体育・スポーツ健康学会第75回大会，2025.8.27-8.29.

（４）横山慶子，山本裕二，木島章文，島弘幸，Kallen R W, Richardson M J. 意図や配置は三者同期に影響するか：対面の振り子課題を用いて．日本心理学会第89回大会，2025.9.5-9.7.

（５）八木拓魔，井上達朗，小川真人，岡村正嗣，白土健吾，白井信行，平郡康則，谷宮尚樹，岡田梨沙．外来血液透析を受けている慢性腎臓病患者におけるAWGC基準による悪液質診断の妥当性．第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会（東京），2025.9.6-9.7.

（６）吉田結梨子，山口久穂，西野領，平林怜，岡田芳幸．前腕筋疲労後の運動後虚血がヒラメ筋H反射の遠隔促通に与える影響．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会，2025.12.6-12.7.

（７）山口久穂，吉田結梨子，西野領，平林怜，岡田芳幸．歯科矯正治療経験による噛みしめ負荷がヒラメ筋H反射に与える影響の変化．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会，2025.12.6-12.7.

（８）高木咲穂子，前田圭介，宮原周三，井上達朗，佐竹昭介，赤津裕康．GLIM基準重症度判定における四肢骨格筋指数と除脂肪量指数のカットオフ値．第41回日本栄養治療学会学術集会，2026.2.13-2.15.

（９）栁田光，上谷佑稀，瀧本知未，井上達朗．回復期病棟に入院した運動器疾患患者のGLIM基準による低栄養は機能改善不良に影響する．第14回日本がんリハビリテーション学会学術集会，2026.3.14.

(10) 前川健一郎，井上達朗，前田圭介，川村皓生，石田優利亜，永野彩乃，大下佳織，森沢知之，森直治．回復期リハ病棟における大腿骨近位部骨折患者のGLIM基準で診断した低栄養は低ADLの予測因子である．第14回日本がんリハビリテーション学会学術集会，2026.3.14.

(11) Piche M, Khosravi H, Siahaki DH, Tokunaga R.Additive mechanical and thermal hypersensitivity in a rat model of chronic primary back pain and visual deprivation. The 103rd Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, 2026.3.10-3.12.

(12) 花村健次，武田直，小林宥介，鷲見和幸，前島偉，鈴木晴，美里萌恵，渡邉大輝，西方快騎，宮崎涼，松井斗輝，太田大樹，田口徹，吉田宜清．18～24ヵ月齢C57BL．6Nマウスにおいて発生

した腫瘍の形態学的解析．第25回新潟医療福祉学会，2025.10.25.

(13) 釜﨑大志郎，藤村諭史，吉瀬陽，末永拓也，吉原正英，保坂公大，松延勇志，松尾健司，前田慶明，小宮諒，平野敦大．受傷歴の有無にはNavicular dropが関係する－男子高校サッカー選手を対象とした横断研究－．第12回日本予防理学療法学会学術大会，2025.11.8-11.9.

(14) 高中駿，関口雄介，本田啓太，鈴木直輝，北谷亮輔，宮城翠，海老原覚．慢性期脳卒中患者における白質神経線維の微細構造と歩行の安定性の関係：拡散テンソル画像研究．第17回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会，2026.2.27-2.28.

(15) 清水夏生，木村鷹介，甲斐匠，小林壮太，久保宏紀，吉田啓志，太田智裕，石垣智也，鈴木佳樹，竹内睦，吉村友宏，山本晟矢，諸永浩平，田中周，金居督之．歩行速度に制限を有する回復期脳卒中者の歩行速度に対する身体活動の量反応関係．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31-11.1.

(16) 吉田啓志，木村鷹介，久保宏紀，清水夏生，金居督之，竹内睦雄，甲斐匠，小林壮太，鈴木桂樹，田中周，諸永浩平，山本晟矢，吉村友宏．自立歩行が困難な回復期脳卒中者における入院中の身体活動量の変化特性．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31-11.1.

(17) 田村俊太郎，海津陽一，小林壮太，荻原啓文，五十嵐達也，齋藤拓之，齋藤翔太，谷友太，長谷川智．脳卒中患者の歩行に関連するBerg Balance Scaleのカットオフ値の外的検証．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31-11.1.

(18) 竹内睦雄，木村鷹介，久保宏紀，清水夏生，金居督之，吉田啓志，小林壮太，甲斐匠，鈴木佳樹，吉村友宏，山本晟矢，諸永浩平，田中周．回復期脳卒中患者の運動FIM改善と座位Breakの関連性について～歩行可否による座位Breakの修飾効果の検証～．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31-11.1.

(19) 久保宏紀，宮田一弘，田村俊太郎，小林壮太，野添匡史，稲本あさみ，梶本一輝，西原颯太，山本望弥，島田真一．回復期脳卒中者におけるBerg balance scaleのMinimal Important Changeの外的検証．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31-11.1.

(20) 鈴木佳樹，木村鷹介，清水夏生，久保宏紀，吉田啓志，竹内睦雄，小林壮太，田中周，吉村友宏，山本晟矢，甲斐匠，諸永浩平，金居督之．歩行非自立の回復期脳卒中者における入棟後1か月間の身体活動量変化と退院時自立歩行可否の関連．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31-11.1.

(21) 今井卓也，小林壮太，小林昭博．脳卒中後の上肢麻痺に対する共有意思決定の中・長期的な経過―ケースシリーズ―．第59回日本作業療法学会，2025.11.7-11.9.

(22) 善養寺航耶，今井卓也，小林壮太．脳卒中後の上肢麻痺に対してkeyformとADOCを併用した介入戦略．第59回日本作業療法学会，2025.11.7-11.9.

(23) 今井卓也，善養寺航耶，小林壮太，篠原智行．日本語版Rating of Everyday Arm - Use in the Community and Home (REACH)Scaleの開発．第27回群馬県作業療法学会，2025.11.30.

(24) 久保宏紀，小林壮太，木村鷹介，金居督之，清水夏生，吉田啓志，竹内睦雄，田中周，山本晟矢，鈴木佳樹，宮田一弘．高齢回復期脳卒中者の日常生活動作改善に対する強度別身体活動時間のMICの算出～歩行能力別の検討～．第4回日本老年療法学会学術集会，2025.12.6-12.7.

(25) 上野大道，香取勇一，奥村基生，横山慶子，福原洸，木島章文，越水悠介，小林亮，山本裕二，加納剛史．対人競技における「切磋琢磨」的学習メカニズム理解のための対戦型ゲームの開発．SSI2025　計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会，2025.11.12-11.14.

(26) 小川ひかり，巻渕泰輝，穴澤沙也可，萩野由大，藤本知臣，越智元太，岡本優美，山代幸哉．経皮的耳介迷走神経刺激が皮質内抑制に及ぼす影響．第79回日本体力医学会，2025.9.17-9.19.

(27) 田中廉治郎，巻渕泰輝，萩野由大，藤本知臣，越智元太，岡本優美，山代幸哉．非侵襲的脳刺激はアスリートの筋力・パワーを増大するか？．第79回日本体力医学会，2025.9.17-9.19.

(28) 武田剛，下門洋文．スタート局面中の減速期と一定速度期の水中ドルフィンキックのキネマティ

クス特徴．日本水泳・水中運動学会2025年次大会，2025.10.24-10.26.

(29) 中園優作，下門洋文，川合英介，角川隆明．足部周りの流れ場と圧力分布の計測による水中ドルフィンキックの推進機序の解明．日本水泳・水中運動学会2025年次大会，2025.10.24-10.26.

(30) 熊澤将大，山崎碧月，藤本知臣，下門洋文，下山好充，松浦由生子．競泳スタートパフォーマンスと下肢筋活動の関係．日本水泳・水中運動学会2025年次大会，2025.10.24-10.26.

(31) 黒古大樹，伊藤良多，下山好充，下門洋文．クロールの泳速度向上による手部流体力への影響．日本水泳・水中運動学会2025年次大会，2025.10.24-10.26.

(32) 伊藤良多，黒古大樹，下山好充，下門洋文バタフライ泳中の泳速度と手部流体力の関係．日本水泳・水中運動学会2025年次大会，2025.10.24-10.26.

(33) 中町真澄，風間未来，鈴木龍馬，柴田篤志，下門洋文．男性円盤投競技者におけるリリースパラメータと投擲体力と技術の関係．第75回日本体育・スポーツ・健康学会，2025.8.27-8.29.

(34) 風間未来，中町真澄，鈴木龍馬，柴田篤志，下門洋文．男性棒高跳競技者の重心高に影響するキネマティクスの探索．第75回日本体育・スポーツ・健康学会，2025.8.27-8.29.

(35) 鈴木龍馬，並木伸賢，山﨑史恵，下門洋文．陸上短距離選手のスタート前におけるルーティンのパターンと効果について．第75回日本体育・スポーツ・健康学会，2025.8.27-8.29.

4．学会活動

（1）足の構造と機能研究会，理事

（2）日本スポーツ理学療法学会，機関誌調整委員会

（3）日本スポーツ理学療法学会，スポーツ理学療法学編集部会

（4）日本スポーツ理学療法学会，学術庶務

（5）日本スポーツ理学療法学会，情報戦略・IR委員

（6）日本基礎理学療法学会，超音波画像装置使用に関する検討委員会

（7）新潟県理学療法士協会，東ブロック事務局

（8）一般社団法人全国大学理学療法学教育学会，選挙管理委員会・委員長

（9）岡田整形外科倫理審査委員会，外部倫理審査委員

(10) Gait & Posture，査読

(11) Scientific Reports，査読

(12) BMC geriatrics，査読

(13) 第6回足の構造と機能研究会学術大会，学術

(14) 第6回足の構造と機能研究会学術大会，座長

(15) iScience，査読

(16) 第40回日本生体磁気学会，プログラム委員

(17) 第40回日本生体磁気学会，U35審査委員

(18) International Journal of Sport and Health Science，査読

(19) Journal of Advanced Research，査読

(20) 日本老年療法学会，評議員

(21) 日本糖尿病理学療法学会，評議員

(22) 新潟県心臓リハビリテーション研究会，世話人

(23) 腎臓病運動療法・身体活動ネットワーク研究会，研修会企画委員

(24) 日本糖尿病理学療法学会，研究推進員会

(25) 日本糖尿病理学療法学会，渉外部会（足病変・腎臓病対策推進担当）

(26) 日本老年療法学会，広報委員会

(27) 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第6回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，準備委員

(28) 第12回日本糖尿病理学療法学会学術大会，準備委員

(29) 第12回日本糖尿病理学療法学会学術大会，副大会長
(30) PLOS ONE，査読
(31) 第12回スポーツ理学療法学会学術大会，演題査読
(32) Frontiers in Physiology，査読
(33) 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会，代表世話人
(34) 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，大会長
(35) 新潟県心臓リハビリテーション研究会，世話人
(36) 新潟呼吸療法研究会，幹事
(37) 日本循環器理学療法学会誌，編集委員
(38) 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，演題査読
(39) 第23回日本神経理学療法学会学術大会，演題査読
(40) Cerebral Cortex，査読
(41) 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，プログラム編成委員
(42) Clinical Biomechanics，査読
(43) Knee，査読
(44) Scientific Reports，査読
(45) Journal of NeuroEngineering and Rehabilitation，査読
(46) Behavioural Brain Research，査読
(47) Behavioural Brain Research，査読
(48) Communications Psychology，査読
(49) Acta Psychologica，査読
(50) Cognitive Neurodynamics，査読
(51) 第14回日本支援工学理学療法学会学術大会，演題査読
(52) 日本栄養・嚥下理学療法学会，副理事長
(53) 日本老年療法学会，理事
(54) 日本リハビリテーション栄養学会，理事
(55) 日本転倒予防学会，学術委員
(56) 日本骨粗鬆症学会，骨粗鬆症リハビリテーション委員会 委員
(57) 日本臨床栄養代謝学会，学術評議員
(58) 日本サルコペニア・フレイル学会，評議員
(59) 新潟県フレイル克服プロジェクト，委員
(60) 魚沼市におけるデータを活用したフレイル予防モデル事業，ワーキンググループ委員
(61) 新潟高齢者の栄養と摂食を支える会，世話人
(62) 新潟市健康づくり推進委員会，委員
(63) 第12回日本サルコペニアフレイル学会，準備委員
(64) 日本予防・栄養・嚥下理学療法学会合同大会，準備委員
(65) 誤嚥性肺炎の治療と予防に関するガイドライン開発研究，ガイドライン作成委員
(66) BMC geriatrics，査読
(67) Advances in Mental Health，査読
(68) Acta Psychologica，査読
(69) European Journal of Neuroscience，査読
(70) Scientific Reports，査読
(71) 第31回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会，実行委員長
(72) Science Progress，査読

(73) Neuroscience，査読
(74) The Journal of Headache and Pain，査読
(75) Brain Injury，査読
(76) Jounal of affective disorders，査読
(77) Trends in Neuroscience，査読
(78) 第23回日本神経理学療法学会学術大会，司会
(79) Japan pain week，演題査読
(80) 日本運動器疼痛学会誌，査読
(81) 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，座長
(82) 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，座長
(83) 第12回スポーツ理学療法学会学術大会，座長
(84) Communications Biology，査読
(85) Physical Therapy Research，査読
(86) Japan pain week，座長
(87) 2026 Orthopaedic Research Society Annual Meeting (tendon section abstract)，査読
(88) 2026 Orthopaedic Research Society Annual Meeting (tendon section, late breaking abstract)，査読
(89) Gait & Posture，査読
(90) Mediators of inflammation，査読
(91) Nature communications，査読
(92) Scientific Reports，査読
(93) Physiotherapy Theory and Practice，査読
(94) Acta Psychologica，査読
(95) Advances in Mental Health，査読
(96) American Journal of Case Reports，査読
(97) Psychology of Sport & Exercise，査読
(98) Psychology of Sport & Exercise，査読
(99) スポーツ心理学研究，査読
(100) Computers in Human Behavior，査読
(101) CNS Neuroscience & Therapeutics，査読
(102) Scandinavian Journal of Medicine & Science in Sports，査読
(103) Journal of the Egyptian National Cancer Institute，査読
(104) Physical Therapy in Sport，査読
(105) Journal of Neuroscience，査読
(106) Experimental Neurology，査読
(107) Scientific Reports，査読
(108) Brain Research，査読
(109) Journal of Integrative Neuroscience，査読
(110) Brain Research Bulletin，査読
(111) Redox Report，査読
(112) Antioxidants，査読
(113) Nutrients，査読
(114) Journal of Pain Research，査読
(115) Antioxidants，査読
(116) Journal of Orthopaedic Surgery and Research，査読

(117) Sports，査読
(118) Journal of Pain Research，査読
(119) Life，査読
(120) Journal of Pain Research，査読
(121) Neural Plasticity，査読
(122) Scientific Reports，査読
(123) Scientific Reports，査読
(124) Journal of Pain Research，査読
(125) Advances in Medical Sciences，査読
(126) Journal of Musculoskeletal and Neuronal Interactions，査読
(127) Journal of Pain Research，査読
(128) Expert Review of Neurotherapeutics，査読
(129) Behavioural Brain Research，査読
(130) Behavioural Brain Research，査読
(131) The Journal of Headache and Pain，査読
(132) Behavioural Brain Research，査読
(133) Eur J Pharmacol，査読
(134) Biomolecules，査読
(135) 第30回日本基礎理学療法学会，査読
(136) 第47回日本疼痛学会，査読
(137) 第12回スポーツ理学療法学会学術大会，演題査読
(138) 第12回スポーツ理学療法学会学術大会，座長
(139) 第12回スポーツ理学療法学会学術大会，準備委員
(140) Journal of Bodywork and Movement Therapies，査読
(141) Scientific Reports，査読
(142) Journal of Bodywork and Movement Therapies，査読
(143) JoVE Journal，査読
(144) BMC Musculoskeletal Disorders，査読
(145) BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation，査読
(146) Scientific Reports，査読
(147) BMC Medical Imaging，査読
(148) Sports，査読
(149) BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation，査読
(150) Sport Sciences for Health，査読
(151) BMC Sports Science，査読
(152) Journal of Athletic Training，査読
(153) BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation，査読
(154) PM&R，査読
(155) Sport Sciences for Health，査読
(156) スポーツ理学療法学査読委員，査読委員
(157) 日本神経理学療法学会，学術誌編集委員
(158) 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会・第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，準備委員
(159) 日本神経理学療法学会学術大会，査読
(160) 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会・第27

回日本光脳機能イメージング学会学術集会，査読
(161) 日本スポーツ理学療法学会，情報戦略・IR委員
(162) 日本スポーツ理学療法学会，総務委員
(163) 日本老年療法学会，学術大会委員
(164) 日本義肢装具学会，認定制度委員
(165) 第13回日本スポーツ理学療法学会学術集会，準備委員
(166) 理学療法学，査読
(167) 理学療法学，査読
(168) 理学療法学，査読
(169) 理学療法学，査読
(170) Physical Therapy Research，査読
(171) Physical Therapy Research，査読
(172) Physical Therapy Research，査読
(173) Physical Therapy Research，査読
(174) スポーツ理学療法学，査読
(175) 運動器理学療法学，査読
(176) Motor Control，査読
(177) Journal of Biomechanical Open，査読
(178) clinical biomechanics，査読
(179) Scientific Reports，査読
(180) Cerebral Cortex，査読
(181) Frontiers In Human Neuroscience，査読
(182) Peer J，査読
(183) BMC Neuroscience，査読
(184) Sports Medicine-Open，査読
(185) European Journal of Applied Physiology，査読
(186) Scientific Reports，査読
(187) American Journal of Physiology Regulatory and Comprihensive Physiology，査読
(188) 体育学研究，査読
(189) Sports Medicine，査読
(190) コーチング学研究，査読
(191) トレーニング科学，査読
(192) Temperature，査読
(193) 日本水泳水中運動学会，運営委員
(194) 日本コーチング学会，編集委員
(195) 日本体力医学会，評議員
(196) 日本生体磁気学会，評議員

5．社会活動

1）公開講座・講演会等

（1）研修会，バイオメカニクスセミナー，講師，中外製薬株式会社，医療従事者，オンライン，2025.6.11.

（2）N-FOOT　足部・足関節の理学療法セミナー　2025，繰り返す捻挫と慢性足関節不安定症～ 基礎研究の視点から～，講師，岡田整形外科，コニカミノルタジャパン株式会社，コニカミノルタNC株式会社，医師・PT，オンライン，2025.6.25.

（3）新潟県心臓リハビリテーションクラウドファンディング事業，オンライン教育講義，「心臓リハビ

リテーション各論２」，講師，新潟大学新潟大学大学院医歯学総合研究科　循環器内科学分野，医療従事者，オンライン，2025.6.3.

（４）城東整形外科セミナー，臨床に生かす足部研究，講師，城東整形外科，PT，秋田市，2024.7.4.

（５）新潟東ブロック研修会，後期研修E領域別研修　第４回症例検討・事例共有，運営委員・事務局，新潟県士会，PT，新潟市，2024.7.12.

（６）新潟東ブロック研修会，後期研修E領域別研修　第４回症例検討・事例共有，座長，新潟県士会，PT，新潟市，2024.7.12.

（７）こばり坂クリニック勉強会，足部バイオメカニクス，講師，こばり坂クリニック，PT，オンライン，2024.7.18.

（８）福祉事業型専攻科KINGOカレッジ 特別授業，正しい歩き方講座，講師，福祉事業型専攻科KINGOカレッジ，一般市民（知的障がい），新潟市，2025.5.15.

（９）関西リハビリテーション病院 勉強会，脳卒中患者の装具療法，講師，関西リハビリテーション病院，理学療法士・義肢装具士，大阪，2025.6.11.

(10) 南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，一般市民（地域在住），新潟市，2025.4.15.

(11) 南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，一般市民（地域在住），新潟市，2025.5.20.

(12) 南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，一般市民（地域在住），新潟市，2025.6.17.

(13) 南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，一般市民（地域在住），新潟市，2025.7.15.

(14) リハ・栄養・口腔管理の三位一体について，2025年度兵庫県栄養士会生涯教育研修会，講師，兵庫県栄養士会，管理栄養士，オンライン，2025.7.19.

(15) パワーアップチャレンジ，慢性の痛みを考える，講師，日本理学療法士連盟青年局，PT・OT・ST・医療および介護職を目指す学生，オンライン，2025.7.5.

(16) 研修会，足部から考える治療戦略，講師，長野整形外科クリニック，PT，長野市，2024.8.1.

(17) スキルアップ講習会，心臓リハビリテーションにおけるトレッドミルを使用した運動療法，講師，新潟南病院，医療従事者，新潟市，2025.8.5.

(18) 第９回基礎理学療法学セミナー，足関節の機能解剖と理学療法の最前線：足関節のバイオメカニクスに関する最新知見，講師，日本基礎理学療法学会，PT，オンライン，2024.8.26.

(19) 新潟県理学療法士会 新潟東・新潟西・下越ブロック合同研修会，管理者研修会：これからのリーダーシップを学ぶ場，運営委員・事務局，新潟県士会，PT，新潟市，2024.8.30.

(20) 新潟県理学療法士会 新潟東・新潟西・下越ブロック合同研修会，管理者研修会：これからのリーダーシップを学ぶ場，ファシリテーター，新潟県士会，PT，新潟市，2024.8.30.

(21) 厚労省　慢性疼痛診療システム均てん化事業，慢性疼痛の認知再構成，司会・講師，厚労省　慢性疼痛診療システム均てん化事業，医療従事者，新潟市，2024.8.31.

(22) 南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，一般市民（地域在住），新潟市，2025.9.16.

(23) 南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，一般市民（地域在住），新潟市，2025.10.21.

(24) 令和７年度JSPTDM研究支援セミナー基礎編，方法序論（サンプルサイズの設定，信頼性，妥当性，効果量），講師，日本糖尿病理学療法学会，PT，オンライン，2025.10.23.

(25) 南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，一般市民（地域在住），新潟市，2025.11.18.

(26) 第18回 聖隷リハビリテーションセミナー，脳からみた運動時の生体反応～セレンディピティが生

む新展開～，講師，聖隷クリストファー大学，PT，浜松市，2025.11.8.

(27) みどり病院 研修会，リハビリテーションからみた栄養と骨格筋量評価，講師，みどり病院，医療従事者，新潟市，2025.11.21.

(28) 小児栄養オンラインサロン，こどものサルコペニアについて，講師，小児栄養オンラインサロン，医療従事者，オンライン，2025.11.19.

(29) 新潟東ブロック研修会，『はじめてみよう！症例・事例共有座談会』，運営委員・事務局，新潟県士会，PT，新潟市，2025.11.15.

(30) 厚労省　慢性疼痛診療システム均てん化事業，痛みの多面的評価（ICD-11を含む）を知ろう，講師，厚労省　慢性疼痛診療システム均てん化事業，医療従事者，オンライン，2025.12.14.

(31) 福祉事業型専攻科KINGOカレッジ 特別授業，正しい歩き方講座，講師，福祉事業型専攻科KINGOカレッジ，一般市民（知的障がい），新潟市，2025.12.10.

(32) スーパージュニア支援事業，フィジカルチェック，運営，新潟市スポーツ協会，ボクシング選手，新潟市，2025.12.14.

(33) XPERT prime，骨粗鬆症性骨折における粗鬆症・サルコペニア・フレイル，講師，XPERT prime，医療従事者，オンライン，2025.12.16.

(34) 熊本機能病院 勉強会，臨床現場における筋電図評価の意義，講師，熊本機能病院，理学療法士，熊本市，2025.12.17.

(35) 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会セミナー③，脳卒中片麻痺患者の活動量，講師，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，理学療法士，作業療法士，言語聴覚療法士，新潟市，2025.12.20.

(36) 太夫浜長寿会主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，太夫浜長寿会，一般市民（地域在住），新潟市，2026.2.13.

(37) 新潟東ブロック研修会，地域連携研修会，運営委員・事務局，新潟県士会，PT，新潟市，2026.2.14.

(38) 岡田整形外科勉強会，足関節・足部バイオメカニクス，講師，岡田整形外科，PT，新潟市，2026.2.20.

(39) 南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，一般市民（地域在住），新潟市，2026.2.17.

(40) 新潟県健康づくり財団 第５回フレイル克服対策講演会，栄養と理学療法，講師，新潟県健康づくり財団，医療従事者，新潟市+オンライン，2026.2.21.

(41) 領域別研修会（循環），データが導く“見える化”の世界，講師，新潟県理学療法士会，PT，オンライン，2026.2.15.

(42) 第16回日本循環器理学療法学会サテライトカンファレンス，運動生理学から考える高齢心不全患者の脳血流「心不全の脳を意識すると見えてくること」，講師，日本循環器理学療法学会，PT，オンライン，2026.2.16.

(43) 副島整形外科セミナー，ランニング障害，講師，副島整形外科，PT，オンライン，2026.3.4.

(44) 太郎代お茶の間しおかぜ主催　ロコモ体操，ロコモ体操，講師，太郎代お茶の間しおかぜ，一般市民（地域在住），新潟市，2026.3.4.

(45) 【足部・足関節＆腱障害】最前線　オンラインセミナー，足部-足関節バイオメカニクス最前線，講師，足の構造と機能研究会，PT，オンライン，2026.3.30.

(46) サルコペニア・フレイル総論，領域別研修会（予防領域）「臨床でのサルコペニア・フレイルの基礎と予防・介入」，講師，新潟県理学療法士会，PT・管理栄養士，新潟市+オンライン，2026.3.21.

(47) 第26回新潟県障害者スポーツ大会，陸上競技大会，運営・総務委員，新潟県教育委員会，新潟市教育委員会，一般市民，新潟市，2025.5.4.

(48) 障害者交流センター文化教室，大きなキャンパス～みんなで描こう花火～，運営，新潟県障害者交流センター，一般市民，新潟市，2025.7.27.
(49) ジャパンライジングプロジェクト（J-STAR）第９期検証プログラム，新潟県エリアのパラアスリートのフィジカルチェックとトレーニング指導，トレーナー，一般社団法人日本車いすカーリング協会，パラアスリート（車いすカーリング），新潟市，2026.1.24-2.16.
(50) 令和７年度新潟県盲ろう者生活訓練事業Ⅱ，健康と運動について，講師，新潟県障害者交流センター，一般市民，新潟市，2025.11.1.
(51) 領域別研修会（予防領域）臨床でのサルコペニア・フレイルの基礎と予防・介入，原因別レクチャー②身体活動，講師，新潟県理学療法士協会，医療従事者，新潟市，2026.3.21.

６．外部資金（科学研究費等）の獲得状況
（１）2023年度，科研費基盤研究C，MRI情報を用いた筋骨格有限要素モデルによる扁平足のタイプ別での骨・軟部組織負荷，高林知也，研究代表者
（２）2022年度，科研費若手研究，母指球筋を用いた新たな筋量指標の開発と疾患予後を予測する指標への応用，井上達朗，研究代表者
（３）2023年度，科研費基盤研究B，脳卒中後疼痛の発症を予測する神経活動バイオマーカーの確立と新たな治療戦略の創出，長坂和明，研究代表者
（４）2024年度，科研費挑戦的研究（萌芽），異所性神経回路の理解と制御による脳卒中後疼痛メカニズム解明への挑戦，長坂和明，研究代表者
（５）2024年度，科研費基盤研究C，皮質脊髄路と皮質網様体路の選択的刺激による歩行併用型脳刺激法の開発と検証，北谷亮輔，研究代表者
（６）2025年度，科研費若手研究，脳律動強化による生体内鎮痛システム強化技術の開発，五十嵐眸実，研究代表者
（７）2024年度，科研費研究活動スタート支援，入院患者に対する臨床評価尺度を用いた新たな身体活動評価と介入指針の開発，小林壮太，研究代表者
（８）2025年度，科研費基盤研究B，脳深部に存在する島皮質への非侵襲的な刺激実現と慢性疼痛患者への応用戦略，大鶴直史，研究代表者
（９）2024年度，科研費若手研究，ベルト式骨格筋電気刺激を用いた革新的な毛細血管保護戦略の開発，田宮創，研究代表者
(10) 2023年度，科研費国際共同研究加速基金（海外連携研究），腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立，江玉睦明，研究代表者
(11) 2023年度，科研費基盤研究B，アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発，江玉睦明，研究代表者
(12) 2025年度，科研費基盤研究C，脳を準備させる-運動開始前の脳活動を標的とした新規リハビリテーション戦略の創出-，星春輝，研究代表者
(13) 2025年度，科研費挑戦的研究（開拓），健全な発達を促す身体活動に向けた毛髪中コルチゾールによる慢性ストレス評価法確立，越智元太，研究代表者
(14) 2024年度，科研費基盤研究B，軽度認知障害の進行および回復に伴う脳内メカニズムの解明と認知症予防への展開，児玉直樹，研究代表者
(15) 2025年度，科研費挑戦的研究（萌芽），地域住民が利用可能な軽度認知障害スクリーニングシステムの開発と認知症検診への挑戦，児玉直樹，研究代表者
(16) 2025年度，科研費挑戦的研究（萌芽），VRによる内受容情報フィードバックと脳刺激の融合による身体認知変容への挑戦，大鶴直史，研究代表者
(17) 2025年度，科研費挑戦的研究（萌芽），腱の損傷と修復に着目した腱グリコーゲン代謝調節機構の機能解明，石垣智恒，研究代表者
(18) 2025年度，科研費基盤研究B，受傷後アスリートが慢性疼痛発症に至る脳状態の予測指標と予防

策の創出，山代幸哉，研究代表者

(19) 2025年度，科研費基盤研究C，動的な触圧覚刺激に伴う皮質応答の特徴と介入効果の背景にある神経基盤の解明，小島　翔，研究代表者

(20) 2023年度，科研費基盤研究C，遅発性筋痛の筋膜における発現変動因子の同定と機械痛覚過敏への関与解明，太田大樹，研究代表者

(21) 2025年度，科研費基盤研究C，糖尿病モデルラットにおける骨格筋内の微小循環と運動効果，髙橋英明，研究代表者

(22) 2024年度，科研費研究活動スタート支援，習慣的な運動に伴う女性の皮膚血管および汗腺機能の適応メカニズム解明，岡本優美，研究代表者

(23) 2025年度，科研費基盤研究B，高齢者の低体温症予防における運動の効果と冷感受容体TRPM8の関与，藤本知臣，研究代表者

(24) 2025年度，科研費基盤研究A，「終わりなき学習」ダイナミクスの解明，山本裕二，研究代表者

(25) 2025年度，科研費基盤研究C，経皮的迷走神経刺激が運動誘発性鎮痛にもたらす相乗効果の解明，横田裕丈，研究代表者

(26) 2024年度，科研費基盤研究C，酸素ウルトラファインバブル溶液による腹膜を介した革新的呼吸補助法の創出，藤井豊，研究代表者

(27) 2025年度，科研費基盤研究B，オミクス解析を駆使して挑む活動期関節リウマチに対する運動療法の治療機構解明，小曽根海知，研究代表者

(28) 2024年度，科研費基盤研究B，非侵襲ヒト静磁場刺激の創生，芝田純也，研究代表者

(29) 2024年度，科研費基盤研究B，筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明，久保亜抄子，研究代表者

(30) 2025年度，科研費基盤研究C，慢性足関節不安定症が膝前十字靭帯損傷の危険因子となるメカニズムの検証，菊元孝則，研究代表者

(31) 2024年度，科研費基盤研究C，スイマーが水を捉える瞬間の解明，下門洋文，研究代表者

(32) 2023年度，科研費基盤研究C，義足ソケットの力学的・解剖学的特徴の解明，須田裕紀，研究代表者

(33) 2023年度，科研費基盤研究C，補足運動野を核とした神経ネットワーク強化による運動学習のプラトー脱却戦略，宮口翔太，研究代表者

(34) 2023年度，科研費基盤研究C，慢性腰痛による下行性疼痛制御系の変調機構と運動療法の効果，徳永亮太，研究代表者

(35) 2025年度，科研費基盤研究B，痛覚変調性疼痛における視床下部の役割とNeuromodulationによる鎮痛機構解明，田口徹，研究代表者

(36) 2024年度，科研費挑戦的研究（萌芽），筋線維タイプ特異的活動操作を実現する基盤技術の構築と筋機能解明への応用，田口徹，研究代表者

(37) 2025年度，科研費若手研究，伸張性収縮誘発性筋損傷の予防運動の至適強度とそのメカニズムの解明，早尾啓志，研究代表者

(38) 2025年度，科研費若手研究，中足部の横アーチ評価方法の確立と動作時の足部・足関節動態との関連の検討，小宮諒，研究代表者

(39) 2025年度，科研費基盤研究C，スポーツ活動中に生じる頭部衝撃の影響を予測する身体的因子の解明，熊崎昌，研究代表者

(40) 2025年度，科研費基盤研究C，in vivoパッチクランプ法を用いた「脊髄後角ゲート機構による疼痛調節機序」の解明，八坂敏一，研究代表者

(41) 2025年度，科研費基盤研究B，マルチモーダル脳イメージングによる側頭頭頂接合部の特徴解明と知覚学習への応用，大西秀明，研究代表者

(42) 2024年度，科研費基盤研究B，低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細

胞組織学的な基盤の解明，椿淳裕，研究代表者

（43）2023年度，科研費基盤研究C，MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用，中山憲司，研究代表者

（44）2023年度，科研費基盤研究C，非侵襲的ハイブリッド神経刺激による記憶関連神経ネットワーク可塑性強化効果の検証，能村友紀，研究代表者

（45）2023年度，科研費基盤研究C，ハンセン病末梢神経障害の診断と神経筋再生治療法の開発に関する研究，圓純一郎，研究代表者

ウ　自然人類学研究所（Institute for Physical Anthropology）

①研究テーマ

1　ネアンデルタール人類の消滅とHomo sapiens誕生と拡散の解明

2　日本列島の人類史の解明

3　遺跡から出土する人骨や動物骨の研究法の向上

4　骨組織形態学的方法を用いた人獣鑑別と種同定

5　人骨や動物骨の古病理学的研究

②センター名簿

所長　　：奈良貴史，リハビリテーション学部理学療法学科，教授

副所長　：澤田純明，リハビリテーション学部理学療法学科，教授

所員　　：萩原康雄，リハビリテーション学部理学療法学科，講師

所員　　：佐宗亜衣子，リハビリテーション学部理学療法学科，講師

所員　　：佐伯史子，自然人類学研究所，研究員

大学院生：辰巳晃司

大学院生：古澤妥史

大学院生：田口哲也

大学院生：三村高広

③主な活動内容

1．著書

1. 佐宗亜衣子，久保大輔，水嶋崇一郎，諏訪元．設楽博己編．『陸前　大洞貝塚の研究　－東京大学総合研究博物館所蔵1925年発掘全資料－』東京：雄山閣；2025：200-217.
2. 萩原康雄，成海佳奈，佐伯史子．長谷小路周辺遺跡-学びの多様化学校建設予定地-埋蔵文化財発掘調査報告書．斉藤建設．鎌倉；2025：165-179
3. 辰巳晃司，佐伯史子，奈良貴史．群馬県玉村町樋越薬師遺跡から出土した近世人骨の人類学的報告．群馬県埋蔵文化財調査事業団編．『樋越薬師遺跡(1)』渋川：群馬県埋蔵文化財調査事業団；2025：349-373.

2．論文

1. Sawada J, Uzawa K, Yoneda M, Hagihara Y, Itahashi Y, Gakuhari T, Kubota S, Liu B, Wang N, Chen M, Wang Y, Song S, Kikuchi H, Maruyama M, Okazaki K, Takamuku H, Saeki F, Nara T, Nakamura S. Worked Human Bones and the Rise of Urban Society in the Neolithic Liangzhu Culture, East Asia. Scientific Reports. 2025; 15: 31441
2. Hung H-C, Deng Z, Liu Y, Ran Z, Zhang Y, Li Z, Kaifu Y, Huang Q, Nguyen KTK, Le HD, Xie G, Nguyen AT, Yamagata M, Simanjuntak T, Noerwidi S, Fauzi MR, Tolla M, Wetipo A, He G, Sawada J, Zhang C, Bellwood P, Matsumura H. Earliest evidence of smoke-dried mummification: More than 10,000 years ago in southern China and Southeast Asia. PNAS (Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America). 2025; 122: e2515103122
3. Horita T, Hashiyada M, Tatsumi K, Nara T, Kanzawa-Kiriyama H, Adachi N. Verification of the

family tree of the Makino family of the Nagaoka domain by DNA analysis. Anthropological Science. 2025; 133: 57-63.

4. 古澤妥史，奈良貴史．出土焼人骨の基礎的研究－新潟県・土橋遺跡C316焼人骨の事例から－．Anthropological Science (Japanese Series). 2025; 133(1): 1-13.

３．報告書

1. 佐宗亜衣子，水嶋崇一郎，菅原弘樹．菅原弘樹編．『里浜貝塚　総括報告書（東松島市文化財調査報告書第27集)』松島市：松島市教育委員会；2025：433-436.

４．学会等研究発表

1. 澤田純明，江田真毅，泉洋江，谷川真由，佐伯史子，福井淳一．骨製サイコロの素材は何か？―骨組織形態学とZooMSによる種同定．第79回日本人類学会大会（下関市），2025.10.11-10.13.
2. 佐宗亜衣子，水野文月．廃屋墓は家族の埋葬地点なのか？－mtDNA分析からみた廃屈埋葬人骨の血縁関係－．日本考古学協会第91回総会（つくば市），2025.5.24-5.25.
3. 佐宗亜衣子，奈良貴史．牧野家８代正室　長姫に認められた煙管の使用痕．第79回日本人類学会（下関市），2025.10.11-10.13.
4. 佐伯史子，佐宗亜衣子，米田穣，水嶋崇一郎，澤田純明．神奈川県三浦半島西ノ浜洞穴遺跡から出土した弥生～古墳時代の人骨．第79回日本人類学会（下関市），2025.10.11-10.13.
5. 加藤雅彦，水野文月，中伊津美，青砥早希，谷口康浩，近藤修，松下真実，松下孝幸，門叶冬樹，佐宗亜衣子，米田穣，林美千子，王瀝，石谷孔司，渡部裕介，一色真理子，黒崎久仁彦，植田信太郎，大橋順，縄文人ゲノムの時代的変化に関する検討．第79回日本人類学会（下関市），2025.10.11-10.13.
6. 萩原康雄．日本列島集団の中手・中足骨の相対長について．日本人類学会78回大会（下関・日本），2025.10.11-10.13.
7. 萩原康雄，古澤妥史，澤田純明，奈良貴史．2024年度岩手県小松洞穴遺跡発掘調査概要報告．2025年度日本考古学協会新潟大会（新潟・日本）．2025.10.25-10.27.
8. 奈良貴史，安達登，大野憲五，川久保善智，辰巳晃司，戸坂明日香，鈴木敏彦，佐宗亜衣子，吉田皓文，米田穣．長岡藩藩主牧野家遺骨の再検討．日本考古学協会第91回総会（新潟市），2025.10.25-10.27.
9. 森俊輔，吉田皓文，萩原康雄，奈良貴史．鎌倉市由比ガ浜集団墓地遺跡から出土した著しい病変人骨について．日本人類学会78回大会（下関・日本），2025.10.11-10.13.
10. 森俊輔，奈良貴史．鎌倉市由比ガ浜中世集団墓地遺跡から出土した人骨について．日本考古学協会第91回総会（新潟・日本），2025.10.25-10.27.
11. 森俊輔，奈良貴史．マンチェスター法を用いた頭蓋からの復顔．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟・日本），2025.10.25.
12. 古澤妥史，奈良貴史．出土焼人骨の基礎的研究－新潟県土橋遺跡C315焼人骨の事例から－．第79回日本人類学会（下関・日本），2025.10.11-10.13.
13. 古澤妥史，奈良貴史．出土焼人骨の基礎的研究．2025年度日本考古学協会新潟大会（新潟・日本），2025.10.25-10.27.
14. 逢坂暖，奈良貴史，澤田純明，古澤妥史，米田穣．縄文時代における焼人骨葬の復元．第79回日本人類学会（下関・日本），2025.10.11-10.13.

５．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. 第11回新潟医療福祉大学夏期骨学セミナー，医療関係者・考古学関係者・警察関係者・他，自然人類学研究所奈良貴史教授主催，新潟医療福祉大学，2025.8.18-8.22.
2. 自然人類学研究所公開セミナー，日本の古病理学 －過去，現在，未来－，自然人類学研究所主催，医療関係者・考古学関係者・法医人類学関係者・他，新潟医療福祉大学，2026.3.13.

3. シンポジウム「埋もれた家に眠る人骨　－根郷貝塚でみつかった5,000年前の廃屋墓のなぞに迫る－」，基盤研究（A）骨考古学とDNA分析から読み解く「縄文村1000年間のファミリーツリー」（代表　佐宗亜衣子）主催，一般市民，千葉県鎌ケ谷市，2026.3.8.

2）TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，毎日新聞，人類の誕生テーマにシンポ　自身の由来知り，未来へ　考古学，人類学の研究者が講演・討論，2025.9.22.（奈良貴史）
2. 新聞，朝日新聞，考古学×ゲノム，協業で探る人類史　旧石器時代の最新知見，シンポで紹介，2025.11.5.（奈良貴史）
3. 新聞，新潟日報，縄文人の弔い方テーマ　秋葉区でシンポ　研究者らが解説，2026.3.17.（奈良貴史）
4. 雑誌，季刊考古学174（雄山閣），論文展望「出土焼人骨の基礎的研究―新潟県・土橋遺跡C316焼人骨の事例から―」（『Anthropological Science（Japanese series）』vol.133(1)掲載），2026.1.25.（古澤妥史）

6．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2024-2027年度，基盤研究（B），山形県日向洞窟から出土した後期更新世-完新世初頭人骨群の考古科学的研究，澤田純明，研究代表者.
2. 2023-2025年度，挑戦的研究（萌芽），縄文時代人は何歳まで生きたのか？高分解能CTを用いた骨組織学的年齢推定法の開拓，澤田純明，研究代表者.
3. 2025-2027年度，科研費挑戦的研究（萌芽），先史アジア採集狩猟民の知られざる葬制解明への挑戦：燻しミイラ製作の可能性，澤田純明，研究分担者
4. 2024-2027年度，基盤研究（B），薄層ローム堆積における旧石器編年研究の精緻化，澤田純明，研究分担者.
5. 2022-2025年度，基盤研究（B），受傷人骨の骨科学分析による縄文終末期の埋葬原理と社会変容の解明，澤田純明，研究分担者.
6. 2022-2025年度，若手研究，骨形態から読み解く狩猟採集から農耕への生業転換に伴う日本列島集団の行動様式の変化，萩原康雄，研究代表者.
7. 2023-2026年度，基盤研究（C），相同モデルを活用した欠損部人骨復元への挑戦，萩原康雄，研究分担者.
8. 2024-2028年度，基盤研究（A）骨考古学とDNA分析から読み解く「縄文村1000年間のファミリーツリー」，佐宗亜衣子，研究代表者.
9. 2024-2026年度，挑戦的研究（萌芽），実証的研究で明らかにする江戸の歯科学，佐宗亜衣子，研究代表者.
10. 2024-2025年度，学術変革領域研究（A）公募研究，三浦半島海食洞穴出土人骨の骨考古学的研究から明らかにする関東弥生時代の社会構造，佐宗亜衣子，研究代表者.
11. 2025-2029年度，基盤研究（C），三浦半島相模湾沿岸に暮らした弥生・古墳期の海人：海蝕洞窟出土人骨の骨考古学的分析，佐宗亜衣子，研究分担者
12. 2022-2025年度，基盤研究（C），解剖学的方法に基づく日本列島の各時代人類集団の正確な身長推定，佐伯史子，研究代表者.
13. 2023，基盤研究（A），生物考古資料にもとづく生業モデルの実証的研究とアンデス文明発展の機序解明，奈良貴史，研究分担者.
14. 2023，基盤研究（A），生物考古資料にもとづく生業モデルの実証的研究とアンデス文明発展の機序解明，萩原康雄，研究分担者.

7．その他の活動

警視庁・大阪府警・新潟県警から法医鑑定依頼多数．警視庁から捜査協力の感謝状（奈良貴史）

エ　プロジェクト研究センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

椿　淳裕（PT，委員長），吉岡　豊（ST），能登真一（OT），佐藤成登志（PT），西原康行（HS），山﨑史恵（HS），大森　豪（HS），犬飼康人（PT），稲葉洋美（HN），大鶴直史（PT），東江由起夫（AT），中山憲司（CT），宇田優子（NR），山﨑由美子（PS），石井雅子（社会連携機構），村山　稔（AT），瀬戸川純一（事務局），大竹　宏（事務局）

②会議開催回数　２回

③審議事項および決定事項等

１）プロジェクト研究センターの定期活動報告について

２）新規プロジェクトセンター設置について

３）ホームページの更新を行った

４）運営委員の構成について

５）プロジェクトセンターの廃止について

６）看護実技研究センター長交代について

② プロジェクト研究センター

1　言語発達支援センター（Langage Development Center）

①研究テーマ

1　言語発達障害児における語彙の誤りに関する研究

2　機能性構音障害児における語彙力に関する研究

3　発達障害児の言語聴覚療法における後方視的研究

4　口唇口蓋裂児の言語管理に関する研究

②センター名簿

吉岡　豊，言語聴覚学科，教授

大湊　麗，言語聴覚学科，講師

谷　麻美，言語聴覚学科，助手

③主な活動内容

１．著書

1. 大湊麗：標準言語聴覚障害学摂食嚥下障害学第３版．医学書院，東京：2025：369-372.

２．論文

1. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．中規模都市における言語発達支援の現状と課題―14年間の臨床統計的検討―．音声言語医学（日本音声言語医学会）．in press.

３．報告書

1. 大湊麗：日本口蓋裂学会若手研究者海外発表奨励制度成果報告書，研究代表者，日口蓋誌，50（3）182，2025.

４．学会等研究発表

1. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．就学前の言語発達支援が有効であった特異的言語発達障がいの１例．言語科学会第26回年次国際大会（JSLS2025）（愛媛），2025.7.12.
2. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊，大石如香．発達性言語症児の語彙発達の特徴－予後良好１例の分析－．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
3. 大湊麗，若槻華子，宮田昌幸，小林亮太，児玉泰光，佐藤真由美，井村真美，市川佳弥，丹原惇，冨原圭，小野和宏：一段階法と二段階法における乳幼児期の口腔機能と言語発達の検討．第49回日本口蓋裂学会総会学術集会（京都府），2025.10.20-10.24.
4. Ominato R, Wakatsuki H, Miyata M, Kobayashi R, Kodama Y, Sato M, Imura M, Ichikawa K, Nihara J, Tomihara K, Ono K：The effects of 1-stage versus 2-stage palatoplasty on oral and

Speech development in infancy. 15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Related Craniofacial Anomalies（Kyoto），2025.10.20-10.24.

5. Kobayashi R, Kodama Y, Isono T, Ominato R, Sato M, Nihara J, Wakatsuki H, Miyata M, Tomihara K：Congential oropharynx lympatic malformation in a prediatric cleft palate patient treated with speech eid: A case report. 15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Related Craniofacial Anomalies（Kyoto），2025.10.20-10.24.

５．学会活動

1. 日本口蓋裂学会，口唇裂・口蓋裂認定師（音声言語分野）認定委員会，認定師認定委員，2025.4-2026.3.

６．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. 新潟市通級指導教室担当者スキルアップ研修（言語），読み書きの支援，講師，新潟市教育委員会，新潟市立学校教諭，新潟市教育相談センター，2025.6.30.
2. 新潟県中越地区通級初任者研修，構音障害の指導，講師，新潟県中越地区公立学校言語・難聴教育研究協議会，十日町市立学校教諭，新潟県立精神医療センター，2025.10.17.
3. 燕市母子健診従事者研修会，３歳児健康診査における言語の対応，講師，燕市母子健診従事者，燕市保健センター，2026.2.26.
4. 視力検査実技講習会，2025年度幼児視力検査実技講習会，講師，こども総合支援研究センター，保育士・看護師，2025.3.19.
5. 令和７年度全特連研修事業，鼻咽腔閉鎖機能不全のある児童の指導，講師，新潟県内学校教諭，オンライン，2026.3.28.

２）TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. TV，NCTケーブルTV，燕市と新潟医療福祉大学が協定締結，2025.8.28.
2. TV，NHKニュース610，燕市と新潟医療福祉大　子どもの成長と発達支援で連携協定，2025.8.26.
3. 新聞，新潟日報，こども支援へ連携協定 燕市と新潟医療福祉大学，2025.9.18.
4. 一般雑誌，県央ドット・コム，燕市とこども総合支援研究センターを開設した新潟医療福祉大学と「こどもの成長と発達に関する支援を目的とした連携協定」を県内で初めて締結，2025.8.27.

３）社会活動への参加協力

1. 阿賀町役場，言葉の相談会，言語指導者，阿賀町津川　やまぶきの里，2025.4.1-2026.3.31.（年８回開催）
2. 胎内市こころとことばの相談室，言語発達支援，胎内市健康づくり課ほっとHot・中条，2025.4.1-2026.3.31.
3. 燕市子ども政策部子育て応援課との連携事業，講師，燕市役所およびオンライン，2025.4.1-2026.3.31.
4. 言語通級指導検討会，講師，新潟県内小学校言語通級指導教室およびオンライン，2025.4.1-2026.3.31.

７．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2025年度．科研費基盤研究C，バイオマーカーを用いた癇癪の客観的評価―ケアプロセスの標準化をめざして―，谷麻美，研究代表者
2. 2023年度，科研費基盤研究C，二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討：鼻腔共鳴の定量評価の確立．大湊麗，研究代表者
3. 2025年度，日本口蓋裂学会次世代育成事業，2025年度若手研究者海外発表奨励金，The effects of 1-stage versus 2-stage palatoplasty on oral and Speech development in infancy．大湊麗，研究代表者

2　医療経済・QOL研究センター（Center for Health Economics & QOL Research）

①研究テーマ

1　国内の薬剤，医療技術に関する費用対効果の研究

2　費用効用分析に用いるモデリングの研究

3　種々の疾患や健康状態に対する健康関連QOL，とくに効用値の測定

4　国内における費用効果比や効用値に関するデータベースの構築

②センター名簿

センター長：能登真一，作業療法学科

研究員　　：谷川奈々，義肢装具自立支援学科

客員研究員：森脇健介，立命館大学 総合科学技術研究機構 医療経済評価・意思決定支援ユニット（CHEERS）教授

客員研究員：泉　良太，聖隷クリストファー大学 作業療法学科 教授

③主な活動内容

1．論文

1. Izumi R, Noto S, Nagayama H, Sano T, Takizawa H, Tsukakoshi D. Inter-rater reliability and responsiveness of patients to proxy responses of the EQ-5D-5L for older patients with musculoskeletal disorder in rehabilitation wards. BMC Musculoskelet Disord. 2026 Mar 5.
2. Nagata T, Shinagawa S, Noto S, Yamato K, Mori N, Onuki K. Family Caregiver Burden and Neuropsychiatric Symptoms in Japanese Community-Dwelling People With Alzheimer's Disease: A Cross-Sectional Study Using a Web-Based Questionnaire. Psychogeriatrics. 2026 Mar; 26(2): e70143
3. Shinagawa S, Nagata T, Noto S, Yamato K, Mori N, Onuki K. Caregiver burden and quality of life associated with behavioral and psychological symptoms of Alzheimer's disease: A web-based cross-sectional survey study. J Alzheimers Dis. 2026 Mar; 110(2): 628-638.
4. Murota H, Noto S, Matsukawa M, Konishi Y, Michikami D, Toda R, Nakahara T. Survey on the Actual Use of Topical Anti-Inflammatory Drugs Among Patients with Atopic Dermatitis. Dermatol Ther. 2026 Feb; 16(2): 993-1009.
5. Kawano K, Shiota S, Funatsu K, Murai C, Tamura T, Suzuki T, Higashi T, Noto S. Development of an ICF-Based Core Assessment Set for Psychiatric Occupational Therapy in Japan: A Three-Round Delphi Study. Occup Ther Int. 2026; 2026(1): e5138252.
6. Izawa KP, Kitamura M, Ogura A, Kubo I, Ishihara K, Kanejima Y, Oka K, Noto S, Naito K, Brubaker PH, Nagashima H, Tawa H, Matsumoto D, Shimizu I. Impact of Sedentary Time and Physical Function on Health-Related Quality of Life in Hospitalized Patients with Cardiovascular Disease. CJC Open. 2025 Aug 22; 7(11): 1524-1532.
7. Nakahara T, Noto S, Matsukawa M, Konishi Y, Toda R, Michikami D, Murota H. Habitual Scratching in Atopic Dermatitis and Its Association with Disease Severity: Findings from Japanese Health Insurance Claims and App-Based Data. Dermatol Ther. 2025 Nov; 15(11): 3409-3417.
8. Noto S, Shimizu N, Morishita A. Caregiver Burden Associated With Respiratory Syncytial Virus (RSV) Infection in Young Children in Japan. Cureus Journal of Medical Science. 2025 Sep 2; 17(9): e91502.
9. Nakahara T, Murota H, Noto S, Matsukawa M, Toda R, Konishi Y, Michikami D. Observational Study of Corticosteroid Phobia Using the TOPICOP Score among Adults and Caregivers of Children with Atopic Dermatitis in Japan. Dermatol Ther. 2025 Jul; 15(7): 1851-1865.

10. Kawai T, Kanegane H, Ishimura M, Okada S, Okamatsu N, Nakagawa K, Go M, Noto S. Quality of Life in Japanese Patients with Primary Immunodeficiency Disease is Disrupted throughout the Year. J Clin Immunol. 2025 May 7; 45(1): 90.
11. Morimoto K, Moriwaki K, Nishikawa Y, Maeda T, Toyama M, Agatsuma N, Kojima S, Utsumi T, Takahashi Y, Shimozuma K, Nakayama T. Comparative Cost-Effectiveness Analysis of Multiple First-Line Treatments for HER2-Negative Unresectable Advanced or Recurrent Gastric Cancer in Japan. Pharmacoecon Open. 2026 Feb 10.
12. Lin X, Liu J, Wang L, Liu T, Zhang Y, Moriwaki K, You R. Cost-effectiveness analysis of low bone mass prevention in Chinese older men with excessive alcohol consumption: a modelling study. BMJ Open. 2026 Jan 27; 16(1): e095486.
13. Taniguchi S, Moriwaki K, Morimoto K, Shimozuma K. Cost-Effectiveness of Pembrolizumab as First-Line Therapy for Advanced Colorectal Cancer With High Microsatellite Instability or Mismatched Repair Deficiency in Japan. Value Health Reg Issues. 2025 Dec 10; 54: 101555.
14. Liu JY, Lin XH, Chen YH, Wang L, Liu T, Zhang Y, Mori T, Moriwaki K, You RX. Cost-Effectiveness of Fracture Prevention in Postmenopausal Women With Early Breast Cancer in China. J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2025 Dec; 16(6): e70161.
15. Kakinuma H, Takada D, Itoshima H, Kunisawa S, Moriwaki K, Honda M, Fushimi K, Imanaka Y. Cost-effectiveness analysis of pembrolizumab plus chemotherapy versus chemotherapy as first line chemotherapy for patients with unresectable advanced esophageal cancer in Japan. Esophagus. 2025 Oct; 22(4): 583-592.
16. Maeda T, Moriwaki K, Morimoto K, Mo X, Yoshioka T, Goto R, Shimozuma K. Cost-Effectiveness Analysis of Nivolumab Plus Ipilimumab Combination Therapy as First-line Treatment for Advanced Renal Cell Carcinoma in Japan. Value Health Reg Issues. 2024 Mar; 40: 118-126.
17. Tanikawa N, Thanh H. T. T., Suzuki K. A scoping review of patient-reported outcomes for post-stroke patients with lower limb orthosis. Niigata Journal of Health and Welfare. 2025; 24(2): 37-49.

２．学会等研究発表

1. Noto S, Moriwaki K, Hagiwara Y, Iwatani T, Suzukamo Y, Morimoto K, Maeda T, Shimozuma K. Can EQ-5D-5L Discriminate the Clinical Severity of Asthma? ISPOR Real World Summit 2025. Tokyo. 2025.9.29.
2. Noto S, Saito S, Shiroiwa T. Psychometric performance of EQ-HWB for Japanese populations. ISPOR EU 2025. Glasgow. 2025.11.11.
3. 渡邉貴博，能登真一，棗田学，木村慎二．脳腫瘍患者におけるEuroQol 5 dimensions 5-levelの基準関連妥当性の検討．第59回日本作業療法学会．高松市．2025.11.7.
4. 泉良太，佐野哲也，能登真一．作業療法士のナッジ使用状況とADL・QOLとの関係について．第59回日本作業療法学会．高松市．2025.11.7.

３．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2024年度，科研費基盤研究（B），EQ-HWBのスコアリングアルゴリズムの開発と費用対効果評価への応用の検討，研究代表者
2. 2022年度，科研費基盤研究（C），リハビリテーション医療分野におけるナッジの解明；使用状況と健康関連QOLについて，泉良太・研究代表者
3. 2023年度，科研費基盤研究（C），効率性フロンティアに基づく医療技術の価格調整法の開発と医療経済的便益の評価，森脇健介・研究代表者
4. 2025年度，科研費基盤研究（B），先天性代謝異常患者と家族の報告型アウトカムによる包括的評価パッケージの開発と実装，能登真一・研究分担者

5. 2025年度，厚生労働行政推進調査事業費補助金　政策科学総合研究事業　分析ガイドラインの改定に向けた費用対効果評価における方法論およびツール等の開発に関する研究，能登真一，森脇健介・研究分担者
6. 2025年度，クレコンメディカルアセスメント株式会社 研究寄付金，能登真一，・研究代表者

3　ロコモティブ症候群予防研究センター（Research Center for Locomotive Syndrome Prevention）

①研究テーマ

1　県内市町村，新潟市北区住民へのロコモ予防に貢献するために支援システムの研究．実践を行う．
2　運動器慢性疼痛における諸因子の調査研究を行う．
3　産業保健における運動器慢性疼痛予防についての支援システムの研究・実践を行う．

②センター名簿

センター長　：佐藤成登志　義肢装具自立支援学科　学科長・教授
副センター長：山本智章　　新潟リハビリテーション病院　院長
研究員　　：神田　賢　　義肢装具自立支援学科　准教授
研究員　　：立石　学　　吉田病院　リハビリテーション部　部長
研究員　　：高野義隆　　新潟リハビリテーション病院　リハビリテーション部　部長
客員研究員　：北村拓也　　国際医療福祉大学　講師

③主な活動内容

1．著書

1. 有馬慶美，加藤研太郎，笹川健吾（編）．概説理学療法．第３版．東京：文光堂；2025: 1-223（分担執筆：17-19）

2．論文

1. Terai H, Takahashi S, Hoshino M, Taniwaki H, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T. “Koshimagari Exercise” for Adult spinal deformity in older adults: Assessment of home based exercise outcomes in a multicenter study.Spine Surgery and Related Research. 2025; vol9(3); 358-367.
2. Taniwaki H, Takahashi S, Hoshino M, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T, Terai H. Who benefits from home-based exercise for adult spinal deformity? A prospective multicenter study on clinical and radiographic predictors. European Spine Journal. 2025; vol34, 2806-2818.
3. 北村拓也，佐藤成登志．腰部脊柱管狭窄症患者の理学療法におけるフィジカルアセスメントのポイント．理学療法．2025；42(1)：22-31
4. 北村拓也，金子巧，長島裕子，若菜翔哉，知名規人．臨床実習における表情変化の乏しさが示す非認知能力の影響-臨床教育の支援モデル構築への示唆-．Journal of Physical Therapy Education. 2025; 15(2): 52-60.
5. 郷貴博，佐藤未希，佐藤成登志．義肢装具士養成校の現状と今後の学生教育について　新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科の取り組みと今後の課題，日本義肢協会誌．143:25-26,2025
6. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志．筋血流研究から紐解く労作性腰痛の新病態．地域ケアリング．22(11): 65-68.

7. 前田雄，須田裕紀，東江由紀夫，谷川奈々，佐藤成登志．疾患における車椅子・姿勢保持装置の選定 車椅子シーティングにおける義肢装具士養成校のカリキュラム，日本義肢装具学会誌．41(3):207-211,2025

3．報告書

1. 佐藤成登志，神田賢，北村拓也．基盤研究（C），高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築，研究成果報告書，2025，研究代表者
2. 神田賢，佐藤成登志，北村拓也．基盤研究（C），看護・介護従事者の腰痛，頚部痛，メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証，研究成果報告書，2025，研究分担者

4．学会等研究発表

1. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志，岡邨直人，山本智章，渡邊慶．腰痛強度別にみた成人脊柱変形患者の理学療法反応性の違い-初診時腰痛強度に基づく層別的検討-．第33回日本腰痛学会（富山県），2025.10.11.（メディカルアワードセッション）
2. 北村拓也，倉井真帆，富田航輔，西春香，渡邊福実，金子巧．入眠時間の延長が示す潜在的腰痛リスク：若年者を対象とした簡易的スクリーニング指標の提案．第18回日本運動器疼痛学会「第１回JAPAN PAIN WEEK」（東京都），2025.12.5.（主題）
3. 北村拓也，金子巧．報連相力の意外な側面-非認知能力が学業成績に与える影響-．第14回日本理学療法教育学会（東京都），2026.1.11.
4. 岡村郁哉，小林卓夫，佐藤成登志，神田賢．通いの場参加高齢者と要支援認定者の比較から見出された潜在的要支援者の現状．第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会（新潟市），2025.12.20.
5. 増田泰輔，成田崇矢，北村拓也，池津真大，勝又哲，井関航，植田悠貴，山崎美織，吉原潔，石塚怜王．超初期，初期の腰椎分離症に対する超積極的理学療法の治療成績-．第33回日本腰痛学会（富山県），2025.10.10.（ポスターセッション）
6. 渡邉舞，岡田果歩，河本空，髙橋南海，北村拓也．周期性変動を有する月経随伴症状の変動幅がもたらす影響-女子学生を対象とした探索的研究-．第11回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会（大阪），2025.12.14.（口述）
7. 近藤悦子，木村慎二，北村拓也，安藤千晶．スマートフォン版いきいきリハビリノートを用いた維持期の慢性疼痛患者に対するテレナーシングの実践．第18回日本運動器疼痛学会「第１回JAPAN PAIN WEEK」（東京都），2025.12.5.（ポスターセッション）
8. 屋嘉比章紘，会田壮一郎，北村拓也，嶺喜隆．筋硬度計測（Shear wave speed）のプローブ軸方向は結果に影響する．第１回栃木県リハビリテーション専門職学術大会（栃木県），2026.1.25.（ポスターセッション）
9. 田鍋希妃，東江由起夫，Praewpipat Bongkoch，田村真明，神田賢．ポリプロピレン製後面支柱型短下肢装具の開始時１万回および終了時１万回のモーメントの比較検証-アキレス腱部位の水平断面形状の統一化の確立-．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟県），2025.10.25.
10. 田鍋希妃，東江由起夫，Praewpipat Bongkoch，田村真明，神田賢．後方足継手部の水平断面形状が異なる後面支柱型短下肢装具の比較検証 ～底背屈モーメントに着目～ポリプロピレン製後面支柱型短下肢装具の開始時１万回および終了時１万回のモーメントの比較検証-．第41回日本義肢装具学会（新潟県），2025.11.8.
11. Kanda M. Suggestions for Future Functional Outcome Measurements in the PO field.The Post-Graduate Research Day and Research Progression Activity.Sirindhorn School of Prosthetics and Orthotics, Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University. 2025.5.13.
12. Kanda M. How double-degree structures (co-supervision, shared modules, lab visit) accelerate students' competencies that translate into research and service improvements on return. Global Educatots Meeting 2026 (Bangkok, Thailand), 2025.3.23-3.25.

5．学会活動

1. 第12回日本予防理学療法学会，演題査読（１件），福岡，2025.11.8-11.9.
2. 第８回日本産業理学療法学会，演題査読（１件），愛知，2025.11.15-11.16.
3. 第13回日本運動器理学療法学会，演題査読（２件），大阪，2025.11.22-11.23.
4. 第１回Pain Week Japan（日本運動器疼痛学会），演題査読（７件），東京，2025.12.4-12.6.
5. 第11回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会，演題査読（４件）・座長，大阪，2025.12.13-12.14.
6. 第14回日本理学療法教育学会，演題査読（１件）・座長，東京，2026.1.10-1.11.
7. 理学療法科学，査読委員，2025
8. Physical Therapy Research，Reviewer，2025
9. 第41回日本義肢装具学会学術大会，演題査読（10件），2025.11.8.
10. 第41回日本義肢装具学会学術大会，市民公開講座・一般演題，座長，新潟市，2025.11.8.
11. 新潟医療医福祉学会誌，査読３件（和文１件，英文２件）
12. INQUIRY，査読１件

６．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. 厚生労働省慢性疼痛診療構築モデル事業新潟県WG研修会（Zoom），ファシリテータ，2025.8.31，12.14.
2. 就労支援事業:労働災害予防のための相談・指導，運送業，社員，新潟市，2025.4-2026.3.（４回）
3. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，腰痛予防の方法と実践，講師，労働監督署，ゴルフ関連企業，新発田市労働監督署，2025.7.10.
4. 江南区ロコモはつらつ健康教室記念講演会，転倒・骨折予防の必要性と取り組み，講師，江南区ロコモはつらつ健康教室主催者，江南区リハビリテーション関連職種，亀田第一病院，2025.8.19.
5. ３部会合同講演会，安心・安全に働くための腰痛予防の方法と実践，講師，（一社）健康ビジネス協議会，県内ビジネス関連会社，朱鷺メッセ，2025.9.2.
6. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための腰痛予防の方法と実践個別指導，講師，IT企業，社員，新潟市，2025.10.21.
7. 村上市介護予防講演会，いつまでも自分の足で歩くためのフレイル予防，講師，村上市介護高齢課，市民，村上市広域情報センター，2025.11.17.
8. 理学療法士講習会，高年齢者の社会参加と就労支援～職業性腰痛予防と転倒防止，講師，（公社）新潟県理学療法士会，会員，ハイブリッド（晴陵リハビリテーション学院・Web），2025.11.30.
9. 市民公開講座，安心・安全に生活し働くための腰痛予防の方法と実践，講師，（公社）新潟県理学療法士会，県民，ハイブリッド（十日町情報館・Web），2025.12.7.
10. （公社）新潟県理学療法士会下越ブロック研修会，講師，看護リハビリ新潟保健医療専門学校，2025.12.29.
11. （一社）栃木県理学療法士会講習会，講師，自治医科大学，2026.3.15.
12. 大田原市介護予防普及啓発事業，コグニサイズフォローアップ教室，講師，大田原市（８回）
13. 大田原市介護予防普及啓発事業，おたっしゃクラブ身体機能測定教室，評価，大田原市（５回）
14. 大田原市家族介護支援事業，「理学療法士が教える介護技術-自分の膝・腰を守るために」，講師，田原市（５回）
15. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための腰痛予防の方法と実践，講師，土木業トンネル工事，社員，村上市，2026.1.28.
16. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，「肩こり・腰痛の解消に向けて」自分でできる予防　何？，講師，電気会社，社員，新潟市，2025.6.20.
17. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための腰痛・転倒予防の方法と実践，講師，特別養護老人ホーム，社員，村上市，2025.12.1.

18. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための腰痛予防の方法と実践，講師，特別養護老人ホーム，社員，燕市，2026.3.4.
19. 就労支援事業:労働災害予防のための相談・指導，運送業，社員，新潟市，2025.4-2026.3.（４回）
20. Manual Therapy for Patient with Lumbar Dysfunction　弘光科技大学，台中，台湾　2025.9.

２）社会活動への参加協力

1. （公社）日本理学療法士協会，会員関連会議，委員，web，2025.4-2026.3.（２回）
2. （公社）新潟県理学療法士会・総会，会長，新潟，2025.6.21.
3. （公社）新潟県理学療法士会・理事会，相談役，新潟，2025.4-2026.3.（６回）
4. （公社）新潟県理学療法士会・関連会議，相談役，新潟，2025.4-2026.3.（12回）
5. 関東甲信越ブロック協議会・士会長会議，監事，甲府，2025.11.15.
6. 新潟県地域包括ケア支援専門職協議会・関連会議，会長，新潟，2025.4-2026.3.（２回）
7. （一社）日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会総会（Zoom），評議員，2025.6.18.
8. （公社）新潟県理学療法士会・総会，理事，新潟，2025.6.21.
9. （公社）新潟県理学療法士会・理事会，理事，新潟，2025.4-2025.6.（２回）
10. （公社）新潟県理学療法士会　広報部会議（Zoom），理事2025.4.16.
11. 慢性疼痛多施設共同研究，「慢性疼痛患者に対する認知行動療法に基づくいきいきリハビリノートによる運動促進法の効果判定会議」（Zoom），研究員，2025.1.19.
12. 厚生労働省慢性疼痛診療体制構築モデル事業ワーキンググループ委員
13. 義肢装具士臨床実習指導者講習会　講師

７．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2024年度（新規），基盤研究（C），高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築，佐藤成登志・神田賢，北村拓也
2. 2024年度（新規），基盤研究（C），看護・介護従事者の腰痛，頚部痛，メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証，神田賢・佐藤成登志，北村拓也

８．その他の活動

（一社）日本運動器疼痛学会（代議員），（一社）日本理学療法教育学会（評議員），（一社）日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会（評議員），厚生労働省慢性疼痛診療体制構築モデル事業ワーキンググループ委員，（公社）新潟県理学療法士会（会長・理事：4月～6月），新潟県リハビリテーション専門職協議会（副会長：4月～6月），新潟県地域包括ケア支援専門職協議会（会長：4月～10月），新潟県健康づくり財団（評議員），（公社）新潟県理学療法士会（相談役：7月～2026年3月），関東甲信越ブロック協議会（監事）

4　シティズンシップ教育実践研究センター（Citizenship Education Practical Research Center）

①研究テーマ

1　QOLサポーター育成に必要なシティズンシップ教育プログラムの開発，実践
2　地域資源を活用したシティズンシップ教育プログラムの開発，実践
3　上記教育プログラムの開発，実践に伴う調査
4　Embodied Knowledge，Human Resource Management

②センター名簿

センター長：西原康行，健康スポーツ学科，教授
研究員　　：吉田重和，健康スポーツ学科，教授
研究員　　：佐藤裕紀，健康スポーツ学科，講師
研究員　　：山本悦史，健康スポーツ学科，講師
研究員　　：五十嵐紀子，教育・学生支援機構，教授
研究員　　：原口彩子，社会福祉学科，教授

研究員　　：杉本　洋，看護学科，教授

③主な活動内容

１．著書

1. 吉田重和；古賀毅編著．やさしく学ぶ教職課程 教育原理 第２版．第２版．東京：学文社；2026：14-15, 18-19.
2. 吉田重和；公益財団法人教科書研究センター編．海外教科書制度調査研究報告書（2025年版）．東京：公益財団法人教科書研究センター；2026：253-258.
3. 石黒武人，柿田秀樹，松島綾，松本健太郎，中西満貴典，谷島貫太，奥野克巳，菅野遼，森田系太郎，小坂貴志，藤巻光浩，塙幸枝，齋藤光之助，藤野陽平，宮脇かおり，五十嵐紀子．ポストヒューマン時代のコミュニケーション学：モノと主体の関係を問い直すための視点と事例．京都：ナカニシヤ出版；2025：165-172.
4. 佐藤裕紀，林寛平，中田麗子，本所恵，北欧教育研究会編著．北欧の教育新潮流：未来につなぐ子育てと学び．初版．東京：明石書店；2025：3-5，98-102，124-132，139-143，158-181，245-248，284-287，311-312.
5. 佐藤裕紀；古賀毅編著．やさしく学ぶ教職課程 教育原理 第２版．東京：学文社；2026：46-47.
6. 佐藤裕紀；公益財団法人教科書研究センター編．海外教科書制度調査研究報告書（2025年版）．東京：公益財団法人教科書研究センター（販売 ぎょうせい）；2026：277-282.

２．論文

1. Hokama N, Hayakawa T, Sato M, Amagaya T, Sugimoto H. Co-occurence Network Analysis of Peer Support in Disability Welfare Service Offices. Journal of Japan Health Medicine Association. 2025; 34(2): 198-204. (review)
2. 山本悦史，本間崇教，島田達人．プロスポーツファンにみられる愛着の構造：オイシックス新潟アルビレックスBCを事例として．日本経営診断学会論集（協力学術研究団体）．2025; 25: 151-157.
3. 山本悦史，中西純司．プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析：オフィシャルパートナー企業の意思決定プロセスに注目して．SPORTS BUSINESS & MANAGEMENT REVIEW. 2025; 36: 8-10.

３．報告書

1. 吉田重和，科学研究費補助金基盤研究（C），比較教育研究におけるISCED活用の可能性―日蘭の職業教育プログラムを事例として，研究成果報告書，2021-2024，研究代表者

４．学会等研究発表

1. 杉本洋．地域に根ざした精神科クリニックによるインクルーシブな地域づくりの実践．第31回日本精神保健社会学会学術大会（オンライン），2025.11.23.
2. 杉本洋．当事者による表現活動の継続可能性と柔軟な変容―こわれ者の祭典およびK-BOXの実践にみる変わらなさを基盤とした活動プロセスの検討．アートミーツケア学会　2025年度総会・大会（郡山），2025.9.20.
3. 杉本洋．プロデュースされるプロデューサー ―病気の体験を表現する人々の相互作用理解における新たな視点の考察．第51回日本保健医療社会学会大会（長崎），2025.5.25.
4. 下窪拓也，山本悦史．「暮らしと健康とスポーツに関する調査」報告：調査の概要・基礎分析の結果を中心に．日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会（東京），2025.08.28.
5. 吉田重和．オランダにおける教員のメンタリング：制度設計と政策的意義に着目した質的検討．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.
6. 五十嵐紀子．頑なな心が溶けるとき：猫問題をめぐる語りから．日本コミュニケーション学会九州支部第32回大会（沖縄），2025.11.29.
7. 會澤まりえ，小林葉子，宮曽根美香，関久美子，川内規会，五十嵐紀子．ラウンドテーブルディスカッション：海外研修引率を通して触れる異文化理解，オンライン，2026.2.27.

8. Sato H, Sakaguchi M, Hara Y. Reinterpreting the Folk High School in Japan: Educational Borrowing, Non-formal Learning, and a Comparative Perspective from East Asia.The 55th Congress of the Nordic Educational Research Association (NERA)(Aarhus/Denmark), 2026.3.4.

５．学会活動

1. 保健師教育教育査読委員
2. 新潟医療福祉学会誌 査読
3. 仏教看護・ビハーラ　査読
4. NIigata Journal of Health and Welfare 査読
5. 第45回日本看護科学学会学術集会，口演19 看護技術・ケアイノベーション２，座長，新潟市，2027.12.7.
6. 第45 回日本看護科学学会学術集会　運営委員会編集委員
7. 第57回日本看護学会学術集会　演題査読
8. 第31回日本精神保健社会学会学術大会・総会 総合司会　2025.11.23.
9. 日本健康教育学会誌 査読
10. 保健医療社会学論集 査読
11. 体育学研究，査読
12. 体育・スポーツ経営学研究，査読
13. スポーツ産業学研究，査読
14. 日本経営診断学会論集，査読
15. 日本体育・スポーツ経営学会，理事
16. 日本体育・スポーツ経営学会，編集委員（副編集委員長）
17. 日本体育・スポーツ経営学会，研究・国際委員
18. 日本体育・スポーツ経営学会，将来計画委員（幹事）
19. 日本体育・スポーツ・健康学会，第75回大会，座長，東京，2025.8.29.
20. 日本体育・スポーツ・健康学会，応用（領域横断）研究部会，委員
21. 日本コミュニケション学会，理事（事務局長）
22. 日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構，代議員
23. 日本コミュニケーション学会九州支部紀要，査読
24. 日本生涯教育学会，理事/事務局長
25. 日本生涯教育学会論集 査読
26. 北欧教育研究会事務局

６．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. 県央スポーツネットワークスポーツ指導者講習会兼県央スポーツサポーターバンク認定講習会，スポーツと法～スポーツ事故における指導者の法的責任～，講師，県央スポーツサポーターバンク登録者等，三条市体育文化会館，2026.2.22.
2. とよさか中高年教養大学，ペットとの幸せで安心な暮らしのために必要なこと，講師，新潟市北区，新潟市北区民中高年者，葛塚コミュニティセンター，2025.4.24.
3. 介護福祉士ファーストステップ研修，コミュニケーション技術，講師，新潟県介護福祉士会，新潟市ユニゾンプラザ，2025.7.20，8.3.
4. 新潟市乳児院はるかぜ10周年記念 はるかぜのライフヒストリーワーク，コメンテーター，新潟市，新潟県民会館，2025.7.15.
5. 看護学部臨地実習指導者研修会，患者の立場に立つことに時間を要する学生の理解と支援，講師，新潟市北区，新潟医療福祉大学，2025.8.5.
6. 令和７年度「初任者研修」（メンタルヘルス）講座，講師，新潟市西蒲区，新潟市総合教育センター，

2025.8.5.

7. 2025年度共同募金助成事業「にこっと」研修会，村瀬嘉代子先生から学ぶ①「心を込めて真実を伝える意味」，講師，新潟市北区，豊栄地区公民館，2025.9.20.
8. 令和７年度「養護教諭育成支援コーチ研修」，講師，新潟市西蒲区，新潟市総合教育センター，2025.9.25.
9. 妙高市専門職研修会，発達症傾向のある市民への理解と支援，講師，オンライン，2025.10.16.
10. 2025年度共同募金助成事業「にこっと」研修会，村瀬嘉代子先生から学ぶ②「支援者の資質と覚悟」，講師，新潟市北区，豊栄地区公民館，2025.10.18.
11. 養護教諭対象 心の支えイメージマップ（MSIM）研修会，講師，新潟市東区，東区プラザ，2025.3.15.
12. 北欧教育研究会，『北欧の教育新潮流』刊行記念イベント執筆者と語り合う北欧教育の今，司会・登壇者，北欧教育研究会，一般市民，東京，2025.10.11.
13. 教科書セミナー「デンマーク調査報告」，講師，公益財団法人教科書研究センター，教科書業者，一般市民，東京，2025.9.12.
14. わたしを見つめ，世界とつながる～対話で学ぶフォルケホイスコーレ～，登壇者，明治大学坂口緑研究室，一般市民，東京，2025.4.19.

２）TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. WEB，PR TIMES，日本スポーツ産業学会「令和６年度 学会賞」を受賞！企業とプロスポーツクラブの関係性はどのように形成・強化されていくのか？山本講師らがクラブと企業のパートナーシップ形成・強化要因を解明，2025.8.5.
2. WEB，PR TIMES，【新潟医療福祉大学】スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2025」健康スポーツ学科のゼミが「審査員特別賞」を受賞！，2026.1.8.
3. 一般雑誌，新潟の介護の仕事がよくわかる（ドットコム・マーケティング），外国人スタッフと共に働くために大切なこと，2025.9.30.
4. 一般雑誌，社会教育，「論考」デンマークのフォルケホイスコーレに見る事業開発のヒント，2025.6月号.
5. 新聞，教育新聞，【世界の教育最前線】デンマーク教育の特色として知られる10年生が廃止へ 多くの反対も，2025.8.22（囲み記事）.
6. テレビ，フジテレビ　サン！シャイン，「岐阜県美濃市での小学校低学年での通知表廃止」での海外教育事情コメント，2025.6.17.
7. 新聞，日本教育新聞，コンサル配置，教員へ助言 デンマーク視察を報告，2025.9.22.

３）社会活動への参加協力

1. 新潟市介護保険事業等運営委員会（委員長）
2. 新潟市環境審議会，新潟市の環境政策についての検討，委員，新潟市，年間２～３回開催.
3. 新潟市国民健康保険運営協議会，国民健康保険料率の検討，委員，新潟市，年間３～５回開催.
4. 新潟市動物愛護協会，人と動物の共生社会の実現を目指した活動，理事，新潟市，年間３回.
5. 聖籠町こども家庭センタースーパーバイザー事業，子どもソーシャルワーカーのSV，講師，聖籠町役場，2025.5.1-2026.3.31.
6. 令和７年度聖籠町あそび教室発達相談会事業，子育て相談・保健師コンサル，相談員，聖籠町保健福祉センター，2025.7.16-2026.2.18.
7. こころほかほかあたたかい町　ミニミュンヘン 新潟，子どもが運営するまちのサポートスタッフ，実行委員，新潟市西堀ローサ，2025.8.24.

７．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2025，基盤研究（c），地域精神保健におけるピアサポート活動促進のための支援プログラムの構築，研究分担者

2. 2025，挑戦的研究（開拓），健全な発達を促す身体活動に向けた毛髪中コルチゾールによる慢性ストレス評価法確立，研究分担者
3. 2025，基盤研究（c），プロスポーツにおけるCSV経営の普及に向けた包括的研究，研究代表者
4. 2023，基盤研究（c），教員の職能成長を支えるメンタリングの国際比較：指導者（メンター）に着目して，研究代表者
5. 2025，基盤研究（C），共生型農園活動の引きこもり解消への効果とその要因，研究代表者
6. 2023年度，科研費基盤研究（C），フォルケホイスコーレの受容と生涯学習政策の実証的考察：日韓比較を通じて，研究代表者
7. 2023年度，科研費基盤研究（C），教員の職能成長を支えるメンタリングの国際比較－指導者（メンター）に着目して，研究分担者
8. 2021年度，科研費基盤研究（B），北欧諸国における教科書の中の多様性（ダイバーシティ）の実相に関する研究，研究分担者

5　スポーツカウンセリング研究センター（Sports Counseling Research Center）

①研究テーマ

1　競技力向上につながる心理的サポートの実践および研究
2　専門家養成としての大学院生の実践的教育システムの構築
3　スポーツカウンセリングにおける来談ニーズおよび来談傾向の調査
4　大学院生の資格取得に向けた支援

②センター名簿

センター長　：山﨑史恵，健康スポーツ学科，教授
研究員　　：千葉陽子，心理健康学科，助教
研究員　　：並木伸賢，健康スポーツ学科，助教
補助研究員　：余村花梨，博士課程医療福祉学研究科
アドバイザー：山本裕二，心理健康学科，学科長・教授

③主な活動内容

1．著書

1. 井上和哉，栗林千里，並木伸賢，深町花子，佐藤徹男，吉本学，金澤潤一郎，榎本恭介，柳澤博紀，直井愛里．スポーツにおけるマインドフルネスとアクセプタンス：プレッシャー下でパフォーマンスを発揮するために．初版．東京：北大路書房；2026：２章，５章，６章.

2．論文

1. 並木伸賢，堀野博幸．大学ラグビー選手のメンタルヘルス：公式戦への出場経験と援助要請への抵抗感の観点から．スポーツパフォーマンス研究（協力学術団体）．2025；17：284-293.（査読あり）
2. 八斗啓悟，清水登大，上田寛，並木伸賢．心理ネットワークアプローチを用いたアスリートに対する個別最適なコンディショニングサポートの可能性．スポーツ心理学研究（協力学術団体）．2025；52(2)：77-91.（査読あり）
3. Fujiwara S, Yamazaki F, Nakayama N, Sugisaki K. Comparative effects of lived experience-lecturer-guided and teacher-led classes on mental illness awareness among Japanese high school students. PLoS one 20(10). 2025.

3．報告書

1. 千葉陽子．若手研究，アスリートの攻撃性を競技発揮に変換するMTプログラムの開発，研究成果報告書，2020.4-2025.3，研究代表者

4．学会等研究発表

1. 千葉陽子．女性アスリート研究の動向と今後の課題－発達心理学的視点から-．東北心理学会・第78回大会（福島・日本），2025.8.31.

2. 冨永哲志，大坪香菜子，奥野真由，千葉陽子．HPSCとスポーツ心理学会との連携・協働の在り方を考える．日本スポーツ心理学会・第52回大会（京都・日本），2025.9.26.
3. 並木伸賢．大学陸上競技者への心理ネットワークアプローチを用いた支援事例．日本スポーツ心理学会第52回大会，2025.9.26-9.28.
4. 並木伸賢，原口彩子，石本豪．大学生のメンタルヘルス症状と相談傾向の検討．第47回全国大学メンタルヘルス学会総会，2025.12.4-12.5.
5. 千葉陽子．進行性視覚障害を持つパラアスリートとの中断事例-慢性負傷と見えなくなることの意味をめぐって-．日本臨床心理身体運動学会・第27回大会（大阪・日本），2025.12.21.
6. 並木伸賢．アスリートの競技経験はどのように活かされているのか：元トップアスリートの会社経営者へのインタビュー調査から．日本スポーツマネジメント学会第18回大会，2026.2.26-2.28.

５．学会活動

1. 日本スポーツ心理学会，資格委員会部門員（社会連携部門に関わる業務）

６．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. アゴラ・さいころじぃ市民向け公開講座 日頃の困りごとを「心理学」で解決！「大事な場面で力を出すには」，講師，新潟医療福祉大学心理健康学科主催・公益社団法人日本心理学会共催，朱鷺メッセ，2025.5.31.
2. 第79回国民スポーツ大会に向けた講演会，選手の力を引き出す心理学的アプローチ－言葉がけのコーチング－，講師，新潟県競技スポーツ課，指導者，新潟ユニゾンプラザ，2025.6.28.
3. 新潟心理学会，アスリートのキャリア支援の歴史と展開，講師，新潟大学駅南キャンパスときめいと，新潟県，2025.7.4.
4. 津南町教育振興会夏季研修会，子どものやる気を引き出す働きかけ方について，講師，津南町教育振興会，中学校教員，津南中学校，2025.7.25.
5. 北区大学連携「未来のまちづくり」，子どもの心の発達過程を理解し，スポーツ活動を支援する，講師，地域スポーツ指導者・保護者，ラグーナスクエア，2025.8.22.
6. 北区大学連携「未来のまちづくり」，子どもの意欲を高めるスポーツ活動の工夫，講師，地域スポーツ指導者・保護者，ラグーナスクエア，2025.8.29.
7. 令和７年度村上市指導者育成プログラム研修会，スポーツ心理学Ⅰスポーツにおける動機づけ，講師，NPO法人希楽々，地域スポーツ指導者，村上市生涯学習推進センター，2025.10.7.
8. 長岡向陵高校・受験期のメンタルヘルス講習，アスリートの実力発揮から学ぶ，講師，長岡向陵高校，高校生，長岡向陵高校，2025.10.9.
9. 令和７年度村上市指導者育成プログラム研修会，スポーツ心理学Ⅱカウンセリング，講師，NPO法人希楽々，地域スポーツ指導者，村上市，2025.10.14.
10. 2025年度第２回女性アスリート・指導者育成研修合宿「女性の心理とスポーツ」，講師，新潟県陸上競技協会・新潟医療福祉大学，新潟県の指導者・選手・保護者，新潟医療福祉大学，2025.11.9.
11. 柏崎水泳連盟主催「スポーツ心理」研修会，才能より習慣で選手は強くなる-結果を出すメンタル・伸びる心の育み方-，講師，柏崎水泳連盟，柏崎水泳連盟所属指導者・選手およびその保護者，かしわざき市民活動センターまちから，2025.11.28.
12. 早稲田大学スポーツ科学部公演会，アスリートとキャリア:エリートアスリートという価値，講師，早稲田大学，東京都，2026.1.19.
13. 令和７年度見附市指導者育成プログラム，スポーツと心理学II　カウンセリング，講師，見附市まちづくり課，ネーブル見附，2026.2.21.
14. 第18回学生SMT（スポーツメンタルトレーニング指導士）研究会，SMTとしての仕事内容（業務内容や求められる姿勢），風景構成法の技法講習および活用について，架空事例検討におけるディスカッション，講師，学生SMT指導士研究会，SMT指導士を目指す大学生・大学院生，大阪体育

大学，2026.2.25-2.26.

15. 公益財団法人新潟県スポーツ協会　令和７年度スポーツ・インテグリティ推進補助事業・スポーツに関わる人たちのためのハラスメント研修会，人間関係が円滑にいくチームづくり，講師，NPO法人スポネットせいろう，聖籠町町民会館，2026.3.7.

２）社会活動への参加協力

1. 新潟県体育協会，スポーツ選手のためのメンタル支援事業，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，心理相談，新潟市，2023.4.1-2024.3.31.
2. 日本卓球協会・2025年スポーツ振興くじタレント発掘・一貫指導育成パスウェイ事業（U-10, U-15）近畿ブロック・選手および指導者，メンタル指導（講義）と個別相談，奈良県・シダーアリーナ，2025.10.17-10.19.
3. 日本卓球協会・2025年スポーツ振興くじタレント発掘・一貫指導育成パスウェイ事業（U-10, U-15）男子ホープス・カブ選手＋指導者，メンタル指導（講義）と個別相談，新発田市カルチャーセンター，2026.2.27-3.1.
4. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，新潟県内公立高校へのメンタルサポート（自分の「価値」に沿ってプレーする），研修講師，心理相談員，新潟市，2025.12.21.

７．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2025年度，基盤研究（C），女性ユースアスリートに対する有効な心理支援の開発 －生涯発達心理学に着目して－，研究代表者
2. 2025年度，日本私立学校振興・共済事業団　若手・女性研究者奨励金，アスリートの競技経験は就業時にどのように活かされているのか？，研究代表者

８．その他の活動

１）競技関係者を対象としたスポーツカウンセリング活動

本学アスリート，外部スポーツ関係者（高校指導者，保護者，高校生アスリート等）を対象に相談活動を実施した.

2025年度の来談者８名のうち，本学強化クラブ選手５名（前年度継続２名，新規３名），学外者新規３名（うち２名は有料面接を継続）であり，年間のべ面接数として74回の相談面接（１回60分）を実施した.

６　アスリートサポート研究センター（Athrete Support Research Center）

①研究テーマ

１　本学強化クラブにおける外傷・障害状況調査とデータベース構築
２　本学女子強化クラブ選手の障害，栄養，睡眠状況，貧血調査とサポート体制の構築
３　第５中足骨骨折予防のための超音波検診
４　脳震盪の病態解明と発症予防に関する研究
５　前十靭帯発症予防の積極的介入研究
６　新潟医療福祉大学，新潟リハビリテーション病院，NSGの３者連携プロジェクト（栄養サポート）
７　スポーツ庁研究事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」
８　スポーツ庁委託事業「女性アスリートの課題解決実践型プログラム」構築
９　新潟スポーツ医・科学コンソーシアムとの共同によるアスリート支援事業

②センター名簿

センター長　：大森　豪，健康スポーツ学科，教授
副センター長：江玉睦明，理学療法学科，教授
研究員　　：稲葉洋美，健康栄養学科，教授
研究員　　：塙　晴雄，臨床技術学科，教授
研究員　　：熊崎　昌，健康スポーツ学科，准教授

研究員　　：木村啓作，鍼灸健康学科，准教授
研究員　　：菊元孝則，理学療法学科，講師
研究員　　：三瀬貴生，健康スポーツ学科，講師
研究員　　：松浦由生子，健康スポーツ学科，講師
研究員　　：平林　怜，理学療法学科，講師
研究員　　：星野芙美，健康栄養学科，講師
研究員　　：横田裕丈，理学療法学科，講師
研究員　　：石垣智恒，理学療法学科，講師
研究員　　：小宮　諒，理学療法学科，助教
研究員　　：阿久澤弘，理学療法学科，助教
研究員　　：村越裕介，鍼灸健康学科，助教
研究員　　：曽根美奈子，健康栄養学科，助手
研究員　　：石井穂乃香，健康栄養学科，助手

③主な活動内容

1．論文

1. Kamasaki T, Fujimura S, Kichize Y, Suenaga T, Yoshihara M, Hosaka K, Shibasaki T, Maeda N, Komiya M, Hirano A. Association Between Injury History and Navicular Drop in Male Youth Soccer Players. Cureus J Med Sci. 2025; 17(9); e92824
2. Ishida A, Onoue S, Ikuta Y, Tashiro T, Arima S, Komiya M, Mizuta R, Ishihara H, Kobayashi T, Fan Gao, Andreas Brand, Yamada T, Maeda N. Quantitative dynamic evaluation of the talus–lateral malleolus distance during forward single-leg drop landing in individuals with chronic ankle instability: a cross-sectional study. Journal of Medical Ultrasonics. 2025.
3. Inaba H, Hanawa H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Iron Deficiency Prevention and Dietary Habits Among Elite Female University Athletes in Japan. Sports. 2025; 7: 220（査読あり）
4. 稲葉洋美，川中健太郎．スポーツ栄養におけるエビデンスとその活用．日本臨床スポーツ医学会誌. 2025; 33(3): 373-373
5. Edama M, Sekii Y, Sakamoto K, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Sekine C, Takabayashi T, Sato S. Differences in Ankle Stabilizing Function between the Upper and Lower Fiber Bundles of the Anterior Talofibular Ligament: An Anatomical Study. Sci Rep (JCR). 2025 Jul 18; 15(1): 26126. doi: 10.1038/s41598-025-11747-8.
6. Takabayashi T, Edama M, Inai T, Kubo M. Effects of ankle joint biomechanics and foot postures on Achilles tendon force during running through simulation study. Sports Biomech (JCR). 2025 May 30:1-11. doi: 10.1080/14763141.2025.2511758.
7. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the flexor hallucis longus-associated part of Kager's fat pad. BMC Musculoskelet Disord (JCR). 2025 Nov 7; 26(1): 1031. doi: 10.1186/s12891-025-09276-6.
8. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Takabayashi T, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the retrocalcaneal bursal wedge of Kager's fat pad. Surg Radiol Anat (JCR). 2025 Dec 11; 48(1): 23. doi: 10.1007/s00276-025-03788-5.
9. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Effects of Clenching Strength on Step Reaction Time. J. Funct. Morphol. Kinesiol (JCR). 2025, 10(3), 264; doi: 10.3390/jfmk10030264.
10. Koshino Y, Takabayashi T, Kobayashi T, Kudo S, Edama M. Foot Ankle Surg. Ankle dorsiflexion range of motion is associated with compression stiffness of gastrocnemius and soleus muscles, foot structures, and hallux extension range of motion (JCR). 2025. Nov 20: S1268-7731(25)00264-

4. doi: 10.1016/j.fas.2025.11.007.
11. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Teeth clenching improves selective response and shortens reaction time. J Strength Cond Res (JCR). 2026 May 29. doi: 10.1519/JSC.0000000000005479.
12. Anazawa S, Makibuchi T, Hagino Y, Edama M, Fujimoto T, Ochi G Sato D, Yamashiro K. The effect of sex differences on long-latency of auditory and somatosensory evoked potentials. Women's Health Reports (JCR). March 2026. doi: org/10.1177/26884844261432104
13. Kato Y, Ishigaki T, Sato R, Sakamoto K, Hirabayashi R, Yokota H, Komiya M, Edama M. Regional changes in patellar tendon mechanical properties in vivo during non-weight-bearing and weight-bearing movements with different loads. Journal of Bodywork and Movement Therapies (JCR). 47, July 2026, 126-134. doi.org/10.1016/j.jbmt.2026.03.007.
14. Kato Y, Ishigaki T, Sato R, Sakamoto K, Hirabayashi R, Yokota H, Komiya M, Edama M. Regional changes in patellar tendon mechanical properties in vivo during non-weight-bearing and weight-bearing movements with different loads. Journal of Bodywork and Movement Therapies. 2026; 47: 126-134.
15. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Effects of Clenching Strength on Step Reaction Time. Journal of Functional Morphology and Kinesiology. (in press)
16. Okunuki T, OhsakoT, Suito H, Ishigaki T, Maemichi T, Ishida H, Yabiku H, Azuma C, Nishida K, Kumai T. Comparative Morphology and Immunohistochemistry of the Adipose Tissues at the Posteromedial Tibial Border and the Heel Fat Pad in the Human. Cells Tissues Organs. 2025: 1-11.
17. Kimura K, Murakoshi Y, Kasuya D. Adjunctive Acupuncture and Moxibustion for Pain Control Due to Recurrent Posterior Shoulder Dislocation in a Female Soccer Player: A Case Report. Cureus 2026; 18(3): e105471.
18. Mise T, Isibe N, Yamaguchi R, Matsuura Y, Shimojo H, Shimoyama Y. The Impact of Anthropometric Variables and Physical Fitness on Swimming Performance to Entry the Junior Olympic Cup in Adolescent Female Swimmers: a Prospective Cohort Study to Identify Pathways for Swimmers Development., 日本アスレティックトレーニング学会誌, 11(2), 149-157, 2026.
19. Hijikata H, Mochizuki T, Maeda K, Tanifuji O, Omori G, Yamamoto N, Kawashima H. Rotation angle between the femoral and tibial components in varus/valgus stress X-rays following total knee arthroplasty. Bio-medical Materials and Engineering, January 2025, DOI: 10.1177/09592989241304989
20. Hijikata H, Mochizuki T, Maeda K, Tanifuji O, Omori G, Yamamoto N, Kawashima H. The comparison of three dimensional and two dimensional evaluation of varus/valgus stress X-rays following total knee arthroplasty.J Orthop Surg Res. 2025 Mar 29; 20(1): 326. doi: 10.1186/s13018-025-05741-z.PMID: 40155982.
21. Maeda K, Mochizuki T, Takagi S, Omori G, Yamamoto N, Kobayashi K, Kawashima H.Image-free robotic-assisted total knee arthroplasty is associated with joint line distalization and improves mid-flexion instability: A prospective cohort study.J Exp Orthop. 2025 Apr 13; 12(2): e70239. doi: 10.1002/jeo2.70239. eCollection 2025 Apr.PMID: 40226533.
22. Inaba H, Hanawa H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Iron Deficiency Prevention and Dietary Habits Among Elite Female University Athletes in Japan. Sports. 2025; 7: 220（査読あり）
23. 大森豪. スポーツ医学の地方創生. 日本臨床スポーツ医学会誌 2025: 33: 1-3.
24. 前田圭祐, 山本智章, 大森豪, 望月友晴, 渋谷幸喜, 和田直史, 川島寛之. 人工知能とMRI Bone

Like Imageを用いた腰椎分離症の新たな評価方法構築．新潟県医師会報 2025: R7.3（No 900）; 21-22.

25. 大森豪，江玉睦明．スポーツ医学の医療連携・地域連携　第６回．新潟スポーツ医・科学コンソーシアムの活動．臨床スポーツ医学 2025; 42: 678-682.
26. 木村啓作，村越祐介，有馬義貴，石丸圭荘，粕谷大智．スポーツ傷害を有した大学生アスリートに対するLaser Acupunctureの影響．日本レーザー治療学会誌 2025; 23(2) 30-35
27. 三瀬貴生．ジュニア競泳選手におけるオーバーユース障害および疾病の発生状況，水と健康医学研究会誌，27(1)，印刷中，2026.

２．報告書

1. 小宮諒．科研費若手研究，足関節捻挫の治療に足部内在筋のトレーニングは役立つか，報告書，2022-2024年度，研究代表者
2. 小宮諒，竹下康文，松田翔太，中井雄貴，江玉睦明．石本記念デサントスポーツ科学振興財団，Deep Learningを用いた画像解析による足部セルフチェックシステムの開発，デサントスポーツ科学，2026，107-115，研究代表者
3. 江玉睦明．基盤研究B，アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発，研究成果報告書，2024-2025，研究代表者.
4. 江玉睦明．国際共同研究加速基金（海外連携研究），腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立，研究成果報告書，2024-2025，研究代表者.
5. 江玉睦明，大森豪．スポーツ庁委託事業「地域のスポーツ医科学支援体制構築事業」2025年度研究成果報告書.
6. 石垣智恒．若手研究，腱の温度上昇に起因した腱エネルギー代謝機構の変化とその腱恒常性への影響，報告書，2023-2025，研究代表者
7. 三瀬貴生．科研費若手研究，成長期競泳選手における肩甲骨周囲筋群の機能不全が発生する要因の解明，研究実績報告書，2023-2024年度，研究代表：三瀬貴生
8. 横田裕丈．基盤研究（C），脳刺激と迷走神経刺激の融合による効果的な筋発揮効率の改善手法の開発，2023年度～2024年度，横田裕丈

３．学会等研究発表

1. Nishino K, Omori G, Koga H, Mochizuki T, Takagi S, Tomiyama Y, Maeda K, Yamamoto N. BIOMECHANICAL EFFECT OF PROTOTYPE SHOES DESIGNED TO REDUCE KNEE JOINT LOADON CONTRALATERAL PRESERVE LEG DURING WALKING OF PATIENT AFTER UNILATERAL TOTALKNEE ARTHROPLASTY. OARSI 2025, Incheon, Korea, 2025.4.24-4.26.
2. Yoshida Y, Yamaguchi H, Nishino R, Hirabayashi R, Okada Y. Effect of sustained intrathoracic pressure load on remote facilitation of the soleus H-reflex. 2026 International Association for Dental, Oral, and Craniofacial Research（米国）. 2026.3.25-3.28.
3. 小宮諒，江玉睦明，熊崎昌，平林怜，横田裕丈，石垣智恒．大学女子サッカー選手の跳躍力と走力の関係．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会（北海道），2025.11.29.
4. 稲葉洋美，星野芙美，江玉睦明，大森豪．女子サッカー選手における補食摂取頻度と食習慣．第72回日本栄養改善学会（世田谷区），2025.9.14-9.14.
5. 稲葉洋美，塙晴雄，星野芙美，曽根美奈子，石井穂乃香，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける鉄欠乏性貧血／鉄欠乏症と鉄欠乏性貧血を予防・治療するための食習慣に関する調査．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.
6. 入澤祐里，面莉緒，皆川陽介，高野夏来，稲葉洋美．女子高校生におけるPMS認知度と食習慣に関する実態調査．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.
7. 曽根美奈子，星野芙美，稲葉洋美．大学男子柔道選手におけるトレーニング期と減量期の比較．日本スポーツ栄養学会第11回大会（福岡県福岡市）．2025.8.30-8.31.

8. 曽根美奈子，星野芙美，石井穂乃香，稲葉洋美．大学男子柔道選手における減量の実態．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都世田谷区）．2025.9.12-9.14.
9. 曽根美奈子，石井穂乃香，稲葉洋美，大森豪．大学男子柔道選手における脱水状況の実態．第36回日本臨床スポーツ医学会学術総会（千葉県千葉市）．2025.11.2-11.3.
10. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．n-6系脂肪酸/n-3系脂肪酸の摂取比率が月経時に伴う身体的痛みに及ぼす影響．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都世田谷区）．2025.9.12-9.14.
11. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．女性アスリートにおける競技環境の違いが血中25(OH)ビタミンD濃度および月経痛に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術総会（千葉県千葉市）．2025.11.2-11.3.
12. 江玉睦明．【シンポジウム1】「Return To Performance」足関節靭帯損傷後のReturn To Performance―バレーボール編―．第6回足の構造と機能研究会学術集会（東京）．2025.6.7-6.8.
13. 江玉睦明．【シンポジウム】理学療法士による超音波画像装置の活用環境と腱障害研究の変遷．第36回日本整形外科超音波学会（沖縄）．2025.7.11-7.12.
14. 江玉睦明．【シンポジウム1】「ベースボールアナトミー～投球障害のメカニズムを解剖から学ぶ～」肘の機能解剖．第12回野球肘研究会夏合宿in新潟（新潟）．2025.8.30.
15. 江玉睦明．【シンポジウム】「研究と臨床の接点」肉眼解剖学とエコーの融合で見えてきた足関節の世界．第33回整形外科リハビリテーション学会学術集会（東京）．2025.9.14.
16. 江玉睦明．【シンポジウム④】「基礎理学療法を基盤とした新たな研究領域の開拓」．足関節の機能解剖学に基づく障害発生メカニズムの再考と女性アスリート支援への応用―解剖・超音波・運動学を融合した新たな視点―．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）2025.10.17-10.18.
17. 江玉睦明，藤澤宏幸，河上敬介，工藤慎太郎，小林匠，高林知也，対馬栄輝，建内宏重，森下勝行，中村雅俊，木村佳記，三谷保弘．【特別企画①日本基礎理学療法学会・日本スポーツ理学療法学会・日本運動器理学療法学会・日本物理療法学会・日本整形外科超音波学会合同シンポジウム】「理学療法士の超音波画像装置使用に関して ～これまでとこれから～」理学療法士の超音波画像装置使用に関して ～これまでとこれから～．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
18. 江玉睦明．【ハンズオン】運動器系体表解剖ハンズオンセミナーⅢ：大腿部前面の骨と筋．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
19. 江玉睦明．【ハンズオン】運動器系体表解剖ハンズオンセミナーⅣ：大腿部後面の骨と筋．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
20. 江玉睦明．【シンポジウム】「スポーツ医学における多職種連携～外傷・障害の現場対応，治療，復帰，予防～」スポーツ外傷・障害における理学療法士の介入と多職種連携の実際．第13回スポーツ傷害フォーラム（新潟）．2025.10.5.
21. 江玉睦明．【教育講演11】機能解剖学からひも解く関節可動域制限．第13回日本運動器理学療法学会学術集会（大阪）．2025.11.22-11.23.
22. 江玉睦明．【教育講演2】「腱障害のリハビリテーション」．第12回日本スポーツ理学療法学会（北海道）．2025.11.29-11.30.
23. 江玉睦明．【特別講演1】「鎖骨下筋と前鋸筋の解剖」．第9回STEP総大会（東京）．2026.3.29.
24. 江玉睦明．【特別講演2】「小殿筋と梨状筋」．第9回STEP総大会（東京）．2026.3.29.
25. 江玉睦明．【シンポジウム】「新潟県における取組」．スポーツ庁委託事業「地域におけるスポーツ医科学支援体制構築事業」成果報告会（WEB開催）．シンポジスト．2026.3.20.
26. 江玉睦明，高林知也，石垣智恒，島谷美海花，勝原洋二，清家望．スポーツブラが静的・動的安定性およびジャンプ高に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
27. 坂本航大，江玉睦明，石垣智恒，横田裕丈，平林怜，関根千恵，小宮諒，佐藤昇．抄録タイトル：後

踵骨滑液包の腫脹がアキレス腱付着部の機械的ストレスに及ぼす影響 -解剖学的検討-．第36回整形外科超音波学会（沖縄）．2025.7.11-7.12.

28. 坂本航大，江玉睦明，石垣智恒，田川裕紀，岩崎海斗，佐藤昇．足関節背屈時におけるアキレス腱付着部の変形動態．第６回足の構造と機能研究会学術集会（東京）．2025.6.7-6.8.
29. Sakamoto K, Edama M, Taguchi T, Ota H, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Komiya M, Sato N. Innervation distribution of the human crural fascia in Thiel embalmed cadavers. 2025 FRS International Fascial Research Congress（USA）．2025.8.10-8.14.
30. 前田裕大，山口智志，木村青児，中嶋啓文，山田唯一，齊田良知，江玉睦明．超音波検査による短腓骨筋/足底腱膜外側索付着部および第4-5中足骨関節面遠位端同定の精度：屍体剖検を基準とした検証．第50回日本足の外科学会（長野）．2025.11.15-11.16.
31. 越野裕太，高林知也，小林匠，工藤慎太郎，江玉睦明．足関節背屈可動域には筋スティフネス，足部構造，母趾伸展可動域が関係する．第50回日本足の外科学会（長野）．2025.11.15-11.16.
32. 溝田丈士，越野裕太，新留知，高林知也，小林匠，工藤慎太郎，江玉睦明．足関節果部骨折術後症例の非荷重・荷重位背屈可動域の特性とSafe-Qとの関係．第50回日本足の外科学会（長野）．2025.11.15-11.16.
33. 高林知也，江玉睦明．足関節バイオメカニクスと足部アライメントの違いが片脚着地動作時のアキレス腱張力に与える影響 ～シミュレーション研究による検証～．第50回日本足の外科学会（長野）．2025.11.15-11.16.
34. 高林知也，江玉睦明，稲井卓真，久保雅義．ランニング中の後足部，中足部，前足部に生じる床反力の推定．第12回スポーツ理学療法学会（札幌）．2025.11.29-11.30.
35. 島谷美海花，菊元孝則，高林知也，江玉睦明，久保雅義．膝前十字靭帯再建術者における遠心性収縮時のトルク発揮率と大腿四頭筋の筋内脂肪量の関係．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
36. 佐藤慎之助，高林知也，菊元孝則，江玉睦明，久保雅義．捕手における捕球前のステップ動作は肩・肘関節モーメントに影響を与えるのか? 第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
37. 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，江玉睦明，久保雅義．インソールの反発性の違いが前足部接地ランニング時のアキレス腱張力に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
38. 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．グリップ動作中の手関節角度の違いが外反ストレス下での内側肘関節安定性におよぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
39. 平井翔太，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．腓腹筋に対するPNFストレッチングとスタティックストレッチングの繰り返し実施による効果の比較．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
40. 上原真佳，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．圧刺激と電気刺激との組み合わせが頚部可動域および僧帽筋上部の圧痛に及ぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
41. 牧野郁美，横田裕丈，安達朋笑，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．高強度間欠的運動中の経皮的耳介迷走神経刺激がパフォーマンスと自律神経応答に及ぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
42. 佐野颯一郎，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．運動誘発性鎮痛に対する経皮的耳介迷走神経刺激の併用効果と自律神経反応性の関連．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
43. ジューステイニ礼子，山本智章，山口典子，土田千歳，吉田暁，江玉睦明，大森豪．スポーツ現場に

おける医療サポートの向上を目指した新潟スポーツケアナースの挑戦．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.

44. 加藤雄樹，石垣智恒，佐藤来夢，坂本航大，横田裕丈，平林怜，小宮諒，江玉睦明．非荷重および負荷の異なる荷重動作中の膝屈曲角度の変化が局所的な膝蓋腱力学的特性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
45. 兵庫聡太，石垣智恒，佐藤来夢，林宏弥，竹田蓮，鈴木恒平，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．示指もしくは中指屈筋の疲労課題が内側肘関節動的安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
46. 林宏弥，石垣智恒，佐藤来夢，兵庫聡太，鈴木恒平，竹田蓮，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．反復投球動作が肩甲骨周囲筋の筋硬度および肩甲骨アライメントにおよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
47. 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．示指および中指を除いたグリップ動作が外反ストレス下における内側肘関節安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
48. 鈴木恒平，石垣智恒，佐藤来夢，兵庫聡太，林宏弥，竹田蓮，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．握力トレーニングと示指屈筋トレーニングが内側肘関節安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
49. 竹田蓮，石垣智恒，佐藤来夢，林宏弥，兵庫聡太，鈴木恒平，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．高校野球選手におけるオフシーズン，プレシーズン，インシーズンでの客観的上肢体幹機能と主観的上肢機能の経時的変化とその関連性．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
50. 松澤寛大，江玉睦明，坂本航大，明田真樹，坂田淳，内田智也，佐藤昇．尺側側副靭帯遠位部損傷による外反と回旋不安定性の違い－Thiel固定遺体を用いた検討－．第37回日本肘関節学会学術集会（岡山）．2025.3.14-3.15.
51. 石垣智恒，Andy Smith，Morgan Potter，Claudia Kacmarcik，Nate Mange，Stephanie Cone，Karin Grävare Silbernagel．アキレス腱症患者における腱構造と主観的症状ならびにstretch-shortening cycle運動能力との関連．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，札幌市，2025.11.29-11.30.
52. 木村啓作，村越祐介，粕谷大智．セラミック電気温灸器による温熱刺激が「温かさ」と「心地よさ」に与える影響．新潟医療福祉学会（新潟県），2025.10.25.
53. 村越祐介，江川雅人，福田晋平，髙野道代，木村啓作，金子聡一郎，久保亜抄子，津田篤太郎，粕谷大智．鍼灸学科に所属する学生の学術大会参加に関する意識調査 第２報-全日本鍼灸学会名古屋大会への参加者と不参加者への調査-．新潟医療福祉学会（新潟県），2025.10.25.
54. 村越祐介，木村啓作，粕谷大智．電気温灸器の温度と温熱刺激に関する適温調査．新潟医療福祉学会（新潟県），2025.10.25.
55. 木村啓作，村越祐介，粕谷大智．アスリートにおける咀嚼機能特性－健常成人との比較－．日本体力医学会（滋賀県大津市），2025.9.17-9.19.
56. 木村啓作，村越祐介，有馬義貴，石丸圭荘．スポーツ傷害を有した学生アスリートに対するLaser Acupunctureの影響．日本レーザー治療学会（兵庫県神戸市），2025.6.28-6.29.
57. 村越祐介，木村啓作，粕谷大智．新潟医療福祉大学における鍼灸アスリートサポート（第２報）．全日本鍼灸学会（愛知県名古屋市），2025.5.30-6.1.
58. 木村啓作，村越祐介，粕谷大智．新潟医療福祉大学における鍼灸アスリートサポート（第２報）．全日本鍼灸学会（愛知県名古屋市），2025.5.30-6.1.
59. 三瀬貴生．ジュニア競泳選手におけるオーバーユース障害および疾病の重症度と競技パフォーマンスとの関係．第27回水と健康医学研究会（東京），2025.6.

60. 三瀬貴生．成長期競泳選手における外傷・障害調査～早期専門化以降の前向き調査～．第14回日本アスレティックトレーニング学会学術大会（東京），2025.9.
61. 伊藤南凪，田村優貴，三瀬貴生．成長期野球選手における成熟度および体力要素と打撃動作の正確性との関係．第14回日本アスレティックトレーニング学会学術大会（東京），2025.9.
62. 三瀬貴生，松浦由生子，熊崎昌，森清友亮，江玉睦明，大森豪．ジュニア競泳選手における外傷・障害の好発部位は発育・発達の時期で異なる．第36回日本臨床スポーツ医学学術集会（千葉），2025.11.
63. 染矢圭一郎，望月友晴，前田圭祐，高木繁，大森豪，山本智章，川島寛之．膝OA患者の歩行立脚期膝，股関節モーメントと骨盤・体幹アライメントとの関係．第98回日本整形外科学会学術総会（東京都），2025.5.22-5.25.
64. 渡邉博史，古賀良生，田中正栄，古賀寛，縄田厚，大森豪．変形性膝関節症における立位膝前後X線定量評価～脛骨関節面傾斜角で進行予測は可能か？～．第36回日本運動器科学会（松江市），2025.7.19-7.20.
65. 染矢圭一郎，望月友晴，前田圭祐，高木繁，大森豪，山本智章．変形性膝関節症における歩行中の体幹・骨盤アライメントと関節モーメントの関係．第３回日本膝関節学会（姫路市），2025.12.5-12.6.
66. 岡邨直人，山本智章，染矢圭一郎，真島裕也，大森豪．膝蓋骨疲労骨折に対するESWTの治療経験．第７回日本体外衝撃波医学会～Shock Wave Japan 2025～（東京都），2025.9.28.
67. 真島裕也，染矢圭一郎，前田圭祐，望月友晴，大森豪，山本智章．投球による尺骨鉤状結節剥離骨折に対する集束型体外衝撃波療法の治療経験．第７回日本体外衝撃波医学会～Shock Wave Japan 2025～（東京都），2025.9.28.
68. 田中正栄，渡邉博史，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，西野勝敏，大森豪，古賀良生．変形性膝関節症における疫学要因の縦断的検討．第52回日本臨床バイオメカニクス学会（京都市），2025.11.7-11.8.
69. 渡邉博史，田中正栄，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，西野勝敏，大森豪，古賀良生．立位膝前後X線の角度指標とlateral thrustとの関連．第52回日本臨床バイオメカニクス学会（京都市），2025.11.7-11.8.
70. 染矢圭一郎，望月友晴，前田圭祐，大森豪，山本智章．歩行立脚期のKAM波形に基づくクラスタ分析：下肢骨軸・アライメント・骨盤体幹傾斜との関係．第52回日本臨床バイオメカニクス学会（京都市），2025.11.7-11.8.
71. 平林怜，大河内偉琉．緊張性振動反射介入による筋疲労改善効果の検証．日本物理療法合同学術大会2026（和歌山），2026.1.31-2.1.【シンポジウム】
72. 平林怜，阿部花映，須貝菜央，中谷文香，徳永涼奈，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．咬合がもたらす反応能力と軌道予測能力の向上．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.
73. 平林怜，岡田芳幸，吉田結梨子，須貝菜央，中谷文香，江玉睦明．咬合がバッティングパフォーマンス向上に寄与～軌道予測からバッティングに至るまで～．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.
74. 中谷文香，平林怜，岡田芳幸，吉田結梨子，須貝菜央，江玉睦明．咬合が集中力課題に及ぼす影響．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.
75. 須貝菜央，平林怜，岡田芳幸，吉田結梨子，中谷文香，江玉睦明．咬合補正が単純反応時間と選択反応時間に与える影響．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.
76. 吉田結梨子，山口久穂，西野領，平林怜，岡田芳幸．前腕筋疲労後の運動後阻血がヒラメ筋H反射の遠隔促通に与える影響．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.
77. 山口久穂，吉田結梨子，西野領，今田桜子，平林怜，岡田芳幸．歯科矯正治療経験による噛みしめ負荷がヒラメ筋H反射に与える影響の変化．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.

78. 須貝菜央，平林怜，徳永涼奈，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．咬合の遠隔促通効果は反応時間を向上させる．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.
79. 徳永涼奈，平林怜，須貝菜央，髙橋麻衣，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．息止めが脊髄機能に及ぼす影響．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.

4．学会活動

1. 日本理学療法学会連合 編集委員会 査読委員（小宮諒）
2. 日本運動器理学療法学会「運動器理学療法学」査読委員（小宮諒）
3. 日本スポーツ理学療法学会「スポーツ理学療法学」査読委員（小宮諒）
4. 日本スポーツ理学療法学会 総務委員（小宮諒）
5. 日本スポーツ理学療法学会 情報戦略・IR委員（小宮諒）
6. Clinical Biomechanics，査読，2025.12.（小宮諒）
7. Journal of Biomechanics Open，査読，2025.12.（小宮諒）
8. MotorControl，査読，2025.6.（小宮諒）
9. Physical Therapy Research，査読，2025.6.（小宮諒）
10. Physical Therapy Research，査読，2025.8.（小宮諒）
11. Physical Therapy Research，査読，2025.10.（小宮諒）
12. Physical Therapy Research，査読，2026.2.（小宮諒）
13. スポーツ理学療法学，査読，2026.1.（小宮諒）
14. 運動器理学療法学，査読，2025.10.（小宮諒）
15. 理学療法学，査読，2025.8.（小宮諒）
16. 理学療法学，査読，2025.10.（小宮諒）
17. 理学療法学，査読，2025.12.（小宮諒）
18. 理学療法学，査読，2026.2.（小宮諒）
19. JPTA-Journal] [25-12654]，査読（江玉睦明）
20. Physical Therapy Research 25-E10389，査読（江玉睦明）
21. Physical Therapy Research 26-E00005，査読（江玉睦明）
22. 令和７年度スポーツ庁「スポーツを通じた防災教育推進モデル構築事業」，技術審査（江玉睦明）
23. 令和７年度スポーツ庁「Sport in Life推進プロジェクト（先端技術を活用したコンディショニング基盤実証研究）」，技術審査（江玉睦明）
24. 第６回足の構造と機能研究会 学術集会（東京），学術委員（江玉睦明）
25. 「令和７年度 Sports in Life推進プロジェクト総合事業における調査研究事業」，連携協力団体（担当）（江玉睦明）
26. 第36回日本整形外科超音波学会（沖縄） 理学療法士プログラム作成協力委員会，委員（江玉睦明）
27. 第６回足の構造と機能研究会 学術集会（東京），特別講演，座長，2025.6.7-6.8.（江玉睦明）
28. 第６回足の構造と機能研究会 学術集会（東京），シンポジウム４，座長，2025.6.7-6.8.（江玉睦明）
29. 第36回日本整形外科超音波学会（沖縄），主題10，座長，2025.7.11-7.12.（江玉睦明）
30. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），ランチョンセミナー，座長，2025.10.17-10.18.（江玉睦明）
31. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，口述演題，座長，2025.12.17.（江玉睦明）
32. 第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，準備委員，演題部門，札幌市，2025.11.29-11.30・2024.12-2026.2.（江玉睦明）
33. 第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，座長，札幌市，2025.11.29-11.30・2024.12-2026.2.（江玉睦明）
34. 第13回日本スポーツ理学療法学会学術大会，準備委員，総務部門，広島市，2026.12.19-12.20・2025.12-現在（江玉睦明）

35. 日本水泳・水中運動学会，事務局，会計監査（三瀬貴生）
36. 日本アスレティックトレーニング学会誌，査読（三瀬貴生）
37. 日本アスレティックトレーニング学会誌，査読長（三瀬貴生）
38. 日本アスレティックトレーニング学会，特別企画「「運動指導の専門家による運動指導・健康増進～健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023を受けて～」によせて」，編集委員（三瀬貴生）
39. 日本アスレティックトレーニング学会，代議員（三瀬貴生）
40. 水泳水中運動科学，査読（三瀬貴生）
41. 体育測定評価研究/Human Performance Measurement，査読（三瀬貴生）
42. 日本臨床スポーツ医学会，教育研修委員会，委員長（大森豪）
43. 日本臨床バイオメカニクス学会，将来構想委員会，委員（大森豪）
44. 第４回日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会，シンポジウム，座長，札幌市，2025.4.11-4.12.（大森豪）
45. 第98回日本整形外科学会学術集会，シンポジウム，座長，東京都，2025.5.22-5.25.（大森豪）
46. 第７回日本体外衝撃波医学会・Shock Wave Japan 2025. 特別講演，座長，東京都，2025.9.28.（大森豪）
47. 第36回日本運動器科学会，一般演題，座長，松江市，2025.7.19-7.20.（大森豪）
48. 第13回新潟スポーツ傷害フォーラム，特別シンポジウム，座長，新潟市，2025.10.4.（大森豪）
49. 第40回日本整形外科学会基礎学術集会，ポスターセッション，座長，青森市，2025.10.16-10.17.（大森豪）
50. 第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，文化講演，座長，千葉市，2025.11.2-11.3.（大森豪）
51. 第52回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会，優秀演題賞講演，座長，京都市，2025.11.7-11.8.（大森豪）
52. 8th Asian Pacific Knee Osteotomy Sympojium, Panel discussion，座長，長崎市，2026.1.30-1.31.（大森豪）
53. 日本スポーツ歯科医学会，編集委員（平林怜）
54. Journal of Functional Morphology and Kinesiology，論文査読（平林怜）
55. Experimental Brain Research，論文査読（平林怜）
56. Experimental Physiology，論文査読（平林怜）
57. Frontiers in Rehabilitation Sciences，論文査読（平林怜）
58. Frontiers in Physiology，論文査読（平林怜）
59. Frontiers in Sports and Active Living，論文査読（平林怜）
60. Scientific Reports，論文査読（平林怜）
61. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，演題査読（平林怜）
62. 日本物理療法合同学術大会2025，演題査読（平林怜）

５．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. 女子サッカー部，2025年度北信越女子サッカーリーグ，メディカルサポート，2024.10.27.（小宮諒）
2. 女子サッカー部，皇后杯JFA第47回全日本女子サッカー選手権大会北信越大会，メディカルサポート，2025.9.7.（小宮諒）
3. 女子サッカー部，第34回全日本大学女子サッカー選手権北信越大会，メディカルサポート，2025.10.12-10.13.（小宮諒）
4. 女子サッカー部，皇后杯JFA第47回全日本女子サッカー選手権大会，メディカルサポート，2025.11.15-11.16.（小宮諒）
5. テニス部，第67回北信越学生テニストーナメント大会，メディカルサポート，2025.4.14-4.18.（小

宮諒）

6. テニス部，2025年度北信越学生テニス選手権大会，メディカルサポート，2025.9.1-9.6.（小宮諒）
7. テニス部，北信越大学対抗テニス王座決定試合，メディカルサポート，2025.9.12-9.15.（小宮諒）
8. 新潟県障害者スポーツ大会（陸上競技），運営，2025.5.4.（小宮諒）
9. ジャパンライジングプロジェクト第９期検証プログラム（新潟），車いすカーリング選手のスポーツ支援，2026.1.24-2.16.（小宮諒）
10. 公開講座，第２回新潟スポーツ ケア ナース認定講座，講師，新潟スポーツ医・科学コンソーシアム，看護師，新潟医療福祉大学，2025.7.5-7.6.（塙晴雄）
11. 講演会，新潟市スポーツ指導者研修会，講師，新潟市教育委員会，ジュニアスポーツに携わる指導者，スポーツ医科学センター，2025.10.18.（塙晴雄）
12. 講演会，R7年度スポーツ指導者研修会，講師，新潟市スポーツ協会，新潟市スポーツ指導者，新潟市陸上競技場，2026.2.5.（塙晴雄）
13. 講演会，アスリートの補食～どうやって活用する？～，講師，アルビレックス新潟ユース，アルビレックス新潟U14-15の選手と保護者，アルビレックス新潟オレンジカフェ，2025.4.27.（曽根美奈子）
14. 講演会，エネルギー満タン！スポーツを支える食事術，講師，新発田市スポーツ協会，新発田市スポーツ少年団　団員とその保護者および指導者，新発田市カルチャーセンター，2025.5.6.（曽根美奈子）
15. 講演会，朝ごはんを食べよう，講師，アルビレックス新潟ユース，アルビレックス新潟U12の選手と保護者，zoom開催，2025.7.6.（曽根美奈子）
16. 講演会，成長期の食事，講師，第61回新潟市秋季市民大会柔道大会出場選手と保護者，（公財）新潟市スポーツ協会・新潟市・新潟市柔道連盟，新潟市鳥屋野総合体育館，2025.10.13.（曽根美奈子）
17. 講演会，もうすぐ冬！みんなでそなえよう，講師，下越地区柔道錬成会参加者と保護者，新潟県スポーツ少年団　下越地区スポーツ少年団，聖籠町町民会館，2025.11.16.（曽根美奈子）
18. 講演会，長距離選手の食事の基本と体重管理，講師，女性アスリート研修会参加者，新潟陸上競技協会，新潟医療福祉大学，2026.3.8.（曽根美奈子）
19. アルビレックス新潟U13栄養講習会，食べる力，講師，アルビレックス新潟，アルビレックス新潟U13，アルビレッジ，2026.4.13.（稲葉洋美）
20. 令和７年度新潟スポーツ障害フォーラム指導者セミナー，栄養と睡眠，講師，新潟市中体連部活動・中学校指導者研修会，一般市民，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.7.25.（稲葉洋美）
21. 新潟市スポーツ指導者研修会，栄養と睡眠，講師，新潟市教育委員会学校支援課，一般市民，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.10.18.（稲葉洋美）
22. アルビレックス新潟ユース栄養講習会，貧血の予防と改善，講師，アルビレックス新潟，アルビレックス新潟ユース，アルビレッジ，2026.12.5.（稲葉洋美）
23. 女性アスリート支援ネットワーク勉強会，女性アスリート支援に必要な栄養の基礎知識，講師，女性アスリート支援ネットワーク，女性アスリート支援者，ZOOM，2026.1.19.（稲葉洋美）
24. 令和７年度スポーツ指導者研修会～子どもの安全・安心を指導者が守るために～，トレーニングに大切な食事と休養，講師，公益財団法人新潟市スポーツ協会，スポーツ指導者，新潟市，2026.3.3.（稲葉洋美）
25. 運動と医学の出版社研修会「教えて江玉先生，河端先生！！腋窩部を徹底解剖」，講師，理学療法士，WEB開催，2025.4.4.（江玉睦明）
26. 運動と医学の出版社研修会「教えて江玉先生，宮田先生！！膝関節後内側部を徹底解剖」，講師，理学療法士，WEB開催，2025.4.11.（江玉睦明）

27. スポラボ研修会「膝蓋腱障害の発生メカニズムと理学療法評価・治療－肉眼解剖学と生体力学の知見を活かした臨床応用－」，講師，理学療法士，WEB開催，2025.4.18.（江玉睦明）
28. LANDMARK SEMINAR 04 -膝OA徹底攻略-「膝神経を含む初期OAの治療ターゲットの解剖」，講師，理学療法士・医師，WEB開催，2025.4.27.（江玉睦明）
29. セレッソ大阪メディカルセミナー「ハムストリングと下腿三頭筋の肉離れについて」，講師，理学療法士・アスレティックトレーナー，WEB開催，2025.5.14.（江玉睦明）
30. Spolinkオンラインセミナー「機能解剖学の臨床への活かし方～肉眼解剖学×エコー～」，講師，理学療法士，WEB開催，2025.6.18.（江玉睦明）
31. 体表解剖学研究会セミナー　体幹コース（東京）一般社団法人体表解剖学研究会，講師，東京工科大学，2026.6.21-6.22.（江玉睦明）
32. 一般社団法人日本ファシアトレーニング研究会特別講演セミナー「足関節と膝関節の可動域制限について」，講師，全国の医師，理学療法士，柔道整復師，鍼灸師など，WEB開催，2025.6.28.（江玉睦明）
33. 第２回スポーツケアナース認定講習会「外傷直後のRICE処置とテーピング」，講師，看護師，新潟医療福祉大学，2025.7.5-7.6.（江玉睦明）
34. Encounter靴医学セミナー「足の中身，知ってますか？靴とインソールを理解するための解剖学講座」，講師，医師・理学療法士，WEB開催，2025.8.2.（江玉睦明）
35. 第６回NOS先進整形外科エコー研究会研修会.「「扁平足」解剖学的知見から足診療を考える」，講師，医師・理学療法士，WEB開催，2025.8.3.（江玉睦明）
36. 第17回 第17回中之島運動器研究会特別講演２「スポーツ障害治療のために知っておくべき解剖学の知識」，講師，医師・理学療法士，WEB開催，2025.8.25.（江玉睦明）
37. 体表解剖学研究会セミナー上肢コース（熊本）一般社団法人体表解剖学研究会，講師，WEB開催，2025.9.21.（江玉睦明）
38. 第25回新潟医療福祉学会学術集会「NQSAPcafe」，企画・運営，学会参加者，2025.10.25.（江玉睦明）
39. 東京先進整形外科エッセンシャルセミナー「解剖からみえてくる足関節捻挫の病態」，講師，理学療法士，WEB開催，2025.12.6.（江玉睦明）
40. スポラボ研修会「足関節捻挫の発生メカニズムと理学療法評価・治療－肉眼解剖学と生体力学の知見を活かした臨床応用－」，講師，理学療法士，WEB開催，2025.12.17.（江玉睦明）
41. 福岡整形外科病院リハビリテーション科スタッフ　勉強会「膝関節の機能解剖学」，講師，理学療法士，WEB開催，2026.1.21.（江玉睦明）
42. 西川整形外科リハビリテーション研究会「肉眼解剖学・解剖学的視点から再考する足関節可動域制限～その可動域制限，本当に関節の問題ですか？～」，講師，理学療法士，WEB開催，2026.2.27.（江玉睦明）
43. 体表解剖学研究会セミナーExtra Seminar「動かぬ足首の真犯人を探せ！～足関節背屈可動域制限の体表解剖学的考察～」（東京）一般社団法人体表解剖学研究会，講師，理学療法士，東京工科大学，2026.3.8.（江玉睦明）
44. 体表解剖学研究会セミナー　下肢コース（東京）一般社団法人体表解剖学研究会，講師，理学療法士，東京工科大学，2026.3.7-3.8.（江玉睦明）
45. 令和５年度～７年度スポーツ庁委託事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」受託５団体によるシンポジウム，企画・運営，スポーツ関係者，WEB開催，2026.3.20.（江玉睦明）
46. 木村啓作，第41回新潟シティマラソン大会ケアサービス，トレーナー，新潟県あん摩マッサージ指圧師はり師きゅう師協議会，ランナー，新潟県新潟市，2025.10.12.
47. 木村啓作，四団体合同研修会，スポーツ鍼灸の効果の役割，講師，新潟県あん摩マッサージ指圧師はり師きゅう師協議会，医療従事者，新潟県鍼灸マッサージ会館，2025.8.31.

48. 木村啓作，村越祐介，第36回燕さくらマラソン大会ケアサービス，トレーナー，新潟県鍼灸師会，ランナー，新潟県燕市，2025.4.12.
49. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会専門科目３期講習会，腰部障害後のリコンディショニング，講師，日本スポーツ協会，養成講習会受講生，日本福祉大学東海キャンパス，2025.6.8.（三瀬貴生）
50. 大学北区連携事業，「スポーツトレーニングⅠ」，講師，新潟市北区，一般市民，ラグーナ・スクエア，2025.7.2.（三瀬貴生）
51. 大学北区連携事業，発育・発達のモニタリング，講師，新潟市北区，一般市民，ラグーナ・スクエア，2025.7.9.（三瀬貴生）
52. 令和７年度新潟市スポーツ指導者研修会，ジュニア期のトレーニング，講師，新潟市教育委員会学校支援課，指導者，新潟市・新潟県スポーツ医科学センター，2025.10.18.（三瀬貴生）
53. 認定理学療法士臨床認定カリキュラム（スポーツ理学療法）「患者教育」．講師，水戸協同病院，理学療法士，オンライン，2025.12.5.（三瀬貴生）
54. 新潟市スポーツ指導者講習会，「ジュニア期のトレーニング」，講師，新潟市スポーツ協会，スポーツ指導者，新潟市陸上競技場会議室，2026.2.13.（三瀬貴生）
55. 養護教員12年研修会，成長期のスポーツ傷害，講演者，新潟県教育センター，新潟県養護教員，新潟市，2026.6.27.（大森豪）
56. 第47回大分県スポーツドクター協議会研修会，スポーツ医学の地方創生～新潟からの挑戦～，講演者，大分県スポーツドクター協議会，スポーツ医，大分市，2025.7.10.（大森豪）
57. 新潟市中体連指導者研修会，捻挫と肉離れ～指導者の方々に知ってｍぽらいたいポイント～，講演者，新潟市中体連，スポーツ指導者，新潟市，2025.7.25.（大森豪）
58. 令和７年度日本スポーツ協会公認スポーツドクター養成講習会，中高年者の運動（整形外科系），講演者，日本スポーツ協会，東京都，2025.10.4.（大森豪）
59. 第38回日本臨床内科医学会，教育研修講演，サッカーに好発する下肢疲労骨折の診断と治療～知って得するポイント～，講演者，群馬県内科医会，高崎市，2025.10.11-10.12.（大森豪）
60. 第41回日本義肢装具学会，教育講演，変形性膝関節症に対する多面的アプローチ，講演者，新潟市，2025.11.8-11.9.（大森豪）
61. 長崎病院院内研修会，特別講演，変形性膝関節症の疑問に答える，講演者，足利市，2025.11.29.（大森豪）

２）社会活動への参加協力

1. 日本パラ陸上競技連盟 クラス分け委員会，研修部会，副部会長，2025.7.1-2026.6.30.（小宮諒）
2. 一般財団法人新潟陸上競技協会，医科学部長，新潟県，2025.4.1-2026.3.31.（塙晴雄）
3. 新潟バイオリサーチパーク（食品ヒト試験審査委員）（稲葉洋美）
4. 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム（理事）（稲葉洋美）
5. 令和７年度第56回春季北信越大学女子バレーボール選手権大会．メディカルサポート 2025.5.24-5.25.（江玉睦明）
6. 令和７年度第56回春季北信越大学男子バレーボール選手権大会．メディカルサポート 2025.5.24-5.25.（江玉睦明）
7. 新潟県水泳連盟，国スポ選抜合宿におけるフィットネスチェック，講師，長岡市・ダイエープロビスフェニックスプール，2025.5.2.（三瀬貴生）
8. 京都水泳協会，競泳・京都代表チームの国スポ合宿帯同，アスレティックトレーナー，京都アクアリーナ，2025.9.8-9.10.（三瀬貴生）
9. 滋賀2025国民スポーツ大会，京都府競泳代表選手団のトレーナー帯同，アスレティックトレーナー，大津市，2025.9.12-9.15.（三瀬貴生）
10. アクシー東スイミングスクール，トレーニング指導，講師，新潟市・アクシー東スイミングスクー

ル，2025.4-2026.3.（三瀬貴生）

11. 東京電気通信大学水泳部，スポーツ障害後のリコンディショニング指導，講師，オンライン，2025.6.9.（三瀬貴生）
12. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ2025，救護活動，救護スタッフ，新潟医療福祉大学スポーツビレッジ，2025.10.19.（三瀬貴生）
13. 日本スポーツ振興センター・課題解決型アスリート育成パスウェイ構築支援事業．測定員，日本スポーツ振興センター，ジュニア競泳選手，長岡ダイエープロビスフェニックスプール，2025.12.18.（三瀬貴生）
14. 新潟県水泳連盟，県選抜のジュニア競泳選手に対するストローク分析，講師，長岡市・ダイエープロビスフェニックスプール，2025.12.26.（三瀬貴生）
15. 森ノ宮医療学園校友会，代議員，大阪市，2025.4.1-2026.3.31.（三瀬貴生）
16. 一般社団法人　新潟陸上競技協会　専門部委員会，医科学部部員，2025.4-2026.3.（三瀬貴生）
17. 日本水泳トレーナー会議，学術部員（三瀬貴生）
18. 新潟県サッカー協会・国際ユースサッカー，医事，会場ドクター，新発田市，2025.9.13.（大森豪）

６．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2025年度，科研費若手研究，中足部の横アーチ評価方法の確立と動作時の足部・足関節動態との関連の検討，2025-2026年度，小宮諒，研究代表者
2. 2025年度，基盤研究（C），女子アスリートの鉄欠乏，貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明，塙晴雄，研究代表者
3. 2024年度，科研費基盤研究（C），共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発，研究代表者（稲葉洋美）
4. 2022年度，科研費基盤研究（C），小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築，研究分担者（稲葉洋美）
5. 2022年度，科研費基盤研究（C），女子アスリートの鉄欠乏，貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明，研究分担者（稲葉洋美）
6. 2025年度，スポーツ庁委託事業「地域のスポーツ医科学支援体制構築事業」，研究代表者．（江玉睦明）
7. 2025年度，科学研究費，基盤研究B，アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発，研究代表者．（江玉睦明）
8. 2025年度，科学研究費，国際共同研究加速基金（海外連携研究），腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立，研究代表者．（江玉睦明）
9. 2025年度，挑戦的研究（萌芽），腱の損傷と修復に着目した腱グリコーゲン代謝調節機構の機能解明，石垣智恒・越中敬一・髙橋英明，研究代表者
10. 2024-2025年度，日本物理療法学会研究助成，緊張性振動反射介入による筋疲労改善効果の検証，研究代表者（平林怜）
11. 2024-2025年度，公益財団法人上原記念生命科学財団，視覚的運動錯覚がもたらすニューロモデュレーション，研究代表者（平林怜）

７．その他の活動

1. 栄養サポートによるアスリート支援
   陸上競技部（１名）20時間／年，バスケットボール部選手（２名）６時間／年，バレーボール選手（３名）８時間（曽根美奈子）
2. 女子硬式野球部メディカルサポート
   毎週月曜日17時～20時，その他学内にてコンディショニングを実施（平均10名/月）
   ２回/年の頻度で大学選手権（春：高知県，夏：和歌山県）出場に帯同（両大会ともに10日間程度）（石垣智恒）

3.　1）本学附属鍼灸センターにおける強化指定学生への鍼灸ケアサポート
月曜日・金曜日（９時30分～12時30分）
木曜日（９時30分～12時30分，13時10分～16時30分）
鍼灸健康学科の木村啓作，村越祐介が担当
2025年度の来院者数（述べ人数）：本学強化指定学生 334件，各競技ごとの来院比率；陸上競技（47％），野球（14％），サッカー（25％），卓球（10％），バスケ（１％），水泳（２％），テニス（１％）

7　身体教育研究センター（Physical Education Research Center）

①研究テーマ

1　ヒトを対象とした運動発達・身体能力向上，身体教育に関する研究

②センター名簿

センター長　：西原康行
副センター長：佐近慎平
研究員　　：杉崎弘周
研究員　　：鵜瀬亮一

③主な活動内容

１．著書

1. 藤原昌太，今村修，杉崎弘周，片岡千恵，伊佐野龍司，徐広孝編；授業ですぐに役立つ保健の教材99，初版，東京，大修館書店；2026：12, 14-17, 28, 66, 67, 120

２．論文

1. Sakon S, Nishihara Y. Developmental Sex Differences in the Support Phase during Quadrupedal Running in Young Children. Niigata: Niigata University of Health and Welfare. (in press)(review)
2. Fujiwara S, Yamazaki F, Nakayama N, Sugisaki K. Comparative effects of lived experience-lecturer-guided and teacher-led classes on mental illness awareness among Japanese high school students.PLoS One (JCR). 2025; 20(10): e0333964.
3. 佐近慎平．2025年度新潟県弥彦村幼児の体力向上事業報告書.
4. 佐近慎平．2025年度新潟県新発田市パラスポーツ出前講座事業報告書.
5. 佐近慎平．2025年度ながおか元気キッズわくわくサポート運動遊び事業報告書.

３．学会等研究発表

1. 佐近慎平．楽しさが先導する高這い運動環境の構成．国際あそび学会第１回大会（東京），2025.5.31.
2. 佐近慎平，中曽根裕，中井聖，金子勝司．高這い姿勢の幼児が手で体を支える運動指導方法の開発．日本体育・スポーツ・健康学会・第75回大会（東京），2025.8.29.
3. 佐近慎平，中曽根裕，本多理紗，金子勝司．高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究～レクリエーション教育に携わる初任者教員の分析から～．令和７年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議（名古屋），2025.11.11.
4. 鵜瀬亮一，当摩天喜．遠隔ライブ指導の有効性と課題．部活動地域展開・産官学連携フォーラム in Niigata（新潟市），2026.1.23.

４．学会活動

1. 日本発育発達学会，評議員
2. 日本保健科教育学会，第９回研究大会，実行委員，横浜市，2024.12.22.
3. BMC Health Services Research，査読
4. Journal of Gastrointestinal Cancer，査読
5. Health Education Research，査読
6. Scientific Reports，査読

7. BMC Public Health，査読
8. 自由時間研究，査読

５．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. 新潟県村上市幼児の体力向上事業，幼児の体力向上事業報告会，講師，村上市，村上市立保育園保育士・総合型スポーツクラブコーチ，村上市村上市教育情報センター，2025.4.8.
2. 第68回新潟県保育事業研究大会，楽しさが先導する高這い運動環境の構成，講師，新潟県社会福祉協議会・新潟県保育連盟・新潟県私立保育園・認定こども園連盟・新潟県保育士会・新潟市私立保育協会，新潟県保育士，村上市総合文化会館，2025.5.23.
3. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村教育委員会，幼児及び保育士，弥彦保育園，2025.6.11，8.5.（全２回）
4. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村教育委員会，幼児及び保育士，二松保育園，2025.6.18，8.21.（全２回）
5. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村教育委員会，幼児及び保育士，ひかり保育園，2025.6.20，8.27.（全２回）
6. 新潟県長岡市ながおか元気キッズわくわくサポート運動遊び，体育指導，講師，長岡市教育委員会，幼児及び保育士，長岡市（白山保育園，和島保育園，長岡市立劇場），2025.6.24，9.8，9.11，12.24.（全４回）
7. 新潟県新潟市新潟市幼児の運動遊び促進事業，事業報告会，講師，新潟市スポーツ振興課，保育士，新潟市，2025.8.6.
8. 五泉市と新潟医療福祉大学の包括連携事業，たのしい運動遊び　就学前に知っておきたい運動能力のこと，講師，五泉市教育委員会スポーツ振興課，市民，五泉市総合会館　中ホール，2025.11.9.
9. スペシャルオリンピックス日本コーチクリニック，サッカーコーチクリニック，講師，スペシャルオリンピックス日本，市民，大宮市，2026.2.14.
10. 新潟県村上市幼児の体力向上事業，幼児の体力向上事業報告会，講師，村上市，総合型スポーツクラブコーチ，村上市体育館，2026.3.13.
11. 新入生交流会，企画運営者，まちづくり豊栄・新潟医療福祉大学・ラグーナスクエア，新入生20名，新潟市北区，2025.4.2.
12. はじめての一人暮らし応援企画　料理教室，まちづくり豊栄・新潟医療福祉大学・ラグーナスクエア，新入生15名，新潟市北区，2025.4.2.
13. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，南魚沼市教育委員会，未経験者約50名，南魚沼市，2025.7.5午前
14. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，南魚沼市教育委員会，小学生約60名，南魚沼市，2025.7.5午後
15. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，南魚沼市教育委員会，中学生37名，南魚沼市，2025.7.26午前
16. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，南魚沼市教育委員会，中学生40名，南魚沼市，2025.7.26午後
17. スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，日本スポーツ協会，指導者30名，上越市，2025.8.10.
18. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ，講師，アスレティックデパートメント推進機構，幼児～小学生約500名，新潟市，2025.10.19.
19. スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，日本スポーツ協会，指導者29名，新潟市，2025.10.30.
20. スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，日本スポーツ協会，指導者30名，新潟市，2025.11.6.
21. 長岡未経験者野球教室，講師，長岡市野球連盟，小学生59名，長岡市，2025.11.8.

22. 長岡市少年野球教室，講師，長岡市野球連盟，小学生53名，長岡市，2025.11.8.
23. 長岡市指導者講習会，講師，長岡市野球連盟，指導者22名，長岡市，2025.11.8.
24. 十日町市野球教室，講師，十日町市野球連盟，指導者10名，中学生66名，十日町市，2025.11.15.
25. 長岡市スキルアップ野球教室，講師，長岡市野球連盟，中学生30名，長岡市，2025.11.16.
26. 日本スポーツ協会公認コーチ１　養成講習会，講師，新潟県野球連盟，指導者52名，新潟市，2025.11.30.
27. 長岡地域定住自立圏スポーツ振興事業 新潟医療福祉大学小学生野球教室，講師，小千谷市スポーツ協会，指導者20名，小学生43名．2025.12.6.
28. 長岡地域定住自立圏スポーツ振興事業 新潟医療福祉大学中学生野球教室，講師，小千谷市スポーツ協会，指導者13名，中学生36名．2025.12.6.
29. Christmas Party，企画運営者，まちづくり豊栄・新潟医療福祉大学，ラグーナスクエア，小学生・大学生31名，新潟市北区，2025.12.23.
30. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者２名，選手８名，新潟市，2026.1.10.
31. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者４名，中学生20名，新潟市，2026.1.17.
32. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者１名，高校生８名，新潟市，2026.2.1.
33. 新発田市指導者講習会，講師，本学室内練習場，指導者40名，新潟市，2026.2.1.
34. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者１名，高校生15名，新潟市，2026.2.7.
35. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者２名，中学生７名，新潟市，2026.2.11.
36. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者３名，中学生15名，新潟市，2026.2.15.
37. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，佐賀市営野球場，指導者10名，小学生55名，佐賀市，2026.2.28.
38. 保健教育実践講座，学習指導要領を踏まえた保健の授業づくり，研修会講師，新潟県立教育センター，受講者，新潟県立教育センター，2025.6.24.
39. 学体研中越支部研修会，主体的・対話的で深い学びを目指した保健授業，研修会講師，学体研新潟支部，受講者，長岡市立四郎丸小学校，2025.7.7.
40. 新潟市小学校教育研究協議会研修会，子供の思考を引き出す教材・教材化とは，研修会講師，新潟市小学校教育研究協議会，受講者，食育・花育センター，2025.7.9.
41. 柏崎市教育センター研修講座，学校におけるがん教育の進め方，研修会講師，柏崎市教育センター，受講者，アルフォーレ　マルチホール，2025.7.31.
42. 北海道がん教育指導者研修会，学校におけるがん教育の実践事例，研修会講師，北海道教育委員会，受講者，オンライン，2025.8.28.
43. 保健教育実践講座，保健教育における主体的・対話的で深い学び，研修会講師，新潟県立教育センター，受講者，新潟県立教育センター，2025.9.19.
44. 養護教諭研修 保健教育講座，主体的・対話的で深い学びの実現を目指した保健授業，研修会講師，受講者，新潟市教育センター，2025.10.2.
45. 荒浜小学校公開授業研修会，小学校「病気の予防」の授業，講演講師，荒浜小学校，参加者，荒浜小学校，2025.10.23.
46. がん教育指導者研修会，学校におけるがん教育の研究と実践，研修会講師，福岡県教育委員会，受講者，福岡リーセントホテル，2025.10.31.
47. 水原中学校公開授業研修会，中学校「心身の機能の発達と心の健康」の授業，講演講師，水原中学校，参加者，水原中学校，2025.11.12.

48. 四郎丸小学校公開授業研修会，中学校「心身の機能の発達と心の健康」の授業，講演講師，四郎丸学校，参加者，四郎丸小学校，2025.11.14.
49. 新潟県養護教員研究協議会小千谷支部合同研修会，養護教諭が担う「深い学び」につながる健康教育，研修会講師，新潟県養護教員研究協議会小千谷支部，受講者，小千谷市ひとまち文化共創拠点ホントカ，2025.11.27.
50. 令和７年度 新潟県がん教育指導者研修会，がん教育における外部講師の効果的な活用と授業実践，研修会講師，新潟県教育庁保健体育課，受講者，新潟県立教育センター，2025.12.2.
51. 山形県がん教育総合支援事業ワーキンググループ会議，がん教育の普及と定着と外部講師のさらなる活用，講演講師，山形県教育委員会，ワーキンググループメンバー，オンライン，2025.12.11.
52. がん教育に関する研修会，学校におけるがん教育の考え方と授業実践について，研修会講師，兵庫県教育委員会，受講者，兵庫県看護協会ハーモニーホール，2025.12.17.
53. 山梨県がん教育指導者研修会，学校におけるがん教育の授業実践，研修会講師，山梨県教育委員会，オンライン，2026.1.27.
54. 令和７年度鳥取県がん教育啓発研修会，学校におけるがん教育の効果的な進め方，研修会講師，鳥取県教育委員会，受講者，オンライン，2026.1.31.

２）TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，中継ぎエース近藤　医福大の伸び盛り左腕．2025.4.1.
2. 【地方版】新潟日報，関甲新学生野球春季Ｌ　５日開幕　挑戦者として初Ｖ狙う．2025.4.2.
3. 【地方版】新聞，日刊スポーツ，新潟医療福祉大４番安藤廉がけん引「タイトルも神宮も」関甲新学生野球１部春季リーグ5日開幕．2025.4.3.
4. 【地方版】新聞，新潟日報，新大・新潟医福大無得点で開幕黒星．2025.4.6.
5. 【全国版】新聞，サンケイスポーツ，阪神・桐敷拓馬が凱旋登板！　大学時代を過ごした新潟で見事３人斬り．2025.5.13.
6. 【地方版】新聞，新潟日報，野球・関甲新学生Ｌ　新潟医療福祉大学５位．2025.5.19.
7. 【全国版】Web＆新聞，サンケイスポーツ，夢かなえても変わらない男・桐敷．2025.6.10.
8. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，「日米大学野球」場内アナウンス 座主ひまりさん　声弾む国際大会．2025.7.8.
9. 【全国版】Web，バーチャル高校野球　新潟県大会試合解説　準々決勝．2025.7.21.
10. 【全国版】Web，バーチャル高校野球　新潟県大会試合解説　準々決勝．2025.7.22.
11. 【全国版】Web＆テレビ，UX新潟テレビ21，バーチャル高校野球　新潟県大会試合解説　準決勝．2025.7.24.
12. 【地方版】新聞，新潟日報，関甲新学生野球秋季L1部あす開幕．2025.9.5.
13. 【全国版】Web，日刊スポーツ，新潟医療福祉大・玉木聖大「この秋が最後のつもりで」日本文理出身の大砲，覚醒を誓う．2025.9.5.
14. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大川瀬　関東切符へまず「初勝利」．2025.9.6.
15. 【地方版】新聞，新潟日報，新潟医福大，新大下す．2025.9.14.
16. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，決める！２年連続関東大会．2025.10.3.
17. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，初参戦 医福大「ガチンコ勝負」高橋勇四郎杯．2025.10.4.
18. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，初参戦医福大タイブレークでサヨナラ初Ｖ．2025.10.6.
19. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，関甲新学生野球リーグ戦でも初優勝のチャンス．2025.10.6.
20. 【地方版】新聞，新潟日報，新潟医福大など３校が同率首位　順位決定戦へ．2025.10.6.
21. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大悲願初優勝へ 11日から順位決定戦．2025.10.7.
22. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大４番安藤初Ｖへ泥くさく．2025.10.11.

23.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大初戦黒星．2025.10.12.
24.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，１－９で２連敗　医福大３位確定．2025.10.13.
25.【地方版】新聞，新潟日報，新潟医福大１部Ｖ逃す　順位決定戦３位．2025.10.13.
26.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，三つ巴Ｖ決定戦３位も　医福大経験を来春に．2025.10.15.
27.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，関甲新学生野球１部Ｌで初のベストナイン 医福大内藤．2025.11.19.
28.【地方版】新聞，新潟日報，新潟医福大，新潟大 南東北大学野球へ．2025.11.22.
29.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大鵜瀬監督「負担軽くなるのはいい」．2025.11.23.
30.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大146キロ腕後藤ハヤテ入団．2025.12.2.
31.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大硬式野球部学生コーチ　長内大伍．2025.12.11.
32.【全国版】雑誌，大学野球2025秋季リーグ戦決算号，ベースボールマガジン社，2025.12.15.
33.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大野球部始動 小川主将タイトル獲得へ気合，2026.1.7.
34.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大146キロ右腕 ハヤテで「１年目から勝負」．2026.1.22.
35.【地方版】新聞，新潟日報，部活動の未来像模索 新潟産官学連携フォーラム．2026.1.27.
36.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，中越雨木 仲丸甲子園バッテリー医福大進学．2026.2.5.
37.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大進学遠山４年間でトッププレーヤーだ．2026.2.11.
38.【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，甲子園出場バッテリーも‼医福大に新入部員51名．2026.3.10.

３）社会活動への参加協力

1. 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園，運動遊び・体育，講師，園児，新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園，2025.4.1-2026.3.31.（全40回）
2. 福祉事業型専攻科キンゴーカレッジ，フィットネス，講師・監修，キンゴーカレッジ利用者，キンゴーカレッジ，2025.4.1-2026.3.31.（全40回）
3. スペシャルオリンピックス日本・新潟サッカープログラム，サッカープログラム，講師，スペシャルオリンピックス日本・新潟，知的障害者，新潟市，2025.4.1-2026.3.31.（全８回）
4. 社会福祉法人どれみ会 どれみ保育園体育，体育指導，講師，社会福祉法人どれみ福祉会，保育園園児及び保育士，川通りどれみ保育園，2025.4.1-2026.3.31.（全11回）

４）公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

1. にいがたスポーツタレント発掘・育成事業検討委員会（委員）
2. 新発田市立第一中学校学校評議員会（学校評議員）
3. 胎内市立乙中学校学校運営協議会（委員）
4. 聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会（委員長）
5. 村上市幼児の体力向上事業（アドバイザー）
6. 新潟市幼児の体力向上事業（アドバイザー）
7. 弥彦村幼児の体力向上事業（アドバイザー）
8. 関甲新学生野球連盟（理事）
9. 新潟県野球協議会（理事）
10. 第45回日米大学野球実行委員会（委員）

５）職能団体（協会，士会等）の委員

1. 公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議（特任幹事）

６．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2025年度，科研費基盤研究（C），VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化，研究代表者（鵜瀬亮一）
2. 2025年度，科研費基盤研究（C），保育者の幼児の転倒時に手がでる動作環境設定の一般化の検証，研究代表者（佐近慎平）
3. 2026年度，科研費基盤研究（C），幼児における高這いの「動きの連節点」としての可能性：予測的姿勢制御に着目して，研究分担者（佐近慎平）
4. 2025年度，基盤研究（B），多様性・公正・包摂（DEI）に基づく学校保健の教員養成カリキュラムの実証的研究，研究分担者（杉崎弘周）
5. 2025年度，挑戦的研究（開拓），健全な発達を促す身体活動に向けた毛髪中コルチゾールによる慢性ストレス評価法確立，研究分担者（杉崎弘周）

8　栄養科学研究センター

①研究テーマ

1　全世代を対象とした栄養ケア・サポートに関する研究

②センター名簿

センター長　：稲葉洋美，健康栄養学科，教授
副センター長：岩森　大，健康栄養学科，准教授
研究員　　：永井　徹，健康栄養学科，教授
研究員　　：田村典子，健康栄養学科，教授
研究員　　：海和美咲，健康栄養学科，助教
客員研究員　：増田紘之，中央大学，客員研究員

③主な活動内容

１．著書

1. 井ノ内直良，平尾和子，岩森大他．澱粉の事典．初版．朝倉書店；2025：430-434

２．論文

1. Inaba H, Hanawa H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Iron Deficiency Prevention and Dietary Habits Among Elite Female University Athletes in Japan. Sports. 2025; 7: 220 (review)
2. 稲葉洋美，川中健太郎．スポーツ栄養におけるエビデンスとその活用．日本臨床スポーツ医学会誌．2025; 33(3): 373-373
3. 岩森大．とろみ調整液の刺激物質が口腔内感覚へ及ぼす影響．Precision Medicine. 2025; 8(13): 70-75

３．報告書

1. 永井徹，宮岡洋三，伊藤加代子，岩森大．研究基盤（C），サルコペニア嚥下機能低下高齢者口腔栄養双方向プログラムの実証研究，研究成果報告書，2021-2024，研究代表者
2. 増田紘之．科学研究費基金基盤研究（C），骨格筋オートファジーを誘導する栄養・運動処方に関する基礎研究-ビタミンB1への着目-，研究成果報告書，2024-2026，研究代表者

４．学会等研究発表

1. 稲葉洋美，星野芙美，江玉睦明，大森豪．女子サッカー選手における補食摂取頻度と食習慣．第72回日本栄養改善学会（世田谷区），2025.9.14-9.14.
2. 曽根美奈子，星野芙美，石井穂乃香，稲葉洋美．大学男子柔道選手における減量の実態．第72回日本栄養改善学会（世田谷区），2025.9.14-9.14.
3. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．n-6系脂肪酸/n-3系脂肪酸の摂取比率が月経時に伴う身体的痛みに及ぼす影響．第72回日本栄養改善学会（世田谷区），2025.9.14-9.14.
4. 入澤祐里，面莉緒，皆川陽介，高野夏来，稲葉洋美．女子高校生におけるPMS認知度と食習慣に関する実態調査．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.

5. 稲葉洋美，塙晴雄，星野芙美，曽根美奈子，石井穂乃香．江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける鉄欠乏性貧血／鉄欠乏症と鉄欠乏性貧血を予防・治療するための食習慣に関する調査．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.
6. 曽根美奈子，石井穂乃香，稲葉洋美，大森豪．大学男子柔道選手における脱水状況の実態．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.
7. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける競技環境の違いが血中25OHビタミンD濃度および月経痛に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.
8. 曽根美奈子，星野芙美，稲葉洋美．大学男子柔道選手におけるトレーニング期と減量期の比較．日本スポーツ栄養学会第11回大会（福岡市）．2025.8.30-8.31.
9. 海和美咲．疑似的他者の存在によるおいしさと脳活動の変化．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都世田谷区），2025.9.12-9.14.
10. 永井徹，井上達朗，齋藤泰晴，堂井真里，遠藤沙保里，笠原純子，坂井邦彦．地域における集学的チームによる誤嚥性肺炎予防活動．JSPEN（さいたま市），2025.7.27.【シンポジウム】
11. 永井徹，齋藤泰晴，堂井真里，坂井邦彦，遠藤沙保里，笠原純子．地域高齢者における食事摂取時の口腔自覚症状と栄養評価指標との関連．第41回日本栄養治療学会学術集会（横浜市），2026.2.13-2.14.
12. 岩森大，真柄仁，井上誠．味覚感受性が炭酸飲料摂取時の嚥下筋活動へもたらす刺激効果．第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（横浜市），2025.9.19-9.20.

５．学会活動

1. 第35回日本臨床スポーツ医学会，一般口演座長，千葉市，2025.11.3.
2. 日本調理科学会誌査読（2025.9）
3. 日本調理科学会誌査読（2026.1）

６．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. アルビレックス新潟U13栄養講習会，食べる力，講師，アルビレックス新潟，アルビレックス新潟U13，アルビレッジ，2026.4.13.
2. 令和７年度新潟スポーツ障害フォーラム指導者セミナー，栄養と睡眠，講師，新潟市中体連部活動・中学校指導者研修会，一般市民，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.7.25.
3. 新潟市スポーツ指導者研修会，栄養と睡眠，講師，新潟市教育委員会学校支援課，一般市民，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.10.18.
4. アルビレックス新潟ユース栄養講習会，貧血の予防と改善，講師，アルビレックス新潟，アルビレックス新潟ユース，アルビレッジ，2026.12.5.
5. 女性アスリート支援ネットワーク勉強会，女性アスリート支援に必要な栄養の基礎知識，講師，女性アスリート支援ネットワーク，女性アスリート支援者，ZOOM，2026.1.19.
6. 令和７年度スポーツ指導者研修会～子どもの安全・安心を指導者が守るために～，トレーニングに大切な食事と休養，講師，公益財団法人新潟市スポーツ協会，スポーツ指導者，新潟市，2026.3.3.
7. 安産＆ファミリースタートアップ，妊娠中の食事と栄養，講師，芥川バースクリニック，妊婦とその家族，オンデマンド（動画配信），2025.5-
8. むらかみ長寿大学８月特別講座，フレイル・サルコペニア予防実践講座，講師，村上市教育委員会長寿大学，高齢者，村上市，2025.8.29.
9. むらかみ長寿大学特別健康講座，フレイル・サルコペニア予防実践講座，講師，村上市教育委員会長寿大学，高齢者，村上市，2026.3.19.
10. 豊栄街中キャンパス，健康でまちづくり：北区野菜を用いた調理実習，講師，高齢者，ラグーナスクエア豊栄，新潟市，2025.8.5.

２）TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報，管理栄養士養成準備万端，2025,4.4.
2. BSN，ゆうなび，サルコペニア予防について，2025.5.14.

３）社会活動への参加協力

1. 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム，理事，新潟市，通年

７．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2022年度，科研費基盤研究（C），小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築，稲葉洋美，研究分担者
2. 2022年度，科研費基盤研究（C），女子アスリートの鉄欠乏，貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明，稲葉洋美，研究分担者
3. 2024年度，科研費基盤研究（C），共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発，稲葉洋美，研究代表者
4. 2024年度，科研費基盤研究（C），骨格筋オートファジーを誘導する栄養・運動処方に関する基礎研究-ビタミンB1への着目-，増田紘之，研究代表者
5. 2023年度，科研費基盤研究（C），レオロジーの異なる炭酸飲料による嚥下機能への刺激効果の解明，岩森大，研究代表者

９　脳卒中リハビリテーション研究センター（Stroke Rehabilitation Research Center）

①研究テーマ

１　脳卒中患者の歩行障害に関わる因子の解明と有効な理学療法プログラムの開発

②センター名簿

センター長　：犬飼康人，理学療法学科，准教授
副センター長：小股　整，新潟リハビリテーション病院，医師
研究員　　：大西秀明，理学療法学科，教授
研究員　　：椿　淳裕，理学療法学科，教授
研究員　　：芝田純也，理学療法学科，教授
研究員　　：齊藤　慧，理学療法学科，講師
研究員　　：小島　翔，理学療法学科，講師
研究員　　：渡邊慎平，新潟リハビリテーション病院，理学療法学科
研究員　　：諏佐貴大，新潟リハビリテーション病院，理学療法学科

③主な活動内容

１．論文

1. Miyaguchi S, Inukai Y, Igarashi K, Yamamoto S, Otsuru N, Onishi H. Slow-Oscillatory Transcranial Alternating Current Stimulation Over the Primary Motor Cortex Improves Motor Skill Acquisition. Eur J Neurosci. 2025; 62(6): e70269.
2. Miyaguchi S, Inukai Y, Muroi M, Yamamoto S, Onishi H. Effects of Cerebellar tACS With Gamma Band on Basketball Shooting Skills: A Single-Blind, Randomized Controlled Trial in College Students With Basketball Experience. Brain Behav. 2025; 15(10): e70943.
3. Watanabe R, Kitatani R, Amano A, Sorimachi R, Onishi H. Effects of Cerebellar Transcranial Alternating Current Stimulation at Frequencies Surrounding the Gait Cycle Frequency on Spatiotemporal Gait Parameters. Cerebellum. 2026; 25(2): 37.
4. Maruyama Y, Shibata S, Kojima S, Mima T, Onishi H. Peripheral nerve stimulation synchronized with brain stimulation facilitates somatosensory function. Clin Neurophysiol. 2026; 184: 2111693.
5. Kojima S, Tanabe K, Todoroki M, Onishi H. Effects of anodal transcranial direct current

stimulation over the right posterior parietal cortex on Simon task and flanker task performance. Brain Res. 2026; 1872: 150100.

6. Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Frequency-specific modulations of oscillatory neural drives to lower leg muscles during gait with aiding and impeding horizontal forces. J Electromyogr Kinesiol. 2026; 86: 103098.
7. Tanabe K, Kojima S, Saito K, Onishi H. Active Touch Intervention Using a Rough Texture Enhances Corticospinal Excitability. Brain Behav. 2025; 15(9): e70837.
8. Watanabe H, Kojima S, Otsuru N, Onishi H. Effects of repetitive mechanical tactile stimulation interventions with stationary and moving patterns on paired-pulse depression. BMC Neurosci. 2025; 26(1): 46.
9. Saito K, Otsuru N, Tateishi K, Kurebayashi R, Onishi H. Differential modulation of the cortical alpha rhythm and activation of distinct neural networks during tactile perception training by learners and non-learners. Front Neurosci. 2025; 19: 1566615.
10. Hiraga T, Saito K, Kojima S, Onishi H. Effects of transcranial direct current stimulation over the posterior parietal cortex on tactile spatial discrimination. Exp Brain Res. 2025; 243(5): 125. Published 2025 Apr 22.

２．学会等研究発表

1. 犬飼康人．脳卒中患者に対する理学療法の知と実践．第60回日本理学療法学術研修大会（東京），2025.5.31.【教育講演】

３．学会活動

1. 第60回日本理学療法学術研修大会，準備委員（財務部長），2025.5.31-6.1.
2. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会（実行委員），2025.12.20-12.21.

４．社会活動

１）社会活動への参加協力

1. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会，脳卒中患者に対するクリニカルリーズニングの実践，講師，医療従事者，新潟・新発田リハビリテーション病院，2025.5.14.
2. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会，脳卒中患者に対する理学療法，講師，医療従事者，大阪・星ヶ丘医療センター，2025.7.7.
3. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会，脳卒中患者に対する理学療法，講師，医療従事者，広島・飛翔会グループ，2026.3.8.
4. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会，急性期脳卒中患者に対する理学療法，講師，医療従事者，新潟・長岡赤十字病院，2026.3.8.

５．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2023年度，基盤研究（C），動的バランス機能を向上させるニューロモデュレーション技術の開発，犬飼康人，研究代表者
2. 2024年度，基盤研究（B），低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明，椿淳裕，研究代表者
3. 2025年度，基盤研究（C），動的な触圧覚刺激に伴う皮質応答の特徴と介入効果の背景にある神経基盤の解明，小島翔，研究代表者
4. 2023年度，基盤研究（C），知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出，齊藤慧，研究代表者
5. 2024年度，基盤研究（B），非侵襲ヒト静磁場刺激の創生，芝田純也，研究代表者
6. 2025年度，基盤研究（B），マルチモーダル脳イメージングによる側頭頭頂接合部の特徴解明と知覚学習への応用，大西秀明，研究代表者

10　次世代デジタルリハビリテーション研究センター（Frontier Research Center for Digital Rehabilitation）

①研究テーマ

1　VR・AR・MR技術を駆使した心身機能に関する研究

2　非侵襲的脳刺激手法およびシミュレーション技術を用いた脳機能に関する研究

3　慢性疼痛患者に対する遠隔サポートに関する効果判定

②センター名簿

センター長　：大鶴直史，理学療法学科，教授
副センター長：芝田純也，理学療法学科，教授
研究員　　：大西秀明，理学療法学科，教授
研究員　　：山代幸哉，健康スポーツ学科，教授
研究員　　：宮口翔太，理学療法学科，講師
客員研究員　：栗田雄一，広島大学，教授
客員研究員　：原　正之，埼玉大学，教授
客員研究員　：金山範明，産業技術総合研究所，主任研究員

③主な活動内容

1．論文

1. Ogawa Y, Nagasaka K, Ishii D, Nagao A, Ikarashi H, Otsuru N, Onishi H. Enhanced flavoprotein autofluorescence imaging in rats using a combination of thin skull window and skull-clearing reagents. Neuroscience letters (JCR). 2025: 856-858: 138239.（査読あり）
2. Saito K, Otsuru N, Tateishi K, Kurebayashi R, Onishi H. Differential Modulation of the Cortical Alpha Rhythm and Activation of Distinct Neural Networks during Tactile Perception Training by Learners and Non-learners. Frontiers in Neuroscience (JCR). 2025: 19: 1566615.（査読あり）
3. Watanabe H, Kojima S, Otsuru N, Onishi H. Effects of repetitive mechanical tactile stimulation interventions with stationary and moving patterns on paired-pulse depression. BMC Neuroscience (JCR). 2025: 26: 46.（査読あり）
4. Inoue S, Otsuru N, Hara M, Ikarashi H, Iimuro K, Onishi H. VR-induced interoceptive feedback may impact tactile priority in individuals with low interoceptive awareness. Virtual Reality (JCR). 2025: 29: 139.（査読あり）
5. Miyaguchi S, Inukai Y, Igarashi K, Yamamoto S, Otsuru N, Onishi H. Slow-oscillatory transcranial alternating current stimulation over the primary motor cortex improves motor skill acquisition. European Journal of Neuroscience (JCR). 2025: 62: e70269.（査読あり）
6. Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Beta to low-gamma rhythmic brain stimulation over primary motor cortex and supplementary motor area differentially modulates oscillatory neural drives during gait. Experimental Brain Research (JCR). 2025: 243: 233.（査読あり）
7. Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Frequency-specific modulations of oscillatory neural drives to lower leg muscles during gait with aiding and impeding horizontal forces. Journal of Electromyography and Kinesiology (JCR). 2026: 86: 103098.（査読あり）
8. Inoue T, Otsuru N, Hirata A Group-level and Personalized Optimization for the Focal Electric Field in the Insula and Hippocampus for Transcranial Temporal Interferential Stimulation: A Computational Study. Computers in Biology and Medicine (JCR). 2026: 200: 111374.（査読あり）
9. Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Iimuro K, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Emotional neglect in childhood modulated aperiodic offset in left pars orbitalis in adulthood. Frontiers in Neuroscience (JCR). 2026: 19: 179462.（査読あり）

２．学会等研究発表

1. 五十嵐眸実，大鶴直史，佐藤萌愛，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．冷刺激に対する自律神経応答と内因性疼痛抑制の関連．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.
2. 市川颯太，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．小脳への経頭蓋直流電流刺激による痛覚閾値の変化．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.
3. 中村歩睦，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．島皮質を標的とした時間干渉刺激が心拍変動に与える影響．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.

３．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. パワーアップチャレンジ，慢性の痛みを考える，講師，日本理学療法士連盟青年局，PT/OT/ST/学生，オンライン，2025.7.5.
2. 慢性疼痛に対する認知行動療法，運動療法オンラインセミナ，慢性疼痛の認知再構成，講師，厚労省　慢性疼痛診療システム均てん化事業，医療従事者，新潟市，2025.8.31.
3. 慢性疼痛診療オンライン研究会，痛みの多面的評価，講師，講師，厚労省　慢性疼痛診療システム均てん化事業，医療従事者，オンライン，2025.12.14.

４．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2025年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），脳深部に存在する島皮質への非侵襲的な刺激実現と慢性疼痛患者への応用戦略，研究代表者
2. 2025年度，科学研究費補助金　挑戦的研究（萌芽），VRによる内受容情報フィードバックと脳刺激の融合による身体認知変容への挑戦，研究代表者
3. 2025年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），マルチモーダル脳イメージングによる側頭頭頂接合部の特徴解明と知覚学習への応用，研究分担者
4. 2025年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），受傷後アスリートが慢性疼痛発症に至る脳状態の予測指標と予防策の創出，研究分担者
5. 2024年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），非侵襲的ヒト静磁場刺激の創生，研究分担者
6. 2024年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），運動記憶を忘却する神経基盤の解明－忘却が誘う運動学習イノベーション－，研究分担者
7. 2022年度，科学研究費補助金　基盤研究（A），内受容感覚を利用した身体感覚の自然な“脱着”，研究分担者
8. 2022年度，科学研究費補助金　挑戦的研究（開拓），運動感覚改変による着身体・脱身体現象の誘発とリハビリ応用，研究分担者

11　3D技術研究開発センター（3D Technology Prosthetics and Orthotics Research and Development Center）

①研究テーマ

１　3Dスキャナー・3Dプリンターを活用した最先端義肢装具製作適合技術の実用化研究

②センター名簿

センター長　：東江由起夫
副センター長：須田裕紀
研究員　　：前田　雄
研究員　　：村山　稔
研究員　　：郷　貴博
研究員　　：佐藤未希
研究員　　：神田　賢
研究員　　：田中惣治

③主な活動内容

1．報告書

1. 須田裕紀，村山稔，佐藤未希．厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業），分担報告書，術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究－3D技術の運用に関する機器精度の検証－，令和７年度 総括・分担研究報告書，研究分担者

2．学会等研究発表

1. 師井総一郎，花房昭彦，山本紳一郎，日下結莉乃，東江由起夫，前田雄，須田裕紀，大塚博，大西謙吾，髙木基樹．トポロジー最適化を施した短下肢装具モデルの開発と評価－厚み付加による構造安定性の向上に関する研究－．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.
2. 大塚真緒，東江由起夫，大塚博，大西謙吾，今信一郎，花房昭彦，髙木基樹，山本紳一郎．3Dプリンタ製体幹装具の製作に向けた有限要素解析．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.
3. 田鍋希妃，東江由起夫，Praewpipat Bongkoch，田村真明，神田賢．後方足継手部の水平断面形状が異なる後面支柱型短下肢装具の比較検証～底背屈モーメントに着目～．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.
4. 佐山良太，東江由起夫，大塚博，大西謙吾，今信一郎，髙木基樹，山本紳一郎．有限要素法による大腿義足ソケットのシミュレーション解析～坐骨や軟組織の区別が圧力解析に与える影響．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.
5. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来の化学物質リスクについて．第50回日本医用マススペクトル学会年会（一宮市），2025.9.12-9.13.
6. Suda H, Maeda Y, Go T, Agarie Y. Comparison of different materials and AFO plantar / dorsiflexion moments in SHB-AFO made by 3D-Printer. 20th ISPO World Congress (Sweden), 2025.6.16-6.19.

3．学会活動

1. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，大会長，新潟市，2024.11.8-11.9.

4．社会活動

1）公開講座・講演会等

1. 東江由起夫．第31回日本義肢装具士協会学術大会，海外招待講演Ⅱ，IL2，Design Optimization of Prosthetics using Simulation-Driven Techniqus，座長，鹿児島市，2025.7.19-7.20.

5．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），3D・3Dプリンタを導入した脳卒中片麻痺者の短下肢装具の実用化研究，東江由起夫，研究代表者
2. 2025年度，武藤工合業株式会社共同研究費，3Dスキャナー・3Dプリンターを活用した義肢装具の実用化に向けた研究，東江由起夫，研究代表者
3. 2025年度，厚生労働行政推進調査事業（障害者政策総合研究事業），技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究，須田裕紀，研究分担者
4. 2023年度，科研費基盤研究（C），3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究，前田雄，研究代表者
5. 2023年度，科研費基盤研究（C），女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因分析，佐藤未希，研究代表者
6. 2025年度，科研費基盤研究（C），下腿義足の最適な適合と調整のための新たな評価指標の構築，郷貴博，研究代表者

12　生物医科学分析研究センター（Research Center for BioMedical Analysis: RCBMA）

①研究テーマ

1　質量分析学の医療への貢献
2　新規質量分析法および解析手法の開発と，ヒト疾患関連バイオマーカーの探索ならびにその臨床応用に関する研究
3　安全衛生分野における，化学物質のリスク評価および管理に関する調査・研究

②センター名簿

センター長　　：中山憲司，臨床技術学科，准教授
副センター長　：藤井　豊，臨床技術学科，教授
研究員　　：木下直彦，医療情報管理学科，教授
研究員　　：花村健次，診療放射線学科，教授
研究員　　：久保亜抄子，鍼灸健康学科，教授
顧問　　：塙　晴雄，臨床技術学科，教授
顧問　　：石浦章一，医療情報管理学科，特任教授
客員研究員　　：佐藤根妃奈，新潟食料農業大学，講師
客員研究員　　：中西豊文，修文大学，教授
客員研究員　　：田中　聡，Trans-IT Co., Ltd.，CEO
客員研究員　　：五十嵐一雄，医薬分析協会，代表
外国人客員研究員：Kan-Jen TSAI，中山医学大学，教授
外国人客員研究員：Yan-Zin CHANG，中山医学大学病院，教授
外国人客員研究員：Xin LI，北京大学医学部第３病院，助教

③主な活動内容

１．論文

1. Nakayama K, Igarashi K, Arash Zarrine-Afsar. Picosecond Infrared Laser Mass Spectrometry for the Analysis of Biological Materials. Medical Mass Spectrometry. 2025; 9(1): 2-7.
2. 中山憲司．検査室と手術室をつなぐ質量分析：定量MALDI-TOF/MS解析と術中リアルタイム分子診断の可能性．日本臨床検査医学会誌．2025; 73: 43.
3. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来の化学物質リスクについて．JSBMS Letters，2025; 50(Suppl.): 103.
4. Sugino Y, Bao X, Sekito S, Miyachi S, Kageyama T, Sasaki T, Nishikawa K, Tanaka T, Kato M, Shimada Y, Takano K, Son R, Zang L, Nakayama K, Watanabe M, Murakawa Y, Inoue T. Zebrafish Xenograft Model for Predicting Cisplatin Efficacy in Muscle-Invasive Bladder Cancer. Cancer Sci. 2025; 116(12): 3376-3387.
5. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来揮発性有機化合物のリスク評価について．新潟医療福祉学会誌，2025; 25(1): 28.
6. 柴崎滉大，高橋知希，都丸晃誠，齋藤憲，中山憲司．MonoSpin Phospholipidカートリッジカラムを用いた迅速リン脂質解析法の開発．新潟医療福祉学会誌，2025; 25(1): 30.
7. 柴崎滉大，中山憲司．ヒト肺がん細胞株の薬剤耐性獲得時におけるリン脂質の組成変化．臨床技術学．2025; 12: 57-58.
8. 都丸晃誠，中山憲司．MonoSpin Phospholipidカートリッジカラムを用いた糖脂質分析法の開発．臨床技術学．2025; 12: 59-60.
9. 横田芽愛，中山憲司．ヒト毛髪からの遊離脂肪酸類およびリゾリン脂質類の抽出法検討について．臨床技術学．2025; 12: 61-62.
10. 中山憲司，後藤崇之，小林恭．検査室で始めるバイオマーカー探索研究：簡単な定量MALDI-TOF/MS解析．日本臨床検査医学会誌．2026; 74(1): 60-69.
11. 中山憲司．臨床検査と外科医療をつなぐ新しい質量分析技術：術中分子診断の可能性．日本臨床検査医学会誌．2026; 74(1): 53-59.

２．学会等研究発表

1. 中山憲司．検査室と手術室をつなぐ質量分析：定量MALDI-TOF/MS解析と術中リアルタイム分子診断の可能性．第72回日本臨床検査医学会学術集会．シンポジウム４：マルチプレックス検査の最前線：質量分析の可能性（千葉市美浜区），2025.8.29.
2. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来の化学物質リスクについて．第50回 日本医用マススペクトル学会年会（愛知県一宮市），2025.9.13.
3. 柴崎滉大（臨床技術学科４年生），高橋知希，都丸晃誠，齋藤憲，中山憲司．MonoSpin Phospholipidカートリッジカラムを用いた迅速リン脂質解析法の開発．第25回 新潟医療福祉学会学術集会（新潟県新潟市），2025.10.25.
4. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来揮発性有機化合物のリスク評価について．第25回 新潟医療福祉学会学術集会（新潟県新潟市），2025.10.25.
5. Nakayama K.【Keynote Speech】Getting started with biomarker discovery in the clinical laboratory: A simple quantitative MALDI-TOF/MS analysis. 2026 International Conference on Medical Laboratory Science and Biotechnology（台湾・台中市），2026.3.13.
6. Nakayama K.【Special Talk】Chemical substance management and its risk assessment in clinical laboratories in Asia. 2026 International Conference on Medical Laboratory Science and Biotechnology（台湾・台中市），2026.3.13.
7. Tomaru H（臨床技術学科４年生), Shibasaki K, Takahashi T, Saito K, Nakayama K. Development of a Non–Liquid–Liquid Extraction Method for Phospholipid Analysis Using MALDI-TOF/MS. 2026 International Conference on Medical Laboratory Science and Biotechnology（台湾・台中市），2026.3.13.
8. Kaneshiro Y（臨床技術学科２年生), Nakayama K. Exploring Prime Number Patterns in Protein Amino Acid Sequences. 2026 International Conference on Medical Laboratory Science and Biotechnology（台湾・台中市），2026.3.13.

３．学会活動

1. 日本医用マススペクトル学会，理事，愛知県一宮市，2025.9.12-2026.3.31.
2. 日本医用マススペクトル学会，会員強化・国際化委員会・副委員長，愛知県一宮市，2025.9.12-2026.3.31.
3. 日本医用マススペクトル学会，認定制度委員会・委員，愛知県一宮市，2025.9.12-2026.3.31.
4. 日本医用マススペクトル学会，総務委員会・委員（学会誌 JSBMS　Letters 発刊），愛知県一宮市，2025.9.12-2026.3.31.
5. 第51回日本医用マススペクトル学会年会，実行委員（企業・交渉担当），静岡県浜松市，2025.9.12-2026.3.31.
6. 日本医用マススペクトル学会，理事会（各委員会意見交換会），理事，慶応義塾大学信濃町キャンパス，2026.2.28.

４．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. 義肢装具事業所・義肢装具士等に関わる労働安全衛生セミナー・全国セミナー，～大丈夫ですか？あなたの職場環境は？～，講師，日本義肢装具士協会，義肢装具事業所・義肢装具士（国内），新潟県新潟市（オンラインWEBセミナー），2025.7.5.

２）社会活動への参加協力

1. 化学物質管理担当者連絡会，第18回化学物質管理担当者連絡会，化学物質管理者，討論・会議参加，東京都新宿区・早稲田大学 西早稲田キャンパス，2025.9.5.

2. 第13回 医用質量分析認定士 資格試験，試験監督・採点，愛知県一宮市・修文大学，2025.9.12.

5．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2025年度，科研費・基盤研究（C），MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用，中山憲司，研究代表者
2. 2023年度，科研費・基盤研究（C），酸素ウルトラファインバブル溶液による腹膜を介した革新的呼吸補助法の創出，藤井豊，研究代表者
3. 2023年度，科研費・基盤研究（C），成体海馬の神経新生の傷害を介した放射線による鎮痛作用を担うメカニズムの解明，花村健次，研究代表者
4. 2023年度，科研費・基盤研究（B），筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明，久保亜抄子，研究代表者

6．その他の活動

1．国際共同研究（2026年度継続中）

1）中山医学大学病院 毒薬物質分析室，研究打ち合わせ，2026.3.12.

2．運動医科学研究所勉強会（文献抄読），2025.10.6.

1）Brandel et al. Variant Creutzfeldt-Jakob disease diagnosed 7.5 years after occupational exposure. N Engl J Med 2020; 383(1): 83-85. doi: 10.1056/NEJMc2000687.

13　看護実践研究センター（Research Center for Nursing Education）

①研究テーマ

1　少子高齢，チーム医療の推進等の変化の著しい保健医療福祉分野に主体的に活躍できる看護人材の育成及び看護実践に関する研究

②センター名簿

センター長	宇田優子	看護学科　教授
副センター長	下山博子	看護学科　教授
研究員	渡邉千春	看護学科　教授
研究員	小栗妙子	看護学科　講師
研究員	桶谷涼子	看護学科　講師
研究員	吉田由美	新潟リハビリテーション病院
顧問	西原康行	健康スポーツ学科　教授

③主な活動内容

1．論文

1. 石綿啓子，瀧口徹，宇田優子．プラチナナースを訪問看護ステーション就業に繋ぐシステムの検討．新潟医療福祉学科誌．2025；24（3）27-36.
2. 石塚敏子，宇田優子，土田千歳，桶谷涼子，木下直彦．パーキンソン病者の災害備え指導に有効な指標の検討　～外来看護部門での活用を目指して～．日本難病看護学会誌．2026；31（1）（印刷中）

2．報告書

1. 宇田優子，木下直彦，石塚敏子，桶谷涼子，土田千歳．日本学術振興会科学研究助成事業基盤（C）－外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発－．研究成果報告書．2025；1-8．宇田優子（代表）

3．学会等研究発表

1. Watanabe C, Uchiyama W, Oguri T, Nishihara Y. Key elements of Quick Response of Expert Nurses in Telephone Consultation from Cancer Patients Undergoing Outpatient Pharmacotherapy. The 16th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference (kuching), 2025.4.23-4.26.
2. 真保加奈子，Tantut Susanto，下山博子，佐藤真由美，関島香代子．インドネシアの20代女性にお

ける月経セルフマネジメントの実態．第66回日本母性衛生学会学術集会（東京）．2025.10.10-10.11.

3. 岩野千尋，宇田優子．医療的ケア児の在宅移行支援における訪問看護師のコンピテンシー．日本在宅看護学会第15回学術集会（名古屋市），2025.11.29-11.30.
4. 桶谷涼子，渡邉千春，下山博子．成人女性がんサバイバーへの看護師による妊娠・出産，育児支援の実態　第１報－所有資格と介入との関連－．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
5. 荒木恵子，佐藤郁美，久嶋美和，太田真美，桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教初段階学生の学習課題への気づき．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
6. 真保加奈子，下山博子，関島香代子．インドネシアの将来妊娠を希望する20代未婚女性の月経セルフマネジメント－主成分分析の結果から－．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
7. 志田佑佳子，桶谷涼子，小栗妙子．多職種連携教育を担当した教員の気づき－看護教員による３年間の教育実践を通して－．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
8. 小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美己，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（指導者の助言）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
9. 朝妻美己，小栗妙子，桶谷涼子，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（空間）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
10. サバンジュ美智子，小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美己，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（記録物）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
11. 寺田由紀子，小栗妙子，渋谷郁恵，栗田真由美，堀内裕子，山本未央，真渓淳子，生天目禎子，荒牧順子．ダブルケア当事者団体と医療専門職による支援の連携を広めませんか～新潟　歩み寄りの回とDC　NETWORKとともに～．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
12. 宇田優子，桶谷涼子，土田千歳，石塚敏子．患者会活動の社会的活動に関する海外文献検討　2014-2023年発表論文からの検索．第45回日本看護科学学会（新潟市），2025.12.6-12.7.
13. 下山博子．桶谷涼子，岩野千尋，塚本康子．地域で生活する高齢がんサバイバーが安全に安心して生活していくためのリソース・モデルの提案．第40回日本がん看護学会学術集会（大阪市）．2026.2.21-2.22.
14. 桶谷涼子，渡邉千春，下山博子．成人女性がんサバイバーへの看護師による妊娠・出産，育児支援の実態　第２報－連携形態別の看護師間連携における課題－．第40回日本がん看護学会学術集会（大阪市）．2026.2.21-2.22.
15. Shimoyama H, Shinbo K. Supporting Nurses in Second-Trimester Abortion Care: Insights into Educational Needs and CPD Strategies. The 29 EAFONS 2026 (Singapore), 2026.2.26-2.28.
16. Watanabe C, Uchiyama W, Oguri T, Nishihara Y. Assessment Criteria Utilized by Expert Nurses in Telephone Triage of Outpatient Cancer Patients Receiving Pharmacotherapy. The 29 EAFONS 2026 (Singapore), 2026.2.26-2.28.

４．学会活動

1. 第45回日本看護科学学会学術集会，実行委員，新潟市，2025.12.6-12.7.
2. 第33回死の臨床研究会　関東甲信越支部大会，実行委員　事務局，新潟市，2025.4.1-2026.3.31.
3. 日本がん看護学会，編集委員会　委員，2025.4-2027.3.（予定）

５．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. 2025年度日本パーキンソン病友の会新潟県支部総会にて災害の備えミニシンポ進行役，新潟市，2025.5.25.
2. 第38回看護研究発表会，講評，新潟医療生活協同組合木戸病院，看護師，2025.7.24.

3. 令和７年度地域看護連携強化事業北区看看連携研修会，事例を通してACPについて考えてみよう～寄り添い・つなぎ・地域生活住民の生活を支えるために～，講師，新潟市在宅医療・介護連携ステーション北，看護師，2025.8.7.
4. 令和７年度新潟県立がんセンター新潟病院主催ELNEC－Jコマカリキュラム看護師教育プログラム，モジュール９　高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア　講師，新潟県立がんセンター新潟病院，看護師，2025.8.9.
5. 第25回新潟医療福祉学会シンポジウム演者，2025.10.25.
6. 出張職業体験授業，新発田中央高校，講師，2026.3.4.
7. ELNEC-J in KANAGAWA，モジュール６　コミュニケーション，ファシリテーター，公立大学法人横浜市立大学，看護師，オンライン，2026.3.15.

２）社会活動への参加協力

1. 新潟医療生活協同組合木戸病院，2025年度看護研究指導，講師，オンライン，2025.4.15-2026.3.31.
2. 帝京けんこうひろばプロジェクト・親のがんを知らされた子どもの心に寄り添うコアラカフェ，サポーター，東京都，2025.6.15.
3. リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024にいがた，サバイバー支援啓発，救護，新潟市・新潟県スポーツ公園，2025.10.18-10.19.
4. 帝京けんこうひろばプロジェクト・親のがんを知らされた子どもの心に寄り添うコアラカフェ，サポーター，オンライン，2026.1.18.
5. 歩み寄りの会　ダブルケアカフェ，サポーター，新潟市，2026.2.14.

６．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発，西原康行，研究代表者
2. 2024年度，科研費基盤研究（C），難病患者会の組織ライフサイクルにおける「成熟状態の継続」モデリング，宇田優子，研究代表者・桶谷涼子，研究分担者
3. 2024年度，科研費基盤研究（C），外来薬物療法を受けるがん患者のニーズに即した電話相談アルゴリズムの開発，渡邉千春，研究代表者
4. 2024年度，科研費基盤研究（C），がんサバイバーの妊娠・出産，育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成，桶谷涼子，研究代表者・下山博子，渡邉千春，研究分担者
5. 2025年度，科研費基盤研究（C），慢性心不全の急性増悪時に必要な臨床判断能力を育む実写版VR（virtualreality）動画の開発，小栗妙子，研究代表者・渡邉千春，西原康行，研究分担者
6. 2025年度，科研費基盤研究（C），原発不明がん患者に対する看護師主導型のシームレスな支援体制の構築，サバンジュ美智子，研究代表者・桶谷涼子，渡邉千春，研究分担者

14　発達科学センター　あたま×こころ×からだ 発達ラボ（Center for Developmental Sciences）

①研究テーマ

１　言語・認知・社会性の発達に関する研究
２　問題解決場面における学習に関する研究

②センター名簿

センター長：山﨑由美子，心理健康学科，教授
研究員　　：坂田省吾，心理健康学科，教授
研究員　　：廣瀬清人，心理健康学科，教授
研究員　　：橋本照男，心理健康学科，准教授
研究員　　：松本京介，心理健康学科，准教授
研究員　　：木村能成，心理健康学科，助教

研究員　　：溝江　唯，心理健康学科，助教

③主な活動内容

1．著書

1. 溝江唯．知的障害のある子どもの言語・コミュニケーション（竹尾勇太・村尾愛美編）．第３章 自閉スペクトラム症児の言語・コミュニケーション発達の特徴と支援．ジアース教育新社；2026

2．論文

1. 松本京介．夢を通した喪の仕事と関係性の再構築．心理臨床学研究．2025；43(3)：232-243.
2. 山﨑由美子．次世代モデル動物としてのマーモセット－生物医学研究にもたらす意義と課題－．生物の科学 遺伝，2025, 79(3), 192-197.
3. Seki F, Yurimoto T, Kamioka M, Inoue T, Komaki Y, Iriki A, Sasaki E, Yamazaki Y. Development of a non-invasive novel individual marmoset holder for evaluation by awake functional magnetic resonance brain imaging. Journal of Neuroscience Methods, 2025, 417, 110390. https://doi.org/10.1016/J.JNEUMETH.2025.110390

3．学会等研究発表

1. 溝江唯．日本発達心理学会，ASD児の親子遊び場面における代名詞使用の特徴－社会的文脈に着目した予備的検討．日本発達心理学会（福岡），2026.3.3.
2. Sakata S, Matsumoto H. Choice behavior in the adjusting delay task in rats. The 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Niigata), 2025.7.26.
3. Yamazaki Y, Kawarai S, Moriya S, Iriki A. (2025). Effect of enhanced insect feeding on the cognitive performance and gut microbiome by captive marmosets. The 48th Annual Meeting for Japan Neuroscience Society (Niigata), 2025.7.25.
4. Yamazaki Y. (2025). Multiple pathways for learning adaptive behavior: a case of common marmosets. International Symposium of "Reconsideration of smartness in animals: its similarity and divergence（動物の賢さを再考する～その共通性と多様性～)". The 96th Annual Meeting of the Zoological Society of Japan (Nagoya), 2025.9.5.
5. 山﨑由美子（2026）．マーモセットによる道具使用行動の獲得．第15回日本マーモセット研究会大会（高崎），2026.1.20.

4．学会活動

1. 坂田省吾．公益社団法人日本心理学会，公募シンポジウム・心理科学研究所構想の推進，企画・司会・話題提供者，仙台市，2025.9.7.
2. 溝江唯．日本臨床発達心理士会新潟支部，研修会，役員，新潟，2025.12.6.
3. 山﨑由美子．日本マーモセット研究会世話人会，世話人，高崎，2026.1.21.

5．社会活動

1）公開講座・講演会等

1. 溝江唯．村上市ことばとこころの相談室・職員研修会「発達アセスメントと保護者との連携」，講師，村上市，2026.3.2.
2. 溝江唯．新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部・発達支援に関する支援者研修会「自閉スペクトラム症の特徴を知り支援に活かす」，講師，オンライン，2026.2.16.
3. 橋本照男．第203回　四季会（東北小児神経研究会），特別講演：ディスレクシアを中心とした子どもの高次機能の脳画像研究の紹介，講師，萩野谷和裕，小児科医，宮城県立こども病院，2025.5.11.
4. 松本京介．村上市ファミリー・サポート・センター会員及び子育て世帯訪問支援事業支援員の合同研修会，子どもを抱える環境のために大人ができること，講師，村上市こども課子育て政策室，ファミリー・サポート・センター提供会員・両方会員及び子育て世帯訪問支援事業支援員（30名），村上市生涯学習推進センター，2025.7.30.

5. 坂田省吾．公開講座・アゴラ・さいころじぃ，生活リズムが乱れたら　時間の心理学，講演者，新潟医療福祉大学心理健康学科，市民向け，朱鷺メッセ，2025.5.31.
6. 坂田省吾．日本学術会議公開シンポジウム，国立心理科学研究所構想の推進，企画者，日本学術会議主催，市民向け，日本学術会議講堂，2026.3.16.
7. 山﨑由美子．遠くて近い親類，マーモセットの心と体．新潟医療福祉大学心理健康学科主催 2025年度市民公開講座 アゴラ・さいころじぃ「比較認知科学からヒトを知る」新潟市，2025.10.26.
8. 松本京介．研修会，ストレスマネジメント研修，講師，新潟県社会福祉協議会，社会福祉施設・事業所等に勤務する福祉関係職員（84名），新潟ユニゾンプラザ，2025.12.12.
9. 山﨑由美子．マーモセットのこころとからだを理解する：飼育下と野生の行動観察．新潟脳神経研究会特別例会，新潟大学，2025.6.12.

2）社会活動への参加協力

1. 松本京介．市ヶ谷ひもろぎクリニック，音楽プログラムに関する業務，音楽プログラム担当者，東京都・市ヶ谷ひもろぎクリニック精神科デイケア，2025.4.19，10.4.
2. 松本京介．にいがた母の会，心理カウンセリング業務，心理カウンセラー，新潟市・にいがた母の会，2025.4.1-2026.3.31.

6．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2022年度，基盤研究（B），腸内細菌叢を介した社会行動調整技術の開発，山﨑由美子，研究代表者
2. 2024年度，一般社団法人予防衛生協会　NHP-A助成金，野生生態を参考にしたコモンマーモセットの食餌管理法，山﨑由美子，研究代表者
3. 2024年度，公益財団法人山田科学振興財団　研究援助，霊長類の行動－環境－脳－消化管の長期的相互関係の解明，山﨑由美子，研究代表者
4. 2024年度，基盤研究C，発達期の記憶に脳由来神経栄養因子の遺伝子多型が与える影響とその脳内基盤の解明，橋本照男，研究代表者
5. 2025年度，若手研究，幼児期後期における自閉スペクトラム症児と養育者の相互交渉：遊びの種類が与える影響，溝江唯，研究代表者

7．その他の活動

1）溝江唯，発達アセスメント・発達相談の実施（月１～２件）
2）溝江唯，保護者・専門家向けペアレントプログラムの実施（年１～２回）
3）山﨑由美子，マーモセットの認知機能の縦断的評価（月１回×３日）

15　新潟装具研究開発センター（Niigata Orthotics Research and Development Center）

①研究テーマ

1　脳卒中患者のリハビリテーション医療に有効な装具や機器の開発

②センター名簿

センター長　：村山稔，義肢装具自立支援学科，准教授
副センター長：北谷亮輔，理学療法学科，講師
研究員　　：渡邊慎平，新潟リハビリテーション病院，理学療法士
補助研究員　：佐藤心乃助，義肢装具自立支援学分野 修士課程

③主な活動内容

1．論文

1. 村山稔．調整機能と外観性の両立を目的とした継手付きプラスチック短下肢装具Funabashi Ankle Joint Orthosis (FAJO)の開発．POアカデミージャーナル．2025；33(1)：63-68.
2. 星歩夢，村山稔．金属支柱付短下肢装具と比較したTストラップ内蔵の継手付プラスチック短下肢装具の矯正効果．POアカデミージャーナル．2025；33(2)：157-160.

２．学会等研究発表

1. 村山稔．脳卒中患者の歩行およびステップ練習中に膝屈曲角度を電子音で知らせるバイオフィードバックセンサ．第62回日本リハビリテーション医学会学術集会（京都），2025.10.23.
2. 村山稔，佐藤心乃助，星歩夢，菊池晋之祐．聴覚フィードバックを利用した膝過伸展治療システムの開発．第41回 日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8.
3. 星歩夢，村山稔．コリゲーション加工を行ったTストラップ内蔵の継手付プラスチック短下肢装具の開発．第41回 日本義肢装具学会学術大会（新潟），2024.11.8.
4. 高橋拓也，大河暖己，村山稔．モデル修正の軽減を目的とした靴型装具の採型方法の開発．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8.
5. 渋谷悠斗，宮島遼成，村山稔．股関節の屈曲運動を力源とした膝関節伸展と足関節背屈を促す補助具の開発．第41回 日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8.
6. 奥田幸花，北谷亮輔，星歩夢，村山稔，大西秀明．短下肢装具とその種類が身体重心に対する牽引歩行中の推進力に与える影響．第41回 日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8.

３．学会活動

1. 北谷亮輔．第14回日本支援工学理学療法学会学術大会，演題査読，2025.8.25.
2. 村山稔．日本義肢装具学会誌，論文査読，2026.1.27.

４．社会活動

１）公開講座・講演会等

1. 研修会，新潟の理学療法士に伝えたい長下肢装具の活用方法，講師，須田義肢製作所，理学療法士，柏崎総合医療センター，2025.5.16.
2. 研修会，新潟の理学療法士に伝えたい長下肢装具の活用方法，講師，新潟医療福祉大学，理学療法士，新潟リハビリテーション病院，2025.7.9.
3. 研修会，新潟の理学療法士に伝えたい長下肢装具の活用方法，講師，新潟医療福祉大学，理学療法士，みどり病院，2025.7.25.
4. 研修会，新潟の理学療法士に伝えたい長下肢装具の活用方法，講師，須田義肢製作所，理学療法士，オンライン，2025.8.5.
5. 研修会，表面筋電図勉強会，講師，新潟医療福祉大学，理学療法士，新潟リハビリテーション病院，2025.9.11.
6. 研修会，臨床現場における筋電図評価の意義，講師，熊本機能病院，理学療法士，熊本機能病院，2025.12.17.

５．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2026年度，科研費若手研究，歩行中に膝過伸展を呈する生活期片麻痺者を対象とした聴覚フィードバック療法の開発，村山稔，研究代表者
2. 2026年度，科研費基盤研究（C），皮質脊髄路と皮質網様体路の選択的刺激による歩行併用型脳刺激法の開発と検証，北谷亮輔，研究代表者

16　子ども総合支援研究センター（Comprehensive Child Support Research Center）

①研究テーマ

1　地域・自治体・大学連携による包括的子ども支援モデルの構築と実践研究
2　出産前から学齢期までを支える地域包括型子ども支援システムの構築に関する研究
3　ICT・補助技術を活用した包括的子ども支援モデルの開発と地域実装に関する研究
4　子育て期の女性の健康管理に関する研究
5　小児の弱視予防に関する研究（予防医学）

②センター名簿

センター長：石井雅子，社会連携推進機構，教授

研究員　　：佐近慎平，社会連携推進機構，准教授
研究員　　：下門洋文，健康スポーツ学科，准教授
研究員　　：和田直子，看護学科，准教授
研究員　　：大湊　麗，言語聴覚学科，講師
研究員　　：多々良俊哉，視機能科学科，講師
　　溝江　唯，心理健康学科，助教
補助研究員：田中彩乃，健康科学専攻大学院生
補助研究員：松井千洋，健康科学専攻大学院生
客員研究員：小林正子，新潟青陵大学 看護学部 看護学科，准教授
顧問　　：西原康行，健康スポーツ学科，教授

③主な活動内容

１．著書

1. 石井雅子．小児眼科診療 健康診断で聞かれるギモン タブレット端末の見せすぎはよくないですか，診断と治療社，東京：2026 345-348.
2. 石井雅子．成人の視力検査および眼鏡処方に関する手引き ５）遮光眼鏡，日本眼科学会編，思文閣出版，東京：2025 188-193.
3. 大湊麗．標準言語聴覚障害学摂食嚥下障害学第３版．医学書院，東京：2025：369-372.
4. 溝江唯．知的障害のある子どもの言語・コミュニケーション（竹尾勇太・村尾愛美編）．第３章 自閉スペクトラム症児の言語・コミュニケーション発達の特徴と支援．ジアース教育新社；2026：

２．論文

1. Ishii M, Yamaguchi T, Ichimura M, Seino N, Fukuchi T: ICT support for visually impaired individuals Niigata Journal of Health and Welfare 24: 2025, 12-20.（査読あり）
2. 田中彩乃，鈴木重成，石井雅子．網膜色素変性に伴うシャルル・ボネ症候群の一例．日視会誌55: 2026, 161-165.（査読あり）
3. 田中彩乃，鈴木重成，石井雅子．迅速型（クイック）ロービジョンケアの可能性―一般外来での取り組みから―．眼臨紀2(19): 2026, 104-108.
4. 松井千洋，石井雅子．幼児の視機能―COVID-19パンデミックの影響―．チャイルドヘルス28(7): 2025, 66-71.（査読あり）
5. 滝沢倖大，佐藤怜太，石井雅子，塚田章，前田義信．スマートフォン視聴時における映像条件と輻湊運動の関係分析．電子情報通信学会技術研究報告，2025, 54-57.（査読あり）
6. 鎌田太智，佐藤怜太，石井雅子，塚田章，前田義信．スマートフォンの画像を“見る”と“読む”際の眼球輻湊運動の計測．電子情報通信学会技術研究報告，2025, 73-75.（査読あり）
7. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．中規模都市における言語発達支援の現状と課題―14年間の臨床統計的検討―．音声言語医学．in press.
8. 和田直子，後藤千恵，佐々木沙織．子育て中の女性労働者の健康状態―定期健康診断の結果から―．日本健康医学会誌，34(3), 388-394.
9. 和田直子，佐々木沙織，杉本洋．子育て中の女性労働者に特徴的な後回しの生活習慣．日本健康医学会誌，34(2), 158-164.
10. Tatara S, Magara Y, Sasaki T, Maeda F, Murata N, Itagaki K, Handa T, Toda H. Quantitative analysis of ocular deviation under eye occlusion: a descriptive study using the ORTe EYENAC eye-tracking system. BMC Ophthalmology 25: 267, 2025.（査読あり）
11. 辻拓海，多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，八百枝潔，前田史篤．調節麻痺剤点眼前後における調節機能と瞳孔径の変化．神経眼科 42: 317-322, 2025.（査読あり）
12. 多々良俊哉．視線解析技術を用いた眼位評価の現状と今後の展望．Precision Medicine 8: 759-762, 2025.（総説）

13. Sakon S, Nishihara Y. Developmental Sex Differences in the Support Phase during Quadrupedal Running in Young Children. Niigata: Niigata University of Health and Welfare. (in press)(review)
14. 本多理紗，金子勝司，中曽根裕，佐近慎平．レクリエーション資格取得見込みの学生が運営するスポーツクラブにおいての参加者への影響および学生の教育的効果についての検証～レクリエーション実習の授業内で行うスポーツクラブの運営での学びについて～．自由時間研究．（印刷中）

３．報告書

1. 石井雅子．受託事業，めがねのまちさばえ『眼育』推進業務受託令和７年度成果報告：2025, 1-29
2. 石井雅子．視力検査・眼科健康診断マニュアル（令和８年４月改訂），新潟市眼科医会・新潟市こども未来部幼保支援課：2026，1-10.
3. 大湊麗．日本口蓋裂学会若手研究者海外発表奨励制度成果報告書，研究代表者，日口蓋誌，50（3）182，2025.
4. 三木明子，後藤由紀，森田理江，石塚真美，猪股久美，金子仁子，久保善子，櫻井しのぶ，廣田幸子，和田直子．2025年度日本産業看護学会研究編集委員会活動報告.
5. 和田直子．子育てと仕事を両立している女性の食生活と健康状態の関連解析，古泉財団研究費助成金研究成果報告書．2024年度．研究代表者

４．学会等研究発表

1. 田中彩乃，松井千洋，石井雅子．視的・生活環境がこどもの眼に及ぼす影響－離島地域と都市部の比較－．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.
2. 市村美香，落合竣，石井雅子，山口俊光，張替涼子，赤木忠道．ニーズに合わせた最新のICTサポートアプリ・加齢黄斑変性への１症例と緑内障視神経症の１症例へのロービジョンケア．第136回新潟眼科集談会（新潟市），202512.20.
3. 石井雅子，青木学，山口俊光．新潟駅バスターミナルにおける移動支援アプリ（ナビレンス）導入の検討．第26回日本ロービジョン学会学術総会（広島市），2025.5.23.
4. 落合竣，石井雅子，福地健郎．ICT支援がロービジョンケアに有用であった緑内障患者の１例．第26回日本ロービジョン学会学術総会（広島市），2025.5.23.
5. 小林正子，石井雅子．視覚障害をもつ女性への子育て支援　～母子保健専門職に求められること～．第26回日本ロービジョン学会学術総会（広島市），2025.5.23.
6. 石井雅子．患者さんが教えてくれたこと－ロービジョンケア25年の歩みと学び．北関東視能訓練士勉強会（オンライン），2025.8.30.
7. 田中彩乃，石井雅子，鈴木重成．迅速対応型（クイック）ロービジョンケアの可能性：一般外来での取り組みから．第26回日本ロービジョン学会学術総会（広島市），2025.5.23.
8. Maeda Y, Sato R, Ori M, Ishii M, Tsukada A. Analysis of Binocular Convergence of Eye Motion While Viewing Videos at Short Distances, ITC-CSCC2025 (Seoul, South Korea), 2025.7.7.
9. 佐藤怜太，前田義信，石井雅子，塚田章．スマートフォン注視時における眼位と輻輳運動の関係，第64回日本生体医工学会大会（福井市），2025.6.6.
10. 石井雅子，戸田春男，前田義信．遮光眼鏡装用が視覚誘発電位（VEP）のP100波に与える影響，第64回日本生体医工学会大会（福井市），2025.6.7.
11. 前田義信，佐藤怜太，石井雅子，塚田章．近距離注視が輻湊・開散運動に与える影響に関する実験，2026年電子情報通信学会総合大会（福岡市），2026.3.12.
12. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．就学前の言語発達支援が有効であった特異的言語発達障がいの１例．言語科学会第26回年次国際大会（愛媛県），2025.7.12-7.13.
13. 大湊麗，若槻華子，宮田昌幸，小林亮太，児玉泰光，佐藤真由美，井村真美，市川佳弥，丹原惇，冨原圭，小野和宏．一段階法と二段階法における乳幼児期の口腔機能と言語発達の検討．第49回日本口蓋裂学会総会学術集会（京都府），2025.10.20-10.24.
14. Ominato R, Wakatsuki H, Miyata M, Kobayashi R, Kodama Y, Sato M, Imura M, Ichikawa K,

Nihara J, Tomihara K, Ono K. The effects of 1-stage versus 2-stage palatoplasty on oral and Speech development in infancy. 15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Related Craniofacial Anomalies (Kyoto), 2025.10.20-10.24.

15. Kobayashi R, Kodama Y, Isono T, Ominato R, Sato M, Nihara J, Wakatsuki H, Miyata M, Tomihara K. Congential oropharynx lympatic malformation in a prediatric cleft palate patient treated with speech eid: A case report. 15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Related Craniofacial Anomalies (Kyoto), 2025.10.20-10.24.
16. 谷麻美，吉岡豊，大湊麗，大石如香．発達性言語症児の語彙発達の特徴－予後良好１例の分析－．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
17. Naoko.W, Hiroshi.S: Back-Burner Lifestyle Habits and Retirement Intention Among Working Mothers in Japan. International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Bangkok, 2025.12.3.
18. Naoko.W: A Narrative Qualitative Study of Occupational Health Nursing Transitions in Japan: Experiences from 1970s to 1990s. International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Bangkok, 2025.12.2.
19. 溝江唯．日本発達心理学会，ASD児の親子遊び場面における代名詞使用の特徴－社会的文脈に着目した予備的検討．日本発達心理学会，福岡，2026.3.3.
20. 多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，辻拓海，前田史篤．Spot Vision Screenerの測定値に対する室内照度の影響．第61回日本眼光学学会総会（名古屋），2025.8.30-8.31.
21. 多々良俊哉．“意外と知らない”視能訓練士のトリビア　～臨床の質を上げる小さな発見～，第８回日本両眼視矯正研究会（オンライン），2026.2.7.【講演】
22. 多々良俊哉．３歳児健康診査ならびに眼科医療機関での視覚検査などについて，公益社団法人　日本視能訓練士協会主催 第９回 ３歳児健康診査（視覚検査）従事者向け研修会（オンデマンド配信），2026.2.24-3.29.
23. 村田憲章，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，大場朱莉，渡邉美咲．4Kモニタ搭載キャリブレーションフリー視線解析装置による自動視力測定，第66回日本視能矯正学会（岡山），2025.10.25-10.26.
24. 山際玲音，前田史篤，和田友紀，多々良俊哉．赤外線電子瞳孔計Hitomiruを用いた大学生の相対的瞳孔求心路障害の傾向分析，新潟医療福祉学会第25回学術集会（新潟），2025.10.25.
25. 和田友紀，前田史篤，山際怜音，多々良俊哉，中村誠．電子瞳孔計Hitomiruによる相対的瞳孔求心路障害の評価の再現性，第63回日本神経眼科学会総会（大阪），2025.11.21-11.22.
26. 佐近慎平．楽しさが先導する高這い運動環境の構成．国際あそび学会第１回大会（東京），2025.5.31.
27. 佐近慎平，中曽根裕，中井聖，金子勝司．高這い姿勢の幼児が手で体を支える運動指導方法の開発．日本体育・スポーツ・健康学会・第75回大会（東京），2025.8.29.
28. 佐近慎平，中曽根裕，本多理紗，金子勝司．高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究～レクリエーション教育に携わる初任者教員の分析から～．令和７年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議（名古屋），2025.11.11.
29. 本多理紗，金子勝司，中曽根裕，佐近慎平．健康体操教室の参加者と大学生が共に考え実践するレクリエーション活動の研究～健康体操教室参加者および大学生に与える効果・影響の検証～．令和７年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議（名古屋），2025.11.11.

５．学会活動

1. 日本産業看護学会第14回学術集会，副事務局長，新潟市2025.11.8-11.9.
2. 日本産業看護学会第14回学術集会，ランチョンセミナー，座長，新潟市，2025.11.9.
3. 第25回新潟県産業保健看護部会総会，実行委員，新潟市，2025.6.28.
4. 第35回新潟産業保健研究会，実行委員，新潟市，2025.6.28.
5. 第36回新潟産業保健研究会，実行委員，新潟市，2025.12.20.

6. 名寄市立大学紀要，査読
7. 日本産業看護学会誌，査読
8. 日本臨床発達心理士会新潟支部，研修会，役員，新潟，2025.12.6.
9. 2025年度新潟県視能訓練士会研修会，実行委員，新潟市，2026.3.15.
10. 第26回日本ロービジョン学会学術総会，プログラム委員，広島市，2025.5.23.
11. 日本視能訓練士協会専門視能訓練審議会，育成コース講師，オンライン，2025.9.25.
12. 日本視能訓練士協会専門教育プログラムⅡ「視能障害学」，講師，オンライン，2025.9.15.

6．社会活動

1）公開講座・講演会等

1. 令和７年度 四つ葉学園 学校保健委員会，目を大切にする取り組み～「見える」を理解しよう～，講師，三条市立第四中学校，学校医・保護者・小中学生，2025.12.3.
2. 目の愛護デー，眼の健康（眼育）小・大連接教育，講師，南浜小学校，５年生・教職員，2025.10.9.
3. 目の愛護デー，眼の健康（眼育）小・大連接教育，講師，岡方第二小学校，５・６年生・教職員，2025.10.10.
4. 学校保健講演会，中学・大学連接教育:メディアと眼の健康，講師，魚沼北中学校，生徒・教職員・学校医，2025.9.8.
5. 屈折検査実践研修，視機能の理解と近視予防，講師，鯖江市健康づくり課，保健師・養護教諭，2025.8.6.
6. 視力検査実技講習会，2025年度幼児視力検査実技講習会，講師，こども総合支援研究センター，保育士・看護師，2025.3.19.
7. プラスいきいきDAY講座，眼からウロコの眼のハナシ，講師，鯖江市，一般市民，2025.9.10.
8. 沖永良部島子どもの目の健康講座，屈折検査の必要性，講師，和泊町役場，一般市民，2025.11.17.
9. 新潟市通級指導教室担当者スキルアップ研修（言語），読み書きの支援，講師，新潟市教育委員会，新潟市立学校教諭，新潟市教育相談センター，2025.6.30.
10. 新潟県中越地区通級初任者研修，構音障害の指導，講師，新潟県中越地区公立学校言語・難聴教育研究協議会，十日町市立学校教諭，新潟県立精神医療センター，2025.10.17.
11. 燕市母子健診従事者研修会，３歳児健康診査における言語の対応，講師，燕市母子健診従事者，燕市保健センター，2026.2.26.
12. 令和７年度全特連研修事業，鼻咽腔閉鎖機能不全のある児童の指導，講師，オンライン，2026.3.28.
13. 中学校性教育講座（３校），分水中学校 2025.11.11，燕北中学校 2026.1.15，弥彦中学校 2026.1.23.
14. 村上市ことばとこころの相談室・職員研修会「発達アセスメントと保護者との連携」，講師，村上市，2026.3.2.
15. 新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部・発達支援に関する支援者研修会「自閉スペクトラム症の特徴を知り支援に活かす」，講師，オンライン，2026.2.16.
16. 新潟県村上市幼児の体力向上事業，幼児の体力向上事業報告会，講師，村上市，村上市立保育園保育士・総合型スポーツクラブコーチ，村上市村上市教育情報センター，2025.4.8.
17. 第68回新潟県保育事業研究大会，楽しさが先導する高這い運動環境の構成，講師，新潟県社会福祉協議会・新潟県保育連盟・新潟県私立保育園・認定こども園連盟・新潟県保育士会・新潟市私立保育協会，新潟県保育士，村上市総合文化会館，2025.5.23.
18. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村教育委員会，幼児及び保育士，弥彦保育園，2025.6.11，8.5.（全２回）
19. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村教育委員会，幼児及び保育士，二松保育園，

2025.6.18，8.21.（全２回）

20. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村教育委員会，幼児及び保育士，ひかり保育園，2025.6.20，8.27.（全２回）
21. 新潟県長岡市ながおか元気キッズわくわくサポート運動遊び，体育指導，講師，長岡市教育委員会，幼児及び保育士，長岡市（白山保育園，和島保育園，長岡市立劇場），2025.6.24，9.8，9.11，12.24.（全４回）
22. 新潟県新潟市新潟市幼児の運動遊び促進事業，事業報告会，講師，新潟市スポーツ振興課，保育士，新潟市，2025.8.6.
23. 五泉市と新潟医療福祉大学の包括連携事業，たのしい運動遊び　就学前に知っておきたい運動能力のこと，講師，五泉市教育委員会スポーツ振興課，市民，五泉市総合会館　中ホール，2025.11.9.
24. スペシャルオリンピックス日本コーチクリニック，サッカーコーチクリニック，講師，スペシャルオリンピックス日本，市民，大宮市，2026.2.14.
25. 新潟県村上市幼児の体力向上事業，幼児の体力向上事業報告会，講師，村上市，総合型スポーツクラブコーチ，村上市体育館，2026.3.13.

２）TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，奄美新聞，新潟医療福祉大の教授ら来島 幼児の視機能調査，2025.11.20.
2. 新聞，南海日日新聞，島の子どもの視覚調査，2025.11.22.
3. TV，NCTケーブルTV，燕市と新潟医療福祉大学が協定締結，2025.8.28.
4. TV，NHKニュース610，燕市と新潟医療福祉大　子どもの成長と発達支援で連携協定，2025.8.26.
5. 新聞，新潟日報，こども支援へ連携協定 燕市と新潟医療福祉大学，2025.9.18.
6. 一般雑誌，県央ドット・コム，燕市とこども総合支援研究センターを開設した新潟医療福祉大学と「こどもの成長と発達に関する支援を目的とした連携協定」を県内で初めて締結，2025.8.27.
7. TV，BSN TVゆうなび，にいがたケンジュプロジェクト　コンタクトレンズの正しい着用法，2025.10.9.
8. TV，FBC放送，目の健康　めいくさばえかるた，2025.6.11.
9. 新聞，福井新聞，目の健康 かるたで向上，2025.6.12.
10. 新聞，新潟日報，目の健康楽しく学ぼう　新潟医療福祉大　保育園，子ども園に紙芝居寄贈，2025.6.10.
11. 一般雑誌，メディカコンクール第112回保健師国家試験対策テスト・メディカ出版，2025.8.1出版
12. eラーニング，Nプラス第111回保健師国家試験解説・メディカ出版，2025.7.1出版

３）社会活動への参加協力

1. 北区こども園への紙芝居贈呈式，紙芝居の読み聞かせ，運営，かやま保育園（新潟市），2025.5.21.
2. 視覚障害教育「夏の会」，患者会サポート，運営，新潟市総合福祉会館（新潟市），2025.8.17.
3. めいくさばえカード披露会，カードゲーム実践，学生指導，石田保育所，立待保育所（鯖江市），2025.6.11.
4. 学校健診，視覚健診サポート，学生指導，南浜小学校（新潟市），2025.4.17，4.21.
5. ナビレンス体験会，サポート，運営，小千谷市青少年センター（小千谷市），2025.4.19.
6. 新潟市内こども園の視覚健診，視力・屈折検査，指導，聖ラファエル幼稚園・新潟えきなかこども園・あたごとまとこども園ほか７園（新潟市），2025.4.1-2026.3.31.（期間中22回）
7. 沖永良部幼児視覚健診，視力・屈折検査，指導，和泊こども園ほか８園（和泊町・知名町），2025.11.18，11.19.
8. 清心保育園視覚健診，視力・屈折検査，指導，清心保育園（魚沼市），2025.10.27，12.16.
9. 子どもたちに絵本を贈るネコピンチプロジェクト，製作・販売，運営，葛塚市場・葛塚コミュニティセンター等（新潟市），2025.4.1-2026.3.31.（期間中12回）

10. 村上・新発田・新津・五泉・阿賀野市・阿賀町地域保健所・分娩施設・開業助産師・新潟青陵大学「行政・産科医療機関・開業助産師の連携強化に向けた情報交換会」２回　2025.5.20，12.20.
11. 五泉市こども課，３歳児健診，視覚健診担当およびサポート，五泉市，2025.4.1-2026.3.31.（全12回）
12. 燕市保健センター，３歳児健診，視覚健診サポート，燕市，2025.4.1-2026.3.31.（全24回）
13. 鯖江市教育委員会，就学時視覚健診，指導，鯖江市，2025.8.1-10.30.（全10回）
14. めがねのまちさばえSDGsフェス，眼育活動，指導，鯖江市，2025.9.20-9.21.
15. 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園，運動遊び・体育，講師，園児，新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園，2025.4.1-2026.3.31.（全40回）
16. 福祉事業型専攻科キンゴーカレッジ，フィットネス，講師・監修，キンゴーカレッジ利用者，キンゴーカレッジ，2025.4.1-2026.3.31.（全40回）
17. スペシャルオリンピックス日本・新潟サッカープログラム，サッカープログラム，講師，スペシャルオリンピックス日本・新潟，知的障害者，新潟市，2025.4.1-2026.3.31.（全８回）
18. 社会福祉法人どれみ会 どれみ保育園体育，体育指導，講師，社会福祉法人どれみ福祉会，保育園園児及び保育士，川通りどれみ保育園，2025.4.1-2026.3.31.（全11回）

７．外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2025，基盤研究C，小規模事業所における子育てと仕事の両立支援方策の開発，研究代表者（和田直子）
2. 2025，基盤研究C，妊娠糖尿病妊婦の生活活動量に着眼した運動アプリの開発，研究分担者（和田直子）
3. 2024，研究活動スタート支援，自閉スペクトラム症児の自他の関係性を表す言語表現に関する検討，研究代表者（溝江唯）
4. 2025，若手研究，幼児期後期における自閉スペクトラム症児と養育者の相互交渉：遊びの種類が与える影響，研究代表者（溝江唯）
5. 2024，国際共同研究加速基金（海外連携研究），汎用ゲームを用いた新しい視能訓練法の国際共同研究，研究分担者（多々良俊哉）
6. 2025，基盤研究C，Motion Magnicationの技術を応用した新しい他覚的瞳孔視野計測法の開発，研究分担者（多々良俊哉）
7. 2025，基盤研究B，加齢性斜視の早期発見に向けた眼位検査装置の構築と非観血的矯正用具の開発，研究代表者（多々良俊哉）
8. 2025，基盤研究C，保育者の幼児の転倒時に手がでる動作環境設定の一般化の検証，研究代表者（佐近慎平）
9. 2024，基盤研究C，スイマーが水を捉える瞬間の解明，研究代表者（下門洋文）
10. 2023，基盤研究C，地域の【かかりつけ助産師】創設 ―産官学がつなぐ妊娠期からの子育て支援―，研究分担者（小林正子）
11. 2025，基盤研究C，視覚障害をもつ女性が安心して子どもを産み育てるための支援～ハンドブックの開発～，研究代表者（小林雅子），研究分担者（石井雅子）
12. 2022，基盤研究C，幼稚園から大学まで一貫したデータサイエンスを活用した健康リテラシー教育手法の開発，研究分担者（石井雅子）
13. 2024，基盤研究B，視覚障害を未然に防ぐ眼の健康リテラシーの向上－幼小中高大接続による眼育教育―，研究代表者（石井雅子），研究分担者（西原康行）
14. 2023，基盤研究C，VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化，研究分担者（西原康行）
15. 2023，基盤研究C，体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発，研究代表者（西原康行）

16. 2025，基盤研究C，慢性心不全の急性増悪時に必要な臨床判断能力を育む実写版VR動画の開発，研究分担者（西原康行）
17. 2023，基盤研究C，二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討：鼻腔共鳴の定量評価の確率，研究代表者（大湊麗）
18. 2024年度，一般財団法人 永井知覚科学振興財団：研究助成，研究代表者
19. 2025年度，公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成，高等教育機関における黎明期のレクリエーション教育の理念について，研究代表者
20. 2025年度，公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成，レクリエーション資格取得見込みの学生が運営するスポーツクラブにおいての参加者への影響および学生の教育的効果についての検証，研究分担者

８．その他の活動

・五泉市乳幼児健診（５歳時健診打ち合わせ）2025.11.4，2026.2.18.
・燕市母子保健センターでの視覚発達支援，教育的視機能評価と就学支援（全２回）
・2025年8月26日（火）燕市と新潟医療福祉大学とのこどもの成長と発達支援に関する連携協定締結式
・センターでの視機能評価とビジョントレーニング，相談支援，４名（14件）

③　研究・産学官連携支援部

ア　倫理審査委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

山﨑委員長（HS），芝田委員（PT），吉田（RT），山口（NR），渡辺委員（SW）立石外部委員，高野外部委員，松沼知世，石山ゆかり（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

１）国の研究指針の見直しに対応し，関連規程類の整備および申請書類一式の改訂を実施した.
２）2025年度の申請件数は288件（受付番号19531～19820）だった.
３）2025年度の学外学識経験者について，新潟リハビリテーション病院は高野義隆先生に，新潟県立吉田病院は前年度に引き続き立石学先生に委嘱した.

イ　学術委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

委員長：竹井委員長（EM，委員長），佐宗委員（PT），田中委員（AT），津田委員（AP），吉田委員（RT）増田委員（HN），天賀谷委員（NR），能登委員（OT）渡辺委員（SW），今村委員（ST），瀧口委員（HI），越中委員（HS），松本委員（PS），齋藤委員（CT），野澤（事務局）

②会議開催回数　11回

③審議事項および決定事項等

１）新潟医療福祉学会誌編集内規，学会誌編集フローについて，留意事項の説明を実施.
２）2024年度対象者の学会賞表彰式についての実施報告.
３）セミナー開催に関する各種スケジュールの共有がなされた.
４）第25回新潟医療福祉学会学術集会進捗報告がされた
５）ポスター作成とHP作成．演題募集は7月16日（水）～8月31日（日）を予定.
６）第25回新潟医療福祉学会学術集会の報告がなされた．（総数180名）
７）第26回新潟医療福祉学会学術集会開催日程について，2026年10月25日（土）で承認された.
８）2025年度学会賞選考リストについて，事務局より学会賞の選考スケジュールの説明と各委員へ論文選考の依頼がなされた.

9）2025年度学会賞候補者の選定について（会頭賞・奨励賞）5～6月中に会頭の承認を得て決定することが報告された.

10）学術委員会規程の見直し案についての審議がなされた.

ウ　動物実験委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

田口　徹（PT，委員長），久保亜抄子（AP，副委員長），徳永亮太（PT），太田大樹（PT），花村健次（RT），大浦拓徳（HN），越智元太（HS），坂田省吾（PS），山﨑由美子（PS），平井克之（HI），瀬戸川純一（事務局）

②会議開催回数　12回（メール審議を含む）

③審議事項および決定事項等

1）実験終了予定を過ぎた14件の動物実験計画について終了報告実施を通知し，適切な実験計画の管理を行った.

2）51件の動物実験計画書について審議・再審議し，51件を承認した.

3）2025年度は動物実験実施者による自己点検・評価を58件，実験動物管理者よる自己点検・評価を３件実施し，委員会にて自己点検・評価報告書を作成した.

4）微生物モニタリングについて実験実習棟（G棟）飼養保管施設（マウス・ラット）の４回，第11研究・実習棟（U棟）飼養保管施設（マーモセット・デグー）の１回を実施し，結果が全て陰性であったことを報告した.

5）動物実験に関する情報公開を大学ホームページに掲載した.

6）動物実験計画書の申請について動物実験実施者からの提出締切日を設定することを審議し，承認した.

7）動物実験実施者（教員，大学院生および学生）196名を対象に，2025年度動物実験教育訓練について検討し，実施した.

8）G棟401，403号室前室の白衣を撤去した.

9）公私立大学実験動物施設協議会主催2025年度（令和７年）教育・研修委員会主催研修会「実験動物管理者の教育訓練」（北海道札幌市）へ田口委員長と坂田委員が参加した.

10）公益社団法人日本実験動物学会による「動物実験に関する外部検証」を2025年11月18日，19日に実施した.

11）使用保管施設における温・湿度計を導入した.

12）動物実験委員会が管理するオートクレーブ２台の年次自己点検を実施した.

13）G棟の飼養保管施設および実験室の拡充・環境整備計画について

14）外部検証後の本学での環境改善について

15）動物飼養施設設備異常（過加湿）発生について

16）2025年度（第15回）実験動物慰霊祭について検討し，2025年12月11日（木）に執り行った. 動物実験に関わる教職員，大学院生および学生72名が参加した.

エ　遺伝子組換え実験安全委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

齋藤　憲（CT，委員長），久保亜抄子（AP，副委員長），田口　徹・小曽根海知（PT），田村典子（HN），瀬戸川純一（事務局）

②会議開催回数　４回（メール審議を含む）

③審議事項および決定事項等

１）２件の遺伝子組換え実験計画書について審議し，５件を承認した.

２）２件の遺伝子組換え実験室設置について審議し，１件を承認した.

３）学内オートクレーブの年次自主点検を実施した.
４）実験計画書の提出締切日について審議し，承認した.

オ　利益相反マネジメント委員会
①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）
児玉直樹（RT，委員長），大西秀明（PT），椿　淳裕（PT），江玉睦明（PT），山代幸哉（HS），
瀬戸川純一（事務局）
②会議開催回数　０回
③審議事項および決定事項等
１）利益相反自己申告書の提出を求めた

カ　知的財産委員会
①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）
児玉直樹（RT，委員長），大西秀明（PT），椿　淳裕（PT），江玉睦明（PT），山代幸哉（HS），
瀬戸川純一（事務局）
②会議開催回数　０回
③審議事項および決定事項等
職務発明届出無しの為，開催されなかった.

キ　化学物質管理委員会
①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）
中山憲司（CT，委員長），花村健次（RT，副委員長），小曽根海知（PT），畔上公子（CT），
前田　雄（AT），青木　海（HS），佐藤晶子（HS），久保亜抄子（AP），山﨑由美子（PS），
野口正信（事務局），瀬戸川純一（事務局），谷川奈々（AT，オブザーバー）
②会議開催回数12回
③審議事項および決定事項等
１）NPO法人 教育研究機関化学物質管理ネットワークへの加入，理事長の木下知己先生の特別講義を実施.
２）学生を対象とする「化学物質取扱講義」の実施
３）化学物質管理強調月間に伴う化学物質の学内巡視の実施
４）職場環境測定を実施
５）実験室のセキュリティ対策として，薬品保管庫の鍵の管理としてキーボックスを取り付けるか審議された
６）2025年度教職員向け化学物質取扱講習会の実施
７）対象者の保護具着用管理責任者講習会受講
８）G棟314室のダクトレスヒュームﾌｰﾄﾞの新潟労働基準監督署への申請の実施
９）L棟２階，G棟３階，G棟１階の少量危険物貯蔵取扱届出の新潟市への提出
10）化学物資地に関するリスクアセスメントの実施
11）化学物質システムの「リプルア」から「YAKUMO2」への移行について審議
12）向精神薬および麻薬の取扱いについて調査および審議
13）化学物質の全学統一廃液処理について審議された

ク　URA推進委員会
①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）
江玉睦明（PT，委員長），平井克之（HI），藤井　豊（CT），山代幸哉（HS），佐藤郁美（NR），

瀬戸川純一（事務局），大竹　宏（事務局）

②会議開催回数　10回

③審議事項および決定事項等

１）令和７年度新潟医療福祉大学・新潟食料農業大学共催SD「URAの仕組みづくりと研究マネジメント人材養成」の実施

２）2025年度の委員会ミッションについて

３）ケン活Caféの実施（年６回）

４）RA協議会（熊本県）への参加

④　大学院教育研究支援部

ア　大学院教務委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

犬飼康人（PT，委員長），木下直彦（HI，副委員長），北谷亮輔（PT），今西里佳（OT），原　修一（ST），
阿部　薫（AT），髙橋良光（CT），増田　修（CO），大松健太郎（EM），関本道治（RT），
佐宗亜依子（PA），森　博康（HN），三瀬貴生（HS），山口久美子（NR），大屋未貴（SW），
吉田俊雄・五十嵐香（事務局）

②会議開催回数　12回（うち２回メール審議）

③審議事項および決定事項等

１）9月修了および3月修了者の論文審査スケジュールおよび開催方法について審議し，承認した.

２）学位論文審査会アンケートの見直しについて審議し，承認した.

３）研究報告会および論文中間発表会の開催要領について審議し，承認した.

４）修士課程における特定課題の学位論文審査基準について審議し，承認した.

５）大学院における修了認定および学位授与の手続きについて審議し，承認した.

６）「iThenticate」の利用義務化に伴う学位申請手続きについて審議し，承認した.

７）研究指導計画および研究指導方法の公表について審議し，承認した.

８）大学院生による他課程科目履修制度について審議し，承認した.

９）大学院授業振り返りの実施におけるフォロー体制について審議し，承認した.

10）2027年度修士課程鍼灸健康学分野の新規設置カリキュラムについて審議し，承認した.

11）2026年度修士課程健康スポーツ学分野の専門科目新規設置について審議し，承認した.

12）2026年度修士課程健康学専攻看護学分野のカリキュラム変更について審議し，承認した.

13）2026年度博士後期課程のNQSAP科目のカリキュラム変更について審議し，承認した.

14）カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーの改訂について審議し，承認した.

15）大学院進学ガイドラインおよび論文作成マニュアルの改訂について審議し，承認した.

16）オフィスアワーを学生に示す文書の公表について審議し，承認した.

17）大学院のシラバス内容の点検体制について審議し，承認した.

18）2026年度研究生募集概要について審議し，承認した.

19）2026年度科目ナンバリングについて審議し，承認した.

20）大学院学則および学位規程の改定案を審議し，承認した.

21）大学院学位授与に関する規程案を審議し，承認した.

22）大学院修了認定に関する規程の改定案を審議し，承認した.

23）単位取得後退学の取扱いに関する規程の改定案を審議し，承認した.

④特記事項

１）学位申請論文等における「iThenticate」の利用に関する方針を制定した.

２）大学院生による他課程科目履修制度を新設した.

イ　大学院教育研究環境委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

山代幸哉（HS，委員長），江玉睦明（PT，副委員長），村山　稔（AT），杉本　洋（NR），福田敏秀（SW），平井克之（HI），風間篤史・吉田俊雄・田中伶奈（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

1）大学院教育研究環境委員会副委員長を選出し，承認した.

2）在学生・修了生調査の結果と分析について審議した.

3）学びに関する調査の結果と分析について審議した.

4）学籍異動対策について審議した.

5）キャリア支援の方針・計画について審議し，承認した.

6）学生生活支援の計画について審議し，承認した.

7）中期目標について審議し，承認した.

8）学生の声を生かした大学運営に関する改善計画書／改善結果報告書について審議し，承認した.

9）将来計画アクションプランについて，審議した.

10）博士取得率および〇合教員数について，審議した.

④特記事項

1）学修・学生生活調査を実施した.

2）学生との意見交換会を実施した.

3）大学院FDを実施した.

4）TA・RAのFDおよび大学院生のキャリア支援セミナーを実施した.

5）新入生アンケート，学修・学生生活調査，修了生・在学生アンケートを実施した.

（4）社会連携・同窓会推進機構委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

西原康行（HS，委員長），佐藤成登志（AT，社会連携推進部長），瀬戸川純一（事務局），佐々木俊太郎（事務局），比企美穂（事務局），山際美優（事務局），大野　恵（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

1）社会連携推進センター運営委員会の統括管理

2）ボランティアセンター運営委員会の統括管理

3）同窓会支援センター運営委員会の統括管理

4）私立大学改革総合支援事業タイプ３維持のための評価

5）島見自治会と本学の連携に関する検討

6）新潟市北区との連携強化に向けた実務者会議の定期実施

7）ラグーナスクエアの管理運営について

8）2026年度向け北区連携事業企画について

9）学外関係者および保護者の意見集約会議に関する申し合わせとシステム図の策定，実施

10）社会連携推進センター規程の改訂について

11）ボランティアセンター規程の改訂について

12）燕市との個別連携協定締結について

13）にいがた市民大学，2026年度担当講座準備

14）スポーツ庁委託契約について

15）将来計画（中期計画）ドメイン５策定について

16）同窓会による既卒性への大学院進学支援制度について

17）その他　自治体及び地域との連携についての対応

① 社会連携推進部

ア 社会連携推進センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

佐藤成登志（AT，社会連携推進部長），石井雅子（社会連携・同窓会推進機構，委員長），井上達朗（PT），能登真一（OT），吉岡　豊（ST），村越祐介（AP），横山　貴（CT，副委員長），辻　拓海（CO），五十嵐淳一（EM），石風呂実（RT），納富智子（HN），熊崎　昌（HS），野中共子（NR），渡邉恵司（SW，副委員長），栗井英大（HI），松本京介（PS），瀬戸川純一（事務局）佐々木俊太郎（事務局），比企美穂（事務局），大野　恵（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項等

1）2025年度の体制について

2）学外団体との連携について

3）オンラインセミナーの刷新と情報発信強化

4）大学公開講座の実施

5）「健康長寿学」講座の継続と計画策定

6）北区連携事業「未来のまちづくり事業」～心も体も健幸プロジェクト～の継続実施

7）FD・SD企画による学生の学びの共有

8）2026年度にいがた市民大学講座実施準備について

9）新潟市主催　介護・医療・福祉フェアへの参加について

10）新潟県立証がk学習推進センター主催　学びピアTOYANOへの参加について

11）社会連携活動WEB掲載方法およびガイドラインの策定について

② 同窓会・生涯学習推進部

イ ボランティアセンター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

佐近慎平（社会連携・同窓会推進機構，委員長），東江由起夫（AT，副委員長），渡邉恵司（SW）
佐々木俊太郎（社会連携支援コーディネーター，事務局），比企美穂（事務局），山際美優（事務局）
中川達貴（オブザーバー）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項

1）ボランティアセンター運営委員会副委員長を選出して，承認した.

2）ボランティアセンター運営員会の構成メンバーを選出して，承認した.

3）ボランティアネットワークの効率的な活用について協議された.

4）ボランティアセンター学生委員会規程を整備した.

5）ボランティアセンター学生委員について推薦され，承認された.

6）ボランティア活動について，無断欠席や体調不良等の不測の事態に対する対応について協議した.

7）強化指定クラブ学生のボランティア活動を社会連携実践演習で認定することが承認された.

8）謝礼や交通費等が支給される有償ボランティアの取扱いについて審議された.

9）ボランティアセンター年次報告書の作成様式について審議され，承認された

10）学生表彰候補者（社会貢献活動）について検討して，推薦した.

11）ボランティア活動報告書の発行機能をボランティアネットワークに実装することが審議され，承認された.

③　同窓会・生涯学習推進部

ウ　同窓会・生涯学修連携推進委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

西原康行（HS，委員長），横田裕丈（PT），本間健太（OT），大湊　麗（ST），郷　貴博（AT），津田篤太郎（AP），戸澤祐貴（CT），辻　拓海（CO），安達哲浩（EM），佐々木啓（RT），星野芙美（HN），鵜瀬亮一（HS），荒木恵子（NR），荒川大靖（SW），橋本照男（PS），髙野晃輔（HI），佐々木俊太郎・山際美優（事務局）

②会議開催回数　12回

③審議事項および決定事項

1）同窓会・生涯学修の推進に関する使命（ミッション）および同窓会ネットワークを構築するための具体的方策について検討した.

2）同窓会委員およびサポーター協力のもと，同窓会員を対象としたメールマガジンを作成し，配信した.

3）同窓会本部の活動および事業について情報共有を行った.

4）2025年度の同窓会サポーターについて確認された.

5）同窓会公式LINEを継続して運用し，同窓会の知名度向上に努めた.

6）同窓会の認知度を確認する為，在学生に対するアンケートを２度実施した．アンケート結果をもとに今後の運営について検討を行った.

7）在学生支援事業として，総務課および学生食堂と連携を図り，「つなでちゃんランチ」を実施した.

8）連携総合ゼミへ同窓生を派遣し，各テーマに即したアドバイスを行うことで在学生支援に努めた.

9）同窓会誌「tete」を発刊し，同窓生との関係維持を図った.

10）同窓会委員によって，今年度卒業生の中から同窓会新役員を選出し，決定した.

（5）アスレティックデパートメント推進機構運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

西原康行（副学長，機構長），佐藤敏郎（HS学科長），山本悦司（HS，アスレティックデパートメント推進部長），南　俊之・梨本理沙・中川達貴（スポーツ振興室）

②会議開催回数　12回

③審議事項及び承認事項等

1）強化指定クラブスカウティング目標値について審議し，承認した.

2）2025年度強化指定クラブの体制について審議し，承認した.

3）強化指定クラブ運営調査の実施について審議し，承認した.

4）強化指定クラブスポンサー契約に関する学内規程の制定について審議し，承認した.

5）エンジョイスポーツin北区2025の学内実施について審議し，承認した.

6）UNIVAS AWARDS 2025-2026に７部門で応募することについて審議し，承認した.

7）強化指定クラブのキャリア研修・コンプライアンス研修・リーダーズミーティングの内容について審議し，承認した.

8）NUHWアカデミーの実施内容について審議し，承認した.

9）女性アスリートセミナーの実施内容について審議し，承認した.

10）2026年度の強化指定クラブ体制について審議し，承認した.

11）スポーツ特待生の確定について審議し，承認した.

12）次年度のAD体制について審議し，承認した.

④特記事項

1）10月19日（日）にスポーツイベント「NUHWスポーツフェスタ」を実施し，保護者・子ども約570名が参加したことを報告した.

２）UNIVAS AWARDS 2025-2026において，４部門で優秀賞を受賞したことを報告した.

① 強化指定クラブ運営部

ア 強化指定クラブ運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

西原康行（HS学科長，委員長），下山好充（HS，水泳部監督），小林志郎（HS，陸上競技部監督），佐熊裕和（HS，男子サッカー部監督），大友麻衣子（女子サッカー部監督），堀　里也（HS，男子バスケットボール部監督），小林真里奈（HS，女子バスケットボール部監督），西　博史（HS，女子バレーボール部監督），鵜瀬亮一（HS，硬式野球部監督），池田恵子（HS，ダンス部監督），中野茂和（卓球部監督），久保　晃（HS，男子バレーボール部監督），西海幸頼（スポーツ振興室，テニス部監督），後藤桂太（HS，女子硬式野球部監督），山崎　聡（スノーボード部監督），角田真優（エンターテイメントダンス部監督），南　俊之・梨本梨沙・中川達貴（スポーツ振興室）

②会議開催回数　４回

③審議事項及び決定事項等

１）強化指定クラブの新体制について説明した.

２）2025年度強化指定クラブのスカウティング方針について報告した.

３）2024年度総括・2025年度目標，各部の取組等について共有した.

４）2024年度監査に係る部費の提出書類について確認を行い，共有した.

５）各強化指定クラブの全体イベントや研修の実施計画について共有した.

６）学生の個人情報の取り扱いについて注意事項を共有した.

７）10月19日（日）の「NUHWスポーツフェスタ」に向け，各クラブから参加学生の募集を依頼した.

８）強化指定クラブ全体のコンプライアンス遵守に向けた注意事項を共有した.

② アスレティックデパートメント推進部

ア アスレティックデパートメント推進委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

山本悦司（HS，委員長），奈良梨央（HS，人材育成部長），西　博史（HS，マーケティング部長），南　俊之（スポーツ振興室，競技力強化部長），梨本理沙（スポーツ振興室，広報部長），中川達貴（スポーツ振興室）

②会議開催回数　12回

③審議事項及び決定事項等

１）競技力強化部においてスカウティング方針を変更したことを報告した.

２）競技力強化部において2025年４月にエンターテイメントダンス部を新たな強化指定クラブとして設置することを報告した.

３）競技力強化部において強化指定クラブ学生を対象とした附属鍼灸センター利用サービスの活用状況を報告した.

４）競技力強化部においてトレーナー学生を対象とした臨時コンプライアンス研修を実施した.

５）人材育成部においてUNIVAS AWARDS2025－2026に推薦する学内候補者選考を実施した.

６）人材育成部において強化指定クラブ１年生対象のセミナーを実施した.

７）人材育成部において就職活動スタートダッシュセミナーを実施した.

８）マーケティング部においてNUHWスポーツフェスタを実施した.

９）マーケティング部においてスポンサー獲得戦略を検討した.

10）マーケティング部においてラグーナスクエアでクリスマスイベントを実施した.

11）広報部において各強化指定クラブの広報担当者を対象としたSNSマーケティング戦略セミナー

を実施したことを報告した.

12）広報部においてアスリートサポートシステムPR動画を作成した.

6．大学情報の公開と広報

1）公開講座等

同行援護従業者養成講座を9月3日～8日の5日間の日程で実施

2）広報活動

（1）オープンキャンパス・個別相談会の実施

・来場型オープンキャンパス　6回開催

（2）各種広報物の作成

・大学案内パンフレット
・入試関連（入試ガイド，入試問題集，入試リーフレット等）
・職業＆資格ガイドBOOK
・高大医連携プログラム冊子
・強化指定クラブ冊子
・キャンパスライフ冊子
・大学広報誌（QOLサポーター新潟）

（3）ホームページ・SNSの管理・運営

・学部学科情報，強化指定クラブ情報，オープンキャンパス等の大学情報の発信
・アドミッションポリシー，入学者選抜試験概要等の入試情報の発信
・教育研究上の目的，授業科目等の教育情報公開に係る情報発信
・大学トピックス＆ニュース掲載
・公式SNS（Instagram，Facebook，X，TikTok，YouTube，LINE）による情報発信
・ブログ（学科・強化指定クラブ）による情報発信
・WEB広告出稿（Google，Yahoo，Instagram，Facebook，TikTok，YouTube，LINE）

（4）メディア広報

・パブリシティー掲載（TV，新聞等）　4,170件掲載

（5）進路相談会等への参加

・会場ガイダンス　　138件
・高校内ガイダンス　　280件
・高校出張講義　　52件
・大学見学　　26件

（6）高校教諭対象説明会の実施

・WEB型　2回開催，参加34校35名

（7）その他

・高校訪問活動

7．研究活動

1）学長

氏名：西澤　正豊

1　研究題目　神経難病・認知症の地域包括支援，医療福祉職の連携教育

2　論文

1. Nakajima A, Hokari M, Yanagimura F, Saji E, Shimizu H, Toyoshima Y, Yanagawa K, Arakawa M, Yokoseki A, Wakasugi T, Okamoto K, Watanabe K, Minato K, Otsu Y, Nozawa Y, Kobayashi D, Sanpei K, Kikuchi H, Hirohata S, Awamori K, Nawata A, Yamada M, Takahashi H, Nishizawa M, Igarashi H, Sato N, Kakita A, Onodera O, Kawachi I: Long-term clinical landscapes of spinal hypertrophic pachymeningitis with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. Neurology. 2025 Apr 22; 104(8): e213420. doi: 10.1212/WNL.0000000000213420. PMID: 40106756（査読あり）

3　学会活動

1) 所属学会　日本神経学会（名誉会員，専門医，指導医），内科学会（名誉会員，認定内科医，指導医），神経免疫学会（名誉会員），小脳学会（名誉会員），認知症学会（代議員，指導医），神経化学学会（功労会員），神経感染症学会（功労会員），日本難病ネットワーク学会（顧問），日本難病センター研究会（会長），新潟医療福祉学会（会頭），American Academy of Neurology（Active Corresponding Member）

2) 学会等でのその他の活動

1. 第25回新潟医療福祉学会学術集会，特別講演「大学における危機管理」，新潟市，2025.10.25.

4　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 食の新潟国際賞財団，令和７年度評議員
2. 新潟県健康立県ヘルスプロモーションプロジェクト推進会議，令和７年度委員

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟市難病対策地域協議会（会長），新潟県難病医療連絡協議会（会長）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

NPO法人新潟難病医療ネットワーク（理事長），日本多発性硬化症協会（顧問），日本脊髄小脳変性症・多系統萎縮症友の会（顧問）

5　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医学部，医学入門2025「新潟水俣病の60年」，2026.2.9.

6　学内委員会活動　総務会（議長），大学院委員会，合同教授会，大学院研究科委員会，危機管理対策委員会（委員長），内部質保証推進委員会（委員長）

2）リハビリテーション学部

（1）理学療法学科

氏名：大西　秀明

1　研究題目　知覚学習・運動学習に関する研究

2　論文

1. Takahashi H, Inukai Y, Nagasaka K, Miyaguchi S, Sakurai N, Kodama N, Otsuru N, Onishi H. Effect of transcranial direct current stimulation targeting brain regions identified through voxel-based morphometry on one-legged standing balance with eyes closed. Brain and Behavior. 2025.16(4) (doi: 10.1002/brb3.71425.) Accept; 2026.2.25.（査読あり）
2. Watanabe R, Kitatani R, Amano A, Sorimachi R, Onishi H. Effects of cerebellar transcranial alternating current stimulation at frequencies surrounding the gait cycle frequency on spatiotemporal gait parameters. The Cerebellum. 2026; 25.37. (doi; 10.1007/s12311-026-01985-5) Accept; 2026.3.16.（査読あり）
3. Maruyama Y, Shibata S, Kojima S, Mima T, Onishi H. Peripheral nerve stimulation synchronized with brain stimulation facilitates somatosensory function. Clinical Neurophysiology. 2026; 184. 2111693. (doi:10.1016/j.clinph.2026.2111693) Accept: 2026.1.31.（査読あり）
4. Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Iimuro K, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Emotional neglect in childhood modulated aperiodic offset in left pars orbitalis in adulthood. Frontiers in Neuroscience. 2026; (doi; 10.3389/fnins.2025.1719462) Accept; 2025.12.22.（査読あり）
5. Kojima S, Tanabe K, Todoroki M, Onishi H. Effects of Anodal Transcranial Direct Current Stimulation Over the Right Posterior Parietal Cortex on Simon Task and Flanker Task Performance. Brain Research. 2026; 150100. (doi: 10.1016/j.brainres.2025.150100) Accept; 2025.12.4.（査読あり）
6. Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Frequency-specific modulations of oscillatory neural drives to lower leg muscles during gait with aiding and impeding horizontal forces. Journal of Electromyography and Kinesiology. 2026; 86, 103098. (doi; 10.1016/j.jelekin.2025.103098) Accept; 2025.11.30.（査読あり）
7. Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Beta to low-gamma rhythmic brain stimulation over primary motor cortex and supplementary motor area differentially modulates oscillatory neural drives during gait. Experimental Brain Research. 2025; 243, 11, 233 (doi; 10.1007/s00221-025-07172-y) Accept; 2025.9.22.（査読あり）
8. Miyaguchi S, Inukai Y, Igarashi K, Yamamoto S, Otsuru N, Onishi H. Slow-oscillatory transcranial alternating current stimulation over the primary motor cortex improves motor skill acquisition. European Journal of Neuroscience. 2025; 62, 6. (doi; 10.1111/ejn.70269). Accept; 2025.9.14.（査読あり）
9. Miyaguchi S, Inukai Y, Muroi M, Yamamoto S, Onishi H. Effects of cerebellar tACS with gamma band on basketball shooting skills: a single-blind, randomized controlled trial in college students with basketball experience. Brain and Behavior. 2025; 15, 10. (doi; 10.1002/brb3.70943). Accept; 2025.9.13.（査読あり）
10. Tanabe K, Kojima S, Saito K, Onishi H. Active Touch Intervention using a Rough Texture Enhances Corticospinal Excitability. Brain and Behavior. 2025; 15(9): e70837. (doi.org/10.1002/brb3.70837). Accept; 2025.9.9.（査読あり）
11. Inoue S, Otsuru N, Hara M, Ikarashi H, Iimuro K, Onishi H. VR-induced interoceptive feedback may impact tactile priority in individuals with low interoceptive awareness. Virtual Reality. 2025; 29, 139. (doi: 10.1007/s10055-025-01219-9). Accept; 2025.8.13.（査読あり）
12. Watanabe H, Kojima S, Otsuru N, Onishi H. Effects of repetitive mechanical tactile stimulation interventions with stationary and moving patterns on paired-pulse depression. BMC Neuroscience.

2025; 26, 1, 46. (doi: 10.1186/s12868-025-00960-w.). Accept; 2025.7.26.（査読あり）

13. Hoshi H, Shibata S, Mima T, Onishi H. Triple Transcranial Static Magnetic Field Stimulation System ("SHIN jiba") Modulates the Neural Activity of the Lumbar Spinal Cord: A Cross-over and Single-Blind Study in Healthy Subjects. Neuromodulation. 2025; 15: S1094-7159(25)00150-3. (doi: 10.1016/j.neurom.2025.04.006.). Accept; 2025.4.10.（査読あり）
14. Saito K, Otsuru N, Tateishi K, Kurebayashi R, Onishi H. Differential Modulation of the Cortical Alpha Rhythm and Activation of Distinct Neural Networks during Tactile Perception Training by Learners and Non-learners. Frontiers in Neuroscience. 2025; 19. 1566615. (doi: 10.3389/fnins.2025.1566615). Accept; 2025.4.22.（査読あり）
15. Hiraga T, Saito K, Kojima S, Onishi H. Effect of transcranial direct current stimulation over the posterior parietal cortex on tactile spatial discrimination. Experimental Brain Research. 2025; 243, 5, 125. (doi: 10.1007/s00221-025-07081-0). Accept; 2025.4.7.（査読あり）
16. Ogawa Y, Nagasaka K, Ishii D, Nagao A, Ikarashi H, Otsuru N, Onishi H. Enhanced flavoprotein autofluorescence imaging in rats using a combination of thin skull window and skull-clearing reagents. Neuroscience letters. 2025; 856-858, 138239. (doi; 10.1016/j.neulet.2025.138239). Accept; 2025.4.11.（査読あり）

3　報告書

1. 大西秀明．小脳の構造・機能・ネットワーク解析による「研ぎ澄まされた感覚」の可視化，挑戦的研究（開拓），研究成果報告書（2025.6.3），2020～2024年度，研究代表：大西秀明

4　学会等研究発表

1. Takahashi H, Inukai Y, Nagasaka K, Miyaguchi S, Sakurai N, Kodama N, Otsuru N, Onishi H. Functional Connectivity between the Motor Cortex and Cerebellum in balance function. The 4th International convention in the field of Rehabilitation Sciences Convention 2025 (Philippines), 2025.5.2-5.3.
2. Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Influences of impeding horizontal force around the center of mass on common neural drives to ankle muscles during gait. World Physiotherapy Congress 2025 (Tokyo), 2025.5.29-5.31.
3. 長尾彩音，長坂和明，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Distinct cortical responses to dorsal and ventral retrosplenial cortex stimulation: a wide-field imaging study. 第48回日本神経科学学会（新潟市），2025.7.24-7.27.
4. 小川有生人，長坂和明，長尾彩音，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-dependent brain activity changes in a rat model of central post-stroke pain. 第48回日本神経科学学会（新潟市），2025.7.24-7.27.
5. 安達航希，長坂和明，長尾彩音，小川有生人，鈴木孝昇，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-specific inhibition of somatosensory responses by ventral tegmental area activation. 第48回日本神経科学学会（新潟市），2025.7.24-7.27.
6. 渡辺佳音，長坂和明，安達航希，長尾彩音，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．The role of the basolateral amygdala in the onset of central post-stroke pain. 第48回日本神経科学学会（新潟市），2025.7.24-7.27.
7. 奥田幸花，北谷亮輔，星歩夢，村山稔，大西秀明．短下肢装具とその種類が身体重心に対する牽引歩行中の推進力に与える影響．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8-11.9.
8. 宮口翔太，犬飼康人，五十嵐貫太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野に対する徐波帯域の経頭蓋交流電流刺激が運動スキルの獲得に与える効果．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.31-11.1.
9. 北谷亮輔，天野明音，渡辺莉茉，大鶴直史，芝田純也，大西秀明．歩行中の一次運動野に対する経頭蓋交

流電気刺激による歩行の時空間的指標への影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.

10. 齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．触覚方位弁別能力を評価するための至適条件の検討．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
11. 関根悠介，齊藤慧，平賀大河，小島翔，大西秀明．低頻度末梢電気刺激が触覚機能と脳律動にもたらす効果．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
12. 山﨑恭平，齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．一次体性感覚野へのtDCSにおいて電極配置の違いが触覚機能に与える影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
13. 中川あやめ，齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．触覚における知覚学習の課題特異性に関する検討．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
14. 小島翔，長坂和明，齊藤慧，大鶴直史，田邊かこ，櫻井典子，児玉直樹，原正之，大西秀明．アスリートと非アスリートに対する擦刺激が脳活動に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
15. 渡邊愼之介，小島翔，齊藤慧，田邊かこ，齋藤大河，大西秀明．下肢を用いた運動覚制御課題の成績と脳灰白質容積との関連．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
16. 田邊かこ，小島翔，齊藤慧，大西秀明．異なる刺激周波数を用いた経皮的耳介迷走神経刺激が手指の体性感覚機能に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
17. 髙橋ひろな，犬飼康人，長坂和明，宮口翔太，櫻井典子，児玉直樹，大鶴直史，大西秀明．若年健常者における閉眼片脚立位バランスと機能的結合との関連安静時の機能的結合解析を用いた検討．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
18. 武田真桜，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，廣瀬貴喜，宮口翔太，齊藤慧，大鶴直史，大西秀明．足底への高頻度反復感覚刺激が動的バランス制御に与える刺激効果の検証．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
19. 廣瀬貴喜，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．バランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の持続性の検証．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
20. 志田光紀，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，武田真桜，廣瀬貴喜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野へのtRNSの刺激実施時期がバランススキルの獲得に与える影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
21. 渡邉華南，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，廣瀬貴喜，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野および小脳に対する経頭蓋交流電流刺激がバランススキルの獲得に与える効果．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
22. 星春輝，芝田純也，美馬達也，大西秀明．右一次運動野への経頭蓋静磁場刺激が磁石直下の脳血流動態に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.31-11.1.
23. 反町瑠菜，北谷亮輔，渡辺莉茉，天野明音，大西秀明．運動前野と補足運動野への経頭蓋交流電気刺激の歩行周期時間に近似した刺激周波数が歩行の時空間的指標に与える影響．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.
24. 渡辺莉茉，北谷亮輔，天野明音，反町瑠菜，大西秀明．小脳に対する経頭蓋交流電気刺激の歩行周期時間に近似した刺激周波数の違いによる歩行の時空間的指標の変化．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.
25. 星春輝，芝田純也，美馬達也，大西秀明．一次運動野または補足運動野への超低周波経頭蓋交流電気刺激がGo/NoGo課題中の上肢運動応答に及ぼす位相特異的効果．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.
26. 齋藤大河，小島翔，齊藤慧，田邊かこ，大西秀明．一次体性感覚野に対する高精細経頭蓋直流電流刺激が運動機能および短潜時求心性抑制に及ぼす影響．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），

2025.11.13-11.15.

27. 髙橋ひろな，犬飼康人，長坂和明，宮口翔太，櫻井典子，児玉直樹，大鶴直史，大西秀明．前庭ノイズ電流刺激が閉眼立位バランスに与える影響と効果の個人差に関連する安静時機能的結合の同定．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.
28. 五十嵐眸実，大鶴直史，佐藤萌愛，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．冷刺激に対する自律神経応答と内因性疼痛抑制の関連．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.
29. 市川颯太，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．小脳への経頭蓋直流電流刺激による痛覚閾値の変化．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.
30. 中村歩睦，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．島皮質を標的とした時間干渉刺激が心拍変動に与える影響．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.
31. 瀬尾歩，長坂和明，長尾彩音，市村優真，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．心周期が一次運動野の興奮性に与える影響．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.

5　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会（理事），全国大学理学療法学教育学会（理事長），日本基礎理学療法学会（副理事長），日本臨床神経生理学会（代議員），日本生体磁気学会（評議員），日本末梢磁気刺激研究会（理事），日本リハビリテーション医学会，日本体力医学会，新潟医療福祉学会新潟県理学療法士会，新潟スポーツ傷害フォーラム（幹事）

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本基礎理学療法学会（協力学術団体）．理学療法と非侵襲的脳刺激に関する委員会・委員（活動期間：2025.4.1-2026.3.31）
2. 「理学療法学教育」査読員（活動期間：2025.4.1-2026.3.31）
3. 「理学療法学」査読員（活動期間：2025.4.1-2026.3.31）

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度日本理学療法士教員協議会，主催（企画・運営，報告書作成）．2026.3.20-3.21.（東京）（活動期間：2025.9-2026.3.31）
2. 日本理学療法士協会４年制大学化推進部会　シンポジウム・講師「理学療法士養成教育の４年制大学一本化に向けて」2026.3.8（オンライン開催）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，マルチモーダル脳イメージングによる側頭頭頂接合部の特徴解明と知覚学習への応用，基盤研究（B），代表
2. 2025年度，脳深部に存在する島皮質への非侵襲的な刺激実現と慢性疼痛患者への応用戦略，基盤研究（B），分担（代表：大鶴直史）
3. 2025年度，動的な触圧覚刺激に伴う皮質応答の特徴と介入効果の背景にある神経基盤の解明，基盤研究（C），分担（代表：小島翔）
4. 2025年度，脳を準備させる-運動開始前の脳活動を標的とした新規リハビリテーション戦略の創出-，基盤研究（C），分担（代表：星春輝）
5. 2024年度，運動記憶を忘却する神経基盤の解明－忘却が誘う運動学習イノベーション－，基盤研究（B），分担（代表：佐藤大輔）
6. 2024年度，低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明，基盤研究（B），分担（代表：椿淳裕）
7. 2024年度，非侵襲ヒト静磁場刺激の創生，基盤研究（B），分担（代表：芝田純也）
8. 2024年度，脳卒中後疼痛の発症を予測する神経活動バイオマーカーの確立と新たな治療戦略の創出，基盤研究（B），分担（代表：長坂和明）

9. 2024年度，皮質脊髄路と皮質網様体路の選択的刺激による歩行併用型脳刺激法の開発と検証，基盤研究（C），分担（代表：北谷亮輔）
10. 2023年度，知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出，基盤研究（C），分担（代表：斎藤慧）
11. 2023年度，動的バランス機能を向上させるニューロモデュレーション技術の開発，基盤研究（C），分担（代表：犬飼康人）
12. 2023年度，支援機器の開発・普及のためのモデル拠点構築に資する研究，厚労省 行政推進調査事業費，分担（代表：亀山仁彦）

8 学内委員会活動　研究・産官学連携推進機構（機構長），将来計画機構（機構長），内部質保証推進委員会（委員），大学院内部質保証委員会（副委員長），外部評価準備委員会（委員），利益相反マネジメント委員会（委員），知的財産委員会（委員），危機管理対策委員会（委員），運動機能医科学研究所（所員，運営委員）

氏名：椿　淳裕

1 研究題目　運動時の脳活動と循環反応に関する研究，大脳皮質の微小循環の非侵襲的測定，急性期のリスク管理

2 論文

1. Tsubaki A, Kojima S, Tamiya H, Morishita S, Samejima S, Iwata K. Uncontrolled hypotension and multichannel cerebral hemodynamic changes in a young male participant: a case report. Adv Exp Med Biol. 2026; 1498: 237-241. (review)
2. Takahashi T, Iwata K, Yamada K, Maekawa Y, Inagaki Y, Takahara N, Hirai T, Sasaki Y, Kohara N, Tsubaki A. Prefrontal Cortex Oxygenation Dynamics during Walking in Patients with Acute Stroke. Adv Exp Med Biol. 2026; 1498: 219-224. (review)
3. Imai R, Tsubaki A, Abe T, Yamaguchi S. Patients admitted to the ICU who cannot be mobilized for the first time within 72 hours have low regional cerebral oxygen saturation. Adv Exp Med Biol. 2026; 1498: 249-255. (review)
4. Tokuda S, Kojima H, Baba H, Tamiya H, Tsubaki A. Dynamic Changes in Cerebral Oxygenation and Arterial Pressure During Repeated Rapid Hypotension. Adv Exp Med Biol. 2026; 1498: 243-248. (review)
5. Takahashi T, Iwata K, Maekawa Y, Yamada K, Takahara N, Kohara N, Tsubaki A. Comparison of Prefrontal Cortex Oxygenation during Walking between Individuals with Mild Acute Stroke and Healthy Controls. Adv Exp Med Biol. in press. (review)
6. Imai R, Tsubaki A, Abe T, Yamaguchi S. Comparison of cerebral oxygenation dynamics in septic ICU patients with and without early mobilisation. Adv Exp Med Biol. in press. (review)
7. Ishii Y, Takahashi Y, Tsubaki A. Cerebral oxygenation monitoring using near-infrared spectroscopy during the acute-phase mobilisation in a patient with acute heart failure and cognitive dysfunction: a case report. Adv Exp Med Biol. in press. (review)
8. Maekawa Y, Iwata K, Takahashi T, Yamada K, Kohara N, Tsubaki A. Effects of Stroke Severity on Cerebral Oxygenation During Head Elevation in Acute Stroke. Adv Exp Med Biol. in press. (review)
9. Endo Y, Kataoka D, Sagawa S, Igarashi M, Ishibashi R, Sato T, Tsubaki A, Tamiya H, Morishita S. Characteristics of Muscle Oxygenation of the Upper and Lower Limb During Moderate-Intensity Upper Limb Crank Exercise: A Near-Infrared Spectroscopy Study. Adv Exp Med Biol. 2026; 1498: 265-270. (review)
10. Sato T, Sagawa S, Kataoka D, Igarashi M, Ishibashi R, Endo Y, Tsubaki A, Tamiya H, Morishita S. Compensatory of Oxygenation Changes in Non-active Muscle During Incremental Exercise in Healthy Adults. Adv Exp Med Biol. 2026; 1498: 271-275. (review)
11. Tamiya H, Kawashiri H, Miyamoto T, Kurosawa Y, Hamaoka T, Tsubaki A. Acute effects of belt

electrode-skeletal muscle electrical stimulation on microvascular responsiveness of the gastrocnemius muscle in healthy young men. Microvasc Res. 2025 Sep; 161: 104840. (review)

12. Hotta K, Fujii Y, Hitosugi N, Takamizawa R, Inoue T, Tamiya H, Tsubaki A. Effects of Veno-arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation on Skeletal Muscle Function and Interstitial PO2 in Contracting Muscle of Normal Rats. Microvasc Res. 2025 Jul; 160: 104813. (review)
13. Nishino K, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Kasai A, Furusawa M, Funayama Y, Tsubaki A, Kubota A, Fujita T, Miyata H. Anterior thigh muscle thickness normalized by body mass index is associated with falls in community-dwelling adults. Clin Nutr ESPEN. 2025 Dec; 70: 406-412. (review)
14. Hirata M, Oyama Y, Shimoda N, Tsubaki A, Inoue T, Hirata Y, Noyori K. Preoperative Posterior Pelvic Tilt Angle is Associated with Decreased Gait Speed and Hip Function in Older Patients with Hip Osteoarthritis. Prog Rehabil Med. 2025 Feb 11; 10: 20250004. (review)
15. 椿淳裕，岩本えりか．総論　血流調節の基礎知識．理学療法ジャーナル．第59巻７号：医学書院；2025：774-781
16. 前川侑宏，岩田健太郎，高橋朋弥，椿淳裕，幸原伸夫．脳血流と理学療法――脳卒中急性期の臨床から．理学療法ジャーナル．第59巻７号：医学書院；2025：797-804
17. Irie Y, Kubota M, Tsubaki A. Cerebral oxygenation responses to head elevation in young women with and without dizziness: Assessment using wearable near-infrared spectroscopy. J Wellness Health Care 2025; 49: 57-66 (review)

3　学会等研究発表

1. Tsubaki A, Saito S, Shioya T, Tamiya H, Hayao K, Morishita S. Moderate-Intensity Cycling Exercise Altered Cerebral Oxygenation Recovery From Thigh Cuff Release-Induced Acute Hypotension. SPIE West 2026 (San Fransisco, USA). 2026.1.17-1.23.
2. 椿淳裕．安静時・運動時の脳循環モニタリングを活用したリハビリテーション介入の最適化戦略．第44回日本臨床運動療法学会学術集会（文京区），2025.9.13-9.14.【シンポジウム】
3. 椿淳裕．重症患者の離床時の脳酸素飽和度と予後．第23回日本神経理学療法学会学術大会（金沢市）2025.10.31-11.1.【シンポジウム】
4. 椿淳裕，今井遼太，岩田健太郎．脳血流の見える化による安全かつ積極的な「脳保護リハ戦略」．第53回日本集中治療医学会学術集会（横浜市）2026.3.5-3.7.【シンポジウム】
5. Imai R, Tsubaki A, Abe T, Yamaguchi S. Comparison of cerebral oxygenation dynamics in septic ICU patients with and without early mobilisation. ISOTT2025 (Thessaloniki, Greece), 2025.8.23-8.29.
6. Maekawa Y, Iwata K, Takahashi T, Yamada K, Kohara N, Tsubaki A. Effects of Stroke Severity on Cerebral Oxygenation During Head Elevation in Acute Stroke. ISOTT2025 (Thessaloniki, Greece), 2025.8.23-8.29.
7. Ishii Y, Takahashi Y, Tsubaki A. Cerebral oxygenation monitoring using near-infrared spectroscopy during the acute-phase mobilisation in a patient with acute heart failure and cognitive dysfunction: a case report. ISOTT2025 (Thessaloniki, Greece), 2025.8.23-8.29.
8. Takahashi T, Iwata K, Maekawa Y, Yamada K, Takahara N, Kohara N, Tsubaki A. Comparison of Prefrontal Cortex Oxygenation during Walking between Individuals with Mild Acute Stroke and Healthy Control. ISOTT2025 (Thessaloniki, Greece), 2025.8.23-8.29.
9. 石井佑典，高橋祐介，相澤匠，関口桃菜，長濱秀明，末武修史，椿淳裕．急性心不全患者における初回離床時の脳酸素化動態について-せん妄の有無による違い-．第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（名古屋市），2025.7.19-7.20.
10. 吉岡亮伍，小林壮太，井上達朗，河井琉飛，高橋南子，大橋美心，笠井紅里，古澤芽依，西野光貴，椿淳裕．異なる生体電気インピーダンス装置で算出される四肢除脂肪量は固定誤差を生じる．第４回日本老年

療法学会学術集会（千代田区），2025.12.6-12.7.

11. 片桐里央，井上達朗，平田萌々花，小澤哲也，小澤祐治，佐藤隆一，椿淳裕，霜田直史，鈴木良介．急性期脳卒中患者における低身体活動量は合併症の発症を高める．第23回日本神経理学療法学会学術大会（金沢市），2025.11.1.
12. 川尻陽菜，田宮創，大倉康太郎，曽我智里，井坂颯汰，正谷瑶姫，吉野琢朗，椿淳裕．ベルト電極式骨格筋電気刺激法による心拍出量の増加が非運動肢の骨格筋微小血管反応性及び導管動脈の血行動態に与える即時効果-予備的調査-．第24回日本血管血流学会学術集会（越谷市），2025.11.2.
13. 川尻陽菜，田宮創，大倉康太郎，曽我智里，吉野琢朗，椿淳裕．ベルト電極式骨格筋電気刺激法の周波数による違いが骨格筋微小血管反応性に与える即時効果～研究計画を中心とした報告～．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会・第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（新潟市），2025.9.26-9.27.
14. 阿部紗弓，田宮創，原田凱士，竹内裕実，武藤峻士，岡村優里，吉野琢朗，川尻陽菜，椿淳裕．４週間の下肢血流制限下のインターバルトレーニングが健常成人の心拍出量と外側広筋の酸素取り込み能力の変化に及ぼす影響．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会・第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（新潟市），2025.9.26-9.27.
15. 阿部紗弓，田宮創，原田凱士，竹内裕実，武藤峻士，岡村優里，吉野琢朗，川尻陽菜，椿淳裕．４週間にわたる下肢血流制限下のインターバルトレーニングが外側広筋の酸素取り込み能力に与える影響．第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（名古屋市），2025.7.19-7.20.
16. 吉野琢朗，田宮創，川尻陽菜，斎藤真太朗，塩谷拓馬，椿淳裕．下肢血流制限下の単回のインターバル運動が外側広筋の酸素取り込み勾配に与える急性効果．第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（名古屋市），2025.7.19-7.20.

4　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本腎臓リハビリテーション学会，日本体力医学会，日本糖尿病学会，日本光脳機能イメージング学会（評議員），日本基礎理学療法学会（評議員），日本呼吸理学療法学会（評議員），日本循環器理学療法学会（評議員），日本糖尿病理学療法学会，日本生理学会，日本運動生理学会，日本臨床生理学会，日本心不全学会，日本微小循環学会，新潟医療福祉学会，International Society on Oxygen Transport to Tissue，International Society of Physical Medicine and Rehabilitation，International Society for Cerebral Blood Flow and Metabolism，European Respiratory Society，European Association for the Study of Diabetes，European Association of Preventive Cardiology，The Physiological Society，American Physiological Society，American Heart Association

2) 学術集会の主催

1. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会，代表世話人，新潟市，2025.9.26-9.27.
2. 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，集会長，新潟市，2025.9.26-9.27.

3) 学会等でのその他の活動

1. 理学療法学，査読委員，2025.4-2026.3.
2. Physical Therapy Research，査読委員，2025.4-2026.3.
3. Frontier in Human Neuroscience，Review board，2025.4-2026.3.
4. Frontier in Physiology，Review board，2025.4-2026.3.
5. International Journal of Environmental Research and Public Health，Topic Editor，2025.4-2026.3.
6. Philippine Journal of Allied Health Sciences，International reviewer，2025.4-2026.3.
7. 日本光脳機能イメージング学会，評議員，2025.4-2026.3.
8. 日本基礎理学療法学会，評議員，2024.6-2025.6.

9. 日本循環器理学療法学会，評議員，2024.6-2025.6.
10. 日本呼吸理学療法学会，評議員，2024.6-2025.6.
11. 医用近赤外線分光法研究会，世話人，2025.4-2026.3.
12. 日本循環器理学療法学会，機関誌編集委員会委員，2025.4-2026.3.
13. 日本循環器理学療法学会誌，教育委員会委員，2024.6-2025.6.
14. 日本循環器理学療法学会誌，査読員，2025.4-2026.3.

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024-2027年度，基盤研究B：低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明，研究代表者
2. 2024-2027年度，基盤研究B：血液がんサバイバーのサルコペニアを改善し免疫を活性する運動と栄養プログラムの開発，研究分担者
3. 2025-2027年度，挑戦的研究（萌芽）：重症集中治療患者の脳保護を目的とした新たなリハビリテーション指標の開発，研究分担者

6 学内委員会活動　入試委員会（委員長），研究・産官学連携推進機構，研究・産官学連携推進部（部長），プロジェクト研究センター運営委員会（委員長），運動機能医科学研究所，脳卒中リハビリテーション研究センター

氏名：八坂　敏一

1 研究題目　痛み・痒みに関わる脊髄後角局所神経回路に関する研究

2 報告書

1. 八坂敏一，岩井治樹．基盤研究（C），痛みと痒みのラベルドライン神経回路における脊髄後角モジュールの同定，研究成果報告書，2021～2024，研究代表者

3 学会活動

1) 所属学会　日本生理学会（評議員），日本神経科学会，日本疼痛学会（代議員），日本運動器疼痛学会，日本薬理学会，Society for Neuroscience，International Association for the Study of Pain，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Scientific Reports（Nature姉妹紙）Editorial Board Member
2. Frontiers in Neuroanatomy Editorial Board Member
3. Frontiers in Pain Research / Pain Research Methods Editorial Board Member

4 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），慢性腰痛による下行性疼痛制御系の変調機構と運動療法の効果，研究分担者
2. 2024年度，科研費基盤研究（C），自閉スペクトラム症モデル動物の口腔感覚異常は，栄養，発育，行動異常に影響するか？，研究分担者
3. 2024年度，科研費基盤研究（C），IBS発症トリガーとしての交感神経系SIP syncytium機能の解明，研究分担者
4. 2024年度，科研費基盤研究（B），筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明，研究分担者
5. 2025年度，科研費基盤研究（C），in vivoパッチクランプ法を用いた「脊髄後角ゲート機構による疼痛調節機序」の解明，研究代表者

5 学内委員会活動　大学院入試広報委員会，中央教育センター運営委員会，運動機能医科学研究所

氏名：相馬　俊雄

1　研究題目　身体運動およびバランス機能，下肢装具歩行に関するバイオメカニクス研究

2　論文

1. Konishi S, Soma T. Effects of changing the tension of elastic bands of lower-limb orthosis with a trunk belt on lower-limb muscle activity during walking Evidence from a pilot study. Medicine (Baltimore). 2025 Nov 28; 104(48): e46314. doi: 10.1097/MD.0000000000046314.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 相馬俊雄，有田智氏，峯玉賢和，影山卓臣，石元優々．弾性式歩行補助具を使用した歩行中の下肢筋活動への影響．第39回リハ工学カンファレンス（東京），2025.8.8-8.10.
2. 相馬俊雄，有田智氏，峯玉賢和，影山卓臣，石元優々．弾性式歩行補助具を装着した歩行中の下肢筋活動に及ぼす影響．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟）．2025.11.8-11.9.
3. 梅木伽那，相馬俊雄．パラグアイにおける障害児を持つ家族の生活の質と介護負担について．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟）．2025.10.25.
4. 玉越敬悟，相馬俊雄．診療参加型臨床実習における理学療法学生の『実施』到達内容の量的分析．第14回日本理学療法教育学術大会（東京）．2026.1.10-1.11.

4　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，日本基礎理学療法学会，日本運動器理学療法学会，日本神経理学療法学会，日本支援工学理学療法学会，日本バイオメカニズム学会，日本義肢装具学会，日本リハビリテーション医学会，日本臨床神経生理学会，日本骨粗鬆症学会，日本生体磁気学会，日本体力医学会，日本生理人類学会，日本リハビリテーション工学協会，日本運動療法学会，臨床歩行分析研究会，日本肘関節研究会，新潟県理学療法士会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第30回日本基礎理学療法学会，演題査読委員
2. 日本基礎理学療法学術誌，論文査読委員
3. 日本生理人類学会誌（英文誌），論文査読委員
4. 日本生理人類学会誌（邦文誌），論文査読委員
5. 第39回日本リハビリテーションカンファレンス，演題査読委員
6. 日本リハビリテーション・エンジニアリング雑誌（邦文誌），論文査読委員
7. 第41回日本義肢装具学会学術大会，演題査読委員
8. 第13回日本運動器理学療法学会学術大会，演題査読委員
9. 第14回日本支援工学理学療法学会学術大会，演題査読委員
10. Niigata Journal of Health and Welfare（英文誌），論文査読委員
11. 新潟医療福祉学会誌（邦文誌），論文査読委員
12. Experimental Brain Research（英文誌），論文査読委員
13. Progress in Rehabilitation Medicine（英文誌），論文査読委員
14. 第41回日本義肢装具学会学術大会，教育講演３，座長，新潟市，2025.11.8-11.9.

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 島見地区自治会懇談会：島見地区神事，島見地区区長との情報交換会，学生部長，島見自治会館，2025.4.17.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），脳卒中片麻痺者における歩行支援ロボットの立脚支持と遊脚誘導機構の解明，研究代表者
2. 2023年度，科研費基盤研究（B），乳児に行う新たな胸骨圧迫－その効果と実践性の解明－，研究分

担者

3. 2024年度，科研費基盤研究（C），関節支持筋の効果的な筋再教育法の開発，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校．リハビリテーション医学，2025.4.1-2026.3.31.
2. 国際メディカル専門学校．運動学，2025.4.1-2026.3.31.

7 学内委員会活動　学生部長，学生委員会（委員長），学生支援推進部（部長），懲戒諮問委員会（委員長），教育学生支援機構，国家試験・資格試験対策委員会（委員），自己点検・評価委員会（委員）

氏名：澤田　純明

1 研究題目　東アジアの狩猟採集集団および初期農耕集団に関する人類学的研究，東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応を解明する人類学および動物考古学的研究，日本列島の土器出現期人類集団に関する人類学的研究，日本列島の更新世洞窟遺跡から出土した動物化石の動物考古学的研究，考古遺跡から出土した微細骨片の骨組織形態学的研究

2 論文

1. Sawada J, Uzawa K, Yoneda M, Hagihara Y, Itahashi Y, Gakuhari T, Kubota S, Liu B, Wang N, Chen M, Wang Y, Song S, Kikuchi H, Maruyama M, Okazaki K, Takamuku H, Saeki F, Nara T, Nakamura S. Worked Human Bones and the Rise of Urban Society in the Neolithic Liangzhu Culture, East Asia. Scientific Reports. 2025; 15: 31441 (doi.org/10.1038/s41598-025-15673-7) (review)
2. Hung H-C, Deng Z, Liu Y, Ran Z, Zhang Y, Li Z, Kaifu Y, Huang Q, Nguyen KTK, Le HD, Xie G, Nguyen AT, Yamagata M, Simanjuntak T, Noerwidi S, Fauzi MR, Tolla M, Wetipo A, He G, Sawada J, Zhang C, Bellwood P, Matsumura H. Earliest evidence of smoke-dried mummification: More than 10,000 years ago in southern China and Southeast Asia. PNAS (Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America). 2025; 122: e2515103122 (doi.org/10.1073/pnas.2515103122) (review)
3. 萩原康雄，古澤妥史，澤田純明，奈良貴史．2024年度岩手県小松洞穴遺跡発掘調査概要報告．新潟医療福祉会誌．2025; 24: 56-65 (doi.org/10.34540/niigatajohewewa.24.3_56) (review)

3 報告書

1. 澤田純明．国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）），東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応の解明，科学研究費助成事業 研究成果報告書，2020-2024，研究代表者

4 学会等研究発表

1. 澤田純明，江田真毅，泉洋江，福井淳一．骨組織学とZooMSによる骨製遺物の動物種同定：松前町福山城下町遺跡から出土したサイコロの分析．日本動物考古学会第12回大会（宜野湾市），2025.7.12-7.13.
2. 澤田純明，江田真毅，泉洋江，谷川真由，佐伯史子，福井淳一．骨製サイコロの素材は何か？―骨組織形態学とZooMSによる種同定．第79回日本人類学会大会（下関市），2025.10.11-10.13.

5 学会活動

1) 所属学会　日本人類学会（理事，編集委員長，代議員），日本解剖学会，日本動物考古学会，東南アジア考古学会（運営委員），人類形態科学研究会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本人類学会機関誌「Anthropological Science (Japanese Series)」編集委員長（2025.4.1-2026.3.31）
2. 日本動物考古学会学術雑誌「動物考古学」編集委員（2025.4.1-2026.3.31）
3. 日本考古学協会2025年度大会実行委員（実行委員任期2025.4.1-2026.3.31）（新潟市，2025.10.25-10.26開催）

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第11回新潟医療福祉大学夏期骨学セミナー，事務局長，医療関係者・考古学関係者・警察関係者・他，

新潟医療福祉大学，2025.8.18-8.22.

2. 第11回新潟医療福祉大学夏期骨学セミナー，脊柱と胸郭，講師，自然人類学研究所，医療関係者・考古学関係者・警察関係者・他，新潟医療福祉大学，2025.8.20.
3. 自然人類学研究所公開セミナー，事務局，自然人類学研究所，医療関係者・考古学関係者・法医人類学関係者・他，新潟医療福祉大学，2026.3.13.

2) 社会活動への参加協力

1. 丸善出版，出版企画『人類学の百科事典』編集委員，2025.4.1-2026.3.31.
2. 宮城県東松島市奥松島城門村歴史資料館，遺跡出土骨の鑑定・報告，2025.4.1-4.20.
3. 警視庁，捜査協力（法医鑑定），2025.6.10.
4. 埼玉県志木市教育委員会，遺跡出土骨の鑑定，2025.12.1-12.10.
5. （株）トキオ文化財，遺跡出土骨の鑑定，2025.12.11-12.20.
6. 仙台市教育委員会，遺跡出土骨の鑑定・報告，2025.12.21-2026.1.10.
7. 宮城県松島町教育委員会，国史跡西の浜貝塚出土人骨調査指導，2026.1.15.
8. 北海道上ノ国町教育委員会，町史編纂事業協力，上ノ国町，2026.2.22-2.24.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

令和８年度科学研究費助成事業「学術変革領域研究（A）（公募研究）」専門委員会・審査委員（科研費審査委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究（B），山形県日向洞窟から出土した後期更新世-完新世初頭人骨群の考古科学的研究，研究代表者
2. 2023年度，科研費挑戦的研究（萌芽），縄文時代人は何歳まで生きたのか？高分解能CTを用いた骨組織学的年齢推定法の開拓，研究代表者
3. 2025年度，科研費挑戦的研究（萌芽），先史アジア採集狩猟民の知られざる葬制解明への挑戦：燻しミイラ製作の可能性，研究分担者
4. 2024年度，科研費基盤研究（B），薄層ローム堆積における旧石器編年研究の精緻化，研究分担者
5. 2022年度，科研費基盤研究（B），受傷人骨の骨科学分析による縄文終末期の埋葬原理と社会変容の解明，研究分担者
6. 2025年度，受託研究（三協技術），山口遺跡第21次・下ノ内浦遺跡第８次調査出土焼骨の鑑定と分析，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 慶應義塾大学文学部（非常勤講師），民族学考古学特殊講義，2025.4.1-2026.3.31.
2. 新潟大学大学院医歯学総合研究科法医学分野（非常勤講師），死因究明学II，2026.3.31.

8　学内委員会活動　人権委員会（副委員長），大学院入試広報委員会，自然人類学研究所（副所長）

氏名：田口　徹

1　研究題目　遅発性筋痛の神経・分子機構解明，線維筋痛症の病態機構解明，筋・筋膜性疼痛の病態機構解明，痛覚変調性疼痛の病態機構解明，触覚の神経生理学的研究，痛みと免疫に関する研究，筋痛・筋損傷に対する理学療法効果の実証，気圧変動による慢性痛増悪機構解明

2　論文

1. Kubo A, Iwata K, Shinoda M, Shinozuka H, Taguchi T, Mizumura K. Purinergic receptor- and metabotropic glutamate receptor 5-mediated interactions between satellite glial cells and neurons in rat trigeminal ganglia. GLIA (JCR). 2025；74(2): e70126.（査読あり）

3　報告書

1. 田口徹．基盤研究（B），ストレス誘発性疼痛の中枢機構解明と理学療法効果の実証，研究成果報告書，

2022-2024 研究代表者（査読なし）

2. 田口徹．基盤研究（B），痛覚変調性疼痛における視床下部の役割と Neuromodulation による鎮痛機構解明，研究成果報告書，2025-2027 研究代表者（査読なし）
3. 田口徹．挑戦的研究（萌芽），筋線維タイプ特異的活動操作を実現する基盤技術の構築と筋機能解明への応用，研究成果報告書，2024-2025 研究代表者（査読なし）
4. 田口徹．基盤研究（B），筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明，研究成果報告書，2024-2026 研究分担者（査読なし）
5. 田口徹．基盤研究（B），オミクス解析を駆使して挑む活動期関節リウマチに対する運動療法の治療機構解明，研究成果報告書，2025-2028 研究分担者（査読なし）
6. 田口徹．理学療法にかかわる研究助成，遅発性筋痛の発症強度と予後予測を可能にするバイオマーカー脂質の同定，研究成果報告書，2023-2024 研究代表者（査読なし）
7. 田口徹．挑戦的研究（萌芽），筋膜構造の形態学的・組織学的基盤確立と新たな運動療法の開発，研究成果報告書，2022-2024 研究分担者（査読なし）

4　学会等研究発表

1. Yamamoto R, Kametani I, Ota H, Taguchi T. Multiple continuous stress-induced spinal nociceptive hypersensitivity in rats. 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Niigata) 2025.7.24-7.27.【国際】
2. 田口徹，山本陸央，太田大樹．複合持続ストレス負荷により生じる筋痛覚過敏の脊髄機構．第11回日本筋学会（仙台），2025.8.22-8.23.
3. 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水誘発性筋痛モデルラットの筋組織像．第11回日本筋学会（仙台），2025.8.22-8.23.
4. 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水誘発性筋痙攣モデルラットにおける筋弛緩薬の抑制効果．第79回日本体力医学会（滋賀），2025.9.17-9.19.
5. 田口徹，太田大樹．遅発性筋痛モデルラットの筋超微形態の電子顕微鏡観察．第30回日本基礎理学療法学会（別府），2025.10.17-10.18.
6. 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水を投与したラット前脛骨筋の組織学的変化．第30回日本基礎理学療法学会（別府），2025.10.17-10.18.
7. 八木京介，山本陸央，太田大樹，田口徹．ヒト腰部遅発性筋痛の発症における異なる体幹姿位での伸張性収縮による比較．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
8. 田口徹，太田大樹．伸張性収縮負荷による機械痛覚過敏モデルラットを用いた筋超微形態観察．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
9. 山本陸央，ミゲル・ガルシア，太田大樹，田口徹．繰り返し寒冷ストレス負荷マウスへのカプサイシン筋注後の脊髄後角における c-Fos 陽性細胞の発現変化．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
10. 小林雄太，山本陸央，太田大樹，田口徹．複合持続ストレス誘発性疼痛モデルラットにおける皮膚炎症の可視化．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
11. 田口徹，ウルリッヒ・ホハイセル，ロルフ-デトレフ・トレーデ，ジークフリート・メンゼ．腰部筋と下肢筋から中脳中心灰白質腹外側部へ投射する脊髄後角ニューロン．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
12. 田口徹，ウルリッヒ・ホハイセル，ロルフ-デトレフ・トレーデ，ジークフリート・メンゼ．腰部および下肢筋の痛みを視床後外側腹側核へ投射する脊髄後角ニューロン．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
13. 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水誘発性筋痛モデルラットの前脛骨筋における光学顕微鏡観察．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
14. 太田大樹，田口徹．伸張性収縮後のラット下腿筋膜で発現増大した筋機能関連遺伝子クラスター．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.

15. 山本陸央，太田大樹，田口徹．複合持続ストレスモデルラットの脊髄後角における炎症性サイトカインの遺伝子発現．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
16. 太田大樹，田口徹．遅発性筋痛モデルおよびカラゲニン誘発性筋炎モデルの筋においてElkin1 mRNAレベルは増大する．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
17. 花村健次，武田直，小林宥介，鷲見和幸，前島偉，鈴木晴，美里萌恵，渡邉大輝，西方快騎，宮崎涼，松井斗輝，太田大樹，田口徹，吉田宜清．18～24ヵ月齢C57BL/6Nマウスにおいて発生した腫瘍の形態学的解析．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
18. 小島卓巳，太田大樹，田口徹．健常大学生における一晩の断眠は圧痛閾値を広範囲に低下させる．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
19. 田口徹．筋・筋膜性腰痛の神経解剖学的および神経生理学的特徴．第47回日本疼痛学会（東京），2025.12.4-12.6.【シンポジウム】
20. Taguchi T, Ota H. Ultrastructural observation of the muscle in a rat lengthening contraction-induced hyperalgesia model. The 103rd Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (PSJ) (Tokyo) 2026.3.10-3.12.【国際】
21. Ota H, Taguchi T. Enhanced expression of mechanosensitive ion channels in rats subjected to lengthening contractions. The 103rd Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (PSJ) (Tokyo) 2026.3.10-3.12.【国際】
22. Kubo A, Iwata K, Shinoda M, Taguchi T, Mizumura K. The excitability of trigeminal ganglia neurons is altered in a short time through bidirectional communication with satellite glial cells. The 103rd Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (PSJ) (Tokyo) 2026.3.10-3.12.【国際】

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（会員），日本生理学会（評議員），日本疼痛学会（代議員），日本基礎理学療法学会（評議員），日本神経科学学会（会員），日本線維筋痛症学会（会員），日本筋学会（会員），日本体力医学会（会員），若手による骨格筋細胞研究会（会員），日本理学療法士協会（会員），新潟県理学療法士会（会員），日本運動器疼痛学会（会員），国際疼痛学会（会員）

2) 学会等でのその他の活動

1. Journal of Neuroscience (JN-RM-225*-**R1), 査読，2025.4.10.
2. Experimental Neurology (EXNR-25-6**), 査読，2025.4.22.
3. Scientific Reports (b0916***-d4**-4d**-97**-be75e41*****), 査読，2025.5.6.
4. Brain Research (BRAINRES-D-25-0* 2 **R1), 査読，2025.5.7.
5. Journal of Integrative Neuroscience (JIN39***), 査読，2025.5.13.
6. Brain Research Bulletin (BRB-D-25-007**), 査読，2025.5.23.
7. Redox Report (YRER-S-2025-0***), 査読，2025.5.25.
8. Antioxidants (antioxidants-3682***), 査読，2025.5.29.
9. Nutrients (nutrients-3666***), 査読，2025.6.12.
10. Journal of Pain Research (543***), 査読，2025.6.18.
11. Antioxidants (antioxidants-3700***), 査読，2025.6.19.
12. Journal of Orthopaedic Surgery and Research (c542b***-5e**-44**-a0**-c03ae779****)，査読，2025.6.29.
13. Sports (sports-3717***), 査読，2025.6.30.
14. Journal of Pain Research (540***), 査読，2025.7.7.
15. Life (life-3779***), 査読，2025.7.23.
16. Journal of Pain Research (550***), 査読，2025.7.29.
17. Neural Plasticity (2109***), 査読，2025.8.3.
18. Scientific Reports (5ffab***-e2**-4d**-be**-d030530c****), 査読，2025.9.3.

19. Scientific Reports (46751***-6b**-43**-b6**-92ccdaf0****), 査読，2025.9.4.
20. Journal of Pain Research (550***), 査読，2025.9.11.
21. Advances in Medical Sciences (ADVMS-D-25-007**), 査読，2025.9.24.
22. Journal of Musculoskeletal and Neuronal Interactions (25M-09-1**), 査読，2025.10.2.
23. Journal of Pain Research (559***), 査読，2025.10.6.
24. Expert Review of Neurotherapeutics (ERN-2025-ST-0***), 査読，2025.10.10.
25. Behavioural Brain Research (BBRES-D-25-016**), 査読，2025.10.10.
26. Behavioural Brain Research (BBRES-D-25-021**), 査読，2025.11.18.
27. The Journal of Headache and Pain (ID: e28e0***-79**-47**-89**-dbabb163****), 査読，2026.2.27.
28. Behavioural Brain Research (BBRES-D-26-002**), 査読，2026.2.28.
29. European Journal of Pharmacology (EJP-820**), 査読，2026.3.3.
30. Biomolecules (biomolecules-4207***), 査読，2026.3.13.
31. Fronties in Pain Research, Review Editor, 2025.4.1-2026.3.31.
32. 第30回日本基礎理学療法学会，演題査読委員，2025.10.17-10.18.
33. 第47回日本疼痛学会，座長，2025.12.5.
34. 第47回日本疼痛学会，演題査読委員，2025.12.4-12.6.
35. 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会（APPW2025），座長，2025.3.18.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025，基盤研究（B），痛覚変調性疼痛における視床下部の役割とNeuromodulationによる鎮痛機構解明，研究代表者
2. 2024，挑戦的研究（萌芽），筋線維タイプ特異的活動操作を実現する基盤技術の構築と筋機能解明への応用，研究代表者
3. 2024，基盤研究（B），筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明，研究分担者
4. 2025，基盤研究（B），オミクス解析を駆使して挑む活動期関節リウマチに対する運動療法の治療機構解明，研究分担者

7　学内委員会活動　動物実験委員会（委員長），遺伝子組換え実験安全委員会（委員），研究施設企画委員会（委員），運動機能医科学研究所（研究員），生物医科学分析研究センター（研究員）

氏名：芝田　純也

1　研究題目　非侵襲的脳刺激，経頭蓋静磁場刺激，経頭蓋磁気刺激，経頭蓋電気刺激，脳可塑性，脳卒中リハビリテーション

2　論文

1. Hoshi H, Shibata S, Mima T, Onishi H. Triple Transcranial Static Magnetic Field Stimulation System (“SHIN jiba”) Modulates the Neural Activity of the Lumbar Spinal Cord: A Cross-over and Single-Blind Study in Healthy Subjects. Neuromodulation: Technology at the Neural Interface. 2025（査読あり）
2. Yamashita K, Ida R, Koganemaru S, Horiba M, Nojima I, Mima T, Ono Y, Shibata S, Hosoe T, Tachiwa H, Yamashita H, Itoh A, Murata Y, Fujita M, Kamimoto K, Ueki Y. A Pilot Study on Simultaneous Stimulation of the Primary Motor Cortex and Supplementary Motor Area Using Gait-Synchronized Rhythmic Brain Stimulation to Improve Gait. Frontiers In Human Neuroscience. 2025; 19（査読あり）
3. Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Frequency-specific modulations of oscillatory neural drives to lower leg muscles during gait with aiding and impeding horizontal

forces. Journal of Electromyography and Kinesiology. 2025; 86（査読あり）

4. Maruyama Y, Shibata S, Kojima S, Mima T, Onishi H. Peripheral nerve stimulation synchronized with brain stimulation facilitates somatosensory function. Clinical Neurophysiology. 2026; 184（査読あり）
5. 芝田純也，福田敦夫，美馬達哉．経頭蓋静磁場刺激（tSMS）による神経調節のメカニズム：ホールセルパッチクランプ法を用いた大脳皮質錐体細胞の解析．Brain and Nerve．2025; 77: 357-362
6. 芝田純也．経頭蓋静磁場刺激（tSMS）が拓くシン・リハビリテーション．物理療法科学．2025; 32: 34-38（査読あり）

3 報告書

1. 芝田純也．若手研究，シン磁場刺激を実装したマルチモーダルアプローチによるヒト脳可塑性の解明と応用，2021-2024，芝田純也

4 学会等研究発表

1. 芝田純也，美馬達哉．経頭蓋静磁場刺激とは何か（2025年版）．第40回日本生体磁気学会大会（札幌），2025.6.21.
2. Shibata S, Mima T. The basics of tSMS. 第48回日本神経科学大会（新潟），2025.7.25.
3. 芝田純也，桐本光，美馬達哉．tSMS（経頭蓋静磁場刺激）の基礎と今後の展開．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（那覇），2025.11.13.

5 学会活動

1) 所属学会　日本脳神経外科学会，日本脳神経外科コングレス，日本脳卒中学会，日本臨床神経生理学会（代議員），日本神経科学学会，日本基礎理学療法学会，日本脳神経血管内治療学会，Motor Control研究会，日本リハビリテーション医学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第48回日本神経科学大会，公募シンポジウムのオーガナイザー，新潟，2025.7.24-7.27.

6 社会活動

1) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
京都大学臨床研究審査委員会技術専門員

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，基盤B，非侵襲ヒト静磁場刺激の創生，研究代表者
2. 2022年度，基盤B，静磁場刺激を在宅ニューロリハに応用するために必要な基礎データの構築，分担研究者
3. 2023年度，基盤A，クローズドループ刺激による非侵襲的Deep Brainリハビリテーションの創生，分担研究者

2) 学外兼務講師等

1. 愛媛大学，脳神経外科学，2025.5.27.

8 学内委員会活動　倫理審査委員会（委員），運動機能医科学研究所（所員），次世代デジタルリハビリテーション研究センター（副センター長）

氏名：江玉　睦明

1 研究題目　機能解剖学に関する研究（機能解剖学），スポーツ傷害に関する研究（スポーツ科学）

2 論文

1. Edama M, Sekii Y, Sakamoto K, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Sekine C, Takabayashi T, Sato S. Differences in Ankle Stabilizing Function between the Upper and Lower Fiber Bundles of the Anterior Talofibular Ligament: An Anatomical Study. Sci Rep (JCR). 2025 Jul 18; 15(1): 26126. doi: 10.1038/s41598-025-11747-8.

2. Takabayashi T, Edama M, Inai T, Kubo M. Effects of ankle joint biomechanics and foot postures on Achilles tendon force during running through simulation study. Sports Biomech (JCR). 2025 May 30: 1-11. doi: 10.1080/14763141.2025.2511758.
3. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the flexor hallucis longus-associated part of Kager's fat pad. BMC Musculoskelet Disord (JCR). 2025 Nov 7; 26(1): 1031. doi: 10.1186/s12891-025-09276-6.
4. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Takabayashi T, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the retrocalcaneal bursal wedge of Kager's fat pad. Surg Radiol Anat (JCR). 2025 Dec 11; 48(1): 23. doi: 10.1007/s00276-025-03788-5.
5. Ishigaki T, Ishida T, Ino T, Okunuki T, Yokoyama H, Edama M. Relationship between compressive stiffness and tensile stiffness in the human Achilles tendon in vivo. J Bodyw Mov Ther (JCR). 2025 Jun: 42: 1073-1078. doi: 10.1016/j.jbmt.2025.03.011.
6. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. J Athl Train (JCR). 2025 Mar 10; 60(7): 486-491. doi: 10.4085/1062-6050-0028.25. Online ahead of print.
7. Inaba H, Hanawa H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Iron deficiency prevention and dietary habits among elite female university athletes in Japan. Sports (JCR). 2025, 13(7), 220; doi: 10.3390/sports13070220.
8. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Effects of Clenching Strength on Step Reaction Time. J. Funct. Morphol. Kinesiol (JCR). 2025, 10(3), 264; doi: 10.3390/jfmk10030264.
9. Koshino Y, Takabayashi T, Kobayashi T, Kudo S, Edama M. Foot Ankle Surg. Ankle dorsiflexion range of motion is associated with compression stiffness of gastrocnemius and soleus muscles, foot structures, and hallux extension range of motion (JCR). 2025 Nov 20: S1268-7731(25)00264-4. doi: 10.1016/j.fas.2025.11.007.
10. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Teeth clenching improves selective response and shortens reaction time. J Strength Cond Res (JCR). 2026 May 29. doi: 10.1519/JSC.0000000000005479.
11. Anazawa S, Makibuchi T, Hagino Y, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Sato D, Yamashiro K. The effect of sex differences on long-latency of auditory and somatosensory evoked potentials. Women's Health Reports (JCR). March 2026. doi: org/10.1177/26884844261432104
12. Kato Y, Ishigaki T, Sato R, Sakamoto K, Hirabayashi R, Yokota H, Komiya M, Edama M. Regional changes in patellar tendon mechanical properties in vivo during non-weight-bearing and weight-bearing movements with different loads. Journal of Bodywork and Movement Therapies (JCR). 47, July 2026, 126-134. doi.org/10.1016/j.jbmt.2026.03.007.

3　報告書

1. 江玉睦明．基盤研究B，アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発，研究成果報告書，2024-2025，研究代表者.
2. 江玉睦明．国際共同研究加速基金（海外連携研究），腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立，研究成果報告書，2024-2025，研究代表者.
3. 江玉睦明，大森豪．スポーツ庁委託事業「地域のスポーツ医科学支援体制構築事業」2025年度研究成果報告書.

4　学会等研究発表

1. 江玉睦明．【シンポジウム１】「Return To Performance」足関節靭帯損傷後のReturn To Performance―

バレーボール編―．第６回足の構造と機能研究会学術集会（東京）．2025.6.7-6.8.

2. 江玉睦明．【シンポジウム】理学療法士による超音波画像装置の活用環境と腱障害研究の変遷．第36回日本整形外科超音波学会（沖縄）．2025.7.11-7.12.
3. 江玉睦明．【シンポジウム１】「ベースボールアナトミー～投球障害のメカニズムを解剖から学ぶ～」肘の機能解剖．第12回野球肘研究会夏合宿in新潟（新潟）．2025.8.30.
4. 江玉睦明．【シンポジウム】「研究と臨床の接点」肉眼解剖学とエコーの融合で見えてきた足関節の世界．第33回整形外科リハビリテーション学会学術集会（東京）．2025.9.14.
5. 江玉睦明．【シンポジウム④】「基礎理学療法を基盤とした新たな研究領域の開拓」．足関節の機能解剖学に基づく障害発生メカニズムの再考と女性アスリート支援への応用―解剖・超音波・運動学を融合した新たな視点―．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
6. 江玉睦明，藤澤宏幸，河上敬介，工藤慎太郎，小林匠，高林知也，対馬栄輝，建内宏重，森下勝行，中村雅俊，木村佳記，三谷保弘．【特別企画①日本基礎理学療法学会・日本スポーツ理学療法学会・日本運動器理学療法学会・日本物理療法学会・日本整形外科超音波学会合同シンポジウム】「理学療法士の超音波画像装置使用に関して ～これまでとこれから～」理学療法士の超音波画像装置使用に関して ～これまでとこれから～．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
7. 江玉睦明．【ハンズオン】運動器系体表解剖ハンズオンセミナーⅢ：大腿部前面の骨と筋．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
8. 江玉睦明．【ハンズオン】運動器系体表解剖ハンズオンセミナーⅣ：大腿部後面の骨と筋．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
9. 江玉睦明．【シンポジウム】「スポーツ医学における多職種連携～外傷・障害の現場対応，治療，復帰，予防～」スポーツ外傷・障害における理学療法士の介入と多職種連携の実際．第13回スポーツ傷害フォーラム（新潟）．2025.10.5.
10. 江玉睦明．【教育講演11】機能解剖学からひも解く関節可動域制限．第13回日本運動器理学療法学会学術集会（大阪）．2025.11.22-11.23.
11. 江玉睦明．【教育講演２】「腱障害のリハビリテーション」．第12回日本スポーツ理学療法学会（北海道）．2025.11.29-11.30.
12. 江玉睦明．【特別講演】「鎖骨下筋と前鋸筋の解剖」．第９回STEP総大会（東京）．2026.3.29.
13. 江玉睦明．【特別講演】「小殿筋と梨状筋」．第９回STEP総大会（東京）．2026.3.29.
14. 江玉睦明．【シンポジウム】「新潟県における取組」．スポーツ庁委託事業「地域におけるスポーツ医科学支援体制構築事業」成果報告会（WEB開催）．シンポジスト．2026.3.20.
15. 江玉睦明，高林知也，石垣智恒，島谷美海花，勝原洋二，清家望．スポーツブラが静的・動的安定性およびジャンプ高に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
16. 坂本航大，江玉睦明，石垣智恒，横田裕丈，平林怜，関根千恵，小宮諒，佐藤昇．抄録タイトル：後踵骨滑液包の腫脹がアキレス腱付着部の機械的ストレスに及ぼす影響 -解剖学的検討-．第36回整形外科超音波学会（沖縄）．2025.7.11-7.12.
17. 坂本航大，江玉睦明，石垣智恒，田川裕紀，岩崎海斗，佐藤昇．足関節背屈時におけるアキレス腱付着部の変形動態．第６回足の構造と機能研究会学術集会（東京）．2025.6.7-6.8.
18. Sakamoto K, Edama M, Taguchi T, Ota H, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Komiya M, Sato N. Innervation distribution of the human crural fascia in Thiel embalmed cadavers. 2025 FRS International Fascial Research Congress（USA）．2025.8.10-8.14.
19. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．n-6系脂肪酸/n-3系脂肪酸の摂取比率が月経時に伴う身体的痛みに及ぼす影響．第72回日本栄養改善学会（東京）．2025.9.12-9.14.
20. 前田裕大，山口智志，木村青児，中嶋啓文，山田唯一，齊田良知，江玉睦明．超音波検査による短腓骨筋/足底腱膜外側索付着部および第4-5中足骨関節面遠位端同定の精度：屍体剖検を基準とした検証．第50回日本足の外科学会（長野）．2025.11.15-11.16.

21. 越野裕太，高林知也，小林匠，工藤慎太郎，江玉睦明．足関節背屈可動域には筋スティフネス，足部構造，母趾伸展可動域が関係する．第50回日本足の外科学会（長野）．2025.11.15-11.16.
22. 溝田丈士，越野裕太，新留知，高林知也，小林匠，工藤慎太郎，江玉睦明．足関節果部骨折術後症例の非荷重・荷重位背屈可動域の特性とSafe-Qとの関係．第50回日本足の外科学会（長野）．2025.11.15-11.16.
23. 高林知也，江玉睦明．足関節バイオメカニクスと足部アライメントの違いが片脚着地動作時のアキレス腱張力に与える影響 ～シミュレーション研究による検証～．第50回日本足の外科学会（長野）．2025.11.15-11.16.
24. 小宮諒，江玉睦明，熊崎昌，平林怜，横田裕丈，石垣智恒．大学女子サッカー選手の跳躍力と走力の関係．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
25. 稲葉洋美，塙晴雄，星野芙美，曽根美奈子，石井穂乃香，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける鉄欠乏性貧血／鉄欠乏症と鉄欠乏性貧血を予防・治療するための食習慣に関する調査．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
26. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．女性アスリートにおける競技環境の違いが血中25OHビタミンD濃度および月経痛に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
27. 土方啓生，望月友晴，江玉睦明，大森豪，山本智章．女性アスリートの三主徴リスクスコアと臨床データの関連性．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
28. 高林知也，江玉睦明，稲井卓真，久保雅義．ランニング中の後足部，中足部，前足部に生じる床反力の推定．第12回スポーツ理学療法学会（札幌）．2025.11.29-11.30.
29. 島谷美海花，菊元孝則，高林知也，江玉睦明，久保雅義．膝前十字靭帯再建術者における遠心性収縮時のトルク発揮率と大腿四頭筋の筋内脂肪量の関係．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
30. 佐藤慎之助，高林知也，菊元孝則，江玉睦明，久保雅義．捕手における捕球前のステップ動作は肩・肘関節モーメントに影響を与えるのか? 第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
31. 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，江玉睦明，久保雅義．インソールの反発性の違いが前足部接地ランニング時のアキレス腱張力に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
32. 菊元孝則，小林真里奈，高林知也，久保雅義，江玉睦明，大森豪．スポーツ障害予測における機能的動作評価の意義 ～Functional Movement Screen®の項目別分析からの示唆～．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
33. 石垣智恒，佐藤来夢，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．高校野球選手における睡眠の質と主観的上肢機能との関係．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
34. 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．グリップ動作中の手関節角度の違いが外反ストレス下での内側肘関節安定性におよぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
35. 横田裕丈，佐藤亜美，山波克彰，木村玲奈，小林弘人，久保幸大，中山侑也，佐藤来夢，須貝菜央，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．経皮的耳介迷走神経刺激（taVNS）が反応時間に及ぼす影響と自律神経指標との関連．第78回日本自律神経学会（名古屋）．2025.10.24-10.25.
36. 平井翔太，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．腓腹筋に対するPNFストレッチングとスタティックストレッチングの繰り返し実施による効果の比較．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
37. 上原真佳，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．圧刺激と電気刺激との組み合わせが頚部可動域および僧帽筋上部の圧痛に及ぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.

38. 牧野郁美，横田裕丈，安達朋笑，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．高強度間欠的運動中の経皮的耳介迷走神経刺激がパフォーマンスと自律神経応答に及ぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
39. 佐野颯一郎，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．運動誘発性鎮痛に対する経皮的耳介迷走神経刺激の併用効果と自律神経反応性の関連．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
40. ジューステイニ礼子，山本智章，山口典子，土田千歳，吉田暁，江玉睦明，大森豪．スポーツ現場における医療サポートの向上を目指した新潟スポーツケアナースの挑戦．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
41. 加藤雄樹，石垣智恒，佐藤来夢，坂本航大，横田裕丈，平林怜，小宮諒，江玉睦明．非荷重および負荷の異なる荷重動作中の膝屈曲角度の変化が局所的な膝蓋腱力学的特性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
42. 兵庫聡太，石垣智恒，佐藤来夢，林宏弥，竹田蓮，鈴木恒平，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．示指もしくは中指屈筋の疲労課題が内側肘関節動的安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
43. 林宏弥，石垣智恒，佐藤来夢，兵庫聡太，鈴木恒平，竹田蓮，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．反復投球動作が肩甲骨周囲筋の筋硬度および肩甲骨アライメントにおよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
44. 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．示指および中指を除いたグリップ動作が外反ストレス下における内側肘関節安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
45. 鈴木恒平，石垣智恒，佐藤来夢，兵庫聡太，林宏弥，竹田蓮，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．握力トレーニングと示指屈筋トレーニングが内側肘関節安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
46. 竹田蓮，石垣智恒，佐藤来夢，林宏弥，兵庫聡太，鈴木恒平，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．高校野球選手におけるオフシーズン，プレシーズン，インシーズンでの客観的上肢体幹機能と主観的上肢機能の経時的変化とその関連性．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
47. 松澤寛大，江玉睦明，坂本航大，明田真樹，坂田淳，内田智也，佐藤昇．尺側側副靭帯遠位部損傷による外反と回旋不安定性の違い－Thiel固定遺体を用いた検討－．第37回日本肘関節学会学術集会（岡山）．2025.3.14-3.15.

5　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会（会員），日本臨床スポーツ医学会（正会員），日本膝関節学会（会員），日本スポーツ整形外科学会（会員），日本足の外科学会（会員），日本解剖学会（会員）

2) 学会等でのその他の活動

1. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，一般演題査読
2. JOMU-D-25-00178，査読
3. NSHW-D-25-00004，査読
4. JPTA-Journal] [25-12654]，査読
5. Physical Therapy Research 25-E10389，査読
6. Physical Therapy Research 26-E00005，査読
7. 令和７年度スポーツ庁「スポーツを通じた防災教育推進モデル構築事業」，技術審査
8. 令和７年度スポーツ庁「Sport in Life推進プロジェクト（先端技術を活用したコンディショニング基盤実証研究）」，技術審査
9. 第６回足の構造と機能研究会 学術集会，学術委員，東京，2025.6.7-6.8.
10. 「令和７年度 Sports in Life推進プロジェクト総合事業における調査研究事業」，連携協力団体（担当）

11. 第36回日本整形外科超音波学会，理学療法士プログラム作成協力委員会，沖縄，委員
12. 第６回足の構造と機能研究会 学術集会，特別講演，座長，東京，2025.6.7-6.8.
13. 第６回足の構造と機能研究会 学術集会，シンポジウム４，座長，東京，2025.6.7-6.8.
14. 第36回日本整形外科超音波学会，主題10，座長，沖縄，2025.7.11-7.12.
15. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，ランチョンセミナー，座長，大分，2025.10.17-10.18.
16. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，口述演題，座長，新潟，2025.12.17.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 運動と医学の出版社研修会「教えて江玉先生，河端先生！！腋窩部を徹底解剖」，講師，運動と医学の出版社，理学療法士，WEB開催，2025.4.4.
2. 運動と医学の出版社研修会「教えて江玉先生，宮田先生！！膝関節後内側部を徹底解剖」，講師，運動と医学の出版社，理学療法士，WEB開催，2025.4.11.
3. スポラボ研修会「膝蓋腱障害の発生メカニズムと理学療法評価・治療－肉眼解剖学と生体力学の知見を活かした臨床応用－」，講師，スポラボ，理学療法士，WEB開催，2025.4.18.
4. LANDMARK SEMINAR 04 -膝OA徹底攻略-「膝神経を含む初期OAの治療ターゲットの解剖」，講師，SMAP，理学療法士・医師，WEB開催，2025.4.27.
5. セレッソ大阪メディカルセミナー「ハムストリングと下腿三頭筋の肉離れについて」，講師，セレッソ大阪，理学療法士・アスレティックトレーナー，WEB開催，2025.5.14.
6. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー新潟市中体連部活動指導者研修会，企画・運営，新潟市中学校保健体育・部活動指導者，新潟県健づくり・スポーツ医科学センター，2025.5.31.
7. Spolinkオンラインセミナー「機能解剖学の臨床への活かし方～肉眼解剖学×エコー～」，講師，Spolink，理学療法士，WEB開催，2025.6.18.
8. 体表解剖学研究会セミナー　体幹コース（東京），講師，一般社団法人体表解剖学研究会，東京工科大学，2025.6.21-6.22.
9. 一般社団法人日本ファシアトレーニング研究会特別講演セミナー「足関節と膝関節の可動域制限について」，講師，一般社団法人日本ファシアトレーニング研究会，全国の医師・理学療法士・柔道整復師・鍼灸師など，WEB開催，2025.6.28.
10. 第２回スポーツケアナース認定講習会，運営・企画，新潟スポーツ医・科学コンソーシアム，看護師，新潟医療福祉大学，2025.7.5-7.6.
11. 第２回スポーツケアナース認定講習会，「スポーツ外傷後のRICE処置とテーピング」，講師，新潟スポーツ医・科学コンソーシアム，看護師，新潟医療福祉大学，2025.7.5-7.7.
12. Encounter靴医学セミナー「足の中身，知ってますか？靴とインソールを理解するための解剖学講座」，講師，Encounter，医師・理学療法士，WEB開催，2025.8.2.
13. 第６回NOS先進整形外科エコー研究会研修会.「「扁平足」解剖学的知見から足診療を考える」，講師，NOS先進整形外科エコー研究会，医師・理学療法士，WEB開催，2025.8.3.
14. 第17回中之島運動器研究会特別講演２「スポーツ障害治療のために知っておくべき解剖学の知識」，講師，中之島運動器研究会，医師・理学療法士，WEB開催，2025.8.25.
15. 第12回野球肘研究会夏合宿in新潟（新潟），企画・開催，野球肘研究会，野球関係者，朱鷺メッセ，2025.8.30.
16. 体表解剖学研究会セミナー上肢コース（熊本）一般社団法人体表解剖学研究会，講師，体表解剖学研究会，理学療法士，WEB開催，2025.9.21.
17. 第13回新潟スポーツ傷害フォーラム－新潟県スポーツドクター協会研修会－，企画・開催，新潟スポーツ傷害フォーラム，医師・理学療法士・学生，新潟県健康づくりスポーツ医科学センター，2025.10.12.
18. 新潟市スポーツ指導者講習会，企画，新潟市教育委員会，スポーツ指導者，新潟県健康づくりスポー

ツ医科学センター，2025.10.18.

19. 第25回新潟医療福祉学会学術集会「NQSAPcafe」，企画・運営，新潟医療福祉学会，学会参加者，新潟医療福祉大学，2025.10.25.
20. 東京先進整形外科エッセンシャルセミナー「解剖からみえてくる足関節捻挫の病態」，講師，東京先進整形外科，理学療法士，WEB開催，2025.12.6.
21. スポラボ研修会「足関節捻挫の発生メカニズムと理学療法評価・治療－肉眼解剖学と生体力学の知見を活かした臨床応用－」，講師，スポラボ，理学療法士，WEB開催，2025.12.17.
22. 第13回青少年野球フェスタ2024，企画・運営，野球障害ケア新潟ネットワーク，野球選手・マネージャー・指導者，ハードオフエコスタジアム，2025.12.21.
23. 福岡整形外科病院リハビリテーション科スタッフ　勉強会「膝関節の機能解剖学」，講師，福岡整形外科病院，理学療法士，WEB開催，2026.1.21.
24. 西川整形外科リハビリテーション研究会「肉眼解剖学・解剖学的視点から再考する足関節可動域制限～その可動域制限，本当に関節の問題ですか？～」，講師，西川整形外科，理学療法士，WEB開催，2026.2.27.
25. 体表解剖学研究会セミナーExtra Seminar「動かぬ足首の真犯人を探せ！～足関節背屈可動域制限の体表解剖学的考察～」，講師，一般社団法人体表解剖学研究会，理学療法士，東京工科大学，2026.3.8.
26. 体表解剖学研究会セミナー　下肢コース（東京），講師，一般社団法人体表解剖学研究会，理学療法士，東京工科大学，2026.3.7-3.8.
27. 令和５年度～７年度スポーツ庁委託事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」受託５団体によるシンポジウム，運営，新潟スポーツ医・科学ネットワーク，スポーツ関係者，WEB開催，2026.3.20.
28. 令和７年度新潟市スポーツ指導者講習会，企画，新潟市スポーツ協会，スポーツ指導者，新潟市陸上競技場，2026.1.29，2.5，2.13，2.19，3.5，3.16.

2) 社会活動への参加協力

1. 令和７年度第56回春季北信越大学女子バレーボール選手権大会．メディカルサポート　2025.5.24-5.25.
2. 令和７年度第56回春季北信越大学男子バレーボール選手権大会．メディカルサポート　2025.5.24-5.25.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

スポーツ庁　健康スポーツ課技術審査委員会（技術審査専門員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

スポーツ庁健康スポーツ課技術審査委員会（技術審査専門員），（公社）日本理学療法士協会　運動器分野問題作成部会（部員），（公社）日本理学療法士協会　専門理学療法士口頭試問（審査員），（公社）日本理学療法士協会「理学療法学」（査読委員），（一社）日本理学療法学会連合　理学療法にかかわる研究助成（審査委員），（一社）日本スポーツ理学療法学会（評議員），（一社）日本スポーツ理学療法学会　機関紙調整委員会（委員），（一社）日本基礎理学療法学会（評議員），（一社）日本基礎理学療法学会　理学療法士の超音波画像診断装置使用に関する検討委員会（委員長），（一社）日本基礎理学療法学会・（一社）日本スポーツ理学療法学会・（一社）日本運動器理学療法学会・（一社）日本物理療法学会「理学療法士の超音波画像診断装置の使用についての合同委員会」（委員長），（一社）日本基礎理学療法学会　人体解剖学実習検討委員会（委員），（一社）日本基礎理学療法学会学術誌「基礎理学療法学」（査読委員），（一社）体表解剖学研究会（講師），（一社）新潟県サッカー協会　医科学委員会（委員），特定非営利活動法人 日本臨床運動療法学会（評議員），足の構造と機能研究会（会長），新潟スポーツ理学療法研究会（副会長），新潟スポーツ傷害フォーラム（理事），新潟リハビリテーション病院スポーツ医学総合診療センター拡大運営委員会（委員），新潟スポーツ医・科学コンソーシアム（副会長），新潟スポーツ医・科学コンソーシアム（チーフアドミニストレーター），野球肘研究会（世話人）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，スポーツ庁委託事業「地域のスポーツ医科学支援体制構築事業」，研究代表者.
2. 2025年度，科学研究費，基盤研究B，アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発，研究代表者.
3. 2025年度，科学研究費，国際共同研究加速基金（海外連携研究），腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立，研究代表者.

2) 学外兼務講師等

1. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター非常勤勤務（スポーツ外来），2024.4-2025.3.
2. 日本歯科大学新潟生命歯学部解剖学第一講座　聴講生，2024.4-2025.3.
3. 新潟大学医学部解剖学第一講座　客員研究員，2024.4-2025.3.

8　学内委員会活動　研究・産官学連携推進機構（運営委員），URA推進（室長），研究施設企画委員会（委員），大学院研究環境委員会（委員），入試委員会（委員），科研費対策委員会（サポートディスク担当），アスリートサポート研究センター（副センター長），運動機能医科学研究所（所員），アルビレックス新潟・アルビレックス新潟レディース・新潟リハビリテーション病院連携協定事業（メンバー），新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター運営準備委員会（副委員長），新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター 運営準備委員会 人事関係WG（リーダー），新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター運営準備委員会 予算・財務WG（委員），新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター運営準備委員会 事業プログラムWG（委員）

氏名：大鶴　直史

1　研究題目　痛み，内受容感覚の脳内情報処理に関する研究

2　論文

1. Ogawa Y, Nagasaka K, Ishii D, Nagao A, Ikarashi H, Otsuru N, Onishi H. Enhanced flavoprotein autofluorescence imaging in rats using a combination of thin skull window and skull-clearing reagents. Neuroscience letters (JCR). 2025: 856-858: 138239.（査読あり）
2. Saito K, Otsuru N, Tateishi K, Kurebayashi R, Onishi H. Differential Modulation of the Cortical Alpha Rhythm and Activation of Distinct Neural Networks during Tactile Perception Training by Learners and Non-learners. Frontiers in Neuroscience (JCR). 2025: 19: 1566615.（査読あり）
3. Watanabe H, Kojima S, Otsuru N, Onishi H. Effects of repetitive mechanical tactile stimulation interventions with stationary and moving patterns on paired-pulse depression. BMC Neuroscience (JCR). 2025: 26: 46.（査読あり）
4. Inoue S, Otsuru N, Hara M, Ikarashi H, Iimuro K, Onishi H. VR-induced interoceptive feedback may impact tactile priority in individuals with low interoceptive awareness. Virtual Reality (JCR). 2025: 29: 139.（査読あり）
5. Miyaguchi S, Inukai Y, Igarashi K, Yamamoto S, Otsuru N, Onishi H. Slow-oscillatory transcranial alternating current stimulation over the primary motor cortex improves motor skill acquisition. European Journal of Neuroscience (JCR). 2025: 62: e70269.（査読あり）
6. Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Beta to low-gamma rhythmic brain stimulation over primary motor cortex and supplementary motor area differentially modulates oscillatory neural drives during gait. Experimental Brain Research (JCR). 2025: 243: 233.（査読あり）
7. Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Frequency-specific modulations of oscillatory neural drives to lower leg muscles during gait with aiding and impeding horizontal forces. Journal of Electromyography and Kinesiology (JCR). 2026: 86: 103098.（査読あり）
8. Inoue T, Otsuru N, Hirata A Group-level and Personalized Optimization for the Focal Electric Field

in the Insula and Hippocampus for Transcranial Temporal Interferential Stimulation: A Computational Study. Computers in Biology and Medicine (JCR). 2026: 200: 111374.（査読あり）

9. Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Iimuro K, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Emotional neglect in childhood modulated aperiodic offset in left pars orbitalis in adulthood. Frontiers in Neuroscience (JCR). 2026: 19: 179462.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 長尾彩音，長坂和明，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Distinct cortical responses to dorsal and ventral retrosplenial cortex stimulation: a wide-field imaging study．第48回日本神経科学学会（新潟市），2025.7.24-7.27.
2. 小川有生人，長坂和明，長尾彩音，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-dependent brain activity changes in a rat model of central post-stroke pain．第48回日本神経科学学会（新潟市），2025.7.24-7.27.
3. 安達航希，長坂和明，長尾彩音，小川有生人，鈴木孝昇，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-specific inhibition of somatosensory responses by ventral tegmental area activation．第48回日本神経科学学会（新潟市），2025.7.24-7.27.
4. 渡辺佳音，長坂和明，安達航希，長尾彩音，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．The role of the basolateral amygdala in the onset of central post-stroke pain．第48回日本神経科学学会（新潟市），2025.7.24-7.27.
5. 宮口翔太，犬飼康人，五十嵐貫太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野に対する徐波帯域の経頭蓋交流電流刺激が運動スキルの獲得に与える効果．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.31-11.1.
6. 北谷亮輔，天野明音，渡辺莉茉，大鶴直史，芝田純也，大西秀明．歩行中の一次運動野に対する経頭蓋交流電気刺激による歩行の時空間的指標への影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
7. 五十嵐眸実，大鶴直史，佐藤萌愛，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．冷刺激に対する自律神経応答と内因性疼痛抑制の関連．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.
8. 市川颯太，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．小脳への経頭蓋直流電流刺激による痛覚閾値の変化．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.
9. 中村歩睦，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．島皮質を標的とした時間干渉刺激が心拍変動に与える影響．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.
10. 瀬尾歩，長坂和明，長尾彩音，市村優真，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．心周期が一次運動野の興奮性に与える影響．JAPAN PAIN WEEK2025（東京），2025.12.4-12.6.
11. 小島翔，長坂和明，齊藤慧，大鶴直史，田邊かこ，櫻井典子，児玉直樹，原正之，大西秀明．アスリートと非アスリートに対する擦刺激が脳活動に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
12. 髙橋ひろな，犬飼康人，長坂和明，宮口翔太，櫻井典子，児玉直樹，大鶴直史，大西秀明．若年健常者における閉眼片脚立位バランスと機能的結合との関連安静時の機能的結合解析を用いた検討．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
13. 武田真桜，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，廣瀬貴喜，宮口翔太，齊藤慧，大鶴直史，大西秀明．足底への高頻度反復感覚刺激が動的バランス制御に与える刺激効果の検証．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
14. 廣瀬貴喜，犬飼康人，高橋ひろな，小野優翔，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．バランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の持続性の検証．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
15. 志田光紀，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，武田真桜，廣瀬貴喜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．一

次運動野へのtRNSの刺激実施時期がバランススキルの獲得に与える影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.

16. 渡邉華南，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，廣瀬貴喜，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野および小脳に対する経頭蓋交流電流刺激がバランススキルの獲得に与える効果．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
17. 髙橋ひろな，犬飼康人，長坂和明，宮口翔太，櫻井典子，児玉直樹，大鶴直史，大西秀明．前庭ノイズ電流刺激が閉眼立位バランスに与える影響と効果の個人差に関連する安静時機能的結合の同定．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本理学療法士協会，日本臨床神経生理学会，日本運動器疼痛学会（代議員），日本ペインリハビリテーション学会（代議員），日本生体磁気学会（代議員）

2) 学術集会の主催

1. 第28回日本基礎理学療法学会学術大会，プログラム編成委員，2025.10.17-10.18.
2. 第40回日本生体磁気学会プログラム委員

3) 学会等でのその他の活動

1. Frontiers in human neuroscience誌，review editor
2. Frontiers in Physiology誌，review editor
3. Frontiers in Pain Research誌，review editor
4. 日本理学療法士協会，「理学療法学」査読委員
5. 日本基礎理学療法学会雑誌，査読委員
6. PAIN WEEK2025，査読
7. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，査読委員
8. 日本運動器疼痛学会誌，査読
9. PAIN WEEK2025，座長
10. 第32回日本神経理学療法学会学術大会，司会
11. iSciene，査読
12. Jounal of Advanced Research，査読
13. Cerebral Cortex，査読
14. Journal of Affective disorders，査読
15. Trends in Neuroscience，査読

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. パワーアップチャレンジ，慢性の痛みを考える，講師，日本理学療法士連盟青年局，PT/OT/ST/学生，オンライン，2025.7.5.
2. 慢性疼痛に対する認知行動療法，運動療法オンラインセミナ，慢性疼痛の認知再構成，講師，厚労省慢性疼痛診療システム均てん化事業，医療従事者，新潟市，2025.8.31.
3. 慢性疼痛診療オンライン研究会，痛みの多面的評価，講師，講師，厚労省　慢性疼痛診療システム均てん化事業，医療従事者，オンライン，2025.12.14.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟地方裁判所委員会，その時，裁判所は～災害発生時に必要最低限の司法機能を維持する方策～，委員，新潟地方裁判所，2025.9.24.
2. 新潟県慢性疼痛診療体制構築モデル事業キックオフミーティング，委員，web，2025.5.12.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

厚生労働省慢性疼痛診療体制構築モデルワーキンググループ（診療コーディネーター）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），脳深部に存在する島皮質への非侵襲的な刺激実現と慢性疼痛患者への応用戦略，研究代表者
2. 2025年度，科学研究費補助金　挑戦的研究（萌芽），VRによる内受容情報フィードバックと脳刺激の融合による身体認知変容への挑戦，研究代表者
3. 2025年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），マルチモーダル脳イメージングによる側頭頭頂接合部の特徴解明と知覚学習への応用，研究分担者
4. 2025年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），受傷後アスリートが慢性疼痛発症に至る脳状態の予測指標と予防策の創出，研究分担者
5. 2024年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），非侵襲的ヒト静磁場刺激の創生，研究分担者
6. 2024年度，科学研究費補助金　基盤研究（B），運動記憶を忘却する神経基盤の解明－忘却が誘う運動学習イノベーション－，研究分担者
7. 2022年度，科学研究費補助金　基盤研究（A），内受容感覚を利用した身体感覚の自然な“脱着”，研究分担者
8. 2022年度，科学研究費補助金　挑戦的研究（開拓），運動感覚改変による着身体・脱身体現象の誘発とリハビリ応用，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医歯学総合病院非常勤理学療法士

7　学内委員会活動　科研費対策委員会（委員長），運動機能医科学研究所（所長），次世代デジタルリハビリテーション研究センター（センター長）

氏名：犬飼　康人

1　研究題目　非侵襲的脳刺激法を用いたリハビリテーション介入手法の開発，脳卒中リハビリテーションに関する研究

2　論文

1. Miyaguchi S, Inukai Y, Igarashi K, Yamamoto S, Otsuru N, Onishi H. Slow-Oscillatory Transcranial Alternating Current Stimulation Over the Primary Motor Cortex Improves Motor Skill Acquisition. Eur J Neurosci. 2025; 62(6): e70269.
2. Miyaguchi S, Inukai Y, Muroi M, Yamamoto S, Onishi H. Effects of Cerebellar tACS With Gamma Band on Basketball Shooting Skills: A Single-Blind, Randomized Controlled Trial in College Students With Basketball Experience. Brain Behav. 2025; 15(10): e70943.

3　学会等研究発表

1. 犬飼康人．脳卒中患者に対する理学療法の知と実践．第60回日本理学療法学術研修大会（東京），2025.5.31.【教育講演】

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本臨床神経生理学会，全国理学療法教育学会（総務），日本基礎理学療法学会，日本神経理学療法学会（代議員），日本リハビリテーション医学会，新潟県理学療法士会（理事）

2) 学術集会の主催

1. 第60回日本理学療法学術研修大会，準備委員（財務部長），2025.5.31-6.1.
2. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会（実行委員），2025.12.20-12.21.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第60回日本理学療法学術大会，座長，東京，2025.5.31.
2. 第23回日本神経理学療法学会学術大会，座長，金沢，2025.10.31-11.1.
3. 第23回日本神経理学療法学会学術大会，査読，金沢，2025.10.31-11.1.
4. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，座長，大分，2025.10.17.

5. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，査読，大分，2025.10.17.
6. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，座長，2025.12.20-12.21.
7. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，査読，開始編集，2025.12.20-12.21.
8. 日本神経理学療法学会，神経理学療法学，査読，2025.4.2.
9. 日本神経理学療法学会，神経理学療法学，査読，2025.7.10.
10. 日本神経理学療法学会，神経理学療法学，査読，2025.8.12.
11. 日本神経理学療法学会，神経理学療法学，査読，2025.11.15.
12. 日本神経理学療法学会，神経理学療法学，査読，2025.12.23.
13. 日本神経理学療法学会，神経理学療法学，査読，2026.1.8.
14. 日本理学療法学会連合，理学療法学，査読，2025.5.12.
15. 日本理学療法学会連合，理学療法学，査読，2026.2.3.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会，脳卒中患者に対するクリニカルリーズニングの実践，講師，医療従事者，新潟・新発田リハビリテーション病院，2025.5.14.
2. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会，脳卒中患者に対する理学療法，講師，医療従事者，大阪・星ヶ丘医療センター，2025.7.7.
3. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会，脳卒中患者に対する理学療法，講師，医療従事者，広島・飛翔会グループ，2026.3.8.
4. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会，急性期脳卒中患者に対する理学療法，講師，医療従事者，新潟・長岡赤十字病院，2026.3.8.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

日本理学療法士協会（「理学療法学」査読委員），日本理学療法学会連合（「Physical Therapy Research」査読委員），全国理学療法教育学会（事務局），日本神経理学療法学会（代議員），日本神経理学療法学会（「神経理学療法学」副編集委員長），新潟県理学療法士会（「理学療法新潟」編集院長），新潟県理学療法士会（理事），日本理学療法士協会（「第60回日本理学療法学術研修大会」準備委員），日本神経理学療法学会（新潟地方会リーダー）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本理学療法士協会（「理学療法学」査読委員），日本理学療法学会連合（「Physical Therapy Research」査読委員），全国理学療法教育学会（事務局），日本神経理学療法学会（代議員），日本神経理学療法学会（「神経理学療法学」副編集委員長），新潟県理学療法士会（「理学療法新潟」編集院長），新潟県理学療法士会（理事），日本理学療法士協会（「第60回日本理学療法学術研修大会」準備委員），日本神経理学療法学会（新潟地方会リーダー）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023-2025年度，科研費基盤（C），動的バランス機能を向上させるニューロモデュレーション技術の開発（研究代表者）

7　学内委員会活動　広報委員会，大学院教務委員会，大学院質保証委員会，運動機能医科学研究所，脳卒中リハビリテーション研究センター（センター長）

氏名：久保　雅義

1　研究題目　身体運動解析

2　論文

1. Takabayashi T, Edama M, Inai T, Kubo M. Effects of ankle joint biomechanics and foot postures on Achilles tendon force during running through a simulation study, Spprts Biomech 2025 24 9 2722-

2732.

2. Kikumoto T, Mizutani J, Tsuchida A, Takabayashi T, Kubo M, Okada H, Kon Y. Epidemiology of ankle sprains and anterior cruciate ligament injuries in youth basketball athletes in Niigata, Japan: A regional survey on injury management and healthcare professional involvement, PLoS One 2026 21 3.
3. Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effect of foot-strike pattern during running on cumulative load of Achilles tendon force, planter fascia force, and patellofemoral joint stress, J Sports Sci Med 2025 24 4 747-754.
4. Ogata T, Takabayashi T, Toma H, Kikumoto T, Kubo M. Differences in the Rotation Angles of the Upper, Middle, and Lower Thoracic Spine, Lumbar Spine, and Pelvis During Front Crawl Swimming, Sport Biomech 2025 24 12 3692-3705.

3　学会活動

1) 所属学会　バイオメカニズム学会，日本臨床スポーツ医学会，グローバル人材育成教育学会，日本保健医療福祉連携教育学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Physical Therapy in Spors 査読
2. Gait & Posture 査読
3. Journal of Biomechanics 査読

4　その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績

1. Springboard部（学生の英語クラブ）活動支援

氏名：奈良　貴史

1　研究題目　焼骨の基礎的研究

2　学会活動

1) 所属学会　日本人類学会（理事）・日本解剖学会・日本考古学協会

3　学内委員会活動　自然人類学研究所（所長）

氏名：井上　達朗

1　研究題目　高齢者における低栄養・サルコペニア・フレイルに関する臨床疫学研究，筋量評価法の開発と高齢者アウトカム予測に関する研究

2　著書

1. 日本臨床栄養学会，日本サルコペニア・フレイル学会．サルコペニア・フレイルに関する栄養管理ガイドライン2025．2025.
2. サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアサービスのためのガイドライン開発研究班．サルコペニア・フレイルの予防・改善に関するデジタルヘルスのためのガイドライン．2025

3　論文

1. Masuda R, Inoue T, Oyama Y, Ozawa T, Shimoda N, Tsubaki A. A Low Anterior Thigh Muscle Thickness on the Nonaffected Side, but Not on the Affected Side, Predicts Lower Activities of Daily Living in Patients With Hip Fractures in Acute Care Settings. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26(4): e70488.（査読あり）
2. Ogawa S, Wakabayashi H, Suzuki N, Jinno M, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. HQ11: Does EMS (Electrical Muscle Stimulation) Prevent the Onset and Progression of Sarcopenia in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 78-

79.
3. Ogawa S, Wakabayashi H, Suzuki N, Jinno M, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. HQ10: Do Nutritional Interventions Prevent the Onset and Progression of Sarcopenia in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 74-77.
4. Ogawa S, Wakabayashi H, Suzuki N, Jinno M, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. HQ9: Do Exercise Interventions Prevent the Onset and Progression of Sarcopenia in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 71-73.
5. Sugimoto K, Wakabayashi H, Ueshima J, Nagano F, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. HQ8: Do Nutritional Interventions Prevent the Onset and Progression of Frailty in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 80.
6. Sugimoto K, Wakabayashi H, Ueshima J, Nagano F, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, Rakugi H, Akishita M, Arai H. HQ7: Does Exercise Prevent the Onset and Progression of Frailty in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 68-70.
7. Satake S, Osuka Y, Kozaki K, Makizako H, Shiratsuchi D, Akaida S, Tateishi M, Inoue T, Maeda K, Yamamoto K, et al. HQ6: Do Interventions or Assessments Using Digital Health Services Improve Sarcopenia Among Older Adults With Sarcopenia?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 63-67.
8. Komine H, Matsui Y, Momosaki R, Kameda I, Okamura M, Tsuge T, Sato H, Tohyama M, Nakashima Y, Shirai Y, Inoue T, et al. HQ5: Do Intervention and Evaluation Using Digital Health Services Prevent Sarcopenia in High-Risk Non-Older Adults? English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 51-62.
9. Maeda K, Iijima K, Makizako H, Shiratsuchi D, Akaida S, Tateishi M, Inoue T, et al. HQ4: Do Interventions and Assessments That Use Digital Health Services Prevent Sarcopenia in Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 44-50.
10. Yamamoto K, Shimada H, Yamada M, Kimura Y, Koyama S, Otobe Y, Suzuki M, Kida R. Yamamoto Y, Mimatsu T, Inoue T, et al. HQ3: Do Interventions and Assessments Using Digital Health Services Improve Frailty Status in Frail Older Adults?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 34-43.
11. Inoue T, Yoshimura Y, Momosaki R, Kameda I, Okamura M, Tsuge T, Sato H, Tohyama M, Nakashima Y, Shirai Y, et al. HQ2: Do Interventions and Assessments Using Digital Health Services Prevent Frailty in High-Risk Non-Older Adults Who Are at Risk of Frailty?: English Translation of the Japanese Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 12-33.
12. Akasaka H, Yamada K, Yamada M, Kimura Y, Koyama S, Otobe Y, Suzuki M, Kida R, Yamamoto Y, Mimatsu T, Sato K, Aoki T, Kusumi H, Hamajima T, Sato W, Tanaka S, Fujiwara K, Maetani Y, Ichikawa Y, Kojima I, Terao Y, Ito T, Kimura Y, Inoue T, et al. HQ1: Do Interventions and Assessments Using Digital Health Services Prevent Frailty in Older Adults?: English Translation of the Japanese

Guideline for Digital Health for the Prevention and Improvement of Sarcopenia and Frailty. Geriatr Gerontol Int. 2026; 26 (Suppl 1): 5-11.

13. Amakasu K, Inoue T(責任著者), Saito A, Kamada N, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Kobayashi S, Watanabe Y. Muscle Loss Must Be Interpreted in the Context of Fluid Imbalance: A Dual-Parameter Model Predicts Functional Outcomes After Acute Stroke. Eur Geriatr Med. 2026.（査読あり）
14. Ishida Y, Maeda K, Inoue T, Murotani K, Saito A, Kawase F, Nagano A, Mori N. Malnutrition Defined by the GLIM Criteria Predicts Increased Mortality and Prolonged Hospitalisation among Intensive Care Unit Patients: A Nationwide Database Study. Clin Nutr. 2026; 106657.（査読あり）
15. Shimizu A, Kawase F, Inoue T. Editorial: The Relationship Between Nutrition and Frailty/Multimorbidity: Prevention and Clinical Nutritional Management. Front Nutr. 2026. 27; 13: 1821896.
16. Saito A, Ishida Y, Inoue T, Kawase F, Nagano A, Murotani K, Maeda K. Prognostic Significance of Body Mass Index in Hip Fracture Hospitalizations: A Nationwide Database Study. Clin Nutr ESPEN. 2026; 103115.（査読あり）
17. 柳田光，上谷佑稀，瀧本知未，柳田頼英，井上達朗．低栄養患者のリハビリテーションにおける「運動負荷量の調整」と参照栄養指標に関するWebアンケート調査：単施設における検討．日本栄養・嚥下理学療法学会雑誌．2026；3（1）：40-46.（査読あり）
18. Ozawa T, Inoue T, Naruke T, Sato R, Shimoda N, Yuge M. Absence of Post-Discharge Exercise Habits Predicts Functional Decline in Older Heart Failure Patients — A 6-Month Follow-up Study —. Circ Rep. 2026; 8（3）：410-418.（査読あり）
19. Okamura M, Shirado K, Shirai N, Yagi T, Inoue T, Ogawa M, Sullivan, E. S., von Haehling, S., Springer, J., Anker, S. D., Momosaki R. Combined Nutritional and Exercise Interventions for Cachexia in Chronic Diseases: A Systematic Review and Meta-analysis Limited to Cancer Cachexia. Prog Rehabil Med. 2026; 11: 20260012.（査読あり）
20. Kakiuchi M, Inoue T, Kobayashi H, Tsukamoto A, Nakano G, Kakehi T, Tanaka T, Nishihara M. Admission Systemic Inflammation Predicts Swallowing Decline in Older Adults With Pulmonary Tuberculosis. Clin Nutr ESPEN. 2026; 102913.（査読あり）
21. Ozawa T, Inoue T, Naruke T, Sato R, Shimoda N, Yuge M. Exercise After Hospitalization Is Associated With Lower Readmission Rates in Older Heart Failure Patients Regardless of Prior Exercise Habits. Circ Rep. 2026; 8（2）：219-227.（査読あり）
22. Kuzuya M, Kanno Y, Arai H, Nishiguchi S, Iijima K, Umegaki H, Satake S, Sato S, Shinmura K, Sugimoto K, Inoue T, et al. Nutritional Management Guidelines for Sarcopenia and Frailty 2025. Geriatr Gerontol Int. 2025; 25 (Suppl 2): 5-53.（査読あり）
23. Maekawa K, Nishiwaki T, Yagi T, Kobayashi S, Amakasu K, Kamada N, Saito A, Inoue T(責任著者). In-hospital Physical Activity Predicts Swallowing Function at Discharge in Patients with Hip Fracture: A Prospective Study in Convalescent Rehabilitation Wards. Arch Phys Med Rehabil. 2026; S0003-9993(25)01113-X（査読あり）
24. Nishino K, Inoue T(責任著者), Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Kasai A, Furusawa M, Funayama Y, Tsubaki A, Kubota A, Fujita T, Miyata H. Anterior Thigh Muscle Thickness Normalized by Body Mass Index Is Associated With Falls in Community-Dwelling Adults. Clin Nutr ESPEN. 2025; 70: 406-412.（査読あり）
25. Nozoe M, Inoue T, Ogino T, Okuda K, Yamamoto K. Association Between Undernutrition on Admission and Stroke Severity in Patients With Acute Stroke. Nutr Neurosci. 2025: 1-9.（査読あり）
26. Ishida Y, Maeda K, Shimizu A, Ueshima J, Nagano A, Inoue T, Kawamura K, Sakaguchi T, Murotani K, Mori N. Assessing Mortality and Malnutrition Using Calf Circumference Adjusted for Body Mass Index and Edema as Muscle Mass Reduction Indicators Within the Global Leadership Initiative on

Malnutrition Criteria: A Retrospective Study. Nutr Clin Pract. 2026; 41(1): 187-197.（査読あり）

27. 井上達朗．デジタル技術を活用した多職種連携の強化．J. of Clinical Rehabilitation. 2026；35（3）：267-271.
28. 井上達朗．脳卒中患者における低栄養予防．理学療法．2025；42（10）：876-883.
29. 井上達朗．セッティング別の転倒・転落の予防と対策：（4）生活期（地域，在宅）―身体抑制含む―．J. of Clinical Rehabilitation．2025；34（10）：1064-1069.
30. 井上達朗．科研費若手研究．報告書．代表
31. 井上達朗．長寿医療研究開発費．報告書．分担
32. 井上達朗．新潟市医師会地域医療研究助成．報告書．代表
33. 井上達朗．日本老年医学会 高齢者栄養研究助成．報告書．代表

4　学会等研究発表

1. Kamada N, Inoue T, Ogino T, Amakasu K, Saito A, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Kobayashi S, Wada Y, Aoyagi Y. Malnutrition with High Body Fat Increase Complication Risk after Gastrointestinal Cancer Surgery in Older Adults. 第15回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14．金沢市【優秀演題セッション】
2. 前川健一郎，井上達朗，前田圭介，川村皓生，石田優利亜，永野彩乃，大下佳織，森沢知之，森直治．回復期リハ病棟における大腿骨近位部骨折患者のGLIM基準で診断した低栄養は低ADLの予測因子である．第15回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14．金沢市
3. 柳田光，上谷佑稀，瀧本知未，井上達朗．回復期病棟に入院した運動器疾患患者のGLIM基準による低栄養は機能改善不良に影響する．第15回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14．金沢市
4. 井上達朗．大学教員や学生指導者が栄養を教える際の勘所．第15回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14．金沢市【教育講演】
5. Furusawa M, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Kasai A, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Brown A, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Sarcopenic Obesity by Japanese Working Group on Sarcopenic Obesity and the Association with 6-Minute Walk Distance. 第15回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14．金沢市
6. Brown A, Inoue T, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Kasai A, Furusawa M, Kobayashi S, Wakunami Y, Kushi S, Wakunami A. The Cut-off Values of Mid-Upper Arm Circumference for Malnutrition Diagnosis Using GLIM in Older Japanese Patients. 第15回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14．金沢市
7. 齋藤新貴，石田優利亜，井上達朗，川瀬文哉，永野彩乃，室谷健太，前田圭介．大腿骨近位部骨折患者における入院時BMIと院内死亡・院内転帰の非線形的関連：全国入院データベース研究．第15回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2026.3.14．金沢市【YIAセッション】
8. 鎌田夏未，井上達朗，荻野拓也，甘粕康太，齋藤新貴，小林壮太，和田勇治，青柳陽一郎．消化器がん患者における術後の抑うつ発症は退院時の身体的QOL低下と関連する．第14回日本がんリハビリテーション学会学術集会，2026.3.1．高崎市【優秀演題セッション】
9. 高木咲穂子，前田圭介，宮原周三，井上達朗，佐竹昭介，赤津裕康．GLIM基準重症度判定における四肢骨格筋指数と除脂肪量指数のカットオフ値．第41回日本栄養治療学会学術集会，2026.2.13．横浜市【フェローシップ賞セッション】
10. ブラウン章子，井上達朗，齋藤新貴．リハビリテーションを実施した高齢入院患者における低栄養診断のための上腕周囲長のカットオフ値の検討．第41回日本栄養治療学会学術集会，2026.2.13．横浜市
11. 井上達朗．学術の信頼性を支える査読－基本姿勢と実践的アプローチ－．第41回日本栄養治療学会学術集会，2026.2.13．横浜市【教育講演】
12. 井上達朗．栄養治療における理学療法士のBest Action－科学的根拠と実践－．第３回日本栄養・嚥下理学療法学会サテライトカンファレンス，2026.1.25．オンライン【教育講演】

13. 井上達朗．ライフログデータを活用したフレイル早期検知と予防を支える包括的エコシステムの構築．令和７年度新潟市医師会地域医療研究助成 発表会，2026.1.24．新潟市【受賞者講演】
14. 甘粕康太，井上達朗，小林壮太，齋藤新貴，鎌田夏未，ブラウン章子，笠井紅里，古澤芽依，丸山麻樹，渡部裕美子．急性期軽症脳卒中患者において細胞外水分比の増加を考慮した位相角の低下は退院時の機能低下を予測する．第４回日本老年療法学会学術集会，2025.12.6．東京
15. 吉岡亮伍，小林壮太，井上達朗，河井琉飛，高橋南子，大橋美心，笠井紅里，古澤芽依，西野光貴，椿淳裕．異なる生体電気インピーダンス装置で算出される四肢除脂肪量は固定誤差を生じる．第４回日本老年療法学会学術集会，2025.12.6．東京
16. 井上達朗．「低栄養」に対する老年療法の『しんか』．第４回日本老年療法学会学術集会，2025.12.6．東京【教育講演】
17. 井上達朗．高齢骨折患者に対する老年栄養学的および代謝栄養学的視点．第13回日本運動器理学療法学会学術集会，2025.11.23．大阪市【シンポジウム】
18. 井上達朗．リハビリテーションからみたサルコペニア・フレイルの原因の臨床推論．第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会，2025.11.1．熊本市【シンポジウム】
19. 井上達朗．「サルコペニア・フレイルの予防・改善に関するデジタルヘルスのガイドライン」の概要．第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会，2025.11.2．熊本市【シンポジウム】
20. 鎌田夏未，井上達朗，甘粕康太，齋藤新貴，小林壮太，和田勇治，青柳陽一郎．外科手術を受ける消化器がん患者における術前の身体的QOLの低下は退院時の身体機能を低下させる．第８回日本がん・リンパ浮腫理学療法学会学術大会，2025.11.2．さいたま市
21. 葛西祐之介，井上達朗，五十嵐貫太，新山祐貴，小澤哲也，佐藤隆一，霜田直史．救急科に入院した高齢入院患者のオトガイ舌骨筋の低横断面積は非自宅退院のリスク要因である．第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会，2025.11.1．熊本市
22. 甘粕康太，井上達朗，小林壮太，齋藤新貴，鎌田夏未，ブラウン章子，笠井紅里，古澤芽衣，丸山麻樹，佐藤卓也，渡部裕美子．体液量が減少した急性期高齢脳卒中患者の細胞外水分比の上昇とSMI低下の併存は退院時の機能的指標を低下させる．第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会，2025.11.1．熊本市
23. 五十嵐貫太，新山祐貴，小澤哲也，佐藤隆一，霜田直史，井上達朗．救急科入院患者におけるオトガイ舌骨筋の低横断面積は入院中の嚥下機能を低下させるリスク因子である．第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会，2025.11.1．熊本市【優秀演題セッション】
24. 片桐里央，井上達朗，平田萌々花，小澤哲也，小澤祐治，佐藤隆一，椿淳裕，霜田直史，鈴木良介．急性期脳卒中患者における低身体活動量は合併症の発症を高める．第23回日本神経理学療法学会学術大会，2025.10.31．金沢市
25. 井上達朗．ガイドラインの今後の展望．健康長寿のためのデジタルヘルスコンソーシアム設立記念シンポジウム，2025.10.30．東京【教育講演】
26. Furusawa M, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Kodama N, Sakurai N, Izumi T, Kamiya K, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Exploring a Thenar Muscle-Based Index for Skeletal Muscle Mass: MRI-Based Validation and Community Application. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. 2025.10.17. Kaohsiung【優秀演題セッション】
27. Kasai A, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Furusawa M, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Multidomain Frailty Assessment Predicts One-Year Incidence of Mild Cognitive Impairment in Community-Dwelling Middle and Older Adults. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17. Kaohsiung
28. Saito A, Inoue T, Ishida Y, Kawase F, Nagano A, Murotani K, Maeda K. Association of Osteosarcopenia at Admission With In-Hospital Fracture and Outcomes in Acute Stroke: A Nationwide Database Study. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17.

Kaohsiung

29. Amakasu K, Inoue T, Kobayashi S, Saito A, Kamada N, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Watanabe Y. Low Muscle Mass Persists Despite a Higher Extracellular Water-to-Total Body Water Ratio, and Their Combination Predicts the Poorest Functional Outcome in Patients With Acute Stroke. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17. Kaohsiung
30. Kamada N, Inoue T, Ogino T, Kobayashi S, Amakasu K, Saito A, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Wada Y, Aoyagi Y. Sarcopenic Obesity Diagnosed by the Japanese Working Group Criteria in Gastrointestinal Cancer Patients: Prevalence and Association with Postoperative Complications. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17. Kaohsiung
31. Kobayashi S, Inoue T, Shinohara T, Imai T, Yamaura T, Sakakibara N, Ishibashi K, Watanabe M, Tsubaki A. The Life-Space Assessment for Institutionalized Settings–Proxy Reflects High Therapeutic Activity in Hospitalized Patients. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2025.10.17. Kaohsiung
32. Inoue T, Maeda K, Ishida Y, Kawase F, Saito A, Nagano A, Ueshima J, Miyahara S, Saino Y, Murata H, Murotani K. Delayed Meal Provision Increases Risk of Hospital-Associated Disability, Complications, and Prolonged Length of Stay in Older Patients with Heart Failure: A Nationwide Study. 47th ESPEN Congress on Clinical Nutrition & Metabolism, 2025.9.13. Prague, Czech Republic【優秀ポスター賞】
33. Saito A, Ishida Y, Inoue T, Kawase F, Nagano A, Ueshima J, Murotani K, Maeda K. Association of BMI With In-Hospital Mortality and Clinical Outcomes in Patients With Hip Fracture: A Nationwide Inpatient Database Study. 47th ESPEN Congress on Clinical Nutrition & Metabolism, 2025.9.13. Prague, Czech Republic【優秀ポスター賞】
34. 八木拓磨，井上達朗，小川真人，岡村正嗣，白土健吾，白井信行，平郡康則，谷宮尚樹，岡田梨沙．外来血液透析を受けている慢性腎臓病患者におけるAWGC基準による悪液質診断の妥当性．第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会，2025.9.6．東京
35. 五十嵐貫太，新山祐貴，小澤哲也，佐藤隆一，霜田直史，井上達朗．救急科入院患者におけるオトガイ舌骨筋の筋断面積は入院関連機能低下に影響する．第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会，2025.9.6．東京【セレクション演題セッション】
36. 井上達朗．整形外科疾患に対する栄養嚥下理学療法．第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会，2025.9.6．東京【教育講演】
37. 井上達朗．佐渡島におけるフレイル予防の取り組み．新潟県フレイル対策二次予防事業等実施報告会，2025.7.7．新潟市
38. 井上達朗．理学療法士が代謝栄養学を学ぶ意義．日本外科代謝栄養学会第62回学術集会，2025.7.4．東京【シンポジウム】
39. 井上達朗．筋・骨同時測定によるオステオサルコペニア評価法の開発と栄養学的バイオマーカーの解明．第67回日本老年医学会学術集会，2025.6.29．幕張【受賞者講演】
40. 井上達朗．令和５年度 新潟県フレイル克服プロジェクト 事業実施報告書（県委託事業：リハビリテーション提供体制検討業務）運動機能と認知機能の測定会-トキめき会活動報告-
41. 石田優利亜，前田圭介，井上達朗，室谷健太，齋藤新貴，川瀬文哉，永野彩乃，森直治．集中治療室入室患者におけるGLIM基準に基づく低栄養と死亡リスクの関連―全国後ろ向きコホート研究．第29回日本病態栄養学会年次学術集会，2026.1.30．京都市.

5　学会活動

1) 所属学会　日本栄養・嚥下理学療法学会（副理事長），日本老年療法学会（理事，広報委員長），日本栄養治療学会（代議員，学術評議員，関東甲信越ブロック世話人），日本リハビリテーション栄養学会（副理事長，教育委員会委員，論文賞選考委員会委員，理学療法士部会役員，国際委員会委員），日本骨粗鬆症学会

（骨粗鬆症リハビリテーション委員会　委員），日本転倒予防学会（学術委員），健康長寿のためのデジタルヘルスコンソーシアム（理事），日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本サルコペニア・フレイル学会（代議員），日本老年医学会，日本老年社会科学会，日本臨床疫学会，European Society of Clinical Nutrition and Metabolism，日本栄養嚥下理学療法学会誌 編集委員長

2) 学術集会の主催

1. 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会　実行委員，2024.4-
2. 第１回日本理学療法学会連合学術総会　企画委員，2024.4-
3. 第12回日本予防理学療法学会・栄養嚥下理学療法学会学術大会　実行委員，2024.4-

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本栄養・嚥下理学療法学会 副理事長
2. 日本栄養・嚥下理学療法学会誌 編集委員長
3. 日本老年療法学会　理事，広報委員長
4. 日本栄養治療学会　代議員，学術評議員，関東甲信越ブロック世話人
5. 日本リハビリテーション栄養学会　副理事長，教育委員，論文賞選考委員，国際委員，理学療法士部会　役員
6. 日本骨粗鬆学会　骨粗鬆症リハビリテーション委員会　委員
7. 日本転倒予防学会，学術委員，転倒予防ガイドワーキンググループ委員
8. サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアサービスのためのガイドライン　ガイドライン作成委員
9. サルコペニア・フレイルの栄養管理に関するガイドライン　ガイドライン作成委員
10. 健康長寿のためのデジタルヘルスコンソーシアム　理事
11. 誤嚥性肺炎に関するガイドライン　ガイドライン作成委員
12. 日本理学療法士協会　理学療法にかかわる研究助成　審査委員
13. 第10回日本栄養嚥下理学療法学会 シンポジウム座長
14. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会 教育講演座長
15. The Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle 査読
16. Progress in Rehabilitation Medicine 査読
17. Geriatrics & Gerontology International 査読
18. European Geriatric Medicine 査読
19. Clinical Nutrition 査読
20. Clinical Nutrition ESPEN 査読
21. 学会誌JSPEN，査読
22. リハビリテーション栄養，査読
23. Archives of Gerontology and Geriatrics 査読
24. JMA Journal 査読

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 井上達朗．サルコペニア・フレイル総論．領域別研修会（予防領域）「臨床でのサルコペニア・フレイルの基礎と予防・介入」，講師．新潟県理学療法士協会．2026.3.21．新潟市
2. 井上達朗．リハビリテーションからみた栄養と骨格筋量評価．みどり病院 研修会，講師．2025.11.21．新潟市
3. 井上達朗．こどものサルコペニアについて．小児栄養オンラインサロン，講師．2025.11.19．オンライン
4. 井上達朗．リハ・栄養・口腔管理の三位一体について．2025年度兵庫県栄養士会生涯教育研修会，講師．2025.7.19．オンライン

5. 井上達朗．栄養と理学療法について．第５回フレイル克服対策講演会，講師．新潟県健康づくり財団（新潟県委託事業）．新潟市．2026.2.21.
6. 井上達朗．骨粗鬆症性骨折における骨粗鬆症・サルコペニア・フレイル．XPERTオンラインセミナー，講師．XPERT．理学療法士・作業療法士等の医療専門職．オンライン．2025.12.16.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
1. 転倒予防学会学術委員会転倒予防実践ガイドワーキンググループ，井上達朗，永井宏達，牧野真弓，加藤真由美，平松知子，油野規代，田中雅博，桂木聡子．転倒予防実践ガイド―多職種連携のためのケースファイル「ケース２：回復期リハビリテーション病棟に入院中の認知機能低下を有する大腿骨近位部骨折症例」．2025.

3) 社会活動への参加協力
1. 新潟県健康づくり財団，慶応義塾大学，北里大学，新潟医療福祉大学，東京大学，トキめき会（地域住民の身体機能・認知機能の測定）．佐渡市総合体育館，2025.6.19-6.22.
2. 新潟県健康づくり財団，慶応義塾大学，北里大学，新潟医療福祉大学，東京大学，トキめき会（地域住民の身体機能・認知機能の測定）．佐渡市総合体育館，2024.12.19-12.21.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟市健康づくり推進委員会委員，魚沼市におけるデータを活用したフレイル予防モデル事業 ワーキンググループ委員，新潟県フレイル克服プロジェクト 委員

5) 職能団体（協会，士会等）の委員
日本栄養・嚥下理学療法学会（副理事長），日本老年療法学会（理事，広報委員長），日本栄養治療学会（代議員，学術評議員，関東甲信越ブロック世話人），日本リハビリテーション栄養学会（副理事長，教育委員会委員，論文賞選考委員会委員，理学療法士部会役員，国際委員会委員），日本骨粗鬆症学会（骨粗鬆症リハビリテーション委員会　委員），日本転倒予防学会（学術委員），健康長寿のためのデジタルヘルスコンソーシアム（理事），日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本サルコペニア・フレイル学会（代議員），日本老年医学会，日本老年社会科学会，日本臨床疫学会

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2022年度，日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究，母指球筋を用いた新たな筋量指標の開発と疾患予後を予測する指標への応用，研究代表者
2. 2024年度，日本栄養治療学会，リアルワールドデータを活用した入院関連機能障害予防のための多面的栄養 治療プログラムの開発と効果検証に関する研究，研究代表者
3. 2024年度，新潟市医師会 令和７年度新潟市医師会地域医療研究助成，AIとライフログデータを活用したフレイル早期検知と予防を支える包括的エコシステムの構築，研究代表者
4. 2025年度，長寿医療研究開発費 誤嚥性肺炎の治療と予防に関するガイドライン開発研究，研究分担者
5. 2025年度，トキめき会 寄付金 ３件

2) 受賞，学位取得，資格取得
1. 齋藤新貴，石田優利亜，井上達朗，川瀬文哉，永野彩乃，室谷健太，前田圭介．大腿骨近位部骨折患者における入院時BMIと院内死亡・院内転帰の非線形的関連：全国入院データベース研究．YIA賞（2026年3月，第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会）
2. Kamada N, Inoue T, Ogino T, Amakasu K, Saito A, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Kobayashi S, Wada Y, Aoyagi Y. Malnutrition with High Body Fat Increase Complication Risk after Gastrointestinal Cancer Surgery in Older Adults. 優秀演題賞（2026年3月，第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会）.
3. 鎌田夏未，井上達朗，荻野拓也，甘粕康太，齋藤新貴，小林壮太，和田勇治，青柳陽一郎．消化器がん患者における術後の抑うつ発症は退院時の身体的QOL低下と関連する．優秀演題賞（2026年2月，

第14回日本がんリハビリテーション学会学術集会).

4. 高木咲穂子，前田圭介，宮原周三，井上達朗，佐竹昭介，赤津裕康．GLIM基準重症度判定における四肢骨格筋指数と除脂肪量指数のカットオフ値．フェローシップ賞（2026年2月，第41回日本栄養治療学会学術集会).
5. 五十嵐貫太，新山祐貴，小澤哲也，佐藤隆一，霜田直史，井上達朗．救急科入院患者におけるオトガイ舌骨筋の低横断面積は入院中の嚥下機能を低下させるリスク因子である．大会長賞（2025年10月，第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会).

3) 学外兼務講師等

1. 国立長寿医療研究センター　老年内科　外来研究員

8　学内委員会活動　新潟連携教育研究センター運営委員会（委員），社会連携推進センター運営委員会（委員），運動機能医科学研究所（研究員），互助会（委員）

氏名：佐宗　亜衣子

1　研究題目　古人骨の口腔内古病理・健康指標にに関する研究，遺跡出土人骨群の形態学的研究，理化学分析と連携した人骨による墓制研究

2　著書

1. 佐宗亜衣子，久保大輔，水嶋崇一郎，諏訪元．設楽博己編．『陸前　大洞貝塚の研究　－東京大学総合研究博物館所蔵1925年発掘全資料－』東京：雄山閣；2025：200-217.
2. 佐宗亜衣子．設楽博己編．『陸前　大洞貝塚の研究　－東京大学総合研究博物館所蔵1925年発掘全資料－』東京：雄山閣；2025：261-263.
3. 米田穣，尾嵜大真，大森貴之，佐宗亜衣子．設楽博己編．『陸前　大洞貝塚の研究　－東京大学総合研究博物館所蔵1925年発掘全資料－』東京：雄山閣；2025：263-267.
4. 佐宗亜衣子，水嶋崇一郎，菅原弘樹．菅原弘樹編．『里浜貝塚　総括報告書（東松島市文化財調査報告書第27集)』松島市：松島市教育委員会；2025：433-436.

3　学会等研究発表

1. 佐宗亜衣子，水野文月．廃屋墓は家族の埋葬地点なのか？－mtDNA分析からみた廃届埋葬人骨の血縁関係－．日本考古学協会第91回総会（つくば市），2025.5.24-5.25.
2. 佐宗亜衣子，奈良貴史．牧野家８代正室　長姫に認められた煙管の使用痕．第79回日本人類学会（下関市），2025.10.10-10.13.
3. 佐伯史子，佐宗亜衣子，米田穣，水嶋崇一郎，澤田純明．神奈川県三浦半島西ノ浜洞穴遺跡から出土した弥生～古墳時代の人骨．第79回日本人類学会（下関市），2025.10.10-10.13.
4. 加藤雅彦，水野文月，中伊津美，青砥早希，谷口康浩，近藤修，松下真実，松下孝幸，門叶冬樹，佐宗亜衣子，米田穣，林美千子，王瀝，石谷孔司，渡部裕介，一色真理子，黒崎久仁彦，植田信太郎，大橋順．縄文人ゲノムの時代的変化に関する検討．第79回日本人類学会（下関市），2025.10.10-10.13.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（理事，会計監査），日本人類学会（評議委員），American Associacion of Biological Anthropologists，日本解剖学会，日本考古学協会，日本古病理学研究会

2) 学術集会の主催

1. 日本考古学協会，新潟大会，大会事務局員，新潟市，2025.10.25-10.26・2024.3-2025.10.

3) 学会等でのその他の活動

1. Niigata Journal of Health and Welfare，編集委員
2. Antropological Science (Japanese Series)，編集委員
3. Anatomical Science International，査読
4. 第四紀研究，査読
5. 総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター，三浦半島における先史時代人類の生業活動と古環

境」プロジェクト，毘沙門洞穴人骨の調査，三浦市，2024.7-2025.3.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 骨学セミナー，運営，自然人類学研究所，一般市民，新潟医療福祉大学，2024.8.19-8.23.
2. 骨学セミナー，講師，性別判定と年齢推定，自然人類学研究所，一般市民，新潟医療福祉大学，2024.8.19-8.23.
3. シンポジウム「埋もれた家に眠る人骨　－根郷貝塚でみつかった5,000年前の廃屋墓のなぞに迫る－」，主催・運営，一般市民，千葉県鎌ケ谷市，2026.3.8.
4. シンポジウム「埋もれた家に眠る人骨　－根郷貝塚でみつかった5,000年前の廃屋墓のなぞに迫る－」，「まとめ－人骨の総合的分析で何がわかったのか－」，講演，一般市民，千葉県鎌ケ谷市，2026.3.8.

2) 社会活動への参加協力

1. 公益法人福島県文化振興財団，川俣町前田遺跡人骨の整理作業に関する指導・助言，福島市，2025.4.1-2026.3.31.
2. 神奈川県立歴史博物館，三浦半島海蝕洞穴出土人骨の資料整理，横浜市，2025.4.1-2026.3.31.
3. 八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館，是川出土人骨の鑑定，八戸市，2025.11.0-2026.3.31.
4. 東京大学総合研究博物館，人骨の整備および資料報告出版に関する助言，文京区，2025.4.1-2026.3.31.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024，基盤研究（A），骨考古学とDNA分析から読み解く「縄文村1000年間のファミリーツリー」，研究代表者
2. 2024，挑戦的研究（萌芽），実証的研究で明らかにする江戸の歯科学，研究代表者
3. 2024，学術変革（A）公募研究，三浦半島海食洞穴出土人骨の骨考古学的研究から明らかにする関東弥生時代の社会構造，研究代表者
4. 2025，基盤研究（C），三浦半島相模湾沿岸に暮らした弥生・古墳期の海人：海蝕洞窟出土人骨の骨考古学的分析，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 慶應義塾大学通信教育学部，人類学，2024.10.6-2025.1.17.
2. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校看護学科，解剖生理学Ⅰ・Ⅱ，2024.4.1-9.30.
3. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校歯科衛生学科，解剖・生理学，2024.4.1-9.30.
4. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校歯科衛生学科，国試対策（解剖生理学），2025.1.25.

7　学内委員会活動　学術委員会，英文誌編集委員，自然人類学研究所，ハラスメント委員

氏名：菊元　孝則

1　研究題目　膝前十字靭帯損傷予防への科学的基礎，バスケットボール選手の運動機能に関する研究，慢性足関節不安定症が膝関節のバイオメカニクスに与える影響

2　論文

1. Kikumoto T, Mizutani J, Tsuchida A, Takabayashi T, Kubo M, Okada H, Kon Y. Epidemiology of ankle sprains and anterior cruciate ligament injuries in youth basketball athletes in Niigata, Japan: A regional survey on injury management and healthcare professional involvement. PLoS One. (JCR). 2026 Mar 12; 21(3): e0344196. doi: 10.1371/journal.pone.0344196.
2. Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effects of Foot-Strike Patterns During Running on Cumulative Load of Achilles Tendon Force, Plantar Fascia Force, and Patellofemoral Joint Stress. J Sports Sci Med. (JCR). 2025 Nov 1; 24(4): 747-754. doi: 10.52082/jssm.2025.747.
3. Hiratsuka S, Takabayashi T, Watanabe T, Kikumoto T, Kubo M. Classification of Kinematic Coupling

Patterns Between Lower Limb Joints During Running. Journal of Orthopaedic Research. (JCR). 2025; 43(6): 1171-1178.

4. Watanabe T, Takabayash T, Kikumoto T, Kikuchi Y, Kubo M. Intra-Foot Coordination and Its Variability During Walking in Males With and Without Chronic Ankle Instability. Journal of the American Podiatric Medical Association. (JCR). 2025; Volume 29: 1-31.
5. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. Journal of Athletic Training. (JCR). 2025; Mar 10.
6. Ogata T, Takabayashi T, Toma H, Kikumoto T, Kubo M. Differences in the rotation angles of the upper, middle, and lower thoracic spine, lumbar spine, and pelvis during front crawl swimming. Sports Biomech. (JCR) 2025 Dec; 24(12): 3692-3705. doi: 10.1080/14763141.2025.2555368. Epub 2025 Sep 8.
7. Anthony Laigo, Kikumoto T, Takabayashi T, Watanabe T, Kikuchi Y, Kubo M. Effects of differing platform orientations on forefoot and hindfoot kinematics in chronic ankle instability during single leg landing. Physical Therapy in Sports. (JCR). 2025; Volume73: 114-120

3　報告書

1. 菊元孝則，久保雅義，高林知也，大森豪．科研費 研究基盤（C），慢性足関節不安定症が膝前十字靭帯損傷の危険因子となるメカニズムの検証，報告書，2025-2028，研究代表者

4　学会等研究発表

1. Kikumoto T, Okuya M, Takabayashi T, Kubo M. Single-legged landing behavior of high school basketball players with chronic ankle instability. REHABILITATION SCIENCE CONVENTION 2025 (Manila・Philippine), 2026.3.9.
2. Okuya M, Kikumoto T, Suzuki S, Takabayashi T, Kubo M. The diagnostic value of length change rate between the fibular lateral malleolus and talus in relation to anterior cruciate ligament injury risk. REHABILITATION SCIENCE CONVENTION 2025 (Manila・Philippine), 2026.3.9.
3. 菊元孝則，奥谷真央，鈴木駿佑，高林知也，久保雅義．膝蓋腱の伸長率と着地時における脛骨前方剪断力の関連性 -膝前十字靭帯損傷予防に向けた運動力学的検討-．第12回 日本スポーツ理学療法学会学術集会（北海道・札幌市），2025.11.29-11.30.
4. 奥谷真央，菊元孝則，鈴木駿佑，高林知也，久保雅義．膝蓋腱の伸長率と着地時における膝伸展モーメントの関連性 -膝前十字靭帯損傷予防に向けた運動力学的検討-．第12回 日本スポーツ理学療法学会学術集会（北海道・札幌市），2025.11.29-11.30.
5. 小松未央，菊元孝則，高林知也，久保雅義．腓骨外果と距骨間の離開率が潜在的な足関節機能に及ぼす影響．第12回 日本スポーツ理学療法学会学術集会（北海道・札幌市），2025.11.29-11.30.
6. 菊元孝則，小林真里奈，高林知也，久保雅義，江玉睦明，大森豪．スポーツ障害予測における機能的動作評価の意義 ～Functional Movement Screen®の項目別分析からの示唆～．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉県・千葉市），2025.11.2-11.3.
7. 奥谷真央，菊元孝則，鈴木駿佑，高林知也，久保雅義．荷重下における膝蓋腱の伸長性とDrop Vertical Jump中の膝関節モーメントとの関連．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉県・千葉市），2025.11.2-11.3.
8. 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，久保雅義．反発性の異なるインソールがアキレス腱張力に与える影響．第６回足の構造と機能研究会学術集会（東京都・文京区），2025.6.7-6.8.
9. 大塚駿平，高林知也，菊元孝則，久保雅義．片脚着地におけるTurnout角度の違いが足関節・足部内運動へ及ぼす影響．第６回足の構造と機能研究会学術集会（東京都・文京区），2025.6.7-6.8.
10. 角田彪瑠，高林知也，平塚栞，菊元孝則，久保雅義．曲線路ランニングにおける足・膝・股関節キネマティ

クスの左右差．第６回足の構造と機能研究会学術集会（東京都・文京区），2025.6.7-6.8.

11. 岩崎有真，高林知也，佐藤慎之助，菊元孝則，久保雅義．投球動作における踏み込み脚の膝関節伸展運動が肘関節モメントに与える影響とそのメカニズムの検討．第12回 日本スポーツ理学療法学会学術集会（北海道・札幌市），2025.11.29-11.30.
12. 佐藤希美花，高林知也，西口ほのか，角田彪瑠，菊元孝則，久保雅義．曲線路ランニング中における左右下肢のアキレス腱張力の違い．第12回 日本スポーツ理学療法学会学術集会（北海道・札幌市），2025.11.29-11.30.
13. 佐藤慎之助，高林知也，岩崎有真，野村弦玄，菊元孝則，久保雅義．捕手における捕球前ステップの有無は肩・体幹キネマティクスへ影響を与えるのか？．第12回 日本スポーツ理学療法学会学術集会（北海道・札幌市），2025.11.29-11.30.
14. 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，久保雅義．インソールの反発性の違いが前足部接地ランニング時のアキレス腱張力に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉県・千葉市），2025.11.2-3
15. Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effect of different insole resilience on planter fascia force during walking. 14th Pan-pacific conference on rehabilitation (Hong kong), 2025.11.8-11.9.
16. 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，久保雅義．インソールの反発性の違いが前足部接地ランニング時の足底腱膜張力に与える影響．第12回 日本スポーツ理学療法学会学術集会（北海道・札幌市），2025.11.29-11.30.
17. 角田彪瑠，高林知也，西口ほのか，菊元孝則，久保雅義．曲線路ランニング中における左右下肢のアキレス腱張力の違い．第12回 日本スポーツ理学療法学会学術集会（北海道・札幌市），2025.11.29-11.30.
18. 島谷美海花，菊元孝則，高林知也，江玉睦明，久保雅義．膝前十字靭帯再建術者における遠心性収縮時のトルク発揮率と大腿四頭筋の筋内脂肪量との関係．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉県・千葉市），2025.11.2-11.3.
19. 島谷美海花，菊元孝則，高林知也，久保雅義．前十字靭帯再建術後における大腿四頭筋内脂肪量と等尺性トルク発揮率の関係．第12回 日本スポーツ理学療法学会学術集会（北海道・札幌市），2025.11.29-11.30.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本スポーツ理学療法学会（国際委員会 国際資格検討部会 部会長），日本体力医学会，日本臨床スポーツ医学会，日本バスケットボール学会，日本体育学会，日本アスレティックトレーニング学会

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー，新潟市中体連部活動指導者研修会，講師，新潟市体育連盟，中学生部活動指導者，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.10.5.
2. 新潟市スポーツ協会指導者研修会，講師，公益財団法人新潟市スポーツ協会，スポーツ指導者，新潟市陸上競技場，2026.2.19.
3. 新潟県バスケットボール協会セミナー，スポーツ医科学委員会オンライン研修会，講師，一般財団法人 新潟県バスケットボール協会，バスケットボール指導者，オンライン開催，2025.10.26.

2) 社会活動への参加協力

1. 日本スポーツ理学療法学会国際委員会 国際認定資格検討部会，部会長，新潟市など，2025.4.1-2026.3.31.
2. 一般財団法人 新潟県バスケットボール協会 スポーツ医科学委員会，副委員長，新潟市など，2025.4.1-2026.3.31.
3. 新潟県高等学校体育連盟，高校総体バスケットボール大会メディカルサポート，新潟市・鳥屋野体育館，2025.6.1-6.2.

4. 新潟県高等学校体育連盟，北信越総体バスケットボールメディカルサポート，福井市・福井県総合体育館，2025.6.14-6.15.
5. 一般財団法人 新潟県バスケットボール協会，新潟県青年国体男子チーム メディカルサポート，千葉県・船橋市立船橋高校，2025.8.14-8.15.
6. 開志国際高等学校 男子バスケットボール部，第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会SoftBankウインターカップ2025，メディカルサポート，東京体育館，2024.12.23-12.29.
7. 新潟県バスケットボール協会，第54回BSN杯新潟県高等学校バスケットボール大会メディカルサポート，新潟市・新潟市東総合スポーツセンター，新潟市鳥屋野体育館，2025.1.24-1.26.
8. 新潟県バスケットボール協会，第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会新潟県予選会メディカルサポート，胎内市・胎内市総合体育館，2025.11.4.
9. 一般財団法人 新潟県バスケットボール協会，新潟県成年国体女子チーム メディカルサポート，石川県・北陸大学，2025.8.23-8.24.
10. 胎内市バスケットボール連盟，第４回胎内カップバスケットボールフェスティバルメディカルサポート，胎内市・ぷれすぽ胎内，2025.10.4-10.5.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般財団法人 新潟県バスケットボール協会（スポーツ医科学委員会 副委員長）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費 研究基盤（C），慢性足関節不安定症が膝前十字靭帯損傷の危険因子となるメカニズムの検証，菊元孝則，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学，健康スポーツ科学講義，毎週月曜日，2023.10.9-2024.2.19.
2. 開志国際高等学校，男子バスケットボール部メディカルサポート，2023.4.1-2024.3.31.

8 学内委員会活動　国際交流センター運営委員会（副センター長／海外研修および留学支援部会部会長）・アスリートサポート研究センター（研究員）

氏名：髙橋　英明

1 研究題目　腱－骨移行部（Enthesis）に関する研究，変性性膝関節症に関する研究，骨格筋の微小循環に関する研究，糖尿病の骨脆弱性に関する研究

2 論文

1. Taketa Y, Takahashi H. Intramuscular collagen accumulation in different types of skeletal muscle fibers in middle-aged male rats. J Toxicol Pathol. 2025; https://doi.org/10.1293/tox.2025-0072（査読あり）

3 報告書

1. 髙橋英明，科研費基盤（C），SPring-8を利用したアキレス腱付着部の３次元構造変化とその力学的特性の解明，2022-2024，研究代表者

4 学会等研究発表

1. 大塚陽華梨，阿部泰知，今井萌，堀田一樹，小曽根海知，玉越敬悟，髙橋英明．Ⅰ型糖尿病モデルラットにおける前脛骨筋の毛細血管数の部位差－近位部と遠位部の比較検討－．第25回新潟医療福祉学会が（新潟市），2025.10.25.

5 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本理学療法士協会，日本体力医学会，日本骨代謝学会，日本物理療法学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，査読

2. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，座長

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（C），糖尿病モデルラットにおける骨格筋内の微小循環と運動効果，研究代表者
2. 2025年度，科研費基盤研究（B），オミクス解析を駆使して挑む活動期関節リウマチに対する運動療法の治療機構解明，研究分担者
3. 2025年度，科研費挑戦的研究（萌芽），腱の損傷と修復に着目した腱グリコーゲン代謝調節機構の機能解明，研究分担者
4. 2025年度，科研費基盤研究（C），バイオマーカーを用いた癇癪の客観的評価―ケアプロセスの標準化をめざして―，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校鍼灸学科（昼間部），リハビリテーション医学，2025.5.27-10.21.
2. 国際メディカル専門学校鍼灸学科（夜間部），リハビリテーション医学，2024.5.27-10.21.

7 学内委員会活動　就職センター運営委員会（副委員長），運動機能医科学研究所

氏名：横田　裕丈

1 研究題目　経皮的迷走神経刺激が自律神経活動，痛み知覚，および運動機能に及ぼす影響の解明．徒手療法の効果検証と背景因子の解明

2 論文

1. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Effects of Clenching Strength on Step Reaction Time. J. Funct. Morphol. Kinesiol. 2025, 10, 264. (review)
2. Edama M, Sekii Y, Sakamoto K, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Sekine C, Takabayashi T, Sato N. Differences in ankle stabilizing function between the upper and lower fiber bundles of the anterior talofibular ligament: an anatomical study. Sci Rep 15, 26126 (2025). (review)
3. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the flexor hallucis longus-associated part of Kager's fat pad. BMC Musculoskelet Disord 20025. 26, 1031 (2025) (review)
4. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Teeth Clenching Improves Selective Response and Shortens Reaction Time. Journal of Strength and Conditioning Research. 2025():10.1519 (review)
5. Kato Y, Ishigaki T, Sato R, Sakamoto K, Hirabayashi R, Yokota H, Komiya M, Edama M. Regional changes in patellar tendon mechanical properties in vivo during non-weight-bearing and weight-bearing movements with different loads. Journal of Bodywork and Movement Therapies. Volume 47. 2026. 126-134, (review)
6. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. J Athl Train. 2025. 10 (review)

3 報告書

1. 横田裕丈．基盤研究（C），脳刺激と迷走神経刺激の融合による効果的な筋発揮効率の改善手法の開発，2023年度～2024年度，横田裕丈

4 学会等研究発表

1. 横田裕丈．（シンポジウム）迷走神経刺激療法による治療と自律神経活動への影響を探る 経皮的迷走神経

刺激による鎮痛効果とその自律神経学的基盤．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.

2. 佐野颯一郎，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，中山侑也，久保幸大，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．運動誘発性鎮痛に対する経皮的耳介迷走神経刺激の併用効果と自律神経反応性の関連．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.
3. 牧野郁美，横田裕丈，安達朋笑，山波克彰，木村玲奈，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．高強度間欠的運動中の経皮的耳介迷走神経刺激がパフォーマンスと自律神経応答に及ぼす影響．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.
4. 横田裕丈，佐藤亜美，山波克彰，木村玲奈，小林弘人，久保幸大，中山侑也，佐藤来夢，須貝菜央，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．経皮的耳介迷走神経刺激（taVNS）が反応時間に及ぼす影響と自律神経指標との関連．第78回日本自律神経学会総会，2025.10.24-10.25.
5. 山波克彰，横田裕丈，大屋りょう，木村玲奈，小林弘人，佐藤来夢，須貝菜央，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．高強度運動後の経皮的耳介迷走神経刺激（taVNS）が反応時間と認知機能に及ぼす影響．第78回日本自律神経学会総会，2025.10.24-10.25.
6. 平井翔太，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．腓腹筋に対するPNFストレッチングとスタティックストレッチングの繰り返し実施による効果の比較．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，2025.11.2-11.3.
7. 上原真佳，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．徒手的圧刺激と電気刺激の組み合わせが頚部可動域および僧帽筋上部の圧痛に及ぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，2025.11.2-11.3.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本理学療法士協会，新潟県理学療法士会，日本基礎理学療法学会，日本臨床スポーツ医学会，日本臨床神経生理学会，日本運動器理学療法学会，日本筋骨格系徒手理学療法研究会，日本メンズヘルスウィメンズヘルス学会，日本産業衛生学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第30回 日本基礎理学療法学会学術大会　演題査読
2. 第12回 日本スポーツ理学療法学会学術大会　演題査読
3. 第13回 日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会　演題査読
4. 第11回 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会学術大会学術大会　演題査読
5. 第11回 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会学術大会学術大会　座長
6. Neuromodulaiton，Reviewer，August 15, 2025

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. クリニック合同勉強会，症例検討会，主催/ファシリテーター，理学療法士，横浜，2025.9.13.
2. 自律神経への徒手療法アプローチ― 日米理学療法士による最新知見と実技－講師，FuncPhysio Tokyo東京，理学療法士，2025.10.31.
3. 市川式PNF講習会－基礎編－開催責任者，Physio8，理学療法士，新潟，2025.12.6-12.7.
4. 市川式PNF講習会－応用編－開催責任者，Physio8，理学療法士，新潟，2025.12.13-12.14.

2) 社会活動への参加協力

1. NPO法人IPA JAPAN（代表）運営会議，年次計画協議，代表，オンライン，2025.10.18.
2. NPO法人IPA JAPAN（代表）運営会議，年次計画協議，代表，オンライン，2025.12.20.
3. NPO法人IPA JAPAN（代表）運営会議，年次計画協議，代表，オンライン，2025.1.5.
4. NPO法人IPA JAPAN（代表）運営会議，年次計画協議，代表，オンライン，2025.3.20.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

NPO法人IPA JAPAN（代表）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研（C），経皮的迷走神経刺激が運動誘発性鎮痛にもたらす相乗効果の解明，横田裕丈（代表）
2. 2025年度，基盤研（B），受傷後アスリートが慢性疼痛発症に至る脳状態の予測指標と予防策の創出，山代幸哉（代表），横田裕丈（分担）

2) 学内部活動の実績

1. 陸上競技部，2025日本学生陸上競技個人選手権大会，メディカルトレーナー，神奈川，2025.4.25-4.27.
2. 陸上競技部，天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会，メディカルトレーナー，岡山，2025.6.5-6.8.
3. 陸上競技部，第108回日本陸上競技選手権リレー，メディカルトレーナー，岐阜，2025.7.12-7.13.

3) 学外兼務講師等

1. 特別養護老人ホーム，つきおかの里，2018.4-
2. 国際メディカル専門学校，非常勤講師，運動学，2020.4-
3. 医療法人社団KOSMI　こん整形外科，2023.3-
4. PRIISM Golf Lab Tokyo，2025.8-
5. 福島県立医科大学，非常勤講師，国際理学療法学，2025.10-

8　学内委員会活動　同窓会委員会，運動機能医科学研究所，アスリートサポート研究センター，SPRING-NQSAP

氏名：石垣　智恒

1　研究題目　腱エネルギー代謝機構の変化とその腱恒常性への影響，投球障害の予防とリハビリテーション

2　論文

1. Kato Y, Ishigaki T, Sato R, Sakamoto K, Hirabayashi R, Yokota H, Komiya M, Edama M. Regional changes in patellar tendon mechanical properties in vivo during non-weight-bearing and weight-bearing movements with different loads. Journal of Bodywork and Movement Therapies. 2026; 47: 126-134.
2. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Effects of Clenching Strength on Step Reaction Time. Journal of Functional Morphology and Kinesiology. (in press)
3. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Sakamoto K, Edama M. Teeth Clenching Improves Selective Response and Shortens Reaction Time. Journal of Strength & Conditioning Research. (in press)
4. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Takabayashi T, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the retrocalcaneal bursal wedge of Kager's fat pad. Surgical and radiologic anatomy. 2025; 48(1): 23-23.
5. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the flexor hallucis longus-associated part of Kager's fat pad. BMC Musculoskeletal Disorders. 2025; 26(1).
6. Okunuki T, Ohsako M, Suito H, Ishigaki T, Maemichi T, Ishida H, Yabiku H, Azuma C, Nishida K, Kumai T. Comparative Morphology and Immunohistochemistry of the Adipose Tissues at the Posteromedial Tibial Border and the Heel Fat Pad in the Human. Cells Tissues Organs. 2025: 1-11.
7. Edama M, Sekii Y, Sakamoto K, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Sekine C, Takabayashi T, Sato N. Differences in ankle stabilizing function between the upper and lower fiber

bundles of the anterior talofibular ligament: an anatomical study. Scientific Reports. 2025; 15(1).

3　報告書

1. 石垣智恒．若手研究，腱の温度上昇に起因した腱エネルギー代謝機構の変化とその腱恒常性への影響，報告書，2023-2025，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 林宏弥，石垣智恒，佐藤来夢，兵庫聡太，鈴木恒平，竹田蓮，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．反復投球動作が肩甲骨周囲筋の筋硬度および肩甲骨アライメントにおよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，札幌市，2025.11.29-11.30.
2. 石垣智恒，Andy Smith，Morgan Potter，Claudia Kacmarcik，Nate Mange，Stephanie Cone，Karin Grävare Silbernagel．アキレス腱症患者における腱構造と主観的症状ならびにstretch-shortening cycle運動能力との関連．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，札幌市，2025.11.29-11.30.
3. 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．示指および中指を除いたグリップ動作が外反ストレス下における内側肘関節安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，札幌市，2025.11.29-11.30.
4. 竹田蓮，石垣智恒，佐藤来夢，林宏弥，兵庫聡太，鈴木恒平，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．高校野球選手におけるオフシーズン，プレシーズン，インシーズンでの客観的上肢体幹機能と主観的上肢機能の経時的変化とその関連性．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，札幌市，2025.11.29-11.30.
5. 鈴木恒平，石垣智恒，佐藤来夢，兵庫聡太，林宏弥，竹田蓮，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．握力トレーニングと示指屈筋トレーニングが内側肘関節安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，札幌市，2025.11.29-11.30.
6. 兵庫聡太，石垣智恒，佐藤来夢，林宏弥，竹田蓮，鈴木恒平，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．示指もしくは中指屈筋の疲労課題が内側肘関節動的安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，札幌市，2025.11.29-11.30.
7. 加藤雄樹，石垣智恒，佐藤来夢，坂本航大，江玉睦明．非荷重および負荷の異なる荷重動作中の膝屈曲角度の変化が局所的な膝蓋腱力学的特性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，札幌市，2025.11.29-11.30.
8. 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．グリップ動作中の手関節角度の違いが外反ストレス下での内側肘関節安定性におよぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，千葉市，2025.11.2-11.3.
9. 石垣智恒，佐藤来夢，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．高校野球選手における睡眠の質と主観的上肢機能との関係．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，千葉市，2025.11.2-11.3.

5　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，日本スポーツ理学療法学会，日本基礎理学療法学会，日本臨床スポーツ医学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，準備委員，演題部門，札幌市，2025.11.29-11.30・2024.12-2026.2.
2. 第13回日本スポーツ理学療法学会学術大会，準備委員，総務部門，広島市，2026.12.19-12.20・2025.12-現在

3) 学会等でのその他の活動

1. 第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，座長，札幌市，2025.11.29-11.30・2024.12-2026.2.
2. 第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会，演題査読
3. Journal of Bodywork and Movement Therapies, 査読，2025.8.
4. Scientific Reports, 査読，2026.1.
5. Journal of Bodywork and Movement Therapies, 査読，2025.12.

6. JoVE Journal, 査読，2026.3.
7. BMC Musculoskeletal Disorders, 査読，2026.2.
8. BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation, 査読，2025.10.
9. Scientific Reports, 査読，2025.10.
10. BMC Medical Imaging, 査読，2025.9.
11. Sports, 査読，2025.8.
12. BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation, 査読，2025.7.
13. Sport Sciences for Health, 査読，2025.7.
14. BMC Sports Science, 査読，2025.6.
15. Journal of Athletic Training, 査読，2025.5.
16. BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation, 査読，2025.5.
17. PM&R, 査読，2025.4.
18. Sport Sciences for Health, 査読，2025.4.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 地域からつくる日本のスポーツ医科学支援　スポーツ庁委託事業最終年度成果発信シンポジウム，運営委員，新潟スポーツ医科学コンソーシアム，医療関係者・スポーツ科学関係者・教育関係者・行政団体・競技者・経済団体・運動施設運営法人・障害者スポーツセンター職員・トレーナー，オンライン，2026.3.20.

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，挑戦的研究（萌芽），腱の損傷と修復に着目した腱グリコーゲン代謝調節機構の機能解明，研究代表者
2. 2025年度，公益財団法人ミズノスポーツ振興財団スポートロジー研究助成，示指浅指屈筋に着目した肘内側側副靱帯へのストレスを軽減させる効果的なトレーニング方法の開発，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟柔整専門学校，リハビリテーション医学，１年間

8　学内委員会活動　広報委員会，アスリートサポート研究センター，運動機能医科学研究所

氏名：齊藤　慧

1　研究題目　体性感覚機能に関する研究（神経生理学）

2　論文

1. Saito K, Otsuru N, Tateishi K, Kurebayashi R, Onishi H. Differential Modulation of the Cortical Alpha Rhythm and Activation of Distinct Neural Networks during Tactile Perception Training by Learners and Non-learners. Frontiers in Neuroscience. 2025; 19, 1566615.
2. Hiraga T, Saito K, Kojima S, Onishi H. Effect of transcranial direct current stimulation over the posterior parietal cortex on tactile spatial discrimination. Experimental Brain Research. 2025; 243(5)125.
3. Tanabe K, Kojima S, Saito K, Onishi H. Active Touch Intervention using a Rough Texture Enhances Corticospinal Excitability. Brain and Behavior. 2025; 15, e70837.

3　報告書

1. 齊藤慧．基盤研究（C），知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出，研究実施状況報告書，2023年～2025年，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．触覚方位弁別能力を評価するための至適条件の検討．

第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.

2. 関根悠介，齊藤慧，平賀大河，小島翔，大西秀明．低頻度末梢電気刺激が触覚機能と脳律動にもたらす効果．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
3. 山﨑恭平，齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．一次体性感覚野へのtDCSにおいて電極配置の違いが触覚機能に与える影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
4. 中川あやめ，齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．触覚における知覚学習の課題特異性に関する検討．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
5. 齊藤慧，大鶴直史，関根悠介，相澤凛，時田優菜，平賀大河，小島翔，大西秀明．個人の脳律動に基づく経頭蓋電気刺激が脳律動活動と触覚機能にもたらす影響．日本物理療法合同学術大会2026（和歌山）．2026.1.31-2.1.
6. 小島翔，長坂和明，齊藤慧，大鶴直史，田邊かこ，櫻井典子，児玉直樹，原正之，大西秀明．アスリートと非アスリートに対する擦刺激が脳活動に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
7. 渡邊愼之介，小島翔，齊藤慧，田邊かこ，齋藤大河，大西秀明．下肢を用いた運動覚制御課題の成績と脳灰白質容積との関連．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
8. 田邊かこ，小島翔，齊藤慧，大西秀明．異なる刺激周波数を用いた経皮的耳介迷走神経刺激が手指の体性感覚機能に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分）．2025.10.17-10.18.
9. 田邊かこ，小島翔，齊藤慧，大西秀明．経皮的耳介迷走神経刺激の刺激周波数が個人の体性感覚機能にもたらす効果を明らかにする～クラスター分析を用いた検証～．第31回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会（千葉）．2025.12.6.
10. 齋藤大河，小島翔，齊藤慧，田邊かこ，大西秀明．一次体性感覚野に対する高精細経頭蓋直流電流刺激が運動機能および短潜時求心性抑制に及ぼす影響．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄）．2025.11.13-11.15.

5　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，日本臨床神経生理学会，日本物理療法学会，全国大学理学療法学教育学会，日本神経科学学会，日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション研究会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 全国大学理学療法学教育学会，2025年度日本理学療法士教員協議会，準備委員（講師・司会者との連絡業務），2026.2.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，査読
2. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，ポスター発表，座長，大分，2025.10.31-11.1.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 臨床実習指導者講習会，理学療法士・作業療法士養成施設における臨床実習制度の理念と概要，講師，人間関係論・ハラスメントの防止について・臨床実習の到達目標と修了基準，ファシリテーター，日本理学療法士協会，理学療法士・作業療法士，新潟医療福祉大学，2025.8.28-8.29.

2) 社会活動への参加協力

1. 全国大学理学療法学教育学会，令和５年度第５回理事会，学会事務局担当（書記），WEB開催，2025.6.2.
2. 全国大学理学療法学教育学会，令和６年度第１回理事会，学会事務局担当（書記），WEB開催，2025.10.22.
3. 全国大学理学療法学教育学会，令和６年度定時総会，総会運営・事業報告，WEB開催，2025.11.24.
4. 全国大学理学療法学教育学会，令和６年度臨時理事会，学会事務局担当（書記），WEB開催，

2025.11.24.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

全国大学理学療法学教育学会（事務局員，庶務），日本物理療法研究会（評議員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1.　2023年度，科研費基盤研究（C），知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出，研究代表者

8　学内委員会活動　運動機能医科学研究所，SHAINプロジェクト，教務委員会，脳卒中リハビリテーション研究センター（研究員）

氏名：太田　大樹

1　研究題目　遅発性筋痛における機械受容チャネルの関与，遅発性筋痛におけるPGE2代謝ダイナミクスの解明

2　学会等研究発表

1. 山本陸央，亀谷伊織，太田大樹，田口徹．複合持続ストレスによりラット脊髄において誘発される侵害受容過敏．第48回日本神経科学学会（新潟・日本），2025.7.
2. 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水誘発性筋痛モデルラットの筋組織像．第11回日本筋学会学術大会（仙台・日本），2025.8.
3. 田口徹，山本陸央，太田大樹．複合持続ストレス負荷により生じる筋痛覚過敏の脊髄機構．第11回日本筋学会学術大会（仙台・日本），2025.8.
4. 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水誘発性筋痙攣モデルラットにおける筋弛緩薬の抑制効果．第79回日本体力医学会（滋賀・日本），2025.9.
5. 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水を投与したラット前脛骨筋における組織学的変化．第30回日本基礎理学療法学術大会（別府・日本），2025.10.
6. 田口徹，太田大樹．遅発性筋痛モデルラットの筋超微形態の電子顕微鏡観察．第30回日本基礎理学療法学術大会（別府・日本），2025.10.
7. 小島卓巳，太田大樹，田口徹．健常大学生における一晩の断眠は筋圧痛閾値を低下させる．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.
8. 八木京介，山本陸央，太田大樹，田口徹．ヒト腰部遅発性筋痛の発症における異なる体幹姿位での伸張性収縮による比較．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.
9. 田口徹，太田大樹．伸張性収縮負荷による機械痛覚過敏モデルラットを用いた筋超微形態観察．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.
10. 山本陸央，ミゲル・ガルシア，太田大樹，田口徹．繰り返し寒冷ストレス負荷マウスへのカプサイシン筋注後の脊髄後角におけるc-Fos陽性細胞の発現変化．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.
11. 小林雄太，山本陸央，太田大樹，田口徹．複合持続ストレス誘発性疼痛モデルラットにおける皮膚炎症の可視化．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.
12. 太田大樹，小林雄太，山本陸央，田口徹．高張食塩水誘発性筋痛モデルラットの前脛骨筋における光学顕微鏡観察．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.
13. 太田大樹，田口徹．伸張性収縮後のラット下腿筋膜で発現増大した筋機能関連遺伝子クラスター．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.
14. 山本陸央，太田大樹，田口徹．複合持続ストレスモデルラットの脊髄後角における炎症性サイトカインの遺伝子発現．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.
15. 太田大樹，田口徹．遅発性筋痛モデルおよびカラゲニン誘発性筋炎モデルの筋においてElkin1 mRNAレベルは増大する．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.
16. 花村健次，武田直，小林宥介，鷲見和幸，前島偉，鈴木晴，美里萌恵，渡邉大輝，西方快騎，宮崎涼，松

井斗輝，太田大樹，田口徹，吉田宜清．18～24ヵ月齢C57BL/6Nマウスにおいて発生した腫瘍の形態学的解析．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟・日本），2025.10.

17. 太田大樹，田口徹．伸張性収縮後のラットにおける機械感受性イオンチャネルの発現増大．第103回日本生理学会大会（東京・日本），2026.3.
18. 田口徹，太田大樹．伸張性収縮誘発性痛覚過敏モデルラットの筋超微形態観察．第103回日本生理学会大会（東京・日本），2026.3.

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本筋学会，国際疼痛学会，日本理学療法士協会，日本疼痛学会（広報委員：論文動画化プロジェクトメンバー），日本神経科学会，日本生理学会，日本体力医学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Scientific Reports（Springer Nature社）論文査読，2025.11.
2. The Journal of Headache and Pain（Springer Nature社）論文査読，2025.11.
3. Journal of the Egyptian National Cancer Institute（Springer Nature社）論文査読，2026.3.

4　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 全国大学理学療法学教育学会　理事会，財務からの報告　2025.10.22.
2. 全国大学理学療法学教育学会　定時総会，財務からの報告　2025.11.24.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

全国大学理学療法学教育学会（経理課）

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（C），遅発性筋痛の筋膜における発現変動因子の同定と機械痛覚過敏への関与解明，研究代表者
2. 2025年度，科研費基盤研究（B），筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

太田大樹．第25回新潟医療福祉学会学術集会 奨励賞（2025.10）

3) 学外兼務講師等

6　学内委員会活動　入試委員会，動物実験委員会（実験動物に関して優れた識見を有する者），運動機能医科学研究所

氏名：萩原　康雄

1　研究題目　先史時代集団の生活様式に関する研究，遺跡出土人骨の古病理学的研究，東北地方弥生時代人骨の探求，ペルーアンデス文明形成期集団の研究

2　著書

1. 萩原康雄，成海佳奈，佐伯史子．長谷小路周辺遺跡-学びの多様化学校建設予定地-埋蔵文化財発掘調査報告書．斉藤建設．鎌倉；2025：165-179

3　論文

1. Sawada J, Uzawa K, Yoneda M, Hagihara Y, Itahashi Y, Gakuhari T, Kubota S, Bin Liu, Ningyuan Wang, Minghui Chen, Yonglei Wang, Shu Song, Kikuchi H, Maruyama M, Okazaki K, Takamuku H, Saeki F, Nara T, Nakamura S. Worked human bones and the rise of urban society in the neolithic Liangzhu culture, East Asia. Scientific Reports. 2025; 15(1): 31441

4　学会等研究発表

1. 萩原康雄．日本列島集団の中手・中足骨の相対長について．日本人類学会78回大会（下関・日本），2025.10.11-10.13.

2. 萩原康雄，古澤妥史，澤田純明，奈良貴史．2024年度岩手県小松洞穴遺跡発掘調査概要報告．2025年度日本考古学協会新潟大会（新潟・日本）．2025.10.25-10.27.

5　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，日本人類学会，日本解剖学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 2025年度日本考古学協会新潟大会（新潟・日本），実行委員，2025.10.25-10.27.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 講演会・夏季骨学セミナー，下肢骨，講師，新潟，2025.8.18-8.22.
2. 講演会・夏季骨学セミナー，上肢骨，講師，新潟，2025.8.18-8.22.
3. 講演会・夏季骨学セミナー，事務局，新潟，2025.8.18-8.22.
4. 講演会・小松洞穴遺跡発掘調査現地説明会，講師，岩手県住田町，2025.8.9.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本人類学会代議員

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022，若手研究，骨形態から読み解く狩猟採集から農耕への生業転換に伴う日本列島集団の行動様式の変化，萩原康雄，代表
2. 2023，基盤C，相同モデルを活用した欠損部人骨復元への挑戦，波田野悠夏，分担
3. 2023，基盤A，生物考古資料にもとづく生業モデルの実証的研究とアンデス文明発展の機序解明，瀧上舞，分担

8　学内委員会活動　健康管理センター運営委員会・安全衛生委員会・大学院教務委員会・自然人類学研究所

氏名：玉越　敬悟

1　研究題目　脳卒中後の運動療法による運動機能の回復機序および脳内改善メカニズムに関する研究

2　論文

1. Tamakoshi K, Meguro K, Takahashi Y, Oshimi R, Iwasaki N. Effects of Exercise on Dopamine Expression and Motor Recovery in Hemorrhagic and Ischemic Stroke Rat Models With Comparable Brain Lesions. Cureus. 2025; 17(6): e86395.

3　学会等研究発表

1. 玉越敬悟，相馬俊雄．診療参加型臨床実習における理学療法学生の『実施』到達内容の量的分析．第14回日本理学療法教育学術大会（東京），2026.1.10-1.11.
2. Tamakoshi K, Kimishima K. Very early exercise After Intracerebral Hemorrhage Induces Proinflammatory Gene Expression and Exacerbates Neuroinflammation. 第103回日本生理学会大会（東京），2026.3.10-3.12.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本理学療法士協会，日本基礎理学療法学会（評議員），日本神経科学会，日本神経化学会，日本生理学会，日本脳循環代謝学会

2) 学術集会の主催

1. 日本基礎理学療法学会，第８回基礎理学療法学セミナー，運営委員代表，2025.6.4.
2. 日本基礎理学療法学会，第９回基礎理学療法学セミナー，運営委員代表，2025.8.26.
3. 日本基礎理学療法学会，第10回基礎理学療法学セミナー，運営委員代表，2025.11.28.
4. 日本基礎理学療法学会，第11回基礎理学療法学セミナー，運営委員代表，2026.2.5.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第68回日本神経化学会大会，ポスター発表審査員（オーガナイザー），名古屋市，2025.9.11.

2. 日本基礎理学療法学会，第30回日本基礎理学療法学会学術大会，座長，東京都，2025.10.17-10.18.
3. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，演題査読
4. 第14回日本理学療法教育学会学術大会，演題査読

5 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 日本理学療法士協会・臨床実習指導者講習会，講師，新潟・新潟医療福祉大学，2025.8.28-8.29.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人日本基礎理学療法学会・学術局教育部（部長）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，基盤研究（C），脳卒中超早期リハビリテーションの運動開始時点を決める生理学的パラメータの開発，研究代表者：玉越敬悟（研究期間：2023～2025年度）.
2. 2025年度，基盤研究（C），糖尿病モデルラットにおける骨格筋内の微小循環と運動効果，研究代表者：髙橋英明，研究分担者：玉越敬悟，堀田一樹（研究期間：2025～2027年度）.

7 学内委員会活動　運動機能医科学研究所（研究員）

氏名：徳永　亮太

1 研究題目　慢性疼痛の脳内神経機序の解明，侵害刺激時の脳血流・神経活動変化，体性感覚刺激時の脳内セロトニン放出変化

2 論文

1. Matsuura K, Ikeda T, Hamasaki T, Tokunaga R, Mathieu Piché. Japanese translation and cultural adaptation of the Personal Attribute Questionnaire and Gender Role Expectation of Pain Questionnaire. PsyArXiv. 2026; 1-7.

3 報告書

1. 徳永亮太，中冨健康科学振興財団研究助成，皮質-扁桃体神経回路の疼痛調節機構とのニューロモジュレーション効果，2025，研究代表者

4 学会等研究発表

1. Tokunaga R, Takamoto H. The role of amygdala-periaqueductal gray projections in modulating widespread thermal hyperalgesia associated with chronic back muscle inflammation. the 103rd Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Tokyo, Japan), 2026.3.12.
2. Mathieu Piche, Hatef Khosravi, Hamed Dehghani Siahaki, Tokunaga R. Additive mechanical and thermal hypersensitivity in a rat model of chronic primary back pain and visual deprivation. the 103rd Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Tokyo, Japan), 2026.3.12.

5 学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，日本生理学会（評議員），日本神経科学学会，日本自律神経学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. The Journal of Physiological Sciences，査読，2025.9.18.
2. The Journal of Physiological Sciences，査読，2025.10.13.
3. Molecular Neurobiology，査読，2025.12.21.
4. Chinese Medicine，査読，2025.11.5.
5. Chinese Medicine，査読，2026.1.15.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023，基盤研究C，慢性腰痛による下行性疼痛制御系の変調機構と運動療法の効果，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. ケベック大学トロワリビエール校 兼任教授，2022.9-2026.8.

7 学内委員会活動　動物実験委員会，運動機能医科学研究所（研究員）

氏名：小島　翔

1 研究題目　触圧覚刺激による脳活動および刺激介入効果に関する研究，体性感覚機能に対する経皮的耳介迷走神経刺激効果に関する研究

2 論文

1. Hiraga T, Saito K, Kojima S, Onishi H. Effect of transcranial direct current stimulation over the posterior parietal cortex on tactile spatial discrimination. Experimental Brain Research (JCR). 2025. (review)
2. Watanabe H, Kojima S, Otsuru N, Onishi H. Effects of repetitive mechanical tactile stimulation interventions with stationary and moving patterns on paired-pulse depression. BMC Neuroscience (JCR). 2025. (review)
3. Tanabe K, Kojima S, Saito K, Onishi H. Active Touch Intervention using a Rough Texture Enhances Corticospinal Excitability. Brain and Behavior (JCR). 2025. (review)
4. Kojima S, Tanabe K, Todoroki M, Onishi H. Effects of Anodal Transcranial Direct Current Stimulation Over the Right Posterior Parietal Cortex on Simon Task and Flanker Task Performance. Brain Research (JCR). 2026. (review)
5. Maruyama Y, Shibata S, Kojima S, Mima T, Onishi H. Peripheral nerve stimulation synchronized with brain stimulation facilitates somatosensory function. Clinical Neurophysiology (JCR). 2026. (review)

3 報告書

1. 小島翔．科学研究費基盤研究（B），触圧覚刺激に対する皮質応答および個人差の解明と脳卒中リハビリテーションへの展開，2021-2024年度，研究代表者.

4 学会等研究発表

1. 三本柊士，紙谷貴裕，井亦聖，小島翔．継続的な介入により，歩行速度と生活範囲が拡大した生活期脳卒中患者の一考察～膝伸展筋力に着目して～，第23回日本神経理学療法学会学術大会（金沢），2025.10.31-11.1.
2. 高慶あやか，紙谷貴裕，小島翔．免荷式歩行リフトと両長下肢装具を使用した歩行練習により，起居動作能力が向上した脊髄梗塞患者の一症例，第23回日本神経理学療法学会学術大会（金沢），2025.10.31-11.1.
3. 齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．触覚方位弁別能力を評価するための至適条件の検討，第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
4. 小島翔，長坂和明，齊藤慧，大鶴直史，田邊かこ，櫻井典子，児玉直樹，原正之，大西秀明．アスリートと非アスリートに対する擦刺激が脳活動に及ぼす影響，第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
5. 渡邊愼之介，小島翔，齊藤慧，田邊かこ，齋藤大河，大西秀明．下肢を用いた運動覚制御課題の成績と脳灰白質容積との関連，第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
6. 田邊かこ，小島翔，齊藤慧，大西秀明．異なる刺激周波数を用いた経皮的耳介迷走神経刺激が手指の体性感覚機能に及ぼす影響，第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
7. 齋藤大河，小島翔，齊藤慧，田邊かこ，大西秀明．一次体性感覚野に対する高精細経頭蓋直流電流刺激が運動機能および短潜時求心性抑制に及ぼす影響，第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
8. 関根悠介，齊藤慧，平賀大河，小島翔，大西秀明．低頻度末梢電気刺激が触覚機能と脳律動にもたらす効

果，第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.

9. 山﨑恭平，齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．一次体性感覚野へのtDCSにおいて電極配置の違いが触覚機能に与える影響，第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
10. 中川あやめ，齊藤慧，小島翔，平賀大河，関根悠介，大西秀明．触覚における知覚学習の課題特異性に関する検討，第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
11. 田邊かこ，小島翔，齊藤慧，大西秀明．経皮的耳介迷走神経刺激の刺激周波数が個人の体性感覚機能にもたらす効果を明らかにする～クラスター分析を用いた検証～，第31回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会（千葉），2025.12.6.
12. 小島翔．機械的触圧覚刺激による介入効果と神経生理応答，第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.【シンポジウム】

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本理学療法士協会，日本基礎理学療法学会，日本臨床神経生理学会，日本生体磁気学会，日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション学会，全国大学理学療法学教育学会

2) 学術集会の主催

1. 2025年度理学療法教員協議会，運営，WEB開催，2026.3.21.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本基礎理学療法学会，第30回日本基礎理学療法学会学術集会，演題査読，大分，2025.10.17-10.18.
2. 日本基礎理学療法学会，第30回日本基礎理学療法学会学術集会，座長，大分，2025.10.17-10.18.
3. 日本神経理学療法学会，第23回日本神経理学療法学会学術大会，演題査読，金沢，2025.10.31-11.1.
4. 日本神経理学療法学会，第23回日本神経理学療法学会学術大会，座長，金沢，2025.10.31-11.1.
5. 新潟県理学療法士会，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，座長，新潟，2025.12.20-12.21.
6. 日本神経理学療法学会新潟地方会，第１回新潟地方会WEBセミナー，座長，WEB，2025.12.18.
7. 日本神経理学療法学会新潟地方会，第２回新潟地方会WEBセミナー，座長，WEB，2026.1.27.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 臨床実習指導者講習会，講師・ファシリテーター，新潟医療福祉大学，理学療法士・作業療法士，新潟市，2025.8.28-8.29.
2. 東京湾岸リハビリテーション病院，院内勉強会，講師，東京湾岸リハビリテーション病院，理学療法士・作業療法士，習志野市，2025.8.19.

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（C），動的な触圧覚刺激に伴う皮質応答の特徴と介入効果の背景にある神経基盤の解明，研究代表者
2. 2025年度，科研費基盤研究（B），マルチモーダル脳イメージングによる側頭頭頂接合部の特徴解明と知覚学習への応用，研究分担者

8　学内委員会活動　図書館・学修支援委員会，運動機能医科学研究所，脳卒中リハビリテーション研究センター

氏名：北谷　亮輔

1　研究題目　健常者や脳卒中患者を対象とした歩行の神経制御に関する研究，注意機能や半側空間無視などの高次脳機能に関する研究

2　論文

1. Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Frequency-specific modulations

of oscillatory neural drives to lower leg muscles during gait with aiding and impeding horizontal forces. Journal of Electromyography and Kinesiology (JCR). 2026; 86: 103098 (review)

2. Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Beta to low-gamma rhythmic brain stimulation over primary motor cortex and supplementary motor area differentially modulates oscillatory neural drives during gait. Experimental Brain Research (JCR). 2025; 243(11): 233 (review)
3. Watanabe R, Kitatani R, Amano A, Sorimachi R, Onishi H. Effects of cerebellar transcranial alternating current stimulation at frequencies surrounding the gait cycle frequency on spatiotemporal gait parameters. The Cerebellum (JCR). 2026; 25(2): 37 (review)

3　学会等研究発表

1. Kitatani R, Numata R, Sorimachi R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Influences of impeding horizontal force around the center of mass on common neural drives to ankle muscles during gait. World Physiotherapy Congress 2025 (Japan), 2025.5.29-5.31.
2. 北谷亮輔，伊藤智崇，山本雅樹，間野直人，鈴木雄太，水田直道，関口雄介．脳卒中患者における異常歩行パターンの分類と定義：スコーピングレビュー．第23回日本神経理学療法学会学術大会（石川），2025.10.31-11.1.
3. 北谷亮輔，天野明音，渡辺莉茉，大鶴直史，芝田純也，大西秀明．歩行中の一次運動野に対する経頭蓋交流電気刺激による歩行の時空間的指標への影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
4. 高中駿，関口雄介，本田啓太，鈴木直輝，北谷亮輔，宮城翠，海老原覚．慢性期脳卒中患者における白質神経線維の微細構造と歩行の安定性の関係：拡散テンソル画像研究．第17回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会（愛知），2026.2.27-2.28.
5. 渡辺莉茉，北谷亮輔，天野明音，反町瑠菜，大西秀明．小脳に対する経頭蓋交流電気刺激の歩行周期時間に近似した刺激周波数の違いによる歩行の時空間的指標の変化．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.
6. 反町瑠菜，北谷亮輔，渡辺莉茉，天野明音，大西秀明．運動前野と補足運動野への経頭蓋交流電気刺激の歩行周期時間に近似した刺激周波数が歩行の時空間的指標に与える影響．第55回日本臨床神経生理学会学術大会（沖縄），2025.11.13-11.15.
7. 奥田幸花，北谷亮輔，星歩夢，村山稔，大西秀明．短下肢装具とその種類が身体重心に対する牽引歩行中の推進力に与える影響．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8-11.9.
8. 林祐介，水田直道，細井雄一郎，平田恵介，北谷亮輔，関口雄介．脳卒中患者における歩行時の時空間的対称性と身体機能および歩行能力の関係：スコーピングレビュー．第23回日本神経理学療法学会学術大会（石川），2025.10.31-11.1.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本理学療法士協会，日本基礎理学療法学会，日本神経理学療法学会，日本支援工学理学療法学会，日本臨床神経生理学会，日本義肢装具学会，全国大学理学療法学教育学会，Motor Control研究会，International Society of Posture and Gait Research，International Society of Electrophysiology and Kinesiology，Society for the Neural Control of Movement

2) 学会等でのその他の活動

1. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，演題査読，2025.6.
2. 第23回日本神経理学療法学会学術大会，演題査読，2025.6-7.
3. 第14回日本支援工学理学療法学会学術大会，演題査読，2025.8.
4. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，一般演題・口述19・神経生理学6，座長，大分，2025.10.17-10.18.
5. 全国大学理学療法学教育学会令和7年度定時総会，議事録署名人，Web，2025.11.24.

6. 日本神経理学療法学会，学術誌編集委員会（総務）
7. 日本神経理学療法学会，戦略的課題解決委員会・脳卒中歩行障害班
8. 全国大学理学療法学教育学会，庶務
9. 新潟県理学療法士会，学術局学術誌部部員
10. European Journal of Neuroscience，査読，2025.9.
11. Scientific Reports，査読，2025.10.
12. Neuroscience，査読，2025.11.
13. Brain Injury，査読，2025.11.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. ロコモ体操（講習会），講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，地域在住高齢者，南浜連絡所（新潟市），2025.4.15.
2. 正しい歩き方講座：評価偏（講習会），講師，福祉事業型専攻科KINGOカレッジ，KINGOカレッジの学生・支援職員，KINGOカレッジ（新潟市），2025.5.15.
3. ロコモ体操（講習会），講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，地域在住高齢者，南浜連絡所（新潟市），2025.5.20.
4. 脳卒中患者の装具療法（講習会），講師，関西リハビリテーション病院，理学療法士・義肢装具士，関西リハビリテーション病院（豊中市），2025.6.11.
5. 脳卒中患者のリハビリテーション指導（研修会），講師，関西リハビリテーション病院，理学療法士，関西リハビリテーション病院（豊中市），2025.6.11.
6. ロコモ体操（講習会），講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，地域在住高齢者，南浜連絡所（新潟市），2025.6.17.
7. ロコモ体操（講習会），講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，地域在住高齢者，南浜連絡所（新潟市），2025.7.15.
8. 第1416回臨床実習指導者講習会（講習会），講師，全国リハビリテーション学校協会・日本理学療法士協会・日本作業療法士協会主催，理学療法士，新潟医療福祉大学，2025.8.29.
9. ロコモ体操（講習会），講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，地域在住高齢者，南浜連絡所（新潟市），2025.9.16.
10. ロコモ体操（講習会），講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，地域在住高齢者，南浜連絡所（新潟市），2025.10.21.
11. ロコモ体操（講習会），講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，地域在住高齢者，南浜連絡所（新潟市），2025.11.18.
12. 正しい歩き方講座：応用偏（講習会），講師，福祉事業型専攻科KINGOカレッジ，KINGOカレッジの学生・支援職員，KINGOカレッジ（新潟市），2025.12.10.
13. 臨床現場における筋電図評価の意義（講習会），講師，熊本機能病院，理学療法士，熊本機能病院（熊本市），2025.12.17.
14. 表面筋電図計測の研修（研修会），講師，熊本機能病院，理学療法士，熊本機能病院（熊本市），2025.12.17.
15. ロコモ体操（講習会），講師，太夫浜長寿会，地域在住高齢者，太夫浜自治会館（新潟市），2026.2.13.
16. ロコモ体操（講習会），講師，南浜地区コミュニティ協議会健康福祉部会，地域在住高齢者，南浜連絡所（新潟市），2026.2.17.
17. ロコモ体操（講習会），講師，太郎代お茶の間しおかぜ，地域在住高齢者，太郎代自治会館（新潟市），2026.3.4.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究（C），皮質脊髄路と皮質網様体路の選択的刺激による歩行併用型脳刺激法の開発と検証，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

第17回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会優秀演題賞（共同演者・2026.2.28）

7 学内委員会活動　教務委員会，大学院教務委員会，運動機能医科学研究所，新潟装具研究開発センター（副センター長）

氏名：平林　怜

1 研究題目　脊髄相反性抑制増強法の開発，咬合が運動機能に及ぼす影響に関する研究

2 論文

1. Sugai N, Hirabayashi R (Corresponding author), Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Sakamoto K, Edama M. Teeth clenching improves selective response and shortens reaction time. Journal of Strength and Conditioning Research. 2026. (in press)(JCR)（査読あり）
2. Sugai N, Hirabayashi R (Corresponding author), Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Effects of Clenching Strength on Step Reaction Time. J Funct Morphol Kinesiol. 2025 Jul 13; 10(3): 264. (JCR)（査読あり）
3. Edama M, Sekii Y, Sakamoto K, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Sekine C, Takabayashi T, Sato N. Differences in ankle stabilizing function between the upper and lower fiber bundles of the anterior talofibular ligament: an anatomical study. Sci Rep. 2025 Jul 18; 15(1): 26126. (JCR)（査読あり）
4. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the flexor hallucis longus-associated part of Kager's fat pad. BMC Musculoskelet Disord. 2025 Nov 7; 26(1): 1031.(JCR)（査読あり）

3 報告書

1. 平林怜．基盤研究（C），脳刺激と末梢刺激の融合による相反性抑制増強法の開発，研究成果報告書，2022-2024，研究代表者

4 学会等研究発表

1. 平林怜，大河内偉琉．緊張性振動反射介入による筋疲労改善効果の検証．日本物理療法合同学術大会2026（和歌山），2026.1.31-2.1.【シンポジウム】
2. 平林怜，阿部花映，須貝菜央，中谷文香，德永涼奈，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．咬合がもたらす反応能力と軌道予測能力の向上．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.
3. 平林怜，岡田芳幸，吉田結梨子，須貝菜央，中谷文香，江玉睦明．咬合がバッティングパフォーマンス向上に寄与～軌道予測からバッティングに至るまで～．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.
4. 中谷文香，平林怜，岡田芳幸，吉田結梨子，須貝菜央，江玉睦明．咬合が集中力課題に及ぼす影響．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.
5. 須貝菜央，平林怜，岡田芳幸，吉田結梨子，中谷文香，江玉睦明．咬合補正が単純反応時間と選択反応時間に与える影響．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.
6. 吉田結梨子，山口久穂，西野領，平林怜，岡田芳幸．前腕筋疲労後の運動後阻血がヒラメ筋H反射の遠隔促通に与える影響．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.
7. 山口久穂，吉田結梨子，西野領，今田桜子，平林怜，岡田芳幸．歯科矯正治療経験による噛みしめ負荷がヒラメ筋H反射に与える影響の変化．日本スポーツ歯科医学会第36回学術大会（埼玉），2025.12.6-12.7.
8. 横田裕丈，佐藤亜美，山波克彰，木村玲奈，小林弘人，久保幸大，中山侑也，佐藤来夢，須貝菜央，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．経皮的耳介迷走神経刺激（taVNS）が反応時間に及ぼす影響と自律神経指標との関連．第78回日本自律神経学会総会．2025.10.24-10.25.

9. 佐野颯一郎，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，中山侑也，久保幸大，坂本航大，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．運動誘発性鎮痛に対する経皮的耳介迷走神経刺激の併用効果と自律神経反応性の関連．第55回日本臨床神経生理学会学術大会．2025.11.13-11.15.
10. 牧野郁美，横田裕丈，安達朋笑，山波克彰，木村玲奈，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．高強度間欠的運動中の経皮的耳介迷走神経刺激がパフォーマンスと自律神経応答に及ぼす影響．第55回日本臨床神経生理学会学術大会．2025.11.13-11.15.
11. 須貝菜央，平林怜，徳永涼奈，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．咬合の遠隔促通効果は反応時間を向上させる．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.
12. 徳永涼奈，平林怜，須貝菜央，髙橋麻衣，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．息止めが脊髄機能に及ぼす影響．第79回日本体力医学会大会（滋賀），2025.9.17-9.19.
13. 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．示指および中指を除いたグリップ動作が外反ストレス下における内側肘関節安定性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会．2025.11.29-11.30.
14. 加藤雄樹，石垣智恒，佐藤来夢，坂本航大，横田裕丈，平林怜，小宮諒，江玉睦明．非荷重および負荷の異なる荷重動作中の膝屈曲角度の変化が局所的な膝蓋腱力学的特性におよぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会．2025.11.29-11.30.
15. 佐藤来夢，石垣智恒，大河内偉琉，坂本航大，加藤雄樹，平林怜，横田裕丈，小宮諒，江玉睦明．手関節角度を変えたグリップ動作が外反ストレス下における内側肘関節安定性へおよぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会．2025.11.2-11.3.
16. 石垣智恒，佐藤来夢，平林怜，横田裕丈，小宮諒，大森豪，江玉睦明．高校野球選手における睡眠の質と主観的上肢機能との関連性．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会．2025.11.2-11.3.
17. 山波克彰，横田裕丈，大屋りょう，木村玲奈，久保幸大，中山侑也，平林怜，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明．高強度運動後におけるtaVNSが反応時間および認知機能へ及ぼす影響．第78回日本自律神経学会総会．2025.10.24-10.25.
18. 坂本航大，江玉睦明，石垣智恒，横田裕丈，平林怜，関根千恵，小宮諒，佐藤昇．後踵骨滑液包の腫脹がアキレス腱付着部の機械的ストレスに及ぼす影響　Thiel固定遺体を用いた検討．第36回日本整形外科超音波学会．2025.7.11-7.12.
19. Yoshida Y, Yamaguchi H, Nishino R, Hirabayashi R, Okada Y. Effect of sustained intrathoracic pressure load on remote facilitation of the soleus H-reflex. 2026 International Association for Dental, Oral, and Craniofacial Research（米国）．2026.3.25-3.28.

5　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，日本基礎理学療法学会，日本スポーツ歯科医学会（編集委員），日本スポーツ理学療法学会，日本臨床スポーツ医学会，日本臨床神経生理学学会，日本整形外科スポーツ医学会，日本体力医学会，日本物理療法学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本スポーツ歯科医学会，編集委員
2. Journal of Functional Morphology and Kinesiology，論文査読
3. Experimental Brain Research，論文査読
4. Experimental Physiology，論文査読
5. Frontiers in Rehabilitation Sciences，論文査読
6. Frontiers in Physiology，論文査読
7. Frontiers in Sports and Active Living，論文査読
8. Scientific Reports，論文査読
9. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，演題査読
10. 日本物理療法合同学術大会2025，演題査読

6　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 北信越大学サッカー連盟，メディカルサポート，北信越大学サッカーリーグ１部，新潟市，2025.9.13.
2. 公益財団法人 日本サッカー協会，メディカルサポート，総理大臣杯全日本サッカートーナメント　北信越大会，新潟市，2025.7.5.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本スポーツ歯科医学会（編集委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024-2025年度，日本物理療法学会研究助成，緊張性振動反射介入による筋疲労改善効果の検証，研究代表者
2. 2024-2025年度，公益財団法人上原記念生命科学財団，視覚的運動錯覚がもたらすニューロモデュレーション，研究代表者

2) 学内部活動の実績

1. 第53回 北信越大学サッカーリーグ１部 優勝（トレーナー）
2. 第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会 優勝（トレーナー）
3. 2025年度第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント ベスト８（トレーナー）
4. 天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会 出場（トレーナー）
5. 2025年度 第74回全日本大学サッカー選手権大会強化ラウンド 優勝（トレーナー）

8　学内委員会活動　アスリートサポート研究センター，運動機能医科学研究所，FD・SD推進委員会（副委員長），高大医連携推進委員会，チーム医療実行委員会，入試検討部会（部会長），教育開発部会

氏名：高林　知也

1　研究題目　ランニング障害に関する研究，足部バイオメカニクスに関する研究，シミュレーションに関する研究

2　論文

1. Takabayashi T, Edama M, Inai T, Kubo M. Effects of ankle joint biomechanics and foot postures on Achilles tendon force during running through a simulation study. Sports Biomechanics (JCR). 2025; 24: 9. 2722-2732. (review)
2. Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effect of foot-strike pattern during running on cumulative load of Achilles tendon force, planter fascia force, and patellofemoral joint stress. Journal of Sports Science and Medicine (JCR). 2025; 24: 747-754. (review)
3. Ogata T, Takabayashi T, Toma H, Kikumoto T, Kubo M. Differences in the Rotation Angles of the Upper, Middle, and Lower Thoracic Spine, Lumbar Spine, and Pelvis During Front Crawl Swimming. Sports Biomechanics (JCR). 2025; 24: 12. 3692-3705. (review)
4. Kikumoto T, Mizutani J, Tsuchida A, Takabayashi T, Kubo M, Okada H, Kon Y. Epidemiology of ankle sprains and anterior cruciate ligament injuries in youth basketball athletes in Niigata, Japan: A regional survey on injury management and healthcare professional involvement. PLoS One (JCR). 2025; 21: 3. e0344196. (review)
5. Inai T, Takabayashi T. Relationships between hand grip strength and gait parameters measured using a foot-mounted sensor in non-laboratory settings in older women. Scientific Reports (JCR). 2025; 15: 1. 29375. (review)
6. Koshino Y, Takabayashi T, Kobayashi T, Kudo S, Edama M. Ankle dorsiflexion range of motion is associated with compression stiffness of gastrocnemius and soleus muscles, foot structures, and hallux extension range of motion. Foot and Ankle Surgery (JCR). 2026; 32: 4. 373-378. (review)

7. Morioka M, Takabayashi T, Nishiguchi H, Kikumoto T, Kubo M. Effect of insoles on plantar fascia tension during running in individuals with flatfoot. Journal of the American Podiatric Medical Association (JCR). in-press. (review)
8. Laigo A, Takabayashi T, Kikumoto T, Watanabe T, Kikuchi Y, Kubo M. Ankle joint alignment influences proprioception in chronic ankle instability during a stepping-down task. Niigata Journal of Health and Welfare. in-press. (review)
9. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Takabayashi T, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the retrocalcaneal bursal wedge of Kager's fat pad. Surgical and Radiologic Anatomy (JCR). 2026; 48: 1. 1-7. (review)
10. Edama M, Sekii Y, Sakamoto K, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Sekine C, Takabayashi T, Sato N. Differences in ankle stabilizing function between the upper and lower fiber bundles of the anterior talofibular ligament: an anatomical study. Scientific Reports (JCR). 2025; 15: 1. 26126. (review)
11. 沼澤俊，高林知也．慢性足関節不安定症を有する高校生アスリートにおけるArch Height Flexibilityの特徴．理学療法兵庫．2025; 31: 37-38（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 高林知也，江玉睦明，稲井卓真，久保雅義．ランニング中の後足部，中足部，前足部に生じる床反力の推定．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
2. 高林知也，江玉睦明，稲井卓真，久保雅義．歩行およびランニング中の関節間協調性の可視化．第13回日本運動器理学療法学会学術集会（大阪）．2025.11.22-11.23.（シンポジウム）．
3. 高林知也．なぜ統計学って理学療法に必要なの？．第60回日本理学療法学術研修大会（オンデマンド）．2025.5.31-6.1.
4. 高林知也，江玉睦明，稲井卓真，久保雅義．足関節バイオメカニクスと足部アライメントの違いが片脚着地動作時のアキレス腱張力に与える影響．第50回日本足の外科学会学術集会（長野）．2025.11.13-11.14.
5. Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effects of different foot strike patterns during running on cumulative load of Achilles tendon force. Rehabilitaton Science convention (Philippines). 2025.5.3-5.4.
6. Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effects of different foot strike patterns during running on vertical average loading rate. World Physiotherapy Congress 2025 (Tokyo). 2025.5.29-5.31.
7. 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，久保雅義．反発性の異なるインソールがアキレス腱張力に与える影響 反発性の異なるインソールがアキレス腱張力に与える影響．第６回足の構造と機能研究会学術集会（東京）．2025.6.7-6.8.
8. 角田彪瑠，高林知也，平塚栞，菊元孝則，久保雅義．曲線路ランニングにおける足・膝・股関節キネマティクスの左右差．第６回足の構造と機能研究会学術集会（東京）．2025.6.7-6.8.
9. Sato S, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. The step motion of catcher contributes to enhanced throwing performance. World Physiotherapy Congress 2025 (Tokyo). 2025.5.29-5.31.
10. Okuya M, Kikumoto T, Suzuki S, Takabayashi T, Kubo M. The Diagnostic Value of the Length Change Rate between the Fibular Lateral Malleolus and Talus in relation to Anterior Cruciate Ligament Injury Risk. Rehabilitaton Science convention (Philippines). 2025.5.3-5.4.
11. 佐藤慎之助，高林知也，菊元孝則，江玉睦明，久保雅義．捕手における捕球前のステップ動作は肩・肘関節モーメントに影響を与えるのか？．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
12. 岩崎有真，高林知也，佐藤慎之助，菊元孝則，久保雅義．投球動作における踏み込み脚の膝関節伸展運動が肘関節モメントに与える影響とそのメカニズムの検討．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.

13. 佐藤希美花，高林知也，西口ほのか，角田彪瑠，菊元孝則，久保雅義．曲線路ランニング中における左右下肢のアキレス腱張力の違い．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
14. 佐藤慎之助，高林知也，岩崎有真，野村弦玄，菊元孝則，久保雅義．捕手における捕球前ステップの有無は肩・体幹キネマティクスへ影響を与えるのか？．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
15. 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，久保雅義．インソールの反発性の違いが前足部接地ランニング時の足底腱膜張力に与える影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
16. 角田彪瑠，高林知也，西口ほのか，菊元孝則，久保雅義．曲線路ランニング中における左右下肢のアキレス腱張力の違い．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
17. 島谷美海花，菊元孝則，高林知也，久保雅義．前十字靭帯再建術後における大腿四頭筋内脂肪量と等尺性トルク発揮率の関係．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
18. 西口ほのか，高林知也，菊元孝則，江玉睦明，久保雅義．インソールの反発性の違いが前足部接地ランニング時のアキレス腱張力に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
19. 島谷美海花，菊元孝則，高林知也，江玉睦明，久保雅義．イ膝前十字靭帯再建術者における遠心性収縮時のトルク発揮率と大腿四頭筋の筋内脂肪量との関係．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.
20. Nishiguchi H, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Effect of different insole resilience on planter fascia force during walking. 14th Pan-pacific conference on rehabilitation (Hong kong). 2025.11.8-11.9.
21. Sato S, Takabayashi T, Iwasaki Y, Nomura Y, Kikumoto T, Kubo M. Relationship between ball velocity and upper extremity joint moments in baseball catchers. 14th Pan-pacific conference on rehabilitation (Hong kong). 2025.11.8-11.9.
22. Shimaya M, Kikumoto T, Takabayashi T, Kobo M. Relationship Between Quadriceps Intramuscular Fat Content and Rate of Torque Development Across Different Contraction Modes Following Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. 14th Pan-pacific conference on rehabilitation (Hong kong). 2025.11.8-11.9.
23. Kikumoto T, Suzuki S, Okuya M, Takabayashi T, Kubo M. Single-legged landing behavior of high school basketball players with chronic ankle instability. Rehabilitaton Science convention (Philippines). 2025.5.3-5.4.
24. Kikumoto T, Suzuki S, Okuya M, Takabayashi T, Kubo M. Investigation of Recurrent Ankle Sprains as Risk Factor for ACL. Rehabilitaton Science convention (Philippines). 2025.5.3-5.4.
25. 小松未央，菊元孝則，高林知也，久保雅義．前距腓靭帯の離開率が跳躍パフォーマンスに及ぼす影響．第12回日本スポーツ理学療法学会学術集会（札幌）．2025.11.29-11.30.
26. 平塚栞，高林知也，鈴木駿佑，菊元孝則，岡田洋和，久保雅義．扁平足者のArch height flexibilityが歩行時の下肢関節運動に与える影響．新潟県リハビリテーション専門職学術大会（新潟）．2025.12.20-12.21.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本理学療法士協会，足の構造と機能研究会（理事），足の構造と機能研究会（事務局），日本スポーツ理学療法学会（機関紙編集委員），日本スポーツ理学療法学会（スポーツ理学療法学編集部会），日本スポーツ理学療法学会（学術庶務委員），日本スポーツ理学療法学会（スポーツ理学療法学査読委員），日本スポーツ理学療法学会（情報戦略・IR委員），日本基礎理学療法学会（超音波画像診断装置使用に関する検討委員），全国大学理学療法学教育学会，日本臨床スポーツ医学会，日本足の外科学会，新潟スポーツ理学療法研究会，新潟県理学療法士会

2) 学術集会の主催

1. 第６回足の構造と機能研究会学術集会，学術委員，東京，2025.6.7-6.8.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第６回足の構造と機能研究会学術大会，座長，東京，2025.6.7-6.8.
2. 第12回スポーツ理学療法学会学術大会，演題査読
3. Gait & Posture，査読
4. Scientific Reports，査読
5. International Journal of Sport and Health Science，査読
6. Clinical Biomechanics，査読
7. Knee，査読
8. Journal of NeuroEngineering and Rehabilitation，査読
9. Science Progress，査読
10. Gait & Posture（No3とは異なる論文の査読），査読
11. Scientific Reports，査読
12. Scandinavian Journal of Medicine & Science in Sports，査読
13. Physical Therapy in Sport，査読
14. 第12回スポーツ理学療法学会学術大会，座長，札幌，2025.11.29-11.30.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 研修会，バイオメカニクスセミナー，講師，中外製薬会社，医療従事者，Web，2025.6.11.
2. N-FOOT足部・足関節の理学療法セミナー，繰り返す捻挫と慢性足関節不安定症～基礎研究の視点から～，講師，岡田整形外科，医師・PT，Web，2025.6.25.
3. 城東整形外科セミナー，臨床に生かす足部研究，講師，城東整形外科，医師・PT，秋田市，2025.7.4.
4. 新潟東ブロック研修会，後期研修E領域別研修　第４回症例検討・事例共有，運営委員・事務局，新潟県士会，PT，新潟市，2025.7.12.
5. 新潟東ブロック研修会，後期研修E領域別研修　第４回症例検討・事例共有，座長，新潟県士会，PT，新潟市，2025.7.12.
6. こばり坂クリニック勉強会，足部バイオメカニクス，講師，こばり坂クリニック，PT，Web，2025.7.18.
7. 研修会，足部から考える治療戦略，講師，長野整形外科クリニック，PT，長野市，2025.8.1.
8. 第９回基礎理学療法学セミナー，足関節の機能解剖と理学療法の最前線：足関節のバイオメカニクスに関する最新知見，講師，日本基礎理学療法学会，PT，Web，2025.8.26.
9. 新潟県理学療法士会 新潟東・新潟西・下越ブロック合同研修会，管理者研修会：これからのリーダーシップを学ぶ場，運営委員・事務局，新潟県士会，PT，新潟市，2025.8.30.
10. 新潟県理学療法士会 新潟東・新潟西・下越ブロック合同研修会，管理者研修会：これからのリーダーシップを学ぶ場，座長，新潟県士会，PT，新潟市，2025.8.30.
11. 新潟東ブロック研修会，『はじめてみよう！症例・事例共有座談会』，運営委員・事務局，新潟県士会，PT，新潟市，2025.11.15.
12. スーパージュニア支援事業，フィジカルチェック，運営・測定，新潟市スポーツ協会，ボクシング選手，新潟市，2025.12.14.
13. 新潟東ブロック研修会，地域連携研修会，運営委員・事務局，新潟県士会，PT，新潟市，2026.2.14.
14. セミナー，ランニング障害，講師，副島整形外科，PT，Web，2025.3.4.
15. 【足部・足関節＆腱障害】最前線オンラインセミナー，足部-足関節バイオメカニクス最前線，講師，足の構造と機能研究会，PT，Web，2025.3.30.
16. 勉強会，足関節・足部バイオメカニクス，講師，岡田整形外科，医師・PT，新潟市，2026.2.20.
17. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー，講座講座３_足部とランニング障害の関

係性について，講師，市民，新潟市（オンライン），2025.4.1-2026.3.31.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
岡田整形外科倫理審査委員会（外部審査委員），中外製薬会社（契約アドバイザー）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員
新潟県士会東ブロック（事務局委員），全国大学理学療法学教育学会（選挙管理委員会委員長）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023，科研費基盤研究C，MRI情報を用いた筋骨格有限要素モデルによる扁平足のタイプ別での骨・軟部組織負荷，研究代表者
2. 2023，科研費基盤研究B，アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発，研究分担者
3. 2025，科研費基盤研究C，慢性足関節不安定症が膝前十字靭帯損傷の危険因子となるメカニズムの検証，研究分担者
4. 2023，科研費国際共同研究加速基金，腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立，研究分担者
5. 2025，歩行機能とソケット適合を考慮した新しい下腿義足ソケットの最適設計に関する研究，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得
新潟リハビリテーション専門職学術大会・フレッシュマン賞（第二演者）（2025.12.21）

3) 学外兼務講師等

1. 新潟リハビリテーション病院（非常勤勤務），理学療法士，2016.6-2026.3.
2. 二王子とっさか（非常勤勤務），理学療法士，2019.1-（現在）

7　学内委員会活動　図書館・学習支援センター運営委員会（部会長），運動機能医科学研究所（所員）

氏名：宮口　翔太

1　研究題目　経頭蓋電流刺激法が運動学習に与える効果に関する研究

2　論文

1. Miyaguchi S, Inukai Y, Igarashi K, Yamamoto S, Otsuru N, Onishi H. Slow-oscillatory transcranial alternating current stimulation over the primary motor cortex improves motor skill acquisition. European Journal of Neuroscience. Vol.62(6). 2025.（査読あり）
2. Miyaguchi S, Inukai Y, Muroi M, Yamamoto S, Onishi H. Effects of cerebellar tACS with gamma band on basketball shooting skills: a single-blind, randomized controlled trial in college students with basketball experience. Brain and Behavior. Vol.15(10). 2025.（査読あり）
3. Takahashi H, Inukai Y, Nagasaka K, Miyaguchi S, Sakurai N, Kodama N, Otsuru N, Onishi H. Effect of Transcranial Direct Current Stimulation Targeting Brain Regions Identified Through Voxel-based Morphometry on One-Legged Standing Balance with Eyes Closed. Brain and Behavior. 2026.（査読あり）

3　報告書

1. 宮口翔太．基盤研究C，補足運動野を核とした神経ネットワーク強化による運動学習のプラトー脱却戦略，研究成果報告書，2024-2026，研究代表者

4　学会等研究発表

1. Takahashi H, Inukai Y, Nagasaka K, Miyaguchi S, Sakurai N, Kodama N, Otsuru N, Onishi H. Functional connectivity between the motor cortex and cerebellum in balance function.（2025）REHABILITATION SCIENCE CONVENTION 2025.（マニラ・フィリピン）2025.5.3-5.4.
2. 宮口翔太，犬飼康人，五十嵐貫太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野に対する徐波帯域の経頭蓋交流電流刺激が運動スキルの獲得に与える効果．（2025）第30回日本基礎理学療法学会学術大会．（大分県・日本）

2025.10.17-10.18.

3. 廣瀬貴喜，犬飼康人，高橋ひろな，小野優翔，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．バランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の持続性の検証．（2025）第30回日本基礎理学療法学会学術大会．（大分県・日本）2025.10.17-10.18.
4. 髙橋ひろな，犬飼康人，長坂和明，宮口翔太，櫻井典子，児玉直樹，大鶴直史，大西秀明．若年健常者における閉眼片脚立位バランスと機能的結合との関連－安静時の機能的結合解析を用いた検討－．（2025）第30回日本基礎理学療法学会学術大会．（大分県・日本）2025.10.17-10.18.
5. 渡邉華南，犬飼康人，高橋ひろな，小野優翔，廣瀬貴喜，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野および小脳に対する経頭蓋交流電流刺激がバランススキルの獲得に与える効果．（2025）第30回日本基礎理学療法学会学術大会．（大分県・日本）2025.10.17-10.18.
6. 亀川優菜，犬飼康人，高橋ひろな，廣瀬貴喜，武田真桜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．閉眼片脚立位トレーニングによるCross-Education効果の検証．（2025）第30回日本基礎理学療法学会学術大会．（大分県・日本）2025.10.17-10.18.
7. 志田光紀，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，武田真桜，廣瀬貴喜，宮口翔太，大鶴直史，大西秀明．一次運動野へのtRNSの刺激実施時期がバランススキルの獲得に与える影響．（2025）第30回日本基礎理学療法学会学術大会．
8. 武田真桜，犬飼康人，髙橋ひろな，小野優翔，廣瀬貴喜，宮口翔太，齊藤慧，大鶴直史，大西秀明．足底への高頻度反復感覚刺激が動的バランス制御に与える刺激効果の検証．（2025）第30回日本基礎理学療法学会学術大会．（大分県・日本）2025.10.17-10.18.
9. 髙橋ひろな，犬飼康人，長坂和明，宮口翔太，櫻井典子，児玉直樹，大鶴直史，大西秀明．前庭ノイズ電流刺激が閉眼立位バランスに与える影響と効果の個人差に関連する安静時機能的結合の同定．（2025）第55回臨床神経生理学会．（沖縄県・日本）2025.11.13-11.15.
10. 髙橋ひろな，犬飼康人，長坂和明，宮口翔太，櫻井典子，児玉直樹，大鶴直史，大西秀明．バランス機能を向上させるニューロモデュレーションアプローチの確立-脳画像解析を用いた検討-．（2025）第25回新潟医療福祉学会．（新潟県・日本）2025.10.25.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本理学療法士学会，日本基礎理学療法士学会，日本臨床神経生理学会，全国大学理学療法学教育学会（庶務）

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県理学療法士会，前期研修A初期研修（人間関係および接遇），講師，新潟市，2025.6.6.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県理学療法士会（学術部員），日本理学療法士協会　認定・専門理学療法士制度委員会（班員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研究C，補足運動野を核とした神経ネットワーク強化による運動学習のプラトー脱却戦略，研究代表者

8　学内委員会活動　高等教育推進センター運営委員会（部会長），運動機能医科学研究所，SHAINプロジェクト（基礎的研究メンバー）

氏名：長坂　和明

1　研究題目　脳卒中後の可塑性に関するシステム的理解，モノアミンによる感覚と運動の修飾作用の解明

2　論文

1. Ogawa Y, Nagasaka K, Ishii D, Nagao A, Ikarashi H, Otsuru N, Onishi H. Enhanced flavoprotein autofluorescence imaging in rats using a combination of thin skull window and skull-clearing

reagents. Neuroscience letters. 2025; 856-858.（査読有）

2. Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Iimuro K, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Emotional neglect in childhood modulated aperiodic offset in left pars orbitalis in adulthood. Frontiers in Neuroscience. 2025; 1719462.（査読有）
3. Takahashi H, Inukai Y, Nagasaka K, Miyaguchi S, Sakurai N, Kodama N, Otsuru N, Onishi H. Effect of transcranial direct current stimulation targeting brain regions identified through. Brain and Behavior. 2026 in press.（査読有）
4. 井上創太，大鶴直史，五十嵐眸実，飯室幸士，平賀大河，長坂和明，大西秀明．左背外側前頭前野への陽極および陰極tDCSの痛み知覚変動性への影響．物理療法科学．2025 in press.（査読有）

3　学会等研究発表

1. 長尾彩音，長坂和明，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Distinct cortical responses to dorsal and ventral retrosplenial cortex stimulation: a wide-field imaging study. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.27.
2. 小川有生人，長坂和明，長尾彩音，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-dependent brain activity changes in a rat model of central post-stroke pain. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.27.
3. 安達航希，長坂和明，長尾彩音，小川有生人，鈴木孝昇，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-specific inhibition of somatosensory responses by ventral tegmental area activation. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.27.
4. 渡辺佳音，長坂和明，安達航希，長尾彩音，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．The role of the basolateral amygdala in the onset of central post-stroke pain. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.27.
5. 瀬尾歩，長坂和明，長尾彩音，市村優真，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．心周期が一次運動野の興奮性に与える影響．JAPAN PAIN WEEK 2025（東京），2025.12.4-12.6.
6. 五十嵐眸実，大鶴直史，佐藤萌愛，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．冷刺激に対する自律神経応答と内因性疼痛抑制の関連．JAPAN PAIN WEEK 2025（東京），2025.12.4-12.6.
7. 市川颯太，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．小脳への経頭蓋直流電流刺激による痛覚閾値の変化．JAPAN PAIN WEEK 2025（東京），2025.12.4-12.6.
8. 中村歩睦，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．島皮質を標的とした時間干渉刺激が心拍変動に与える影響．JAPAN PAIN WEEK 2025（東京），2025.12.4-12.6.
9. Takahashi H, Inukai Y, Nagasaka K, Miyaguchi S, Sakurai N, Kodama N, Otsuru N, Onishi H. Functional Connectivity between the Motor Cortex and Cerebellum in balance function. The 4th International convention in the field of Rehabilitation Sciences Convention 2025 (Philippines). 2025.5.2-5.3.
10. 小島翔，長坂和明，齊藤慧，大鶴直史，田邊かこ，櫻井典子，児玉直樹，原正之，大西秀明．アスリートと非アスリートに対する擦刺激が脳活動に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（大分），2025.10.17-10.18.
11. 長坂和明．Dynamic Spatiotemporal Reorganization of Cortical Activity Following Thalamic Hemorrhage in Rats，第103回日本生理学会（東京），2026.3.10-3.12.【シンポジウム】

4　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，新潟医療福祉学会，脳機能とリハビリテーション研究会（理事），全国大学理学療法学教育学会（庶務），日本疼痛学会，日本基礎理学療法学会，日本神経理学療法学会，日本神経科学学会，日本生理学会

2) 学術集会の主催

1. 脳機能とリハビリテーション研究会，第31回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会，実行委員長，千葉市，開催日2025.12.6・2025.4.1-12.6.

2. 脳機能とリハビリテーション研究会，第32回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会，準備委員長，千葉市，開催日2025.12.12・2025.12.7-2026.3.31.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第31回医用近赤外線分光法研究会/第29回酸素ダイナミクス研究会第６回合同研究会/第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，座長，新潟，2025.9.27-9.28.
2. 理学療法学，査読委員
3. 神経理学療法学，査読委員
4. 日本神経理学療法学会，戦略的課題解決委員会，「中枢性疼痛」班員
5. Journal of Rehabilitation Neurosciences，Editor
6. 第23回日本神経理学療法学会学術大会，演題査読
7. 第31回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会，座長，千葉市，2025.12.6.
8. 第31回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会，演題査読，千葉市，2025.11.6-11.14.
9. Journal of Rehabilitation Neurosciences，論文査読
10. Communications Biology，論文査読
11. Physical Therapy Research，論文査読
12. Nature Communications，論文査読
13. CNS Neuroscience & Therapeutics，論文査読

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第1416回臨床実習指導者講習会，実行委員長（統括），一般社団法人全国リハビリテーション学校協会，公益社団法人日本理学療法士協会，理学療法士および作業療法士，新潟市，2025.8.28-8.29.
2. 脳機能とリハビリテーション研究会，第51回定例勉強会，世話人，脳機能とリハビリテーション研究会，コメディカル・医師・看護師・学生，web開催，2025.5.27.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，基盤研究B，脳卒中後疼痛の発症を予測する神経活動バイオマーカーの確立と新たな治療戦略の創出，研究代表者
2. 2024年度，挑戦的研究萌芽，異所性神経回路の理解と制御による脳卒中後疼痛メカニズム解明への挑戦，研究代表者
3. 2024年度，基盤研究B，運動記憶を忘却する神経基盤の解明－忘却が誘う運動学習イノベーション－，研究分担者
4. 2024年度，基盤研究B，低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明，研究分担者
5. 2025年度，基盤研究B，受傷後アスリートが慢性疼痛発症に至る脳状態の予測指標と予防策の創出，研究分担者

7　学内委員会活動　高等教育推進センター委員会，運動機能医科学研究所（研究員）

氏名：田宮　創

1　研究題目　糖尿病性腎症の重症化予防に益する研究，座位行動の有害性を解明する基礎研究，ヒトの微小循環及び微小血管機能に関する基礎研究

2　論文

1. Tamiya H, Kawashiri H, Miyamoto T, Kurosawa Y, Hamaoka T, Tsubaki A. Acute effects of belt electrode-skeletal muscle electrical stimulation on microvascular responsiveness of the gastrocnemius muscle in healthy young men. Microvasc Res. 2025 Sep; 161: 104840. (review).
2. Hotta K, Fujii Y, Hitosugi N, Takamizawa R, Inoue T, Tamiya H, Tsubaki A. Effects of veno-arterial

extracorporeal membrane oxygenation on skeletal muscle function and interstitial PO2 in contracting muscle of normal rats. Microvasc Res. 2025 Jul; 160: 104813. (review).

3. Tsubaki A, Kojima S, Tamiya H, Morishita S, Samejima S, Iwata K. Uncontrolled Orthostatic Hypotension and Multi-channel Cerebral Hemodynamic Changes in a Young Male Participant: A Case Report. Adv Exp Med Biol. 2026; 1498: 237-241. (review).
4. Tokuda S, Kojima H, Baba H, Tamiya H, Tsubaki A. Dynamic Changes in Cerebral Oxygenation and Arterial Pressure During Repeated Rapid Hypotension. Adv Exp Med Biol. 2026; 1498: 243-248. (review)
5. Endo Y, Kataoka D, Sagawa S, Igarashi M, Ishibashi R, Sato T, Tsubaki A, Tamiya H, Morishita S. Characteristics of Muscle Oxygenation of the Upper and Lower Limb During Moderate-Intensity Upper Limb Crank Exercise: A Near-Infrared Spectroscopy Study. Adv Exp Med Biol. (review).
6. Sato T, Sagawa S, Kataoka D, Igarashi M, Ishibashi R, Endo Y, Tsubaki A, Tamiya H, Morishita S. Compensatory Oxygenation Changes in Non-active and Active Muscles During Incremental Exercise in Healthy Adults. Adv Exp Med Biol. (review).
7. Tsubaki A, Saito S, Shioya T, Tamiya H, Hayao K, Morishita S. Moderate-intensity cycling exercise altered cerebral oxygenation recovery from thigh cuff release-induced acute hypotension. Proceedings Volume PC13845, Biophotonics in Exercise Science, Sports Medicine, Health Monitoring Technologies, and Wearables VII; PC1384506. 2026. (review)

3　報告書

1. 田宮創．若手研究，長時間座位がもたらす腎動脈の血流変動とその機序の解明，科学研究費助成事業　研究成果報告書，2022～2024年，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 阿部紗弓，田宮創，原田凱士，竹内裕実，武藤峻士，岡村優里，吉野琢朗，川尻陽菜，椿淳裕．４週間にわたる下肢血流制限下のインターバルトレーニングが外側広筋の酸素取り込み能力に与える影響．第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（千葉）．2025.7.19-7.20.
2. 吉野琢朗，田宮創，川尻陽菜，斎藤真太朗，塩谷拓馬，椿淳裕．下肢血流制限下の単回のインターバル運動が外側広筋の酸素取り込み勾配に与える急性効果．第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（千葉）．2025.7.19-7.20.
3. 阿部紗弓，田宮創，原田凱士，竹内裕実，武藤峻士，岡村優里，吉野琢朗，川尻陽菜，椿淳裕．４週間の下肢血流制限下のインターバルトレーニングが健常成人の心拍出量と外側広筋の酸素取り込み能力の変化に及ぼす影響．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会．第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（新潟）．2025.9.26-9.27.
4. 川尻陽菜，田宮創，大倉康太郎，曽我智里，吉野琢朗，椿淳裕．ベルト電極式骨格筋電気刺激法の周波数による違いが骨格筋微小血管反応性に与える即時効果～研究計画を中心とした報告～．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会．第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（新潟）．2025.9.26-9.27.
5. 大森恵利華，髙橋朋弥，高原夏葵，小林壮太，岩田健太郎，田宮創，早尾啓志，椿淳裕．高齢者と若年者での通常歩行，連続減算課題，二重課題歩行中の前頭前野酸素化動態の比較．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（新潟），2025.9.26-9.27.
6. 川尻陽菜，田宮創，大倉康太郎，曽我智里，井坂颯汰，正谷瑶姫，吉野琢朗，椿淳裕．ベルト電極式骨格筋電気刺激法による心拍出量の増加が非運動肢の骨格筋微小血管反応性及び導管動脈の血行動態に与える即時効果-予備的調査-．第24回日本血管血流学会学術集会（埼玉）．2025.11.2.
7. 川尻陽菜，田宮創，大倉康太郎，曽我智里，井坂颯汰，正谷瑶姫，吉野琢朗，椿淳裕．骨格筋電気刺激による筋収縮様式の差異が腓腹筋微小血管反応性に与える即時効果-予備的調査-．第12回日本骨格筋電気

刺激研究会学術集会（東京）．2026.11.14.

8. 田宮創．骨格筋微小循環の特性とリハビリテーションへの応用．第24回日本血管血流学会学術集会（埼玉）．2025.11.2.【シンポジウム】
9. 田宮創．DKDの重症化予防とリハビリテーション関連職種の関わり方．第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（福岡）．2026.3.14-3.15.【シンポジウム】
10. 田宮創．骨格筋微小血管反応性の特性．第１回札幌医科大学・北里大学・新潟医療福祉大学理学療法のための運動生理学 夏合宿（札幌），2025.8.18-8.19.
11. 田宮創．Effects of ischemic conditioning on microvascular reactivity to single passive limb movement in young adults: a pilot study．運動機能医科学研究所（新潟）．2025.8.14.

5　学会活動

1) 所属学会　日本老年療法学会（評議員），日本糖尿病理学療法学会（評議員），新潟心臓リハビリテーション研究会（世話人），日本理学療法士協会臨床実習指導者講習会（世話人），日本微小循環学会，日本腎臓リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本体力医学会，新潟医療福祉学会，ISOTT

2) 学術集会の主催

1. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，学術大会の企画・運営，準備委員，新潟市，開催日：2025.9.27-9.28．活動期間：2024.10.1-2025.9.28まで
2. 第12回日本糖尿病理学療法学会学術大会，学術大会の企画・運営，副大会長，宇都宮市，開催日：2026.10.24-10.25．活動期間：2024.12.1-現在まで．

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本糖尿病理学療法学会，ガイドラインの作成及び学会の運営，ガイドライン作成委員，2022.4.1-現在まで．
2. 日本糖尿病理学療法学会，学術・研究活動の推進，研究推進委員会，2024.8.15-現在まで．
3. 日本糖尿病理学療法学会，渉外活動，渉外部会委員会（足病変・腎臓病対策推進担当），2024.8.15-現在まで．
4. 日本老年療法学会，学会の運営・広報・ニュースレターの作成，広報委員，2022.4.1-現在まで．
5. 新潟内部障害リサーチミーティング研究会，教育講演の企画，企画運営委員，2022.4.1-現在まで．
6. 腎臓病運動療法・身体活動ネットワーク研究会，研修会企画，研修会企画班班長，2022.4.1-現在まで
7. 日本糖尿病理学療法学会，査読委員，2021.4.1-現在まで
8. Cureus Journal of Medical Science誌，reviewer, 2023.2.1-現在まで
9. Circulation Reports誌，reviewer, 2025.4.1-現在まで
10. PLOSE ONE誌，reviewer, 2025.4.1-現在まで
11. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，座長，新潟市，2025.9.27.
12. 日本心臓リハビリテーション学会第10回関東甲信越地方会，座長，東京，2025.11.1.
13. 第５回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士レジデントフォーラム，座長，日光市，2026.2.1.
14. 第10回日本糖尿病理学療法学会学術集会，若手セレクション演題審査員，千葉市，2025.12.21.
15. 第１回札幌医科大学・北里大学・新潟医療福祉大学理学療法のための運動生理学 夏合宿，座長，札幌市，2025.8.18.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県心臓リハビリテーションクラウドファンディング事業，教育講演，「心臓リハビリテーション各論」，主催者：新潟大学新潟大学大学院医歯学総合研究科　循環器内科学分野，対象者：医療従事者，Web開催，2025.6.3.

2. スキルアップ講習会・心臓リハビリテーションにおけるトレッドミルを使用した運動療法，教育講演，主催者：医療法人恒仁会新潟南病院，対象者：医療従事者，会場名：新潟南病院，2025.8.5.
3. 日本糖尿病理学療法学会　令和７年度研究支援セミナー「基礎編」，教育講演，「方法序論（サンプルサイズの設定，信頼性，妥当性，効果量）」，主催者：日本糖尿病理学療法学会，対象者：理学療法士，Web開催，2025.10.23.
4. 現職者講習会，Rehab × Circulation：骨格筋微小循環の見える化によるリハビリテーション効果の最適化，教育講演，主催者：神戸市立医療センター中央市民病院，対象者：医療従事者，2025.11.11.

2) 社会活動への参加協力

1. 第11回日本糖尿病理学療法学会学術大会，演題査読６件，開催都市：千葉市，開催日：2025.12.20-12.21，活動期間：2025.6.1-7.30.
2. 第９回日本循環器理学療法学会学術大会，演題査読４件，開催都市：名古屋市．開催日：2025.12.13，活動期間2025.6.1-6.30.
3. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会，演題査読18件，開催都市：新潟市．開催日：2025.9.27-9.28，活動期間2025.8.1-8.30.
4. PLOSE ONE誌，論文査読１件，2025.7.18.
5. Cureus Journal of Medical Science誌，論文査読１件，2025.10.21.
6. Circulation Reprts誌，論文査読１件，2025.12.8.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本老年療法学会（評議員・広報委員），日本糖尿病理学療法学会（評議員・ガイドライン作成委員・研究推進委員・渉外部会委員），新潟県心臓リハビリテーション研究会（世話人），日本理学療法士協会臨床実習指導者講習会（世話人），腎臓病運動療法・身体活動ネットワーク研究会（研修会企画班班長），新潟内部障害リサーチミーティング研究会（企画運営委員），第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（準備委員），第12回日本糖尿病理学療法学会学術集会（副大会長・準備委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費若手研究，ベルト式骨格筋電気刺激を用いた革新的な毛細血管保護戦略の開発，研究代表者
2. 2024年度，基盤研究B，低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

大学院修士〇号資格取得（2025.7.9），優秀演題賞受賞（指導学生が受賞，第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，2025.7.20）

8　学内委員会活動　新潟連携教育研究センター運営委員，運動機能医科学研究所，連携基礎ゼミ実行部会長，保健福祉連携科目実行部会員

氏名：小宮　諒

1　研究題目　足部構造と機能に関する研究，パラスポーツの障害予防とパフォーマンス向上に関する研究

2　論文

1. Ishihara H, Ikuta Y, Maeda N, Tsutsumi S, Arima S, Komiya M, Tashiro T, Abekura T, Ushio K, Mikami Y, Araki T, Adachi N, Urabe Y. Abnormal lateral malleolus morphology and its association with physical function in Japanese adolescent competitive athletes; Cross-sectional study. Gait and Posture. 2025; 120(1); 81-87.（査読あり）
2. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Effects of clenching strength on step reaction time. J Funct Morphol Kinesiol. 2025; 10(3): 264.（査読

あり）

3. Kamasaki T, Fujimura S, Kichize Y, Suenaga T, Yoshihara M, Hosaka K, Shibasaki T, Maeda N, Komiya M, Hirano A. Association Between Injury History and Navicular Drop in Male Youth Soccer Players. Cureus J Med Sci. 2025; 17(9): e92824.（査読あり）
4. Edama M, Sekii Y, Sakamoto K, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Sekine C, Takabayashi T, Sato N. Differences in ankle stabilizing function between the upper and lower fiber bundles of the anterior talofibular ligament: an anatomical study. Sci Rep. 2025; 15(1): 26126.（査読あり）
5. Sakamoto K, Edama M, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Komiya M, Kawakami J, Toriumi T. Morphological characteristics of the flexor hallucis longus-associated part of Kager's fat pad. BMC Musculoskeltal Disorders. 2025; 26(1): 1031.（査読あり）
6. Kato Y, Ishigaki T, Sato R, Sakamoto K, Hirabayashi R, Yokota H, Komiya M, Edama M. Regional changes in patellar tendon mechanical properties in vivo during non-weight-bearing and weight-bearing movements with different loads. journal of bodywork and movement therapies. 2026; 47: 126-134.（査読あり）
7. Sugai N, Hirabayashi R, Okada Y, Yoshida Y, Okouchi T, Yokota H, Ishigaki T, Komiya M, Edama M. Teeth clenching improves selective response and shortens reaction time. journal of strength and conditioning research. 2026.（査読あり）
8. Ishida A, Onoue S, Ikuta Y, Tashiro T, Arima S, Komiya M, Mizuta R, Ishihara H, Kobayashi T, Fan Gao, Andreas Brand, Yamada T, Maeda N. Quantitative dynamic evaluation of the talus-lateral malleolus distance during forward single-leg drop landing in individuals with chronic ankle instability: a cross-sectional study. Journal of Medical Ultrasonics. 2026.（査読あり）
9. Kamasaki T, Otao H, Hachiya M, Maruta M, Shimokihara S, Maeda N, Komiya M, Ochishi K, Kumamaru H, Tabira T. Effects of an intervention for improving toe pressure strength on the physical function of older adults requiring long-term care: A double-blind randomized controlled trial. Journal of Geriatric Physical Therapy. 2026.（査読あり）
10. Sato R, Ishigaki T, Kurisuga Y, Furuto I, Sakamoto K, Kato Y, Hirabayashi R, Yokota H, Komiya M, Akuzawa H, Edama M. Acute changes in supraspinatus and biceps longus tendon thickness due to pitching. 2026.（査読あり）
11. 小柳円香，前田慶明，小宮諒，田城翼，有馬知志，石原萌香，小田さくら，貝塚崚輔，浦辺幸夫．大学女子バレーボール選手に発生しているany complaintの実態調査．臨床スポーツ医学会誌．2025; 33(3): 419-425.（査読あり）
12. 小宮諒，竹下康文，松田翔太，中井雄貴，江玉睦明．Deep Learningを用いた画像解析による足部セルフチェックシステムの開発．デサントスポーツ科学．2025; 47: 107-115.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 小宮諒，江玉睦明，熊崎昌，平林怜，横田裕丈，石垣智恒．大学女子サッカー選手の跳躍力と走力の関係．第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会（北海道），2025.11.29-11.30.
2. 釜﨑大志郎，藤村諭史，吉瀬陽，末永拓也，吉原正英，保坂公大，松延勇志，松尾健司，前田慶明，小宮諒，平野敦大．受傷歴の有無にはNavicular dropが関係する－男子高校サッカー選手を対象とした横断研究－．第12回日本予防理学療法学会学術大会（福岡），2025.11.8-11.9.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本理学療法士協会，日本リハビリテーション医学会，日本スポーツ整形外科学会，日本膝関節学会，日本老年療法学会，日本パラスポーツトレーナー学会，日本義肢装具学会，国際義肢装具協会，日本アスレティックトレーニング学会，日本臨床スポーツ医学会

2) 学術集会の主催

1. 第13回日本スポーツ理学療法学会学術集会，準備委員，広島，2026.12.19-12.20・2026.3.12-2027.3.20.
2. 地域から創る，日本のスポーツ医・科学支援 ―スポーツ庁委託事業・最終年度成果発信シンポジウム―，運営スタッフ，オンライン，2026.3.20.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本理学療法学会連合 編集委員会 査読委員
2. 日本運動器理学療法学会「運動器理学療法学」査読委員
3. 日本スポーツ理学療法学会「スポーツ理学療法学」査読委員
4. 日本老年療法学会 学術大会委員
5. 日本義肢装具学会 認定制度委員
6. 日本スポーツ理学療法学会 総務委員
7. 日本スポーツ理学療法学会 情報戦略・IR委員
8. スポーツ理学療法学，査読，2025.10.
9. 運動器理学療法学，査読，2025.10.
10. Motor Control，査読，2025.6.
11. Journal of Biomechanical Open，査読，2025.12.
12. Clinical biomechanics，査読，2025.12.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度新潟県盲ろう者生活訓練事業Ⅱ「健康と運動について」，講師，2025.11.1.

2) 社会活動への参加協力

1. 第26回新潟県障害者スポーツ大会（陸上競技），総務員，2025.5.4.
2. 大きなキャンパス～みんなで描こう花火～，ふれ愛プラザ，運営スタッフ，2025.7.27.
3. ジャパンライジングプロジェクト（J-STAR）第９期検証プログラム，トレーニング指導・スポーツ支援（委託），2026.1.24-2.16.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟（クラス分け委員会 研修部会 副部会長）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，若手研究，中足部の横アーチ評価方法の確立と動作時の足部・足関節動態との関連の検討，研究代表者
2. 2025年度，基盤C，フットケア支援にむけた糖尿病患者の足部病変判別システムの開発，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

日本理学療法士協会 専門理学療法士（スポーツ理学療法）（認定日：2025.4.1），姿勢チェック（FAAB）サポートスペシャリスト（認定日：2025.5.16），日本パラ陸上競技連盟国内クラス分け（フレームランニング）（認定日：2025.8.31）

3) 学外兼務講師等

1. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター非常勤勤務（スポーツ外来），2025.4-2026.3.
2. 新潟リハビリテーション病院非常勤勤務（スポーツ外来），2025.4-2026.3.

7　学内委員会活動　アスリートサポート研究センター（研究員），運動機能医科学研究所（研究員），教務委員会

氏名：早尾　啓志

1　研究題目　ヒトの筋力トレーニング・筋損傷予防に関する研究，動物を対象とした筋損傷予防に関する研究，内部障害患者を対象とした臨床研究

2　報告書

1. 早尾啓志．研究活動スタート支援，骨格筋血流動態は伸張性収縮誘発性筋損傷の保護効果程度を示すバイオマーカーとなるか，実施状況報告書，2024-2026

3　学会等研究発表

1. 大森恵利華，髙橋朋弥，高原夏葵，小林壮太，岩田健太郎，田宮創，早尾啓志，椿淳裕．高齢者と若年者での通常歩行，連続減算課題，二重課題歩行中の前頭前野酸素化動態の比較．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会第６回合同研究会，第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（新潟・日本），2025.9.27-9.28.
2. 小曽根海知，冬至菟大，谷村大樹，熊谷竜徳，早尾啓志，荒川航平，高畠啓，金村尚彦，髙橋英明．関節リウマチモデルマウスにおける低強度運動の関節炎および骨破壊保護効果の性差．第13回日本運動器理学療法学会学術大会（大阪・日本），2025.11.22-11.23.

4　学会活動

1) 所属学会　European College of Sport Science，日本基礎理学療法学会，日本がん・リンパ浮腫理学療法学会，日本体力医学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会，第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，準備委員・運営部門担当，新潟市，2024.9.30-2025.9.28.
2. 第17回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，準備委員，2026.1.19-現在

3) 学会等でのその他の活動

1. 第43回東北理学療法学術大会，査読
2. 第８回日本がん・リンパ浮腫理学療法学会学術大会，査読

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 県委託事業 新潟県フレイル克服プロジェクト 佐渡トキめき会，身体機能計測・健康運動指導，佐渡市民，佐渡市，2025.6.20-6.22.
2. 新潟県理学療法士会・新人研修，理学療法における関連法規，講師，（公社）新潟県理学療法士会，理学療法士前期研修対象者，Web開催・新潟市，2025.6.10.
3. 新潟県理学療法士会・領域別研修会（呼吸理学療法），やりすぎ？足りない？迷わない呼吸リハの負荷量設定，特別講師，（公社）新潟県理学療法士会，理学療法士，Web開催・新潟市，2026.1.24.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県理学療法士会，学術局・生涯学習部，局員，新潟県，2024.4-現在
2. 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会，診療報酬エビデンス構築に資する研究・ワーキンググループ，調査委員，2024.4.25-現在

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県理学療法士協会（学術委員），日本がん・リンパ浮腫理学療法学会（診療報酬エビデンス構築に資するワーキンググループメンバー・調査員）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年，科研費 研究活動スタート支援，骨格筋血流動態は伸張性収縮誘発性筋損傷の保護効果程度を示すバイオマーカーとなるか，研究代表者
2. 2025年，科研費　若手研究，伸張性収縮誘発性筋損傷の予防運動の至適強度とそのメカニズムの解明，研究代表者

7　学内委員会活動　広報委員会，高大医連携推進委員会，運動機能医科学研究所

氏名：小曽根　海知

1　研究題目　関節リウマチモデルマウスにおける運動療法の効果検証，腱骨付着部症の発症機序解明

2　論文

1. 小曽根海知，金村尚彦．活動期関節リウマチに対する適切な運動療法の確立に向けた基礎研究．Medical Science Digest-最先端医療の今-．2025; 51(7): 420-421.
2. Misuo H, Ozone K, Yoneno M, Usami Y, Takahata K, Minegishi Y, Arakawa K, Kokubun T. Exercise Initiation After Surgical Reconstruction for Rat Rotator Cuff Injury Affects Tendon Healing and Muscle Preservation. Journal of Orthopaedic Research. 2026; 44(2): e70084.（査読あり）

3　報告書

1. 小曽根海知．科学研究費基盤研究（B），オミクス解析を駆使して挑む活動期関節リウマチに対する運動療法の治療機構解明，2025年度研究成果報告書，研究代表者
2. 小曽根海知．日本科学研究助成 複合分野，運動負荷の変調が腱骨付着部に及ぼす影響の解明－性差及び骨代謝に着目して－，研究成果最終報告書，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 小曽根海知．活動期関節リウマチモデルマウスに対する低負荷運動療法の効果検証－巨視的変化に着目して－．第60回日本理学療法学術研修大会：オンデマンド配信－優秀演題セレクション－（日本・東京），2025.5.31-6.1.
2. 小曽根海知，冬至寛大，谷村大樹，熊谷竜徳，早尾啓志，荒川航平，高畠啓，金村尚彦，髙橋英明．関節リウマチモデルマウスにおける低強度運動の関節炎および骨破壊保護効果の性差．第13回日本運動器理学療法学会学術大会：優秀演題セレクション２，2025.11.22-11.23.
3. 萩野谷歩，菊池直哉，吉澤龍太，小曽根海知，堤亮介，相馬裕一郎，金森章浩．TKA術後における大腿四頭筋回復遅延の背景を探る継続調査中の初期２例からの一考察－．第13回日本運動器理学療法学会学術大会，2025.11.22-11.23.
4. 吉澤龍太，菊池直哉，萩野谷歩，小曽根海知，相馬裕一郎，堤亮介，岩井浩一，金森章浩．人工膝関節全置換術者における超音波画像診断を用いた筋質評価と術後筋力との関連．第13回日本運動器理学療法学会学術大会，2025.11.22-11.23.
5. 相馬裕一郎，菊池直哉，萩野谷歩，小曽根海知，吉澤龍太，堤亮介，岩井浩，金森章浩．超音波画像診断を用いた膝前十字靭帯再建術後の筋力回復過程に影響を及ぼす因子の解析．第13回日本運動器理学療法学会学術大会，2025.11.22-11.23.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（会員），日本理学療法士協会（会員），Orthopaedic Research Society（Tendon, Skeletal Muscle section member），日本運動器理学療法学会（専門会員A），日本基礎理学療法学会（専門会員A），日本筋学会（会員），日本スポーツ整形外科学会（会員），日本膝関節学会（会員），日本リウマチ学会（会員）

2) 学会等でのその他の活動

1. Orthopaedic Research Society, Orthopaedic Research Society Annual Meeting 2026, Tendon section Abstruct reviewer, Charlotte, March 27-31, 2026.
2. Orthopaedic Research Society, Orthopaedic Research Society Annual Meeting 2026, Tendon section Late Breaking Abstruct reviewer, Charlotte, March 27-31, 2026.
3. Mediators of inflammation, reviewer (5550872), Decenver 31, 2025.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（B），オミクス解析を駆使して挑む活動期関節リウマチに対する運動療法の治療機構解明，研究代表者
2. 2025年度，日本科学研究助成 複合分野，運動負荷の変調が腱骨付着部に及ぼす影響の解明－性差及

び骨代謝に着目して－，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 医療法人社団ibis こばり坂クリニック，非常勤勤務，2024.7-現在にかけて

7 学内委員会活動　化学物質管理委員会，遺伝子組換え実験安全委員会，学生委員会，交通安全委員会，運動機能医科学研究所（研究員）

氏名：小林　壮太

1 研究題目　リハビリテーションの評価に関する研究，身体活動に関する研究，リアルワールドデータに関する研究，老年学に関する研究

2 論文

1. Kobayashi S, Miyata K, Tamura S, Hasegawa S, Shioura K, Usuda S. The Validity, Responsiveness, and Interpretability of the Activities-specific Balance Confidence Scale in Patients with Subacute Stroke: A Preliminary Investigation. Neurorehabilitation (JCR). 2025; 57(1): 88-97. (review)
2. Shimizu N, Ishigaki T, Kimura Y, Ota T, Kanai M, Suzuki Y, Ogawa T, Kubo H, Yoshida K, Saegusa H, Kobayashi S. Accuracy of physical activity intensity estimation using activity monitors in nonambulatory individuals with subacute stroke: a cross-sectional, multicenter study. Physiotherapy Theory and Practice (JCR). 2025; 41(11): 2250-2261. (review)
3. Igarashi T, Kamo T, Miyata K, Tamura S, Kobayashi S, Kaizu Y, Saito H, Kubo H, Momosaki R. Impact of frailty risk on postoperative activities of daily living and in-hospital events in older patients with hydrocephalus using a nationwide Japanese database. Geriatrics & Gerontology International (JCR). 2025; 25(7): 960-966. (review)
4. 髙橋直哉，五十嵐達也，橋本亜佐美，小林壮太，森下篤．冠動脈バイパス術後の身体活動量評価と運動指導の試み―頻回な外来通院が困難であった症例―．循環器理学療法学．2026; 5(1): 67-74.（査読あり）
5. Kobayashi S, Hasegawa S, Yamazaki S, Tsugane T, Takahashi S, Kaneko M, Asakura T, Usuda S. Association between walking space and physical activity for hospitalized patients with stroke: a cross-sectional study. Journal of Physical Therapy Science（協力学術団体）. 2025; 37(9): 486-492. (review)
6. Nishino K, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Kasai A, Furusawa M, Funayama Y, Tsubaki A, Kubota A, Fujita T, Miyata H. Anterior thigh muscle thickness normalized by body mass index is associated with falls in community-dwelling adults. Clinical Nutrition ESPEN (JCR). 2025; 70: 406-412. (review)
7. Maekawa K, Nishiwaki T, Yagi T, Kobayashi S, Amakasu K, Kamada N, Saito A, Inoue T. In-hospital Physical Activity Predicts Swallowing Function at Discharge in Patients with Hip Fracture: A Prospective Study in Convalescent Rehabilitation Wards. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation (JCR). 2025(in press). (review)
8. Kimura Y, Kubo H, Shimizu N, Yoshida K, Takeuchi M, Kai T, Tanaka S, Yamamoto S, Yoshimura T, Kobayashi S, Suzuki Y, Moronaga K, Nakamura M, Kanai M. Relationship between prolonged sedentary bout and functional recovery in patients with subacute stroke: a multicenter observational study. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation (JCR). 2025(in press). (review)
9. Imai T, Kobayashi S, Zenyoji K, Sakakibara N, Kobayashi A. Minimal detectable change and minimal important change of the simple test for evaluating hand function in patients with subacute stroke. Topics in Stroke Rehabilitation. 2026; 10: 1-12. (review)
10. 小林壮太，科研費研究活動スタート支援，報告書，研究代表者

3 学会等研究発表

1. Kobayashi S, Inoue T, Shinohara T, Imai T, Yamaura T, Sakakibara N, Ishibashi K, Watanabe M, Tsubaki A. The Life-Space Assessment for Institutionalized Settings-Proxy reflects high therapeutic

activity in hospitalized patients. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia（台湾）, 2025.10.17-10.18.

2. 小林壮太，加茂智彦，荻原啓文，田村俊太郎，齋藤拓之，久保宏紀，五十嵐達也，海津陽一，宮田一弘. 脳卒中者におけるBerg Balance Scaleを用いた診断予測精度―システマティックレビュー・メタアナリシス―. 第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025.10.31-11.1.
3. 清水夏生，木村鷹介，甲斐匠，小林壮太，久保宏紀，吉田啓志，太田智裕，石垣智也，鈴木佳樹，竹内睦，吉村友宏，山本晟矢，諸永浩平，田中周，金居督之. 歩行速度に制限を有する回復期脳卒中者の歩行速度に対する身体活動の量反応関係. 第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025.10.31-11.1.
4. 吉田啓志，木村鷹介，久保宏紀，清水夏生，金居督之，竹内睦雄，甲斐匠，小林壮太，鈴木桂樹，田中周，諸永浩平，山本晟矢，吉村友宏. 自立歩行が困難な回復期脳卒中者における入院中の身体活動量の変化特性. 第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025.10.31-11.1.
5. 田村俊太郎，海津陽一，小林壮太，荻原啓文，五十嵐達也，齋藤拓之，齋藤翔太，谷友太，長谷川智. 脳卒中患者の歩行に関連するBerg Balance Scaleのカットオフ値の外的検証. 第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025.10.31-11.1.
6. 竹内睦雄，木村鷹介，久保宏紀，清水夏生，金居督之，吉田啓志，小林壮太，甲斐匠，鈴木佳樹，吉村友宏，山本晟矢，諸永浩平，田中周. 回復期脳卒中患者の運動FIM改善と座位Breakの関連性について～歩行可否による座位Breakの修飾効果の検証～. 第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025.10.31-11.1.
7. 久保宏紀，宮田一弘，田村俊太郎，小林壮太，野添匡史，稲本あさみ，梶本一輝，西原颯太，山本望弥，島田真一. 回復期脳卒中者におけるBerg balance scaleのMinimal Important Changeの外的検証. 第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025.10.31-11.1.
8. 鈴木佳樹，木村鷹介，清水夏生，久保宏紀，吉田啓志，竹内睦雄，小林壮太，田中周，吉村友宏，山本晟矢，甲斐匠，諸永浩平，金居督之. 歩行非自立の回復期脳卒中者における入棟後1か月間の身体活動量変化と退院時自立歩行可否の関連. 第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025.10.31-11.1.
9. 今井卓也，小林壮太，小林昭博. 脳卒中後の上肢麻痺に対する共有意思決定の中・長期的な経過―ケースシリーズ―. 第59回日本作業療法学会. 2025.11.7-11.9.
10. 善養寺航耶，今井卓也，小林壮太. 脳卒中後の上肢麻痺に対してkeyformとADOCを併用した介入戦略. 第59回日本作業療法学会. 2025.11.7-11.9.
11. 今井卓也，善養寺航耶，小林壮太，篠原智行. 日本語版Rating of Everyday Arm - Use in the Community and Home (REACH) Scaleの開発. 第27回群馬県作業療法学会. 2025.11.30.
12. Kanai M, Kimura Y, Sakoda T, Ishigaki T, Ogawa T, Shimizu N, Kubo H, Kobayashi S, Takeuchi M, Tanaka S, Yoshida K, Yamamoto S, Moronaga K, Kai T, Suzuki Y, Yoshimura T, Ota T. Clustering of sedentary behavior and longitudinal changes in patients with stroke undergoing rehabilitation. Asia-Pacific Society for Physical Activity 2025. 2025.11.26-11.28.
13. 久保宏紀，小林壮太，木村鷹介，金居督之，清水夏生，吉田啓志，竹内睦雄，田中周，山本晟矢，鈴木佳樹，宮田一弘. 高齢回復期脳卒中者の日常生活動作改善に対する強度別身体活動時間のMICの算出～歩行能力別の検討～. 第4回日本老年療法学会学術集会. 2025.12.6-12.7.
14. Amakasu K, Inoue T, Kobayashi S, Saito A, Kamada N, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Watanabe Y. Low muscle mass persists despite a higher extracellular water-to-total body water ratio, and their combination predicts the poorest functional outcome in patients with acute stroke. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia（台湾）, 2025.10.17-10.18.
15. Furusawa M, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Kodama N, Sakurai N, Izumi T, Kamiya K, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Exploring a Thenar Muscle-Based Index for Skeletal Muscle Mass: MRI-Based Validation and Community Application. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia（台湾）, 2025.10.17-10.18.

16. Kamada N, Inoue T, Ogino T, Kobayashi S, Amakasu K, Saito A, Brown A, Kasai A, Furusawa M, Wada Y, Aoyagi Y. Sarcopenic Obesity Diagnosed by the Japanese Working Group Criteria in Gastrointestinal Cancer Patients: Prevalence and Association with Postoperative Complications. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia（台湾），2025.10.17-10.18.
17. Kasai A, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Furusawa M, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Multidomain frailty assessment predicts one-year incidence of Mild Cognitive Impairment in community-dwelling middle and older adults. 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia（台湾），2025.10.17-10.18.
18. 甘粕康太，井上達朗，小林壮太，齋藤新貴，鎌田夏未，ブラウン章子，笠井紅里，古澤芽衣，丸山麻樹，佐藤卓也，渡部裕美子．体液量が減少した急性期高齢脳卒中患者の細胞外水分比の上昇とSMI低下の併存は退院時の機能的指標を低下させる．第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会．2025.11.1-11.2.
19. 鎌田夏未，井上達朗，甘粕康太，齋藤新貴，小林壮太，和田勇治，青柳陽一郎．外科手術を受ける消化器がん患者における術前の身体的QOLの低下は退院時の身体機能を低下させる．第８回 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会学術大会．2025.11.1.
20. 吉岡亮伍，小林壮太，井上達朗，河井琉飛，高橋南子，大橋美心，笠井紅里，古澤芽依，西野光貴，椿淳裕．異なる生体電気インピーダンス装置で算出される四肢除脂肪量は固定誤差を生じる．第４回日本老年療法学会学術集会．2025.12.6-12.7.
21. 甘粕康太，井上達朗，小林壮太，齋藤新貴，鎌田夏未，ブラウン章子，笠井紅里，古澤芽依，丸山麻樹，渡部裕美子．急性期軽症脳卒中患者において細胞外水分比の増加を考慮した位相角の低下は退院時の機能低下を予測する．第４回日本老年療法学会学術集会．2025.12.6-12.7.
22. 鎌田夏未，井上達朗，荻野拓也，甘粕康太，齋藤新貴，小林壮太，和田勇治，青柳陽一郎．消化器がん患者における術後の抑うつ発症は退院時の身体的QOL低下と関連する．第12回日本がんリハビリテーション学会学術集会．2026.2.28-3.1.
23. Brown A, Inoue T, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Kasai A, Furusawa M, Kobayashi S, Wakunami Y, Kushi S, Wakunami A. The Cut-off Values of Mid-Upper Arm Circumference for Malnutrition Diagnosis Using GLIM in Older Japanese Patients. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会．2026.3.14.
24. Furusawa M, Inoue T, Kobayashi S, Hotta K, Izumi T, Kamiya K, Kasai A, Amakasu K, Saito A, Kamada N, Brown A, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Sarcopenic Obesity by Japanese Working Group on Sarcopenic Obesity and the association with 6-Minute Walk Distance. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会．2026.3.14.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本物理療法学会，日本神経理学療法学会，日本予防理学療法士学会，日本運動器理学療法学会，日本リハビリテーション栄養学会，日本栄養・嚥下理学療法学会，日本老年療法学会，日本サルコペニア・フレイル学会，日本理学療法科学学会，日本前庭理学療法研究会，日本運動疫学会

2) 学術集会の主催

1. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会，準備委員（財務部門），新潟，2025.9.27-9.28・2024.10-2025.9迄
2. 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会，準備委員（広報），熊本，2025.11.1-11.2・2024.6-2025.11迄
3. 第17回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，準備委員長，新潟，2028.3.4-3.5，2025.7-現在まで

3) 学会等でのその他の活動

1. 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会，学術大会での演題査読，熊本，2025.11.1-11.2，

2025.6.18-6.25.
2. BMC geriatrics，査読，2025.5.
3. Physiotherapy Theory and Practice，査読，2026.1.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，セミナー③脳卒中片麻痺患者の活動量，講師，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，理学療法士/作業療法士/言語聴覚療法士，新潟，2025.12.20.
2. 領域別研修会（予防領域）臨床でのサルコペニア・フレイルの基礎と予防・介入，原因別レクチャー②身体活動，講師，新潟県理学療法士協会，医療従事者，新潟，2026.3.21.

2) 社会活動への参加協力

1. むらかみ長寿大学フレイル・サルコペニア予防実践講座，講師，村上市教育委員会生涯学習課，地域在住高齢者，村上市マナボーテ村上，2025.8.29.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益社団法人日本理学療法士協会

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費研究活動スタート支援，入院患者に対する臨床評価尺度を用いた新たな身体活動量評価と介入指針の開発，研究代表者
2. 2025年度，公益財団法人フランスベッド・ホームケア財団研究助成，入院患者の臥位時間を削減させる環境的アプローチの開発，研究代表者
3. 2025年度，大同生命地域保健福祉研究助成，急性期脳卒中患者における身体活動量・体組成変化を基盤とした健康寿命返信に向けた戦略の探索，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

一般社団法人日本理学療法学会連合第16回優秀論文表彰優秀賞（共著者，2025.6.19），第23回日本神経理学療法学会学術大会優秀賞（共同演者，2024.11.1），第14回日本がんリハビリテーション学会学術大会優秀演題賞（共同演者，2026.3.1），第15回日本リハビリテーション栄養学会学術集会優秀演題賞（共同演者，2026.3.14）

3) 学外兼務講師等

1. 新潟リハビリテーション病院（非常勤勤務），理学療法士，2024.6-（現在）

7　学内委員会活動　個人情報保護委員会，中央教育センター運営委員会，運動機能医科学研究所（研究員）

氏名：小島　将

1　研究題目　慢性腎臓病患者の健康寿命延伸に益する研究，運動および姿勢変換時の脳循環に関する研究

2　論文

1. Saitoh M, Usui N, Kojima S, Sato Y, Abe Y, Sakuyama A. Association of osteosarcopenia with physical frailty and cachexia in patients undergoing hemodialysis: the REPnet-HD study. Renal Replacement Therapy. 2025; 11(40).（査読あり）
2. Kojima S, Usui N, Nishiyama Y, Shinozaki N, Shirai N, Mikami K, Sato Y, Noji T, Noda I, Abe Y, Saitoh M. Association of life-space mobility with physical and depressive status in older hemodialysis patients: the REPnet-HD study. Renal Replacement Therapy. 2025; 11(45).（査読あり）
3. Noji T, Usui N, Abe Y, Kojima S, Okamura D, Sato Y, Shinozaki N, Shirai N, Mikami K, Nagashima M, Yamada Y, Kasai T, Saitoh M. Association of physical activity and life space with cognitive frailty in patients on hemodialysis: the REPnet-HD study. International Urology and Nephrology. 2026; 58: 2173-2181.（査読あり）

4. Tsubaki A, Kojima S, Tamiya H, Morishita S, Samejima S, Iwata K. Uncontrolled Orthostatic Hypotension and Multi-channel Cerebral Hemodynamic Changes in a Young Male Participant: A Case Report. Advances in Experimental Medicine and Biology. 2026; 1498: 237-241.（査読あり）
5. Kojima S, Usui N, Nishiyama Y, Shinozaki N, Shirai N, Okamura D, Sato Y, Hirukawa S, Noji T, Kasai T, Takahashi H, Yamada Y, Sakuyama A, Abe Y, Saitoh M. Association between sarcopenic obesity and worsening physical performance in patients undergoing hemodialysis: The REPnet-HD study. 2026; In Press.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 小島将，臼井直人，椿淳裕，上畑昭美．透析中運動療法が脳の微小循環に与える急性効果―近赤外線分光法の臨床応用―．第30回日本基礎理学療法学会学術大会（別府市），2025.10.17-10.18.【シンポジウム】
2. 小島将，臼井直人，椿淳裕，上畑昭美．血液透析中の脳灌流モニタリングツールとしての近赤外線分光法の利用価値．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会第６回合同研究会，第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，2025.9.27-9.28.【シンポジウム】
3. 小島将，臼井直人，椿淳裕，上畑昭美．血液透析患者の透析中運動による局所脳酸素飽和度変化の個人差．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会第６回合同研究会，第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，2025.9.27-9.28.
4. 小島将，臼井直人，篠崎信人，白井信行，岡村大介，佐藤陽一，肥留川隼，野地剛史，河西利昌，齊藤正和．血液透析患者のサルコペニア肥満が１年後の身体機能低下に与える影響：REPnet-HD study．第11回日本糖尿病理学療法学科学術大会（千葉市），2025.12.20-12.21.
5. 白井信行，臼井直人，小島将，篠崎信人，岡村大介，佐藤陽一，三上健太，河西利昌，島野優，齊藤正和．血液透析患者における基本チェックリストを使用した短縮版転倒リスク評価スケールの構築：REPnet-HD Study．第11回日本糖尿病理学療法学科学術大会（千葉市），2025.12.20-12.21.
6. 池田理紗，臼井直人，小島将，西山裕貴，杉山慶，稲津昭仁，上畑昭美．糖尿病性腎症により透析導入をした血液透析患者の筋内脂肪と骨格筋量，身体機能との関連．第11回日本糖尿病理学療法学科学術大会（千葉市），2025.12.20-12.21.
7. 小島将，臼井直人．慢性腎臓病患者の運動耐容能評価．第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（久留米市），2026.3.14-3.15.【シンポジウム】
8. 小島将，臼井直人，篠崎信人，白井信行，岡村大介，佐藤陽一，肥留川隼，松土智加，野地剛史，高橋治憲，野田生純，作山晃裕，阿部義史，齊藤正和．血液透析患者の異なる診断基準によるサルコペニア肥満と全死亡との関連：The REPnet-HD study．第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（久留米市），2026.3.14-3.15.
9. 齊藤正和，松沢良太，音部雄平，臼井直人，小島将，白井信行，矢部広樹，松藤勝太，鈴木裕太，河野健一．腎臓リハビリテーションガイドライン改定の軌跡と展望：理学療法班．第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（久留米市），2026.3.14-3.15.【シンポジウム】
10. 野地剛史，臼井直人，阿部義史，岡村大介，小島将，佐藤陽一，作山晃裕，白井信行，篠崎信人，島野優，高橋治憲，野田生純，松土智加，三上健太，齊藤正和．血液透析患者における身体機能と栄養指標の組み合わせによる生命予後予測能の検証：REPnet-HD Study．第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（久留米市），2026.3.14-3.15.
11. 高橋治憲，田村由馬，臼井直人，小島将，阿部義史，岡村大介，佐藤陽一，篠崎信人，白井信行，作山晃裕，島野優，野地剛史，松土智加，三上健太，齊藤正和．血液透析患者のAWGS2025で診断したサルコペニアの有病率と予後：The REPnet-HD Study．第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（久留米市），2026.3.14-3.15.
12. 濵田大樹，臼井直人，白井信行，阿部義史，岡村大介，河西利昌，小島将，作山晃裕，篠崎信人，島野優，高橋治憲，野地剛史，三上健太，齊藤正和．血液透析患者における転倒および骨折発生と透析関連低血圧，身体機能の関連：The REPnet-HD Study．第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（久留米

市），2026.3.14-3.15.

13. 篠崎信人，小島将，臼井直人，阿部義史，岡村大介，河西利昌，佐藤陽一，白井信行，作山晃裕，島野優，高橋治憲，野地剛史，野田生純，三上健太，齊藤正和．血液透析患者における２年間の身体活動量の縦断的変化に関連する因子：The REPnet-HD study．第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（久留米市），2026.3.14-3.15.
14. 長谷川靖，小島将，西山裕貴，濵田大樹，滝澤直之，上畑昭美，稲津昭仁，今井俊介，齋藤徳子，高山亜美，猪又孝元，臼井直人．慢性腎臓病ステージの進行が運動耐容能に与える影響：多施設共同研究．第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（久留米市），2026.3.14-3.15.
15. Noji T, Usui N, Abe Y, Okamura D, Kojima S, Sato Y, Sakuyama A, Shirai N, Shinozaki N, Shimano Y, Takahashi H, Noda I, Matsudo C, Mikami K, Saitoh M. Predictive value of physical function and nutrition for survival in patients undergoing hemodialysis: sub-analysis of the REPnet-HD study. World Congress of Nephrology 2026 Satellite Symposium (Sendai), 2026.3.26-3.27.

4　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，日本腎臓リハビリテーション学会（代議員），日本心臓リハビリテーション学会，日本循環器理学療法学会，日本糖尿病理学療法学会，日本基礎理学療法学会，日本老年療法学会，日本臨床運動療法学会，Renal Exercise and Physical activity network（広報委員），新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 日本糖尿病理学療法学会，第12回日本糖尿病理学療法学会学術大会，準備委員（企画・渉外，広報），宇都宮市，開催日：2026.10.24-10.25，活動期間：2025.6.1-現在まで．

3) 学会等でのその他の活動

1. Renal Exercise and Physical activity network，広報活動，広報委員，2020.8.26-現在．
2. 日本腎臓リハビリテーション学会，腎臓リハビリテーションガイドラインの改定，診療ガイドラインWGメンバー（システマティックレビュー，執筆者），2024.6.1-2026.3.15.
3. 第12回日本糖尿病理学療法学会学術大会，企画および広報活動，宇都宮市，開催日：2026.10.24-10.25，活動期間：2025.6.1-現在まで．

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 第９回日本循環器理学療法学会学術大会，演題査読，2025.7.14.
2. 第30回日本基礎理学療法学会学術大会，演題査読，2025.6.19.
3. Kidney360，論文査読３回，2025.5.14，6.12，8.20.
4. Renal Failure，論文査読２回，2025.7.7，9.13.
5. Clinical Kidney Journal，論文査読２回，2025.11.17，2026.2.12.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本腎臓リハビリテーション学会（代議員），第12回日本糖尿病理学療法学会学術大会（準備委員）

6　学内委員会活動　運動機能医科学研究所

氏名：星　春輝

1　研究題目　ヒトの随意運動と神経活動に関わる神経生理学研究，非侵襲的刺激を用いた神経可塑性に関する研究

2　論文

1. Hoshi H, Shibata S, Mima T, Onishi H. Triple Transcranial Static Magnetic Field Stimulation System (“SHIN jiba”) Modulates the Neural Activity of the Lumbar Spinal Cord: A Cross-over and Single-Blind Study in Healthy Subjects. Neuromodulation: Technology at the Neural Interface. 2025. In press. doi: 10.1016/j.neurom.2025.04.006.（査読あり）
2. Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Beta to low-

gamma rhythmic brain stimulation over primary motor cortex and supplementary motor area differentially modulates oscillatory neural drives during gait. Experimental Brain Research. 2025. Oct 21; Volume 243, article number 233. doi: 10.1007/s00221-025-07172-y.（査読あり）

3　報告書

1. 星春輝．日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究C，脳を準備させる－運動開始前の脳活動を標的とした新規リハビリテーション戦略の創出－，2025.4-2028.3，研究成果報告書，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 星春輝，芝田純也，美馬達哉，大西秀明．反応課題中の運動応答に対する超低周波経頭蓋交流電気刺激の刺激部位および位相特異的効果．生理研研究会「インタラクションとレジリエンスの神経ダイナミクス」．愛知．2025.8.29-8.30.
2. 星春輝，芝田純也，美馬達哉，大西秀明．一次運動野への小型永久磁石が運動課題中の経時的な脳酸素化動態に与える効果．第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会・第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会．新潟．2025.9.27-9.28.
3. 星春輝，芝田純也，美馬達哉，大西秀明．右一次運動野への経頭蓋静磁場刺激が磁石直下の脳血流動態に及ぼす影響．第30回日本基礎理学療法学会．大分．2025.10.17-10.18.
4. 星春輝，芝田純也，美馬達哉，大西秀明．一次運動野または補足運動野への超低周波経頭蓋交流電気刺激がGo/NoGo課題中の上肢運動応答に及ぼす位相特異的効果．第55回日本臨床神経生理学会．沖縄．2025.11.13-11.15.
5. 星春輝．臨床でのやりがいを考える―若手研究者たちの多角的視点―．第31回脳機能とリハビリテーション研究会．【シンポジウム】．千葉．2025.12.6.
6. 星春輝，芝田純也，美馬達哉，大西秀明．運動関連脳電位を模した経頭蓋交流電気刺激が外的合図に基づく運動応答に及ぼす影響（話題提供）．第31回脳機能とリハビリテーション研究会．千葉．2025.12.6.
7. 黒崎純暉，芝田純也，大西秀明，星春輝，和田有史，美馬達哉．動作語・動作画像の理解が発声反応に及ぼす影響の検討．第30回日本基礎理学療法学会．大分．2025.10.17-10.18.
8. 黒崎純暉，芝田純也，大西秀明，星春輝，和田有史，美馬達哉．動作語・動作画像の事前提示による発声反応の変化．第31回脳機能とリハビリテーション研究会．千葉．2025.12.6.

5　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，日本臨床神経性理学会，日本基礎理学療法学会，日本神経理学療法学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

日本神経理学療法学会（学術誌編集委員，総務），脳機能とリハビリテーション研究会（部員），新潟県理学療法士会（学術誌部，編集委員），運動機能医科学研究所（研究員），第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会・第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（準備委員），日本神経理学療法学会学術大会（査読，2025.7），脳機能とリハビリテーション研究会（査読，2025.11），第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第６回合同研究会・第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（査読，2025.9）

6　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 臨床実習指導者講習会，講師・ファシリテーター，新潟医療福祉大学，理学療法士・作業療法士，新潟市，2025.8.28.

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究C，脳を準備させる－運動開始前の脳活動を標的とした新規リハビリテーション戦略の創出－，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

博士（保健学）（2026.3.17）

3) 学外兼務講師等

1. 新潟脳外科病院（非常勤勤務），理学療法士，2022.9-（現在）

8 学内委員会活動　高等教育推進センター運営委員会，キャリア支援センター運営委員会

氏名：五十嵐　眸実

1 研究題目　痛みの脳内情報処理に関する研究，痛み緩和技術の開発

2 論文

1. Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Iimuro K, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Emotional neglect in childhood modulates aperiodic offset in the left pars orbitalis in adulthood. Frontires in Neuroscience. 2026; Vol19
2. Inoue S, Otsuru N, Hara M, Ikarashi H, Iimuro K, Onishi H. VR-induced interoceptive feedback may impact tactile priority in individuals with low interoceptive awareness. Virtual Reality. 2025; Voi19 (139)
3. Ogawa Y, Nagasaka K, Ishii D, Nagao A, Ikarashi H, Otsuru N, Onishi H. Enhanced flavoprotein autofluorescence imaging in rats using a combination of thin skull window and skull-clearing reagents. Neuroscience Letters. 2025; Vol856-858 (138239)

3 報告書

1. 五十嵐眸実．研究活動スタート支援，脳磁場計測を用いたtACSによる鎮痛効果の事前予測技術の開発，研究成果報告書，2023-2025

4 学会等研究発表

1. 五十嵐眸実，大鶴直史，佐藤萌愛，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．冷刺激に対する自律神経応答と内因性疼痛抑制の関連．Japan pain week（東京），2025.12.3-12.6.
2. 長尾彩音，長坂和明，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Distinct cortical responses to dorsal and ventral retrosplenial cortex stimulation: a wide-field imaging study. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.26.
3. 小川有生人，長坂和明，長尾彩音，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-dependent brain activity changes in a rat model of central post-stroke pain. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.26.
4. 安達航希，長坂和明，長尾彩音，小川有生人，鈴木孝昇，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．Time-specific inhibition of somatosensory responses by ventral tegmental area activation. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.26.
5. 渡辺佳音，長坂和明，安達航希，長尾彩音，小川有生人，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．The role of the basolateral amygdala in the onset of central post-stroke pain. 第48回日本神経科学学会（新潟），2025.7.24-7.26.
6. 市川颯太，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．小脳への経頭蓋直流電流刺激による痛覚閾値の変化．Japan pain week（東京），2025.12.3-12.6.
7. 中村歩睦，大鶴直史，五十嵐眸実，井上創太，飯室幸士，長坂和明，大西秀明．島皮質を標的とした時間干渉刺激が心拍変動に与える影響．Japan pain week（東京），2025.12.3-12.6.
8. 瀬尾歩，長坂和明，長尾彩音，市村優真，五十嵐眸実，大鶴直史，大西秀明．心周期が一次運動野の興奮性に与える影響．Japan pain week（東京），2025.12.3-12.6.

5 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，臨床神経生理学会，ペインリハビリテーション学会

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，若手研究，脳律動強化による生体内鎮痛システム強化技術の開発，研究代表者

2) 学内部活動の実績

1.　運動機能医科学研究所（研究員）

3) 学外兼務講師等

1.　医療法人泰庸会新潟脳外科病院　2022.9.1-（現在）

7　学内委員会活動　広報委員会

（2）作業療法学科

氏名：大山　峰生

1　研究題目　手外科のリハビリテーションに関する研究と開発（手外科学），手および手指筋群の機能解析（運動学）

2　論文

1. 塩田紀之，大山峰生，小田桐正博，藤目智博，小泉裕昭．筋再教育訓練に関する基礎研究．日本ハンドセラピィ学会誌17(2)：52-26，2025．（査読あり）

3　報告書

1. 大山峰生，相馬俊雄，基盤研究（C），関節支持筋の効果的な筋再教育法の開発，研究成果報告書，2023-2026，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 小田桐正博，森谷浩治，松沢翔太，塩田紀之，大山峰生．玉井分類zone4再接着指における後療法および治療成績．第37回日本ハンドセラピィ学会（横浜市）．2025.4.11-4.12.
2. 江原和晃，森谷浩治，松沢翔太，小田桐正博，大山峰生．Zone1深指屈筋腱一次修復に対する早期自動運動療法の治療成績と不良因子．第37回日本ハンドセラピィ学会（横浜市）．2025.4.11-4.12.

5　学会活動

1) 所属学会　日本ハンドセラピィ学会（顧問），日本手外科学会，日本肘関節学会，日本体力医学会，日本生体磁気学会，日本臨床神経生理学会，日本作業療法士協会，日本保健医療福祉連携教育学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本ハンドセラピィ学会，学会誌査読委員
2. 日本ハンドセラピィ学会，学会査読委員
3. 日本作業療法士学会，学会査読委員

6　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 日本ハンドセラピィ学会，応用実践研修会，講演，オンディマンド，2025.9.6-9.27.
2. 日本ハンドセラピィ学会，応用実践研修会，事例検討講師，オンライン，2025.9.28.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本ハンドセラピィ学会（顧問）

7　学内委員会活動　総務会，教育・学生支援機構（機構長），外部評価準備委員会（委員長），教員選考委員会（委員長），内部質保証推進委員会（副委員長），危機管理委員会，将来計画機構

氏名：能村　友紀

1　研究題目　認知機能低下抑制に関する研究，生活機能改善に向けた作業療法に関する研究

2　論文

1. Hiraoka T, Nomura T. Transcranial alternating current stimulation of the posterior parietal cortex enhances episodic memory consolidation. Experimental Brain Research (JCR). 2026; 244(4): 66. doi: 10.1007/s00221-026-07261-6. (review)
2. Honma K, Nomura T. Gamma tACS over the prefrontal and parietal cortices enhances episodic memory performance. Frontiers in Human Neuroscience (JCR). 2026; 20: https://doi.org/10.3389/fnhum.2026.1775435. (review)
3. Annaka H, Saitou M, Hiraoka T, Nomura T. Effects of transcutaneous auricular vagus nerve stimulation on associative memory, event-related potential P300 and P600: a single-blind pilot experiment on healthy adults. Experimental Brain Research (JCR). 2025; 243(11): https://doi.org/10.1007/s00221-025-07171-z. (review)

3　学会等研究発表

1.　平岡汰門，能村友紀．後部頭頂皮質におけるガンマ振動の経頭蓋交流電流刺激がエピソード記憶の固定化に及ぼす影響．第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）．2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　日本作業療法士協会，新潟県作業療法士会，社会作業療法士協会，日本老年療法学会，日本公衆衛生学会，日本認知症予防学会，日本臨床神経生理学会，NPO法人日本コクランセンター，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1.　第60回日本作業療法学会演題査読，演題査読委員

3) 学会等でのその他の活動

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1.　韓国高齢者・認知症作業療法学会シンポジウム，日本の介護保険制度における作業療法の現状と課題，講師，韓国高齢者・認知症作業療法学会，韓国作業療法士，韓国・ソウル，2025.5.16.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1.　2023年度，科研費基盤（C），経頭蓋交流電気刺激による大脳皮質活動の変調が宣言的記憶学習の促進に及ぼす影響，研究代表者

7　学内委員会活動　運動機能医科学研究所

氏名：能登　真一

1　研究題目　健康関連QOLの評価方法についての研究，高次脳機能障害についての研究，作業療法のアウトカム研究

2　著書

1.　能登真一．高次脳機能作業療法学の基礎，高次脳機能障害の症状と評価・治療．能登真一編．高次脳機能作業療法学 第３版．医学書院．2-40，41-163，2025.

2.　能登真一．リハビリテーション管理学とは，社会保障制度．斉藤秀之，能登真一編．リハビリテーション管理学 第２版．医学書院．1-30，2025.

3　論文

1.　Izumi R, Noto S, Nagayama H, Sano T, Takizawa H, Tsukakoshi D. Inter-rater reliability and responsiveness of patients to proxy responses of the EQ-5D-5L for older patients with musculoskeletal disorder in rehabilitation wards. BMC Musculoskelet Disord. 2026 Mar 5.

2.　Nagata T, Shinagawa S, Noto S, Yamato K, Mori N, Onuki K. Family Caregiver Burden and Neuropsychiatric Symptoms in Japanese Community-Dwelling People With Alzheimer's Disease: A Cross-Sectional Study Using a Web-Based Questionnaire. Psychogeriatrics. 2026 Mar; 26(2): e70143

3.　Shinagawa S, Nagata T, Noto S, Yamato K, Mori N, Onuki K. Caregiver burden and quality of life associated with behavioral and psychological symptoms of Alzheimer's disease: A web-based cross-sectional survey study. J Alzheimers Dis. 2026 Mar; 110(2): 628-638.

4.　Murota H, Noto S, Matsukawa M, Konishi Y, Michikami D, Toda R, Nakahara T. Survey on the Actual Use of Topical Anti-Inflammatory Drugs Among Patients with Atopic Dermatitis. Dermatol Ther. 2026 Feb; 16(2): 993-1009.

5.　Kawano K, Shiota S, Funatsu K, Murai C, Tamura T, Suzuki T, Higashi T, Noto S. Development of an ICF-Based Core Assessment Set for Psychiatric Occupational Therapy in Japan: A Three-Round Delphi Study. Occup Ther Int. 2026; 2026(1): e5138252.

6.　Izawa KP, Kitamura M, Ogura A, Kubo I, Ishihara K, Kanejima Y, Oka K, Noto S, Naito K, Brubaker

PH, Nagashima H, Tawa H, Matsumoto D, Shimizu I. Impact of Sedentary Time and Physical Function on Health-Related Quality of Life in Hospitalized Patients with Cardiovascular Disease. CJC Open. 2025 Aug 22; 7(11): 1524-1532.

7. Nakahara T, Noto S, Matsukawa M, Konishi Y, Toda R, Michikami D, Murota H. Habitual Scratching in Atopic Dermatitis and Its Association with Disease Severity: Findings from Japanese Health Insurance Claims and App-Based Data. Dermatol Ther. 2025 Nov; 15(11): 3409-3417.
8. Noto S, Shimizu N, Morishita A. Caregiver Burden Associated With Respiratory Syncytial Virus (RSV) Infection in Young Children in Japan. Cureus Journal of Medical Science. 2025 Sep 2; 17(9): e91502.
9. Nakahara T, Murota H, Noto S, Matsukawa M, Toda R, Konishi Y, Michikami D. Observational Study of Corticosteroid Phobia Using the TOPICOP Score among Adults and Caregivers of Children with Atopic Dermatitis in Japan. Dermatol Ther. 2025 Jul; 15(7): 1851-1865.
10. Kawai T, Kanegane H, Ishimura M, Okada S, Okamatsu N, Nakagawa K, Go M, Noto S. Quality of Life in Japanese Patients with Primary Immunodeficiency Disease is Disrupted throughout the Year. J Clin Immunol. 2025 May 7; 45(1): 90.
11. 鵜沢顕之，淺野帝太，佐賀洋介，堀尾浩史，高野智子，能登真一．全身型重症筋無力症の症状変動とQOLへの影響　患者報告アウトカムを用いた前向き観察研究のデザインと患者背景．診療と新薬 62：677-688，2025.

4　報告書

1. 能登真一．令和７年度厚生労働行政推進調査事業費補助金　政策科学総合研究事業　分析ガイドラインの改定に向けた費用対効果評価における方法論およびツール等の開発に関する研究　分担研究報告書　介護者のQOLを費用対効果評価に含める際の諸問題に関する研究．2025，福田敬・能登真一.

5　学会等研究発表

1. Noto S, Moriwaki K, Hagiwara Y, Iwatani T, Suzukamo Y, Morimoto K, Maeda T, Shimozuma K. Can EQ-5D-5L Discriminate the Clinical Severity of Asthma? ISPOR Real World Summit 2025. Tokyo. 2025.9.29.
2. Noto S, Saito S, Shiroiwa T. Psychometric performance of EQ-HWB for Japanese populations. ISPOR EU 2025. Glasgow. 2025.11.11.
3. 渡邉貴博，能登真一，棗田学，木村慎二．脳腫瘍患者におけるEuroQol 5 dimensions 5-levelの基準関連妥当性の検討．第59回日本作業療法学会．高松市．2025.11.7.
4. 泉良太，佐野哲也，能登真一．作業療法士のナッジ使用状況とADL・QOLとの関係について．第59回日本作業療法学会．高松市．2025.11.7.

6　学会活動

1) 所属学会　国際医薬経済・アウトカム研究学会（ISPOR）日本部会（理事），日本作業療法士協会，QOL-PRO研究会（副理事長），日本神経心理学会，日本高次脳機能障害学会，医療経済学会，日本公衆衛生学会，作業療法教育研究学会，医療経済研究機構，新潟県作業療法士会，日本衛生学会，日本医療情報学会，高次神経障害作業療法研究会，International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research，International Society for Quality of Life Research，日本生命倫理学会，日本医療・病院管理学会，日本脊髄障害医学会，日本リハビリテーション医学会，新潟医療福祉学会，日本保健医療福祉連携教育学会

2) 学術集会の主催

1. 日本作業療法士協会，第59回日本作業療法学会，学会長，高松，2025.11.7-11.11・３か月
2. QOL-PRO研究会，第13回QOL-PRO研究会学術集会，事務局長，東京，2025.12.21・２か月
3. QOL-PRO研究会，第23回QOL-PRO研究会セミナー，事務局長，東京，2025.6.28・２か月
4. QOL-PRO研究会，第24回QOL-PRO研究会セミナー，事務局長，東京，2026.3.28・２か月

3) 学会等でのその他の活動

1. ISPOR Health Preference Research Special Interest Group member
2. ISPOR Patient Preferences Task Force, Reviewer
3. ISPOR Asia Consortium member
4. Healthcare, Guest Editor
5. Value in Health, Reviewer
6. Value in Health Regional Issue, Reviewer
7. Quality of Life Research, Reviewer
8. Journal of Patient-Reported Outcomes, Reviewer
9. Journal of Affective Disorders, Reviewer
10. PharmacoEconomics, Reviewer
11. PLOS ONE, Reviewer
12. Asian Journal of Occupational Therapy, Reviewer

7 社会活動

1) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

厚生労働省 中医協 費用対効果評価専門部会（専門委員），厚生労働省 企画提案書審査委員会（委員）

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本作業療法士協会（研究倫理審査会委員長，学術誌編集委員会委員，学術委員会ICF小委員会委員，学会企画委員会委員）

8 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究（B），EQ-HWBのスコアリングアルゴリズムの開発と費用対効果評価への応用の検討，研究代表者
2. 2025年度，科研費基盤研究（B），先天性代謝異常患者と家族の報告型アウトカムによる包括的評価パッケージの開発と実装，研究分担者
3. 2025年度，厚生労働行政推進調査事業費補助金　政策科学総合研究事業　分析ガイドラインの改定に向けた費用対効果評価における方法論およびツール等の開発に関する研究，研究分担者
4. 2025年度，クレコンメディカルアセスメント株式会社 研究寄付金，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 立命館大学 生命科学研究科，費用対効果評価特論Ⅰ

9 学内委員会活動　医療経済・QOL研究センター（センター長）

氏名：今西　里佳

1 研究題目　要介護高齢者および地域在住高齢者の排尿実態研究（泌尿器科学），要介護高齢者および地域在住高齢者の蓄尿障害に対する下部尿路リハビリテーション効果検証研究（泌尿器科学，リハビリテーション科学）

2 報告書

1. 今西里佳．科研費基盤C，地域在住高齢者の排泄改善プログラムの効果検証―介護予防・転倒予防を目指して―，科学研究費助成事業研究成果報告書，2021-2025，今西里佳（研究代表者）

3 学会等研究発表

1. 今西里佳，中島ともみ，松本香好美．地域在住高齢者の下部尿路症状に対する健康講話が夜間転倒・転倒ヒヤリハット経験に与える影響．第32回日本排尿機能学会，佐賀市，2025.9.5.
2. 松本香好美，佐藤雄一郎，高橋圭三，今西里佳，黒澤一．シャント発声者に対するMostGraphによる呼吸抵抗測定の試み．第12回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会東北支部学術集会，仙台市，2025.6.28.

4 学会活動

1) 所属学会　日本老年泌尿器科学会（理事），日本老年泌尿器科学会（評議員），日本排尿機能学会（ダイバーシティ推進委員会委員），日本排尿機能学会（新選挙制度検討委員会委員），新潟医療福祉学会，International Continence Society，日本睡眠学会，日本作業療法士協会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本公衆衛生学会，日本サルコペニア・フレイル学会，日本転倒予防学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第38回日本老年泌尿器科学会（学会誌査読委員）
2. 第59回日本作業療法学会演題査読，演題査読委員
3. 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会・女性尿失禁理学療法ガイドライン外部評価委員
4. 日本排尿機能学会・神経因性下部尿路機能障害診療ガイドライン作成委員

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 日本コンチネンス協会主催第９回セラピストのための排泄リハビリテーションWEBセミナー，セラピストによる排泄リハビリテーションの目的，講師，理学療法士・作業療法士，2025.10.18.
2. 日本コンチネンス協会主催第９回セラピストのための排泄リハビリテーションWEBセミナー，下部尿路リハビリテーション，講師，理学療法士・作業療法士，2025.10.19.
3. 日本コンチネンス協会主催第７回セラピストのための排泄リハビリテーションWEBセミナー，排泄環境整備，排泄動作練習のポイント，講師，理学療法士・作業療法士，2025.10.19.
4. 横越地区公民館主催事業いきいきセミナー，フレイルについて，地域住民，13人，2025.9.18.
5. 曽野木地区公民館主催いきいきセミナー，本当は多い中高年からの排尿トラブル～正しい知識で快適な生活へ，講師，26人，2026.2.12.
6. 曽野木地区公民館主催いきいきセミナー，本当は多い中高年からの排尿トラブル～正しい知識で快適な生活へ，講師，27人，2026.2.26.
7. おむつ情報局特別イベント，OT視点による排泄環境整備，講師，251人，2026.2.19.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本コンチネンス協会（理事），日本コンチネンス協会（教育事業部教育委員），日本コンチネンス協会（セラピストのための排泄リハビリテーションセミナー実行委員長）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 令和６年度基盤Ｃシャント発声者に適したがんリハビリテーションプログラムの新たな構築（研究分担者）

2) 受賞，学位取得，資格取得

認定作業療法士（2025.4.1）

3) 学外兼務講師等

1. 長野保健医療大学，日常生活活動学Ⅱ，2025.7.7.
2. 長野保健医療大学，日常生活活動学Ⅰ，2025.10.23.
3. 群馬大学医学部，作業療法治療学演習講義Ⅲ，2025.11.26.

7　学内委員会活動　高等教育推進センター運営委員会，大学院教務委員会

氏名：園　純一郎

1　研究題目　ハンセン病神経障害への電気刺激による神経筋再生治療と評価システムの開発

2　学会活動

1) 所属学会　日本ハンセン病学会（理事，事務局長），日本作業療法士協会，新潟県作業療法士会，新潟医療福祉大学学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本医学会：日本医学会分科会　日本ハンセン病学会（日本医学会連絡委員）

3 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 日本グラフィック・メディスン協会　国際シンポジウム　医学教育における「恥（shame）」を可視化する― Graphic Medicineと医療者の体験 ―医学教育における“人間性（Humanize）”からみた「医療と恥（Shame）」，シンポジスト，新潟市メディアシップホール，2026.2.22.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県福祉保健部・新潟県藤楓協会「令和７年度国立ハンセン病療養所学生等訪問事業」，学生引率，群馬県吾妻群草津町，国立療養所栗生楽泉園及び重監房資料館，2025.8.7.

4 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），ハンセン病末梢神経障害の診断と神経筋再生治療法の開発に関する研究，研究代表者

2) 学内部活動の実績

1. ものづくりクラブ（顧問）

5 学内委員会活動　広報委員会，国際交流センター運営委員会（広報部会長），大学院広報委員会，運動機能医科学研究所

氏名：村上　元

1 研究題目　成人期自閉スペクトラム症者に対するオンラインによるマインドフルネスヨガの実行可能性の検討，成人期自閉スペクトラム症者のメンタルヘルスの調査

2 論文

1. Murakami T, Oshima F, Morimoto T, Ikeda N. Impact of bullying victimization in pathological dissociation among autistic adults. Research in Autism (JCR). 2026; 131: 202798-202798.
2. Murakami T, Oshima F, Morimoto T, Annaka H. Schema Therapy for Individuals With Subthreshold Autistic Traits and Recurrent Depressive Disorder: A Case Study. Cureus (JCR). 2025; 17(7): e87357.
3. 村上元，髙橋史．短期的で具体的な課題設定により行動変容が促進された強い不安を抱えた自閉スペクトラム症を有する一事例．作業療法（協力学術団体）．2025; 44(3): 319-325.
4. Murakami T, Oshima F, Morimoto T, Ikeda N. Autistic Traits and Childhood Adversity Experiences in Japanese University Students and Their Association with Negative Schemas. Journal of College Student Mental Health (JCR). 2026; 40(1): 142-155.

3 学会等研究発表

1. 村上元．ASDのある大学生の特徴とメンタルヘルスの課題．一般社団法人公認心理師の会2025年度年次総会：福祉・障害部会委員会企画シンポジウム：事例検討で学ぶ！発達障害の子ども期～成人期までの心理支援（東京・日本），2025.5.24.

4 学会活動

1) 所属学会　SST普及協会（学術委員，北海道支部副支部長），公認心理師の会，一般社団法人 日本臨床発達心理士会，日本健康心理学会，International Society of Schema Therapy，日本パーソナリティ心理学会，日本認知・行動療法学会，日本作業療法士協会，新潟県作業療法士協会

2) 学会等でのその他の活動

1. 作業療法ジャーナル，査読，2025.4.1-2026.3.31.
2. Asian Journal of Occupational Therapy，査読，2025.4.1-2026.3.31.
3. 作業療法の実践と科学，査読，2025.4.1-2026.3.31.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 非営利型 一般社団法人Naturalこども発達支援所はる研修会「自閉スペクトラム症とSST」，研修会講師，村上市，非営利型 一般社団法人Naturalこども発達支援所はる，職員，2025.6.13.
2. SST普及協会北海道支部主催「誰でも参加できるSST」，講師，SST普及協会北海道支部主催，地域住民，オンライン，2025.12.15.
3. SST普及協会北海道支部主催「訪問でのSST活用のための研修会」，講師，SST普及協会北海道支部主催，専門職，札幌市，2025.9.21.
4. 特定非営利活動法人ねこやなぎ主催「パーソナリティ症～スキーマ療法の観点からの理解～」，研修会講師，紋別市，特定非営利活動法人ねこやなぎ，専門職，2025.11.7.
5. 紋別市障害者基幹相談支援センター 主催「SSTから学ぶ支援者のコミュニケーション」，研修会講師，紋別市，紋別市障害者基幹相談支援センター，専門職，2025.11.8.
6. 新潟県作業療法士会現職者選択研修会「精神障害作業療法の基礎知識」，研修会講師，オンライン，新潟県作業療法士会，専門職，2025.11.30.
7. 「令和７年度 障害福祉サービス等初任者研修」，研修会講師，オンデマンド，障がい者相談支援センター夢民・総合相談支援センターHIROBA・地域生活支援センターあ～ち，専門職，2026.1.19-2.25.
8. 医療法人ひまわり会札樽病院 多機能型事業所ひまわり コパンの杜研修会「SSTについて」，研修会講師，オンライン，医療法人ひまわり会札樽病院 多機能型事業所ひまわり コパンの杜，職員，2026.3.31.

2) 社会活動への参加協力
1. 株式会社ナスカコンピュータ，研修講師，オンライン，2025.4.1-2026.3.31（月１回）.
2. 作業療法学科主催認知症カフェ，運営スタッフ，ラグーナカフェ，2025.8.29.
3. 新潟県作業療法士会，刑務所ケアプログラム介入事業，作業療法士，新潟市・新潟刑務所，2025.4.1-2026.3.31（月１回）.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員
公認心理師の会（障害福祉部部員，行政検討委員），日本作業療法士協会（AsJOT編集委員），北海道作業療法士会（論文審査委員）

6 その他の教育研究活動
1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2026年度，若手研究，自閉スペクトラム症者に併存する複雑性PTSDに対するオンラインスキーマ療法の開発，研究代表者

2) 学外兼務講師等
1. 札幌学院大学大学院，家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践，2025.9.19.
2. 札幌医科大学，札幌医科大学　精神障害作業療法治療，2026.1.8.

氏名：藤目　智博

1 研究題目　前腕の動的支持筋における固有受容反射について

2 論文
1. 塩田紀之，大山峰生，小田桐正博，藤目智博，小泉裕昭．筋再教育訓練に関する基礎研究．日本ハンドセラピィ学会誌．2025；17（2）：52-56

3 学会等研究発表
1. 藤目智博．遠位橈尺関節における尺側手根伸筋の動的支持機能－固有受容反射による筋電図学的検討．第37回日本ハンドセラピィ学会学術集会（横浜），2025.4.11-4.12.

4 学会活動
1) 所属学会　日本ハンドセラピィ学会（理事），日本手外科学会，日本肘関節外科学会，日本作業療法研究学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 日本ハンドセラピィ学会，第39回日本ハンドセラピィ学会学術集会，大会長，大阪，2027.4.24-4.25・2025.4.1-

3) 学会等でのその他の活動

1. 第37回日本ハンドセラピィ学会学術集会，座長，横浜，2025.4.12-4.13.
2. 第59回日本作業療法学会，演題査読者，高松，2025.11.7-11.9.
3. 日本ハンドセラピィ学会主催「上肢複合組織損傷セミナー」，講師，Web，2025.11.1-11.22.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. とよさか中高年教養大学・健康長寿学，創作的活動と健康増進，講師，とよさか中高年教養大学，一般，新潟市北区，2025.12.11.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本作業療法士協会（演題査読委員）

6 学内委員会活動　国家試験資格対策委員会，就職センター運営委員会

氏名：間宮　靖幸

1 研究題目　レビー小体型認知症（神経心理学），認知症性疾患（神経心理学），視覚性注意（行動神経学）

2 論文

1. 伊藤拓海，内山信，間宮靖幸，他：難聴が認知症患者の臨床像に与える影響　介護者への構造化インタビューで評価した難聴に基づく検討．精神医学．2025；第67巻（8）：1167-1174.

3 学会活動

1) 所属学会　日本作業療法学会，日本神経心理学会，日本高次脳機能障害学会，新潟医療福祉学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 住み郷研修会，認知症とその予防について，講師，秋葉区，地域住民，秋葉区役所，2025.9.11.
2. 大学連携「未来のまちづくり」，ボケないために五感を鍛える，講師，北区，地域住民，北区ラグナスクェア，2025.9.22.

2) 社会活動への参加協力

1. 茶の間，地域住民への相談・援助，2026.2.
2. 認知症カフェ，地域住民への相談・援助，2025.8.29.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益法人新潟県作業療法士会（理事）

5 学内委員会活動　教務委員会（委員），新潟連携教育研究センター運営委員会（委員），高等教育推進センター運営委員会（委員）

氏名：髙橋　里奈

1 研究題目　肘関節術後患者に対する筋電図バイオフィードバック療法の効果的な訓練方法の検証

2 報告書

1. 髙橋里奈．若手研究，肘関節術後患者の関節可動域を早期に改善する筋電図バイオフィードバック療法の開発，2021.4.1-2025.3.31，髙橋里奈

3 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本作業療法学会，日本ハンドセラピィ学会，日本手外科学会，日本肩関節学会，日本肘関節学会，日本臨床神経生理学会，新潟県作業療法士会

2) 学術集会の主催

1. 日本ハンドセラピィ学会，第37回日本ハンドセラピィ学会学術集会，実行委員，横浜市，開催2025.4.11-4.12・活動期間：2024.4.29-2025.6.30.

2. 日本ハンドセラピィ学会，第39回日本ハンドセラピィ学会学術集会，事務局長，大阪市，開催2027.4.24-4.25・活動期間：2025.4.13-2027.6.30.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第37回日本ハンドセラピィ学会学術集会，座長，横浜市，2025.4.11.
2. 第37回日本ハンドセラピィ学会学術集会，当日運営委員，横浜市，2025.4.11，4.12.
3. 新潟作業療法士会，第20回新潟県作業療法学会　一般演題査読8月２件
4. 日本ハンドセラピィ学会，論文査読２件
5. 日本ハンドセラピィ学会，2026年学術集会演題査読５件
6. 2025年度第１期SW-test講習会，運営委員，講師，オンライン，2025.7.6.
7. 2025年度第１期SW-test講習会，運営委員，講師，オンライン，2025.7.20.
8. 2025年度第２期SW-test講習会，運営委員，講師，オンライン，2026.1.4.
9. 2025年度第２期SW-test講習会，運営委員，講師，オンライン，2026.1.25.
10. 日本ハンドセラピィ学会，2025年基礎研修「手の評価セミナー」講師，オンデマンド，2025.12.5-12.26.
11. 日本作業療法士協会，2026年学術集会演題査読3月６件
12. 第８回わたらせハンドセラピィ勉強会，講師，運営委員，越谷市，2025.12.7.

4　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 北区社会福祉協議会・作業療法学科・第１回認知症カフェ，サポート（引率含む），ラグーナスクエア，2025.8.29.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本ハンドセラピィ学会（機能評価委員，診療ガイドライン委員）

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費若手研究，肘関節術後患者に対する筋電図バイオフィードバック療法の効果的な訓練方法の検証，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科，臨床作業療法技能実習，2026.1.14.

6　学内委員会活動　入試委員会，個人情報保護委員会（教育責任者），ハラスメント相談委員

氏名：安中　裕紀

1　研究題目　経皮的耳介迷走神経刺激，てんかん，呼吸リハビリテーション，センサーゲーム，Brain machine interface

2　論文

1. Murakami T, Oshima F, Morimoto T, Annaka H. Schema Therapy for Individuals With Subthreshold Autistic Traits and Recurrent Depressive Disorder: A Case Study. Cureus (JCR). 2025. 17(7): e87357.
2. Annaka H, Saitou M, Hiraoka T, Nomura T. Effects of transcutaneous auricular vagus nerve stimulation on associative memory, event-related potential P300 and P600: a single-blind pilot experiment on healthy adults. Experimental Brain Research (JCR). 2025. 243(11).
3. Annaka H. Cognitive impairment in chronic respiratory disease patients using long-term oxygen therapy: a narrative review. Medical Gas Research (JCR). 2026. 16(3): 258-262.
4. 齋藤武，平山まり子，安中裕紀，榊原清一．在宅重症心身障がい児に対する放課後等デイサービスでの呼吸理学療法実践の一例．呼吸理学療法学（協力学術研究団体）．2026．5(1): 108-115.
5. 村上元，安中裕紀，森元隆文，池田望．職場内の予防的な介入から業務定着までの支援が奏功した事例―産業保健領域における作業療法士による介入．作業療法（協力学術研究団体）．In press.

3　学会等研究発表

1. 安中裕紀，長谷川直哉．てんかん患者に対する在宅認知トレーニングの効果の検証：一事例研究．第58回日本てんかん学会学術集会（栃木）．2025.10.2.
2. 安中裕紀．認知機能に対する経皮的耳介迷走神経刺激（シンポジウム）．第44回日本認知症学会学術集会（新潟）．2025.11.22.
3. 安中裕紀．認知機能の評価尺度を活用したてんかん診療の実践と研究への展開（特別講演ランチョンセミナー）．（札幌）．2026.3.28.
4. 安中裕紀，齊藤美咲．経皮的耳介迷走神経刺激後の認知機能が変化するタイミングの検討．（札幌）．2026.3.28.

4　学会活動

1) 所属学会　日本作業療法士会，日本てんかん学会，日本呼吸ケアリハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本てんかん・リカバリー学会，Asian Pacific Society of Respirology

2) 学術集会の主催

1. 日本てんかん学会，第58回日本てんかん学会学術集会，YES-Japan企画セクション準備委員，栃木，2025.10.4（2025.8.1-10.4）.
2. 日本てんかん学会．第4回YES-JAPAN workshop，大会長，大阪，2026.6.27-6.28（2025.12.10-）

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本てんかん学会YES-JAPAN Research TF webinar，座長，オンライン，2025.12.15.
2. 新潟県作業療法士会，MTDLP症例報告会，座長，オンライン，2026.1.25.
3. 新潟県作業療法士会，地域の茶の間派遣事業，講師，新潟市，2025.10.17.

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟医療福祉大学作業療法学科，認知症カフェ，企画運営講師，新潟市・ラグーナスクエア，2025.5，2025.8，2025.11，2026.2.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会（将来計画委員セラピスト部会副部会長），日本てんかん学会YES-JAPAN（workshop TF chair, Publication TF, Research TF, Study TF），PLOS ONE（Academic Editor），日本作業療法士会（日本作業療法学会 演題審査者），学術誌作業療法（査読者），全国てんかんセンター協議会（リハビリテーション部会員）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科学研究費　若手研究，てんかん患者に対するスマートフォンによる遠隔認知リハビリテーションの有効性の検証，研究代表者
2. 2025年度，在宅医療助成 勇美記念財団 一般公募「在宅医療推進のための研究」，重症心身障害児に対するセンサーゲームを用いた在宅リハビリテーションの効果の検証－クロスオーバー試験－，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

第58回日本てんかん学会YES-JAPAN Award（2025.10.4），日本心臓リハビリテーション指導士（2025.9.1）

氏名：伊関　浩克

1　研究題目　効果的な筋再教育法の開発　6軸ピンチメーターを用いた母指ピンチ動作の解析

2　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本手外科学会，新潟県作業療法士会，日本ハンドセラピィ学会，日本肩関節学会，日本作業療法士協会

2) 学術集会の主催

1. 第37回日本ハンドセラピィ学会学術集会，実行委員，横浜市，2025.4.11-4.12.
2. 新潟県作業療法学会，実行委員，新潟市，2024.12.14.

3) 学会等でのその他の活動

1. 新潟県作業療法学会，査読者（査読５件），新潟市，2024.12.14.

3　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県作業療法士会，新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業，講師，松浜こらぼ家，2025.8.8.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県作業療法士会（学会運営委員）

4　学内委員会活動　広報委員会，学生委員会，交通安全委員会，高大連携推進委員会

氏名：本間　健太

1　研究題目　脳卒中のリハビリテーション研究，認知機能のリハビリテーション研究

2　論文

1. Honma K, Nomura T. Gamma tACS over the prefrontal and parietal cortices enhances episodic memory performance. Frontiers in Human Neuroscience. 2026; 20: 1775435.（査読あり）

3　学会活動

1) 所属学会　日本臨床作業療法学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，査読，新潟市，2025.12.20-12.21.

4　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業，地域の茶の間での個別相談等，新潟市，しもまち笑顔の家，2025.6.13.
2. 認知症カフェ「らく～なカフェ」，会場運営の補助，新潟市，ラグーナスクエア，2025.8.29.
3. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業，地域の茶の間での個別相談等，新潟市，しもまち笑顔の家，2025.10.24.
4. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業，地域の茶の間での個別相談等，新潟市，松浜こらぼ家，2025.12.5.
5. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業，地域の茶の間での個別相談等，新潟市，しもまち笑顔の家，2026.2.10.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本作業療法士協会，新潟県作業療法士会（広報委員会）

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（C），脳卒中患者における目標設定に着目した動機づけ方略の構築，研究代表者

6　学内委員会活動　図書館・学修支援委員会，国家試験・資格試験対策委員会，同窓会・生涯学習連携推進委員，高大医連携推進委員会

（3）言語聴覚学科

氏名：大石　如香

1　研究題目　脳血管疾患による失語症および読み書き障害の研究，脳血管疾患や変性性認知症における視覚認知障害および質感認知障害に関する研究

2　著書

1. 大石如香．高次脳機能障害，標準言語聴覚障害学「言語聴覚障害学概論」第３版（藤田郁代監修），医学書院，102-116，2025.

3　論文

1. Krita K, Nagano T, He Junbing, Yoshida T, Matsumoto K, Oishi Y, Shimizu E, Hirano Y. The relationship between the salience network and facial emotion recognition in social anxiety disorder. Neuroscience, 593, 122-128, 2026.

4　学会等研究発表

1. 管歩実，武石香里，大石如香．音韻性失名辞を伴う超皮質性感覚失語の一例．第26回日本言語聴覚学会学術集会（山形），2025.6.28-6.29.
2. Prasoppolsujarit Jidapa，大石如香．タイ人失語症患者に対する文産生検査の開発．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2025.10.25.
3. 斎藤裕也，佐藤果菜美，鈴木優太，大石如香．若年失語例に対する社会復帰支援の一例．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2025.10.25.
4. 斎藤裕也，大石如香，佐藤果菜美，鈴木優太．重度嚥下障害患者に対してリハビリテーションを行った一例―栄養管理の必要性について―．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2025.10.25.
5. 谷麻美，吉岡豊，大湊麗，大石如香．発達性言語症児の語彙発達の特徴―予後良好１例の分析―．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2025.10.25.
6. 佐藤卓也，小股整，大石如香．失語症を呈し社会復帰と自動車運転再開に至った脳動脈奇形の一例．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2025.10.25.
7. 前田生真，崎村陽子，大石如香．左視床出血後にLASCエラーを認めた表層性失書の一例．第49回日本高次脳機能学会学術集会（名古屋），2025.11.14-11.15.
8. 佐藤卓也，大橋知記，村山拓也，大石如香．高次脳機能障害における自動車運転再開の神経心理学的研究．第９回日本安全運転医療学会学術集会（福井），2025.11.28-11.29.

5　学会活動

1) 所属学会　日本神経心理学会（評議員），日本高次脳機能学会（代議員），日本高次脳機能学会（代議員資格審査委員），日本音声言語医学会，日本言語聴覚士協会，新潟神経心理懇話会（世話人），日本コミュニケーション障害学会，日本ディサースリア臨床研究会，日本認知神経心理学研究会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第26回日本言語聴覚士会学会学術集会，教育講演座長，山形市．2025.6.28.
2. 一般社団法人日本言語聴覚士協会 学術誌編集委員会査読委員
3. 一般社団法人日本高次脳機能障害学会代議員資格審査委員会委員

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度 文部科学省科学研究補助金　基盤研究（C），研究代表者
2. 2025年度 文部科学省科学研究補助金　基盤研究（C），研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

認知症ケア専門士（2026.3.31）

7　学内委員会活動　将来計画機構，教員選考委員会，自己点検・評価委員会（委員長），内部質保証推進委員会，外部評価準備委員会，人権委員会調査委員

氏名：佐藤　克郎

1　研究題目　中耳における細菌感染症に関する基礎研究（耳鼻咽喉科学，細菌学，感染症学），頭頸部腫瘍に関する臨床研究（耳鼻咽喉科学，頭頸部外科学），音声言語障害に関する臨床研究（耳鼻咽喉科学，音声言語医学）

2　学会等研究発表

1.　佐藤克郎，戸田巳琴．新潟県新潟市の大学生を対象とした10年間のアレルギー性鼻炎に関する定点調査．第100回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会新潟県地方部会（新潟市），2025.12.13.

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会（認定専門医・認定補聴器相談医・新潟県地方部会評議員・新潟県地方部会医事問題委員），日本気管食道科学会（認定専門医），日本頭頸部癌学会，日本頭頸部外科学会，日本音声言語医学会，日本喉頭科学会，日本耳科学会，日本聴覚医学会，日本耳鼻咽喉科臨床学会

2) 学会等でのその他の活動

1.　日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会，理事および評議員会，新潟市，2025.5.24.
2.　日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会医事問題委員会，新潟市，2025.6.7.
3.　日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会医事問題委員会，新潟市，2025.12.13.

4　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1.　日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定補聴器相談医としての患者対応，新潟県立吉田病院（愛広会），2024.4-2025.3.
2.　日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会医事問題委員としての医事問題対応，新潟大学医学部，2024.4-2025.3.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益財団法人国際耳鼻咽喉科振興会賛助員（教授職）

5　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1.　国際メディカル専門学校看護学科非常勤講師，病態学Ⅶ，2025.4-2026.3.

6　学内委員会活動　健康管理センター運営委員会，人権委員会，個人情報保護委員会

氏名：原　修一

1　研究題目　Virtual Realityを含む情報通信技術を用いた小児構音障害の教育プログラムの作成

2　論文

1.　原修一．中山間地域における市町村母子保健事業を利用する構音障害児の特徴 -9年間の事業から-．音声言語医学．2025；66 (2) 78-85.

3　学会等研究発表

1.　原修一．日本医学会連合TEAM事業『「いつまでも健康で美味しく食べる」ための，多学会連携による嚥下障害対策の普及活動』～在宅高齢者の「食べる力」を地域で支える：多職種連携の展望～　地域ケア会議における高齢者の「食べる力」を支援する多職種連携．日本公衆衛生学会．第84回日本公衆衛生学会総会（静岡市），2025.10.31.

4　学会活動

1) 所属学会　日本公衆衛生学会（歯科保健のあり方委員会委員）

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1.　令和７年度山口県地域連携推進リハビリ専門職養成研修，「介護予防と口腔機能」（２コマ）「介護予防とコミュニケーションスキル」（１コマ），講演者，山口県理学療法士会，山口県内に地域連携の業務

に従事する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士，zoomによるオンライン研修，2026.1.25.

2. 2025年度社会連携オンラインセミナー講座，食べるための機能を維持するために，講師，新潟医療福祉大学社会連携推進センター.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度～2026年度，科学研究費，基盤研究（C），Virtual Realityを含む情報通信技術を用いた小児構音障害の教育プログラムの作成（24K15213），原修一（研究代表者），三浦宏子，柳久子（研究分担者）.

2) 学外兼務講師等

1. 株式会社ハートフルマインド，児童発達支援・放課後ディサービスにおける言語聴覚士勤務，2025.6.1-2026.3.31.（週1回）

2. 九州医療科学大学，言語聴覚士コースでの講義（発声発語障害学演習），2025.10.1-2026.1.8.（計6コマ：オンラインと対面）.

7 学内委員会活動　入試委員会，大学院教務委員会，学術委員会，科研費対策委員会，新潟医療福祉学会（理事）

氏名：内山　信

1 研究題目　レビー小体型認知症の錯視・幻視に関する研究，レビー小体型認知症の記憶障害に関する研究，パーキンソン病の認知機能障害に関する研究，認知症患者の難聴に関する研究

2 論文

1. 伊藤拓海，内山信，間宮靖幸，佐藤卓也，今村徹．難聴が認知症患者の臨床像に与える影響　介護者への構造化インタビューで評価した難聴に基づく検討．2025；67(8)：1167-1174.（査読あり）

3 報告書

1. 内山信．基盤研究©，難聴が認知症発症後の患者の臨床像に及ぼす影響の検討，科学研究費助成事業　研究成果報告書，2020～2024，研究代表者

4 学会等研究発表

1. 内山信，大谷彩乃，佐藤卓也，今村徹．言語流暢性課題において同じ語を再び述べるアルツハイマー病患者の臨床特徴．第49回日本高次脳機能学会学術総会（名古屋市），2025.11.14-11.15.

5 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本神経心理学会（評議員），日本高次脳機能障害学会，新潟神経心理懇話会（役員）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度．基盤研究（c），認知症患者における難聴によって修飾される症状の解明，研究代表者

7 学内委員会活動　教務委員会，医連携推進委員会

氏名：吉岡　豊

1 研究題目　言語発達障害児の語彙獲得に関する研究

2 論文

1. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．中規模都市における言語発達支援の現状と課題―14年間の臨床統計的検討―．音声言語医学（日本音声言語医学会）．in press.（査読あり）

3 学会等研究発表

1. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．就学前の言語発達支援が有効であった特異的言語発達障がいの1例．言語科学会第26回年次国際大会（JSLS2025）（愛媛），2025.7.12.

2. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊，大石如香．発達性言語症児の語彙発達の特徴－予後良好1例の分析－．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本言語聴覚士協会，日本口蓋裂学会，日本音声言語医学会，日本コミュニケーション障害学会，日本発達障害支援システム学会，日本聴覚医学会

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1.　阿賀町言葉の相談会，言葉の評価・指導，助言者，阿賀町役場・山吹の里，2025.4.1-2026.3.31.（年８回）

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県言語聴覚士会（監事）

6　学内委員会活動　大学院委員会，大学院入試広報委員会（イベント部会長），言語発達支援センター（センター長），社会連携推進センター運営委員会，同窓会サポーター

氏名：佐藤　卓也

1　研究題目　高次脳機能障害の自動車運転再開支援，失語症者の自動車運転再開支援，自動車運転再開支援の連携

2　著書

1.　佐藤卓也；阿部晶子，吉村貴子編．外傷性脳損傷の高次脳機能障害．高次脳機能障害学．４版．東京：医学書院；2025：305-323.

3　論文

1.　佐藤卓也．自動車教習所と連携した運転再開支援．Clinical Rehabilitaion．2025；34(5)：478-489.
2.　今村徹，渡部結，佐藤卓也．時間見当識課題における年，月，日の１単位の誤りはなにを意味するのか－アルツハイマー病における検討－．老年精神医学．2025；36(6)：549-555.（査読あり）
3.　伊藤拓海，内山信，間宮靖幸，佐藤卓也，今村徹．難聴が認知症患者の臨床像に与える影響　介護者への構造化インタビューで評価した難聴に基づく検討．精神医学．2025；67(8)：1167-1174.（査読あり）
4.　渡部結，佐藤卓也，今村徹．時間見当識課題の成績と他の認知機能および生活機能障害との関係：アルツハイマー病における検討．神経心理学．2025；41(3)：168-173.（査読あり）
5.　伊藤永佳，佐藤卓也，今村徹．ApoE2を有するアルツハイマー病（Alzheimaer's disease: AD）患者の臨床像の検討．神経心理学．2025；41(4)：212-219.（査読あり）

4　学会等研究発表

1.　五十嵐優菜，松井智世，佐藤卓也，今村徹．アルツハイマー病（Alizheimer's disease: AD）における抑うつ気分，意欲低下，アパシーと生活機能障害との関係．第49回日本神経心理学会学術集会（姫路市），2025.9.18-9.19.
2.　鎌田侑那，佐藤卓也，今村徹．アルツハイマー病における脱抑制：Neuropsychiatric Inventory（NPI）を用いた検討．第49回日本神経心理学会学術集会（姫路市），2025.9.18-9.19.
3.　渡部結，佐藤卓也，今村徹．時間見当識課題の成績と他の認知機能および生活機能障害との関係:アルツハイマー病における検討．第49回日本神経心理学会学術集会（姫路市），2025.9.18-9.19.
4.　後閑南季，佐藤卓也，今村徹．行動型前頭側頭型認知症（bvFTD）のphenocopy syndrome：もの忘れ外来における検討．第49回日本神経心理学会学術集会（姫路市），2025.9.18-9.19.
5.　佐藤卓也，小股整，大石如香．失語症を呈し社会復帰と自動車運転再開に至った脳動静脈奇形の一例．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.
6.　内山信，大谷彩乃，佐藤卓也，今村徹．言語流暢性課題において同じ語を再び述べるアルツハイマー病患者の臨床特徴．第49回日本高次脳機能学会学術総会（名古屋市），2025.11.14-11.15.
7.　佐藤卓也，大橋知記，村山拓也，大石如香．高次脳機能障害における自動車運転再開の神経心理学的研究．第９回日本安全運転医療学会学術集会（敦賀市），2025.11.28-11.29.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本高次脳機能障害学会，日本神経心理学会，日本安全運転医療学会（理事），日本安全運転医療学会（編集委員），新潟神経心理懇話会（世話人），障害と自動車運転に関する研究会（代表事務局），障害と自動車運転に関する研究会（世話人）

2) 学術集会の主催

1. 障害と自動車運転に関する研究会，第24回研究会，代表事務局・運営，聖篭町，2025.9.27.
2. 新潟県リハビリテーション専門職協議会，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，大会長，新潟市，2025.12.20-12.21.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第３回リハビリテーション専門職学術大会実行委員会，新潟県言語聴覚士会実行委員会，大会長，新潟市総合福祉会館，2025.4.5.
2. 日本安全運転医療学会，理事評議員総会，理事，WEB，2025.4.12.
3. 障害と自動車運転に関する研究会，世話人会，代表事務局，WEB，2025.5.20.
4. 新潟県言語聴覚士会第３回リハビリテーション専門職学術大会実行委員会，実行委員会，大会長，新潟市総合福祉会館，2025.5.24.
5. 障害と自動車運転に関する研究会，免許センター意見交換会，代表事務局，新潟県運転免許センター（聖篭町），2025.5.29.
6. 山形県言語聴覚士会，第26回日本言語聴覚学会，特別講演「摂食嚥下障害と錠剤嚥下障害」，座長，山形市，2025.6.27.
7. 新潟県リハビリテーション専門職協議会，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会合同実行委員会，大会長，WEB，2025.7.3.
8. 障害と自動車運転に関する研究会，世話人会，代表事務局，WEB，2025.7.15.
9. 第３回リハビリテーション専門職学術大会実行委員会，新潟県言語聴覚士会実行委員会，大会長，新潟市総合福祉会館，2025.7.19.
10. 新潟県リハビリテーション専門職協議会，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会合同実行委員会，大会長，WEB，2025.10.9.
11. 障害と自動車運転に関する研究会，世話人会，代表事務局，WEB，2025.11.5.
12. 日本安全運転医療学会，理事評議員総会，理事，WEB，2025.11.22.
13. 新潟県リハビリテーション専門職協議会，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会合同実行委員会，大会長，WEB，2025.12.15.
14. 障害と自動車運転に関する研究会，免許センター意見交換会，代表事務局，新潟県運転免許センター（聖篭町），2025.12.18.
15. 障害と自動車運転に関する研究会，世話人会，代表事務局，WEB，2026.1.28.
16. 新潟県リハビリテーション専門職協議会，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会合同実行委員会，大会長，WEB，2026.1.29.
17. 障害と自動車運転に関する研究会，世話人会，代表事務局，WEB，2026.3.25.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 金沢脳神経外科病院リハビリテーションセミナー，失語症者の自動車運転再開・社会復帰について，講師，金沢脳神経外科病院リハビリテーション部，リハビリテーション職，野々市市，2025.9.6.
2. 令和７年度第１回山形県言語聴覚士会研修会．高次脳機能障害者の自動車運転再開支援－言語聴覚士の視点－．研修会講師．山形県言語聴覚士会．言語聴覚士．WEB．2025.10.18.
3. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，自動車運転支援，大会長基調講演講師，新潟県リハビリテーション専門職協議会，リハビリ専門職，新潟市，2025.12.20-12.21.
4. 令和７年度第２回福井県安全運転医療ネットワーク会議．新潟県における脳損傷者の自動車運転再開支援ネットワーク構築の取り組み．研修会講師．福井安全運転医療ネットワーク会議．医療関係者．

福井市，福井総合クリニック．2026.2.14.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県高次脳機能障害支援拠点運営委員会，副委員長，2022-現在
2. 新潟県自立支援協議会，委員，2023-現在
3. 第22回日本高次脳機能障害友の会全国大会2026 in 新潟，実行委員会，実行委員・講演講師，WEB，2025.6.5.
4. 第22回日本高次脳機能障害友の会全国大会2026 in 新潟，実行委員会，実行委員・講演講師，WEB，2025.8.5.
5. 新潟県高次脳機能障害相談支援センター，令和７年度高次脳機能障害者当事者のつどい（新潟第１回目），当事者の交流・質問回答・情報提供・助言等，助言者，新潟県障害者リハビリテーションセンター，2025.8.26.
6. 新潟県福祉保健部障害福祉課，令和７年度新潟県高次脳機能障害支援拠点運営委員会，会議，副委員長，新潟市精神保健福祉センター，2025.10.15.
7. 新潟県高次脳機能障害相談支援センター，令和７年度高次脳機能障害者当事者のつどい（長岡第１回目），当事者の交流・質問回答・情報提供・助言等，助言者，長岡地域振興局，2025.11.13.
8. 新潟県高次脳機能障害相談支援センター，令和７年度高次脳機能障害者当事者のつどい（新潟第２回目），当事者の交流・質問回答・情報提供・助言等，助言者，新潟県障害者リハビリテーションセンター，2025.12.11.
9. 新潟県高次脳機能障害相談支援センター，令和７年度高次脳機能障害者当事者のつどい（長岡第２回目），当事者の交流・質問回答・情報提供・助言等，助言者，長岡地域振興局，2026.3.5.
10. 第22回日本高次脳機能障害友の会全国大会2026 in 新潟，実行委員会，実行委員・講演講師，WEB，2026.3.19.
11. 新潟県，令和７年度第２回新潟県自立支援協議会，会議，委員，新潟県自治会館，2026.3.25.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県高次脳機能障害支援拠点運営委員会（副委員長），新潟県自立支援協議会（委員），新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会（新潟県災害福祉支援チーム員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人新潟県言語聴覚士会（会長），一般社団法人新潟県言語聴覚士会（代表理事・業務執行役員），一般社団法人新潟県言語聴覚士会（士会協会連携体制連絡委員会委員長），新潟県リハビリテーション専門職協議会（副会長），新潟県地域包括ケア支援専門職協議会（委員），第22回日本高次脳機能障害友の会全国大会2026 in 新潟（実行委員）

7　学内委員会活動　広報委員会（委員），同オープンキャンパス部会（委員），新潟連携教育研修センター運営員会（委員），同連携科目部会（委員），入試問題検討部会（委員）

氏名：石本　豪

報告事項なし

氏名：千葉　寛之

1　研究題目　次世代型聴性定常反応（ASSR）および隠れ難聴に関する研究

2　著書

1. 千葉寛之ら．標準言語聴覚障害学 聴覚障害学．第４版．東京．医学書院；2026年：96-108

3　論文

1. Sasaki K, Kokubo Y, Sato S, Igarashi K, Chiba H, Ito T, Sonoda Y.

4　学会等研究発表

1. 千葉寛之，荒井晋一．山形市における「山形市聴こえくっきり事業」３か年の報告～ヒアリングチェック

の仕組みと成績について～．第27回日本言語聴覚学会（山形市），2025.6.27-6.28.

2. 千葉寛之，伊藤吏．聴性定常反応（ASSR）の基本的特徴および次世代型ASSRの結果の解釈と乳幼児の補聴器フィッティングへの活用．第70回日本聴覚医学会

5　学会活動

1) 所属学会　日本言語聴覚士協会（会員），日本聴覚医学会（会員），日本音声言語医学会（会員）

2) 学術集会の主催

1. 日本言語聴覚士協会，第27回日本言語聴覚学会，副実行委員長，山形市，2025.6.27-6.28・2022-2025

3) 学会等でのその他の活動

1. 第27回日本言語聴覚学会，市民公開講座（ちょっとレアな医療系専門職進学説明会），実行委員長，山形市，2025.6.28・2024-2025
2. 第27回日本言語聴覚学会，シンポジウム４（地域における高齢者難聴支援），座長，山形市，2025.6.28.
3. 第70回日本聴覚医学会，第30群（聴性誘発反応），座長，成田市，2025.10.17.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 豊栄高齢者教養大学，高齢者の難聴対策～補聴のススメ～，講師，新潟医療福祉大学，北区在住高齢者，新潟市，葛塚コミュニティーセンター，2025.5.22.
2. きこえエール新潟第１回勉強会，お子さんの難聴に対する人工内耳について～するまで・したあと～，講師，きこえエール，きこえエール会員，新潟市，新潟ふれあいプラザ，2025.6.8.
3. 天童市介護予防普及啓発事業，高齢者の難聴対策～放っておかない，諦めない～，講師，天童市，天童市民，天童市総合福祉センター，2025.9.27.
4. つるおか聴こえサポート事業，耳から始めよう認知症予防～自分らしくいきいき過ごすために～，講師，鶴岡市，鶴岡市民，出羽庄内国際村，2025.10.21.
5. 令和７年度富山県リハ３士会合同研修会，介護予防編③，山形市『聴こえくっきり事業』のこれまでとこれから ～難聴対策最前線～，講師，富山県リハ３団体協議会，会員，オンライン，2026.2.8.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，朝日新聞（朝日新聞社），現場へ！言語聴覚士知ってる？（３），2025.4.2.
2. 雑誌掲載，日本補聴器販売店協会機関誌『FITTING』（株式会社メディカル・ジャーナル社），聴性定常反応（ASSR）の基本的特徴および次世代型ASSRの結果の解釈と乳幼児の補聴器フィッティングへの活用，2026年1月号

3) 社会活動への参加協力

1. 山形市高齢者難聴支援「山形市聴こえくっきり事業」，高齢難聴者への助言指導，山形市・大郷コミュニティーセンター，2025.10.28.

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本言語聴覚士協会（臨床実習の手引き作成委員会ガイドライン作成小委員会），日本聴覚医学会（代議員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費（若手研究），若年者における「隠れ難聴」の早期発見・早期予防を目指したスクリーニング方法の開発，千葉寛之

氏名：大湊　麗

1　研究題目　口唇口蓋裂の言語管理に関する研究

2　著書

1. 大湊麗．標準言語聴覚障害学摂食嚥下障害学第３版．医学書院，東京，2025：369-372.

3　論文

1. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．中規模都市における言語発達支援の現状と課題―14年間の臨床統計的検討―．音声言語医学．in press.

4　報告書

1. 大湊麗．日本口蓋裂学会若手研究者海外発表奨励制度成果報告書，研究代表者，日口蓋誌，50（3）182，2025.

5　学会等研究発表

1. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．就学前の言語発達支援が有効であった特異的言語発達障がいの１例．言語科学会第26回年次国際大会（愛媛県），2025.7.
2. 大湊麗，若槻華子，宮田昌幸，小林亮太，児玉泰光，佐藤真由美，井村真美，市川佳弥，丹原惇，冨原圭，小野和宏．一段階法と二段階法における乳幼児期の口腔機能と言語発達の検討．第49回日本口蓋裂学会総会学術集会（京都府），2025.10.
3. Ominato R, Wakatsuki H, Miyata M, Kobayashi R, Kodama Y, Sato M, Imura M, Ichikawa K, Nihara J, Tomihara K, Ono K. The effects of 1-stage versus 2-stage palatoplasty on oral and Speech development in infancy. 15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Related Craniofacial Anomalies (Kyoto), 2025.10.
4. Kobayashi R, Kodama Y, Isono T, Ominato R, Sato M, Nihara J, Wakatsuki H, Miyata M, Tomihara K. Congential oropharynx lympatic malformation in a prediatric cleft palate patient treated with speech eid: A case report. 15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Related Craniofacial Anomalies (Kyoto), 2025.10.
5. 谷麻美，吉岡豊，大湊麗，大石如香．発達性言語症児の語彙発達の特徴－予後良好１例の分析－．第25回新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.

6　学会活動

1) 所属学会　日本口蓋裂学会（認定師認定委員），日本音声言語医学会，日本特殊教育学会，日本小児口腔外科学会，新潟歯学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本口蓋裂学会，口唇裂・口蓋裂認定師（音声言語分野）認定委員会，認定師認定委員，総会現地およびオンライン，2025.4-2026.3.
2. 日本口蓋裂学会，標準的口蓋裂言語評価法作成講習会，評価助言者，東京，2025.6.

7　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟市通級指導教室担当者スキルアップ研修（言語），読み書きの支援，講師，新潟市教育委員会，新潟市立学校教諭，新潟市教育相談センター，2025.6.
2. 新潟県中越地区通級初任者研修，構音障害の指導，講師，新潟県中越地区公立学校言語・難聴教育研究協議会，十日町市立学校教諭，新潟県立精神医療センター，2025.10.
3. 燕市母子健診従事者研修会，３歳児健康診査における言語の対応，講師，燕市母子健診従事者，燕市保健センター，2026.2.
4. 令和７年度全特連研修事業，鼻咽腔閉鎖機能不全のある児童の指導，講師，新潟県内学校教諭，オンライン，2026.3.
5. 視力検査実技講習会，2025年度幼児視力検査実技講習会，講師，看護師保育士，こども総合支援研究センター，2026.3.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. TV，NHKニュース610，燕市と新潟医療福祉大　子どもの成長と発達支援で連携協定，2025.8.26.
2. TV，NCTケーブルTV，燕市と新潟医療福祉大学が協定締結，2025.8.28.
3. 一般雑誌，県央ドット・コム，燕市とこども総合支援研究センターを開設した新潟医療福祉大学と「こ

どもの成長と発達に関する支援を目的とした連携協定」を県内で初めて締結，2025.8.27.
4. 新聞，新潟日報，こども支援へ連携協定 燕市と新潟医療福祉大学，2025.9.18.

3) 社会活動への参加協力
1. 燕市子ども政策部子育て応援課との連携事業，燕市役所およびオンライン，2025.4-2026.3.
2. 言語通級指導検討会，講師，新潟県内小学校言語通級指導教室およびオンライン，2025.4-2026.3.
3. 燕市と新潟医療福祉大学の連携協定締結式，燕市役所，2025.8.
4. 新潟市北区歯科医院との連携会議，新潟医療福祉大学，2025.8.
5. 新潟市立鏡淵小学校ことばの教室交流会，講師，新潟市立鏡淵小学校，2025.12.
6. 北越高等学校吃音支援を考える会，講師，北越高等学校，2026.2.
7. 新潟市立鏡淵小学校吃音を考える会，講師，新潟市立鏡淵小学校，2026.3.
8. 五泉市子ども家庭課すくすく子育て応援係との連携事業，新潟医療福祉大学，2026.3.

8 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2023年，科研費基盤研究C，二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討：鼻腔共鳴の定量評価の確立．研究代表者
2. 2025年，日本口蓋裂学会次世代育成事業，2025年度若手研究者海外発表奨励金，The effects of 1-stage versus 2-stage palatoplasty on oral and Speech development in infancy．研究代表者
3. 2025年，外部資金獲得奨励金，二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討：鼻腔共鳴の定量評価の確立．研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得
口唇裂・口蓋裂認定師（音声言語分野）（2025.4.1）

3) 学外兼務講師等
1. 新潟大学歯学部，「口腔外科学Ⅰ」「チームアプローチによる口唇口蓋裂治療Ⅰ」「摂食嚥下機能評価支援学特論」，2025.4-2026.3.
2. 新潟大学医歯学総合病院，2025.4-2026.3.
3. 新潟県立精神医療センター，2025.4-2026.3.

9 学内委員会活動　広報委員会，図書館・学修支援委員会，同窓会・生涯学習連携推進委員会，言語発達支援センター，子ども総合支援研究センター

氏名：田村　俊暁

1 研究題目　神経筋疾患患者の発声発語障害に関する研究（成人発声発語障害学），神経筋疾患患者の摂食嚥下障害に関する研究（嚥下障害学）

2 論文
1. 田村俊暁，田中康博，苅安誠，椎名英貴，藤田賢一，中川尚志．Dysarthria（発語運動障害）における構音訓練の方法と話し方の指導．音声言語医学（協力学術団体）2026; 67(1): 9-17（査読あり）
2. 田中康博，田村俊暁，椎名英貴，藤田賢一，苅安誠，中川尚志．Dysarthriaに対する評価とAACの導入で留意すべき事柄．音声言語医学（協力学術団体）2026; 67(1): 1-8（査読あり）
3. 椎名英貴，田村俊暁，田中康博，苅安誠，藤田賢一，中川尚志．Dysarthria（発語運動障害）の構音不全とリハビリテーションの目標設定．音声言語医学（協力学術団体）2026; 67(1): 18-26（査読あり）
4. Watanabe Y, Sato Y, Tamura T, Imai R, Abe T, Kuwabara T, Maruyama K, Wakai T, Ibuchi S, Ashiga H, Fujiu-Kurachi M. Relationship Between Oral Frailty Index-8 Cutoff Values and Dysphagia in Older Patients With Hip Fracture: A Retrospective Cohort Study. Journal of Oral Rehabilitation (JCR). 2026; 53: 136-148 (review)

3 報告書
1. 田村俊暁．若手研究，時間的・空間的音響解析法を用いた日本語話者に適した発話評価課題の開発，研究

成果報告書，2020-2025，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 丸山航輝，田村俊暁，渡辺慶大，今井滉太，石崎雅史，寺島健史．脳卒中後dysarthriaにおける病変部位別の構音機能に関する予備的研究．第66回日本神経学会学術集会（大阪），2025.5.21-5.24.
2. 渡辺慶大，倉智雅子，田村俊暁，丸山航輝，今井滉太，石崎雅史，寺島健史．重症筋無力症に伴う嚥下障害の午前中の悪化と舌圧測定の有用性：２例報告．第66回日本神経学会学術集会（大阪），2025.5.21-5.24.
3. 坂巻拓実，田村俊暁，中山慧悟，宮﨑裕大，福本裕，西田大輔，原貴敏．原発性側索硬化症一例に対する軟口蓋挙上装置の使用と母音/i/スペクトルによる開鼻声の定量評価の試み．第26回日本言語聴覚学会（山形），2025.6.27-6.28.
4. 丸山航輝，田村俊暁，渡辺慶大，今井滉太，石崎雅史，寺島健司，米岡有一郎．脳卒中後dysarthriaにおける病変部位別の発話明瞭度と音響学的特徴に関する予備的研究．第26回日本言語聴覚学会（山形），2025.6.27-6.28.
5. 田中康博，佐藤茉紀，坪井崇，平賀経太，田村俊暁，辰巳寛，勝野雅央．パーキンソン病に伴うDysarthria検出のためのTest Token -Reiwa Study-．第26回日本言語聴覚学会（山形），2025.6.27-6.28.
6. 石崎雅史，渡辺慶大，丸山航輝，今井晃太，田村俊暁，落合勇人．急性期肺炎患者におけるAssessment of Swallow- ing Ability for Pneumoniaと嚥下内視鏡スコアとの関連．第26回日本言語聴覚学会（山形），2025.6.27-6.28.
7. 田村俊暁，苅安誠，丸山航輝，坂巻拓実，渡辺慶大，中山慧悟，原貴敏．接近音を標的にした第２フォルマント変化の測定に適した発話様式．第70回日本音声言語医学会学術講演会（協力学術団体）（神戸），2025.10.23-10.24.
8. 丸山航輝，田村俊暁，渡辺慶大，今井滉太，石崎雅史，寺島健史，米岡有一郎．脳卒中後dysarthria話者における病変部位別の構音機能の関連：探索的研究．第70回日本音声言語医学会学術講演会（協力学術団体）（神戸），2025.10.23-10.24.
9. 田村俊暁．口腔ケアで“磨く”言葉と口腔器官の関係．第29回日本口腔ケア協会学術大会並びに日本口腔ケア学会秋季大会（協力学術団体）（名古屋），2025.11.29.【シンポジウム】
10. Xiao Ping Choong, Shin Ying Chu, Xiunan Shi, Jaehoon Lee, Ying Qian Ong, Tamura T, Silvio Cruschina, Kariyasu M. Speech Motor Assessment Using Oral Diadochokinesis: A Comparison Between Japanese and Malaysian-Mandarin Speakers. 12th Asia Pacific International Conference on Speech, Language, and Hearing (Bangkok), 2025.12.12-12.14.
11. Ishizaki M, Ochiai Y, Tamura T, Watanabe Y, Maruyama K, Imai K. Reliability and software agreement in manual measurement of hyoid excursion using VFSS. 12th Asia Pacific International Conference on Speech, Language, and Hearing (Bangkok), 2025.12.12-12.14.
12. Maruyama K, Tamura T, Watanabe Y, Ishizaki M. Articulatory characteristics by lesion site in post stroke dysarthria: An exploratory study. 12th Asia Pacific International Conference on Speech, Language, and Hearing (Bangkok), 2025.12.12-12.14.
13. Tamura T, Maruyama K, Sakamaki T, Watanabe Y, Nakayama K, Hara T. Speech evaluation tasks suitable for Japanese speakers based on acoustic analysis. 12th Asia Pacific International Conference on Speech, Language, and Hearing (Bangkok), 2025.12.12-12.14.
14. 佐藤雅子，田村俊暁，河口大洋，坂巻拓実，高橋祐二，原貴敏．新たな集中的訓練プログラムにより発話の自然度が改善した脊髄小脳変性症の一例．日本小脳学会 第16回学術大会（東京），2026.3.19.

5　学会活動

1) 所属学会　日本音声言語医学会，International Association of Communication Sciences and Disorders（IALP），日本ディサースリア臨床研究会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本高次脳機能障害学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 新潟県リハビリテーション専門職協議会，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，副実行委員長，新潟，2026.12.20-12.21.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学会，基調講演，座長，新潟，2026.12.20-12.21.
2. 第26回日本言語聴覚学会，一般演題【変性疾患】，座長，山形，2025.6.27-6.28.
3. Frontiers in Digital Health，査読

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第１回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会，派遣事業と意思疎通支援者の業務，講師・運営，新潟県言語聴覚士会，新潟県民，長岡市，2025.8.31.
2. 第２回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会，身体介助方法，講師・運営，新潟県言語聴覚士会，新潟県民，新潟市，2025.9.14.
3. 第３回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会，外出同行支援実習，講師・運営，新潟県言語聴覚士会，新潟県民，長岡市，2025.9.28.
4. 第４回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会，コミュニケーション支援実習Ⅰ，講師・運営，新潟県言語聴覚士会，新潟県民，新潟市，2025.10.5.
5. 2025年度宮崎県言語聴覚士会研修会，Dysarthria（ディサースリア，発語運動障害）の評価・治療のtips，講師，宮崎県言語聴覚士会，言語聴覚士，宮崎市，2025.6.1.
6. 2025年度新潟県言語聴覚士会研修会，失語症者への意思疎通支援；新潟県の現状と展望，講師，新潟県言語聴覚士会，言語聴覚士，長岡市，2025.10.12.
7. 言語聴覚士のためのオンライン学習・講演会，Dysarthriaの聴覚印象評定，講師，STudy lab，言語聴覚士，オンライン，2025.1.27.

2) 社会活動への参加協力

1. 厚生労働省，失語症者向け意思疎通支援者養成事業，講師および県庁との連絡係，新潟市，2025.4.1-2026.3.31.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人新潟県言語聴覚士会（理事），一般社団法人新潟県言語聴覚士会（事務局長），一般社団法人新潟県言語聴覚士会（失語症者向け意思疎通支援事業推進部長）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，若手研究，筋萎縮性側索硬化症に伴う球麻痺症候の音響音声学的バイオマーカーと類型システム，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. かみやま親子歯科クリニック，言語聴覚士，2025.4-2026.3.
2. 国立精神・神経医療研究センター病院，医療研究員，2025.4-2026.3.

8　学内委員会活動　国家試験・資格試験対策委員会，入試委員会

氏名：落合　勇人

1　研究題目　高齢者におけるパンの誤嚥・窒息事故防止に向けた食品特性と口腔機能の多角的解析，要介護高齢者の口腔機能低下予防，地域支援.

2　論文

1. Ochiai Y, Ita R, Ono K, Tsujimura T, Magara J, Inoue M. Effect of Hyposalivation on Bread Mastication in Healthy Individuals. Journal of oral rehabilitation. 2025; 52(9): 1461-1473.（査読あり）
2. Ikeura K, Ochiai Y, Sasa A, Ono K, Takei R, Washio H, Takahashi H, Magara J, Tsujimura T, Inoue

M. Effect of Hyposalivation on Masticatory Movements While Eating Several Crackers in Healthy Individuals. Journal of oral rehabilitation. 2025; 52(12): 2401-2411.（査読あり）

3. Aizawa V, Ita R, Ochiai Y, Sasa A, Namon Phetnin, Kawana Y, Ono K, Takada N, Tsujimura T, Magara J, Inoue M. Effect of Hyposalivation on Fish Cake Mastication in Healthy Individuals. Food Science & Nutrition. 2025; 14(1): e71378.（査読あり）
4. 落合勇人，栗山裕太郎．看護小規模多機能型居宅介護事業所における多職種連携が，実用的コミュニケーション能力向上と介護負担軽減に寄与した失語症者の一例．日本老年療法学会誌．2025; (4): 1-6.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 石崎雅史，渡辺慶大，丸山航輝，今井晃太，田村俊暁，落合勇人．急性期肺炎患者におけるAssessment of Swallowing Ability for Pneumoniaと嚥下内視鏡スコアとの関連．第26回日本言語聴覚学会（山形市），2025.6.27.
2. 落合勇人，栗山裕太郎．通所介護施設における口腔嚥下機能向上に向けた多職種連携による介入方略の検討．第26回日本言語聴覚学会（山形），2025.6.27.
3. 石崎雅史，落合勇人，田村俊暁．高齢誤嚥性肺炎患者４例における炭酸水嚥下時の動態解析．第62回日本リハビリテーション医学会学術大会（京都市），2025.6.13.
4. 板離子，落合勇人，笹杏奈，相澤知里，川名葉子，小野瑞祈，真柄仁，辻村恭憲，井上誠．口腔乾燥が魚肉練り製品の咀嚼運動に与える影響．第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会（横浜市），2025.9.19.
5. 落合勇人，栗山裕太郎．多職種連携による要介護高齢者の口腔機能維持・向上に向けた包括的評価・介入プロトコルの導入と効果検証．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.
6. 落合勇人．シンポジウム７；摂食と嚥下改善のための知恵：STとして出来ることを考える．難病支援学術コンソーシアム（大津市），2025.11.28.

4　学会活動

1) 所属学会　日本摂食嚥下リハビリテーション学会（評議員），日本嚥下医学会，新潟医療福祉学会，日本音声言語医学会，日本顎口腔機能学会，日本老年療法学会，日本サルコペニアフレイル学会，日本老年療法学会，新潟歯学会，日本災害食学会，にいがた摂食嚥下サポート研究会，食とコミュニケーション研究所

2) 学術集会の主催

1. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術集会．プログラム作成・総務・第一会場管理者，新潟市，2024.12-2026.1.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第４回日本老年療法学会，一般演題，座長，千代田区，2025.12.6.
2. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術集会，STセミナー③，座長，新潟市，2025.12.21.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第26回日本言語聴覚学会　市民公開講座，医療系職種進学説明会，講師，近隣の高校生および保護者，山形市，2025.6.28.

2) 社会活動への参加協力

1. 令和７年度　新潟県言語聴覚士会第１回研修会，研修会運営，座長・研修会企画運営統括，長岡市・駅前オフィス，2025.10.12.
2. 令和７年度　新潟県言語聴覚士会第２回研修会，研修会運営，座長・研修会企画運営統括，長岡市・米100俵プレイス，2025.10.18.
3. 令和７年度　新潟県言語聴覚士会第３回研修会，研修会運営，座長・研修会企画運営統括，新潟市・NINO3，2025.11.8.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本言語聴覚士協会（生涯学習部　部員），日本言語聴覚士協会（厚生労働科学研究費24GC1016・障害者自立支援機器開発・利活用に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデルの普及促進に関する研究・言語聴覚士人材育成プログラム検討チーム構成員），一般社団法人新潟県言語聴覚士会（理事，学術局長，教育研修部長，学術大会副部長）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1.　2025-2029，若手研究，高齢者におけるパンの誤嚥・窒息事故防止に向けた食品特性と口腔機能の多角的解析，研究代表者.

2) 受賞，学位取得，資格取得

認定言語聴覚士（摂食嚥下領域・2026.3.28）

7　学内委員会活動　キャリア支援センター運営委員

氏名：谷　麻美

1　研究題目　言語発達支援についての研究，子どもの問題行動についての研究

2　論文

1.　谷麻美，大湊麗，吉岡豊．中規模都市における言語発達支援の現状と課題―14年間の臨床統計的検討―．音声言語医学（日本音声言語医学会）．in press.

3　学会等研究発表

1.　谷麻美，大湊麗，吉岡豊．就学前の言語発達支援が有効であった 特異的言語発達障がいの１例．言語科学会第26回年次国際大会（JSLS2025）（愛媛），2025.7.12.

2.　谷麻美，大湊麗，吉岡豊，大石如香．発達性言語症児の語彙発達の特徴 －予後良好１例の分析－．新潟医療福祉学会・第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　日本言語聴覚学会，日本音声言語医学会，日本小児精神神経学会，言語科学会，新潟医療福祉学会，日本発達障害支援システム学会

2) 学会等でのその他の活動

1.　日本グラフィック・メディスン協会　国際シンポジウム，トークセッション，登壇，新潟，2026.2.22.

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1.　言語発達支援センター，発達支援，研究員，新潟医療福祉大学，2022-現在

2.　新潟県言語聴覚士会　学校教育・発達支援連携委員会，派遣員，言語発達評価および通級担当教員への助言，2023-現在

3.　胎内市こころとことばの相談室，発達支援，言語聴覚士，胎内市健康づくり課，2024.4-現在

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1.　2025年度，基盤研究（C），バイオマーカーを用いた癇癪の客観的評価－ケアプロセスの標準化をめざして－，谷麻美・髙橋英明・山田真衣・大石如香

2) 受賞，学位取得，資格取得

臨床実習指導者講習会修了（2025.3.1）

7　学内委員会活動　国際交流センター運営委員，高大医連携推進委員，言語発達支援センター

氏名：松井　智世

1　研究題目　認知症患者における社会的認知機能についての研究

2　論文

1.　五十嵐優奈，松井智世，佐藤卓也，今村徹．アルツハイマー病における抑うつ気分は生活機能障害に大き

な影響を与えない．老年精神医学．2026；37(5)：507-514（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 五十嵐優奈，松井智世，佐藤卓也，今村徹．アルツハイマー病（Alzheimer's disease: AD）における抑うつ気分，意欲低下，アパシーと生活機能障害との関係．第49回日本神経心理学会学術集会（姫路），2025.9.18-9.19.

4　学会活動

1) 所属学会　日本言語聴覚学会，新潟医療福祉学会，日本高次脳機能障害学会，日本神経心理学会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第13回 新潟医療福祉大学同窓会 連携研修会，パネルディスカッション：交通外傷後の言語聴覚療法について，新潟医療福祉大学同窓会支援室，新潟医療福祉大学，2025.11.22.
2. 新潟県言語聴覚士会「言語聴覚士のお仕事体験」，スタッフ，新潟市，2025.8.31.
3. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，運営スタッフ，朱鷺メッセ，2025.12.20-12.21.

2) 社会活動への参加協力

1. 第３回臨床実習指導者講習会世話人，オンライン，2026.2.28-3.1.
2. 新潟県言語聴覚士会「言語聴覚士のお仕事体験」，スタッフ，新潟市，2025.8.31.
3. 第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，運営スタッフ，朱鷺メッセ，2025.12.20-12.21.

6　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

認定言語聴覚士（失語・高次脳機能障害領域）（2026.3.31），臨床実習指導者講習会修了（2025.9.7）

2) 学外兼務講師等

1. 特定医療法人楽山会　三島病院，2025.7-2026.3.

7　学内委員会活動　FD/SD委員会

（4）義肢装具自立支援学科

氏名：佐藤　成登志

1　研究題目　関節痛（膝痛・腰痛・肩痛）に関する研究，ロコモ・フレイル予防に関する研究，慢性腰痛および脊柱変形に関する研究，就労支援（転倒・職業性腰痛予防）に関する研究

2　論文

1. 郷貴博，佐藤未希，佐藤成登志．義肢装具士養成校の現状と今後の学生教育について　新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科の取り組みと今後の課題，日本義肢協会誌．143: 25-26, 2025
2. 前田雄，須田裕紀，東江由紀夫，谷川奈々，佐藤成登志．疾患における車椅子・姿勢保持装置の選定　車椅子シーティングにおける義肢装具士養成校のカリキュラム，日本義肢装具学会誌．41(3): 207-211, 2025
3. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志．筋血流研究から紐解く労作性腰痛の新病態，地域ケアリング．27(11): 65-68, 2025
4. Taniwaki H, Takahashi S, Hoshino M, Taniwaki H, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T, Terai H. Who benefits from home-based exercise for adult spinal deformity? A prospective multicenter study on clinical and radiographic predictors.European Spine Journal. 2025
5. 北村拓也，佐藤成登志．腰部脊柱管狭窄症患者の理学療法におけるフィジカルアセスメントのポイント．理学療法．2025；42(1)：22-31
6. Terai H, Takahashi S, Hoshino M, Taniwaki H, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T. “Koshimagari Exercise” for Adult spinal deformity in older adults: Assessment of home based exercise outcomes in a multicenter study. Spine Surgery and Related Research. 2025; vol9(3); 358-367.

3　報告書

1. 佐藤成登志，神田賢，北村拓也．基盤研究（C），高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築，研究成果報告書，2025，研究代表者
2. 神田賢，佐藤成登志，北村拓也．基盤研究（C），看護・介護従事者の腰痛，頚部痛，メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証，研究成果報告書，2024，研究分担者

4　学会等研究発表

1. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志，岡邨直人，山本智章，渡邊慶．腰痛強度別にみた成人脊柱変形患者の理学療法反応性の違い-初診時腰痛強度に基づく層別的検討-．第33回日本腰痛学会（富山県），2025.10.11.（メディカルアワードセッション）
2. 岡村郁哉，小林卓夫，佐藤成登志，神田賢．通いの場参加高齢者と要支援認定者の比較から見出された潜在的要支援者の現状．第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会（新潟市），2025.12.20.

5　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士学会，新潟県理学療法士学会，日本腰痛学会，日本運動器疼痛学会，理学療法科学学会，新潟医療福祉学会，日本介護予防・健康づくり学会，日本義肢装具学会，ISPO学会

2) 学術集会の主催

1. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，委員，新潟市，2025.11.8-11.9.
2. 新潟県リハビリテーション専門職協議会，第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会，委員，

新潟市，2025.12.20-12.21.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第41回日本義肢装具学会学術大会，市民公開講座/一般演題，座長，新潟市，2025.11.8.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 就労支援事業：労働災害予防のための相談・指導，運送業，社員，新潟市，2025.4-2026.3.（4回）
2. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，腰痛予防の方法と実践，講師，労働監督署，ゴルフ関連企業，新発田市労働監督署，2025.7.10.
3. 江南区ロコモはつらつ健康教室記念講演会，転倒・骨折予防の必要性と取り組み，講師，江南区ロコモはつらつ健康教室主催者，江南区リハビリテーション関連職種，亀田第一病院，2025.8.19.
4. ３部会合同講演会，安心・安全に働くための腰痛予防の方法と実践，講師，（一社）健康ビジネス協議会，県内ビジネス関連会社，朱鷺メッセ，2025.9.2.
5. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための腰痛予防の方法と実践 個別指導，講師，IT企業，社員，新潟市，2025.10.21.
6. 村上市介護予防講演会，いつまでも自分の足で歩くためのフレイル予防，講師，村上市介護高齢課，市民，村上市広域情報センター，2025.11.17.
7. 理学療法士講習会，高年齢者の社会参加と就労支援～職業性腰痛予防と転倒防止，講師，（公社）新潟県理学療法士会，会員，ハイブリッド（晴陵リハビリテーション学院・Web），2025.11.30.
8. 市民公開講座，安心・安全に生活し働くための腰痛予防の方法と実践，講師，（公社）新潟県理学療法士会，県民，ハイブリッド（十日町情報館・Web），2025.12.7.
9. 就労支援事業:労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための腰痛予防の方法と実践，講師，土木業トンネル工事，社員，村上市，2026.1.28.

2) 社会活動への参加協力

1. （公社）日本理学療法士協会，会員関連会議，委員，web，2025.4-2026.3.（2回）
2. （公社）新潟県理学療法士会・総会，会長，新潟，2025.6.21.
3. （公社）新潟県理学療法士会・理事会，相談役，新潟，2025.4-2026.3.（6回）
4. （公社）新潟県理学療法士会・関連会議，相談役，新潟，2025.4-2026.3.（12回）
5. 関東甲信越ブロック協議会・士会長会議，監事，甲府，2025.11.15.
6. 新潟県地域包括ケア支援専門職協議会・関連会議，会長，新潟，2025.4-2026.3.（2回）

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県産業保健総合支援センター（産業保健相談員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

（公社）新潟県理学療法士会（会長・理事:4月～6月），新潟県リハビリテーション専門職協議会（副会長:4月～6月），新潟県地域包括ケア支援専門職協議会（会長:4月～10月），新潟県健康づくり財団（評議員），（公社）新潟県理学療法士会（相談役：7月～2026年3月），関東甲信越ブロック協議会（監事）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，基盤研究（C），高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築，佐藤成登志・神田賢，北村拓也
2. 2024年度，基盤研究（C），看護・介護従事者の腰痛，頚部痛，メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証，神田賢・佐藤成登志，北村拓也

2) 受賞，学位取得，資格取得

厚生労働大臣表彰（2025.10.10），新潟県知事表彰（2025.11.21）

8 学内委員会活動　ロコモティブ症候群予防研究センター（センター長），社会連携推進部長

氏名：東江　由起夫

1　研究題目　1）3Dデジタル機器を活用した義肢装具士養成教育プログラムの構築および実用化に向けた研究，2）客観的機器を用いた義肢ソケット適合評価研究，3）3D Scanner/3D Printerを活用した脳卒中片麻痺者の短下肢装具ならびに下肢切断者の義足ソケットの実用化に向けた研究など．

2　著書

1. 東江由起夫，野坂利也．「坐骨収納型ソケットの実技セミナー　ライナー編　－正確な知識と技術を習得するために－」セミナーテキスト．公益社団法人 日本義肢装具士協会研修員会　南日本支部．2024.9.14.

3　論文

1. 前田雄，須田裕紀，東江由起夫，谷川奈々，佐藤成登志．車椅子シーティングにおける義肢装具士養成校のカリキュラム．日本義肢装具学会誌．2025；41巻3号：PP207-211.（解説）

4　学会等研究発表

1. 師井総一郎，花房昭彦，山本紳一郎，日下結莉乃，東江由起夫，前田雄，須田裕紀，大塚博，大西謙吾，髙木基樹．トポロジー最適化を施した短下肢装具モデルの開発と評価－厚み付加による構造安定性の向上に関する研究－．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.
2. 大塚真緒，東江由起夫，大塚博，大西謙吾，今信一郎，花房昭彦，髙木基樹，山本紳一郎．3Dプリンタ製体幹装具の製作に向けた有限要素解析．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.
3. 田鍋希妃，東江由起夫，Praewpipat Bongkoch，田村真明，神田賢．後方足継手部の水平断面形状が異なる後面支柱型短下肢装具の比較検証～底背屈モーメントに着目～．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.
4. 佐山良太，東江由起夫，大塚博，大西謙吾，今信一郎，髙木基樹，山本紳一郎．有限要素法による大腿義足ソケットのシミュレーション解析～坐骨や軟組織の区別が圧力解析に与える影響．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.

5　学会活動

1) 所属学会　日本義肢装具学会（理事），国際義肢装具協会，日本フットケア・足病医学会，日本靴医学会，日本リハビリテーション工学協会，臨床歩行分析研究会，日本生活支援工学会，臨床バイオメカニクス学会，新潟医療福祉学会，新潟県難病支援ネットワーク

2) 学術集会の主催

1. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，大会長，新潟市，2024.11.8-11.9.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第31回日本義肢装具士協会学術大会，実技セミナー1　TL1，股義足の採型”カナダ式ソケットの採型”，講師，鹿児島市，2025.7.19-7.20.
2. 第31回日本義肢装具士協会学術大会，海外招待講演Ⅱ，IL2，Design Optimization of Prosthetics using Simulation-Driven Techniqus，座長，鹿児島市，2025.7.19-7.20.
3. 第39回日本靴医学会学術集会，シンポジウム③「パラアスリートと義足・車椅子」，座長，奈良市，2025.9.5-9.6.
4. 第6回日本フットケア・足病医学会年次学術集会，義肢装具によるタスク・シフト／シェアーの現状と展望～足病治療における役割強化に向けて～．講師，大阪，2026.2.27.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和7年度 南日本支部研修セミナー，坐骨収納型ソケットの実技セミナー　ライナー編　－正確な知識と技術を習得するために－，講師，公益社団法人 日本義肢装具士協会，義肢装具士，熊本総合医療リハビリテーション学院，2025.9.13-9.15.
2. 第28回新潟リハビリテーション研究会，セレモニー，「真柄先生との想い出」，講師，新潟リハビリテーション研究会，有壬会館，2025.10.4.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
厚生労働省保険局医療用装具療養費検討専門委員会委員，公益財団法人テクノエイド協会（評議委員），新潟県更生相談所（判定アドバイザー），日本災害リハビリテーション支援協会（理事）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員
公益社団法人日本義肢装具士協会　会長，2023-

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），3Dスキャナ・3Dプリンタを導入した脳卒中片麻痺者の短下肢装具の実用化研究，研究代表者
2. 2023年度，科研費基盤研究（C），女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因分析，研究分担者
3. 2023年度，科研費基盤研究（C），3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究，研究分担者
4. 2024年度，科研費基盤研究（C），下腿義足ソケットの快適性向上を目指した3D-CADによるソケット設計手法の確立，研究分担者
5. 2025年度，武藤工業株式会社社共同研究，3D技術を活用した義肢装具製作支援システムに関する研究，研究代表者
6. 2025年度，ナブテスコ株式会社共同研究　大腿義足の電子制御膝継手における随意制御の違いが歩行に与える効果　研究分担者

8　学内委員会活動　3D技術研究開発センター（代表），ボランティアセンター運営委員会（副委員長）新潟連携教育研究センター運営委員会，連携基礎ゼミ実行部会，連携総合ゼミ実行部会，連携科目対応部会，高等教育推進センター運営委員会（副委員長），初年次教育推進部会，教育システム改革部会，アセスメント部会

氏名：阿部　薫

1　研究題目　靴医学を基礎とした一般靴の開発・改良に関する研究 ―特に女性用靴・健康増進用靴・高齢者用靴に注目して―

2　論文

1. 中尾優希，阿部薫，東海林藍，岡部有純，前田雄．非荷重・座位荷重・最大荷重時における母趾の爪の形状変化．靴の医学．2024；38(2)：13-16.（査読あり）
2. 阿部薫，岡部有純，東海林藍，前田雄．フットプリント採取時に非計測足を床面またはカバーにおいた場合の比較―被験者の安全性を確保するために―．靴の医学．2024；38(2)：17-22.（査読あり）
3. 岡部有純，阿部薫，東海林藍，前田雄．女子大学生のパンプスサイズに関する検討 ―最適・現用・自選サイズの比較－．靴の医学．2024；38(2)：23-26.（査読あり）
4. 蓮野敢，阿部薫，吉田桂，中林功一．糖尿病患者の足底胼胝に対し減圧効果を有する機能性靴下の効果の検討．靴の医学．2024；38(2)：72-75.（査読あり）
5. 清水緑，阿部薫，東海林藍，岡部有純，前田雄．陳旧性足関節外側靭帯損傷と膝関節複合靭帯損傷に対する外側ウェッジとアーチサポートで歩行が改善した一例．靴の医学．2024；38(2)：84-87.（査読あり）
6. 高野美空，阿部薫，東海林藍，岡部有純，前田雄．靴ボール部の屈曲硬度の違いが歩行に与える影響．日本整形靴技術協会雑誌．2025；10：5-8.（査読あり）
7. 中尾優希，阿部薫，東海林藍，岡部有純，谷承子，前田雄．女子大学生におけるヒール高の上昇と母趾爪の遠位幅変化の関係性．日本整形靴技術協会雑誌．2025；10：9-12.（査読あり）
8. 谷承子，阿部薫，東海林藍，岡部有純，中尾優希，前田雄．現代の若年男性における足囲・足幅の狭小化傾向に関する検討．日本整形靴技術協会雑誌．2025；10：13-16.（査読あり）
9. 荒岡星来，阿部薫，乙幡愛花，岡部有純，前田雄．大学生における足部寸法と靴内寸法の比較　―靴選択の性因子について―．日本整形靴技術協会雑誌．2025；10：17-20.（査読あり）

10. 乙幡愛花，阿部薫，岡部有純，荒岡星来，前田雄．ギプスシューズ使用時の足趾部およびMP部における免荷率の検討―交互歩行と患側前歩行の比較―．日本整形靴技術協会雑誌．2025;10:21-24.（査読あり）
11. 阿部遥花，阿部薫，岡部有純，東海林藍，前田雄．若年女性における足部開張率とMP部ピーク圧の関係性について．日本整形靴技術協会雑誌．2025；10：25-28.（査読あり）
12. 岡部有純，阿部薫，東海林藍，前田雄．3D足型計測器と徒手計測における足部寸法値の比較検討．日本整形靴技術協会雑誌．2025；10：29-32.（査読あり）
13. 東海林藍，阿部薫，村尾悠，岡部有純．爪切りを含むフットケアに関する介護福祉士の役割認識と教育の現状．日本整形靴技術協会雑誌．2025；10：33-36.（査読あり）
14. 阿部薫，吉田桂，東海林藍，岡部有純，前田雄．糖尿病足病変の状態変化に応じたインソールの改造―足圧計測による除圧部の評価と時系列的対応―．日本整形靴技術協会雑誌．2025；10：37-40.（査読あり）
15. Shoji A, Abe K, Okabe A, Akimoto M, Tani S, Nakao Y, Ting-Ting Chang, Yoshioka K, Maeda Y. The possibility that socks shrink in washers and dryers, and become too tight for toes and nails - A study with foot model simulations -. Journal of IVO Japan 10: 41-46, 2024.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 阿部薫．大学院生の研究指導と研究室の運営．第26回 総合社会情報研究会学術大会（富山県富山市），2025.6.20-6.21.
2. 阿部薫，吉田桂．冬期間のゴム長靴使用を目的とした糖尿病性足病変に対する足底装具付きプラスチック短下肢装具と下腿スペーサーの併用．第39回日本靴医学会学術集会（奈良県奈良市），2025.9.5-9.6.
3. Abe K. Children's Leg Anatomy and Functional Growth. International Foot Conference 2025 (Taipei, Taiwan), 2025.11.16.【特別講演】
4. 阿部薫，吉田桂．既成靴のインソールに対する簡便な改造方法　―短時間の外来診療時におけるマイナーテクニック―．第21回日本整形靴技術協会学術集会（静岡県静岡市），2026.2.14-2.15.
5. 阿部薫．胼胝・鶏眼があるときの靴とインソールの対処方．第６回日本フットケア・足病医学会 年次学術集会（大阪府大阪市），2026.2.27-2.28.【シンポジウム】
6. Abe K. Insole design for hallux valgus and management strategies for foot problems caused by high-heeled footwear. International Foot Conference 2026 (Taipei, Taiwan), 2026.3.13.【特別講演】

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本整形靴技術協会（会長）（理事）（学会誌編集委員長）（大会支援委員）（査読委員），日本靴医学会（理事）（評議員）（AWARD選考委員）（靴医学普及教育委員）（査読委員），日本フットケア・足病医学会（教育・研修委員），日本介護福祉学会（評議員）（査読委員），日本介護学会，バイオメカニズム学会，臨床歩行分析研究会，日本義肢装具学会，日本義肢装具士協会，日本足育協会，足と靴と健康協議会，臨床フットケア研究会（幹事），総合社会情報研究会（幹事），International Society for Prosthetics and Orthotics, American Academy of Orthotists and Prosthetists, Footwear Biomechanics Group: a technical group of the International Society of Biomechanics.

2) 学術集会の主催

1. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，実行委員，新潟県新潟市，2025.1.20-11.9.
2. 総合社会情報研究会，第27回総合社会情報研究会学術大会，大会実行委員長，富山県富山市，2025.4.1-6.21.
3. 日本整形靴技術協会，第21回日本整形靴技術協会学術大会，大会実行委員，静岡県静岡市，2025.4.1-2026.2.15.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本靴医学会，第39回日本靴医学会学術集会，台湾セッション座長，奈良県奈良市，2025.9.5-9.6.
2. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，一般演題座長，新潟県新潟市，2025.11.8-11.9.
3. 日本靴医学会，理事会，Web会議，2025.4.16.

4. 日本靴医学会，理事会，奈良県奈良市，2025.9.4.
5. 日本靴医学会，評議員会，奈良県奈良市，2025.9.4.
6. 日本靴医学会，総会，奈良県奈良市，2025.9.5.
7. 日本義肢装具学会，総会，新潟県新潟市，2025.11.8.
8. 日本整形靴技術協会，大会実行委員会，Web会議，2025.10.30.
9. 日本整形靴技術協会，理事会，議長，Web会議，2025.11.15.
10. 日本整形靴技術協会，役員会，議長，静岡県静岡市，2026.2.13.
11. 日本整形靴技術協会，理事会，議長，静岡県静岡市，2026.2.13.
12. 日本整形靴技術協会，総会，議長，静岡県静岡市，2026.2.14.
13. 足と靴と健康協議会，理事会，東京都台東区，2025.5.9.
14. 足と靴と健康協議会，理事会，東京都台東区，2025.5.20.
15. 足と靴と健康協議会，総会，東京都台東区，2025.5.20.
16. 足と靴と健康協議会，理事会，東京都台東区，2025.11.7.
17. 日本フットケア・足病医学会，教育・研修委員会，Web会議，2025.11.25.
18. 日本フットケア・足病医学会，総会，大阪府大阪市，2026.2.27.
19. 臨床フットケア研究会，定例会，座長，Web会議，2025.5.6.
20. 臨床フットケア研究会，定例会，座長，Web会議，2025.7.28.
21. 臨床フットケア研究会，定例会，座長，Web会議，2025.9.29.
22. 臨床フットケア研究会，定例会，座長，Web会議，2026.1.26.
23. 臨床フットケア研究会，定例会，座長，Web会議，2026.3.23.
24. 日本介護福祉学会誌，査読
25. 日本義肢装具学会誌，査読
26. 日本靴医学会誌，査読
27. 日本整形靴技術協会雑誌，査読

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. シューフィッター補習講座，機器を使わない歩行分析とパッキングワーク―評価学は推理学：歩行と靴から情報を引き出す―，講師，足と靴と健康協議会，靴業界関係者，大阪府大阪市，2025.6.3.
2. 上級シューフィッター養成講座，機能性靴パッド調整技術１，講師，足と靴と健康協議会，靴業界関係者，東京都墨田区，2025.7.25.
3. 上級シューフィッター養成講座，機能性靴パッド調整技術２，講師，足と靴と健康協議会，靴業界関係者，東京都墨田区，2025.11.28.
4. 上級シューフィッター養成講座，機能性靴パッド調整技術３，講師，足と靴と健康協議会，靴業界関係者，東京都墨田区，2026.3.11.
5. エスペランサ靴学院公開講座，歩行の８つのメリットと靴選びのポイント，講師，エスペランサ靴学院，一般市民，大阪府大阪市，2025.9.15.
6. エスペランサ靴学院公開講座，自分の靴に合うインソールを作ってみよう，講師，エスペランサ靴学院，一般市民，大阪府大阪市，2025.9.15.
7. 2025年度研修会１，学会発表の方法①抄録原稿添削１，講師，日本整形靴技術協会，靴業界関係者，Web講義，2025.10.21.
8. 2025年度研修会１，学会発表の方法②抄録原稿添削２，講師，日本整形靴技術協会，靴業界関係者，Web講義，2025.10.28.
9. 2025年度研修会１，学会発表の方法③発表予演会１，講師，日本整形靴技術協会，靴業界関係者，Web講義，2026.1.13.
10. 2025年度研修会１，学会発表の方法④発表予演会２，講師，日本整形靴技術協会，靴業界関係者，

Web講義，2026.1.20.

11. 2025年度研修会２，パッキングワーク技術セミナー①　基本編（３アーチサポート），講師，日本整形靴技術協会，靴業界関係者，Web講義，2026.3.18.
12. 2025年度研修会２，パッキングワーク技術セミナー②　応用編（疾患別設計），講師，日本整形靴技術協会，靴業界関係者，Web講義，2026.3.25.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人 足と靴と健康協議会（理事），台灣足鞋健康協會（榮譽顧問）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），足のねじれ変形の法則性を考慮したハイヒール靴の基本設計に関する生活支援技術の確立，研究代表者
2. 2025年度，委託研究費（株式会社ワコール），機能性パンプスの開発，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

最優秀論文賞，日本整形靴技術協会，2026.2.14，（共著者）

7　学内委員会活動　大学院委員会，研究科委員会，入試委員会，大学院入試広報委員会，大学院教務委員会

氏名：金澤　雅人

1　研究題目　脳梗塞後の機能回復に関する研究

2　著書

1. Kanazawa M, Okura R, Hatakeyama M. Oxygen-Glucose Deprivation and Hypoxic Preconditioning in Cell-Based Therapy for Ischemic Stroke. STEM CELL RENEWAL AND CELL-CELL COMMUNICATIONS, Third Edition- SPRINGER_NATURE in press
2. 金澤雅人．進行性核上性麻痺　今日の治療指針2025，福井次矢，高木誠，小室一成編，医学書院，東京，2025: 958-959.

3　論文

1. Kanazawa M, Hatakeyama M. From mechanism to classification: Understanding a novel model of cerebral small vessel disease. J Cereb Blood Flow Metab. 2025; 45(8): 1617-1619.
2. Kanazawa M, Hatakeyama M. Intercellular communication between peripheral monocytes and central nervous system cells in stroke. Neural Regen Res. 2025 Oct 30. Online ahead of print.
3. Hatakeyama M, Watanabe M, Koide S, Hashida H, Taneda T, Akiyama N, Tokutake T, Kanazawa M, Onodera O. Clinical and Radiological Features of Aphasia Caused by Brainstem Infarction: Two Case Reports. Cerebellum. 2026; 25(2): 27.
4. Kanazawa M, Hatakeyama M, Imamura T, Kobayashi T. Chronic rhinosinusitis and posterior cingulate hypoperfusion on SPECT in dementia diagnosis. Front Neurol. 2026; 17: 1777862.
5. 金澤雅人，畠山公大．ストローマ細胞由来因子-1．脳科学辞典（日本神経科学学会）2025 https://bsd.neuroinf.jp/wiki/ストローマ細胞由来因子-1.
6. 金澤雅人，春日健作，池内健，小野寺理．パーキンソン病と関連疾患の治療法開発の現状と展望　進行性核上性麻痺と大脳皮質基底核症候群の病態抑止に必要なこと．神経治療学 2025; 42: 270-276.
7. Koide S, Tsuboguchi S, Koide S, Ninomiya I, Saito T, Ishiguro T, Saji E, Higuchi Y, Ikeuchi T, Oishi M, Kanazawa M, Onodera O. A patient with neuronal intranuclear inclusion disease developed encephalitis-like symptoms after cerebral angiography. Neurol Clin Neuroscience. 2025; 13: 69-71. 10.1111/ncn3.12839, 2024.

4　学会等研究発表

1. Hatakeyama M, Kanayama T, Akiyama N, Otsu Y, Onodera O, Shimohata T, Kanazawa M. Preconditioned peripheral blood mononuclear cells target hypoxic area after reperfusion. 第66回日本

神経学会学術大会（大阪市）2025.5.24.

2. Hatakeyama M, Kanayama T, Akiyama N, Otsu Y, Onodera O, Shimohata T, Kanazawa M. Oxygen-glucose deprived peripheral blood mononuclear cells target hypoxic area after reperfusion via SDF-1. Brain & Brain PET 2025 (Seoul) 2025.6.3.

5　学会活動

1) 所属学会　日本内科学会（評議員，専門医部会信越支部会長），日本神経学会（代議員），日本脳循環代謝学会（幹事，総務委員，YIA若手研究者委員），日本パーキンソン病・運動障害疾患学会（評議員），日本神経感染症学会（評議員），米国脳卒中協会（Council member），国際脳代謝循環学会（会員），米国内科学会（上級会員），米国神経学会（fellow）

6　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1.　新潟大学脳研究所特任教授

氏名：神田　賢

1　研究題目　腰痛・肩こりなど生活習慣病の予防に関する研究（予防医学），脊椎後弯変形のある対象者への体幹筋持久力評価として独自のテストの考案および評価法としての確立（予防医学），職業性腰痛・職業性頚肩腕愁訴など，職業関連疾患の予防に関する研究（産業医学）

2　論文

1. Terai H, Takahashi S, Hoshino M, Taniwaki H, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T. “Koshimagari Exercise” for Adult spinal deformity in older adults: Assessment of home based exercise outcomes in a multicenter study. Spine Surgery and Related Research. 2025; vol9(3); 358-367.
2. Taniwaki H, Takahashi S, Hoshino M, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T, Terai H. Who benefits from home-based exercise for adult spinal deformity? A prospective multicenter study on clinical and radiographic predictors. European Spine Journal. 2025; vol34, 2806-2818.
3. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志．筋血流研究から紐解く労作性腰痛の新病態．地域ケアリング．22(11): 65-68.

3　報告書

1. 佐藤成登志，神田賢，北村拓也．基盤研究（C），高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築，研究成果報告書，2025，研究代表者
2. 神田賢，佐藤成登志，北村拓也．基盤研究（C），看護・介護従事者の腰痛，頚部痛，メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証，研究成果報告書，2025，研究分担者

4　学会等研究発表

1. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志，岡邨直人，山本智章，渡邊慶．腰痛強度別にみた成人脊柱変形患者の理学療法反応性の違い-初診時腰痛強度に基づく層別的検討-．第33回日本腰痛学会（富山県），2025.10.11.（メディカルアワードセッション）
2. 岡村郁哉，小林卓夫，佐藤成登志，神田賢．通いの場参加高齢者と要支援認定者の比較から見出された潜在的要支援者の現状．第３回新潟県リハビリテーション専門職学術大会（新潟市），2025.12.20.

3. 田鍋希妃，東江由起夫，Praewpipat Bongkoch，田村真明，神田賢．ポリプロピレン製後面支柱型短下肢装具の開始時１万回および終了時１万回のモーメントの比較検証-アキレス腱部位の水平断面形状の統一化の確立-．第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟県），2025.10.25.
4. 田鍋希妃，東江由起夫，Praewpipat Bongkoch，田村真明，神田賢．後方足継手部の水平断面形状が異なる後面支柱型短下肢装具の比較検証 ～底背屈モーメントに着目～ポリプロピレン製後面支柱型短下肢装具の開始時１万回および終了時１万回のモーメントの比較検証-．第41回日本義肢装具学会（新潟県），2025.11.8.
5. Kanda M. Suggestions for Future Functional Outcome Measurements in the PO field.The Post-Graduate Research Day and Research Progression Activity. Sirindhorn School of Prosthetics and Orthotics, Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University. 2025.5.13.
6. Kanda M. How double-degree structures (co-supervision, shared modules, lab visit) accelerate students' competencies that translate into research and service improvements on return. Global Educatots Meeting 2026 (Bangkok, Thailand), 2025.3.23-3.25.

5　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会，新潟県理学療法士学会，日本運動器疼痛学会，日本腰痛学会，日本マイオチューニングアプローチ学会，新潟医療福祉学会，APTA，CPTA，KEOMT

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 厚生労働省慢性疼痛診療構築モデル事業新潟県WG研修会（Zoom），ファシリテータ，2025.12.14.
2. 就労支援事業：労働災害予防のための相談・指導，運送業，社員，新潟市，2025.4-2026.3.（４回）
3. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための腰痛予防の方法と実践 個別指導，講師，IT企業，社員，新潟市，2025.10.21.
4. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，「肩こり・腰痛の解消に向けて」自分でできる予防何？，講師，電気会社，社員，新潟市，2025.6.20.
5. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための腰痛・転倒予防の方法と実践，講師，特別養護老人ホーム，社員，村上市，2025.12.1.
6. 就労支援事業:労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための腰痛予防の方法と実践，講師，特別養護老人ホーム，社員，燕市，2026.3.4.
7. 就労支援事業：労働災害予防のための相談・指導，運送業，社員，新潟市，2025.4-2026.3（４回）
8. Manual Therapy for Patient with Lumbar Dysfunction　弘光科技大学，台中，台湾　2025.9.
9. 聖籠町講話会「知って得する今日からできる腰痛・肩痛・膝痛予防」，聖籠町，2025.10.8.
10. 聖籠町講話会「知って得する今日からできる腰痛・肩痛・膝痛予防」，聖籠町，2026.1.15.
11. コミュニティ木崎村福祉部会健康体操講座「腰痛・転倒予防について」，新潟市北区木崎，2025.7.23.

2) 社会活動への参加協力

1. 厚生労働省慢性疼痛診療体制構築モデル事業ワーキンググループ委員

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度（継続），基盤研究（C），看護・介護従事者の腰痛，頚部痛，メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証，研究代表者
2. 2025年度（継続），基盤研究（C），高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築，研究分担者

8　学内委員会活動　国際交流委員会（委員長），教務委員会，学習支援委員会，メンタルサポート委員，ロコモ予防研究センター

氏名：前田　雄

1　研究題目　大腿義足の電子制御膝継手における随意制御の違いが歩行に与える効果に関する研究，下腿義足ソケット適合に関する研究，3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究

2　論文

1. 中尾優希，阿部薫，東海林藍，岡部有純，前田雄．非荷重・座位荷重・立位荷重における母趾の爪の形状変化．靴の医学．2025；38巻２号：PP13-16.（査読あり）
2. 阿部薫，岡部有純，東海林藍，前田雄．フットプリント採取時に非計測足を床面またはカバーにおいた場合の比較　被験者の安全性を確保するための方法の検討．靴の医学．2025；38巻２号：PP17-22.（査読あり）
3. 岡部有純，阿部薫，東海林藍，前田雄．女子大学生のパンプスサイズに関する検討　最適・自選・実際に使用されているサイズの比較．靴の医学．2025；38巻２号：PP23-26.（査読あり）
4. 清水緑，阿部薫，岡部有純，前田雄．陳旧性足関節外側靱帯損傷に対する外側ウェッジとアーチサポートで歩行能力が改善した一例．靴の医学．2025；38巻２号：PP84-87（査読あり）.
5. 前田雄，須田裕紀，東江由起夫，谷川奈々，佐藤成登志．車椅子シーティングにおける義肢装具士養成校のカリキュラム．日本義肢装具学会誌．2025；41巻３号：PP207-211.（解説）
6. 桑原貴也，山岸舜，前田雄．装具の分類と治療用装具．整形外科看護．2025；30巻９号：PP12-21.（記事）

3　学会等研究発表

1. 谷承子，阿部薫，岡部有純，東海林藍，前田雄．靴ひも緩み防止機能付き樹脂製はとめの効果検証．第39回日本靴医学会学術集会（奈良県奈良市），2025.9.5-9.6.
2. 荒岡星来，阿部薫，乙幡愛花，前田雄．大学生における足部寸法と靴内寸法の比較　靴選択の性差について．第39回日本靴医学会学術集会（奈良県奈良市），2025.9.5-9.6.
3. 乙幡愛花，阿部薫，岡部有純，荒岡聖来，前田雄．ギプスシューズを使用したときの足趾部およびMP部における免荷率の検討　交互歩行と患側前歩行の比較．第39回日本靴医学会学術集会（奈良県奈良市），2025.9.5-9.6.
4. 中尾優希，阿部薫，岡部有純，東海林藍，前田雄．歩行中における母趾部荷重量と遠位爪幅狭小化率の関係性．第39回日本靴医学会学術集会（奈良県奈良市），2025.9.5-9.6.
5. 岡部有純，阿部薫，東海林藍，前田雄．女性の踵形状における後方突出率および高さに関する検討　若年群と中年群の比較．第39回日本靴医学会学術集会（奈良県奈良市），2025.9.5-9.6.
6. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来の化学物質リスクについて．第50回 日本医用マススペクトル学会（愛知県一宮市），2025.9.12-9.13.
7. 髙橋良明，前田雄，竹内裕子．周産期低酸素脳症後遺症患者への姿勢保持装置（腹臥位）アプローチの一症例．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.
8. 師井聡一郎，花房昭彦，山本紳一郎，日下結莉乃，東江由起夫，前田雄，須田裕紀，大塚博，大西謙吾，髙木基樹．トポロジー最適化を施した短下肢装具モデルの開発と評価-厚み付加による構造安定性の向上に関する研究-．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟県新潟市）．2025.11.8-11.9.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（会員），日本義肢装具士協会（会員），日本義肢装具学会（会員），臨床歩行分析研究会（会員），臨床バイオメカニクス学会（会員），日本シーティング・コンサルタント協会（会員），バイオメカニズム学会（会員），日本整形靴医学会（会員），日本整形靴技術協会（会員）

2) 学術集会の主催

1. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，プログラム委員長，新潟，2024.11.8-11.9.
2. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，査読委員，新潟，2024.11.8-11.9.
3. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，学生プログラム委員，新潟，2024.11.8-11.9.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本義肢装具士協会（学術編集委員），2025
2. 日本義肢装具士協会（シーティングWG委員），2025
3. 日本義肢装具士協会（義肢装具士業務指針改定WG委員），2025
4. 日本義肢装具学会（シーティング普及促進委員），2025
5. 日本義肢装具学会（用語委員長），2025
6. 日本義肢装具学会（JIST0101改正原案検討委員），2025

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 弘光科技大學セミナー，体幹装具学/実習，セミナー講師，弘光科技大學，学生16名・社会人１名，教員１名，弘光科技大學（台湾），2025.9.1-9.4.
2. 義肢装具企業「大腿義足製作研修会」，前田雄，PO-LINKS，義肢装具士２名，新潟県新潟市，2025.5.27.
3. 義肢装具企業「大腿義足製作研修会」，前田雄，須田義肢製作所，義肢装具士５名，新潟県魚沼市，2025.9.20.
4. 義肢装具企業「大腿義足製作研修会」，前田雄，須田義肢製作所，義肢装具士５名，新潟県魚沼市，2025.10.25.
5. 義肢装具企業「大腿義足製作研修会」，前田雄，須田義肢製作所，義肢装具士５名，新潟県魚沼市，2026.1.29.
6. 義肢装具企業「大腿義足製作研修会」，前田雄，須田義肢製作所，義肢装具士５名，新潟県魚沼市，2026.2.6.
7. 義肢装具企業「大腿義足製作研修会」，前田雄，高崎義肢製作所，義肢装具士３名，群馬県高崎市，2025.11.15.
8. 義肢装具企業「大腿義足製作研修会」，前田雄，北信義肢工業所，義肢装具士３名，長野県上田市，2025.9.20.
9. 2025年度 公益社団法人 日本義肢装具士協会，全国セミナー講師，（労働安全衛生セミナー～大丈夫ですか？ あなたの職場環境？～）2025.7.5.
10. オットーボックジャパン株式会社「足部セミナー」，共同主催者，義肢装具士15名，新潟医療福祉大学学生５名，新潟医療福祉大学，2025.4.13.

2) 社会活動への参加協力

1. 国家検定義肢装具技能検定実技試験　試験官，新潟医療福祉大学，2025.2.11.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

国家検定義肢装具技能検定実技試験（検定委員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本義肢装具教育者連絡者協議会（就職活動検討委員長），2022-2025.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，ナブテスコ株式会社共同研究　大腿義足の電子制御膝継手における随意制御の違いが歩行に与える効果　研究代表者
2. 2021年度，科研費基盤研究（C），3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究，研究代表者
3. 2025年度，科研費基盤研究（C），歩行機能とソケット適合を考慮した新しい下腿義足ソケットの最適設計に関する研究，研究代表者
4. 2025年度，厚生労働行政推進調査事業（障害者政策総合研究事業），技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究，研究協力者

2) 受賞，学位取得，資格取得
一般社団法人日本義肢装具学会　飯田賞，奨励賞　2026.11.8.
3) 学内部活動の実績
1.　空飛ぶ車いすプロジェクト，空飛ぶ車椅子，顧問，2018.4.1-2026.3.31.
4) 学外兼務講師等
1.　有限会社須田義肢製作所　顧問　2025
7　学内委員会活動　入試委員会，就職センター運営委員会，化学物質管理委員会

氏名：須田　裕紀

1　研究題目　下腿義足ソケットのアライメントとソケット内圧力の関係，能動義手のコントロールケーブルシステムの分析，3D Scan/Printerを用いた義肢装具製作に関する研究

2　論文
1. Sayama R, Agarie Y, Suda H, Otsuka H, Ohnishi K, Kon S, Hanahusa A, Takagi M, Yamamoto S. A Proof-of-Concept Framework Integrating ML-Based MRI Segmentation with FEM for Transfemoral Residual Limb Modelling, Prosthesis 2026, 8(2), 16 (review)
2. 前田雄，須田裕紀，東江由起夫，谷川奈々，佐藤成登志．車椅子シーティングにおける義肢装具士養成校のカリキュラム．日本義肢装具学会誌 41 (3) 207-211, 2025.

3　報告書
1. 須田裕紀，厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業），技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究，3D技術の運用に関する機器精度の検証，令和７年度 総括・分担研究報告書，研究分担者

4　学会等研究発表
1. 須田裕紀，鎌田恭子，坂井一浩．ISPOの活動紹介　第１報～世界義肢装具教育者会議GEMへの参加報告～．第31回日本義肢装具士協会学術大会（鹿児島），2025.7.19-7.20.
2. Suda H, Maeda Y, Go T, Agarie Y. Comparison of different materials and AFO plantar / dorsiflexion moments in SHB-AFO made by 3D-Printer. 20th ISPO World Congress (Sweden), 2025.6.16-6.19.
3. 鎌田恭子，須田裕紀，佐々木伸．ISPOの活動紹介（第２報）　ISPO個人認証試験と認証取得者の動向．第31回日本義肢装具士協会学術大会（鹿児島），2025.7.19-7.20.
4. 師井聡一郎，花房昭彦，山本紳一郎，日下結莉乃，東江由起夫，前田雄，須田裕紀，大塚博，大西謙吾，高木基樹．トポロジー最適化を施した短下肢装具モデルの開発と評価　厚み付加による構造安定性の向上に関する研究．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟）2025.11.8-11.9.

5　学会活動
1) 所属学会　新潟医療福祉学会（会員），日本義肢装具士協会（会員），日本義肢装具学会（会員），臨床歩行分析研究会（会員），日本リハビリテーション工学協会（会員），国際義肢装具協会ISPO（会員）
2) 学術集会の主催
1.　日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，実行委員，新潟，2025.11.8-11.9.
3) 学会等でのその他の活動
1.　第31回日本義肢装具士協会学術大会，座長，鹿児島，2025.7.19-7.20.
2.　第41回日本義肢装具学会学術大会，座長，新潟，2025.11.8-11.9.

6　社会活動
1) 社会活動への参加協力
1.　空飛ぶ車いすプロジェクト，空飛ぶ車いすサークル，顧問，2018.4.1-2025.3.31.
2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
国家検定義肢装具技能検定実技試験（検定委員）
3) 職能団体（協会，士会等）の委員

ISPO Japan（事務局長），ISPO Educators Community（委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，厚生労働行政推進調査事業（障害者政策総合研究事業），技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究，研究分担者
2. 2025年度，科研費基盤研究（C），3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究，研究分担者
3. 2025年度，科研費基盤研究（C），下腿義足ソケットの快適性向上を目指した3D-CADによるソケット設計手法の確立，研究分担者

8　学内委員会活動　3D技術研究開発センター（副センター長）

氏名：村山　稔

1　研究題目　脳卒中歩行障害に対する練習機器の研究開発

2　論文

1. 村山稔．調整機能と外観性の両立を目的とした継手付きプラスチック短下肢装具Funabashi Ankle Joint Orthosis（FAJO）の開発．POアカデミージャーナル．2025；33(1)：63-68.
2. 星歩夢，村山稔．金属支柱付短下肢装具と比較したTストラップ内蔵の継手付プラスチック短下肢装具の矯正効果．POアカデミージャーナル．2025；33(2)：157-160.

3　学会等研究発表

1. 村山稔．脳卒中患者の歩行およびステップ練習中に膝屈曲角度を電子音で知らせるバイオフィードバックセンサ．第62回日本リハビリテーション医学会学術集会（京都），2025.10.23.
2. 村山稔，佐藤心乃助，星歩夢，菊池晋之祐．聴覚フィードバックを利用した膝過伸展治療システムの開発．第41回 日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8.
3. 星歩夢，村山稔．コリゲーション加工を行ったTストラップ内蔵の継手付プラスチック短下肢装具の開発．第41回 日本義肢装具学会学術大会（新潟），2024.11.8.
4. 高橋拓也，大河暖己，村山稔．モデル修正の軽減を目的とした靴型装具の採型方法の開発．第41回 日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8.
5. 渋谷悠斗，宮島遼成，村山稔．股関節の屈曲運動を力源とした膝関節伸展と足関節背屈を促す補助具の開発．第41回 日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8.
6. 奥田幸花，北谷亮輔，星歩夢，村山稔，大西秀明．短下肢装具とその種類が身体重心に対する牽引歩行中の推進力に与える影響．第41回 日本義肢装具学会学術大会（新潟），2025.11.8.

4　学会活動

1) 所属学会　日本義肢装具士協会（組織率向上委員），日本義肢装具学会（編集委員），日本リハビリテーション医学会（正会員），新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. プログラム委員（第41回 日本義肢装具学会学術大会 新潟，2025.11.8-11.9）
2. 一般演題座長（第41回 日本義肢装具学会学術大会 新潟，2025.11.9）

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本義肢装具学会誌，論文査読，2026.1.27.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 講習会，脳卒中の歩行再建，講師，B.T.G研修会，医師・理学療法士・義肢装具士，on-line，2024.6.1.
2. 講習会，脳卒中歩行障害に対する装具療法，講師，山形済生病院・船橋市立リハビリテーション病院・みどり病院・桑名病院，医師・理学療法士，オンライン，2024.6.6.

3. 講習会,「脳卒中歩行障害に対する装具療法」第61回日本リハビリテーション医学会学術大会ブース内プレゼンテーション，講師，アライブワーク株式会社，医師・理学療法士・義肢装具士，横浜，2024.6.15.
4. 講習会，脳卒中の歩行再建・臨床研究について，講師，B.T.G研修会，医師・理学療法士・義肢装具士，on-line，2024.7.20.
5. 講習会，膝伸展補助具スロットルストラップの使用方法，講師，西宮共立リハビリテーション病院，医師・理学療法士，兵庫，2024.10.26.
6. 講習会，福祉用具に必要な工学的基礎，講師，国際医療福祉大学，理学療法士，オンライン，2024.11.28.
7. 講習会，ゼミ間研究発表会「脳卒中装具療法」，講師，大阪保健医療大学，医師・理学療法士，大阪，2024.11.30.
8. 講習会，福祉用具に必要な材料と材料力学，講師，国際医療福祉大学，理学療法士，オンライン，2024.12.5.
9. 講習会，福祉用具に必要な人間工学的設計と図学の基礎，講師，国際医療福祉大学，理学療法士，オンライン，2014.12.12.
10. 講習会，福祉用具に必要な構造部品と機構学，講師，国際医療福祉大学，理学療法士，オンライン，2024.12.19.
11. 講習会，理学療法士に伝えたい短下肢装具，講師，新潟県理学療法士協会，理学療法士，on-line，2025.3.11.
12. 講習会，理学療法士に伝えたい長下肢装具，講師，新潟県理学療法士協会，理学療法士，on-line，2025.3.13.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2026年度，科研費若手研究，歩行中に膝過伸展を呈する生活期片麻痺者を対象とした聴覚フィードバック療法の開発，村山稔，研究代表者

7　学内委員会活動　FD・SD委員会（委員），大学院教育研究環境委員会（委員），学生委員会（委員），交通安全委員会（委員），新潟装具研究開発センター（センター長），3D技術研究開発センター（研究員）

氏名：田中　惣治

1　研究題目　脳卒中者に対する短下肢装具選定基準の構築，下腿義足のアライメント調整が歩行に及ぼす影響

2　論文

1. 田中惣治．歩行と動作の計測機器　脳卒中患者の動作分析の実際．総合リハビリテーション．2025; 53(5): 531-536
2. 田中惣治．油圧ダンパー式短下肢装具（Gait Solution）の適応と実際．POアカデミージャーナル．2025; 33(1): 8-17

3　学会等研究発表

1. Tanaka S, Yamamoto S, Hashimoto H. Gait Rehabilitation Using KAFO and AFO in the Early Phase of Post-Stroke Recovery. ISPO 20th world congress, Stockholm, 2025.6.16-6.19. [Educational Seminar]
2. Tanaka S, Yamamoto S, Hashimoto H. How to use KAFO and AFO in gait training for stroke survivers. ISPO 20th world congress, Stockholm, 2025.6.16-6.19. [Educational Seminar]
3. Tanaka S. Biomechanical Effects of Lower Limb Orthotics on EMG Activity and 3D Gait Analysisin Neurological Disorders with an emphasis on stroke patients. ISPO webinar, Online, 2025.10.30.【Special lecture】
4. 佐藤悠香，田中惣治，他：下腿義足における矢状面のアライメント変化が歩行時の足関節モーメントに及ぼす影響．第41回日本義肢装具学会学術大会，新潟，2025.11.8-11.9.

5. 齋藤麻衣，田中惣治，他：短下肢装具足継手の制動力．第41回日本義肢装具学会学術大会，2025，新潟，2025.11.8-11.9.
6. 清水緑，田中惣治，他．短下肢装具の背屈制動力の違いが健常歩行に与える影響．第41回日本義肢装具学会学術大会，2025，新潟，2025.11.8-11.9.【優秀学生演題賞受賞】
7. 田中惣治．脳卒中者の歩行再建のための長下肢装具-エビデンスの現状とバイオメカニクスに基づく臨床応用-．教育講演，第41回日本義肢装具学会学術大会，2025，新潟，2025.11.8-11.9.
8. 田中惣治．短下肢装具足継手　トリプルアクションとMILINE．ランチョンセミナー，第41回日本義肢装具学会学術大会，2025，2025.11.8-11.9.
9. 齋藤麻衣，田中惣治，他：短下肢装具足継手の制動力．第41回日本義肢装具学会学術大会，2025．新潟，2025.11.8-11.9.
10. 佐藤悠香，田中惣治，他：下腿義足における矢状面のアライメント調整が歩行時の足関節モーメントに及ぼす影響 -症例報告-．第25回新潟医療福祉学会学術集会，新潟，2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　日本理学療法士協会（正会員），日本義肢装具学会（正会員），Internationnal Prosthtic and Orthotics（正会員）

2) 学術集会の主催

1. 第41回日本義肢装具学会学術集会，実行委員，新潟，2025.11.8-11.9.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本義肢装具学会　特別セミナー，研修委員（セミナー主催補佐），大阪，2025.8.30.
2. 日本義肢装具学会　研修委員長，2025.8.30，2025.11.7日委員会開催
3. Prosthetics and Orthotics International, Reviewer, 2026.1.30.
4. Prosthetics and Orthotics International, Reviewer, 2025.9.4.
5. Prosthetics and Orthotics International, Reviewer, 2025.5.9.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 三之町病院勉強会，OJT研修＋実技指導，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2025.4.10.
2. 三之町病院勉強会，OJT研修＋実技指導，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2025.5.22.
3. 認定理学療法士（補装具）認定カリキュラム，短下肢装具と長下肢装具の適応と実際，講師，済生会東神奈川リハビリテーション病院，PT，オンライン，2025.6.7.
4. 認定理学療法士（補装具）認定カリキュラム，装具療法の実際と最新のエビデンス，講師，済生会東神奈川リハビリテーション病院，PT，オンライン，2025.6.7.
5. 認定理学療法士（補装具）認定カリキュラム，装具チェックポイントとバイオメカニクス，講師，済生会東神奈川リハビリテーション病院，PT，オンライン，2025.6.7.
6. 認定理学療法士（補装具）認定カリキュラム，義足アライメントの問題と対処方法の実際，講師，済生会東神奈川リハビリテーション病院，PT，オンライン，2025.6.8.
7. 三之町病院勉強会，OJT研修＋実技指導，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2025.7.24.
8. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法①，バイオメカニクスの基礎と健常歩行，講師，BTG研修会，PT・PO，オンライン，2025.8.5.
9. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法②，短下肢装具の基礎，講師，BTG研修会，PT・PO，オンライン，2025.8.12.
10. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法③，短下肢装具のバイオメカニクス，講師，BTG研修会，PT・PO，オンライン，2025.8.19.
11. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法④短下肢装具の調整，講師，BTG研修会，PT・PO，オンライン，2025.8.26.
12. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法⑤，長下肢装具のバイオメカニクス，講

師，BTG研修会，PT・PO，オンライン，2025.9.2.

13. 三之町病院勉強会，OJT研修＋実技指導，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2025.9.4.
14. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法⑥，カットダウン，講師，BTG研修会，PT・PO，オンライン，2025.9.9.
15. 麻布脳神経外科病院研修会，表面筋電図を使用した脳卒中者の歩行評価，講師，PT・PO，麻布脳神経外科病院，2025.9.10.
16. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法⑦，脳卒中者に対する装具療法の実際前編，講師，BTG研修会，PT・PO，オンライン，2025.9.16.
17. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法⑧，脳卒中者に対する装具療法の実際後編，講師，BTG研修会，PT・PO，オンライン，2025.9.23.
18. 三之町病院勉強会，OJT研修＋実技指導，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2025.10.2.
19. 三之町病院勉強会，OJT研修＋実技指導，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2025.10.30.
20. 認定理学療法士（脳卒中）臨床認定カリキュラム，疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編５）装具療法の実際，講師，宝塚リハビリテーション病院，PT，オンライン，2025.11.2.
21. 北海道理学療法士会　後志支部第１回研修会，脳卒中患者の歩行分析正常歩行との比較と歩行再建に向けた治療戦略第１部，講師，北海道理学療法士会　後志支部，PT，オンライン，2025.11.18.
22. 北海道理学療法士会　後志支部第１回研修会，脳卒中患者の歩行分析正常歩行との比較と歩行再建に向けた治療戦略第２部，講師，北海道理学療法士会　後志支部，PT，オンライン，2025.11.25.
23. 三之町病院勉強会，OJT研修＋実技指導，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2025.11.27.
24. 鶴見リハビリテーション病院勉強会，膝関節が過屈曲する脳卒中者に対する装具療法，講師，鶴見リハビリテーション病院，PT，鶴見リハビリテーション病院，2025.12.5.
25. 三之町病院勉強会，OJT研修＋実技指導，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2025.12.18.
26. 座間リハビリテーション病院勉強会，装具機能から考える脳卒中片麻痺者の装具選定，講師，PT，座間リハビリテーション病院，2026.1.23.
27. 座間リハビリテーション病院勉強会，装具検討会のすすめ，講師，PT，座間リハビリテーション病院，2026.1.23.
28. 新潟リハビリテーション病院勉強会，装具機能から考える脳卒中者の装具選定，講師，PT，新潟リハビリテーション病院，2026.1.27.
29. 三之町病院勉強会，症例検討会，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2025.2.10.
30. 理学療法標準化研修会③，脳卒中片麻痺者の装具療法を用いた歩行の基本と臨床での診かた，講師，岩手県理学療法士会，PT，オンライン，2026.2.17.
31. 三之町病院勉強会，OJT研修＋実技指導，講師，三之町病院，PT，三之町病院，2026.3.10.
32. パシフィックサプライ株式会社　社内勉強会，機能から考える装具選定―トリプルアクションの臨床的役割―，講師，パシフィックサプライ株式会社，オンライン，2026.3.25.
33. 底屈制動装具Gaitsolutionを臨床で活用するための理論と実践～短下肢装具にフォーカスして，Gaitsolutionを臨床で「使いこなす」～ロッカー機能の再建に向けた評価と調整の戦略～，講師，パシフィックサプライ株式会社，オンライン，2026.3.7.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本義肢装具学会　研修員（委員長）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024，科学研究費　基盤C，脳卒中者に対する短下肢装具選定基準の構築，田中惣治，山本澄子，須田裕紀
2. 2025，科学研究費　基盤C，下腿義足の最適な適合と調整のための新たな評価指標の構築，郷貴博，須田裕紀，田中惣治

7　学内委員会活動　個人情報委員会，学会誌編集委員会・学術委員会

氏名：佐藤　未希

1　研究題目　義足使用者の性差における断端周径変化の研究，スポーツ義足のソケット評価に関する研究，大腿義足膝継手が歩行に及ぼす影響に関する研究

2　論文

1. 佐藤未希．第40回日本義肢装具学会学術大会学会印象記．2025；Vol53 No5:540-541.
2. 佐藤未希．第41回日本義肢装具学会学術大会を開催して．2025；Vol144 No1:58-60.

3　報告書

1. 佐藤未希．研究基盤（C），女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因分析，研究成果報告書，2023～2025（研究代表者）

4　学会等研究発表

1. 佐藤未希，郷貴博，佐藤成登志．義肢装具士養成校の意識調査から考える義肢装具士の認知向上．第31回日本義肢装具士協会学術大会（鹿児島市），2025.7.19-7.20.
2. 郷貴博，佐藤未希，佐藤成登志．養成校におけるの義肢装具士の認知向上を目指したSNS投稿内容の分析．第31回日本義肢装具士協会学術大会（鹿児島市），2025.7.19-7.21.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，国際義肢装具協会，日本義肢装具士協会，日本義肢装具学会，理学療法科学学会

2) 学術集会の主催

1. 日本義肢装具学会，第41日本義肢装具学会学術大会，実行委員長，新潟市，2025.11.8-11.9・2日間開催

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本義肢装具学会，学会運営，学術大会委員，オンライン開催，2023.12-現在まで定期的に開催.
2. NPO法人ハイヒール・フラミンゴ，コミニュティ運営，理事，オンライン開催，2022.3-現在まで定期的に開催
3. 日本義肢装具士協会，学会運営，理事，対面・オンライン開催，2025.7-現在まで定期的に開催

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度障害者職業生活相談員資格認定講習，医学的リハビリの立場から見た障害特性，講師，独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構，障害者職業生活相談員，新潟市・新潟テルサ，2025.11.13.
2. 令和７年度障害者職業生活相談員資格認定講習，医学的リハビリの立場から見た障害特性，講師，独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構，障害者職業生活相談員，新潟市・新潟テルサ，2025.11.14.
3. PTA主催教育講演会，「障がい」って何ですか？～義肢装具を知ることで偏見をなくそう～，講師，濁川中学生，濁川中学生１－３年生，濁川中学校体育館，2025.9.11.
4. 新潟市キャリア啓発授業，「人の未来をつくる～手となり足となる無限の可能性をカタチにする義肢装具士の仕事とは？～」，講師，新潟市ニュービジネス協議会，新潟市立関屋中学校２年生（165名），新潟市立関屋中学校体育館，2025.6.3.
5. 新潟市キャリア啓発授業，「人の未来をつくる～手となり足となる無限の可能性をカタチにする義肢装具士の仕事とは？～」，講師，新潟市ニュービジネス協議会，新潟市立大形中学校３年生（133名），新潟市立大形中学校体育館，2025.7.9.
6. 新潟市キャリア啓発授業，「人の未来をつくる～手となり足となる無限の可能性をカタチにする義肢装具士の仕事とは？～」，講師，新潟市ニュービジネス協議会，新潟市立小須戸中学校３年生（69名），

新潟市立小須戸中学校体育館，2025.9.19.

7. 新潟市キャリア啓発授業，「人の未来をつくる～手となり足となる無限の可能性をカタチにする義肢装具士の仕事とは？～」，講師，新潟市ニュービジネス協議会，新潟市立横越中学校３年生（91名），新潟市立横越中学校体育館，2025.11.12.
8. 高大医連携プログラム，「人の未来をつくる～義足ユーザーとしての経験から～」，講師，藤村女子高等学校，藤村女子高等学校３年生，藤村女子高等学校オリエンテーションルーム，2025.6.4.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟医療福祉大学障がい者陸上教室，スポーツ用義足の調整，指導，新潟医療福祉大学，2017.9-現在
2. 株式会社ナブテスコ，膝継手開発フィールドテスト，被験者，新潟医療福祉大学，2016.12-現在
3. NPO法人ギソクの図書館，走行義足用足部のレンタルサービス，ギソクの図書館 認定義肢装具士，新潟医療福祉大学，2022.1-現在
4. NPO法人ハイヒール・フラミンゴ，女性切断者コミニュティ，理事，オンライン開催，2022.4-現在

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

株式会社新潟テレビ21（放送番組審議委員），新潟ニュービジネス協議会（起業家支援委員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本義肢装具学（学術大会委員），NPO法人ハイヒール・フラミンゴ（理事），日本義肢装具協会（理事）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年，研究基盤（C），女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因分析，研究代表者・佐藤未希.

2) 受賞，学位取得，資格取得

令和７年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰（2025.12.9）

8 学内委員会活動　広報委員会，3D技術研究開発センター

氏名：郷　貴博

1 研究題目　大腿義足歩行に関する研究，3D機器を用いた下腿義足ソケット設計・評価に関する研究，3D機器を用いた短下肢装具開発に関する研究

2 論文

1. 東江由起夫，前田雄，郷貴博．武藤工業株式会社共同研究，3D技術を活用した義肢装具製作支援システムに関する研究，2025年度　武藤工業株式会社 新潟医療福祉大学　共同研究成果報告書，2025.4.1-2026.3.31，研究分担者
2. 須田裕紀，中村隆，東江由起夫，飛松好子，村山稔，前田雄，郷貴博，佐藤未希．厚生労働科学研究，義肢装具製作における3D技術の応用 従来製作法と3D技術を用いた製作方法の比較，2025.4.1-2026.3.31，研究分担者
3. 郷貴博，佐藤未希，佐藤成登志．新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科の取り組みと今後の課題．日本義肢協会誌．2025；143：25-26.

3 学会等研究発表

1. 郷貴博，佐藤未希，佐藤成登志．養成校における義肢装具士の認知向上を目指したSNS投稿内容の分析．第31回日本義肢装具士協会学術大会（鹿児島市），2025.7.19-7.20.
2. 佐藤未希，郷貴博，佐藤成登志．養成校在学生の意識調査から考える義肢装具士の認知向上．第31回日本義肢装具士協会学術大会（鹿児島市），2025.7.19-7.20.
3. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来の化学物質リスクについて．第50回日本医用マススペクトル学会年会（一宮市），2025.9.12-9.13.
4. 永渕豊人，郷貴博．厚底スパイクソールが走行用義足の走行パフォーマンスに与える影響．第26回新潟

医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（会員），日本義肢装具士協会（会員），日本義肢装具学会（会員），臨床歩行分析研究会（会員），国際義肢装具協会（会員）

2) 学術集会の主催

1. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，実行委員，新潟市，2025.11.8-11.9.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会一般演題，座長，新潟市，2025.11.8-11.9.
2. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会シンポジウム，座長，新潟市，2025.11.8-11.9.
3. 日本義肢装具士協会 生涯学習委員会，副委員長，WEB会議，2025.4.1-2026.3.31.（WEB ３回）
4. 日本義肢装具士協会 カリキュラムWG，委員，WEB会議，2025.4.1-2026.3.31.（WEB ２回）

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 全国ブレードランニングクリニック，パラ陸上選手とスポーツを楽しもう，企画・講師，新潟医療福祉大学，下肢切断者および一般，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.4.20.
2. とよさか中高年教養大学，ヒヤリハットクイズから学ぶ，福祉用具の正しい使い方，講師，新潟医療福祉大学，一般高齢者，新潟医療福祉大学，2025.9.11.
3. 社会連携・地域貢献オンラインセミナー，福祉用具を活用して健康長寿を目指そう，講師，新潟医療福祉大学，一般，オンラインセミナー，2025.10.25-現在.
4. 障がい者陸上教室，講師，新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科，下肢切断者および一般，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.9.28，12.7（全２回）.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. Web新聞，週刊高齢者住宅新聞online（高齢者住宅新聞社），新潟医療福祉大学，文科省の奨励活動賞に，2025.12.17.
2. Web雑誌，ラブすぽ（日本文芸社），【新潟医療福祉大学】義肢装具自立支援学科が，12月9日（火）に文部科学大臣表彰式へ！，2025.12.3.

3) 社会活動への参加協力

1. NPO法人ギソクの図書館，走行義足用足部のレンタルサービス，ギソクの図書館 認定義肢装具士，新潟医療福祉大学，2022.1-現在
2. Sport in Life，障がい者スポーツの普及，団体員，新潟医療福祉大学，2021.7-現在
3. NUHWスポーツフェスタ，障がい者スポーツ体験ブースの出展，新潟医療福祉大学陸上競技場．2025.10.19.
4. 第41回日本義肢装具学会学術大会，義肢装具体験・展示ブースの出展，新潟市，2025.10.8-10.9.
5. 中央職業能力開発協会，技能検定試験（義肢・装具製作），試験管，新潟医療福祉大学，2026.2.11.
6. 国際義肢装具協会，ISPO個人認証試験，試験管，新潟医療福祉大学，2026.3.10-3.11.

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本義肢装具士協会生涯学習委員会（副委員長），日本義肢装具士協会生涯学習委員会カリキュラムWG（委員），日本義肢装具教育者連絡協議会（国家試験過去問題集編集担当），生活環境・企画設計工房レター通信編集委員会（委員）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度，科研費基盤研究（C），下腿義足ソケットの快適性向上を目指した3D-CADによるソケット設計手法の確立，研究代表者
2. 2025年度，科研費基盤研究（C），下腿義足の最適な適合と調整のための新たな評価指標の構築，研究代表者

3. 2024年度，武藤工業株式会社共同研究費，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

文部科学大臣表彰奨励活動表彰（2025.12.9）

7 学内委員会活動 広報委員会，同窓会・生涯学習連携推進委員会，3D技術研究開発センター

氏名：谷川 奈々

1 研究題目 脳卒中後片麻痺患者の下肢装具療法における患者報告アウトカムに関する研究

2 論文

1. 前田雄，須田裕紀，東江由起夫，谷川奈々，佐藤成登志．車椅子シーティングにおける義肢装具士養成校のカリキュラム．日本義肢装具学会誌．2025；41巻3号：PP207-211.（解説）

3 学会等研究発表

1. 谷川奈々，Huyen Tran Thi Thanh，鈴木健司．脳卒中後の下肢装具使用者に対する患者報告アウトカム研究：スコーピングレビュー．第41回日本義肢装具学会学術大会（新潟市），2025.11.8-11.9.

4 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本義肢装具士協会，日本義肢装具学会

2) 学術集会の主催

1. 日本義肢装具学会，第41回日本義肢装具学会学術大会，実行委員，新潟市，2025.11.8-11.9.

5 社会活動

1) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益社団法人 日本義肢装具士協会 義肢装具士白書編集委員会（委員長）

6 学内委員会活動 教務委員，化学物質管理委員会（オブザーバー），医療経済・QOL研究センター

（５）鍼灸健康学科

氏名：粕谷　大智

1　研究題目　顔面神経麻痺に対する鍼灸の効果，下肢痛に対する鍼灸の効果と効果機序

2　論文

1. 粕谷大智．東洋医学基礎講座　鍼灸治療と多職種連携　顔面神経麻痺の2023年版診療ガイドラインからみた鍼灸の役割と可能性（その３） 3Dスキャナーを用いた後遺症の評価と鍼治療による顔面部の形状的変化．理療．2026；55巻１号：11-14.（査読有）
2. 粕谷大智．【苦手を克服! 耳鳴への対応ABC】鍼灸師からみた耳鳴への対応　頸部や咬筋の筋触診から刺鍼部位の選定まで．耳鼻咽喉科・頭頸部外科．2026；98巻１号：52-56.
3. 粕谷大智．【神経性疾患に対する東洋医学診療について】［第４部］糖尿病性神経障害に対する鍼灸治療．難病と在宅ケア．2025；31巻５号：19-22.
4. 粕谷大智．【伝統ある物理療法・物理刺激の最新のエビデンス】リハビリテーション医療における鍼灸治療の役割．The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine.2025；62巻２号：153-160.
5. 粕谷大智．東洋医学基礎講座　鍼灸治療と多職種連携　顔面神経麻痺の2023年版診療ガイドラインからみた鍼灸の役割と可能性（その２） 顔面神経麻痺の鍼治療の実際とエビデンス．理療．2025;54巻３号:19-22.
6. 粕谷大智．東洋医学基礎講座　鍼灸治療と多職種連携　顔面神経麻痺の2023年版診療ガイドラインからみた鍼灸の役割と可能性（その１） 顔面の表情筋や顔面神経の特徴からみた顔面神経麻痺の治療のポイント．理療．2025；54巻２号：10-14.
7. 粕谷大智．顔面神経麻痺の2023年版診療ガイドラインからみた鍼灸の役割と可能性　顔面神経麻痺に対する鍼治療のエビデンスとその役割．日本東洋医学系物理療法学会誌．2025；49巻２号：47-50.

3　学会等研究発表

1. 粕谷大智．鍼通電療法の最新知見とそのエビデンス　非特異的腰痛の病態（脊椎（運動器）と脳の機能障害）に対する鍼通電療法の実際とその効果．日本東洋医学系物理療法学，東京，2026.3.
2. 村越祐介，木村啓作，粕谷大智．新潟医療福祉大学における鍼灸アスリートサポート（第２報）．全日本鍼灸学会学術大会，名古屋，2026.5.
3. 木村啓作，村越祐介，粕谷大智．新潟医療福祉大学における鍼灸アスリートサポート（第１報）．全日本鍼灸学会学術大会，名古屋，2026.5.
4. 江川雅人，村越祐介，髙野道代，福田晋平，木村啓作，金子聡一郎，久保亜抄子，粕谷大智．全日本鍼灸学会宮城大会に参加した本学学生の意識調査．全日本鍼灸学会学術大会，名古屋，2026.5.
5. 金子聡一郎，村越祐介，木村啓作，福田晋平，髙野道代，久保亜抄子，津田篤太郎，江川雅人，粕谷大智．新潟医療福祉大学附属鍼灸センターにおける新規患者の動向．全日本鍼灸学会学術大会，名古屋，2025.5.
6. 髙野道代，金子聡一郎，粕谷大智．耳介刺激による顔面部の自覚的・定量的な形状変化と心身への影響．全日本鍼灸学会学術大会，名古屋，2025.5.
7. 粕谷大智．シンポジウム１みんなで考えよう麻痺で悩む患者の幸せ引き寄せ法　麻痺患者の心身の回復を目的とした鍼治療．日本顔面神経学会．秋田．2025.8.
8. 粕谷大智，金子聡一郎．3Dスキャナーを用いた後遺症の評価と鍼治療による顔面の形状的変化２報．日本顔面神経学会．秋田．2025.8.
9. Kasuya D. Session1 Japanese Acupuncture and Moxibustion The Effect of Moxibustion Stimulation to Mechanoreceptors on Postural Control Function. 38TH ICMART. france, 2025.11.
10. Kasuya D. Session8 Japanese Acupuncture and Moxibustion The Effect of Moxibustion Stimulation to Mechanoreceptors on Postural Control Function Practical. 38TH ICMART. france, 2025.11.

4　学会活動

1) 所属学会　日本顔面神経学会（理事・評議員・認定委員・編集委員，リハビリ認定指導士），日本心身健康

科学会（理事），日本東洋医学会（代議員），現代医療臨床鍼灸研究会（副会長）

2) 学会等でのその他の活動

1. 第59回現代医療鍼灸臨床研究会，企画・講演，副会長として，オンライン開催，4.29.
2. 美容鍼灸アカデミックカンファランス，企画・座長，会長として，横浜，9.7.
3. 第60回現代医療鍼灸臨床研究会，企画・講演，副会長として，東京，10.26.
4. 日本顔面神経学会，認定委員，7月，9月
5. 日本顔面神経学会，編集委員，6月
6. 日本顔面神経学会，広報委員，12月

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 講演会，生涯研修－疼痛・疲労感の治療，頭部・顔面部の鍼灸，神奈川県鍼灸マッサージ師会，鍼灸師，横浜，1.19.
2. 講演会，関節リウマチに対する鍼灸，埼玉県鍼灸師会，鍼灸師，川越，1.26.
3. 研修会，フレイユに対する鍼灸，医療鍼灸協会，医師・鍼灸師，東京，1.12.
4. 講演会，腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸，Setsuna塾主催，講師，鍼灸師，web，1.28.
5. 講演会，頭部・顔面部に対する鍼灸，愛知県鍼灸マッサージ師会，鍼灸師，web，2.23.
6. 講演会，バランス機能に影響するメカノレセプター，日本東洋物理療法学会ランチョンセミナー，鍼灸師，東京，3.8.
7. 研修会，ロコモティブシンドロームに対する鍼灸，医療鍼灸協会，医師・鍼灸師，東京，2.9.
8. 講演会，関節リウマチに対する鍼灸，Setsuna塾主催，講師，鍼灸師，web，4.15.
9. 研修会，難聴・耳鳴りに対する鍼灸，国際鍼灸専門学校，講師，鍼灸師，東京，4.21.
10. 講演会，脳卒中後遺症に対する鍼灸，東日本良導絡学会主催，講師，医師・鍼灸師，東京，12.21.
11. 講演会，ロコモティブシンドロームに対する鍼灸，Setsuna塾主催，講師，鍼灸師，web，9.19.
12. 講演会，ロコモティブシンドローム・フレイユに対する鍼灸，島根県鍼灸マッサージ師会主催，講師，鍼灸師，web，10.5.
13. 講師，腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸，現代医療鍼灸臨床研究会主催，講師，医療従事者，東京宇，10.26.
14. 講演会，腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸，YCT主催，講師，鍼灸師，仙台，11.24.
15. 講演会，電子温灸器の使用方法，村田製作所主催，東京，9.19.
16. 講演会，疼痛・疲労感の治療，頭部・顔面部の鍼灸，大阪府鍼灸マッサージ師会主催，講師，鍼灸師，大阪，7.27.
17. 研修会，腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸，静岡県鍼灸マッサージ師会，講師，鍼灸師，静岡市，10.27.
18. 講演会，緩和ケアに対する鍼灸，Setsuna塾主催，講師，鍼灸師，web，9.25.
19. 講演会，腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸，愛知県鍼灸マッサージ師会，講師，鍼灸師，愛媛市，12.1.
20. 講演会，疼痛・疲労感の治療，頭部・顔面部の鍼灸，セイリン主催，講師，鍼灸師，Web，7.29.
21. 座談会，睡眠障害と鍼灸，日本点字図書，講師，鍼灸師，東京，12.6.
22. 研修会，腰痛に対する鍼灸，医療鍼灸協会主催，講師，講師，医療従事者，東京，1.14.
23. 研修会，腰痛に対する鍼灸，医療鍼灸協会主催，講師，医療従事者，東京，1.14.
24. 研修会，胃腸障害に対する鍼灸，医療鍼灸協会主催，講師，医療従事者，東京，2.10.
25. 研修会，頚腕症候群に対する鍼灸，医療鍼灸協会主催，講師，医療従事者，東京，5.12.
26. 研修会，腰下肢痛に対する鍼灸，医療鍼灸協会主催，講師，医療従事者，東京，9.14.
27. 座談会，肩こりに対する鍼灸，漢方jp主催，講師，医療従事者，web，1.31.
28. 講演会，東洋医学的養生，北区男女参画部署主催，講師，一般，本大学，11.16.
29. 講演会，東洋医学的養生　ツボ刺激で元気に，北区南浜中学校主催，講師，中学生，島見町，11.28.

30. 講演会，睡眠障害に対する鍼灸，Setsuna塾主催，講師，鍼灸師，web，12.15.
31. 研修会，フレイユ・ロコモに対する鍼灸，医療鍼灸協会主催，講師，医療従事者，東京，12.14.
32. 講師，腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸，福島県立医科大学，講師，医学部学生，福島，11.19.
33. 講演会，疼痛・疲労感の治療，頭部・顔面部の鍼灸，東京医療福祉専門学校主催，講師，鍼灸学生，東京，7.28.
34. 講演会，疼痛・疲労感の治療，頭部・顔面部の鍼灸，日本理療鍼灸専門学校主催，講師，鍼灸師，東京，6.28.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
1. 晋遊舎ムック，ひざ痛を治す 痛みを緩和させるツボ刺激，5.1.
2. 晋遊舎ムック（健康雑誌），腰部脊柱管狭窄施用がよくなるこれだけ体操，7月1日発売

3) 社会活動への参加協力
1. 国際鍼灸専門学校 外部評価委員会，委員長として学校評価を行う，東京青砥，10.12.
2. 鍼灸学系大学協議会，理事活動，神戸，神戸国際会議場，5.26.
3. 鍼灸学生企業説明会，学生に向けた就職のコツ，札幌，3.23.
4. 全日本鍼灸学会学術集会，シンポジウム座長，名古屋，5.31.
5. 全日本鍼灸学会学術集会，一般演題座長，名古屋，6.1.

氏名：江川　雅人

1　研究題目　高齢者の健康向上のための鍼灸治療に関する研究，高齢者疾患特に内科・神経内科疾患に対する鍼灸治療の効果に関する研究

2　論文
1. 江川雅人．フレイルおよびガットフレイルに対する鍼灸治療の方法と位置づけ．Tehamo．2025；5（1）．31-38.（査読なし）
2. 江川雅人．パーキンソン病など神経難病に対する鍼灸治療．難病と在宅ケア．2025;31（5）．14-18.（査読なし）
3. 江川雅人．Hさん（Shy-Drager症候群）の鍼灸治療の思い出．Tehamo．2025；5（2）．104-106.（査読なし）
4. 江川雅人，福田晋平．Parkinson病など神経難病に対する鍼灸治療．神経治療．2025;42．317-322.（査読あり）
5. 江川雅人．認知症・高齢者うつに対する鍼灸治療．予防鍼灸研究会雑誌．2025；3．28-37.（査読あり）
6. 江川雅人，福田晋平．パーキンソン病における嚥下障害について．Tehamo．2026；6（1）．44-48.（査読なし）

3　学会等研究発表
1. 江川雅人，福田晋平．高齢者におけるフレイルと気血津液弁証との関連性．第25回日本抗加齢医学会大阪大会（大阪市），2025.6.13-6.15.
2. 江川雅人，村越祐介，高野道代，福田晋平，木村啓作，金子聡一郎，久保亜抄子，粕谷大智．全日本鍼灸学会宮城大会に参加した本学学生の意識調査．第74回全日本鍼灸学会愛知大会（名古屋市），2025.5.30-6.1.
3. 金子聡一郎，村越祐介，木村啓作，福田晋平，高野道代，久保亜抄子，津田篤太郎，江川雅人，粕谷大智．新潟医療福祉大学附属鍼灸センターにおける新患患者の動向について．第74回全日本鍼灸学会愛知大会（名古屋市），2025.5.30-6.1.
4. 江川雅人，苗村建慈，小野公裕，浅沼博司，矢野忠．アトピー性皮膚炎に対する鍼灸治療の臨床的効果．第17回口丹波医療連携懇話会（京都府亀岡市），2025.11.1.
5. 村越祐介，江川雅人，福田晋平，高野道代，木村啓作，金子聡一郎，久保亜抄子，津田篤太郎，粕谷大智．鍼灸健康学科に所属する学生の学術大会参加に関する意識調査　第２報－全日本鍼灸学会名古屋大会への

参加者と不参加への調査－．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　全日本鍼灸学会，日本抗加齢医学会，日本サルコペニア・フレイル学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 全日本鍼灸学会，第74回愛知大会，ポスター発表・実態調査座長，名古屋市，2025.6.1.
2. 全日本鍼灸学会，第74回愛知大会，学生発表審査委員長，名古屋市，2025.5.30-6.1.
3. 予防鍼灸研究会，第25回定例会，座長，新潟市（WEB），2026.3.22.
4. 全日本鍼灸学会雑誌，査読，2025.12.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 鍼灸ショートセミナー，高齢者うつと鍼灸治療，セミナー講師，セイリン株式会社，鍼灸師・医療従事者，新潟市，2025.12.9.
2. とよさか中高年教養大学健康長寿学講座，ツボ療法で若返り！－ひざ痛も腰痛もブッとばせ‼－，セミナー講師，新潟市北区葛塚コミュニティセンター，地域高齢者，新潟市北区，2025.6.26.
3. 理療専門講座，高齢者に寄り添う鍼灸治療，講演講師，北海道札幌視覚支援学校附属理療研修センター，鍼灸師，北海道札幌視覚支援学校，2025.11.16.
4. 卒後鍼灸手技研究会講座，アトピー性皮膚炎の捉え方と鍼灸治療，講演講師，卒後鍼灸手技研究会，鍼灸師，東京都北区クロスポイント赤羽，2025.7.20.
5. 未来のまちづくり事業「心も体も健幸プロジェクト」，鍼灸医学の世界を知りましょう，セミナー実技講師，新潟医療福祉大学・新潟市北区，地域高齢者，新潟市北区ラグナスクエア，2026.6）.
6. 未来のまちづくり事業「心も体も健幸プロジェクト」，腰痛・膝痛をやっつけろ！―歩行機能維持のための鍼灸治療とツボ・セルフケア―，セミナー実技講師，新潟医療福祉大学・新潟市北区，地域高齢者，新潟市北区ラグナスクエア，2026.7）.
7. 未来のまちづくり事業「心も体も健幸プロジェクト」，ボケない身体づくりのツボ・セルフケア－認知症とうつ病を学び，予防する－，セミナー実技講師，新潟医療福祉大学・新潟市北区，地域高齢者，新潟市北区ラグナスクエア，2026.9）.
8. 未来のまちづくり事業「心も体も健幸プロジェクト」，加齢による虚弱化：フレイルを予防しましょう―フレイル予防のためのツボ・セルフケア―，セミナー実技講師，新潟医療福祉大学・新潟市北区，地域高齢者，新潟市北区ラグナスクエア，2026.10）.
9. 未来のまちづくり事業「心も体も健幸プロジェクト」，加齢による虚弱化：健康長寿のためのスポーツとツボ・セルフケア―効果を高め，安全に実践する運動・スポーツのために―，セミナー実技講師，新潟医療福祉大学・新潟市北区，地域高齢者，新潟市北区ラグナスクエア，2026.11）.
10. 福島県鍼灸師会冬期学術講習会，高齢者疾患への鍼灸治療の実際と効果－神経難病，認知症など－，講演講師，福島県鍼灸師会，鍼灸師，郡山商工会議所会館，2025.12.21.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 地方新聞，新潟日報，地域をもっとよくするには？新潟北区住民と医福大教員 活性化テーマに交流会．2025.12.

3) 社会活動への参加協力

1. 学びピアTOYANO2025，まなびフェスタつぼ押し体験コーナー，つぼ押しサービス，新潟市生涯学習推進センター，2025.11.9.
2. 福祉・介護・健康フェア2025，介護で応用！つぼ押し，つぼ押しの実施と学生指導，新潟市産業振興センター，2025.9.19.
3. リレーライフフォージャパン，健康つぼ押し，つぼ押しの実施・学生指導，新潟県スポーツ公園，2025.10.17.
4. 未来のまちづくり事業「心も体も健幸プロジェクト」，地域住民と交流会，ファシリテーター，新潟市

北区ラグナスクエア，2025.12.6.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員会

5) 職能団体（協会，士会等）の委員
病鍼連携連絡協議会（顧問），鍼灸大学系協議会（理事）

6　学内委員会活動　広報委員会（オープンキャンパス部会長），高等教育推進センター運営委員会，高大医連携推進委員会，個人情報保護委員会，新潟連携教育研究センター運営委員会

氏名：津田　篤太郎

1　研究題目　難治性疾患（特に自己免疫疾患）の補完・統合医療

2　論文

1. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方　快訣ビフォーアフター（第16回） "病因論"の変換から処方を考え直してみる 漢方医学は「体質」をどのように扱うか 薬局 76巻５号 Page871-874（2025.4 査読なし）
2. 津田篤太郎，野上達也，冨澤英明，小暮敏明，星野卓之．生物学的製剤と漢方（上）漢方の臨床 72巻４号 Page393-408（2025.4 査読なし）
3. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方　快訣ビフォーアフター（第17回）「もう一つの選択肢」としての漢方治療　化膿性疾患に対する戦略を流用する　薬局 76巻６号 Page1012-1015（2025.5 査読なし）
4. 津田篤太郎，野上達也，冨澤英明，小暮敏明，星野卓之．生物学的製剤と漢方（下）漢方の臨床 72巻５号 Page531-546（2025.5 査読なし）
5. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方　快訣ビフォーアフター（第18回） 意外に難しい加味逍遙散の使いどころ 「病名漢方」の一段上を目指す 薬局 76巻７号 Page1146-1149（2025.6 査読なし）
6. 津田篤太郎．【スペシャリスト厳選! 定番ベスト漢方薬　教えて! 鉄板・新定番・大穴処方】鉄板処方の理由，教えます！ スペシャリストが選ぶ定番漢方薬　膠原病科領域 薬局 76巻８号 Page1226-1229（2025.7 査読なし）
7. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方　快訣ビフォーアフター（第19回） 多様化するがん治療とその副作用　"支持療法"だけではない漢方の活用法　薬局 76巻８号 Page1298-1301（2025.7　査読なし）
8. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方　快訣ビフォーアフター（第20回） 片頭痛の漢方治療　多くの選択肢からどのように絞り込むか? 薬局 76巻９号 Page1432-1435（2025.8 査読なし）
9. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方　快訣ビフォーアフター（第21回） OTC医薬品と医療用製剤の使い方の違い　どのような時に専門家のアドバイスが必要か? 薬局 76巻10号 Page1587-1589（2025.9 査読なし）
10. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方　快訣ビフォーアフター（第22回） 過敏症の漢方治療　患者によって変わる薬効の"軽重" 薬局 76巻12号 Page2020-2023（2025.10 査読なし）
11. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方　快訣ビフォーアフター（第23回） 胃腸虚弱の治療を再考する 「温める・補う」ではなく「調える」 薬局 76巻13号 Page2148-2151（2025.11 査読なし）
12. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方　快訣ビフォーアフター（第24回） 病名のつかない身体の不調をどう捉えるか 「陰陽五臓」の概念を活用して現代医学のジレンマをのりこえる　薬局 76巻14号 Page2318-2321（2025.12 査読なし）
13. 津田篤太郎．ぐっとよくなる!漢方処方快訣ビフォーアフター 第25回 大昔の病名概念「霍乱」を引っ張り出す意義 21世紀にこそフルに生かせる漢方治療のメリット 薬局　2026：77巻１号　Page117-120（査読なし）
14. 津田篤太郎．ぐっとよくなる！ 漢方処方 快訣ビフォーアフター（第26回） もう一歩踏み込んだ感冒の治し方 局面の変化で一変する漢方薬の適応症　薬局　77巻２号　Page267-270（査読なし）
15. 津田篤太郎．ぐっとよくなる!漢方処方快訣ビフォーアフター 第27回「精神的な要因」のせいにする前

に…漢方なら「身体の問題」の範囲で解決できる　薬局 77巻３号 Page438-441（査読なし）

3　学会等研究発表

1. 津田篤太郎.「医案」とデータサイエンス 日本東洋医学会第75回学術総会（東京）2025.6.7.【シンポジウム】
2. 津田篤太郎. ICD-11が拓く漢方医学の未来像 日本東洋医学会第75回学術総会（東京）2025.6.8.【シンポジウム】

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（評議員）　日本内科学会（総合内科専門医）日本リウマチ学会（リウマチ専門医・指導医・評議員）日本東洋医学会（漢方専門医　用語及び病名分類委員会　委員長）日本骨粗鬆学会（認定医）・日本臨床免疫学会（免疫療法認定医）・日本アレルギー学会（アレルギー専門医）日本医史学会　American college of physician（米国内科学会正会員）

2) 学会等でのその他の活動

1. 新潟医療福祉学会和文誌（編集委員）

5　社会活動

1) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 雑誌，栄養と料理　2025年11月号（日本栄養大学出版部）　老化のカギを握る!?　東洋医学の「腎」を知る　2025.10.22.

2) 社会活動への参加協力

1. 医療鍼灸協会：年10回の鍼灸師向けセミナー　役割：理事・演者　開催都市：東京　会場：東京医療福祉専門学校　2025.4-2026.3.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度～2025年度　AMED「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業　統合医療分野における臨床研究人材育成プログラムの開発およびデータベース基盤整備のための研究　研究代表者：山本洋介　京都大学教授　研究分担者：板谷崇央　京都大学助教・鈴木雅雄　福島県立医科大学会津医療センター教授・津田篤太郎

7　学内委員会活動　学術委員会，新潟医療学会（評議員），新潟医療学会雑誌編集委員会，同窓会・生涯学習連携推進委員会，国際交流センター運営委員会，高大医連携推進委員会

氏名：久保　亜抄子

1　研究題目　侵害受容器の投射経路に関する研究，筋の感覚受容に関する研究，神経節細胞と衛星細胞との機能連関に関する研究

2　論文

1. Kubo A, Iwata K, Shinoda M, Shinozuka H, Taguchi T, Mizumura K. Purinergic receptor- and metabotropic glutamate receptor 5-mediated interactions between satellite glial cells and neurons in rat trigeminal ganglia. Glia (JCR). 2025. Feb; 74(2): e70126. (review)
2. Kobayashi M, Okada-Ogawa A, Tanaka Y, Hayashi Y, Kubo A, Tsuda H, Noma N, Iwata K, Hitomi S, Mizuta K, Shinoda M. Trigeminal ganglion interferon-γ signaling drives orofacial neuropathic pain in rats. J Headache Pain (JCR). 2025. Dec 11; 27(1): 18. (review)

3　報告書

1. 久保亜抄子. 基盤研究（C）（一般），神経障害後の細胞環境依存的な衛星細胞の機能変化と三叉神経の興奮性変調機構の解明，研究成果報告書，2021-2024，研究代表者

4　学会等研究発表

1. Kubo A, Iwata K, Shinoda M, Taguchi T, Mizumura K. The excitability of trigeminal ganglia neurons is altered in a short time through bidirectional communication with satellite glial cells. The103th

annual meeting of the physiological society of Japan (Tokyo), 2026.3.10-3.12.

2. Kubo A. Analysis of changes in ganglion neuronal excitability induced by satellite glial cells activation using patch clamp recordings from neurons. The 48th annual meeting of the Japan neuroscience society (Niigata), 2025.7.24-7.27.
3. 久保亜抄子．痛みの病態生理と鍼の鎮痛機序．第75回日本東洋医学会学術大会（東京），シンポジウム：鍼の生理学的機序．2025.6.6-6.8．招待講演.

5　学会活動

1) 所属学会　日本生理学会（評議員），日本疼痛学会（代議員），全日本鍼灸学会（編集委員），国際疼痛学会（IASP），日本神経科学会，日本運動器疼痛学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 全日本鍼灸学会，編集委員，学会誌掲載論文のテクニカルチェック（１論文）・査読（２論文），2025.4.1-2026.3.31.
2. JAPAN PAIN WEEK 2025（日本疼痛学会・日本運動器疼痛学会・日本ペインリハビリテーション学会・日本口腔顔面痛学会の合同学会），査読委員，一般演題の査読，2025.8.29-9.30.
3. 第75回日本東洋医学会学術大会（東京），シンポジウム，座長．2025.6.6-6.8.
4. The Journal of Physiological Sciences，査読.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究B，筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明，研究代表者

7　学内委員会活動　人権委員会，動物実験委員会（副委員長），遺伝子組換え実験安全委員会（副委員長），化学物質管理委員会，運動機能医科学研究所，生物医科学分析研究センター

氏名：金子　聡一郎

1　研究題目　市中施術所および医療機関におけるCOVID-19後遺症の特徴の抽出と鍼灸治療の効果の検討，生殖医療に関する訓練を受けた鍼灸院を受診した挙児希望患者に関する調査，鍼灸師の席シャルマイノリティに関する認識の実態，睡眠に不調を自覚する患者に対する鍼灸治療の検討，傾聴トレーニングが鍼灸師の問診スキルに及ぼす影響について，会食恐怖症の疫学調査と東洋医学的治療の提案，自覚的および他覚的冷え感覚の解離とストレスに関する調査

2　論文

1. Arita R, Kaneko S, et al. Effect of Japanese traditional medication on males with diarrhea-predominant irritable bowel syndrome and gut microbiome: A single-arm prospective study. European Journal of Integrative Medicine. 2025. 78, 102512
2. 金子聡一郎．緑内障に対する鍼灸治療の効果とそのメカニズムの解明．現代鍼灸．2025. 25（１）：39-45
3. 金子聡一郎．高齢者の誤嚥下肺炎と嚥下障害に対する鍼灸治療によるアプローチ．Tehamo. 2025. 6（1）：33-39

3　学会等研究発表

1. 金子聡一郎，ら．新潟医療福祉大学附属鍼灸センターにおける新規患者の動向．第74回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋）．2025.5.30-6.1.
2. 金子聡一郎，堀部豪，ら．末梢性顔面神経麻痺に対する鍼刺激の機序 臨床研究に関するLiterature Review．第48回日本顔面神経学会（秋田）．2025.8.8-8.9.
3. 金子聡一郎，ら．新潟医療福祉大学附属鍼灸センターにおける新規患者の動向．第31回日本東洋医学会関東甲信越支部・新潟県部会（新潟）．2025.9.7.
4. 堀部豪，金子聡一郎，ら．末梢性顔面神経麻痺に対する鍼刺激の機序 基礎研究に関するLiterature Review．第48回日本顔面神経学会（秋田）．2025.8.8-8.9.

5. 飯田通容，金子聡一郎，ら．頻尿と浮腫改善が家族負担軽減に繋がった一症例．第74回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋）．2025.5.30-6.1.
6. 屋由美，金子聡一郎，ら．円形脱毛症患者に対し全身への鍼灸治療が奏功した一症例．第74回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋）．2025.5.30-6.1.
7. 田中隆一，金子聡一郎，ら．身体症状にアプローチした結果症状が改善傾向を示した１症例．第74回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋）．2025.5.30-6.1.
8. 外松慶土，金子聡一郎，ら．鍼灸師のセクシュアル・マイノリティに関する認識の実態．第74回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋）．2025.5.30-6.1.
9. 髙野道代，金子聡一郎，ら．耳介刺激による顔面部の自覚的・定量的な形状変化と心身への影響．第74回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋）．2025.5.30-6.1.
10. 井上悦子，金子聡一郎，ら．同業種との連携，傾聴により適切な医療機関へと繋がった一症例．第74回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋）．2025.5.30-6.1.
11. 大杉美奈，金子聡一郎，ら．服薬後も続く更年期症状に対して鍼灸・指圧が奏功した一症例．第74回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋）．2025.5.30-6.1.
12. 江川雅人，金子聡一郎，ら．全日本鍼灸学会宮城大会に参加した本学学生の意識調査．第74回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋）．2025.5.30-6.1.

4　学会活動

1) 所属学会　全日本鍼灸学会（編集委員会・副委員長），全日本鍼灸学会関東甲信越支部（学術委員），日本東洋医学会，日本プライマリケア連合学会，日本顔面神経学会，日本うつ病学会，現代医療鍼灸臨床研究会（評議員），病鍼連携連絡協議会（世話人）

2) 学術集会の主催

1. 全日本鍼灸学会，2025年度関東甲信越支部学術大会，実行委員，東京，2025.11.23.

3) 学会等でのその他の活動

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第75回日本東洋医学会学術総会・特別演題（医師のための鍼灸講座５（臨床編）），眼疾患に対する鍼灸治療，講師，日本東洋医学会，医師など，京王プラザ（東京），2025.6.8.
2. 第33回（公社）全日本鍼灸学会 九州支部学術集会・教育講演，今，鍼灸師に求められていることは何か，講師，全日本鍼灸学会九州支部，鍼灸師など，くまもと森都心プラザ（熊本），2025.10.19.
3. 2025年度 日本生殖鍼灸標準化機関（JISRAM）学術総会・教育講演，前向き症例集積報告・症例報告はなぜ必要か，講師，日本生殖鍼灸標準化機関（JISRAM），鍼灸師，東京，2025.9.28.
4. オンラインサロンこおちめいど，4月臨床研究勉強会，「評価表」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2025.4.17.
5. オンラインサロンこおちめいど，5月臨床研究勉強会，「考察の書き方」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2025.5.15.
6. オンラインサロンこおちめいど，6月臨床研究勉強会，「論理的な文章」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2025.6.19.
7. オンラインサロンこおちめいど，7月臨床研究勉強会，「補完代替医療単独の危険性」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2025.7.17.
8. オンラインサロンこおちめいど，9月臨床研究勉強会，「症例報告のすすめ」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2025.9.18.
9. オンラインサロンこおちめいど，10月臨床研究勉強会，「症例報告会」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2025.10.16.
10. オンラインサロンこおちめいど，11月臨床研究勉強会，「倫理とは」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2025.11.20.

11. オンラインサロンこおちめいど，1月臨床研究勉強会，「抄録の書き方」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2026.1.15.
12. オンラインサロンこおちめいど，2月臨床研究勉強会，「評価表」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2026.2.20.
13. オンラインサロンこおちめいど，3月臨床研究勉強会，「学会に行こう」，講師，ここちめいど，鍼灸師，オンライン，2026.3.19.

2) 社会活動への参加協力

1. 北区心も身体も健幸プロジェクト，北区市民に対する健康啓蒙活動，講師，北区ラグーナスクエア，2025.6.30.
2. 北区心も身体も健幸プロジェクト，北区市民に対する健康啓蒙活動，講師，北区ラグーナスクエア，2025.7.28.
3. 北区心も身体も健幸プロジェクト，北区市民に対する健康啓蒙活動，講師，北区ラグーナスクエア，2025.9.10.
4. 北区心も身体も健幸プロジェクト，北区市民に対する健康啓蒙活動，講師，北区ラグーナスクエア，2025.10.1.
5. 北区心も身体も健幸プロジェクト，北区市民に対する健康啓蒙活動，講師，北区ラグーナスクエア，2025.11.5.
6. 学びピアTOYANO 2025，あなたのツボ教えます，講師，新潟県立生涯学習センター，2025.11.9.

氏名：木村　啓作

1　研究題目　スポーツ鍼灸における介入刺激方法の構築，アスリートの口腔機能と姿勢

2　論文

1. Kimura K, Murakoshi Y, Kasuya D. Adjunctive Acupuncture and Moxibustion for Pain Control Due to Recurrent Posterior Shoulder Dislocation in a Female Soccer Player: A Case Report. Cureus 2026; 18(3): e105471.【査読有】
2. 木村啓作，村越祐介，有馬義貴，石丸圭荘，粕谷大智．スポーツ傷害を有した大学生アスリートに対するLaser Acupunctureの影響．日本レーザー治療学会誌 2025; 23(2) 30-35.【査読有】

3　学会等研究発表

1. 木村啓作，村越祐介，粕谷大智．セラミック電気温灸器による温熱刺激が「温かさ」と「心地よさ」に与える影響．新潟医療福祉学会（新潟県），2025.10.25.
2. 村越祐介，江川雅人，福田晋平，髙野道代，木村啓作，金子聡一郎，久保亜抄子，津田篤太郎，粕谷大智．鍼灸学科に所属する学生の学術大会参加に関する意識調査 第２報-全日本鍼灸学会名古屋大会への参加者と不参加者への調査-．新潟医療福祉学会（新潟県），2025.10.25.
3. 村越祐介，木村啓作，粕谷大智．電気温灸器の温度と温熱刺激に関する適温調査．新潟医療福祉学会（新潟県），2025.10.25.
4. 木村啓作，村越祐介，粕谷大智．アスリートにおける咀嚼機能特性－健常成人との比較－．日本体力医学会（滋賀県大津市），2025.9.17-9.19.
5. 木村啓作，村越祐介，有馬義貴，石丸圭荘．スポーツ傷害を有した学生アスリートに対するLaser Acupunctureの影響．日本レーザー治療学会（兵庫県神戸市），2025.6.28-6.29.【シンポジウム】
6. 金子聡一郎，村越祐介，木村啓作，福田晋平，髙野道代，久保亜抄子，津田篤太郎，江川雅人，粕谷大智．新潟医療福祉大学附属鍼灸センターにおける新規患者の動向）．全日本鍼灸学会（愛知県名古屋市），2025.5.30-6.1.
7. 村越祐介，木村啓作，粕谷大智．新潟医療福祉大学における鍼灸アスリートサポート（第２報）．全日本鍼灸学会（愛知県名古屋市），2025.5.30-6.1.
8. 木村啓作，村越祐介，粕谷大智．新潟医療福祉大学における鍼灸アスリートサポート（第２報）．全日本

鍼灸学会（愛知県名古屋市），2025.5.30-6.1.

4　学会活動

1) 所属学会　全日本鍼灸学会，日本臨床スポーツ医学会，新潟医療福祉学会，ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会，日本体力医学会，日本磁気共鳴医学会，NSCA

2) 学会等でのその他の活動

1. 全日本鍼灸学会，学術誌編集委員
2. 全日本鍼灸学会，査読

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県鍼灸マッサージ師会，新潟シティマラソンでのランナーに対するトレーナー活動，ランナー200名対象，新潟市，2025.10.12.
2. 四団体合同研修会，スポーツ鍼灸の効果の役割，講師，新潟県あん摩マッサージ指圧師はり師きゅう師協議会，医療従事者，新潟県鍼灸マッサージ会館，2025.8.31.
3. 新潟県鍼灸師会，燕さくらマラソンでのランナーに対するトレーナー活動，ランナー65名対象，燕市，2025.4.12.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，受託研究（株式会社村田製作所），セラミック温灸器を用いたスポーツ向け臨床研究，研究代表者

7　学内委員会活動　教務委員会，図書館・学修支援委員会，高等教育推進センター運営委員会，アスリートサポート研究センター

氏名：髙野　道代

1　研究題目　健美鍼灸についての研究

2　著書

1. 監修/坂本歩　編集/形井秀一，全日本鍼灸学会 臨床情報部 安全性委員会／上原明仁・菊池勇哉・木村友昭・坂部昌明・新原寿志・菅原正秋・田口太郎・髙野道代・恒松美香子・冨田賢一・仲村正子・福田晋平・福世泰史・古瀬暢達・宮脇太朗・森田智・山﨑寿也．鍼灸安全対策マニュアル；顔面部施術の安全対策，医歯薬出版，2026.3，p206-p208
2. 監修/坂本歩　編集／全日本鍼灸学会 臨床情報部 安全性委員会／上原明仁・菊池勇哉・新原寿志・髙野道代・田口太郎・田口怜奈・恒松美香子・冨田賢一・仲村正子・福田晋平・福世泰史・古瀬暢達・宮脇太朗・森田智・山﨑寿也・木村友昭・坂部昌明・形井秀一．鍼灸安全対策ガイドライン，医歯薬出版，2025.8.

3　論文

1. 髙野道代，粕谷大智．3Dスキャナーを用いた粒鍼の耳介刺激による顔面部の形状的変化．新潟医療福祉学会誌．2026; 25(2) p2-9

4　学会等研究発表

1. 髙野道代．上級演題　女性のみかたⅡ －フェムテックによる女性のWell-beingに貢献する鍼灸－；全日本鍼灸学会学術大会（愛知大会），2025.5.31.
2. 髙野道代，金子総一郎，粕谷大智．耳介刺激による顔面部の自覚的・定量的な形状変化と心身への影響；全日本鍼灸学会学術大会（愛知大会），2025.6.1.
3. 髙野道代．耳介刺激による顔面部の形状変化と心身への影響について；美容鍼灸アカデミックカンファレンス（ダーマトロジーフォーラム共催）（東京），2025.9.7.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，公益社団法人　全日本鍼灸学会，現代鍼灸研究会，抗加齢学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 公益社団法人　全日本鍼灸学会　安全性委員会，鍼灸安全性ガイドライン編集検討，2023.4-現在
2. 公益社団法人　全日本鍼灸学会　安全性委員会，美容鍼灸安全性マニュアル検討・作成，2023.4-現在

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 日本鍼灸師会研修会，顔面部への施術におけるリスクマネージメント，日本鍼灸師会研修会，鍼灸師，オンラインWEB開催，2025.3.11.
2. セイリン就職イベント，顔面部への施術におけるリスクマネージメント，株式会社セイリン，学生・鍼灸師，東京開催，2025.5.24.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 山形テレビ，テレビユー山形，TUYどよーびぽんち【ぽんち的社会科見学】，2025.9.27.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー，講座，健美教室，講師，市民，新潟市（オンライン），2022-2026.3.31.
2. 豊栄中高年教養大学，ツボで元気に美しく，健康と美容セミナー２，講師，葛塚コミュニティセンター，2025.11.27.

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益社団法人　全日本鍼灸学会　安全性委員会（委員），鍼灸系大学協議会　コアカリキュラム（委員），疏通経絡健美学会（代表）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023-2026年度，久光製薬株式会社　共同研究，粕谷大智・髙野道代

2) 学外兼務講師等

1. ICM国際メディカル専門学校，美容業界特論，健康と美容を考える，美容鍼灸について～美容鍼灸の基礎そして臨床へ～ 2025.10.31.

8　学内委員会活動　教務委員会，キャリア支援教育センター運営委員会，キャリア教育部会，新潟連携教育研究センター運営委員会，学内授業推進部会，連携科目対応部会

氏名：福田　晋平

1　研究題目　パーキンソン病に対する鍼灸治療の効果，高齢者の嚥下機能に対する鍼灸治療の効果

2　著書

1. 福田晋平．鍼灸安全対策ガイドライン2025年版．改定第２版．東京：医歯薬出版；2025年：198-202, 228-233.

3　論文

1. 恒松美香子，菅原正秋，新原寿志，上原明仁，菊池勇哉，髙野道代，田口太郎，冨田賢一，仲村正子，福世泰史，福田晋平，宮脇太郎，森田智，古瀬暢達，山﨑寿也，山下仁．新型コロナウイルスパンデミック下におけるあん摩マッサージ指圧・鍼・灸施術時の感染対策状況の調査．全日本鍼灸学会雑誌．印刷中（査読あり）
2. 江川雅人，福田晋平．パーキンソン病における嚥下障害について．Tehamo；2026年：44-48. 6(1)（査読無し）

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 福祉・介護・健康フェア in 新潟，「こども職業体験コーナー」つぼ押し体験，つぼ押し施術者，新潟日報社・新潟県社会福祉協議会，市民，新潟市中央区，2025.11.8.

5　学内委員会活動　入試委員会，国家試験委員会，学生委員会，交通安全委員会

氏名：村越　祐介

1　研究題目　スポーツ分野における鍼灸治療の可能性，スポーツ選手に対する鍼灸治療の安全性に関する調査，女性アスリートに対する鍼灸治療の可能性

2　論文

1. Kimura K, Murakoshi Y, Kasuya D. Adjunctive Acupuncture and Moxibustion for Pain Control Due to Recurrent Posterior Shoulder Dislocation in a Female Soccer Player: A Case Report. Cureus. 2026 Mar 18; 18(3): 1-8（査読あり）
2. 木村啓作，村越祐介，有馬義貴，石丸圭荘，粕谷大智．スポーツ傷害を有した大学生アスリートに対するLaser Acupunctureの影響．日本レーザー治療学会誌 2025; 23(2) 30-35（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 村越祐介，木村啓作，粕谷大智．新潟医療福祉大学における鍼灸アスリートサポート（第２報）．全日本鍼灸学会名古屋大会．2025.6.1.
2. 村越祐介，木村啓作，粕谷大智．電気温灸器の温度と温熱刺激感覚に関する適温調査．第25回新潟医療福祉学会．2025.10.25.
3. 村越祐介，江川雅人，福田晋平，髙野道代，木村啓作，金子聡一郎，久保亜抄子，津田篤太郎，粕谷大智．鍼灸健康学科に所属する学生の学術大会参加に関する意識調査　第２報 -全日本鍼灸学会名古屋大会への参加者と不参加への調査-．第25回新潟医療福祉学会．2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　全日本鍼灸学会（若手分科会），現代医療鍼灸臨床研究会（評議委員）

2) 学会等でのその他の活動

1. 全日本鍼灸学会，若手分科会主催ワークショップ，ワークショップ企画運営，名古屋，2025.6.1.

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県鍼灸師会，新潟県鍼灸マッサージ師会，燕さくらマラソン鍼灸ケアブース，運営施術担当，燕市大津川分水，2025.4.6.
2. 千葉県私立昭和学院中学校女子バスケットボール部，トレーニング指導及び試合帯同，チームサポート，2025.4-2026.3.
3. 新潟市北区大学連携「未来のまちづくり」事業．灸治療体験．指導，相談，施灸，ラグーナスクエア，2025.11.11.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，委託研究，スポーツ選手に対する電気温灸器の鎮痛に対する検証，研究担当者

2) 受賞，学位取得，資格取得

医療者のための臨床研究遠隔学習プログラム（CLiP Extension）基本コース　修了（2025.8.31）

7　学内委員会活動　国家試験対策委員会，社会連携推進センター運営委員会，アスリートサポート研究センター

3）医療技術学部

（1）臨床技術学科

氏名：渡邊　博昭

1　研究題目　若年者（大学生）の心電図検診の有用性について

2　論文

1. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．20歳代健常者における脂肪肝診断のための超音波減衰イメージングの最適カットオフ値の検討．医学検査．2026; 75(2): 289-296.
2. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．Shear wave elastographyの正確性を高める測定温度と安定化判定．医学検査．2026（印刷中）．(Accept 2026.3.13)

3　学会等研究発表

1. 阿部拓也，渡邊博昭，藤井豊．共役リノール酸によるNASH病変の新たな予防・治療法の創出．第74回日本医学検査学会（大阪）．2025.5.
2. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．青年期における脂肪肝検出のためのATIの最適カットオフ値の検討．第50回日本超音波検査学会（横浜）．2025.6.
3. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．SWEによる運動後筋弾性変化の評価とトレーニング再開時期の探索－DOMSピーク・超回復との関連－．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
4. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．SWEの再現性を高める温度管理と安定化判定－連続走査における温度ドリフトの定量と一次補正－．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
5. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，塙晴雄，渡邊博昭，藤井豊．超音波診断用造影剤投与による炎症応答の誘導とTLR-NF-κB経路の関与．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
6. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．上腕二頭筋への抵抗運動後におけるSWE変化とDOMSピーク・回復との関係．日本臨床衛生検査技師会第12回北日本支部学会（新潟）．2025.11.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本超音波医学会，日本超音波検査学会，日本不整脈心電学会，医療の質・安全学会，日本臨床検査教育学会（世話人）

2) 学術集会の主催

1. 第25回新潟医療福祉学会，大会長，新潟市，2025.10.25.
2. 令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会（第13回），総括責任者，新潟市，2025.11.15-11.16.

3) 学会等でのその他の活動

1. にいがた乳腺エコー研究会　第23回講習会，統括責任者，新潟県（Web），2025.6.29.
2. にいがた乳腺エコー研究会　第24回講習会，統括責任者，新潟県（Web），2026.1.25.
3. にいがた乳腺エコー研究会　第１回お悩み解決講座，統括責任者，新潟県（Web），2025.5.15.
4. にいがた乳腺エコー研究会　第２回お悩み解決講座，統括責任者，新潟県（Web），2025.9.15.
5. にいがた乳腺エコー研究会　第３回お悩み解決講座，統括責任者，新潟県（Web），2026.2.15.
6. 第18回超音波セミナー in新潟，実務委員，新潟市，2026.3.22.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 全国「検査と健康展」2025 in NIIGATA，実務委員，新潟県臨床検査技師会，新潟県民，新潟市，2026.12.7.

2) 社会活動への参加協力

1. 公益財団法人新潟県健康づくり財団，評議委員，2025.4.1-2026.3.31.
2. 新潟県検診精度管理調査委員会，副委員長，2025.4.1-2026.3.31.
3. 新潟乳腺エコー研究会，代表世話人，2025.4.1-2026.3.31.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県生活習慣病検診等管理指導協議会循環器等検診部会委員，新潟県民医療推進協議会委員

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県臨床検査技師会（会長），新潟県臨床検査技師会（表彰委員長），新潟県臨床検査技師会（災害対策委員長），新潟県臨床検査技師会（精度保証施設認定委員長），新潟県臨床検査技師会（公益委員長），新潟県臨床検査技師会（施設運営管理者協議会長）

氏名：横山　貴

1　研究題目　尿中剥離細胞における免疫組織学的手法を用いた各種腎・尿路疾患の病態解明，腹膜透析排液中細胞を用いた早期腹膜炎および被嚢性腹膜硬化症の検出，ファブリー病におけるポドサイト由来マルベリー細胞の効率的分取法の開発と臨床的価値，光波動場三次元顕微鏡を用いた尿沈渣検体の観察及び解析の研究，LVSEMを用いた尿沈渣成分の新たな検査アプローチの研究，若年層の潜在性鉄欠乏症の気づきチェック検査の有用性評価ならびにサロゲートマーカーの探索研究，ファブリー病３世代家系のマルベリー細胞・小体の検出

2　著書

1. 横山貴．あなたのおしっこでこんなことがわかります：栄研化学株式会社；2025.4.
2. 横山貴：金井正光監，奥村伸生，戸塚実，本田孝行，矢冨裕編．臨床検査法提要．第３章　穿刺液（Ⅰ）．改訂第36版．東京都：金原出版株式会社；2025.9：206-220.

3　論文

1. 横山貴．パリシステムを踏まえた尿沈渣検査．THE MEDICAL & TEST JOURNAL．第1694号．東京都：株式会社じほう；2025.5：(8).
2. 横山貴．丸細胞型尿細管上皮細胞の形態学的鑑別ポイントと臨床的意義．検査と技術．2026年；54巻(3)：334-337.
3. Kato H, Yokoyama T, Manabe S, Seki M, Ushio Y, Makabe S, Kobayashi S, Kataoka H, Nitta K, Hoshino J. Clinical awareness and targeted manual urine microscopy enable diagnosis of a fabry disease family missed by routine urinalysis. BMC Nephrology (2026) 27: 260; https://doi.org/10.1186/s12882-026-04899-w

4　報告書

1. 横山貴．LVSEM研究助成，LVSEMを用いた尿沈渣成分の腎疾患の新たな検査アプローチの研究，LVSEMにおける糸球体型赤血球の観察，2024.10-2025.9，研究代表者　横山貴

5　学会等研究発表

1. 横山貴．シンポジウム　産学連携で創る尿沈渣の鑑別に必要な新たなものさし．日本医療検査科学会・第39回春季セミナー（弘前市），2025.4.20.
2. 横山貴．光波動場三次元顕微鏡を用いた尿中赤血球形態の判別パラメータの開発．日本医学検査学会・第74回日本医学検査学会（大阪府），2025.5.10.
3. 横山貴．シンポジウム　尿沈渣アップデート　尿細管上皮細胞．日本医学検査学会・第74回日本医学検査学会（大阪府），2025.5.11.
4. 横山貴．LVSEMにおける糸球体型赤血球の観察．一般検査　若手・中堅育成キャンプセミナー in 広島（広島市），2025.6.28.
5. 横山貴．ファブリー病における新フュージョンマネジメント！-沈渣で見る現場・分子で読む未来．日本臨床化学会甲信越支部新潟分科会第56回研修会および生物試料分析科学会甲信越支部新潟分科会第21回研修会（新潟市），2025.9.27.
6. 横山貴，川村宏樹，眞部俊，星野純一．尿中丸細胞型尿細管上皮細胞の形態学的特徴と臨床的意義．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟医療福祉大学），2025.10.25.
7. 横山貴，塚原祐介，齋藤温，中川真奈美，星山良樹，山本卓，星野純一．LVSEMを用いた尿中赤血球形態の観察ウェアを用いた細胞解析．令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会（第13回）（新潟市），2025.11.15.

8. 松本結衣，横山貴，伊藤碧人，齋藤温，樋口未来．尿沈渣成分を用いたLVSEMの基礎的検討．令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会（第13回）（新潟市），2025.11.15.
9. 石栗沙凪，横山貴，植木諒香，齋藤直子，桐生あずさ，松田和樹，村田直之．光波動場三次元顕微鏡を用いた尿中尿細管上皮細胞の判別パラメータの開発．令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会（第13回）（新潟市），2025.11.15.
10. 宮澤真奈，横山貴，佐藤颯人，塚田三佐緒，山本卓．腹膜透析患者における排液中NLRの細菌性腹膜炎予測因子としての有用性．令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会（第13回）（新潟市），2025.11.15.
11. 横山貴，塚田三佐緒，山本卓．腹膜透析患者における排液中NLRの細菌性腹膜炎予測因子としての有用性．腎・泌尿器検査研究会第21回学術集会（福岡市），2026.2.21.

6　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本臨床衛生検査技師会（査読員），日本臨床細胞学会，日本医療検査科学会（評議員・一般検査委員会副委員長），日本臨床腎移植学会，日本臨床一般検査学会（理事・認定尿沈渣検査技師認定委員会　委員長），日本臨床検査学教育学会（本学議決権者），日本臨床化学会（新潟支部幹事），生物試料分析科学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本臨床一般検査学会，認定尿沈渣検査技師養成プログラム，委員長，藤田医科大学，2026.1.17-1.18.
2. 日本臨床一般検査学会，認定尿沈渣検査技師認定一次試験，委員長，藤田医科大学，2026.1.18.
3. 日本臨床一般検査学会，認定尿沈渣検査技師認定二次試験，委員長，藤田医科大学，2026.3.15.

7　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第16回山梨県・長野県合同一般検査研修会，パリシステムの運用をふまえた尿沈渣検査における高異型度尿路上皮癌の判定，講師，山梨県臨床検査技師会，日本臨床衛生検査技師会会員，甲府市，2025.4.13.
2. 令和７年度認定一般検査技師制度　行列のできるスキルアップ研修会part ⅩⅣ，尿検査をマスターしよう　尿沈渣検査　上皮細胞類，講師，日本臨床衛生検査技師会，日本臨床衛生検査技師会会員，リーガロイヤルホテル大阪，2025.5.9.
3. ハンズオンセミナー　ファブリー病におけを学び，マルベリー小体・細胞を観察する，百聞は一見に如かず！カメラ付き顕微鏡を用いたマルベリー細胞・小体検出の技術指導，講師，サノフィ株式会社，日本臨床衛生検査技師会会員，TKP金沢駅新幹線口会議室，2024.5.10.
4. 第３回EIKEN一般検査セミナーin新潟，人体のミクロな世界旅行～白血球編～，講師，栄研化学株式会社，日本臨床衛生検査技師会会員，新潟ユニゾンプラザ（大研修室），2025.6.14.
5. 第３回EIKEN一般検査セミナーin新潟，ドキドキ！初心者から指導者による力量共有スライドカンファレンス，講師，栄研化学株式会社，日本臨床衛生検査技師会会員，新潟ユニゾンプラザ（大研修室），2025.6.14.
6. まちなかキャンパス　2025心も体も健幸プロジェクト　健康コース　ウェルビーイング，ウェルビーイングを高める第一歩！尿検査で脳・心血管障害および慢性腎臓病を予防，講師，北区・新潟医療福祉大学，北区一般市民，LAGUNA SQUARE（大研修室），2025.7.11.
7. 令和７年度検体検査研修会　臨床検査精度管理調査結果と検体検査の実際，その２尿検査，講師，公益社団法人全国労働衛生団体連合会，公益社団法人全国労働衛生団体連合会会員，WEB配信，2025.7.24.
8. 令和７年度臨床一般部門実技講習会，尿沈渣鏡検実習，講師，新潟県臨床検査技師会，日本臨床衛生検査技師会会員，愛知県，2025.8.23.
9. 第16回日本臨床一般検査学会第22回スキルアップ講習会，尿沈渣鏡検実習，講師，日本臨床衛生検査技師会，日本臨床衛生検査技師会会員，新潟医療福祉大学，2025.8.2.

10. 令和７年度臨床一般部門実技講習会，尿沈渣鏡検実習，講師，新潟県臨床検査技師会，日本臨床衛生検査技師会会員，愛知県，2025.8.23.
11. 令和７年度日臨技北日本支部臨床一般部門研修会，見逃すな！尿沈渣に秘められた疾患のサイン～病態把握に直結する沈渣所見の読み解き方～，講師，日本臨床衛生検査技師会，日本臨床衛生検査技師会会員，弘前市，2025.9.6.
12. 北陸一般セミナー2025，尿沈査成分の判別について，講師，富山県臨床検査技師会，日本臨床衛生検査技師会会員，富山市，2025.9.21.
13. 日本医療検査科学会第57回大会 第３回一般検査技術セミナー，AI・自動化時代に必要な技師の目と判断力－技術が進化する今，技師が進化する時－，講師，日本医療検査科学会，日日本医療検査科学会会員，横浜市，2025.10.4.
14. 日本医療検査科学会第57回大会「モーニングセミナー２」，尿検査におけるリスクマネジメント，講師，日本医療検査科学会，日本医療検査科学会会員，横浜市，2025.10.5.
15. 2025年度　日臨技（第61回）関甲信支部・首都圏支部医学検査学会シンポジウム７，一般検査領域における人材育成のための教育現場と実臨床のクロストーク，講師，日本臨床衛生検査技師会会員，日本臨床衛生検査技師会会員会員，横浜市，2025.10.5.
16. 令和７年度　福島県臨床検査技師会一般検査部門研修会，尿沈渣・中級ステップアップ講座見落とし防止と所見の根拠，講師，福島県臨床検査技師会，福島県臨床検査技師会会員，福島市，2025.10.26.
17. 福岡県臨床検査技師会福岡地区一般検査部門勉強会WEB開催，良性上皮細胞の見極め方-1年目から差がつく尿沈渣の眼-，講師，福岡県臨床検査技師会，福岡県臨床検査技師会会員，福岡市，2025.10.29.
18. 令和７年度　日臨技　北日本支部医学検査学会（第13回）教育講演５，血尿診断ガイドラインにおける尿沈渣検査の現在と未来への対応，講師，日本臨床衛生検査技師会，日本臨床衛生検査技師会会員，新潟市，2025.11.16.
19. 腎・泌尿器検査研究会WEBセミナー2025（11月）秋の夜，月光下に浮かぶ異型細胞WEB，オンデマンド配信，異型細胞を見逃すな！尿沈渣検査が技師の価値を証明する，講師，腎・泌尿器検査研究会，腎・泌尿器検査研究会会員，東京都，2025.11.18.
20. 一般検査セミナーEIKEN 2025，異型細胞を見逃すな！尿沈渣検査が技師の価値を証明する　Special Lecture Ⅱ「異型細胞の表現に関するシンポジウム」，臨床医にインパクトと共感を得るためのスマートな異型細胞の表現・報告形式，講師，栄研化学株式会社，日本臨床衛生検査技師会会員，東京都，2025.11.29.
21. Fabry Disease Web Seminar　ファブリー病にの早期診断のポイント，Fabry病の鍵は渦にあり！－マルベリー小体・細胞を巡る検出技術の最前線－，講師，武田薬品工業株式会社，医師・看護師・日本臨床衛生検査技師会会員，東京都，2026.1.20.
22. 日本臨床一般検査学会認定尿沈渣検査技師プログラム，ハイレベル鏡検術 異型細胞類，講師，日本臨床一般検査学会，日本臨床一般検査学会会員，愛知県，2026.1.17.
23. 日本臨床一般検査学会認定尿沈渣検査技師プログラム，スライドカンファレンス，講師，日本臨床一般検査学会，日本臨床一般検査学会会員，愛知県，2026.1.17.
24. 令和７年度　日臨技関甲信支部・首都圏支部研修会「第35回関甲信支部・首都圏支部合同一般検査研修会」，尿沈渣検査は“リスクフリー腎生検”になり得るか？ -非侵襲的検査としての尿沈渣の可能性と限界-，講師，日本臨床衛生検査技師会，日本臨床衛生検査技師会会員，松本市，2026.2.14.
25. 腎・泌尿器検査研究会第21回学術集会　技術セミナー，大食細胞，講師，腎・泌尿器検査研究会，腎・泌尿器検査研究会会員，福岡市，2026.2.22.
26. 福井県一般検査実習，尿沈渣鏡検のポイント尿沈渣の“答え”より大切なこと-観察と思考の質を揃える50分-，講師，福井県臨床検査技師会，福井県臨床検査技師会会員，福井市，2026.2.28.

2) 社会活動への参加協力

1. 2025年度北区大学連携未来のまちづくり事業，まちなかキャンパス　2025心も体も健幸プロジェクト健康コース講座ウェルビーイング，講師，LAGUNA SQUARE（旧中常楼 北区葛塚3222），2025.7.11.
2. 令和７年　新潟医療福祉大学　公開講座　同行者援護従業者養成研修，管理・運営，公開講座部会長，新潟医療福祉大学U502・３講義室U棟５階フリースペース，2025.9.3-9.8.
3. 新潟大学医歯学総合病院検査部一般検査技術指導，２回/月.
4. 済生会新潟病院検査部一般検査技術指導，１回/月.
5. 新潟聖籠病院検査部一般検査技術指導，１回/月.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
都立学校検診検討会腎臓・糖尿病検診検討部会（委員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員
公益社団法人全国労働衛生団体連合会臨床検査専門委員会尿検査分野委員，公益社団法人日本臨床検査標準協議会・尿検査標準化委員会委員

8　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2024年度，継続共同研究，大塚電子株式会社，光波動場三次元顕微鏡を用いた尿沈渣検体の観察及び解析の研究，研究代表者　横山貴
2. 2024年度，継続共同研究，栄研化学株式会社，若年層の潜在性鉄欠乏症の気づきチェック検査の有用性評価ならびに鉄代謝マーカーの探索研究，研究代表者　横山貴
3. 2025年度，科学研究費助成事業　若手研究，日本学術振興会，ファブリー病における尿中ポドサイトによる酵素補充療法開始時期の客観的判定法，研究代表者　横山貴

2) 学外兼務講師等
1. 桐蔭横浜大学医用工学部，一般検査学実験，2025.11.1，11.20，11.22（全３回，８コマ）
2. 東京女子医科大学医学部，セグメント４腎尿路系１・尿沈渣実習，2026.1.6，1.9，1.13，1.17.（全４回，８コマ）

9　学内委員会活動　社会連携推進委員会（副委員長），国家試験事務処理担当委員，臨床実習担当委員，１学年担当

氏名：川村　宏樹

1　研究題目　マクロファージにおけるNF-κB抑制因子による炎症反応の制御機構，悪性腫瘍治療患者における輸血検査偽陽性に対する新規回避法の確立

2　論文
1. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．20歳代健常者における脂肪肝診断のための超音波減衰イメージングの最適カットオフ値の検討．医学検査．2026; 75(2): 289-296.
2. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．Shear wave elastographyの正確性を高める測定温度と安定化判定．医学検査．2026（印刷中）．（Accept 2026.3.13）

3　報告書
1. 川村宏樹．基盤C，多発性骨髄腫患者にて分子標的薬ダラツムマブによる輸血検査偽陽性の新規回避法の確立，研究成果報告書（最終），2021～2024年度，研究代表者）2025.6.

4　学会等研究発表
1. 川村宏樹，長松優衣，細川上．不規則抗体検査におけるパネル血球の使用期限と抗原性の検討．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
2. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，塙晴雄，渡邊博昭，藤井豊．超音波診断用造影剤投与による炎症応答の誘導とTLR-NF-κB経路の関与．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
3. 横山貴，川村宏樹，眞部俊，星野純一．尿中丸細胞型尿細管上皮細胞の形態学的特徴と臨床的意義．新潟

医療福祉学会（新潟）．2025.10.

4. 川村宏樹，阿部拓也，渡邊博昭．ラツムマブによる間接抗グロブリン検査の汎凝集を回避する新しい方法の確立（新潟）．2025.11.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本免疫学会，日本寄生虫学会，日本生体防御学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 令和７年輸血検査技術講習会，新潟県臨床検査技師会，会場運営，会場：新潟医療福祉大学，2025.7.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 臨床検査技体験授業，臨床検査技師ってなに？，講演，福島県臨床検査技師会，中学生，会場：会津若松市立一箕中学校，2025.5.
2. 日本臨床衛生検査技師会主催　高校生ガイダンス　体験学習講師（令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会11月15日）

7　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 新潟大学大学院医歯学総合研究科ウイルス学分野，客員研究員，2024.4.1-2025.3.31.

8　学内委員会活動　国家試験・資格試験対策委員会，PCRセンター運営委員会（委員長），入試委員会，キャリア支援センター運営委員会

氏名：齋藤　憲

1　研究題目　がん浸潤転移メカニズムの研究，ペプチド創薬の開発研究

2　学会活動

1) 所属学会　日本生化学学会，日本癌学会，日本がん分子標的治療学会

3　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，基盤（C），骨肉腫透過ペプチドによる新しい骨肉腫細胞機能の解明と創薬開発，研究代表

4　学内委員会活動　遺伝子組換え実験安全委員会（委員長），学術委員会

氏名：中川　沙織

1　研究題目　コレステロール合成吸収代謝物の測定方法の開発とその応用

2　論文

1. Tomita D, Bamba Y, Kuwabara N, Akakabe S, Matsubayashi Y, Nakagawa S, Sone H, Nishiyama K. A Case of Concurrent Metformin-Associated Lactic Acidosis and Euglycemic Diabetic Ketoacidosis. Journal of Emergency Medicine (JCR), 75: 222-226, 2025（査読あり）
2. Kuwabara N, Miyamoto Jogi E, Kato M, Masuda Y, Konishi M, Yamasaki K, Ohata S, Kato S, Hashimoto M, Sato S, Nakagawa S. Application of ergosterol as a maitake mushroom intake biomarker. Annals of Clinical Biochemistry (JCR), 63(1): 83-87, 2025.（査読あり）
3. 中川沙織．生体中のコレステロール合成・吸収・代謝の定量法の開発と臨床応用．分析化学（協力学術団体）．74(10-11): 645-651, 2025（査読あり）
4. Eri M Jogi, Masaharu C Kato, Masuda Y, Konishi M, Kuwabara N, Shinji S, Nakagawa S, Yamasaki K, Aoki R, Ohno M, Ohata S, Kato S, Hashimoto M. Maitake Mushroom (Grifola frondosa) Enhances Cognitive Function in Healthy Older Japanese: A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Trial. Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JCR), 72: 163-175, 2026（査読あり）
5. Nakagawa S. (Highlights) Recent Developments in Rapid Diagnostic Methods for Pathogenic

Bacteria. Anal Sci (JCR), 42(5): 287-288, 2026（査読あり）

6. 中川沙織．防災教育としての小学生向け感染症対策教育～感染症を広めない！うつさない！～，第31回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業報告書．2025.4.1-2026.3.31，研究代表者
7. 中川沙織．ウィメンズヘルスのフレイル予防のための脂質異常症と骨粗鬆症の両方に効果的な食品成分の探索，令和７年度BOMU健康記念財団　健康研究助成制度業報告書．2025.8.1-2026.3.31，研究代表者
8. 中川沙織．生体内スクアレン濃度に関する探索的研究，2025年度受託研究成果報告書，2025.9.1-2026.3.31，研究代表者

3　学会等研究発表

1. 桑原直子，常喜-宮本江理，加藤真晴，増田有紀，小西守周，山﨑健治，谷河精規，大畑修三，加藤節司，橋本道男，中川沙織．年齢の違いによるマイタケパン摂取による血清中エルゴステロール濃度の比較．第50回日本医用マススペクトル学会年会（一宮市），2025.9.12-9.13.
2. 桑原直子，中川沙織．新規に合成された物質と内在性物質を区別する定量法を用いたエルゴステロールのコレステロール合成抑制作用の比較．第36回クロマトグラフィー科学会議（京都市），2025.9.16-9.17.
3. 中川沙織，桑原直子．マイタケなどに含まれるエルゴステロールの有用性．ユキグニファクトリー新潟本社（南魚沼市），2025.9.19.
4. 桑原直子，中川沙織．13C安定同位体と細胞培養系を用いたカテキン５種類のコレステロール合成抑制作用．日本分析化学会第74年会（札幌市），2025.9.24-9.26.
5. 畔上公子，桑原直子，神田循吉，中川沙織．高脂肪高ショ糖食マウス（肥満モデル）の病態変化．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.
6. 中川沙織，桑原直子，冨塚江利子．大豆由来成分であるダイゼインの新規コレステロール合成抑制作用の作用部位の推定．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.
7. 桑原直子，中川沙織．GC-MSを用いたヒト血漿中ブラジカステロール定量法の開発．日本臨床化学会第65回年次学術集会（名古屋市），2025.11.7-11.9.
8. 橋本道男，常喜江理，加藤真晴，増田有紀，小西守周，桑原直子，中川沙織，大畑修三，加藤節司，マイタケ摂取は免疫活性化を介して健常高齢者の認知機能を維持・改善する．第44回日本認知症学会学術集会（新潟市），2025.11.22.
9. 鈴木浩史，石黒創，渡辺賢一，岩浅啓矢，郭安韜，齋藤花菜，長谷川智加，小西徹也，井口晃徳，中川沙織，曽根博仁．糖尿病モデルマウスにおけるトリュフ抽出物の糖代謝改善作用の検討．第23回日本機能性食品医用学会（市川市）．2025.12.14.
10. 中川沙織．防災教育としての小学生向け感染症対策教育～感染症を広めない！うつさない！～，第31回北陸地域の活性化に関する研究助成事業報告会．（新潟市）．2026.3.5.
11. 中川沙織，桑原直子．ヒト表皮角化HaCaT細胞におけるコレステロール生合成経路に対するアンドロステノールの作用．第36回生物試料分析科学会年次学術集会（高松市）．2026.3.7-3.8.
12. 桑原直子，常喜江理，加藤真晴，増田有紀，小西守周，山﨑健治，大畑修三，加藤節司，橋本道男，中川沙織．マイタケ含有パン摂取による健常人の血清中エルゴステロールおよびその体内動態の解析．第36回生物試料分析科学会年次学術集会（高松市）．2026.3.7-3.8.
13. 常喜江理，加藤真晴，増田有紀，小西守周，桑原直子，中川沙織，山﨑健治，大畑修三，加藤節司，橋本道男．日常的なマイタケの摂取は認知機能の維持および改善に寄与する．日本農芸化学会2026年度京都大会（京都市），2026.3.9-3.12.

4　学会活動

1) 所属学会　日本臨床化学会（理事，評議員，新潟支部幹事，あり方委員会委員，日本薬系学会連合 ダイバーシティ推進検討WG，法務委員会副委員長，ダイバーシティー委員長，選挙管理委員会），生物試料分析科学会（理事，甲信越支部長，評議員，新潟支部幹事），日本分析化学会（学会役員等候補者選考委員，AnalSci新潟編集委員，新潟地区部会幹事，新潟地区部会監査），医用マススペクトル学会（評議員），新潟医療福祉学会，日本薬学会，クロマトグラフィー科学会（評議員）日本油化学会，日本栄養・食糧学会，

日本食品科学工学会

2) 学術集会の主催

1. 生物試料分析科学会，生物試料分析科学会甲信越支部新潟分科会第21回研修会，実行委員（甲信越支部長および座長），2025.9.27.
2. 新潟医療福祉学会，第25回新潟医療福祉学会　実行委員（アナウンス，タイムキーパー，照明），2025.10.25.
3. 日本分析化学会，第37回日本分析化学会関東支部新潟地区部会，実行委員（ポスター賞選考委員），2025.10.31.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本臨床化学会　関東甲信越支部　世話人　2006.4-
2. 日本分析化学会　関東甲信越支部　新潟地区部会　幹事　2008.4-
3. 日本臨床化学会　評議員　2017.4-
4. 生物試料分析科学会　評議員　2019.1-
5. 日本医用マススペクトル学会　評議員　2017.9-
6. 日本臨床化学会　理事　2021.4-
7. 日本臨床化学会　法務委員会副委員長　2025.4-
8. 日本臨床化学会　あり方委員会　2023.4-
9. 日本分析化学会関東支部新潟地区部会　監査　2025.3-
10. 日本分析化学会役員等候補者選考委員　2024.7-（２年目）
11. 日本薬系学会連合 ダイバーシティ推進検討WG 2025.4-
12. 日本分析化学会　Analytical Science編集委員　2025.3-
13. 日本臨床化学会選挙管理委員会　2025.11-
14. 日本臨床化学会ダイバーシティ委員会　委員長　2025.11-
15. 一般社団法人メディカルサイエンスアカデミー　理事　2025.2-
16. クロマトグラフィー科学会　評議員　2026.1-
17. 生物試料分析科学会　理事　2026.2-
18. 生物試料分析科学会　甲信越支部長　2026.2-（支部長不在のため，実際は2025年7月より活動）
19. Elsevier社　Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis　査読委員（JPBA-D-25-01176）
20. Elsevier社　Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis　査読委員（JPBA-D-25-02192）
21. Elsevier社　Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis　査読委員（JPBA-D-25-02768）
22. Elsevier社　Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis　査読委員（JPBA-D-25-03967）
23. 日本薬学会　Chemical and Pharmaceutical Bulletin　査読委員（MS25-00322）
24. 日本薬学会　Chemical and Pharmaceutical Bulletin　査読委員（MS25-00322R1）
25. 日本分析化学会　Anaytical Science　査読委員（ANSC-D-25-0033）
26. 日本分析化学会　Anaytical Science　査読委員ANSC-D-250033Revise）
27. Wiley社　Lipids　査読委員　１件（9979677）
28. 日本薬学会　Biologicall and Pharmaceutical Bulletin　査読委員（MS25-0639）
29. 日本薬学会　Biologicall and Pharmaceutical Bulletin　査読委員（MS25-0639R1）
30. 日本薬学会　薬学雑誌　査読委員１件（YAKUSHI-D-25-00157R2）
31. 第65回日本臨床化学会年次学術集会　座長（口頭発表O1）2025.11.7.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 白根保健生活協同組合小須戸支部　健康づくり講演会「みんなが気になるくすりの疑問」，講師，一般市民，小須戸まちづくりセンター，2025.7.27.
2. 中川沙織，渡邊博昭，高野操，佐々木一真，前山佳彦，涌井杏奈，継田雅美，樋口元弥，桑原直子，

防災教育としての小学生向け感染症対策教育 感染症を広めない！うつさない！，子供向け感染症対策冊子，新潟医療福祉大学，2025.8.1.

3. 坂井輪児童館「科学実験教室」サイエンスミステリー　ケーキを食べたのはだれだ！？，実施責任者，講師，新潟市坂井輪児童館，小学生，新潟市坂井輪児童館，2025.8.8.（午前１回開催）
4. 子供向け防災教育パンフレット贈呈式，2024年1月1日能登地震の被災地である新潟市西区坂井輪地区児童館へパンフレットの寄贈，新潟市西区坂井輪公民館，2025.8.8.
5. 子供向け防災教育パンフレット贈呈式，2022年8月13日村上豪雨災害の被災地である村上市保内小学校へパンフレットの寄贈，村上市立方保内小学校，2025.9.4.
6. 新潟市こども創造センター　創造たいけんプロジェクト「新潟医療福祉大学　中川先生のサイエンススクール」，実施責任者，講師，５歳～小学生，新潟市こども創造センター，2025.10.5.（午前午後の２回開催）
7. 社会連携オンラインセミナー「みんなが気になるくすりの疑問」，講師，新潟医療福祉大学，オンライン，2025.11.1.
8. わくわくサイエンススクール～感染症を広めない！うつさない！～，講師および実施責任者，小学生対象，新潟医療福祉大学，2025.11.16.（午前午後の２回開催）
9. 長岡市理科教育センター　科学探求塾，長岡市理科教育センター 科学探求塾～医療編～くすりのふしぎ，実施責任者，講師，小学生，長岡市教育センター，2025.12.6.（午前１回開催）
10. 長岡市理科教育センター　科学探求塾，～環境と人体，けいこうのひみつ，実施責任者，講師，小学生，長岡市教育センター，2025.12.7.（午前１回開催）
11. こすどっ子食堂（明願寺），わくわくサイエンススクール～バスボールを作ろう！～，～からだの中をのぞいてみよう！～，実施責任者および講師，小学１～６年生，新潟市秋葉区　明願寺，2026.2.16.
12. 新潟市葛塚小学校　薬物乱用防止教室，ゲストティーチャー，小学６年生，新潟市葛塚小学校，2026.2.26.（１クラスずつ３回開催）
13. 一般社団法人メディカルサイエンスアカデミー，KIDSおしごと体験in万代シテイ＆新潟駅2025，実施責任者および実験講師，新潟市・万代シティーバスセンター特設会場，2025.6.7-6.8・2日間（午前午後と合計４回開催）
14. 一般社団法人メディカルサイエンスアカデミー，ジュニアサイエンスラボinゆいぽーと　謎解き実験！科学たんてい！ケーキを食べたのはだれだ！？，実施責任者および実験講師，新潟市・ゆいぽーと，2025.7.26・1日間（午前午後の２回開催）
15. 日本海総合病院，ジュニアサイエンスラボin日本海総合病院，実施責任者および実験講師，山形県酒田市・日本海総合病院，2025.8.3・1日間（午前午後の２回開催）
16. ラブラ万代，ジュニアサイエンスラボinラブラ万代，実施責任者および実験講師　新潟市・ラブラ万代，2025.9.6-9.7・2日間（午前午後の合計４回開催）
17. 一般社団法人メディカルサイエンスアカデミー，ジュニアサイエンスラボin新発田，実験内容責任者，準備・とりまとめ，新発田市・イオン新発田，2025.10.5・1日間
18. AIRMAN，AIRMANプレゼンツ ミライキッズにいがた　ワンダーパークinハイブ長岡　実施責任者および実験講師，長岡市・ハイブ長岡，2025.11.22・1日間（午前午後の２回開催）
19. 一般社団法人メディカルサイエンスアカデミー，第２回ジュニアサイエンスラボinゆいぽーと　実施責任者および実験講師，新潟市・ゆいぽーと，2025.12.20-12.21・2日間（午前午後の合計４回開催）
20. ディモルギア，ミライキッズにいがた　ワンダーパークin大かま　実施責任者および実験講師，新潟市・大かま，2026.2.28・1日間（午前午後の２回開催）
21. 一般社団法人メディカルサイエンスアカデミー，第３回ジュニアサイエンスラボinゆいぽーと　実施責任者および実験講師，新潟市・ゆいぽーと，2026.3.20-3.22・3日間（午前午後の合計６回開催）
22. 坂井東ひまわりクラブ，ジュニアサイエンスラボin坂井東ひまわりクラブ，責任者および実験講師，新潟市・坂井東ひまわりクラブ，2026.3.27・1日間

23. 坂井輪ひまわりクラブ，ジュニアサイエンスラボin坂井輪ひまわりクラブ，責任者および実験講師，新潟市・坂井輪ひまわりクラブ，2026.3.30・1日間

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. ユキグニファクトリーホームページ，キノコ摂取のバイオマーカーマーカー開発に関する研究結果についてのお知らせ～新潟医療福祉大学，新潟薬科大学らとの共同研究が「Annals of Clinical Biochemistry」に掲載～，2025.7.23.
2. 荘内日報（荘内日報）小学生が薬剤師の一端を体験，2025.8.6.朝刊
3. 【新潟医療福祉大学】11/16（日）小学生対象に実験教室『わくわくサイエンススクール～感染症を広めない！うつさない！～』を開催！，PRTIMES ホームページ，2025.9.2.
4. 【新潟医療福祉大学】11/16（日）小学生対象に実験教室『わくわくサイエンススクール～感染症を広めない！うつさない！～』を開催！，毎日新聞 ホームページ，2025.9.2.
5. 【新潟医療福祉大学】11/16（日）小学生対象に実験教室『わくわくサイエンススクール～感染症を広めない！うつさない！～』を開催！，日経COMPASS ホームページ，2025.9.2.
6. 【新潟医療福祉大学】11/16（日）小学生対象に実験教室『わくわくサイエンススクール～感染症を広めない！うつさない！～』を開催！，福島県民報 ホームページ，2025.9.3.
7. 【新潟医療福祉大学】11/16（日）小学生対象に実験教室『わくわくサイエンススクール～感染症を広めない！うつさない！～』を開催！，時事ドットコム ホームページ，2025.9.3.
8. 小須戸支部「お薬についてわかりやすく学ぶ」，健生ニュース　2025年10月号　No.651　5ページ，2025.10.1.
9. いくとぴあ食花ブログ，「新潟医療福祉大学のサイエンススクール」こども創造センター，2025.10.15.
10. 新潟日報，正しい手洗い学んだよ　小学生の感染症対策講座，2025.11.17.朝刊　地域10ページ
11. FMにいがた　FM　NIIGATA-NEWS　2025.11.17.　18：55～19：00　小学生の感染症対策講座
12. ユキグニファクトリーホームページ，マイタケが持つ認知機能改善効果に関する研究結果についてのお知らせ～第44回日本認知症学会学術集会にて発表～，2025.11.19.
13. PRTIMES ホームページ，マイタケが持つ認知機能改善効果に関する研究結果についてのお知らせ～第44回日本認知症学会学術集会にて発表～，2025.11.19.
14. 新潟市葛塚小学校ブログ，薬物乱用絶対しない宣言　いいね！，2026.2.26.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024-2027年度，科研費 国際共同研究加速基金（海外連携研究）胆嚢がん発生におけるオキシステロールの役割（代表　浅井孝夫），研究分担者
2. 2025年度，第31回「北陸地域の活性化」に関する研究助成，「防災教育としての小学生向け感染症対策教育～感染症を広めない！うつさない！～」，研究代表者
3. 2025年度，公益財団法人BOMU健康財団健康研究助成，「ウィメンズヘルスのフレイル予防のための脂質異常症と骨粗鬆症の両方に効果的な食品成分の探索」，研究代表者
4. 2025年度，ユキグニファクトリー株式会社，血中エルゴステロールの代謝物等の分析ならびに学会および論文発表，研究代表者
5. 2025年度，日誠マリン株式会社，生体内スクアレン濃度に関する探索的研究，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 順天堂大学，先進臨床検査学，2025.6.20，１コマ
2. 新潟薬科大学，微生物学検査学Ⅱ，2025.5.29，6.5，２コマ
3. 新潟薬科大学，臨床化学検査学Ⅱ，2025.7.17，7.24，３コマ
4. 新潟薬科大学，臨床化学検査学Ⅰ，2025.10.3，１コマ
5. 新潟こども医療専門学校（姫路大学通信課程兼務），臨床医科学Ⅰ，2025.5.9-7.31，９コマ

6. 新潟こども医療専門学校（姫路大学通信課程兼務），臨床医科学Ⅱ，2025.10.31-2026.1.23，10コマ
7. 新潟薬科大学付属医療技術専門学校，眼科薬理，2025.6.12，6.26，４コマ
8. 村上看護専門学校　疾病学Ⅰ，2025.10.3-2026.1.9，８コマ
9. 村上看護専門学校　疾病学Ⅳ，2025.10.3-10.24，４コマ
10. 村上看護専門学校　疾病学Ⅴ，2025.11.14-2026.1.30，８コマ

氏名：髙橋　良光

1　研究題目　血液浄化用バスキュラーアクセスの開発（医用工学），超音波診断装置を用いた穿刺成功率の評価（医用工学），透析用穿刺針の形状解析と定量的評価（医用工学），国際緊急援助活動に用いる医療機器に必要な点検および管理方法の検討（災害医療），携帯電話の電波が医療機器の動作に与える影響（医用工学）

2　著書

1. 髙橋良光ほか．クエスチョン・バンク 臨床検査技師2025．１．東京：メディックメディア；2025：28-38
2. 髙橋良光ほか．臨床工学技士国家試験第１回模試 １．東京：日本臨床工学技士教育施設協議会；2025：1-10
3. 髙橋良光ほか．臨床工学技士国家試験第２回模試 １．東京：日本臨床工学技士教育施設協議会；2025：1-10
4. 髙橋良光ほか．臨床工学技士国家試験第３回模試 １．東京：日本臨床工学技士教育施設協議会；2025：1-10

3　論文

1. Huu Quang Tran, Fujii Y, Takahashi Y. Evaluation of hygiene monitoring methods for priming drainage lines in hemodialysis machines: a comparative experimental study. Renal Replacement Therapy. 2025; 11(82): 1-11

4　報告書

1. 髙橋良光．基盤研究（C），透析用カテーテルの機能不全を誘発する予測因子の解明，科学研究費助成事業実施状況報告書，2024年～2027年・研究代表者

5　学会等研究発表

1. Takahashi Y, Yamamoto S, Watanabe H. The difference in the tip structure of hemodialysis catheters reduces the number of troubles caused by suctioning the blood vessel wall. The 70th Annual meeting of the Japanese society for dialysis therapy. (JAPAN・Osaka), 2025.6.27-6.29.
2. Takahashi Y, Yamamoto S, Watanabe H. Blood flow auto control system can reduce dysfunction of hemodialysis catheters ～an ex vivo evaluation～, The 39th ISBP Congress. (USA・Hawaii), 2025.8.20-8.22.
3. 髙橋良光．学生の告示研修の概要と課題について，第40回日本臨床工学技士教育施設協議会．（福岡），2025.6.1.
4. 髙橋良光．本学の国家試験対策～新潟医療福祉大学～，第11回臨床工学技士養成教員学術研究会．（東京），2025.9.14.
5. 髙橋良光．大学生が求める臨床現場，第５回関東甲信越臨床工学会，パネルディスカッション，（大宮），2025.10.4-10.5.
6. 髙橋良光．地方医療系大学のIR情報の運用　～内部質保証に向けた取り組み～，４大学合同IRセミナー教学IRの実践とデータに基づく学生支援，（仙台），2025.10.22.
7. 髙橋良光．知っていますか？学生が臨床工学技士を目指す本当の理由，Cooperate with All Ces 2025.（Zoom Webinars），2025.12.16.
8. 髙橋良光．医工連携委員会の活動報告，第13回新潟県臨床工学会．（新潟），2025.8.31.
9. 髙橋良光．日本臨床工学技士連盟の活動報告，第13回新潟県臨床工学会．（新潟），2025.8.31.

10. 髙橋良光．渡邊博昭，在宅人工呼吸器回路の仕様の違いは災害時に発電機の稼働時間に影響を与えるか，第35回日本臨床工学会．（大阪），2025.5.17-5.18.
11. 太田菜々美，髙橋良光．トイキドニー試作品の製作，～臨床工学技士の知名度の向上を目指して～，（千葉），2025.8.28-8.29.
12. 佐藤綺花，髙橋良光．生理食塩水の温度の違いにおけるプライミングロートの洗浄効果，第５回関東甲信越臨床工学会．（大宮），2025.10.4-10.5.

6　学会活動

1) 所属学会　日本生体医工学会（CEワーキンググループ世話人），日本臨床工学技士会，日本急性血液浄化学会，日本呼吸療法医学会，日本透析医学会，日本アクセス学会，新潟医学会，新潟県臨床工学技士会（理事），日本集中治療医学会，Niigata Blood Purification Conference（世話人），新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. Niigata Blood Purification Conference，Niigata Blood Purification Conference2024，運営・企画・会場設営，南魚沼市，2025.11.30.
2. 第13回新潟県臨床工学会，運営・企画・会場設営，新潟市，2025.8.31.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第70回日本透析医学会，国際交流，大阪，2025.6.27.
2. 第65回日本生体医工学会大会，CEセッション，審査員，福井，2025.6.5-6.7.
3. 第５回関東甲信越臨床工学会，パネラー打ち合わせ，埼玉，2025.10.4-10.5.
4. 第５回関東甲信越臨床工学会，連盟ブース設置・運営，埼玉，2025.10.4-10.5.
5. 日本臨床工学会，組織強化委員会，運営，大阪，2025.5.17-5.18.
6. 日本臨床工学会，連盟ブース設置・運営，大阪，2025.5.17-5.18.
7. 日本臨床工学会，情報交換会，政治家対応，大阪，2025.5.17-5.18.
8. 新潟医療福祉学会，座長，新潟，2025.10.25.
9. 新潟医療福祉学会，HP製作，新潟，2025.10.25.
10. 新潟医療福祉学会，運営・会場設営，新潟，2025.10.25.

7　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県ニーズ説明会，医工連携セッション，企画・準備・運営，新潟県，一般企業，新潟市，2025.11.28.

2) 社会活動への参加協力

1. 信越地域の医療機関における電波利用推進協議会，17回会合，有識者，WEB，2025.7.25.
2. 信越地域の医療機関における電波利用推進協議会，全国代表者会合，有識者，WEB，2026.3.23.
3. 信越地域の医療機関における電波利用推進協議会，電波管理の説明会開催について，有識者，2025.06.23.
4. JAEFCE，選挙管理委員会　選挙管理委員長，2024.4.1-2025.3.31.
5. 新潟県臨床工学技士会，編集委員会会議，会誌の校正，長岡市・WEB，2025.4.1-2026.3.31.
6. 新潟県臨床工学技士会，広報委員会会議，HP開設について，新潟市・WEB，2025.4.1-2026.3.31.
7. 新潟県臨床工学技士会，医工連携委員会会議，司会，新潟市・WEB，2025.4.1-2026.3.31.
8. 日本臨床工学技士連盟，会議，収支報告，WEB，2025.4.1-2026.3.31.
9. 日本臨床工学技士会，認定医療機器管理臨床工学検定試験作問，作問者，東京，2025.4.1-2026.3.31.
10. 日本臨床工学技士会，認定医療機器管理臨床工学検定試験，試し解き，東京，2025.4.1-2026.3.31.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

独立行政法人国際協力機構国際緊急援助隊医療チーム隊員，独立行政法人国際協力機構国際緊急援助隊医療チーム講師，総務省信越総合通信局信越地域の医療機関における電波利用推進協議会構成員，ASEAN災害保健医療管理に係る地域能力強化プロジェクト技術支援班

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県臨床工学技士会（呼吸療法委員），新潟県臨床工学技士会（広報委員長），新潟県臨床工学技士会（医工連携委員長），新潟県臨床工学技士会（連盟委員長），日本臨床工学技士教育施設協議会（試験委員会副委員長），日本臨床工学技士教育施設協議会（教科書委員），日本臨床工学技士教育施設協議会（問題作成委員長），関東甲信越臨床工学会（実行委員），関東甲信越臨床工学会（広報委員長），日本臨床工学技士連盟（理事），日本臨床工学技士連盟（会計），Niigata Blood Purification Conference（監事）

8　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度から継続中，科研費助成事業　基盤研究C，透析用カテーテルの機能不全を誘発する予測因子の解明，髙橋良光【継続】

2) 学外兼務講師等

1. 桐蔭横浜大学，大学院卒業論文審査，2025.4.1-2026.3.31.
2. 桐蔭横浜大学，大学院中間発表審査，2025.4.1-2026.3.31.

9　学内委員会活動　教務委員会，IR委員会（委員長），科研費対策委員会，内部質保証推進委員会，大学院教務委員会，研究科委員会

氏名：藤井　豊

1　研究題目　体外循環中の生体反応評価，体外循環デバイスの開発研究

2　論文

1. Hotta K, Fujii Y, Hitosugi N, Takamizawa R, Inoue T, Tamiya H, Tsubaki A.Effects of veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation on skeletal muscle function and interstitial PO2 in contracting muscle of normal rats. Microvasc Res (JCR). 2025; 160: 104813.（査読あり）
2. Sato Y, Mothoishi E, Kakuba R, Nagatsuka Y, Abe T, Fujii Y. Pharmacokinetics of dexmedetomidine in an in vitro circuit model and in vivo extracorporeal membrane oxygenation rat model. Cureus (JCR). 2025 Apr 13; 17(4): e82165.（査読あり）
3. Sato Y, Mothoishi E, Kakuba R, Nagatsuka Y, Abe T, Fujii Y. Pharmacokinetics of midazolam and hepatic cytochrome P450 3A activity in an in vivo extracorporeal membrane oxygenation rat model. Sci Rep (JCR). 2025; 15(1): 19363.（査読あり）
4. Tran H Q, Fuji Y, Takahashi Y. Evaluation of hygiene monitoring methods for priming drainage lines in hemodialysis machines: a comparative experimental study.Renal Replacement Therapy (JCR). 2025; 11(1): 82.（査読あり）
5. Sumikura H, Fujii Y, Uchiyama S, Homma A. Evaluation of a rat cardiopulmonary bypass model using an extraluminal flow oxygenator. Artif Organs (JCR). 2026: Online ahead of print.（査読あり）
6. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．20歳代健常者における脂肪肝診断のための超音波減衰イメージングの最適カットオフ値の検討．医学検査（協力学術研究団体）．2026; 75(2): 289-296.（査読あり）
7. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．Shear wave elastographyの正確性を高める測定温度と安定化判定．医学検査（協力学術研究団体）．2026. (in press)（査読あり）

3　報告書

1. 藤井豊．科研費基盤研究（C），酸素ウルトラファインバブル溶液による腹膜を介した革新的呼吸補助法の創出，研究成果報告書，2024-2026　研究代表者

4　学会等研究発表

1. 藤井豊．研究開発／学生教育視点からの体外循環分野における医療安全．第50回日本体外循環医学会九州地方会大会（別府市），2025.6.21.【シンポジウム】
2. 藤井豊．酸素の弊害と酸化ストレス　～急性期医療および基礎研究の視点から～．第29回酸素ダイナミ

クス研究会（新潟市），2025.9.28.【教育講演】

3. 藤井豊．体外循環分野における基礎研究　～医工融合に向けた取り組み～．香川大学医学部JST次世代研究者挑戦的研究プログラムセミナー（高松市），2025.11.27.【教育講演】

5　学会活動

1) 所属学会　日本臨床工学技士会（学術機構運営委員会委員・査読委員），日本体外循環技術医学会（学術委員会　研究推進部会　副部会長），日本人工臓器学会（評議員，情報・広報委員会委員），日本生理学会，日本集中治療学会，日本心不全学会，米国人工臓器学会，IEEE，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本臨床工学技士会 学術機構運営委員会　査読員
2. Journal of Clinical Medicine Guest Editor
3. Journal of Thoracic Disease 論文No.JTD-2025-XXXX　査読
4. Artif Organs 論文No.AO-25-00XXX　査読
5. Artif Organs 論文No.AO-25-00XXX　査読
6. Artif Organs 論文No.AO-25-00XXX　査読

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，基盤研究C，酸素ウルトラファインバブル溶液による腹膜を介した革新的呼吸補助法の創出，研究代表者
2. 2024年度，基盤研究C，NASHの革新的な予防法・治療法の確立に関する研究：脂肪を摂って脂肪を取る，研究分担者
3. 2023年度，基盤研究B，乳児に行う新たな胸骨圧迫－その効果と実践性の解明－，研究分担者

7　学内委員会活動　新潟連携教育研究センター運営委員会（委員長），高大医連携推進員会（副委員長），URA推進室（委員）

氏名：深澤　友雄

報告事項なし

氏名：塙　晴雄

1　研究題目　アスリートの貧血・鉄欠乏の研究（医学），慢性炎症による貧血のメカニズムに関する研究（医学）

2　論文

1. Inaba H, Hanawa H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Iron Deficiency Prevention and Dietary Habits Among Elite Female University Athletes in Japan. Sports (Basel). 2025;13.

3　学会活動

1) 所属学会　日本内科学会，日本循環器学会，日本心不全学会（代議員），日本心臓病学会（FJCC），国際心臓研究会，日本遺伝子診療学会，新潟医学会，新潟医療福祉学会，日本臨床スポーツ医学会

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 公開講座，第２回新潟スポーツ ケア ナース認定講座，講師，新潟スポーツ医・科学コンソーシアム，看護師，新潟医療福祉大学，2025.7.5-7.6.
2. 講演会，新潟市スポーツ指導者研修会，講師，新潟市教育委員会，ジュニアスポーツに携わる指導者，スポーツ医科学センター，2025.10.18.
3. 講演会，R7年度スポーツ指導者研修会，講師，新潟市スポーツ協会，新潟市スポーツ指導者，新潟市陸上競技場，2026.2.5.

2) 社会活動への参加協力

1. 一般財団法人新潟陸上競技協会，医科学部長，新潟県，2025.4.1-2026.3.31.

2. スポーツフェスタ，救護，新潟市，2025.10.19.
3. 新潟ハーフマラソン2026，救護支援，総務員 救護，新潟市，2026.3.15.

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研究©，女子アスリートの鉄欠乏，貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明，研究代表者
2. 2025年度，基盤研究©，MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用，研究分担者
3. 2025年度，基盤研究©，共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発，研究分担者
4. 2025年度，基盤研究©，NASHの革新的な予防法・治療法の確立に関する研究：脂肪を摂って脂肪を取る，研究分担者

6 学内委員会活動　健康管理センター運営委員会（委員長），アスリートサポート研究センター

氏名：丸野　透

報告事項なし

氏名：高野　操

報告事項なし

氏名：中山　憲司

1 研究題目　新しい質量分析法と解析法の開発とヒト疾患関連バイオマーカーの探索とその臨床応用に関する研究，qShot MALDI解析法の解析プラットフォームの構築，安全衛生分野における化学物質のリスク評価および管理に関する調査・研究

2 論文

1. Nakayama K, Igarashi K, Arash Zarrine-Afsar. Picosecond Infrared Laser Mass Spectrometry for the Analysis of Biological Materials. Medical Mass Spectrometry. 2025; 9(1): 2-7.
2. 中山憲司．検査室と手術室をつなぐ質量分析：定量MALDI-TOF/MS解析と術中リアルタイム分子診断の可能性．日本臨床検査医学会誌．2025; 73: 43.
3. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来の化学物質リスクについて．JSBMS Letters, 2025; 50(Suppl.): 103.
4. Sugino Y, Bao X, Sekito S, Miyachi S, Kageyama T, Sasaki T, Nishikawa K, Tanaka T, Kato M, Shimada Y, Takano K, Son R, Zang L, Nakayama K, Watanabe M, Murakawa Y, Inoue T. Zebrafish Xenograft Model for Predicting Cisplatin Efficacy in Muscle-Invasive Bladder Cancer. Cancer Sci. 2025; 116(12): 3376-3387.
5. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来揮発性有機化合物のリスク評価について．新潟医療福祉学会誌，2025; 25(1): 28.
6. 柴崎滉大，高橋知希，都丸晃誠，齋藤憲，中山憲司．MonoSpin Phospholipidカートリッジカラムを用いた迅速リン脂質解析法の開発．新潟医療福祉学会誌，2025; 25(1): 30.
7. 柴崎滉大，中山憲司．ヒト肺がん細胞株の薬剤耐性獲得時におけるリン脂質の組成変化．臨床技術学．2025; 12: 57-58.
8. 都丸晃誠，中山憲司．MonoSpin Phospholipidカートリッジカラムを用いた糖脂質分析法の開発．臨床技術学．2025; 12: 59-60.
9. 横田芽愛，中山憲司．ヒト毛髪からの遊離脂肪酸類およびリゾリン脂質類の抽出法検討について．臨床技術学．2025; 12: 61-62.

10. 中山憲司，後藤崇之，小林恭．検査室で始めるバイオマーカー探索研究：簡単な定量MALDI-TOF/MS解析．日本臨床検査医学会誌．2026; 74(1): 60-69.
11. 中山憲司．臨床検査と外科医療をつなぐ新しい質量分析技術：術中分子診断の可能性．日本臨床検査医学会誌．2026; 74(1): 53-59.

3　学会等研究発表

1. 中山憲司．検査室と手術室をつなぐ質量分析：定量MALDI-TOF/MS解析と術中リアルタイム分子診断の可能性．第72回日本臨床検査医学会学術集会．シンポジウム４：マルチプレックス検査の最前線：質量分析の可能性（千葉市美浜区），2025.8.29.
2. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来の化学物質リスクについて．第50回 日本医用マススペクトル学会年会（愛知県一宮市），2025.9.13.
3. 柴崎滉大（臨床技術学科４年生），高橋知希，都丸晃誠，齋藤憲，中山憲司．MonoSpin Phospholipidカートリッジカラムを用いた迅速リン脂質解析法の開発．第25回 新潟医療福祉学会学術集会（新潟県新潟市），2025.10.25.
4. 中山憲司，前田雄，郷貴博，谷川奈々，東江由起夫，渡邉幸久，古川惣一．義肢装具製作における3Dプリンター由来揮発性有機化合物のリスク評価について．第25回 新潟医療福祉学会学術集会（新潟県新潟市），2025.10.25.
5. Nakayama K.【Keynote Speech】Getting started with biomarker discovery in the clinical laboratory: A simple quantitative MALDI-TOF/MS analysis. 2026 International Conference on Medical Laboratory Science and Biotechnology（台湾・台中市），2026.3.13.
6. Nakayama K.【Special Talk】Chemical substance management and its risk assessment in clinical laboratories in Asia. 2026 International Conference on Medical Laboratory Science and Biotechnology（台湾・台中市），2026.3.13.
7. Tomaru H（臨床技術学科４年生), Shibasaki K, Takahashi T, Saito K, Nakayama K. Development of a Non–Liquid–Liquid Extraction Method for Phospholipid Analysis Using MALDI-TOF/MS. 2026 International Conference on Medical Laboratory Science and Biotechnology（台湾・台中市），2026.3.13.
8. Kaneshiro Y（臨床技術学科２年生), Nakayama K. Exploring Prime Number Patterns in Protein Amino Acid Sequences. 2026 International Conference on Medical Laboratory Science and Biotechnology（台湾・台中市），2026.3.13.

4　学会活動

1) 所属学会　日本医用マススペクトル学会（理事），日本医用マススペクトル学会（評議員），日本医用マススペクトル学会（会員強化・国際化委員会副委員長），日本医用マススペクトル学会（総務（和文学会誌発刊）委員会委員），日本医用マススペクトル学会（認定制度委員会委員），京都生体質量分析研究会（世話人），北海道実験動物研究会（幹事），Mass Spectrometry and Advances in the Clinical Lab（MSACL：アジア広報委員），日本産業衛生学会（産業衛生技術部会員），教育研究機関化学物質管理ネットワーク，International Lipidomics Society，日本生化学会，日本癌学会，日本微量元素学会，日本ヒトプロテオーム学会，日本質量分析学会，新潟医療福祉学会，ウイルソン病研究会．

2) 学術集会の主催

1. 第51回日本医用マススペクトル学会年会，実行委員（企業・交渉担当），静岡県浜松市，2025.9.12-2026.3.31.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第18回化学物質管理担当者連絡会，化学物質管理討論会，化学物質管理者，化学物質管理担当者連絡会，教育研究機関化学物質管理者，東京都新宿区・早稲田大学 西早稲田キャンパス，2025.9.5.
2. 第13回 医用質量分析認定士資格試験，試験監督・採点担当，日本医用マススペクトル学会，愛知県

一宮市・修文大学，2025.9.12.

3. 日本医用マススペクトル学会，理事，愛知県一宮市，2025.9.12-2026.3.31.
4. 日本医用マススペクトル学会，会員強化・国際化委員会・副委員長，愛知県一宮市，2025.9.12-2026.3.31.
5. 日本医用マススペクトル学会，認定制度委員会・委員，愛知県一宮市，2025.9.12-2026.3.31.
6. 日本医用マススペクトル学会，総務委員会・委員（学会誌 JSBMS　Letters 発刊），愛知県一宮市，2025.9.12-2026.3.31.
7. 日本医用マススペクトル学会，理事会（各委員会意見交換会），理事，慶応大学信濃町キャンパス，2026.2.28.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 義肢装具事業所・義肢装具士等に関わる労働安全衛生セミナー・全国セミナー，～大丈夫ですか？あなたの職場環境は？～，講師，日本義肢装具士協会，義肢装具事業所・義肢装具士（国内），新潟県新潟市（オンラインWEBセミナー），2025.7.5.

6　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 京都大学大学院医学研究科 泌尿器科教室 客員研究員，研究指導，2025.4.1-2026.3.31.

7　学内委員会活動　化学物質管理者，化学物質管理委員会（委員長），保護具着用管理責任者，有機溶剤作業主任者，特定化学物質及び四アルキル鉛作業主任者，安全衛生委員会委員（委員・化学物質管理者），健康管理センター運営委員会委員（委員・化学物質管理者），生物医科学分析研究センター（センター長），運動機能医科学研究所（研究員）

氏名：大山　富三

1　研究題目　腎臓（糸球体）のポドサイトとPEC細胞の培養細胞の樹立，胆嚢がん患者の術後生存期間を予測する各種モデルの予測能力評価

2　学会活動

1) 所属学会　日本臨床衛生検査技師会，日本臨床工学技士会，新潟県臨床検査技師会，新潟県臨床工学技士会，日本血液学会，日本検査血液学会，新潟医療福祉学会

3　学内委員会活動　図書館・学修支援委員会

氏名：森田　邦恵

1　研究題目　ストレスマーカーの解析による採血実習の改善，エクソソームRNAの抽出条件の検討

2　学会等研究発表

1. 森田邦恵，江ケ嵜梓，金子京平．エクソソーム抽出方法について血清・血漿の比較と凍結保存の影響についての検討．第74回日本医学検査学会（大阪），2025.5.10.
2. 森田邦恵，江ケ嵜梓，金子京平，塙晴雄，藤井豊．エクソソーム抽出方法について血清・血漿の比較と凍結保存の影響についての検討．第12回日本細胞外小胞学会学術集会（大阪），2025.10.14.

3　学会活動

1) 所属学会　日本臨床衛生検査技師会，日本再生医療学会，日本臨床検査学教育協議会（連絡担当），新潟医療福祉学会，細胞外小胞学会

2) 学術集会の主催

1. 新潟医療福祉学会学術集会，実行委員，新潟市，2025.10.25.

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第45回臨地実習指導者講習会，世話人，日臨技北日本支部，臨地実習指導者対象，オンライン

（2025.8.24）

5　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

日臨技学術奨励賞　優秀演題賞（2026.1.30）

2) 学外兼務講師等

1.　新潟大学動物資源研究開発分野，非常勤研究員，2025.4.1-2026.3.31.

6　学内委員会活動　新潟連携教育研究センター運営委員会，健康管理センター運営委員会，安全衛生委員会

氏名：仙波　妙子

1　研究題目　高濃度粒子分散ペーストのレオロジー特性予測のための粒子－分散媒親和性の影響の調査

2　学会等研究発表

1.　峰山徹大，木元祐之介，高橋勉，仙波妙子，山田和義．乾燥速度が粒子分散系のメソスコピックな物性に及ぼす過渡的影響．日本機械学会2025年年次大会（札幌・日本），2025.9.7-9.10.

2.　濵井海斗，木元祐之介，高橋勉，仙波妙子，山田和義．粒子分散系薄膜のナノインデンテーション試験に及ぼす基板の弾性率の影響．日本機械学会2025年年次大会（札幌・日本），2025.9.7-9.10.

3.　峰山徹大，木元祐之介，高橋勉，仙波妙子，山田和義．第73回レオロジー討論会（長岡・日本），2025.10.14-10.16.

4.　濵井海斗，木元祐之介，高橋勉，仙波妙子，山田和義．第73回レオロジー討論会（長岡・日本），2025.10.14-10.16.

5.　矢口真帆，仙波妙子．水系環境下におけるポリ乳酸の分解挙動の検討．第25回新潟医療福祉学会（新潟・日本），2025.10.25.

6.　仙波妙子，山田和義．パルスNMRによるシラン処理シリカと有機溶媒の相互作用評価．第25回新潟医療福祉学会（新潟・日本），2025.10.25.

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，応用物理学会，化学工学会，日本レオロジー学会，粉体工学会

2) 学術集会の主催

1.　日本レオロジー学会，　第73回レオロジー討論会，実行委員，新潟県長岡市，2025.10.14-10.16・2025.4-10.

2.　新潟医療福祉学会，第25回学術集会，実行委員，新潟県新潟市，2025.10.25.

3.　日本分析化学会，第38回新潟地区部会研究発表会，実行委員，新潟県新潟市，2025.10.31.

3) 学会等でのその他の活動

1.　日本分析化学会，関東支部新潟地区部会，幹事，新潟県，2025.4-2026.3.

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1.　新潟医療福祉大学（助成:北陸地域づくり協会），わくわくサイエンススクール「～感染症を広めない！うつさない！～」，実験指導員，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.11.16.（日）（午前・午後）

2.　VIPグループ・みらいキッズにいがた　大かまワンダーランド，サイエンスラボ，実験指導員，新潟県新潟市・万代島多目的広場大かま，2026.2.28.（午前・午後）

3.　一般社団法人　メディカルサイエンスアカデミー 薬剤師体験，実験指導員，新潟市・ゆいぽーと，2026.3.21，3.22・2日間（午前・午後）

4.　一般社団法人　メディカルサイエンスアカデミー 坂井東ひまわりクラブ科学実験教室「バスボールを作ろう！」，実験指導員，新潟市・坂井輪ひまわりクラブ，2026.3.29.（午後）

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人　日本臨床工学技士教育施設協議会（教科書委員），一般社団法人　日本臨床工学技士教育施設協議会（試験委員会 コアメンバー）

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1.　2023年度，科研費C，高濃度粒子分散ペーストのレオロジー特性予測のための粒子－分散媒親和性の影響の調査，研究代表

2) 受賞，学位取得，資格取得

新潟医療福祉学会　奨励賞（2025.10.25）

6　学内委員会活動　入試委員会，高等教育推進センター委員会

氏名：佐々木　一真

1　研究題目　透析患者のバスキュラーアクセスに関する研究

2　著書

1. 佐々木一真．血液透析を，流れで考える：―シャント音から理解する循環と除水―．初版．Kindle出版；2026年：1-114
2. Sasaki K. Understanding Dialysis Through Flow: A Practical Guide to Circulation, Fluid Removal, and Access Sound. 初版．Kindle出版；2026年：1-37

3　論文

1. Sasaki K, Hosokawa Y, Oku T, Motohashi Y, Yamauchi S, Sato T. Effect of different stenosis part materials on flow charac-teristics downstream of a stenosis in an arteriovenous fis-tula model.『桐蔭論叢』．2025年6月発行；第52号：p113-120（査読あり）

4　報告書

1. 佐々木一真．若手研究，透析患者のシャント音を用いたバスキュラーアクセス機能評価に関する研究，研究成果報告書，2021-2024，研究代表者

5　学会等研究発表

1. Sasaki K, Hosokawa Y, Motohashi Y, Oku T, Yamauchi S, Sato T. Study on reproducibility of blood velocity waveform in AVF model and its relation to flow visualization and shunt sound under stenosis. 第51回日本血液浄化技術学会学術大会・総会（愛知県名古屋市）2025.4.11-4.13.　国際学会発表
2. 細川柚乃，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫．VA機能の低下に応じた血流速度波形の再現を目的としたVAエコーシミュレータの開発．第51回日本血液浄化技術学会学術大会・総会（愛知県名古屋市）2025.4.11-4.13.
3. 佐々木一真，小嶋孝一，藤井豊．血液透析患者の循環動態を再現するためのシャントモデルの構築．第64回日本生体医工学会大会（福井県福井市）2025.6.5-6.7.
4. 細川柚乃，髙橋采花，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫，根本一．バスキュラーアクセスエコーシミュレータの提案と上腕動脈血流量の測定精度に関する定量的評価の試み．日本医工学治療学会　第41回学術大会（熊本県熊本市）2025.6.6-6.8.
5. 髙橋采花，細川柚乃，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫，根本一．血流速度波形とシャント音の同時測定可能なバスキュラーアクセスエコーシミュレータの提案．日本医工学治療学会　第41回学術大会（熊本県熊本市）2025.6.6-6.8.
6. Sasaki K, Hosokawa Y, Oku T, Motohashi Y, Yamauchi S, Sato T. Reproduction of blood velocity waveforms and evaluation of the accuracy of blood flow and vascular resistance measurements in a vessel model with stenosis simulating an arteriovenous fistula. The 39th International Society of Blood Purification（アメリカ・ハワイ）2025.8.20-8.22.
7. 細川柚乃，髙橋采花，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫，根本一．狭窄病変の変化に応じたドプラ波形とシャント音の再現を目的としたバスキュラーアクセスエコーシミュレータの開発．第19回日本透析クリアランスギャップ研究会学術集会（奈良県奈良市）2025.8.23-8.24.
8. 細川柚乃，髙橋采花，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫，根本一．バスキュラーアクセ

スエコーシミュレータの上腕動脈血流量測定部位における模擬血管内の流れの可視化．第19回日本透析クリアランスギャップ研究会学術集会（奈良県奈良市）2025.8.23-8.24.

9. 細川柚乃，髙橋采花，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫，根本一．パルスドプラ波形とシャント音の同時測定が可能なバスキュラーアクセスエコーシミュレータの開発．第29回日本透析アクセス医学会学術集会・総会（東京都墨田区）2025.9.13-9.14.
10. 佐藤敏夫，細川柚乃，髙橋采花，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，根本一．粒子画像流速測定法によるバスキュラーアクセスエコーシミュレータ内の流れの可視化とパルスドプラ波形との関係．第29回日本透析アクセス医学会学術集会・総会（東京都墨田区）2025.9.13-9.14.
11. 佐々木基成，藤井豊，佐々木一真．動静脈シャントが循環動態に与える影響を再現可能な実験モデルの構築．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟県新潟市）2025.10.25.
12. Hosokawa Y, Nakane N, Sasaki K, Oku T, Motohashi Y, Yamauchi S, Sato T. Reproduction of pulse doppler waveforms using a vascular access echo simulator with a capacitive chamber on the distal side of an arteriovenous fistula model. 20th Toin International Symposium on Biomedical Engineering（神奈川県横浜市）2025.10.25.
13. 細川柚乃，髙橋采花，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫，根本一．臨床工学技士のタスクシフト／シェア支援を目的としたバスキュラーアクセスエコーシミュレータの構築．第８回神奈川県臨床工学会（神奈川県横浜市）2025.11.9.
14. 髙橋采花，細川柚乃，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫，根本一．バスキュラーアクセスエコーシミュレータを用いた血流速度波形と擬似シャント音の同時測定．第８回神奈川県臨床工学会（神奈川県横浜市）2025.11.9.
15. 細川柚乃，髙橋采花，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫，根本一．自己血管内シャントモデル下流に容量性チャンバを有するバスキュラーアクセスエコーシミュレータによるドプラ波形の再現．第63回日本人工臓器学会大会（千葉県浦安市）2025.11.19-11.22.
16. 髙橋采花，細川柚乃，佐々木一真，奥知子，本橋由香，山内忍，佐藤敏夫，根本一．狭窄率の変化に伴うバスキュラーアクセスエコーシミュレータを用いたドプラ波形とシャント音の同時測定の試み．第63回日本人工臓器学会大会（千葉県浦安市）2025.11.19-11.22.

6　学会活動

1) 所属学会　新潟県臨床工学技士会（理事），日本血液浄化技術学会（国際委員），日本臨床工学技士会，日本透析医学会，日本生体医工学会，日本人工臓器学会，日本音響学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 第25回新潟医療福祉学会，準備委員長，新潟県新潟市，2025.10.25.
2. 第25回新潟医療福祉学会，会場責任者，新潟県新潟市，2025.10.25.
3. 第25回新潟医療福祉学会，設営責任者，新潟県新潟市，2025.10.25.
4. 第25回新潟医療福祉学会，運営責任者，新潟県新潟市，2025.10.25.
5. 第25回新潟医療福祉学会，広報責任者，新潟県新潟市，2025.10.25.
6. 第25回新潟医療福祉学会，出版責任者，新潟県新潟市，2025.10.25.
7. 第25回新潟医療福祉学会，事務局委員，新潟県新潟市，2025.10.25.
8. 第25回新潟医療福祉学会，学術担当，新潟県新潟市，2025.10.25.

7　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 日蒙ジョイントセミナー，モンゴルにおける腎不全治療および血液浄化技術に関する技術研修，講師，日本血液浄化技術学会・モンゴル腎臓学会主催，現地医療従事者，国立第一中央病院およびウランバートル市内他透析施設・南ゴビ総合病院，2025.8.8-8.12.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 夢ナビホームページ，大学で極める学問発見サイト，血液を“聞いて”診断する？命を支える“音”のヒ

ミツ，2025.8.

3) 社会活動への参加協力

1. 子ども向け実験教室開講，担当メンバー，坂井輪地区公民館，2025.8.8.
2. 小学生向け防災教育パンフレット配布，担当メンバー，村上市保内小学校，2025.9.4.
3. 創造たいけんプロジェクト開講，担当メンバー，こども創造センター光と音のホール，2025.10.5.
4. 秋田県臨床検査技師会，「検査と健康展」＆臨床検査技師学校紹介，資料・パンフレット配布担当，秋田県秋田市・イオンスタイル東能代，2025.11.1.
5. 山形県臨床検査技師会，「検査と健康展」＆臨床検査技師学校紹介，資料・パンフレット配布担当，山形県山形市・イオンモール山形南，2025.11.8.
6. わくわくサイエンススクール開講，担当メンバー，新潟医療福祉大学，2025.11.16.
7. 富山県臨床検査技師会，「検査と健康展」＆臨床検査技師学校紹介，資料・パンフレット配布担当，富山県富山市・グランドプラザ，2025.11.16.
8. 新潟県臨床検査技師会，「検査と健康展」＆臨床検査技師学校紹介，資料・パンフレット配布担当，新潟県新潟市・イオンモール新潟亀田インター，2025.12.7.
9. 薬物乱用防止教室開講，担当メンバー，新潟市葛塚小学校，2026.2.26.

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県臨床工学技士会（理事），日本血液浄化技術学会（国際委員）

8 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，若手研究，バスキュラーアクセスの非侵襲機能診断を目的とした生体音分析方法に関する研究，研究代表者
2. 2025年度，子どもゆめ基金，わくわくサイエンススクール～からだの中をのぞいてみよう！～，担当者
3. 2025年度，子どもゆめ基金，わくわくサイエンススクール～色のふしぎ～，担当者
4. 2025年度，子どもゆめ基金，わくわくサイエンススクール～地球にやさしい環境にしよう～，担当者
5. 2025年度，子どもゆめ基金，わくわくサイエンススクール～音のふしぎ～，担当者

2) 受賞，学位取得，資格取得

第51回日本血液浄化技術学会学術大会・総会　グラント賞（2025.04），第64回日本生体医工学会大会CEセッション　臨床工学技士研究発表　最優秀賞（2025.06），日本血液透析技術学会　国際学会トラベルグラント受賞（2025.10）

3) 学外兼務講師等

1. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校，病態学Ⅴ，2025.10-12.

9 学内委員会活動　広報委員会，学生委員会，交通安全委員会

氏名：阿部　拓也

1 研究題目　超音波診断用造影剤の生体応答，共役リノール酸内服時の生体反応，超音波技術の他分野応用

2 著書

1. 阿部拓也．あのとき教えてくれた生理学．1版．Kindle Pablish（ISBN: 979-8280963184）；2025：1-177.
2. 阿部拓也．あのとき教えてくれた病態生理学．1版．Kindle Pablish（ISBN: 979-8291105603）；2025：1-314.
3. 阿部拓也，戸澤祐貴．これから学ぶ心電図～世界一やさしい教科書～．1版．Kindle Pablish（ISBN: 979-8268076349）；2025：1-112.
4. 阿部拓也，ら．2025年度第1回統一模擬試験　問題・解説集．一般社団法人日本臨床工学技士施設協議会；2025：1-12.

5. 阿部拓也，ら．2025年度第２回統一模擬試験　問題・解説集．一般社団法人日本臨床工学技士施設協議会；2025：1-12.
6. 阿部拓也，ら．2025年度第３回統一模擬試験　問題・解説集．一般社団法人日本臨床工学技士施設協議会；2025：1-12.

3　論文

1. Sato Y, Mothoishi E, Kakuba R, Nagatsuka Y, Abe T, Fujii Y. Pharmacokinetics of Dexmedetomidine in an In Vitro Circuit Model and In Vivo Extracorporeal Membrane Oxygenation Rat Model. Cureus. 2025; 82165.
2. Sato Y, Mothoishi E, Kakuba R, Nagatsuka Y, Abe T, Fujii Y. Pharmacokinetics of midazolamand hepatic cytochrome P450 3Aactivity in an in vivo extracorporealmembrane oxygenation rat model. Scientific Reports. 2025; 15: 19363.
3. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．20歳代健常者における脂肪肝診断のための超音波減衰イメージングの最適カットオフ値の検討．医学検査．2026; 75(2): 289-296.
4. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．Shear wave elastographyの正確性を高める測定温度と安定化判定．医学検査．2026（印刷中）．（Accept 2026.3.13）

4　学会等研究発表

1. 阿部拓也，渡邊博昭，藤井豊．共役リノール酸によるNASH病変の新たな予防・治療法の創出．第74回日本医学検査学会（大阪）．2025.5.
2. 戸澤祐貴，阿部拓也．診断距離の変化が造影効果の減衰時間に及ぼす影響の検討．第74回日本医学検査学会（大阪）．2025.5.
3. 増子弘明，高橋義光，森田邦恵，阿部拓也，藤井豊．内視鏡自動洗浄消毒後の送気追加が清浄度に及ぼす影響．第35回日本臨床工学会（大阪）．2025.4.
4. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．青年期における脂肪肝検出のためのATIの最適カットオフ値の検討．第50回日本超音波検査学会（横浜）．2025.6.
5. 戸澤祐貴，阿部拓也，藤井豊．造影超音波検査における診断距離とMI値の相関性に関する検討．第50回日本超音波検査学会（横浜）．2025.6.
6. 小根山慶汰，阿部拓也，塙晴雄，岡本優美，藤本知臣，山代幸哉，越智元太．低酸素下運動による認知疲労に脳内トリプトファン流入が関わるか．第79回体力医学会（滋賀）．2025.9.
7. 佐藤雄己，元石恵里奈，角場里菜，永塚由佳，阿部拓也，藤井豊．Midazolamの薬物動態に及ぼす体外式膜型人工肺の影響．日本集中治療医学会（福岡）．2025.9.
8. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．SWEによる運動後筋弾性変化の評価とトレーニング再開時期の探索－DOMSピーク・超回復との関連－．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
9. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．SWEの再現性を高める温度管理と安定化判定－連続走査における温度ドリフトの定量と一次補正－．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
10. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，塙晴雄，渡邊博昭，藤井豊．超音波診断用造影剤投与による炎症応答の誘導とTLR-NF-κB経路の関与．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
11. 戸澤祐貴，阿部拓也，藤井豊．マイクロバブル造影剤の診断距離による造影効果の非線形延長現象の検討．超音波診断用造影剤投与による炎症応答の誘導とTLR-NF-κB経路の関与．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
12. 市井薪，阿部拓也，藤井豊，佐藤晶子．継続的なプロテインサプリメントの摂取が肝臓機能及び腎臓機能に及ぼす影響．新潟医療福祉学会（新潟）．2025.10.
13. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．上腕二頭筋への抵抗運動後におけるSWE変化とDOMSピーク・回復との関係．日本臨床衛生検査技師会第12回北日本支部学会（新潟）．2025.11.
14. 金山璃花，戸澤祐貴，阿部拓也．20歳代健常者における脂肪肝診断のための超音波減衰イメージングの検討．日本臨床衛生検査技師会第12回北日本支部学会（新潟）．2025.11.

15. 戸澤祐貴，阿部拓也，藤井豊．フラッシュモードにおけるマイクロバブルの破壊効率の深度依存性-造影超音波下ファントムモデルにおける定量解析-．日本臨床衛生検査技師会第12回北日本支部学会（新潟）．2025.11.
16. 畔上公子，阿部拓也，藤井豊．ホルマリン固定後アルコール置換による核酸品質への影響．日本臨床衛生検査技師会第12回北日本支部学会（新潟）．2025.11.
17. 川村宏樹，阿部拓也，齋藤幸，渡邊博昭．ダラツムマブによる間接的抗グロブリン検査の汎凝集を回避する新しい方法の確立．日本臨床衛生検査技師会第12回北日本支部学会（新潟）．2025.11.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟県臨床検査技師会（執行理事，事務局次長），日本臨床検査技師連盟（青年部執行部員）日本臨床衛生検査学会，日本超音波医学会，日本超音波検査学会，日本生理学会

2) 学術集会の主催

1. 第12回医学検査学会北日本支部学会，事務局次長，新潟市，2025.11.15-11.16.
2. 第25回新潟医療福祉学会，実行委員，新潟市，2025.10.25.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第12回医学検査学会北日本支部学会，一般演題査読，新潟市，2025.11.15-11.16.
2. 第12回医学検査学会北日本支部学会，教育演題査読，新潟市，2025.11.15-11.16.
3. 第12回医学検査学会北日本支部学会，学生フォーラム　座長・講演，新潟市，2025.11.15-11.16.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー，講座９，あなたが受けてる健康診断！”ここ”を見ています！，講師，市民，新潟市（オンライン），2025.4.1-2026.3.31.
2. 医療×テクノロジー！ 超音波でカラダをのぞいてみよう 新潟県立長岡向陵高等学校，講師，2025.6.17.
3. いざ！フォアグラ予防！ 未来のまちづくり，新潟市北区，講師，2025.8.29.
4. 同窓会集会講演，第２回NUHW臨床技術学科同窓会集会，講師・座長，2025.9.13.
5. 病気を見抜く！命をつなぐ！～臨床検査技師・臨床工学技士の魅力～，新潟県立新井高等学校，講師，2025.10.23.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県臨床検査技師会　通常総会，実務委員，新潟ユニゾンプラザ，2025.5.25.
2. 日本臨床検査技師会　タスクシフト・シェア，実務委員，新潟大学保健学科，2025.6.29.
3. 令和７年度新潟県臨床検査技師会施設運営管理者協議会，実務委員，新潟市・新潟アートホテル，2025.8.23.
4. 第２回NUHW臨床技術学科同窓会集会，実務委員・実行委員長，新潟市・ホテルイタリア軒，2025.9.13.
5. HbA1c測定会，実務委員，新潟市・新潟大学まちなかキャンパストキメイト，2025.10.18.
6. 日本医学検査学会北日本支部学会，実務委員，新潟市・朱鷺メッセ，2025.11.15-11.16.
7. 検査と健康展2025，実務委員，新潟市・新潟亀田イオン，2025.12.7.
8. クリニック医療支援，超音波検査業務，新潟市・関屋田町クリニック，2025.4.1-2026.3.31.
9. 健診医療支援，超音波検査業務，新潟市・新潟健診プラザ，2025.6.1-2026.3.31.
10. 健診医療支援，超音波検査業務，新潟市・西新潟健診プラザ，2025.6.1-2026.3.31.
11. こども園保護者代表，代表，新潟市・新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園，2025.4.1-2026.3.31.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

日本臨床検査技師会　タスクシフト・シェア，実務委員，新潟大学保健学科，2025.6.29.

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本臨床検査技師連盟（施設会計責任者代理，青年部執行部員），日本臨床衛生検査技師会（施設担当連絡員），新潟県臨床検査技師会（施設担当連絡員），新潟県臨床検査技師会（広報部・ニュース委員，災害対策委員，公益委員，青年部委員）

7　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

第50回日本超音波検査学会　優秀論文賞（2025.6.15）

2) 学外兼務講師等

1.　三条看護・医療・歯科衛生専門学校，非常勤講師（病態生理学），2025.10-2026.3.

8　学内委員会活動　学生委員会，交通安全委員会，教務委員会

氏名：畔上　公子

1　研究題目　肺癌遺伝子異常を有する粘液産生性肺腺癌の臨床的細胞学的研究，ホルマリン固定組織に対する核酸品質，脂肪肝に関する組織評価

2　論文

1.　畔上公子．肺癌遺伝子異常を有する粘液産生性肺腺癌の臨床的細胞学的研究，新潟大学保健学雑誌，22(1)，（査読あり），（印刷中）

3　学会等研究発表

1.　畔上公子，桑原直子，神田循吉，中川沙織．高脂肪高ショ糖食マウス（肥満モデル）の病態変化，第25回新潟医療福祉学会　学術集会，2025.10.25.
2.　畔上公子，阿部拓也，藤井豊．ホルマリン固定後アルコール置換による核酸品質への影響．令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会（第13回）．2025.11.15-11.16.
3.　畔上公子．FFPE 検体に対応したリアルタイムRT-PCR法によるJAZF1::SUZ12融合遺伝子検出系の確立と臨床的意義，第36回生物試料学会　学術集会，2026.3.5-3.6.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉大学学会，新潟県臨床検査技師会（副会長，染色体遺伝子部門学術部門長，表彰委員，篠川至賞表彰委員，災害対策委員），新潟県細胞検査士会（副会長），新潟県臨床細胞学会（委員），日本臨床細胞学会（評議員），日本臨床細胞学会（認定試験作成委員），日本遺伝子診療学会（体細胞検査委員），新潟医療福祉学会，日本臨床検査学教育学会，日本臨床一般検査学会，生物試料分析科学会，染色体遺伝子検査学会，教育協議会

2) 学術集会の主催

1.　新潟県臨床細胞学会学術集会，実務委員，新潟市，2025.7.5.
2.　新潟県細胞検査士会，令和７年度新潟県細胞検査士会総会・研修会，実務委員，新潟市，2025.7.19.
3.　新潟医療福祉大学学会，第25回新潟医療福祉学会　学術集会，実務委員，新潟市，2025.10.25.
4.　日本臨床検査技師会，令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会，副学会長，新潟市，2025.11.13-11.15.

3) 学会等でのその他の活動

1.　新潟県臨床検査技師会，技師会誌解説 篠川至賞について，執筆，2025.4.
2.　新潟県臨床検査技師会，総会，実務委員，新潟市，2025.5.31，半日
3.　日本臨床検査技師会（厚労省委託事業），第12会タスクシフトシェア研修会，実行委員長，新潟市，2025.6.29，1日
4.　日本臨床検査技師会，令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会，査読委員，６題，2025.7.
5.　新潟県細胞検査士会，令和７年度細胞検査士育成セミナー，講師，新潟市，2025.8.23，半日
6.　令和７年度施設管理者協議会・研修会，実務委員，新潟市，2025.8.23，半日
7.　新潟県臨床検査技師会，施設管理者管理運営協議会，実行委員長，新潟市，2025.8.29，半日
8.　新潟県細胞検査士会，令和７年度細胞検査士育成セミナー，実務委員，新潟市，2025.9.6，半日

9. 細胞検査士会，第90回細胞検査士ワークショップ，鏡検実習，実務委員，新潟市，2025.9.27，1日
10. 細胞検査士会，第90回細胞検査士ワークショップ，鏡検実習，実習講師，新潟市，2025.9.27，1日
11. 中高生進学ガイダンス，中高生進学ガイダンス，実行責任者，日本臨床検査技師会，新潟県内高校生，新潟市朱鷺メッセ，2025.11.15，半日
12. 中高生進学ガイダンス，中高生進学ガイダンス，講師，日本臨床検査技師会，新潟県内高校生，新潟市朱鷺メッセ，2025.11.15，半日
13. 新潟県細胞検査士会，令和７年度細胞検査士育成セミナー，実務委員，新潟市，2025.11.22，半日

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 中高生進路支援ガイダンス，高校生進路支援ガイダンス，実行責任者，日本臨床衛生検査技師会，新潟県内高校生，新潟市朱鷺メッセ，2025.11.15，半日
2. 中高生進路支援ガイダンス，高校生進路支援ガイダンス，講師，日本臨床衛生検査技師会，新潟県内高校生，新潟市朱鷺メッセ，2025.11.15，半日
3. 新潟県細胞検査士会，令和７年度細胞検査士育成セミナー，講師，新潟市，2025.8.23，半日
4. 細胞検査士会，第90回細胞検査士ワークショップ，鏡検実習，実習講師，新潟市，2025.9.27，1日
5. 中高生進学ガイダンス，中高生進学ガイダンス，講師，日本臨床検査技師会，新潟県内高校生，新潟市朱鷺メッセ，2025.11.15，半日

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. WEB，新潟県臨床検査技師会理事就任，新会長に桑原氏，副会長に畔上・田端・小林の３氏　新潟技師会，MTJONE，紙WEB掲載，7.7.
2. TV，新潟大学卒業・修了式，NST出演・修了式インタビュー，3.22.

3) 社会活動への参加協力

1. 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB），ISO 15189審査，技術審査員，豊橋市，2025.4.20-5.20，1.5日
2. 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB），ISO 15189審査，技術審査員，大阪市，2025.6.30-7.31，1.5日
3. 新潟県細胞検査士会，令和７年度 LOVE49県内教育機関への資料配布，実務委員，五泉市・五泉病院，2025.8.2，半日
4. 糖尿病イベント，糖尿病イベント，糖尿病検査，糖尿病を知る集い，実務委員，一般市民，新潟市ときめいと，2025.10.18，半日
5. 中高生進路支援ガイダンス，高校生進路支援ガイダンス，実行責任者，日本臨床衛生検査技師会，新潟県内高校生，新潟市朱鷺メッセ，2025.11.15，半日
6. 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB），ISO 15189審査，技術審査員，神戸市，2025.10.7-11.7，1.5日
7. 新潟県臨床検査技師会，検査と健康展in新潟，実務委員，新潟市，イオン南，2025.12.7，1日
8. 新潟県細胞検査士会，令和７年度 LOVE49子宮がん啓蒙活動，実務委員，新潟市，イオン南，2025.12.7，半日
9. にいがた骨髄バンク応援団，骨髄バンク説明，骨髄バンク説明員，新潟市，新潟医療福祉大学，2025.11.21，半日
10. にいがた骨髄バンク応援団，骨髄バンク説明，骨髄バンク説明員，新潟市，新潟医療福祉大学，2025.12.8，半日
11. にいがた骨髄バンク応援団，骨髄バンク説明，骨髄バンク説明員，新潟市，新潟医療福祉大学，2025.12.8，半日
12. 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB），ISO 15189審査，技術審査員，市川市，2026.1.25-2.26，1.5日

13. 子供化学教室，子ども食堂，80名に対するバスボム（40名）人体模型説明（40名），講師，新津市，明願寺，2026.2.16，半日

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟県検診精度管理調査委員会（委員）

5) 職能団体（協会，士会等）の委員
新潟県臨床検査技師会（副会長），新潟県臨床検査技師会（災害対策委員），新潟県臨床検査技師会（染色体遺伝子学術部門長），新潟県臨床検査技師会（篠川至賞表彰委員），新潟県臨床検査技師会（新潟県知事賞選考委員長），新潟県臨床検査技師会（表彰委員），新潟県臨床検査技師会（公益活動委員），新潟県細胞検査士会（副会長），日本臨床検査技師会（北日本支部染色体遺伝子学術部門員），新潟県臨床細胞学会（委員），日本臨床細胞学会（評議員），日本臨床細胞学会（認定試験作成委員），日本遺伝子診療学会（体細胞検査委員），細胞検査士会（全国）（選挙委員）

6　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得
博士 保健学（2026.3.23），保護具着用管理者（2025.5.16）

2) 学内部活動の実績
1. 骨髄バンクサークル設営，設立打ち合わせ，顧問手続き，2025.11.22，半日
2. 骨髄バンク説明，新潟医療福祉大学，2025.12.8（説明員），半日
3. 骨髄バンクサークル設立　活動打ち合わせ，新潟医療福祉大学，2026.1.6，半日

3) 学外兼務講師等
1. 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB），ISO 15189審査，技術審査員，豊橋市，2025.4.20-5.20，1.5日
2. 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB），ISO 15189審査，技術審査員，大阪市，2025.6.30-7.31，1.5日
3. 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB），ISO 15189審査，技術審査員，神戸市，2025.10.7-11.7，1.5日
4. 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB），ISO 15189審査，技術審査員，市川市，2026.1.25-2.26，1.5日

7　学内委員会活動　化学物質委員（委員），動物・遺伝子・化学物質 合同委員会（委員）

氏名：前山　佳彦

1　研究題目　新潟県におけるβ-ラクタマーゼ産生菌の実態調査，トイレットペーパーホルダーに潜む細菌の調査～スマホを置く行為の危険性を考える～，グラム染色の水洗工程での水質の影響

2　学会活動

1) 所属学会　新潟県臨床検査技師会（臨床微生物部門評議員），新潟県臨床検査技師会（検査研究部門評議員），日本臨床微生物学会（学術会員）

2) 学術集会の主催
1. 第１回新臨技臨床微生物部門研修会，準備委員，新潟市，2025.7.27.
2. 第２回新臨技臨床微生物部門研修会，準備委員，新潟市，2026.1.25.

3) 学会等でのその他の活動
1. 第１回新臨技臨床微生物部門研修会，座長，新潟市，2025.7.27.

3　社会活動

1) 公開講座・講演会等
1. わくわくサイエンススクール～感染症を広めない！うつさない！～，実務，臨床技術学科，小学１～６年生，新潟医療福祉大学，2025.11.6.

氏名：山城　翼

1　研究題目　体外循環中の酸化ストレスと炎症反応の解明

2　学会等研究発表

1. 山城翼．d-ROMs testおよびBAP testを用いた体外循環中の酸化ストレス評価 ～単施設前向き観察研究～．第50回日本体外循環技術医学会大会（東京都千代田区），2025.10.13.【一般演題口述】
2. 山城翼．医療機器安全の進歩と医療現場に潜む課題 人工心肺装置を用いた体外循環の経験から．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.【シンポジウム】

3　学会活動

1) 所属学会　日本体外循環技術医学会（関東甲信越地方会幹事），日本人工臓器学会（評議員），アジア環太平洋人工臓器学会，日本臨床工学技士会，千葉県臨床工学技士会，日本心肺補助学会，日本心筋保護研究会，Chiba society of perfusion technique，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 日本体外循環技術医学会，第31回日本体外循環技術医学会関東甲信越地方会大会，大会実行委員，東京都千代田区，2025.4.19・６ヵ月
2. 日本体外循環技術医学会，第50回日本体外循環技術医学会大会，大会実行委員，東京都千代田区，2025.10.12-10.13・2日間

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本体外循環技術医学会，第50回日本体外循環技術医学会大会，シンポジウムファシリテーター，東京都千代田区，2025.10.12・3日間
2. 日本体外循環技術医学会，関東甲信越会大会，一般演題査読員，2025.12・１ヵ月

4　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 北貝塚MBC，審判部，千葉市，2025.4.1-2026.3.31.
2. 千葉市ミニバスケットボール協会，千葉市交歓大会（秋），試合審判，千葉市，2025.11.3・1日間

5　学内委員会活動　キャリア支援センター運営委員会（委員），キャリア教育部会（委員）

氏名：涌井　杏奈

1　研究題目　スマートフォンやエレベータボタンに付着する微生物のプロファイリング，ペットボトル飲料物の保管に関する微生物学的研究

2　著書

1. 涌井杏奈，佐藤拓一．「つながる研究」．2025年版．新潟．新潟大学社会連携推進機構；2025.5：#156
2. 涌井杏奈，佐藤拓一．「つながる研究」．2026年版．新潟．新潟大学社会連携推進機構；2026.3：p.43

3　論文

1. Imai M*, Kawachi M*, Wakui A* (*Co-first authors), Miyazawa M*, Sekiguchi M, Kato Y, Sato H, Naruse Y, Asano N, Morohashi M, Sano H, Abiko Y, Washio J, Tanaka K, Takahashi N, Sato T. Microbial profiling of bold green tea bottled beverages: A screening experiment. Journal of Oral Biosciences 67(4): Article Number 100697 (5 pages).
2. Kawachi M*, Wakui A* (*Co-first authors), Imai M, Sekiguchi M, Sato H, Kato Y, Okabe R, Abe T, Takahashi N, Kaku N, Miyazawa M, Sato A, Naruse Y, Kubo N, Misumi A, Sano H, Abiko Y, Washio J, Tanaka K, Takahashi N, Sato T. Microbiota in green tea beverages remaining in plastic bottles after direct drinking. Microbiology and Immunology 70(3): 182-188.

4　学会等研究発表

1. 涌井杏奈，加藤優希，河内美帆，今井真奈美，佐藤遥菜，成瀬悠香，諸橋もも子，淺野七海，久保七海，三角彩華，諸橋もも子，安彦友希，鷲尾純平，佐藤拓一．スマホ画面やエレベータボタンから検出される微生物バイオフィルム解析．第74回日本口腔衛生学会学術大会（新潟），2025.5.16-5.18.（協力学術団体）

2. 涌井杏奈，佐藤拓一．臨床検査学分野の若手女性研究者が行っている細菌学研究の一例紹介．第98回日本細菌学会総会（金沢），2025.5.31.（協力学術団体）
3. Wakui A, Kato Y, Sekiguchi M, Kawachi M, Sato H, Naruse Y, Kubo N, Misumi A, Sato T. Profiling of the microbiota on the surface of smartphone touchscreens, elevator buttons, and human fingers. First RIKEN-ISM (International Society of Microbiota) Meeting: Targeting Microbiota (Tokyo), 2025.10.8-10.9.
4. 涌井杏奈，加藤優希，佐藤拓一．エレベータボタンに付着する微生物のプロファイリング －分子生物学的解析－．第25回 新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2025.10.25.
5. 今井真奈美，河内美帆，涌井杏奈，佐藤遥菜，加藤優希，岡部璃佳，成瀬悠香，諸橋もも子，淺野七海，鷲尾純平，佐藤拓一．濃い緑茶ペットボトル飲料の微生物プロファイリング．第74回日本口腔衛生学会学術大会（新潟），2025.5.18.
6. 成瀬悠香，佐藤遥菜，河内美帆，涌井杏奈，今井真奈美，加藤優希，岡部璃佳，諸橋もも子，淺野七海，鷲尾純平，佐藤拓一．ミルク添加のペットボトル珈琲および紅茶飲料の微生物プロファイリング．第74回日本口腔衛生学会学術大会（新潟），2025.5.16-5.18.
7. 今井真奈美，河内美帆，涌井杏奈，佐藤遥菜，加藤優希，岡部璃佳，成瀬悠香，淺野七海，鷲尾純平，佐藤拓一．各種メーカーの濃い緑茶ペットボトル飲料内の細菌プロファイリング：スクリーニング実験．第98回日本細菌学会総会（金沢），2025.5.30.
8. 関口未来，佐野拓人，涌井杏奈，加藤優希，河内美帆，今井真奈美，佐藤遥菜，岡部璃佳，成瀬悠香，佐藤拓一．機能性不織布マスクに付着・生息する細菌バイオフィルム解析．第98回日本細菌学会総会（金沢），2025.5.30.
9. 佐藤遥菜，河内美帆，涌井杏奈，今井真奈美，加藤優希，岡部璃佳，成瀬悠香，諸橋もも子，淺野七海，佐藤拓一．ペットボトル紅茶および珈琲飲料の細菌プロファイリング：ミルク添加の影響．第98回日本細菌学会総会（金沢），2025.5.30.
10. 加藤優希，涌井杏奈，関口未来，河内美帆，今井真奈美，佐藤遥菜，岡部璃佳，成瀬悠香，鷲尾純平，佐藤拓一．スマホ画面およびエレベータボタンに付着・生息する細菌バイオフィルム解析．第98回日本細菌学会総会（金沢），2025.5.30.
11. 小田直太郎，加藤優希，関口未来，涌井杏奈，佐藤拓一．使用済みの機能性不織布マスクから検出された細菌の分析．第98回日本細菌学会総会（金沢），2025.5.31.
12. 五十嵐優翔，小田直太郎，加藤優希，涌井杏奈，佐藤拓一．スマートフォン画面から検出された細菌の分析．第98回日本細菌学会総会（金沢），2025.5.31.
13. Imai M, Kawachi M, Wakui A, Sekiguchi M, Sato H, Kato Y, Okabe R, Naruse Y, Asano N, Morohashi M, Sano H, Abiko Y, Washio J, Sato T. Profiling of microbiota in catechin-enriched green tea bottled beverages. The 103rd General Session & Exhibition of the IADR (Barcelona, Spain), 2025.6.27.
14. Sekiguchi M, Sano H, Wakui A, Kawachi M, Imai M, Maruyama S, Kato Y, Okabe R, Sato H, Naruse Y, Ohkawa A, Abiko Y, Washio J, Sato T. Profiling of microbiota on the multifunctional non-woven fabric masks surfaces. The 103rd General Session & Exhibition of the IADR (Barcelona, Spain), 2025.6.27.
15. 河内美帆，佐藤遥菜，涌井杏奈，関口未来，加藤優希，佐藤拓一．紅茶およびコーヒー飲料の微生物プロファイリング：ミルク添加の影響．第43回日本臨床化学会甲信越支部総会（松本），2025.7.5.
16. 関口未来，佐野拓人，河内美帆，涌井杏奈，加藤優希，佐藤拓一．機能性不織布マスクに付着する微生物バイオフィルム．第43回日本臨床化学会甲信越支部総会（松本），2025.7.5.
17. 佐藤遥菜，河内美帆，涌井杏奈，加藤優希，安彦友希，鷲尾純平，高橋信博，佐藤拓一．紅茶およびコーヒー飲料の微生物プロファイリング．『革新的食学拠点』2025年度第1回合同ミーティング（オンライン）セッションII「食品と微生物」，2025.7.29.
18. Sekiguchi M, Wakui A, Kawachi M, Sato H, Kato Y, Sano H, Abiko Y, Washio J, Takahashi N, Sato T.

Microbiota profiles on the multifunctional non-woven fabric masks surfaces. Interface Summer Seminar 2025 (The 20th International Workshop on Biomaterials in Interface Science) (Sendai), 2025.8.1.

19. Sato H, Kawachi M, Wakui A, Sekiguchi M, Kato Y, Sano H, Abiko Y, Washio J, Takahashi N, Sato T. Microbiota profiling of the remaining bottled black tea and coffee beverages: Effects of adding milk. Interface Summer Seminar 2025 (The 20th International Workshop on Biomaterials in Interface Science) (Sendai), 2025.8.1.
20. 加藤優希，涌井杏奈，佐藤拓一．エレベータボタンに付着している微生物バイオフィルム解析：手指やスマートフォン画面との比較．第19回日本臨床検査学教育学会学術大会（岡山），2025.8.21.
21. 佐藤遥菜，河内美帆，涌井杏奈，加藤優希，佐藤拓一．糖質・ミルク添加ペットボトルコーヒー・紅茶飲料の微生物プロファイリング．第19回日本臨床検査学教育学会学術大会（岡山），2025.8.21.
22. 加藤優希，涌井杏奈，関口未来，河内美帆，佐藤遥菜，成瀬悠香，久保七海，三角彩華，佐藤拓一．スマートフォン画面およびエレベータボタンから検出される細菌の解析について．第89回日本細菌学会北海道支部学術総会（旭川），2025.8.30.
23. Kawachi M, Sato H, Wakui A, Kato Y, Sano H, Abiko Y, Washio J, Sato T. Microbiota profiling of the remaining bottled black tea and coffee beverages. The 67th Annual Meeting of the JAOB (Kitakyushu), 2025.9.6.
24. 関口未来，涌井杏奈，河内美帆，佐野拓人，鷲尾純平，佐藤拓一．口唇微生物バイオフィルムの分子生物学的解析：ワセリンリップ塗布の影響．第67回歯科基礎医学会学術大会（北九州），2025.9.7.
25. Kawachi M, Sato H, Wakui A, Kato Y, Sano H, Abiko Y, Washio J, Sato T. Microbiota profiling of the remaining milk black-tea and coffee bottled-beverages. IADR APR 2025 (New Delhi, India), 2025.9.20.
26. Kato Y, Wakui A, Sekiguchi M, Kawachi M, Sato H, Naruse Y, Kubo N, Misumi A, Sano H, Abiko Y, Washio J, Sato T. Microbiota profiling on the surface of elevator buttons and fingers. IADR APR 2025 (New Delhi, India), 2025.9.20.
27. 関口未来，涌井杏奈，加藤優希，河内美帆，佐藤遥菜，成瀬悠香，久保七海，三角彩華，佐野拓人，佐藤拓一．機能性マスクに付着・生息する微生物バイオフィルム：口唇の微生物叢との比較．日本医療検査科学会第57回大会（横浜），2025.10.4.
28. 加藤優希，涌井杏奈，関口未来，河内美帆，佐藤遥菜，成瀬悠香，久保七海，三角彩華，佐藤拓一．スマホやエレベータボタン表面から検出される細菌のプロファイリング．第108回日本細菌学会関東支部総会（群馬），2025.10.17.
29. 成瀬悠香，佐藤遥菜，河内美帆，涌井杏奈，加藤優希，久保七海，三角彩華，佐藤拓一．飲み残しを想定した，ミルク珈琲・紅茶ペットボトル飲料の細菌プロファイリング：唾液を混入させたモデル実験．第108回日本細菌学会関東支部総会（群馬），2025.10.17.
30. 関口未来，岡部璃佳，今井真奈美，涌井杏奈，加藤優希，河内美帆，佐藤遥菜，成瀬悠香，久保七海，三角彩華，佐藤拓一．使用済み機能性マスク上の細菌 vs. 口唇上の細菌（バイオフィルムの分子生物学的解析），新潟大学・院生会（第５回）研究発表会（新潟），2025.11.15.
31. 小田直太郎，阿部峰士，関口未来，加藤優希，涌井杏奈，佐藤拓一．使用済みの機能性不織布マスクから検出された細菌の分析．令和７年度N-Step新潟・成果発表会（新潟）2025.12.7.
32. 五十嵐優翔，伊藤菜々，小田直太郎，加藤優希，阿部峰士，涌井杏奈，佐藤拓一．スマートフォン／タブレット画面に付着・生息する細菌：手指との比較．令和７年度N-Step新潟・成果発表会（新潟）2025.12.7.
33. 佐藤拓一，涌井杏奈，佐野拓人，河内美帆，阿部峰士，関口未来，今井真奈美，加藤優希，佐藤遥菜，岡部璃佳，成瀬悠香，久保七海，三角彩華．夏季長期休暇を活用した，小中学生向けの科学体験実験「大学の研究室で身近な細菌について一緒に調べてみよう！」．新潟大学 附属学校部・教育学部・教職大学院・

全学教職支援センター合同FD「附属校園×大学 研究交流ポスターセッション」（新潟），2025.12.18.

34. 関口未来，今井真奈美，岡部璃佳，涌井杏奈，加藤優希，佐藤遥菜，佐藤拓一．口唇上の細菌バイオフィルムのプロファイリング：ワセリンリップ塗布の影響．第99回日本細菌学会総会（広島），2026.3.20.
35. 加藤優希，涌井杏奈，関口未来，佐藤遥菜，佐藤拓一．スマートフォン画面から検出される細菌のプロファイリング：UV照射の有効性について．第99回日本細菌学会総会（広島），2026.3.20.
36. 五十嵐優翔，伊藤菜々，小田直太郎，加藤優希，涌井杏奈，佐藤拓一．スマートフォン／タブレット画面に付着・生息する細菌：手指との比較．第99回日本細菌学会総会（広島），2026.3.22.
37. Kawachi M, Sato H, Wakui A, Sekiguchi M, Kato Y, Naruse Y, Kubo N, Misumi A, Abiko Y, Washio J, Sato T. Microbial screening in oolong tea beverages remaining in plastic bottles. The 104th General Session & Exhibition of the IADR (San Diego, USA), 2026.3.27.
38. Sato H, Kawachi M, Wakui A, Sekiguchi M, Kato Y, Naruse Y, Abiko Y, Washio J, Sato T. Profiling of microbiota in the remaining bottled black-tea and coffee-beverages. The 104th General Session & Exhibition of the IADR (San Diego, USA), 2026.3.27.

5　学会活動

1) 所属学会　日本臨床化学会，日本臨床化学会甲信越支部（幹事），歯科基礎医学会，日本口腔衛生学会，日本細菌学会，大学女性協会

2) 学術集会の主催

1. 第25回新潟医療福祉学会学術集会，実行委員，新潟市，2025.10.25.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 中高生向けセミナー『知るって，面白い！』，「身近にいる微生物？ペットボトルの飲み残しから見る細菌の世界」，講師，新潟医療福祉大学，高校生10名，朱鷺メッセ，2025.5.25.
2. 「未来のまちづくり」事業2025心も体も健幸プロジェクト，「日常に潜む微生物の実態」，健康コースの講師，大学・新潟市北区連携，参加者11名，ラグーナ豊栄，2025.7.25.
3. 国立青少年教育振興機構・子どもゆめ基金，科学体験活動，インストラクター，新潟大学，県内の小中学生10名，新潟大学医学部保健学科，2025.10.18.
4. 【新大WeeK・特別企画】，「飲みかけのペットボトル内の細菌を測ってみよう！」，インストラクター，新潟大学，参加者50名，古町ルフル，2025.10.26.

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025-2026年度　科研費　若手研究，スマホ画面や不織布マスク等を介しての微生物伝播：シンバイオシスという新概念，涌井杏奈
2. 2025年度　佐々木環境技術振興財団・試験研究費助成，ペットボトルの長期保管・備蓄・活用に向けた食品科学的研究，涌井杏奈

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医学部保健学科，医学検査機器概論，2025.10.17.
2. 新潟大学医学部保健学科，性と個体発生の科学，2025.4.22.
3. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校，病態学Ⅳ，2025.12.1-2026.2.6.（全15コマ）

8　学内委員会活動　広報委員会，国際交流センター運営委員会

氏名：増子　弘明

1　研究題目　消化器内視鏡の清浄度評価に関する研究

2　著書

1. 増子弘明，他；一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会試験委員会編．2025年度第三回統一模擬試験（2026.1.23-1.26.実施）午後問題．2025年：13，正解と解説（午後）．2025年：21-22.

3　学会等研究発表

1. 増子弘明，髙橋良光．洗浄後の内視鏡チャンネル内にAERによる単独の送気工程の追加が清浄度評価に与える影響．第93回日本消化器内視鏡技師学会（札幌市），2025.5.9-5.10.
2. 増子弘明，髙橋良光．内視鏡自動洗浄消毒後の送気追加が清浄度に及ぼす影響．第35回日本臨床工学会（大阪府），2025.5.17-5.18.
3. 増子弘明，髙橋良光，田崎友彬，亀岡空雅．内視鏡スコープのリプロセス工程に自動洗浄消毒装置によるマニュアル送気機能の追加が微生物学的評価に与える影響と今後の課題．第39回福島県消化器内視鏡技師研究会（福島市），2025.8.23.
4. 増子弘明，髙橋良光，田崎友彬，亀岡空雅．内視鏡スコープ内部管路内の清浄度評価に乾燥化プロセスの追加が与える影響．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　日本生体医工学会，日本医療機器学会，日本臨床工学技士会，日本臨床衛生検査技師会，日本消化器内視鏡技師会，福島県臨床工学技士会，新潟県臨床検査技師会

2) 学術集会の主催

1. 第25回新潟医療福祉学会，実行委員，新潟市，2025.10.25・2025.10.22-10.25.

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（C），内視鏡スコープの清浄度評価にAIE蛍光染色法を用いた迅速な清浄度評価方法の確立，研究代表者
2. 2025年度，令和７年度公益財団法人内視鏡医学研究振興財団研究助成（B）賞，内視鏡スコープの簡易洗浄リプロセスの確立とAggregation-Induced Emission蛍光染色法を用いた迅速評価法の提案，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

第25回新潟医療福祉学会奨励賞（2025.10.25），令和７年度公益財団法人内視鏡医学研究振興財団研究助成（B）賞（2026.2.7）

3) 学外兼務講師等

1. ICM国際メディカル専門学校臨床工学技士科，臨床医学総論Ⅱ，2025.5.22-7.10.

6　学内委員会活動　国家試験・資格試験対策委員会

氏名：戸澤　祐貴

1　研究題目　造影超音波検査における造影効果の定量評価，超音波造影剤の生体影響の検討，超音波検査の新たな評価方法の構築

2　著書

1. 阿部拓也，戸澤祐貴．これから学ぶ心電図～世界一やさしい教科書．１版．Kindle Publish；2025：1-112．5
2. 戸澤祐貴，ら．2025年度第１回統一模擬試験　問題・解説集．一般社団法人日本臨床工学技士施設協議会；2025：1-12．5（1.5）
3. 戸澤祐貴，ら．2025年度第２回統一模擬試験　問題・解説集．一般社団法人日本臨床工学技士施設協議会；2025：1-12．5（1.5）
4. 戸澤祐貴，ら．2025年度第３回統一模擬試験　問題・解説集．一般社団法人日本臨床工学技士施設協議会；2025：1-12．5（1.5）

3　論文

1. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．20歳代健常者における脂肪肝診断のための超音波減衰イメージングの最適カットオフ値の検討 医学検査．75(2)（査読あり）
2. 阿部拓也，戸澤祐貴，川村宏樹，渡邊博昭，藤井豊．Shear wave elastographyの正確性を高める測定温

度と安定化判定 医学検査．印刷中（査読あり）

4　学会等研究発表

1. 戸澤祐貴，阿部拓也．診断距離の変化が造影効果の減衰時間に及ぼす影響の検討，日臨技 日本医学検査学会　第74回（大阪市），2025.5.10-5.11.
2. 戸澤祐貴，阿部拓也，藤井豊．造影超音波検査における診断距離とMI値の相関性に関する検討，日本超音波検査学会学術集会　第50回（横浜市），2025.6.14-6.15.
3. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．青年期における脂肪肝検出のためのATIの最適カットオフ値の検討．第50回日本超音波検査学会（横浜），2025.6.14-6.15.
4. 戸澤祐貴，阿部拓也，藤井豊．マイクロバブル造影剤の診断距離による造影効果の非線形延長現象の検討，第25回 新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.
5. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．SWEによる運動後筋弾性変化の評価とトレーニング再開時期の探索－DOMSピーク・超回復との関連－．新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
6. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．SWEの再現性を高める温度管理と安定化判定－連続走査における温度ドリフトの定量と一次補正－．新潟医療福祉学会（新潟），2025.10.25.
7. 戸澤祐貴，阿部拓也，藤井豊．フラッシュモードにおけるマイクロバブルの破壊効率の深度依存性-造影超音波下ファントムモデルにおける定量解析-，令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会　第13回（新潟市），2025.11.14-11.15.
8. 阿部拓也，戸澤祐貴，渡邊博昭，藤井豊．上腕二頭筋への抵抗運動後におけるSWE変化とDOMSピーク・回復との関係．日本臨床衛生検査技師会第12回北日本支部学会（新潟），2025.11.14-11.15.
9. 金山璃花，戸澤祐貴，阿部拓也．20歳代健常者における脂肪肝診断のための超音波減衰イメージングの検討．日本臨床衛生検査技師会第12回北日本支部学会（新潟），2025.11.14-11.15.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本臨床衛生検査技師会，新潟県臨床検査技師会（理事，新潟支部副支部長），日本超音波医学会，日本超音波検査学会，日本臨床検査技師会

2) 学術集会の主催

1. 日本臨床衛生検査技師会，令和７年度日臨技北日本支部医学検査学会　第13回，会場責任者・セミナー責任者など，新潟市，2025.11.15-11.16.
2. 新潟医療福祉学会，第25回 新潟医療福祉学会学術集会，会場責任者・運営・会場設営，新潟市，2025.10.25.

3) 学会等でのその他の活動

1. 令和７年度一般社団法人新潟県臨床検査技師会 新潟支部定期総会，企画・会場準備・案内状送付など，総会会副責任者・会場責任者，新潟市・新潟県立がんセンター，2025.3.1.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. いざ！フォアグラ予防！ 未来のまちづくり，超音波検査実演，希望市民，新潟市北区，2025.8.29.

2) 社会活動への参加協力

1. 第２回新潟医療福祉大学臨床技術学科同窓会，企画・運営・など，実行委員長，新潟市・ホテルイタリア軒，2025.9.13.
2. 新潟県臨床衛生検査技師会，令和７年度第１回新潟支部研修会，企画・運営・会場設営，副責任者・会場責任者，新潟市・新潟県立がんセンター，2025.9.13.
3. HbA1c測定会，実務委員，会場設営・撤去・雑務，新潟市・新潟駅ときめいと，2025.10.18.
4. 新潟県臨床検査技師会，会誌への寄稿・寄稿，新潟市，2025.10.20.
5. 検査と健康展，イベントスタッフ・本学広報活動，会場設営・撤去・雑務，新潟市・イオンモール新潟南，2025.12.7.
6. 新潟県臨床衛生検査技師会，令和７年度第２回新潟支部研修会，企画・運営・会場設営など，副責任

者・会場責任者，新潟市・新潟県立がんセンター，2025.3.1.
7. 一般社団法人新潟縣健康管理協会，超音波検査業務，検査担当者，新潟市，2025.6-2026.3.
8. 一般社団法人新潟県けんこう財団　新潟健診プラザ，超音波検査業務，検査担当者，新潟市，2025.6-2026.3.
9. 一般社団法人新潟県けんこう財団　長岡健康管理センター，超音波検査業務，検査担当者，新潟市，2025.6-2026.3.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員
一般社団法人 新潟県臨床検査技師会（広報・HP委員，青年部委員）

7　学内委員会活動　同窓会委員会，高大医連携委員会

氏名：加藤　君子

1　研究題目　医療系学生の大学志望動機と学校適応感について，音高刺激を用いた事象関連電位（ミスマッチ陰性電位）の検証

2　学会等研究発表
1. 加藤君子．臨床検査技師を目指す学生の「進学動機」と「学校適応感」の検討－学習への動機づけに向けて－，日本臨床検査学教育学会・第19回日本臨床検査学教育学会学術大会（岡山市），2025.8.22.
2. 加藤君子．入学試験方式別にみた医療系大学生の進学動機と学校適応感の関連，新潟医療福祉学会・第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.

3　学会活動
1) 所属学会　日本臨床衛生検査技師会，日本臨床検査学教育学会，日本公認心理師学会，日本不整脈心電学会，日本認知症予防学会

4　社会活動
1) 公開講座・講演会等
1. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー，認知症と向き合う優しさを学ぶ，講師，社会連携推進センター，一般市民，オンライン，2025.8.21・期間未定

5　その他の教育研究活動
1) 受賞，学位取得，資格取得
認定認知症領域検査技師（2025.4.1），認定専門公認心理師（2025.4.1）

6　学内委員会活動　高等教育推進委員会，メンタルヘルス支援室，メンタルヘルス・ハラスメント（相談員）

氏名：齋藤　幸

報告事項なし

氏名：村木　理絵子

報告事項なし

氏名：芳賀　千紗

報告事項なし

（2）視機能科学科

氏名：前田　史篤

1　研究題目　瞳孔視野計による他覚的視野測定法の開発，メラノプシン含有網膜神経節細胞の機能評価，眼精疲労の他覚評価，スポーツビジョンの実践的研究

2　論文

1. 村田憲章，前田史篤，山下力．眼底画像に基づく他覚的回旋偏位の計測．神経眼科．2025; 42 (2): 221-225.（総説）
2. Tatara S, Magara Y, Sasaki T, Maeda F, Murata N, Itagaki K, Handa T, Toda H. Quantitative analysis of ocular deviation under eye occlusion: a descriptive study using the ORTe EYENAC eye-tracking system. BMC Ophthalmology 25: 267, 2025.（査読あり）
3. 辻拓海，多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，八百枝潔，前田史篤．調節麻痺剤点眼前後における調節機能と瞳孔径の変化．神経眼科 42: 317-322，2025.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，辻拓海，前田史篤．Spot Vision Screenerの測定値に対する室内照度の影響．第61回日本眼光学学会総会（名古屋），2025.8.30-8.31.
2. 山際玲音，前田史篤，和田友紀，多々良俊哉．赤外線電子瞳孔計Hitomiruを用いた大学生の相対的瞳孔求心路障害の傾向分析，新潟医療福祉学会第25回学術集会（新潟），2025.10.25.
3. 辻拓海，岸哲志，正条智広，志賀木綿子，岸大介，藤尾愛一郎，前田史篤．視能訓練士教育におけるヒューマンガイドテクニック演習の意義．第66回視能矯正学会（岡山），2025.10.25-10.26.
4. 和田友紀，前田史篤，山際玲音，多々良俊哉，中村誠．電子瞳孔計Hitomiruによる相対的瞳孔求心路障害の評価の再現性，第63回日本神経眼科学会総会（大阪），2025.11.21-11.22.

4　学会活動

1) 所属学会　日本神経眼科学会（評議員）（編集委員），日本眼光学学会（編集委員），日本眼鏡学会（評議員），日本眼科学会，日本視野画像学会，日本視能訓練士協会，日本弱視斜視学会，日本小児眼科学会，日本ロービジョン学会，日本糖尿病眼学会，日本近視学会，日本眼科AI学会，日本老視学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本神経眼科学会学術賞予備審査員
2. 日本視能訓練士協会，研究発表のための基礎知識　1．学術研究とは，講師，オンデマンド配信，2025.8-2027.8.
3. 日本視能訓練士協会，研究発表のための基礎知識　2．研究計画，講師，オンデマンド配信，2025.8-2027.8.
4. 日本視能訓練士協会，基礎教育プログラムI：視能の基礎II視覚機能を評価するための視覚生理学の基礎，講師，オンデマンド配信，2025.8.6-9.10.
5. 第66回日本視能矯正学会，一般口演 視力・視野，座長，岡山，2025.10.25-10.26.
6. 第63回日本神経眼科学会，一般口演 瞳孔・その他，座長，大阪，2025.11.21-11.22.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 夏休みの自由研究2025 in 新潟医療福祉大学，紙コップと虫眼鏡でレンズ付きカメラを作ってみよう，運営責任者，視機能科学科，新潟県内の幼・小学生，新潟医療福祉大学，2025.8.21.
2. 夏休みの自由研究2025 in 新潟医療福祉大学，光と色の不思議を体験してみよう，運営責任者，視機能科学科，新潟県内の幼・小学生，新潟医療福祉大学，2025.8.22.
3. 夏休みの自由研究2025 in 新潟医療福祉大学，万華鏡を作ってみよう，運営責任者・主担当，視機能科学科，新潟県内の幼・小学生，新潟医療福祉大学，2025.8.23.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，受託研究費，調節微動と調節負荷との相関について，研究代表者
2. 2025年度，科研費基盤研究（C），Motion Magnificationの技術を応用した新しい他覚的瞳孔視野計測法の開発，研究代表者
3. 2025年度，科研費基盤研究（B），加齢性斜視の早期発見に向けた眼位検査装置の構築と非観血的矯正用具の開発，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校視能訓練士科，眼疾病学II，2025年度前期
2. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校視能訓練士科，神経眼科学，2025年度後期
3. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校視能訓練士科，視能矯正学各論II，2025年度後期
4. 札幌看護医療専門学校視能訓練士学科，視覚生理学I，2025年度後期

7 学内委員会活動　総務会，将来計画機構，教員選考委員会（再任審査委員会），大学院入試広報委員会（委員長），大学院の質保証委員会

氏名：小林　昭子

1 研究題目　Goldmann視野計の実技教育指導

2 著書

1. 小林昭子.（第２章視機能の発達と検査 視野）日本小児眼科学会編　小児眼科学. 第２版. 東京：三輪書店；2026：26-30.

3 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本視野画像学会，日本弱視斜視学会，日本眼光学学会，公益社団法人日本視能訓練士協会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 生涯教育 新人教育講義日程，視能検査学各論Ⅰ感覚系検査法 －視野検査の理論と実際－，講師，公益社団法人日本視能訓練士協会，視能訓練士，Webによるオンデマンド配信，2025.9.17-10.22.

5 学内委員会活動　新潟連携教育研究センター運営委員会，就職センター運営委員会，図書館・学修支援委員会，健康管理センター運営委員会

氏名：戸田　春男

1 研究題目　眼位異常に伴う脳活動，ICTを用いた教育の改善，視線解析装置を用いた視力の評価，視線解析装置を用いた運動視力の評価

2 論文

1. Sonoda M, Aimi H, Kawasaki K, Toda H, Hirai S, Horie M, Meguro R, Asano E, Okado H, Kameyama S, Yamamoto T, Hasegawa I. Optogenetically-induced sustained hypothalamic hyperexcitability impairs memory via thalamic spread. Epilepsia. 2025; 66(6): 2137-2152. 査読あり
2. Tatara S, Magara Y, Sasaki T, Maeda F, Murata N, Itagaki K, Handa T, Toda H. Quantitative analysis of ocular deviation under eye occlusion: a descriptive study using the ORTe EYENAC eye-tracking system. BMC Ophthalmology. 2025; 25(1): 267. 査読あり
3. Ubukata H, Toda H, Nishimura H, Nakayama S, Nishio M, Mizukami T, Tomita K, Shimizu E. Devising a Coaching Method for a Smartphone-Based Slit-Lamp Microscope and Its Learning Effects: A Pilot Study. Journal of Clinical Medicine. 2026; 15(5): 1928-1928. 査読あり

3 学会等研究発表

1. 村田憲章，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，大場朱莉，渡邉美咲．4Kモニタ搭載キャリブレーションフリー・視線解析装置による自動視力測定，第66回日本視能矯正学会（岡山市，2025.10.25-10.26）
2. 戸田春男，齋藤陽菜，道渕菜々子，多々良俊哉．両眼視機能の破綻に伴う脳活動の変化について，第25

回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市，2025.10.25）

3. 石井雅子，戸田春男，前田義信．遮光眼鏡装用が視覚誘発電位（VEP）のP100波に与える影響，第64回日本生体医工学会大会（福井市，2025.6.5-6.7）

4 学会活動

1) 所属学会　日本生理学会（評議員），日本神経科学会，日本自律神経学会，日本神経眼科学会，Society for Neuroscience，新潟医療福祉学会（評議員）

2) 学会等でのその他の活動

1. 査読（Front. Med.）（掲載可）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023-2026，挑戦的研究（萌芽）我が国における乳幼児保有視力分布の現代的再構築：パイロットスタディ，分担（代表：村田憲章）
2. 2024-2028，基盤研究B　医療リソース効率化を目指す研究：視線解析装置による乳幼児視力の自動精密測定（代表：村田憲章）
3. 2024-2029，基盤研究B　視覚障害を未然に防ぐ眼の健康リテラシーの向上－幼小中高大接続による眼育教育―（代表：石井雅子）

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医学部医学科，生理学・生理学実習，2025.4.1-2026.3.31.
2. 悠久山栄養調理専門学校，運動生理学，2025.4.1-2026.3.31.

6 学内委員会活動　入試委員会，入試問題検討部会，FD・SD推進委員会，高等教育推進センター運営委員会，学術委員会

氏名：増田　修

1 研究題目　偽造防止技術，質感知覚，色覚に関する研究（視覚心理物理学）

2 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本視覚学会，映像情報メディア学会，日本色彩学会，日本眼光学学会，国際照明委員会，視覚科学技術コンソーシアム，Optica

3 社会活動

1) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. TV，夕方ワイド 新潟一番（テレビ新潟），夏休みも残りわずか 子どもたちが水遊びや自由研究教室で最後の思い出づくり《新潟》，2025.8.22.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人 日本照明工業会 国際照明委員会（CIE）第1部会「視覚と色」国内小委員会 委員

4 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），変角光学的要因に基づく「本物らしさ」の質感知覚への能動性の寄与の脳神経機序の解明，研究代表者
2. 2024年度，科研費基盤研究（C），スマートフォンと深層学習を用いた目と口のセルフメディケーション検査技術の検討，研究分担者
3. 2025年度，科研費基盤研究（C），Motion Magnicationの技術を応用した新しい他覚的瞳孔視野計測法の開発，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校 視能訓練士科，生理光学，2025年度

5 学内委員会活動　教務委員会（副委員長），国際交流センター運営委員会（副委員長），大学院委員会，大学院教務委員会

氏名：村田　憲章

1　研究題目　視線解析装置の眼科的検査への応用に関する研究（視覚科学），緑内障患者の視覚的QOL維持のための形態・機能解析（眼科学）

2　論文

1. 村田憲章，前田史篤，山下力．眼球運動の見方④　眼底画像に基づく他覚的回旋偏位の計測．神経眼科．2025；42（2）：221-225.（総説）
2. Tatara S, Magara Y, Sasaki T, Maeda F, Murata N, Itagaki K, Handa T, Toda H. Quantitative analysis of ocular deviation under eye occlusion: a descriptive study using the ORTe EYENAC eye-tracking system. BMC ophthalmology. 2025; 25(1): 267-267.(review)

3　学会等研究発表

1. 村田憲章，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，大場朱莉，渡邉美咲．4Kモニタ搭載キャリブレーションフリー・視線解析装置による自動視力測定．第66回日本視能矯正学会（岡山市），2025.10.25-10.26.

4　学会活動

1) 所属学会　日本視能訓練士協会，日本眼科学会，日本緑内障学会，日本斜視弱視学会，日本ロービジョン学会，日本保健医療福祉連携教育学会，The Association for Research in Vision and Ophthalmology，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 視能訓練士画像研究会（CREAS），CREAS 2025，実行委員・北信越ブロック長，大阪市，2025.10.11.

3) 学会等でのその他の活動

1. Frontiers in Neurosciences 査読，2025.7.16.
2. Scientific Reports 査読，2025.10.2.
3. Scientific Reports 査読，2025.10.29.
4. Humanities and Social Sciences Communications 査読，2025.12.25.
5. Frontiers in Neuroscience 査読，2026.1.27.
6. Frontiers in Neuroscience 査読，2026.3.4.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学，紙コップと虫眼鏡でレンズ付きカメラを作ってみよう，運営者，視機能科学科，新潟県内の幼・小・中・高校生，新潟医療福祉大学，2025.8.21.
2. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学，光と色の不思議を体験してみよう，運営者，視機能科学科，新潟県内の幼・小・中・高校生，新潟医療福祉大学，2025.8.22.
3. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学，万華鏡を作ってみよう，運営者，視機能科学科，新潟県内の幼・小・中・高校生，新潟医療福祉大学，2025.8.23.
4. シニアカレッジ新潟，視界のエイジングケア！～アイフレイルを知り，目の健康寿命をのばそう～，講師，新潟県社会福祉協議会，中高年者，新潟市，2025.9.16.
5. シニアカレッジ新潟，視界のエイジングケア！～アイフレイルを知り，目の健康寿命をのばそう～，講師，新潟県社会福祉協議会，中高年者，新潟市，2025.9.17.
6. シニアカレッジ新潟，視界のエイジングケア！～アイフレイルを知り，目の健康寿命をのばそう～，講師，新潟県社会福祉協議会，中高年者，長岡市，2025.9.25.
7. シニアカレッジ新潟，視界のエイジングケア！～アイフレイルを知り，目の健康寿命をのばそう～，講師，新潟県社会福祉協議会，中高年者，上越市，2025.9.26.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益社団法人日本視能訓練士協会 生涯教育制度新人教育プログラム（両眼視）実技日程（指導者），全国視能訓練士学校協会 国家試験不適切問題検討ワーキンググループ（グループリーダー）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，挑戦的研究（萌芽），我が国における乳幼児保有視力分布の現代的再構築：パイロットスタディ（研究代表者）
2. 2024年度，基盤研究（B），医療リソース効率化を目指す研究：視線解析装置による乳幼児視力の自動精密測定（研究代表者）

2) 学外兼務講師等

1. 新潟薬科大学附属新潟医療技術専門学校，視能矯正学　斜視・弱視，2025.4.8-7.28.
2. 新潟薬科大学附属新潟医療技術専門学校，基礎視能矯正学，2025.4.8-7.28.

7　学内委員会活動　国家試験・資格試験対策委員会（副委員長），新潟連携教育研究センター運営委員会，IR戦略委員会，高大医連携推進委員会

氏名：多々良　俊哉

1　研究題目　小児の弱視予防に関する研究（予防医学）

2　論文

1. Tatara S, Magara Y, Sasaki T, Maeda F, Murata N, Itagaki K, Handa T, Toda H. Quantitative analysis of ocular deviation under eye occlusion: a descriptive study using the ORTe EYENAC eye-tracking system. BMC Ophthalmology 25: 267, 2025.（査読あり）
2. 辻拓海，多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，八百枝潔，前田史篤．調節麻痺剤点眼前後における調節機能と瞳孔径の変化．神経眼科 42: 317-322，2025.（査読あり）
3. 多々良俊哉．視線解析技術を用いた眼位評価の現状と今後の展望．Precision Medicine 8: 759-762，2025.（総説）

3　学会等研究発表

1. 多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，辻拓海，前田史篤．Spot Vision Screenerの測定値に対する室内照度の影響．第61回日本眼光学学会総会（名古屋），2025.8.30-8.31.
2. 多々良俊哉．“意外と知らない”視能訓練士のトリビア　～臨床の質を上げる小さな発見～，第８回日本両眼視矯正研究会（オンライン），2026.2.7.【講演】
3. 多々良俊哉．３歳児健康診査ならびに眼科医療機関での視覚検査などについて，公益社団法人　日本視能訓練士協会主催 第９回 ３歳児健康診査（視覚検査）従事者向け研修会（オンデマンド配信），2026.2.24-3.29.【教育講演】
4. 村田憲章，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，大場朱莉，渡邉美咲．4Kモニタ搭載キャリブレーションフリー視線解析装置による自動視力測定，第66回日本視能矯正学会（岡山），2025.10.25-10.26.
5. 山際玲音，前田史篤，和田友紀，多々良俊哉．赤外線電子瞳孔計Hitomiruを用いた大学生の相対的瞳孔求心路障害の傾向分析，新潟医療福祉学会第25回学術集会（新潟），2025.10.25.
6. 和田友紀，前田史篤，山際玲音，多々良俊哉，中村誠．電子瞳孔計Hitomiruによる相対的瞳孔求心路障害の評価の再現性，第63回日本神経眼科学会総会（大阪），2025.11.21-11.22.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（会員），日本能訓練士協会（会員），日本眼科学会（会員），日本弱視斜視学会（会員），日本小児眼科学会（会員），日本眼光学会（会員），JSCRS（会員），日本近視学会（会員），日本神経眼科学会（会員），日本両眼視研究会（理事）

2) 学術集会の主催

1. 第８回日本両眼視矯正研究会，企画世話人，オンライン開催，開催日2026.2.7・活動期間2025.6.19-2026.2.7.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本視能訓練士協会誌 査読，2025.4.15-

2. Cureus 査読，2025.4.16-
3. Optical review 査読，2025.12.10-
4. Medicina 査読，2026.1.16-
5. Journal of Eye Movement Research 査読，2026.1.29-

5 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 燕市３歳児健康診査，健診，燕市保健センター（燕市），2025.5.27，2025.7.29，2025.10.28，2026.1.20.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

日本両眼視矯正研究会倫理審査委員会［厚生労働省登録番号：24000072］（委員）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費 基盤研究（B），加齢性斜視の早期発見に向けた眼位検査装置の構築と非観血的矯正用具の開発，研究代表者
2. 2025年度，科研費 基盤研究（C），Motion Magnicationの技術を応用した新しい他覚的瞳孔視野計測法の開発，研究分担者
3. 2024年度，科研費 国際共同研究加速基金（海外連携研究），汎用ゲームを用いた新しい視能訓練法の国際共同研究，研究分担者
4. 2024年度，一般財団法人 永井知覚科学振興財団：研究助成，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

第８回日本両眼視矯正研究会 ベストトリビア賞，2026.2.7.

7 学内委員会活動　個人情報保護委員会，国家試験・資格試験対策委員会，メンタルヘルス支援委員，科研費対策委員会

氏名：生方　北斗

1 研究題目　スマートフォンを用いた眼科検査デバイスに関する研究，眼鏡作製に関する研究，眼科検査技能の定量評価

2 論文

1. 生方北斗．携帯型眼科デジタルデバイス 眼底検査．眼科手術（JCR）．2025; 38: 224-230.（査読なし：特集記事）
2. Ubukata H, Toda H, Nishimura H, Nakayama S, Nishio M, Mizukami T, Tomita K, Shimizu E. Devising a Coaching Method for a Smartphone-Based Slit-Lamp Microscope and Its Learning Effects: A Pilot Study. Journal of Clinical Medicine (JCR). 2026; 15: 1928. (review)

3 学会等研究発表

1. 多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，辻拓海，前田史篤．SpotTM Vision Screenerの測定値に対する室内照度の影響．第61回日本眼光学学会総会（名古屋市），2025.8.31.
2. 生方北斗．教育講演 明日からできる！眼鏡合わせに向けたテクニック．中四国視能訓練士会第43回研究会（オンライン），2025.9.21.

4 学会活動

1) 所属学会　日本眼鏡技術者協会（会員），日本視能訓練士協会（会員），新潟医療福祉学会（会員），日本眼光学学会（会員），日本眼鏡学会（会員），日本視野画像学会（会員），日本神経眼科学会（会員），日本メガネ協会（会員），日本緑内障学会（会員）

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 夏休みの自由研究イベント，紙コップと虫眼鏡でレンズ付きカメラを作ってみよう！，講師，新潟医

療福祉大学視機能科学科，幼児～中高生，新潟医療福祉大学，2025.8.21.

2. とよさか中高年教養大学，メガネで日々の生活を活性化させるコツ！，講師，新潟医療福祉大学，中高年者，葛塚コミュニティーセンター，2025.8.28.

3. 株式会社わかさ生活 友の会，知ってトクする！目の健康教室，講師，株式会社わかさ生活，一般市民，株式会社わかさ生活 本社，2026.1.14.

4. 株式会社わかさ生活 従業員向けセミナー，眼・視覚に関する最新情報，講師，株式会社わかさ生活，株式会社わかさ生活 従業員，株式会社わかさ生活 本社，2026.1.14.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 広報誌，株式会社わかさ生活会報紙「わかさのわ 3月号」，メノコトいききトピックス，2026.3.1.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023-2026年度，科研費・萌芽的研究，我が国における乳幼児保有視力分布の現代的再構築：パイロットスタディ，研究分担

2. 2024-2028年度，科研費・基盤研究（B），医療リソース効率化を目指す研究：視線解析装置による乳幼児視力の自動精密測定，研究分担

3. 2025-2028年度，科研費・基盤研究（C），Motion Magnificationの技術を応用した新しい他覚的瞳孔視野計測法の開発，研究分担

2) 学内部活動の実績

1. よさこい部，Art Mix Japan，新潟市・白山公園，2025.4.12-4.13.／クローバーまつり，新潟市北区・豊栄福祉交流センター，2025.7.5.／オイシックス新潟アルビレックスBC交流戦（新潟医療福祉大学コラボデー），新潟市・HARD OFF ECOスタジアム新潟，2025.9.6.／新潟総踊り，新潟市・万代シテイほか，2025.9.13-9.15.／動物ふれあいフェスタ，新潟市・いくとぴあ食花，2025.9.20.／伍桃祭，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.10.18-10.19.／りん・しゃん祭り，五泉市・ラポルテ五泉，2025.11.30.／第13回新潟医療福祉大学ダンス部公演「めぐり めぐる」，新潟市・新潟市北区文化会館，2026.3.9.（顧問）

3) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校看護学科，病態学Ⅶ，2025.12.5-12.19.

2. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校視能訓練士科，基礎眼鏡光学，2025.10.3-11.21.

7 学内委員会活動　広報委員会，学生委員会，交通安全委員会，高等教育推進センター運営委員会

氏名：辻　拓海

1 研究題目　調節麻痺剤における調節機能の変化に関する研究，若年者における調節機能の解析

2 学会等研究発表

1. 多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，辻拓海，前田史篤．Spot Vision Screenerの測定値に対する室内照度の影響．第61回日本眼光学学会総会（名古屋・日本），2025.8.30-8.31.

2. 辻拓海，岸哲志，正条智広，志賀木綿子，岸大介，藤尾愛一郎，前田史篤．視能訓練士教育におけるヒューマンガイドテクニック演習の意義．第66回視能矯正学会（岡山・日本），2025.10.25-10.26.

3 学会活動

1) 所属学会　日本視能矯正学会，日本神経眼科学会，新潟医療福祉学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 夏休みの自由研究イベント，紙コップと虫眼鏡でレンズ付きカメラを作ってみよう，統括補佐，視機能科学科，幼児および小学生，新潟市，新潟医療福祉大学第８研究・実習棟，2026.8.21・8.21-8.23.

2. 夏休みの自由研究イベント，光と色の不思議を体験してみよう，統括補佐，視機能科学科，幼児および小学生，新潟市，新潟医療福祉大学第８研究・実習棟，2026.8.22・8.21-8.23.

3. 夏休みの自由研究イベント，万華鏡を作ってみよう，統括補佐，視機能科学科，幼児および小学生，新潟市，新潟医療福祉大学第８研究・実習棟，2026.8.23・8.21-8.23.
4. 第９回視機能科学科公開講演会，会場設営，視機能科学科，医療従事者，新潟市，新潟医療福祉大学第２講義棟，2026.3.22.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 眼科ケア，Vol27 No.9. 大阪：メディカ出版；2025：10-16.
2. 日本視能訓練士協会会報誌，No.146. 東京：公益社団法人日本視能訓練士協会；2026：24.

5 学内委員会活動　社会連携推進センター運営委員会，図書館・学修支援センター運営委員会，同窓会・生涯学修連携推進委員会，高大医連携推進委員会

氏名：志賀　木綿子

1 研究題目　日常視力に関する研究（眼光学），視能訓練士学生への教育に関する研究（視覚科学）

2 学会等研究発表

1. 辻拓海，岸哲志，正条智広，志賀木綿子，岸大介，藤尾愛一郎，前田史篤．同行援護学習におけるヒューマンガイドテクニック演習の効果と意義．第66回視能矯正学会（岡山市），2025.10.25-10.26.

3 学会活動

1) 所属学会　日本視能訓練士協会，日本眼光学学会，新潟医療福祉学会

4 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学，紙コップと虫眼鏡でレンズ付きカメラを作ってみよう，運営者，視機能科学科，新潟県内の幼・小学生，新潟医療福祉大学，2025.8.21.
2. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学，光と色の不思議を体験してみよう，運営者，視機能科学科，新潟県内の幼・小学生，新潟医療福祉大学，2025.8.22.
3. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学，万華鏡を作ってみよう，運営者，視機能科学科，新潟県内の幼・小学生，新潟医療福祉大学，2025.8.23.

5 学内委員会活動　教務委員会，入試委員会

（3）救急救命学科

氏名：竹井　豊

1　研究題目　救急隊員の身体負担軽減策の検討，効果的な救急医療システムに関する研究

2　著書

1. 竹井豊，畑中哲生，大松健太郎.「救急救命士のためのゼロから始める研究の基本」，東京:ぱーそん書房;2026.2：p1-137.（編集および分担筆頭）

3　論文

1. Adachi T, Takei Y, Toyama G, Hori E, Omatsu K. Regional disparities in 1-month survival following traffic accident-related out-of-hospital cardiac arrest in Japan: A nationwide observational study. American Journal of Emergency Medicine（査読あり）. 2025年; 96: 249-255.
2. Toyama G, Takei Y, Omatsu K, Watanabe Y. Impact of EMS call timing on bystander CPR and survival after cardiac arrest in care facilities. Scientific Reports（査読あり）. 2026年;16:7849.（10頁）
3. 中川洸志，田中秀治，児島政俊，武本泰典，匂坂量，竹井豊，月ヶ瀬和利，植田広樹，坂梨秀地．一般社団法人日本臨床救急医学会救急活動におけるパフォーマンス向上検討小委員会．再任用救急隊員の現状と今後の展望　全国救急隊員へのアンケート結果より．日本臨床救急医学会雑誌．2025年；28巻5号：752-758.（査読あり）

4　学会等研究発表

1. 外山元，竹井豊，渡辺洋子，大松健太郎.「高齢者介護施設における心停止前の緊急通報と生存率」．日本蘇生学会 第44回大会（足利市・日本），2025.11.
2. 堀英治，安達哲浩，外山元，大松健太郎，竹井豊.「交通事故による心停止患者の地域間生存予後の比較と予後関連因子の解明　全国規模の観察研究に基づく地域医療体制の課題と展望」．日本蘇生学会 第44回大会（足利市・日本），2025.11.
3. 安達哲浩，外山元，竹井豊.「救急搬送における搬送資器材の違いが救助者の身体的負担に及ぼす影響」．第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会（横浜市・日本），2025.6.

5　学会活動

1) 所属学会　日本臨床救急医学会（評議員），新潟医療福祉学会（理事長）

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本臨床救急医学会，救急隊活動におけるパフォーマンス向上検討小委員会，委員，2021.10-現在まで

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 中予地域メディカルコントロール協議会研修会，「ロールプレイで学ぶ！救急隊と医療機関の懸け橋になる病院連絡」，演者，愛媛県，愛媛県松山市医療関係者，松山市，2025.7.12.
2. 石川県救命救急研究会研修会，「病院との連携強化のためのツールとテクニック」，演者，石川県救急救命研究会，石川県内医療従事者，石川県能美市，2025.9.7.
3. 金沢救急救命専門学校研修会，「心肺停止傷病者に対する薬剤投与のタイミング救急救命士の処置拡大の動向」，演者，金沢救急救命専門学校，教職員・学生，石川県金沢市，2025.10.4.
4. JPTEC中部ブラッシュアップセミナー，「現場滞在時間短縮に対する取り組み」，アドバイザー，JPTEC中部支部，医療従事者，金沢市，11.29.
5. 石川県消防学校，救急救命士生涯教育課程講義，講義担当，石川県，石川県内消防職員，石川県金沢市，2025.12.17.
6. 石川県消防学校，指導救命士課程講義，講義担当，石川県，石川県内消防職員，石川県金沢市，2026.2.27.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

一般財団日本救急医療財団・厚生労働省（救急救命士試験委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1.　2024-2027年度，基盤研究C，看護と救急医療の連携強化に向けた救急隊員病院連絡教育の開発と評価，研究代表者：竹井豊

2) 学外兼務講師等

1.　広島国際大学，救急統計学，2025.4.1-2026.3.31.

8　学内委員会活動　学術委員会（委員長），図書館・学修支援委員会（委員長）

氏名：川上　一岳

1　研究題目　救急救命処置拡大に向けた超音波検査法教育の検討

2　著書

1.　川上一岳他；山本保博監修．第47回救急救命士国家試験問題解答・解説集．東京：へるす出版；2024：1-139.

3　社会活動

1) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟市民病院倫理審査委員会委員

氏名：江部　克也

報告事項なし

氏名：麻田　外作

報告事項なし

氏名：大松　健太郎

1　研究題目　AR（拡張現実）技術を用いた教育プログラムに関する研究（医学教育学），バイスタンダーによるAED使用に関する疫学的研究（蘇生科学）

2　著書

1.　竹井豊，大松健太郎；竹井豊編．救急救命士のためのゼロから始める研究の基本．東京：ぱーそん書房；2026．1-137

3　論文

1.　Omatsu K, Yamashita A, Inaba H. Bystander placement of automated external defibrillators and out-of-hospital cardiac arrest outcomes: a propensity score-matched cohort study between 2021 and 2022. Internal and Emergency Medicine (JCR). 2025; 21(3) 1041-1050. (review)
2.　Adachi T, Takei Y, Toyama G, Hori E, Omatsu K. Regional disparities in 1-month survival following traffic accident-related out-of-hospital cardiac arrest in Japan: A nationwide observational study. The American journal of emergency medicine (JCR). 2025; 96 249-255. (review)
3.　Toyama G, Takei Y, Omatsu K, Watanabe Y. Impact of EMS call timing on bystander CPR and survival after cardiac arrest in care facilities. Scientific Reports (JCR). 2026; 16(1): 7849. (review)
4.　Omatsu K, Ushimoto T, Inaba H. Bystander and emergency medical service responses to and outcomes of out-of-hospital cardiac arrest among domestic and non-domestic visitors in Japan. Scientific Reports (JCR). 16(1): 8935. (review)
5.　Omatsu K, Matsuyama R, Kamitani N, Muro G, Tsunemoto A, Toyama G, Hori E, Takei Y. Effect of patient clothing removal with scissors on time to defibrillation by lay rescuers: a randomized controlled simulation trial. Resuscitation Plus (JCR). 2026; 28: 101281-101281. (review)

4　学会活動

1) 所属学会　日本臨床救急医学会（評議員），日本救急医学会，日本蘇生学会，日本バーチャルリアリティ学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本臨床救急医学会，院内救急診療体制検討委員会，委員．2025.10.1-現在.
2. 日本臨床救急医学会，第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会，座長，横浜市，2025.6.21.
3. 日本臨床救急医学会，日本臨床救急医学会雑誌，査読.
4. Discover Public Health，査読.
5. Scandinavian Journal of Trauma，Resuscitation and Emergency Medicine，査読.
6. Scientific Reports，査読.
7. International Journal of Emergency Medicine，査読.
8. BMC Emergency Medicine，査読.
9. 日本臨床救急医学会，第29回日本臨床救急医学会総会・学術集会，公募演題査読委員

5　社会活動

1) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人国際救命救急協会（副理事長）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），AR技術による子どもの心停止への対応のための緊急通報・救急対応訓練プログラムの開発，代表研究者

氏名：安達　哲浩

1　研究題目　多数傷病者発生時の研究（災害医療），心肺蘇生法教育の普及効果に関する研究（救急医療）

2　論文

1. Adachi T, Takei Y, Toyama G, Hori E, Omatsu K. Regional disparities in 1-month survival following traffic accident-related out-of-hospital cardiac arrest in Japan: A nationwide observational study American Journal of Emergency Medicine 2025.07 96 249-255

3　学会等研究発表

1. 安達哲浩，竹井豊，外出元．救急搬送における搬送資器材の違いが救助者の身体的負担に及ぼす影響 日本臨床救急医学会総会・学術集会（横浜市）2025.6.21.

4　学会活動

1) 所属学会　日本災害医学会（MCLS管理世話人），日本臨床救急医学会，東北救急医学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本災害医学会，第31回総会・学術集会，事務局員，新潟市，2026.3.19-3.21.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟市立南浜中学校応急手当講習会，PUSHコース，指導者，新潟市立南浜中学校，教職員，新潟市立南浜中学校，2025.5.1.
2. 齋藤塗装工業株式会社応急手当講習会，PUSHコース，指導者，齋藤塗装工業株式会社，社員，新潟市葛塚コミュニティセンター，2026.1.22.
3. 葛塚地区防災訓練応急手当講習会，PUSHコース，指導者，葛塚地区コミュニティセンター，小中学生200名，新潟市立葛塚中学校，202510.24.
4. 多数傷病者対応セミナー，MCLS標準コース，世話人，新潟県メディカルコントロール協議会，医療従事者40名，長岡赤十字看護専門学校，2025.9.20-9.21.
5. 新潟県病院前救護競技会，Competition for EMS，実行委員，新潟医療福祉大学救急救命学科，新潟

県内救急隊員40名，新潟医療福祉大学，2025.7.12.

6. 多数傷病者対応机上シミュレーション，エマルゴ学生コース，指導者，新潟エマルゴ協会，大学生40名，新潟医療福祉大学，2025.9.27.
7. 多数傷病者対応机上シミュレーション，エマルゴ標準コース，指導者，新潟エマルゴ協会，医療従事者40名，新潟医療福祉大学，2025.9.28.
8. 多数傷病者対応机上シミュレーション指導者養成講習会，エマルゴベーシックインストラクターコース，指導者，新潟エマルゴ協会，医療従事者40名，新潟医療福祉大学，2025.11.8.
9. 多数傷病者対応机上シミュレーション，エマルゴ標準コース，指導者，新潟エマルゴ協会，医療従事者40名，新潟医療福祉大学，2025.11.9.
10. 新潟外傷セミナー，第69回JPTEC更新コース，指導者，新潟県メディカルコントロール協議会，消防職員・医療従事者，長岡赤十字看護専門学校，2025.12.13.
11. 新潟外傷セミナー，第88回JPTEC標準コース，指導者，新潟県メディカルコントロール協議会，消防職員・医療従事者，長岡赤十字看護専門学校，2025.12.14.
12. 救急車安全運転講習会，指導者，新潟県立新発田病院，病院救命士，新潟県立新発田病院，2025.5.12.
13. 救急車安全運転講習会，指導者，新潟県立新発田病院，病院救命士，新潟県立新発田病院，2025.5.13.
14. 救急車安全運転講習会，指導者，新潟県立新発田病院，病院救命士，新潟県立新発田病院，2025.6.2.
15. 救急車安全運転講習会，指導者，新潟県立新発田病院，病院救命士，新潟県立新発田病院，2025.6.9.
16. 救急車安全運転講習会，指導者，新潟県立新発田病院，病院救命士，新潟県立新発田病院，2025.6.10.
17. 病院内急変対応講習会，ICLSコース，指導者，長岡赤十字病院，病院職員，長岡赤十字看護専門学校，2025.5.25.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. TV，ゆうなび，研究「交通事故による心停止の生存率に地域差あり―全国データから実態を解明！」について解説，2025.8.21.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟シティーマラソン，救護役員，救護主任，新潟市陸上競技場，2025.10.12.
2. 新潟ハーフマラソン，救護役員，モバイルAED隊主任，新潟市・デンカビッグスワンスタジアム，2026.3.15.

6　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 新潟公務員専門学校　警察消防学科，体育，2025.4.1-8.31.
2. 新潟公務員専門学校　警察消防学科，防災法，2025.9.1-2026.3.31.

7　学内委員会活動　広報委員会（委員），同窓会・生涯学習連携推進委員会（委員），就職センター運営委員会（委員），大学院入試広報委員会（委員）

氏名：外山　元

1　研究題目　救急隊員の働きがいに関する研究，救急隊員の身体負担に関する研究，院外心停止に関する研究

2　論文

1. Adachi T, Takei Y, Toyama G, Hori E, Omatsu K. Regional disparities in 1-month survival following traffic accident-related out-of-hospital cardiac arrest in Japan: A nationwide observational study. Am J Emerg Med. 2025; 96: 249-255. (review)
2. Toyama G, Takei Y, Omatsu K, Watanabe Y. Impact of EMS call timing on bystander CPR and survival after cardiac arrest in care facilities. Scientific Reports. 2026; 16: 7849. (review)
3. Omatsu K, Matsuyama R, Kamitani N, Muro G, Tsunemoto A, Toyama G, Hori E, Takei Y. Effect of patient clothing removal with scissors on time to defibrillation by lay rescuers: a randomized controlled simulation trial. Resusc Plus（JCR収載誌）. 2026; 28: 101281. (review)

3　学会等研究発表

1. 外山元，竹井豊，渡辺洋子，大松健太郎．高齢者介護施設における心停止前の緊急通報と生存率．日本蘇生学会・第44回大会（栃木県足利市），2025.11.21-11.23.
2. 堀英治，安達哲浩，外山元，大松健太郎，竹井豊．交通事故による心停止患者の地域間生存予後の比較と予後関連因子の解明 -全国規模の観察研究に基づく地域医療体制の課題と展望-．日本蘇生学会・第44回大会（栃木県足利市），2025.11.21-11.23.
3. 安達哲浩，外山元，竹井豊．救急搬送における搬送資器材の違いが救助者の身体的負担に及ぼす影響．第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会（神奈川県横浜市），2025.6.19-6.21.

4　学会活動

1) 所属学会　日本臨床救急医学会（会員），日本蘇生学会（会員）

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 2025新潟ITLSアドバンスコース，外傷対応の指導，指導者，新潟市・新潟医療人育成センター，2025.5.10-5.11.
2. 第７回新潟PEMEC，内因性疾患対応の指導，指導者，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.8.23.
3. 第８回新潟PEMEC，内因性疾患対応の指導，指導者，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.8.24.
4. 第86回新潟JPTECプロバイダーコース，外傷対応の指導，指導者，新潟市・新潟医療人育成センター，2025.9.28.
5. 第88回新潟JPTECプロバイダーコース，外傷対応の指導，指導者，長岡市・長岡赤十字看護専門学校，2025.12.14.
6. 第16回新潟JPTECインストラクターコース，指導者の育成，指導者，新潟市・新潟医療人育成センター，2026.2.8.
7. 第６回群馬ITLS小児コース，小児外傷対応の指導，群馬県館林市・館林市消防本部，2026.2.15.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人JPTEC協議会（世話人），Internatioonal Trauma Life Support 日本支部（AF）

6　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

博士・保健学（2026.3.17）

7　学内委員会活動　FD・SD推進委員会，高等教育推進センター運営委員会，国家試験・資格試験対策委員会，高大医連携推進委員会

氏名：高橋　司

1　研究題目　教育工学を用いた医療者教育に関する研究，救急医学・災害医学に関する研究

2　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本教育工学会，日本医療教授システム学会（総務委員会），日本臨床救急医学会，日本医療シミュレーション教育学会

3　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 症候別救急疾患病院前救護セミナー，第６回新潟PEMECコース，開催責任者，日本臨床救急医学会，救急医療従事者，新潟大学医療人育成センター，2025.6.22.
2. Competition for EMS，Competition for EMS2025，運営責任者，救急隊員，新潟医療福祉大学，2025.7.12.
3. 症候別救急疾患病院前救護セミナー，第７回新潟PEMECコース，開催責任者，日本臨床救急医学会，救急医療従事者，新潟医療福祉大学，2025.8.23.
4. 症候別救急疾患病院前救護セミナー，第８回新潟PEMECコース，開催責任者，日本臨床救急医学会，

救急医療従事者，新潟医療福祉大学，2025.8.24.

5. 大学連携「未来のまちづくり」事業，YES or No～正解のない災害対応～，開催責任者，北区民，ラグーナスクエア，2025.9.5.
6. 多数傷病者対応セミナー，第３回エマルゴプロバイダーコース，運営責任者，日本エマルゴ協会，本学学生，新潟医療福祉大学，2025.9.27.
7. 多数傷病者対応セミナー，第４回エマルゴプロバイダーコース，運営責任者，日本エマルゴ協会，医療従事者・救急隊員，新潟医療福祉大学，2025.9.28.
8. 大学連携「未来のまちづくり」事業，最新防災グッズの紹介，開催責任者，北区民，ラグーナスクエア，2025.10.3.
9. ハイパフォーマンスCPRセミナー，第１回HP-CPRベーシック・アドバンス試行コース in 新潟医療福祉大学，運営責任者，Global Resuscitation Alliance，新潟医療福祉大学，2025.10.18.
10. ID人材育成事例検討会，人材育成事例検討会in新潟，開催責任者，熊本大学教授システム学専攻同窓会地区活動実行委員会，人材育成担当者，ステーションプラザ新潟ビル，2025.10.25.
11. 多数傷病者対応セミナー，第１回エマルゴベーシックインストラクターコース，運営責任者，日本エマルゴ協会，医療従事者・救急隊員，新潟医療福祉大学，2025.11.8.
12. 多数傷病者対応セミナー，第５回エマルゴプロバイダーコース，運営責任者，日本エマルゴ協会，本学学生・医療従事者・救急隊員，新潟医療福祉大学，2025.11.9.
13. ハイパフォーマンスCPRセミナー，第２回HP-CPRベーシック・アドバイザー試行コース in 新潟医療福祉大学，運営責任者，Global Resuscitation Alliance，新潟医療福祉大学，2026.1.31.
14. 病院前心肺停止対応教育プログラム，第１回First 15 program in 新潟医療福祉大学，運営責任者，新潟医療福祉大学救急救命学科，新潟医療福祉大学，2026.2.1.
15. 学生向けキャリア相談会，学生交流企画 キャリア形成相談会，運営責任者，日本救急救命士協会，神奈川県報徳会館，2026.2.15.

2) 社会活動への参加協力

1. 日本災害医学会，病院前多数傷病者対応セミナー，インストラクター，長岡赤十字看護専門学校，2025.9.21.
2. 日本医療教授システム学会，シミュレーション教授法セミナー，運営担当，京都新町病院，2025.11.15.
3. 日本臨床救急医学会，症候別救急疾患病院前救護セミナー，インストラクター，福島県太田西ノ内病院，2025.11.22.
4. 日本臨床救急医学会，症候別救急疾患病院前救護セミナー，インストラクター，福島県太田西ノ内病院，2025.11.23.
5. 日本赤十字社，災害研修会，インストラクター，東京都日本赤十字社医療センター，2025.11.24.
6. 昭和医科大学病院，エマルゴ研修会，インストラクター，昭和医科大学病院，2026.2.21.
7. NSGあたご交流会，NSG職員交流会，実行委員，ホテルイタリア軒，2026.2.26.
8. ITLS Japan，病院前外傷対応セミナー，インストラクター，埼玉西部消防局狭山消防署，2026.2.28-3.1.
9. 新潟県国際交流事業，Human Resource Development for Southeast Asian Youth in Health, Medical Care and WelfareITLS Japan，講師，新潟医療福祉大学，2026.3.22-3.28.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

全国救急救命士教育施設協議会（教員研修交流委員），全国救急救命士教育施設協議会（卒後再教育委員），救急隊員のための研究を学ぶ会（世話人），日本救急救命会（発起人），日本救急救命士協会（学生支援委員），救急救命士統括体制認定機構（事務局幹事）

4　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

PHTLA provider（2025.12.7），PACC provider（2025.11.3），ハイパフォーマンスCPR provider（2026.1.31）

2) 学外兼務講師等

1. 明治国際医療大学大学院，健康危機管理学特論，2025.9.1-2026.2.28.
2. 国際医療看護福祉大学校，国家試験対策，2025.9.1-2026.2.28.

5 学内委員会活動 教務委員会，高等教育推進センター運営委員会，中央教育センター運営委員会，国際交流センター運営委員会，高大医療連携推進委員会，新潟連携教育研究センター運営委員

氏名：尾﨑 あかね

報告事項なし

氏名：五十嵐 淳一

1 研究題目 救急医療電話相談窓口の現状と課題

2 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 北区との大学連携・未来のまちづくり～キタクなるまちづくり防災編～・講師・一般市民・ラグーナスクエア・2025.8.29.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟シティマラソン・フィニッシュ救護・学生統括・新潟市・新潟市陸上競技場・2025.10.12.
2. 新潟ハーフマラソン・フィニッシュ救護・学生統括・新潟市・ビッグスワン・2026.3.16.

3 学内委員会活動 学生委員会，交通安全委員会

氏名：岩﨑 隆

1 研究題目 効果的な自動心臓マッサージ器の活用方法について

2 学会等研究発表

1. 岩﨑隆.「Apple Watch用胸骨圧迫フィードバックアプリの開発とその効果の検証」，新潟医療福祉学会，2025.10.25.（ポスター）

3 学会活動

1) 所属学会 日本蘇生学会，日本災害医学会，日本農村医学会，東北救急医学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県新採用養護教諭研修 「学校における救急処置の実際」 講師 新潟県教育センター 2025.6.4.
2. 新潟市立松野尾小学校４年生防災教室講師 2025.9.30.
3. 救急救命講習（小児） 中区公民館 2026.2.7.

2) 社会活動への参加協力

1. 北消防署 救急講習指導（普通） 2025.5.30.
2. 県立新発田中央高校 出前授業 救急講習 2026.3.4.
3. まちづくり事業 ラグーナスクエア 搬送法．応急担架 2025.9.5. まとめ 2025.12.6.

5 学内委員会活動 新潟教育連携センター，メンタルヘルス

（4）診療放射線学科

氏名：笠原　敏文

1　研究題目　放射線治療技術の精度に関する研究

2　学会活動

1) 所属学会　日本放射線技術学会，日本放射線腫瘍学会，日本放射線技師教育学会，新潟医療福祉学会

3　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県診療放射線技師会，すこやかともしびまつり，協賛，長岡市，2023.9.16，9.17.
2. 新潟はっぴー乳ライフ（新潟県健康づくり財団），ピンクリボンホリデー2025，企画協力，新潟市・新潟日報メディアシップ，2025.10.26.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県診療放射線技師会（監事），新潟放射線治療技術懇話会（世話人），新潟県核医学懇話会（世話人），新潟放射線治療研究会（世話人）

4　学内委員会活動　学外実習経費支援の制度設計に関するWG（委員）

氏名：児玉　直樹

1　研究題目　認知症の早期発見と予防に関する研究，軽度認知障害から認知症への進行予測に関する研究，在宅で利用可能な軽度認知障害スクリーニングシステムの開発

2　著書

1. 児玉直樹，武藤裕衣，真田哲也．ナビ放射線物理学．南江堂；2025：1-15.

3　論文

1. Kido A, Ohno K, Yamada K, Yamakado K, Hiraki T, Mizowaki T, Aida N, Oyama-Manabe N, Kodama N, Ueda K, Aoki S, Tomiyama N. Overview of task shifting guidelines in Japan: from radiologists to radiological technologists. Jpn J Radiol (JCR). 2025; 43(8): 1261-1268.（査読有）
2. Kodama N, Takahashi S, Tsuji M, Kawase Y, Naruse S, Urakami K. Possibility of screening for mild cognitive impairment via an eye tracking-based cognitive scale. Front Aging (JCR). 2025; 6: 1532550.（査読有）
3. Yoshida N, Kageyama H, Akai H, Kasai S, Sasaki K, Sakurai N, Kodama N. Reducing the acquisition time for magnetic resonance imaging using super-resolution image generation and evaluating the accuracy of hippocampal volumes for diagnosing Alzheimer's disease. Front Neurol (JCR). 2025; 15: 1507722.（査読有）
4. Sasaki K, Yoshida N, Oishi M, Kawamura R, Kodama N. Are There Sex Differences in Brain Activity in Response to Active Tactile Stimulation? Cureus (JCR). 2025; 17(9): e92170.（査読有）
5. Kai C, Kasai S, Teramoto R, Yoshida A, Tamori H, Kondo S, Hai PT, Cong NV, Tuan DM, Loc TV, Kodama N. Classifying abnormalities in chest radiographs from Vietnam using deep learning for early detection of cardiopulmonary diseases. Front Radiol (JCR). 2025; 5: 1703927.（査読有）
6. Kawamura R, Sasaki K, Shimizu S, Kodama N. Neural basis of intensity-dependent brain activity in response to mechanical stimulation and the level of pain sensitivity. Front Hum Neurosci (JCR). 2025; 19: 1723960.（査読有）
7. Yoshida N, Kageyama H, Akai H, Sasaki K, Sakurai N, Koori N, Yamamoto S, Kodama N. Deep learning approach to super-resolution correction of brain MRI motion artifacts for accurate hippocampal volumetry. Sci Rep (JCR). 2026; 16(1): 14493.（査読有）

4　報告書

1. 児玉直樹，笠井聡，内山良一，吉田皓文．国際共同研究強化（B），感染性呼吸器疾患の予後予測を可能にするトリアージ型診断支援システムの開発と評価，研究成果報告書，2021～2025，研究代表者

5　学会等研究発表

1. 児玉直樹．認知症の画像診断技術の進化と今後の展望．第41回日本診療放射線技師学術大会（福井市），2025.9.12.【シンポジウム】
2. 児玉直樹．認知症予防における療法士が知るべき画像診断の基礎知識．第14回日本認知症予防学会学術集会（東京都），2025.9.13.【シンポジウム】
3. 児玉直樹．軽度認知障害（MCI）の早期発見ツール．第40回日本老年精神医学会（金沢市），2025.9.26.【シンポジウム】
4. 児玉直樹．自立支援および認知症予防のための認知症予防専門士の役割．第12回日本サルコペニア・フレイル学会学術大会（熊本市），2025.11.1.【シンポジウム】
5. 児玉直樹．認知症の二次予防と認知症予防専門士の役割．第４回日本老年療法学会学術集会（東京都），2025.12.6.【シンポジウム】
6. 児玉直樹．タスク・シフト/シェアの推進により見えてきた課題～厚労科研の報告を踏まえて～．第47回医療放射線の安全利用フォーラム（名古屋市），2026.2.6.【特別講演】
7. 児玉直樹．チーム医療で行う認知症の診断と支援～診療放射線技師の立場から～．第７回チーム医療推進学会（東京都），2026.3.1.【シンポジウム】

6　学会活動

1) 所属学会　日本放射線技師教育学会（会長），日本認知症予防学会（理事，利益相反マネージメント委員長），日本老年精神医学会，日本認知症学会，日本遠隔医療学会（運営委員），日本診療放射線学教育学会（理事），電子情報通信学会，電気学会，日本放射線技術学会，日本データベース学会，ITヘルスケア学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. チーム医療推進協議会，第７回チーム医療推進学会，実行委員，東京都，2026.3.1.
2. 日本診療放射線技師会，第41回日本診療放射線技師学術大会，プログラム委員長，福井市，2024.9.12-9.14.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本診療放射線技師会，日本診療放射線技師会誌，査読委員
2. 電気学会，電気学会共通英文論文誌，査読
3. Frontiers Media, Frontiers in Neuroscience，査読
4. Frontiers Media, Frontiers in Psychiatry，査読
5. The European Federation of Radiographer Societies (EFRS), Radiography, International Advisory Board
6. 日本遠隔医療学会，日本遠隔医療学会雑誌，査読
7. 日本臨床衛生検査技師会，認定認知症領域検査技師制度試験WG，試験委員
8. アジア放射線技師会（AACRT），AACRT2025，座長，タイ，2025.6.5.
9. 日本診療放射線技師会，第41回日本診療放射線技師学術大会，座長，福井市，2026.9.12.
10. 日本認知症予防学会，第14回日本認知症予防学会学術集会，座長，東京，2026.9.13.
11. 日本データベース学会，第18回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM2026），座長，神戸市，2026.3.2.

7　社会活動

1) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
診療放射線技師国家試験委員会（委員）

2) 職能団体（協会，士会等）の委員
日本診療放射線技師会（副会長，国際委員会委員，診療放射線技師国家試験問題評価委員会委員，倫理委員会委員，学術教育委員会委員，臨床実習指導教育委員会委員，業務拡大推進委員会委員，認定資格委員会委員，国際認定資格委員会委員），新潟県診療放射線技師会（副会長），世界放射線技師会（理事），国際

専門放射線技師認定機構（理事），チーム医療推進協議会（理事），全国診療放射線技師教育施設協議会（副会長）

8　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021-2025年度，国際共同研究強化（B），感染性呼吸器疾患の予後予測を可能にするトリアージ型診断支援システムの開発と評価，研究代表者
2. 2024-2027年度，基盤研究（B），軽度認知障害の進行および回復に伴う脳内メカニズムの解明と認知症予防への展開，研究代表者
3. 2025-2026年度，挑戦的研究（萌芽），地域住民が利用可能な軽度認知障害スクリーニングシステムの開発と認知症検診への挑戦，研究代表者

9　学内委員会活動　研究・産官学連携推進機構（研究支援部長），知的財産委員会（委員長），利益相反マネージメント委員会（委員長），内部質保証委員会（委員），運動機能医科学研究所（所員）

氏名：石風呂　実

1　研究題目　３次元画像による骨格筋定量評価，膝靱帯損傷におけるCTによる術前術後の３次元画像解析による評価，機械学習を用いた胸部X線撮影画像から冠動脈の石灰化スコアの予測，人工知能を用いた胸部X線画像から胸部大動脈および冠動脈石灰化検出と冠動脈疾患予防（継続中）

2　著書

1. 石風呂実，前島偉，橋本薫，鷲見和幸，吉田宜清．これならできる医療安全管理学，株式会社　医療科学社　2026.2.10.

3　報告書

1. 田村恵美，基盤研究C，個人線量計装着位置を予測する機械学習モデルを使用した誤装着防止に有効な要因の解明，2024年-2028年，石風呂実（研究分担者）

4　学会活動

1) 所属学会　日本放射線技術学会（代議員），日本手術支援画像技術学会（監事）

2) 学術集会の主催

1. マルチシンポジウムVersus,「循環器イメージング」シンポジウム座長，東京都，2025.6.7.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本放射線技術学会，教育委員会，動画作成（３次元画像構築基礎から応用）2026.2.17.作成完了

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 大学連携「未来のまちづくり」（部会長）2025年度総括（ラグーナスクエア2025.12.6.）

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本X線CT専門技師認定機構（委員）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，基盤研究C，個人線量計装着位置を予測する機械学習モデルを使用した誤装着防止に有効な要因の解明，田村恵美・石風呂実

7　学内委員会活動　社会連携推進センター運営委員，北区との大学連携「未来のまちづくり」（部会長），就職支援センター委員（RT主担当）

氏名：花村　健次

1　研究題目　放射線の生体への影響に関する生物学的研究

2　論文

1. Ueno H, Hanamura K, Aoki Y, Yamamura M, Shirao T, Suzuki T*. Closed, pumpless

microphysiological system with unidirectional flow for co-culture and focal irradiation. RSC Adv. 2026 Feb 25; 16(12): 11049-11060.（査読あり）

3　報告書

1. 花村健次．基盤研究（C），FN3を持つ神経発達障害関連分子の細胞外チロシンリン酸化とその役割の解析，研究成果報告書，2020-2025，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 花村健次，西方快騎，野村真史，上口長昭，天野大三，佐々井健蔵，川辺浩志，前島偉．成熟した培養ラット海馬神経細胞は高線量の陽子線照射に対して耐性を示す．第48回 日本神経科学大会（新潟市）．2025.7.24-7.27.
2. Hanamura K, Nishikata Y, Nomura S, Kamiguchi N, Amano D, Sasai K, Maeshima I. Effects of high-dose proton beam on the survival of immature and mature cultured neurons. 第１回 日本がん神経科学研究会（名古屋市）．2025.10.18.
3. 花村健次，武田直，小林宥介，鷲見和幸，前島偉，鈴木晴，美里萌恵，渡邉大輝，西方快騎，宮崎涼，松井斗輝，太田大樹，田口徹，吉田宜清．18～24ヵ月齢C57BL/6Nマウスにおいて発生した腫瘍の形態学的解析．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）．2025.10.25.
4. 花村健次，西方快騎，野村真史，上口長昭，天野大三，佐々井健蔵，前島偉．高線量率陽子線照射が培養神経細胞へ与える影響の解析．第48回日本神経組織培養研究会（新潟市）．2025.11.23.
5. 五十嵐爽，前島偉，佐々木誠，玉村裕保，花村健次．食道がんの放射線治療における大動脈の線量低減のための新たな照射法の検討．日本放射線腫瘍学会第38回学術大会（東京）．2025.11.27-11.29.
6. 前島偉，西方快騎，野村真史，上口長昭，天野大三，佐々井健蔵，花村健次．培養下での発達時期の異なる神経細胞への陽子線照射の影響の比較．日本放射線腫瘍学会第38回学術大会（東京）．2025.11.27-11.29.
7. Hanamura K, Misato M, Yoshino M, Maeshima I, Matsui T, Yoshida N. X-ray irradiation at the early postnatal period impairs female-specific pelvic morphogenesis in mice. 第15回国際放射線神経生物学会大会（新潟市）．2026.2.28.
8. Nishikata Y, Maeshima I, Nomura S, Kamiguchi N, Amano, Sasai K, Hanamura K. Effects of proton FLASH irradiation on the survival and dendritic branches of developing cultured hippocampal neurons. 第15回国際放射線神経生物学会大会（新潟市）．2026.2.28.
9. 花村健次．がん治療に関連した神経毒性の解析～放射線や抗がん剤などによる影響（Neurotoxicity associated with cancer treatment ～the effects of radiation and anticancer drugs），公募シンポジウム38（バイオマーカー研究（基礎と臨床））．第99回日本薬理学会年会．2026.3.16-3.18.【シンポジウム】

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本生理学会（評議員），日本神経科学学会，日本薬理学会，日本神経化学会，国際放射線神経生物学会

2) 学術集会の主催

1. 第15回国際放射線神経生物学会大会，副大会長，新潟市，2026.1.1-3.31.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第15回国際放射線神経生物学会大会，シンポジウム座長，新潟市，2026.2.28.

6　社会活動

1) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 一般向け冊子（印刷物とオンライン公開），放影響ニュース（公益財団法人 放射線影響協会），（研究の紹介）新規生体機能チップを用いた神経細胞に対する放射線のバイスタンダー効果の解析，2025年10月号（No.124）

2) 社会活動への参加協力

1. すこやか・ともしびまつり実行委員会・新潟県診療放射線技師会，骨密度検査を担当する学生の引率

とサポート，新潟県長岡市・アオーレ長岡，2025.9.13.
2. 新潟はっぴー乳ライフ・新潟県診療放射線技師会，骨密度検査を担当する学生の引率とサポート，新潟県新潟市・新潟日報メディアシップ，2025.10.26.
3. 新潟県赤十字血液センター，献血，新潟医療福祉大学，2025.12.9.

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2024年度，科研費基盤研究（C），成体海馬の神経新生の傷害を介した放射線による鎮痛作用を担うメカニズムの解明，研究代表者

2) 学外兼務講師等
1. 群馬大学大学院医学系研究科，生体イメージング実習，2025.4-2026.3.
2. 群馬大学医学部，薬理学・神経科学，2025.4-2026.3.

8 学内委員会活動　化学物質管理委員会（副委員長），動物実験委員会，安全衛生委員会，生物医科学分析研究センター

氏名：関本　道治

1 研究題目　医療放射線線量評価に関する研究（放射線計測学），環境放射線の研究（放射線計測学），放射線機器管理に関する研究（放射線機器学，放射線管理学），多職種連携医療専門職教育の研究（医学教育）

2 著書
1. 根岸徹編，日本放射線技術学会監修，関本道治，他「診断X線領域における吸収線量の標準測定法」第２版．東京：オーム社；2025：77-105.

3 論文
1. 関本道治．医療用X線装置における漏えいX線量測定と線量計精度管理の現状と課題．日本放射線公衆安全学会誌．2025年；第22号：1-6.（査読なし）

4 学会等研究発表
1. 関本道治．診断領域X線場で用いられるサーベイメータの特性．日本放射線技術学会第６回サーベイメータ活用セミナー（東京都），2025.9.27.【教育講演】
2. 関本道治．モンテカルロシミュレーション．第53回日本放射線技術学会秋季学術大会（札幌市），2025.10.19.【教育講演】
3. 関本道治．線量管理ソフトの今-医療被ばくとどう向き合うか-実装から活用まで．日本放射線技術学会東京支部ジョイントミーティング（東京都），2025.11.29.【教育講演】

5 学会活動

1) 所属学会　日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会（専門部会委員，標準化委員会防護部門委員長，診断領域線量標準センター委員，プログラム委員，教育委員会，専門コミュニティ班長），日本核医学技術学会（HP管理委員会 委員長），The Asian Society of Nuclear Medicine Technology（HP management），日本核医学専門技師認定機構（教育委員），日本診療放射線学教育学会（出版委員），新潟県診療放射線技師会，日本放射線技術学会東北支部，日本放射線技術学会東京支部（専門委員会委員），新潟医療福祉学会，IEC MT47 Technical member

2) 学術集会の主催
1. 日本放射線技術学会，第６回診断X線領域の線量測定基礎セミナー，プログラム運営，WEB，2025.6.14.
2. 日本放射線技術学会，第６回サーベイメータ活用セミナー，プログラム運営，東京，2025.9.28.
3. 日本放射線技術学会，第７回診断X線領域の線量測定基礎セミナー，プログラム運営，WEB，2025.11.8.

3) 学会等でのその他の活動
1. 日本放射線技術学会，第81回総会学術大会，第64回計測部会シンポジウム司会，横浜市，2025.4.11.

2. 日本放射線技術学会，第81回総会学術大会，座長，横浜市，2025.4.13.
3. 日本放射線技術学会，第６回診断X線領域の線量測定基礎セミナー，司会，WEB，2025.6.14.
4. 日本放射線技術学会，第53回日本放射線技術学会秋季学術大会，座長，札幌市，2025.10.19.
5. 日本放射線技術学会，第７回診断X線領域の線量測定基礎セミナー，司会，WEB，2025.11.8.
6. Journal of Applied Clinical Medical Physics，査読
7. Radiological Physics and Technology，査読（２本）
8. Niigata Journal of Health and Welfare，査読
9. JIS, Z4501改訂原案作成メンバー，班長

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第38回新潟県核医学技術研究会，核医学専門技師を育てるということ－核医学専門技師教育の実践と課題－，特別講演，新潟県核医学技術研究会，新潟県診療放射線技師，新潟市，2025.6.28.
2. 第31回放射線技師長研修会，組織的被ばく管理と線量計管理の実際，特別講演，私立医科大学放射線技師長会，新潟市，2025.10.31.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

厚生労働省・診療放射線技師国家試験作成委員会（一般委員）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本工業標準調査委員会（原案作成分科会委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（C），マンモグラフィ検査におけるターゲット材質と体型を考慮した平均乳腺線量評価法の革新，研究代表者
2. 2025年度，学内研究奨励金発展的研究費，地域・在宅医療を支援するX線装置点検支援アプリの試作と評価，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 筑波大学，原子力規制人材育成事業：放射線リスクをマルチスケールで判断できる人材養成プログラム　放射線計測学，2025.7.18.

8　学内委員会活動　教務委員会，高等教育推進センター委員会，調査委員会（委員長）

氏名：市川　肇

1　研究題目　骨SPECTを利用した新しいバイオマーカーの開発，線量データによる体重推定に関する研究，呼吸抑制デバイスの臨床利用に関する研究

2　論文

1. 澤根康裕，市川肇，澁谷孝行，加藤豊大，小野間恵乃，久保和広，渡邉公憲，對間博之．核医学における線量管理のためのstudy descriptionを利用した線量記録の整合性の検証と運用方法の検討．日本放射線技術学会雑誌．2025; 81(10).
2. Terabe M, Kamomae T, Taniguchi Y, Miyachi T, Ichikawa H, Miyauchi R, Ito J, Kawamura M, Ishihara S, Naganawa S. Machine learning model for predicting interfraction motion of the seminal vesicles in prostate cancer radiotherapy. Radiotherapy and Oncology. 2026; 216: 111368
3. 市川肇，三輪建太，北章延．骨SPECT撮像の標準化に関するガイドライン 2.0．京都：核医学技術学会誌 山城印刷株式会社；2025：194-211

3　学会等研究発表

1. 市川肇，山口裕祐．心筋SPECT180度収集における呼吸抑制デバイスの画質改善効果の評価．第35回日本心臓核医学会総会学術大会（名古屋）2025.6.27.
2. 深山心優，久保田愛美，梅澤千颯，横塚記代，齋藤祐樹，市川肇，島田秀樹．小動物SPECT/CT装置に

よるラット撮像時の基礎検討．第45回日本核医学技術学会総会学術大会（京都）2025.11.15.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本核医学技術学会（標準化委員，国際委員，評議委員），日本放射線技術学会（教育委員，教育推進班 班長，「放射線医学領域のモダリティに対し横断的に線量評価および画質評価できる小児体幹部ファントムの開発」研究），日本核医学専門技師認定機構（理事，認定試験実施委員長），日本放射線技術学会 中部支部（核医学研究会代表），金沢核医学技術研究会（代表世話人），日本心臓核医学会，日本診療放射線技師会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第81回日本放射線技術学会総会学術大会，一般演題，座長，横浜，2025.4.13.
2. 第53回日本放射線技術学会秋季学術大会，一般演題，座長，札幌，2025.10.19.
3. 第53回日本放射線技術学会秋季学術大会，教育講座，座長，札幌，2025.10.19.
4. 第45回日本核医学技術学会総会学術大会，アドバンスセミナー，講師：骨SPECTは定量化の波にどう乗るか？-定量精度を支える撮像技術-，京都，2025.11.13.
5. 第45回日本核医学技術学会総会学術大会，国際奨励賞受賞講演，座長，京都，2025.11.13.
6. 第６回日本核医学技術学会 九州地方会学術講演会，教育講演，講師：『骨SPECT撮像の標準化に関するガイドライン2.0』って何が変わった？，web，2026.1.22.
7. 日本核医学会，PET撮像施設認証精度委員，医療施設でのアミロイドPET画像の画質評価，web，2025.5.5-2026.3.2.（７施設）

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第28回心臓核医学フォーラム，教育講演：心臓核医学領域における呼吸抑制デバイスRRBの活用と効果，講師，心臓核医学フォーラム，医師・診療放射線技師，東京，2025.5.17.
2. 第56回神奈川PET・SPECT研究会，教育講演：骨SPECTは“選択肢”ではなく“標準”の時代へ，講師，神奈川PET・SPECT研究会，医師・診療放射線技師，web，2025.6.14.
3. INVIVO講習会，教育講演：骨SPECT撮像の標準化に関するガイドライン2.0』の概要，講師，PDRファーマ株式会社，診療放射線技師，web，2025.9.4.
4. 第25回Good Job Conference in Niigata，特別講演：呼吸性アーチファクト低減への戦略，講師，Good Job Conference in Niigata，診療放射線技師，長岡市，2025.12.3.
5. 第１回RRB活用セミナー，呼吸抑制デバイスの有用性，講師・司会，PDRファーマ，診療放射線技師，web，2025.12.18.
6. 第121回東三河RI技術検討会，特別講演：『骨SPECT撮像の標準化に関するガイドライン2.0』で何が変わる？，講師，東三河RI技術検討会，診療放射線技師，豊橋市，2026.3.21.

6　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 金沢大学，卒業研究・大学院生研究指導，2025.4.1-2026.3.31.
2. 福島県立医科大学大学院，核医科学特論，2025.4.1-2026.3.31.

7　学内委員会活動　入試委員会，大学院入試広報委員会，大学院入試広報委員会イベント部会

氏名：前島　偉

1　研究題目　陽子線照射における神経培養細胞への影響の研究，陽子線治療の食道がんにおける放射線治療計画

2　著書

1. 前島偉編著．これならできる　放射線部門の医療安全，初版，日本：医療科学社；2025年，第４章 P201-232
2. 前島偉．強度変調粒子線治療ガイドライン2026年版，初版，日本:金原出版，2026.1.16，第７章 P49-59

3　論文

1. Miyasaka Y, Maeshima I. Survey and profile data on particle therapy technology in Japan, Japanese Journal of Radiology, 2025.7, Volume 43, pages 2051-2062 (2025),（査読あり）
2. Miyasaka Y, Maeshima I. Survey data analysis of treatment planning methods in particle therapy facilities, Japanese Journal of Radiology, 2025.11, Volume 44, pages 709-718 (2026),（査読あり）

4　学会等研究発表

1. 五十嵐爽，前島偉，放射線治療計画におけるサンプルデータ数の増加による自動輪郭抽出の精度検証，第81回日本放射線技術学会学術総会，横浜市，2025.4.13.
2. 花村健次，前島偉，成熟した培養ラット海馬神経細胞は高線量の陽子線照射に対して耐性を示す，第48回日本神経科学大会，新潟市，2025.7.27.
3. 小原佑介，前島偉，サーモプラスチックボーラス形成過程のCT値変化と線量計算アルゴリズムの違いが線量分布に与える影響，第53回日本放射線技術学会秋季学術大会，札幌市，2025.10.18.
4. 花村健次，前島偉，高線量陽子線による未熟培養ニューロンおよび成熟培養ニューロンの生存への影響，第１回 日本がん神経科学研究会，名古屋市，2025.10.28.
5. 花村健次，前島偉，高線量率陽子線照射が培養神経細胞へ与える影響の解析，第48回日本神経組織培養研究会，新潟市，2025.11.23.
6. 前島偉，培養下での発達時期の異なる神経細胞への陽子線照射の影響の比較，第38回日本放射線腫瘍学会，横浜市，2025.11.28.
7. 五十嵐爽，前島偉，食道がんの放射線治療における大動脈の線量低減のための新たな照射法の検討，第38回日本放射線腫瘍学会，横浜市，2025.11.28.
8. 宮坂友侑也，前島偉，日本の粒子線治療施設における技術的側面に関するアンケート調査研究，第38回日本放射線腫瘍学会，横浜市，2025.11.28.
9. Nishikata Y, Maeshima I. X-ray irradiation at the early postnatal period impairs female-specific pelvic morphogenesis in mice, 第15回国際放射線神経生物学会大会.（ISRN2026），2026.2.28.
10. Hanamura K, Maeshima I. Effects of proton beam irradiation on the survival and dendritic branches of developing cultured hippocampal neurons, 第15回国際放射線神経生物学会大会.（ISRN2026），2026.2.28.

5　学会活動

1) 所属学会　日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会，長野県診療放射線技師会（副会長），日本放射線腫瘍学会，日本医学物理学会，日本粒子線臨床研究会，長野県放射線治療技術研究会（世話人代表），日本粒子線治療技術研究会（世話人代表），ESTRO（European SocieTy for Radiotherapy and Oncology），ASTRO（America SocieTy for Radiotherapy and Oncology），PTCOG（Particle Therapy Co-Operative Group）

2) 学術集会の主催

1. 第８回日本粒子線治療技術研究会，研究会，代表世話人，web研究会，2025.6.28.
2. 令和７年度第１回　長野県放射線治療技術研究会，研究会，代表世話人，研究会，2025.7.19.
3. 令和７年度第２回　長野県放射線治療技術研究会，研究会，代表世話人，研究会，2026.1.24.
4. 第９回日本粒子線治療技術研究会，研究会，代表世話人，web研究会，2026.1.31.

3) 学会等でのその他の活動

1. 2025関東甲信越診療放射線技師学術大会，南関東実行委員，横浜市，2025.7.5-7.6.
2. 長野県診療放射線技師会アドバンス講習会，座長，松本市，2025.5.31.
3. 長野県診療放射線技師会・長野県臨床検査技師会合同研修会，教育講演座長，松本市，2026.1.17.
4. 遠州三河放射線治療講演会 「指名講演　技術・看護部門」，座長，豊橋市，2026.2.13.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 長野県診療放射線技師会，フレッシャーズセミナー，医療安全管理につて，講師，長野県松本市，城西病院，2025.7.26.

2) 社会活動への参加協力

1. 長野県診療放射線技師会，医師の働き方改革に伴う診療放射線技師の業務拡大と告示研修会，責任者，松本市，2025.6.15.
2. 長野県診療放射線技師会，医師の働き方改革に伴う診療放射線技師の業務拡大と告示研修会，責任者，松本市，2025.9.21.
3. 長野県診療放射線技師会，医師の働き方改革に伴う診療放射線技師の業務拡大と告示研修会，責任者，松本市，2026.2.14.
4. 長野県診療放射線技師会，医師の働き方改革に伴う診療放射線技師の業務拡大と告示研修会，責任者，松本市，2026.2.15.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人　長野県診療放射線技師会（副会長），公益社団法人　日本診療放射線技師会（学術委員），公益社団法人　日本診療放射線技師会（総会運営委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025，住友重機械工業株式会社共同研究，培養細胞を用いた陽子線のFLASH効果についての研究，前島偉，花村健次教授，西方快騎（大学院生）
2. 2025，福井県立病院共同研究，ハイブリッド治療計画による２段階照射法の研究，前島偉，五十嵐爽

8　学内委員会活動　広報委員会，FDSD委員会

氏名：鷲見　和幸

1　研究題目　脳機能画像解析を用いたゲーム障害の特異的な病態解明，上部消化管CT仮想内視鏡による病変評価法，アーチファクトを利用した超音波判断教育モデルの開発

2　著書

1. 石風呂実，前島偉，鷲見和幸．これならできる放射線部の安全管理．初版．医療科学社；2026.2.24：81-124，249-276，279-294，341-376

3　学会活動

1) 所属学会　日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会，日本超音波検査学会

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 医療被ばく研究情報ネットワーク（J-rime），DRLs Japan 2025（診断参考レベル）の策定・改訂作業，透視診断領域メンバー，国内

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 加藤英幸，白神伸之，鶴丸大介，藤淵俊王，松原孝祐，宮島隆，鷲見和幸，鈴木賢昭，根岸徹，新田見耕太，見本真一，山下一太．INNERVISION 40巻12号（特集１ 医療被ばくの正当化と最適化に向けて Part VI Japan DRLs 2025改定の概要と活用のポイント ６．診断透視の改定の概要と活用のポイント）．インナービジョン；2025：40-43.

3) 社会活動への参加協力

1. 医療被ばく研究情報ネットワーク（J-rime），DRLs Japan 2025（診断参考レベル）の策定・改訂作業，透視診断領域メンバー，国内

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

全国労働衛生連合会胃X線検査専門委員会（胃X線検査専門委員），全国労働衛生連合会胃X線検査線量調査小委員会（委員）

5　学内委員会活動　図書学修支援委員会，委員，高大医連携推進委員会，委員

氏名：吉田　宜清

1　研究題目　体動アーチファクトのある認知症診断用MRI画像から海馬の体積を正確に測定する試み

2　著書

1. 石風呂実，前島偉，鷲見和幸，橋本薫，吉田宜清．これならできる放射線部門の医療安全 第４章 医療科学社 2026年2月 P.233-248

3　論文

1. Yoshida N, Kageyama H, Akai H, Kasai S, Sasaki K, Sakurai N, Kodama N. Reducing the acquisition time for magnetic resonance imaging using super-resolution image generation and evaluating the accuracy of hippocampal volumes for diagnosing Alzheimer's disease. Frontiers in Neurology. July 2025 Volume 16. (review)
2. Yamamoto S, Yoshida N, Sakurai N, Okada Y, Satoh M, Takeshita K, Nakai M, Abe K, Yoshimura M, Saito K. Clinical Utility of eZIS in Cerebral Blood Flow SPECT. Diagnostics, August 2025, 15(17), 2125. (review)
3. Yamamoto S, Yoshida N, Sakurai N, Okada Y, Ohno N, Satoh M, Takeshita K, Ishida M, Saito K. Statistical parametric mapping and voxel-based specific regional analysis system for Alzheimer's disease (VSRAD): Principles and clinical applications. Brain Sciences, August 2025, 15(9): 999. (review)
4. Sasaki K, Yoshida N, Oishi M, Kawamura R, Kodama N. Are there sex differences in brain activity in response to active tactile stimulation? Cureus Journal of Medical Science September 2025. (review)
5. Yoshida N, Kageyama H, Akai H, Sasaki K, Sakurai N, Koori N, Yamamoto S, Kodama N. Deep learning approach to super-resolution correction of brain MRI motion artifacts for accurate hippocampal volumetry. Scientific Reports, March 2026. (review)

4　学会等研究発表

1. 吉田宜清，影山肇，佐々木啓，赤井宏行，櫻井典子，山本進治，笠井聡，児玉直樹．超解像ネットワークを用いた体動アーチファクトの補正と物理評価 第41回日本診療放射線技師学術大会（福井市）9.12-9.14, 2025

5　学会活動

1) 所属学会　日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会，日本磁気共鳴医学会，日本認知症予防学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Cureus Journal of Medical Science　査読　１件

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度放射線技師長・副技師長・主任研修会，生成AIで変わる！技師長・副技師長・主任の業務効率化，講師，新潟県厚生連放射線技師会，新潟県厚生連　診療放射線技師長・副技師長・主任放射線技師，WEB開催（Zoom），2026.2.14（土）９時30分～10時00分

2) 社会活動への参加協力

1. 第80回新潟県診療放射線技師会総会学術大会，座長，新潟，2025.6.

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度 若手研究　体動アーチファクトのある認知症診断用MRI画像から海馬の体積を正確に測定する試み，研究代表者（継続）

2) 学外兼務講師等

1. 東京大学医科学研究所　客員研究員　2025.4.1-2026.3.31.
2. 福井大学医学部附属病院　診療修練員　2025.4.1-2026.3.31.

8　学内委員会活動　国家試験・資格試験対策委員会，倫理審査委員会

氏名：郡　倫一

1　研究題目　新しいゲル線量計の開発

2　著書

1. 編：森浩一，西尾誠示，布施拓，著：石森佳幸，奥村健一郎，小倉敏裕，加藤匡伸，加藤稔，亀山佳也，倉石政彦，桜井直美，五反田留見，下瀬川正幸，関根紀夫，丸山星，高坂倫江，武島玲子，中島修一，藤淵俊王，星野修平，本間光彦，望月安雄，森薗立男，桝田喜正，郡倫一，中澤洋治，渡邉城大．診療画像技術学Ⅱａ X線撮影技術学．改訂（第３版）．株式会社　医療科学社；2025：

3　論文

1. Yoshida N, Kageyama H, Akai H, Sasaki K, Sakurai N, Koori N, Yamamoto S, Kodama N. Deep learning approach to super-resolution correction of brain MRI motion artifacts for accurate hippocampal volumetry. Scientific reports. 2026; 16(1): 14493.
2. Koori N, Ito Y, Ichiishi A, Fuse H, Sasaki K, Yazawa R, Murata M, Tachibana M, Nagata S, Furuya T, Takimura K, Takeda K, Miyakawa S, Nosaka H, Yasue K, Takahashi M. Comparison of R2 value estimations using spin echo-multi echo and T2 mapping techniques for polymer gel dosimetry in radiotherapy. Radiation Physics and Chemistry. 2026; 238: 113147.
3. Takahashi M, Miyamoto N, Koori N, Monma M, Ishimori Y, Fuse H, Miyakawa S, Yasue K, Nosaka H, Abe S. Automatic measurement of pharyngeal contraction ratio during deglutition using 2D cine MRI with deep learning: A pilot study. Radiological physics and technology. 2025; 19(1) 359-368.
4. Yasue K, Fuse H, Nakazawa Y, Takahashi T, Nosaka H, Koori N, Takahashi M, Miyakawa S, Hanada K, Urikura A, Fujisaki T, Abe S. Patient-specific dose estimation considering subject thickness with an RGB-D camera: A phantom study. Radiography. 2025; 31(6) 103181-103181.
5. Koori N, Sugai R, Hasegawa T, Fuse H, Sasajima T, Suzuki T, Kudo H, Takeda K, Miyakawa S, Sasaki K, Yasue K, Takahashi M, Nosaka H. Relationship between maximum injection pressure and extravasation rate of contrast media in computed tomography. Clinical Radiology. 2025; 88: 107011.
6. Miyakawa S, Fuse H, Yasue K, Koori N, Takahashi M, Nosaka H, Moriya S, Tomita F, Fujisaki T. Assessing the consistency of CT-based ventilation imaging under noise reduction processing with simulated quantum noise using a nonrigid alveoli phantom. Frontiers in radiology. 2025; 5: 567267.
7. Koori N, Yamamoto S, Kamekawa H, Fuse H, Takahashi M, Miyakawa S, Sasaki K, Naruse R, Yasue K, Nosaka H, Takatsu Y, Saotome K, Kurata K. Comparison of image quality evaluation methods for magnetic resonance imaging using compressed sensing-sensitivity encoding (CS-SENSE). Radiological Physics and Technology. 2025; 18(2): 597-605.
8. Okada H, Koori N, Shimizu H, Yamamoto S, Komatsuzaki T, Fuse H, Sasaki K, Miyakawa S, Yasue K, Takahashi M. Development of estimation method for T1 and T2 values using the relaxivity of contrast agent and coagulant for a magnetic resonance imaging phantom. Radiological physics and technology. 2025; 18(2): 469-476.

4　報告書

1. 郡倫一．若手研究，放射線量測定のための新しいポリマーゲル線量計の開発，令和７～９年度，研究代表者

5　学会活動

1) 所属学会　日本磁気共鳴医学会（代議員），読影の補助（STAT）画像セミナー（代表世話人），MRI rookiesセミナー（世話人），東海MRI技術研究会（世話人），日本診療放射線技師会，日本診療放射線技術学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Radiological Physics and Technology誌での査読委員（計６編）
2. 診療放射線技師会雑誌での査読委員（計１編）
3. 第６回　読影の補助（STAT）画像セミナー（2025.9.3開催）での運営
4. 第７回　読影の補助（STAT）画像セミナー（2026.3.19開催）での運営・座長
5. 第２回 MRI Rookiesセミナー（2025.11.15開催）での運営・座長

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，若手研究，放射線量測定のための新しいポリマーゲル線量計の開発，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 福井大学医学部附属病院　診療修練員　2025.4.1-2026.3.31.

7　学内委員会活動　学生委員会，交通安全委員会，高大医連携推進委員会

氏名：吉田　皓文

1　研究題目　胸部X線画像から非構造的異常を推定する人工知能手法の研究，胸部X線画像の構造的・非構造的情報の解釈を言語化する人工知能手法の研究

2　論文

1. Hagihara Y, Murayama T, Yoshida A, Nara T. Severe kyphoscoliosis observed in a human skeleton from the Edo period. Anthropol Sci. 2025; 133(2): 89-98. (review)
2. Kai C, Kasai S, Teramoto R, Yoshida A, Tamori H, Kondo S, Hai PT, Cong NV, Tuan DM, Loc TV, Kodama N. Classifying abnormalities in chest radiographs from Vietnam using deep learning for early detection of cardiopulmonary diseases. Front Radiol. 2025; 5: 1703927. (review)
3. 佐藤郁美，廣野悠太，甲斐千遥，吉田皓文，西山博久，児玉直樹，笠井聡．Convolutional neural networkを用いた超音波ドプラの信号源を分類するAIモデルの開発と判定精度の評価．看護理工学会誌．2025；13：75-83.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. Yoshida A, Kasai S. Utility of non-morphological information estimation using chest radiograph-based deep learning models. IFMIA2026 (Kaohsiung) 2026.1.12-1.13.
2. Yoshida A, Kai C, Sato I, Futamura H, Oochi K, Kasai S. Deep learning model for estimating decline of pulmonary function using retrospective chest radiography data. IFMIA2026 (Kaohsiung) 2026.1.12-1.13.

4　学会活動

1) 所属学会　日本医用画像工学会，日本放射線技術学会，日本医学物理学会，医用画像情報学会，日本診療放射線技師会，新潟県診療放射線技師会，新潟医療福祉学会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和３年厚生労働省告示第273号研修（告示研修），実技研修ファシリテータ，日本診療放射線技師会，診療放射線技師，新潟医療福祉大学，2025.6.28.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費若手研究，胸部X線画像の構造的・機能的異常を言語化する特化型基盤モデルの開発，研究代表者
2. 2024年度，科研費基盤研究（C），構造的な異常所見を有さない胸部単純X線画像を用いた統合的な疾患予測指標の開発，研究分担者

7　学内委員会活動　教務委員会，健康管理センター運営委員会

氏名：橋本　薫

報告事項なし

氏名：湯浅　仁博

1　研究題目　MRI-CT画像融合に関する研究，放射線治療時における皮膚マーカーに関する研究，CT画像の歪みに関する研究

2　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会　理事，日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会，日本放射線腫瘍学会，日本心理学会，日本ハイパーサーミア学会　健保検討委員　外保連試案検討WG

2) 学会等でのその他の活動

1.　「医療技術評価提案書（保険未収載技術用）」日本ハイパーサーミア学会，厚生労働省，2025年，筆頭執筆

3　社会活動

1) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本ハイパーサーミア学会（健保検討委員），新潟医療福祉学会（理事）

4　学内委員会活動　学術委員（委員）

氏名：小原　佑介

1　研究題目　サーモプラスチックボーラス形成過程のCT値変化と線量計算アルゴリズムの違いが線量分布に与える影響

2　論文

1.　Hinai S, Usui K, Obara Y, Maebayashi T, Ookubo S, Ichikawa A, Sasaki Y, Ozawa K. Effectiveness of 4-dimensional maximum intensity projection (4D-MIP) for respiratory motion management with uncertain interobserver delineation. Medical Dosimetry. 2025.4.30; 50(2) 141-147

2.　Hinai S, Usui K, Obara Y, Maebayashi T, Ookubo S, Ichikawa A, Sasaki Y, Sakamoto H, Kyogoku S, Daida H. Evaluating the utility of simulated respiratory-gated four-dimensional computed tomography in internal-target-volume-based treatment planning for irregular breathing patterns. Radiological Physics and Technology. 2026.1.9; 19(1): 270-283

3　学会等研究発表

1.　小原佑介，比内聖紀，大久保智史，松下淳一，市川篤志，佐々木義久，前島偉．サーモプラスチックボーラス形成過程のCT値変化と線量計算アルゴリズムの違いが線量分布に与える影響．第53回日本放射線技術学会秋季学術大会，2025.10.17.

4　学会活動

1) 所属学会　日本医学物理学会，日本医学物理士会，日本放射線技術学会，日本放射線技師会

2) 学会等でのその他の活動

1.　第168回 東京支部セミナー 放射線管理・防護・計測研究班 第２回 簡易線量計作製セミナー，講師，東京，2025.9.20.

2.　第53回 日本放射線技術学会秋季学術大会，座長，北海道，2025.10.18.

氏名：佐々木　啓

1　研究題目　能動的触覚刺激時の脳活動に関する研究，ASMR視聴時の脳活動に関する研究，機械刺激に関する研究，MRI撮影時の体動補正に関する研究

2　論文

1.　Sasaki K, Yoshida N, Oishi M, Kawamura R, Kodama N. Are There Sex Differences in Brain Activity in Response to Active Tactile Stimulation? cureus 2025. 9 17(9): e92170.（査読あり）

2. Yoshida N, Kageyama H, Akai H, Kasai S, Sasaki K, Sakurai N, Kodama N. Reducing the acquisition time for magnetic resonance imaging using super-resolution image generation and evaluating the accuracy of hippocampal volumes for diagnosing Alzheimer's disease Frontiers in Neurology 2025. 7 16(1507722).（査読あり）
3. Kawamura R, Sasaki K, Shimizu S, Kodama N. Neural basis of intensity-dependent brain activity in response to mechanical stimulation and the level of pain sensitivity Frontiers in Human Neuroscience 2026. 1 19.（査読あり）
4. Yoshida N, Kageyama H, Akai H, Sasaki K, Sakurai N, Koori N, Yamamoto S, Kodama N. Deep learning approach to super-resolution correction of brain MRI motion artifacts for accurate hippocampal volumetry. Sci. Rep 2026.3.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 佐々木啓，櫻井典子，吉田宜清，大石美鈴，児玉直樹．fMRIを用いた能動的触覚刺激に対する脳賦活部位の特定 第41回日本診療放射線技師学術大会（福井）2025.9.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本診療放射線技師会，新潟県診療放射線技師会，日本認知症予防学会

2) 学術集会の主催

1. 日本診療放射線技師会，第41回日本診療放射線技師学術大会，市民公開講座の運営，福井，2025.9，活動期間2025.4-9.

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，挑戦的研究（萌芽），地域住民が利用可能な軽度認知障害スクリーニングシステムの開発と認知症検診への挑戦，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

博士（保健学）（2025.3.31）

6　学内委員会活動　広報委員会，同窓会・生涯学修連携推進委員会，運動機能医科学研究所

氏名：大石　美鈴

1　研究題目　fMRIを用いた脳機能の解明，加齢と認知機能に関する研究，リラクゼーションや精神状態に関する研究

2　論文

1. Sasaki K, Yoshida N, Oishi M, Kawamura R, Kodama N. Are There Sex Differences in Brain Activity in Response to Active Tactile Stimulation?. Cureus. 2025; 17(9).

3　学会等研究発表

1. Oishi M, Sakurai N, Sasaki K, Kawasaki Y, Kodama N. Investigation of Functional Connectivity in Relation to Differences in Anxiety Tendencies Using rs-fMRI. 第81回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜），2025.4.10-4.13.
2. 大石美鈴，櫻井典子，佐々木啓，児玉直樹．fMRIを用いたASMRとクラシック音楽聴取時の機能的結合における性差の検討．第41回日本診療放射線技師学術大会（福井），2025.9.12-9.14.
3. 大石美鈴，佐々木啓，児玉直樹．若年者と高齢者における自律感覚絶頂反応に関する機能的結合の比較検討．第53回日本放射線技術学会秋季学術大会（札幌），2025.10.17-10.19.

4　学会活動

1) 所属学会　日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会

5　学内委員会活動　運動機能医科学研究所

4）健康科学部

（1）健康栄養学科

氏名：永井　徹

1　研究題目　地域高齢者のサルコペニア予防と栄養支援に関する研究，回復期リハビリテーション患者の栄養治療に関する研究

2　報告書

1. 永井徹，宮岡洋三，伊藤加代子，岩森大．研究基盤（C），サルコペニア嚥下機能低下高齢者口腔栄養双方向プログラムの実証研究，研究成果報告書，2021-2024，研究代表者

3　学会等研究発表

1. 永井徹，井上達朗，齋藤泰晴，堂井真里，遠藤沙保里，笠原純子，坂井邦彦．地域における集学的チームによる誤嚥性肺炎予防活動．JSPEN（さいたま市），2025.7.27.【シンポジウム】
2. 永井徹，齋藤泰晴，堂井真里，坂井邦彦，遠藤沙保里，笠原純子．地域高齢者における食事摂取時の口腔自覚症状と栄養評価指標との関連．第41回日本栄養治療学会学術集会（横浜市），2026.2.13-2.14.

4　学会活動

1) 所属学会　日本栄養治療学会（学術評議員），日本摂食嚥下リハビリテーション学会，新潟医療福祉学会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. むらかみ長寿大学8月特別講座，フレイル・サルコペニア予防実践講座，講師，村上市教育委員会長寿大学，高齢者，村上市，2025.8.29.
2. むらかみ長寿大学特別健康講座，フレイル・サルコペニア予防実践講座，講師，村上市教育委員会長寿大学，高齢者，村上市，2026.3.19.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報，管理栄養士養成準備万端，2025.4.4.
2. BSN，ゆうなび，サルコペニア予防について，2025.5.14.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟高齢者の栄養と摂食を支える会，事務局長，新潟市，2025.4.1-2026.3.31.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県高等学校特色ある科目開発ワーキング委員会（委員）

6　学内委員会活動　キャリア支援センター運営委員会（委員長），栄養科学研究センター，ロコモティブ症候群予防研究センター（栄養業務）

氏名：稲葉　洋美

1　研究題目　共食に関する研究，高校生の食と健康に関する研究，スポーツ栄養

2　論文

1. Inaba H, Hanawa H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Iron Deficiency Prevention and Dietary Habits Among Elite Female University Athletes in Japan. Sports. 2025; 7: 220 (review)
2. 稲葉洋美，川中健太郎．スポーツ栄養におけるエビデンスとその活用．日本臨床スポーツ医学会誌．2025; 33（3）：373-373

3　学会等研究発表

1. 曽根美奈子，星野芙美，稲葉洋美．大学男子柔道選手におけるトレーニング期と減量期の比較．日本スポーツ栄養学会第11回大会（福岡市）．2025.8.30-8.31.
2. 稲葉洋美，星野芙美，江玉睦明，大森豪．女子サッカー選手における補食摂取頻度と食習慣．第72回日本栄養改善学会（世田谷区），2025.9.14-9.14.
3. 曽根美奈子，星野芙美，石井穂乃香，稲葉洋美．大学男子柔道選手における減量の実態．第72回日本栄養改善学会（世田谷区），2025.9.14-9.14.

4. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．n-6系脂肪酸/n-3系脂肪酸の摂取比率が月経時に伴う身体的痛みに及ぼす影響．第72回日本栄養改善学会（世田谷区），2025.9.14-9.14.
5. 入澤祐里，面莉緒，皆川陽介，高野夏来，稲葉洋美．女子高校生におけるPMS認知度と食習慣に関する実態調査．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.
6. 稲葉洋美，塙晴雄，星野芙美，曽根美奈子，石井穂乃香，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける鉄欠乏性貧血／鉄欠乏症と鉄欠乏性貧血を予防・治療するための食習慣に関する調査．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.
7. 曽根美奈子，石井穂乃香，稲葉洋美，大森豪．大学男子柔道選手における脱水状況の実態．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.
8. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける競技環境の違いが血中25OHビタミンD濃度および月経痛に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.

4　学会活動

1) 所属学会　日本栄養改善学会，日本スポーツ栄養学会，日本臨床スポーツ医学会，日本家政学会，日本食生活学会，日本栄養士会，新潟県栄養士会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第35回日本臨床スポーツ医学会，一般口演座長，千葉市，2025.11.3.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. アルビレックス新潟U13栄養講習会，食べる力，講師，アルビレックス新潟，アルビレックス新潟U13，アルビレッジ，2026.4.13.
2. 令和７年度新潟スポーツ障害フォーラム指導者セミナー，栄養と睡眠，講師，新潟市中体連部活動・中学校指導者研修会，一般市民，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.7.25.
3. 新潟市スポーツ指導者研修会，栄養と睡眠，講師，新潟市教育委員会学校支援課，一般市民，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.10.18.
4. アルビレックス新潟ユース栄養講習会，貧血の予防と改善，講師，アルビレックス新潟，アルビレックス新潟ユース，アルビレッジ，2026.12.5.
5. 女性アスリート支援ネットワーク勉強会，女性アスリート支援に必要な栄養の基礎知識，講師，女性アスリート支援ネットワーク，女性アスリート支援者，ZOOM，2026.1.19.
6. 令和７年度スポーツ指導者研修会～子どもの安全・安心を指導者が守るために～，トレーニングに大切な食事と休養，講師，公益財団法人新潟市スポーツ協会，スポーツ指導者，新潟市，2026.3.3.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム，理事，新潟市，通年

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟バイオリサーチパーク（食品ヒト試験審査委員）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究（C），共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発，研究代表者
2. 2022年度，科研費基盤研究（C），小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築，研究分担者
3. 2022年度，科研費基盤研究（C），女子アスリートの鉄欠乏，貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

2025NSGアワード，新潟医療福祉大学表彰，MOST VALUABLE TEAM，アスリートサポート研究セン

ター，優秀賞

7　学内委員会活動　広報委員会（委員長），大学院入試広報委員会，プロジェクト研究センター運営委員，アスリートサポート研究センター，栄養科学研究センター（センター長）

氏名：鈴木　一恵

1　研究題目　地域の減塩活動に関する研究，災害食に関する研究，地域高齢者の低栄養予防に関する研究（公衆栄養学）

2　論文

1. Terashima T, Takeuchi M, Ishigami K, Suzuki K. Evaluation of a Nutritional Improvement Program for Stunting in Guatemala, Niigata Journal of Health and Welfare. 2026; 25(1), 1-14.

3　学会等研究発表

1. 鈴木一恵，渡辺優奈，石上和男．自立高齢者を対象にした低栄養と食行動・食意識との関連．日本公衆衛生学会（静岡県），2025.10.30.
2. 串田修，鈴木一恵．地域版尺度と化学分析値との比較による食塩摂取関連行動の地域差の検討．日本公衆衛生学会（静岡県），2025.10.30.

4　学会活動

1) 所属学会　日本栄養改善学会（評議員），日本循環器病予防学会，日本公衆衛生学会，日本災害食学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 栄養学雑誌，査読２本

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度見附市食生活改善推進委員協議会研修会，食生活改善推進委員の役割と期待すること，見附市食推協議会（見附市健康推進課），会員，見附市，2025.4.22.
2. 五泉市食育研修会，「第４次五泉市食育推進計画」の重点課題と学校での食育について，講師，五泉市学校教育課，小中高等学校の学校職員・学校教育課職員，五泉市，2025.8.5.
3. 令和７年度地域食育充実事業　働く世代への食育検討会，実態把握に基づいた食生活改善のアプローチ，講話・アドバイザー，三条地域振興局健康福祉環境部，市町村栄養士，三条市，2025.8.26.
4. 大学連携「未来のまちづくり」防災でまちづくり，災害時の食の備え，講師，新潟医療福祉大学，市民，新潟市，2025.9.19.
5. 五泉市食育推進検討委員会，第５次食育推進計画策定に向けた評価指標設定の考え方について，講師，五泉市学校教育課，小中高等学校の学校職員・学校教育課職員，五泉市，2025.9.29.
6. 新潟県栄養士研修会，新しい高血圧予防の視点「ナトカリ比」について，講師，新潟県栄養士会，会員，新潟市，2025.11.1.
7. 五泉市食育推進検討委員会，第５次食育推進計画策定に向けた評価指標設定の考え方について，講師，五泉市学校教育課，小中高等学校の学校職員・学校教育課職員，五泉市，2026.2.19.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，日本農業新聞，エダマメで貧血予防，2026.3.22.

3) 社会活動への参加協力

1. 食の新潟国際賞財団，「にいがた食と農の未来学生」ビジョンコンテスト，学生指導（ビジョン作成等），2025.6.1-11.8.
2. 新潟市食と花の推進課，食と農のわくわくSDGs，学生指導，新潟市北区，2025.4.1-7.31.
3. 胎内市健康づくり課，前期高齢者の低栄養の実態と基本チェックリストとの関連，研究報告会，学生指導，胎内市，2025.9.4.
4. 胎内市健康づくり課，自立高齢者の低栄養の実態とその要因～食意識・食行動に着目して～，研究報

告会，研究代表，胎内市，2025.9.4.

5. 新潟県庁健康づくり支援課と連携した食育イベント，学生による野菜・食塩・砂糖クイズと解説，学生指導，新潟市６会場，2025.8.1-8.21.
6. 新潟県栄養士会，在宅医療（栄養）推進事業，事業コーディネート・事業分析業務，新潟市，2025.12.1-2026.3.31.
7. 新潟県庁・新潟県赤十字血液センターと連携した献血レシピランチ試食会，学生によるメニュー提供＆ミニ健康講話，学生指導，新潟市，2025.12.3.
8. 新潟県庁・新潟県赤十字血液センター・NPO法人Lily&Marry'S，子ども食堂と連携した献血啓発メニューの開発と提供，学生によるメニュー開発と子ども食堂での食事提供＆ミニ健康講話，学生指導，新潟市，2025.12.1-2026.3.13.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
五泉市食育推進委員会（食育推進事業アドバイザー），五泉市食育推進検討委員会（食育推進事業アドバイザー），柏崎市地産地消推進会議（副議長），柏崎市食育推進会議（副議長）

5) 職能団体（協会，士会等）の委員
日本栄養改善学会（評議員），日本栄養改善学会関東・甲信越支部（幹事），健康ビジネス協議会（おもいやり災害食認定制度事業審査委員会・委員）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，科研費基盤研究（c），地域在住の自立高齢者の低栄養の実態と関連要因～食意識・食行動に着目して～，研究代表者

7　学内委員会活動　個人情報保護委員会（委員長），高等教育推進センター運営委員会

氏名：田村　典子

報告事項なし

氏名：馬場　広子

報告事項なし

氏名：越中　敬一

1　研究題目　身体のエネルギー代謝調節機構の解明

2　報告書

1. 越中敬一．日本学術振興会　科学研究費補助金基盤（C），一過性の身体運動による骨格筋インスリン作用の亢進における水分子動態の関与，研究成果報告書，2022-2024，研究代表者

3　学会等研究発表

1. 富来愛，越中敬一，川田裕樹．イソマルツロースの摂取が食欲及び摂食量に及ぼす影響．アプライドスポーツ科学会．第５回大会（横浜市・日本），2026.1.24.
2. 横川晶，周桐竹，越中敬一，川中健太郎．グルコースが筋タンパク質合成と分解に及ぼす影響．日本体力医学会．第79回日本体力医学会大会（草津市・日本），2025.9.19.
3. 越中敬一，松永千鶴，藤澤凌，市井薪，佐藤晶子，石垣智恒．再摂食と身体トレーニングが腱のエネルギー代謝に及ぼす影響．日本体力医学会．第79回日本体力医学会大会（草津市・日本），2025.9.18.
4. 佐藤晶子，越中敬一．短期的な体内チアミン量の低下が糖質の大量摂取中の食欲自発的な摂食量とグリコーゲン蓄積量に及ぼす影響．日本栄養改善学会．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京・日本）．2025.9.12.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（理事），運動生理学会，日本体力医学会（評議員）

2) 学会等でのその他の活動

1. 新潟医療福祉学会，新潟医療福祉学会誌（和文誌）編集委員長，2025年度

5 社会活動

1) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新潟骨を守る会，news letter，高高齢マスターズアスリートから身体運動の価値を学ぶ，2026年3月31日発行，第88号

2) 社会活動への参加協力

1. NPO法人　新潟水辺の会・里山ガイド講座・ガイド養成講座の補助スタッフ・新潟市・鳥屋野潟・9.6.
2. 一般社団法人 にいがたヨガ協会・イベント潟のほとりの美ライフwork・技術スタッフ・新潟市・鳥屋野潟・9.7.
3. 一般社団法人 にいがたヨガ協会・イベント潟のほとりの美ライフwork・技術スタッフ・新潟市・鳥屋野潟・5.4.
4. NPO法人　新潟水辺の会・長岡市立向陽中学校体験授業・指導スタッフ・新潟市・鳥屋野潟・5.15.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟骨を守る会（役員）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，日本学術振興会　科学研究費補助金基盤（C），水分子の動態による骨格筋エネルギー代謝調節機構の解明
2. 2024年度，日本学術振興会　科学研究費補助金基盤（C），妊娠期における母体への温熱刺激が子の出生後のエネルギー代謝に及ぼす影響
3. 2025年度，日本学術振興会　挑戦的研究（萌芽），腱の損傷と修復に着目した腱グリコーゲン代謝調節機構の機能解明

7 学内委員会活動　科研費対策委員会，強化指定クラブ運営委員会，学術委員会

氏名：岩森　大

1 研究題目　高齢者の食事形態と食品のテクスチャに関する研究

2 著書

1. 井ノ内直良，平尾和子，岩森大他．澱粉の事典．初版．朝倉書店；2025：430-434

3 論文

1. 岩森大．とろみ調整液の刺激物質が口腔内感覚へ及ぼす影響．Precision Medicine. 2025; 8(13): 70-75（査読あり）

4 報告書

1. 永井徹，宮岡洋三，伊藤加代子，岩森大．研究基盤（C），サルコペニア嚥下機能低下高齢者口腔栄養双方向プログラムの実証研究，研究成果報告書，2021-2024，研究分担者

5 学会等研究発表

1. 岩森大，真柄仁，井上誠．味覚感受性が炭酸飲料摂取時の嚥下筋活動へもたらす刺激効果．第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（横浜市），2025.9.19-9.20.

6 学会活動

1) 所属学会　日本調理科学会（総務），日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本官能評価学会，日本口腔リハビリテーション学会，日本嚥下歯学会，日本食生活学会，新潟歯学会，新潟栄養食生活学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. An Interdisciplinary Journal査読（2025.4）

2. 日本調理科学会誌査読（2025.9）
3. 日本調理科学会誌査読（2026.1）

7 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 豊栄街中キャンパス，健康でまちづくり：北区野菜を用いた調理実習，講師，高齢者，ラグーナスクエア豊栄，新潟市，2025.8.5.

2) 社会活動への参加協力

1. にいがた摂食嚥下サポート研修会，地域高齢者向け講演会，運営委員，新潟（通年）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本栄養士連盟新潟県支部（研究教育幹事）

8 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），レオロジーの異なる炭酸飲料による嚥下機能への刺激効果の解明，岩森大，研究代表者
2. 2024年度，科研費基盤研究（C），共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発，岩森大，研究分担者

9 学内委員会活動　学生委員会（副委員長），交通安全委員会（副委員長），入試委員会，栄養科学研究センター（副センター長）

氏名：山﨑　貴子

1 研究題目　調理加工・保存等における食品成分およびテクスチャーの変化

2 学会活動

1) 所属学会　日本調理科学会，日本栄養改善学会，日本食生活学会，新潟医療福祉学会

3 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度，科研費基盤研究（C），給食施設での栄養評価のためのデータ構築：調理による成分変化と成分表計算値との比較，研究代表者

4 学内委員会活動　教務委員会（委員長）

氏名：川上　心也

1 研究題目　個体の栄養状態が卵子に与える影響に関する研究，卵子の成熟機序の研究

2 学会等研究発表

1. 川上心也，諏訪心，渡邉茉穂，菊池真那，若月璃々．低栄養個体の卵母細胞における脂質およびミトコンドリア含量と卵母細胞の質との関係．第66回日本卵子学会学術集会（広島市），2025.5.31-6.1.

3 学会活動

1) 所属学会　日本卵子学会，新潟医療福祉学会，北信越畜産学会

4 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，基盤研究（C），個体のエネルギー摂取不足は卵子の発育に影響するのか？，研究代表者
2. 2023年度，基盤研究（C），小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築，研究分担者

5 学内委員会活動　人権委員会，個人情報保護委員会，教務委員会

氏名：星野　芙美

1 研究題目　アスリートの食習慣・睡眠の実態とそれらがコンディションやパフォーマンスに与える影響につ

いて，児童のやせ願望とその実態について，児童の学校給食摂取状況等について

2　論文

1. Inaba H, Hanawa H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Iron Deficiency Prevention and Dietary Habits Among Elite Female University Athletes in Japan. Sports. 2025; 7: 220（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 曽根美奈子，星野芙美，稲葉洋美．大学男子柔道選手におけるトレーニング期と減量期の比較．日本スポーツ栄養学会．日本スポーツ栄養学会第11回大会（中村学園 福岡県），2025.8.30-8.31.
2. 稲葉洋美，星野芙美，江玉睦明，大森豪．高校生女子サッカー選手における補食摂取頻度と食習慣．日本栄養改善学会．第72回日本栄養改善学会（東京農業大学世田谷キャンパス 東京都），2025.9.12-9.14.
3. 稲葉洋美，塙晴雄，星野芙美，曽根美奈子，石井穂乃香，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける鉄欠乏性貧血／鉄欠乏症と鉄欠乏性貧血を予防・治療するための食習慣に関する調査．日本臨床スポーツ医学会．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（幕張メッセ 千葉県），2025.11.2-11.3.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本体力医学会，日本栄養食糧学会，日本栄養改善学会，日本スポーツ栄養学会，日本給食経営管理学会，日本臨床スポーツ医学会

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度，基盤研究（C），給食施設での栄養評価のためのデータ構築：調理による成分変化と成分表計算値との比較，山﨑貴子・竹内瑞希・星野芙美.
2. 2023年度，基盤研究（C），小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築，星野芙美・稲葉洋美・川上心也.

2) 学外兼務講師等

1. 新潟市立桃山小学校，３年生総合学習の時間 枝豆について，2025.9.9.

6　学内委員会活動　同窓会・生涯学習連携推進委員会（委員），アスリートサポート研究センター（研究員）

氏名：中村　純子

1　研究題目　中学生におけるCKD普及啓発，ヘルスリテラシー

2　論文

1. 北林紘，中村純子，西岡心大，須永将広，宮島功，渡邉啓子．がん，腎臓病，糖尿病，摂食嚥下リハビリテーション専門 管理栄養士に関する意識，現状，課題の比較（実践事例報告）日本栄養士会雑誌 2026 69(4) 33-42

3　報告書

1. 中村純子．日本臨床栄養協会海外渡航費援助制度，INCD2024の参加から得たこと，海外渡航旅費援助制度渡航者レポート，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 中村純子，悴田亮平，和田真一，山本卓．中学生へのCKD教育～中学生から保護者へ与える影響～．第68回日本腎臓学会学術集会・総会（横浜市），2025.6.21.
2. 中村純子，悴田亮平，山本卓．管理栄養士の立場から～行政，子どもへの活動～．第55回日本腎臓学会東部学術大会（横浜市），2025.9.28.【シンポジウム】
3. Nakamura J, Kaseda R, Suguru Y. Adding “Nudges” to CKD Education: Behavioral Interventions to Improve Children's Health Literacy World Congress of Nephrology 2026 2026.3.28.

5　学会活動

1) 所属学会　日本病態栄養学会（評議員），新潟医療福祉学会，日本腎臓学会，日本スポーツ栄養学会

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 講習会，野球部栄養講習会，講師，日本文理高等学校野球部，野球部員・監督・コーチ・マネージャー，日本文理高等学校，2025.4.25.
2. 佐渡市健康推進協議会総会研修会，CKDを予防する食事，講師，佐渡市，佐渡市健康推進協議会員，佐渡市，2025.5.14.
3. 新潟市食生活改善推進委員総会研修会，小中学生における食習慣の課題と望ましい食生活について，講師，新潟市，新潟市食生活改善推進員，新潟市，2025.5.22.
4. 令和７年度地域とともにある学校づくり推進事業講演会，元気に過ごすための子ども達のタイムマネジメント，講師，金津中学校，中学生，金津中学校，2025.5.30.
5. 勝負の秋はもう始まっている，野球部栄養講習会，講師，日本文理高等学校野球部，野球部員・監督・コーチ・マネージャー，日本文理高等学校，2025.6.19.
6. 下越薬剤師会学術研修会，食の選択肢を広げる減塩指，講師，下越薬剤師会，下越地区薬剤師会会員，新潟市，2025.7.15.
7. 講習会，親子で学ぶ栄養講習，講師，新潟医療福祉大学，北区中学生野球チーム，新潟医療福祉大学，2025.8.3.
8. 講習会，秋葉区からだづくり講座，持続可能なげんきな体！～次世代を育むために～，講師，秋葉区民，新潟市秋葉区，2025.11.15.
9. 公開講座，新潟市木崎中学校区食育ミニフォーラム，見つめよう食生活 ～家庭，学校，地域で育む生きる力～，講師，木崎中学校区生徒と地域の方，木崎中学校，2025.11.21.
10. 研修会，腎臓病療養指導士の会 無理なく広がるCKD理解 ～ナッジを活かした啓発の仕組み作り～，講師，腎臓病療養指導士，日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社，2025.12.15.
11. 公開講座，にいがたSTOP高血圧プロジェクト 血圧が気になるあなたのイージー食事改革，講師，新潟県民，にいがたのうしんセンター，2026.3.15.
12. 研修会，とよさか中高年教育大学　からだをげんきにする食べ方をマスターしよう，講師，市民，新潟市，2025.10.23.
13. 燕市特定保健指導従事者研修会，検査データの見方，講師，燕市保健センター，職員・市民，2025.11.4.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
1. 新聞，新潟日報，にいがたSTOP高血圧プロジェクト，2026.3.31.（囲み記事）
2. 事例集，第４回北陸農政局食育活動表彰北陸農政局長賞受賞事例集，S-N For All Children，2025.6.10.

3) 社会活動への参加協力
1. 日本文理高校野球部，栄養サポート，講師，日本文理高校，通年
2. ingrow，食育活動，献立作成，ingrow（就労支援B，放課後等デイサービス），通年

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟市学校運営協議会・梨の花部会（新潟市学校運営協議委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2024年度，科研費基盤研究（C），健康教育が行動に繋がらない謎を解明：ナッジで中学生の行動変容を促す，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得
腎臓病療養指導士（2025.4.1），北陸農政局食育活動表彰北陸農政局長賞（2025.6.10）

3) 学外兼務講師等
1. 木崎小学校，総合学習（弁当の日），2025年度計３回
2. 新津第二小学校，保健，2025年度計４回

8　学内委員会活動　国家試験・資格試験対策委員会（委員），新潟連携教育研究センター運営委員会（委員），

高大医連携推進委員会（委員）

氏名：森　博康

1　研究題目　糖尿病のある方のサルコペニア肥満の臨床的特徴，必須アミノ酸と茶カテキンの摂取がサルコペニア予防に与える効果，フレイル予防を目的としたデジタルヘルスの利活用が高齢者の身体機能や健康関連QOLに与える効果

2　論文

1. Ichihara Y, Mori H, Kamada M, Matsuura T, Sairyo K, Hyodo M, Tsutsumi R, Sakaue H, Aihara KI, Funaki M, Kuroda A, Matsuhisa M. Effects of high-intensity interval walking training on muscle strength, walking ability, and health-related quality of life in people with diabetes accompanied by lower extremity weakness: A randomized controlled trial. Journal of Diabetes Investigation (JCR). 2025; 16(4): 646-655. (review)
2. Mori H, Tokuda Y. Effects of Combined Essential Amino Acid and Tea Catechin Supplementation after Exercise on Muscle Mass, Strength, and Health-related Quality of Life in Non-sarcopenic Older Adults: A Randomized Controlled Trial. Niigata Journal of Health and Welfare. 2026; 25(1): 26-36. (review)

3　学会等研究発表

1. 市原靖子，森博康，鎌田基夢，松浦哲也，西良浩一，兵藤瑞紗，堤理恵，阪上浩，粟飯原賢一，船木真理，黒田暁生，松久宗英．膝伸展筋力低下を伴う糖尿病患者への高強度インターバル速歩の実践が身体機能や健康関連QOLに与える効果：無作為化比較試験．第68回日本糖尿病学会年次学術集会（岡山市），2025.5.29-5.31.【一般演題（口述）】
2. 森博康，徳田泰伸，松久宗英．必須アミノ酸と茶カテキンの併用摂取が高齢者の筋力や骨格筋量，健康関連QOLに与える効果：無作為化比較試験．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.【一般演題（口述）】
3. 森博康．第１回サルコペニア・フレイル指導士活動奨励賞 臨床実践部門 糖尿病のある方へのサルコペニア・フレイル指導士の臨床実践 ～食事療法の新たなエビデンス創出と社会への啓蒙普及～．第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会（熊本），2025.11.1-11.2.【シンポジウム】
4. 松久宗英，黒田暁生，安田哲行，馬屋原豊，良本佳代子，吉内和富，山本恒彦，吉田守美子，森博康．非糖尿病者および２型糖尿病者のサルコペニア肥満の有病率と臨床的特徴の検討～iDIAMOND研究のサブ解析～．第46回日本肥満学会・第43回日本肥満症治療学会学術集会（岡山市），2025.10.4-10.5.【一般演題（口述）】

4　学会活動

1) 所属学会　日本老年医学会，日本サルコペニア・フレイル学会，日本栄養士会，日本体力医学会，日本糖尿病学会，日本栄養改善学会，新潟医療福祉学会，Asian Association for the Study of Diabetes.

2) 学会等でのその他の活動

1. Nutrition Reviews，査読
2. Journal of Nutritional Science and Vitaminology，査読
3. Clinical Nutrition ESPEN，査読
4. BMC Geriatrics，査読

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 古町どんどん，若い世代へ啓発 健康な食生活（献血ができるからだづくり），高齢者へ啓発 サルコペニア予防，講師，古町どんどん実行委員会，地域住民，新潟市古町６番町モール内，2025.5.11.
2. 村上長寿大学・フレイル・サルコペニア予防実践講座，講師，村上市教育委員会，高齢者大学利用者，マナボーテ村上，2025.8.29.

3. 古町どんどん，若い世代へ啓発 健康な食生活（献血ができるからだづくり），高齢者へ啓発 サルコペニア予防，講師，古町どんどん実行委員会，地域住民，新潟市古町６番町モール内，2025.10.12.
4. 社会連携・地域貢献オンラインセミナー，ぜ，朝ごはんを食べた方が良いかを考える．～加齢に伴う筋肉の低下と食事の関係～，講師，社会連携推進センター運営委員会，地域住民，オンライン配信，2025.11.3-.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
1. webメディア，meal time（株式会社ファンデリー），高齢期に重要な筋肉と食事のたんぱく質との関係，2025.11.26.

3) 社会活動への参加協力
1. 新潟県栄養士会，実践研究セミナーワーキング会議，運営委員，オンライン，2025.12.23.
2. 新潟県栄養士会，実践研究セミナーワーキング会議，運営委員，オンライン，2026.2.2.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2023．基盤研究C，茶カテキンの食品機能性に注目した新たなサルコペニア予防と治療方法の創出，森博康.

2) 受賞，学位取得，資格取得
第68回日本糖尿病学会年次学術集会医療スタッフ優秀演題賞（2025.5.30），第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会第１回サルコペニア・フレイル指導士活動奨励賞臨床実践部門（2025.11.1）

3) 学外兼務講師等
1. 新潟県理学療法士会，領域別研修会（予防領域）「臨床でのサルコペニア・フレイルの基礎と予防・介入」，2026.3.21.

7 学内委員会活動　入試委員会（委員），大学院教務委員会（委員）

氏名：竹内　瑞希

1 研究題目　血液透析患者の栄養管理，栄養教育に関する研究，栄養に関する知識Databaseの活用について

2 論文
1. Terashima T, Takeuchi M, Ishigami K, Suzuki K. Evaluation of a Nutritional Improvement Program for Stunting in Guatemala. Niigata Journal of Health and Welfare Vol.25, No.1

3 学会等研究発表
1. 竹内瑞希，小山結愛，井上萌愛，桑野寿輝，藤井楓恋，髙橋洋平，石原到，八幡和明．２型糖尿病患者におけるインドール濃度と食事の関連．第52回新潟糖尿病談話会．2026.2.21.

4 学会活動
1) 所属学会　日本病態栄養学会，日本栄養治療学会，日本栄養改善学会，新潟栄養・食生活学会，新潟医療福祉学会

5 社会活動
1) 公開講座・講演会等
1. 親子で学ぶ栄養講習，講師，新潟医療福祉大学，新潟，新潟医療福祉大学，2025.8.2.
2. 令和７年度　在宅医療（栄養）推進事業，事業コーデネイト・事業分析業務，新潟市・オンラン，2025.10-2026.3.
3. もっと知りたい食物アレルギー，講師，新潟市給食研究会，新潟市・オンライン，2025.9.17.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員
新潟県栄養士会（新潟市理事）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2021年度，科研費基盤研究C，給食施設での栄養評価のためのデータ構築：調理による成分変化と成

分表計算値との比較，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

腎臓病療養指導士（2025.4.1）

7 学内委員会活動　教務委員

氏名：片山　直幸

1 研究題目　栄養教諭の資質能力に関する研究，食育の実践に関する研究，初年次学生における教職の認知・関心・職務理解に関する研究

2 論文

1. 片山直幸，杉崎弘周．栄養教諭の普及状況の実態 －都道府県と校種による比較－．新潟医療福祉大学教職支援センター年報（研究ノート）．2025; (9)：1-8.

3 学会活動

1) 所属学会　日本学校保健学会，日本食育学会，新潟医療福祉大学学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 南浜中学校 サツマイモプロジェクト，サツマイモの栄養価について，講師，新潟市立南浜中学校生徒，新潟市立南浜中学校，2025.6.4.
2. 南浜中学校 サツマイモプロジェクト，サツマイモの商品化について，講師，新潟市立南浜中学校生徒，新潟市立南浜中学校，2025.7.9.
3. 親子で学ぶ栄養講習，実技指導，新潟医療福祉大学　健康栄養学科，中学硬式野球クラブ　新潟ヤングの親子，新潟医療福祉大学，2025.8.2.

2) 社会活動への参加協力

1. 特定非営利活動法人森の会，海辺のピクニック，調理指導ならび当日の調理，海辺の森キャンプ場，2025.4.20.
2. 木崎 食・農ワーキングチャレンジ，食や農業に関する体験活動，講師，新潟市立木崎中学校，本学，2025.10.1.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県栄養士会（新潟市支部副支部長），新潟県栄養士会（研究教育事業部役員）

5 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校，栄養学（科目責任者），2025.10-2026.1.

6 学内委員会活動　高大医連携推進委員会，教職支援センター運営委員会

氏名：塩沢　浩太

1 研究題目　分子生物学的手法によるビタミンまたは食品成分の機能性・安全性研究，食事調査法の教育ツールの開発研究，機能性表示制度の研究

2 論文

1. Takeda S, Warita K, Fujiwara A, Asatsuma C, Saito-Matsuzawa Y, Shiozawa K, Sone H, Kamiyama S. Genistein and 17β-Estradiol Inhibit Extracellular Matrix Production and Chondroitin Sulfate Synthesis in ATDC5 Cells. Journal of Nutritional Science and Vitaminology 71(5) 456-466

3 学会等研究発表

1. 佐藤優吾，熊谷弘明，福崎満夫，小林智子，関川利彦，新國公司，赤塚浩樹，北村友紀，長ケ部千夏，山本紗貴，野本息吹，吉澤夏美，松田奈々，大堀桜子，塩沢浩太，鈴木一恵，高橋遥，山田芽衣．県・大学・こども食堂と連携した貧血予防レシピの活用―レシピ開発から提供，啓発活動の実施まで―．第49回日本血液事業学会総会，埼玉，2025.10.

4　学会活動

1) 所属学会　日本ビタミン学会，日本無菌生物・ノートバイオロジー学会，日本栄養・食糧学会，日本食品科学工学会，日本栄養改善学会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1.　「未来のまちづくり」事業・心も体も健幸プロジェクト（健康コース），食べ方で変えていく～フレイル予防と免疫UP～，講師，新潟医療福祉大学，北区住民，NUHWまちなかキャンパス，6.10.

2.　村上市教育委員会，むらかみ長寿大学特別健康講座，講師，村上市，3.24.

3.　新潟県栄養士会80周年記念式典実行委員会，実行委員，新潟市，6.14.

2) 社会活動への参加協力

1.　新潟県庁感染症予防・薬務課・新潟県赤十字センター，地球の子供食堂と宿題Cafe ひがしく店，献血啓発活動，準備運営，新潟市東区，3.13.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本栄養士会（80周年記念式典実行委員），日本栄養士会（ホームページリニューアル委員）

6　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1.　HOSP！三条看護・医療・歯科衛生専門学校，栄養学，10.1-2.28（講義90分×２回）

氏名：納富　智子

1　研究題目　高齢者の栄養管理，CKD栄養管理

2　学会等研究発表

1.　納富智子，蒲澤秀門，田中舞，村山稔子，山本卓，細島康宏．低たんぱく質食事療法施行中の保存期CKD患者における筋肉量減少に関連する因子の検索．日本腎臓リハビリテーション学会・第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（福岡），2026.3.14-3.15.

3　学会活動

1) 所属学会　日本栄養士会，日本病態栄養学会，日本腎臓リハビリテーション学会

2) 学術集会の主催

1.　日本リハビリテーション栄養学会，第17回学術集会，開催準備委員

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1.　新潟医療福祉大学　社会連携・地域貢献オンラインセミナー「時間栄養学への招待」

2) 社会活動への参加協力

1.　一般社団法人メディカルサイエンスアカデミー　子供向け実験教室実験補助，ゆいぽーと（新潟市），2025.12.20-12.21.

5　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1.　三条専門学校，栄養学，2025.11.6-11.13.

6　学内委員会活動　高等教育委員会，社会連携推進委員会

氏名：海和　美咲

1　研究題目　共食とおいしさの研究，乳幼児期の食事と食育

2　学会等研究発表

1.　海和美咲．疑似的他者の存在によるおいしさと脳活動の変化．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都世田谷区），2025.9.12-9.14.

3　学会活動

1) 所属学会　日本家政学会，日本栄養改善学会，日本栄養士会，日本臨床スポーツ医学会，日本食育学会，新潟医療福祉学会

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 安産＆ファミリースタートアップ，妊娠中の食事と栄養，講師，芥川バースクリニック，妊婦とその家族，オンデマンド（動画配信），2025.5-
2. 木崎　食・農ワーキングチャレンジ，新潟市立木崎中学校１年生，木崎中学校，新潟医療福祉大学，10.1.

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究（C），共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 三条・看護・歯科衛生専門学校，栄養学，2025.12.15，2026.1.15，2.5.

氏名：青木　海

1　研究題目　β-Hydroxy β-MethylButyrateを用いた運動誘発性胃腸症候群の予防・緩和効果の検証，大腸癌増殖におけるレナラーゼとTGF-β1の関係性の探索，分子生物学に関わる測定系の開発，癌増殖を促進する遺伝子の機能解析

2　論文

1. Aoki K, Ota K, Watanabe K, Ishii H, Takekoshi K. Smartphone-based simplified Western blotting detection method. microPublication Biology. 2026: 002001 (review)
2. Okano Y, Tokinoya K, Aoki K, Kato Y, Kawakami Y, Takekoshi K. Renalase deficiency suppresses hepatic triglyceride accumulation in the progression to MASLD/MASH by GAN diet in male mice. Physiological reports. 2026; 14(2): e70720 (JCR) (review)
3. Ebina K, Sakai S, Aoki K, Kioka K, Tome Y, Kawakami Y, Omi N, Takekoshi K. Effects of milk on the bone of a rat model of the female athlete triad. International Journal of Analytical Bio-Science. 2026; 13(3): 24-32 (review)

3　報告書

1. 青木海．若手研究，腸管恒常性に対するレナラーゼの関与と制御メカニズムの解明，研究成果報告書，2022-2024，研究代表者

4　学会活動

1) 所属学会　日本栄養食糧学会，日本体力医学会，栄養学若手研究者の集い（世話人）

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，若手研究，β-Hydroxy β-MethylButyrateを用いた運動誘発性胃腸症候群の予防・緩和効果の検証，研究代表者
2. 2023年度，特別研究員奨励費，大腸癌増殖におけるレナラーゼとTGF-β1の関係性の探索，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 筑波大学，検査医学とスポーツ医学の密接な接点，2025.10.1-11.30.
2. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校，栄養学，2025.10.2-2026.1.22.

6　学内委員会活動　化学物質管理委員会

氏名：曽根　美奈子

1　研究題目　体重階級制競技選手における減量の研究，アスリートにおける脱水の研究

2　学会等研究発表

1. 曽根美奈子，星野芙美，稲葉洋美．大学男子柔道選手におけるトレーニング期と減量期の比較．日本スポーツ栄養学会第11回大会（福岡県福岡市）．2025.8.30-8.31.
2. 曽根美奈子，星野芙美，石井穂乃香，稲葉洋美．大学男子柔道選手における減量の実態．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都世田谷区）．2025.9.12-9.14.
3. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．n-6系脂肪酸/n-3系脂肪酸の摂取比率が月経時に伴う身体的痛みに及ぼす影響．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都世田谷区）．2025.9.12-9.14.
4. 曽根美奈子，石井穂乃香，稲葉洋美，大森豪．大学男子柔道選手における脱水状況の実態．第36回日本臨床スポーツ医学会学術総会（千葉県千葉市）．2025.11.2-11.3.
5. 稲葉洋美，塙晴雄，星野芙美，曽根美奈子，石井穂乃香，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける鉄欠乏性貧血／鉄欠乏症と鉄欠乏性貧血を予防・治療するための食習慣に関する調査．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.
6. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．女性アスリートにおける競技環境の違いが血中25（OH）ビタミンD濃度および月経痛に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術総会（千葉県千葉市）．2025.11.2-11.3.

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本スポーツ栄養学会，日本栄養改善学会，日本臨床スポーツ医学会，日本臨床リウマチ学会

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 講演会，アスリートの補食～どうやって活用する？～，講師，アルビレックス新潟ユース，アルビレックス新潟U14-15の選手と保護者，アルビレックス新潟オレンジカフェ，2025.4.27.
2. 講演会，エネルギー満タン！スポーツを支える食事術，講師，新発田市スポーツ協会，新発田市スポーツ少年団　団員とその保護者および指導者，新発田市カルチャーセンター，2025.5.6.
3. 講演会，朝ごはんを食べよう，講師，アルビレックス新潟ユース，アルビレックス新潟U12の選手と保護者，zoom開催，2025.7.6.
4. 講演会，成長期の食事，講師，第61回新潟市秋季市民大会柔道大会出場選手と保護者，（公財）新潟市スポーツ協会・新潟市・新潟市柔道連盟，新潟市鳥屋野総合体育館，2025.10.13.
5. 講演会，もうすぐ冬！みんなでそなえよう，講師，下越地区柔道錬成会参加者と保護者，新潟県スポーツ少年団　下越地区スポーツ少年団，聖籠町町民会館，2025.11.16.
6. 講演会，長距離選手の食事の基本と体重管理，講師，女性アスリート研修会参加者，新潟陸上競技協会，新潟医療福祉大学，2026.3.8.

2) 社会活動への参加協力

1. 新発田市柔道連盟，理事，新発田市，2025.4.1-2026.3.31.

5　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

修士（健康科学）（2026.3.17）

2) 学外兼務講師等

1. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校，栄養学，2025.10.15，10.22.
2. 杉山内科医院，栄養指導，2025.4.1-2026.3.31，1月２回程度

6　学内委員会活動　アスリートサポート研究センター

氏名：永桶　久美子

1　研究題目　共食

2　社会活動

1) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟医療福祉学会

3　学内委員会活動　広報委員会，新潟連携教育研究センター運営委員会

氏名：小島　結華

1　研究題目　知的障害者，食事，肥満

2　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会

3　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 8月2日 親子で学ぶ栄養講習・一般市民対象（新潟ヤング，中学硬式野球クラブの親子）会場：新潟医療福祉大学

2) 社会活動への参加協力

1. 10月1日　木崎食・農ワーキングチャレンジ　主催者：新潟市立木崎中学校 会場：新潟医療福祉大学 調理補助，サポートを実施

4　学内委員会活動　国試対策委員会・学生委員会・交通安全委員会

氏名：大浦　拓徳

1　研究題目　骨格筋における水分量の変化が筋のエネルギー代謝に与える影響

2　学会活動

1) 所属学会　日本体力医学会，日本運動生理学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第79回日本体力医学会，立命館大学びわこ・くさつキャンパス，2025.9.17-9.19.

3　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 開志国際高校陸上競技部部活動指導（全35回），練習メニュー作成（全12回）（報酬なし）
2. 国体強化合宿帯同（全10回）
3. 地域バレーボール大会サポート（1回）

4　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 三条看護医療歯科衛生専門学校，栄養学，11.27・1.21.

5　学内委員会活動　教職支援センター運営委員会，動物実験委員会

氏名：石井　穂乃香

1　研究題目　若年女性アスリートにおける月経痛と栄養素に関する調査研究

2　論文

1. Aoki K, Ota K, Watanabe K, Ishii H, Takekoshi K. Smartphone-based simplified Western blotting detection method. microPublication Biology. 2026

3　学会等研究発表

1. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．n-6系脂肪酸/n-3系脂肪酸の摂取比率が月経時に伴う身体的痛みに及ぼす影響．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都世田谷区）．2025.9.12-9.14.
2. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．女性アスリートにおける競技環境の違いが血中

25（OH）ビタミンD濃度および月経痛に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術総会（千葉市）．2025.11.2-11.3.

3. 曽根美奈子，星野芙美，石井穂乃香，稲葉洋美．大学男子柔道選手における減量の実態．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都世田谷区）．2025.9.12-9.14.
4. 曽根美奈子，石井穂乃香，稲葉洋美，大森豪．大学男子柔道選手における脱水状況の実態．第36回日本臨床スポーツ医学会学術総会（千葉県千葉市）．2025.11.2-11.3.
5. 稲葉洋美，塙晴雄，星野芙美，曽根美奈子，石井穂乃香，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける鉄欠乏性貧血／鉄欠乏症と鉄欠乏性貧血を予防・治療するための食習慣に関する調査．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.

4　学会活動

1) 所属学会　日本栄養改善学会，日本臨床スポーツ医学会，新潟医療福祉学会

5　学内委員会活動　国際交流センター運営委員会，アスリートサポート研究センター

（2）健康スポーツ学科

氏名：西原　康行

1　研究題目　Embodied Knowledge，Human Resource Management

2　著書

1. 西原康行．みんなのスポーツ．東京：日本体育社；2025：15-20.

3　論文

1. Sakon S, Nishihara Y. Developmental Sex Differences in the Support Phase during Quadrupedal Running in Young Children. Niigata: Niigata University of Health and Welfare. (in press)(review)

4　学会等研究発表

1. 西原康行．スポーツ指導者の資質向上のあり方をめぐって．スポーツ庁委託2025地域クラブ研究集会（新潟），2025.10.8.【シンポジウム】
2. 西原康行．地域スポーツ環境を創るために．全国スポーツ推進研究集会（長野），2025.11.13.【全体シンポジウム】
3. 西原康行．新たなスポーツ環境を創るスポーツ資源．全国スポーツ推進研究集会（長野），2025.11.14.【分科会シンポジウム】
4. 西原康行．部活動の地域展開における大学の役割．2025スポーツ庁調査研究シンポジウム（新潟），2026.1.23.【シンポジウム】

5　学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ・健康学会（理事），日本体育・スポーツ・健康学会（代議員），日本体育・スポーツ経営学会，日本スポーツ教育学会，新潟医療福祉学会，日本教育工学会，日本教育実践学会，日本スポーツ産業学会，Federation International d Education Physique（FIEP），North American Society for Sport Management（NASSM），European College of Sports Science（ECSS），International Association for Development of the Information Society（IADIA）

2) 学術集会の主催

1. 日本体育・スポーツ・健康学会，運営委員，東京，2025.8.27-8.29.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本体育・スポーツ・健康学会　理事
2. 日本体育・スポーツ・健康学会　広報委員
3. 日本教育工学会論文誌　査読委員
4. 大学体育スポーツ教育学研究　査読委員
5. スポーツ産業学研究　査読委員
6. Educational Technology Research, Peer Reviewer
7. ECNSI Journal of Education, Editorial Board

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県教育庁，部活動の地域展開，講師，新潟県教育庁（スポーツ庁事業），佐渡市，2025.5.10.
2. 新潟県教育庁，私立高校の部活動のあり方，講師，新潟県教育庁（スポーツ庁事業），新潟市，2025.6.13.
3. 新潟県教育庁，部活動の地域展開，講師，新潟県教育庁（スポーツ庁事業），三条市，2025.6.30.
4. 新潟県教育庁，部活動の地域展開，講師，新潟県教育庁（スポーツ庁事業），見附市，2025.7.11.
5. 日本スポーツ協会，コーチ養成研修会，講師，日本スポーツ協会（スポーツ庁），燕市，2025.8.11.
6. 新潟県教育庁，部活動の地域展開，講師，新潟県教育庁（スポーツ庁事業），弥彦村，2025.9.4.
7. 日本スポーツ協会，アシスタントマネジャー養成研修会，講師，日本スポーツ協会（スポーツ庁），新潟市，2025.9.9.
8. 新潟県教育庁，部活動の地域展開，講師，新潟県教育庁（スポーツ庁事業），田上町，2025.10.4.

9. 新潟県教育庁，部活動の地域展開，講師，新潟県教育庁（スポーツ庁事業），阿賀野市，2025.10.28.
10. 日本スポーツ協会，コーチ養成研修会，講師，日本スポーツ協会（スポーツ庁），佐渡市，2025.11.11.
11. 日本スポーツ協会，コーチ養成研修会，講師，日本スポーツ協会（スポーツ庁），新発田市，2025.12.13.
12. 北区連携事業，2025年度未来のまちづくり事業総括，コーディネーター，新潟医療福祉大学，新潟市，2025.12.6.
13. 日本スポーツ協会，コーチ養成研修会，講師，日本スポーツ協会（スポーツ庁），新潟市，2026.1.29.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報，部活動の地域展開　新潟県の進捗，2025.6.27.
2. 新聞，新潟日報，新潟市アリーナ構想の計画について，2025.9.17.【囲み記事】
3. 新聞，読売新聞，部活動の地域展開　新潟県の取り組み，2025.10.11.
4. TV，UX：スーパーJにいがた，部活動の地域展開の会議について（新潟県部活動改革委員会），2025.6.26.【座長取材】
5. TV，NHK：ニュース610，部活動の地域展開の会議について（新潟県部活動改革委員会），2025.6.26.【座長取材】
6. TV，BSN：ゆうナビ，部活動の地域展開の会議について（新潟県部活動改革委員会），2025.6.26.【座長取材】
7. TV，NST：Newsタッチ，部活動の地域展開の会議について（新潟県部活動改革委員会），2025.6.26.【座長取材】

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟県広域スポーツセンター，指導助言，アドバイザー，2025.4.1-2026.3.31.
2. 長野県広域スポーツセンター，指導助言，アドバイザー，2025.4.1-2026.3.31.
3. 富山県広域スポーツセンター，指導助言，アドバイザー，2025.4.1-2026.3.31.
4. 新潟県教育庁，指導助言，アドバイザー，2025.4.1-2026.3.31.
5. 石川県広域スポーツセンター，指導助言，アドバイザー，2025.4.1-2026.3.31.
6. 総合型地域スポーツクラブ「NPO法人希楽々」，地域と学校の融合，アドバイザー，2025.4.1-2026.3.31.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

スポーツ庁全国高等学校総合体育大会【インターハイ】実行委員会（監査役），新潟県スポーツ推進審議会（会長），新潟県スポーツ推進プラン実行会議（委員長），新潟県冬季スポーツ施設あり方委員会（委員長），新潟県部活動改革委員会（委員長），新潟県オリンピックアスリート支援検討委員会（委員），新潟県スポーツ医科学センターあり方委員会（委員長），新潟県スポーツ協会（理事），新潟文化・スポーツコミッション（委員長），新潟市スポーツ推進審議会（会長），新潟市スポーツ推進計画策定会議（委員長），新潟シティマラソン事業者選定委員会（委員長），新潟市公共体育施設指定管理者選定委員会（委員長），新潟市スポーツ施設あり方委員会（委員長），新潟市総合計画策定会議（部会長），燕市部活動のあり方委員会（委員長），村上市部活動のあり方委員会（委員長），見附市部活動のあり方検討委員会（委員長），弥彦村部活動あり方検討員会（委員長），長野県部活動改革委員会（部会長），三条市部活動あり方委員会（委員長）

5) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本スポーツ協会（コーチデベロッパー），新潟県スポーツ協会（理事），全国体育系大学連絡会（研究幹事）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023，基盤研究（C），保育者としての成長過程に沿ったVR-Learning教材の開発，研究分担者
2. 2023，基盤研究（C），VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化，研究分担者
3. 2023，基盤研究（C），体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発，研究代表者

2) 学内部活動の実績

1. 男子サッカー部，部長，2025.4.1-2026.3.31.
2. 女子サッカー部，部長，2025.4.1-2026.3.31.
3. 剣道部部長，2025.4.1-2026.3.31.

3) 学外兼務講師等

1. 新潟大学，スポーツ経営学，2025.4.1-2026.3.31.
2. 事業創造大学院大学，スポーツビジネス特論，2025.10.1-2026.3.31.
3. 日本スポーツ協会，上級指導者・上級コーチ養成講師（スポーツマネジメント），2025.4.1-2026.3.31.
4. 日本体育施設協会，体育施設管理士養成講師（スポーツ施設のマネジメント），2025.4.1-2026.3.31.
5. 日本スポーツ協会，コーチ養成講師（コーチング），2025.4.1-2026.3.31.

8 学内委員会活動　社会連携・同窓会・生涯学修推進機構（機構長），アスレティックデパートメント推進機構（機構長），同窓会・生涯学習推進委員会（委員長），強化指定クラブ運営委員会（委員長），将来計画機構，自己点検・評価委員会，内部質保証委員会，教員選考・評価委員会，シチズンシップ教育研究センター（センター長），身体教育研究センター（センター長）

氏名：佐藤　敏郎

1 研究題目　中高年者の運動による健康づくり，大学生の体力水準と学業成績と生活状況との関係，高齢者における転倒予防，習慣的運動実施による健康状態・体力水準の変化，足裏形態（浮き趾・偏平足）

2 著書

1. 佐藤敏郎．出村慎一（監修）中高年者が自宅で安全に手軽にできる下肢筋力及び転倒予防運動．初版：北陸情報教育研究所；2025年：205-226

3 論文

1. Aoki H, Demura S, Yamaji S, Nagasawa Y, Sato T. Comparison by Gender and Age and Their Mutual Relations with Center of Pressure Variables.American Journal of Sports Science and Medicine. 2025; 13(2). 24-29.

4 学会等研究発表

1. 佐藤敏郎，出村慎一，青木宏樹．大学運動選手における浮き趾の有無による足趾筋力，ファンクショナルリーチ，体格，及び身体組成の比較．日本体育・スポーツ・健康学会・第75回大会（東京都），2025.8.27-8.29.
2. 佐藤敏郎，出村慎一，青木宏樹，高橋憲司．大学野球選手における浮き趾有無群の受動的刺激時の重心動揺比較．日本体育測定評価学会・第25回大会（仙台市），2026.2.28.

5 学会活動

1) 所属学会　日本体育測定評価学会（監事），日本教育医学会（理事），新潟医療福祉学会，日本体育・スポーツ・健康学会，日本体力医学会，日本生理人類学会，日本臨床運動療法学会，日本運動・スポーツ科学学会

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 筋力トレーニング推進事業，ちょこちょこ筋トレ講習会，講師，三条市福祉保健部，三恵株式会社職員，三条市，2025.3.5.
2. 筋力トレーニング推進事業，ちょこちょこ筋トレ講習会，講師，三条市福祉保健部，三恵株式会社職員，三条市，2025.3.6.
3. 三条市健幸づくり推進員研修会，ちょこちょこ筋トレ講習会，講師，三条市福祉保健部，健幸づくり推進員，三条市，2025.7.29.
4. 従業員体力測定，転倒災害がない職場づくりに向けての体力測定，講師，日本精機株式会社（高見事業所），従業員，長岡市，2025.6.9.

5. 従業員体力測定，転倒災害がない職場づくりに向けての体力測定，講師，日本精機株式会社（本社），従業員，長岡市，2025.6.2.
6. 筋力トレーニング推進事業，ちょこちょこ筋トレ講習会，講師，三条市福祉保健部，三条市民，三条市，2025.10.15.
7. 筋力トレーニング推進事業，ちょこちょこ筋トレ講習会，講師，三条市福祉保健部，三条市民，三条市，2025.12.15.
8. 令和７年度指導者育成プログラム研修会，発育発達に合わせた指導，中高年・女性とスポーツ，講師，NPO法人希楽々，認定指導者，村上市，2025.10.16.
9. にいがたケンジュプロジェクト，ウオーキングチャレンジin信濃川やすらぎ提，講師，BSNラジオ，一般県民，新潟市，2025.6.15.
10. にいがたケンジュプロジェクト，ウオーキングチャレンジin信濃川やすらぎ提，講師，BSNラジオ，一般県民，新潟市，2025.11.9.
11. にいがたケンジュプロジェクト，ウオーキングチャレンジin信濃川やすらぎ提，講師，BSNラジオ，一般県民，新潟市，2026.3.22.
12. にいがた健活アワード2025，表彰式・健活トーク，審査委員長，新潟日報社，一般県民，新潟市，2026.3.15.
13. 健康講演と体力測定会，講師，新潟市ふれあい健康センターアクアパークにいがた，一般市民，新潟市，2025.6.14.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. BSNラジオ，にいがたケンジュプロジェクト・ケンジュがダイジ，運動，2025.5.2.
2. BSNラジオ，にいがたケンジュプロジェクト・ケンジュがダイジ，運動，2025.5.9.
3. BSNラジオ，にいがたケンジュプロジェクト・ケンジュがダイジ，健康経営と冬の運動，2026.1.2.
4. BSNラジオ，にいがたケンジュプロジェクト・ケンジュがダイジ，健康経営と冬の運動，2026.1.9.
5. BSNラジオ，石塚かおりのBrand New Day「モーニングシアターお耳座」，2025.6.3.
6. BSNテレビ，ゆうなび，ちーとばっか動効果，2025.10.15.
7. 新潟日報，にいがた健活アワード2024・募集のご案内，2025.9.8.
8. 新潟日報，にいがた健活アワード2024・募集のご案内，2025.9.22.
9. 新潟日報，にいがた健活アワード2024・募集のご案内，2025.10.15.
10. 新潟日報，にいがた健活アワード2024・募集のご案内，2025.10.23.
11. 新潟日報，にいがた健活アワード2024・募集のご案内，2025.10.29.
12. 新潟日報，にいがた健活アワード2024・募集のご案内，2025.11.27.
13. 新潟日報，にいがた健活アワード2024・募集のご案内，2025.12.2.
14. 新潟日報，健活アワード受賞者トーク・健康寿命延伸へ優れた活動紹介，2025.4.17.
15. 新潟日報，歩いて歩いて日々充実・息が弾む速度と歩幅で，2025.5.18.
16. 新潟日報，にいがた健活アワード最優秀賞，2026.2.12.

3) 社会活動への参加協力

1. 公益財団法人新潟県健康づくり財団，定期評議員会，評議員，新潟市・新潟県医師会館，2025.6.25.
2. 健康立県ヘルスプロモーションプロジェクト推進会議，健康立県プロモーション事業，委員，新潟市・新潟県自治会館，2025.7.28.
3. 日本健康運動指導士会新潟県支部，2025年度第１回研修会，企画運営，新潟市・新潟日報社メディアシップ，2025.6.15.
4. 日本健康運動指導士会新潟県支部，更新必修講座，企画運営，新潟市・新潟日報社メディアシップ，2025.11.30.
5. 「健康にいがた21」評価・進行管理部会，健康にいがた21（第４次）進捗状況・取組，委員，新潟市・新潟県庁，2026.3.9.

6. にいがた健活アワード2025審査委員会，審査委員長，新潟市・新潟日報社，2026.2.6.
7. 令和７年度第１回三条市スポーツ推進審議会，三条市スポーツ推進計画策定，会長，三条市・三条市体育文化会館，2025.11.13.
8. 令和７年度第２回三条市スポーツ推進審議会，三条市スポーツ推進計画策定，会長，三条市・三条市体育文化会館，2026.1.26.
9. 令和７年度第３回三条市スポーツ推進審議会，令和８年度三条市のスポーツ，会長，三条市・三条市体育文化会館，2026.3.26.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟県ヘルスプロモーションプロジェクト推進会議（委員），三条市スポーツ推進審議会（会長）

5) 職能団体（協会，士会等）の委員
日本健康運動指導士会新潟県支部（支部長），新潟県フライングディスク協会（会長），公益財団法人新潟県健康づくり財団（評議員），新潟骨を守る会（監事），関甲新学生野球連盟（理事）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2024年度，科研費基盤研究（C)，「浮き趾」は静的・動的立位姿勢の安定性や歩行動作および跳躍動作に影響するのか，研究代表者
2. 2025年度，予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業ヘルスケア社会実装基盤整備事業（AMED），２型糖尿病高リスク者を対象とした持続血糖モニタリング機能とAIを活用した２型糖尿病発症予防アプリシステムの有効性検証とエビデンス構築，研究分担者

8 学内委員会活動　総務会，アスレチックデパートメント推進機構，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター運営準備委員会

氏名：下山　好充

1 研究題目　水泳競技におけるパフォーマンス向上に関する研究

2 著書
1. 下山好充；日本コーチング学会編．測定スポーツのコーチング学―計測競技の比較理論．東京：大修館書店；2025年：178-179. 239-244.

3 論文
1. Mise T, Ishibe N, Yamaguchi R, Matsuura Y, Shimojo H, Shimoyama Y. The Impact of Anthropometric Variables and Physical Fitness on Swimming Performance to Entry the Junior Olympic Cup in Adolescent Female Swimmers: a Prospective Cohort Study to Identify Pathways for Swimmers Development. 日本アスレティックトレーニング学会誌．2026; 11(2): 149-157.
2. 白木駿佑，下山好充，窪康之．パリ五輪に向けた競泳競技者における自転車トレーニング：クロストレーニングとしての実践事例．体育学研究．2025; 70: 819-832.

4 学会等研究発表
1. 熊澤将大，山崎碧月，藤本知臣，下門洋文，下山好充，松浦由生子．競泳スタートパフォーマンスと下肢筋活動の関係．日本水泳・水中運動学会（愛知県），2025.10.24-10.26.
2. 伊藤良多，黒古大樹，下山好充，下門洋文．バタフライ泳中の泳速度と手部流体力の関係．日本水泳・水中運動学会（愛知県），2025.10.24-10.26.
3. 黒古大樹，伊藤良多，下山好充，下門洋文．クロールの泳速度向上による手部流体力への影響．日本水泳・水中運動学会（愛知県），2025.10.24-10.26.

5 学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ・健康学会，日本体力医学会，日本バイオメカニクス学会，日本スプリント学会，トレーニング科学会，日本水泳水中運動学会，日本コーチング学会，新潟医療福祉学会

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 公益財団法人日本水泳連盟水泳コーチ４養成講習会，ナショナルコーチによる指導技術，講師，日本水泳連盟，日本水泳連盟コーチ４資格取得申請者，オンライン，2025.11.3.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 雑誌，月刊スイミングライフ．2025年4月号（Vol.42）：24-27.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」野村武男先生のご逝去によせて．2025.5.1.
2. 雑誌，月刊スイミングライフ．2025年5月号（Vol.43）：26-29.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」ロサンゼルスオリンピックの新種目．2025.5.1.
3. 雑誌，月刊スイミングライフ．2025年6月号（Vol.44）：30-33.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」50m 種目のパフォーマンスを上げるために必要なこと．2025.6.1.
4. 雑誌，月刊スイミングライフ．2025年7月号（Vol.45）：20-23.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」スプリント種目のパフォーマンスと筋力との関係性．2025.7.1.
5. 雑誌，月刊スイミングライフ．2025年8月号（Vol.46）：８-11.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」競泳選手は何歳頃にピークパフォーマンスを発揮しやすいか？．2025.8.1.
6. 雑誌，月刊スイミングライフ．2025年9月号（Vol.47）：20-24.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」シンガポール世界選手権観戦記．2025.9.1.
7. 雑誌，月刊スイミングライフ．2025年10月号（Vol.48）：30-24.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」男子 100m バタフライにおける世界の傾向．2025.10.1.
8. 雑誌，月刊スイミングライフ．2025年11月号（Vol.49）：18-21.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」パラシュートを使った競泳トレーニング．2025.11.1.
9. 雑誌，月刊スイミングライフ．2025年12月号（Vol.50）：18-21.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」パラシュートを用いた水中パワートレーニング．2025.12.1.
10. 雑誌，月刊スイミングライフ．2026年1月号（Vol.51）：16-19.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」目標設定の重要性．2026.1.1.
11. 雑誌，月刊スイミングライフ．2026年2月号（Vol.52）：16-19.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」目競泳選手におけるクロストレーニングの活用．2026.2.1.
12. 雑誌，月刊スイミングライフ．2026年3月号（Vol.53）：16-19.（株式会社インターナショナルスイミング）「選手コーチに役立つスポーツ科学」タバタトレーニング．2026.3.1.
13. 新聞，朝日新聞，水沼尚輝選手が行った活動「水沼シート」に関する記事，2025.4.24.
14. 新聞，新潟日報，日刊スポーツ，本学水泳部の公開練習の紹介，2025.7.4.
15. WEB ６社，本学水泳部の公開練習の紹介，2025.7.4.
16. TV（NST新潟総合テレビ），本学水泳部の公開練習の紹介，2025.7.4.
17. TV ２社（NST新潟総合テレビ，UX新潟テレビ21），水沼尚輝選手の世界水泳のパブリックビューイング，2025.8.1.
18. WEB ４社，水沼尚輝選手の世界水泳のパブリックビューイング，2025.8.1.
19. WEB 26社，水沼尚輝選手の世界選手権の結果記事，2025.8.2-8.5.
20. WEB 27社，本学水泳部の２名がインカレで３位入賞した記事，2025.9.11-9.12.
21. 新聞，新潟日報，競泳日本代表のヘッドコーチに就任した記事，2026.2.11.
22. WEB ３社（共同通信，時事ドットコム，日本経済新聞）新潟日報，競泳日本代表のヘッドコーチに就任した記事，2026.2.11.
23. WEB，ベースボールマガジンスポーツ，競泳日本代表のヘッドコーチの特集，2026.2.16.

24. 雑誌，スイミングマガジン，2026年1月号；日本チームフリーリレーの方向性の記事，2026.1.1.
25. 上記を含め，水泳部関連のメディア記載が合計163件

3) 社会活動への参加協力

1. 世界選手権日本代表サポート合宿のコーチ，HPSC，2025.4.27-4.30.
2. 世界選手権日本代表サポート合宿のコーチ，HPSC，2025.5.9-5.12.
3. 世界選手権日本代表サポート合宿のコーチ，HPSC，2025.6.13-6.16.
4. 世界選手権日本代表サポート合宿のコーチ，HPSC，2025.6.20-6.23.
5. 世界選手権日本代表サポート合宿のコーチ，HPSC，2025.7.6-7.11.
6. 世界選手権日本代表サポート合宿のコーチ，HPSC，2025.7.13-7.19.
7. 日本水泳連盟，第１回競泳委員会 会議，競泳委員，2025.4.7.
8. 日本水泳連盟，第２回競泳委員会 会議，競泳委員，2025.5.5.
9. 日本水泳連盟，第３回競泳委員会 会議，競泳委員，2025.6.2.
10. 日本水泳連盟，第４回競泳委員会 会議，競泳委員，2025.7.7.
11. 日本水泳連盟，第５回競泳委員会 会議，競泳委員，2025.8.31.
12. 日本水泳連盟，第６回競泳委員会 会議，競泳委員，2025.9.27.
13. 日本水泳連盟，第７回競泳委員会 会議，競泳委員，2025.10.27.
14. 日本水泳連盟，第８回競泳委員会 会議，競泳委員，2025.11.24.
15. 日本水泳連盟，第９回競泳委員会 会議，競泳委員，2025.12.22.
16. 日本水泳連盟，第10回競泳委員会 会議，競泳委員，2026.1.12.
17. 日本水泳連盟，第11回競泳委員会 会議，競泳委員，2026.2.9.
18. 日本水泳連盟，第12回競泳委員会 会議，競泳委員，2026.3.2.
19. 日本水泳連盟，第１回マスタープラン会議，委員，2025.8.30.
20. 日本水泳連盟，第２回マスタープラン会議，委員，2025.9.27.
21. 日本水泳連盟，第３回マスタープラン会議，委員，2026.1.7.
22. 日本水泳連盟，リレー小委員会，委員長，2025.9.22.
23. 日本オリンピック委員会，令和７年度JOCコーチ会議及び情報・医・科学合同ミーティング，強化コーチ，2025.10.20.
24. 日本水泳連盟，強化コーチ会議，競泳委員，2025.10.4.
25. 2025年度日本水泳連盟インターナショナル強化合宿のコーチ，HPSC，2025.11.8-11.16.
26. 2025年度日本水泳連盟インターナショナル強化合宿のコーチ，HPSC，2025.12.12-12.20.
27. 日本水泳連盟，第２回プロジェクトLA2028，プロジェクト委員，2025.5.7.
28. 日本水泳連盟，第３回プロジェクトLA2028，プロジェクト委員，2025.7.14.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

公益財団法人 日本水泳連盟 競泳委員会（副委員長），公益財団法人 日本水泳連盟（競泳ヘッドコーチ），公益財団法人 日本水泳連盟 マスタープラン会議（委員），公益財団法人 日本水泳連盟 プロジェクトLA2028（プロジェクト委員），公益財団法人 日本水泳連盟 リレー小委員会（委員長）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研基盤研究（C），競泳スタートにおける個別特性に応じたトレーニング法の開発，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

日本オリンピック委員会　JOCナショナルコーチアカデミー修了（2025.3.31）←修了式が2025年度だったため，今年度に記載，新潟県水泳連盟 最優秀指導者賞（2025.5.24）

3) 学内部活動の実績

1. 水泳部，第101回 日本学生選手権水泳競技大会，女子100mバタフライ ３位，東京都，2025.9.4-

9.7.（監督）

2. 水泳部，第101回 日本学生選手権水泳競技大会，男子50m自由形 3位，東京都，2025.9.4-9.7.（監督）
3. 水泳部，第101回 日本学生選手権水泳競技大会，女子50m自由形 4位，東京都，2025.9.4-9.7.（監督）
4. 水泳部，第101回 日本学生選手権水泳競技大会，女子100mバタフライ 8位，東京都，2025.9.4-9.7.（監督）
5. 水泳部，第67回 日本選手権（25m）水泳競技大会，女子50mバラフライ 4位，東京都，2025.10.18-10.19.（監督）
6. 水泳部，第67回 日本選手権（25m）水泳競技大会，女子100mバラフライ 4位，東京都，2025.10.18-10.19.（監督）
7. 水泳部，第67回 日本選手権（25m）水泳競技大会，男子100mバラフライ 2位，東京都，2025.10.18-10.19.（監督）
8. 水泳部，ジャパンオープン2025（50m），女子50mバタフライ 6位，東京都，2025.11.28-11.30.（監督）
9. 水泳部，第101回 日本選手権水泳競技大会，男子100mバタフライ 3位，東京都，2026.3.19-3.22.（監督）
10. 水泳部，第101回 日本選手権水泳競技大会，女子100mバタフライ 4位，東京都，2026.3.19-3.22.（監督）
11. 水泳部，第101回 日本選手権水泳競技大会，女子100m平泳ぎ 6位，東京都，2026.3.19-3.22.（監督）
12. 水泳部，第101回 日本選手権水泳競技大会，女子50mバタフライ 4位，東京都，2026.3.19-3.22.（監督）

氏名：山﨑　史恵

1　研究題目　アスリートの心理サポートおよび競技パフォーマンス向上に関する研究（臨床スポーツ心理学，スポーツカウンセリング，メンタルトレーニング）

2　論文

1. Fujiwara S, Yamazaki F, Nakayama N, Sugisaki K. Comparative effects of lived experience-lecturer-guided and teacher-led classes on mental illness awareness among Japanese high school students. PLoS one 20(10). 2025.

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本体育・スポーツ・健康学会，日本スポーツ心理学会，日本スポーツ精神医学会，日本臨床心理身体運動学会，新潟県体育学会（監事）

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 津南町教育振興会夏季研修会，子どものやる気を引き出す働きかけ方について，講師，津南町教育振興会，中学校教員，津南中学校，2025.7.25.
2. 北区大学連携「未来のまちづくり」，子どもの心の発達過程を理解し，スポーツ活動を支援する，講師，地域スポーツ指導者・保護者，ラグーナスクエア，2025.8.22.
3. 北区大学連携「未来のまちづくり」，子どもの意欲を高めるスポーツ活動の工夫，講師，地域スポーツ指導者・保護者，ラグーナスクエア，2025.8.29.
4. 令和７年度村上市指導者育成プログラム研修会，スポーツ心理学Ⅰスポーツにおける動機づけ，講師，NPO法人希楽々，地域スポーツ指導者，村上市生涯学習推進センター，2025.10.7.
5. 令和７年度村上市指導者育成プログラム研修会，スポーツ心理学Ⅱカウンセリング，講師，NPO法人希楽々，地域スポーツ指導者，村上市，2025.10.14.
6. 長岡向陵高校・受験期のメンタルヘルス講習，アスリートの実力発揮から学ぶ，講師，長岡向陵高校，高校生，長岡向陵高校，2025.10.9.

7. 令和７年度見附市指導者育成プログラム，スポーツと心理学II　カウンセリング，講師，見附市まちづくり課，ネーブル見附，2026.2.21.
8. 公益財団法人新潟県スポーツ協会　令和７年度スポーツ・インテグリティ推進補助事業・スポーツに関わる人たちのためのハラスメント研修会，人間関係が円滑にいくチームづくり，講師，NPO法人スポネットせいろう，聖籠町町民会館，2026.3.7.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県体育協会，スポーツ選手のためのメンタル支援事業，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，相談員，新潟市，2025.4.1-2026.3.31.

5　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校鍼灸学科，スタディ・スキルズ，2025.4.1-5.31.

6　学内委員会活動　倫理審査委員会（委員長），スポーツカウンセリング研究センター（センター長）

氏名：吉田　重和

1　研究題目　オランダの公教育制度に関する質的研究（比較・国際教育学），オルタナティブ教育に関する国際比較研究（比較・国際教育学），シティズンシップ教育に関する国際比較研究（比較・国際教育学），教員養成・教員研修に関する質的研究（教師教育），健康スポーツ学分野における初年次教育の在り方に関する実践的研究（初年次教育）

2　著書

1. 吉田重和；古賀毅編著．やさしく学ぶ教職課程 教育原理 第２版．第２版．東京：学文社；2026：14-15.
2. 吉田重和；古賀毅編著．やさしく学ぶ教職課程 教育原理 第２版．第２版．東京：学文社；2026：18-19.
3. 吉田重和；公益財団法人教科書研究センター編．海外教科書制度調査研究報告書（2025年版）．東京：公益財団法人教科書研究センター；2026：253-258.

3　論文

1. 吉田重和．オランダにおける教員のメンタリング：制度設計と政策的意義に着目した質的検討．新潟医療福祉学会誌，2025；25(1)：94.
2. 井関泰聖，吉田重和．教師はどのように教え，子どもたちはどのように学んでいるのか：日豪での教職経験を活かした比較教育学的研究．新潟医療福祉学会誌，2025；25(1)：96.

4　報告書

1. 吉田重和．科学研究費補助金基盤研究（C），比較教育研究におけるISCED活用の可能性―日蘭の職業教育プログラムを事例として，研究成果報告書，2021-2024，研究代表者

5　学会等研究発表

1. 吉田重和．オランダにおける教員のメンタリング：制度設計と政策的意義に着目した質的検討．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.
2. 井関泰聖，吉田重和．教師はどのように教え，子どもたちはどのように学んでいるのか：日豪での教職経験を活かした比較教育学的研究．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.

6　学会活動

1) 所属学会　日本比較教育学会，日本国際教育学会，新潟医療福祉学会，世界比較教育学会，アジア比較教育学会

7　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 文部科学教育通信，「世界の大学」執筆担当，2025.4.1-2026.3.31.
2. 公益財団法人教科書研究センター，「海外教科書制度調査研究報告書」執筆担当，2025.4.1-2026.3.31.

8　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），教員の職能成長を支えるメンタリングの国際比較：指導者（メンター）に着目して，研究代表者

2) 学内部活動の実績

1. 強化女子バレーボール部，2025年度 第56回春季北信越大学バレーボール選手権大会，バレーボール，優勝，福井県，2025.5.23-5.25.（部長）
2. 強化女子バレーボール部，2025年度 第73回秋季北信越大学バレーボール選手権大会，バレーボール，準優勝，富山県，2025.11.1-11.2.（部長）
3. 強化女子バレーボール部，令和７年度 第72回秩父宮妃賜杯全日本大学女子選手権大会（全日本インカレ），バレーボール，出場（１回戦敗退），埼玉県，2025.12.2.（部長）
4. 強化女子バレーボール部，令和７年度天皇杯・皇后杯 JVA全日本バレーボール選手権大会，バレーボール，出場（１回戦敗退），東京都，2025.12.11.（部長）

3) 学外兼務講師等

1. 新潟薬科大学応用生命科学部（教育制度・行政），2025.9.1-2026.3.31.
2. 新潟工科大学工学部（教育の理念・思想），2025.8.1-2026.3.31.

9 学内委員会活動　教育・学生支援機構運営委員会（委員），教育開発推進部会（部長），高等教育推進センター運営委員会（委員長・アセスメント部会長），自己点検・評価委員会（副委員長），中央教育センター運営委員会（副委員長），シティズンシップ教育実践研究センター（研究員）

氏名：杉崎　弘周

1 研究題目　学校保健，保健科教育

2 著書

1. 藤原昌太，今村修，杉崎弘周，片岡千恵，伊佐野龍司，徐広孝編；授業ですぐに役立つ保健の教材99，初版，東京，大修館書店；2026：12, 14-17, 28, 66, 67, 120

3 論文

1. Fujiwara S, Yamazaki F, Nakayama N, Sugisaki K. Comparative effects of lived experience-lecturer-guided and teacher-led classes on mental illness awareness among Japanese high school students. PLoS One (JCR). 2025; 20(10): e0333964.
2. 片山直幸，杉崎弘周．栄養教諭の普及状況の実態 －都道府県と校種による比較－．新潟医療福祉大学教職支援センター年報．2025; 9, 1-8.

4 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本学校保健学会（代議員），日本保健科教育学会（副会長），日本体育・スポーツ・健康学会，日本教育保健学会，新潟県体育学会（理事），日本小児科学会，新潟医学会，日本スポーツ心理学会，American School Health Association

2) 学術集会の主催

1. 日本保健科教育学会，第10回研究大会，実行委員，水戸市，2025.12.13-12.14.

3) 学会等でのその他の活動

1. BMC Medical Education，査読
2. BMC Public Health，査読
3. BMC Geriatrics，査読
4. BMC Public Health，査読
5. Discover Education，査読
6. 体育学研究，査読
7. 学校保健研究，査読
8. 日本学校保健学会，第71回学術大会，一般発表座長，千葉市，2025.11.29.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 保健教育実践講座，学習指導要領を踏まえた保健の授業づくり，研修会講師，新潟県立教育センター，受講者，新潟県立教育センター，2025.6.24.
2. 学体研中越支部研修会，主体的・対話的で深い学びを目指した保健授業，研修会講師，学体研新潟支部，受講者，長岡市立四郎丸小学校，2025.7.7.
3. 新潟市小学校教育研究協議会研修会，子供の思考を引き出す教材・教材化とは，研修会講師，新潟市小学校教育研究協議会，受講者，食育・花育センター，2025.7.9.
4. 柏崎市教育センター研修講座，学校におけるがん教育の進め方，研修会講師，柏崎市教育センター，受講者，アルフォーレ　マルチホール，2025.7.31.
5. 北海道がん教育指導者研修会，学校におけるがん教育の実践事例，研修会講師，北海道教育委員会，受講者，オンライン，2025.8.28.
6. 保健教育実践講座，保健教育における主体的・対話的で深い学び，研修会講師，新潟県立教育センター，受講者，新潟県立教育センター，2025.9.19.
7. 養護教諭研修 保健教育講座，主体的・対話的で深い学びの実現を目指した保健授業，研修会講師，受講者，新潟市教育センター，2025.10.2.
8. 荒浜小学校公開授業研修会，小学校「病気の予防」の授業，講演講師，荒浜小学校，参加者，荒浜小学校，2025.10.23.
9. がん教育指導者研修会，学校におけるがん教育の研究と実践，研修会講師，福岡県教育委員会，受講者，福岡リーセントホテル，2025.10.31.
10. 水原中学校公開授業研修会，中学校「心身の機能の発達と心の健康」の授業，講演講師，水原中学校，参加者，水原中学校，2025.11.12.
11. 四郎丸小学校公開授業研修会，中学校「心身の機能の発達と心の健康」の授業，講演講師，四郎丸学校，参加者，四郎丸小学校，2025.11.14.
12. 新潟県養護教員研究協議会小千谷支部合同研修会，養護教諭が担う「深い学び」につながる健康教育，研修会講師，新潟県養護教員研究協議会小千谷支部，受講者，小千谷市ひとまち文化共創拠点ホントカ，2025.11.27.
13. 令和７年度 新潟県がん教育指導者研修会，がん教育における外部講師の効果的な活用と授業実践，研修会講師，新潟県教育庁保健体育課，受講者，新潟県立教育センター，2025.12.2.
14. 山形県がん教育総合支援事業ワーキンググループ会議，がん教育の普及と定着と外部講師のさらなる活用，講演講師，山形県教育委員会，ワーキンググループメンバー，オンライン，2025.12.11.
15. がん教育に関する研修会，学校におけるがん教育の考え方と授業実践について，研修会講師，兵庫県教育委員会，受講者，兵庫県看護協会ハーモニーホール，2025.12.17.
16. 山梨県がん教育指導者研修会，学校におけるがん教育の授業実践，研修会講師，山梨県教育委員会，オンライン，2026.1.27.
17. 令和７年度鳥取県がん教育啓発研修会，学校におけるがん教育の効果的な進め方，研修会講師，鳥取県教育委員会，受講者，オンライン，2026.1.31.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新発田市立第一中学校学校評議員会（学校評議員），胎内市立乙中学校学校運営協議会（委員），聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会（委員長）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研究（B），多様性・公正・包摂（DEI）に基づく学校保健の教員養成カリキュラムの実証的研究，研究分担者
2. 2025年度，挑戦的研究（開拓），健全な発達を促す身体活動に向けた毛髪中コルチゾールによる慢性ストレス評価法確立，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医学部，公衆衛生学（学校保健），2025年度前期
2. 新潟大学教育学部，体育科教育法（保健），2025年度前期・後期
3. 豊岡短期大学通信教育部，こどもの指導法「健康」，2025年度集中講義

7 学内委員会活動　高大医連携推進委員会（副委員長）

氏名：佐藤　和也

1 研究題目　野球のコーチング

2 学会活動

1) 所属学会　日本体育学会，新潟医療福祉学会

3 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟早起き野球大会「第60回記念事業」講演会，『野球を愛し　野球を楽しむ！』，講師，新潟早起き野球大会実行委員会，ホテルオークラ新潟，2025.5.10.
2. 令和７年度第１回スポーツ指導者セミナー，講師，宮崎県教育庁スポーツ指導センター，宮崎県，2025.6.24.
3. 職業倫理に関する講義，講師，新潟県警察学校，初任科第395期生　396期生，新潟県警察学校，2025.7.10.
4. 第50回大形地区野球記念大会特別講演，講師，大形地区野球連盟，津島屋体育館，2025.8.30.
5. 南魚沼指導者講習会，講師，株式会社ベースボールマガジン社，南魚沼小中学校野球指導者，大原運動公園ベーマガSTADIUM，2025.11.1.
6. 2025越後妻有中学野球教室，講師，越後妻有ベースボールプロジェクト，十日町・津南町中学野球チーム，十日町市，2025.11.15.
7. 「野球をやろう！初めての野球教室」，講師，見附ロータリークラブ，見附市民野球場，2025.11.22.
8. 日本スポーツ協会公認コーチ１（軟式野球）養成講習会，講師，一般社団法人新潟県野球連盟，軟式野球関係者，HARDOFFECOスタジアム新潟，2025.11.30.
9. 令和７年度長岡地域定住自立圏『スポーツ振興事業』「野球教室・野球指導者講習会」，講師，長岡地域定住自立圏スポーツ振興部会，小千谷市，2025.12.6.
10. 令和７年度日本スポーツ協会公認コーチ３養成講習会，講師，公益財団法人全日本軟式野球連盟，東京都，2025.12.13.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報，一進一退の攻防エコスタDeNA－阪神戦，2025.5.14.
2. 雑誌，スタンダード新潟「夏号」，甲子園切符の行方　夏大会展望，2025.6.15.
3. テレビ，新潟テレビ21，夏の甲子園大会新潟大会展望，2025.7.8.
4. 新聞，スポーツニッポン，「和也スコープ」大一番の行方占う，2025.7.26.
5. 新聞，スポーツニッポン，「和也スコープ」光った遠藤君の準備，2025.7.27.
6. ラジオ，FM新潟，JINS　RADIOショー　野球あれこれ，2025.7.23.
7. 新聞，スポーツニッポン，「勝負分けた我慢の差」2025.8.14.
8. WEB，新潟テレビ21ブログ，「佐藤和也総監督のまなざし」，2025.7.1-8.13.
9. テレビ，新潟テレビ21，全国高等学校野球選手権大会新潟大会準々決勝解説，2025.7.22.
10. テレビ，新潟テレビ21，全国高等学校野球選手権大会新潟大会決勝解説，2025.7.26.
11. WEB，全国学童野球選手権大会決勝解説，2025.8.18.
12. 雑誌，ベースボールクリニック11月号，新潟医療福祉大が地元の雄六日町高に胸を貸す，2025.10.17.
13. 新聞，スポーツニッポン，「和也スコープ」県税15年ぶり勝利へのポイント，2026.3.13.
14. 雑誌，放置高校野球3月号，県全体でレベルアップ，2026.3.15.

15. 新聞，新潟日報，県税の躍進・地元は確信，2026.3.20.
16. 新聞，スポーツニッポン，「和也スコープ」ここぞの集中力に課題，2026.3.26.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員
UX新潟テレビ21スポーツコメンテーター，スポーツコーチャーズネット長岡アドバイザー，新潟県野球連盟副会長，新潟県女子野球連盟副会長

氏名：脇野　哲郎

1　研究題目　教員養成段階学生における実践的指導力の育成（体育科教育学），体つくり運動の授業改善（体育科教育学），現代の課題に応える学校体育経営（体育経営学）

2　学会活動

1) 所属学会　日本体育スポーツ学会，日本体育科教育学会，日本保健科教育学会，新潟医療福祉学会，新潟県体育学会

3　社会活動

1) 公開講座・講演会等
1. 燕市小学校体育研究会研修会，指導者，燕市立大関小学校，教職員，燕市，2025.10.22.
2. 燕市小学校体育研究会研修会，指導者，燕市立大関小学校，教職員，燕市，2025.11.19.
3. 新潟市立濁川小学校研修会，指導者，新潟市立濁川小学校，教職員，新潟市，2025.11.21.
4. 新潟市立食育推進運営研修，指導者，新潟市教育委員会，教職員，新潟市，2025.12.3.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟市放課後子どもプラン推進委員会委員長，胎内市いじめ問題対策委員会委員，聖籠町幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上教科事業有識者会議委員長，聖籠町放課後子ども教室の在り方検討委員会委員長，教育公益財団法人新潟教育会理事，新潟市立葛塚小学校・浜浦小学校・濁川小学校・濁川中学校・南浜小学校・太夫浜小学校・下山小学校・下山中学校・光晴中学校　学校運営委員，聖籠町立聖篭中学校　学校運営委員

4　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等
1. 新潟大学教育学部，保健体育教育法Ⅳ，2025.10.30-12.11.
2. アップルスポーツカレッジ，スポーツ経営学，2025.4.11-5.16.

5　学内委員会活動　教職支援センター運営委員会委員長，教職課程長

氏名：佐熊　裕和

1　研究題目　サッカー，サッカー指導実践，サッカー指導論，育成年代のサッカーコーチング論

2　社会活動

1) 公開講座・講演会等
1. 新発田市立猿橋中学校講演会，「夢」，講演者，新発田市立猿橋中学校，猿橋中学校生徒・教員・保護者，猿橋中学校（新発田市），2025.5.13.
2. 阿賀野市立安田中学校講演会，「夢への挑戦」，講演者，阿賀野市立安田中学校，安田中学校生徒・教員・保護者，安田中学校（阿賀野市），2025.10.30.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
1. ネット記事，NSGグループ，「人を育て，個性を伸ばす」新潟医療福祉大学男子サッカー部・佐熊裕和監督の“人間力”を育む指導哲学，2025.11.20.
2. 新聞・ネット記事，日刊スポーツ，高校時代の中村俊輔氏指導を例えに　新潟医療福祉大サッカー部佐熊裕和監督が中学生に「夢」講演，2025.5.13.
3. 新聞・ネット記事，新潟日報，［サッカー・インカレ］新潟医療福祉大が強化ラウンド制す！決勝で桐蔭横浜大に逆転勝ち，2025.12.20.

4. ネット記事，スポーツナビ，【インカレ・強化ラウンド】３年前の雪辱を果たし，“シルバーコレクター”新潟医療福祉大が全国初制覇！，2025.12.20.
5. ネット記事，スポーツナビ，新潟医療福祉大学が勝利し，筑波大学は昨年の雪辱を果たせず！ 準々決勝は関東同士，関西同士の潰し合いに，2025.9.6.

3) 社会活動への参加協力

1. 男子サッカー部，献血活動，責任者，NUHW FOOTBALL FIELD，2026.2.1.
2. 男子サッカー部，献血活動，責任者，NUHW FOOTBALL FIELD，2025.8.3.
3. 男子サッカー部，サッカースクール（SKILL UP CAMP），責任者，NUHW FOOTBALL FIELD，2025.6.21.
4. 男子サッカー部，サッカースクール（SKILL UP CAMP），責任者，第１・４体育館，2025.11.1.
5. 男子サッカー部，清掃活動，責任者，大学駐車場，2025年月４回

3　その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績

1. 男子サッカー部，北信越大学サッカーリーグ１部，サッカー，優勝（９連覇），北信越圏内各会場，2025.4-11.
2. 男子サッカー部，天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会，サッカー，新潟県優勝/本戦出場，新潟県内/奈良県，2025.4-6.
3. 男子サッカー部，2025年度第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント，サッカー，全国ベスト８，岩手県，2025.9.
4. 男子サッカー部，ASTRO SPORTS Presents2025年度 第74回全日本大学サッカー選手権大会，サッカー，強化ラウンド優勝，新潟県/千葉県，2025.12.

氏名：大森　豪

1　研究題目　変形性膝関節症の病態解明に関する疫学研究（予防医学），変形性膝関節症に対する筋力訓練の効果に関する研究（臨床医学），膝関節の３次元歩行運動解析（生体工学），成長期骨折発生に関する疫学研究（公衆衛生学，予防医学），膝前十字靭帯発生メカニズムに関する運動学的研究（生体工学，臨床医学），スポーツにおける疲労骨折発生予防の調査研究（予防医学，臨床医学），健康スポーツ用装具の開発（臨床医学，スポーツ医学）

2　論文

1. Hijikata H, Mochizuki T, Maeda K, Tanifuji O, Omori G, Yamamoto N, Kawashima H. Rotation angle between the femoral and tibial components in varus/valgus stress X-rays following total knee arthroplasty. Bio-medical Materials and Engineering, January 2025, DOI: 10.1177/09592989241304989
2. Hijikata H, Mochizuki T, Maeda K, Tanifuji O, Omori G, Yamamoto N, Kawashima H. The comparison of three dimensional and two dimensional evaluation of varus/valgus stress X-rays following total knee arthroplasty. J Orthop Surg Res. 2025 Mar 29; 20(1)：326. doi: 10.1186/s13018-025-05741-z.PMID: 40155982.
3. Maeda K, Mochizuki T, Takagi S, Omori G, Yamamoto N, Kobayashi K, Kawashima H. Image-free robotic-assisted total knee arthroplasty is associated with joint line distalization and improves mid-flexion instability: A prospective cohort study. J Exp Orthop. 2025 Apr 13; 12(2)：e70239. doi: 10.1002/jeo2.70239. eCollection 2025 Apr.PMID: 40226533.
4. Inaba H, Hanawa H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Iron Deficiency Prevention and Dietary Habits Among Elite Female University Athletes in Japan. Sports. 2025; 7: 220（査読あり）
5. 大森豪．スポーツ医学の地方創生．日本臨床スポーツ医学会誌 2025: 33: 1-3.
6. 前田圭祐，山本智章，大森豪，望月友晴，渋谷幸喜，和田直史，川島寛之．人工知能とMRI Bone Like

Imageを用いた腰椎分離症の新たな評価方法構築．新潟県医師会報 2025: R7.3（No 900）; 21-22.

7. 大森豪，江玉睦明．スポーツ医学の医療連携・地域連携　第６回．新潟スポーツ医・科学コンソーシアムの活動．臨床スポーツ医学 2025; 42: 678-682.

3　報告書

1. 江玉睦明，大森豪．スポーツ庁委託事業「地域のスポーツ医科学支援体制構築事業」2025年度研究成果報告書，研究分担者

4　学会等研究発表

1. Nishino K, Omori G, Koga H, Mochizuki T, Takagi S, Tomiyama Y, Maeda K, Yamamoto N. BIOMECHANICAL EFFECT OF PROTOTYPE SHOES DESIGNED TO REDUCE KNEE JOINT LOADON CONTRALATERAL PRESERVE LEG DURING WALKING OF PATIENT AFTER UNILATERAL TOTALKNEE ARTHROPLASTY. OARSI 2025, Incheon, Korea, 2025.4.24-4.26.
2. 染矢圭一郎，望月友晴，前田圭祐，高木繁，大森豪，山本智章，川島寛之．膝OA患者の歩行立脚期膝，股関節モーメントと骨盤・体幹アライメントとの関係．第98回日本整形外科学会学術総会（東京都），2025.5.22-5.25.
3. 渡邉博史，古賀良生，田中正栄，古賀寛，縄田厚，大森豪．変形性膝関節症における立位膝前後X線定量評価～脛骨関節面傾斜角で進行予測は可能か？～．第36回日本運動器科学会（松江市），2025.7.19-7.20.
4. 染矢圭一郎，望月友晴，前田圭祐，高木繁，大森豪，山本智章．変形性膝関節症における歩行中の体幹・骨盤アライメントと関節モーメントの関係．第３回日本膝関節学会（姫路市），2025.12.5-12.6.
5. 岡邨直人，山本智章，染矢圭一郎，真島裕也，大森豪．膝蓋骨疲労骨折に対するESWTの治療経験．第７回日本体外衝撃波医学会～Shock Wave Japan 2025～（東京都），2025.9.28.
6. 真島裕也，染矢圭一郎，前田圭祐，望月友晴，大森豪，山本智章．投球による尺骨鉤状結節剥離骨折に対する集束型体外衝撃波療法の治療経験．第７回日本体外衝撃波医学会～Shock Wave Japan 2025～（東京都），2025.9.28.
7. 田中正栄，渡邊博史，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，西野勝敏，大森豪，古賀良生．変形性膝関節症における疫学要因の縦断的検討．第52回日本臨床バイオメカニクス学会（京都市），2025.11.7-11.8.
8. 渡邉博史，田中正栄，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，西野勝敏，大森豪，古賀良生．立位膝前後X線の角度指標とlateral thrustとの関連．第52回日本臨床バイオメカニクス学会（京都市），2025.11.7-11.8.
9. 染矢圭一郎，望月友晴，前田圭祐，大森豪，山本智章．歩行立脚期のKAM波形に基づくクラスタ分析：下肢骨軸・アライメント・骨盤体幹傾斜との関係．第52回日本臨床バイオメカニクス学会（京都市），2025.11.7-11.8.
10. 稲葉洋美，星野芙美，江玉睦明，大森豪．女子サッカー選手における補食摂取頻度と食習慣．第72回日本栄養改善学会（世田谷区），2025.9.14-9.14.
11. 稲葉洋美，塙晴雄，星野芙美，曽根美奈子，石井穂乃香，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートにおける鉄欠乏性貧血／鉄欠乏症と鉄欠乏性貧血を予防・治療するための食習慣に関する調査．第36回日本臨床スポーツ医学会（千葉市），2025.11.2-11.3.
12. 曽根美奈子，石井穂乃香，稲葉洋美，大森豪．大学男子柔道選手における脱水状況の実態．第36回日本臨床スポーツ医学会学術総会（千葉県千葉市）．2025.11.2-11.3.
13. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．n-6系脂肪酸/n-3系脂肪酸の摂取比率が月経時に伴う身体的痛みに及ぼす影響．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都世田谷区）．2025.9.12-9.14.
14. 石井穂乃香，稲葉洋美，曽根美奈子，江玉睦明，大森豪．女性アスリートにおける競技環境の違いが血中25(OH）ビタミンD濃度および月経痛に与える影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術総会（千葉県千葉市）．2025.11.2-11.3.
15. ジューステイニ礼子，山本智章，山口典子，土田千歳，吉田暁，江玉睦明，大森豪．スポーツ現場におけ

る医療サポートの向上を目指した新潟スポーツケアナースの挑戦．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉）．2025.11.2-11.3.

16. 三瀬貴生，松浦由生子，熊崎昌，森清友亮，江玉睦明，大森豪．ジュニア競泳選手における外傷・障害の好発部位は発育・発達の時期で異なる．第36回日本臨床スポーツ医学学術集会（千葉），2025.11.2-11.3.

5　学会活動

1) 所属学会　日本臨床バイオメカニクス学会（副理事長），日本臨床スポーツ医学会（理事），日本膝学会（特別会員），日本スポーツ整形外科学会（特別会員）日本人工関節学会（功労会員），日本運動器科学会（評議員），日本体外衝撃波医学会（世話人），日本Osteotomy学会（名誉会員），新潟スポーツ傷害フォーラム（代表世話人），新潟医療福祉学会，日本整形外科学会，東北整形災害外科学会，新潟整形外科研究会，

2) 学術集会の主催

1. 第７回日本体外衝撃波医学会・Shock Wave Japan 2025. 会長，東京都，2025.9.28.
2. 新潟スポーツ傷害フォーラム，第13回新潟スポーツ傷害フォーラム，代表，新潟市，2025.10.5.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本臨床スポーツ医学会，教育研修委員会，委員長
2. 日本臨床バイオメカニクス学会，将来構想委員会，委員
3. 第４回日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会，シンポジウム，座長，札幌市，2025.4.11-4.12.
4. 第98回日本整形外科学会学術集会，シンポジウム，座長，東京都，2025.5.22-5.25.
5. 第７回日本体外衝撃波医学会・Shock Wave Japan 2025. 特別講演，座長，東京都，2025.9.28.
6. 第36回日本運動器科学会，一般演題，座長，松江市，2025.7.19-7.20.
7. 第13回新潟スポーツ傷害フォーラム，特別シンポジウム，座長，新潟市，2025.10.4.
8. 第40回日本整形外科学会基礎学術集会，ポスターセッション，座長，青森市，2025.10.16-10.17.
9. 第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会，文化講演，座長，千葉市，2025.11.2-11.3.
10. 第52回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会，優秀演題賞講演，座長，京都市，202511.7-11.8.
11. 8th Asian Pacific Knee Osteotomy Sympojium, Panel discussion，座長，長崎市，2026.1.30-1.31.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 養護教員12年研修会，成長期のスポーツ傷害，講演者，新潟県教育センター，新潟県養護教員，新潟市，2026.6.27.
2. 第47回大分県スポーツドクター協議会研修会，スポーツ医学の地方創生～新潟からの挑戦～，講演者，大分県スポーツドクター協議会，スポーツ医，大分市，2025.7.10.
3. 新潟市中体連指導者研修会，捻挫と肉離れ～指導者の方々に知ってｍぽらいたいポイント～，講演者，新潟市中体連，スポーツ指導者，新潟市，2025.7.25.
4. 令和７年度日本スポーツ協会公認スポーツドクター養成講習会，中高年者の運動（整形外科系），講演者，日本スポーツ協会，東京都，2025.10.4.
5. 第38回日本臨床内科医学会，教育研修講演，サッカーに好発する下肢疲労骨折の診断と治療～知って得するポイント～，講演者，群馬県内科医会，高崎市，2025.10.11-10.12.
6. 第41回日本義肢装具学会，教育講演，変形性膝関節症に対する多面的アプローチ，講演者，新潟市，2025.11.8-11.9.
7. 長崎病院院内研修会，特別講演，変形性膝関節症の疑問に答える，講演者，足利市，2025.11.29.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県サッカー協会・国際ユースサッカー，医事，会場ドクター，新発田市，2025.9.13.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県スポーツ推進審議会（委員），新潟県健康づくり・スポーツ医科学センターあり方委員会（委員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県スポーツドクター協会（会長），新潟市スポーツ協会（副会長），新潟県スポーツ協会AT部会（顧問），新潟県サッカー協会（医学委員），新潟スポーツ医・科学コンソーシアム（会長），新潟県医師会健康スポーツ委員会（委員），

7　学内委員会活動　新潟医療福祉大学アスリートサポート研究センター（センター長）

氏名：山代　幸哉

1　研究題目　受傷後アスリートが慢性疼痛発症に至る脳状態の予測指標と予防策の創出

2　論文

1. Anazawa S, Makibuchi T, Hagino Y, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Sato D, Yamashiro K. The Effect of Sex Differences on Long-Latency of Auditory and Somatosensory Evoked Potentials. Women's Health Reports. 2026
2. Ochi G, Koyama T, Oneyama K, Okamoto Y, Fujimoto T, Sato D, Yamashiro K. Facial lower-region changes during high-intensity exercise as predictors of reduced arousal state. Journal of Sports Sciences. 2025
3. Nakajima F, Ikarashi K, Yamashiro K, Ochi G, Fujimoto T, Sato D. Neural representation of proactive and reactive inhibitory control adaptations across sensory modalities. Cerebral Cortex. Volume 35, Issue 10. 2025

3　学会活動

1) 所属学会　日本生体磁気学会（評議員），日本体力医学会（評議員），日本運動生理学会，日本臨床神経生理学会

2) 学会等でのその他の活動

1. scientific reports，査読
2. cerebral cortex，査読
3. Frontiers In Human Neuroscience，査読
4. Peer J，査読
5. BMC Neuroscience，査読

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 学校保健委員会講演会，メディアと上手に付き合おう，佐々木中学校，講演者，小中学生・保護者・佐々木中学校，2025.10.10.
2. 第62回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.4.12-4.13.
3. 第63回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟市，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.5.17-5.18.
4. 第64回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟市，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.6.11.
5. 第65回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟市，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.6.28-6.29.
6. 第66回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟市，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.8.9-8.10.
7. 第67回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟市，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.10.4-10.5.
8. 第68回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟市，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.11.1-11.2.
9. 新潟県高校陸上講習会，短距離講師，2025.8.20.

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科学研究費，基盤研究（B）受傷後アスリートが慢性疼痛発症に至る脳状態の予測指標と予防策の創出，研究代表
2. 2025年度，科学研究費，基盤研究（C）運動学習における小脳興奮性変化の反応差が運動野神経可塑性に及ぼす影響について，研究分担
3. 2024年度，科学研究費，基盤研究（B）運動記憶を忘却する神経基盤の解明－忘却が誘う運動学習イ

ノベーションー，研究分担

2) 学内部活動の実績

1. 陸上競技部・2025年日本学生陸上競技個人選手権大会，７種競技，６位入賞，レモンガススタジアム平塚，2025.4.25-4.27.
2. 陸上競技部・第109回日本陸上競技選手権大会・リレー競技，1600mR，８位入賞，長良川陸上競技場，2025.7.12-7.13.

6　学内委員会活動　研究・産官学連携推進機構運営委員会・大学院教育研究環境委員会（委員長），大学院の質保証委員会，URA推進委員会

氏名：佐藤　晶子

1　研究題目　短期的なチアミン（ビタミンB1）の摂取制限ががエネルギー代謝に及ぼす影響

2　学会等研究発表

1. 佐藤晶子，越中敬一．短期的な体内チアミン量の低下が糖質の大量摂取中の自発的な摂食量とグリコーゲン蓄積量に及ぼす影響．第72回日本栄養改善学会学術総会（東京都），2025.9.12-9.14.
2. 越中敬一，松永千鶴，藤澤凌，市井薪，佐藤晶子，石垣智恒．再摂食とトレーニングが腱のエネルギー代謝に及ぼす影響．第79回 日本体力医学会大会（滋賀県草津市），2025.9.17-9.19.
3. 市井薪，阿部拓也，藤井豊，佐藤晶子．継続的なプロテインサプリメントの摂取が肝臓機能及び腎臓機能に及ぼす影響．新潟医療福祉学会第25回学術集会（新潟市），2025.10.25.

3　学会活動

1) 所属学会　日本栄養改善学会，日本スポーツ栄養学会（評議員），日本体力医学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Niigata Journal of Health and Welfare，査読
2. 日本スポーツ栄養学会，国際交流委員会ウェビナー「スポーツ現場での栄養支援活動　－日本と海外から－」，運営および司会，オンライン，2026.2.28.

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 親子げんきスタジオ，運営・調理指導，新潟医療福祉大学健康スポーツ学科佐藤晶子ゼミ，地域の小学生とその保護者，新潟市，2025.7.21.
2. 胎内ベースボールクラブ栄養講習会，講師，胎内ベースボールクラブ，中学生とその保護者，新潟市，2025.12.28.
3. 見附市指導者養成プログラム，スポーツと栄養，講師，見附市まちづくり課，地域スポーツクラブの指導者，見附市，2026.2.21.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益社団法人全日本アーチェリー連盟強化部科学委員，日本オリンピック委員会強化スタッフ（医・科学スタッフ），新潟県陸上協会専門部（医科学部）

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，基盤研究（C），体内チアミン量の短期的な減少がグリコーゲンローディングに及ぼす影響，研究代表者

6　学内委員会活動　FD・SD推進委員会（委員長），化学物質管理委員会，SHAINプロジェクト

氏名：鵜瀬　亮一

1　研究題目　野球競技のコーチング，熟達指導者研究

2　学会等研究発表

1. 鵜瀬亮一，当摩天喜．遠隔ライブ指導の有効性と課題．部活動地域展開・産官学連携フォーラムin

Niigata（新潟市），2026.1.23.

3　学会活動

1) 所属学会　日本体育学会，日本教育工学会，日本野球学会，新潟医療福祉学会

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新入生交流会，企画運営者，まちづくり豊栄・新潟医療福祉大学・ラグーナスクエア，新入生20名，新潟市北区，2025.4.2.
2. はじめての一人暮らし応援企画　料理教室，まちづくり豊栄・新潟医療福祉大学・ラグーナスクエア，新入生15名，新潟市北区，2025.4.2.
3. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，南魚沼市教育委員会，未経験者約50名，南魚沼市，2025.7.5午前
4. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，南魚沼市教育委員会，小学生約60名，南魚沼市，2025.7.5午後
5. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，南魚沼市教育委員会，中学生37名，南魚沼市，2025.7.26午前
6. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，南魚沼市教育委員会，中学生40名，南魚沼市，2025.7.26午後
7. スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，日本スポーツ協会，指導者30名，上越市，2025.8.10.
8. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ，講師，アスレティックデパートメント推進機構，幼児～小学生約500名，新潟市，2025.10.19.
9. スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，日本スポーツ協会，指導者29名，新潟市，2025.10.30.
10. スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，日本スポーツ協会，指導者30名，新潟市，2025.11.6.
11. 長岡未経験者野球教室，講師，長岡市野球連盟，小学生59名，長岡市，2025.11.8.
12. 長岡市少年野球教室，講師，長岡市野球連盟，小学生53名，長岡市，2025.11.8.
13. 長岡市指導者講習会，講師，長岡市野球連盟，指導者22名，長岡市，2025.11.8.
14. 十日町市野球教室，講師，十日町市野球連盟，指導者10名，中学生66名，十日町市，2025.11.15.
15. 長岡市スキルアップ野球教室，講師，長岡市野球連盟，中学生30名，長岡市，2025.11.16.
16. 日本スポーツ協会公認コーチ１　養成講習会，講師，新潟県野球連盟，指導者52名，新潟市，2025.11.30.
17. 長岡地域定住自立圏スポーツ振興事業 新潟医療福祉大学小学生野球教室，講師，小千谷市スポーツ協会，指導者20名，小学生43名，2025.12.6.
18. 長岡地域定住自立圏スポーツ振興事業 新潟医療福祉大学中学生野球教室，講師，小千谷市スポーツ協会，指導者13名，中学生36名，2025.12.6.
19. Christmas Party，企画運営者，まちづくり豊栄・新潟医療福祉大学，ラグーナスクエア，小学生・大学生31名，新潟市北区，2025.12.23.
20. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者２名，選手８名，新潟市，2026.1.10.
21. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者４名，中学生20名，新潟市，2026.1.17.
22. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者１名，高校生８名，新潟市，2026.2.1.
23. 新発田市指導者講習会，講師，本学室内練習場，指導者40名，新潟市，2026.2.1.
24. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者１名，高校生15名，新潟市，2026.2.7.
25. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者２名，中学生７名，新潟市，2026.2.11.
26. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，本学室内練習場，指導者３名，中学生15名，新潟市，2026.2.15.
27. 新潟医療福祉大学野球教室，講師，佐賀市営野球場，指導者10名，小学生55名，佐賀市，2026.2.28.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，中継ぎエース近藤　医福大の伸び盛り左腕，2025.4.1.
2. 【地方版】新聞，日刊スポーツ，新潟医療福祉大４番安藤廉がけん引「タイトルも神宮も」関甲新学生

野球１部春季リーグ5日開幕，2025.4.3.

3. 【全国版】Web＆新聞，サンケイスポーツ，夢かなえても変わらない男・桐敷，2025.6.10.
4. 【全国版】Web，バーチャル高校野球　新潟県大会試合解説　準々決勝，2025.7.21.
5. 【全国版】Web，バーチャル高校野球　新潟県大会試合解説　準々決勝，2025.7.22.
6. 【全国版】Web＆テレビ，UX新潟テレビ21，バーチャル高校野球　新潟県大会試合解説　準決勝，2025.7.24.
7. 【地方版】新聞，新潟日報，関甲新学生野球秋季L1部あす開幕，2025.9.5.
8. 【全国版】Web，日刊スポーツ，新潟医療福祉大・玉木聖大「この秋が最後のつもりで」日本文理出身の大砲，覚醒を誓う，2025.9.5.
9. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大川瀬　関東切符へまず「初勝利」，2025.9.6.
10. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，決める！２年連続関東大会，2025.10.3.
11. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，初参戦 医福大「ガチンコ勝負」高橋勇四郎杯，2025.10.4.
12. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，初参戦医福大タイブレークでサヨナラ初V，2025.10.6.
13. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，関甲新学生野球リーグ戦でも初優勝のチャンス，2025.10.6.
14. 【地方版】新聞，新潟日報，新潟医福大など３校が同率首位　順位決定戦へ，2025.10.6.
15. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大悲願初優勝へ 11日から順位決定戦，2025.10.7.
16. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大４番安藤初Vへ泥くさく，2025.10.11.
17. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大初戦黒星，2025.10.12.
18. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，三つ巴V決定戦３位も　医福大経験を来春に，2025.10.15.
19. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，関甲新学生野球１部Lで初のベストナイン 医福大内藤，2025.11.19.
20. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大鵜瀬監督「負担軽くなるのはいい」，2025.11.23.
21. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大146キロ腕後藤ハヤテ入団，2025.12.2.
22. 【地方版】新聞，スポーツニッポン新潟版，医福大野球部始動 小川主将タイトル獲得へ気合，2026.1.7.
23. 【地方版】新聞，新潟日報，部活動の未来像模索 新潟産官学連携フォーラム，2026.1.27.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

関甲新学生野球連盟（理事），新潟県野球協議会（理事）第45回日米大学野球実行委員会（委員）

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，基盤研究（C），VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化，研究代表者

氏名：下門　洋文

1　研究題目　水中環境におけるヒトの動作解析とそれによって起きる泳者周りの流れの可視化，大学生の体力に関する疫学研究，運動中のヒトが抱く身体感覚

2　報告書

1. 下門洋文．基盤研究（C），スイマーが水を捉える瞬間の解明，2024年度実施報告書，2024.4-2027.3，研究代表者
2. 武田剛，下門洋文．基盤研究（C），競泳の水中ドルフィンキックは水中減速期においてなぜ最適なのか，2024年度実施報告書，2024.4-2027.3，研究分担者
3. 市川浩，下門洋文，下山好充．基盤研究（C），クロール泳の上肢ストロークと下肢キックの相乗効果，2024年度実施報告書，2022.4-2026.3，研究分担者

3　学会等研究発表

1. Shimojo H, Kuroko D, Ito R, Nakazono Y, Tsunokawa T, Sengoku Y, Shimoyama Y, Takagi H. The relationship between pressure distribution and flow patterns around the swimmer's hand. ARIHHP 国際フォーラム2026（つくば市），2026.2.21.
2. Shimojo H, Nakazono Y, Sakakibara J, Tsunokawa T, Sengoku Y, Takagi H. The distribution of pressure pattern around foot and wake flow fields during underwater kick swimming. 16th International Symposium on Particle Image Velocimetry - ISPIV 2025 (Tokyo, Japan), June 26-28, 2025.
3. 武田剛，下門洋文．スタート局面中の減速期と一定速度期の水中ドルフィンキックのキネマティクス特徴．日本水泳・水中運動学会2025年次大会（愛知）．2025.10.24-10.26.
4. 中園優作，下門洋文，川合英介，角川隆明．足部周りの流れ場と圧力分布の計測による水中ドルフィンキックの推進機序の解明．日本水泳・水中運動学会2025年次大会（愛知）．2025.10.24-10.26．2025年次大会研究奨励賞
5. 熊澤将大，山崎碧月，藤本知臣，下門洋文，下山好充，松浦由生子．競泳スタートパフォーマンスと下肢筋活動の関係．日本水泳・水中運動学会2025年次大会（愛知）．2025.10.24-10.26.
6. 黒古大樹，伊藤良多，下山好充，下門洋文．クロールの泳速度向上による手部流体力への影響．日本水泳・水中運動学会2025年次大会（愛知）．2025.10.24-10.26.
7. 伊藤良多，黒古大樹，下山好充，下門洋文．バタフライ泳中の泳速度と手部流体力の関係．日本水泳・水中運動学会2025年次大会（愛知）．2025.10.24-10.26.
8. 中町真澄，風間未来，鈴木龍馬，柴田篤志，下門洋文．男性円盤投競技者におけるリリースパラメータと投擲体力と技術の関係．第75回日本体育・スポーツ・健康学会（東京）．2025.8.27-8.29.
9. 風間未来，中町真澄，鈴木龍馬，柴田篤志，下門洋文．男性棒高跳競技者の重心高に影響するキネマティクスの探索．第75回日本体育・スポーツ・健康学会（東京）．2025.8.27-8.29.
10. 鈴木龍馬，並木伸賢，山﨑史恵，下門洋文．陸上短距離選手のスタート前におけるルーティンのパターンと効果について．第75回日本体育・スポーツ・健康学会（東京）．2025.8.27-8.29.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（理事），日本体育・スポーツ・健康学会，日本体力医学会，日本水泳・水中運動学会，日本運動疫学会，European College of Sport Science，可視化情報学会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県水泳連盟・水泳指導者更新講習会，水泳指導法講師，新潟県水泳連盟水泳指導者委員会，水泳指導者，新潟市，2025.8.17.
2. 新潟医療福祉大学健康づくり運動教室，イキイキ運動教室，運動指導，健康スポーツ学科，中高年者，新潟医療福祉大学，2025.5.13-7.8.（全９回）
3. 新潟医療福祉大学健康づくり運動教室，イキイキ運動教室，運動指導，健康スポーツ学科，中高年者，新潟医療福祉大学，2025.9.30-11.25.（全９回）

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県水泳連盟・指導者委員会，第１回水泳指導者養成会議，委員，長岡市，2025.5.9.
2. 新潟県水泳連盟・指導者委員会，第２回水泳指導者養成会議，委員，長岡市，2025.11.2.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科学研究費 基盤研究（C），スイマーが水を捉える瞬間の解明，研究代表者
2. 2024年度，科学研究費 基盤研究（C），競泳の水中ドルフィンキックは水中減速期においてなぜ最適なのか，研究分担者
3. 2022年度，科学研究費 基盤研究（C），クロール泳の上肢ストロークと下肢キックの相乗効果，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

日本水泳・水中運動学会2025年次大会研究奨励賞（2025.10.26）

3) 学内部活動の実績

1. 水泳部，科学サポートスタッフ

7 学内委員会活動　大学院委員会（委員），入試委員会（副委員長），運動機能医科学研究所（研究員）

氏名：熊崎　昌

1 研究題目　スポーツ関連脳振盪の発生状況や機能評価に関する研究

2 著書

1. 熊崎昌，高澤祐治；高澤祐治，小松孝行編．スポーツ運動医学．第1版．東京：文光堂；2025：104-109

3 学会等研究発表

1. 熊崎昌，野口瑞樹，加藤亜弥．アスリートの眼球運動機能における性差および競技種目の特徴．第14回日本アスレティックトレーニング学会学術大会（東京都豊島区・日本），2025.9.6-9.7.
2. 熊崎昌，小林万桜，大森豪．VRアプリケーションを用いた短期的な眼球運動トレーニング介入がアスリートのパフォーマンスに及ぼす影響．第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（千葉県千葉市・日本），2025.11.2-11.3.
3. 熊崎昌，村椿侑哉．サッカー競技における低強度Re-warming upが試合時のパフォーマンスに及ぼす影響．NSCAジャパンS&Cカンファレンス2025（東京都世田谷区），2026.2.21-2.22.

4 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本体力医学会，日本臨床スポーツ医学会，日本アスレティックトレーニング学会（代議員，編集委員）

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本アスレティックトレーニング学会誌，編集委員，2025年度
2. 日本臨床スポーツ医学会Young members' meeting，運営委員（コアメンバー），2025年度

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和7年度新潟県高等学校体育連盟サッカー専門部全県顧問会議，頭部外傷（脳振盪）の対応，講師，新潟県高等学校体育連盟サッカー専門部，新潟県高等学校体育連盟サッカー専門部顧問，新潟県新潟市，2025.4.14.
2. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー，部活動指導者に知ってもらいたいアタマの怪我とその対応，講師，新潟市中学校体育連盟，新潟市中学校保健体育・部活動指導者，新潟県・スポーツ医科学センター，2025.7.25.
3. 新潟市スポーツ協会スポーツ指導者研修会，頭部外傷の対応について，講師，新潟市スポーツ協会，一般市民およびスポーツ指導者，新潟県新潟市，2026.2.5.
4. 第2回新潟スポーツケアナース認定講習会，頭部外傷（脳振盪），講師，新潟スポーツコンソーシアム，看護師，新潟医療福祉大学，2025.7.5.

2) 社会活動への参加協力

1. 北信越ラグビー専門部，ラグビーU19北信越ブロック選抜帯同，トレーナー，愛知県・中京大学，2025.4.12-4.13.
2. 北信越ラグビー専門部，ラグビーU17北信越ブロックトライアウト帯同，トレーナー，長野県・菅平高原グランド，2025.6.27-6.29.
3. 日本ラグビーフットボール協会，ラグビーU17コベルコカップ北信越代表チーム帯同，トレーナー，長野県・菅平高原グランド，2025.7.31-8.3.
4. 新潟県スポーツ協会，北信越国体（少年ラグビー）の試合帯同，トレーナー，富山県・魚津桃山運動公園陸上競技場，2025.8.21-8.24.

5. 新潟工業高等学校，ラグビー県総体での選手サポート，トレーナー，新潟県・スワンフィールド，2025.10.25.
6. 新潟県高等学校体育連盟，県総体決勝戦における試合救護，救護ボランティア，新潟県・デンカビッグスワンスタジアム，2025.11.1.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員
新潟県スポーツ協会アスレティックトレーナー部会（幹事）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2025年度，科研費基盤研究（C），研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得
第14回日本アスレティックトレーニング学会学術大会優秀発表賞（ポスター）（2025.9.7）

7 学内委員会活動　社会連携推進センター運営委員会，FD・SD推進委員会，アスリートサポート研究センター，運動機能医科学研究所

氏名：秋山　隆之

1 研究題目　サッカーにおける各種制約が状況判断能力に及ぼす影響に関する研究，プロフェッショナルフットボールコーチ　イビチャオシムのリーダーシップ行動における定性的事例研究，変革型リーダーシップスタイルのプロフェッショナルサッカーコーチがコーチングで用いる計画的混乱の利用と意図に関する研究

2 学会活動

1) 所属学会　日本体育学会，日本フットボール学会，新潟医療福祉学会

3 社会活動

1) 職能団体（協会，士会等）の委員
一般社団法人全日本大学女子サッカー連盟（評議員），一般社団法人新潟県サッカー協会 規律・資格・フェアプレー委員会（委員），一般社団法人新潟県サッカー協会女子委員会（委員）

4 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得
三条市表彰式功労表彰（地方自治）

2) 学外兼務講師等
1. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校（看護学科，歯科衛生士学科），健康と運動，保健体育，2025.10.1-12.31.

5 学内委員会活動　国際交流センター運営委員会（海外研修および留学支援部会）

氏名：後藤　桂太

1 研究題目　野球のコーチング

2 学会活動

1) 所属学会　日本体育学会，新潟医療福祉学会

3 社会活動

1) 社会活動への参加協力
1. 野球教室（小学生・中学生対象）南魚沼市 2025.7.5，7.26.
2. 広神村野球交流会（小学生対象）広神村2025.10.4.
3. 南魚沼市野球教室（女子選手対象）南魚沼市2025.11.1.

4 その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績
1. 全日本大学女子硬式野球選手権大会（高知大会）ベスト８
2. ヴィーナスリーグ報知新聞社杯優勝

氏名：堀　里也

報告事項なし

氏名：久保　晃

報告事項なし

氏名：伊藤　篤司

報告事項なし

氏名：小池　大輔

1　研究題目　探究的な体育授業に関する研究，教員の指導観に関する研究

2　論文

1. 小池大輔.「ボールの落下地点図」を用いた探究的な学習が児童に与える影響．新潟体育学研究（協力学術団体）．2025；43：1-8.（査読あり）
2. 小池大輔．小学校体育科における探究的な学習を通した思考力・判断力・表現力の育成に関する研究．新潟医療福祉大学教職支援センター年報．2025；9：9-14.

3　学会等研究発表

1. 平井克之，神谷圭翔，安達未夏，栗川晴菜，佐藤月那，情野詩，二瓶葵，奥村遥，加藤創汰，小池大輔．小学校体育授業支援に向けたボール位置記録システムの実現性検討．電子情報通信学会・総合大会（北九州市・日本），2026.3.10.

4　学会活動

1) 所属学会　日本体育科教育学会，日本体育・スポーツ・健康学会，日本教育工学会，新潟県体育学会，新潟医療福祉学会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟市立沼垂小学校授業研究会，個別最適な学びと協働的な学びがつながるとは，指導者，新潟市立沼垂小学校，教員，新潟市，2025.9.18.
2. 胎内市立中条小学校授業研究会,「考えを伝え合い，学びを深める子どもの育成」を目指して，指導者，胎内市立中条小学校，教員，胎内市，2025.11.12.
3. 新潟大学附属長岡小学校令和７年度教育研究協議会,「自ら動き出す子供」体育科分科会，研究協力員，新潟大学付属長岡小学校，教員，長岡市，2025.12.4.
4. 新潟市立竹尾小学校授業研究会，体育科授業づくりの情報提供，指導者，新潟市立竹尾小学校，教員，新潟市，2026.1.21.
5. 新潟学校体育研究会授業アイデア縁日，ボール運動ゴール型～バスケットボール，どうしてる？～，提案者，新潟学校体育研究会，新潟市，2026.1.24.

6　学内委員会活動　教務委員会，教職支援センター運営委員会

氏名：柿原　豪

1　研究題目　ニュージーランドにおける難民出身者の社会的包摂と社会参加に関する実証研究，ニュージーランドの中等教育における平和教育に関する研究

2　著書

1. 柿原豪．私の学術書２．初版．横浜：春風社；2025年：19-24.

3　論文

1. 柿原豪．ニュージーランドにおける難民出身者に対する初期支援－マンゲレ難民再定住センターの英語教育と再定住先への移動に着目して

2. 柿原豪．ニュージーランドの難民再定住プログラムと難民出身者の経験の乖離－初期支援から中長期支援への接続上の課題

4　学会等研究発表

1. 柿原豪．ニュージーランドにおける難民の再定住に向けた一時的な支援－マンゲレマン民再定住センターで大学が運営する難民出身者の教育に注目して．日本比較教育学会第61回大会（八王子市），2025.6.29.
2. Ochi T, Kakihara G. Relations Between Beliefs and Pedagogical Content Knowledge of Teachers who Engage in Interdisciplinary Lessons Including STEM/STEAM. Australian Science Education Research Association Annual Conference56 (Melbourne・Australia), 2025.7.2.
3. 越智拓也，柿原豪．理科教師のPCKの評価に関する枠組みの検討．日本科学教育学会第49回（東広島市），2025.9.5.
4. 柿原豪．ニュージーランドの中等学校における平和教育の展開－カリキュラム・教科書・授業実践に着目して．ニュージーランド学会2025年度研究会（京都市），2025.12.13.

5　学会活動

1) 所属学会　多文化関係学会，移民政策学会，日本比較教育学会，オセアニア教育学会（紀要編集委員，研究推進副委員長），異文化間教育学会，日本教育社会学会，日本地理教育学会，日本アカデミック・アドバイジング協会，大学教育学会，ニュージーランド学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本比較教育学会第61回大会，ラウンドテーブル，報告者，八王子市，2025.6.27.
2. 日本比較教育学会第61回大会，特定課題研究（シンポジウム），報告者，八王子市，2025.6.29.
3. オセアニア教育学会第29回大会，研究推進委員会企画，報告者，小金井市，2025.12.20.

6　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 平和社会学研究会，投稿論文の査読，幹事，世田谷区，2025.4.1-2026.3.31.

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，基盤研究（B），諸外国における平和教育のカルチャー・マップ，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 成城大学グローカル研究センター，客員研究員，2023.4.1-現在に至る
2. SBC東京医療大学，教育制度論，2025.9.1-2026.3.31.

8　学内委員会活動　教職支援センター運営委員会，国際交流センター運営委員会，高大医連携推進委員会

氏名：小林　志郎

1　研究題目　陸上競技投擲種目のトレーニング，指導法

2　論文

1. 小林志郎，柴田篤志．投擲競技における世界的動向と競技者育成の課題-指導現場における実践的アプローチ-，トレーニング科学（協力学術研究団体），2025: 37(3): 129-137

3　学会活動

1) 所属学会　陸上競技研究，日本コーチング学会，新潟医療福祉学会，日本陸上競技学会

2) 学術集会の主催

1. 第62回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.4.12-4.13.
2. 第63回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.5.17-5.18.
3. 第64回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.6.11.
4. 第65回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.6.28-6.29.
5. 第66回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.8.9-8.10.
6. 第67回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.10.4-10.5.

7. 第68回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.11.2-11.3.
8. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ，主催者，新潟医療福祉大学，2025.10.19.

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第１回U20オリンピック育成競技者研修合宿，円盤投担当コーチ，味の素ナショナルトレーニングセンター，2025.11.4-11.5.
2. 第２回U20オリンピック育成競技者研修合宿，円盤投担当コーチ，味の素ナショナルトレーニングセンター，2026.1.12-1.15.
3. 2025日本実業団連合Ｔ＆Ｆ投擲大隅合宿，参加選手への指導，砲丸投・円盤投担当コーチ，ジャパンアスリートセンター大隅，2026.2.13-2.19.
4. 2025夏！投フェスin和歌山，円盤投担当コーチ，参加者への指導，南山スポーツ公園陸上競技場，2025.8.3-8.5.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. BSN,『円盤投げ』を紐解く！日本記録保持者・郡菜々佳選手 初日に登場【東京2025世界陸上】13日開幕，2025.9.8.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟中央陸上競技協会，新潟市中学校合同練習会，開催協力，講師担当学生への指導，参加者への指導，新潟医療福祉大学，2026.1.31-2.1.
2. 新潟中央陸上競技協会，新潟市中学校合同練習会，開催協力，講師担当学生への指導，参加者への指導，新潟医療福祉大学，2026.2.21.
3. 新潟中央陸上競技協会，新潟市中学校合同練習会，開催協力，講師担当学生への指導，参加者への指導，新潟医療福祉大学，2026.3.18.
4. 一般財団法人新潟陸上競技協会，新潟県中学校投てき強化練習会兼新潟医療福祉大学合同練習会，開催協力，参加者への技術指導，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.12.20.
5. 一般財団法人新潟陸上競技協会，新潟県中学校投てき強化練習会兼新潟医療福祉大学合同練習会，開催協力，参加者への技術指導，新潟医療福祉大学陸上競技場，2026.1.17.
6. 一般財団法人新潟陸上競技協会，新潟県中学校投てき強化練習会兼新潟医療福祉大学合同練習会，開催協力，参加者への技術指導，新潟医療福祉大学陸上競技場，2026.2.7.
7. 一般財団法人新潟陸上競技協会，新潟県中学校投てき強化練習会兼新潟医療福祉大学合同練習会，開催協力，参加者への技術指導，新潟医療福祉大学陸上競技場，2026.3.7.
8. 一般財団法人新潟陸上競技協会，新潟県競技水準向上対策事業令和７年度投てき強化練習会，開催協力，参加者への技術指導，新潟医療福祉大学陸上競技場，2026.1.25.
9. 一般財団法人新潟陸上競技協会，新潟県競技水準向上対策事業令和７年度投てき強化練習会，開催協力，参加者への技術指導，新潟医療福祉大学陸上競技場，2026.2.21.
10. 一般財団法人新潟陸上競技協会，新潟県競技水準向上対策事業令和７年度投てき強化練習会，開催協力，参加者への技術指導，新潟医療福祉大学陸上競技場，2026.3.8.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

一般財団法人新潟陸上競技協会（常務理事），公益財団法人日本陸上競技連盟強化育成部（投擲スタッフ），公益財団法人日本陸上競技協会強化委員会（投擲スタッフ），新潟県スポーツ協会（評議員）

5) 職能団体（協会，士会等）の委員

北信越学生陸上競技連盟（評議員），新潟実業団陸上競技連盟（理事）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度（継続中），科研費基盤研究C，投擲事故を未然に防ぐ新たなトレーニング用具の開発と普及，研究代表者

2) 学内部活動の実績

1. 陸上競技部 天皇賜杯第94回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投優勝 神奈川・JFE晴れの国スタジアム2025.6.5-6.8.（監督）

6 学内委員会活動　キャリアセンター運営委員会，強化クラブ運営員会

氏名：重藤　誠市郎

1 研究題目　発達障害児者のスポーツ参加における障壁と対応，退学リスクに対してレジリエンスとグリットの与える影響，障害理解教育におけるレクリエーション

2 論文

1. 吉岡尚美，重藤誠市郎，内田匡輔．発達障害児・者におけるスポーツ参加の選択プロセス：対応の関連現象から．東海大学体育学部紀要．2026；55号：１頁-16頁（査読あり）

3 学会等研究発表

1. 重藤誠市郎．レジリエンスとグリットは退学リスクの予測因子になり得るか　GPAと大学不適応感との関連から．日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会（東京都・日本），2025.8.27-8.29.

4 学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ・健康学会（学会員），新潟医療福祉学会（学会員），日本アダプテッド体育・スポーツ学会（学会員），日本スポーツ科学学会（学会員），Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise（学会員）

2) 学術集会の主催

1. 関東大学テニス授業研究会，春季研究集会，幹事，東京都世田谷区，2025.6.22.
2. 関東大学テニス授業研究会，秋季研究集会・総会，幹事，東京都世田谷区，2025.11.9.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. パラスポーツ出前講座，パラスポーツ出前講座，講師，新発田市，新発田市小学校，新発田市小学校（４校）2025.9.8-9.11.（全４回）
2. 新潟県スポーツ体験キャラバン，様々なスポーツ体験，講師，新潟県スポーツ振興課，小学生，新潟県新潟市・デンカビッグスワン，2025.9.20.
3. 新潟県スポーツ公園フェスタ2025，パラスポーツ体験，講師，新潟県スポーツ公園，小中学生，新潟県新潟市・デンカビッグスワン，2025.11.2.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. NHK，新潟ニュース610，パラスポーツ出前講座の様子，2025.9.8.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟県ボッチャ協会理事会，ボッチャの普及・選手育成，理事，新潟市，2025.6.12，11.13.
2. スポーツ庁障害者スポーツ推進プロジェクト，障害者スポーツの指導・普及等のためのマニュアル等の作成，委員，オンライン，2025.5.26，10.9，10.16，11.6，11.17，2026.2.26.（全６回）
3. 新潟県ボッチャ協会，小学校でのボッチャ指導，講師，新潟市，2025.7.10，9.27.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

スポーツ庁障害者スポーツ推進プロジェクト，調査・分析WG（委員）

5) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県ボッチャ協会（理事）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，日本レクリエーション協会研究助成金，パラスポーツ体験による小学生の障害者観や車いす利用者への意識の変容，研究代表者

7 学内委員会活動　学生委員会・交通安全委員会（委員）

氏名：三瀬　貴生

1　研究題目　成長期アスリートの運動器障害およびパフォーマンス向上に関する研究

2　論文

1. Mise T, Isibe N, Yamaguchi R, Matsuura Y, Shimojo H, Shimoyama Y. The Impact of Anthropometric Variables and Physical Fitness on Swimming Performance to Entry the Junior Olympic Cup in Adolescent Female Swimmers: a Prospective Cohort Study to Identify Pathways for Swimmers Development. Japanese Journal of Athletic Training（日本アスレティックトレーニング学会誌）(JCR・協力学術研究団体)，11(2), 149-157, 2026.
2. 三瀬貴生．ジュニア競泳選手におけるオーバーユース障害および疾病の発生状況，水と健康医学研究会誌，27(1), 6-11, 2026.

3　報告書

1. 三瀬貴生．科研費若手研究，成長期競泳選手における肩甲骨周囲筋群の機能不全が発生する要因の解明，研究実績報告書，2023-2024年度，研究代表：三瀬貴生

4　学会等研究発表

1. 三瀬貴生．ジュニア競泳選手におけるオーバーユース障害および疾病の重症度と競技パフォーマンスとの関係．第27回水と健康医学研究会（東京），2025.6.
2. 三瀬貴生．成長期競泳選手における外傷・障害調査～早期専門化以降の前向き調査～．第14回日本アスレティックトレーニング学会学術大会（東京），2025.9.
3. 伊藤南凪，田村優貴，三瀬貴生．成長期野球選手における成熟度および体力要素と打撃動作の正確性との関係．第14回日本アスレティックトレーニング学会学術大会（東京），2025.9.
4. 三瀬貴生，松浦由生子，熊崎昌，森清友亮，江玉睦明，大森豪．ジュニア競泳選手における外傷・障害の好発部位は発育・発達の時期で異なる．第36回日本臨床スポーツ医学学術集会（千葉），2025.11.

5　学会活動

1) 所属学会　日本臨床スポーツ医学会，日本アスレティックトレーニング学会（代議員），日本体育・スポーツ・健康学会，日本水泳・水中運動学会（事務局・会計監査），新潟医療福祉学会，日本陸上競技学会，スポーツ運動学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本水泳・水中運動学会，事務局（会計監査）
2. 日本アスレティックトレーニング学会誌，査読依頼，査読，2025.6-9.
3. 日本アスレティックトレーニング学会誌，査読依頼，査読長，2025.11-2026.3.
4. 第15回日本アスレティックトレーニング学会学術大会，編集委員，一般演題抄録の査読，2026.3.
5. 日本アスレティックトレーニング学会，特別企画「「運動指導の専門家による運動指導・健康増進～健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023を受けて～」によせて」，編集委員
6. 日本アスレティックトレーニング学会，代議員（編集委員）
7. 水泳水中運動科学，査読
8. 体育測定評価研究/Human Performance Measurement，査読

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会専門科目３期講習会，腰部障害後のリコンディショニング，講師，日本スポーツ協会，養成講習会受講生，日本福祉大学東海キャンパス，2025.6.8.
2. 大学北区連携事業，「スポーツトレーニングⅠ」，講師，新潟市北区，一般市民，ラグーナ・スクエア，2025.7.2.
3. 大学北区連携事業，発育・発達のモニタリング，講師，新潟市北区，一般市民，ラグーナ・スクエア，2025.7.9.

4. 令和７年度新潟市スポーツ指導者研修会，ジュニア期のトレーニング，講師，新潟市教育委員会学校支援課，指導者，新潟市・新潟県スポーツ医科学センター，2025.10.18.
5. 認定理学療法士臨床認定カリキュラム（スポーツ理学療法）「患者教育」．講師，水戸協同病院，理学療法士，オンライン，2025.12.5.
6. 新潟市スポーツ指導者講習会，「ジュニア期のトレーニング」，講師，新潟市スポーツ協会，スポーツ指導者，新潟市陸上競技場会議室，2026.2.13.
7. 地域クラブ指導者研修会，からだの仕組み，講師，十日町市教育委員会，指導者，十日町市中央公民館，2026.3.（開催中止）
8. 新潟県アスレティックトレーナー部会，AT実技勉強会，講師，新潟県アスレティックトレーナー部会，医療従事者，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2026.2.15.
9. 新潟医療福祉大学 社会連携・地域貢献オンラインセミナー 第６期，講師，講座12 「子どもの体力向上のために知っておきたい３つのこと」，オンライン，2025.10.25-公開

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県水泳連盟，国スポ選抜合宿におけるフィットネスチェック，講師，長岡市・ダイエープロビスフェニックスプール，2025.5.2.
2. 京都水泳協会，競泳・京都代表チームの国スポ合宿帯同，アスレティックトレーナー，京都アクアリーナ，2025.9.8-9.10.
3. 滋賀2025国民スポーツ大会，京都府競泳代表選手団のトレーナー帯同，アスレティックトレーナー，大津市，2025.9.12-9.15.
4. アクシー東スイミングスクール，トレーニング指導，講師，新潟市・アクシー東スイミングスクール，2025.4-2026.3.
5. 東京電気通信大学水泳部，スポーツ障害後のリコンディショニング指導，講師，オンライン，2025.6.9.
6. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ2025，救護活動，救護スタッフ，新潟医療福祉大学スポーツビレッジ，2025.10.19.
7. 日本スポーツ振興センター・課題解決型アスリート育成パスウェイ構築支援事業．測定員，日本スポーツ振興センター，ジュニア競泳選手，長岡ダイエープロビスフェニックスプール，2025.12.18.
8. 新潟県水泳連盟，県選抜のジュニア競泳選手に対するストローク分析，講師，長岡市・ダイエープロビスフェニックスプール，2025.12.26.
9. 森ノ宮医療学園校友会，代議員，大阪市，2025.4.1-2026.3.31.
10. 京都文教中学・高等学校，コンディショニング指導，講師，オンライン，2025.10-12.
11. 京都踏水会，競泳選手のコンディショニング・アドバイザー，指導者，オンライン，2024.9-2025.3.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人　新潟陸上競技協会　専門部委員会（医科学部部員），日本水泳トレーナー会議（学術部員）

7　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校 臨床工学技士科，体育実習，2025.10.1-2026.1.31.

8　学内委員会活動　図書館・学習支援委員会，大学院教務委員会，アスリートサポート研究センター，運動機能医科学研究所

氏名：佐藤　裕紀

1　研究題目　デンマークの生涯学習政策に関する研究（比較・国際教育学），社会的包摂と社会教育，生涯学習に関する研究（生涯学習），地域づくりにおける子どもと若者の参画に関する研究

2　著書

1. 佐藤裕紀，林寛平，中田麗子，本所恵，北欧教育研究会編著．北欧の教育新潮流：未来につなぐ子育てと

学び．初版．東京：明石書店；2025：3-5，98-102，124-132，139-143，158-181，245-248，284-287，311-312.

2. 佐藤裕紀；古賀毅編著．やさしく学ぶ教職課程 教育原理 第２版．東京：学文社；2026：48-49.
3. 佐藤裕紀；公益財団法人教科書研究センター編．海外教科書制度調査研究報告書（2025年版）．東京：公益財団法人教科書研究センター（販売 ぎょうせい）；2026：277-282.

3　学会等研究発表

1. Sato H, Sakaguchi M, Hara Y. Reinterpreting the Folk High School in Japan: Educational Borrowing, Non-formal Learning, and a Comparative Perspective from East Asia. The 55th Congress of the Nordic Educational Research Association (NERA)(Aarhus/Denmark), 2026.3.4.

4　学会活動

1) 所属学会　日本生涯教育学会（理事．事務局長），日本比較教育学会，日本国際教育学会，日本教育政策学会，日本学習社会学会，アジア比較教育学会，日本教育学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 日本生涯教育学会総務委員
2. 北欧教育研究会事務局

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 北欧教育研究会，『北欧の教育新潮流』刊行記念イベント執筆者と語り合う北欧教育の今，司会・登壇者，北欧教育研究会，一般市民，東京，2025.10.11.
2. 教科書セミナー「デンマーク調査報告」，講師，公益財団法人教科書研究センター，教科書業者，一般市民，東京，2025.9.12.
3. わたしを見つめ，世界とつながる～対話で学ぶフォルケホイスコーレ～，登壇者，明治大学坂口緑研究室，一般市民，東京，2025.4.19.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 一般雑誌，社会教育，「論考」デンマークのフォルケホイスコーレに見る事業開発のヒント，2025.6月号.
2. 新聞，教育新聞，【世界の教育最前線】デンマーク教育の特色として知られる10年生が廃止へ 多くの反対も，2025.8.22.（囲み記事）.
3. テレビ，フジテレビ　サン！シャイン，「岐阜県美濃市での小学校低学年での通知表廃止」での海外教育事情コメント，2025.6.17.
4. 新聞，日本教育新聞，コンサル配置，教員へ助言 デンマーク視察を報告，2025.9.22.

3) 社会活動への参加協力

1. こころほかほかあたたかい町　ミニミュンヘン 新潟，子どもが運営するまちのサポートスタッフ，実行委員，新潟市西堀ローサ，2025.8.24.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

文部科学省「地域と学校の新たな協働体制の構築のための実証研究（学校を核とした地域力強化プラン）審査委員会」委員，文部科学省「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」審査委員，新潟市社会教育委員会議（議長），新潟市教育ビジョン推進委員会委員

5) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県生涯学習協会未来創造委員会（委員），ときわ会生涯学習を進めるグループ新しい風（スーパーバイザー）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），フォルケホイスコーレの受容と生涯学習政策の実証的考察：日韓比較を通じて，研究代表者

2. 2023年度，科研費基盤研究（C），教員の職能成長を支えるメンタリングの国際比較－指導者（メンター）に着目して，研究分担者
3. 2021年度，科研費基盤研究（B），北欧諸国における教科書の中の多様性（ダイバーシティ）の実相に関する研究，研究分担者

2) 学外兼務講師等
1. 新潟県立大学，特別活動の指導法，2025.10.2-12.4.
2. 新潟県立大学，総合的な学習の時間の指導法，2025.4.11-5.9.

7 学内委員会活動　教職支援センター運営委員会（委員），高等教育推進センター運営委員会（委員），シティズンシップ教育実践研究センター（研究員）

氏名：馬場　康博

1 研究題目　水中での内受容感覚に関する研究，オープンウォータースイミングに関する研究（コーチング学）

2 学会等研究発表
1. 日本体育・スポーツ・健康学会，日本体力医学会，日本コーチング学会，日本水泳・水中運動学会

3 社会活動
1) 公開講座・講演会等
1. 新潟県水泳連盟，常務理事会，理事会・評議委員会，理事，長岡市，計６回．2024.4-2025.3.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
1. 雑誌，日本水泳連盟機関誌，月刊水泳　593号（日本水泳連盟発刊），【OWS】ジュニア強化遠征，2025.12.
2. 雑誌，日本水泳連盟機関誌，月刊水泳　596号（日本水泳連盟発刊），【OWS】全豪選手権，2026.3.

3) 社会活動への参加協力
1. 新潟県水泳連盟・オープンウォータースイミング，2025年度新潟県水泳連盟OWS委員会，委員長，Web開催，2026.2.9.
2. 新潟県スポーツ協会，SHIGA国民スポーツ大会　オープンウォータースイミング競技，滋賀県コーチ，長浜，2025.9.10.
3. 新潟県水泳連盟・第10回　オープンウォータースイミング特別練習会，監督，柏崎市　2025.6.7-6.8.
4. 新潟県水泳連盟・第11回　オープンウォータースイミング特別練習会，監督，島見浜　2025.7.19.
5. 新潟県水泳連盟・第12回　オープンウォータースイミング特別練習会，監督，寄居浜　2025.7.26.

4 その他の教育研究活動
1) 学内部活動の実績
1. 水泳部，2026 Australian Open Water Championships（全豪選手権），女子10km，５位，Koombana Bay, Bunbury, 2026.1.22.（コーチ）
2. 水泳部，2026 Australian Open Water Championships（全豪選手権），女子5km，５位，Koombana Bay, Bunbury, 2026.1.25.（コーチ）
3. 水泳部，2026 Australian Open Water Championships（全豪選手権），女子3kmノックアウトスプリント，８位，Koombana Bay, Bunbury, 2026.1.24.（コーチ）
4. 水泳部，2026 Australian Open Water Championships（全豪選手権），リレー，３位，Koombana Bay, Bunbury, 2026.1.23.（コーチ）
5. 水泳部，2026 Australian Open Water Championships（全豪選手権），リレー，３位，Koombana Bay, Bunbury, 2026.1.23.（コーチ）
6. 水泳部，第101回日本選手権水泳競技大会 OWS競技，女子 10km，６位，館山，9.28.（コーチ）
7. 水泳部，第101回日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技，女子 10km，５位，館山，10.11.（コーチ）
8. 水泳部，第101回日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技，女子 50km，５位，館山，10.11.（コーチ）
9. 水泳部，第101回日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技，４ x 1.5km リレー，６位，館山，10.11.

（コーチ）

5　学内委員会活動　入試員会

氏名：池田　恵子

1　研究題目　親子ダンスが母親のメンタルヘルスに与える影響，ダンス作品における視線変動について

2　論文

1. 池田恵子，村山敏夫．親子ダンスの実施による脳血流量の変化－０歳児を持つ母親に焦点を当てて－．新潟体育学研究（協力学術団体）．2025；43：23-28（査読あり）
2. 佐藤菜美，池田恵子，丸山実花，若井由梨．任意研修団体の持続可能な運営に向けた実践と展望－舞踊教育の普及・発展を担う新潟県女子体育連盟の事例－．（公社）日本女子体育連盟学術研究（協力学術団体）．2026；42：37-48（査読あり）

3　学会等研究発表

1. 池田恵子．ダンス作品鑑賞者の注視に関する研究（口頭）．日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会（東京都），2025.8.29.
2. 池田恵子．ダンス実施時における音楽聴取の有無と脳血流量との関係．日本体育測定評価学会第25回大会（宮城県），2026.2.28.

4　学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ・健康学会，日本発育発達学会，日本体育測定評価学会，こども環境学会，地域デザイン学会，新潟県体育学会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 親子げんきスタジオ，ダンス指導担当，佐藤晶子，一般親子，新潟医療福祉大学，2025.7.21.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報（新潟日報社），豊かな感性　踊りで綴る，2025.9.26，12面
2. 冊子，となりの研究者　北信越地区編（公益財団法人国際高等研究所），育児ストレス！メンタルヘルスを改善しませんか，2025.6.
3. ネットニュース，サードニュース，新潟医療福祉大学ダンス部，全国ダンスコンクールで２年連続の栄冠！，2025.12.25.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟県女子体育連盟，事務局，理事長，新潟市・新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.4.1-2026.3.31.
2. 安野こども園，ダンス指導，指導，阿賀野市・安野こども園，2025.4.1-2026.3.31.
3. 南浜中学校，体育祭ダンス指導，監督，新潟市・南浜中学校，2025.7.4-7.11.
4. ひかりキッズ（学童），ダンス指導，指導・監督，新潟市・ひかりキッズ，2025.9.3-2026.3.4.
5. 山倉小学校，ミュージカルダンス制作，監督，聖籠町・山倉小学校，2025.9.8-10.18.
6. 下山中学校・体育祭ダンス，ダンス指導，監督，新潟市・下山中学校，2025.9.24-9.26.
7. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ，ダンスブース，監督，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.10.19.
8. 出雲崎高校，ブランチキャンパス，講師，三島郡・出雲崎高校，2025.11.7.
9. NUHW Performance，芸術発表，企画・運営，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.11.13.
10. エンジョイスポーツin北区スポーツ体験教室，ダンス体験教室，監督，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.11.16.
11. 新発田市総合型地域スポーツクラブとらい夢　はじめてのダンス教室，ダンス指導，監督，新発田市・カルチャーセンター，2026.1.10-2.14.
12. 第17回T・A・Y・C，ダンス披露，監督，新潟市・ユニゾンプラザ，2026.2.1.
13. 第16回劇場で踊ろう！しばたダンスキッズ大集合，ダンス指導・披露，監督，新発田市・新発田市民

文化会館，2026.2.21.

14. 新潟県女子体育連盟，講演会，事務局，新潟市・新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2026.2.23.
15. 新発田中央高校，出前授業，ダンス授業講師，新発田市・新発田中央高校，2026.3.4
16. 第13回新潟医療福祉大学ダンス部公演，ダンス披露，運営・監督，新潟市・北区文化会館，2026.3.19.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県女子体育連盟（理事長），新潟県教育庁　特色のある科目の開発ワーキンググループ委員

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研究（C），母子で行うペアダンスが母親の育児ストレスおよび脳血流量に与える影響，研究代表者
2. 2025年度，基盤研究（C），妊娠糖尿病妊婦の生活活動量に着眼した運動アプリの開発，研究分担者

2) 学内部活動の実績

1. ダンス部，第13回座間全国舞踊コンクール，シニアソロ部門，６位，座間市，2025.7.27.（監督）
2. ダンス部，第37回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸），大学創作コンクール部門，入選，神戸市，2025.8.5-8.8.（監督）
3. ダンス部，東京なかの国際ダンスコンペティション2025，創作部門，第１位，現代舞踊協会賞，なかの洋舞踊連盟賞，中野区長賞，東京都，2025.8.25.（監督）
4. ダンス部，第44回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール，群舞部門，最優秀群舞賞（第１位），秋田市，2025.12.20-12.21.（監督）
5. ダンス部，第44回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール，ソロ　シニア部，入選，秋田市，2025.12.20-12.21.（監督）
6. ダンス部，第44回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール，群舞部門，入選，秋田市，2025.12.20-12.21.（監督）
7. ダンス部，令和７年度新潟市北区スポーツ協会優秀競技者等表彰，最優秀競技者賞（団体），新潟市，2025.2.14.（監督）
8. ダンス部，令和７年度新潟市北区スポーツ協会優秀競技者等表彰，最優秀競技者賞（個人），新潟市，2025.2.14.（監督）

3) 学外兼務講師等

1. 新潟大学教育学部，体育科教材論演習A，2025.11.12-2026.1.28.
2. 新潟大学教育学部，体つくり運動・ダンス，2025.5.29-6.5.
3. 新潟青陵大学，健康・スポーツ科学，2025.10.1-2026.3.31.

7　学内委員会活動　新潟連携教育研究センター運営委員会，強化指定クラブ運営委員会

氏名：山本　悦史

1　研究題目　経済価値・社会価値・環境価値の同時実現に向けたプロスポーツクラブのサステナビリティ経営に関する研究（スポーツ経営学），ソーシャルガバナンスの形成過程におけるスポーツ組織の役割に関する研究（スポーツ社会学）

2　論文

1. 山本悦史，本間崇教，島田達人．プロスポーツファンにみられる愛着の構造:オイシックス新潟アルビレックスBCを事例として．日本経営診断学会論集（協力学術研究団体）．2025; 25: 151-157.
2. 山本悦史，中西純司．プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析：オフィシャルパートナー企業の意思決定プロセスに注目して．SPORTS BUSINESS & MANAGEMENT REVIEW. 2025; 36: 8-10.

3　学会等研究発表

1.　下窪拓也，山本悦史.「暮らしと健康とスポーツに関する調査」報告：調査の概要・基礎分析の結果を中心に．日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会（東京），2025.8.28.

4　学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ経営学会（理事），日本体育・スポーツ・健康学会，日本スポーツ産業学会，日本スポーツマネジメント学会，日本スポーツ社会学会，日本経営診断学会，組織学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1.　体育学研究，査読
2.　体育・スポーツ経営学研究，査読
3.　スポーツ産業学研究，査読
4.　日本経営診断学会論集，査読
5.　日本体育・スポーツ経営学会，理事
6.　日本体育・スポーツ経営学会，編集委員（副編集委員長）
7.　日本体育・スポーツ経営学会，研究・国際委員
8.　日本体育・スポーツ経営学会，将来計画委員（幹事）
9.　日本体育・スポーツ・健康学会，第75回大会，座長，東京，2025.8.29.
10.　日本体育・スポーツ・健康学会，応用（領域横断）研究部会，委員

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1.　県央スポーツネットワークスポーツ指導者講習会兼県央スポーツサポーターバンク認定講習会，スポーツと法～スポーツ事故における指導者の法的責任～，講師，県央スポーツサポーターバンク登録者等，三条市体育文化会館，2026.2.22.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1.　2022，基盤研究（C），プロスポーツにおけるCSV経営の普及に向けた包括的研究，研究代表者
2.　2025，挑戦的研究（開拓），健全な発達を促す身体活動に向けた毛髪中コルチゾールによる慢性ストレス評価法確立，研究分担者

7　学内委員会活動　アスレティックデパートメント推進委員会（委員長），キャリア支援センター運営委員会（委員），シティズンシップ教育実践研究センター（研究員）

氏名：西　博史

1　研究題目　バレーボールにおけるセッターのトス技術に関する研究，バレーボールにおけるセッターの視覚探索

2　論文

1.　吉田康成，西博史，佐藤国正．世界トップレベルミドルブロッカーのリードブロック技術に関する事例研究：Bクイック攻撃に対するリードブロック技術．桐蔭スポーツ科学（桐蔭横浜大学スポーツ科学部・スポーツ科学研究科）．2026；第９巻：1-8．査読あり

3　学会活動

1) 所属学会　日本バレーボール学会（会員），日本コーチング学会（会員），日本体育学会（会員），日本バイオメカニクス学会（会員），新潟医療福祉学会（会員），新潟県体育学会（会員）

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1.　指導者対象ジュニアバレーボール教室指導者講習会，チーム育成：筋感覚に訴えるスキルトレーニング，講師，新潟市バレーボール協会・新潟県小学生バレーボール連盟，ジュニアバレーボール指導者，

新潟医療福祉大学，2025.11.8.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. webニュース，NSGグループニュース，【新潟医療福祉大学】女子バレーボール部，天皇杯・皇后杯ファイナルラウンド出場決定！ 北信越ブロック代表として12月の全国舞台に挑む！，2025.10.31.
2. Webニュース，新潟日報，【バレーボール全日本選手権】女子・新潟医療福祉大が初戦で敗れる，2025.12.11.

3) 社会活動への参加協力

1. 日本スポーツ協会，北信越国民スポーツ大会新潟県成年女子強化，新潟県代表コーチ，富山県総合体育センター，6.15-8.23.
2. 日本スポーツ協会，国民スポーツ大会福島県少年女子強化，福島県少年女子アドバイザー，セキスイハイムスーパーアリーナ，5.31-8.24.
3. 関根学園高校バレーボール教室，バレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.4.3.
4. 曽野木中学校バレーボール教室，バレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.4.5.
5. 中之口中学校バレーボール教室，バレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.6.25.
6. 全日本ビーチバレーボール大学選手権大会北信越予選会，大会運営，実行委員，上越市直江津海岸ビーチバレー常設コート，2025.6.29.
7. 第22回小学生バレーボール豊栄大会（山形・福島・新潟県・東京都交流会），大会運営実行委員，豊栄総合体育館，2025.8.23-8.24.
8. 中学生バレーボール教室（中央ヤングCore），中学生に対するバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.8.11.
9. 中学生バレーボール教室（中之口中学校），中学生に対するバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.8.12.
10. 小学生バレーボール教室，県内小学生を対象にしたバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.9.21.
11. 高校生バレーボール教室，郡山女子大学附属高校へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.5.3-5.4.
12. 高校生バレーボール教室，巻高校へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.5.5.
13. 高校生バレーボール教室，北越高校へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.5.30.
14. 高校生バレーボール教室，中越高校へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.5.31.
15. 高校生バレーボール教室，高崎商業高校へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.6.8.
16. 高校生バレーボール教室，日本ウェルネス高校へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.7.4.
17. 中之口VCバレーボール教室，バレーボールの技術指導，指導，新潟医療福祉大学，2025.7.26.
18. 高校生バレーボール教室，旭川志峯高校へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.8.15-8.16.
19. 高校生バレーボール教室，郡山女子大学附属高校へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.8.17-8.18.
20. 北信越大学連盟日本協会C級審判員資格審査会，審査会の運営，実行委員，新潟医療福祉大学，2025.9.6.
21. 高校生バレーボール教室，長岡商業高校へのバレーボールの技術指導，指導，新潟医療福祉大学，2025.9.7.
22. 高校生バレーボール教室，米沢中央高校へのバレーボールの技術指導，指導，新潟医療福祉大学，2025.9.20.
23. NUHWアカデミーskill up camp，中学生を対象としたバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2025.12.21.

24. クリスマスパーティ，小学生と部活動を頑張る大学生の交流会，実行委員，ラグーナスクエア，2025.12.23.
25. 中学生バレーボール教室，北区中学生へのバレーボールの指導，指導，新潟医療福祉大学，2025.1.27.
26. 新潟医療福祉大学小学生バレーボール教室，県内の小学生へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2026.2.11.
27. 中学生バレーボール教室，NPO法人サンスマイルあらかわが運営している地域スポーツクラブ参加の中学生へのバレーボールの指導，指導，新潟医療福祉大学，2026.2.21.
28. ラピカ夢事業2026バレーボールスクール，上越地区の小中学生へのバレーボールの指導，指導，刈羽村少額学習センター，2026.2.28.
29. バレーボール教室，本庄第一高校へのバレーボール教室，指導，新潟医療福祉大学，2026.3.21-3.22.

4) 職能団体（協会，士会等）の委員
北信越大学バレーボール連盟（副会長），新潟県大学バレーボール連盟（理事長），信越大学バレーボール連盟（理事）

5 その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績
1. 女子バレーボール部，第72回秩父宮妃賜杯前日本バレーボール大学女子選手権大会，バレーボール，１回戦敗退，所沢市民体育館，2025.12.2.
2. 女子バレーボール部，令和７年度天皇杯・皇后杯JVA全日本バレーボール選手権大会ファイナルラウンド，バレーボール，１回戦敗退，東京体育館，2025.12.11.

6 学内委員会活動　国家試験資格対策委員会（委員），強化指定クラブ運営委員会（委員），AD推進機構運営委員会（マーケティング部会長）

氏名：越智　元太

1 研究題目　パフォーマンスを高めるコンディショニング法の開発，運動が認知機能に与える影響とその神経基盤，運動による脳疲労の機構と対処法の解明

2 著書
1. Ochi G, Yamada Y, Soya H. Soya H, ed. Application of Minimum Exercise Model to the Hypoxic Environment. Exercise Brain Stimulation for Cognitive Function and Mental Health. Advances in Neurobiology. 44. Singapore: Springer Singapore; 2025

3 論文
1. Nakajima F, Ikarashi K, Yamashiro K, Ochi G, Fujimoto T, Sato D. Neural representation of proactive and reactive inhibitory control adaptations across sensory modalities. Cerebral cortex (New York, N.Y.: 1991). 2025; 35(10): bhaf272 (review)
2. Morishita Y, Ochi G, Takahashi D, Kato K, Uchiyama W, Nishihara Y. Pitch Selection Ability and Spatial Executive Function Independently Predict Baseball Batting Performance. Sports. 2025; 13(10): 367 (review)
3. Ochi G, Koyama T, Oneyama K, Okamoto Y, Fujimoto T, Sato D, Yamashiro K. Facial lower-region changes during high-intensity exercise as predictors of reduced arousal state. Journal of Sports Sciences. 2025; 43(24): 3095-3109 (review)
4. Ohara N, Kameo H, Ochi G. Changes in hair cortisol and oxytocin independently associate with positive and negative psychological states in female soccer players. Frontiers in Sports and Active Living. 2026; 7: 1742869 (review)
5. Anazawa S, Makibuchi T, Hagino Y, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Sato D, Yamashiro K. The Effect of Sex Differences on Long-Latency of Auditory and Somatosensory Evoked Potentials. Women's Health Reports. 2026; 7(1): 183-193 (review)

6. 山崎雄大，岡本正洋，越智元太，征矢英昭．慢性ストレスの新マーカ毛髪コルチゾール－SRIP事業の成果－．体育の科学．2025; 75(5)
7. 越智元太．認知機能を高める仮想現実環境を用いたエクザゲーミングの有用性．地域ケアリング2025年11月号．2025; 27(11): 66-67
8. 越智元太．短時間VR運動がもたらす脳機能への効果．地域ケアリング2025年12月号．2025; 27(14): 78-79

4 報告書

1. 越智元太，大野健，児玉直樹，佐藤大輔，松井崇．明治安田厚生事業団体力医学研究所 若手研究者のための健康科学研究助成 一般課題，運動による実行機能低下の神経機構の解明-脳内乳酸濃度の役割-，研究成果報告書，2024-2025，研究代表者
2. 越智元太．カシオ科学振興財団 第42回研究助成，運動による実行機能低下の生理機構：末梢血乳酸がバイオマーカーとなりうるか，研究成果報告書，2024-2025，研究代表者
3. 越智元太．若手研究，運動による認知疲労の発生機序：キヌレニン代謝仮説の検証，研究成果報告書，2022-2024，研究代表者

5 学会等研究発表

1. 越智元太，小山智也，小根山慶汰，岡本優美，藤本知臣，山代幸哉．表情表出強度が脳覚醒低下の予測指標になりうる．第79回日本体力医学会大会（草津市・日本），2025.9.17.
2. 小川ひかり，巻渕泰輝，穴澤沙也可，萩野由大，藤本知臣，越智元太，岡本優美，山代幸哉．経皮的耳介迷走神経刺激が皮質内抑制に及ぼす影響．第79回日本体力医学会大会（草津市・日本），2025.9.17.
3. 田中廉治郎，巻渕泰輝，萩野由大，藤本知臣，越智元太，岡本優美，山代幸哉．非侵襲的脳刺激はアスリートの筋力・パワーを増大するか？ ～競技力における検討～．第79回日本体力医学会大会（草津市・日本），2025.9.18.
4. 小根山慶汰，阿部拓也，塙晴雄，藤本知臣，岡本優美，山代幸哉，越智元太．低酸素下運動による認知疲労に脳内トリプトファン流入が関わるか．第79回日本体力医学会大会（草津市・日本），2025.9.19.
5. 清水杏夏，岡本優美，藤本知臣，山代幸哉，越智元太．起立時心拍変動と毛髪中オキシトシンが異なるメンタルヘルスの予測指標になりうる．第79回日本体力医学会大会（草津市・日本），2025.9.19.
6. Ochi G, Fujita S, Hoshi M, Ohno K, Yoshida N, Kodama N, Matsui T. Excessive brain lactate elevation and cognitive fatigue during exhaustive exercise. ARIHHP Human High Performance Forum 2026（つくば市・日本），2026.2.21.

6 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本体力医学会，日本体育・スポーツ・健康学会，新潟県体育学会，北米神経科学会，欧州スポーツ科学会，日本ウマ科学会，日本感情心理学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Communications Psychology，査読
2. Acta Psychologica，査読
3. Behavioural Brain Research，査読
4. Advances in Mental Health，査読
5. BMC Sports Science，Medicine and Rehabilitation，査読
6. Journal of Physiological Anthropology，査読
7. Psychology of Sport & Exercise，査読
8. American Journal of Case Reports，査読
9. スポーツ心理学研究，査読
10. Journal of Cognitive Enhancement，査読
11. Computers in Human Behavior，査読
12. Scientific Reports，査読

13. PLOS One，査読
14. Physiology & Behavior，査読
15. International Journal of Mental Health Promotion，査読
16. npj Science of Learning，査読

7　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度 見附市指導者育成プログラム，体力トレーニングⅠ 体力とは？，講師，見附市教育委員会，地域スポーツ指導者，見附市，2026.2.8.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 一般雑誌，日本スポーツ協会 Sport Japan 2026年１・2月号（日本スポーツ協会），ホントに，イチからよくわかる スポーツさまざまメディカル・コンディショニング⑪ パフォーマンスとケガ防止のカギを握る「認知疲労」の正体，2026.1.
2. Web記事・YouTube，公益財団法人JKA CYCLE JKA Social Action（公益財団法人JKA），毛髪を使ってオーバートレーニング症候群を予防！ ―ガールズケイリン選手が大学の研究室を訪問―，2026.2.
3. TV出演，ゆうなび（BSN新潟放送），『選球眼』と『打撃成績』は密接に「VR映像で球筋の見極めを」新潟医療福祉大学が研究成果を発表，2025.10.28.

8　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023，明治安田厚生事業団体力医学研究所 若手研究者のための健康科学研究助成，運動による実行機能低下の神経機構の解明-脳内乳酸濃度の役割-，研究代表者
2. 2023，基盤研究（C），MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用，研究分担者
3. 2023，基盤研究（C），体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発，研究分担者
4. 2024，公益財団法人JKA 2024年度公益事業振興補助事業 研究助成，毛髪を用いた女性アスリートのオーバートレーニングを予防するコンディション評価法の開発，研究代表者
5. 2024，カシオ科学振興財団 第42回研究助成，運動による実行機能低下の生理機構：末梢血乳酸がバイオマーカーとなりうるか，研究代表者
6. 2024，基盤研究（B），低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明，研究分担者
7. 2025，挑戦的研究（開拓），健全な発達を促す身体活動に向けた毛髪中コルチゾールによる慢性ストレス評価法確立，研究代表者

9　学内委員会活動　運動機能医科学研究所（研究員），利益相反マネジメント委員会（委員），知的財産委員会（委員），動物実験委員会（委員）

氏名：針谷　美智子

1　研究題目　小学校体育授業における鉄棒運動の縦断的研究，小学校体育授業における運動技能水準下位児童に関する事例的研究，体育授業におけるICT機器活用による学習成果の検討

2　著書

1. 大森智子，黒須真希，阿部恵子，大川由美子，木村幸代，白川千尋，高橋洋子，桒原香菜，針谷美智子．2025-2028 採点規則ヘルプデスク．日本体操協会：東京：2026：1-96.

3　論文

1. 針谷美智子．中学校体育授業における運動有能感の低い生徒の学習行動に関する一考察　学習課題・教師・仲間との関わりから．新潟医療福祉大学教職支援センター年報．2025；9：23-30.

4　学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ・健康学会，日本体育科教育学会（編集委員），日本スポーツ教育学会，体

育授業研究会（編集委員），新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 体育授業研究会，第29回体育授業研究会熊本大会一般発表，座長，熊本県，2025.8.8.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 2025年度体操競技女子ルールクリニック，講師，日本体操協会，日本女子体育大学，1.24.
2. 2025年度体操競技女子１種公認審判員カテゴリー試験，講師，日本体操協会，国士舘大学，2.21-2.22.
3. 2025年度体操競技女子全国代表審判員研修会，講師，日本体操協会，国士舘大学，1.25.

2) 社会活動への参加協力

1. 長岡市スポーツ協会，令和７年度第１回長岡市スポーツ推進審議会，委員，長岡市さいわいプラザ，11.28.
2. 体操天皇杯第79回全日本体操個人総合選手権，審判員，群馬県高崎市，高崎アリーナ，4.17-4.20.
3. 第64回NHK杯，審判員，群馬県高崎市，高崎アリーナ，5.16-5.18.
4. 第58回東日本学生体操競技選手権，審判員，埼玉県熊谷市，くまがやドーム，5.23-5.25.
5. 第75回西日本学生体操競技選手権，審判員，愛知県豊田市，スカイホール豊田，5.30-6.1.
6. 東日本ジュニア体操競技選手権大会，審判員，茨城県ひたちなか市，笠松運動公園体育館，7.23-7.27.
7. 東西ジュニア体操競技選手権決勝大会，審判員，栃木県宇都宮市，日環アリーナ栃木，8.12.
8. 全日本ジュニア体操競技選手権大会，審判員，栃木県宇都宮市，日環アリーナ栃木，8.13-8.17.
9. ナショナル強化合宿（世界選手権に向けた試技会），審判員，東京都北区，ナショナルトレーニングセンター，8.27.
10. 2025年度体操女子U-15トライアウト，審判員，東京都北区，ナショナルトレーニングセンター，9.7.
11. 第78回国民スポーツ大会体操競技，審判員，滋賀県大津市，ダイハツアリーナ，9.11-9.15.
12. 第58回全日本マスターズ体操競技選手権大会，審判員，東京都立川市，アリーナ立川立飛，9.20.
13. ナショナル強化合宿（世界ジュニア大会に向けた試技会），審判員，東京都北区，ナショナルトレーニングセンター，10.12.
14. 第79回全日本体操団体・種目別選手権，審判員，群馬県高崎市，高崎アリーナ，11.13-11.16.
15. 第３回世界ジュニア体操競技選手権大会，審判員，フィリピン・マニラ，Marriott Grand Ballroom，11.18-11.25.
16. 第80回全日本体操個人総合選手権女子トライアウト（映像審査），審判員，オンライン，2.13.
17. 長岡市スポーツ協会，令和７年度第２回長岡市スポーツ推進審議会，委員，長岡市さいわいプラザ，3.19.
18. 子供運動能力向上教室，運動指導，新潟市北区，新潟医療福祉大学，6.7-7.19.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

長岡市スポーツ審議会（委員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益財団法人日本体操協会審判委員会（体操競技女子審判部員），東京都体操協会（役員）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，若手研究，ICT機器を活用した鉄棒運動の学習指導プログラムの構築：逆上がりに着目して，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学教育学部，小学校体育，2024.4.1-7.31.

7 学内委員会活動　教職支援センター運営委員会，教務委員会

氏名：佐藤　皓也

1　研究題目　武道の科学化に関する研究，デジタル技術を用いた武道史研究，主観的な身体感覚のデータ化

2　著書

1.　（小冊子，分担）ゼミナール剣道，27号：全国教育系大学剣道連盟；2026：1-59.

3　論文

1. Sato K. The Historical Reality of Student Kendo in Rural Areas of Japan, Martial Arts Studies, 2026；19号：45-57.（査読あり）

4　学会等研究発表

1. 佐藤皓也，小林勝法，太田順康，劉暢．中央と地方における旧制高校剣道部の活動状況．第58回日本武道学会（東京），8.30-8.31.
2. 太田順康，小林勝法，佐藤皓也，劉暢．計量テキスト分析を活用した武芸伝書分析の試み．第58回日本武道学会（東京），8.30-8.31.
3. 劉暢，佐藤皓也，小林勝法，太田順康．『紀効新書』の武術記述分析 ― 戚継光の武術観を探る．第58回日本武道学会（東京），8.30-8.31.
4. 小林勝法，佐藤皓也．近代剣道歌の時代的特徴－計量テキスト分析に基づく考察－．第58回日本武道学会（東京），8.30-8.31.

5　学会活動

1) 所属学会　日本武道学会，情報処理学会（人文科学とコンピュータ研究会），スポーツ史学会，日本アプライドスポーツ科学会（編集委員）

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本アプライドスポーツ科学会，編集委員会日程調整およびエディター一覧確認，オンライン，2025.4.18.
2. 日本アプライドスポーツ科学会，アプライドスポーツサイエンス第４巻の確認，2025.4.11-4.21.
3. 日本アプライドスポーツ科学会，第１回編集委員会，オンライン，2025.5.8.
4. 日本アプライドスポーツ科学会，査読正式依頼メールテンプレート確認，編集委員，オンライン，2025.5.13.
5. 日本アプライドスポーツ科学会，投稿の手引き修正確認，オンライン，2025.6.12.
6. 日本アプライドスポーツ科学会，投稿規定の修正確認，オンライン，2025.7.15.
7. 日本アプライドスポーツ科学会，アプライドスポーツサイエンス早期公開論文の掲載確認，編集委員，オンライン，2026.3.2.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 全国教育系大学ゼミナール　一本を考える，講師，全国教育系大学剣道連盟，オリンピック記念青少年総合センター，2026.3.21.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. PRTIMES,【新潟医療福祉大学】北信越女子学生剣道優勝大会で団体３位！創部初の女子団体インカレ出場決定！，2025.9.17.
2. PRTIMES,【新潟医療福祉大学】剣道部 菅原陽菜が個人インカレ出場決定！，2025.5.26.
3. PRTIMES,【新潟医療福祉大学】北信越学生剣道新人大会で菅原陽菜が個人３位！団体も３位入賞！来季のインカレ見据える，2025.12.5.

3) 社会活動への参加協力

1. 全国教育系大学剣道大会，運営，全国教育系大学剣道連盟，教育系大学，オリンピック記念青少年総合センター，2026.3.20-3.
2. 全国教育系大学剣道大会，審判，全国教育系大学剣道連盟，教育系大学，オリンピック記念青少年総合センター，2026.3.

3. 北信越学生剣道連盟，リーダーズキャンプ，理事として資料確認・協力，オンライン，2026.3.
4. 全国教育系大学剣道連盟 理事会，理事として出席・協議，オンライン.
5. 北信越学生剣道連盟，理事会，理事として資料確認・協力，金沢大学.
6. 全国教育系大学剣道連盟，「ゼミナール剣道」第27号の校正確認，オンライン，2026.

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

全国教育系大学剣道連盟（理事），北信越学生剣道連盟（理事）

7 その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績

1. 剣道部，全日本学生剣道選手権大会出場（女子個人，ベスト32），東京，7.5-7.6.
2. 剣道部，全日本学生剣道優勝大会出場（女子団体），名古屋，11.8-11.9.
3. 剣道部，北信越学生剣道新人大会：女子個人３位，女子団体３位，新潟，11.23.

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学，健康スポーツ科学実習，2025年度

8 学内委員会活動　広報委員会

氏名：奈良　梨央

1 研究題目　背泳ぎスタートに関する研究

2 学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ・健康学会，日本水泳水中運動学会，日本コーチング学会，新潟医療福祉学会，NPO法人ジュース

3 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. スポーツ・ハラスメント防止・啓発セミナー，講師，公益財団法人日本スポーツ協会，指導者，大東文化大学，2025.3.14.
2. 指導者講習会，「女性アスリートへのサポートについて」，講師，（一財）柏崎市スポーツ協会，指導者，柏崎市立図書館，2025.6.7.
3. モルック体験会，運動指導，奈良ゼミ，小学生，新潟医療福祉大学，2025.6.14.
4. モルック体験会，運動指導，奈良ゼミ，小学生，新潟医療福祉大学，2025.11.1.
5. 令和７年度公認スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，公益財団法人新潟県スポーツ協会，地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等における指導者や運営者，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター大研修室，2025.11.8.
6. 令和７年度日本スポーツ協会公認コーチ等養成講習会，共通科目III講習会，講師，公益財団法人日本スポーツ協会，指導者，ベルサール九段，2025.11.14-11.16.
7. 令和７年度公認スタートコーチ（ジュニア・ユース）養成講習会日本スポーツ協会コース，公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度，講師，公益財団法人日本スポーツ協会，指導者，TKP東京駅カンファレンスセンター ホール8E，2025.12.14.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，柏崎日報，生理へ理解深め無月経に警鐘も（女性支援テーマ指導者向け講習会），2025.6.11.

3) 社会活動への参加協力

1. ステップアップ交流会，交流会，統括，新潟医療福祉大学，2025.9.27.
2. 新潟県スプリント選手権，役員，招集係，長岡ダイエープロビスフェニックスプール，2025.10.12.
3. 全国学生選抜合同合宿，選手指導，代表コーチ，インフロニア 草津アクアティクスセンター，2026.2.17-2.20.
4. タレント発掘・育成プログラムT1U19BU23B&リージョン合宿，スイム指導担当，楢葉町Jヴィレッジ，2026.2.21-2.23.

4　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

UNIVAS AWARDS，デュアルキャリア形成支援優秀取組賞入賞（2026.1.26）

2) 学内部活動の実績

1. 水泳部，第101回 日本学生選手権水泳競技大会，女子100mバタフライ ３位，東京都，2025.9.4-9.7.（コーチ）
2. 水泳部，第101回 日本学生選手権水泳競技大会，男子50m自由形 ３位，東京都，2025.9.4-9.7.（コーチ）
3. 水泳部，第101回 日本学生選手権水泳競技大会，女子50m自由形 ４位，東京都，2025.9.4-9.7.（コーチ）
4. 水泳部，第101回 日本学生選手権水泳競技大会，女子100mバタフライ ８位，東京都，2025.9.4-9.7.（コーチ）
5. 水泳部，第67回 日本選手権（25m）水泳競技大会，女子50mバラフライ ４位，東京都，2025.10.18-10.19.（コーチ）
6. 水泳部，第67回 日本選手権（25m）水泳競技大会，女子100mバラフライ ４位，東京都，2025.10.18-10.19.（コーチ）
7. 水泳部，第67回 日本選手権（25m）水泳競技大会，男子100mバラフライ ２位，東京都，2025.10.18-10.19.（コーチ）
8. 水泳部，ジャパンオープン2025（50m），女子50mバタフライ ６位，東京都，2025.11.28-11.30.（コーチ）
9. 水泳部，第101回 日本選手権水泳競技大会，男子100mバタフライ ３位，東京都，2026.3.19-3.22.（コーチ）
10. 水泳部，第101回 日本選手権水泳競技大会，女子100mバタフライ ４位，東京都，2026.3.19-3.22.（コーチ）
11. 水泳部，第101回 日本選手権水泳競技大会，女子100m平泳ぎ ６位，東京都，2026.3.19-3.22.（コーチ）
12. 水泳部，第101回 日本選手権水泳競技大会，女子50mバタフライ ４位，東京都，2026.3.19-3.22.（コーチ）

5　学内委員会活動　教務委員会，AD推進委員会，同窓会（ピアサポーター）

氏名：藤本　知臣

1　研究題目　寒冷環境下での体温調節反応とその調節メカニズムに関する研究，オープンウォータースイミング競技の安全性およびパフォーマンス向上のための生理学的研究，暑熱環境下における体温上昇時のヒトのパフォーマンスに関する研究，息止め能力を規定する生理学的要因の検討，ヒトの温度クオリアに関する研究

2　著書

1. 藤本知臣（日本水泳連盟 編）．水泳コーチ教本 第１章３節「水泳の生理学」;第６章２節「オープンウォータースイミングの科学」．第４版．日本：大修館書店；2026：pp.15-29, 300-305

3　論文

1. Fukuie T, Fujimoto T, Inoue K, Yamaguchi A. Effects of Warm and Cold Contrast Footbaths on Psychological and Physiological Responses in Healthy Adults. J Chiropr Med. 24(1-4): 260-267, 2025. doi: 10.1016/j.jcm.2025.09.032
2. Wakabayashi H, Fujimoto T, Miura A, Kita J, Matsushita M, Kameya T, Maeda T, Saito M. Topical application of menthol enhances brown adipose tissue thermogenesis and fat oxidation in humans. Am J Physiol Endocrinol Metab. 329(2): E302-E311, 2025. doi: 10.1152/ajpendo.00243.2025

3. Lei TH, Li HY, Goulding RP, Wang F, Amano T, Fujimoto T, Fujii N, Kondo N, Perry B, Mündel T. High-intensity exercise training mitigates post-exercise orthostatic hypotension in men. Eur J Appl Physiol. 126(1): 337-347, 2026. doi: 10.1007/s00421-025-05893-0
4. Fujito Y, Fujimoto T, Hara R, Yoshida R, Funato K. Evaluation of Race Pace Using Critical Swimming Speed During 10 km Open-Water Swimming Competition. J Funct Morphol Kinesiol. 10(3): 302, 2025. doi: 10.3390/jfmk10030302
5. Ochi G, Koyama T, Oneyama K, Okamoto Y, Fujimoto T, Sato D, Yamashiro K. Facial lower-region changes during high-intensity exercise as predictors of reduced arousal state. J Sports Sci. 43(24): 3095-3109, 2025. doi: 10.1080/02640414.2025.2574109
6. Nakajima F, Ikarashi K, Yamashiro K, Ochi G, Fujimoto T, Sato D. Neural representation of proactive and reactive inhibitory control adaptations across sensory modalities. Cereb Cortex. 35(10): bhaf272, 2025. doi: 10.1093/cercor/bhaf272
7. Anazawa S, Makibuchi T, Hagino Y, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Sato D, Yamashiro K. The Effect of Sex Differences on Long-Latency of Auditory and Somatosensory Evoked Potentials. Womens Health Rep. 7.1: 183-193. 2026. doi: 10.1177/26884844261432104

4　学会等研究発表

1. Fujimoto T, Goto K, Kitano A, Suzaki Y, Shintani K, Matsuura Y. Effects of Breath-Holding Warm-Up on Performance and Physiological Responses During High-Intensity Exercise Simulating a 200 m Swim. European College of Sports Science 2025 (Rimini, Italy). 2025.7.1-7.4.（ポスター）
2. Fujimoto T, Kuwamizu R. Structural relationship between thermal sensation and thermal discomfort: A preliminary mapping of thermal qualia in healthy young adults. Qualia Structure Grant Meeting (Okinawa, Japan). 2026.2.20-2.25.（ポスター）
3. Fujimoto T, Hattori R, Watanabe K, Fujii N. Transient receptor potential melastatin 8 mediates cutaneous vasoconstriction during local skin cooling via adrenergic neural mechanisms. ARIHHP Human High Performance Forum 2026 (Ibaraki, Japan). 2026.2.20-2.21.（ポスター）
4. 藤本知臣，髙城菜々子，北野侑，須崎友馬，岡本優美．前腕部局所温度感受性の季節変動における性差と体組成との関係．第79回日本体力医学会大会（滋賀）．2025.9.17-9.19.（ポスター）

5　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本体力医学会，日本コーチング学会（編集委員），日本水泳・水中運動学会（事務局，運営委員），米国生理学会，米国スポーツ医学会，ヨーロッパスポーツ科学会，日本臨床スポーツ医学会

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等
   1. 水泳コーチ３・４養成講習会，水泳の生理学（共通），講師，公益財団法人 日本水泳連盟，水泳コーチ３取得者，日本大学文理学部，2025.11.7.
   2. 水泳コーチ３・４養成講習会，バイオメカニクス・各種目の力学（OWS），講師，公益財団法人 日本水泳連盟，OWSコーチ３取得者，日本大学文理学部，2025.11.8.
2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
   1. 一般雑誌，スイミングマガジン2025年8月号（ベースボールマガジン社），「学んで生かす運動生理学 Season 2 第10回 スプリンターのための生理学」，2025.7.
   2. 一般雑誌，スイミングマガジン2025年11月号（ベースボールマガジン社），「学んで生かす運動生理学Season 2 第11回 OWS日本代表の活躍を検証「暑熱対策」を運動生理学の視点から解説」，2025.10.
3) 社会活動への参加協力
   1. 日本水泳連盟 科学委員会，OWS日本代表の最大酸素摂取量測定およびフィードバック，日本大学ス

ポーツ科学部，2025.6.4.

2. オーシャンズカップ2025，OWS日本代表の生理データ測定およびフィードバック，千葉県館山市，2024.6.14-6.15.
3. 第101回OWS日本選手権，OWS日本代表の生理データ測定およびフィードバック，千葉県館山市，2024.9.26-9.28.
4. 日本水泳連盟 科学委員会，パラリンピック代表選手の生理データ計測，東京都北区，2025.8.8.
5. 日本水泳連盟 科学委員会，OWS日本代表の寒冷順化合宿におけるメニュー作成と測定，千葉県館山市，2025.12.23-12.24.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

公益財団法人 日本水泳連盟 オープンウォータースイミング委員会（委員），公益財団法人 日本水泳連盟 科学委員会（委員）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025-2028年度，科学研究費 基盤研究B，高齢者の低体温症予防における運動の効果と冷感受容体TRPM8の関与，研究代表者
2. 2025年度，筑波大学 ARIHHP共同利用・共同研究公募事業，寒冷負荷時の末梢血管収縮に対する温度感受性TRPチャネルの役割の解明，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. ICM国際メディカル専門学校，保健体育，2025.9-2026.3.

8 学内委員会活動　広報委員会（情報発信部会長），運動機能医科学研究所（所員・広報担当），NQSAP企画・運営メンバー（融合研究演習グループ長）

氏名：松浦　由生子

報告事項なし

氏名：小林　真里奈

1 研究題目　バスケットボール競技の競技動作に関する研究，バスケットボール競技のコーチングについての研究

2 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー新潟市中体連指導者セミナー，スポーツ障害の防止と成長期スポーツ選手のセルフチェック等，講師，新潟市中体連，中学校部活動指導者，地域スポーツ団体指導者，新潟市，2025.7.25.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報，［バスケ・インカレ］29日開幕，新潟県勢３チームを紹介！新潟医療福祉大・男女，新潟青陵大・女子，2025.11.28.（WEB掲載）
2. 新聞，スポニチ，医福大　金子，集大成へ「やるしかない」，2025.12.4.（囲み記事）
3. 新聞，新潟日報，［バスケ・インカレ］女子の新潟青陵大，新潟医療福祉大はグループステージ敗退トーナメントに進めず，2025.12.10.（WEB掲載）

3) 社会活動への参加協力

1. TEAM KITAバスケットボールクラブ，学生補助，新潟医療福祉大学第３体育館，2025.4.1-9.3.（毎週水曜日）
2. 新潟県バスケットボール協会，女子日本代表HC・ACを講師とした指導者講習会，運営補助，新潟医療福祉大学第３体育館，2026.1.25.
3. しなの薬局・新潟中央ヤクルト販売（株），第４回小学生ミニバスケットボールクリニック，バスケッ

トボール指導と栄養指導，講師，新潟医療福祉大学第３体育館，2026.3.1.

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

北信越大学バスケットボール連盟（理事），新潟県バスケットボール協会（成年女子監督）

3　その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績

1. 女子バスケットボール部，第３回全日本大学バスケットボール新人戦（新人インカレ）出場，東京都，2025.7.7-7.8.（監督）
2. 女子バスケットボール部，第101回天皇杯・第92回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会セカンドラウンド（北信越ブロックラウンド）出場，長野県，2025.11.22-11.23（監督）
3. 女子バスケットボール部，第76全日本大学選手権（インカレ）グループリーグ突破，東京，2024.11.28-12.4.（監督）

4　学内委員会活動　アスレティックデパートメント推進　修学・支援部会

氏名：柴田　篤志

1　研究題目　助走を用いた片脚跳躍における踏切に関する研究，跳躍競技者の競技発達に関する研究

2　論文

1. 柴田篤志．走高跳競技者における片脚での下肢力発揮能力のシーズン中の変化とパフォーマンスとの関係．コーチング学研究（協力学術研究団体）．2026; 39 (2): 167-169
2. 小林志郎，柴田篤志．【2025年世界陸上競技選手権・東京大会の年に見る-走・跳・投における世界のアスリートの特徴と日本のトレーニング科学・実践の展開-】投擲競技における世界的動向と競技者育成の課題-指導現場における実践的アプローチ-．トレーニング科学（協力学術研究団体）．2025; 37 (3): 129-137.
3. 杉浦澄美，柴田篤志，苅山靖，廣田元輝，小山宏之．日本一流女子走高跳競技者における踏切動作のキネマティクス的特徴：Yaroslava MAHUCHIKH選手の跳躍との比較．陸上競技研究紀要．2026; 21: 154-161.
4. 杉浦澄美，柴田篤志，苅山靖，廣田元輝，小山宏之．日本一流男子走高跳競技者における踏切動作のキネマティクス的特徴．陸上競技研究紀要．2026; 21: 162-168.

3　学会等研究発表

1. 柴田篤志，山元康平，犬井亮介，植松倫理，伊藤信之，木越清信．女子走幅跳競技者の踏切における踏切脚の力発揮とパフォーマンスとの関係．日本陸上競技学会・第24回大会（つくば市）（協力学術研究団体），2025.11.15-11.16.

4　学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ・健康学会，日本バイオメカニクス学会，日本陸上競技学会，日本コーチング学会，International Society of Biomechanics in Sports，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 陸上競技研究紀要，査読

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度陸上競技種目別技術講習会，講師，新潟県陸上競技協会，デンカビッグスワンスタジアム，2025.8.20.
2. 令和７年度新潟県冬季選抜合宿（高校生対象），指導者，新潟陸上競技協会，デンカビッグスワンスタジアム，2025.12.26-12.27.
3. 第62回新潟医療福祉大学記録会，主催者・大会運営，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.4.12-4.13.
4. 第63回新潟医療福祉大学記録会，主催者・大会運営，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.5.17-5.18.
5. 第64回新潟医療福祉大学記録会，主催者・大会運営，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.6.11.

6. 第65回新潟医療福祉大学記録会，主催者・大会運営，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.6.28-6.29.
7. 第66回新潟医療福祉大学記録会，主催者・大会運営，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.8.9-8.10.
8. 第67回新潟医療福祉大学記録会，主催者・大会運営，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.10.4-10.5.
9. 第68回新潟医療福祉大学記録会，主催者・大会運営，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.11.1-11.2.

2) 社会活動への参加協力

1. 日本陸上競技連盟科学委員会，第108回日本選手権における科学サポート，協力スタッフ，国立競技場，2025.7.4-7.6.
2. 日本陸上競技連盟科学委員会，セイコーゴールデングランプリ陸上2025科学サポート，協力スタッフ，国立競技場，2025.5.18.
3. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ，指導者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.10.19.
4. NUHWアカデミーSkil up camp，運営，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.11.15.
5. 新潟県競技水準向上対策事業　2025年度 女性アスリート研修合宿，運営補助，新潟医療福祉大学陸上競技場，2025.11.8.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，科研費基盤研究（C），児童期での助走を用いた片脚跳躍における踏切能力の発達過程の解明，研究代表者
2. 2024年度，科研費基盤研究（C），投擲事故を未然に防ぐ新たなトレーニング用具の開発と普及，研究分担者
3. 2025年度，科研費基盤研究（C），中高生アスリートの助走片脚跳躍における踏切能力およびその発達に影響する要因の解明，研究代表者

7　学内委員会活動　教務委員会

氏名：森清　友亮

1　研究題目　変形性膝関節症病態解明に関する研究，乳児股関節形成不全の画像評価に関する研究，跳躍型疲労骨折の破壊と骨形態に関する研究

2　論文

1. 石井義人，長江恒樹，坂本信，亀田剛，森清友亮，坂上勇太，小林公一，坂井幸子，平元和彦．コーンビームCTとモーションキャプチャおよび口腔内座標系を組み合わせた新たな顎運動解析システムの開発．臨床バイオメカニクス（協力学術団体）．2025; 46, 259-266.（査読あり）
2. 齋藤大寛，林智彦，渡邉聡，林豊彦，佐藤卓，小林公一，森清友亮，大森豪，坂本信．成長期における跳躍型疲労骨折の形態学的素因としての脛骨のねじれと弯曲の３次元評価．臨床バイオメカニクス（協力学術団体）．2025; 46, 110-117.（査読あり）

3　学会等研究発表

1. Koga H, Omori G, Takagi S, Mochizuki T, Morise Y, Koga Y. Predicting Progression of Early Knee Osteoarthritis Using Basic Clinical Findings: A 30-Year Follow-Up from the Matsudai Knee OA Survey. OARSI 2025 World Congress on Osteoarthritis (Incheon, South Korea), 2025.4.24-4.27.
2. Watanabe H, Koga H, Tanaka M, Mochizuki T, Morise Y, Omori G, Koga Y. Quantitative Evaluation of Standing Antero-Posterior Knee X-Rays in a Population Based Epidemiological Study of Knee Osteoarthritis: Tibial Joint Plane Tilt Angle by Knee OA Stage. OARSI 2025 World Congress on Osteoarthritis (Incheon, South Korea), 2025.4.24-4.27.
3. 石井義人，坂本信，亀田剛，森清友亮，小林公一．CBCTとモーションキャプチャーを用いた新たな口腔内座標系における顎運動測定．日本機械学会 第37回バイオエンジニアリング講演会．（慶應義塾大学日吉キャンパス），2025.5.24-5.25.
4. 石井義人，坂本信，廣谷日南，亀田剛，森清友亮，小林公一，平元和彦．コーンビームCTとモーション

キャプチャを併用した口腔内座標系における三次元顎運動測定．日本実験力学会2025年度年次講演会．（龍谷大学瀬田キャンパス），2025.9.16-9.18.

5. 田中正栄，渡邉博史，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，西野勝敏，大森豪，古賀良生．変形性膝関節症における疫学要因の縦断的検討．第52回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会．（京都市），2025.11.7-11.8.
6. 渡邉博史，田中正栄，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，西野勝敏，大森豪，古賀良生．立位膝前後X線の角度指標とlateral thrustとの関連．第52回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会．（京都市），2025.11.7-11.8.
7. 齋藤大寛，林智彦，渡邉聡，林豊彦，佐藤卓，大森豪，小林公一，森清友亮，坂本信．成長期における跳躍型疲労骨折の形態学的素因としての脛骨のねじれが応力分布に与える影響．第52回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会．（京都市），2025.11.7-11.8.
8. 石井義人，坂本信，廣谷日南，亀田剛，近江孔哉，坂上勇太，森清友亮，小林公一，坂井幸子，平元和彦．CBCTとモーションキャプチャによる個人固有座標系に基づく三次元顎運動解析システム．第52回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会．（京都市），2025.11.7-11.8.
9. 石井義人，坂本信，亀田剛，廣谷日南，森清友亮，坂上勇太，小林公一，平元和彦．口腔内座標系に基づく下顎骨・下顎歯任意点の三次元顎運動解析．日本実験力学会バイオメカニクス分科会 The 24th Conference on Biomechanics.（新潟市），2026.3.21.
10. 森清友亮，坂本信，古賀良生．変形性膝関節症における皮質骨重心偏位解析（骨幅ベクトル）の提案．日本実験力学会バイオメカニクス分科会 The 24th Conference on Biomechanics.（新潟市），2026.3.21.
11. 青木優太，森清友亮，古賀寛．変形性膝関節症グレード分類のための新学習システムの学習効果検証．第263回 新潟整形外科研究会（新潟市），2025.3.7.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本機械学会，日本臨床スポーツ学会，日本実験力学会，日本生体医工学会，日本臨床バイオメカニクス学会

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県アーチェリー協会，常任理事，競技部長，競技会運営，審判，普及活動等，新潟県，2025.4.1-2026.3.31.
2. 新潟市アーチェリー協会，理事長，競技会運営，審判，普及活動等，新潟市，2025.4.1-2026.3.31.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），発育性股関節形成不全のエコー診断を補助する三次元画像解析技術の開発，研究分担者
2. 2023年度，科研費基盤研究（B），月経随伴症状としての腰痛の発生メカニズム解明と対処法の開発，研究分担者
3. 2024年度，若手研究，超音波断層画像再構成による発育性股関節形成不全3Dモデル作成法開発と検証，研究代表者

2) 学内部活動の実績

1. アーチェリー部　インカレ出場（１名）第24回全日本学生室内アーチェリー個人選手権大会
2. アーチェリー部　インカレ出場（１名）第63回全日本学生アーチェリー個人選手権大会

7　学内委員会活動　IR戦略委員会

氏名：並木　伸賢

1　研究題目　アスリートの競技経験はいかに活用されているのか？

2　著書

1. 井上和哉，栗林千里，並木伸賢，深町花子，佐藤徹男，吉本学，金澤潤一郎，榎本恭介，柳澤博紀，直井愛里．スポーツにおけるマインドフルネスとアクセプタンス：プレッシャー下でパフォーマンスを発揮するために．初版．東京：北大路書房；2026：２章，５章，６章.

3　論文

1. 並木伸賢，堀野博幸．大学ラグビー選手のメンタルヘルス：公式戦への出場経験と援助要請への抵抗感の観点から．スポーツパフォーマンス研究（協力学術団体）．2025；17：284-293.（査読あり）
2. 八斗啓悟，清水登大，上田寛，並木伸賢．心理ネットワークアプローチを用いたアスリートに対する個別最適なコンディショニングサポートの可能性．スポーツ心理学研究（協力学術団体）．2025；52(2)：77-91.（査読あり）

4　学会等研究発表

1. 並木伸賢．大学陸上競技者への心理ネットワークアプローチを用いた支援事例．日本スポーツ心理学会第52回大会，2025.9.26-9.28.
2. 並木伸賢，原口彩子，石本豪．大学生のメンタルヘルス症状と相談傾向の検討．第47回全国大学メンタルヘルス学会総会，2025.12.4-12.5.
3. 並木伸賢．アスリートの競技経験はどのように活かされているのか：元トップアスリートの会社経営者へのインタビュー調査から．日本スポーツマネジメント学会第18回大会，2026.2.26-2.28.

5　学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ・健康学会，日本スポーツ心理学会，日本スポーツパフォーマンス学会，日本運動・スポーツ科学学会，日本認知・行動療法学会，日本ストレス学会，日本スポーツ産業学会，日本スポーツマネジメント学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本スポーツ心理学会査読
2. 日本体育・スポーツ・健康学会査読

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 早稲田大学スポーツ科学部公演会，アスリートとキャリア：エリートアスリートという価値，講師，早稲田大学，東京都，2026.1.19.
2. 新潟心理学会，アスリートのキャリア支援の歴史と展開，講師，新潟大学駅南キャンパスときめいと，新潟県，2025.7.4.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，競技力向上相談・メンタルサポート，心理相談員，新潟市，2024.4.1-2025.3.31.
2. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，新潟県内公立高校へのメンタルサポート（自分の「価値」に沿ってプレーする），研修講師，心理相談員，新潟市，2025.12.21.

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，日本私立学校振興・共済事業団　若手・女性研究者奨励金，アスリートの競技経験は就業時にどのように活かされているのか？，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校，コミュニケーション・心理学，2025.4.1-2026.3.31.
2. 東京成徳大学，スポーツカウンセリング特講，スポーツカウンセリング演習，2025.4.1-2026.3.31.

8　学内委員会活動　人権委員会，個人情報保護委員会，スポーツカウンセリング研究センター，メンタルヘルス支援室

氏名：菅原　大志

1　研究題目　農山村における地域生活とスポーツ活動に関する社会学的研究

2　著書

1. 菅原大志；スポーツまちづくり研究会編．47都道府県競技/大会百科．1版．東京都：丸善出版；2026：33-37.
2. 菅原大志；スポーツまちづくり研究会編．47都道府県競技/大会百科．1版．東京都：丸善出版；2026：88-92.

3　学会等研究発表

1. 菅原大志.〈身体〉の政治と「苦」の共有―山間集落における健康増進施策の展開をめぐって―．日本体育社会学会第３回大会（仙台市），2025.6.21-6.22.

4　学会活動

1) 所属学会　日本体育・スポーツ・健康学会，日本スポーツ社会学会，東北社会学会，日本体育社会学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本体育・スポーツ・健康学会，若手の会コラムリレー，コラム執筆，2025.6.1（公開日）.

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費研究活動スタート支援，農山村におけるスポーツ受容の機制に関する社会学的研究，研究代表者.

6　学内委員会活動　安全衛生委員会，健康管理センター運営委員会，アスレティックデパートメント推進委員会

氏名：岡本　優美

1　研究題目　熱中症予防の個別最適化を目指した体温調節反応に関する研究

2　論文

1. Shimizu K, Ochi G, Oneyama K, Okamoto Y, Fujimoto T, Yamashiro K. Hair Hormones and Heart Rate Variability as Chronic Stress Biomarkers in a Female Long-Distance Runner: A 22-Month Longitudinal Case Study. Research Square. 2026 (preprint)
2. Ochi G, Koyama T, Oneyama K, Okamoto Y, Fujimoto T, Sato D, Yamashiro K. Facial lower-region changes during high-intensity exercise as predictors of reduced arousal state. Journal of Sports Sciences. 2025; 43(24): 3095-3109. (review)
3. Hui Wang, Tamura K, Oshima S, Yokoyama S, Okamoto Y, Otsuka J, Kato H, Yamashita H, Ying-Shu Quan, Amano T. Microneedle-assisted iontophoretic transdermal administration of adrenergic antagonists does not modulate palmar sweating induced by static exercise in healthy young adults. Autonomic neuroscience: basic & clinical. 2025; 261: 103321. (review)
4. Kato H, Okamoto Y, Otsuka J, Yokoyama S, Oshima S, Tajima K, Shiraishi A, Shiramoto A, Amano T. Does wearing a breathable T-shirt improve the microclimate and thermoregulatory responses during a hot outdoor running?. Fashion and Textiles. 2025; 12(15). (review)
5. Lu Meng, Hui Wang, Otsuka J, Okamoto Y, Yokoyama S, Oshima S, Kato H, Tze-Huan Lei, Amano T. Do Transdermal Administration of α1- and α2-Adrenergic Receptor Antagonists Modulate Sweating in Exercising Young Females in the Heat?. Skin pharmacology and physiology. 2025; 38(4): 149-158. (review)
6. Otsuka J, Okamoto Y, Enoki Y, Maejima D, Amano T. Hyperhydration with Glycerol, Sodium, and Isomaltulose or Sucrose on Fluid Balance, Thermoregulation, and Exercise Capacity in the Heat. Medicine and science in sports and exercise. 2025; 57(11): 2550-2563. (review)

7. Amano T, Yasuda S, Yokoyama S, Oshima S, Okamoto Y, Otsuka J, Kato H, Kunimasa Y, Hiwa T, Fujii N, Glen P Kenny, Hosokawa Y, Toby Mündel, Kondo N, Inoue Y. Biological maturation and sex differences of cholinergic sweating in prepubertal children to young adults. Annals of the New York Academy of Sciences. 2025; 1547(1): 183-191. (review)
8. 岡本優美．習慣的な運動に伴う女性の皮膚血管および汗腺機能の適応メカニズム解明．2024年度実施状況報告書（日本学術振興会）．2025.

3　学会等研究発表

1. 岡本優美，天野達郎．習慣的な運動がアセチルコリンおよびCGRP誘発性の皮膚血管拡張に及ぼす影響と一酸化窒素合成酵素の役割．第79回日本体力医学会大会（滋賀県），2025.9.19.

4　学会活動

1) 所属学会　日本体力医学会（会員），新潟医療福祉学会（会員）

5　社会活動

1) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 会報，新潟骨を守る会ニュースレター（新潟骨を守る会），『夏が終わる今こそ熱中症予防！』，2025.9.20.
2. 広告紙，新入生向けフライヤー『あなたは知っている？博士の秘密』（新潟大学），『新潟大学の博士の先輩たちを紹介』，2026.2.27.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，研究活動スタート支援，習慣的な運動に伴う女性の皮膚血管および汗腺機能の適応メカニズム解明，岡本優美
2. 2025年度，一般社団法人永井知覚科学振興財団研究助成，月経周期が温熱知覚及び皮膚血管拡張反応に及ぼす影響に関する研究，岡本優美

7　学内委員会活動　運動機能医科学研究所（所員・HP管理）

氏名：小谷　幸平

1　研究題目　体操競技・器械運動のコツの指導，促発分析能力の解明

2　論文

1. 神門大輔，松本裕也，小谷幸平，藤田恭平，岡村太洋．運動実践の深化と広がり．スポーツ運動学研究28（協力学術団体）．査読なし

3　学会等研究発表

1. 小谷幸平，神窪愛，大西祐司．中学校体育授業におけるユニホックの教材開発及び効果検証．第29回体育授業研究会（熊本），2025.8.

4　学会活動

1) 所属学会　日本スポーツ運動学会，日本体操競技・器械運動学会，日本体育科教育学会，日本体育・スポーツ・健康学会，日本コーチング学会，運動伝承研究会，大学スキー研究会，体育授業研究会，ゲーテ自然科学の集い

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度公認スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，公益財団法人新潟県スポーツ協会，長岡市さいわいプラザ，2025.8.24.
2. 令和７年度公認スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，公益財団法人新潟県スポーツ協会，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.9.6.
3. 令和７年度公認スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，公益財団法人新潟県スポーツ協会，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.9.12.

4. 令和７年度公認スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，公益財団法人新潟県スポーツ協会，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.9.27.
5. 令和７年度公認スポーツコーチングリーダー養成講習会，講師，公益財団法人新潟県スポーツ協会，長岡市さいわいプラザ，2025.10.12.

6　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

JGAコーチ（A）（2025.8.31）

7　学内委員会活動　高等教育推進センター運営委員会

氏名：亀岡　雅紀

報告事項なし

5）看護学部

（1）看護学科

氏名：宇田　優子

1　研究題目　難病患者の災害への備え行動促進に関する要因，患者会活動，地域包括ケアシステム構築に関する地域看護活動の課題と検討

2　論文

1. 石綿啓子，瀧口徹，宇田優子．プラチナナースを訪問看護ステーション就業に繋ぐシステムの検討．新潟医療福祉学会誌．2025；24（3）27-36
2. 石塚敏子，宇田優子，玉田千歳，桶谷涼子，木下直彦．パーキンソン病者の災害備え指導に有効な指標の検討　～外来看護部門での活用を目指して～．日本難病看護学会誌．2026；31（1）（印刷中）

3　報告書

1. 宇田優子，木下直彦，石塚敏子，桶谷涼子，玉田千歳．日本学術振興会科学研究助成事業－外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発－．研究成果報告書．2025；1-8.（代表）

4　学会等研究発表

1. 宇田優子，桶谷涼子，玉田千歳，石塚敏子．患者会活動の社会的活動に関する海外文献検討　2014-2023年発表論文からの検索．日本看護科学学会（新潟市），2025.12.6-12.7.
2. 岩野千尋，宇田優子．医療的ケア児の在宅移行支援における訪問看護師のコンピテンシー．日本在宅看護学術集会（名古屋市），2025.11.29-11.30.

5　学会活動

1) 所属学会　日本難病看護学会（理事，編集委員会委員，難病看護師認定実行委員兼任），日本地域看護学会，日本公衆衛生看護学会，日本看護科学学会，新潟医療福祉学会，日本災害看護学会，世界災害看護学会（理事）

2) 学会等でのその他の活動

1. 第25回新潟医療福祉学会シンポジウム演者，2025.10.25.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 2025年度日本パーキンソン病友の会新潟県支部総会にて災害の備えミニシンポ進行役，新潟市，2025.5.25.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県国民保護協議会委員

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度科学研究費（基盤C），難病患者会の組織ライフサイクルにおける「成熟状態の継続」モデリング，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 静岡県県立大学大学院看護学研究科博士論文検討会（研究計画書審査）外部審査員．2026.2.27・3.16.（ハイブリッド開催）

8　学内委員会活動　看護実践研究センター（代表），総務会

氏名：杉田　洋子

1　研究題目　急性期領域の看護実践に関する研究，高度看護実践者の育成に関する研究

2　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福学会，看護科学学会（評議員），日本看護管理学会，新潟看護ケア研究学会（企画運営委員），日本クリティカルケア学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本看護科学学会，第45回学術集会，評議員，査読委員，新潟市，
2. 日本看護科学学会，第45回学術集会，座長，新潟市，2025.12.6.
3. 新潟看護ケア研究学会，第16回学術集会，企画運営委員

氏名：草刈　由美子

1 研究題目　看護師の職場環境に関する研究，看護学生の援助規範に関する研究

2 著書

1. 田中栄，松本卓巳，横井郁子，草刈由美子，他．成人看護学［10］運動器　第16版：医学書院；2025：分担執筆

3 論文

1. 鈴木佳世子，草刈由美子，田中芳幸，山口久美子．レベル０インシデントにおける看護管理者の報告行動の指導　属性と医療安全風土との関係．日本医療経営学会誌．19巻１号 Page91-100（2025.08）（査読あり）

4 学会活動

1) 所属学会　日本医療経営学会，日本看護管理学会，日本医療マネジメント学会，日本公衆衛生学会，日本病院管理学会

5 学内委員会活動　高等教育推進センター員会，FD・SD推進委員会

氏名：下山　博子

1 研究題目　セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスケアに関する研究，がんサバイバーの妊孕性への看護に関する研究，看護基礎教育におけるシミュレーション教育に関する研究

2 学会等研究発表

1. 真保加奈子，Tantut Susanto，下山博子，佐藤真由美，関島香代子．インドネシアの20代女性における月経セルフマネジメントの実態．第66回日本母性衛生学会学術集会（東京）．2025.10.10-10.11.
2. 桶谷涼子，渡邉千春，下山博子．成人女性がんサバイバーへの看護師による妊娠・出産，育児支援の実態第１報－所有資格と介入との関連－．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
3. 荒木恵子，佐藤郁美，久嶋美和，太田真美，桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教初段階学生の学習課題への気づき．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
4. 真保加奈子，下山博子，関島香代子．インドネシアの将来妊娠を希望する20代未婚女性の月経セルフマネジメント－主成分分析の結果から－．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
5. 下山博子．桶谷涼子，岩野千尋，塚本康子．地域で生活する高齢がんサバイバーが安全に安心して生活していくためのリソース・モデルの提案．第40回日本がん看護学会学術集会（大阪市）．2026.2.21-2.22.
6. 桶谷涼子，渡邉千春，下山博子．成人女性がんサバイバーへの看護師による妊娠・出産，育児支援の実態第２報－連携形態別の看護師間連携における課題－．第40回日本がん看護学会学術集会（大阪市）．2026.2.21-2.22.
7. Shimoyama H, Shinbo K. Supporting Nurses in Second-Trimester Abortion Care: Insights into Educational Needs and CPD Strategies. The 29 EAFONS 2026 (Singapore), 2026.2.26-2.28.

3 学会活動

1) 所属学会　日本看護科学学会，日本助産学会，日本母性衛生学会，日本看護学教育学会，日本母性看護学会，日本がん看護学会，日本シミュレーション医療教育学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第45回日本看護科学学会学術集会，実行委員，新潟市，2025.12.6-12.7.

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟医療生活協同組合木戸病院，看護研究指導，講師，オンライン，2025.4.13-2026.3.31.
2. 第38回木戸病院看護研究発表会，講評，新潟市，2025.7.24.

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究（C），がんサバイバーの妊娠・出産，育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校看護学科，母性看護学概論，2025.4.1-9.30.

6 学内委員会活動　安全衛生委員会，入試委員会，看護実践研究センター（副センター長）

氏名：渡邉　千春

1 研究題目　外来薬物療法を受ける患者からの電話相談に関する研究，がんサバイバー支援に関する研究，終末期・エンド・オブ・ライフケアに関する研究

2 学会等研究発表

1. Watanabe C, Uchiyama W, Oguri T, Nishihara Y. Key elements of Quick Response of Expert Nurses in Telephone Consultation from Cancer Patients Undergoing Outpatient Pharmacotherapy. The 16th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference (kuching), 2025.4.23-4.26.
2. 桶谷涼子，渡邉千春，下山博子．成人女性がんサバイバーへの看護師による妊娠・出産，育児支援の実態第１報－所有資格と介入との関連－．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
3. 小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美己，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（指導者の助言）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
4. 朝妻美己，小栗妙子，桶谷涼子，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（空間）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
5. サバンジュ美智子，小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美己，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（記録物）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
6. 桶谷涼子，渡邉千春，下山博子．成人女性がんサバイバーへの看護師による妊娠・出産，育児支援の実態第２報－連携形態別の看護師間連携における課題－．第40回日本がん看護学会学術集会（大阪市）．2026.2.21-2.22.
7. Watanabe C, Uchiyama W, Oguri T, Nishihara Y. Assessment Criteria Utilized by Expert Nurses in Telephone Triage of Outpatient Cancer Patients Receiving Pharmacotherapy. The 29 EAFONS 2026 (Singapore), 2026.2.26-2.28.

3 学会活動

1) 所属学会　日本がん看護学会（編集委員），日本緩和医療学会，日本看護研究学会，日本死の臨床研究会，中部M-GTA研究会（世話人），新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第33回日本死の臨床研究会関東甲信越支部大会，プログラムの企画検討，実行委員長，新潟市，2026.6.6-6.7.（開催予定）
2. 日本がん看護学会，査読等編集作業，編集委員，2025.4-2027.3.
3. 日本がん看護学会，第40回日本がん看護学会学術集会，査読者研修会，企画運営，大阪市，2026.2.21-2.22.
4. 日本看護科学学会，第45回日本看護科学学会，編集委員，査読・編集業務，新潟市，2025.12.6-12.7.
5. 中部M-GTA研究会，世話人，2025.4-2028.3.

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度地域看護連携強化事業北区看看連携研修会，事例を通してACPについて考えてみよう～寄

り添い・つなぎ・地域生活住民の生活を支えるために～，講師，新潟市在宅医療・介護連携ステーション北，看護師，2025.8.7.

2. 令和７年度新潟県立がんセンター新潟病院主催ELNEC-Jコマカリキュラム看護師教育プログラム，モジュール９　高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア　講師，新潟県立がんセンター新潟病院，看護師，2025.8.9.
3. ELNEC-J in KANAGAWA，モジュール６　コミュニケーション，ファシリテーター，公立大学法人横浜市立大学，看護師，オンライン，2026.3.15.

2) 社会活動への参加協力

1. リレーフォーライフジャパン2025新潟，救護班の担当調整，新潟市・新潟県スポーツ公園カナール広場，2025.10.18-10.19.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

日本学術振興会，科学研究助成事業

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，科研費基盤研究（C），外来薬物療法を受けるがん患者のニーズに即した電話相談アルゴリズムの開発，研究代表者
2. 2024年度，科研費基盤研究（C），がんサバイバーの妊娠・出産，育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成，研究分担者
3. 2025年度，科研費基盤研究（C），原発不明がん患者に対する看護師主導型のシームレスな支援体制の構築，研究分担者
4. 2025年度，科研費基盤研究（C），慢性心不全の急性増悪時に必要な臨床判断能力を育む実写版VR動画の開発，研究分担者

6　学内委員会活動　教務委員，看護実践研究センター，身体教育研究センター

氏名：杉本　洋

1　研究題目　地域保健，当事者活動，精神保健社会学

2　論文

1. Fadlilah S, Murdhiono WR, Dwidiyanti M, Sugimoto H, Djaya AMFM, Lin CL, Tsai HT. Adaptation and Validation of the Indonesian Version of the Problem Areas in Diabetes Scale Among People With Type 2 Diabetes: An Exploratory and Confirmatory Factor Analysis. Nurs Open. 2026; 13(3): e70486. (review)
2. Kurebayashi Y, Sugimoto H, Djaya AMFM. From inner care to healthy living: Cross-sectional evidence that self-compassion fulfills basic psychological needs and relates to lower insomnia and loneliness. Archives of Psychiatric Nursing. 2026; 60: 1-7. (review)
3. 佐藤真由美，外間直樹，早川貴教，天賀谷隆，杉本洋．保育施設における保育者の感染防止対策支援の検討．日本健康医学会誌．2025；34(1)：70-77.（査読あり）
4. 和田直子，佐々木沙織，杉本洋．子育て中の女性労働者に特徴的な後回しの生活習慣．日本健康医学会誌．2025；34(2)：158-164.（査読あり）
5. Hokama N, Hayakawa T, Sato M, Amagaya T, Sugimoto H. Co-occurence Network Analysis of Peer Support in Disability Welfare Service Offices. Journal of Japan Health Medicine Association. 2025; 34(2): 198-204. (review)

3　学会等研究発表

1. Djaya A, Firman F, Nur Ila, Dian IP, Nina ASi, Hasriyani H, Zaenal A, Vigo AS, Mai T, Phuong Ha, Sugimoto H. The relation between self-efficacy and diabetes self-care activities: a cross-sectional study in South Sulawesi Indonesia. 29th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference

(Singapore), 2026.2.26-2.28.

2. 杉本洋．地域に根ざした精神科クリニックによるインクルーシブな地域づくりの実践．第31回日本精神保健社会学会学術大会（オンライン），2025.11.23.
3. 佐藤真由美，外間直樹，新保加奈子，早川貴紀，杉本洋．保育施設における感染予防に対する困難感．第34回日本健康医学会総会（周南），2025.11.8.
4. 杉本洋．当事者による表現活動の継続可能性と柔軟な変容―こわれ者の祭典およびK-BOXの実践にみる変わらなさを基盤とした活動プロセスの検討．アートミーツケア学会　2025年度総会・大会（郡山），2025.9.20.
5. 杉本洋．プロデュースされるプロデューサー ―病気の体験を表現する人々の相互作用理解における新たな視点の考察．第51回日本保健医療社会学会大会（長崎），2025.5.25.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本精神保健社会学会（理事），日本保健医療行動科学会，日本仏教看護・ビハーラ学会，日本産業看護学会，日本文化人類学会，日本保健医療社会学会，日本健康教育学会，文化看護学会，アートミーツケア学会，日本臨床死生学会，日本ウーマンズヘルス学会，日本公衆衛生学会，日本健康医学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 保健師教育教育査読委員
2. 新潟医療福祉学会誌 査読
3. 仏教看護・ビハーラ　査読
4. Niigata Journal of Health and Welfare 査読
5. 第45回日本看護科学学会学術集会，口演19 看護技術・ケアイノベーション２，座長，新潟市，2027.12.7.
6. 第45回日本看護科学学会学術集会　運営委員会編集委員
7. 第57回日本看護学会学術集会　演題査読
8. 第31回日本精神保健社会学会学術大会・総会 総合司会　2025.11.23.
9. 日本健康教育学会誌 査読２件
10. 保健医療社会学論集 査読
11. 日本産業看護学会第14回学術集会企画運営委員事務局長
12. 第10回日本多機能型精神科診療所研究会新潟大会実行委員

5　社会活動

1) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟市介護保険事業等運営委員会（委員長）

2) 職能団体（協会，士会等）の委員
大学院教育研究環境委員会，シティズンシップ教育実践研究センター

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025，基盤研究（c），地域精神保健におけるピアサポート活動促進のための支援プログラムの構築，研究分担者

7　学内委員会活動　大学院委員会，大学院教育研究環境委員会，シティズンシップ教育実践研究センター

氏名：天賀谷　隆

報告事項なし

氏名：山口　久美子

報告事項なし

氏名：石塚　敏子

報告事項なし

氏名：野中　共子

1　研究題目　特別養護老人ホームにおける糖尿病注射療法高齢者の受け入れ要因と入所促進モデル

2　学会活動

1) 所属学会　日本慢性看護学会（評議員，査読担当）日本糖尿病学会　日本糖尿病・教育看護学会　日本福祉看護学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本慢性看護学会第19回学術集会，査読委員一般演題１題（4月） 9.6.・9.7. いわて県民会館
2. 第32回新潟県看護協会看護学会　査読委員一般演題２題（8月）11.11. 新潟市朱鷺メッセ

3　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. インドネシア研修　ハサヌディン大学看護学部　ゲスト講演，「Diabetes Nursing Practice in Japan: Preventive Foot Care and Older Adult Care」看護学部学生100名，大学院生10名，教員，地域医療関係者約10名，日本からの研修参加者10名　マカッサル，2026.3.4.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県看護協会（査読委員）

4　学内委員会活動　新潟連携教育研究センター委員　社会連携推進センター運営委員会

氏名：丸山　幸恵

1　研究題目　保健室における健康支援活動，ストレス軽減への支援，養護教諭が行う危機管理に関する研究

2　報告書

1. 大浦拓徳．久保晃．佐藤裕紀．柿原豪．丸山幸恵．教職課程アンケート集計結果，新潟医療福祉大学教職支援センター年報第９号，研究分担者

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本学校保健学会，日本養護教諭教育学会，日本教育保健学会，新潟県保健学会（理事）

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新採用養護教諭研修，「養護教諭の職務Ⅱ」，講師，新潟県教育委員会，新採用養護教諭，新潟市新潟県立教育センター，2025.6.3.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県養護教員研究協議会，実践研究・養護研究，講師・研究指導，新潟市，2025.8.22.（2025.5-）
2. 養護教諭の輪「ほけんしつ」，養護教諭研修，参加協力，上越市，2025.4.1-2026.3.31.

5　学内委員会活動　入試委員会，教職支援センター運営委員会（副委員長）

氏名：山口　典子

1　研究題目　ART（生殖補助医療）における諸問題に関する研究，男女の妊孕性に関する研究，プレコンセプションケアに関する研究，女性のライフステージ各期における諸問題に対する予防行動に関する研究

2　著書

1. 山口典子．助産師基礎教育テキスト2026年版第２巻ウィメンズヘルスケア．第３版．東京：日本看護協会出版会；136-154.

3　論文

1. 中村康香，山口典子，アンガホッファ司寿子，武石陽子，吉沢豊予子．生殖世代の男女における妊孕性リ

テラシー尺度の開発．日本助産学会誌．2025;39(2)：255-267.

4　学会等研究発表

1. Yamaguchi N, Nakamura Y, Yasuka N, Angerhofer S, Yoshizawa T. Fertility knowledge about women in Japanese men who wish to have a child. IFFS World Congress 2025 (Tokyo), 2025.4.26-4.29.
2. 志田佑佳子，山口典子．就労しながら未就学児を育てる母親の月経前症候群・月経前不快気分障害の実態．第25回新潟医療福祉学会学術集会，（新潟），2025.10.25.

5　学会活動

1) 所属学会　日本生殖医学会，日本メンズヘルス医学会，日本女性医学会，日本抗加齢医学会，日本アンドロロジー学会，日本看護科学学会，日本母性衛生学会，日本母性看護学会，日本助産学会，日本性機能学会，日本生殖心理学会，日本がん・生殖医療学会，日本不妊カウンセリング学会，日本生殖看護学会，北日本看護学会，新潟母性衛生学会，日本スポーツ救護看護学会，日本骨粗鬆症学会，新潟医療福祉学会，新潟母性看護学・助産学・遺伝看護学研究会，

2) 学術集会の主催

1. 第41回日本義肢装具学会学術大会，実行委員，新潟，2025.11.8-11.9.
2. 第45回日本看護科学学会学術集会，実行委員，新潟，2025.12.6-12.7.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本助産学会誌，査読委員，2025.4.1-2026.3.31.
2. 日本母性看護学会誌，査読委員，2025.4.1-2026.3.31.
3. 新潟医療福祉学会誌，査読委員，2025.4.1-2026.3.31.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟スポーツ医科学コンソーシアム事業「スポーツ救護ナース（NSMSC）認定制度」，企画運営委員，新潟，2025.7.5-7.6.
2. 新潟県警察本部管理監督者の健康セミナー「ホルモンバランスが組織を変える～男性にも知ってほしい女性ホルモンのエトセトラ～」，講師，新潟，2025.10.24.
3. 令和７年度看護学生公衆衛生・在宅・母性看護学実習指導者研修会，実習指導の実際（母性看護学・助産学），講師，新潟県保健福祉部主催，新潟県内産婦人科勤務の助産師・看護師，Zoomでのオンライン開催，2025.11.20.

2) 社会活動への参加協力

1. R7年度新潟県助産師会妊産婦・新生児・乳幼児等支援者研修会，教育委員，新潟医療人育成センター，2025.4.11-4.12.
2. R7年度新潟県助産師会母乳育児支援学習会，教育委員，新潟医療人育成センター，2025.11.8.
3. 第32回新潟県看護協会看護学会四職能合同フォーラム「その人らしい選択を支えるために～看護師・保健師・助産師による意思決定支援の実践報告～」，助産師職能理事，新潟，2025.11.11.
4. R7年度新潟県看護協会支部代表者会議「看護職賠償責任保険制度」，助産師職能理事，新潟，2025.8.27.
5. R7年度新潟県看護協会助産師職能情報交換会「いざ！産後ケア～助産師の専門性を活かした実践エトセトラ～（CLoCMiP対応研修）」，助産師職能理事，新潟，2025.9.24.
6. R7年度新潟県看護協会助産師職能研修会「女性医学からみた生涯にわたるヘルスケアへの挑戦（CLoCMiP対応研修）」，助産師職能理事，新潟，2025.10.22.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県看護協会（助産師職能理事）2025.4-2026.3，新潟県助産師会（教育委員）2025.4-2026.3.

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（B），男性の妊孕力向上のための社会実装型プレコンセプションケア教

育の開発と効果検証，研究代表者
2. 2023年度，科研費基盤研究（C），意図しない妊娠を避けるためのポジティブ・デビアンスを用いた教育プログラムの開発，研究分担者

2) 学内部活動の実績
1. ピアエデュケーション部，プレコンセプションケアをテーマとしたピアエデュケーション開催，敬和学園高等学校のぞみ寮，2025.9.11.（顧問）

3) 学外兼務講師等
1. 国際メディカル専門学校看護学科，母性看護学概論，2025.4.1-9.30.

8 学内委員会活動　国家試験・資格試験対策委員会（委員長），倫理審査委員会

氏名：山田　真衣

1 研究題目　てんかんをもつ子どもの保護者の服薬管理尺度の開発，てんかん児の保護者のマネジメント力定量化を応用した自立支援プログラムの開発，障害をもつ子どもの家族支援

2 論文
1. 荒木恵子，松井由美子，山田真衣．看護職員臨地実習指導者養成講習会受講後の志度困難について―ロールプレイを活用した体験型学習の効果に着目して―．新潟医療福祉学会誌 24号（3）．2025: 19-25.（査読あり）

3 学会等研究発表
1. 坪川麻樹子，山田真衣，住吉智子．養護教諭のてんかん児への対応に関する国内外の研究動向．第72回日本小児保健協会学術集会（金沢），2025.6.27-6.29.
2. Yamada M, Tsubokawa M, Sumiyoshi T. Evaluation of medication support personnel using Japanese version of the Pediatric Epilepsy Medication Self-Management Questionnaire Caregiver Version (PEMSQ-J). 29th EAFONS（シンガポール），2026.2.26-2.28.

4 学会活動
1) 所属学会　日本小児看護学会，日本看護科学学会，日本家族看護学会，日本小児保健協会，日本看護教育学会，新潟医医療福祉学会，日本衛生学会

2) 学会等でのその他の活動
1. 日本看護科学学会，実行委員，会場係，新潟市，2025.12.6-12.7.

5 社会活動
1) 公開講座・講演会等
1. ほのぼの手洗い講習会，講師，ほのぼのこども園 子育て支援センターぴよぴよの会，子育て支援センターぴよぴよの会を利用する親子，新潟市，2026.2.10.

6 その他の教育研究活動
1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
1. 2025年度，基盤研究C，てんかん児の保護者のマネジメント力定量化を応用した自立支援プログラムの開発，研究代表者
2. 2025年度，基盤研究C，バイオマーカーを用いた癇癪の客観的評価－ケアプロセスの標準化をめざして－，研究分担者
3. 2026年度，基盤研究C，太平洋島嶼地域におけるHPVワクチン接種促進のための教育プログラムの開発，研究分担者

7 受賞，学位取得，資格取得
第25回 新潟医療福祉学会 会頭賞（2025.10）

8 学内委員会活動　教務委員会（委員）

氏名：和田　直子

1　研究題目　女性の健康に関する研究

2　著書

1. eラーニング，Nプラス第111回保健師国家試験解説・メディカ出版，2025.7.1出版

3　論文

1. 和田直子，後藤千恵，佐々木沙織．子育て中の女性労働者の健康状態―定期健康診断の結果から―．日本健康医学会誌，34(3)，388-394.
2. 和田直子，佐々木沙織，杉本洋．子育て中の女性労働者に特徴的な後回しの生活習慣．日本健康医学会誌，34(2)，158-164.
3. 和田直子．子育てと仕事を両立している女性の食生活と健康状態の関連解析，古泉財団研究費助成金研究成果報告書．2024年度．研究代表者
4. 三木明子，後藤由紀，森田理江，石塚真美，猪股久美，金子仁子，久保善子，櫻井しのぶ，廣田幸子，和田直子．2025年度日本産業看護学会研究編集委員会活動報告.

4　報告書

1. 和田直子．基盤研究（C），子育て期の女性の就業意欲低下を防ぐ支援方策の開発-子育てと仕事の両立実現のために，研究実績報告書，2022-2024，研究代表者

5　学会等研究発表

1. Wada N, Sugimoto H. Back-Burner Lifestyle Habits and Retirement Intention Among Working Mothers in Japan. International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Bangkok, 2025.12.3.
2. Wada N. A Narrative Qualitative Study of Occupational Health Nursing Transitions in Japan: Experiences from 1970s to 1990s. International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Bangkok, 2025.12.2.

6　学会活動

1) 所属学会　日本産業看護学会（研究編集委員），日本産業衛生学会，日本産業衛生学会産業保健看護部会，日本ウーマンズヘルス学会，日本健康医学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 日本産業看護学会第14回学術集会，副事務局長，新潟市，2025.11.8-11.9.
2. 第25回新潟県産業保健看護部会総会，実行委員，新潟市，2025.6.28.
3. 第35回新潟産業保健研究会，実行委員，新潟市，2025.6.28.
4. 第36回新潟産業保健研究会，実行委員，新潟市，2025.12.20.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本産業看護学会第14回学術集会，ランチョンセミナー，座長，新潟市，2025.11.9.
2. 名寄市立大学紀要，査読
3. 日本産業看護学会誌，査読

7　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 園児のための視力検査実技講習会，視力検査実技講習，講師，こども総合支援研究センター，一般市民，新潟医療福祉大学，2026.3.19.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 一般雑誌，メディカコンクール第112回保健師国家試験対策テスト・メディカ出版，2025.8.1出版
2. eラーニング，Nプラス第111回保健師国家試験解説・メディカ出版，2025.7.1出版

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟地域産業保健センター　産業保健指導　2025.4.1-2026.3.31.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟市江南区指定管理者評価会議（評価委員），新潟市くらしとこころの総合相談会（相談員）

5) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県産業保健看護部会（会長），新潟地域産業保健センター（登録保健師），日本産業看護学会（産業看護体系化WGメンバー），新潟産業看護学会（研究編集委員），新潟産業保健研究会（幹事），全国保健師教育機関協議会（定時社員）

8　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1.　2025年度　基盤研究（C），小規模事業所における子育てと仕事の両立支援方策の開発，研究代表者

2.　2025年度　基盤研究（C），妊娠糖尿病妊婦の生活活動量に着眼した運動アプリの開発，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1.　新潟地域産業保健センター　産業保健指導　2025.4.1-2026.3.31.

9　学内委員会活動　科研費対策員会，安全衛生委員会，こども総合支援研究センター（研究委員）

氏名：小林　房代

報告事項なし

氏名：栗原　弥生

1　研究題目　開学20周年を迎えた看護系大学卒業者の動向調査～ディプロマポリシーに焦点をあてて～

2　学会活動

1) 所属学会　日本看護科学学会　日本看護教育学会　がん看護学会

3　学内委員会活動　学生委員会　交通安全委員会

氏名：小栗　妙子

1　研究題目　シミュレーション教育，看護基礎教育と卒後教育の繋がり，多職種連携教育

2　学会等研究発表

1.　小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美已，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（指導者の助言）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.

2.　朝妻美已，小栗妙子，桶谷涼子，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（空間）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.

3.　サバンジュ美智子，小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美已，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（記録物）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.

4.　寺田由紀子，小栗妙子，渋谷郁恵，栗田真由美，堀内裕子，山本未央，真渓淳子，生天目禎子，荒牧順子．ダブルケア当事者団体と医療専門職による支援の連携を広めませんか～新潟　歩み寄りの回とDC NETWORKとともに～．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.

5.　志田佑佳子，桶谷涼子，小栗妙子．多職種連携教育を担当した教員の気づき－看護教員による３年間の教育実践を通して－．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.

6.　Watanabe C, Uchiyama W, Oguri T, Nishihara Y. Key elements of Quick Response of Expert Nurses in Telephone Consultation from Cancer Patients Undergoing Outpatient Pharmacotherapy. The 16th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference (kuching), 2025.4.23-4.26.

7.　Watanabe C, Uchiyama W, Oguri T, Nishihara Y. Assessment Criteria Utilized by Expert Nurses in Telephone Triage of Outpatient Cancer Patients Receiving Pharmacotherapy. The 29 EAFONS 2026 (Singapore), 2026.2.26-2.28.

3　学会活動

1) 所属学会　日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本医学看護教育学会，日本医療シミュレーション教育学会，日本教育工学会，看護教育研究学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 第33回死の臨床研究会　関東甲信越支部大会，実行委員　事務局，新潟市，活動期間2025.4.1-2026.3.31.

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 出張職業体験授業，看護のしごと，講師，新発田中央高校，高校１年生，2026.3.4.

2) 社会活動への参加協力

1. 帝京けんこうひろばプロジェクト・親のがんを知らされた子どもの心に寄り添うコアラカフェ，サポーター，東京都，2025.6.15.
2. リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024にいがた，サバイバー支援啓発，救護，新潟市・新潟県スポーツ公園，2025.10.18-10.19.
3. 帝京けんこうひろばプロジェクト・親のがんを知らされた子どもの心に寄り添うコアラカフェ，サポーター，オンライン，2026.1.18.
4. 歩み寄りの会　ダブルケアカフェ，サポーター，新潟市，2026.2.14.

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（C），慢性心不全の急性増悪時に必要な臨床判断能力を育む実写版VR（virtualreality）動画の開発，研究代表者

6　学内委員会活動　新潟連携教育センター委員，看護実践研究センター研究員

氏名：中澤　紀代子

1　研究題目　母性看護学・助産学に関する研究，助産師教育に関する研究，シミュレーション教育に関する研究

2　学会活動

1) 所属学会　日本母性衛生学会，日本助産学会，日本母性看護学会，日本看護科学学会，日本シミュレーション医療教育学会，日本看護シミュレーションラーニング学会（代議員），日本遺伝看護学会，新潟医療福祉学会，新潟母性看護学・助産学・遺伝看護学研究会，新潟母乳育児をすすめる会（幹事）

2) 学会等でのその他の活動

1. 2025年度新潟県看護協会看護学会　査読

3　学内委員会活動　図書館・学修支援委員

氏名：桶谷　涼子

1　研究題目　がんサバイバーの妊娠・出産および育児支援，終末期看護学実習における学習環境，神経難病患者の災害支援，原発不明がん患者に対する支援

2　論文

1. 石塚敏子，宇田優子，土田千歳，桶谷涼子，木下直彦．パーキンソン病者の災害備え指導に有効な指標の検討　～外来看護部門での活用を目指して～．日本難病看護学会誌．2026；31（1）（印刷中）

3　報告書

1. 宇田優子，木下直彦，石塚敏子，桶谷涼子，土田千歳．日本学術振興会科学研究助成事業基盤（C）－外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発－．研究成果報告書．2025；1-8．研究分担者

4　学会等研究発表

1. 桶谷涼子，渡邉千春，下山博子．成人女性がんサバイバーへの看護師による妊娠・出産，育児支援の実態第１報－所有資格と介入との関連－．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
2. 荒木恵子，佐藤郁美，久嶋美和，太田真美，桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教初段階学生の学習課題への気づき．第45回日本看護科学学会学術

集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.

3. 志田佑佳子，桶谷涼子，小栗妙子．多職種連携教育を担当した教員の気づき－看護教員による３年間の教育実践を通して－．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
4. 小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美己，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（指導者の助言）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
5. 朝妻美己，小栗妙子，桶谷涼子，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（空間）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
6. サバンジュ美智子，小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美己，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（記録物）からの学びの特徴．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）．2025.12.6-12.7.
7. 宇田優子，桶谷涼子，玉田千歳，石塚敏子．患者会活動の社会的活動に関する海外文献検討　2014-2023年発表論文からの検索．第45回日本看護科学学会（新潟市），2025.12.6-12.7.
8. 桶谷涼子，渡邉千春，下山博子．成人女性がんサバイバーへの看護師による妊娠・出産，育児支援の実態第２報－連携形態別の看護師間連携における課題－．第40回日本がん看護学会学術集会（大阪市）．2026.2.21-2.22.
9. 下山博子．桶谷涼子，岩野千尋，塚本康子．地域で生活する高齢がんサバイバーが安全に安心して生活していくためのリソース・モデルの提案．第40回日本がん看護学会学術集会（大阪市）．2026.2.21-2.22.

5　学会活動

1) 所属学会　日本がん看護学会，日本看護科学学会，日本災害看護学会，日本難病看護学会，日本保健医療福祉連携教育学会，日本シミュレーション医療教育学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 第33回死の臨床研究会　関東甲信越支部大会，実行委員　事務局，新潟市，2025.4.1-2026.3.31.

6　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 日本パーキンソン病友の会新潟支部運動会，活動サポート・学生引率，新潟市，2026.3.29.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県国民保護協議会委員（有識者委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究（C），がんサバイバーの妊娠・出産，育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成，研究代表者
2. 2024年度，科研費基盤研究（C），難病患者会の組織ライフサイクルにおける「成熟状態の継続」モデリング，研究分担者
3. 2026年度，科研費基盤研究（C），原発不明がん患者に対する看護師主導型のシームレスな支援体制の構築，研究分担者

8　学内委員会活動　広報委員会（委員），看護実践研究センター（研究員）

氏名：荒木　恵子

1　研究題目　小児看護に関する研究，小児シミュレーション教育に関する研究，看護基礎教育に関する研究

2　学会等研究発表

1. 荒木恵子，佐藤郁美，佐々木沙織，久嶋美和，太田真美，桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育初段階学生の学習課題への気づき．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市），2025.12.6-12.7.
2. 山田真衣，荒木恵子．誤嚥を繰り返す重度心身障がい児を事例とした多職種連携教育の取り組みにおける実践報告．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市），2025.12.6-12.7.

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，看護科学学会，日本小児看護学会，日本医学看護学教育学会，新潟小児看護研究会（役員）

2) 学会等でのその他の活動

1. 新潟小児看護研究会，感染対策における入院中の子どもの権利について考えようシンポジウム，運営，新潟市，2025.9.27.

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟市ファミリー・サポート・センター会員研修，子どもの世話，講師，新潟市ファミリー・サポート・センター，提供会員，新潟市，2026.6.20，10.24.

5　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

SimBegin資格取得（2026.3.31）

氏名：外間　直樹

報告事項なし

氏名：井村　紀代子

1　研究題目　シミュレーション演習に関する研究，実習受け入れに関する研究，精神障害ピアサポートに関する研究，若年性パーキンソン病の災害支援に関する研究

2　論文

1. Hokama N, Sato M, Kiyoka S, Andi Muhammad Fiqri Muslih Djaya, Tamura Y, Imura K, Sugimoto H. Health Promotion in Okinawa (Japan) and Indonesia from the Perspective of Blue Zones and Healthy Longevity. Indonesian Contemporary Nursing Journal. 2025; 9(2): 94-96.

3　学会等研究発表

1. 井村紀代子，外間直樹，早川貴紀．初めて実習を受け入れる精神科病院看護職の実習指導行動と意識・行動の変化―受け入れ１年目と２年目の比較―．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟県新潟市・日本），2025.12.6-12.7.
2. 早川貴紀，外間直樹，井村紀代子，天賀谷隆．精神障害ピアサポートに関する講義による学生の学びの特徴－共起ネットワークを用いた内容分析－．日本アディクション看護学会　第23回学術集会（新潟県新潟市・日本），2025.8.30-8.31.
3. 荒木恵子，佐藤郁美，佐々木沙織，久嶋美和，太田真美，桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育初段階学生の学習課題への気づき．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟県新潟市・日本），2025.12.6-12.7.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本看護協会，日本精神科看護協会，日本看護管理学会，日本健康医学会，日本医療経営学会，日本難病看護学会，日本臨床栄養協会，日本看護科学学会，全国パーキンソン病友の会新潟県支部（賛助会員）

2) 学術集会の主催

1. 第10回日本多機能型精神科診療所研究会　新潟大会，企画委員，新潟県新潟市，2025.11.8-11.9開催・活動期間：2025.10.19-12.31.
2. 第45回日本看護科学学会学術集会，実行委員（会場責任者），新潟県新潟市，2025.12.6-12.7開催・活動期間：2025.11.25-12.7.
3. 第45回日本看護科学学会学術集会，学会JNHS-II出展ブース（リクルート），新潟県新潟市，2025.12.6-12.7.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第10回日本多機能型精神科診療所研究会　新潟大会，総合司会，新潟県新潟市，2025.11.8-11.9開催・活動期間：2025.11.8-11.9.

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 全国パーキンソン病友の会新潟県支部第29回定期総会，学生ボランティア誘導・参加患者の介助，全国パーキンソン病友の会新潟県支部主催，パーキンソン病友の会会員，新潟市総合福祉会館，2025.5.25.
2. 全国パーキンソン病友の会新潟県支部署名活動，学生・患者の補助，全国パーキンソン病友の会新潟県支部主催，新潟医療福祉大学，2025.12.19.
3. 全国パーキンソン病友の会大運動会新潟県支部，進行補助（ボランティア），新潟市・新潟ふれ愛プラザ，2026.3.28.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研究（C），地域精神保健におけるピアサポート活動促進のための支援プログラムの構築，研究分担者
2. 2025年度，基盤研究（C），若年性パーキンソン病者の近隣からの災害時受援に関する研究，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

Sim Begin レベル１ファシリテータ（2026.3.31.取得）

3) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校，精神看護学方法論Ⅰ，2025.4-7.
2. 国際メディカル専門学校，精神看護学概論，2025.9-11.

7　学内委員会活動　国家試験・資格試験対策委員会（委員）

氏名：朝妻　美己

1　研究題目　終末期看護学実習における学習環境からの学びの特徴，看護学生を対象としたVRによる成人周手術期看護学習システムの開発

2　学会等研究発表

1. 朝妻美己，小栗妙子，桶谷涼子，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（空間）からの学びの特徴．日本看護科学学会第45回学術集会（新潟市）2025.12.6.【示説】
2. 小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美己，サバンジュ美智子，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（指導者の助言）からの学びの特徴．日本看護科学学会第45回学術集会（新潟市）2025.12.6.【示説】
3. サバンジュ美智子，小栗妙子，桶谷涼子，朝妻美己，渡邉千春．終末期看護学実習における学習環境（記録物）からの学びの特徴．日本看護科学学会第45回学術集会（新潟市）2025.12.6.【示説】

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本看護科学学会，新潟看護ケア研究学会

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025にいがた，救護班，救護ブースでの応急処置，新潟県新潟市，2025.10.18.

氏名：真保　加奈子

1　研究題目　Current Sexual and Reproductive Health Status and Educational Needs among the Preconception Generation in Indonesia

2　学会等研究発表

1. 真保加奈子，Tantut Susant，下山博子，関島香代子．インドネシアの20代女性における月経セルフマネジメントの実態．第66回日本母性衛生学会（東京・日本），2025.10.11.
2. 真保加奈子，下山博子，関島香代子．インドネシアの将来妊娠を希望する20代未婚女性の月経セルフマネジメント．第45回日本看護科学学会（新潟・日本），2025.12.6.
3. Shimoyama H, Shinbo K. Supporting Nurses in Second-Trimester Abortion Care: Insights into Educational Needs and CPD Strategies. 29th EAFONS; East Asian Forum of Nursing Scholars Conference 2026 (Singapore), 26th - 28th February 2026

3　学会活動

1) 所属学会　日本母性衛生学会，日本助産学会，日本看護科学学会，日本健康医学会，新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 日本看護科学学会，第45回日本看護科学学会学術集会，実行委員，新潟，2025.12.6-12.7・2025.11.25，12.5-12.7.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本看護科学学会，第45回日本看護科学学会学術集会，交流集会，役員，新潟，2025.12.6，2025.5-12.

4　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校，母性看護学概論，2025.4.1-9.30.

5　学内委員会活動　国家試験対策委員

氏名：土田　千歳

1　研究題目　ドミニカ共和国の母子保健について

2　報告書

1. 宇田優子，石塚敏子，桶谷涼子，土田千歳，木下直彦．外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発－神経難病者対象，日本学術振興会研究成果報告書，2019-2025，宇田優子（研究代表者），石塚敏子・桶谷涼子・土田千歳・木下直彦（研究分担者）

3　学会等研究発表

1. 宇田優子，石塚敏子，桶谷涼子，土田千歳，木下直彦．患者会活動の社会的活動に関する海外文献検討－2014-2023年発表論文からの検索－第45回日本看護科学学会学術集会，新潟市，2025.12.6-12.7.

4　学会活動

1) 所属学会　日本国際保健医療学会，日本看護科学学会，新潟医療福祉学会，日本難病看護学会

5　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟スポーツ医科学コンソーシアム教育委員会，新潟スポーツ救ケアナース認定講座，企画運営・司会，2025.7.5-7.6.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

スポーツ庁委託事業　新潟スポーツ医科学コンソーシアム教育委員会（委員）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），意図しない妊娠を避けるためのポジティブ・デビアンスを用いた教育プログラムの開発，研究代表者
2. 2019年度，科研費基盤研究（C），看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発 -神経難病患者対象，研究分担者
3. 2024年度，科研費基盤研究（C），難病患者会の組織ライフサイクルにおける「成熟状態の継続」モデリング，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 北里大学保健衛生専門学院保健看護学科，国際看護学総論，9.24.

7 学内委員会活動　広報委員会（委員）

氏名：佐々木　沙織

1 研究題目　行政を定年退職した保健師の活動について

2 論文

1. 和田直子，後藤千恵，佐々木沙織．子育て中の女性労働者の健康状態-定期健康診断の結果から-．日本健康医学会誌．2025; 34(3): 388-.
2. 和田直子，佐々木沙織，杉本洋．子育て中の女性労働者に特徴的な後回しの生活習慣．日本健康医学会誌．2025; 34(2): 158-164.

3 報告書

1. 和田直子，佐々木沙織，杉本洋．子育てと仕事を両立している女性の食生活と健康状態の関連解析，古泉財団研究費助成金研究成果報告書．2024年度．研究分担者.

4 学会等研究発表

1. 荒木恵子，佐藤郁美，佐々木沙織，久嶋美和，太田真美，桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育初段階学生の学習課題への気付き．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市），2025.12.6.

5 学会活動

1) 所属学会　日本子ども虐待防止学会，日本公衆衛生看護学会，日本ウーマンズヘルス学会，日本健康医学会，日本看護科学学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第45回日本看護科学学会学術集会，運営スタッフ従事，新潟市，2025.12.6.
2. 第14回日本産業看護学会学術集会，運営スタッフ従事，新潟市，2025.11.8-11.9.

6 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟スポーツ救護ナース認定講座，開催運営の補助，開催運営補助員，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.7.5-7.6.
2. 新潟看護協会，にいがた看護フェスタ看護の日事業，役員従事，新潟駅ガタリウム，2025.5.17.
3. 新潟看護協会，新潟東西支部合同研修会・見学会，実行担当役員従事，新潟医療福祉大学，2025.11.15.
4. 新潟看護協会，新潟東西支部合同研修会，保健師職能活動，新潟医療福祉大学，2025.11.15.
5. 新潟看護協会，保健師職能活動，新潟市北区・東区の全地域包括支援センターへの研修会周知訪問，2025.10月中.
6. 新潟看護協会，保健師職能支部代表者会議，新潟東支部保健師職能代表出席，2025.8.27.
7. 新潟看護協会，新潟東支部保健師職能活動と新潟市保健所HIV普及啓発事業のPR，新潟医療福祉大学祭，2025.10.18-10.19.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県看護協会新潟東支部（保健師職能）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度 基盤研究（C），小規模事業所における子育てと仕事の両立支援方策の開発，研究分担者

氏名：高橋　佳子

1 研究題目　シャーガス病母子感染検査・治療率向上のための行動変容アプローチ，Scoping Review of

Preconception Care in LMICs, An international comparative study of the desire for thinness, body image, and eating behaviors among adolescents in Argentina, Guatemala, Japan, and Taiwan.

2　学会等研究発表

1. 日達真美，高橋佳子．Scoping Review of Preconception Care in LMICs: Limited Reach Among Adolescents and Men, The 66th Annual Meeting for the Japanese Society of Tropical Medicine, 2025.11.29.
2. Terada M, Kobayashi S, Angelica Guzman, Einar Ampuero, Blanca Saldaña, Takahashi Y, Nidia Nidia, Benjamin Quiroga, Mayda Morales, Fukae S, Adachi T, Maemura K, Eguchi S, Juan Eiki Nishizawa, Eva Quiroz, Evelyn Montano, Nakamae S, Mizukami S, Takehara Y, Hirayama K. Detection of Early Complications of Chronic Chagas Disease among university students in Santa Cruz, Bolivia，ボリビア・サンタクルス市の大学の学生集団における慢性シャーガス病の早期合併症の検出，第95回日本寄生虫学会大会，2026.3.21.

3　学会活動

1) 所属学会　ICHORDS（会員），国際保健医療学会（会員），新潟医療福祉学会（会員），新潟小児看護研究会（会員）

4　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研究（C），シャーガス病母子感染検査・治療率向上のための行動変容アプローチ，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

国際保健学博士（2025.9.21），Sim Begin Level 1（2026.3.30）

3) 学外兼務講師等

1. 長崎大学大学院熱帯医学グローバルヘルス研究科，Reproductve health & Gender1, 2026.1.14.

5　学内委員会活動　キャリア支援委員会

氏名：岩野　千尋

1　研究題目　在宅移行支援における訪問看護師のコンピテンシー，地域在住高齢者の生活実態とヘルスリテラシー，看護学科卒業生のキャリア形成に関する動向調査

2　学会等研究発表

1. 岩野千尋，宇田優子．在宅移行支援における訪問看護師のコンピテンシー．新潟医療福祉学会．2025.10.25.
2. 岩野千尋，宇田優子．医療的ケア児の在宅移行支援における訪問看護師のコンピテンシー．日本在宅看護学会．2025.11.22.
3. 下山博子，桶谷涼子，岩野千尋，塚本康子．地域で生活する高齢がんサバイバーが安全に生活していくためのリソースモデルの提案．日本がん看護学会．2026.2.22.

3　学会活動

1) 所属学会　日本看護科学学会，日本在宅看護学会，日本難病看護学会，新潟医療福祉学会

4　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. パーキンソン病友の会，パーキンソン病の「遺伝子治療」の実用化を促進するための国会請願書署名活動，学生ボランティア支援，新潟医療福祉大学，2025.12.19.

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，研究活動スタート支援，在宅移行支援における訪問看護師のコンピテンシーの解明，研究代表者岩野千尋

6　学内委員会活動　健康管理センター運営委員

氏名：佐藤　郁美

1　研究題目　周産期メンタルヘルス，父親のうつ，乳児応急手当，AIを用いた胎児心拍推定

2　論文

1. 佐藤郁美，廣野悠太，甲斐千遥，吉田皓文，西山博久，児玉直樹，笠井聡．Convolutional Neural Networkを用いた超音波ドプラの信号源を分類するAIモデルの開発と判定精度の評価．看護理工学会誌．2025, Vol.13, p.75-83

3　報告書

1. 佐藤郁美，神藏貴久，谷賢太郎．研究基盤（C）出産準備教室における乳児応急手当教育システムの開発と有効性の検証，研究成果報告書，2021-2024，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 廣野悠太，甲斐千遥，佐藤郁美，笠井聡．超音波ドプラ信号の分類タスクにおける半教師あり学習の有用性検討．第64回日本生体医工学会大会　2025.6.6.
2. 廣野悠太，甲斐千遥，佐藤郁美，笠井聡．AIを用いた胎児心拍数モニタリングにおけるポジショニング支援技術の開発．第29回日本遠隔医療学会学術大会．2025.10.25.
3. 佐藤郁美，廣野悠太，甲斐千遥，吉田皓文，児玉直樹，笠井聡．超音波ドプラ信号の信号源分類におけるAIアルゴリズムと助産師の判定精度の非劣性検証．2025年度 日本生体医工学会東海支部大会．2025.11.22.
4. Yoshida A, Kai C, Sato I, Futamura H, Oochi K, Kasai S. Deep learning model for estimating decline of pulmonary function based on retrospective use of chest radiographic data. The International Forum on Medical Imaging in Asia (IFMIA) 2026.1.14.
5. 関島香代子，八巻ちひろ，塚田文枝，真保加奈子，佐藤郁美，森田千穂，柳生田紀子，江藤宏美，播本雅津子．交流集会，地方発！未来へつなぐ助産師教育－地方圏で育てる地域母子保健と助産教育のこれから－．第45回日本看護科学学会学術集会．2025.12.6.
6. 岩﨑隆，神藏貴久，稲葉英夫，谷賢太郎，佐藤郁美，五十嵐紀子．Apple Watch用胸骨圧迫フィードバックアプリの開発とその効果の検証．第25回新潟医療福祉学会．2025.10.25.
7. 荒木恵子，佐藤郁美，佐々木沙織，久嶋美和，太田真美，桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育初段階学生の学習課題への気づき，第45回日本看護科学学会学術集会．2025.12.6.

5　学会活動

1) 所属学会　日本助産学会，日本周産期メンタルヘルス学会，日本母性衛生学会，日本看護科学学会，日本遠隔医療学会，看護理工学会，新潟医療福祉学会，新潟母性看護学助産学・遺伝看護学研究会

2) 学術集会の主催

1. 日本看護科学学会，第45回日本看護科学学会学術集会，実行委員，新潟，2025.12.6-12.7.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. ケース支援力強化検討会，講師，石山地域保健福祉センター，地域母子保健に従事する助産師・保健師，石山地域保健福祉センター，2025.12.11.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟母性看護学助産学・遺伝看護学研究会，役員

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，基盤研究C，胎児低酸素血症のサイン「遅発一過性徐脈」先行予測AIの開発，研究代表者

2. 2024年度，基盤研究B，乳児に行う新たな胸骨圧迫－その効果と実践性の解明－，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

博士（保健学）（取得2026.3.17），看護学研究奨励賞・一般社団法人日本私立看護系大学協会（受賞2025.7.28），新生児蘇生法「専門」コース認定更新（2025.6.28）

3) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校，母性看護学概論，2025.6.9-6.10.

8 学内委員会活動　URA推進委員会（委員），高大医連携推進委員会（委員）

氏名：久嶋　美和

1 研究題目　地域包括支援センター３職種に関する研究，シミュレーション教育に関する研究

2 学会等研究発表

1. 荒木恵子，佐藤郁美，佐々木沙織，久嶋美和，太田真美，桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育初段階学生の学習課題への気づき．第45回日本看護科学学会（新潟市），2025.12.6-12.7.

3 学会活動

1) 所属学会　日本看護科学学会

4 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県パーキンソン病友の会，署名活動，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.12.19.

5 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

SimBegin レベル１ファシリテーター（2026.3.31），キャラバン・メイト（2018.7.24）

氏名：太田　真美

1 研究題目　基礎教育に関する研究　シミュレーション教育に関する研究

2 学会等研究発表

1. 下山博子，桶谷涼子，荒木恵子，志田祐佳子，井村紀代子，佐藤郁美，佐々木沙織，久嶋美和，太田真美．看護基礎教育における低学年からの段階的シミュレーション教育の学習効果．日本看護科学学会第45回学術集会（新潟市），2025.12.6.

3 学会活動

1) 所属学会　日本看護科学学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本看護科学学会，学会会場，第一会場副進行責任者，新潟，朱鷺メッセ，2026.12.7.

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 専門分野共通研修，臨床倫理研修，自分の行為を見直そう，講師，新潟リハビリテーション病院，全職員，新潟市，2025.10.1.

5 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

SimBegin レベル１　ファシリテーター（2026.3.30.　受講終了）

氏名：サバンジュ　美智子

報告事項なし

氏名：花矢　鮎美

1　研究題目　認知症の祖父母を含む家庭環境で生活する思春期・青年期の孫に見られる心理的反応

2　学会活動

1) 所属学会　日本認知症ケア学会，日本老年看護学会，日本難病看護学会

2) 学会等でのその他の活動

1.　日本看護科学学会学術集会（参加者受付）新潟朱鷺メッセ，2025.12.7.

3　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1.　パーキンソン病友の会：パーキンソン病治療開発などに関する署名活動，新潟医療福祉大学，2025.12.19.

2.　認知症の人と家族の会：2025年度世界アルツハイマーデー記念講演会，学生参加者集約，新潟市ユニゾンプラザ，2025.9.20.

4　その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

2025.3　修士号（看護学）取得

氏名：田村　優喜

1　研究題目　看護師の終末期ケアに対する困難感とコミュニケーションスキルに関する研究，卒業生の動向に関する研究

2　学会活動

1) 所属学会　日本健康医学会，日本看護学教育学会

3　社会活動

1) 社会活動への参加協力

1.　パーキンソン病友の会　新潟県支部　フリーマーケットのための寄付物品の運搬，2025.8.

2.　パーキンソン病友の会　新潟県支部　学生と共に大運動会補助，新潟県障害者交流センター，2026.3.28.

氏名：志田　佑佳子

1　研究題目　ウィメンズヘルスに関する研究，シミュレーション教育に関する研究，看護教育に関する研究

2　学会等研究発表

1.　志田佑佳子，山口典子．就労しながら未就学児を育てる母親の月経前症候群・月経前不快気分障害の実態．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.

2.　志田佑佳子，桶谷涼子，小栗妙子．多職種連携教育を担当した教員の気づき―看護教員による３年間の教育実践を通して―．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市），2025.12.6-12.7.

3.　荒木恵子，佐藤郁美，佐々木沙織，久嶋美和，太田真美，桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育初段階学生の学習課題への気づき．第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市），2025.12.6-12.7.

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本ウーマンズヘルス学会，日本シミュレーション医療教育学会，日本母性衛生学会，日本看護科学学会

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1.　新潟スポーツ医・科学コンソーシアム「第２回新潟スポーツケアナース認定講座」，開催運営スタッフ，新潟スポーツ医・科学コンソーシアム，看護師・准看護師，新潟市，2025.7.5-7.6.

5　社会活動への参加協力

1. 日本対がん協会，リレー・フォー・ライフ・ジャパン，救護班，新潟市・新潟県スポーツ公園，2025.10.18.

6 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

修士（看護学）（2025.3.17）

氏名：更科 輝

1 研究題目 助産師の専門性に関する研究,産後ケアに関する研究

2 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県看護協会，新潟県思春期電話相談，電話相談員，新潟市・新潟県看護研修センター，2025.5.17，6.21，7.19，9.13，10.18，11.15，12.27，2026.1.10，3.21.

3 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. ICM国際メディカル専門看護学科，母性看護学概論，2025.5.13，5.20.

6）心理・福祉学部

（1）社会福祉学科

氏名：佐藤　洋

1　研究題目　市町村保健師が行う子ども虐待支援に関する研究，子どもの貧困に関する研究

2　学会活動

1) 所属学会　日本子ども虐待防止学会（会員）

3　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 胎内市民生委員児童委員研修会，講師，2025.11.18.
2. 新潟県消防学校救急科講義，2025.11.4.
3. 新潟県消防学校救急科講義，2026.1.27.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

上越市いじめ問題再調査委員会（委員），柏崎市民生委員推薦委員会（委員），五泉市障がい者総合支援協議会アドバイザー

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県社会福祉士会（会員）

氏名：河野　聖夫

1　研究題目　医療ソーシャルワーカーのキャリア形成，医療ソーシャルワーク教育（課程）における演習科目プログラムの標準化，対人援助スーパービジョンと人材育成，スーパービジョン実践者（指導者）の育成・訓練プログラム

2　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本ケアマネジメント学会，日本医療社会事業学会（日本医療ソーシャルワーカー協会），大正大学社会福祉学会，山梨社会福祉実践学会

3　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. GSV未来（スーパービジョンの会），定例学習会，講師，未来（自主グループ），介護支援専門員・社会福祉士ほか，上田市，2025.4.13，6.8，8.24，10.19，12.21，2026.2.15.
2. 対人援助技術勉強会，スーパービジョン・スーパーバイザー養成研修，講師，新潟県医療ソーシャルワーカー協会，協会員受講修了者，新潟市，2025.6.1，9.25，12.14，2026.3.8.
3. 山梨県医療ソーシャルワーカー協会全体研修会，医療ソーシャルワーカーの人材育成，講演，講師，山梨県医療ソーシャルワーカー協会，医療ソーシャルワーカー（協会会員），甲府市，2025.6.7.
4. 指導力UP学習会，人材育成の理論と方法，講義，講師，新潟県医療ソーシャルワーカー協会会員役員有志，医療ソーシャルワーカー，新潟市，2025.6.19，8.28，10.9，12.11，2026.2.8，3.24.
5. グループスーパービジョン学習会，スーパービジョンと臨床像，講師，いいらの会，介護支援専門員，静岡（富士市およびオンライン），2025.6.29，8.3，10.26.
6. スーパービジョン研究会，season5GSV，助言者・スーパーバイザー，自主グループ（新潟県医療ソーシャルワーカー協会会員有志），医療ソーシャルワーカー・社会福祉士，新潟市，2025.7.7，10.4，2026.2.7.
7. 介護支援専門員研修会，スーパービジョン研修，講義・事例演習，講師，須坂市地域包括支援センター地域支援係・小布施町地域包括支援センター共催，地域包括支援センター職員，介護支援専門員，須坂市，2025.8.18.
8. （株）はあとふるあたご職場研修，スーパービジョン・事例演習，スーパーバイザー，はあとふるあたご人事部，新潟市（オンライン），2025.9.19，11.25，2026.3.10.
9. 新潟市地域包括支援センター阿賀北（新潟市北区）困難事例検討会，何かひっかかりのある事例検討，

事例検討，講師・助言者，地域包括支援センター職員，介護支援専門員，新潟市，2025.10.28.

10. 相談援助職者養成一般研修，地域貢献事業・講師，企画・指導，小布施町地域包括支援センター，役場職員，介護支援専門員，地域包括支援センター職員，町内福祉専門職等，小布施町，2025.11.10.
11. 医療ソーシャルワーカー新人研修／スーパービジョン研修，講義・グループスーパービジョン，講師・スーパーバイザー，新潟県医療ソーシャルワーカー協会，医療ソーシャルワーカー，新潟市，2025.12.6-12.7.
12. 安曇野市社会福祉協議会（居宅介護支援事業所）職員研修，スーパービジョン，安曇野市社会福祉協議会（居宅介護支援事業所），介護支援専門員，安曇野市，2026.1.30.
13. ALPHASさわやか苑長岡．福祉用具サービス．研修・展示会，AI時代のケアマネージメント，講演，講師，株式会社クレアメディコ，介護支援専門員．医療ソーシャルワーカーほか，長岡市，2026.2.10.
14. 「えひめKUMAの会」定例会，OGSV実践・臨床像を描く，事例検討，講師，えひめKUMAの会，介護支援専門員・社会福祉士等（会員），久万高原町，2026.2.27-2.28.
15. ソーシャルワーク研修，ソーシャルワーク面接，講義・演習，講師，新潟市地域包括支援センター大江山・横越，介護支援専門員，新潟市江南区，2026.3.10.

2) 社会活動への参加協力

1. スーパービジョン実践研究会，スーパーバイザー養成講座・伝承，指導者，新潟市，2024.4，5，6，7，9，10，11，12，2025.2.
2. 新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会（事前打合せ会議メンバー），2025.4-2026.3.
3. 新潟県医療ソーシャルワーカー協会アドバイザー（新人研修担当，テキスト作成検討会議），新潟市，2025.4-2026.3.
4. 小布施町地域包括支援センター，スーパービジョン，スーパーバイザー，小布施町，2025.4-2026.3.
5. 対人援助研究会（海明技塾），情報共有＆学習会開催，主宰，新潟市，2025.4-2026.3.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟市（豊栄さわやか老人福祉センター及び北区豊栄健康センター）指定管理者申請者評価会議委員（委員長）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県医療ソーシャルワーカー協会（運営委員・県協会アドバイザー）

4　学内委員会活動　人権委員会（委員長），入試委員会

氏名：青木　茂

1　研究題目　地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定プロセスに関する研究，社会福祉協議会の組織・運営に関する研究，民生委員児童委員組織・活動に関する研究，福祉教育・ボランティア学習に関する研究，コミュニティソーシャルワーク機能に関する研究

2　報告書

1. 青木茂，荻野剛，長田一郎ほか７名．持続可能な民生委員制度の構築に向けた調査研究事業報告書，2025.8.25-2026.3.31，分担，一般財団法人日本総合研究所（厚生労働省令和７年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金社会福祉推進事業）．
2. 青木茂，伊藤祐輔，小澤薫，中村健．令和７年度包括的支援体制のための連携に関する社会調査報告書，2025.4.1-2026.3.31，分担，社会福祉法人新潟市社会福祉協議会．

3　学会等研究発表

1. 山﨑美夏，青木茂．ソーシャルワーク実践力は基盤となる価値からどのように導き出せるか，第25回新潟医療福祉学会（新潟市北区），2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　日本地域政策学会（理事，甲信越北陸支部事務局長），日本社会福祉学会，日本地域福祉学会，日本福祉教育・ボランティア学習学会，日本福祉文化学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本地域政策学会，第24回全国研究【愛知・名古屋】大会，地域福祉計画分科会，座長，中京大学（名古屋市），2025.6.29.
2. 日本地域政策学会，甲信越・北陸支部研究会，「これまで，そして，これからのまちづくり～小布施町での取り組み」，総合司会，長野県小布施町，2025.9.11.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県社会福祉士会総会・全体研修，民生委員・児童委員制度の現状と課題－なり手不足解消のために社会福祉士の実践経験を活かす－，講師，新潟県社会福祉士会，社会福祉士，新潟市中央区，2025.6.22.
2. 新潟市北区地域包括支援センター上土地亀サービス開発事例検討会，アドバイザー，新潟市地域包括支援センター上土地亀，北区内ケアマネージャー，新潟市北区，2025.7.11.
3. 新潟県社会福祉士会基礎研修Ⅲ，講師，新潟県社会福祉士会，社会福祉士，新潟市中央区，2025.9.13・10.25.
4. 新潟県介護福祉士会ファーストステップ研修，講師，新潟県介護福祉士会，介護福祉士，新潟市中央区，2025.10.4.
5. 群馬県民生委員児童委員副会長等中核的委員研修会，副会長等中核的委員に期待される役割，講師，群馬県民生委員児童委員協議会（群馬県社会福祉協議会内），群馬県内民生委員児童委員，群馬県前橋市，2025.10.9.
6. 地域包括支援センター大江山横越ケアマネジャー研修会，介護支援専門員の倫理とコンプライアンス，講師，地域包括支援センター大江山横越，圏域ケアマネジャー，新潟市江南区，2025.11.7.
7. 新潟県地域福祉推進セミナー，福祉教育の基本的な考え方（11.14），福祉教育の原理（12.19），講師・助言者，新潟県社会福祉協議会，新潟県内社会福祉協議会職員，新潟市中央区，2025.11.14・12.19.
8. 聖籠町社会福祉協議会地域支え合いマップづくり，アドバイザー，聖籠町社会福祉協議会，聖籠町旭丘地区住民，北蒲原郡聖籠町，2025.11.30.
9. 高崎市民生委員児童委員全体研修，民生委員，児童委員，主任児童委員に期待される役割，講師，高崎市社会福祉協議会，高崎市民生委員児童委員，群馬県高崎市，2026.2.17.
10. 新発田市民生委員児童委員連合会児童部会研修，主任児童委員の基本理念と活動の進め方について，講師，新発田市民生委員児童委員連合会（新発田市社会福祉協議会内），新発田市内主任児童委員，新発田市，2026.3.2.
11. 令和７年度社会資源等連携促進研修会，民生委員・児童委員が地域をつなぐ多職種・多機関連携の基本と実践，講師，燕市社会福祉協議会，燕市新任民生委員児童委員，燕市，2026.3.4.
12. 令和７年度新潟市中央区地域福祉推進フォーラム，コーディネーター，新潟市中央区社会福祉協議会，新潟市中央区民，新潟市中央区，2026.3.7.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. NHK総合（広島局），「お好みワイド」内のニュース，民生委員担い手不足の現状，2026.1.8.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

村上市地域福祉計画審議会（会長），村上市障がい者計画等審議会（会長），新潟市南区地域福祉アクションプラン検討委員会（委員長），新潟市南区高齢者ケア会議（議長），新潟市西区いきいき西区支え合いプラン推進委員会（委員長），柏崎市福祉有償運送運営協議会（会長），柏崎市地域福祉計画推進会議（アドバイザー），柏崎市介護保険運営協議会（アドバイザー），柏崎市障害者福祉推進会議（アドバイザー），聖籠町総合計画審議会（委員・副部会長），新潟県社会福祉協議会福祉教育推進会議（アドバイザー），新潟市社会福祉協議会重層的支援体制整備事業運営会議（アドバイザー），新潟市北区社会福祉協議会企画運営委員会（アドバイザー），新潟市東区社会福祉協議会（副会長・理事），湯沢町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会（委員長），聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会（委員長），聖籠町社会

福祉協議会評議員選任・解任委員会（委員長），聖籠町社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会（委員長），阿賀町社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会（委員長），社会福祉法人新潟太陽福祉会（評議員），社会福祉法人新潟県身体障害者団体連合会（評議員）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2019年度，新潟市多職種合同による介護予防ケアプラン検討会，渡邉敏文，青木茂ほか.
2. 2019年度，新潟県民生委員児童委員協議会アドバイザー派遣事業，佐藤洋，青木茂ほか.

2) 受賞，学位取得，資格取得

博士（法学）（2025.9.22）

7　学内委員会活動　交通安全委員会（委員長），学生委員会，キャリア支援センター運営委員会

氏名：原口　彩子

1　研究題目　共生型農園の引きこもり解消への効果とその要因，「心の支えイメージマップMSIM」の自殺予防に対する有効性と学校教育導入の検討，大学生の自殺予防，食農福教育プログラムの開発

2　学会等研究発表

1. 並木伸賢，原口彩子，石本豪．大学生のメンタルヘルス症状と相談傾向の検討，第47回全国大学メンタルヘルス学会総会（金沢市），12.4-12.5.

3　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟市乳児院はるかぜ10周年記念 はるかぜのライフヒストリーワーク，コメンテーター，新潟市，新潟県民会館，2025.7.15.
2. 看護学部臨地実習指導者研修会，患者の立場に立つことに時間を要する学生の理解と支援，講師，新潟市北区，新潟医療福祉大学，2025.8.5.
3. 令和７年度「初任者研修」（メンタルヘルス）講座，講師，新潟市西蒲区，新潟市総合教育センター，2025.8.5.
4. 2025年度共同募金助成事業「にこっと」研修会，村瀬嘉代子先生から学ぶ①「心を込めて真実を伝える意味」，講師，新潟市北区，豊栄地区公民館，2025.9.20.
5. 令和７年度「養護教諭育成支援コーチ研修」，講師，新潟市西蒲区，新潟市総合教育センター，2025.9.25.
6. 妙高市専門職研修会，発達症傾向のある市民への理解と支援，講師，オンライン，2025.10.16.
7. 2025年度共同募金助成事業「にこっと」研修会，村瀬嘉代子先生から学ぶ②「支援者の資質と覚悟」，講師，新潟市北区，豊栄地区公民館，2025.10.18.
8. 養護教諭対象 心の支えイメージマップ（MSIM）研修会，講師，新潟市東区，東区プラザ，2025.3.15.

2) 社会活動への参加協力

1. 聖籠町こども家庭センタースーパーバイザー事業，子どもソーシャルワーカーのSV，講師，聖籠町役場，2025.5.1-2026.3.31.
2. 令和７年度聖籠町あそび教室発達相談会事業，子育て相談・保健師コンサル，相談員，聖籠町保健福祉センター，2025.7.16-2026.2.18.

4　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025，基盤研究（C），共生型農園活動の引きこもり解消への効果とその要因，研究代表者
2. 2025，古泉財団助成，共生型アウトドアリビング機能を備えた”すき間農地”活用の実践的研究

2) 学外兼務講師等

1. 発達クリニック　ぱすてる　心理士　月２回

2. 聖籠町子ども家庭相談センター　スーパーバイザー　2025.4-2026.3.　年６回
3. 聖籠町あそび教室発達相談会　スーパーバイザー　2025.4-2026.3.　年３回

5　学内委員会活動　メンタルヘルス支援室，国家試験・資格試験対策委員会，健康管理センター運営委員会，シティズンシップ教育実践研究センター（Citizenship education practical research center）

氏名：寺田　貴美代

1　研究題目　地域連携と国際連携を基盤とする外国人DV被害者の自立支援モデルの開発

2　報告書

1. 寺田貴美代．基盤研究（C），外国人DV被害者とその子どもへの支援における国際連携プラットフォームの構築，科学研究費補助金研究成果報告書，2022.4.1-2026.3.31.（研究代表者）

3　学会等研究発表

1. 寺田貴美代，豊田典子．DVおよび児童虐待の影響を受けた母子における 母子生活支援施設の入所成立・不成立．福祉社会学会第24回大会（東京），2026.6.27.

4　学会活動

1) 所属学会　福祉社会学会（理事），福祉社会学会（副事務局長），福祉社会学会（財務委員），日本社会福祉学会（査読委員），日本社会福祉学会（編集委員），日本社会福祉学会（関東部会　運営委員），日本社会福祉学会（関東部会　編集委員長），日本社会学会（会員），日本地域福祉学会（会員）

2) 学術集会の主催

1. 福祉社会学会，福祉社会学会第23回大会，学術大会運営，西宮市，2025.6.28-6.29.
2. 日本社会福祉学会関東部会，2025年度研究大会，運営委員，オンライン，2026.3.22.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本社会福祉学会関東部会，関東地域ブロック研究大会，第一分科会　座長，オンライン，2026.3.22.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第１回外国につながる子どもたちへの支援を考える研修会，新潟県内の支援状況報告会，コメンテーター，新潟県国際交流協会，新潟県民，新潟市，2025.12.7.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤C，地域連携と国際連携を基盤とする外国人DV被害者の自立支援モデルの開発，研究代表者
2. 2025年度，基盤C，外国人DV被害者とその子どもへの支援における国際連携プラットフォームの構築，研究代表者

7　学内委員会活動　大学院委員会，内部質保証推進委員会，自己点検・評価委員会，大学院の質保証委員会

氏名：渡邉　敏文

1　研究題目　地域保健福祉における住民参加，介護福祉士養成教育における倫理教育

2　論文

1. 渡邉敏文，河野聖夫，青木茂，渡邉恵司，丸田秋男．令和７年度新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会業務実績報告書．2025.4-2026.3.研究代表
2. 渡邉敏文，渡辺洋子，渡邉恵司，福田敏秀，松元圭，荒川大靖，山﨑美夏．令和７年度新潟水俣病関連情報発信事業報告書（DVD）．2025.4-2026.3.研究代表
3. 渡邉敏文，松元圭．令和７年度新潟水俣病発生地域における介護予防在宅支援事業報告書．2025.4-2026.3.
4. 渡邉敏文．地域包括ケアシステムと訪問介護．信州自治研．2006年1月；2026年1月号№407：2-7.

3　学会等研究発表

1. 福田智久，福田明，青木明日香，細野真代，木田茂樹，飯塚洋，渡邉敏文，白井孝子，白井幸久．チームマネジメント教育に関する介護福祉士養成教員の認識と課題－専門学校の教員経験年数による層別分析と自由記述による検討を中心に－，日本介護福祉教育学会，令和７年度第31回日本介護福祉教育学会，千葉県成田市，2025.9.12.

4　学会活動

1) 所属学会　日本社会福祉学会，日本地域福祉学会（新潟地方委員），日本地域政策学会（常任理事，研究推進委員長，学術専攻委員会副委員長，甲信越・北陸支部副支部長），日本介護福祉教育学会，日本介護福祉学会，日本在宅ケア学会，日本精神保健福祉学会，日本保健医療社会学会，日本保健福祉学会，日本保健医療福祉連携教育学会，日本ケアマネジメント学会，日本福祉教育・ボランティア学習学会（特任理事），日本社会福祉士会，日本介護福祉士会，日本精神保健福祉士協会，日本介護支援専門員協会，新潟医療福祉学会，北新潟地域づくり学会（会長），新潟地域福祉実践研究会（会長）

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本地域政策学会，分科会開催（地域福祉計画部会，テーマ：地域福祉計画と重層的支援体制整備事業実施計画を基盤とした地域福祉の充実について），総括（研究代表者），名古屋市，2025.6.29.
2. 日本地域政策学会，甲信越・北陸支部総会及び研究会開催，副支部長，長野県上高井郡小布施町，2025.9.11.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年新潟県農福連携推進連絡会議講演，地域共生社会と農福連携のあり方－その視点と考え方から将来に向けて－，講師，新潟県農福連携推進連絡会，新潟県農福連携推進連絡会議幹事・メンバー，新潟市（農林水産省北陸農政局新潟県拠点），2025.5.19.
2. 令和７年度運営適正化委員会事業研究協議会，新潟県における運営適正化委員会の現状と課題，報告者，社会福祉法人全国社会福祉協議会，全国都道府県社会福祉協議会担当者・運営適正化委員，東京都（全国社会福祉協議会），2025.7.7.
3. 新潟水俣病ケアガイド研修（Web開催，オンデマンド型），新潟水俣病患者の支援を考える－ほっとできる日に向けて－，講師，新潟県福祉保健部生活衛生課・新潟市保健衛生総務課，医療・福祉専門職者・行政職員，2025.10.14.
4. 令和７年度新潟市西区支え合いのしくみづくり研修会，介護支援専門員と地域の支え合い活動の連携の必要性と連携方法について，講師，新潟市西区役所，介護支援専門員・地域包括支援センター職員・行政職員・社会福祉協議会職員・地域の支え合いのしくみづくり関係者，新潟市西区役所，2025.10.23.
5. 新潟市地域包括支援センター上土地亀，上土地亀圏域ケア会議「認知症になっても自分の望む生活を送るためには」，アドバイザー，新潟市特別養護老人ホーム長浦の郷，2025.10.24.
6. 長岡100歳大学大学院，日本の社会保障の現状と課題－そして未来に向けて－，講師，長岡100歳大学院，大学院学生（一般県民登録受講者），長岡市・長岡三古老人福祉会法人本部，2025.10.25.
7. 新潟市地域包括支援センター上土地亀，岡方圏域ケア会議「認知症になっても自分の望む生活を送るためには」，アドバイザー，新潟市北区岡方コミュニティセンター，2025.10.31.
8. 五泉市高齢者虐待防止ネットワーク関係職員研修会，身体拘束を必要としないケアを考える―不適切ケアの視点を中心に―，講師，五泉市，五泉市地域包括支援センター職員などの五泉市高齢者虐待防止ネットワーク関係職員，五泉市福祉会館，2025.12.11.
9. 新潟市地域包括支援センターくずつか，新潟市地域包括支援センターくずつか・上土地亀共催事例研究会，アドバイザー，新潟市北区さわやか老人福祉センター，2025.12.23.
10. 医療法人愛広会研修会，どうしてますか？介護事故発生後の原因分析から対策立案までの管理指導，講師，医療法人愛広会，訪問・居宅系サービス以外の各施設で事故発生時の指導的立場にある職員（ケア統括・主任会議メンバー・各施設の施設長，主任クラスのスタッフ），新潟市・新潟リハビリテー

ション病院，2025.12.26.

11. 新潟市立松浜中学校，松浜中学校キャリア教育（介護福祉士の職業体験），介護福祉について，講師，松浜中学校，松浜中学校生徒・教諭，新潟市立松浜中学校，2026.2.12.
12. 救護施設有明荘職員研修会，救護施設における利用者の人権と職員の対応について，講師，新潟市有明福祉事業協会，救護施設多職種職員，新潟市，2026.3.24.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報朝刊，新潟水俣病の被害者体験談-新潟医福大聞き取り15年-冊子化に取り組み後世へ，2025.5.9.
2. 新聞，朝日新聞朝刊，新潟水俣病 自分ごとに，2025.6.14.
3. 市報にいがた，新潟市，今どきの認知症のこと，2025.9.7.
4. 西区役所だより第447号，新潟市西区役所，地域で広がる支え合い活動，2025.11.16.
5. 新聞，新潟日報朝刊，制度のはざま埋めたい-介護殺人事件-自治体再発防止へ検証を，2026.1.7.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟県社会福祉士会，社会福祉士国家試験受験対策講座企画運営検討会，2026年度社会福祉士国家試験受験対策講座企画，検討委員，新潟市・新潟ユニゾンプラザ，2025.4-2026.3.
2. 神奈川県立中井やまゆり園改革アドバイザリー，会議検証メンバーアドバイス，改革アドバイス等，新潟市・新潟医療福祉大学，2025.4.24.
3. 新潟水俣病阿賀野患者会，プロジェクトチーム創設，創設支援，新潟市，2025.5.24.
4. 児童厚生員養成課程連絡協議会，こども家庭庁における令和７年度児童館施策等に関する要望・意見交換会，児童厚生員養成課程連絡協議会会長，東京都こども家庭，2025.5.29.
5. 新潟市・令和７年度新潟市地域包括支援センター職員新任者研修会，企画・運営，新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会総括責任者，新潟市・江南区福祉センターきらとぴあ，2025.6.5.
6. 介護福祉士養成大学協議会，全国の介護福祉士養成大学で学ぶ学生対象「学生交流会」開催（テーマ：介護福祉士国家試験100%合格へ導く「合格きっと」説明会），主催者，新潟市（オンライン開催），2025.6.26.
7. 北陸中部地区救護施設研究協議大会，分科会助言，助言者，新潟市，2025.7.25.
8. 新潟日報社・新潟県社会福祉協議会・新潟市社会福祉協議会，福祉・介護・健康フェア2025 in 新潟，体験・相談展示コーナー出店（介護士体験コーナー），企画・運営，新潟市産業振興センター，2025.9.19.
9. 新潟県福祉サービス運営適正化委員会，令和７年度日常生活自立支援事業実施状況調査，訪問調査員，新潟県聖篭町（聖篭町社会福祉協議会），2025.10.10.
10. 新潟市・令和７年度第１回新潟市地域包括支援センター職員現任者研修会，企画・運営，新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会総括責任者，新潟市総合保健医療センター，2025.11.5.
11. 新潟市立松浜中学校，ゲストテーチャー，介護体験，企画・運営，新潟市立松浜中学校，2025.11.21.
12. 新潟県社会福祉士会，ソーシャルワーク実習・実習指導者講習会，企画，新潟市（新潟ユニゾンプラザ），2025.11.29-12.7.
13. 松浜小学校・松浜中学校，コミュニティスクール，グループワーク「地域と共に歩む」，討議者，新潟市，2025.12.8.
14. 介護福祉士養成大学協議会，全国の介護福祉士養成大学で学ぶ学生対象「学生交流会」開催（テーマ：先輩の合格体験記を聴こう！），主催者，新潟市（オンライン開催），2025.12.12.
15. 日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック新潟県支部，2025年度新潟県ソーシャルワーク現場実習等養成校連絡会開催（Web開催，オンデマンド型），支部長（幹事），Web開催，2026.2.9.
16. 新潟市・令和７年度第２回新潟市地域包括支援センター職員現任者研修会，企画・運営，新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会総括責任者，新潟市総合保健医療センター，2026.2.20.
17. 介護福祉士養成大学協議会，全国の介護福祉士養成大学で学ぶ学生対象「学生交流会」開催（テーマ：

大学で介護福祉士国家資格を取得する意義），主催者，新潟市（オンライン開催），2026.3.26.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟市在宅医療・介護連携推進協議会会長，日本年金機構・新潟県地域年金事業運営調整会議座長，五泉市高齢者保健福祉市民会議委員，新潟県介護人材確保対策会議委員，新潟市介護人材確保対策協議会委員，新潟市北区南浜地区青少年育成協議会理事，新潟市障がい支援区分認定等審査会審査委員，新潟市指定管理者第三者評価会議委員，新潟市北区支え合いのしくみづくり会議委員（協議体構成員），新潟市北区高齢者ケア会議構成委員，新潟市北区社会福祉協議会監事，日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック新潟県支部長，新潟県社会福祉現場実習等養成校連絡会会員，日本介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック協議会運営委員，日本介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック協議会教学マネジメント・介護福祉士教育新潟県代表，日本介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック協議会新潟県部会国家試験対策部会（分科会）・調査研究部会（分科会）委員，新潟市共同募金委員会北区分会監査人，新潟市共同募金委員会北区分会推進委員会委員，新潟県農福連携推進連絡会議委員・幹事，新潟県優良農業経営体等表彰事業選考委員会委員農福連携の部審査委員，新潟県福祉サービス運営適正化委員会副委員長（利用援助調査委員会委員，苦情解決小委員会委員），新潟市立松浜小学校学校運営協議会会長，新潟市コミュニティ・スクール学校運営協議会会長，新潟県老人福祉施設協議会理事，新潟県福祉人材センター運営委員会委員，新潟県社会福祉協議会社会福祉研修事業運営委員会委員長，社会福祉法人皆幸希福祉会理事，児童厚員養成課程連絡協議会会長，介護福祉士養成大学連絡協議会理事，介護福祉士養成大学連絡協議会国家試験対策委員会委員長，新潟市老人憩の家指定管理者申請者評価会議会長

5) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県社会福祉士会人材育成・スーパービジョン支援班運営委員会委員，新潟県社会福祉士会地域密着型サービス外部評価審査委員会委員，新潟県社会福祉士会国家試験受験対策講座検討会委員，新潟県生涯学習協会会員

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会業務（共同研究），研究代表者：渡邉敏文，研究分担者：河野聖夫・青木茂・渡邉恵司
2. 2025年度，新潟水俣病関連情報発信事業（共同研究），研究代表者:渡邉敏文，研究分担者:渡辺洋子・渡邉恵司・福田敏秀・松元圭・荒川大靖・山﨑美夏
3. 2025年度，新潟水俣病患者の健康教室（共同研究），研究代表者：渡辺洋子，研究分担者：渡邉敏文，松元圭
4. 2025年度，新潟水俣病発生地域における介護予防在宅支援事業，研究代表者:渡邉敏文，研究分担者:松元圭

2) 学外兼務講師等

1. 開志専門職大学事業創造学部事業創造学科（地域産業研究Ⅱ（医療福祉）），非常勤講師，2025.4-9.
2. 新潟県立大学人間生活学部こども学科（社会福祉のニーズと政策），非常勤講師，2025.4-9.

氏名：岡部　卓

報告事項なし

氏名：渡辺　洋子

1　研究題目　特別養護老人ホームで最期を迎えた入居者へのEOLケア理論生成に関する研究，特別養護老人ホーム介護職員を対象にしたEOLケア職員研修による効果及び課題，高齢期にある近親者の看取りを経験した家族のケア観を基盤とする専門職養成教育の課題

2　著書

1. 渡辺洋子．福祉現場における「終末期ケア」－死生観育成とケア観確立をめざして．初版．新潟県：株）

ウィザップ；20260201：1-31.

3　論文

1. Toyama G, Takei Y, Omatsu K, Watanabe Y. Impact of EMS call timing on bystander CPR and survival after cardiac arrest in care facilities. scientific Reports. 2026; 16: 7849.（査読あり）

4　報告書

1. 渡辺洋子．若手研究，特別養護老人ホームで最期を迎えた入居者へのEOLケア理論生成に関する研究，令和７年度科学研究費助成事業報告書

5　学会等研究発表

1. 外山元，竹井豊，渡辺洋子，大松健太郎．高齢者介護施設における心停止前の緊急通報と生存率，日本蘇生学会第44回大会（栃木県足利市），2025.11.21-11.23.

6　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（理事・評議員・会見監査），新潟医療福祉学会誌（編集委員），日本認知症予防学会員，日本社会福祉学会員，日本老年社会科学会員，日本介護福祉学会員，日本応用社会科学会員，日本女子大学社会福祉学会員

2) 学会等でのその他の活動

1. 新潟医療福祉学会における理事及び評議員，会計監査，2025.4-2026.3.
2. 新潟医療福祉学会誌における編集者担当等　2025.4-2026.3.

7　社会活動

1) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. マイナビ介護職，介護のみらいラボ，2026年　介護福祉士国家試験（第38回）の難易度はどうだった？合格点予想も，2026.3.13.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟市「健康づくり教室」，水俣会館，準備及び後片付け・参加学生召集及び謝礼手配等，2025.10.3.
2. 新潟市「健康づくり教室」，岡方コミュニティセンター，準備及び後片付け・参加学生召集及び謝礼手配等，2025.10.10.
3. 新潟市「健康づくり教室」にて講話及び足湯の実施，下山コミュニティハウス，準備及び後片付け，参加学生召集及び謝礼手配等，2025.10.31.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

①新潟市社会福祉協議会評議員，②新潟県国民保健団体連合会介護保険サービス苦情処理委員

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

①日本介護福祉士養成協会関東信越ブロック協議会員，②日本介護福祉士養成大学協会正会員

8　学内委員会活動　①学生委員（美化部会長），②交通安全委員会，③学術委員会，④研究倫理審査委員会

氏名：楠山　大暁

1　研究題目　社会的共通資本に関する研究，地域福祉に関する研究

2　論文

1. 小村有紀，楠山大暁．社会関係資本が地域福祉における情報アクセスと満足度に与える影響－近隣ネットワークに着目した住民調査データによる実証分析－．厚生の指標．2026; 73(1): 1-8.（査読有り）
2. 小村有紀，楠山大暁．地域包括支援センターにおける組織間ソーシャル・キャピタル測定項目の検討 ―ヤングケアラー支援を文脈として―．Journal of Intelligence Science in Local Research. 2026; 2(2): 54-69（査読有り）

3　学会等研究発表

1. 楠山大暁．人口減少社会における社会的共通資本のあり方について－福祉政策を事例に－．日本地域政策学会第24回全国研究大会（名古屋市），2025.6.28.
2. 小村有紀，楠山大暁．里親制度における効果的な情報伝達のあり方．日本地域政策学会第24回全国研究

大会（名古屋市），2025.6.28.

3. 外千夏，吉池信男，玉熊和子，葛西敦子，樋口毅，楠山大暁，駒井みどり．月経異常を有する学生へのTrantheoretical model（TTM）を用いた個別化メッセージのランダム化比較試験．日本母性衛生学会（大阪市），2025.10.10.

4　学会活動

1) 所属学会　日本地域政策学会（理事）

5　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 青森公立大学，計量経済学，2025.9.20-2026.2.28.
2. 青森中央学院大学，財政学，2025.9.20-2026.2.28.
3. 青森中央学院大学，専門演習Ⅲ，2025.4.1-2026.2.28.
4. 青森中央学院大学，卒業研究，2025.4.1-2026.2.28.
5. 青森中央学院大学大学院地域マネジメント研究科，演習，2025.4.1-9.30.

氏名：福田　敏秀

1　研究題目　認知症のある高齢者の家族介護者支援に関する研究

2　論文

1. 福田敏秀．介護支援専門員が捉える家族介護負担感に関する検討－標準的介入ツール開発のための基礎調査－．日本認知症予防学会誌；15(1)：48-57.
2. 福田敏秀，大谷浩子，西本満男．認知症高齢者グループホームにおけるサービスの見える化に対する取り組み；自己評価ツール「棚卸シート」を開発して．日本認知症ケア学会誌；24(3)：560-575.

3　学会活動

1) 所属学会　日本認知症ケア学会（代議員），日本認知症予防学会（代議員）

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県社会福祉協議会，エルダー研修，講師，新潟市，2025.5.27.
2. 新潟市，新潟水俣病患者の健康づくり教室，講師，新潟市，2025.10.10.
3. 鳥取県社会福祉協議会，介護支援専門員実務研修，講師，鳥取市，Web，2026.1.10.
4. 財団法人介護労働安定センター高知支部，ケアサポート講習，講師，Web，2025.4.11，5.16，7.18，2026.1.16.
5. 財団法人介護労働安定センター高知支部，専門家相談援助，介護人材育成コンサルタント，Web，2026.2.9，2.16，3.11，3.25.
6. 財団法人介護労働安定センター徳島支部，ケアサポート講習，講師，Web，2025.6.28，11.15.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

公益財団法人　介護労働安定センター高知支部（ヘルスカウンセラー，介護人材育成コンサルタント，雇用管理コンサルタント）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事

氏名：大屋　未輝

1　研究題目　医療観察法の加害者家族が被害者となっても保護者を断らない行動心理と環境要因の検討

2　学会等研究発表

1. 大屋未輝．医療観察法における保護者であった家族の情動的負担と自己対処の研究，日本家族看護学会第32回学術集会，札幌市，2025.9.20.
2. 大屋未輝．医療観察法の被害を受けた家族等が保護者である4例の報告，新潟医療福祉学会・第25回新

潟医療福祉学会学術集会，新潟市，2025.10.25.

3　学会活動

1) 所属学会　公益社団日本精神保健福祉士協会（会員），日本更生保護学会（会員），日本家族看護学会（会員）

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 福祉従事者向けメンタルヘルス講習会，アロマテラピー診断×絵画療法診断で心と身体の状態を知る，研修講師，社会福祉法人新潟みずほ福祉会，新潟市，2025.9.23.
2. 令和７年度みんな de ピア交流会「精神障がいのある人，精神障がいのある人のご家族向け交流会」，研修講師，新潟市こころの健康センター主催，2026.3.14.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟地方検察庁・刑事鑑定研究研究会，研究委員，新潟市・新潟法務合同庁舎，2025.11.1.
2. 新潟地方裁判所・令和７年度医療観察法研究協議会，協議委員，新潟市・新潟地裁，2025.12.11.
3. 新潟地方裁判所・医療観察審判，精神保健参与員，上越市・国立病院機構さいがた医療センター，2026.3.26.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

厚生労働省関東信越厚生局（令和７年度精神保健参与員），新潟保護観察所（被害者担当保護司）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟中央区保護司会（保護司），公益社団法人日本精神保健福祉士協会（会員），新潟県精神保健福祉士協会（会員）

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 令和７年度，科研費基盤研究（B），医療観察法の加害者家族が被害者となっても保護者を断らない行動心理と環境要因の検討，研究代表者　大屋未輝

2) 受賞，学位取得，資格取得

新潟県保護司会連合会長表彰（受賞・2026.3）

3) 学外兼務講師等

1. 学校法人悠久崇徳学園，公衆衛生学，2026.2.

6　学内委員会活動　新潟連携教育研究センター運営委員，大学院教務委員，地域連携学主担当

氏名：渡邉　恵司

1　研究題目　精神科病院からの地域移行支援・地域定着支援に関する研究，ピアサポーターとの協働に関する研究

2　報告書

1. 渡邉敏文，渡辺洋子，渡邉恵司，福田敏秀，松元圭，荒川大靖，山﨑美夏．2025年度新潟水俣病関連情報発信事業報告書（DVD），2025.4.1-2026.3.31.
2. 渡邉恵司．2025年度真柄福祉財団受託研究報告書①，2025.4.1-2026.3.31.
3. 渡邉恵司．2025年度真柄福祉財団受託研究報告書②，2025.4.1-2026.3.31.

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本地域政策学会，日本病院・地域精神医学会，日本精神障害者リハビリテーション学会，日本精神保健福祉士協会，新潟県精神保健福祉士協会，日本福祉教育・ボランティア学習学会，中部 M-GTA研究会

2) 学術集会の主催

1. 日本地域政策学会第24回全国研究大会，地域福祉計画分科会「地域福祉計画と重層的支援体制整備事業実施計画を基盤とした地域福祉の充実について～ 地域福祉計画と重層的支援体制整備事業実施計画との連関から探る～」，分科会企画・討論者，中京大学，2025.6.29.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本地域政策学会，2025年度甲信越・北陸支部総会及び研究会，事務局，長野県，2025.9.11.

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 心に寄り添う傾聴セミナー，「傾聴の相手を理解する心の病の現場から －精神医療の歴史と現状について-」，講師，傾聴ボランティア にこっと，会員・一般市民，新潟市，2025.5.17，6.14.
2. 令和７年度相談支援専門員研修会，「＜個別援助技術の実際＞相談支援専門員として必要な障害理解の視点，対応力について」，講師，燕市相談支援専門員，燕市民交流センター３階多目的ホール，2025.7.31，8.29.
3. 第14回精神保健福祉フォーラム，「精神障がいの理解と合理的配慮」，講師，社会福祉法人青空福祉会，福祉関係施設職員・一般市民，燕三条リサーチコア７階マルチメディアホール，2025.9.27.
4. 2025年度真柄福祉財団セミナー，「誰もが人々の多様な生き方を認め合う「共生社会の実現」に向けて」，コーディネーター，真柄福祉財団，医療福祉関係職員他，新潟市メディアシップ，2025.10.4.
5. 令和７年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築研修会，「障害特性の理解と精神保健福祉相談の実際（演習）」，講師，新潟県，福祉行政職他，燕三条地場産業振興センターメッセピア４階大会議室，2025.10.6.
6. 令和７年度三魚沼地域精神保健福祉家族会連絡協議会交流研修会，「新潟のピアサポート，今どうなってる？ ～支援者からの声と課題を探る～」，講師，三魚沼地域精神保健福祉家族会連絡協議会，家族会会員，南魚沼地域振興局 講堂，2025.11.10.
7. 令和７年度人材育成研修会（地域移行・地域定着支援研修会），「精神障がい者の地域生活を考える～事例から学ぶ“にも包括”～」，講師，新潟市，医療福祉関係者，新潟市総合保健医療センター２階講堂，2025.12.5.
8. 令和７年度精神保健福祉ボランティア研修会，「精神保健福祉ボランティアに必要なことの再考 ～「他者理解」と「心の距離感」～」，講師，阿賀野市，精神保健福祉ボランティア会員・一般市民，水原保健センター検診・機能訓練室，2026.2.24.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟市北区自治協議会，委員，新潟市北区，2025.4.1-2026.3.31.
2. 新潟市北区コミュニティセンター指定管理者申請者評価会議，委員，新潟市北区，2025.8.19-9.30.
3. 五泉市子どもワークショップ，コーディネーター，五泉市福祉会館 ３階 大会議室，2025.9.6.
4. 新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会，ケアプラン検討会，司会等，新潟市，2025.9.18.
5. 福祉・介護・健康フェア，ブース出店，新潟市産業振興センター，2025.11.8.
6. 新潟市江南区自治協議会環境教育部会，アドバイザー，新潟市江南区，2026.2.2.
7. 新潟県水俣病情報発信事業，３大学フォーラム，新潟県立大学，2026.3.7.
8. 新潟県水俣病情報発信事業，報告会，新潟東映ホテル，2026.3.15.
9. 包括阿賀北圏域意見交換会，アドバイザー，新潟市北区，2026.3.16.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

公益財団法人真柄福祉財団（理事），全国健康保険協会新潟支部（評議委員・委員長）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県精神保健福祉士協会（代議員）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，新潟水俣病関連情報発信事業（共同研究），研究代表者：渡邉敏文，研究分担者：渡辺洋子，渡邉恵司，福田敏秀，松元圭，荒川大靖，山﨑美夏
2. 2025年度，新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会業務（共同研究），研究代表者：渡邉敏文，研究分担者：河野聖夫・青木茂・福田敏秀・渡邉恵司・丸田秋男

3. 科研費：基盤（C）分担研究「地域における健全育成の環境づくりに対する移動児童館活動の効果に関する研究」荒川大靖・渡邉恵司
4. 2025年度，公益財団法人真柄福祉財団受託研究「精神科病院からの地域移行支援・地域定着支援に関する研究」，渡邉恵司

2) 学内部活動の実績
1. バスケットボールサークルNEXUS顧問

3) 学外兼務講師等
1. 事業創造大学院大学，福祉ビジネス特論，2025.4.1-2026.3.31.

6 学内委員会活動　社会連携推進センター運営委員会，ボンランティアセンター運営委員会，高大医連携推進委員会

氏名：小堀　晶子

1 研究題目　学生支援における終末糖化産物（AGEs）の活用，新潟水俣病

2 論文
1. 松元圭，小堀晶子．躁双極症の回復に関する一考察－アンケート自由記述の分析から－．聖泉論叢．2025；33号：1-22.（査読あり）
2. 松元圭，三品拓人，小堀晶子．双極症患者の経験する複数の葛藤――揺らぎ，苦悩，衝突に注目して．質的心理学研究．（印刷中）（査読あり）
3. 松元圭，小堀晶子．新潟における胎児性水俣病患者が経験した重層的困難―水俣病との３つの距離に着目した考察―．障害学研究．（印刷中）（査読あり）
4. 松元圭，棚瀬佳見，南伸予，小堀晶子．Hospital Play Specialistの支援から見る医療的ケア児とその家族の家族実践：２人のHPSの語りに着目した探索的試論．ホスピタル・プレイ・スペシャリスト事例集．（印刷中）（査読あり）

3 学会等研究発表
1. 小堀晶子，松元圭．学生相談における新規マーカーAGEsの活用可能性の探索――「悩みが透明化された大学生」を混合分析的手法により明らかにする――．日本学生相談学会第43回大会（愛知），2025.5.3.
2. 小堀晶子，松元圭．大学生の精神保健上のリスクを捉えるためのAGEs（終末糖化産物）の可能性．日本臨床教育学会第15回研究大会（京都），2025.10.18.
3. 小堀晶子，松元圭．AGEsを用いた「悩みを自覚できない学生」のスクリーニング －性差に着目した考察－．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2025.10.25.
4. 小堀晶子，関礼子，松元圭．新潟水俣病と「当事者参加型リサーチ」２：被害者のウェルビーイングを求めて．日本環境社会大会（奈良），2025.12.6.
5. 松元圭，小堀晶子．当事者になるまで：新潟における胎児性水俣病患者の語りから．障害学会・第22回大会（埼玉），2025.9.20-9.21.
6. 松元圭，小堀晶子．AGEsと大学生が抱える悩みに関する混合分析的研究．日本臨床教育学会・第15回研究大会（京都），2025.10.18.
7. 松元圭，関礼子，小堀晶子．新潟水俣病と「当事者参加型リサーチ」１：今日の「差別」をめぐって．日本環境社会・第72回大会（奈良），2025.12.6.

4 学会活動

1) 所属学会　日本学生相談学会，関東地区学生相談研究会，環境社会学会，日本臨床教育学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動
1. 2026年度日本臨床教育学会　大会実行委員，大会シンポジウムの企画，運営，シンポジスト，2025.11-2026.11.

5 社会活動

1) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. NHK，ニュースおはよう日本，新潟水俣病アンケート調査を実施，2025.5.24.
2. 新聞，（全国版）しんぶん赤旗，新法成立へ行動訴え，2025.9.2.
3. 新聞，（全国版）しんぶん赤旗，水俣病”隠す”33%，2025.12.16.
4. 新聞，（全国版）しんぶん赤旗，水俣患者の生活向上へ，2026.2.25.
5. 新聞，（全国版）新潟日報，差別恐れて被害者と言えず…新潟水俣病阿賀野患者会が会員アンケート報告会　施策推進や検証求め，2026.2.24.
6. 新聞，（全国版）朝日新聞，新潟水俣病被害者に残る差別の恐怖　患者会調査「元気だね」無理解も，2025.12.20.
7. 新聞，（全国版）東京新聞，「新潟水俣病」患者の半数が「症状があるのに治療を受けてない」理由…アンケートから見える困難の実態とは，2026.2.15.
8. 新聞，読売新聞オンライン，新潟水俣病被害者アンケ　この10年で差別・偏見「変わらず」25%　過去に経験は9.5%，2025.12.16.
9. 新聞，（全国版）中日新聞，高齢化進む新潟水俣病患者，受診に壁　確認から61年，半数が「現在治療受けず」，2026.2.18.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟水俣病阿賀野患者会，患者会会員を対象としたアンケート実施に向けた会議，調査担当，新潟市北区，県立環境と人間のふれあい館，2025.5.24.
2. 新潟水俣病阿賀野患者会，患者会会員を対象としたアンケート作成作業，調査担当，新潟市北区，新潟医療福祉大学，2025.7.12.
3. 新潟水俣病阿賀野患者会，患者会会員を対象としたアンケート発送作業，調査責任，新潟市北区，新潟医療福祉大学，2025.7.19.
4. 新潟水俣病阿賀野患者会，第21回患者会総会における患者会会員を対象としたアンケート分析結果の報告，調査責任者，新潟市北区，県立環境と人間のふれあい館，2025.8.30.
5. 新潟水俣病阿賀野患者会および新潟県，新潟市，阿賀野市等の関連自治体，アンケート調査の結果を踏まえた新潟水俣病対策会議，報告者，新潟市中央区，県立環境と人間のふれあい館，2026.2.20.
6. 新潟県臨床心理士会，多重債務者対策相談会，相談員，新潟市消費生活センター，2025.12.17.
7. 新潟水俣病関連情報発信事業，３大学合同フォーラム，発表者，新潟県立大学，2026.3.7.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，新潟医療福祉大学研究奨励金，学生相談における支援困難な大学生の実態解明―悩みの内容とその心理社会的背景・プロセスに着目した検討，研究代表者
2. 2025年度，明治安田こころの健康財団，双極症患者の家族経験と支援の可能性に関する社会学的研究-「家族実践」概念に注目して-，研究分担者
3. 2026年度，新潟市医師会地域医療研究合分析法を用いた回想法の効果検証―新潟水俣病患者を対象として，研究代表者
4. 2026年度，私学事業団若手・助成研究者助成，非当事者による語り継ぎの可能性－新潟水俣病支援者のライフストーリーから，研究代表者
5. 2026年度，科研費基盤研究（C），終末糖化産物（AGEs）による「悩みを自覚できない大学生」の抽出と実態解明，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 聖泉大学，健康・医療心理学，2025.10-2026.3.
2. 立教大学，認知・行動・身体，2025.10-2026.3.

7　学内委員会活動　図書館・学修支援委員

氏名：松元　圭

1　研究題目　双極症患者および縁者に対する社会学的研究，Hospital Play Specialistによる医療的ケア児への支援に関する研究，AGEsに着目した学生相談研究，家族実践研究，新潟水俣病に関する調査研究

2　論文

1. 松元圭．双極症患者との離婚を経験した元配偶者の困難―婚姻中そして婚姻関係解消後の物語―．ソシオロゴス．2025；49：153-170.（査読あり）
2. 松元圭，棚瀬佳見，南伸予，小堀晶子．Hospital Play Specialistの支援から見る医療的ケア児とその家族の家族実践：２人のHPSの語りに着目した探索的試論．HPS事例集．2026；16：33-48.（査読あり）
3. 松元圭，小堀晶子．新潟における胎児性水俣病患者が経験した重層的困難―水俣病との３つの距離に着目した考察―．障害学研究．2026；23：(印刷中)．(査読あり)
4. 松元圭，小堀晶子，三品拓人．双極症患者が経験する複数の葛藤――自己と家族をめぐる揺らぎ，苦悩，衝突に注目して．質的心理学研究．2026；26：(印刷中)．(査読あり)
5. 松元圭，小堀晶子．双極症の回復に関する一考察――アンケート自由記述の分析から――．聖泉論叢．2025；33：1-22.（査読あり）
6. 松元圭．マージナル・マンとしてのHospital Play Specialstから見た日本の小児医療の問題．HPS事例集，2025；15：3-14.（査読あり）

3　報告書

1. 松元圭．新潟医療福祉大学学内研究奨励（基盤形成），双極症患者と縁者の間に生じたコンフリクトの内実を問う医療社会学的研究：患者との関係が破綻した縁者に対する質的調査から，研究成果報告書，2024-2025，研究代表者
2. 松元圭．若手研究，双極症患者と縁者の関係破綻に影響を与える要素の特定に関する社会学的研究，実施状況報告書，2025-2028，研究代表者

4　学会等研究発表

1. 松元圭．医療分野における家族実践－当事者と支援者の語りから－．関西社会学会・第76回大会（大阪）2025.5.31-6.1.
2. 小堀晶子，松元圭．学生相談における新規マーカーAGEsの活用可能性の探索――「悩みが透明化された大学生」を混合分析的手法により明らかにする――．日本学生相談学会第43回大会（愛知），2025.5.10-5.12.
3. 松元圭，小堀晶子．当事者になるまで：新潟における胎児性水俣病患者の語りから．障害学会・第22回大会（埼玉），2025.9.20-9.21.
4. 松元圭，三品拓人．家族関係が悪化する過程と原罪の病状に対する意味づけの検討－双極症患者の生活史から．質的心理学会・第22回大会（広島），2025.10.18-10.19.
5. 松元圭，小堀晶子．AGEsと大学生が抱える悩みに関する混合分析的研究．日本臨床教育学会・第15回研究大会（京都），2025.10.18.
6. 小堀晶子，松元圭．大学生の精神保健上のリスクを捉えるためのAGEs（終末糖化産物）の可能性．日本臨床教育学会・第15回研究大会（京都），2025.10.18.
7. 小堀晶子，松元圭．AGEsを用いた「悩みを自覚できない学生」のスクリーニング －性差に着目した考察－．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2025.10.25.
8. 松元圭，関礼子，小堀晶子．新潟水俣病と「当事者参加型リサーチ」１：今日の「差別」をめぐって．日本環境社会・第72回大会（奈良），2025.12.6.
9. 小堀晶子，関礼子，松元圭．新潟水俣病と「当事者参加型リサーチ」２：被害者のウェルビーイングを求めて．日本環境社会・第72回大会（奈良），2025.12.6.

5　学会活動

1) 所属学会　日本社会学会，関西社会学会，日本保健医療社会学会，日本環境社会学会，子ども社会学会，日本臨床教育学会，障害学会，日本学生相談学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. HPS事例集編集委員
2. 2025年度関西社会学会　若手シンポジウム企画「家族実践の社会学」の企画，運営，2024.8-2025.5.
3. 2026年度日本臨床教育学会　大会実行委員，大会シンポジウムの企画，運営，シンポジスト，2025.11-2026.11.
4. 2026年度子ども社会学会　テーマセッション企画「実践現場における多様な「子ども理解」」，シンポジスト，2025.2-2026.6.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. HPS名古屋ブロック研修会，第１回事例集執筆のための公開講座，講師，NPO法人ホスピタルプレイ協会，HPS，名古屋，2026.7.25.
2. HPS名古屋ブロック研修会，第２回事例集執筆のための公開講座，講師，NPO法人ホスピタルプレイ協会，HPS，名古屋，2026.9.12.
3. HPS名古屋ブロック研修会，第３回事例集執筆のための公開講座，講師，NPO法人ホスピタルプレイ協会，HPS，名古屋，2026.10.24.
4. 新潟県社会福祉士会，社会福祉士国家試験受験対策講座，講師，新潟県社会福祉士会，一般の社会福祉士国家試験受験生，新潟，2026.7.5.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. NHK，ニュース，2025.5.24.
2. 新聞，しんぶん赤旗，新法成立へ行動訴え，2025.9.2.
3. 新聞，しんぶん赤旗，水俣病”隠す”33%，2025.12.16.
4. 新聞，しんぶん赤旗，水俣患者の生活向上へ，2026.2.25.
5. 新潟日報（2026.2.24）差別恐れて被害者と言えず…新潟水俣病阿賀野患者会が会員アンケート報告会施策推進や検証求め
6. 新聞，朝日新聞，新潟水俣病被害者に残る差別の恐怖　患者会調査「元気だね」無理解も，2025.12.20.
7. 新聞，東京新聞，「新潟水俣病」患者の半数が「症状があるのに治療を受けてない」理由…アンケートから見える困難の実態とは，2026.2.15.
8. 新聞，読売新聞オンライン，新潟水俣病被害者アンケ　この10年で差別・偏見「変わらず」25%　過去に経験は9.5%，2025.12.16.
9. 新聞，中日新聞，高齢化進む新潟水俣病患者，受診に壁　確認から61年，半数が「現在治療受けず」，2026.2.18.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟水俣病阿賀野患者会，患者会会員を対象としたアンケート実施に向けた会議，調査責任者，新潟市北区，県立環境と人間のふれあい館，2025.5.24.
2. 新潟水俣病阿賀野患者会，患者会会員を対象としたアンケート作成作業，調査責任者，新潟市北区，新潟医療福祉大学，2025.7.12.
3. 新潟水俣病阿賀野患者会，患者会会員を対象としたアンケート発送作業，調査責任者，新潟市北区，新潟医療福祉大学，2025.7.19.
4. 新潟水俣病阿賀野患者会，第21回患者会総会における患者会会員を対象としたアンケート分析結果の報告，調査責任者，新潟市北区，県立環境と人間のふれあい館，2025.8.30.
5. 新潟水俣病阿賀野患者会および弁護団等の関連団体，オールミナマタの集会におけるアンケート調査に関する挨拶，新潟市中央区，東映ホテル，2025.11.30.
6. 新潟水俣病阿賀野患者会，新潟水俣病患者アンケート調査第２回プロジェクト会議での報告，調査責任者，新潟市北区，県立環境と人間のふれあい館，2025.12.14.

7. 新潟水俣病阿賀野患者会および新潟県，新潟市，阿賀野市等の関連自治体，アンケート調査の結果を踏まえた新潟水俣病対策会議，報告者，新潟市中央区，県立環境と人間のふれあい館，2026.2.20.

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

NPO法人ホスピタルプレイ協会（特任研究員・HPS事例集編集委員）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費若手，双極症患者と縁者の関係破綻に影響を与える要素の特定に関する社会学的研究，研究代表者
2. 2025年度，関西社会学会若手シンポジウム企画，家族実践の社会学――行為に着目する家族研究の意義と方法論の検討，研究分担者
3. 2025年度，明治安田こころの健康財団研究助成，双極症患者の家族経験と支援の可能性に関する社会学的研究-「家族実践」概念に注目して-，研究代表者
4. 2026年度，科研費基盤C，日本の大学生の親子関係をめぐる悩みと葛藤に関する臨床社会学的研究，研究分担者
5. 2026年度，科研費基盤C，終末糖化産物（AGEs）による「悩みを自覚できない大学生」の抽出と実態解明，研究分担者
6. 2026年度，新潟市医師会研究助成，混合分析法を用いた回想法の効果検証―新潟水俣病患者を対象として，研究分担者

8 学内委員会活動　FD・SD委員会，科研費委員会，入試問題検討委員会

氏名：神田　紀子

1 研究題目　家庭でDVを体験した子ども，児童虐待，母子生活支援施設

2 学会活動

1) 所属学会　日本家族心理学会（学会員），新潟医療福祉学会（学会員）

3 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 民児協アドバイザー派遣事業・胎内市中条地区民生・児童委員研修会，講師，胎内市民生・児童委員協議会（担当・胎内市福祉介護課），胎内市役所，2025.8.26.
2. 民児協アドバイザー派遣事業・田上町民生・児童委員定例会研修会，講師，田上町民生・児童委員協議会（担当・田上町社会福祉課），田上町役場，2025.9.2.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟市北区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会，委員長，新潟市北区役所，2025.6.10, 2026.2.6.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県公認心理師会（理事）・新潟県臨床心理士会（会員）

4 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

こども家庭ソーシャルワーカー資格取得

5 学内委員会活動　新潟連携教育推進センター運営委員会

氏名：荒川　大靖

1 研究題目　地域における健全育成の環境づくりに対する移動児童館活動の可能性の検討

2 学会等研究発表

1. 荒川大靖．移動児童館の発展過程に関する考察．日本地域政策学会・全国研究大会（名古屋・日本），2025.6.28-6.29.

3　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会（会員），日本地域政策学会（会員），日本こども学会（会員），日本ソーシャルワーク学会（会員），日本社会福祉教育学会（会員）

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度新潟県児童厚生員・放課後児童支援員等研修会，個別援助活動，講師，新潟県児童館・児童クラブ連絡協議会，県内の児童厚生員および放課後児童支援等に従事する者，その関係者，新潟県立子ども自然王国，2025.11.21.

2) 社会活動への参加協力

1. 葛塚市場通り商店街組合，あそびの縁日出店，ブース運営，新潟生北区，2025.4.5.
2. 社会福祉法人豊栄福祉会，クローバーまつりへ遊びの体験ブース提供，学生指導，新潟市北区・福祉交流センタークローバー，2025.7.5.
3. 岩室地域児童館まつり，こども向け遊びブース設置及び運営，学生指導，新潟市西蒲区・岩室地域児童館，2025.7.20.
4. ケアステーションルビナス，バルーンアート出店，学生指導，新潟市中央区・斎藤内科クリニック，2025.9.7.
5. 第６回ふくふくマルシェ～地域・福祉・アート～，こども向け遊びブースの設置，ボランティア，新潟市北区・福祉交流センタークローバー，2025.9.28.
6. 第18回北区ふゆっこまつり，こども向け遊びブース設置及び運営，学生指導，新潟市北区・豊栄地区公民館，2026.1.31.
7. 東区こどもまつり，こども向け遊びブースの設置及び運営，学生指導，新潟市東区・東区プラザ，2026.2.23.
8. 第15回にいがた秋葉っ子ふゆまつり，こども向け遊びブース設置及び運営，学生指導，新潟市秋葉区・秋葉区総合体育館，2026.2.8.
9. 西区ふれあい・あきまつり2024，こども向け遊びブース設置及び運営，学生指導，新潟市西区・みどりと森の運動公園，2025.11.8.
10. にじいろ食堂，クリスマス会，バルーンアート作成および提供，新潟市北区・太夫浜自治会館，2025.12.23.
11. 平島公園夏祭り，こども向け遊びブース設置及び運営，学生指導，新潟市西区・平島公園，2025.9.27.
12. 障害福祉サービス事業所あどばんす・あきまつり，こども向け遊びブース設置及び運営，学生指導，新潟市中央区，2025.9.27.
13. パルキッズこども園，こども向け遊びブース設置及び運営，学生指導，新発田市，2025.10.5.

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度（2025年度継続），基盤研究（C），地域における健全育成の環境づくりに対する移動児童館活動の効果に関する研究，荒川大靖・渡邉恵司

2) 学内部活動の実績

1. レクア.コム部顧問

3) 学外兼務講師等

1. 日本こども福祉専門学校，児童・家庭福祉，2025.4.1-2026.3.31.
2. 国際こども福祉カレッジ，社会福祉論，2025.4.1-2026.3.31.

6　学内委員会活動　広報委員会，同窓会・生涯学習推進委員会，高等教育推進センター運営委員会

氏名：小出　直

1　研究題目　生活保護世帯の子どもの健康支援に関する研究，生活保護制度史（級地制度），公的扶助論

2　論文

1. 原田祐輔，澤野純平，小出直.「SNS上の『仕事』と『腰痛』に関するテキスト分析：自己組織化マップとネットワーク分析による共起構造の探索的研究日本産業保健理学療法学雑誌，2025年，3(1)：2-9．査読あり.
2. Harada Y, Okamura R, Sawano J, Koide N, Miyakawa M. The Improvement of Physical Function and Caregiver Burden by a Multimodal Intervention: A Case Study of Combined Exercise Therapy, Nutritional Guidance, and Hydrogen Gas Inhalation Therapy, 2025, Cureus 17(2): e79516. 査読あり

3　学会等研究発表

1. 小出直.「生活保護制度における級地制度の変遷―1951年から1957年までの記述をもとに―」2025年日本社会福祉学会関東地域ブロック研究大会（オンライン），2026.3.
2. 小出直.「生活保護ケースワーカーによる子どもの健康支援に関するアセスメント視点の分析」第25回新潟医療福祉学会学術集会2025.10.
3. 小出直.「生活保護世帯に暮らす子どもの健康支援に関するケースワーク実態調査-ケースワーカーの支援の質に関する全国調査-」日本保健医療福祉学会 第35回大会（北海道），2025.9.

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟市女性つながりサポート事業 令和６年度の相談員向け研修講師『相談支援の技術－見てみよう－』2025.8.
2. 新潟市女性つながりサポート事業 令和６年度の相談員向け研修講師『相談支援の技術－聞いてみよう－』2025.9.
3. 新潟市女性つながりサポート事業 令和６年度の相談員向け研修講師『相談支援の技術－話してみよう－』2025.11.

2) 社会活動への参加協力

1. 日本医療ソーシャルワーカー協会，『医療と福祉』査読員2025.4-2026.3.
2. 新潟市北区『認知症カフェ　らく～なカフェ』「認知症にかかわる制度紹介」2025.11.

氏名：山﨑　美夏

1　研究題目　女性介護職の労働環境に関する研究，介護福祉士養成教育，介護福祉教育学

2　報告書

1. 渡邉敏文，渡辺洋子，渡邉恵司，福田敏秀，松元圭，荒川大靖，山﨑美夏．2025年度新潟水俣病関連情報発信事業報告書（DVD），2025.4.1-2026.3.31.

3　学会等研究発表

1. 山﨑美夏，青木茂，鈴木昭．ソーシャルワーク実践力は基盤となる価値からどのように導き出されるか第25回新潟医療福祉学会（新潟市北区），2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本介護福祉学会，日本生活支援学会，日本介護福祉教育学会，ICT研究会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 介護労働安定センター　介護職員実務者研修　講師　介護労働安定センター新潟県支部　2025.8.21，8.25，8.27，9.1.（全４回）
2. 新潟県社会福祉協議会　県民介護　講師　新潟ユニゾンプラザ　2025.6.17，9.5，9.9，10.7，11.7，11.18，12.9.（全７回）

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県介護福祉士会運営委員会・新潟ユニゾンプラザ，2025.5.17，6.14，7.19，9.13，11.1，

2026.1.3，3.14.（全７回）

2. 新潟県介護福祉士会，介護の日イベント（介護技術コンテスト）・新潟産業振興センター，2025.11.8.
3. 福祉・介護・健康フェア，新潟医療福祉大学ブース出展　新潟市産業振興センター，2025.11.8.
4. 新潟県水俣病情報発信事業，３大学フォーラム新潟県立大学，2026.3.7.
5. 新潟県水俣病情報発信事業，報告会，新潟東映ホテル，2026.3.15.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
社会福法人いなほの郷福祉会（評議委員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員
新潟県介護福祉士会（運営委員）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，新潟水俣病関連情報発信事業（共同研究），研究代表者：渡邉敏文，研究分担者：渡辺洋子，渡邉恵司，福田敏秀，松元圭，荒川大靖，山﨑美夏

氏名：渡邉　悠都

1　研究題目　介護福祉におけるICT・テクノロジーに関する研究，介護人材に関する研究

2　学会等研究発表

1. 渡邉悠都．介護人材における外国人の現状と課題に関する研究 －福祉・教育現場の視点から－．第25回新潟医療福祉学会学術集会，新潟市（新潟医療福祉大学），2025.10.25.

3　学会活動

1) 所属学会　日本地域政策学会，日本社会福祉学会，日本介護福祉教育学会，日本介護福祉士会，新潟医療福祉学会

4　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 新潟医療福祉カレッジ，社会の理解・介護の基本・認知症の理解，2025.4-8.
2. 新潟医療福祉カレッジ：日本人学生・留学生に対する就職相談および学習指導

氏名：金子　毅司

報告事項なし

（2）心理健康学科

氏名：山本　裕二

1　研究題目　対人運動技能ダイナミクスの解明

2　論文

1. Yokoyama K, Shima H, Kijima A, Yamamoto Y. Football games consist of a self-similar sequence of ball-keeping durations, Fractal Fractional. 2025; 9(7): 406. (review)
2. Kano T, Yokoyama K, Okano N, Yamamoto Y. The cultivation of collaborative skills in elementary school physical education through the use of task constraints, Journal of Physical Education, Recreation & Dance. 2025; 96(9): 65-72. (review)
3. Suzuki H, Hirakawa T, Yamamoto Y. Factors influencing caster board skill acquisition, Frontier in Psychology: Movement Science. 2025; 16: 1643100. (review)
4. Koshimizu Y, Fukuhara A, Yamamoto Y, Kijima A. Adaptive gait transition in trekking pole-assisted hiking due to fatigue and staircase height elevation. 2026; 7: 1669574. (review)

3　学会等研究発表

1. Kijima A, Okumura M, Yamamoto Y, Rachel W. Kallen, Michael J. Richardson. Symmetry Breaking and Social Coordination in Children, International Workshop on Team and Multiagent Dynamics (Monpelie, France), 2025.7.15-7.16.
2. 奥村基生，木島章文，横山慶子，山本裕二．防御的な文脈情報は防御の選択反応を無意識に促進する，日本体育・スポーツ健康学会第75回大会（東京），2025.8.27-8.29.
3. 横山慶子，山本裕二，木島章文，島弘幸，Rachel W. Kallen，Michael J. Richardson．意図や配置は三者同期に影響するか：対面の振り子課題を用いて，日本心理学会第89回大会（仙台），2025.9.5-9.7.
4. 上野大道，香取勇一，奥村基生，横山慶子，福原洸，木島章文，越水悠介，小林亮，山本裕二，加納剛史．対人競技における「切磋琢磨」的学習メカニズム理解のための対戦型ゲームの開発，SSI2025　計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会（仙台），2025.11.12-11.14.

4　学会活動

1) 所属学会　日本心理学会，日本認知科学会，日本スポーツ心理学会，日本体育・スポーツ・健康学会，日本学校教育学会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 市民向け公開講座　アゴラ・さいころじぃ　企画・運営，心理健康学科，一般市民，朱鷺メッセ，2025.5.31.
2. 市民向け公開講座　アゴラ・さいころじぃ　企画・運営，心理健康学科，一般市民，朱鷺メッセ，2025.10.26.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022，挑戦的研究（萌芽），「行動解析と数理モデルによる城門防御機能の定量的評価：スポーツ科学からの挑戦」，研究代表者
2. 2025，基盤研究（A），「終わりなき学習」ダイナミクスの解明，研究代表者

7　学内委員会活動　総務会，学科長会議，入試委員会，高大医連携委員会

氏名：坂田　省吾

1　研究題目　動物の時間認知の比較心理学的研究

2　学会等研究発表

1. Sakata S, Matsumoto H. Choice behavior in the adjusting delay task in rats. The 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Niigata), 2025.7.26.

3　学会活動

1) 所属学会　日本行動科学学会（監事），日本生理心理学会（理事），日本動物心理学会，日本心理学会，日本時間生物学会（評議員），日本神経科学学会，International Society for Comparative Psychology，American Psychological Society，Soceity for Neuroscience

2) 学術集会の主催

1. 公益社団法人日本心理学会，公募シンポジウム・心理科学研究所構想の推進，企画・司会・話題提供者，仙台市，2025.9.7.

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 公開講座・アゴラ・さいころじぃ，生活リズムが乱れたら　時間の心理学，講演者，新潟医療福祉大学心理健康学科，市民向け，朱鷺メッセ，2025.5.31.
2. 日本学術会議公開シンポジウム，国立心理科学研究所構想の推進，企画者，日本学術会議主催，市民向け，日本学術会議講堂，2026.3.16.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

日本学術会議第一部心理学・教育学委員会（委員長）

5　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 広島修道大学，最新心理学講義（比較認知科学），2025.8.19-8.22の4日間（集中講義）

6　学内委員会活動　高等教育推進センター運営委員会，中央教育センター運営委員会，発達科学センター

氏名：山﨑　由美子

1　研究題目　認知機能の行動的解析，脳腸相関の解明と関連疾患の治療法開発を目指した生理学的・微生物学的・行動学的研究

2　論文

1. 山﨑由美子（2025）．次世代モデル動物としてのマーモセット－生物医学研究にもたらす意義と課題－．生物の科学 遺伝，79(3)，192-197.

3　報告書

1. 山﨑由美子．科学研究費補助金基盤研究（B）．腸内細菌叢を介した社会行動調整技術の開発．研究成果報告書，2022-2026，研究代表者.

4　学会等研究発表

1. Yamazaki Y, Kawarai S, Moriya S, Iriki A (2025). Effect of enhanced insect feeding on the cognitive performance and gut microbiome by captive marmosets. The 48th Annual Meeting for Japan Neuroscience Society (2P-203, Niigata, 25th Jul).
2. Yamazaki Y (2025), Multiple pathways for learning adaptive behavior: a case of common marmosets. International Symposium of "Reconsideration of smartness in animals: its similarity and divergence (動物の賢さを再考する～その共通性と多様性～)". The 96th Annual Meeting of the Zoological Society of Japan (Nagoya, 5th Sep).
3. 山﨑由美子（2026）．マーモセットによる道具使用行動の獲得．第15回日本マーモセット研究会大会（高崎，1.20）.
4. 國友啓甫，髙原万奈，森下理咲子，山﨑由美子，池田和仁，尾上浩隆（2026）．マーモセットにおける社会性の双方向コミュニケーション評価系の構築．第15回日本マーモセット研究会大会（高崎，1.20-1.21）.

5　学会活動

1) 所属学会　日本動物心理学会，日本神経科学学会，日本マーモセット研究会（世話人），日本実験動物学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 山﨑由美子，日本マーモセット研究会世話人会，世話人，高崎，2026.1.21.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 山﨑由美子（2025）．遠くて近い親類，マーモセットの心と体．新潟医療福祉大学心理健康学科主催 2025年度市民公開講座 アゴラ・さいころじぃ「比較認知科学からヒトを知る」（新潟市，10.26）
2. 山﨑由美子（2025）．マーモセットのこころとからだを理解する：飼育下と野生の行動観察．新潟脳神経研究会特別例会（新潟大学，6月12日）．

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

日本学術会議・連携会員，日本学術会議・ICLAS分科会（幹事），ワイルドライフサイエンス分科会

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022，科学研究費補助金基盤研究（B），腸内細菌叢を介した社会行動調整技術の開発，研究代表者
2. 2025，科学研究費補助金基盤研究（A）「終わりなき学習」ダイナミクスの解明，研究分担者
3. 2024，公益財団法人山田科学振興財団　研究援助，霊長類の行動－環境－脳－消化管の長期的相互関係の解明，山﨑由美子，研究代表者
4. 2024，一般社団法人予防衛生協会　NHP-A助成金，野生生態を参考にしたコモンマーモセットの食餌管理法，山﨑由美子，研究代表者

8 学内委員会活動　動物実験委員会，化学物質管理委員会，発達科学センター　あたま×こころ×からだ 発達ラボ（センター長）

氏名：野村　照幸

1 研究題目　クライシス・プランの運用設計と共同意思決定の実装評価，更生保護システムにおけるバイアスへの対応，医療観察法通院処遇におけるクライシス・プランの活用・改訂マニュアルの開発，精神医療における非自発的入院の防止に向けたクライシス・プランの効果に関する研究

2 論文

1. 狩野俊介，野村照幸．精神保健医療福祉専門職によるクライシス・プランを作成する実践方法とその効果の検証．社会福祉学（協力学術研究団体が発行する学会誌）．2025；66(3)：61-75.（査読あり）
2. Takeda K, Nomura T, Suzuki M, et al. Establishment of an electronic library in forensic psychiatric wards: a survey of its actual use by forensic inpatients. BMC Psychiatry. 2025; 25(1): 1181. doi:10.1186/s12888-025-07632-3.（査読あり）
3. 狩野俊介，野村照幸．精神障害者支援におけるクライシス・プランの活用方法とその有用性に関する検証．日本社会精神医学雑誌（協力学術研究団体が発行する学会誌）．2025；34(3)：238-248.（査読あり）最終著者
4. 野村照幸．司法精神医療（医療観察制度）の視点から 司法矯正領域のこれまでとこれから．一般社団法人日本臨床心理士会雑誌．2026；34(2)：36.（招待有り）
5. 野村照幸．再包摂は誰の安心のためか ―加害者臨床からの問い―．日本社会精神医学雑誌．2026；35(1)：12-13.（招待有り）

3 報告書

1. 竹田康二，野村照幸ほか．厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業，医療観察法における退院後支援に資する研究 通院処遇モニタリングシステムの構築に関する研究，令和６年度総括・分担研究報告書（CD-ROM），2023-2025，研究分担者
2. 村杉謙次，野村照幸ほか．厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業，医療観察法における退院後支援に資する研究 入院対象者の類型化に基づくクリティカルパスの開発と退院促進，令和６年度総括・分担研究報告書（CD-ROM），2023-2025，研究分担者
3. 株式会社浜銀総合研究所；野村照幸，古村健ほか（ワーキング・グループ委員，保健医療分野）．令和７

年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の役割と養成の在り方等に関する調査研究」報告書，2026，研究分担者

4　学会等研究発表

1. 野村照幸，竹田康二，小池純子ほか．医療観察法指定通院医療機関スタッフの困難感・支援ニーズの構造と関連要因の検討．第44回日本社会精神医学会（新潟市），2026.3.5.
2. 野村照幸．つなぐ・支える・気づく：ハラスメント対応と連携（招待）．日本産業看護学会第14回学術集会，2025.11.8.
3. 野村照幸，高野真弘，島田祥子，砥上恭子，宮原亮．クライシス・プランを通じた心理臨床の進化【自主シンポジウム・企画者・指定討論者】．心理臨床学会第44回大会，2025.10.12.
4. 野村照幸．強みを拓くクライシス・プラン：アディクションから学ぶ日々の実践への応用と挑戦（招待）．日本アディクション看護学会第23回学術集会，2025.8.31.
5. 野村照幸．双極症支援における支援の流れ：ケースフォーミュレーションからクライシス・プラン，セルフモニタリング【委員会シンポジウム・招待】．第22回日本うつ病学会総会，2025.7.12.

5　学会活動

1) 所属学会　新潟県臨床心理士会，新潟県公認心理師会，日本社会精神医学会，日本司法精神医学会，日本臨床心理士会（司法矯正領域会委員会・委員），日本心理臨床学会，日本社会福祉学会，日本犯罪学会，日本公認心理師協会，日本うつ病学会

2) 学術集会の主催

1. 日本司法精神医学会，第22回日本司法精神医学会大会，プログラム委員，2025.9.1-

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本社会精神医学会，編集委員，2025.8-現在.

6　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. クライシス・プランの基礎知識，講師，日本精神看護協会，オンデマンド研修，2025.5-現在.
2. リスクアセスメントとクライシス・プラン，コメンテーター，日本公認心理師試験研修センター，実務者研修第４クール，2025.4-現在.
3. 支援の"地図"を一緒につくる-クライシス・プランがひらく主体性と協働の道筋-，講師，千葉県公認心理師協会，令和７年度司法・犯罪領域研修会，千葉県，2026.3.1.
4. クライシス・プランがひらく主体性と協働の道すじ，講師，日本犯罪心理学会中国地区，中国地区研修会，2026.2.21.
5. 協働的ケアが患者・支援者・日本の精神科医療の未来を切り拓く，講師，日本精神神経科診療所協会，第18回司法精神医学講演会，2026.2.1.
6. 入院処遇におけるクライシス・プラン，講師，茨城県立こころの医療センター，職員研修会，2026.1.13.
7. 医療観察法20年とその先へ-リスクマネジメントからリカバリー志向の協働へ-，講師，福井保護観察所，令和７年度福井県医療観察法運営連絡協議会，2025.12.22.
8. 通院処遇におけるクライシス・プラン，講師，国立病院機構肥前精神医療センター，2025年度第２回司法精神医療等人材養成研修，2025.12.17.
9. 映画「どうすればよかったか」トークセッション，出演，トータルケア実践の会，2025.12.14.
10. クライシス・プランWebセミナー～実践！患者さん中心のプラン作り～，講師，住友ファーマ株式会社，2025.12.13.
11. クライシス・プラン-基礎から実践まで-，講師，群馬県立精神医療センター，院内研修会，2025.12.7.
12. 大人の発達障害について，講師，新潟地区国立病院薬剤部科，第10回勉強会，2025.11.29.
13. クライシス・プランについて（概要から作成・活用まで），講師，福島県精神保健福祉センター，令和

７年度アウトリーチ推進事業研修会，2025.11.27.

14. 医療観察法20年の成果と課題，講師，法務省新潟保護観察所，令和７年度新潟県医療観察制度運営連絡協議会，2025.11.20.
15. 「普通ってなに？」からはじめる発達障がいとの向き合い方，講師，燕市健康福祉部健康づくり課，精神保健福祉講座，2025.10.25.
16. クライシスプランの作成，講師，法務省法務総合研究所，第12回社会復帰調整官専修科研修，2025.10.17.
17. 生きる力を支えるアセスメントと支援～自殺対策の基礎とセルフケア～，講師，三条市福祉保健部健康づくり課，令和７年度こころのゲートキーパー養成研修会，2025.10.16.
18. 入院処遇におけるクライシス・プラン，講師，国立病院機構肥前精神医療センター，2025年度第１回指定「入院」医療機関従事者研修会，2025.10.9.
19. “困った人”ではなく，“困りやすい人”としての発達障がいの理解 ～発達障がいを“責めない社会”の第一歩～，講師，燕市健康福祉部健康づくり課 精神保健福祉講座，2025.10.3.
20. HOPE IN SCHIZOPHRENIA From 新潟 ～クライシスプランの活用について～，講師，住友ファーマ株式会社 HOPE IN SCHIZOPHRENIA From 新潟 ～クライシスプランの活用について～，2025.10.2.
21. 更生保護施設退所者支援-実践編-，講師，筑波大学医学医療系社会精神保健学研究室，第２回マイライフプランプログラムの実践講座，2025.9.12.
22. クライシス・プランを活用した地域移行・地域定着支援，講師，富山県新川厚生センター，令和７年度地域精神保健福祉ネットワーク推進事業研修会，2025.9.4.
23. 第１回 ＜基礎編＞更生保護施設を退所したあとの当事者を支援する -マイライフプランに基づいた回復支援の提案-，講師，筑波大学医学医療系社会精神保健学研究室 第１回マイライフプランプログラムの実践講座-基礎編-，2025.9.1.
24. 通院処遇におけるクライシス・プラン，講師，国立病院機構肥前精神医療センター，2025年度第１回指定「通院」医療機関従事者研修会，2025.8.27.
25. ケースフォーミュレーションについて，講師，新潟県身体障害者施設協議会，研修会，新潟市，2025.8.26.
26. がんばりすぎない，こころの守り方～ストレスとうまく距離をとる～，講師，阿賀野市民生部健康推進課，令和７年度こころの健康講演会，2025.7.31.
27. 信頼関係を築くコミュニケーション～クラス運営にも活かせる心理学～，講師，南魚沼市役所保健部保健課，令和６年度南魚沼自殺予防対策事業相談対応スタッフ研修会，2025.7.29.
28. ゲートキーパー研修，講師，南魚沼市役所保健部保健課 令和６年度南魚沼自殺予防対策事業「相談対応スタッフ研修会」，2025.7.29.
29. 危機がチャンスに変わるクライシス・プラン -共同的な病状管理と権利擁護の両立-，講師，長野県東信地区精神科治療研究会 研修会，2025.7.25.
30. 高校教員における自殺のゲートキーパー研修，講師，三条商業高校 職員研修会，2025.7.10.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 医療観察法臨床ガイドライン作成グループ委員，令和７年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の役割と養成の在り方等に関する調査研究」ワーキンググループ委員，国立精神・神経医療研究センター重度精神疾患標準的治療法確立事業運営委員会ワーキンググループ委員

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本臨床心理士会（司法矯正領域委員会委員），日本社会精神医学会（編集委員）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科学研究費助成事業基盤研究（C）（課題番号23K01849），精神医療における非自発的入院の防止に向けたクライシス・プランの効果に関する研究，研究分担者（代表：狩野俊介・東北福祉大学）
2. 2025年度，科学研究費助成事業基盤研究（C）（課題番号25K04802），更生保護システムにおけるバイアスへの対応-ガイドライン開発とコンテンツの導入-，研究分担者（代表：東本愛香・千葉大学）
3. 2025年度，新潟医療福祉大学研究奨励金（スタート支援研究費），精神医療における非自発的入院の防止に向けたクライシス・プランの効果に関する研究，研究代表者

8 学内委員会活動　広報委員会，高大連携委員会，国際交流委員会，地域協働メンタルヘルス教育研究センター（センター長）

氏名：廣瀬　清人

報告事項なし

氏名：橋本　照男

1 研究題目　子どもの学習と記憶の発達とその神経基盤の解明

2 報告書

1. 橋本照男．基盤研究C，発達期の記憶に脳由来神経栄養因子の遺伝子多型が与える影響とその脳内基盤の解明，実施状況報告書，2024-2028，研究代表者

3 学会活動

1) 所属学会　日本心理学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第203回　四季会（東北小児神経研究会），特別講演：ディスレクシアを中心とした子どもの高次機能の脳画像研究の紹介，講師，萩野谷和裕，小児科医，宮城県立こども病院，2025.5.11.

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，基盤研究C，発達期の記憶に脳由来神経栄養因子の遺伝子多型が与える影響とその脳内基盤の解明，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

The top 10% of most-viewed papers published by Brain and Behavior in 2024"Enhanced memory and hippocampal connectivity in humans 2 days after brief resistance exercise"（2026.3）

3) 学外兼務講師等

1. 東北大学加齢医学研究所，応用脳科学，2025.4.1-2025.3.31.

6 学内委員会活動　教務委員会，図書館・学習支援委員会，同窓会・生涯学習推進連携委員会，発達研究センター

氏名：松本　京介

1 研究題目　精神分析，精神分析的心理療法，夢の心理学的研究，臨床心理的地域援助（精神科デイケア，スクールカウンセリング），喪の仕事

2 論文

1. 松本京介．夢を通した喪の仕事と関係性の再構築．心理臨床学研究．2025；43(3)：232-243.（査読あり）

3 学会活動

1) 所属学会　日本心理臨床学会，日本心理劇学会，日本精神衛生学会，日本質的心理学会，新潟医療福祉学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 村上市ファミリー・サポート・センター会員及び子育て世帯訪問支援事業支援員の合同研修会，子どもを抱える環境のために大人ができること，講師，村上市こども課子育て政策室，ファミリー・サポート・センター提供会員・両方会員及び子育て世帯訪問支援事業支援員（30名），村上市生涯学習推進センター，2025.7.30.
2. 研修会，ストレスマネジメント研修，講師，新潟県社会福祉協議会，社会福祉施設・事業所等に勤務する福祉関係職員（84名），新潟ユニゾンプラザ，2025.12.12.

2) 社会活動への参加協力

1. 市ヶ谷ひもろぎクリニック，音楽プログラムに関する業務，音楽プログラム担当者，東京都・市ヶ谷ひもろぎクリニック精神科デイケア，2025.4.19，10.4.
2. にいがた母の会，心理カウンセリング業務，心理カウンセラー，新潟市・にいがた母の会，2025.4.1-2026.3.31.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟市精神保健福祉審議会（委員）

5 学内委員会活動　教務委員会，社会連携推進センター運営委員会，学術委員会，学会誌編集委員会，発達科学センターあたま×こころ×からだ 発達ラボ（研究員）

氏名：小林　なぎさ

1 研究題目　ブリーフセラピーに関する研究，慢性疼痛に関する研究

2 著書

3 論文

1. 藤原航太，大友篤，小林なぎさ，伊達久．パニック症（パニック障害）を疑った胸部痛の一症例．慢性疼痛．2025; 44(1): 115-117.
2. 大友篤，佐藤亜莉奈，米沢瑞穂，鈴木皐平，大澤幸一，藤原航太，小林なぎさ，伊達久．帯状疱疹後の上肢麻痺に対し早期リハビリテーション介入により機能改善した症例．慢性疼痛．2025; 44(1): 125-129.

4 学会等研究発表

1. 小林なぎさ．CBTだけじゃない，心理アプローチ．第55回日本慢性疼痛学会（奈良市），2026.2.27.【依頼シンポジウム】

5 学会活動

1) 所属学会　日本心理臨床学会，日本家族心理学会，日本ブリーフセラピー協会，日本慢性疼痛学会，日本カウンセリング学会，日本運動器疼痛学会，日本ペインクリニック学会，日本家族療法学会

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. R7年度厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化等事業 東北ブロック，慢性疼痛の心理的アプローチ，講師，八戸市立市民病院，医療従事者，弘前市，2025.10.25.
2. R7年度厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化等事業 東北ブロック，慢性疼痛患者への心理的アプローチ，講師，仙台ペインクリニック，看護師，仙台市，2025.10.26.

7 学内委員会活動　個人情報保護委員会，健康管理センター運営委員会，メンタルヘルス支援室委員

氏名：千葉　陽子

1 研究題目　女性アスリートの発達心理学的研究，スポーツカウンセリングに関する研究

2 報告書

1. 千葉陽子．若手研究，アスリートの攻撃性を競技発揮に変換するMTプログラムの開発，研究成果報告書，2020.4-2025.3，研究代表者

3 学会等研究発表

1. 千葉陽子．進行性視覚障害を持つパラアスリートとの中断事例-慢性負傷と見えなくなることの意味をめぐって-．日本臨床心理身体運動学会・第27回大会（大阪・日本），2025.12.21.
2. 冨永哲志，大坪香菜子，奥野真由，千葉陽子．HPSCとスポーツ心理学会との連携・協働の在り方を考える．日本スポーツ心理学会・第52回大会（京都・日本），2025.9.26.
3. 千葉陽子．女性アスリート研究の動向と今後の課題－発達心理学的視点から-．東北心理学会・第78回大会（福島・日本），2025.8.31.

4　学会活動

1) 所属学会　日本スポーツ心理学会，日本スポーツ精神医学会，臨床心理身体運動学会，日本ユング心理学会，日本箱庭療法学会，東北心理学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本スポーツ心理学会，資格委員会部門員（社会連携部門に関わる業務）

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. アゴラ・さいころじぃ市民向け公開講座 日頃の困りごとを「心理学」で解決！「大事な場面で力を出すには」，講師，新潟医療福祉大学心理健康学科主催・公益社団法人日本心理学会共催，朱鷺メッセ，2025.5.31.
2. 第79回国民スポーツ大会に向けた講演会，選手の力を引き出す心理学的アプローチ－言葉がけのコーチング－，講師，新潟県競技スポーツ課，指導者，新潟ユニゾンプラザ，2025.6.28.
3. 柏崎水泳連盟主催「スポーツ心理」研修会，才能より習慣で選手は強くなる-結果を出すメンタル・伸びる心の育み方-，講師，柏崎水泳連盟，柏崎水泳連盟所属指導者・選手およびその保護者，かしわざき市民活動センターまちから，2025.11.28.
4. 2025年度第２回女性アスリート・指導者育成研修合宿「女性の心理とスポーツ」，講師，新潟県陸上競技協会・新潟医療福祉大学，新潟県の指導者・選手・保護者，新潟医療福祉大学，2025.11.9.
5. 第18回学生SMT（スポーツメンタルトレーニング指導士）研究会，SMTとしての仕事内容（業務内容や求められる姿勢）・風景構成法の技法講習および活用について・架空事例検討におけるディスカッション，講師，学生SMT指導士研究会，SMT指導士を目指す大学生・大学院生，大阪体育大学，2026.2.25-26.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，サポート事業講師（スポーツカウンセリング），2025.4.6-2026.3.31．36回実施.
2. 日本卓球協会・2025年スポーツ振興くじタレント発掘・一貫指導育成パスウェイ事業（U-10，U-15）近畿ブロック 選手および指導者，メンタル指導（講義）と個別相談，奈良県・シダーアリーナ，2025.10.17-10.19.
3. 日本卓球協会・2025年スポーツ振興くじタレント発掘・一貫指導育成パスウェイ事業（U-10，U-15）男子ホープス・カブ 選手および指導者，メンタル指導（講義）と個別相談，新潟県・新発田カルチャーセンター，2026.2.27-3.1.

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研究（C），女性ユースアスリートに対する有効な心理支援の開発 －生涯発達心理学に着目して－，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 奈良女子大学，運動文化特論，2025.9.14-9.17.（集中）
2. 仙台リゾート＆スポーツ専門学校，運動指導の心理学Ⅰ・Ⅱ，2025.4.1-2026.3.1.

7　学内委員会活動　スポーツカウンセリング研究センター（研究員），FD/SD推進委員会，キャリア支援センター運営委員会，安全衛生委員会

氏名：領家　梨恵

1　研究題目　強いストレスが後のストレス反応増大を引き起こす生物学的メカニズムの解明，老齢マウスを用いた加齢がもたらす行動と脳形態変化の相関解明

2　学会等研究発表

1. Ryoke R. Pharmacological Modulation of Stress-Related Fear and Brain-Immune Interactions in Rats. 日本動物心理学会・The 85th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology（京都・日本），2025.10.12.

3　学会活動

1) 所属学会　日本動物心理学会（編集委員，渉外幹事），日本生理心理学会，日本神経精神薬理学会，日本神経科学学会，Society for Neuroscience，日本行動神経内分泌研究会

4　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤（B），認知症におけるオートファジー障害の病態解明とPADREによる超早期画像診断法の開発，研究分担者
2. 2024年度，科研費基盤（C），新生仔期グルタミン酸NMDA受容体遮断が脳内ネットワーク形成に及ぼす影響の解明，研究分担者
3. 2025年度，科研費挑戦的研究（開拓），Functional Connectivityに着目した新規老化指標の創出

2) 学外兼務講師等

1. 東北大学加齢医学研究所，2025.4.1-2026.3.31.

5　学内委員会活動　科研費対策委員会，国家資格・資格試験対策委員会

氏名：溝江　唯

1　研究題目　自閉スペクトラム症児の言語表現の特徴，言語・コミュニケーション発達支援法に関する研究

2　著書

1. 大伴潔，橋本創一，溝江唯（編著）．言語・コミュニケーション発達の理解と支援：LC-Rを活用したアプローチ．学苑社；2025；1-203.
2. 大伴潔，溝江唯．第８章　言語・コミュニケーション障害児の理解と支援　教職課程コアカリキュラム対応版　キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育（第２版）尾高邦生・橋本創一・三浦巧也・渡邉貴裕・堂山亞希・熊谷亮・杉岡千宏・李受眞・日下虎太朗．福村出版；2025；62-67.
3. 溝江唯．第３章 自閉スペクトラム症児の言語・コミュニケーション発達の特徴と支援．知的障害のある子どもの言語・コミュニケーション．竹尾勇太・村尾愛美編．ジアース教育新社；2026：31-41.

3　学会等研究発表

1. 溝江唯．日本発達心理学会，ASD児の親子遊び場面における代名詞使用の特徴－社会的文脈に着目した予備的検討．日本発達心理学会，福岡，2026.3.3.

4　学会活動

1) 所属学会　日本発達心理学会，日本コミュニケーション障害学会，日本音声言語医学会，日本特殊教育学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本臨床発達心理士会新潟支部，研修会，研修会事務局，新潟，2025.12.6.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 市民向け公開講座「アゴラ・さいころじい　日頃の困りごとを『心理学』で解決！，発達とコミュニケーションの心理学，講師，新潟医療福祉大学心理健康学科，一般市民，朱鷺メッセ，2025.5.31.
2. 新潟市中地区公民館アクティブシニア講座，自分のあたりまえは，あたりまえじゃない？！～ コミュ

ニケーションと心理学〜，講師，中地区公民館，一般市民，東区プラザ，2025.11.15.

3. 新潟市小学校研究協議会,「言葉かけのユニバーサルデザイン」, 講師, 新潟市小学校研究協議会, 教員, オンライン，2025.12.10.
4. 新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部発達支援に関する支援者研修会，自閉スペクトラム症の特徴を知り支援に活かす，講師，佐渡地域振興局，支援者，オンライン，2026.2.16.
5. 村上市ことばとこころの相談室職員研修会，発達アセスメントと保護者との連携，講師，村上市ことばとこころの相談室，支援者，2026.3.2.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本臨床発達心理士会新潟支部，役員，新潟，2024-現在

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024-2026 研究活動スタート支援，自閉スペクトラム症児の自他の関係性を表す言語表現に関する検討，研究代表者
2. 2025-2027 若手研究 幼児期後期における自閉スペクトラム症児と養育者の相互交渉：遊びの種類が与える影響，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 群馬大学，リハビリテーション学特別セミナー，2025.7.27.

7　学内委員会活動　入試委員，高等教育推進委員，発達科学センター，こども総合支援センター

氏名：木村　能成

報告事項なし

氏名：石割　桂

報告事項なし

7）医療経営管理学部

（1）医療情報管理学科

氏名：稲葉　晋

1　研究題目　病院経営，地域医療計画と医療再編成

2　学内委員会活動　高大医連携推進委員会（副委員長）

氏名：木下　直彦

1　研究題目　データサイエンス，教育工学，ICT教育，キャリア形成に関する研究

2　論文

1. 坂井さなえ，瀧口徹，木下直彦．全国の病院に勤務する診療情報管理士（診療記録管理者）の学術活動に関する現状および課題に関する研究．診療情報管理．2025年37巻2号85-93

3　学会等研究発表

1. 大平朋幸，木下直彦．ICT支援員の業務分類とプロジェクトマネジメント知識体系（PMBOK）との関係分析．日本教育工学会（愛知）2025.9.
2. 眞田悠希，木下直彦．大学生のグループディスカッションにおける心理的安全性，発話内容に関する分析．新潟医療福祉学会（新潟）2025.10.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本教育工学会，情報処理学会，日本バイオインフォマティクス学会，日本災害看護学会，日本ベンチャー学会

5　社会活動

1) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟市医師会SWANネット運営部会（オブザーバー）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度　基盤C　戸田春男「ヒトの両眼視機能の破綻にかかわる脳活動と支援モデル作成の試み」戸田春男（研究分担者）
2. 2025年度　基盤C　戸田春男「AI模擬患者によるフィードバック機能を備えた外来がん電話相談教育システムの開発」渡邉千春（研究分担者）

2) 学内部活動の実績

1. 軽音学部顧問

7　学内委員会活動　広報委員会，大学院入試広報委員会，大学院教務委員会，大学院質保証委員会

氏名：鎌田　剛

1　研究題目　医療連携・多職種連携・医療と地域社会との連携（社会連携），地域社会の持続可能性

2　報告書

1. 鎌田剛．科研費基盤研究（C），ヘルスケア領域における次世代連携モデルの探索―医療連携・多職種連携から社会連携へ，研究成果報告書，2021-2024，研究代表者

3　学会等研究発表

1. 鎌田剛．「連携の統合ダイアグラム」―医療連携・多職種連携・社会連携の過程と構成概念の提案．第27回日本医療マネジメント学会学術総会（仙台市），2025.7.19.
2. 鎌田剛．医療福祉系学生の当事者意識をどう高めるか？― 認知症カフェに対する参加型研究の経過報告．地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク第4回全国の集い in 鶴岡（鶴岡市），2026.10.12.
3. 鎌田剛．医療マネジメント職の新たな職域の可能性 －“地域（まち）”という射程－．第25回新潟医療福祉学会学術総会（新潟市），2025.10.25.
4. 鎌田剛．新潟市在宅医療ネットワークの活動評価 ― ドナベディアン・モデルによる連携の構造・過程・

結果の分析．第14回新潟市医師会地域医療研究助成発表会（オンライン），2026.1.24.

5. 鎌田剛．社会連携とは何か．全国連携室ネットワーク第８回社会連携フォーラム（東京），2026.1.31.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本医療マネジメント学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本保健医療福祉連携教育学会，農村計画学会，地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク

2) 学術集会の主催

1. 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク，第４回全国の集い in 鶴岡，実行委員，鶴岡市，2025.10.12.

3) 学会等でのその他の活動

1. 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク，第４回全国の集い in 鶴岡，座長，鶴岡市，2025.10.12.
2. 全国連携室ネットワーク，第８回社会連携フォーラム（本学後援），企画ならびに当日運営・座長，東京，2026.1.31.
3. 農村計画学会誌，査読

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 日本海総合病院看護部クリニカルラダー研修３，リーダーシップ，講師，日本海総合病院看護部，看護師，日本海総合病院，2026.1.28.
2. 日本海総合病院看護部クリニカルラダー研修マネジメントラダー，連携，講師，日本海総合病院看護部，看護師，日本海総合病院，2026.2.10.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報，「認知症理解，関心を－新潟医福大生，当事者と製作・装飾品を販売」2025.6.23.
2. 新聞，新潟日報，「地域の台所 活気紡いで，松浜市－地元大学生が魅力発信」2025.12.6.（囲み記事）
3. 新聞，新潟日報，「新潟医福大生のまちづくり団体HAMATTE－発足半年イベント続々」2025.12.23.
4. 行政広報，松浜コミュニティだより第49号，「こらっせ松浜市」2025.7.18.
5. 行政広報，松浜コミュニティだより第50号，「大学生による松浜の地域課題調査を実施!!」2025.10.29.

3) 社会活動への参加協力

1. 松浜地区コミュニティ協議会，地域振興活動の企画・運営，産業経済部会員，新潟市北区，2025.4.1-2026.3.31.（計11回の会合等に参加）
2. 鶴岡市小堅地区自治振興会，移住体験事業のコーディネート，移住者向けシェアハウスの広報・入居付け等，山形県鶴岡市，2025.4.1-2026.3.31.（Webサイトの更新や移住希望者からの問い合わせ対応について計18回対応）
3. 松浜こども食堂，学生ボランティアの同行，学生指導・自らもボランティア，北区松浜の「しかい食堂」，2025.4.1-2026.3.31.（計10回参加）
4. 松浜地区コミュニティ協議会・令和７年度新潟県「地域の担い手創出支援事業補助金」採択，大学が協力し地域運営組織が申請する左記補助金について申請協力，新潟市北区，2025.6.10.採択交付決定
5. 第51回阿賀野川ござれや花火，レモネードスタンドの出店（小児医療寄付の活動），新潟北ライオンズクラブ事業に協力，北区松浜こらぼ家，2025.8.25.
6. キテミテキタクーフード＆キッズフェスタ，親子参加型のブース出店，企画・実施・学生指導，新潟市北区役所周辺，2025.9.28.
7. みどり病院認知症カフェ（NPO法人みどりの森），卒研ゼミ生のアクションリサーチとして収益した11,000円を寄付（その活動の企画・伴走），老人保健施設緑樹苑，2026.2.17.授与式

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

庄内緩和ケア推進協議会「庄内プロジェクト」（オブザーバー）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，令和7年度新潟市医師会地域医療研究助成，新潟市在宅医療ネットワーク20団体の活動評価― ドナベディアン・モデルによる連携の構造・過程・結果の分析 ―，研究代表者

7　学内委員会活動　新潟連携教育研究センター運営委員会（副委員長），高大医連携推進委員会（委員）

氏名：塚本　徹雄

1　研究題目　地域別の医療職就業率，外来受療率（気分障害），自殺率の研究

2　学会等研究発表

1. 坂井さなえ，提坂龍斗，本間萌亜，阿部翔流，上林万莉，込山夏芽，土屋美怜，松本菜々香，塚本徹雄．ウィキペディア「診療情報管理士」加筆活動とその前後の閲覧頻度について．第51回日本診療情報管理学会学術大会，2025.8.28，大宮．
2. 塚本徹雄．感情調節障害に関する文献レビューと考察．第25回新潟医療福祉学会学術集会，2025.10.25，新潟．
3. 塚本徹雄．病院に勤務する医療職の採用比率（47都道府県）の変化（2020年～2023年），2025.10.30，静岡．

3　学会活動

1) 所属学会　日本公衆衛生学会，日本分子生物学会，日本診療情報管理学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. AIDS（国際誌），編集活動，編集委員，2025.4-2026.3.（継続中）
2. Frontiers in Cellular and Infection Microbiology（国際誌），編集活動，編集委員，2025.4-2026.3.（継続中）
3. Vaccines（国際誌），査読活動，査読委員，2025.4-2026.3.（継続中）
4. Infection and Drug Resistance（国際誌），査読委員，2025.4.
5. HIV/AIDS - Research and Palliative Care（国際誌），査読委員，2025.5.
6. International Medical Case Reports Journal（国際誌），査読委員，2026.3.
7. Journal of Immunology（国際誌），査読委員，2025.6.
8. Viruses（国際誌），査読委員，2025.4.
9. International Journal of Molecular Sciences（国際誌），査読委員，2025.7.
10. Tropical Medicine and Infectious Disease（国際誌），査読委員，2026.2.

4　学内委員会活動　FD・SD推進委員会，国家試験・資格試験対策委員会

氏名：井上　弘樹

1　研究題目　医療の判断と意思決定に関する研究（医学統計学・計算数学・保健経済学），健康影響ならびに医療の質の評価と仮説探索ならびに仮説検証に関する研究（疫学），薬剤有害事象のシグナル検出に関する研究（薬剤疫学），医療情報のデータマネージメントに関する研究（医療情報学），ベイズ推測のためのモデリング作成支援ツールの開発，ベイズ統計学的手法を視覚化した医学判断ツールの開発（医学統計学・医学判断学）

2　論文

1. Uchiyama H, Inoue H. Predictors of Self-Perceived English Proficiency among Adults in Japan. CSRDA Discussion Paper Series. 2025; 121: 1-23.
2. Uchiyama H, Sakamoto N, Inoue H. Shared predictors of self-assessed English language proficiency among adults across three East Asian countries. JAILA Journal. 2026; 12: 97-115. (review)

3　学会等研究発表

1. Uchiyama H, Sakamoto N, Inoue H. Bivariate analysis of factors associated with Japanese high school students' choice of humanities and social sciences or STEM fields. The 14th Annual Meeting of

the Japan Association of International Liberal Arts (Sendai City), 2026.3.14.

2. 井上弘樹，内山八郎．AI導入によるStan言語編集ソフトへのプログラム文法チェック機能搭載の試み．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　日本医療情報学会，日本国際教養学会，日本ソフトウェア科学会，新潟医療福祉学会，日本社会薬学会，日本薬剤疫学会，日本公衆衛生学会，日本消化器内視鏡学会，日本消化器病学会，日本内科学会，信州公衆衛生学会

5　学内委員会活動　入試委員会，健康管理センター運営委員会，メンタルヘルス支援室委員，ハラスメント調査委員

氏名：栗井　英大

1　研究題目　ファミリービジネスにおける事業承継プロセス，事業承継における心理的所有権の時系列的変化

2　著書

1. 栗井英大，有元知史，曽国哲，張文婷，程引弟，東城歩；新潟大学アジア連携研究センター附置中小企業ナレッジネットワークセンター編，新潟の地域企業とそのネットワーク　－地域に根ざした企業経営の事例－，初版，新潟：新潟日報メディアネット；2026年：4-39，110-116

3　論文

1. 栗井英大．ファミリービジネスの事業承継における権限移行プロセス:事例比較を通じたパターンの導出，新潟大学大学院現代社会文化研究科共生社会研究専攻博士後期課程，博士論文．2025年；1-122（査読あり）

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本中小企業学会，日本ベンチャー学会，日本マネジメント学会，ファミリービジネス学会，地域経営学会

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 大人になる前に知っておきたいお金の話，講演者，新潟県立新潟翠江高等学校，高校生，新潟市，2025.11.5.
2. 大人になる前に知っておきたいお金の話，講演者，新潟県立新潟工業高等学校，高校生，新潟市，2025.12.17.
3. 大人になる前に知っておきたいお金の話，講演者，新潟県立新潟翠江高等学校，高校生，新潟市，2026.2.6.
4. 株式会社とは？，講演者，新潟市立白根北中学校，中学生，新潟市，2026.2.6.
5. 大人になる前に知っておきたいお金の話，講演者，新潟県立新潟商業高等学校，高校生，新潟市，2026.2.18.
6. 起業とは？，講演者，新潟市立白根北中学校，中学生，新潟市，2026.2.20.
7. 経営者セミナー，人材不足時代における運輸業の組織戦略，新潟県トラック協会新潟支部，運輸業経営者，新潟市，2026.2.12.
8. 大人になる前に知っておきたいお金の話，講演者，新潟県立吉田高等学校，高校生，燕市，2026.3.13.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新潟総合テレビ，NST Newsタッチ，”トランプ関税”県内企業も不安視，2025.4.5.
2. 新潟放送，BSN NEWS ゆうなび，第四北越FGと群馬銀行が基本合意，2025.4.24.
3. 新潟総合テレビ，NST Newsタッチ，第四北越FG 群馬銀と経営統合へ，2025.4.24.
4. 新潟テレビ21，スーパーJにいがた，第四北越FG・群馬銀行 経営統合を発表，2025.4.24.
5. 新潟総合テレビ，NST Newsタッチ，関税”日米合意”県内への影響は，2025.7.25.
6. 新潟放送，BSN NEWS ゆうなび，利上げに株高 どうなる2026年の景気，2026.1.7.

7. 新潟放送，BSN NEWS ゆうなび，米・イスラエルのイラン攻撃 すでにガソリンが…県経済への影響は，2026.3.3.
8. 新潟総合テレビ，NST 公式YouTube，「お金の学校」，2026.1.16.
9. 新潟総合テレビ，NST 公式YouTube，「お金の学校」，2026.1.23.
10. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，米国相互関税，2025.4.9.
11. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，投資，2025.4.16.
12. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，外国人観光客，2025.4.23.
13. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，ちいかわ，2025.4.30.
14. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，第四北越銀行と群馬銀行の経営統合，2025.5.7.
15. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，大阪・関西万博開幕から1か月，2025.5.14.
16. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，株式会社ワークマン，2025.5.21.
17. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，同意なきTOB，2025.5.28.
18. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，令和の米騒動，2025.6.4.
19. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，Switch2，2025.6.11.
20. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，ニトリ，2025.6.18.
21. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，株主総会，2025.6.25.
22. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，日本郵便，2025.7.2.
23. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，長岡花火，2025.7.9.
24. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，遺族厚生年金，2025.7.16.
25. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，フラー株式会社，2025.7.23.
26. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，相互関税，2025.7.30.
27. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，猛暑，2025.8.6.
28. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，シェアリングエコノミー，2025.8.13.
29. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，鬼滅の刃，2025.8.20.
30. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，LEON，2025.8.27.
31. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，AIとロボット，2025.9.3.
32. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，東京2025世界陸上，2025.9.10.
33. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，大阪・関西万博，2025.9.17.
34. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，日銀のETF売却，2025.9.24.
35. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，最低賃金，2025.10.1.
36. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，日産自動車とマリノス，

2025.10.8.
37. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，金投資，2025.10.15.
38. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，ネーミングライツ，2025.10.22.
39. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，高市政権，2025.10.29.
40. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，クレジットカード不正利用，2025.11.5.
41. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，ラーメン消費金額，2025.11.12.
42. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，マンション高騰，2025.11.19.
43. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，豆乳市場，2025.11.26.
44. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，株式投資，2025.12.3.
45. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，ガソリンの暫定税率，2025.12.10.
46. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，日経ヒット番付，2025.12.17.
47. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，2025年振り返り，2025.12.24.
48. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，2026年の経済展望，2026.1.7.
49. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，クスリノアオキ，2026.1.14.
50. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，日銀の政策金利，2026.1.21.
51. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，パープル企業，2026.1.28.
52. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，ミラノ・コルティナ冬季五輪，2026.2.4.
53. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，農林水産物・食品輸出，2026.2.11.
54. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，アパグループ，2026.2.18.
55. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，クレジット決済，2026.2.25.
56. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，第二次高市政権，2026.3.4.
57. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，東日本大震災から15年，2026.3.11.
58. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，原油高騰，2026.3.18.
59. ラジオ，石塚かおりのBrand new day「ピンチでチャンス　経済ヒトツマミ」，公示地価，2026.3.25.
60. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，大坂・関西万博 経済波及効果は2.9兆円，2025.4.13.（囲み記事）
61. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，第四北越統合へ 新潟県経済活性化するか，2025.5.11.（囲み記事）

62. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，新潟三大高市 祭り楽しみ地域活性化，2025.6.8.（囲み記事）
63. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，枝豆 山盛りで楽しむ夏の味，2025.7.13.（囲み記事）
64. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，上場 会社を成長させる一手段，2025.8.10.（囲み記事）
65. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，東京2025世界陸上，2025.9.14.（囲み記事）
66. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，きのこ生産量全国２位，2025.10.12.（囲み記事）
67. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，五泉ニットフェス，2025.11.9.（囲み記事）
68. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，アルビJ2降格，2025.12.14.（囲み記事）
69. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，2026年の日本経済，2026.1.11.（囲み記事）
70. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，スキー場数全国３位，2026.2.8.（囲み記事）
71. 新聞，新潟日報社ふむふむJ，オイシックス新潟，2026.3.8.（囲み記事）
72. 新聞，新潟日報社 経済面，変わる地域金融 人口減取引先疲弊に危機感，2025.8.8. コメント掲載
73. 新聞，新潟日報社 経済面，金融知識普及 本県２人を表彰，2026.3.24. コメント・写真掲載
74. 新聞，日本経済新聞 地域面，新潟の２氏，金融知識普及で受賞，2026.3.24. コメント掲載

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
①公益財団法人にいがた産業創造機構（理事），②新潟県産業労働部地域産業振興課 新潟県大規模小売店舗立地審議会（委員），③新潟県産業労働部 創業・イノベーション推進課，起業意識醸成事業業務委託審査委員会（審査委員），④新潟県産業労働部 創業・イノベーション推進課，起業家支援オンラインコミュニティ形成・起業家支援コミュニティ形成事業費補助金審査委員会（審査委員），⑤新潟県産業労働部 産業立地課，新潟県未来創造産業立地促進補助金（製造業等立地支援型）に係る審査委員会（審査委員）⑥新潟県産業労働部 創業・イノベーション推進課，令和７年度「J-Startup NIIGATA企業選定」に係る審査委員会（審査委員）

6 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得
博士（経済学）（2025.9.30），金融知識普及功績者表彰（2026.3.10）

2) 学外兼務講師等
1. 開志専門職大学，地域資源活用の事例研究，2025.4.1-9.30.
2. 国際情報大学，情報文化，2025.4.1-9.18.
3. 長岡科学技術大学，地域経営概論，2025.4.1-8.31.
4. 長岡科学技術大学，経営学概論，2025.9.1-2026.3.31.
5. 長岡造形大学大学院，起業演習，2025.4.1-2026.3.31.
6. 新潟青陵大学および新潟青陵大学短期大学部，経営学および現代経営入門，2025.9.29-2026.3.31.

7 学内委員会活動 社会連携推進センター運営委員会（委員），キャリア支援センター運営委員会（委員）

氏名：寺島 和浩

1 研究題目 ３次元運動解析のための解析システムの開発，情報リテラシー教育に関する研究，データサイエンスリテラシーレベルに関する研究

2 学会活動

1) 所属学会 日本機械学会，バイオメカニズム学会，日本臨床バイオメカニクス学会，日本生体医工学会，日本ロボット学会，電子情報通信学会，日本生活支援工学会，新潟医療福祉学会

3 学内委員会活動 人権委員会，個人情報保護委員会，高等教育推進センター運営委員会

氏名：平井 克之

1 研究題目 参考文献文字列の書誌同定に関する新規技術の開発

2 学会等研究発表

1. Hirai K, Kanazawa T, Hayashi T. A Lexically-Driven Adaptive Validation Framework for Search-

Based Reference Matching.2025 ACM/IEEE Joint Conference on Digital Libraries (JCDL). 320-323. 2025.12.

2. 平井克之，神谷圭翔，安達未夏，栗川晴菜，佐藤月那，情野詩，二瓶葵，奥村遥，加藤創汰，小池大輔．小学校体育授業支援に向けたボール位置記録システムの実現性検討．2026年電子情報通信学会総合大会（福岡市）．2026.3.
3. 谷川明英，林貴宏，金澤輝一，平井克之．日本語論文を対象とした全文検索に基づく書誌同定システムの試作．2026年電子情報通信学会総合大会（福岡市）．2026.3.
4. 清水駿甫，林貴宏，金澤輝一，平井克之．書誌同定へ向けた参考文献文字列中からの雑誌名表記ゆれ抽出．2026年電子情報通信学会総合大会（福岡市）．2026.3.
5. 神谷遥音，林貴宏，金澤輝一，平井克之．縦書き論文PDFからの参考文献文字列の抽出法の検討．2026年電子情報通信学会総合大会（福岡市）．2026.3.

3　学会活動

1) 所属学会　情報科学技術協会（シンポジウム実行委員），リサーチ・アドミニストレーション協議会（ジャーナル編集委員），情報処理学会，人工知能学会，新潟医療福祉学会（理事・会計担当）

2) 学術集会の主催

1. 情報科学技術協会，情報プロフェッショナルシンポジウムINFOPRO2025，シンポジウム実行委員，東京，2025.12.4-12.5.

4　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科学研究費補助金基盤研究（C），新規書誌同定技術による和文の引用データベースの構築，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 事業創造大学院大学，IT基礎技術，2025.4.1-9.30.

5　学内委員会活動　科研費対策委員会，URA推進委員会（副委員長），大学院教育研究環境委員会，動物実験委員会，学術委員会，学生委員会

氏名：坂井　さなえ

1　研究題目　全国の病院に勤務する診療情報管理士（診療記録管理者）の学術活動に関する現状および課題に関する研究

2　論文

1. 坂井さなえ，瀧口徹，木下直彦．全国の病院に勤務する診療情報管理士（診療記録管理者）の学術活動に関する現状および課題に関する研究．日本診療情報管理学会．2025；37(2)：85-93

3　学会等研究発表

1. 坂井さなえ，提坂龍斗，本間萌亜，阿部翔琉，上林万莉，込山夏芽，土屋美怜，松本菜々香，塚本徹雄．ウィキペディア「診療情報管理士」加筆活動とその前後の閲覧頻度について．日本診療情報管理学会・第51回日本診療情報管理学会学術大会（埼玉県さいたま市），2025.8.28-8.29.
2. 坂井さなえ．プロ野球球団における傷病情報の記録精度とチーム成績の関連性－診療情報管理士の職能拡張の可能性に関する一考察－．新潟医療福祉学会・第25回新潟医療福祉学会学術大会（新潟市），2025.10.25.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，日本診療情報管理学会，日本診療情報管理士学会，日本医療秘書学会，日本公衆衛生学会

5　学内委員会活動　国家試験・資格試験対策委員会

氏名：谷　賢太朗

1　研究題目　視覚障がい者向けの救急救命支援アプリケーションの開発，災害避難シミュレーション，視覚障がい者向け入力デバイスの開発，マルチエージェントシステムを利用した人工学級シミュレーション

2　論文

1. 河内了輔，高野壮大，米倉寛稀，中道寛，谷賢太朗，前田義信，新川拓也．視覚障がい者と晴眼者が共に遊戯できるテーブルゲームシステムの構築～システム設計とシミュレーションによる戦略性の検証～．ライフサポート．2025; vol.37，no.3，pp.95-100

3　学会等研究発表

1. 菊池一温，谷賢太朗，田中恒彦，山﨑達也，前田義信．マルチエージェントシステムを用いた学級の集団規範形成に関する研究．2026年電子情報通信学会総合大会（福岡県・日本），2026.3.12.
2. 岡本明優，谷賢太朗，前田義信．男性的エージェントと女性的エージェントを取り入れた人工学級シミュレーション．電子情報通信学会技術研究報告，CAS2025-55（東京都・日本），2026.1.22.
3. 北村拓美，谷賢太朗，田中恒彦，山﨑達也，前田義信．観衆・傍観者ダイナミクスを導入した人工学級モデルにおける集団的排除の創発．電子情報通信学会技術研究報告，CAS2025-55（東京都・日本），2026.1.22.
4. 谷賢太朗，渡辺康生，中川晏茉，井上知，渋木陽翔，二瓶楽斗，橋本滉聖，大沼優心，小林愛佳．教育現場の業務効率化のための試験問題のフォーム変換ツールの開発の試み．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟県・日本），2025.10.25.
5. 前田義信，小里将矩，谷賢太朗，田中恒彦，山﨑達也．人工学級ゲームの開発と教育現場への応用の経緯．第24回日本VR医学会学術大会，2025.8.30.
6. 濁川由，北村拓美，谷賢太朗，前田義信，活動グループの形成を考慮した生徒エージェントベースモデル－グループといじめの関係性について－，電子情報通信学会技術研究報告，CAS2025-7（青森県・日本），2025.6.19.
7. 濁川由，北村拓美，谷賢太朗，前田義信，活動グループの形成を考慮した生徒エージェントベースモデル－グループといじめの関係性について－，電子情報通信学会技術研究報告，CAS2025-7（青森県・日本），2025.6.19.
8. 小里将矩，濁川由，菊池一温，谷賢太朗，田中恒彦，山﨑達也，前田義信．人工学級ゲームを用いた小学生の行動調査，電子情報通信学会技術研究報告，ICD-CAS研究会（沖縄県・日本），2025.12.6-12.8.

4　学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，電子情報通信学会，日本生活支援工学会，日本ベンチャー学会

5　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度，科研費若手研究，六点入力方式を利用したモバイル端末向け新型入力装置の開発，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟国際情報大学（情報処理演習１），2025.4.1-9.31.
2. 新潟国際情報大学（情報処理演習２），2025.10.1-2026.3.31.

6　学内委員会活動　教務委員会，高等教育推進センター運営委員会

氏名：柴山　純一

1　研究題目　病院の経営診断・改善手法の研究，早期治癒体制を目指した病院の部門別業務体制と経済性の評価，病院部門効率化方策の研究

2　学会等研究発表

1. 柴山純一，會田和也，五十嵐心花，大沼芽生，重川龍，金子真夕，牧野茉緒．新潟県の自治体病院における経営への影響要因の分析，第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2025.10.25.

3　学会活動

1) 所属学会　日本手術医学会（評議員），新潟医療福祉学会

氏名：鈴木　健司

報告事項なし

氏名：石浦　章一

1　研究題目　アルツハイマー病の治療

2　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 同志社D.M.C 健康寿命を延ばす頭，身体の鍛え方，同志社大学同窓会　2025.4.21.
2. 明星高校 探究活動を始めよう-大学での学問につなげるために-　明星高校１年生　2025.4.26.
3. 盛岡第一高校　探究活動を大学での学問につなげるために，高校１年生　2025.6.4.
4. 早稲田大学同窓会　感覚を鍛えて認知症を予防する，同窓会東東京支部　2025.6.22.
5. 逗子開成高校　探究活動を大学での学問につなげるために，高校１年生　2025.10.1.
6. 札幌日大中学校，高校　探究活動を大学での学問につなげるために，中学３年生，高校１年生　2025.11.29.
7. 三鷹市多世代交流センター　運動すると長寿？，高齢者　2026.2.17.
8. 熊本学園大学付属高校　探究活動が必要なわけ～大学での勉強につなげるために～，高校１年生　2026.3.13.

2) 社会活動への参加協力

1. 理数教育研究所，小中高の理科数学の教育，理事
2. 雑誌「遺伝」，編集委員
3. Wedge，2026.1，フェイクニュース時代の科学情報との向き合い方

3　その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 京都先端科学大学，未来展望ゼミ，2024.4-2025.1.（リモート）
2. 京都先端科学大学，科学技術の革新，2024.4-2025.1.（リモート）
3. 同志社大学，サイエンスナウ７，2024.12.

氏名：瀧口　徹

報告事項なし

氏名：市川　明弘

1　研究題目　中小企業の経営に関する研究

2　学会等研究発表

1. 市川明弘，熊倉真穂，地方独立行政法人化による公立病院の経営改善の成功要因に関する研究，日本経営診断学会 第58期第６回関東・東北部会（武蔵野市）2025.8.23.
2. 市川明弘，大西樹生，片貝虹楓，山岸琉愛，戸井田玲，星ひより，山際佑茉，高松美結，横地紗奈，髙野晃輔，期間限定商品の定番化による消費者心理への影響－スターバックス「スイートミルクコーヒー」の事例研究－，第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）2025.10.25.
3. 市川明弘，笠原萌恵，内山廉，小野勇斗，田辺侑里，田村晃大，堀智哉，水澤凛子，公立病院におけるコロナ前後の病床数別経営分析－財務データを用いた比較分析－，第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）2025.10.25.

3　学会活動

1) 所属学会　日本経営診断学会，日本介護福祉学会，日本地方自治研究学会，日本マーケティング学会，新潟医療福祉学会

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 群馬県中小企業診断士受験講座，中小企業経営・政策，講師，社会人・学生，高崎商科大学，2025.4.12，5.17，6.14.
2. 商工会経営指導員研修会，介護サービス事業者の賃上げ支援について，講師，新潟県商工会連合会，商工会経営指導員，マルタケホール，2025.10.17.
3. 群馬県中小企業診断士の日記念イベント，医療福祉事業の経営支援について，講師，群馬県中小企業診断士協会，中小企業経営者・中小企業支援事業者，Zoom，2025.11.14.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県中小企業診断士協会広報委員会，協会広報誌の作成・中小企業診断士を目指す人の情報交換サロンの企画・協会ホームページの運営，委員，新潟市・万代市民会等，2025.5.21，9.29，2026.3.30.
2. 新潟県中小企業診断士協会理事会，組織の運営方針・事業計画の策定・承認・予算・決算の審議と承認・協会行事の企画・運営・関係機関との連携・調整，理事，新潟市・新潟グランドホテル等，2025.5.14，7.9，9.10，12.11，2026.2.18，3.18.
3. 新潟県中小企業診断士協会総会，決算の報告・事業計画の実施報告・予算の承認・事業計画の承認，理事，新潟市・新潟グランドホテル，2025.5.31.
4. 中小企業診断士を目指す人のサロン，診断士を目指す人向けの情報交換・交流会の開催，企画・運営・司会，新潟市・万代市民会，2025.6.7.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県中小企業診断士協会（理事，広報委員）

5　学内委員会活動　キャリア支援センター運営委員会，社会連携推進センター運営委員会

氏名：高野　晃輔

1　研究題目　通いの場の介護予防効果・コミュニティ構造分析，テキストデータの解析による研究動向分析

2　論文

1. Takano K, Kinoshita N, Osabe C, Minagawa R, Kudo Y, Ihara T, Zhenghao Yan, Abe H, Thi Ha Le, Kobayashi F, Watarai Y, Ishiwata K, Fukai K, Takiguchi T. Analysis of Time-Series Variation Patterns of Total Fertility Rate for the Last 20 Years (2000-2020) in 335 Secondary Medical Areas in Japan and its Association with Social Status of Women. Niigata Journal of Health and Welfare. 2025; 24(2): 21-36. (review)
2. 皆川璃子，眞田悠希，熊倉真穂，高野晃輔，相馬涼加，白井菜々，井上彩花，佐藤真琴，高橋柚葉，渡辺奈央，石上和男．COVID-19感染者数とワクチン接種率に関する生態学的研究－新潟県内30市町村と全国47都道府県の状況－．新潟医療福祉学会誌．24(3): 47-55.（査読あり）

3　学会活動

1) 所属学会　日本公衆衛生学会，日本遠隔医療学会，情報処理学会，日本診療情報管理学会，新潟医療福祉学会

4　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 講習会，通いの場の効果と課題について，講師，新潟市秋葉区社会福祉協議会，荻川地区内の通いの場の各代表者，荻川コミュニティセンター，2025.7.22.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟商工会議所，新潟まつり万代太鼓演奏（依頼演奏），和太鼓部顧問，新潟駅南口広場，2025.8.8.
2. オイシックス新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ，コラボイベント（依頼演奏），和太鼓部顧

問，ハードオフエコスタジアム，2025.9.7.

3. 特定非営利活動法人 森の会，海辺の森アートフェスティバル（依頼演奏），和太鼓部顧問，新潟市北区 海辺の森，2025.9.27.
4. 新潟オーガニック連絡協議会，オーガニックフェスティバル（依頼演奏），和太鼓部顧問，新潟市 新潟ふるさと村，2025.10.26.
5. 新潟万代太鼓振興会，万代太鼓フェスティバル（依頼演奏），和太鼓部顧問，新潟市民芸術文芸会館りゅーとぴあ，2025.11.16.
6. 日本の建国を祝う新潟の会 実行委員会，第11回日本の建国を祝う新潟の会（依頼演奏），和太鼓部顧問，新潟市民プラザ，2026.2.11.
7. オイシックス新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ，依頼演奏，吹奏楽部顧問，ハードオフエコスタジアム，2025.8.21.
8. 特定非営利活動法人 森の会，海辺の森アートフェスティバル（依頼演奏），吹奏楽部顧問，新潟市北区 海辺の森，2025.9.27.
9. NPO法人eばしょ結屋，依頼演奏，吹奏楽部顧問，結屋，2025.11.29.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟市北区・海辺の森交流拡大委員会（アドバイザー）

5 学内委員会活動　教務委員会，国際交流センター運営委員会，同窓会・生涯学習連携推進委員会

氏名：熊倉　真穂

報告事項なし

氏名：皆川　璃子

1 研究題目　公的統計を用いた地域医療に関する研究

2 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会，口腔衛生学会

3 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得
医療情報技師（2025.11.1）

4 学内委員会活動　図書館・学修支援委員会，入試委員会

氏名：眞田　悠希

1 研究題目　大学生のグループディスカッションに関する実験的研究，国保連連合会データを使用した医療費分析

2 学会等研究発表

1. 眞田悠希，木下直彦．大学生のグループディスカッションにおける心理的安全性，発話内容に関する分析．第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市・日本），2025.10.25.

3 学会活動

1) 所属学会　新潟医療福祉学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 集いの場の意識調査報告会，お茶の間サロン交流会，集いの場の意識調査報告，地域共生社会の発展，秋葉区社会福祉協議会，荻川地区のお茶の間参加者，新潟県新潟市秋葉区，2025.7.22.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
胎内市健康づくり推進協議会（委員）

5 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

修士（医療情報・経営管理学）（2026.3.31），一般社団法人日本医療情報学会　医療情報基礎知識検定試験（2025.6.20）

6　学内委員会活動　広報委員会（委員），高大医連携推進委員会（委員）

氏名：大平　朋幸

1　研究題目　初等中等教育におけるICT機器利活用の動向推移に関する研究

2　学会等研究発表

1.　大平朋幸，木下直彦．ICT支援員の業務分類とプロジェクトマネジメント知識体系（PMBOK）との関係分析．日本教育工学会2025年度秋季全国大会（愛知県名古屋市），2025.9.27-9.28.

3　学会活動

1) 所属学会　日本教育工学会，新潟医療福祉学会

８）教育・学生支援機構

氏名：五十嵐　紀子

1　研究題目　ヘルスコミュニケーション，コミュニケーション教育，ペット飼育支援に関する人と動物の福祉

2　著書

1. 石黒武人，柿田秀樹，松島綾，松本健太郎，中西満貴典，谷島貫太，奥野克巳，菅野遼，森田系太郎，小坂貴志，藤巻光浩，塙幸枝，齋藤光之助，藤野陽平，宮脇かおり，五十嵐紀子．ポストヒューマン時代のコミュニケーション学：モノと主体の関係を問い直すための視点と事例．京都：ナカニシヤ出版；2025：165-172.

3　学会等研究発表

1. 五十嵐紀子．頑なな心が溶けるとき：猫問題をめぐる語りから．日本コミュニケーション学会九州支部第32回大会（沖縄），2025.11.29.
2. 會澤まりえ，小林葉子，宮曽根美香，関久美子，川内規会，五十嵐紀子．ラウンドテーブルディスカッション：海外研修引率を通して触れる異文化理解，オンライン，2026.2.27.

4　学会活動

1) 所属学会　日本コミュニケション学会（事務局長），日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構（代議員）

2) 学術集会の主催

1. 日本コミュニケーション学会，第54回年次大会，学会事務局，広島市，2025.6.7-6.8.

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. とよさか中高年教養大学，ペットとの幸せで安心な暮らしのために必要なこと，講師，新潟市北区，新潟市北区民中高年者，葛塚コミュニティセンター，2025.4.24.
2. 新潟県看護協会四職能委員会合同集会講演，「”がん”のち，晴れ」が繋ぐ出会いとコミュニケーション，講師，看護師・助産師・保健師・養護教諭，新潟グランドホテル，2025.6.18.
3. 対人コミュニケーション論招聘授業（講演），キャンサーギフトという生き方：乳がんになったコミュニケーション研究者にとっての”キャンサーギフト”とは，講師，青森中央学院大学，看護学部学生，オンライン，2025.6.13.
4. 介護福祉士ファーストステップ研修，コミュニケーション技術，講師，新潟県介護福祉士会，新潟市ユニゾンプラザ，2025.7.20，8.3.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 一般雑誌，新潟の介護の仕事がよくわかる（ドットコム・マーケティング），外国人スタッフと共に働くために大切なこと，2025.9.30.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟市動物愛護協会，人と動物の共生社会の実現を目指した活動，理事，新潟市，年間３回.
2. 新潟はっぴー乳ライフ，乳がん検診受診率向上のための活動，委員，2025.4.1-2026.3.31.
3. リレー・フォー・ライフ・ジャパン・にいがた実行委員会，がん征圧・がん患者支援のための活動，副実行委員長，2025.4.1-2026.3.31.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟市環境審議会（委員），新潟市国民健康保険運営協議会（委員）

6　その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績

1. 茶道部，茶道の稽古及び学内外での茶会開催等，年間を通しての活動（顧問）
2. 学生ねこ部，学内外での保護猫活動後方支援，年間を通しての活動（顧問）

2) 学外兼務講師等

1. 新潟食料農業大学，コミュニケーション論，2025.9.1-2026.3.31.

2. 長岡崇徳大学，コミュニケーション論，2025.10.1-2026.3.31.

7 学内委員会活動　中央教育センター運営委員会（委員長），シティズンシップ教育実践研究センター（研究員）

氏名：豊田　典子

1 研究題目　第２言語習得理論，多様性社会における医療福祉コミュニケーション（医療におけるやさしい日本語）

2 学会等研究発表

1. Akiho-Toyoda N.【単独】Case study report on interdisciplinary collaboration and animation production for conveying holistic approaches in Occupational Therapy. Making Animation: Independent Voices From Asia Symposium 2025（シンガポール・シンガポール），2025.11.
2. Akiho-Toyoda N.【単独】Animating Medicine: Interdisciplinary Exploration of Animation's Impact on Healthcare Communication and Education within Graphic Medicine. Graphic Medicine International Conference（新潟市），2025.3.

3 学会活動

1) 所属学会　Asia TEFL，日本グラフィック・メディスン協会（JGMA），日本情報科教育学会（JAEIS），新潟医療福祉学会（理事）

2) 学術集会の主催

1. 日本グラフィック・メディスン協会（JGMA），第４回新潟国際アニメーション映画祭（NIAFF2026）提携 グラフィック・メディスン医療シンポジウム，企画運営・座長（主催運営協力），新潟市，2026.2.23.

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. とよさか中高年大学，海外の健康習慣，講師，参加登録者向け，豊栄市，7.24.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新潟日報デジタル，2.22開催のシンポジウム『失敗を隠す，患者への否定的な思い…医療従事者の「恥」に焦点当てる　2.22，新潟市中央区でシンポジウム』，2.15掲載．URL　https://www.niigata-nippo.co.jp/articles/-/779809
2. 新聞，新潟日報（新潟日報社），「にいがたアニメーションキャンプ2025」における医療・アニメーション連携の取り組み紹介，2025.8.24.
3. 新聞，新潟日報（新潟日報社），アニメーションキャンプに世界から若手が参加「若手育成人材のハブに」，2025.3.24.

3) 社会活動への参加協力

1. 一般社団法人 Quality of Life Foundation，国際医療交流事業，交流事業通訳，神奈川県，1.2.
2. 一般社団法人 Quality of Life Foundation，国際医療交流事業，交流事業通訳，東京都港区ラオス大使公邸，2.17.
3. リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた実行委員会（公益財団法人日本対がん協会），がん患者支援およびがん征圧チャリティーイベントにおける受付ブース担当），新潟市・新潟県スポーツ公園カナール広場，2025.10.18-10.19.
4. 一般社団法人 Quality of Life Foundation，国際医療交流事業（東大病院と駐日大使会議などへの翻訳・英語サイト執筆・通訳・運営協力（その他多職種連携啓発活動），運営協力，2025.4.1-2026.3.31.（通年活動）
5. 大阪万博，ボランティアスタッフ英語指導，大阪市，4月

5 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 開志専門職大学，コンテンツ英語I/II，2025.4-2026.3.

2. 北里大学保健衛生専門学院「国際看護学総論」，2025.8.5.

氏名：今井　理恵

1 研究題目　ジャンル準拠指導と評価に基づくパフォーマンス課題の開発（英語教育学），応用言語学の新しい成果を活かす学校英語教育の研究（英語教育学および応用言語学），内外の応用言語学研究で新しく提案される概念や枠組みを，日本語を母語とする学習者に対する学校英語教育においてどのように活用できるかを探る研究（英語教育学および第二言語習得理論），日本人学習者のための批判的思考力測定テストの開発（外国語教育）

2 著書

1. 飯野厚，田嶋美砂子，稲垣善律，今井理恵，大畑甲太，加藤淳，将司敬子，外山徹，藤井彰子，藤吉大介，和田俊彦，Brian Wistner. 文部科学省検定済教科書　高等学校外国語科用　MY WAY English CommunicationnⅡ New Edition. 東京：三省堂；2025：1-182.
2. 飯野厚，田嶋美砂子，稲垣善律，今井理恵，大畑甲太，加藤淳，将司敬子，外山徹，藤井彰子，藤吉大介，和田俊彦，Brian Wistner. 文部科学省検定済教科書　高等学校外国語科用　MY WAY English CommunicationⅠ New Edition. Teacher's Book. 東京：三省堂；2025：1-158.
3. 飯野厚，田嶋美砂子，稲垣善律，今井理恵，大畑甲太，加藤淳，将司敬子，外山徹，藤井彰子，藤吉大介，和田俊彦，Brian Wistner. 文部科学省検定済教科書　高等学校外国語科用　MY WAY English CommunicationⅠ New Edition. Teacher's Manual　解説と指導書編. 東京：三省堂；2025：1-348.

3 論文

1. 今井理恵，峯島道夫.「学習指導要領の「言語活動の例」は「まとまりのある文章」をどう例示すべきか―読むこと・書くことのジャンル準拠教育の視点から―」中部英語教育学会紀要（全国英語教育学会），2026; 55: 337-344.（原著論文）［査読あり］
2. 峯島道夫，今井理恵.「35.英語授業でのChatGPT使用の可能性についての一考察：AIソクラテス式問答足場架けモデルの試み」国際地域研究論集（JISRD，国際地域研究学会），2026，17: 75-87.（原著論文）［査読あり］

4 学会等研究発表

1. 今井理恵，松沢伸二，峯島道夫.「学習指導要領の「言語活動の例」は「まとまりのある文章」をどう例示すべきか―読むこと・書くことのジャンル準拠教育の視点から―」. 全国英語教育学会第50回記念埼玉研究大会（草加市・日本），2025.8.9.
2. 今井理恵. 思考力や表現力の育成には多種多様なテクストを！－「ジャンル」を意識すると英語授業はどう変わるのか How Does Genre Awareness Change English Teaching?Using Diverse Texts to Foster Critical Thinking and Communication Skills. ブリティッシュ・カウンシル（British Council*）（東京・日本），2026.3.28.【招聘講演・教育講演】（＊文化芸術，教育，英語学習を通じて，イギリスと世界の人々の間の相互理解を深めるために設立されたイギリスの公的な国際文化交流機関.）

5 学会活動

1) 所属学会　中部英語教育学会，関東甲信越英語学会，全国英語教育学会，日本教科教育学会，The Japan Association for Language Teaching（JALT），国際地域研究学会（JISRD），新潟大学教育学部英語教育学会，Association of International Studies and Regional Development（AISRD），Humanistic English Education Study Group（HEESG），新潟医療福祉学会

6 社会活動

1) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞掲載，（日刊）新潟日報（新潟日報社），「英語で日報抄」，2025.5.18.（囲み記事）
2. 新聞掲載，（日刊）新潟日報（新潟日報社），「英語で日報抄」，2025.8.17.（囲み記事）
3. 新聞掲載，（日刊）新潟日報（新潟日報社），「英語で日報抄」，2025.11.16.（囲み記事）
4. 新聞掲載，（日刊）新潟日報（新潟日報社），「英語で日報抄」，2026.2.15.（囲み記事）

7　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1.　2022年度，科学研究費補助金基盤研究（C），英語授業を改善する４技能５領域でのジャンル正対課題と教授・学習サイクルの開発，研究代表者（継続）

2) 学外兼務講師等

1.　新潟県立大学，教職実践演習特別講義，11月

2.　新潟大学　アカデミック英語入門R　10月～3月

8　学内委員会活動　入試問題作問部会，　入試検討英語部会，国際交流センター運営委員会，中央教育センター運営委員会

9）社会連携・同窓会推進機構

氏名：石井　雅子

1　研究題目　視覚障害者のQOL向上に関する研究（ロービジョン医学），視覚障害児の学習支援（特別支援教育），視的環境と視覚機能に関する研究（眼科学），小児の視覚発達（小児眼科学）

2　著書

1. 石井雅子．小児眼科診療 健康診断で聞かれるギモン タブレット端末の見せすぎはよくないですか，診断と治療社，東京：2026 345-348.

3　論文

1. Ishii M, Yamaguchi T, Ichimura M, Seino N, Fukuchi T. ICT support for visually impaired individuals Niigata Journal of Health and Welfare 24: 2025, 12-20.（査読あり）
2. 田中彩乃，鈴木重成，石井雅子．網膜色素変性に伴うシャルル・ボネ症候群の一例．日視会誌55：2026, 161-165.（査読あり）
3. 田中彩乃，鈴木重成，石井雅子．迅速型（クイック）ロービジョンケアの可能性―一般外来での取り組みから―．眼臨紀２（19）：2026，104-108.（査読あり）
4. 松井千洋，石井雅子．幼児の視機能―COVID-19パンデミックの影響―．チャイルドヘルス28（7）：2025，66-71.（査読あり）
5. 滝沢倖大，佐藤怜太，石井雅子，塚田章，前田義信．スマートフォン視聴時における映像条件と輻湊運動の関係分析．電子情報通信学会技術研究報告，2025，54-57.（査読あり）
6. 鎌田太智，佐藤怜太，石井雅子，塚田章，前田義信．スマートフォンの画像を“見る”と“読む”際の眼球輻湊運動の計測．電子情報通信学会技術研究報告，2025，73-75.（査読あり）

4　報告書

1. 石井雅子．受託事業，めがねのまちさばえ『眼育』推進業務受託令和７年度成果報告：2025，1-29
2. 石井雅子．視力検査・眼科健康診断マニュアル（令和８年4月改訂），新潟市眼科医会・新潟市こども未来部幼保支援課：2026，1-10.

5　学会等研究発表

1. 田中彩乃，松井千洋，石井雅子．視的・生活環境がこどもの眼に及ぼす影響－離島地域と都市部の比較－．第25回新潟医療福祉学会（新潟市），2025.10.25.
2. 市村美香，落合竣，石井雅子，山口俊光，張替涼子，赤木忠道．ニーズに合わせた最新のICTサポートアプリ・加齢黄斑変性への１症例と緑内障視神経症の１症例へのロービジョンケア．第136回新潟眼科集談会（新潟市），202512.20.
3. 石井雅子，青木学，山口俊光．新潟駅バスターミナルにおける移動支援アプリ（ナビレンス）導入の検討V第26回日本ロービジョン学会学術総会（広島市），2025.5.23.
4. 落合竣，石井雅子，福地健郎．ICT支援がロービジョンケアに有用であった緑内障患者の１例．第26回日本ロービジョン学会学術総会（広島市），2025.5.23.
5. 小林正子，石井雅子．視覚障害をもつ女性への子育て支援　～母子保健専門職に求められること～．第26回日本ロービジョン学会学術総会（広島市），2025.5.23.
6. 石井雅子．患者さんが教えてくれたこと－ロービジョンケア25年の歩みと学び．北関東視能訓練士勉強会（オンライン），2025.8.30.
7. 田中彩乃，石井雅子，鈴木重成．迅速対応型（クイック）ロービジョンケアの可能性：一般外来での取り組みから．第26回日本ロービジョン学会学術総会（広島市），2025.5.23.
8. Maeda Y, Sato R, Ori M, Ishii M, Tsukada A. Analysis of Binocular Convergence of Eye Motion While Viewing Videos at Short Distances, ITC-CSCC2025 (Seoul, South Korea), 2025.7.7.
9. 佐藤怜太，前田義信，石井雅子，塚田章．スマートフォン注視時における眼位と輻輳運動の関係，第64回日本生体医工学会大会（福井市），2025.6.6.
10. 石井雅子，戸田春男，前田義信．遮光眼鏡装用が視覚誘発電位（VEP）のP100波に与える影響，第64

回日本生体医工学会大会（福井市），2025.6.7.

11. 前田義信，佐藤怜太，石井雅子，塚田章．近距離注視が輻湊・開散運動に与える影響に関する実験，2026年電子情報通信学会総合大会（福岡市），2026.3.12.

6　学会活動

1) 所属学会　日本眼科学会，日本ロービジョン学会（理事），日本視能訓練士協会，日本緑内障学会，日本小児眼科学会，日本弱視斜視学会，日本学校保健学会，視覚障害リハビリテーション協会，新潟県視能訓練士会（会長），中途視覚障害者の復職を考える会（タートルの会），JRPS網膜色素変性症協会，日本特殊教育学会，日本保育保健協議会，日本教育工学会，医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 2025年度新潟県視能訓練士会研修会，実行委員長，新潟市，2026.3.15.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第26回日本ロービジョン学会学術総会，プログラム委員，広島市，2025.5.23.
2. 日本視能訓練士協会専門視能訓練審議会，育成コース講師，オンライン，2025.9.25.
3. 日本視能訓練士協会専門教育プログラムⅡ「視能障害学」，講師，オンライン，2025.9.15.

7　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和７年度 四つ葉学園 学校保健委員会，目を大切にする取り組み～「見える」を理解しよう～，講師，三条市立第四中学校，学校医・保護者・小中学生，2025.12.3.
2. 目の愛護デー，眼の健康（眼育）小・大連接教育，講師，南浜小学校，５年生・教職員，2025.10.9.
3. 目の愛護デー，眼の健康（眼育）小・大連接教育，講師，岡方第二小学校，５・６年生・教職員，2025.10.10.
4. 学校保健講演会，中学・大学連接教育：メディアと眼の健康，講師，魚沼北中学校，生徒・教職員・学校医，2025.9.8.
5. 屈折検査実践研修，視機能の理解と近視予防，講師，鯖江市健康づくり課，保健師・養護教諭，2025.8.6.
6. 視力検査実技講習会，2025年度幼児視力検査実技講習会，講師，こども総合支援研究センター，保育士・看護師，2025.3.19.
7. プラスいきいきDAY講座，眼からウロコの眼のハナシ，講師，鯖江市，一般市民，2025.9.10.
8. 沖永良部島子どもの目の健康講座，屈折検査の必要性，講師，和泊町役場，一般市民，2025.11.17.
9. 2025新潟医療福祉大学公開講座，同行援護従業者養成講座，講師，新潟医療福祉大学，一般市民，新潟市，2025.9.6.
10. 新潟市北区大学連携未来のまちづくり事業，心も体も健幸プロジェクト，トマトが目を守る!野菜と目の健康，一般市民，2025.10.7.
11. 新潟市北区大学連携未来のまちづくり事業，心も体も健幸プロジェクト，目から始める健康づくり，一般市民，2025.10.21.
12. とよさか中高年教養大学，眼が元気だと人生が豊かになる，一般市民，2026.3.12.
13. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー，講座19，見えにくい方への支援～ロービジョンを考える～，講師，一般市民，新潟市（オンライン），2024.4.1-2025.3.31.
14. 2025年度新潟県視能訓練士会研修会，教育講演，新潟県の視覚障害教育について，座長，新潟県視能訓練士会，医療職・教育関係者，新潟市，2025.3.15.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，奄美新聞，新潟医療福祉大の教授ら来島 幼児の視機能調査，2025.11.20.
2. 新聞，南海日日新聞，島の子どもの視覚調査，2025.11.22.
3. TV，NCTケーブルTV，燕市と新潟医療福祉大学が協定締結，2025.8.28.
4. TV，NHKニュース610，燕市と新潟医療福祉大　子どもの成長と発達支援で連携協定，2025.8.26.

5. 新聞，新潟日報，こども支援へ連携協定 燕市と新潟医療福祉大学，2025.9.18.
6. 一般雑誌，県央ドット・コム，燕市とこども総合支援研究センターを開設した新潟医療福祉大学と「こどもの成長と発達に関する支援を目的とした連携協定」を県内で初めて締結，2025.8.27.
7. TV，BSN TVゆうなび，にいがたケンジュプロジェクト　コンタクトレンズの正しい着用法，2025.10.9.
8. TV，FBC放送，目の健康　めいくさばえかるた，2025.6.11.
9. 新聞，福井新聞，目の健康 かるたで向上，2025.6.12.
10. 新聞，新潟日報，目の健康楽しく学ぼう　新潟医療福祉大　保育園，子ども園に紙芝居寄贈，2025.6.10.

3) 社会活動への参加協力

1. 五泉市こども課，３歳児健診，視覚健診担当およびサポート，五泉母子保健センター（五泉市），2025.4.1-2026.3.31.（全12回）
2. 燕市保健センター，３歳児健診，視覚健診サポート，燕市母子保健センター（燕市），2025.4.1-2026.3.31.（全24回）
3. 鯖江市教育委員会，就学前視覚健診，視覚健診担当，鯖江市立神明小学校（鯖江市），2025.8.
4. 白根カトリックこども園，視覚健診，健診指導，白根カトリックこども園（新潟市），2025.7.23，9.12.
5. 聖ラファエル幼稚園，視覚健診，健診指導，聖ラファエル幼稚園（新潟市），2025.7.14.
6. あたごとまとこども園，視覚健診，健診指導，あたごとまとこども園（新潟市），2025.8.5.
7. 光華こども園，視覚健診，健診指導，光華こども園（新潟市），2025.6.3，7.4.
8. 新潟えきなかこども園，視覚健診，健診指導，新潟えきなかこども園（新潟市），2025.6.18.
9. 二葉幼稚園，視覚健診，健診指導，二葉幼稚園（新潟市），2026.2.3，2.10.
10. 清心保育園，視力・屈折検査，指導，清心保育園（魚沼市），2025.10.27，12.16.
11. 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園，健診指導，新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園（新潟市），2026.2.9.
12. 亀田カトリックこども園，視覚健診，健診担当，亀田カトリックこども園（新潟市），2025.9.2，9.16.
13. めがねのまちさばえSDGsフェス，眼育活動，学生指導，西山公園（鯖江市），2025.9.20-9.21.
14. 北区こども園への紙芝居贈呈式，紙芝居の読み聞かせ，運営，かやま保育園（新潟市），2025.5.21.
15. 視覚障害教育「夏の会」，患者会サポート，運営，新潟市総合福祉会館（新潟市），2025.8.17.
16. めいくさばえカード披露会，カードゲーム実践，学生指導，石田保育所，立待保育所（鯖江市），2025.6.11.
17. 南浜小学校健診，視覚健診サポート，学生指導，南浜小学校（新潟市），2025.4.17，4.21.
18. ナビレンス体験会，サポート，運営，小千谷市青少年センター（小千谷市），2025.4.19.
19. 沖永良部幼児視覚健診，視力・屈折検査，指導，和泊町，2025.11.18.
20. 沖永良部幼児視覚健診，視力・屈折検査，指導，知名町，2025.11.19.
21. 子どもたちに絵本を贈るネコピンチプロジェクト，製作・販売，運営，葛塚市場・葛塚コミュニティセンター等（新潟市），2025.4.1-2026.3.31.（期間中12回）
22. 福祉・介護・健康フェアー2025，お仕事体験コーナー，サポート，新潟市産業振興センター（新潟市），2025.11.8.
23. 2025心も健康健幸プロジェクト，交流会，運営，ラグーナスクエア（新潟市），2025.12.6.
24. 暮らし学び合い教室，ギターとともに学ぶライブ，サポート，NPOオアシス（新潟市），2025.4.26.
25. 燕市と新潟医療福祉大学との事業連携協定式，協定式，参加，燕市役所（燕市），2025.8.26.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県アフターコロナを見据えたイノベーション創出支援事業視覚障害者情報支援アプリの開発（コンソーシアムメンバー），新潟県視覚障害リハビリテーションネットワーク（委員），新潟県教育庁（こどもの目の相談員）

5) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県視能訓練士会（会長），日本視能訓練士協会生涯教育制度基礎教育プログラムⅡ（指導者），日本視能訓練士協会生涯教育制度基礎教育プログラムⅢ（指導者），日本視能訓練士協会専門視能訓練士（審議員），視覚障害リハビリテーション協会高齢リハビリテーション分科会（委員）

8　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，科学研究助成（基盤研究（C））：22K030092 幼稚園から大学まで一貫したデータサイエンスを活用した健康リテラシー教育手法の開発，研究分担者
2. 2024年度，科学研究助成（基盤研究（B））：24K00401 視覚障害を未然に防ぐ眼の健康リテラシーの向上－幼小中高大接続による眼育教育―，研究代表者
3. 2024年度，科学研究助成（基盤研究（C））：24K13968 視覚障害をもつ女性が安心して子どもを産み育てるための支援～ハンドブックの開発～，研究分担者
4. 2025年度，めがねのまちさばえ「眼育」推進事業受託，代表者
5. 2025年度，五泉市３歳児視覚健診事業受託，代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

2025年度前期グッドプラクティス表彰

3) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医学部，眼科臨床実習，2025.4-2026.3.

9　学内委員会活動　社会連携推進センター運営委員会（委員長），科研費対策委員会，教務委員会（オブザーバー），こども総合支援研究センター（センター長）

氏名：佐近　慎平

1　研究題目　こども学，発育発達学，身体教育学

2　論文

1. Sakon S, Nishihara Y. Developmental Sex Differences in the Support Phase during Quadrupedal Running in Young Children. Niigata: Niigata University of Health and Welfare. (in press)(review)
2. 本多理紗，金子勝司，中曽根裕，佐近慎平．レクリエーション資格取得見込みの学生が運営するスポーツクラブにおいての参加者への影響および学生の教育的効果についての検証～レクリエーション実習の授業内で行うスポーツクラブの運営での学びについて～．自由時間研究．（印刷中）

3　学会等研究発表

1. 佐近慎平．楽しさが先導する高這い運動環境の構成．国際あそび学会第１回大会（東京），2025.5.31.
2. 佐近慎平，中曽根裕，中井聖，金子勝司．高這い姿勢の幼児が手で体を支える運動指導方法の開発．日本体育・スポーツ・健康学会・第75回大会（東京），2025.8.29.
3. 佐近慎平，中曽根裕，本多理紗，金子勝司．高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究～レクリエーション教育に携わる初任者教員の分析から～．令和７年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議（名古屋），2025.11.11.
4. 本多理紗，金子勝司，中曽根裕，佐近慎平．健康体操教室の参加者と大学生が共に考え実践するレクリエーション活動の研究～健康体操教室参加者および大学生に与える効果・影響の検証～．令和７年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議（名古屋），2025.11.11.

4　学会活動

1) 所属学会　日本発育発達学会（評議員），日本保育学会，日本体育・スポーツ・健康学会，新潟医療福祉学会ほか

2) 学術集会の主催

1. 公益財団法人日本レクリエーション協会，令和７年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議，特任幹事，2025.11.11.

2. 現代レクリエーションと教育を考える会，研究会・調査，座長，オンライン・仙台，2025，月１回（全15回）

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本発育発達学会，評議員

5　社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県村上市幼児の体力向上事業，幼児の体力向上事業報告会，講師，村上市，村上市立保育園保育士・総合型スポーツクラブコーチ，村上市村上市教育情報センター，2025.4.8.
2. 第68回新潟県保育事業研究大会，楽しさが先導する高這い運動環境の構成，講師，新潟県社会福祉協議会・新潟県保育連盟・新潟県私立保育園・認定こども園連盟・新潟県保育士会・新潟市私立保育協会，新潟県保育士，村上市総合文化会館，2025.5.23.
3. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村教育委員会，幼児及び保育士，弥彦保育園，2025.6.11，8.5.（全２回）
4. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村教育委員会，幼児及び保育士，二松保育園，2025.6.18，8.21.（全２回）
5. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村教育委員会，幼児及び保育士，ひかり保育園，2025.6.20，8.27.（全２回）
6. 新潟県長岡市ながおか元気キッズわくわくサポート運動遊び，体育指導，講師，長岡市教育委員会，幼児及び保育士，長岡市（白山保育園，和島保育園，長岡市立劇場），2025.6.24，9.8，9.11，12.24.（全４回）
7. 新潟県新潟市新潟市幼児の運動遊び促進事業，事業報告会，講師，新潟市スポーツ振興課，保育士，新潟市，2025.8.6.
8. 五泉市と新潟医療福祉大学の包括連携事業，たのしい運動遊び　就学前に知っておきたい運動能力のこと，講師，五泉市教育委員会スポーツ振興課，市民，五泉市総合会館　中ホール，2025.11.9.
9. スペシャルオリンピックス日本コーチクリニック，サッカーコーチクリニック，講師，スペシャルオリンピックス日本，市民，大宮市，2026.2.14.
10. 新潟県村上市幼児の体力向上事業，幼児の体力向上事業報告会，講師，村上市，総合型スポーツクラブコーチ，村上市体育館，2026.3.13.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園，運動遊び・体育，講師，園児，新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園，2025.4.1-2026.3.31.（全40回）
2. 福祉事業型専攻科キンゴーカレッジ，フィットネス，講師・監修，キンゴーカレッジ利用者，キンゴーカレッジ，2025.4.1-2026.3.31.（全40回）
3. スペシャルオリンピックス日本・新潟サッカープログラム，サッカープログラム，講師，スペシャルオリンピックス日本・新潟，知的障害者，新潟市，2025.4.1-2026.3.31.（全８回）
4. 社会福祉法人どれみ会 どれみ保育園体育，体育指導，講師，社会福祉法人どれみ福祉会，保育園園児及び保育士，川通りどれみ保育園，2025.4.1-2026.3.31.（全11回）

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

にいがたスポーツタレント発掘・育成事業検討委員会（委員），村上市幼児の体力向上事業（アドバイザー），新潟市幼児の体力向上事業（アドバイザー），弥彦村幼児の体力向上事業（アドバイザー），ながおか元気キッズわくわく運動遊び事業（アドバイザー）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議（特任幹事）

6　その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，科研費基盤研究（C），保育者の幼児の転倒時に手がでる動作環境設定の一般化の検証，研究代表者
2. 2025年度，公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成，高等教育機関における黎明期のレクリエーション教育の理念について，研究代表者
3. 2025年度，公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成，レクリエーション資格取得見込みの学生が運営するスポーツクラブにおいての参加者への影響および学生の教育的効果についての検証，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 国際こども・福祉カレッジこども福祉教育学科・児童教育学科，こどもと体育，2025.4.1-2026.3.31.

7 学内委員会活動　ボランティアセンター長，ボランティアセンター運営員会委員長，身体教育研究センター（副センター長），こども総合支援研究センター

10）学内における研究助成金の採択状況

（1）研究奨励金　採択一覧表

①スタート支援研究費

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	佐々木啓	診療放射線	fMRIを用いた能動的触覚刺激時の嗜好性の違いによる脳賦活部位の特定	¥400,000
2	並木伸賢	健康スポーツ	競技経験で得たライフスキルと職場で活用しているスキルの関連：競技環境と就業環境の差異に着目した量的研究	¥400,000
3	戸澤祐貴	臨床技術	3D超音波技術を用いた腹膜播種の新たな診断支援法の確立	¥400,000
4	市川明弘	医療情報	地方独立行政法人化後の公立病院における汎用的経営改善要因の実証分析	¥400,000
5	村上　元	作業療法	自閉スペクトラム症者に対するオンラインマインドフルネスヨガの実行可能性の検討	¥400,000
6	小原佑介	診療放射線	放射線治療におけるサーモプラスチックのCT値変化と線量計算アルゴリズムの違いが線量分布に与える影響	¥400,000
7	市川　肇	診療放射線	前立腺がん患者の予後予測のための自動骨転移体積計測による新しいバイオマーカの開発	¥400,000
7	野村照幸	心理健康	医療観察法通院処遇におけるクライシス・プランの活用・改訂マニュアルの開発	¥400,000
9	谷川奈々	義肢装具	脳卒中片麻痺患者の下肢装具療法における患者報告アウトカムの有用性の検証	¥400,000
9	外山　元	救急救命	若手救急隊員の早期離職意向を抑止するための心理的支援指針の策定と効果検証に関する研究	¥400,000
11	辻　拓海	視機能科	ゲームを用いた弱視治療：調節機能と眼位に配慮した訓練時間の最適化	¥400,000
12	松岡弘樹	準備室	サッカーAIコーチング実現のためのサッカー戦術知識データベースの開発	¥400,000

②基盤形成研究費

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	三瀬貴生	健康スポーツ	早期に競技専門化したジュニア競泳選手における足関節障害発生要因の解明	800,000
2	大森　豪	健康スポーツ	思春期女性アスリートの三主徴と月経周期に伴う健康問題の実態と予測指標の構築に向けた多職種連携研究	720,000
3	杉崎弘周	健康スポーツ	若年層の子宮頸がん予防行動の決定要因と構造的関連性の解明	720,000
4	生方北斗	視機能科	スマートフォン型倒像鏡を用いた眼底検査のコーチング法の開発	718,200
5	石垣智恒	理学療法	腱内水分循環を最大化する運動介入法の解明：運動速度および負荷の役割	640,000
5	奈良梨央	健康スポーツ	背泳ぎスタートにおける簡易評価指標の開発と活用	640,000
7	小堀晶子	社会福祉	学生相談における支援困難な大学生の実態解明―悩みの内容とその心理社会的背景・プロセスに着目した検討	639,200
7	領家梨恵	心理健康	心的外傷後ストレス症の発症メカニズムにおける神経生物学的性差の検討	560,000
9	菅原大志	健康スポーツ	地域スポーツ活動による住民の関係変容メカニズムの解明―農山村における検証―	560,000
	前島　偉	診療放射線	陽子線FLASH照射が神経細胞に与える影響の培養神経細胞を用いた解析	480,000
	小林真里奈	健康スポーツ	女子バスケットボール選手における方向転換能力と筋の形態的・機能的特徴の関係	480,000

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
10	藤目智博	作業療法	前腕の固有受容反射による動的支持機構の解明と非侵襲的評価法の確立	475,800
11	渡邊博昭	臨床技術	若年者の突然死リスク層別化に向けた心電図および心機能指標の統合的評価法の構築	480,000
12	竹内瑞希	健康栄養	２型糖尿病患者における糖尿病治療食の摂取前後による腸内環境（インドール濃度）への影響	390,000

③発展的研究費

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	平林　怜	理学療法	アスリートの限界を超える咬合の力：運動機能向上の最適な咬合の解明	1,000,000
2	大鶴直史	理学療法	時間干渉刺激による大脳基底核の非侵襲的刺激－パーキンソン病への応用を目指して－	1,000,000
3	大西秀明	理学療法	後頭頂皮質の個別解析による「卓越した固有感覚」の神経基盤解明	1,000,000
4	江玉睦明	理学療法	筋膜構造の形態学的・組織学的部位差と機械刺激反応に基づく運動療法の開発	1,000,000
5	越智元太	健康スポーツ	運動性認知疲労の神経生理機構と表情追跡による定量評価	1,000,000
6	犬飼康人	理学療法	一次運動野の抑制状態がバランススキル習得の初期過程に及ぼす影響	1,000,000
7	井上達朗	理学療法	非侵襲的な骨密度スクリーニング技術の開発とICT基盤を融合した骨折予防デジタルエコシステムの開発	1,000,000
8	小島　翔	理学療法	固有受容覚機能に関与する脳構造の特徴解明と脳刺激による治療法への応用	1,000,000
8	菊元孝則	理学療法	着地動作における膝関節の運動力学特性に影響を与える膝蓋腱形態構造の解明	1,000,000
8	北谷亮輔	理学療法	歩行リズムを生成する神経基盤の解明と新たな歩行併用型脳刺激法の開発	1,000,000
11	高林知也	理学療法	足部変形を基盤とする骨・軟部組織の変化を再現した個別化筋骨格モデルによる関節間力と靭帯張力の解明	1,000,000
12	松浦由生子	健康スポーツ	女性アスリートにおける健康リテラシーと月経状態の関連：RED-Sリスク因子の包括的分析と予防的介入指針の構築	1,000,000
12	小曽根海知	理学療法	異なる強度の運動が関節リウマチ病態に与える有効性の検証	1,000,000
12	相馬俊雄	理学療法	弾性式歩行補助具を使用した歩行における下肢筋活動の抑制作用の解明	1,000,000
15	田口　徹	理学療法	感覚受容器の選択的操作による高次脳機能制御とその動作原理の解明	1,000,000
15	藤井　豊	臨床技術	単球選択的除去による体外循環中の革新的炎症抑制方法の創出	1,000,000
17	山代幸哉	健康スポーツ	「運動学習」を促進する体性感覚遠心性コピーの役割解明	1,000,000
18	五十嵐眸実	理学療法	恐怖記憶の書き換えを導く神経基盤の解明	1,000,000
18	宮口翔太	理学療法	一次運動野を核とした超低周波神経ネットワークの強化による新たな運動プログラム法の考案－非侵襲的脳刺激法を用いた介入戦略－	900,000
18	児玉直樹	診療放射線	骨盤X線画像から骨粗鬆症とフレイルを同時に診断可能な診断支援システムの開発	900,000
21	長坂和明	理学療法	鎮痛に関与する神経ネットワークの全脳地図作成	900,000
21	横田裕丈	理学療法	運動とtaVNSの相乗作用による認知機能強化のメカニズム：身体・神経・代謝の連関に基づく実証的検討	900,000
21	齊藤　慧	理学療法	シミュレーションを用いた個別化電場モデリングが拓く次世代型脳刺激法	900,000

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
21	澤田純明	理学療法	縄文時代人の骨粗しょう症を探る：骨幹部緻密骨の高分解能CT像から読み解く骨代謝異常の痕跡	900,000
25	芝田純也	理学療法	脳で感じる音楽のノリ－音楽のグルーヴ感を増す非侵襲的脳刺激法を開発するための基礎研究－	900,000
26	椿淳　裕	理学療法	低酸素負荷に対する大脳皮質の微小循環の反応と領域間の差異の描出	900,000
	萩原康雄	理学療法	北上山地に眠る弥生時代人骨から読み解く日本人の形成過程	900,000
	村山　稔	義肢装具	歩行中に膝関節が過伸展を呈する在宅片麻痺者を対象とした聴覚フィードバック療法の開発	900,000
	須田裕紀	義肢装具	義足アライメントとソケット内圧力の力学的特徴と相互作用	900,000
	藤本知臣	健康スポーツ	高体温が視覚機能および眼球運動反応に及ぼす影響とそのメカニズムの解明-温度感覚と快適性に着目した新たなアプローチの開発-	900,000
	玉越敬悟	理学療法	脳卒中後の運動開始時期を規定する血中mRNAバイオマーカーの有用性検証	900,000
	能村友紀	作業療法	非侵襲的ハイブリッド神経刺激によるエピソード記憶固定の促進と神経可塑性変容機序の解明：認知症予防に資する神経生理学的基盤の構築	900,000
	太田大樹	理学療法	遅発性筋痛におけるPGE２代謝ダイナミクスの解明～遅発性筋痛バイオマーカーとしてのTetranor-PGEM～	500,000
27	小林壮太	理学療法	持続可能な健康行動促進に向けたアクティブリコール型身体活動介入の開発と効果検証	500,000
27	小宮　諒	理学療法	筋の協調性に着目した車いす駆動練習時の至適負荷の解明と車いす競技者への応用	481,000
27	早尾啓志	理学療法	伸張性収縮運動に伴う筋損傷の予防方法の立案とバイオマーカーの同定：ヒト・動物比較によるトランスレーショナル研究	500,000
27	神田　賢	義肢装具	高年齢者雇用・労災予防としての「包括的ケアプログラム」の構築による効果検証	500,000
31	関本道治	診療放射線	地域・在宅医療を支援するX線装置点検支援アプリの試作と評価―記録標準化と異常検出を両立する点検支援アプリの開発―	500,000
31	花村健次	診療放射線	発達期マウスへの放射線照射が骨格系や生殖器系などの形態形成に与える影響の解析	500,000
31	山本悦史	健康スポーツ	プロスポーツにおけるオープンイノベーションの促進に向けた実証的研究	500,000
31	山口典子	看護	活動量計を用いた座位行動時間の短縮によるLOH症候群の改善効果の検証	500,000

③復帰支援研究費

申請無し

（２）学長裁量研究費　採択一覧表

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	越智元太	健康スポーツ	毛髪中コルチゾール・オキシトシンによる若年アスリートの心身機能低下予測システムの構築	¥1,000,000

（３）S&H先端科学研究費　採択一覧表

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	長坂和明	理学療法	拍動する血液は中枢神経系機能に必要か？～小動物体外循環と神経細胞計測技術の融合によるアプローチ～	¥2,000,000

（4）研究科長裁量研究費　採択一覧表

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	藤井　豊 （三木航太）	臨床技術	ECMO中の酸化ストレスの定量化およびエダラボン投与による酸化ストレス軽減から炎症反応抑制に向けた基礎研究	¥200,000
2	大鶴直史 （井上創太）	理学療法	非侵襲的脳刺激による小脳の痛み知覚への関与の検証	¥200,000
3	大鶴直史 （平賀大河）	理学療法	抑制性活動の操作によって触覚知覚学習の固定化を促進する	¥200,000
3	大西秀明 （田邊かこ）	理学療法	「メタ可塑性」に着目した感覚機能向上を目指す新たな経皮的耳介迷走神経刺激法の開発	¥200,000
3	高林知也 （島谷美海花）	理学療法	筋肉内脂肪量は膝前十字靭帯再建術後の遠心性筋力の指標となるか？	¥200,000
6	犬飼康人 （武田真桜）	理学療法	足底部への高頻度反復感覚刺激が片脚立位バランス機能の向上をもたらす刺激効果メカニズムの解明	¥200,000
6	高林知也 （西口ほのか）	理学療法	足部接地パターンに応じた足部・膝負荷を減弱できる最適なインソールの提案	¥200,000
6	犬飼康人 （高橋ひろな）	理学療法	課題指向型トレーニングと小脳への経頭蓋直流電流刺激の併用が閉眼片脚立位バランスのトレーニング効果に与える影響	¥200,000
9	石垣智恒 （佐藤来夢）	理学療法	投球動作の繰り返しによる身体要素の連鎖的変化の解明と運動バイオマーカーの探索	¥200,000
9	犬飼康人 （廣瀬貴喜）	理学療法	大腿骨近位部骨折患者に対するクロスエデュケーションを応用した新たな介入戦略の確立	¥200,000
9	椿　淳裕 （高橋朋弥）	理学療法	脳梗塞超急性期における姿勢変化時の脳血流変化を指標とした早期リハビリテーションの安全性評価と予後予測	¥200,000
9	藤本知臣 （北野　侑）	健康スポーツ	筋温の変化がレジスタンストレーニングによる筋力増加・筋肥大・血管適応に及ぼす影響	¥200,000
13	松浦由生子 （熊澤将大）	健康スポーツ	水泳スタートパフォーマンスの決定要因の検討-筋活動・筋スティフネス・トルク発揮率に着目して-	¥200,000
13	芝田純也 （星　春輝）	理学療法	脳卒中治療への応用を目指した脳循環動態に対する小型永久磁石の効果検証	¥200,000
13	高林知也 （佐藤慎之助）	理学療法	捕手の捕球前ステップ動作は肩関節障害予防の有用な技術になりうるか？	¥200,000
13	長坂和明 （小川有生人）	理学療法	脳卒中後に生じる異常な痛みに関連した経時的な神経回路再編成の解明	¥200,000

（5）共同研究・共同利用研究費　採択一覧表

	研究者	所属先	研究課題（本学共同研究者）	配分金額
1	田川　要	宮崎公立大学	伸張性筋収縮運動時の大動脈血圧応答（HS：藤本知臣）	¥200,000
2	越野裕太	北海道大学	荷重位足関節背屈可動域における基準範囲および左右差の確立：スポーツ種目および性別を考慮した検討(PT：江玉睦明)	¥200,000
3	石田知也	北海道大学	無症候性アスリートにおけるアキレス腱構造の変化はジャンプバイオメカニクスと関連するか－早期発見による腱障害の予防を目指して－（PT：石垣智恒）	¥200,000
3	北城圭一	自然科学研究機構生理学研究所	計算論的神経科学と臨床神経生理学を融合し新たな脳内ネットワーク解析手法を開発する（PT:芝田純也）	¥200,000

	研究者	所属先	研究課題（本学共同研究者）	配分金額
5	歌　大介	富山大学	ストレス誘発性痛覚過敏の中枢神経系における神経・シナプス機構の解明（PT：田口徹）	¥200,000
6	菅田陽怜	大分大学	経頭蓋交流電流刺激（tACS）は，真に皮質律動を変えるか？（PT：大鶴直史）	¥200,000
6	原　正之	埼玉大学	VR上の手の色による痛み知覚の変化とその神経基盤（PT：大鶴直史）	¥200,000
6	森下慎一郎	福島県立大学	運動に伴う脳血流変動を予測するアルゴリズムの精度向上～血流再分配を考慮したパラダイムの提案と検証～（PT：椿淳裕）	¥200,000
9	岡優一郎	北海道大学	運動様式の違いによるPRPの機能特性と軟骨細胞応答の分子メカニズムの解明（PT：小曽根海知）	¥200,000
10	石井大典	広島大学	感覚障害回復に関連する神経システムの大規模改編（PT：長坂和明）	¥200,000

（6）外部資金獲得奨励金　採択一覧表

	研究者	所属学科	対象外部資金	資金獲得先
1	東江由起夫	義肢装具自立支援	共同研究契約	武藤工業㈱
2	阿部拓也	臨床技術	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
3	荒川大靖	社会福祉	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
4	安中裕紀	作業療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
5	石塚敏子	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
6	五十嵐眸実	理学療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
7	稲葉洋美	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
8	犬飼康人	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
9	岩森　大	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
10	鵜瀬亮一	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
11	宇田優子	看護	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
12	圓純一郎	作業療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
13	太田大樹	言語聴覚	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
14	大野　健	理学療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
15	大松健太郎	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
16	大湊　麗	診療放射線	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
17	大山峰生	救急救命	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
18	岡本優美	言語聴覚	科研費研究活動スタート支援代表	日本学術振興会
19	小栗妙子	作業療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
20	小曽根海知	看護	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
21	落合勇人	理学療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
22	金子聡一郎	健康す	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
23	亀岡雅紀	診療放射線	科研費若手研究代表	日本学術振興会
24	川上心也	鍼灸健康	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
25	神田　賢	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
26	菊元孝則	義肢装具自立支援	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
27	北谷亮輔	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
28	久保亜沙子	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
29	熊崎　昌	鍼灸健康	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
30	郷　貴博	義肢装具自立支援	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
31	郡　倫一	理学療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
32	小島　翔	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
33	小林志郎	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
34	小林壮太	臨床技術	科研費研究活動スタート支援代表	日本学術振興会
35	齊藤　慧	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
36	佐々木一真	臨床技術	科研費若手研究代表	日本学術振興会
37	佐藤皓也	健康スポーツ	科研費若手研究代表	日本学術振興会
38	佐藤敏郎	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
39	佐藤成登志	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会

	研究者	所属学科	対象外部資金	資金獲得先
40	佐藤未希	義肢装具自立支援	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
41	サバンジュ美智子	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
42	柴田篤志	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
43	下門洋文	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
44	下山好充	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
45	関本道治	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
46	仙波妙子	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
47	高橋　司	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
48	髙橋英明	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
49	高橋佳子	臨床技術	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
50	髙橋里奈	理学療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
51	高林知也	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
52	竹井　豊	救急救命	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
53	田中惣治	視機能科学	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
54	谷　麻美	義肢装具自立支援	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
55	玉越敬悟	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
56	田宮　創	理学療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
57	田村俊暁	言語聴覚	科研費若手研究代表	日本学術振興会
58	玉田千歳	看護	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
59	寺田貴美代	社会福祉	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
60	徳永亮太	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
61	中山憲司	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
62	西原康行	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
63	能村友紀	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
64	橋本照男	臨床技術	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
65	花村健次	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
66	塙　晴雄	心理健康	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
67	平井克之	作業療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
68	星野芙美	心理健康	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
69	星　春輝	診療放射線	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
70	本間健太	臨床技術	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
71	前島　偉	診療放射線	共同研究契約	住友重機械工業㈱
72	増子弘明	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
73	松浦由生子	医療情報管理	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
74	松元　圭	理学療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
75	宮口翔太	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
76	村山　稔	健康栄養	科研費若手研究代表	日本学術振興会
77	森　博康	義肢装具自立支援	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
78	山口典子	健康栄養	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
79	山﨑貴子	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
80	山﨑由美子	健康スポーツ	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
81	山田真衣	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
82	山本悦史	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
83	山本裕二	義肢装具自立支援	科研費基盤研究（A）代表	日本学術振興会
84	横田裕丈	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
85	吉田皓文	心理健康	科研費若手研究代表	日本学術振興会
86	吉田宜清	健康スポーツ	科研費若手研究代表	日本学術振興会
87	涌井杏奈	健康スポーツ	科研費若手研究代表	日本学術振興会
88	和田直子	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
89	青木　海	義肢装具自立支援	科研費若手研究代表	日本学術振興会
			特別研究員奨励費	日本学術振興会
90	阿部　薫	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			共同研究契約	株式会社ワコール

	研究者	所属学科	対象外部資金	資金獲得先
91	石井雅子	社会連携機構	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
			受託事業契約	福井県鯖江市
			受託事業契約	新潟県五泉市
92	井上達朗	理学療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
			寄付金	個人
			寄付金	個人
93	江玉睦明	理学療法	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			国際共同研究加速基金代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
			受託事業契約	スポーツ庁
94	大鶴直史	理学療法	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（A）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究（開拓）分担	日本学術振興会
95	大西秀明	診療放射線	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			厚労科研費分担	厚生労働省
96	金子毅司	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
97	越中敬一	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
98	児玉直樹	診療放射線	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（A）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
			共同研究契約	AIMJapan㈱
99	小宮　諒	健康スポーツ	科研費若手研究代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
100	佐宗亜衣子	理学療法	科研費基盤研究（A）代表	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究（萌芽）	日本学術振興会
			学術変革領域研究（A）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
101	佐藤郁美	看護	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
102	佐藤裕紀	健康スポーツ	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
103	澤田純明	理学療法	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究（萌芽）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
104	芝田純也	理学療法	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（A）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
105	須田裕紀	義肢装具自立支援	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			厚労科研費分担	厚生労働省
106	相馬俊雄	理学療法	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
107	田口　徹	理学療法	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究（萌芽）代表	日本学術振興会

	研究者	所属学科	対象外部資金	資金獲得先
108	多々良俊哉	視機能科学	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			国際共同研究加速基金（海外連携研究）分担	日本学術振興会
109	椿　淳裕	理学療法	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
110	長坂和明	理学療法	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究（萌芽）分担	日本学術振興会
111	中村純子	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
112	奈良貴史	理学療法	科研費基盤研究（A）分担	日本学術振興会
			受託研究契約	新潟県埋蔵文化財調査事業団
			受託研究契約	群馬県埋蔵文化財調査事業団
			受託研究契約	上越市
			受託研究契約	㈱斉藤建設
			共同研究契約	㈱ホクシンエレクトロニクス
113	能登真一	作業療法	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
			寄附金	クレコンメディカルアセスメント㈱
114	野村照幸	健康栄養	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
115	萩原康雄	理学療法	科研費若手研究代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（A）分担	日本学術振興会
116	原口彩子	社会福祉	科研費基盤研究（C）	日本学術振興会
			民間研究助成金	公益財団法人古泉財団
117	早尾啓志	理学療法	科研費研究活動スタート支援代表	日本学術振興会
			科研費若手研究代表	日本学術振興会
118	藤井　豊	臨床技術	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
119	藤本知臣	健康スポーツ	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			共同研究契約	TOPPANエッジ㈱
120	前田史篤	視機能科学	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			受託研究契約	㈱ライト製作所
121	前田　雄	義肢装具自立支援	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			共同研究契約	ナブテスコ㈱
122	増田　修	視機能科学	科研費基盤研究（C）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
123	溝江　唯	心理健康	科研費研究活動スタート支援代表	日本学術振興会
			科研費若手研究代表	日本学術振興会
124	村田憲章	視機能科学	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究（萌芽）代表	日本学術振興会
125	森清友亮	健康スポーツ	科研費若手研究代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
126	山代幸哉	健康スポーツ	科研費基盤研究（B）代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
127	横山　貴	臨床技術	科研費若手研究代表	日本学術振興会
			共同研究契約	大塚電子㈱
			共同研究契約	栄研化学㈱
128	領家梨恵	心理健康	科研費基盤研究（B）分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究（C）分担	日本学術振興会
129	渡邉恵司	社会福祉	研究助成金	公益財団法人真柄福祉財団
			研究助成金	公益財団法人真柄福祉財団

	研究者	所属学科	対象外部資金	資金獲得先
120	渡邉敏文	社会福祉	受託事業契約	新潟市
			受託事業契約	新潟市
			受託事業契約	新潟県
			受託事業契約	新潟県

11）外部資金の獲得状況

（１）文部科学省及び日本学術振興会科学研究費助成事業　採択一覧表　（円）

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
1	2021	2025	基盤研究 (C)	山﨑貴子	給食施設での栄養評価のためのデータ構築：調理による成分変化と成分表計算値との比較	4,290,000
2	2021	2025	基盤研究 (C)	荒川大靖	地域における健全育成の環境づくりに対する移動児童館活動の効果に関する研究	3,900,000
3	2022	2026	基盤研究 (B)	山﨑由美子	腸内細菌叢を介した社会行動調整技術の開発	16,770,000
4	2022	2025	基盤研究 (C)	佐伯史子	解剖学的方法に基づく日本列島の各時代人類集団の正確な身長推定	3,770,000
5	2022	2025	基盤研究 (C)	山本悦史	プロスポーツにおけるCSV経営の普及に向けた包括的研究	4,160,000
6	2022	2026	基盤研究 (C)	川上心也	個体のエネルギー摂取不足は卵子の発育に影響するのか？	4,030,000
7	2022	2025	若手研究	萩原康雄	骨形態から読み解く狩猟採集から農耕への生業転換に伴う日本列島集団の行動様式の変化	4,550,000
8	2022	2025	若手研究	井上達朗	母指球筋を用いた新たな筋量指標の開発と疾患予後を予測する指標への応用	4,680,000
9	2023	2026	基盤研究 (B)	松浦由生子	月経随伴症状としての腰痛の発生メカニズム解明と対処法の開発	18,590,000
10	2023	2026	基盤研究 (B)	江玉睦明	アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発	18,980,000
11	2023	2026	基盤研究 (B)	長坂和明	脳卒中後疼痛の発症を予測する神経活動バイオマーカーの確立と新たな治療戦略の創出	18,720,000
12	2023	2025	基盤研究 (C)	仙波妙子	高濃度粒子分散ペーストのレオロジー特性予測のための粒子―分散媒親和性の影響の調査	4,680,000
13	2023	2025	基盤研究 (C)	中山憲司	MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用	4,680,000
14	2023	2025	基盤研究 (C)	大松健太郎	AR技術による子どもの心停止への対応のための緊急通報・救急対応訓練プログラムの開発	4,550,000
15	2023	2025	基盤研究 (C)	鷲見和幸	脳機能画像解析を用いたゲーム障害の特異的な病態解明	4,420,000
16	2023	2025	基盤研究 (C)	増田　修	変角光学的要因に基づく「本物らしさ」の質感知覚への能動性の寄与の脳神経機序の解明	4,680,000
17	2023	2025	基盤研究 (C)	鵜瀬亮一	VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化	4,810,000
18	2023	2026	基盤研究 (C)	吉田重和	教員の職能成長を支えるメンタリングの国際比較－指導者（メンター）に着目して	4,680,000
19	2023	2025	基盤研究 (C)	塙　晴雄	女子アスリートの鉄欠乏，貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明	4,420,000
20	2023	2025	基盤研究 (C)	西原康行	体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発	4,680,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
21	2023	2027	基盤研究 (C)	星野芙美	小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築	4,550,000
22	2023	2025	基盤研究 (C)	馬場康博	内受容感覚を効果的に高める浸水条件の確立とメカニズムの解明	4,550,000
23	2023	2026	基盤研究 (C)	佐藤裕紀	フォルケホイスコーレの受容と生涯学習政策の実証的考察：日韓比較を通じて	4,680,000
24	2023	2026	基盤研究 (C)	岩森　大	レオロジーの異なる炭酸飲料による嚥下機能への刺激効果の解明	4,810,000
25	2023	2025	基盤研究 (C)	高林知也	MRI情報を用いた筋骨格有限要素モデルによる扁平足のタイプ別での骨・軟部組織負荷	4,680,000
26	2023	2025	基盤研究 (C)	太田大樹	遅発性筋痛の筋膜における発現変動因子の同定と機械痛覚過敏への関与解明	4,810,000
27	2023	2026	基盤研究 (C)	阿部　薫	足のねじれ変形の法則性を考慮したハイヒール靴の基本設計に関する生活支援技術の確立	4,550,000
28	2023	2025	基盤研究 (C)	須田裕紀	義足ソケットの力学的・解剖学的特徴の解明	4,810,000
29	2023	2025	基盤研究 (C)	犬飼康人	動的バランス機能を向上させるニューロモデュレーション技術の開発	4,810,000
30	2023	2025	基盤研究 (C)	園純一郎	ハンセン病末梢神経障害の診断と神経筋再生治療法の開発に関する研究	4,680,000
31	2023	2025	基盤研究 (C)	玉越敬悟	脳卒中超早期リハビリテーションの運動開始時点を決める生理学的パラメータの開発	4,680,000
32	2023	2026	基盤研究 (C)	相馬俊雄	脳卒中片麻痺者における歩行支援ロボットの立脚支持と遊脚誘導機構の解明	4,680,000
33	2023	2025	基盤研究 (C)	能村友紀	経頭蓋交流電気刺激による大脳皮質活動の変調が宣言的記憶学習の促進に及ぼす影響	4,680,000
34	2023	2025	基盤研究 (C)	佐藤未希	女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因分析	4,550,000
35	2023	2025	基盤研究 (C)	齊藤　慧	知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出	4,810,000
36	2023	2025	基盤研究 (C)	徳永亮太	慢性腰痛による下行性疼痛制御系の変調機構と運動療法の効果	4,680,000
37	2023	2027	基盤研究 (C)	大湊　麗	二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討：鼻腔共鳴の定量評価の確立	4,550,000
38	2023	2026	基盤研究 (C)	土田千歳	意図しない妊娠を避けるためのポジティブ・デビアンスを用いた教育プログラムの開発	4,810,000
39	2023	2026	基盤研究 (C)	金子聡一郎	市中施術所および医療機関におけるCOVID-19後遺症の特徴の抽出と鍼灸治療の効果の検討	3,640,000
40	2023	2025	基盤研究 (C)	森　博康	茶カテキンの食品機能性に注目した新たなサルコペニア予防と治療方法の創出	4,680,000
41	2023	2025	挑戦的 研究 (萌芽)	澤田純明	縄文時代人は何歳まで生きたのか？高分解能CTを用いた骨組織学的年齢推定法の開拓	6,240,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
42	2023	2025	挑戦的研究（萌芽）	村田憲章	我が国における乳幼児保有視力分布の現代的再構築：パイロットスタディ	6,240,000
43	2023	2026	若手研究	大野　健	病理遺伝子診断時代の神経膠腫のためのMR画像バイオマーカーの開発と検証	4,550,000
44	2023	2025	若手研究	村山　稔	脳卒中片麻痺患者の歩行練習に使用する膝関節伸展補助具の効果 - 多施設研究 -	4,680,000
45	2023	2026	国際共同研究加速基金（海外連携研究）	江玉睦明	腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立	21,060,000
46	2024	2028	基盤研究（A）	佐宗亜衣子	骨考古学とDNA分析から読み解く「縄文村1000年間のファミリーツリー」	47,060,000
47	2024	2027	基盤研究（B）	澤田純明	山形県日向洞窟から出土した後期更新世-完新世初頭人骨群の考古科学的研究	18,590,000
48	2024	2028	基盤研究（B）	石井雅子	視覚障害を未然に防ぐ眼の健康リテラシーの向上－幼小中高大接続による眼育教育―	17,680,000
49	2024	2027	基盤研究（B）	村田憲章	医療リソース効率化を目指す研究：視線解析装置による乳幼児視力の自動精密測定	18,460,000
50	2024	2027	基盤研究（B）	能登真一	EQ-HWBのスコアリングアルゴリズムの開発と費用対効果評価への応用の検討	18,070,000
51	2024	2027	基盤研究（B）	児玉直樹	軽度認知障害の進行および回復に伴う脳内メカニズムの解明と認知症予防への展開	18,330,000
52	2024	2027	基盤研究（B）	芝田純也	非侵襲ヒト静磁場刺激の創生	18,590,000
53	2024	2027	基盤研究（B）	椿　淳裕	低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明	18,460,000
54	2024	2027	基盤研究（B）	久保亜抄子	筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明	18,460,000
55	2024	2026	基盤研究（C）	阿部拓也	NASHの革新的な予防法・治療法の確立に関する研究：脂肪を摂って脂肪を取る	4,680,000
56	2024	2027	基盤研究（C）	橋本照男	発達期の記憶に脳由来神経栄養因子の遺伝子多型が与える影響とその脳内基盤の解明	4,550,000
57	2024	2026	基盤研究（C）	齋藤　憲	骨肉腫透過ペプチドによる新しい骨肉腫細胞機能の解明と創薬開発	4,550,000
58	2024	2027	基盤研究（C）	桶谷涼子	がんサバイバーの妊娠・出産，育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成	2,990,000
59	2024	2027	基盤研究（C）	竹井　豊	看護と救急医療の連携強化に向けた救急隊員病院連絡教育の開発と評価	4,550,000
60	2024	2026	基盤研究（C）	佐藤郁美	胎児低酸素血症のサイン「遅発一過性徐脈」先行予測AIの開発	4,550,000
61	2024	2027	基盤研究（C）	佐藤成登志	高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築	4,550,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
62	2024	2026	基盤研究 (C)	神田　賢	看護・介護従事者の腰痛，頚部痛，メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証	4,680,000
63	2024	2026	基盤研究 (C)	宇田優子	難病患者会の組織ライフサイクルにおける「成熟状態の継続」モデリング	2,730,000
64	2024	2026	基盤研究 (C)	宮口翔太	補足運動野を核とした神経ネットワーク強化による運動学習のプラトー脱却戦略	4,550,000
65	2024	2026	基盤研究 (C)	大山峰生	関節支持筋の効果的な筋再教育法の開発	3,770,000
66	2024	2026	基盤研究 (C)	北谷亮輔	皮質脊髄路と皮質網様体路の選択的刺激による歩行併用型脳刺激法の開発と検証	4,680,000
67	2024	2026	基盤研究 (C)	下門洋文	スイマーが水を捉える瞬間の解明	3,900,000
68	2024	2026	基盤研究 (C)	下山好充	競泳スタートにおける個別特性に応じたトレーニング法の開発	4,550,000
69	2024	2026	基盤研究 (C)	小林志郎	投擲事故を未然に防ぐ新たなトレーニング用具の開発と普及	4,680,000
70	2024	2027	基盤研究 (C)	稲葉洋美	共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発	4,550,000
71	2024	2027	基盤研究 (C)	佐藤敏郎	「浮き趾」は静的・動的立位姿勢の安定性や歩行動作および跳躍動作に影響するのか	4,680,000
72	2024	2026	基盤研究 (C)	中村純子	健康教育が行動に繋がらない謎を解明：ナッジで中学生の行動変容を促す	1,820,000
73	2024	2027	基盤研究 (C)	花村健次	成体海馬の神経新生の傷害を介した放射線による鎮痛作用を担うメカニズムの解明	4,550,000
74	2024	2026	基盤研究 (C)	平井克之	新規書誌同定技術による和文の引用データベースの構築	4,550,000
75	2024	2026	基盤研究 (C)	藤井　豊	酸素ウルトラファインバブル溶液による腹膜を介した革新的呼吸補助法の創出	4,680,000
76	2024	2026	基盤研究 (C)	髙橋良光	透析用カテーテルの機能不全を誘発する予測因子の解明	4,550,000
77	2024	2026	基盤研究 (C)	田中惣治	脳卒中者に対する短下肢装具足継手の選定指針の構築	4,550,000
78	2024	2027	基盤研究 (C)	隅田好美	生活保護受給者の健康寿命の延伸―フレイルの実態と阻害要因の解明―	4,550,000
79	2024	2026	基盤研究 (C)	原　修一	Virtual Realityを含む情報通信技術を用いた小児構音障害の教育プログラムの作成	3,770,000
80	2024	2026	若手研究	亀岡雅紀	幼児の運動器の機能を向上させ異変を防ぐ運動プログラムの開発	4,680,000
81	2024	2026	若手研究	田宮　創	ベルト式骨格筋電気刺激を用いた革新的な毛細血管保護戦略の開発	4,810,000
82	2024	2028	若手研究	田村俊暁	筋萎縮性側索硬化症に伴う球麻痺症候の音響音声学的バイオマーカーと類型システム	4,290,000
83	2024	2027	若手研究	安中裕紀	てんかん患者に対するスマートフォンによる遠隔認知リハビリテーションの有効性の検証	4,680,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
84	2024	2026	若手研究	阿久澤弘	第５中足骨疲労骨折の予防方法確立につながる構造的，機能的リスク因子の解明	4,420,000
85	2024	2025	若手研究	吉田宜清	体動アーチファクトのある認知症診断用MRI画像から海馬の体積を正確に測定する試み	4,680,000
86	2024	2026	若手研究	佐々木一真	バスキュラーアクセスの非侵襲機能診断を目的とした生体音分析方法に関する研究	4,810,000
87	2024	2026	若手研究	森清友亮	超音波断層画像再構成による発育性股関節形成不全3Dモデル作成法開発と検証	4,810,000
88	2024	2026	挑戦的研究（萌芽）	佐宗亜衣子	実証的研究で明らかにする江戸の歯科学	6,500,000
89	2024	2026	挑戦的研究（萌芽）	長坂和明	異所性神経回路の理解と制御による脳卒中後疼痛メカニズム解明への挑戦	6,240,000
90	2024	2025	挑戦的研究（萌芽）	田口　徹	筋線維タイプ特異的活動操作を実現する基盤技術の構築と筋機能解明への応用	6,500,000
91	2024	2025	研究活動スタート支援	溝江　唯	自閉スペクトラム症児の自他の関係性を表す言語表現に関する検討	2,730,000
92	2024	2025	研究活動スタート支援	小林壮太	入院患者に対する臨床評価尺度を用いた新たな身体活動量評価と介入指針の開発	2,730,000
93	2024	2025	研究活動スタート支援	岡本優美	習慣的な運動に伴う女性の皮膚血管および汗腺機能の適応メカニズム解明	2,730,000
94	2024	2025	研究活動スタート支援	早尾啓志	骨格筋血流動態は伸張性収縮誘発性筋損傷の保護効果程度を示すバイオマーカーとなるか	2,730,000
95	2024	2025	学術変革領域研究（A）	佐宗亜衣子	三浦半島海食洞穴出土人骨の骨考古学的研究から明らかにする関東弥生時代の社会構造	4,940,000
96	2025	2028	基盤研究（A）	山本裕二	「終わりなき学習」ダイナミクスの解明	46,280,000
97	2025	2028	基盤研究（B）	小曽根海知	オミクス解析を駆使して挑む活動期関節リウマチに対する運動療法の治療機構解明	18,850,000
98	2025	2028	基盤研究（B）	山口典子	男性の妊孕力向上のための社会実装型プレコンセプションケア教育の開発と効果検証	18,850,000
99	2025	2028	基盤研究（B）	大鶴直史	脳深部に存在する島皮質への非侵襲的な刺激実現と慢性疼痛患者への応用戦略	18,720,000
100	2025	2028	基盤研究（B）	大西秀明	マルチモーダル脳イメージングによる側頭頭頂接合部の特徴解明と知覚学習への応用	25,740,000
101	2025	2027	基盤研究（B）	田口　徹	痛覚変調性疼痛における視床下部の役割とNeuromodulationによる鎮痛機構解明	18,850,000
102	2025	2028	基盤研究（B）	山代幸哉	受傷後アスリートが慢性疼痛発症に至る脳状態の予測指標と予防策の創出	17,550,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
103	2025	2028	基盤研究 (B)	藤本知臣	高齢者の低体温症予防における運動の効果と冷感受容体TRPM８の関与	18,720,000
104	2025	2028	基盤研究 (B)	多々良俊哉	加齢性斜視の早期発見に向けた眼位検査装置の構築と非観血的矯正用具の開発	18,590,000
105	2025	2028	基盤研究 (C)	寺田貴美代	地域連携と国際連携を基盤とする外国人DV被害者の自立支援モデルの開発	4,550,000
106	2025	2028	基盤研究 (C)	金子毅司	被疑者・被告人となった者への福祉的支援に関する実証的検証と支援モデルの構築	4,680,000
107	2025	2027	基盤研究 (C)	原口彩子	共生型農園活動の引きこもり解消への効果とその要因	4,290,000
108	2025	2027	基盤研究 (C)	谷　麻美	バイオマーカーを用いた癇癪の客観的評価―ケアプロセスの標準化をめざして―	4,550,000
109	2025	2028	基盤研究 (C)	佐近慎平	保育者の幼児の転倒時に手がでる動作環境設定の一般化の検証	4,680,000
110	2025	2027	基盤研究 (C)	高橋　司	インストラクショナルデザインによる救急救命士特定行為の完全習得学習システム開発	4,550,000
111	2025	2027	基盤研究 (C)	本間健太	脳卒中患者における目標設定に着目した動機づけ方略の構築	3,510,000
112	2025	2027	基盤研究 (C)	関本道治	マンモグラフィ検査におけるターゲット材質と体型を考慮した平均乳腺線量評価法の革新	4,550,000
113	2025	2028	基盤研究 (C)	山田真衣	てんかん児の保護者のマネジメント力定量化を応用した自立支援プログラムの開発	3,640,000
114	2025	2027	基盤研究 (C)	小栗妙子	慢性心不全の急性増悪時に必要な臨床判断能力を育む実写版VR動画の開発	2,990,000
115	2025	2028	基盤研究 (C)	サバンジュ美智子	原発不明がん患者に対する看護師主導型のシームレスな支援体制の構築	3,380,000
116	2025	2028	基盤研究 (C)	早川貴紀	地域精神保健におけるピアサポート活動促進のための支援プログラムの構築	2,990,000
117	2025	2028	基盤研究 (C)	高橋佳子	シャーガス病母子感染検査・治療率向上のための行動変容アプローチ	6,110,000
118	2025	2028	基盤研究 (C)	和田直子	小規模事業所における子育てと仕事の両立支援方策の開発	4,290,000
119	2025	2027	基盤研究 (C)	石塚敏子	若年性パーキンソン病者の近隣からの災害時受援に関する研究	1,820,000
120	2025	2027	基盤研究 (C)	髙橋英明	糖尿病モデルラットにおける骨格筋内の微小循環と運動効果	4,550,000
121	2025	2028	基盤研究 (C)	内山　信	認知症患者における難聴によって修飾される症状の解明	2,470,000
122	2025	2027	基盤研究 (C)	星　春輝	脳を準備させる-運動開始前の脳活動を標的とした新規リハビリテーション戦略の創出-	4,550,000
123	2025	2027	基盤研究 (C)	横田裕丈	経皮的迷走神経刺激が運動誘発性鎮痛にもたらす相乗効果の解明	4,680,000
124	2025	2028	基盤研究 (C)	八坂敏一	in vivoパッチクランプ法を用いた「脊髄後角ゲート機構による疼痛調節機序」の解明	4,680,000
125	2025	2027	基盤研究 (C)	菊元孝則	慢性足関節不安定症が膝前十字靭帯損傷の危険因子となるメカニズムの検証	4,680,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
126	2025	2027	基盤研究 (C)	小島　翔	動的な触圧覚刺激に伴う皮質応答の特徴と介入効果の背景にある神経基盤の解明	4,550,000
127	2025	2027	基盤研究 (C)	池田恵子	母子で行うペアダンスが母親の育児ストレスおよび脳血流量に与える影響	2,340,000
128	2025	2028	基盤研究 (C)	千葉陽子	女性ユースアスリートに対する有効な心理支援の開発 －生涯発達心理学に着目して－	4,420,000
129	2025	2027	基盤研究 (C)	越中敬一	水分子の動態による骨格筋エネルギー代謝調節機構の解明	4,550,000
130	2025	2027	基盤研究 (C)	柴田篤志	中高生アスリートの助走片脚跳躍における踏切能力およびその発達に影響する要因の解明	4,680,000
131	2025	2027	基盤研究 (C)	熊崎　昌	スポーツ活動中に生じる頭部衝撃の影響を予測する身体的因子の解明	4,680,000
132	2025	2027	基盤研究 (C)	増子弘明	内視鏡スコープの清浄度評価にAIE蛍光染色法を用いた迅速な清浄度評価方法の確立	4,550,000
133	2025	2027	基盤研究 (C)	前田史篤	Motion Magnicationの技術を応用した新しい他覚的瞳孔視野計測法の開発	4,680,000
134	2025	2027	基盤研究 (C)	郷　貴博	下腿義足の最適な適合と調整のための新たな評価指標の構築	4,550,000
135	2025	2027	基盤研究 (C)	前田　雄	歩行機能とソケット適合を考慮した新しい下腿義足ソケットの最適設計に関する研究	4,680,000
136	2025	2028	挑戦的 研究 (開拓)	越智元太	健全な発達を促す身体活動に向けた毛髪中コルチゾールによる慢性ストレス評価法確立	25,870,000
137	2025	2027	挑戦的 研究 (萌芽)	児玉直樹	地域住民が利用可能な軽度認知障害スクリーニングシステムの開発と認知症検診への挑戦	5,980,000
138	2025	2027	挑戦的 研究 (萌芽)	石垣智恒	腱の損傷と修復に着目した腱グリコーゲン代謝調節機構の機能解明	6,240,000
139	2025	2027	挑戦的 研究 (萌芽)	大鶴直史	VRによる内受容情報フィードバックと脳刺激の融合による身体認知変容への挑戦	6,500,000
140	2025	2028	若手研究	松元　圭	双極症患者と縁者の関係破綻に影響を与える要素の特定に関する社会学的研究	4,810,000
141	2025	2028	若手研究	落合勇人	高齢者におけるパンの誤嚥・窒息事故防止に向けた食品特性と口腔機能の多角的解析	4,550,000
142	2025	2027	若手研究	溝江　唯	幼児期後期における自閉スペクトラム症児と養育者の相互交渉：遊びの種類が与える影響	4,810,000
143	2025	2027	若手研究	郡　倫一	放射線量測定のための新しいポリマーゲル線量計の開発	4,680,000
144	2025	2027	若手研究	横山　貴	ファブリー病における尿中ポドサイトによる酵素補充療法開始時期の客観的判定法	4,290,000
145	2025	2026	若手研究	涌井杏奈	スマホ画面や不織布マスク等を介しての微生物伝播：シンバイオシスという新概念	4,810,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
146	2025	2027	若手研究	髙橋里奈	肘関節術後患者に対する筋電図バイオフィードバック療法の効果的な訓練方法の検証	4,550,000
147	2025	2026	若手研究	五十嵐眸実	脳律動強化による生体内鎮痛システム強化技術の開発	4,810,000
148	2025	2026	若手研究	小宮　諒	中足部の横アーチ評価方法の確立と動作時の足部・足関節動態との関連の検討	4,810,000
149	2025	2027	若手研究	早尾啓志	伸張性収縮誘発性筋損傷の予防運動の至適強度とそのメカニズムの解明	4,940,000
150	2025	2027	若手研究	青木　海	β-Hydroxy　β-MethylButyrateを 用いた運動誘発性胃腸症候群の予防・緩和効果の検証	4,810,000
151	2025	2026	若手研究	吉田皓文	胸部X線画像の構造的・機能的異常を言語化する特化型基盤モデルの開発	4,550,000
152	2025	2027	若手研究	千葉寛之	若年者における「隠れ難聴」の早期発見・早期予防を目指したスクリーニング方法の開発	3,900,000

（2）厚生労働省科学研究費補助金　採択一覧表

該当なし

（３）新潟県内国公私立大学の科学研究費配分額一覧

令和７年度　　（金額単位：千円）

	大　学　名	件数	直接費	間接費	合計
1	新潟大学	700	1,241,200	372,360	1,613,560
2	新潟医療福祉大学	165	275,800	82,740	358,540
3	長岡技術科学大学	116	314,700	94,410	409,110
4	上越教育大学	34	44,300	13,290	57,590
5	新潟薬科大学	21	27,300	8,190	35,490
6	新潟県立看護大学	21	14,300	4,290	18,590
7	新潟県立大学	19	20,300	6,090	26,390
8	新潟国際情報大学	13	17,500	5,250	22,750
9	新潟工科大学	10	21,500	6,450	27,950
10	新潟食料農業大学	10	11,400	3,420	14,820
11	新潟青陵大学	9	6,300	1,890	8,190
12	国際大学	8	10,600	3,180	13,780
13	長岡崇徳大学	5	4,800	1,440	6,240
14	開志専門職大学	5	3,500	1,050	4,550
15	事業創造大学院大学	4	4,500	1,350	5,850
16	新潟リハビリテーション大学	3	2,900	870	3,770
17	敬和学園大学	3	1,700	510	2,210
18	日本歯科大学新潟短期大学	3	1,400	420	1,820
19	長岡造形大学	2	1,900	570	2,470
20	新潟産業大学	2	1,700	510	2,210
21	新潟青陵大学短期大学部	1	1,000	300	1,300
22	新潟中央短期大学	1	800	240	1,040
23	新潟経営大学	1	700	210	910
24	明倫短期大学	1	400	120	520

※文部科学省令和７年度科学研究助成事業のはいぶんについてより

12）新潟医療福祉学会

・会員数と構成（2026年3月31日現在）

会員数　　400名

・学会誌の発行（和文誌・英文誌）

2025年10月　新潟医療福祉学会誌・和文誌第25巻第1号（第25回新潟医療福祉学会学術集会特集）

十分な論文が集まらず，新潟医療福祉学会誌（和文誌）第24巻第2号／Niigata Journal of Health and Welfare（英文誌）第24巻第1号以降の論文の発刊はなし（次年度へ繰り越し）

・学術集会の開催

第25回新潟医療福祉学会学術集会

開 催 日：2025年10月25日（土）

開催方式：対面

大 会 長：新潟医療福祉大学　医療技術学部　臨床技術学科・学科長　渡邊博昭教授

概　　要：主要テーマ「地域連携と産官学連携による医療安全の維持・向上」として，特別講演およびシンポジウム等の研究発表が行われた.

・評議委員会，総会の開催

評議員会　開催日：2025年7月23日（水）

会　場：Teamsによるオンライン会議

総会　　開催日：2025年10月25日（土）

会　場：Q棟201講義室にて対面開催

8．図書館

1）蔵書数※１　155,261点
2）年間受入数　3,994点
3）利用状況
（1）開館日数　306日
（2）開館時間　3,344時間
（3）入館者数　117,464人
（4）貸出冊数　12,771冊
4）データ推移
（1）蔵書データ

	図書			電子ブック※２	視聴覚資料	雑誌			電子ジャーナル※３	
	蔵書数	和　書	洋　書			種　数	和雑誌	洋雑誌	種数	うち国外
2019年度	129,137	118,292	10,845	—	2,753	1,448	1,181	267	8,536	7,086
2020年度	131,610	120,557	11,053	127	2,879	1,459	1,192	267	8,732	7,163
2021年度	136,802	125,622	11,180	345	2,972	1,472	1,205	267	7,397	6,122
2022年度	141,234	129,509	11,725	554	3,295	1,499	1,231	268	7,759	6,138
2023年度	145,209	133,254	11,955	738	3,344	1,520	1,250	270	7,578	5,869
2024年度	147,495	135,503	11,992	836	3,806	1,528	1,287	241	7,498	5,749
2025年度	150,424	138,368	12,056	945	3,892	1,530	1,289	241	7,506	5,724

（2）利用データ

	開館日数	入館者数	貸出冊数	複写依頼	複写受付	学外者
	日	人	冊	件	件	人
2019年度	305	247,326	41,330	922	974	1,054
2020年度	234	47,357	13,950	671	613	60
2021年度	295	81,302	19,344	764	841	132
2022年度	299	90,422	19,949	609	658	359
2023年度	304	108,603	17,115	460	557	527
2024年度	305	114,635	15,100	383	487	858
2025年度	306	117,464	12,771	301	362	466

※１電子ブックおよび視聴覚資料を含む
※２法人契約買い切り電子ブック点数
（2020年度より集計）
※３購読契約電子ジャーナル種数

9．学生関係

1）収容定員

（1）学部

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
リハビリテーション学部	理学療法学科	120名	—	480名
	作業療法学科	50名	—	200名
	言語聴覚学科	40名	—	160名
	義肢装具自立支援学科	40名	—	160名
	鍼灸健康学科	40名	—	120名
医療技術学部	臨床技術学科	100名	—	400名
	視機能科学科	50名	—	200名
	救急救命学科	55名	—	220名
	診療放射線学科	90名	—	360名
健康科学部	健康栄養学科	80名	—	200名
	健康スポーツ学科	250名	5名	1,010名
看護学部	看護学科	107名	3名	434名
心理・福祉学部	社会福祉学科	120名	5名	490名
	心理健康学科	80名	—	160名
医療経営管理学部	医療情報管理学科	80名	5名	330名
合　計		1,302名	18名	4,924名

（2）大学院

研究科	課程	専攻	分野	入学定員	収容定員
医療福祉学研究科	修士課程	保健学専攻	理学療法学分野	30名	60名
			作業療法学分野		
			言語聴覚学分野		
			義肢装具自立支援学分野		
			医療技術安全管理学分野		
			視覚科学分野		
			救急救命学分野		
			放射線情報学分野		
			自然人類学分野		
		健康科学専攻	健康栄養学分野	16名	32名
			健康スポーツ学分野		
			看護学分野		
		社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	5名	10名
			保健医療福祉マネジメント学分野		
		医療情報・経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	4名	8名
	博士後期課程	医療福祉学専攻	—	20名	50名
合　計				75名	160名

2025年度収容定員

2）入試広報活動

（1）学部

オープンキャンパスの開催

期日	内容	
5月18日（日）	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生　412名参加
5月19日（月）～6月13日（金）	高校教諭対象WEB説明会	高等学校教諭　15校15名参加
6月15日（日）	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生　408名参加
7月1日（火）～7月31日（木）	高校教諭対象WEB説明会	高等学校教諭　19校20名参加
7月13日（日）	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生　720名参加
8月9日（土）・10日（日）	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生　2,207名参加
10月5日（日）	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生　429名参加
3月29日（日）	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生　655名参加

（2）大学院

①大学院説明会等の開催

期日	内容	
4月22日（火）	大学院説明会「教えて！大学院①」	学部生，大学院生　25名参加
5月20日（火）	大学院説明会「教えて！大学院②」	学部生，大学院生　17名参加
6月24日（火）	大学院説明会「教えて！大学院③」	学部生，大学院生　９名参加
7月19日（土）	大学院夏のオープンキャンパス	在学生，社会人等　45名参加
8月26日（火）	大学院説明会「教えて！大学院④」	学部生，大学院生　１名参加
8月28日（火）	大学院説明会「教えて！大学院⑤」	学部生，大学院生　13名参加
9月13日（土）	大学院秋のオープンキャンパス	在学生，社会人等　19名参加
10月28日（火）	大学院説明会「教えて！大学院⑥」	学部生，大学院生　10名参加
11月25日（火）	大学院説明会「教えて！大学院⑦」	学部生，大学院生　５名参加
12月23日（火）	大学院説明会「教えて！大学院⑧」	学部生，大学院生　８名参加
1月24日（土）	大学院冬のオープンキャンパス	在学生，社会人等　17名参加
3月29日（日）	大学院春のオープンキャンパス	在学生，社会人等　13名参加

②大学院説明会　在学生向け大学院説明（教えて！大学院）や一般向け大学院説明会（オープンキャンパス）をオンラインで開催（3月29日のみ対面）し，大学院進学の魅力や修士課程学費減免特待生制度等について紹介を行った．その他，学科からの要望に応じ，随時個別に大学院概要の説明等を行った．

③学会誌等への広告掲載，ホームページ・SNS等の活用，各種学会誌，各種団体等の会報誌・ホームページへの大学院広告ならびにバナー広告の掲載を行った．また，新潟医療福祉大学大学院ホームページ，X（Twitter）で，大学院イベント情報，入試情報等の周知を行った．

3）入学者選抜方法

（1）学部

学部	学科	入学定員	選抜区分別募集人員																
			総合型選抜							学校推薦型選抜		外国人留学生選抜		社会人等特別選抜	大学入学共通テスト利用選抜			一般選抜	
			A方式［主体性重視型］	B方式［基礎教養重視型］	C方式［スポーツ重視型］		D方式［基礎学力重視型］	E方式［キャリアビジョン重視型］	併願制	公募制	指定校制	前期日程	後期日程		前期日程	後期日程	2科目選択型	前期日程	後期日程
					前期日程	後期日程													
リハビリテーション	理学療法	120	32	15	若干名	—	10	若干名	3	13	12	若干名	若干名	若干名	5	2	若干名	20	2
	作業療法	50	10	3	若干名	若干名	6	若干名	2	5	5	若干名	若干名	若干名	2	2	若干名	6	2
	言語聴覚	40	9	2	若干名	若干名	2	若干名	2	2	4	若干名	若干名	若干名	2	2	若干名	6	2
	義肢装具自立支援	40	10	2	若干名	若干名	2	若干名	2	3	3	若干名	若干名	若干名	2	2	若干名	5	2
	鍼灸健康	40	8	2	若干名	若干名	2	若干名	2	3	5	若干名	若干名	若干名	2	2	若干名	5	2
医療技術	臨床技術	100	16	8	若干名	—	9	若干名	4	5	11	若干名	若干名	若干名	7	2	若干名	30	2
	視機能科	50	12	2	若干名	若干名	4	若干名	2	4	7	若干名	若干名	若干名	2	2	若干名	6	2
	救急救命	55	9	2	若干名	—	7	若干名	2	4	8	若干名	若干名	若干名	3	2	若干名	10	2
	診療放射線	90	11	2	若干名	—	11	若干名	4	6	5	若干名	若干名	若干名	6	2	若干名	35	2
健康科	健康栄養	80	10	5	若干名	—	9	若干名	3	10	12	若干名	若干名	若干名	6	2	若干名	15	2
	健康スポーツ	250	40	18	75	10	5	若干名	4	9	25	若干名	若干名	若干名	16	2	若干名	38	3
看護	看護	107	21	10	若干名	—	8	若干名	4	9	12	—	—	若干名	4	2	若干名	30	3
心理・福祉	社会福祉	120	23	7	若干名	若干名	3	若干名	4	7	30	若干名	若干名	若干名	6	2	若干名	28	3
	心理健康	80	15	4	若干名	若干名	4	若干名	3	7	15	若干名	若干名	若干名	6	2	若干名	15	2
医療情報経営	医療情報管理	80	15	4	若干名	若干名	2	若干名	3	4	20	若干名	若干名	若干名	6	2	若干名	15	2
	健康データサイエンス	45	8	2	若干名	若干名	2	若干名	2	3	7	若干名	若干名	若干名	2	2	若干名	8	2
合　計		1,347	249	88	75	10	86	若干名	46	94	181	若干名	若干名	若干名	77	32	若干名	272	35

健康スポーツ学科・看護学科・社会福祉学科・医療情報管理学科では，上記に加え３年次編入学選抜を実施.

３年次編入学定員／健康スポーツ学科；５　看護学科；３　社会福祉学科；５　医療情報管理学科；５

（2）大学院

研究科	課程	専攻	分野	入学定員	試験区分別募集人員			
					一般	国際貢献活動経験者等	外国人留学生	学内推薦＊
医療福祉学研究科	修士課程	保健学専攻	理学療法学分野	30名	30名			
			作業療法学分野					
			言語聴覚学分野					
			義肢装具自立支援学分野					
			医療技術安全管理学分野					
			視覚科学分野					
			救急救命学分野					
			放射線情報学分野					
			自然人類学分野					
		健康科学専攻	健康栄養学分野	16名	16名			
			健康スポーツ学分野					
			看護学分野					
		社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	5名	5名			
			保健医療福祉マネジメント学分野					
		医療情報・経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	4名	4名			
	博士後期課程	医療福祉学専攻	—	20名	20名			
合　計				75名	75名			

＊学内推薦は修士課程のみ

4）入学者選抜試験結果

（1）学部

①1年次入学者選抜試験結果

学部	学科	入学定員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数（第1志願）	合格者数（第2志願）	実質倍率	入学者数
リハビリテーション学部	理学療法学科	120	524	4.4	490	261	—	1.9	139
	作業療法学科	50	177	3.5	173	144	7	1.2	57
	言語聴覚学科	40	99	2.5	98	83	0	1.2	42
	義肢装具自立支援学科	40	57	1.4	56	56	1	1.0	21
	鍼灸健康学科	40	94	2.4	87	85	4	1.0	40
医療技術学部	臨床技術学科	100	345	3.5	312	280	9	1.1	104
	視機能科学科	50	82	1.6	81	79	2	1.0	27
	救急救命学科	55	306	5.6	293	98	1	3.0	60
	診療放射線学科	90	446	5.0	393	239	—	1.6	99
健康科学部	健康栄養学科	80	219	2.7	198	171	7	1.2	82
	健康スポーツ学科	250	484	1.9	474	304	1	1.6	261
看護学部	看護学科	107	594	5.6	546	241	—	2.3	118
心理・福祉学部	社会福祉学科	120	173	1.4	166	166	5	1.0	65
	心理健康学科	80	213	2.7	201	191	6	1.1	82
医療情報経営学部	医療情報管理学科	80	157	2.0	148	144	2	1.0	67
	健康データサイエンス学科	45	89	2.0	84	82	1	1.0	30
合　計		1,347	4,059	3.0	3,800	2,624	46	1.4	1,294

（注1）合格者数は，正規合格者数を表記（繰上合格者は含まない）.

（注2）実質倍率は，受験者数÷合格者数（第1志願）で算出.

②3年次編入学者選抜試験結果

学部	学科	入学定員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
健康科学部	健康スポーツ学科	5	1	0.2	1	1	1.0	1
看護学部	看護学科	3	2	0.7	2	2	1.0	2
心理・福祉学部	社会福祉学科	5	1	0.2	1	1	1.0	1
医療情報経営学部	医療情報管理学科	5	1	0.2	1	1	1.0	1
合　計		18	5	0.3	5	5	1.0	5

（2）大学院

研究科	課程	専攻	分野	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
医療福祉学研究科	修士課程	保健学専攻	理学療法学分野	30	22	22	22	22
			作業療法学分野		3	3	3	1
			言語聴覚学分野		1	1	1	1
			義肢装具自立支援学分野		7	7	7	7
			医療技術安全管理学分野		3	3	3	3
			視覚科学分野		0	0	0	0
			救急救命学分野		3	3	3	3
			放射線情報学分野		3	3	3	3
			自然人類学分野		1	1	1	1
		健康科学専攻	健康栄養学分野	16	5	5	5	5
			健康スポーツ学分野		8	8	7	7
			看護学分野		6	6	6	6
		社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	5	5	5	5	5
			保健医療福祉マネジメント学分野		0	0	0	0
		医療情報・経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	4	0	0	0	0
		修士課程小計		55	67	67	66	64
	博士後期課程	医療福祉学専攻	—	20	22	22	22	21
合　計				75	89	89	88	85

5）在籍学生数（2026年3月31日現在）

（1）学部　　（人）

学部	学科	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
リハビリテーション学部	理学療法学科	141	130	120	133	524
	作業療法学科	54	26	39	49	168
	言語聴覚学科	45	38	25	39	147
	義肢装具自立支援学科	32	26	28	42	128
	鍼灸健康学科	41	42	21		104
医療技術学部	臨床技術学科	97	90	98	97	382
	視機能科学科	24	39	32	55	150
	救急救命学科	63	61	58	59	241
	診療放射線学科	97	99	96	91	383
健康科学部	健康栄養学科	69	42	42	42	195
	健康スポーツ学科	253	259	281	248	1,041
看護学部	看護学科	121	122	97	123	463
心理・福祉学部	社会福祉学科	78	68	86	127	359
	心理健康学科	73	77			150
医療経営管理学部	医療情報管理学科	65	71	97	100	333
合計		1,253	1,190	1,120	1,205	4,768

（2）大学院

①修士課程　　（人）

専攻	分野	1年生	2年生	合計
保健学専攻	理学療法学分野	23	28	51
	作業療法学分野	2	4	6
	言語聴覚学分野	0	2	2
	義肢装具自立支援学分野	5	0	5
	医療技術安全管理学分野	3	1	4
	視覚科学分野	3	1	4
	救急救命学分野	1	0	1
	放射線情報学分野	6	7	13
	自然人類学分野	1	0	1
健康科学専攻	健康栄養学分野	1	2	3
	健康スポーツ学分野	13	16	29
	看護学分野	4	5	9
社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	3	2	5
	保健医療福祉マネジメント学分野	2	1	3
医療情報・経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	1	3	4
合計		68	73	140

②博士後期課程

専攻	1年生	2年生	3年生	合計
医療福祉学専攻	21	22	33	76

6）異動学生数（2025年度）

（1）学部　　（人）

学部	学科	学年	休学者	退学者	転学科（転入）	転学科（転出）	除籍者	復学者
リハビリテーション学部	理学療法学科	1年生		2				
		2年生	3	3				1
		3年生	8	11		2		5
		4年生	9	5		1		4
	作業療法学科	1年生		7				
		2年生				3		
		3年生		1		1		
		4年生						
	言語聴覚学科	1年生		1				
		2年生		3				
		3年生						
		4年生						
	義肢装具自立支援学科	1年生		3				
		2年生		1				
		3年生		4				
		4年生	2	2		1		1
	鍼灸健康学科	1年生	1	1				
		2年生	1	2				
		3年生						
		4年生						
医療技術学部	臨床技術学科	1年生	1	4				
		2年生	1	1				
		3年生	3	4				
		4年生	2	1				3
	視機能科学科	1年生		1				
		2年生				5		
		3年生						
		4年生	2					3
	救急救命学科	1年生						
		2年生				1	1	
		3年生						
		4年生	1					1
	診療放射線学科	1年生						
		2年生	1	1		1		
		3年生	1	2				
		4年生	2	1				
健康科学部	健康栄養学科	1年生		2				
		2年生	2	2				
		3年生						
		4年生						
	健康スポーツ学科	1年生		9				
		2年生		5				
		3年生	2	5	4		1	
		4年生		1			1	1
看護学部	看護学科	1年生	2	3				
		2年生	2	2				1
		3年生	1	1				
		4年生		1				
心理・福祉学部	社会福祉学科	1年生		1				
		2年生	1	2				
		3年生		1				
		4年生		1	2			1
	心理健康学科	1年生		1				
		2年生	2	2				
		3年生						
医療経営管理学部	医療情報管理学科	1年生		2				
		2年生		1				
		3年生		1	6			1
		4年生						
合計			50	104	12	15	3	22

（2）大学院

①修士課程　（人）

専攻	分野	学年	休学者	退学者	除籍者	復学者
保健学専攻	理学療法学分野	1年生				
		2年生		1		1
	作業療法学分野	1年生				
		2年生				
	言語聴覚学分野	1年生				
		2年生				
	義肢装具自立支援学分野	1年生				
		2年生				
	医療技術安全管理分野	1年生				
		2年生				
	視覚科学分野	1年生				
		2年生				
	救急救命学分野	1年生				
		2年生				
	放射線情報学分野	1年生				
		2年生				
	自然人類学分野	1年生				
		2年生				
健康科学専攻	健康栄養学分野	1年生				
		2年生				
	健康スポーツ学分野	1年生				
		2年生				
	看護学分野	1年生				
		2年生	1			1
社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	1年生				
		2年生				
	保健医療福祉マネジメント学分野	1年生				
		2年生		1		1
医療情報・経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	1年生				
		2年生	1			
合計			2	2	0	3

②博士後期課程　（人）

専攻	学年	休学者	退学者	単位取得後退学	除籍者	復学者
医療福祉学専攻	1年生					
	2年生					
	3年生	3	1	3		
合計		3	1	3	0	0

7）学生生活

（1）学生生活に関する指導

学生委員会，交通安全委員会を中心に学内および居住地域での生活マナーの徹底，安全運転の習慣化，挨拶・マナー向上を目的としたコラムの発信，学生の犯罪・被害防止，危険薬物使用防止等，長期休暇の過ごし方に関する注意喚起を実施.

① 駐車場使用指導・・・学内駐車場の安全管理，違反者に対するマナー指導.

② 生活指導・・・・・・学内外におけるマナー・生活指導，アパート居住者に対し騒音等に関する注意喚起等.

③ 犯罪被害防止・・・・学内個人ロッカー施錠管理指導，警察へ近隣パトロールの依頼，SNS利用の注意喚起.

④ 危険薬物使用防止・・警察との連携による薬物乱用防止講演会の開催.

⑤ 長期休暇の過ごし方・ゴールデンウィーク，夏季休暇，冬季休暇における過ごし方の注意喚起.

（2）オリエンテーション

各学年に対し就職活動や履修手続等について，WEB形式による全体オリエンテーション，対面による学科別オリエンテーションを実施した．また，新入生に対しては対面にて学生生活の注意事項や奨学金に関する説明を行った.

（3）健康診断

学校保健安全法に基づき学生健康診断を実施した.

（4）心理相談

精神科医師（男性）と臨床心理士（男性，女性）による心理相談をWEB形式および管理棟1階の応接室を相談室として週5回行った.

相談件数：355件

（5）奨学金制度（2026年3月31日現在）

① 本学独自の奨学金制度（給付型）

名　　称	新潟医療福祉大学奨学金	新潟医療福祉大学学資融資奨学金
内　　容	対象者に奨学金を給付	対象者に教育ローンの利子相当額を給付
出願資格	経済的理由により修学が困難であり，且つ成績が優秀な学生	経済的な理由により修学が困難である学生
給付金額	25万円（年額）	融資元本300万円を上限とする 教育ローンの当該年度の利子相当額
採用人数	30名（2年～4年次）	50名を上限
選考方法	書類審査および面接	書類審査および面接
募集時期	10月	10月
採用者数実績	30名	12名

② 日本学生支援機構奨学金

貸与型

学年	第一種奨学金（無利子）	第二種奨学金（有利子※）	合計
1年生	288件	452件	740件
2年生	310件	417件	727件
3年生	240件	402件	642件
4年生	227件	353件	580件
合　計	1,065件	1,624件	2,689件

※年利率3％を上限とする変動制

給付型　※多子世帯に係る授業料減免のみの対象者を含む

学年	給付奨学金
1年生	360件
2年生	311件
3年生	255件
4年生	239件
合　計	1,165件

（6）学生寮

シェアハウスタイプの学生寮「N-Village伍桃」は，2025年4月に8期生227名が入寮し，全体で584名が生活をしている．アパートタイプの学生寮「N-Village伍桃NEXT-Ⅰ」には2期生12名が入寮し，全体で83名が生活をしている．

本寮では，寮生活の満足度向上を達成するため，寮生による学生寮組織「寮友会」が「催事・広報委員会」「衛生委員会」の2つの委員会を運営しながら，寮生自らがイベントを企画・運営している．

寮生は寮内の生活およびイベントを通して，QOLサポーターとして働くための基礎を養っている．

①　顧問

相馬俊雄　　理学療法学科　教授
馬場誠也　　事務局学務部　学生課
藤井大和　　事務局学務部　学生課
中山あかね　事務局学務部　学生課

②　役員

会長　　武前愛美　健康スポーツ学科
副会長　　西岡亜弥乃　臨床技術学科，田邉祐登　救急救命学科
全体会計　　高橋由奈　義肢装具自立支援学科，竹内綾音　社会福祉学科
催事・広報委員長　秋山瑚子　臨床技術学科
催事・広報副委員長　尾形彩華　理学療法学科
衛生委員長　　平山紗椰　心理健康学科
衛生副委員長　　中村澪音　医療情報管理学科

2025年度　学生寮の主なイベント

4月	入寮オリエンテーション（オンライン）／新入寮生歓迎会
5月	寮周辺清掃活動
6月	島見浜ごみ拾い／前期定期テスト攻略会
7月	七夕イベント
9月	あつまれ！寮生の会
10月	ポテト祭り／ハロウィンイベント／防災訓練
11月	勤労感謝の日イベント
12月	クリスマス＆卒寮イベント／年末大掃除キャンペーン
3月	第7期生卒寮式（オンライン）

（7）学友会

文化活動およびスポーツ活動ならびに地域活動を通じ，会員相互の親睦，資質の向上および健康の増進を図り，大学生活の充実に貢献することを目的として組織している．定期総会を開催し，予算，決算，その他重要事項を審議した．大学側とともに定例協議会を実施し，学友会のあり方や活動方針などを確認した．学友会が中心となり，桃迎会（クラブ・サークル勧誘会）や伍桃祭（大学祭）の企画・運営，学生生活の充実度を向上させるための定期イベントを行った．

①　顧問

阿部拓也　　臨床技術学科　　講師
伊関浩克　　作業療法学科　　助教

小島結花　健康栄養学科　助手
熊倉真穂　医療情報管理学科　助教
竹石莉奈　事務局学務部　学生課
藤井大和　事務局学務部　学生課

② 役員

会長　岡村心結　看護学科
副会長　吉田大翔　医療情報管理学科
会計　富永隆之介　理学療法学科
会計　諸橋葵　医療情報管理学科

（8）大学祭

第25回大学祭「伍桃祭」を10月18日（土）・19日（日）で開催した．出店は学生出店のほか，キッチンカーの誘致も行った．一般の方や地域の方を招致し，クラブ・サークル団体発表や学科の催しなど創意工夫したイベントを行い，学生生活の充実や学生満足度向上に貢献した．

（9）クラブ活動

強化指定クラブ15団体

	強化指定クラブ名	代表学生名	GM・部長・監督名
1	水泳部	中田有友 木村日咲	三瀬貴生（部長）・下山好充（監督）
2	陸上競技部	元平優仁 岡田麻鈴	杉崎弘周（部長）・小林志郎（監督）
3	男子サッカー部	向井俊貴	西原康行（部長）・佐熊裕和（監督）
4	女子サッカー部	澤田瑞樹	西原康行（部長）・大友麻衣子（監督）
5	男子バスケットボール部	川端悠稀 須藤幹太 大津臣謙	山﨑史恵（部長）・堀　里也（監督）
6	女子バスケットボール部	中野璃愛	山﨑史恵（部長）・小林真里奈（監督）
7	男子バレーボール部	佐藤勇太	吉田重和（部長）・宮内健嗣（監督）
8	女子バレーボール部	富樫ひかる	吉田重和（部長）・西　博史（監督）
9	男子硬式野球部	小川隼弥	佐藤敏郎（部長）・佐藤和也・鵜瀬亮一（監督）
10	女子硬式野球部	小川　舞	佐藤敏郎（部長）・佐藤和也・後藤桂太（監督）
11	卓球部	中川滉大 後岡胡桃	重藤誠市郎（部長）・中野和茂（監督）
12	テニス部	植木理玖	越中敬一（部長）・西海幸頼（監督）
13	ダンス部	荒井愛弥	脇野哲郎（部長）・池田恵子（監督）
14	エンターテイメントダンス部	田中　翔	脇野哲郎（部長）・角田真優（監督）
15	スノーボード部	室　竜也	山本裕二（部長）・山崎　聡（監督）

体育系クラブ15団体，文化系クラブ19団体

	クラブ名	代表学生名	顧問名
16	ソフトボール部	笠原翔希	山﨑史恵
17	軟式野球部	井村虎太郎	高田大輔
18	アルティメットScarlet部	大和田勇斗	佐藤敏郎
19	学友会卓球部	佐藤李柊	–
20	バトミントン部	山中凜乃	佐藤裕紀
21	剣道部	高橋陸斗	佐藤皓也
22	フットサル部	渡邊神維	山本悦史
23	ハンドボール部	梶原健斗	岩森　大

	クラブ名	代表学生名	顧問名
24	ダンスサークル　RIZE	木村和可	平林　怜
25	NEXUS	安孫子莉世	渡邉恵司
26	よさこい部　舞桃会	須田裕誠	生方北斗
27	園芸部	堀　響生	阿部　薫
28	茶道部	近江寿帆	五十嵐紀子
29	和太鼓部　彩龍会	寺澤実里	髙野晃輔
30	吹奏楽部	柳沼大陽	髙野晃輔
31	手話部	田中　結	千葉寛之
32	写真部	富田琉雅	山﨑貴子
33	レクア．コム部	渡邉悠正	荒川大靖
34	軽音楽部	小師徹平	木下直彦
35	VICON部	菊池晋之祐	田中惣治
36	Spring Board	長崎咲弥	久保雅義
37	ピアエデュケーション部	藤田 咲耶子	山口典子
38	音楽サークルMusic Studio	坂井　杏	石本　豪
39	躰道部	神林浩希	相馬俊雄
40	メディカルサポート部	小林優華	江玉睦明
41	学生ねこ部	小松愛海	五十嵐紀子
42	アスレティックトレーナー部	佐藤康生	熊崎　昌
43	ものづくりサークル	小山和花	圓純一郎
44	アウトドア部	白鳥綾子	亀岡雅紀
45	アーチェリー部	坪井風花	森清友亮
46	男女混合バレーボールサークルLEAP	大橋謙信	−
47	METサークル	佐藤日菜多	江部克也　桶谷涼子
48	空飛ぶ車いすサークル	市川蒼大	前田　雄
49	nuhw陸上サークル	中川敬太	−

合計49団体

（10）学生表彰

①2025年度卒業式において，下記の表彰が行われた

学部：119名　4団体　　大学院：6名

賞	所属	氏名	受賞理由
学長賞（学業成績優秀）	理学療法学科	阿部紗弓	各学科で最も優秀な成績を修めた
	作業療法学科	齋藤郁佳	
	言語聴覚学科	佐藤実羽	
	義肢装具自立支援学科	谷　承子	
	臨床技術学科	菊地朱璃	
	視機能科学科	田中実和	
	救急救命学科	佐野太一	
	診療放射線学科	小林彩里	
	健康栄養学科	田中結衣	
	健康スポーツ学科	五十嵐美穂	
	看護学科	吉澤優菜	
	社会福祉学科	本間千尋	
	医療情報管理学科	加藤創汰	
学長賞（学業成績優秀）	医療福祉学専攻	坂本航大	博士後期課程で最も優秀な成績を修めた
	保健学専攻 理学療法学分野	須貝菜央	修士課程で最も優秀な成績を修めた
学長賞（課外活動個人）	男子サッカー部	細井　響	Jリーグ・横浜FCの入団内定ならびに特別指定選手として認定をされた. 在学中にJ1リーグに出場，またゴールを決めることも初の快挙となる. また全日本大学選抜にも選出され日韓戦ではスタメン出場で勝利に貢献した.
	軟式野球部	田中琉久	軟全日本大学軟式野球連盟の中から2年連続で日本代表に選出された. 第27回全日本大学軟式野球国際親善大会（TAIWAN）出場
学長賞（社会活動個人）	医療情報管理学科	風間柊耶	特別全国障害者スポーツ大会，第23回，第24回全国障害者スポーツ大会 新潟市選手団役員，陸上コーチとして貢献.
学長賞（学術研究活動個人）	義肢装具自立支援学科	星　歩夢	足関節内反の筋緊張が強い片麻痺者のための研究開発に取り組み，学部生として稀有な成果を収めた．学術面では，国内外の学術誌（JPTS, JAPO）に原著論文が掲載された．この理論に基づき開発された製品は，メーカーより実用化され，先月の第41回日本義肢装具学会学術大会の商業展示でも多くの反響を呼んだ.
優秀賞（学業成績優秀）	理学療法学科	牧野郁美	学業成績が特に優秀で人物に優れていた
	理学療法学科	平井翔太	
	理学療法学科	渡邊愼之介	
	理学療法学科	渡辺莉茉	
	理学療法学科	小林優華	

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞（学業成績優秀）	理学療法学科	上原真佳	学業成績が特に優秀で人物に優れていた
	理学療法学科	藤田花菜	
	理学療法学科	田川裕紀	
	作業療法学科	山口萌朱	
	作業療法学科	岡村美透	
	作業療法学科	武田　彩	
	言語聴覚学科	大平采音	
	言語聴覚学科	高橋紅葉	
	義肢装具自立支援学科	阿部遥花	
	義肢装具自立支援学科	中尾優希	
	臨床技術学科	稲村大成	
	臨床技術学科	木口愛里	
	臨床技術学科	上野綾華	
	臨床技術学科	松本結衣	
	臨床技術学科	金山璃花	
	臨床技術学科	荻野美優	
	臨床技術学科	小川詩織	
	視機能科学科	渡邉　美	
	視機能科学科	内池和花	
	視機能科学科	長岡心愛	
	救急救命学科	三富祥馬	
	救急救命学科	遠藤　陵	
	救急救命学科	中山結菜	
	診療放射線学科	庭野翔馬	
	診療放射線学科	松木健太朗	
	診療放射線学科	山下佳夏	
	診療放射線学科	松崎広菜	
	診療放射線学科	宮崎　涼	
	診療放射線学科	宮入康輔	
	健康栄養学科	青木菜々	
	健康栄養学科	高野夏来	
	健康スポーツ学科	吉原柊斗	
	健康スポーツ学科	浅妻ひなた	
	健康スポーツ学科	小林　央	
	健康スポーツ学科	後藤真幸	
	健康スポーツ学科	岡部　莉	
	健康スポーツ学科	小島巧実	

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞 （学業成績 優秀）	健康スポーツ学科	玉腰航大	学業成績が特に優秀で人物に優れていた
	健康スポーツ学科	吉原千陽	
	健康スポーツ学科	黒古大樹	
	健康スポーツ学科	山田航生	
	健康スポーツ学科	中原大智	
	健康スポーツ学科	松尾莉緒	
	健康スポーツ学科	加藤恵太	
	健康スポーツ学科	清水杏夏	
	健康スポーツ学科	本田遥南	
	健康スポーツ学科	金安菜々美	
	健康スポーツ学科	中村圭汰	
	健康スポーツ学科	込山愛柊	
	看護学科	武士俣遥佳	
	看護学科	石田春菜	
	看護学科	早川　結	
	看護学科	本田　桜	
	看護学科	小柴　鈴	
	看護学科	眞野咲良	
	看護学科	代田かのん	
	社会福祉学科	阿久津琉菜	
	社会福祉学科	内山　歩	
	社会福祉学科	長崎麻友	
	社会福祉学科	戸松梓音	
	社会福祉学科	星　優妃	
	社会福祉学科	大塚なつひ	
	社会福祉学科	齋藤優太	
	社会福祉学科	窪田　葵	
	医療情報管理学科	渡辺友奈	
	医療情報管理学科	田村優花梨	
	医療情報管理学科	小林愛佳	
	医療情報管理学科	長谷川文香	
	医療情報管理学科	相馬果歩	
	医療福祉学専攻	渡邉貴博	
	医療福祉学専攻	井上創太	
	保険学専攻 理学療法学分野	西口ほのか	
	保険学専攻 放射線情報学分野	川村　瞭	

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞（課外活動個人）	水泳部	秋山栞名	第101回 日本学生選手権水泳競技大会 女子100mバタフライ　３位入賞
	水泳部	篠塚聖妃	第101回 日本学生選手権水泳競技大会 女子50m自由形　４位入賞
	水泳部	八木紀香	第100回 日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技 女子10km 第７位
	水泳部	忍田　尊	第99回 日本学生選手権水泳競技大会 男子４*100mフリーリレー　８位入賞
	陸上競技部	青柳璃空	第109回日本陸上競技選手権・リレー競技 男子４×400mリレー 決勝 ８位
	陸上競技部	星　美月	第38回U20日本陸上競技選手権大会 U20女子3000mSC決勝 ５位
	硬式野球部	飯濱友翔	関甲新学生野球連盟　令和７年度秋季リーグ：ベストナイン・最多勝利投手賞 本学初の関東地区大学野球選手権大会出場へも大きく貢献した.
	硬式野球部	後藤　響	関甲新学生野球連盟　令和７年度秋季リーグ戦令和６年の関東地区大学野球選手権大会出場へ大きく貢献した．NPB ２軍戦に参入している「くふうHAYATEベンチャーズ静岡」への入団を本学で初めて果たした.
	男子サッカー部	吉田晃盛	Jリーグ・ギラヴァンツ北九州（内定時J3リーグ）への入団内定ならびに特別指定選手として認定をされた. 大学では２年目から試合に出場，今シーズンは北信越大学サッカーリーグ得点ランキングトップを獲得した.
	女子サッカー部	山下朝子	2025年　北信越リーグ 優勝 全日本大学女子サッカー選手権（皇后杯）北信越大会，全日本大学女子サッカー選手権大会北信越大会，優勝．全日本大学女子サッカー選手権（皇后杯）本戦に出場し，キャプテンとしてチームをまとめ，勝利に大きく貢献した．女子サッカートップリーグ（WEリーグ）に所属するASエルフェン埼玉へ入団決定.
	女子サッカー部	森　三紘	2025年　北信越リーグ 優勝 全日本大学女子サッカー選手権（皇后杯）北信越大会，全日本大学女子サッカー選手権大会北信越大会　優勝 全日本大学女子サッカー選手権（皇后杯）本戦出場　副キャプテンとして勝利に大きく貢献した．なでしこリーグ２部に所属するバニーズ群馬ホワイトスターへの入団決定.
	女子バレーボール部	佐藤佑海	カノアラウレアーズ福岡（Vリーグ所属チーム）へ入団が決定.
	軟式野球部	永井太陽	全日本大学軟式野球連盟の日本代表に選出された. 第27回全日本大学軟式野球国際親善大会（TAIWAN）出場

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞（課外活動団体）	S-N For all children ４年生：中村ゼミ	代表 清水寛子	第４回北陸農政局食育活動表彰において，北陸農政局長賞受賞した． 「すべての子どもたちに食育を」を掲げ，こども園，小学校，中学校，高校，地域コミュニティ，児童発達支援センター・放課後等デイサービスにて食育活動を行っている．
優秀賞（社会活動個人）	ボランティアセンター学生委員会	佐藤陽太	継続的に多様なボランティアを行う．（活動回数45回）．特に，本学，ボランティアセンターの発展にかかる，核となる学生として活躍した．その中でも障害者へのスポーツ指導に熱心に取り組んだ．
	看護学科	三浦実咲	済生会新潟病院の駐車場付近の路上で突然意識消失をして倒れた男性の人命救助を行った．周りに看護師などの職員がいない中で，救助活動とともに他の職員の応援を呼ぶ・ストレッチャーを探して運ぶなど４人で役割を分担し，ICU入室に貢献した．
	看護学科	眞野咲良	済生会新潟病院の駐車場付近の路上で突然意識消失をして倒れた男性の人命救助を行った．周りに看護師などの職員がいない中で，救助活動とともに他の職員の応援を呼ぶ・ストレッチャーを探して運ぶなど４人で役割を分担し，ICU入室に貢献した．
	看護学科	青木郁宝	済生会新潟病院の駐車場付近の路上で突然意識消失をして倒れた男性の人命救助を行った．周りに看護師などの職員がいない中で，救助活動とともに他の職員の応援を呼ぶ・ストレッチャーを探して運ぶなど４人で役割を分担し，ICU入室に貢献した．
	看護学科	鈴木　心	済生会新潟病院の駐車場付近の路上で突然意識消失をして倒れた男性の人命救助を行った．周りに看護師などの職員がいない中で，救助活動とともに他の職員の応援を呼ぶ・ストレッチャーを探して運ぶなど４人で役割を分担し，ICU入室に貢献した．
	看護学科	山吉桜子	「新潟市立南浜中学校」において，保健室のボランティアを行った（活動回数20回）．その活動が「新潟市立南浜中学校」に評価された．
	健康スポーツ学科	中原大智	「新潟市立南浜中学校」において，部活動指導のボランティアを行った（活動回数８回）．その活動が「新潟市立南浜中学校」に評価された．
	社会福祉学科	阿久津琉菜	新潟市北区学習習慣支援プログラムに学生を派遣するため，本学登録学生と新潟市北区社会福祉協議会などの関係機関との調整役を担った．責任感を持って学生コーディネーターとしての役割を全うし，参加学生のスケジュール調整や支援内容の確認など，運営の中心的な役割を担った．

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞（社会活動個人）	社会福祉学科	鈴木菜生	白新線の駅で人命救助に貢献した．後日，その方からゼミ担当教員へ感謝の手紙が届いた．
	社会福祉学科	北村　楓	白新線の駅で人命救助に貢献した．後日，その方からゼミ担当教員へ感謝の手紙が届いた．
優秀賞（社会活動団体）	男子サッカー部	代表 細井　響	地域のこどもを対象としたサッカー指導などのボランティアや，大学構内の清掃活動を行ってきた．特に，献血活動においては，本学男子サッカー部のために，献血バスを配車するなど，本学への期待，評価を高めた．
	METサークル	代表 佐藤日菜多	2023年に看護学科・救急救命学科と合同でMETサークルを立ち上げ，後輩の指導・育成に関わり，人材育成の基盤を築いた．また，オープンキャンパスや学園祭，大学主催の認定講座の運営に参加し大学運営に貢献した．全国で開催される救急・災害関連のワークショップに参加し，専門知識の習得とネットワーク形成に努めた．日本災害医学会学生部会東北支部の企画部に所属し，2024年度には企画部長を務めた．
優秀賞（学術研究活動個人）	運動生理Lab	阿部紗弓	第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 優秀演題賞受賞 研究計画の妥当性，研究結果の新規性，考察の論理性が高く評価された．
	義肢装具自立支援学科	谷　承子	第39回日本義肢装具学会学術大会 ：ファイナリスト賞 第19回日本整形靴技術協会学術大会 ：優秀発表賞 第38回日本靴医学会学術集会 ：最優秀発表賞 第20回日本整形靴技術協会学術大会 ：優秀発表賞
	義肢装具自立支援学科	永渕豊人	第39回日本義肢装具学会学術大会 学生優秀演題 Best Investigator Award ファイナリスト賞
	義肢装具自立支援学科	中尾優希	第19回日本整形靴技術協会学術大会 ：最優秀発表賞 第38回日本靴医学会学術集会 ：最優秀発表賞 第40回日本義肢装具学会学術大会 ：優秀学生演題賞 日本整形靴技術協会雑誌　第９号 ：最優秀論文賞 第20回日本整形靴技術協会学術大会 ：優秀発表賞

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞 （学術研究活動個人）	義肢装具自立支援学科	阿部遥花	第37回日本靴医学会学術集会 ：優秀演者賞 第19回日本整形靴技術協会学術大会 ：最優秀発表賞 第38回日本靴医学会学術集会 ：協会会長賞 日本整形靴技術協会雑誌：優秀論文賞 第20回日本整形靴技術協会学術大会 ：優秀発表賞
優秀賞 （学術研究活動団体）	鉄っちーず ４年生：HN鈴木ゼミ	代表 長ケ部千夏	公益財団法人「食の新潟国際賞財団」主催にいがた食と農の未来 学生ビジョンコンテスト2025 （公財）古泉財団特別賞を受賞

②学部在学生表彰：31名　8団体

賞	所属	氏名	受賞理由
年間 最優秀賞 （課外活動 個人）	剣道部	菅原陽菜	第67回北信越学生剣道選手権大会（個人戦）準優勝（全日本インカレ出場）．女子個人において学生剣道の頂点を決める全日本インカレ本学初のベスト32
年間 最優秀賞 （課外活動 団体）	ダンス部	代表 阿部　晄	第44回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール 最優秀群舞賞（群舞部門１位）
年間 最優秀賞 （社会活動 団体）	義肢装具自立支援学科 障がい者陸上教室	代表 渋谷　悠	・パラ陸上選手とスポーツを楽しもう！IN 新潟医療福祉大「NPO法人 ギソクの図書館」と新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科の共催にて，世界パラ陸上アスリート選手を招き，クリニックおよびスポーツレクリエーションを実施．イベント企画・当日の準備，スポーツレクリエーションの実施まで企画・広報・運営を担当し，高い評価を得た．
年間 最優秀賞 （学術研究 活動団体）	健康スポーツ学科 山本悦史ゼミ	代表 郡司理希	スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2025（主催：スポーツ庁）アイデア部門「審査員特別賞」を受賞．
優秀賞 （課外活動 個人）	水泳部	松原光佑	第101回 日本学生選手権水泳競技大会 男子50m自由形 ３位入賞
	水泳部	榎本真乙	第67回 日本選手権（25m）水泳競技大会 女子100mバタフライ ４位入賞
	水泳部	木村日咲	第101回 日本学生選手権水泳競技大会 女子100mバタフライ ８位入賞
	水泳部	大畠雄太朗	第101回 日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技　男子リレー 第６位
	水泳部	貫和一志	第101回 日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技　男子リレー 第６位
	水泳部	木下寿優	第101回 日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技　男子リレー 第６位
	水泳部	芝田　凱	第101回 日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技　男子リレー 第６位
	水泳部	清水花峰	第67回 日本選手権（25m）水泳競技大会 女子50mバタフライ ４位入賞
	水泳部	谷　清美	第101回 日本選手権水泳競技大会 OWS競技 女子10kmの部 第６位
	陸上競技部	渡辺豹冴	第79回 国民スポーツ大会 陸上競技成年男子砲丸投 優勝
	陸上競技部	玉内祥太	第109回日本陸上競技選手権・リレー競技 男子４×400mリレー 決勝 ８位
	陸上競技部	渡部愛生	第41回 u20日本陸上競技選手権 女子ハンマー投 ５位
	陸上競技部	田村　凪	第41回 u20日本陸上競技選手権 男子砲丸投 ６位
	硬式野球部	内藤大和	関甲新学生野球連盟令和７年度秋季リーグ戦】秋季リーグ戦では打率.355を記録するとともにベストナインを受賞．

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞（課外活動個人）	女子硬式野球部	小川　舞	第４回BFA女子野球アジアカップ日本代表（大学選抜20名・通称：マドンナジャパン）に選出，第４回BFA女子野球アジアカップに出場し優勝を成し遂げた.
	健康栄養学科	飯沼　巧	栄養の力で結コンテスト 管理栄養士・栄養士養成校学生の写真部門入選 こども園，小学校，中学校，高校，児童発達支援センターなどでの自身での食育活動が評価され，日本栄養士会より管理栄養士・栄養士養成校学生受賞者として公表された.
	フットサル部	渡邊神維	第21回全日本大学フットサル大会 （全日本インカレ）　大会得点王（４得点）
優秀賞（課外活動団体）	S-N For all Children（３年生）	代表 高橋　蒼	第４回北陸農政局食育活動表彰　北陸農政局長賞受賞 児童発達支援センター・放課後等デイサービスにおいて，発達が気になる子ども達の食育活動と高校生野球部員へのサポートに力を入れて取り組みを行った.
	剣道部	代表 横川陽夏羽	第52回北信越女子学生剣道優勝大会（団体戦）３位（全日本インカレ出場，創部初）
	軟式野球部	代表 宮内匡汰	第48回全日本大学軟式野球選手権大会 【ベスト８】
優秀賞（社会活動個人）	ボランティアセンター学生委員会	福田結月	継続的に多様なボランティアを行った.（活動回数11回），ボランティアセンター学生委員会委員として，ボランティアセンターの運営上，核となる学生として活躍した.
	ボランティアセンター学生委員会	和田彩愛	継続的に多様なボランティアを行った（活動回数11回）ボランティアセンター学生委員会委員として，ボランティアセンターの運営上，核となる学生として活躍した.
	ボランティアセンター学生委員会	福田彩実	継続的に多様なボランティアを行った.（活動回数45回）新潟市北区ボランティア委員会委員（本学代表），ボランティアセンター学生委員会委員，北区観光レポーターに参加.
	ボランティアセンター学生委員会	山崎夢空	継続的に多様なボランティアを行った.（活動回数45回）新潟市北区ボランティア委員会委員（本学代表），ボランティアセンター学生委員会委員，北区観光レポーターに参加.
	社会福祉学科	山宮来斗	継続的に多様なボランティアを行った.（活動回数10回）骨髄バンクのドナー登録を勧める活動に積極的に参加した.
	医療情報管理学科	関　郁音	継続的に多様なボランティアを行った.（活動回数12回）．特に，本学，ボランティアセンターの発展にかかる，北区観光レポーターに参加して，ボランティアセンターの運営上，核となる学生として活躍した.

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞（社会活動個人）	医療情報管理学科	伊藤ひより	継続的に多様なボランティアを行った．（活動回数12回）北区観光レポーターに参加して，ボランティアセンターの核となる学生として活躍した．
	医療情報管理学科	中村澪音	継続的に多様なボランティアを行った．（活動回数13回）子ども食堂やスポーツキャラバンなどに参加し，他の学生の模範となる学生として活躍した．
	診療放射線学科	大谷こころ	継続的に多様なボランティアを行った．（活動回数12回）ボランティアセンターの発展にかかる，ドナルド・マクドナルド・ハウスボランティアに参加して，ボランティアセンターの運営上，核となる学生として活躍した．
	診療放射線学科	塩川美羽	継続的に多様なボランティアを行った．（活動回数12回）ドナルド・マクドナルド・ハウスボランティアに参加して，ボランティアセンターの運営上，核となる学生として活躍した．
	理学療法学科	加藤帆乃夏	継続的に多様なボランティアを行った．（活動回数12回）．障害者へのスポーツ指導（14回）に熱心に取り組み，知的障害者のバレーボールチームに会的に評価され，本学の名誉を高めた．
	健康スポーツ学科	齋藤俊介	本学と鯖江市との包括連携協定に基づく「めいくさばえ活動」において，極めて重要な役割を果たし，顕著な成果を挙げた．2025年9月に開催された「めがねのまちさばえSDGsフェス」においては，イベント全体の質の向上にも寄与し，フェスの成功に貢献した．
	社会福祉学科	田崎史栞	本学と新潟市北区住民との協働社会連携活動「ねこピンチプロジェクト」において，地域に根ざした成果を挙げた．「盲導犬応援・お子さま応援ねこピンチプロジェクト」のリーダーとして活動を牽引．新潟市北区のこども園へ手作り紙芝居を寄贈する贈呈式の企画・実施，南区，中央区の紙芝居の読み聞かせ活動の取り組みを行った．
優秀賞（社会活動団体）	男子バスケットボール部	代表 藤田拓実	地域のこどもを対象としたバスケットボール指導などのボランティアを多数行ってきた．バスケットボール教室による地域への貢献は，本学への期待，評価を高めた．
	第24回全国障害者スポーツ大会　新潟県・新潟市選手団役員	代表 高橋和久	第24回全国障害者スポーツ大会　新潟県・新潟市の選手団役員として，選手のサポート役を務めた．専属でサポートにあたり，大会滞在時の競技への準備や生活支援を行った．選手の個別ニーズを的確に把握し，細やかな配慮をもってサポートに取り組んだ．

（11）海外研修

①義肢装具自立支援学科　台湾研修

研修先　　弘光科技大学

研修目的　　学生交換プログラムの参加

引率者　　神田　賢（義肢装具自立支援学科准教授），前田　雄（義肢装具自立支援学科准教授）

参加者　　２名

４年　北島沙隼，兼松龍生

研修日程　　2025年8月29日（金）～9月5日（金）

8月	29日	金	新潟空港→桃園空港
	30日	土	現地にて研修
	～		
9月	4日	木	
	5日	金	桃園空港→新潟空港

研修概要　　ⅰ）弘光科技大学施設見学

ⅱ）学生交換プログラムへの参加

ⅲ）異文化体験

②全学科共通　マレーシア研修

研修先　　NASAM（National Stroke Association of Malaysia）

研修目的　　脳卒中サバイバーのためのリハビリ施設でのボランティア研修

引率者　　久保雅義（理学療法学科教授），髙橋英明（理学療法学科准教授）

参加者　　１名

１年　石原　司（理学療法学科）

研修日程　　2025年8月30日（土）～9月20日（土）

8月	30日	土	羽田空港発
	31日	日	クアラルンプル空港
9月	1日	月	現地にて研修
	～		
	19日	金	
	20日	土	クアラルンプル空港→羽田空港

研修概要　　ⅰ）研修準備期間から実施まで，学生の主体的なかかわり

ⅱ）英語によるリハビリテーション領域でのコミュニケーション能力向上

ⅲ）異文化理解

③健康栄養学科　台湾研修

研修先　　弘光科技大学

研修目的　　栄養学系の学科にて，授業参加や施設見学を通した教育プログラムへの参加

引率者　　稲葉洋美（健康栄養学科教授），石井穂乃香（健康栄養学科助手）

参加者　　３名

２年　中村知優，野水　瞭，金井冠太

研修日程　　2025年9月1日（月）～9月5日（金）

9月	1日	月	新潟空港→桃園空港
	2日	火	現地にて研修
	～		
	4日	木	
	5日	金	桃園空港→新潟空港

研修概要　　ⅰ）弘光科技大学の教育プログラムへの参加（食文化に関するディスカッション）

ii）光田綜合病院見学（病院栄養士の講演）

iii）食文化体験，日月潭観光

④臨床技術学科　アメリカ研修

研修先　　ハワイ大学マノア校

研修目的　　ハワイ大学の学生との交流および検査実習

引率者　　髙橋良光（臨床技術学科教授），森田邦恵（臨床技術学科講師）

参加者　　７名

１年　稲葉万桜，山北芽生，柏　千晶

３年　村川多恵，佐々木希華，鈴木萌々花，藤原留依

研修日程　　2025年9月1日（月）～9月12日（金）

9月	1日	月	羽田空港→ホノルル空港
	2日	火	現地にて研修
	～		
	10日	水	
	11日	木	ホノルル空港発
	12日	金	羽田空港着

研修概要　　i）ハワイ大学で現地学生と本学学生の検査実習実施および発表会

ii）検査センター，血液センターおよび医学部とその実習施設の見学

iii）異文化と歴史学習

⑤看護学科　アメリカ研修

研修先　　アメリカ（ロサンゼルス）の医療機関，大学

研修目的　　国際看護論演習　国際研修

引率者　　桶谷涼子（看護学科講師），井村紀代子（看護学科助教）

参加者　　６名

２年　押木妃和，皆川一陽，上田優佳，須田裕誠，津田宥衣子，田中優衣

研修日程　　2025年9月2日（火）～9月11日（木）

9月	2日	火	新潟空港→仁川空港経由→ロサンゼルス空港
	3日	水	現地にて研修
	～		
	8日	月	
	9日	火	ロサンゼルス空港発
	11日	木	仁川空港経由→新潟空港

研修概要　　i）講義：米国医療・保険制度，看護制度（ナースプラクティショナー等）

ii）視察：大手総合病院，地域急性期病院，高齢者施設，看護学科

iii）看護学科：看護学生との交流，シミュレーションラボでの実習

iv）ボランティア活動：高齢者施設

v）文化体験

⑥救急救命学科　韓国研修

研修先　　嘉泉大学校およびソウル特別市，仁川広域市の消防機関

研修目的　　嘉泉大学校応急救助学科との国際交流および消防機関の視察

引率者　　大松健太郎（救急救命学科准教授），岩﨑 隆（救急救命学科助教）

参加者　　４名

１年　佐々木彩乃，中林綿花，

２年　森田　憲

４年　田邉祐登

研修日程　2025年9月16日（火）～9月20日（土）

9月	16日	火	成田空港→仁川空港
	17日	水	現地にて研修
	～		
	19日	金	
	20日	土	仁川空港→新潟空港

研修概要
ⅰ）嘉泉大学校応急救助学科との国際交流のスタートアップ
ⅱ）韓国の消防・救急医療システムと応急救助士制度の理解
ⅲ）韓国の歴史および文化の体験・理解

⑦全学科共通　韓国研修

研修先　東西大学

研修目的　韓国協定校との共同企画による短期海外研修として，授業受講や大学生活体験，他大学との合同活動を通じて，学生の語学力向上・異文化理解・国際的視野と対人関係力の育成を目指す.

引率者　五十嵐紀子（教育・学生支援機構教授），今井理恵（教育・学生支援機構講講師）

参加者　８名
１年　白倉瞳愛（医療情報管理学科），坂井徠桃（医療情報管理学科）
小倉一真（医療情報管理学科），熊谷優愛（医療情報管理学科）
阿部紗弓（医療情報管理学科），本山愛葵（社会福祉学科）
大平はなの（社会福祉学科）
２年　早井史織（心理健康学科）

研修日程　2026年2月1日（日）～2月16日（月）

2月	1日	日	新潟空港→福岡空港→金海空港
	2日	月	現地にて研修
	～		
	15日	日	
	16日	月	金海空港→福岡空港→新潟空港

研修概要
ⅰ）本学と韓国協定校が共同企画し，本学の教育目的と学生の学修段階に基づいて内容を設計した短期海外研修プログラム
ⅱ）他大学との合同実施により多様な学生と協働し，語学・文化学習に加えて大学間交流の実施
ⅲ）異文化体験

⑧診療放射線学科　タイ研修

研修先　マヒドン大学

研修目的　タイの診療放射線学科の教育を経験し，国際交流を図る

引率者　小原佑介（診療放射線学科助教）

参加者　１名
１年　宮川晃世

研修日程　2026年2月22日（日）～3月11日（水）

2月	22日	日	新潟→羽田空港
	23日	月	羽田空港→バンコク空港
	24日	火	現地にて研修
	～		
3月	10日	火	バンコク空港発
	11日	水	羽田空港→新潟

研修概要　　ⅰ）マヒドン大学における講義
ⅱ）シリラート病院見学
ⅲ）文化交流

⑨看護学科　ベトナム・インドネシア研修

研修先　　ベトナムおよびインドネシアの医療施設等
研修目的　　看護学科国際研修
引率者　　小林房代（看護学科准教授），野中共子（看護学科准教授），真保加奈子（看護学科助教）
参加者　　４名
４年　山本萌乃，中井乙未，佐藤日菜多，石田春菜
研修日程　　2026年2月24日（火）～3月2日（月）

2月	24日	火	新潟駅→成田空港
	25日	水	成田空港→ノイバイ空港 ハイズオン医療技術大学教員と合流
	26日	木	ノイバイ空港→ングラライ空港
	27日	金	プスケスマス・クタ・サテライト，マンダラ地域病院見学
	28日	土	移動
3月	1日	日	ングラライ空港→クアラルンプル空港→羽田空港
	2日	月	羽田空港→新潟駅

研修概要　　ⅰ）ハイズオン医療技術大学看護学科教員からベトナムの保健・医療・看護の概要を学ぶ
ⅱ）ハイズオン医療技術大学の学生との交流
ⅲ）インドネシアの保健所，病院の見学
ⅳ）文化体験

⑩全学科共通　フィリピン研修

研修先　　セブ医科大学，QQ English
研修目的　　セブ医科大学での医療研修およびにおける QQ English での英語研修
引率者　　圓　純一郎（作業療法学科准教授），豊田典子（教育・学生支援機構准教授）
納富智子（健康栄養学科助教），本間健太（作業療法学科助教）
谷　麻美（言語聴覚学科助手）
参加者　　12名
１年　藤田美咲（作業療法学科），橘　なごみ（言語聴覚学科）
今成真菜（健康栄養学科），佐藤心美（健康栄養学科）
２年　佐藤万由子（作業療法学科），成田彩姫（作業療法学科）
久保山ルリ（作業療法学科），高橋美帆（作業療法学科），
小沼優菜（作業療法学科），野水　瞭（健康栄養学科）
金井冠太（健康栄養学科）
３年　志田來愛（健康栄養学科）
研修日程　　2026年2月28日（土）～3月15日（日）

2月	28日	土	成田空港→セブ空港
3月	1日	日	QQ English，セブ医科大学研修
～			
	14日	土	
	15日	日	セブ空港→成田空港

研修概要　　ⅰ）協定校であるセブ医科大学での研修プログラム及び現地学生との交流
ⅱ）QQ English での英語研修プログラム
ⅲ）文化体験

⑪理学療法学科　フィリピン研修

研修先　　ナショナルユニバーシティ・クラーク校

研修目的　　理学海外研修

引率者　　久保雅義（理学療法学科教授）

参加者　　４名

１年　波多野怜央，菅原陽音，米林翼紗，渡邉莉奈

研修日程　　2026年3月1日（日）～3月21日（土）

3月	1日	日	成田空港→クラーク空港
	2日	月	現地にて研修
	～		
	20日	金	
	21日	土	クラーク空港→成田空港

研修概要　　ⅰ）事前研修：学生が自主的に計画づくり（渡航・宿泊・研修外活動）

ⅱ）英語の授業＋臨床見学

ⅲ）事後研修：報告書作成・コーヒーハウス発表準備

⑫理学療法学科　フィリピン研修

研修先　　サント・トーマス大学

研修目的　　海外の教育・臨床現場を経験し，理学療法に関する国際的な視野と実践的理解を深める

引率者　　菊元孝則（理学療法学科講師）

参加者　　３名

１年　恩田あさひ，吉田優人，久地浦祐太郎

研修日程　　2026年3月2日（月）～3月19日（金）

3月	2日	月	成田空港→マニラ空港
	3日	火	現地にて研修
	～		
	18日	木	
	19日	金	マニラ空港→成田空港

研修概要　　ⅰ）授業聴講，キャンパスツアー，学会参加を通してフィリピンの高等教育と医療系学生の学習姿勢の体験

ⅱ）Philippine Heart Center，Transcend Performance PH，Kabahagi Centerにおいて，循環器・スポーツ・小児領域の理学療法を見学

ⅲ）現地学生・教員・臨床スタッフとの交流を通して，英語による医療コミュニケーションの重要性と今後の学習課題の確認

⑬臨床技術学科　台湾研修

研修先　　中山医学大学

研修目的　　医学検査生物技術学科の教員や学生と交流し，最新の医療技術に触れ，将来のキャリアを考える．さらに国際学会に参加して内容理解を深める．

引率者　　髙橋良光（臨床技術学科教授），中山憲司（臨床技術学科准教授）

参加者　　12名

１年　浅井ひなた，笠井翔太，山口俐紗，加藤咲楽，白岩真依，木原和馬

２年　天口彰悟，金城侑希，松井菜摘，田山優里，秋山瑚子

４年　都丸晃誠

研修日程　　2026年3月6日（金）～3月14日（土）

3月	6日	金	成田空港→高雄空港

7日	土	現地にて研修
～		
13日	金	
14日	土	桃園空港→成田空港

研修概要　ⅰ）現地教員や学生との円滑なコミュニケーション力の醸成
ⅱ）大学附属病院の最先端医療システム見学および確認と理解
ⅲ）台湾の歴史，政治，文化的背景と人々の考え方の理解

⑭理学療法学科　アメリカ研修

研修先　カリフォルニア州立大学フレズノ校，南カルフォルニア大学
研修目的　アメリカにおける理学療法教育および臨床実践を学ぶ研修
引率者　横田裕丈（理学療法学科講師），小林壮太（理学療法学科助教）
参加者　４名
２年　小柳彩音，加藤帆乃夏，宗　大翔，工藤公典
研修日程　2026年3月7日（土）～3月16日（月）

3月　7日	土	成田空港→ロサンゼルス空港
8日	日	現地にて研修
～		
14日	土	
15日	日	ロサンゼルス空港発
16日	月	成田空港着

研修概要　ⅰ）アメリカの大学の講義の聴講
ⅱ）アメリカの医療機関の見学
ⅲ）アメリカのプライベートクリニックの見学

⑮全学科共通　台湾研修

研修先　中山医学大学，陽明交通大学
研修目的　他学科所属学生との海外研修
引率者　久保雅義（理学療法学科教授），青木　海（健康栄養学科助教）
参加者　５名
２年　佐藤心暖（看護学科），西山心菜（看護学科），萱森　愛（看護学科）
３年　大谷梨桜（健康栄養学科），小黒ゆな（健康栄養学科）
研修日程　2026年3月8日（日）～3月14日（土）

3月　8日	日	成田空港→桃園空港
9日	月	中山医学大学での研修開始
～		
11日	水	看護学科３名は台北市へ移動
12日	木	看護学科３名は陽明交通大学での研修開始
13日	金	
14日	土	桃園空港→成田空港

研修概要　ⅰ）事前研修：学生が自主的に計画の作成
ⅱ）台湾のシステム理解・学生交流
ⅲ）事後研修：報告書作成・コーヒーハウス発表準備

⑯全学科共通　マレーシア研修

研修先　NASAM（National Stroke Association of Malaysia）
研修目的　脳卒中サバイバーのための施設NASAMでの学生ボランティア研修
引率者　久保雅義（理学療法学科教授），髙橋英明（理学療法学科准教授）

参加者　　7名

1年　猪又奏乃（理学療法学科），高野和果（健康スポーツ学科）

2年　池田一葉（言語聴覚学科）吉田柚月（心理健康学科），工藤花留（心理健康学科）

3年　寺澤実里（理学療法学科）

4年　大塚陽華梨（理学療法学科）

研修日程　　2026年3月9日（月）～3月29日（日）

3月	9日	月	羽田空港発
	10日	火	クアラルンプル空港着
	11日	水	現地にて研修
	～		
	28日	土	
	29日	日	クアラルンプル空港→羽田空港

研修概要　　ⅰ）事前研修：英語学習・旅程立案

ⅱ）研修中：NASAMにてボランティア活動

ⅲ）事後研修：報告書作成・コーヒーハウス発表準備

⑰社会福祉学科　韓国研修

研修先　　光云大学校，京畿大学校，韓国の障害者施設，介護施設等

研修目的　　韓国の社会福祉制度について，現場視察と現地大学生との共同学習

引率者　　楠山大暁（社会福祉学科准教授），小出　直（社会福祉学科助教）

参加者　　3名

2年　石坂咲千，竹田亜希，田中　空

研修日程　　2026年3月25日（火）～3月28日（土）

3月	25日	火	新潟空港→仁川空港
	26日	水	現地にて研修
	27日	金	
	28日	土	仁川空港→新潟空港

研修概要　　ⅰ）韓国の医療福祉施設の視察を通して，日本の制度と比較

ⅱ）光云大学・京畿大学校との共同授業でのグループディスカッション

ⅲ）異文化体験

（12）学修支援センター

数学，解剖学・生理学，物理，化学，英語，日本語表現を指導する講師に加え，専属の事務兼コーディネーターを配置し，学修支援業務を実施している．

2026年度入学者全員を対象とした「スタートダッシュセミナー」では，学修動画の公開に加え，学修支援センター講師によるオンライン・トークイベントや個別相談を実施した．また，今年度は全学部の先輩学生による大学での学びを紹介する動画を公開するとともに，対面オリエンテーションでは各学科の先輩学生による発表を実施し，新入生が所属学科での学びや学生生活について具体的なイメージを持てるよう支援した．「大学での学びと学び方」をテーマとした対面セミナーでは，大学で求められる主体的な学修の重要性や勉強時間の確保方法について説明を行った．入学前の学修不安の軽減と円滑な大学生活への移行を目的としており，新入生同士および先輩学生との交流機会を提供することで，新入生同士の友人関係の構築を促すとともに，安心して大学生活をスタートできる環境づくりを行った．

個別指導は，延べ利用件数・実利用者数ともに開設以来最多を記録し，学修支援センターに対する学生ニーズの高まりがうかがえた．また，国家試験対策および就職試験対策を目的として夏期講習・春期講習を開講し，学年を問わず早期から学習に取り組む機会を提供した．指導にあたる講師は，定期的な勉強会を通じて指導力向上およびセンター運営改善に努めている．

外国語支援については，留学生講師による指導体制を継続・拡充し，英語・スペイン語に加え，中国語・ベトナム語による支援も引き続き実施した．中央教育センターと連携して実施している「Chit Chat Club」についても継続的に運営し，語学学修の促進と多文化交流の機会を提供した．

また，学修支援ピア・サポーター制度に基づき，上級学年の学部生が学修支援活動を実施した．ピア・サポーターは，新潟医療福祉大学学生間における支援制度規程および学修支援ピア・サポーター制度細則に基づき運用されている．15学科において学修支援体制を構築し，定期試験対策を中心とした学修支援活動を展開した．2025年度末時点におけるピア・サポーターの登録者数は14学科149名となった．

ピア・サポーターによる活動は，学科の取組として５学科で６件の企画を実施し，全学科１年生を対象とした企画を４件実施した．各活動においては，基礎科目の学修支援に加え，学修計画の立案，学修方法の助言等を行い，学生の主体的な学修の促進を図った．

履修登録支援として「履修登録サポートデスク」を実施し，在学生102名がボランティアスタッフとして参加するとともに，新入生465名が利用した．本取組では，履修手続き支援に加え，上級生の履修経験や学修方法の共有を通じて，新入生の円滑な大学生活への移行を支援した．

① 個別指導延べ利用件数・・・3,266件
② セミナー受講者数・・・2,891名
③ オープン教育リソース公開動画数・・・36本
④ 動画配信による入学前セミナー総視聴回数・・・624回

8）強化指定クラブ成績

【水泳部】

・世界水泳シンガポール2025

※水沼尚輝（職員）が日本代表として出場.

男子　100mバタフライ　準決勝進出

・第101回日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技

女子　10km　5位（谷　清美　HS1）

女子　10km　5位（谷　清美　HS1）

・第101回日本学生選手権水泳競技大会 競泳競技

男子　50m自由形　3位（松原光佑　HS3）

女子　100mバタフライ　3位（秋山栞名　HS4）

女子　50m自由形　4位（篠塚聖妃　HS4）

女子　100mバタフライ　8位（木村日咲　HS3）

・第66回日本選手権（25m）水泳競技大会

男子　100mバタフライ　2位（水沼尚輝　職員）

男子　50mバタフライ　5位（水沼尚輝　職員）

女子　50mバタフライ　4位（清水花峰　HS1）

女子　100mバタフライ　4位（榎本真乙　HS3）

・第101回日本選手権水泳競技大会 OWS競技

女子　10km　5位（谷　清美　HS1）

【陸上競技部】

・第99回北信越学生陸上競技対校選手権大会

男子総合優勝　15連覇　／　女子総合14連覇

・2025日本学生個人陸上競技選手権大会

男子　円盤投　優勝（中町真澄　M2）

男子　十種競技　6位（田中廉治郎　M2）

女子　七種競技　6位（小川ひかり　M2）

・第94回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子　円盤投　優勝（中町真澄　M2）

・第109回日本陸上競技選手権大会

男子　円盤投　5位（中町真澄　M2）

男子　砲丸投　7位（渡辺豹冴　HS3）

男子　4×100mリレー　8位

・第79回国民スポーツ大会

男子　砲丸投　優勝（渡辺豹冴　HS3）

・第43回全日本大学女子駅伝対校選手権大会　21位（清水，福原，風呂，宮下，佐藤，二村）

・第6回大学対抗男女混合駅伝　19位（高野，福原，村山，宮下，小林，風呂）

【男子サッカー部】

・新潟日報杯・共同通信杯新潟県サッカー選手権大会　優勝

・第53回北信越大学サッカーリーグ（1部）　優勝

・第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会　ベスト8

・第74回全日本大学サッカー選手権大会　出場

【女子サッカー部】

・第34回全日本大学女子サッカー選手権大会北信越大会　優勝

・第34回全日本大学女子サッカー選手権大会　出場

・2025北信越女子サッカーリーグ（１部）　優勝
【男子バスケットボール部】
・笹本杯争奪北信越大学バスケットボール 春季リーグ戦　準優勝
・第３回全日本大学バスケットボール新人戦　出場
・第59回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会　優勝
・第77回全日本大学バスケットボール選手権大会　出場
【女子バスケットボール部】
・笹本杯争奪北信越大学バスケットボール 春季リーグ戦　３位
・第３回全日本大学バスケットボール新人戦　出場
・第59回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会　準優勝
・第77回全日本大学バスケットボール選手権大会　出場
【男子バレーボール部】
・第56回春季北信越大学バレーボール選手権大会　優勝（２部）
・第73回秋季北信越大学バレーボール選手権大会　予選リーグ敗退
【女子バレーボール部】
・第56回春季北信越大学バレーボール選手権大会　優勝
・第73回秋季北信越大学バレーボール選手権大会　準優勝
・第72回全日本バレーボール大学女子選手権大会　出場
・令和７年度皇后杯全日本バレーボール選手権大会ファイナルラウンド　出場
【硬式野球部】
・関甲新学生野球連盟　春季１部リーグ　５位
・関甲新学生野球連盟　秋季１部リーグ　３位
【女子硬式野球部】
・第11回全日本大学女子硬式野球選手権大会高知大会　ベスト８
・第15回全日本大学女子硬式野球選手権大会　出場
・報知新聞社杯争奪ヴィーナスリーグ　優勝
【ダンス部】
・第37回全日本大学ダンスフェスティバル（神戸）　決勝プログラム進出
・東京なかの国際ダンスコンペティション2025　創作部門１位
・第44回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール　最優秀群舞賞
【卓球部】
・第72回春季北信越学生卓球選手権大会（男子団体）　４位
・第72回春季北信越学生卓球選手権大会（女子団体）　３位
・第91回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）　出場（小松敏輝　HS4）
・第73回秋季北信越学生卓球選手権大会（女子団体）　３位
【テニス部】
・北信越学生テニストーナメント大会（男女シングルス，女子ダブルス）　優勝
・全日本学生テニス選手権大会（男女シングルス，男女ダブルス）　出場
・北信越大学テニス王座決定試合（団体戦）　男子１部　優勝
　女子１部　優勝
・全日本大学対抗テニス王座決定試合（男子・女子）　出場
・2025全日本学生室内テニス選手権大会　出場
【スノーボード部】
・FISスノーボードワールドカップ　９位（杉崎大翔　HS1）
・US Revolution Tour　２位（山﨑　月　HS2）

・PSA ASIA PRO TOUR KCC CUP in CUPIDVALLEY　　12位（室　竜也　HS2）

9）国家試験・資格試験結果（2026年6月10日現在）

種　別	本　学				全　国
	受験者数	合格者数	合格率	前年実績	合格率
理学療法士	115	115	100%	100%	89.7%
作業療法士	45	45	100%	91.1%	91.2%
言語聴覚士	39	33	94.1%	100%	66.4%
義肢装具士	33	33	100%	83.3%	80.6%
臨床工学技士	82	70	85.4%	93.7%	65.7%
臨床検査技師	74	73	98.6%	98.9%	84.7%
視能訓練士	50	50	100%	100%	96.1%
救急救命士	59	59	100%	98.1%	94.9%
診療放射線技師	84	70	83.3%	97.6%	76.2%
管理栄養士	42	40	95.2%	91.9%	47.6%
健康運動指導士	22	13	59.1%	41.2%	—
アスレティックトレーナー（実技）	5	5	100%	100%	—
看　護　師	127	125	98.4%	97.1%	88.3%
保　健　師	23	22	95.6%	100%	87.1%
助　産　師	5	5	100%	100%	99.7%
社会福祉士	110	90	81.8%	71.8%	60.7%
精神保健福祉士	11	11	100%	100%	78.2%
介護福祉士	16	15	93.8%	100%	70.1%
診療情報管理士	11	7	63.6%	91.3%	60.6%
診療情報請求事務能力認定試験	30	16	53.3%	52.2%	41.9%
情報セキュリティマネジメント	5	4	80.0%	71.4%	70.2%

10）就職状況

（1）就職相談室等の利用状況

名称	スタッフ数	開室日数		開室時間	年間相談件数
		週当たり	年間		
キャリア支援センター	7	5	246	9：00～17：00	5,956

（2）求人状況

学科	件数	人数
理学療法学科	1,168	4,129
作業療法学科	1,160	3,734
言語聴覚学科	993	2,313
義肢装具自立支援学科	194	335
鍼灸健康学科	49	232
臨床技術学科	736	1,586
視機能科学科	201	302
救急救命学科	92	189

学科	件数	人数
診療放射線学科	272	488
健康栄養学科	319	848
健康スポーツ学科	61	165
看護学科	913	4,410
社会福祉学科	1,538	4,509
医療情報管理学科	429	1,668
その他	1,387	5,887
計	9,512	30,795

（３）学科別就職状況

学科	卒業者数	就職希望者数	進学者数	就職者数	内定率（%）
理学療法学科	115	99	16	99	100.0%
作業療法学科	46	44	0	44	100.0%
言語聴覚学科	42	37	1	37	100.0%
義肢装具自立支援学科	41	34	3	34	100.0%
臨床技術学科	90	75	2	70	93.3%
視機能科学科	53	52	0	52	100.0%
救急救命学科	60	51	2	51	100.0%
診療放射線学科	84	70	2	70	100.0%
健康栄養学科	42	39	1	39	100.0%
健康スポーツ学科	244	228	7	221	96.9%
看護学科	127	124	1	124	100.0%
社会福祉学科	121	116	1	116	100.0%
医療情報管理学科	98	89	1	89	100.0%
計	1,163	1,058	37	1,046	98.9%

※進学者の進学先は大学院，大学，専門学校を含む.

（４）都道府県別就職状況

都道府県	就職者数
北海道	7
青森県	2
岩手県	1
宮城県	18
秋田県	12
山形県	25
福島県	48
茨城県	4
栃木県	8
群馬県	14
埼玉県	85
千葉県	33
東京都	179
神奈川県	41
新潟県	418
富山県	27

都道府県	就職者数
石川県	21
山梨県	1
長野県	37
静岡県	11
愛知県	15
三重県	2
滋賀県	1
京都府	3
大阪府	18
兵庫県	2
奈良県	2
岡山県	1
広島県	4
福岡県	3
鹿児島県	2
海外（マレーシア）	1

※配属先が不明な場合は，本社所在地として集計.

10. その他

1）新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園

（1）定員

19名（0歳児1名　1歳児3名　2歳児3名　3歳児4名　4歳児5名　5歳児3名）

（2）園児数

2025年度園児数：19名（従業員・共同利用枠　15名　地域枠4名）

内訳：0歳児1名（地域枠0名）　1歳児3名（地域枠0名）　2歳児3名（地域枠0名）
3歳児4名（地域枠1名）　4歳児5名（地域枠1名）　5歳児3名（地域枠2名）

（3）2025年度の主な行事

4月　イースター　親子で英語レッスン1回目
7月　七夕，水遊び開き　親子で英語レッスン2回目
9月　夏祭りごっこ　敬老の日（お手紙を届けよう）
10月　芋ほり，ハロウィンパレード，ハロウィン運動会
11月　サンクスギビング
12月　クリスマス会
2月　まめまき集会
3月　ひなまつり　卒園式

（4）大学との連携事業

・看護学科　小児看護学実習，小児ボランティア体験
・健康栄養学科　調理実習，こども園おやつ部によるおやつ提供
・健康スポーツ学科　ダンス指導法実習
・社会福祉学科　ボランティア体験活動
・視機能科学科　視力検査　福祉保育実習
・言語聴覚学科　臨床コミュニケーション実習
・サッカー部　サッカー教室

2）新潟医療福祉大学附属PCR検査センター

（1）2025年度検査実績

検査数	陰性数	陽性数
3名	3名	0名

イムノクロマト使用実績：0件

3）新潟医療福祉大学附属附属鍼灸センター

（1）診療時間

月曜日～金曜日（祝日は除く，月・水・金は午前中のみ）

午前9:30～12:00　午後13:30～16:00

（2）受診人数

①2025年4月1日から2026年3月31日

学生	354名
教職員	220名
NSG関係	255名
一般	791名
計	1,620名

学校法人　新潟総合学園

新潟医療福祉大学年報

2025（令和 7）年度

発行日　2026 年 9 月 30 日

編集・発行　新潟医療福祉大学
〒950－3198　新潟市北区島見町 1398 番地
TEL：025－257－4455
FAX：025－257－4456
URL：https://www.nuhw.ac.jp/

印刷　株式会社ウィザップ